2026年度
キャリアデザイン学部
講義概要（シラバス）

法政大学

科目一覧 ［発行日：2026/5/1］最新版のシラバスは、法政大学Webシラバス（https://syllabus.hosei.ac.jp/）で確認してください。

凡例　その他属性

〈他〉：他学部公開科目
〈優〉：成績優秀者の他学部科目履修制度対象科目
〈S〉：サティフィケートプログラム_SDGs
〈ダ〉：サティフィケートプログラム_ダイバーシティ
〈カ〉：サティフィケートプログラム_カーボンニュートラル
〈グ〉：グローバル・オープン科目
〈実〉：実務経験のある教員による授業科目
〈ア〉：サティフィケートプログラム_アーバンデザイン
〈未〉：サティフィケートプログラム_未来教室

基礎ゼミ【C5001】 基礎ゼミ（A組）［上西　充子］ 春学期授業/Spring …… 1
基礎ゼミ【C5002】 基礎ゼミ（B組）［石山　恒貴］ 春学期授業/Spring …… 3
基礎ゼミ【C5003】 基礎ゼミ（C組）［坂本　旬］ 春学期授業/Spring …… 5
基礎ゼミ【C5004】 基礎ゼミ（D組）［藤村　朝子］ 春学期授業/Spring …… 7
基礎ゼミ【C5005】 基礎ゼミ（E組）［関　慎太朗］ 春学期授業/Spring …… 9
基礎ゼミ【C5006】 基礎ゼミ（F組）［澤田　唯人］ 春学期授業/Spring …… 11
基礎ゼミ【C5007】 基礎ゼミ（G組）［田口　賢太郎］ 春学期授業/Spring …… 13
基礎ゼミ【C5008】 基礎ゼミ（H組）［大倉　韻］ 春学期授業/Spring …… 15
基礎ゼミ【C5009】 基礎ゼミ（I組）［古田　克利］ 春学期授業/Spring …… 17
基礎ゼミ【C5010】 基礎ゼミ（J組）［高尾　真紀子］ 春学期授業/Spring …… 19
基礎ゼミ【C5011】 基礎ゼミ（K組）［柿倉　圭吾］ 春学期授業/Spring …… 21
基礎ゼミ【C5012】 基礎ゼミ（L組）［福井　令恵］ 春学期授業/Spring …… 23
基礎ゼミ【C5013】 基礎ゼミ（M組）［寺崎　里水］ 春学期授業/Spring …… 25
基礎ゼミ【C5014】 基礎ゼミ（N組）［長戸　光］ 春学期授業/Spring …… 27
基礎ゼミ【C5015】 基礎ゼミ（O組）［佐藤　恵］ 春学期授業/Spring …… 29
基礎ゼミ【C5016】 基礎ゼミ（P組）［武石　恵美子、荒川　裕子］ 春学期授業/Spring …… 31
基幹科目_必修【C5017】 キャリアデザイン学入門［寺崎　里水、梅崎　修、安田　節之］ 春学期授業/Spring …… 33
基幹科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C5018】 発達・教育キャリア入門A ［遠藤　野ゆり］ 秋学期授業/Fall 34
【C5019】 発達・教育キャリア入門B【2025年度以降入学生用】［久井　英輔］ 春学期授業/Spring …… 36
【C5020】 ビジネスキャリア入門A【2025年度以降入学生用】［酒井　理］ 秋学期授業/Fall …… 38
【C5021】 ビジネスキャリア入門B【2025年度以降入学生用】［中野　貴之］ 春学期授業/Spring …… 40
【C5022】 ライフキャリア入門A【2025年度以降入学生用】［関水　徹平］ 秋学期授業/Fall …… 41
【C5023】 ライフキャリア入門B【2025年度以降入学生用】［田中　研之輔］ 春学期授業/Spring …… 42
【C5024】 キャリアと心理学［岩本　慧梧］ 秋学期授業/Fall …… 44
【C5025】 キャリアと経済学［小前　和智］ 秋学期授業/Fall …… 45
【C5026】 キャリアと社会学［青木　淳弘］ 秋学期授業/Fall …… 47
【C5027】 キャリア政策基礎［武石　恵美子］ 春学期授業/Spring …… 49
【C5028】 キャリアと労働法［砂押　以久子］ 春学期授業/Spring …… 51
【C5029】 キャリアとコミュニティ論［森屋　雅幸］ 春学期授業/Spring …… 53
基幹科目_選択【C5030】 ファシリテーション論［徳田　太郎］ 秋学期授業/Fall …… 54
【C5031】 若者と自立支援［大山　宏］ 秋学期授業/Fall …… 56
【C5032】 労働市場と職業選択［上西　充子］ 春学期授業/Spring …… 57
【C5033】 ジェンダーと労働［上西　充子］ 秋学期授業/Fall …… 58
基幹科目_選択【C5034】 ライフコース論［百瀬　由璃絵］ 秋学期授業/Fall …… 59
【C5035】 生活設計論［高尾　真紀子］ 秋学期授業/Fall …… 60
基幹科目_選択【C5036】 キャリアモデル・ケーススタディ［梅崎　修］ 春学期授業/Spring …… 62
【C5037】 外書講読A【2025年度以降入学生用】［長岡　智寿子］ 秋学期授業/Fall …… 63
【C5038】 キャリアコミュニケーション（英語）［福田　紀子］ 春学期授業/Spring …… 65
【C5039】 生涯発達心理学［廣川　進］ 春学期授業/Spring …… 67
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C5040】 キャリアカウンセリングⅠ ［廣川　進］ 秋学期授業/Fall … 68
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C5041】 教育心理学［田澤　実］ 秋学期授業/Fall …… 70
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C5042】 教育心理学［輕部　雄輝］ 春学期授業/Spring …… 71
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C5043】 教育心理学［児玉　茉奈美］ 秋学期授業/Fall …… 72
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C5044】 教育心理学［山上　真貴子］ 春学期授業/Spring …… 73

展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C5045】 教育心理学［遠藤　裕子］ 春学期授業/Spring 74
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C5046】 教育心理学［児玉　茉奈美］ 秋学期授業/Fall 76
【C5047】 臨床教育学［遠藤　野ゆり］ 春学期授業/Spring 77
【C5048】 キャリア教育［児美川　孝一郎］ 春学期授業/Spring 79
【C5049】 メディアリテラシーA ［村上　郷子］ 春学期授業/Spring 80
【C5050】 市民社会における学びと実践［池田　佳代］ 秋学期授業/Fall 82
【C5051】 格差社会の家族と教育［寺崎　里水］ 秋学期授業/Fall 84
【C5052】 ダイバーシティと学校［松尾　知明］ 春学期授業/Spring 85
【C5053】 ダイバーシティと生涯学習（社会教育特講Ⅰ）【2025年度以降入学者用】［上野　昌之］ 春学期授業/Spring 86
【C5054】 地域づくりと生涯学習（社会教育特講Ⅱ）【2025年度以降入学者用】［大木　由以］ 秋学期授業/Fall ... 88
【C5055】 成人学習のデザイン（生涯学習支援論Ⅱ）［久井　英輔］ 秋学期授業/Fall 89
【C5056】 生涯学習のプランニング（社会教育経営論Ⅰ）【2025年度以降入学者用】［久井　英輔］ 春学期授業/Spring 91
【C5057】 教育社会学【2025年度以降入学生用】［筒井　美紀］ 春学期授業/Spring 93
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C5058】 教育経済学［孟　碩洋］ 秋学期授業/Fall 94
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C5059】 教育政策［村上　純一］ 秋学期授業/Fall 96
【C5060】 市民社会と教育改革［仲田　康一］ 春学期授業/Spring 98
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C5061】 学習の社会史A ［山口　真里］ 秋学期授業/Fall 100
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C5062】 学習の社会史B ［寺崎　里水］ 春学期授業/Spring 101
【C5063】 外書講読B【2025年度以降入学生用】［相澤　鈴之助］ 秋学期授業/Fall 102
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C5064】 人材育成論Ⅰ ［佐藤　厚］ 春学期授業/Spring 104
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C5065】 人材育成論Ⅱ ［佐藤　厚］ 秋学期授業/Fall 106
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C5066】 産業・組織心理学Ⅰ ［坂爪　洋美］ 春学期授業/Spring 109
【C5067】 組織行動論Ⅰ ［古田　克利］ 春学期授業/Spring 110
【C5068】 越境学習論【2025年度以降入学者用】［石山　恒貴］ 秋学期授業/Fall 111
【C5069】 簿記Ⅰ ［赤城　諭士］ 春学期授業/Spring 112
【C5070】 簿記Ⅱ ［赤城　諭士］ 秋学期授業/Fall 113
【C5071】 経営統計［中野　貴之］ 秋学期授業/Fall 114
【C5072】 経営分析Ⅰ【2025年度以降入学者用】［中野　貴之］ 春学期授業/Spring 116
【C5073】 経営分析Ⅱ【2025年度以降入学者用】［平井　裕久］ 秋学期授業/Fall 117
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C5074】 経営組織論Ⅰ ［梅木　眞］ 春学期授業/Spring 119
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C5075】 経営組織論Ⅱ ［梅木　眞］ 秋学期授業/Fall 121
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C5076】 マーケティング論［小川　浩孝］ 春学期授業/Spring 122
【C5077】 マーケティング・リサーチ［小川　浩孝］ 秋学期授業/Fall 125
【C5078】 仕事の経済学［梅崎　修］ 春学期授業/Spring 128
展開科目_選択必修（領域別）_ライフ【C5079】 ブランド創造論［石原　篤］ 春学期授業/Spring 129
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C5080】 国際経営論［森　直子］ 秋学期授業/Fall 131
【C5081】 メディアビジネス論［石原　篤］ 秋学期授業/Fall 133
【C5082】 サービスビジネス論［村田　茂］ 春学期授業/Spring 135
【C5083】 外書講読C【2025年度以降入学生用】［門脇　仁］ 春学期授業/Spring 137
【C5084】 コミュニティ心理学［安田　節之］ 春学期授業/Spring 139
展開科目_選択必修（領域別）_ライフ【C5085】 コミュニティ社会論Ⅰ ［佐藤　恵］ 春学期授業/Spring 140
展開科目_選択必修（領域別）_ライフ【C5086】 若者文化論［玉川　博章］ 秋学期授業/Fall 142
展開科目_選択必修（領域別）_ライフ【C5087】 身体表現論［叶　雄大］ 春学期授業/Spring 144
展開科目_選択必修（領域別）_ライフ【C5088】 地域文化論［八田　益之］ 秋学期授業/Fall 146
展開科目_選択必修（領域別）_ライフ【C5089】 アート・マネジメント論［山口　佳子］ 春学期授業/Spring 148
展開科目_選択必修（領域別）_ライフ【C5090】 メディア文化論［堤　信子］ 秋学期授業/Fall 150
展開科目_選択必修（領域別）_ライフ【C5091】 文化マーケティング論［横石　崇］ 春学期授業/Spring 152
展開科目_選択必修（領域別）_ライフ【C5092】 ミュージアム概論［森屋　雅幸］ 春学期授業/Spring 154
展開科目_選択必修（領域別）_ライフ【C5093】 ミュージアム経営論［森田　喜久男］ 春学期授業/Spring 155
展開科目_選択必修（領域別）_ライフ【C5094】 ミュージアム経営論［森屋　雅幸］ 秋学期授業/Fall 157
【C5095】 進歩と平和［熊谷　智博］ 秋学期授業/Fall 158
【C5096】 多文化社会論A ［安藤　優子］ 春学期授業/Spring 159
【C5097】 多文化社会論B ［挽地　康彦］ 春学期授業/Spring 161
【C5098】 多文化社会論C ［挽地　康彦］ 秋学期授業/Fall 163
展開科目_選択必修（領域別）_ライフ【C5099】 アジア社会論Ⅰ ［日下部　尚徳］ 秋学期授業/Fall 165
展開科目_選択必修（領域別）_ライフ【C5100】 アジア社会論Ⅱ ［日下部　尚徳］ 秋学期授業/Fall 166
展開科目_選択必修（領域別）_ライフ【C5101】 国際関係論Ⅰ ［岩田　哲弥］ 春学期授業/Spring 167

展開科目_選択必修（領域別）_ライフ【C5102】 国際関係論Ⅱ ［岩田　哲弥］ 秋学期授業/Fall 169
展開科目_選択必修（領域別）_ライフ【C5103】 国際地域研究Ⅰ ［福井　令恵］ 春学期授業/Spring 171
展開科目_選択必修（領域別）_ライフ【C5104】 国際地域研究Ⅱ ［福井　令恵］ 秋学期授業/Fall 173
【C5105】キャリアカウンセリングⅡ（ケーススタディ）【2025年度以降入学生用】［宮脇　優子］ 春学期授業/Spring 175
【C5106】 メディアリテラシーB ［村上　郷子］ 秋学期授業/Fall 177
【C5107】 リスク社会における包括支援と教育 ［筒井　美紀］ 秋学期授業/Fall 179
【C5109】 現代の教育思想 ［岩本　俊一］ 秋学期授業/Fall 180
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C5110】 産業・組織心理学Ⅱ ［今城　志保］ 秋学期授業/Fall 181
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C5111】 キャリア開発論 ［髙崎　美佐］ 秋学期授業/Fall 182
【C5112】 組織行動論Ⅱ ［古田　克利］ 秋学期授業/Fall 184
【C5113】 アントレプレナーシップ論【2025年度以降入学生用】［北原　成憲］ 春学期授業/Spring 185
【C5114】 職業キャリア政策論 ［岩月　真也］ 春学期授業/Spring 187
展開科目_選択必修（領域別）_ライフ【C5115】 コミュニティ社会論Ⅱ ［佐藤　恵］ 秋学期授業/Fall 189
展開科目_選択必修（領域別）_ライフ【C5116】 家族論 ［笠原　良太］ 春学期授業/Spring 191
【C5117】 プログラム評価論 ［安田　節之］ 秋学期授業/Fall 192
【C5118】 社会心理学 ［奥山　智天］ 春学期授業/Spring 193
展開科目_選択必修（領域別）_ライフ【C5119】 文化経営論 ［山口　佳子］ 秋学期授業/Fall 194
基幹科目_必修【C5120】 キャリア研究調査法入門（A-D組）［濱松　若葉］ 秋学期授業/Fall 195
基幹科目_必修【C5121】 キャリア研究調査法入門（E-H組）［大間　哲］ 秋学期授業/Fall 197
基幹科目_必修【C5122】 キャリア研究調査法入門（I-L組）［森山　洸］ 秋学期授業/Fall 199
基幹科目_必修【C5123】 キャリア研究調査法入門（M-P組）［大倉　韻］ 秋学期授業/Fall 201
基幹科目_選択必修（調査法）【C5124】 キャリア研究調査法（質的調査）［佐藤　厚］ 春学期授業/Spring 203
基幹科目_選択必修（調査法）【C5125】 キャリア研究調査法（質的調査）［濱中　義隆］ 春学期授業/Spring 204
基幹科目_選択必修（調査法）【C5126】 キャリア研究調査法（質的調査）［佐藤　恵］ 春学期授業/Spring 205
基幹科目_選択必修（調査法）【C5127】 キャリア研究調査法（質的調査）［田中　研之輔］ 春学期授業/Spring 206
基幹科目_選択必修（調査法）【C5128】 キャリア研究調査法（質的調査）［西村　純］ 春学期授業/Spring 207
基幹科目_選択必修（調査法）【C5129】 キャリア研究調査法（質的調査）［鈴木　由真］ 春学期授業/Spring 208
基幹科目_選択必修（調査法）【C5130】 キャリア研究調査法（質的調査）［池田　佳代］ 春学期授業/Spring 209
基幹科目_選択必修（調査法）【C5131】 キャリア研究調査法（質的調査）［井上　公人］ 春学期授業/Spring 210
基幹科目_選択必修（調査法）【C5132】 キャリア研究調査法（質的調査）［山﨑　正枝］ 春学期授業/Spring 211
基幹科目_選択必修（調査法）【C5135】 キャリア研究調査法（量的調査）［安田　節之］ 春学期授業/Spring 212
基幹科目_選択必修（調査法）【C5136】 キャリア研究調査法（量的調査）［濱中　義隆］ 春学期授業/Spring 213
基幹科目_選択必修（調査法）【C5137】 キャリア研究調査法（量的調査）［井上　公人］ 春学期授業/Spring 214
基幹科目_選択必修（調査法）【C5138】 キャリア研究調査法（量的調査）［大川　明李］ 春学期授業/Spring 215
基幹科目_選択必修（調査法）【C5139】 キャリア研究調査法（量的調査）［林　洋一郎］ 春学期授業/Spring 216
基幹科目_選択必修（調査法）【C5140】 キャリア研究調査法（量的調査）［梅村　慶嗣］ 春学期授業/Spring 217
基幹科目_選択必修（調査法）【C5141】 キャリア研究調査法（量的調査）［長瀬　毅］ 春学期授業/Spring 218
基幹科目_選択必修（調査法）【C5142】 キャリア研究調査法（量的調査）［川瀬　萌馨］ 春学期授業/Spring 219
基幹科目_選択必修（調査法）【C5143】 キャリア研究調査法（量的調査）［田中　友理］ 春学期授業/Spring 220
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C5145】 キャリア研究調査実習A（行動と意識の測定）［蟹江　教子］ 秋学期授業/Fall 221
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C5146】 キャリア研究調査実習B（「上京する」ことの質的社会調査）［福重　清］ 秋学期授業/Fall 222
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C5147】 キャリア研究調査実習C（データで語るキャリア）［久保田　貴文］ 秋学期授業/Fall 224
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C5148】 キャリア研究調査実習D（仕事とビジネスの質的研究）［岸田　泰則］ 秋学期授業/Fall 226
展開科目_選択必修（領域別）_ライフ【C5149】 キャリア研究調査実習E（ウェルビーイング）［林　洋一郎］ 春学期授業/Spring 227
展開科目_選択必修（領域別）_ライフ【C5150】 キャリア研究調査実習F（まちづくり論）［大西　未希］ 春学期授業/Spring 229
【C5151】 キャリアサポート事前指導 ［廣川　進］ 春学期授業/Spring 231
【C5152】 キャリアサポート事前指導 ［児美川　孝一郎］ 春学期授業/Spring 232
【C5154】 キャリアサポート事前指導 ［田澤　実］ 春学期授業/Spring 233
【C5155】 キャリアサポート実習 ［児美川　孝一郎］ 秋学期授業/Fall 234
【C5156】 キャリアサポート実習 ［田澤　実］ 秋学期授業/Fall 235
【C5158】 キャリアサポート実習 ［廣川　進］ 秋学期授業/Fall 236

【C5159】キャリア体験事前指導［石山　恒貴］春学期授業/Spring …… 237
【C5160】キャリア体験事前指導［田中　研之輔］春学期授業/Spring …… 239
【C5161】キャリア体験事前指導［野中　利明］春学期授業/Spring …… 241
【C5163】キャリア体験学習［石山　恒貴］秋学期授業/Fall …… 243
【C5164】キャリア体験学習［田中　研之輔］秋学期授業/Fall …… 245
【C5165】キャリア体験学習［野中　利明］秋学期授業/Fall …… 247
【C5167】PBLチュートリアル［酒井　理］春学期授業/Spring …… 249
【C5168】PBLチュートリアル［山岡　義卓］春学期授業/Spring …… 250
【C5169】PBL実践［酒井　理］秋学期授業/Fall …… 252
【C5170】PBL実践［山岡　義卓］秋学期授業/Fall …… 253
【C5172】フィールドワーク事前指導（国際）［松尾　知明、郭　艶娜］春学期授業/Spring …… 255
【C5174】フィールドワーク（国際）［松尾　知明、郭　艶娜］秋学期授業/Fall …… 256
【C5175】フィールドワーク事前指導（ESD）［遠藤　野ゆり］春学期授業/Spring …… 257
【C5176】フィールドワーク（ESD）［遠藤　野ゆり］秋学期授業/Fall …… 259
【C5177】フィールドワーク事前指導（地域創造）［高尾　真紀子］春学期授業/Spring …… 261
【C5178】フィールドワーク（地域創造）［高尾　真紀子］秋学期授業/Fall …… 263
【C5179】多文化教育Ⅰ［村田　晶子］春学期授業/Spring …… 264
【C5180】多文化教育Ⅱ［村田　晶子］秋学期授業/Fall …… 266
【C5181】メディアリテラシー実習Ⅰ［坂本　旬］春学期授業/Spring …… 268
【C5182】メディアリテラシー実習Ⅱ［坂本　旬］秋学期授業/Fall …… 270
【C5183】職業能力ベーシックスキルⅠ［岩出　朋子］春学期授業/Spring …… 272
【C5184】職業能力ベーシックスキルⅡ［岩出　朋子］秋学期授業/Fall …… 274
演習科目【C5185】演習（発達・教育）【2年生用】［遠藤　野ゆり］秋学期授業/Fall …… 276
演習科目【C5186】演習（発達・教育）【3・4年生用】［遠藤　野ゆり］春学期授業/Spring …… 277
演習科目【C5187】演習（発達・教育）【3・4年生用】［遠藤　野ゆり］秋学期授業/Fall …… 278
演習科目【C5188】演習（発達・教育）【2年生用】［児美川　孝一郎］秋学期授業/Fall …… 279
演習科目【C5189】演習（発達・教育）【3・4年生用】［児美川　孝一郎］春学期授業/Spring …… 280
演習科目【C5190】演習（発達・教育）【3・4年生用】［児美川　孝一郎］秋学期授業/Fall …… 281
演習科目【C5191】演習（発達・教育）【2年生用】［坂本　旬］秋学期授業/Fall …… 283
演習科目【C5192】演習（発達・教育）【3・4年生用】［坂本　旬］春学期授業/Spring …… 285
演習科目【C5193】演習（発達・教育）【3・4年生用】［坂本　旬］秋学期授業/Fall …… 287
演習科目【C5194】演習（発達・教育）【2年生用】［田澤　実］秋学期授業/Fall …… 289
演習科目【C5195】演習（発達・教育）【3・4年生用】［田澤　実］春学期授業/Spring …… 290
演習科目【C5196】演習（発達・教育）【3・4年生用】［田澤　実］秋学期授業/Fall …… 291
演習科目【C5197】演習（発達・教育）【2年生用】［筒井　美紀］秋学期授業/Fall …… 292
演習科目【C5198】演習（発達・教育）【3・4年生用】［筒井　美紀］春学期授業/Spring …… 293
演習科目【C5199】演習（発達・教育）【3・4年生用】［筒井　美紀］秋学期授業/Fall …… 294
演習科目【C5200】演習（発達・教育）【2年生用】［寺崎　里水］秋学期授業/Fall …… 295
演習科目【C5201】演習（発達・教育）【3・4年生用】［寺崎　里水］春学期授業/Spring …… 296
演習科目【C5202】演習（発達・教育）【3・4年生用】［寺崎　里水］秋学期授業/Fall …… 297
演習科目【C5203】演習（発達・教育）【2年生用】［仲田　康一］秋学期授業/Fall …… 298
演習科目【C5204】演習（発達・教育）【3・4年生用】［仲田　康一］春学期授業/Spring …… 299
演習科目【C5205】演習（発達・教育）【3・4年生用】［仲田　康一］秋学期授業/Fall …… 300
演習科目【C5206】演習（発達・教育）【2年生用】［久井　英輔］秋学期授業/Fall …… 301
演習科目【C5207】演習（発達・教育）【3・4年生用】［久井　英輔］春学期授業/Spring …… 303
演習科目【C5208】演習（発達・教育）【3・4年生用】［久井　英輔］秋学期授業/Fall …… 305
演習科目【C5209】演習（発達・教育）【2年生用】［廣川　進］秋学期授業/Fall …… 307
演習科目【C5210】演習（発達・教育）【3・4年生用】［廣川　進］春学期授業/Spring …… 308
演習科目【C5211】演習（発達・教育）【3・4年生用】［廣川　進］秋学期授業/Fall …… 309
演習科目【C5212】演習（発達・教育）【2年生用】［松尾　知明］秋学期授業/Fall …… 310
演習科目【C5213】演習（発達・教育）【3・4年生用】［松尾　知明］春学期授業/Spring …… 311
演習科目【C5214】演習（発達・教育）【3・4年生用】［松尾　知明］秋学期授業/Fall …… 312
演習科目【C5215】演習（ビジネス）【2年生用】［上西　充子］秋学期授業/Fall …… 313
演習科目【C5216】演習（ビジネス）【3・4年生用】［上西　充子］春学期授業/Spring …… 314
演習科目【C5217】演習（ビジネス）【3・4年生用】［上西　充子］秋学期授業/Fall …… 315
演習科目【C5218】演習（ビジネス）【2年生用】［梅崎　修］秋学期授業/Fall …… 316
演習科目【C5219】演習（ビジネス）【3・4年生用】［梅崎　修］春学期授業/Spring …… 317

演習科目【C5220】 演習（ビジネス）【3・4年生用】［梅崎　修］ 秋学期授業/Fall 318
演習科目【C5221】 演習（ビジネス）【2年生用】［酒井　理］ 秋学期授業/Fall 319
演習科目【C5222】 演習（ビジネス）【3・4年生用】［酒井　理］ 春学期授業/Spring 320
演習科目【C5223】 演習（ビジネス）【3・4年生用】［酒井　理］ 秋学期授業/Fall 321
演習科目【C5224】 演習（ビジネス）【2年生用】［坂爪　洋美］ 秋学期授業/Fall 322
演習科目【C5225】 演習（ビジネス）【3・4年生用】［坂爪　洋美］ 春学期授業/Spring 323
演習科目【C5226】 演習（ビジネス）【3・4年生用】［坂爪　洋美］ 秋学期授業/Fall 324
演習科目【C5228】 演習（ビジネス）【3・4年生用】［佐藤　厚］ 春学期授業/Spring 325
演習科目【C5229】 演習（ビジネス）【3・4年生用】［佐藤　厚］ 秋学期授業/Fall 327
演習科目【C5231】 演習（ビジネス）【3・4年生用】［武石　恵美子］ 春学期授業/Spring 329
演習科目【C5232】 演習（ビジネス）【3・4年生用】［武石　恵美子］ 秋学期授業/Fall 330
演習科目【C5233】 演習（ビジネス）【3・4年生用】［中野　貴之］ 秋学期授業/Fall 331
演習科目【C5234】 演習（ビジネス）【3・4年生用】［中野　貴之］ 春学期授業/Spring 332
演習科目【C5235】 演習（ビジネス）【2年生用】［中野　貴之］ 秋学期授業/Fall 333
演習科目【C5236】 演習（ビジネス）【2年生用】［古田　克利］ 秋学期授業/Fall 334
演習科目【C5237】 演習（ビジネス）【3・4年生用】［古田　克利］ 春学期授業/Spring 335
演習科目【C5238】 演習（ビジネス）【3・4年生用】［古田　克利］ 秋学期授業/Fall 336
演習科目【C5240】 演習（ビジネス）【3・4年生用】［松浦　民恵］ 春学期授業/Spring 337
演習科目【C5241】 演習（ビジネス）【3・4年生用】［松浦　民恵］ 秋学期授業/Fall 339
演習科目【C5242】 演習（ライフ）【2年生用】［荒川　裕子］ 秋学期授業/Fall 340
演習科目【C5243】 演習（ライフ）【3・4年生用】［荒川　裕子］ 春学期授業/Spring 341
演習科目【C5244】 演習（ライフ）【3・4年生用】［荒川　裕子］ 秋学期授業/Fall 342
演習科目【C5246】 演習（ライフ）【3・4年生用】［熊谷　智博］ 春学期授業/Spring 343
演習科目【C5247】 演習（ライフ）【3・4年生用】［熊谷　智博］ 秋学期授業/Fall 344
演習科目【C5248】 演習（ライフ）【2年生用】［齋藤　嘉孝］ 秋学期授業/Fall 345
演習科目【C5249】 演習（ライフ）【3・4年生用】［齋藤　嘉孝］ 春学期授業/Spring 346
演習科目【C5250】 演習（ライフ）【3・4年生用】［齋藤　嘉孝］ 秋学期授業/Fall 347
演習科目【C5251】 演習（ライフ）【2年生用】［佐藤　恵］ 秋学期授業/Fall 348
演習科目【C5252】 演習（ライフ）【3・4年生用】［佐藤　恵］ 春学期授業/Spring 349
演習科目【C5253】 演習（ライフ）【3・4年生用】［佐藤　恵］ 秋学期授業/Fall 350
演習科目【C5254】 演習（ライフ）【2年生用】［田中　研之輔］ 秋学期授業/Fall 351
演習科目【C5255】 演習（ライフ）【3・4年生用】［田中　研之輔］ 春学期授業/Spring 353
演習科目【C5256】 演習（ライフ）【3・4年生用】［田中　研之輔］ 秋学期授業/Fall 355
演習科目【C5257】 演習（ライフ）【2年生用】［福井　令恵］ 秋学期授業/Fall 357
演習科目【C5258】 演習（ライフ）【3・4年生用】［福井　令恵］ 春学期授業/Spring 358
演習科目【C5259】 演習（ライフ）【3・4年生用】［福井　令恵］ 秋学期授業/Fall 359
演習科目【C5260】 演習（ライフ）【2年生用】［森屋　雅幸］ 秋学期授業/Fall 360
演習科目【C5261】 演習（ライフ）【3・4年生用】［森屋　雅幸］ 春学期授業/Spring 361
演習科目【C5262】 演習（ライフ）【3・4年生用】［森屋　雅幸］ 秋学期授業/Fall 362
演習科目【C5263】 演習（ライフ）【2年生用】［安田　節之］ 秋学期授業/Fall 363
演習科目【C5264】 演習（ライフ）【3・4年生用】［安田　節之］ 春学期授業/Spring 364
演習科目【C5265】 演習（ライフ）【3・4年生用】［安田　節之］ 秋学期授業/Fall 365
演習科目【C5266】 卒業論文（発達・教育）［遠藤　野ゆり］ 年間授業/Yearly 366
演習科目【C5267】 卒業論文（発達・教育）［児美川　孝一郎］ 年間授業/Yearly 368
演習科目【C5268】 卒業論文（発達・教育）［坂本　旬］ 年間授業/Yearly 369
演習科目【C5269】 卒業論文（発達・教育）［田澤　実］ 年間授業/Yearly 371
演習科目【C5270】 卒業論文（発達・教育）［筒井　美紀］ 年間授業/Yearly 372
演習科目【C5271】 卒業論文（発達・教育）［寺崎　里水］ 年間授業/Yearly 374
演習科目【C5272】 卒業論文（発達・教育）［仲田　康一］ 年間授業/Yearly 376
演習科目【C5273】 卒業論文（発達・教育）［久井　英輔］ 年間授業/Yearly 377
演習科目【C5274】 卒業論文（発達・教育）［廣川　進］ 年間授業/Yearly 379
演習科目【C5275】 卒業論文（発達・教育）［松尾　知明］ 年間授業/Yearly 381
演習科目【C5276】 卒業論文（ビジネス）［上西　充子］ 年間授業/Yearly 382
演習科目【C5277】 卒業論文（ビジネス）［梅崎　修］ 年間授業/Yearly 383
演習科目【C5278】 卒業論文（ビジネス）［酒井　理］ 年間授業/Yearly 384
演習科目【C5279】 卒業論文（ビジネス）［坂爪　洋美］ 年間授業/Yearly 386
演習科目【C5280】 卒業論文（ビジネス）［佐藤　厚］ 年間授業/Yearly 388

演習科目【C5281】 卒業論文（ビジネス）［武石　惠美子］ 年間授業/Yearly 390
演習科目【C5282】 卒業論文（ビジネス）［中野　貴之］ 年間授業/Yearly 391
演習科目【C5283】 卒業論文（ビジネス）［古田　克利］ 年間授業/Yearly 393
演習科目【C5284】 卒業論文（ビジネス）［松浦　民恵］ 年間授業/Yearly 395
演習科目【C5285】 卒業論文（ライフ）［荒川　裕子］ 年間授業/Yearly 397
演習科目【C5286】 卒業論文（ライフ）［熊谷　智博］ 年間授業/Yearly 399
演習科目【C5287】 卒業論文（ライフ）［齋藤　嘉孝］ 年間授業/Yearly 401
演習科目【C5288】 卒業論文（ライフ）［佐藤　恵］ 年間授業/Yearly 402
演習科目【C5289】 卒業論文（ライフ）［田中　研之輔］ 年間授業/Yearly 404
演習科目【C5290】 卒業論文（ライフ）［福井　令恵］ 年間授業/Yearly 406
演習科目【C5292】 卒業論文（ライフ）［安田　節之］ 年間授業/Yearly 407
関連科目【C5293】 国際コミュニケーション語学（英語Ⅰ）［ＪＵＳＴＩＮ　ＦＡＬＫＵＳ］ 春学期授業/Spring . 409
関連科目【C5294】 国際コミュニケーション語学（英語Ⅱ）［ＪＵＳＴＩＮ　ＦＡＬＫＵＳ］ 秋学期授業/Fall 410
関連科目【C5295】 国際コミュニケーション語学（英語Ⅲ）［Ｋｒｅｇｇ　Ｊｏｈｎｓｔｏｎ］ 春学期授業/Spring 411
関連科目【C5296】 国際コミュニケーション語学（英語Ⅳ）［Ｋｒｅｇｇ　Ｊｏｈｎｓｔｏｎ］ 秋学期授業/Fall .. 413
関連科目【C5297】 国際コミュニケーション語学（英語Ⅴ）［Ｋｒｅｇｇ　Ｊｏｈｎｓｔｏｎ］ 春学期授業/Spring 415
関連科目【C5298】 就業機会とキャリア特講E-働くことと労働組合- ［上西　充子、梅崎　修］ 秋学期授業/Fall . 417
関連科目【C5299】 就業応用力養成Ⅰ ［鈴木　美伸］ 春学期授業/Spring 419
関連科目【C5300】 就業応用力養成Ⅱ ［鈴木　美伸］ 秋学期授業/Fall 421
関連科目【C5301】 教職入門［吉田　直子］ 秋学期授業/Fall 423
関連科目【C5302】 教職入門［吉田　直子］ 春学期授業/Spring 425
関連科目【C5303】 教職入門［猪股　大輝］ 秋学期授業/Fall 427
関連科目【C5304】 教職入門［寺崎　里水］ 春学期授業/Spring 429
関連科目【C5305】 教育原理［筒井　美紀］ 秋学期授業/Fall 431
関連科目【C5306】 教育原理［澤里　翼］ 秋学期授業/Fall 433
関連科目【C5307】 教育原理［飯窪　真也］ 春学期授業/Spring 435
関連科目【C5308】 教育原理［澤里　翼］ 春学期授業/Spring 437
関連科目【C5309】 教育の制度・経営［植竹　丘］ 秋学期授業/Fall 439
関連科目【C5310】 教育の制度・経営［植竹　丘］ 春学期授業/Spring 440
関連科目【C5311】 教育の制度・経営［仲田　康一］ 秋学期授業/Fall 441
関連科目【C5312】 教育の制度・経営［小池　由美子］ 春学期授業/Spring 442
関連科目【C5313】 教育課程論［飯窪　真也］ 秋学期授業/Fall 443
関連科目【C5314】 教育課程論［黄　郁倫］ 秋学期授業/Fall 444
関連科目【C5315】 教育課程論［飯窪　真也］ 春学期授業/Spring 445
関連科目【C5316】 教育課程論［飯窪　真也］ 秋学期授業/Fall 446
関連科目【C5317】 教育課程論［川津　貴司］ 春学期授業/Spring 447
関連科目【C5318】 教育方法論（ICT活用を含む）［岩本　俊一］ 春学期授業/Spring 448
関連科目【C5319】 教育方法論（ICT活用を含む）［松尾　知明］ 春学期授業/Spring 449
関連科目【C5320】 教育方法論（ICT活用を含む）［黄　郁倫］ 春学期授業/Spring 450
関連科目【C5321】 教育方法論（ICT活用を含む）［黄　郁倫］ 秋学期授業/Fall 451
関連科目【C5322】 教育方法論（ICT活用を含む）［川津　貴司］ 秋学期授業/Fall 452
関連科目【C5323】 図書館演習［坂本　旬］ 年間授業/Yearly 453
関連科目【C5324】 図書館演習［村上　郷子］ 年間授業/Yearly 455
関連科目【C5325】 図書館演習［竹之内　禎］ 年間授業/Yearly 457
関連科目【C5327】 図書館サービス概論［栗原　智久］ 春学期授業/Spring 459
関連科目【C5328】 情報サービス演習［菅原　真悟］ 年間授業/Yearly 460
関連科目【C5329】 情報サービス演習［田中　順子］ 年間授業/Yearly 462
関連科目【C5330】 情報サービス演習［田中　順子］ 年間授業/Yearly 463
関連科目【C5331】 図書館情報資源概論［小黒　浩司］ 春学期授業/Spring 464
関連科目【C5332】 図書館情報資源概論［村上　郷子］ 春学期授業/Spring 465
関連科目【C5333】 図書館情報資源概論［村上　郷子］ 春学期授業/Spring 467
関連科目【C5334】 図書館情報資源特論［小黒　浩司］ 秋学期授業/Fall 469
関連科目【C5335】 図書館情報資源特論［村上　郷子］ 秋学期授業/Fall 470
関連科目【C5336】 図書館情報資源特論［村上　郷子］ 秋学期授業/Fall 472
関連科目【C5337】 読書と豊かな人間性［田中　順子］ 秋学期授業/Fall 474
関連科目【C5338】 情報メディアの活用［坂本　旬］ 秋学期授業/Fall 475
関連科目【C5339】 情報メディアの活用［村上　郷子］ 秋学期授業/Fall 476

関連科目【C5340】 ミュージアム資料論［森屋　雅幸］ 秋学期授業/Fall 477
関連科目【C5341】 ミュージアム教育論［渡邊　祐子］ 春学期授業/Spring 478
関連科目【C5342】 ミュージアム教育論［花木　知子］ 秋学期授業/Fall 480
関連科目【C5343】 生涯学習支援論Ⅰ［松橋　義樹］ 春学期授業/Spring 481
関連科目【C5344】 社会教育経営論Ⅱ【2025年度以降入学生用】［井上　伸良］ 秋学期授業/Fall 483
関連科目【C5700】 異文化適応論［浅川　希洋志］ 秋学期授業/Fall 485
関連科目【C5701】 市民社会と政治［山内　康一］ 春学期授業/Spring 486
関連科目【C5702】 労働環境法［櫻井　洋介］ 秋学期授業/Fall 488
関連科目【C5703】 財務会計論Ⅰ［齋藤　真哉］ 春学期授業/Spring 490
関連科目【C5704】 財務会計論Ⅱ［齋藤　真哉］ 秋学期授業/Fall 492
関連科目【C5705】 監査論Ⅰ［小澤　康裕］ 春学期授業/Spring 494
関連科目【C5706】 監査論Ⅱ［小澤　康裕］ 秋学期授業/Fall 496
関連科目【C5707】 税務会計論Ⅰ［藤井　誠］ 春学期授業/Spring 498
関連科目【C5708】 税務会計論Ⅱ［藤井　誠］ 秋学期授業/Fall 499
関連科目【C5709】 管理会計論Ⅰ［北田　皓嗣］ 春学期授業/Spring 500
関連科目【C5710】 管理会計論Ⅱ［北田　皓嗣］ 秋学期授業/Fall 501
関連科目【C5711】 原価計算論Ⅰ［福田　淳児］ 春学期授業/Spring 502
関連科目【C5712】 原価計算論Ⅱ［福田　淳児］ 秋学期授業/Fall 503
【C5713】 Foreign Language Exercise （English Ⅲ）※GO科目［Ｋｒｅｇｇ　Ｊｏｈｎｓｔｏｎ］ 春学期授業/Spring 504
【C5714】 Foreign Language Exercise （English Ⅳ）※GO科目［Ｋｒｅｇｇ　Ｊｏｈｎｓｔｏｎ］ 秋学期授業/Fall 506
【C5715】 Foreign Language Exercise （English Ⅴ）※GO科目［Ｋｒｅｇｇ　Ｊｏｈｎｓｔｏｎ］ 春学期授業/Spring 508
基幹科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7051】 発達・教育キャリア入門B【2024年度以前入学者用】［青木　淳弘］ 秋学期授業/Fall 510
基幹科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7052】 発達・教育キャリア入門C（生涯学習入門Ⅰ）［久井　英輔］ 春学期授業/Spring 512
基幹科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7053】 発達・教育キャリア入門C（生涯学習入門Ⅰ）［久井　英輔］ 春学期授業/Spring 514
基幹科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7055】 発達・教育キャリア入門D（生涯学習入門Ⅱ）【2021年度以前入学者用】［杉山　昂平］ 秋学期授業/Fall 516
基幹科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7056】 発達・教育キャリア入門D（生涯学習入門Ⅱ）【2021年度以前入学者用】［杉山　昂平］ 秋学期授業/Fall 518
基幹科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7057】 発達・教育キャリア入門D【2022～2024年度入学者用】［寺崎　里水］ 秋学期授業/Fall 520
基幹科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C7058】 ビジネスキャリア入門A【2024年度以前入学者用】［小前　和智］ 秋学期授業/Fall 521
基幹科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C7059】 ビジネスキャリア入門B【2024年度以前入学者用】［武石　惠美子］ 春学期授業/Spring 523
基幹科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C7060】 ビジネスキャリア入門C【2024年度以前入学者用】［中野　貴之］ 春学期授業/Spring 525
基幹科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C7061】 ビジネスキャリア入門D【2024年度以前入学者用】［酒井　理］ 秋学期授業/Fall 526
基幹科目_選択必修（領域別）_ライフ【C7062】 ライフキャリア入門A【2024年度以前入学者用】［田中　研之輔］ 春学期授業/Spring 528
基幹科目_選択必修（領域別）_ライフ【C7063】 ライフキャリア入門B【2024年度以前入学者用】［関水　徹平］ 秋学期授業/Fall 530
基幹科目_選択必修（領域別）_ライフ【C7064】 ライフキャリア入門C【2024年度以前入学者用】［安田　節之］ 春学期授業/Spring 531
基幹科目_選択必修（領域別）_ライフ【C7065】 ライフキャリア入門D【2024年度以前入学者用】［森屋　雅幸］ 春学期授業/Spring 532
基幹科目_選択【C7080】 労働法［砂押　以久子］ 春学期授業/Spring 534
基幹科目_選択【C7082】 若者の自立支援［大山　宏］ 秋学期授業/Fall 536
基幹科目_選択【C7083】 職業選択論Ⅰ［上西　充子］ 春学期授業/Spring 537
基幹科目_選択【C7085】 生活設計論Ⅰ（社会保障）［高尾　真紀子］ 秋学期授業/Fall 538
展開科目_選択必修（体験型）【C7100】 キャリアサポート事前指導［廣川　進］ 春学期授業/Spring 540

展開科目_選択必修（体験型）【C7102】 キャリアサポート事前指導［児美川　孝一郎］ 春学期授業/Spring 541
展開科目_選択必修（体験型）【C7104】 キャリアサポート事前指導［田澤　実］ 春学期授業/Spring 542
展開科目_選択必修（体験型）【C7106】 キャリアサポート実習［児美川　孝一郎］ 秋学期授業/Fall 543
展開科目_選択必修（体験型）【C7107】 キャリアサポート実習［田澤　実］ 秋学期授業/Fall 544
展開科目_選択必修（体験型）【C7109】 キャリアサポート実習［廣川　進］ 秋学期授業/Fall 545
展開科目_選択必修（体験型）【C7114】 キャリア体験事前指導（インターン）［石山　恒貴］ 春学期授業/Spring . 546
展開科目_選択必修（体験型）【C7116】 キャリア体験事前指導（インターン）［田中　研之輔］ 春学期授業/Spring 548
展開科目_選択必修（体験型）【C7117】 キャリア体験事前指導（インターン）［野中　利明］ 春学期授業/Spring . 550
展開科目_選択必修（体験型）【C7118】 キャリア体験事前指導（プロジェクト）［山岡　義卓］ 春学期授業/Spring 552
展開科目_選択必修（体験型）【C7119】 キャリア体験学習（インターン）［石山　恒貴］ 秋学期授業/Fall 554
展開科目_選択必修（体験型）【C7121】 キャリア体験学習（インターン）［田中　研之輔］ 秋学期授業/Fall 556
展開科目_選択必修（体験型）【C7122】 キャリア体験学習（インターン）［野中　利明］ 秋学期授業/Fall 558
展開科目_選択必修（体験型）【C7123】 キャリア体験学習（プロジェクト）［山岡　義卓］ 秋学期授業/Fall 560
展開科目_選択必修（体験型）【C7126】 キャリア体験事前指導（国際）［松尾　知明、郭　艶娜］ 春学期授業/Spring 562
展開科目_選択必修（体験型）【C7127】 キャリア体験学習（国際）［松尾　知明、郭　艶娜］ 秋学期授業/Fall 563
展開科目_選択必修（体験型）【C7128】 メディアリテラシー実習Ⅰ［坂本　旬］ 春学期授業/Spring 564
展開科目_選択必修（体験型）【C7129】 メディアリテラシー実習Ⅱ［坂本　旬］ 秋学期授業/Fall 566
展開科目_選択必修（体験型）【C7130】 地域学習支援Ⅰ［遠藤　野ゆり］ 春学期授業/Spring 568
展開科目_選択必修（体験型）【C7131】 地域学習支援Ⅱ［遠藤　野ゆり］ 秋学期授業/Fall 570
展開科目_選択必修（体験型）【C7134】 多文化教育Ⅰ［村田　晶子］ 春学期授業/Spring 572
展開科目_選択必修（体験型）【C7135】 多文化教育Ⅱ［村田　晶子］ 秋学期授業/Fall 574
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7152】 外書講読A（発達・教育）【2024年度以前入学者用】［福田　紀子］ 春学期授業/Spring 576
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7153】 外書講読B（発達・教育）【2024年度以前入学者用】［長岡　智寿子］ 秋学期授業/Fall 578
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7154】 生涯発達心理学Ⅰ［廣川　進］ 春学期授業/Spring 580
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7155】 生涯発達心理学Ⅱ［岩本　慧梧］ 秋学期授業/Fall 581
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7156】 臨床教育相談論Ⅰ【2024年度以前入学者のみ】［土屋　弥生］ 春学期授業/Spring 582
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7157】 臨床教育相談論Ⅱ【2024年度以前入学者のみ】［土屋　弥生］ 秋学期授業/Fall 583
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7159】 キャリアカウンセリングⅡ【2024年度以前入学者のみ】［廣川　進］ 秋学期授業/Fall 585
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7160】 キャリアカウンセリングⅢ（ケーススタディ）【2024年度以前入学者用】［宮脇　優子］ 春学期授業/Spring 586
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7161】 教育相談［田澤　実］ 春学期授業/Spring 588
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7162】 教育相談［児玉　茉奈美］ 秋学期授業/Fall 589
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7163】 教育相談［土屋　弥生］ 秋学期授業/Fall 590
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7164】 教育相談［山上　真貴子］ 秋学期授業/Fall 592
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7165】 教育相談［遠藤　裕子］ 秋学期授業/Fall 593
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7166】 教育相談［土屋　弥生］ 春学期授業/Spring 595
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7173】 学校論Ⅰ（キャリア形成）［松尾　知明］ 春学期授業/Spring 597
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7174】 学校論Ⅱ（キャリア形成）［遠藤　野ゆり］ 春学期授業/Spring 598
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7175】 学校論Ⅲ（キャリア教育）［児美川　孝一郎］ 春学期授業/Spring 600
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7176】 学校論Ⅳ（キャリア教育）［池田　佳代］ 秋学期授業/Fall .. 601
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7177】 生涯学習論Ⅰ（生涯学習支援論Ⅰ）［松橋　義樹］ 春学期授業/Spring 603
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7179】 生涯学習論Ⅱ（生涯学習支援論Ⅱ）［久井　英輔］ 秋学期授業/Fall 605
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7181】 図書館情報学概論Ⅰ［村上　郷子］ 春学期授業/Spring 607
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7182】 図書館情報学概論Ⅰ［原田　隆史］ 春学期授業/Spring 608
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7183】 図書館情報学概論Ⅱ［竹之内　明子］ 秋学期授業/Fall 610
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7184】 図書館情報学概論Ⅱ［原田　隆史］ 秋学期授業/Fall 612
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7185】 図書館情報学概論Ⅱ［菅原　真悟］ 秋学期授業/Fall 614
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7186】 図書館情報学概論Ⅱ［竹之内　明子］ 春学期授業/Spring .. 615
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7187】 メディア教育論Ⅰ［村上　郷子］ 春学期授業/Spring 617
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7188】 メディア教育論Ⅱ［村上　郷子］ 秋学期授業/Fall 619

展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7189】 教育マネジメントⅠ ［仲田　康一］ 春学期授業/Spring 621
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7190】 教育マネジメントⅡ【2024年度以前入学者のみ】［櫻井　直輝］ 秋学期授業/Fall 623
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7192】 現代教育思想［岩本　俊一］ 秋学期授業/Fall 625
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7193】 生涯学習論Ⅲ（成人教育論Ⅰ）【2024年度以前入学者のみ】［森本　扶］ 春学期授業/Spring 626
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7194】 生涯学習論Ⅳ（成人教育論Ⅱ）【2024年度以前入学者のみ】［朝岡　幸彦］ 秋学期授業/Fall 628
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7197】 教育社会学Ⅰ【2024年度以前入学者用】［筒井　美紀］ 春学期授業/Spring 629
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7198】 教育社会学Ⅱ【2024年度以前入学者用】［筒井　美紀］ 秋学期授業/Fall 630
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C7253】 外書講読B（ビジネス）【2024年度以前入学者用】［相澤　鈴之助］ 秋学期授業/Fall 631
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C7254】 職業選択論Ⅱ ［上西　充子］ 秋学期授業/Fall 633
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C7260】 リーダーシップ論【2024年度以前入学者のみ】［川瀬　萌馨］ 秋学期授業/Fall 634
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C7261】 経営統計論A（心理データ）【2024年度以前入学のみ】［鎌倉　哲史］ 春学期授業/Spring 635
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C7262】 企業会計論［赤城　諭士］ 春学期授業/Spring 637
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C7263】 経営統計論B（企業データ）［中野　貴之］ 秋学期授業/Fall 638
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C7266】 戦略経営論Ⅰ ［古田　克利］ 春学期授業/Spring 640
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C7267】 戦略経営論Ⅱ ［古田　克利］ 秋学期授業/Fall 641
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C7268】 経営分析論Ⅰ ［中野　貴之］ 春学期授業/Spring 642
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C7269】 経営分析論Ⅱ ［平井　裕久］ 秋学期授業/Fall 643
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C7270】 アントレプレナーシップ論Ⅰ【2024年度以前入学者用】［北原　成憲］ 春学期授業/Spring 644
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C7272】 職業キャリア論［岩月　真也］ 春学期授業/Spring 646
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C7273】 労働経済学［梅崎　修］ 春学期授業/Spring 648
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C7274】 シティズンシップ論【2024年度以前入学者のみ】［榎並　利博］ 春学期授業/Spring 649
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C7275】 生産システム論【2024年度以前入学者のみ】［北原　成憲］ 秋学期授業/Fall 651
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C7277】 日本経済論【2024年度以前入学者のみ】［本田　恒平］ 秋学期授業/Fall 653
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C7278】 産業論［赤城　諭士］ 秋学期授業/Fall 654
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C7279】 広告ビジネス論［石原　篤］ 秋学期授業/Fall 655
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C7281】 流通・マーケティング戦略論［小川　浩孝］ 秋学期授業/Fall . 657
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C7282】 流通・サービスビジネス論［村田　茂］ 春学期授業/Spring 660
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C7283】 就業機会発見実務【2024年度以前入学者のみ】［今井　道子］ 秋学期授業/Fall 662
展開科目_選択必修（領域別）_ライフ【C7302】 外書講読A（ライフ）【2024年度以前入学者用】［門脇　仁］ 春学期授業/Spring 664
展開科目_選択必修（領域別）_ライフ【C7308】 世代間交流論［安田　節之］ 秋学期授業/Fall 666
展開科目_選択必修（領域別）_ライフ【C7311】 アイデンティティ論［奥山　智天］ 春学期授業/Spring 667
展開科目_選択必修（領域別）_ライフ【C7312】 余暇集団論［熊谷　智博］ 秋学期授業/Fall 668
展開科目_選択必修（領域別）_ライフ【C7313】 NPO論【2024年度以前入学者のみ】［山口　佳子］ 秋学期授業/Fall 669
展開科目_選択必修（領域別）_ライフ【C7314】 公共サービス論【2024年度以前入学者のみ】［松原　直輝］ 秋学期授業/Fall 670
展開科目_選択必修（領域別）_ライフ【C7320】 産業文化論【2024年度以前入学者のみ】［上原　義子］ 秋学期授業/Fall 671
展開科目_選択必修（領域別）_ライフ【C7324】 多文化社会論Ⅰ ［安藤　優子］ 春学期授業/Spring 672
展開科目_選択必修（領域別）_ライフ【C7325】 多文化社会論Ⅱ ［挽地　康彦］ 春学期授業/Spring 674
展開科目_選択必修（領域別）_ライフ【C7326】 多文化社会論Ⅲ ［挽地　康彦］ 秋学期授業/Fall 676
展開科目_総合【C7351】 職業能力ベーシックスキルⅠ【2021年度以前入学者用】［岩出　朋子］ 春学期授業/Spring 678
展開科目_選択必修（体験型）【C7351】 職業能力ベーシックスキルⅠ【2022～2024年度入学者用】［岩出　朋子］ 春学期授業/Spring 680

展開科目_選択必修（体験型）【C7352】 職業能力ベーシックスキルⅡ【2022～2024年度入学者用】［岩出　朋子］ 秋学期授業/Fall …… 682
展開科目_総合【C7352】 職業能力ベーシックスキルⅡ【2021年度以前入学者用】［岩出　朋子］ 秋学期授業/Fall 684
演習科目【C7660】 キャリアデザイン学総合演習【2024年度以前入学者のみ】［坂本　旬］ 秋学期授業/Fall …… 686
関連科目【C7943】 社会教育演習【2024年度以前入学者のみ】［久井　英輔］ 年間授業/Yearly …… 687

BSP100MA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

基礎ゼミ（A組）

上西　充子

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：水3/Wed.3　｜　配当年次：2025年度以降入学者：1～22024年度以前入学者：1～4年
備考（履修条件等）：単位認定先は、ILAC基盤科目0群（専門科目に含まない）

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キャリアデザイン学部での学習をスタートするにあたり、大学における学習のあり方を理解し、基本的な学習能力を身につけることが基礎ゼミの目的です。
「生きる・働く・学ぶ」を個人の視点から捉えた文献を素材とし、文章の読解や論点の整理・考察等を通して、自分自身の視点を捉え直します。その上で、論理的で説得力のある論述やプレゼンテーションを行います。

【到達目標】
授業が修了した時点で以下のような力を身につけていることを、この授業の具体的な到達目標とします。
【1 情報収集力】必要な情報を自分自身で判断した上で、適切に収集・蓄積できるようになること。
【2 情報の内容理解】論説文を正確に読解し、文章内容を把握した上で適切に要約できること。また、基礎的なデータを適切に読み解けること。
【3 情報発信能力】第三者が読んで、理解しやすく説得力のある文章を書くことができること。また、わかりやすく説得力のあるプレゼンテーションができること。
【4 議論するための基礎的な力】相手の発言を聞き取り、把握した上で、自分の意見を明確に述べることができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
少人数クラスのもとで基本的な学習能力を確実に身につけ、専門的な学習につなげます。
まず、大学における学びの特色について理解し、図書館ガイダンスを通じて資料・文献等を収集する実践的な技術を身につけます。さらに、クラスごとに指定された文献の読解や内容検討、ディスカッション等を通して批判的な見方を養い、適切な形式を踏まえたレポートを作成するとともに、グループもしくは個人でのプレゼンテーションを行います。
授業の進行に即して適宜課題が出され、クラス内でそのフィードバックを行い、学習の定着を図ります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	基礎ゼミの概要説明と自己紹介
第2回	大学における学びとは	高校までの勉強との違いを理解し、ノートの取り方等を学ぶ。
第3回	レポートの書き方（1）	問いを立て、論証することの重要性を学ぶ。また捏造、改ざん、盗用など、研究活動・研究倫理における不適切な行為を理解する。剽窃チェックソフトの活用や生成AI（ChatGPTなど）の利用にあたっての注意にも触れる。
第4回	図書館ガイダンス	OPAC資料検索・各種データベースの具体的な活用方法を学ぶ。
第5回	新聞・雑誌記事・統計データの活用	図書館データベースにより収集した記事や統計データの扱い方を学ぶ。
第6回	レポートの書き方（2）	批判的な検討の方法について理解し、問いの立て方を学ぶ。
第7回	レポートの書き方（3）	先行研究や各種データの適切な引用・紹介の方法を学ぶ。
第8回	論点をめぐる検討	文献の要約等を通して読解を深め、論点をめぐる整理と検討を行う。
第9回	論点をめぐるディスカッション	グループディスカッションにより、多角的な視点から論点の検討を深める。
第10回	プレゼンテーションの方法	プレゼンテーションの実施方法や資料作成の基礎を理解する。
第11回	レポートの作成と発表の準備	レポート執筆および発表に向けての準備を進める。
第12回	キャリア支援を目的としたグループワーク	学部上級生が実施するキャリア支援プログラムに参加する
第13回	グループ発表	グループ発表および質疑応答を行い、教員からのコメントを受ける。
第14回	まとめと今後の学習ガイダンス	半期の振返りを行うとともに、秋学期以降の学習計画について検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受け身で教えられる存在である「生徒」から、自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な、さまざまな学習スキル（技能）の確実な習得を目指します。授業内での学びを充実したものにするため、授業への参加はもちろんのこと、課題や授業内での発表に備えて自宅でしっかりと準備をしてください。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法　第3版』慶應義塾大学出版会、2019年
・各クラス指定の文献

【参考書】
クラスにおいて適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業での学習姿勢や期限を守った課題の提出、グループワークへの取り組みなど）：45％
提出課題（プレゼンテーション、レポート、等）：55％

【学生の意見等からの気づき】
・各クラスの担当教員の独自性を確保しつつ、アカデミック・スキルの基礎学習については全クラスを平準化したものとして進めます。
・生成AIに関する基礎知識やその適切な活用のあり方についての理解がますます求められるようになってきたため、授業でも意識して取り上げます。

【その他の重要事項】
・図書館ガイダンスはオンラインで行います（第4回を予定していますが、クラスによっては前後にずれる可能性があります）。また、ガイダンス後の振返りについては、クラスによって対面授業ないしオンラインで実施しますので、担当教員の指示に従ってください。
・学部上級生の主導によるキャリア支援のグループワーク（第12回を予定）は、通常の授業と同様出席が必須です。

【Outline (in English)】
Course outline:
At the beginning of the study at the Faculty of Lifelong Learning and Career Studies, the basic seminar aims to introduce students how to learn in university and equip them with basic learning skills.

Based on literature describing “life, work, and learning” from personal viewpoints, students reflect on their own viewpoints by understanding the text and examining their points of argument. Then, students make logical and compelling discussions.
Learning Objectives:
When you have finished this course, you will have developed much of the skills written below:
1. Search and collect information relevant to your academic interests
2. Understand and summarize academic papers and quantitative and/or
qualitative data
3.Write a paper and discuss issues that are comprehensive to the audience
4.Present your opinions by listening to others and understanding their points of view
Method(s)：
This course with small class sizes is designed to establish students’ academic skills and readiness for professional learning actives in college. Students will first learn about how to engage in academic activities in college. By participating a guidance tutorial given by library staffs, students will then develop skills to access to the information such as collecting articles and documents. Students are expected to develop styles of critical thinking through the review of literatures and class discussions, so that they are eligible to complete a research report and given a presentation based on that report.
Learning activities outside of classroom:
The main purpose of this class is for students to establish a host of academic skills so that they as passive learners as are in high school can transform themselves into active learners in college. Students are expected not only to actively participate in class but also engage in academic activities outside of the classroom(4 hrs).
Grading Criteria /Policy:
45 points (%) for participation,class assignments,and group activities
55 points (%) for class presentation and reflection papers

BSP100MA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

基礎ゼミ（B組）

石山　恒貴

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：水3/Wed.3　｜　配当年次：2025年度以降入学者：1～22024年度以前入学者：1～4年
備考（履修条件等）：単位認定先は、ILAC基盤科目0群（専門科目に含まない）

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キャリアデザイン学部での学習をスタートするにあたり、大学における学習のあり方を理解し、基本的な学習能力を身につけることが基礎ゼミの目的です。
「生きる・働く・学ぶ」を個人の視点から捉えた文献を素材とし、文章の読解や論点の整理・考察等を通して、自分自身の視点を捉え直します。その上で、論理的で説得力のある論述やプレゼンテーションを行います。

【到達目標】
授業が修了した時点で以下のような力を身につけていることを、この授業の具体的な到達目標とします。
【1 情報収集力】必要な情報を自分自身で判断した上で、適切に収集・蓄積できるようになること。
【2 情報の内容理解】論説文を正確に読解し、文章内容を把握した上で適切に要約できること。また、基礎的なデータを適切に読み解けること。
【3 情報発信能力】第三者が読んで、理解しやすく説得力のある文章を書くことができること。また、わかりやすく説得力のあるプレゼンテーションができること。
【4 議論するための基礎的な力】相手の発言を聞き取り、把握した上で、自分の意見を明確に述べることができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
少人数クラスのもとで基本的な学習能力を確実に身につけ、専門的な学習につなげます。
まず、大学における学びの特色について理解し、図書館ガイダンスを通じて資料・文献等を収集する実践的な技術を身につけます。さらに、クラスごとに指定された文献の読解や内容検討、ディスカッション等を通して批判的な見方を養い、適切な形式を踏まえたレポートを作成するとともに、グループもしくは個人でのプレゼンテーションを行います。
授業の進行に即して適宜課題が出され、クラス内でそのフィードバックを行い、学習の定着を図ります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	基礎ゼミの概要説明と自己紹介
第2回	大学における学びとは	高校までの勉強との違いを理解し、ノートの取り方等を学ぶ。
第3回	レポートの書き方（1）	問いを立て、論証することの重要性を学ぶ。また捏造、改ざん、盗用など、研究活動・研究倫理における不適切な行為を理解する。剽窃チェックソフトの活用や生成AI（ChatGPTなど）の利用にあたっての注意にも触れる。
第4回	図書館ガイダンス	OPAC資料検索・各種データベースの具体的な活用方法を学ぶ。
第5回	新聞・雑誌記事・統計データの活用	図書館データベースにより収集した記事や統計データの扱い方を学ぶ。
第6回	レポートの書き方（2）	批判的な検討の方法について理解し、問いの立て方を学ぶ。
第7回	レポートの書き方（3）	先行研究や各種データの適切な引用・紹介の方法を学ぶ。
第8回	論点をめぐる検討	文献の要約等を通して読解を深め、論点をめぐる整理と検討を行う。
第9回	論点をめぐるディスカッション	グループディスカッションにより、多角的な視点から論点の検討を深める。
第10回	プレゼンテーションの方法	プレゼンテーションの作成、実施方法の基礎を理解する。
第11回	レポートの作成と発表の準備	レポート執筆および発表に向けての準備を進める。
第12回	キャリア支援を目的としたグループワーク	学部上級生が実施するキャリア支援プログラムに参加する
第13回	グループ発表	グループ発表および質疑応答を行い、教員からのコメントを受ける。
第14回	まとめと今後の学習ガイダンス	半期の振返りを行うとともに、秋学期以降の学習計画について検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受け身で教えられる存在である「生徒」から、自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な、さまざまな学習スキル（技能）の確実な習得を目指します。授業内での学びを充実したものにするため、授業への参加はもちろんのこと、課題や授業内での発表に備えて自宅でしっかりと準備をしてください。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法　第3版』慶應義塾大学出版会、2019年
・各クラス指定の文献

【参考書】
クラスにおいて適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業での学習姿勢や期限を守った課題の提出、グループワークへの取り組みなど）：45％
提出課題（プレゼンテーション、レポート、等）：55％

【学生の意見等からの気づき】
・各クラスの担当教員の独自性を確保しつつ、アカデミック・スキルの基礎学習については全クラスを平準化したものとして進めます。
・生成AIに関する基礎知識やその適切な活用のあり方についての理解がますます求められるようになってきたため、授業でも意識して取り上げます。

【その他の重要事項】
・図書館ガイダンスはオンラインで行います（第4回を予定していますが、クラスによっては前後にずれる可能性があります）。また、ガイダンス後の振返りについては、クラスによって対面授業ないしオンラインで実施しますので、担当教員の指示に従ってください。
・学部上級生の主導によるキャリア支援のグループワーク（第12回を予定）は、通常の授業と同様出席が必須です。

【Outline (in English)】
Course outline:
At the beginning of the study at the Faculty of Lifelong Learning and Career Studies, the basic seminar aims to introduce students how to learn in university and equip them with basic learning skills.

Based on literature describing “life, work, and learning” from personal viewpoints, students reflect on their own viewpoints by understanding the text and examining their points of argument. Then, students make logical and compelling discussions.
Learning Objectives:
When you have finished this course, you will have developed much of the skills written below:
1. Search and collect information relevant to your academic interests
2. Understand and summarize academic papers and quantitative and/or
qualitative data
3.Write a paper and discuss issues that are comprehensive to the audience
4.Present your opinions by listening to others and understanding their points of view
Method(s)：
This course with small class sizes is designed to establish students’ academic skills and readiness for professional learning actives in college. Students will first learn about how to engage in academic activities in college. By participating a guidance tutorial given by library staffs, students will then develop skills to access to the information such as collecting articles and documents. Students are expected to develop styles of critical thinking through the review of literatures and class discussions, so that they are eligible to complete a research report and given a presentation based on that report.
Learning activities outside of classroom:
The main purpose of this class is for students to establish a host of academic skills so that they as passive learners as are in high school can transform themselves into active learners in college. Students are expected not only to actively participate in class but also engage in academic activities outside of the classroom(4 hrs).
Grading Criteria /Policy:
45 points (%) for participation,class assignments,and group activities
55 points (%) for class presentation and reflection papers

BSP100MA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

基礎ゼミ（C組）

坂本　旬

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：水3/Wed.3　｜　配当年次：2025年度以降入学者：1～22024年度以前入学者：1～4年
備考（履修条件等）：単位認定先は、ILAC基盤科目0群（専門科目に含まない）

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キャリアデザイン学部での学習をスタートするにあたり、大学における学習のあり方を理解し、基本的な学習能力を身につけることが基礎ゼミの目的です。
「生きる・働く・学ぶ」を個人の視点から捉えた文献を素材とし、文章の読解や論点の整理・考察等を通して、自分自身の視点を捉え直します。その上で、論理的で説得力のある論述やプレゼンテーションを行います。

【到達目標】
授業が修了した時点で以下のような力を身につけていることを、この授業の具体的な到達目標とします。
【1 情報収集力】必要な情報を自分自身で判断した上で、適切に収集・蓄積できるようになること。
【2 情報の内容理解】論説文を正確に読解し、文章内容を把握した上で適切に要約できること。また、基礎的なデータを適切に読み解けること。
【3 情報発信能力】第三者が読んで、理解しやすく説得力のある文章を書くことができること。また、わかりやすく説得力のあるプレゼンテーションができること。
【4 議論するための基礎的な力】相手の発言を聞き取り、把握した上で、自分の意見を明確に述べることができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
少人数クラスのもとで基本的な学習能力を確実に身につけ、専門的な学習につなげます。
まず、大学における学びの特色について理解し、図書館ガイダンスを通じて資料・文献等を収集する実践的な技術を身につけます。さらに、クラスごとに指定された文献の読解や内容検討、ディスカッション等を通して批判的な見方を養い、適切な形式を踏まえたレポートを作成するとともに、グループもしくは個人でのプレゼンテーションを行います。
授業の進行に即して適宜課題が出され、クラス内でそのフィードバックを行い、学習の定着を図ります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	基礎ゼミの概要説明と自己紹介
第2回	大学における学びとは	高校までの勉強との違いを理解し、ノートの取り方等を学ぶ。
第3回	レポートの書き方（1）	問いを立て、論証することの重要性を学ぶ。また捏造、改ざん、盗用など、研究活動・研究倫理における不適切な行為を理解する。剽窃チェックソフトの活用や生成AI（ChatGPTなど）の利用にあたっての注意にも触れる。
第4回	図書館ガイダンス	OPAC資料検索・各種データベースの具体的な活用方法を学ぶ。
第5回	新聞・雑誌記事・統計データの活用	図書館データベースにより収集した記事や統計データの扱い方を学ぶ。
第6回	レポートの書き方（2）	批判的な検討の方法について理解し、問いの立て方を学ぶ。
第7回	レポートの書き方（3）	先行研究や各種データの適切な引用・紹介の方法を学ぶ。
第8回	論点をめぐる検討	文献の要約等を通して読解を深め、論点をめぐる整理と検討を行う。
第9回	論点をめぐるディスカッション	グループディスカッションにより、多角的な視点から論点の検討を深める。
第10回	プレゼンテーションの方法	プレゼンテーションの実施方法や資料作成の基礎を理解する。
第11回	レポートの作成と発表の準備	レポート執筆および発表に向けての準備を進める。
第12回	キャリア支援を目的としたグループワーク	学部上級生が実施するキャリア支援プログラムに参加する
第13回	グループ発表	グループ発表および質疑応答を行い、教員からのコメントを受ける。
第14回	まとめと今後の学習ガイダンス	半期の振返りを行うとともに、秋学期以降の学習計画について検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受け身で教えられる存在である「生徒」から、自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な、さまざまな学習スキル（技能）の確実な習得を目指します。授業内での学びを充実したものにするため、授業への参加はもちろんのこと、課題や授業内での発表に備えて自宅でしっかりと準備をしてください。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法　第3版』慶應義塾大学出版会、2019年
・各クラス指定の文献

【参考書】
クラスにおいて適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業での学習姿勢や期限を守った課題の提出、グループワークへの取り組みなど）：45％
提出課題（プレゼンテーション、レポート、等）：55％

【学生の意見等からの気づき】
・各クラスの担当教員の独自性を確保しつつ、アカデミック・スキルの基礎学習については全クラスを平準化したものとして進めます。
・生成AIに関する基礎知識やその適切な活用のあり方についての理解がますます求められるようになってきたため、授業でも意識して取り上げます。

【その他の重要事項】
・図書館ガイダンスはオンラインで行います（第4回を予定していますが、クラスによっては前後にずれる可能性があります）。また、ガイダンス後の振返りについては、クラスによって対面授業ないしオンラインで実施しますので、担当教員の指示に従ってください。
・学部上級生の主導によるキャリア支援のグループワーク（第12回を予定）は、通常の授業と同様出席が必須です。

【Outline (in English)】
Course outline:
At the beginning of the study at the Faculty of Lifelong Learning and Career Studies, the basic seminar aims to introduce students how to learn in university and equip them with basic learning skills.

Based on literature describing “life, work, and learning” from personal viewpoints, students reflect on their own viewpoints by understanding the text and examining their points of argument. Then, students make logical and compelling discussions.
Learning Objectives:
When you have finished this course, you will have developed much of the skills written below:
1. Search and collect information relevant to your academic interests
2. Understand and summarize academic papers and quantitative and/or
qualitative data
3.Write a paper and discuss issues that are comprehensive to the audience
4.Present your opinions by listening to others and understanding their points of view
Method(s)：
This course with small class sizes is designed to establish students’ academic skills and readiness for professional learning actives in college. Students will first learn about how to engage in academic activities in college. By participating a guidance tutorial given by library staffs, students will then develop skills to access to the information such as collecting articles and documents. Students are expected to develop styles of critical thinking through the review of literatures and class discussions, so that they are eligible to complete a research report and given a presentation based on that report.
Learning activities outside of classroom:
The main purpose of this class is for students to establish a host of academic skills so that they as passive learners as are in high school can transform themselves into active learners in college. Students are expected not only to actively participate in class but also engage in academic activities outside of the classroom(4 hrs).
Grading Criteria /Policy:
45 points (%) for participation,class assignments,and group activities
55 points (%) for class presentation and reflection papers

BSP100MA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

基礎ゼミ（D組）

藤村　朝子

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：水3/Wed.3　｜　配当年次：2025年度以降入学者：1〜22024年度以前入学者：1〜4年
備考（履修条件等）：単位認定先は、ILAC基盤科目0群（専門科目に含まない）

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キャリアデザイン学部での学習をスタートするにあたり、大学における学習のあり方を理解し、基本的な学習能力を身につけることが基礎ゼミの目的です。
「生きる・働く・学ぶ」を個人の視点から捉えた文献を素材とし、文章の読解や論点の整理・考察等を通して、自分自身の視点を捉え直します。その上で、論理的で説得力のある論述やプレゼンテーションを行います。

【到達目標】
授業が修了した時点で以下のような力を身につけていることを、この授業の具体的な到達目標とします。
【1 情報収集力】必要な情報を自分自身で判断した上で、適切に収集・蓄積できるようになること。
【2 情報の内容理解】論説文を正確に読解し、文章内容を把握した上で適切に要約できること。また、基礎的なデータを適切に読み解けること。
【3 情報発信能力】第三者が読んで、理解しやすく説得力のある文章を書くことができること。また、わかりやすく説得力のあるプレゼンテーションができること。
【4 議論するための基礎的な力】相手の発言を聞き取り、把握した上で、自分の意見を明確に述べることができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
少人数クラスのもとで基本的な学習能力を確実に身につけ、専門的な学習につなげます。
まず、大学における学びの特色について理解し、図書館ガイダンスを通じて資料・文献等を収集する実践的な技術を身につけます。さらに、クラスごとに指定された文献の読解や内容検討、ディスカッション等を通して批判的な見方を養い、適切な形式を踏まえたレポートを作成するとともに、グループもしくは個人でのプレゼンテーションを行います。
授業の進行に即して適宜課題が出され、クラス内でそのフィードバックを行い、学習の定着を図ります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	基礎ゼミの概要説明と自己紹介
第2回	大学における学びとは	高校までの勉強との違いを理解し、ノートの取り方等を学ぶ。
第3回	レポートの書き方（1）	問いを立て、論証することの重要性を学ぶ。また捏造、改ざん、盗用など、研究活動・研究倫理における不適切な行為を理解する。剽窃チェックソフトの活用や生成AI（ChatGPTなど）の利用にあたっての注意にも触れる。
第4回	図書館ガイダンス	OPAC資料検索・各種データベースの具体的な活用方法を学ぶ。
第5回	新聞・雑誌記事・統計データの活用	図書館データベースにより収集した記事や統計データの扱い方を学ぶ。
第6回	レポートの書き方（2）	批判的な検討の方法について理解し、問いの立て方を学ぶ。
第7回	レポートの書き方（3）	先行研究や各種データの適切な引用・紹介の方法を学ぶ。
第8回	論点をめぐる検討	文献の要約等を通して読解を深め、論点をめぐる整理と検討を行う。
第9回	論点をめぐるディスカッション	グループディスカッションにより、多角的な視点から論点の検討を深める。
第10回	プレゼンテーションの方法	プレゼンテーションの実施方法や資料作成の基礎を理解する。
第11回	レポートの作成と発表の準備	レポート執筆および発表に向けての準備を進める。
第12回	キャリア支援を目的としたグループワーク	学部上級生が実施するキャリア支援プログラムに参加する
第13回	グループ発表	グループ発表および質疑応答を行い、教員からのコメントを受ける。
第14回	まとめと今後の学習ガイダンス	半期の振返りを行うとともに、秋学期以降の学習計画について検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受け身で教えられる存在である「生徒」から、自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な、さまざまな学習スキル（技能）の確実な習得を目指します。授業内での学びを充実したものにするため、授業への参加はもちろんのこと、課題や授業内での発表に備えて自宅でしっかりと準備をしてください。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法　第3版』慶應義塾大学出版会、2019年
・各クラス指定の文献

【参考書】
クラスにおいて適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業での学習姿勢や期限を守った課題の提出、グループワークへの取り組みなど）：45％
提出課題（プレゼンテーション、レポート、等）：55％

【学生の意見等からの気づき】
・各クラスの担当教員の独自性を確保しつつ、アカデミック・スキルの基礎学習については全クラスを平準化したものとして進めます。
・生成AIに関する基礎知識やその適切な活用のあり方についての理解がますます求められるようになってきたため、授業でも意識して取り上げます。

【その他の重要事項】
・図書館ガイダンスはオンラインで行います（第4回を予定していますが、クラスによっては前後にずれる可能性があります）。また、ガイダンス後の振返りについては、クラスによって対面授業ないしオンラインで実施しますので、担当教員の指示に従ってください。
・学部上級生の主導によるキャリア支援のグループワーク（第12回を予定）は、通常の授業と同様出席が必須です。

【Outline (in English)】
Course outline:
At the beginning of the study at the Faculty of Lifelong Learning and Career Studies, the basic seminar aims to introduce students how to learn in university and equip them with basic learning skills.

Based on literature describing “life, work, and learning” from personal viewpoints, students reflect on their own viewpoints by understanding the text and examining their points of argument. Then, students make logical and compelling discussions.
Learning Objectives:
When you have finished this course, you will have developed much of the skills written below:
1. Search and collect information relevant to your academic interests
2. Understand and summarize academic papers and quantitative and/or
qualitative data
3.Write a paper and discuss issues that are comprehensive to the audience
4.Present your opinions by listening to others and understanding their points of view
Method(s)：
This course with small class sizes is designed to establish students’ academic skills and readiness for professional learning actives in college. Students will first learn about how to engage in academic activities in college. By participating a guidance tutorial given by library staffs, students will then develop skills to access to the information such as collecting articles and documents. Students are expected to develop styles of critical thinking through the review of literatures and class discussions, so that they are eligible to complete a research report and given a presentation based on that report.
Learning activities outside of classroom:
The main purpose of this class is for students to establish a host of academic skills so that they as passive learners as are in high school can transform themselves into active learners in college. Students are expected not only to actively participate in class but also engage in academic activities outside of the classroom(4 hrs).
Grading Criteria /Policy:
45 points (%) for participation,class assignments,and group activities
55 points (%) for class presentation and reflection papers

BSP100MA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

基礎ゼミ（E組）

関　慎太朗

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：木3/Thu.3　｜　配当年次：2025年度以降入学者：1～22024年度以前入学者：1～4年
備考（履修条件等）：単位認定先は、ILAC基盤科目0群（専門科目に含まない）

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キャリアデザイン学部での学習をスタートするにあたり、大学における学習のあり方を理解し、基本的な学習能力を身につけることが基礎ゼミの目的です。
「生きる・働く・学ぶ」を個人の視点から捉えた文献を素材とし、文章の読解や論点の整理・考察等を通して、自分自身の視点を捉え直します。その上で、論理的で説得力のある論述やプレゼンテーションを行います。

【到達目標】
授業が修了した時点で以下のような力を身につけていることを、この授業の具体的な到達目標とします。
【1 情報収集力】必要な情報を自分自身で判断した上で、適切に収集・蓄積できるようになること。
【2 情報の内容理解】論説文を正確に読解し、文章内容を把握した上で適切に要約できること。また、基礎的なデータを適切に読み解けること。
【3 情報発信能力】第三者が読んで、理解しやすく説得力のある文章を書くことができること。また、わかりやすく説得力のあるプレゼンテーションができること。
【4 議論するための基礎的な力】相手の発言を聞き取り、把握した上で、自分の意見を明確に述べることができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
少人数クラスのもとで基本的な学習能力を確実に身につけ、専門的な学習につなげます。
まず、大学における学びの特色について理解し、図書館ガイダンスを通じて資料・文献等を収集する実践的な技術を身につけます。さらに、クラスごとに指定された文献の読解や内容検討、ディスカッション等を通して批判的な見方を養い、適切な形式を踏まえたレポートを作成するとともに、グループもしくは個人でのプレゼンテーションを行います。
授業の進行に即して適宜課題が出され、クラス内でそのフィードバックを行い、学習の定着を図ります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	基礎ゼミの概要説明と自己紹介
第2回	大学における学びとは	高校までの勉強との違いを理解し、ノートの取り方等を学ぶ。
第3回	レポートの書き方（1）	問いを立て、論証することの重要性を学ぶ。また捏造、改ざん、盗用など、研究活動・研究倫理における不適切な行為を理解する。剽窃チェックソフトの活用や生成AI（ChatGPTなど）の利用にあたっての注意にも触れる。
第4回	図書館ガイダンス	OPAC資料検索・各種データベースの具体的な活用方法を学ぶ。
第5回	新聞・雑誌記事・統計データの活用	図書館データベースにより収集した記事や統計データの扱い方を学ぶ。
第6回	レポートの書き方（2）	批判的な検討の方法について理解し、問いの立て方を学ぶ。
第7回	レポートの書き方（3）	先行研究や各種データの適切な引用・紹介の方法を学ぶ。
第8回	論点をめぐる検討	文献の要約等を通して読解を深め、論点をめぐる整理と検討を行う。
第9回	論点をめぐるディスカッション	グループディスカッションにより、多角的な視点から論点の検討を深める。
第10回	プレゼンテーションの方法	プレゼンテーションの実施方法や資料作成の基礎を理解する。
第11回	レポートの作成と発表の準備	レポート執筆および発表に向けての準備を進める。
第12回	キャリア支援を目的としたグループワーク	学部上級生が実施するキャリア支援プログラムに参加する
第13回	グループ発表	グループ発表および質疑応答を行い、教員からのコメントを受ける。
第14回	まとめと今後の学習ガイダンス	半期の振返りを行うとともに、秋学期以降の学習計画について検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受け身で教えられる存在である「生徒」から、自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な、さまざまな学習スキル（技能）の確実な習得を目指します。授業内での学びを充実したものにするため、授業への参加はもちろんのこと、課題や授業内での発表に備えて自宅でしっかりと準備をしてください。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法　第3版』慶應義塾大学出版会、2019年
・各クラス指定の文献

【参考書】
クラスにおいて適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業での学習姿勢や期限を守った課題の提出、グループワークへの取り組みなど）：45％
提出課題（プレゼンテーション、レポート、等）：55％

【学生の意見等からの気づき】
・各クラスの担当教員の独自性を確保しつつ、アカデミック・スキルの基礎学習については全クラスを平準化したものとして進めます。
・生成AIに関する基礎知識やその適切な活用のあり方についての理解がますます求められるようになってきたため、授業でも意識して取り上げます。

【その他の重要事項】
・図書館ガイダンスはオンラインで行います（第4回を予定していますが、クラスによっては前後にずれる可能性があります）。また、ガイダンス後の振返りについては、クラスによって対面授業ないしオンラインで実施しますので、担当教員の指示に従ってください。
・学部上級生の主導によるキャリア支援のグループワーク（第12回を予定）は、通常の授業と同様出席が必須です。

【Outline (in English)】
Course outline:
At the beginning of the study at the Faculty of Lifelong Learning and Career Studies, the basic seminar aims to introduce students how to learn in university and equip them with basic learning skills.

Based on literature describing “life, work, and learning” from personal viewpoints, students reflect on their own viewpoints by understanding the text and examining their points of argument. Then, students make logical and compelling discussions.
Learning Objectives:
When you have finished this course, you will have developed much of the skills written below:
1. Search and collect information relevant to your academic interests
2. Understand and summarize academic papers and quantitative and/or
qualitative data
3.Write a paper and discuss issues that are comprehensive to the audience
4.Present your opinions by listening to others and understanding their points of view
Method(s)：
This course with small class sizes is designed to establish students’ academic skills and readiness for professional learning actives in college. Students will first learn about how to engage in academic activities in college. By participating a guidance tutorial given by library staffs, students will then develop skills to access to the information such as collecting articles and documents. Students are expected to develop styles of critical thinking through the review of literatures and class discussions, so that they are eligible to complete a research report and given a presentation based on that report.
Learning activities outside of classroom:
The main purpose of this class is for students to establish a host of academic skills so that they as passive learners as are in high school can transform themselves into active learners in college. Students are expected not only to actively participate in class but also engage in academic activities outside of the classroom(4 hrs).
Grading Criteria /Policy:
45 points (%) for participation,class assignments,and group activities
55 points (%) for class presentation and reflection papers

BSP100MA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

基礎ゼミ（F組）

澤田　唯人

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：木3/Thu.3　｜　配当年次：2025年度以降入学者：1〜2 2024年度以前入学者：1〜4年
備考（履修条件等）：単位認定先は、ILAC基盤科目0群（専門科目に含まない）

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キャリアデザイン学部での学習をスタートするにあたり、大学における学習のあり方を理解し、基本的な学習能力を身につけることが基礎ゼミの目的です。
「生きる・働く・学ぶ」を個人の視点から捉えた文献を素材とし、文章の読解や論点の整理・考察等を通して、自分自身の視点を捉え直します。その上で、論理的で説得力のある論述やプレゼンテーションを行います。

【到達目標】
授業が修了した時点で以下のような力を身につけていることを、この授業の具体的な到達目標とします。
【1 情報収集力】必要な情報を自分自身で判断した上で、適切に収集・蓄積できるようになること。
【2 情報の内容理解】論説文を正確に読解し、文章内容を把握した上で適切に要約できること。また、基礎的なデータを適切に読み解けること。
【3 情報発信能力】第三者が読んで、理解しやすく説得力のある文章を書くことができること。また、わかりやすく説得力のあるプレゼンテーションができること。
【4 議論するための基礎的な力】相手の発言を聞き取り、把握した上で、自分の意見を明確に述べることができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
少人数クラスのもとで基本的な学習能力を確実に身につけ、専門的な学習につなげます。
まず、大学における学びの特色について理解し、図書館ガイダンスを通じて資料・文献等を収集する実践的な技術を身につけます。さらに、クラスごとに指定された文献の読解や内容検討、ディスカッション等を通して批判的な見方を養い、適切な形式を踏まえたレポートを作成するとともに、グループもしくは個人でのプレゼンテーションを行います。
授業の進行に即して適宜課題が出され、クラス内でそのフィードバックを行い、学習の定着を図ります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	基礎ゼミの概要説明と自己紹介
第2回	大学における学びとは	高校までの勉強との違いを理解し、ノートの取り方等を学ぶ。
第3回	レポートの書き方（1）	問いを立て、論証することの重要性を学ぶ。また捏造、改ざん、盗用など、研究活動・研究倫理における不適切な行為を理解する。剽窃チェックソフトの活用や生成AI（ChatGPTなど）の利用にあたっての注意にも触れる。
第4回	図書館ガイダンス	OPAC資料検索・各種データベースの具体的な活用方法を学ぶ。
第5回	新聞・雑誌記事・統計データの活用	図書館データベースにより収集した記事や統計データの扱い方を学ぶ。
第6回	レポートの書き方（2）	批判的な検討の方法について理解し、問いの立て方を学ぶ。
第7回	レポートの書き方（3）	先行研究や各種データの適切な引用・紹介の方法を学ぶ。
第8回	論点をめぐる検討	文献の要約等を通して読解を深め、論点をめぐる整理と検討を行う。
第9回	論点をめぐるディスカッション	グループディスカッションにより、多角的な視点から論点の検討を深める。
第10回	プレゼンテーションの方法	プレゼンテーションの実施方法や資料作成の基礎を理解する。
第11回	レポートの作成と発表の準備	レポート執筆および発表に向けての準備を進める。
第12回	キャリア支援を目的としたグループワーク	学部上級生が実施するキャリア支援プログラムに参加する
第13回	グループ発表	グループ発表および質疑応答を行い、教員からのコメントを受ける。
第14回	まとめと今後の学習ガイダンス	半期の振返りを行うとともに、秋学期以降の学習計画について検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受け身で教えられる存在である「生徒」から、自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な、さまざまな学習スキル（技能）の確実な習得を目指します。授業内での学びを充実したものにするため、授業への参加はもちろんのこと、課題や授業内での発表に備えて自宅でしっかりと準備をしてください。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法　第3版』慶應義塾大学出版会、2019年
・各クラス指定の文献

【参考書】
クラスにおいて適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業での学習姿勢や期限を守った課題の提出、グループワークへの取り組みなど）：45％
提出課題（プレゼンテーション、レポート、等）：55％

【学生の意見等からの気づき】
・各クラスの担当教員の独自性を確保しつつ、アカデミック・スキルの基礎学習については全クラスを平準化したものとして進めます。
・生成AIに関する基礎知識やその適切な活用のあり方についての理解がますます求められるようになってきたため、授業でも意識して取り上げます。

【その他の重要事項】
・図書館ガイダンスはオンラインで行います（第4回を予定していますが、クラスによっては前後にずれる可能性があります）。また、ガイダンス後の振返りについては、クラスによって対面授業ないしオンラインで実施しますので、担当教員の指示に従ってください。
・学部上級生の主導によるキャリア支援のグループワーク（第12回を予定）は、通常の授業と同様出席が必須です。

【Outline (in English)】
Course outline:
At the beginning of the study at the Faculty of Lifelong Learning and Career Studies, the basic seminar aims to introduce students how to learn in university and equip them with basic learning skills.

Based on literature describing “life, work, and learning” from personal viewpoints, students reflect on their own viewpoints by understanding the text and examining their points of argument. Then, students make logical and compelling discussions.
Learning Objectives:
When you have finished this course, you will have developed much of the skills written below:
1. Search and collect information relevant to your academic interests
2. Understand and summarize academic papers and quantitative and/or
qualitative data
3.Write a paper and discuss issues that are comprehensive to the audience
4.Present your opinions by listening to others and understanding their points of view
Method(s)：
This course with small class sizes is designed to establish students’ academic skills and readiness for professional learning actives in college. Students will first learn about how to engage in academic activities in college. By participating a guidance tutorial given by library staffs, students will then develop skills to access to the information such as collecting articles and documents. Students are expected to develop styles of critical thinking through the review of literatures and class discussions, so that they are eligible to complete a research report and given a presentation based on that report.
Learning activities outside of classroom:
The main purpose of this class is for students to establish a host of academic skills so that they as passive learners as are in high school can transform themselves into active learners in college. Students are expected not only to actively participate in class but also engage in academic activities outside of the classroom(4 hrs).
Grading Criteria /Policy:
45 points (%) for participation,class assignments,and group activities
55 points (%) for class presentation and reflection papers

BSP100MA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

基礎ゼミ（G組）

田口　賢太郎

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：木3/Thu.3　｜　配当年次：2025年度以降入学者：1〜22024年度以前入学者：1〜4年
備考（履修条件等）：単位認定先は、ILAC基盤科目0群（専門科目に含まない）

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キャリアデザイン学部での学習をスタートするにあたり、大学における学習のあり方を理解し、基本的な学習能力を身につけることが基礎ゼミの目的です。
「生きる・働く・学ぶ」を個人の視点から捉えた文献を素材とし、文章の読解や論点の整理・考察等を通して、自分自身の視点を捉え直します。その上で、論理的で説得力のある論述やプレゼンテーションを行います。

【到達目標】
授業が修了した時点で以下のような力を身につけていることを、この授業の具体的な到達目標とします。
【1 情報収集力】必要な情報を自分自身で判断した上で、適切に収集・蓄積できるようになること。
【2 情報の内容理解】論説文を正確に読解し、文章内容を把握した上で適切に要約できること。また、基礎的なデータを適切に読み解けること。
【3 情報発信能力】第三者が読んで、理解しやすく説得力のある文章を書くことができること。また、わかりやすく説得力のあるプレゼンテーションができること。
【4 議論するための基礎的な力】相手の発言を聞き取り、把握した上で、自分の意見を明確に述べることができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
少人数クラスのもとで基本的な学習能力を確実に身につけ、専門的な学習につなげます。
まず、大学における学びの特色について理解し、図書館ガイダンスを通じて資料・文献等を収集する実践的な技術を身につけます。さらに、クラスごとに指定された文献の読解や内容検討、ディスカッション等を通して批判的な見方を養い、適切な形式を踏まえたレポートを作成するとともに、グループもしくは個人でのプレゼンテーションを行います。
授業の進行に即して適宜課題が出され、クラス内でそのフィードバックを行い、学習の定着を図ります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	基礎ゼミの概要説明と自己紹介
第2回	大学における学びとは	高校までの勉強との違いを理解し、ノートの取り方等を学ぶ。
第3回	レポートの書き方（1）	問いを立て、論証することの重要性を学ぶ。また捏造、改ざん、盗用など、研究活動・研究倫理における不適切な行為を理解する。剽窃チェックソフトの活用や生成AI（ChatGPTなど）の利用にあたっての注意にも触れる。
第4回	図書館ガイダンス	OPAC資料検索・各種データベースの具体的な活用方法を学ぶ。
第5回	新聞・雑誌記事・統計データの活用	図書館データベースにより収集した記事や統計データの扱い方を学ぶ。
第6回	レポートの書き方（2）	批判的な検討の方法について理解し、問いの立て方を学ぶ。
第7回	レポートの書き方（3）	先行研究や各種データの適切な引用・紹介の方法を学ぶ。
第8回	論点をめぐる検討	文献の要約等を通して読解を深め、論点をめぐる整理と検討を行う。
第9回	論点をめぐるディスカッション	グループディスカッションにより、多角的な視点から論点の検討を深める。
第10回	プレゼンテーションの方法	プレゼンテーションの実施方法や資料作成の基礎を理解する。
第11回	レポートの作成と発表の準備	レポート執筆および発表に向けての準備を進める。
第12回	キャリア支援を目的としたグループワーク	学部上級生が実施するキャリア支援プログラムに参加する
第13回	グループ発表	グループ発表および質疑応答を行い、教員からのコメントを受ける。
第14回	まとめと今後の学習ガイダンス	半期の振返りを行うとともに、秋学期以降の学習計画について検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受け身で教えられる存在である「生徒」から、自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な、さまざまな学習スキル（技能）の確実な習得を目指します。授業内での学びを充実したものにするため、授業への参加はもちろんのこと、課題や授業内での発表に備えて自宅でしっかりと準備をしてください。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法　第3版』慶應義塾大学出版会、2019年
・各クラス指定の文献

【参考書】
クラスにおいて適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業での学習姿勢や期限を守った課題の提出、グループワークへの取り組みなど）：45％
提出課題（プレゼンテーション、レポート、等）：55％

【学生の意見等からの気づき】
・各クラスの担当教員の独自性を確保しつつ、アカデミック・スキルの基礎学習については全クラスを平準化したものとして進めます。
・生成AIに関する基礎知識やその適切な活用のあり方についての理解がますます求められるようになってきたため、授業でも意識して取り上げます。

【その他の重要事項】
・図書館ガイダンスはオンラインで行います（第4回を予定していますが、クラスによっては前後にずれる可能性があります）。また、ガイダンス後の振返りについては、クラスによって対面授業ないしオンラインで実施しますので、担当教員の指示に従ってください。
・学部上級生の主導によるキャリア支援のグループワーク（第12回を予定）は、通常の授業と同様出席が必須です。

【Outline (in English)】
Course outline:
At the beginning of the study at the Faculty of Lifelong Learning and Career Studies, the basic seminar aims to introduce students how to learn in university and equip them with basic learning skills.

Based on literature describing “life, work, and learning” from personal viewpoints, students reflect on their own viewpoints by understanding the text and examining their points of argument. Then, students make logical and compelling discussions.
Learning Objectives:
When you have finished this course, you will have developed much of the skills written below:
1. Search and collect information relevant to your academic interests
2. Understand and summarize academic papers and quantitative and/or
qualitative data
3.Write a paper and discuss issues that are comprehensive to the audience
4.Present your opinions by listening to others and understanding their points of view
Method(s)：
This course with small class sizes is designed to establish students’ academic skills and readiness for professional learning actives in college. Students will first learn about how to engage in academic activities in college. By participating a guidance tutorial given by library staffs, students will then develop skills to access to the information such as collecting articles and documents. Students are expected to develop styles of critical thinking through the review of literatures and class discussions, so that they are eligible to complete a research report and given a presentation based on that report.
Learning activities outside of classroom:
The main purpose of this class is for students to establish a host of academic skills so that they as passive learners as are in high school can transform themselves into active learners in college. Students are expected not only to actively participate in class but also engage in academic activities outside of the classroom(4 hrs).
Grading Criteria /Policy:
45 points (%) for participation,class assignments,and group activities
55 points (%) for class presentation and reflection papers

BSP100MA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

基礎ゼミ（H組）

大倉　韻

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：木3/Thu.3　｜　配当年次：2025年度以降入学者：1〜22024年度以前入学者：1〜4年
備考（履修条件等）：単位認定先は、ILAC基盤科目0群（専門科目に含まない）

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キャリアデザイン学部での学習をスタートするにあたり、大学における学習のあり方を理解し、基本的な学習能力を身につけることが基礎ゼミの目的です。
「生きる・働く・学ぶ」を個人の視点から捉えた文献を素材とし、文章の読解や論点の整理・考察等を通して、自分自身の視点を捉え直します。その上で、論理的で説得力のある論述やプレゼンテーションを行います。

【到達目標】
授業が修了した時点で以下のような力を身につけていることを、この授業の具体的な到達目標とします。
【1 情報収集力】必要な情報を自分自身で判断した上で、適切に収集・蓄積できるようになること。
【2 情報の内容理解】論説文を正確に読解し、文章内容を把握した上で適切に要約できること。また、基礎的なデータを適切に読み解けること。
【3 情報発信能力】第三者が読んで、理解しやすく説得力のある文章を書くことができること。また、わかりやすく説得力のあるプレゼンテーションができること。
【4 議論するための基礎的な力】相手の発言を聞き取り、把握した上で、自分の意見を明確に述べることができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
少人数クラスのもとで基本的な学習能力を確実に身につけ、専門的な学習につなげます。
まず、大学における学びの特色について理解し、図書館ガイダンスを通じて資料・文献等を収集する実践的な技術を身につけます。さらに、クラスごとに指定された文献の読解や内容検討、ディスカッション等を通して批判的な見方を養い、適切な形式を踏まえたレポートを作成するとともに、グループもしくは個人でのプレゼンテーションを行います。
授業の進行に即して適宜課題が出され、クラス内でそのフィードバックを行い、学習の定着を図ります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	基礎ゼミの概要説明と自己紹介
第2回	大学における学びとは	高校までの勉強との違いを理解し、ノートの取り方等を学ぶ。
第3回	レポートの書き方（1）	問いを立て、論証することの重要性を学ぶ。また捏造、改ざん、盗用など、研究活動・研究倫理における不適切な行為を理解する。剽窃チェックソフトの活用や生成AI（ChatGPTなど）の利用にあたっての注意にも触れる。
第4回	図書館ガイダンス	OPAC資料検索・各種データベースの具体的な活用方法を学ぶ。
第5回	新聞・雑誌記事・統計データの活用	図書館データベースにより収集した記事や統計データの扱い方を学ぶ。
第6回	レポートの書き方（2）	批判的な検討の方法について理解し、問いの立て方を学ぶ。
第7回	レポートの書き方（3）	先行研究や各種データの適切な引用・紹介の方法を学ぶ。
第8回	論点をめぐる検討	文献の要約等を通して読解を深め、論点をめぐる整理と検討を行う。
第9回	論点をめぐるディスカッション	グループディスカッションにより、多角的な視点から論点の検討を深める。
第10回	プレゼンテーションの方法	プレゼンテーションの作成、実施方法の基礎を理解する。
第11回	レポートの作成と発表の準備	レポート執筆および発表に向けての準備を進める。
第12回	キャリア支援を目的としたグループワーク	学部上級生が実施するキャリア支援プログラムに参加する
第13回	グループ発表	グループ発表および質疑応答を行い、教員からのコメントを受ける。
第14回	まとめと今後の学習ガイダンス	半期の振返りを行うとともに、秋学期以降の学習計画について検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受け身で教えられる存在である「生徒」から、自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な、さまざまな学習スキル（技能）の確実な習得を目指します。授業内での学びを充実したものにするため、授業への参加はもちろんのこと、課題や授業内での発表に備えて自宅でしっかりと準備をしてください。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法　第3版』慶應義塾大学出版会、2019年
・各クラス指定の文献

【参考書】
クラスにおいて適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業での学習姿勢や期限を守った課題の提出、グループワークへの取り組みなど）：45％
提出課題（プレゼンテーション、レポート、等）：55％

【学生の意見等からの気づき】
・各クラスの担当教員の独自性を確保しつつ、アカデミック・スキルの基礎学習については全クラスを平準化したものとして進めます。
・生成AIに関する基礎知識やその適切な活用のあり方についての理解がますます求められるようになってきたため、授業でも意識して取り上げます。

【その他の重要事項】
・図書館ガイダンスはオンラインで行います（第4回を予定していますが、クラスによっては前後にずれる可能性があります）。また、ガイダンス後の振返りについては、クラスによって対面授業ないしオンラインで実施しますので、担当教員の指示に従ってください。
・学部上級生の主導によるキャリア支援のグループワーク（第12回を予定）は、通常の授業と同様出席が必須です。

【Outline (in English)】
Course outline:
At the beginning of the study at the Faculty of Lifelong Learning and Career Studies, the basic seminar aims to introduce students how to learn in university and equip them with basic learning skills.

Based on literature describing “life, work, and learning” from personal viewpoints, students reflect on their own viewpoints by understanding the text and examining their points of argument. Then, students make logical and compelling discussions.
Learning Objectives:
When you have finished this course, you will have developed much of the skills written below:
1. Search and collect information relevant to your academic interests
2. Understand and summarize academic papers and quantitative and/or
qualitative data
3.Write a paper and discuss issues that are comprehensive to the audience
4.Present your opinions by listening to others and understanding their points of view
Method(s)：
This course with small class sizes is designed to establish students’ academic skills and readiness for professional learning actives in college. Students will first learn about how to engage in academic activities in college. By participating a guidance tutorial given by library staffs, students will then develop skills to access to the information such as collecting articles and documents. Students are expected to develop styles of critical thinking through the review of literatures and class discussions, so that they are eligible to complete a research report and given a presentation based on that report.
Learning activities outside of classroom:
The main purpose of this class is for students to establish a host of academic skills so that they as passive learners as are in high school can transform themselves into active learners in college. Students are expected not only to actively participate in class but also engage in academic activities outside of the classroom(4 hrs).
Grading Criteria /Policy:
45 points (%) for participation,class assignments,and group activities
55 points (%) for class presentation and reflection papers

BSP100MA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

基礎ゼミ（I組）

古田　克利

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：木3/Thu.3　｜　配当年次：2025年度以降入学者：1〜22024年度以前入学者：1〜4年
備考（履修条件等）：単位認定先は、ILAC基盤科目0群（専門科目に含まない）

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キャリアデザイン学部での学習をスタートするにあたり、大学における学習のあり方を理解し、基本的な学習能力を身につけることが基礎ゼミの目的です。
「生きる・働く・学ぶ」を個人の視点から捉えた文献を素材とし、文章の読解や論点の整理・考察等を通して、自分自身の視点を捉え直します。その上で、論理的で説得力のある論述やプレゼンテーションを行います。

【到達目標】
授業が修了した時点で以下のような力を身につけていることを、この授業の具体的な到達目標とします。
【1 情報収集力】必要な情報を自分自身で判断した上で、適切に収集・蓄積できるようになること。
【2 情報の内容理解】論説文を正確に読解し、文章内容を把握した上で適切に要約できること。また、基礎的なデータを適切に読み解けること。
【3 情報発信能力】第三者が読んで、理解しやすく説得力のある文章を書くことができること。また、わかりやすく説得力のあるプレゼンテーションができること。
【4 議論するための基礎的な力】相手の発言を聞き取り、把握した上で、自分の意見を明確に述べることができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
少人数クラスのもとで基本的な学習能力を確実に身につけ、専門的な学習につなげます。
まず、大学における学びの特色について理解し、図書館ガイダンスを通じて資料・文献等を収集する実践的な技術を身につけます。さらに、クラスごとに指定された文献の読解や内容検討、ディスカッション等を通して批判的な見方を養い、適切な形式を踏まえたレポートを作成するとともに、グループもしくは個人でのプレゼンテーションを行います。
授業の進行に即して適宜課題が出され、クラス内でそのフィードバックを行い、学習の定着を図ります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	基礎ゼミの概要説明と自己紹介
第2回	大学における学びとは	高校までの勉強との違いを理解し、ノートの取り方等を学ぶ。
第3回	レポートの書き方（1）	問いを立て、論証することの重要性を学ぶ。また捏造、改ざん、盗用など、研究活動・研究倫理における不適切な行為を理解する。剽窃チェックソフトの活用や生成AI（ChatGPTなど）の利用にあたっての注意にも触れる。
第4回	図書館ガイダンス	OPAC資料検索・各種データベースの具体的な活用方法を学ぶ。
第5回	新聞・雑誌記事・統計データの活用	図書館データベースにより収集した記事や統計データの扱い方を学ぶ。
第6回	レポートの書き方（2）	批判的な検討の方法について理解し、問いの立て方を学ぶ。
第7回	レポートの書き方（3）	先行研究や各種データの適切な引用・紹介の方法を学ぶ。
第8回	論点をめぐる検討	文献の要約等を通して読解を深め、論点をめぐる整理と検討を行う。
第9回	論点をめぐるディスカッション	グループディスカッションにより、多角的な視点から論点の検討を深める。
第10回	プレゼンテーションの方法	プレゼンテーションの作成、実施方法の基礎を理解する。
第11回	レポートの作成と発表の準備	レポート執筆および発表に向けての準備を進める。
第12回	キャリア支援を目的としたグループワーク	学部上級生が実施するキャリア支援プログラムに参加する
第13回	グループ発表	グループ発表および質疑応答を行い、教員からのコメントを受ける。
第14回	まとめと今後の学習ガイダンス	半期の振返りを行うとともに、秋学期以降の学習計画について検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受け身で教えられる存在である「生徒」から、自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な、さまざまな学習スキル（技能）の確実な習得を目指します。授業内での学びを充実したものにするため、授業への参加はもちろんのこと、課題や授業内での発表に備えて自宅でしっかりと準備をしてください。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法　第3版』慶應義塾大学出版会、2019年
・各クラス指定の文献

【参考書】
クラスにおいて適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業での学習姿勢や期限を守った課題の提出、グループワークへの取り組みなど）：45％
提出課題（プレゼンテーション、レポート、等）：55％

【学生の意見等からの気づき】
・各クラスの担当教員の独自性を確保しつつ、アカデミック・スキルの基礎学習については全クラスを平準化したものとして進めます。
・生成AIに関する基礎知識やその適切な活用のあり方についての理解がますます求められるようになってきたため、授業でも意識して取り上げます。

【その他の重要事項】
・図書館ガイダンスはオンラインで行います（第4回を予定していますが、クラスによっては前後にずれる可能性があります）。また、ガイダンス後の振返りについては、クラスによって対面授業ないしオンラインで実施しますので、担当教員の指示に従ってください。
・学部上級生の主導によるキャリア支援のグループワーク（第12回を予定）は、通常の授業と同様出席が必須です。

【Outline (in English)】
Course outline:
At the beginning of the study at the Faculty of Lifelong Learning and Career Studies, the basic seminar aims to introduce students how to learn in university and equip them with basic learning skills.

Based on literature describing “life, work, and learning” from personal viewpoints, students reflect on their own viewpoints by understanding the text and examining their points of argument. Then, students make logical and compelling discussions.
Learning Objectives:
When you have finished this course, you will have developed much of the skills written below:
1. Search and collect information relevant to your academic interests
2. Understand and summarize academic papers and quantitative and/or
qualitative data
3.Write a paper and discuss issues that are comprehensive to the audience
4.Present your opinions by listening to others and understanding their points of view
Method(s)：
This course with small class sizes is designed to establish students’ academic skills and readiness for professional learning actives in college. Students will first learn about how to engage in academic activities in college. By participating a guidance tutorial given by library staffs, students will then develop skills to access to the information such as collecting articles and documents. Students are expected to develop styles of critical thinking through the review of literatures and class discussions, so that they are eligible to complete a research report and given a presentation based on that report.
Learning activities outside of classroom:
The main purpose of this class is for students to establish a host of academic skills so that they as passive learners as are in high school can transform themselves into active learners in college. Students are expected not only to actively participate in class but also engage in academic activities outside of the classroom(4 hrs).
Grading Criteria /Policy:
45 points (%) for participation,class assignments,and group activities
55 points (%) for class presentation and reflection papers

BSP100MA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

基礎ゼミ（J組）

高尾　真紀子

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：水3/Wed.3　｜　配当年次：2025年度以降入学者：1〜22024年度以前入学者：1〜4年
備考（履修条件等）：単位認定先は、ILAC基盤科目0群（専門科目に含まない）

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キャリアデザイン学部での学習をスタートするにあたり、大学における学習のあり方を理解し、基本的な学習能力を身につけることが基礎ゼミの目的です。
「生きる・働く・学ぶ」を個人の視点から捉えた文献を素材とし、文章の読解や論点の整理・考察等を通して、自分自身の視点を捉え直します。その上で、論理的で説得力のある論述やプレゼンテーションを行います。

【到達目標】
授業が修了した時点で以下のような力を身につけていることを、この授業の具体的な到達目標とします。
【1 情報収集力】必要な情報を自分自身で判断した上で、適切に収集・蓄積できるようになること。
【2 情報の内容理解】論説文を正確に読解し、文章内容を把握した上で適切に要約できること。また、基礎的なデータを適切に読み解けること。
【3 情報発信能力】第三者が読んで、理解しやすく説得力のある文章を書くことができること。また、わかりやすく説得力のあるプレゼンテーションができること。
【4 議論するための基礎的な力】相手の発言を聞き取り、把握した上で、自分の意見を明確に述べることができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
少人数クラスのもとで基本的な学習能力を確実に身につけ、専門的な学習につなげます。
まず、大学における学びの特色について理解し、図書館ガイダンスを通じて資料・文献等を収集する実践的な技術を身につけます。さらに、クラスごとに指定された文献の読解や内容検討、ディスカッション等を通して批判的な見方を養い、適切な形式を踏まえたレポートを作成するとともに、グループもしくは個人でのプレゼンテーションを行います。
授業の進行に即して適宜課題が出され、クラス内でそのフィードバックを行い、学習の定着を図ります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	基礎ゼミの概要説明と自己紹介
第2回	大学における学びとは	高校までの勉強との違いを理解し、ノートの取り方等を学ぶ。
第3回	レポートの書き方（1）	問いを立て、論証することの重要性を学ぶ。また捏造、改ざん、盗用など、研究活動・研究倫理における不適切な行為を理解する。剽窃チェックソフトの活用や生成AI（ChatGPTなど）の利用にあたっての注意にも触れる。
第4回	図書館ガイダンス	OPAC資料検索・各種データベースの具体的な活用方法を学ぶ。
第5回	新聞・雑誌記事・統計データの活用	図書館データベースにより収集した記事や統計データの扱い方を学ぶ。
第6回	レポートの書き方（2）	批判的な検討の方法について理解し、問いの立て方を学ぶ。
第7回	レポートの書き方（3）	先行研究や各種データの適切な引用・紹介の方法を学ぶ。
第8回	論点をめぐる検討	文献の要約等を通して読解を深め、論点をめぐる整理と検討を行う。
第9回	論点をめぐるディスカッション	グループディスカッションにより、多角的な視点から論点の検討を深める。
第10回	プレゼンテーションの方法	プレゼンテーションの実施方法や資料作成の基礎を理解する。
第11回	レポートの作成と発表の準備	レポート執筆および発表に向けての準備を進める。
第12回	キャリア支援を目的としたグループワーク	学部上級生が実施するキャリア支援プログラムに参加する
第13回	グループ発表	グループ発表および質疑応答を行い、教員からのコメントを受ける。
第14回	まとめと今後の学習ガイダンス	半期の振返りを行うとともに、秋学期以降の学習計画について検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受け身で教えられる存在である「生徒」から、自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な、さまざまな学習スキル（技能）の確実な習得を目指します。授業内での学びを充実したものにするため、授業への参加はもちろんのこと、課題や授業内での発表に備えて自宅でしっかりと準備をしてください。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法　第3版』慶應義塾大学出版会、2019年
・各クラス指定の文献

【参考書】
クラスにおいて適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業での学習姿勢や期限を守った課題の提出、グループワークへの取り組みなど）：45％
提出課題（プレゼンテーション、レポート、等）：55％

【学生の意見等からの気づき】
・各クラスの担当教員の独自性を確保しつつ、アカデミック・スキルの基礎学習については全クラスを平準化したものとして進めます。
・生成AIに関する基礎知識やその適切な活用のあり方についての理解がますます求められるようになってきたため、授業でも意識して取り上げます。

【その他の重要事項】
・図書館ガイダンスはオンラインで行います（第4回を予定していますが、クラスによっては前後にずれる可能性があります）。また、ガイダンス後の振返りについては、クラスによって対面授業ないしオンラインで実施しますので、担当教員の指示に従ってください。
・学部上級生の主導によるキャリア支援のグループワーク（第12回を予定）は、通常の授業と同様出席が必須です。

【Outline (in English)】
Course outline:
At the beginning of the study at the Faculty of Lifelong Learning and Career Studies, the basic seminar aims to introduce students how to learn in university and equip them with basic learning skills.

Based on literature describing “life, work, and learning” from personal viewpoints, students reflect on their own viewpoints by understanding the text and examining their points of argument. Then, students make logical and compelling discussions.
Learning Objectives:
When you have finished this course, you will have developed much of the skills written below:
1. Search and collect information relevant to your academic interests
2. Understand and summarize academic papers and quantitative and/or
qualitative data
3.Write a paper and discuss issues that are comprehensive to the audience
4.Present your opinions by listening to others and understanding their points of view
Method(s)：
This course with small class sizes is designed to establish students’ academic skills and readiness for professional learning actives in college. Students will first learn about how to engage in academic activities in college. By participating a guidance tutorial given by library staffs, students will then develop skills to access to the information such as collecting articles and documents. Students are expected to develop styles of critical thinking through the review of literatures and class discussions, so that they are eligible to complete a research report and given a presentation based on that report.
Learning activities outside of classroom:
The main purpose of this class is for students to establish a host of academic skills so that they as passive learners as are in high school can transform themselves into active learners in college. Students are expected not only to actively participate in class but also engage in academic activities outside of the classroom(4 hrs).
Grading Criteria /Policy:
45 points (%) for participation,class assignments,and group activities
55 points (%) for class presentation and reflection papers

BSP100MA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

基礎ゼミ（K組）

柿倉　圭吾

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：水3/Wed.3　｜　配当年次：2025年度以降入学者：1〜22024年度以前入学者：1〜4年
備考（履修条件等）：単位認定先は、ILAC基盤科目0群（専門科目に含まない）

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キャリアデザイン学部での学習をスタートするにあたり、大学における学習のあり方を理解し、基本的な学習能力を身につけることが基礎ゼミの目的です。
「生きる・働く・学ぶ」を個人の視点から捉えた文献を素材とし、文章の読解や論点の整理・考察等を通して、自分自身の視点を捉え直します。その上で、論理的で説得力のある論述やプレゼンテーションを行います。

【到達目標】
授業が修了した時点で以下のような力を身につけていることを、この授業の具体的な到達目標とします。
【1 情報収集力】必要な情報を自分自身で判断した上で、適切に収集・蓄積できるようになること。
【2 情報の内容理解】論説文を正確に読解し、文章内容を把握した上で適切に要約できること。また、基礎的なデータを適切に読み解けること。
【3 情報発信能力】第三者が読んで、理解しやすく説得力のある文章を書くことができること。また、わかりやすく説得力のあるプレゼンテーションができること。
【4 議論するための基礎的な力】相手の発言を聞き取り、把握した上で、自分の意見を明確に述べることができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
少人数クラスのもとで基本的な学習能力を確実に身につけ、専門的な学習につなげます。
まず、大学における学びの特色について理解し、図書館ガイダンスを通じて資料・文献等を収集する実践的な技術を身につけます。さらに、クラスごとに指定された文献の読解や内容検討、ディスカッション等を通して批判的な見方を養い、適切な形式を踏まえたレポートを作成するとともに、グループもしくは個人でのプレゼンテーションを行います。
授業の進行に即して適宜課題が出され、クラス内でそのフィードバックを行い、学習の定着を図ります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	基礎ゼミの概要説明と自己紹介
第2回	大学における学びとは	高校までの勉強との違いを理解し、ノートの取り方等を学ぶ。
第3回	レポートの書き方（1）	問いを立て、論証することの重要性を学ぶ。また捏造、改ざん、盗用など、研究活動・研究倫理における不適切な行為を理解する。剽窃チェックソフトの活用や生成AI（ChatGPTなど）の利用にあたっての注意にも触れる。
第4回	図書館ガイダンス	OPAC資料検索・各種データベースの具体的な活用方法を学ぶ。
第5回	新聞・雑誌記事・統計データの活用	図書館データベースにより収集した記事や統計データの扱い方を学ぶ。
第6回	レポートの書き方（2）	批判的な検討の方法について理解し、問いの立て方を学ぶ。
第7回	レポートの書き方（3）	先行研究や各種データの適切な引用・紹介の方法を学ぶ。
第8回	論点をめぐる検討	文献の要約等を通して読解を深め、論点をめぐる整理と検討を行う。
第9回	論点をめぐるディスカッション	グループディスカッションにより、多角的な視点から論点の検討を深める。
第10回	プレゼンテーションの方法	プレゼンテーションの実施方法や資料作成の基礎を理解する。
第11回	レポートの作成と発表の準備	レポート執筆および発表に向けての準備を進める。
第12回	キャリア支援を目的としたグループワーク	学部上級生が実施するキャリア支援プログラムに参加する
第13回	グループ発表	グループ発表および質疑応答を行い、教員からのコメントを受ける。
第14回	まとめと今後の学習ガイダンス	半期の振返りを行うとともに、秋学期以降の学習計画について検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受け身で教えられる存在である「生徒」から、自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な、さまざまな学習スキル（技能）の確実な習得を目指します。授業内での学びを充実したものにするため、授業への参加はもちろんのこと、課題や授業内での発表に備えて自宅でしっかりと準備をしてください。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法　第3版』慶應義塾大学出版会、2019年
・各クラス指定の文献

【参考書】
クラスにおいて適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業での学習姿勢や期限を守った課題の提出、グループワークへの取り組みなど）：45％
提出課題（プレゼンテーション、レポート、等）：55％

【学生の意見等からの気づき】
・各クラスの担当教員の独自性を確保しつつ、アカデミック・スキルの基礎学習については全クラスを平準化したものとして進めます。
・生成AIに関する基礎知識やその適切な活用のあり方についての理解がますます求められるようになってきたため、授業でも意識して取り上げます。

【その他の重要事項】
・図書館ガイダンスはオンラインで行います（第4回を予定していますが、クラスによっては前後にずれる可能性があります）。また、ガイダンス後の振返りについては、クラスによって対面授業ないしオンラインで実施しますので、担当教員の指示に従ってください。
・学部上級生の主導によるキャリア支援のグループワーク（第12回を予定）は、通常の授業と同様出席が必須です。

【Outline (in English)】
Course outline:
At the beginning of the study at the Faculty of Lifelong Learning and Career Studies, the basic seminar aims to introduce students how to learn in university and equip them with basic learning skills.

Based on literature describing “life, work, and learning” from personal viewpoints, students reflect on their own viewpoints by understanding the text and examining their points of argument. Then, students make logical and compelling discussions.
Learning Objectives:
When you have finished this course, you will have developed much of the skills written below:
1. Search and collect information relevant to your academic interests
2. Understand and summarize academic papers and quantitative and/or
qualitative data
3.Write a paper and discuss issues that are comprehensive to the audience
4.Present your opinions by listening to others and understanding their points of view
Method(s)：
This course with small class sizes is designed to establish students’ academic skills and readiness for professional learning actives in college. Students will first learn about how to engage in academic activities in college. By participating a guidance tutorial given by library staffs, students will then develop skills to access to the information such as collecting articles and documents. Students are expected to develop styles of critical thinking through the review of literatures and class discussions, so that they are eligible to complete a research report and given a presentation based on that report.
Learning activities outside of classroom:
The main purpose of this class is for students to establish a host of academic skills so that they as passive learners as are in high school can transform themselves into active learners in college. Students are expected not only to actively participate in class but also engage in academic activities outside of the classroom(4 hrs).
Grading Criteria /Policy:
45 points (%) for participation,class assignments,and group activities
55 points (%) for class presentation and reflection papers

BSP100MA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

基礎ゼミ（L組）

福井　令恵

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：木3/Thu.3　｜　配当年次：2025年度以降入学者：1〜22024年度以前入学者：1〜4年
備考（履修条件等）：単位認定先は、ILAC基盤科目0群（専門科目に含まない）

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キャリアデザイン学部での学習をスタートするにあたり、大学における学習のあり方を理解し、基本的な学習能力を身につけることが基礎ゼミの目的です。
「生きる・働く・学ぶ」を個人の視点から捉えた文献を素材とし、文章の読解や論点の整理・考察等を通して、自分自身の視点を捉え直します。その上で、論理的で説得力のある論述やプレゼンテーションを行います。

【到達目標】
授業が修了した時点で以下のような力を身につけていることを、この授業の具体的な到達目標とします。
【1 情報収集力】必要な情報を自分自身で判断した上で、適切に収集・蓄積できるようになること。
【2 情報の内容理解】論説文を正確に読解し、文章内容を把握した上で適切に要約できること。また、基礎的なデータを適切に読み解けること。
【3 情報発信能力】第三者が読んで、理解しやすく説得力のある文章を書くことができること。また、わかりやすく説得力のあるプレゼンテーションができること。
【4 議論するための基礎的な力】相手の発言を聞き取り、把握した上で、自分の意見を明確に述べることができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
少人数クラスのもとで基本的な学習能力を確実に身につけ、専門的な学習につなげます。
まず、大学における学びの特色について理解し、図書館ガイダンスを通じて資料・文献等を収集する実践的な技術を身につけます。さらに、クラスごとに指定された文献の読解や内容検討、ディスカッション等を通して批判的な見方を養い、適切な形式を踏まえたレポートを作成するとともに、グループもしくは個人でのプレゼンテーションを行います。
授業の進行に即して適宜課題が出され、クラス内でそのフィードバックを行い、学習の定着を図ります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	基礎ゼミの概要説明と自己紹介
第2回	大学における学びとは	高校までの勉強との違いを理解し、ノートの取り方等を学ぶ。
第3回	レポートの書き方（1）	問いを立て、論証することの重要性を学ぶ。また捏造、改ざん、盗用など、研究活動・研究倫理における不適切な行為を理解する。剽窃チェックソフトの活用や生成AI（ChatGPTなど）の利用にあたっての注意にも触れる。
第4回	図書館ガイダンス	OPAC資料検索・各種データベースの具体的な活用方法を学ぶ。
第5回	新聞・雑誌記事・統計データの活用	図書館データベースにより収集した記事や統計データの扱い方を学ぶ。
第6回	レポートの書き方（2）	批判的な検討の方法について理解し、問いの立て方を学ぶ。
第7回	レポートの書き方（3）	先行研究や各種データの適切な引用・紹介の方法を学ぶ。
第8回	論点をめぐる検討	文献の要約等を通して読解を深め、論点をめぐる整理と検討を行う。
第9回	論点をめぐるディスカッション	グループディスカッションにより、多角的な視点から論点の検討を深める。
第10回	プレゼンテーションの方法	プレゼンテーションの実施方法や資料作成の基礎を理解する。
第11回	レポートの作成と発表の準備	レポート執筆および発表に向けての準備を進める。
第12回	キャリア支援を目的としたグループワーク	学部上級生が実施するキャリア支援プログラムに参加する
第13回	グループ発表	グループ発表および質疑応答を行い、教員からのコメントを受ける。
第14回	まとめと今後の学習ガイダンス	半期の振返りを行うとともに、秋学期以降の学習計画について検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受け身で教えられる存在である「生徒」から、自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な、さまざまな学習スキル（技能）の確実な習得を目指します。授業内での学びを充実したものにするため、授業への参加はもちろんのこと、課題や授業内での発表に備えて自宅でしっかりと準備をしてください。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法　第3版』慶應義塾大学出版会、2019年
・各クラス指定の文献

【参考書】
クラスにおいて適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業での学習姿勢や期限を守った課題の提出、グループワークへの取り組みなど）：45％
提出課題（プレゼンテーション、レポート、等）：55％

【学生の意見等からの気づき】
・各クラスの担当教員の独自性を確保しつつ、アカデミック・スキルの基礎学習については全クラスを平準化したものとして進めます。
・生成AIに関する基礎知識やその適切な活用のあり方についての理解がますます求められるようになってきたため、授業でも意識して取り上げます。

【その他の重要事項】
・図書館ガイダンスはオンラインで行います（第4回を予定していますが、クラスによっては前後にずれる可能性があります）。また、ガイダンス後の振返りについては、クラスによって対面授業ないしオンラインで実施しますので、担当教員の指示に従ってください。
・学部上級生の主導によるキャリア支援のグループワーク（第12回を予定）は、通常の授業と同様出席が必須です。

【Outline (in English)】
Course outline:
At the beginning of the study at the Faculty of Lifelong Learning and Career Studies, the basic seminar aims to introduce students how to learn in university and equip them with basic learning skills.

Based on literature describing “life, work, and learning” from personal viewpoints, students reflect on their own viewpoints by understanding the text and examining their points of argument. Then, students make logical and compelling discussions.
Learning Objectives:
When you have finished this course, you will have developed much of the skills written below:
1. Search and collect information relevant to your academic interests
2. Understand and summarize academic papers and quantitative and/or
qualitative data
3.Write a paper and discuss issues that are comprehensive to the audience
4.Present your opinions by listening to others and understanding their points of view
Method(s)：
This course with small class sizes is designed to establish students’ academic skills and readiness for professional learning actives in college. Students will first learn about how to engage in academic activities in college. By participating a guidance tutorial given by library staffs, students will then develop skills to access to the information such as collecting articles and documents. Students are expected to develop styles of critical thinking through the review of literatures and class discussions, so that they are eligible to complete a research report and given a presentation based on that report.
Learning activities outside of classroom:
The main purpose of this class is for students to establish a host of academic skills so that they as passive learners as are in high school can transform themselves into active learners in college. Students are expected not only to actively participate in class but also engage in academic activities outside of the classroom(4 hrs).
Grading Criteria /Policy:
45 points (%) for participation,class assignments,and group activities
55 points (%) for class presentation and reflection papers

BSP100MA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

基礎ゼミ（M組）

寺崎　里水

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：水3/Wed.3　｜　配当年次：2025年度以降入学者：1〜22024年度以前入学者：1〜4年
備考（履修条件等）：単位認定先は、ILAC基盤科目0群（専門科目に含まない）

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キャリアデザイン学部での学習をスタートするにあたり、大学における学習のあり方を理解し、基本的な学習能力を身につけることが基礎ゼミの目的です。
「生きる・働く・学ぶ」を個人の視点から捉えた文献を素材とし、文章の読解や論点の整理・考察等を通して、自分自身の視点を捉え直します。その上で、論理的で説得力のある論述やプレゼンテーションを行います。

【到達目標】
授業が修了した時点で以下のような力を身につけていることを、この授業の具体的な到達目標とします。
【1 情報収集力】必要な情報を自分自身で判断した上で、適切に収集・蓄積できるようになること。
【2 情報の内容理解】論説文を正確に読解し、文章内容を把握した上で適切に要約できること。また、基礎的なデータを適切に読み解けること。
【3 情報発信能力】第三者が読んで、理解しやすく説得力のある文章を書くことができること。また、わかりやすく説得力のあるプレゼンテーションができること。
【4 議論するための基礎的な力】相手の発言を聞き取り、把握した上で、自分の意見を明確に述べることができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
少人数クラスのもとで基本的な学習能力を確実に身につけ、専門的な学習につなげます。
まず、大学における学びの特色について理解し、図書館ガイダンスを通じて資料・文献等を収集する実践的な技術を身につけます。さらに、クラスごとに指定された文献の読解や内容検討、ディスカッション等を通して批判的な見方を養い、適切な形式を踏まえたレポートを作成するとともに、グループもしくは個人でのプレゼンテーションを行います。
授業の進行に即して適宜課題が出され、クラス内でそのフィードバックを行い、学習の定着を図ります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	基礎ゼミの概要説明と自己紹介
第2回	大学における学びとは	高校までの勉強との違いを理解し、ノートの取り方等を学ぶ。
第3回	レポートの書き方（1）	問いを立て、論証することの重要性を学ぶ。また捏造、改ざん、盗用など、研究活動・研究倫理における不適切な行為を理解する。剽窃チェックソフトの活用や生成AI（ChatGPTなど）の利用にあたっての注意にも触れる。
第4回	図書館ガイダンス	OPAC資料検索・各種データベースの具体的な活用方法を学ぶ。
第5回	新聞・雑誌記事・統計データの活用	図書館データベースにより収集した記事や統計データの扱い方を学ぶ。
第6回	レポートの書き方（2）	批判的な検討の方法について理解し、問いの立て方を学ぶ。
第7回	レポートの書き方（3）	先行研究や各種データの適切な引用・紹介の方法を学ぶ。
第8回	論点をめぐる検討	文献の要約等を通して読解を深め、論点をめぐる整理と検討を行う。
第9回	論点をめぐるディスカッション	グループディスカッションにより、多角的な視点から論点の検討を深める。
第10回	プレゼンテーションの方法	プレゼンテーションの実施方法や資料作成の基礎を理解する。
第11回	レポートの作成と発表の準備	レポート執筆および発表に向けての準備を進める。
第12回	キャリア支援を目的としたグループワーク	学部上級生が実施するキャリア支援プログラムに参加する
第13回	グループ発表	グループ発表および質疑応答を行い、教員からのコメントを受ける。
第14回	まとめと今後の学習ガイダンス	半期の振返りを行うとともに、秋学期以降の学習計画について検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受け身で教えられる存在である「生徒」から、自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な、さまざまな学習スキル（技能）の確実な習得を目指します。授業内での学びを充実したものにするため、授業への参加はもちろんのこと、課題や授業内での発表に備えて自宅でしっかりと準備をしてください。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法　第3版』慶應義塾大学出版会、2019年
・各クラス指定の文献

【参考書】
クラスにおいて適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業での学習姿勢や期限を守った課題の提出、グループワークへの取り組みなど）：45％
提出課題（プレゼンテーション、レポート、等）：55％

【学生の意見等からの気づき】
・各クラスの担当教員の独自性を確保しつつ、アカデミック・スキルの基礎学習については全クラスを平準化したものとして進めます。
・生成AIに関する基礎知識やその適切な活用のあり方についての理解がますます求められるようになってきたため、授業でも意識して取り上げます。

【その他の重要事項】
・図書館ガイダンスはオンラインで行います（第4回を予定していますが、クラスによっては前後にずれる可能性があります）。また、ガイダンス後の振返りについては、クラスによって対面授業ないしオンラインで実施しますので、担当教員の指示に従ってください。
・学部上級生の主導によるキャリア支援のグループワーク（第12回を予定）は、通常の授業と同様出席が必須です。

【Outline (in English)】
Course outline:
At the beginning of the study at the Faculty of Lifelong Learning and Career Studies, the basic seminar aims to introduce students how to learn in university and equip them with basic learning skills.

Based on literature describing “life, work, and learning” from personal viewpoints, students reflect on their own viewpoints by understanding the text and examining their points of argument. Then, students make logical and compelling discussions.
Learning Objectives:
When you have finished this course, you will have developed much of the skills written below:
1. Search and collect information relevant to your academic interests
2. Understand and summarize academic papers and quantitative and/or
qualitative data
3.Write a paper and discuss issues that are comprehensive to the audience
4.Present your opinions by listening to others and understanding their points of view
Method(s)：
This course with small class sizes is designed to establish students’ academic skills and readiness for professional learning actives in college. Students will first learn about how to engage in academic activities in college. By participating a guidance tutorial given by library staffs, students will then develop skills to access to the information such as collecting articles and documents. Students are expected to develop styles of critical thinking through the review of literatures and class discussions, so that they are eligible to complete a research report and given a presentation based on that report.
Learning activities outside of classroom:
The main purpose of this class is for students to establish a host of academic skills so that they as passive learners as are in high school can transform themselves into active learners in college. Students are expected not only to actively participate in class but also engage in academic activities outside of the classroom(4 hrs).
Grading Criteria /Policy:
45 points (%) for participation,class assignments,and group activities
55 points (%) for class presentation and reflection papers

BSP100MA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

基礎ゼミ（N組）

長戸　光

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：木3/Thu.3　｜　配当年次：2025年度以降入学者：1〜22024年度以前入学者：1〜4年
備考（履修条件等）：単位認定先は、ILAC基盤科目0群（専門科目に含まない）

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キャリアデザイン学部での学習をスタートするにあたり、大学における学習のあり方を理解し、基本的な学習能力を身につけることが基礎ゼミの目的です。
「生きる・働く・学ぶ」を個人の視点から捉えた文献を素材とし、文章の読解や論点の整理・考察等を通して、自分自身の視点を捉え直します。その上で、論理的で説得力のある論述やプレゼンテーションを行います。

【到達目標】
授業が修了した時点で以下のような力を身につけていることを、この授業の具体的な到達目標とします。
【1 情報収集力】必要な情報を自分自身で判断した上で、適切に収集・蓄積できるようになること。
【2 情報の内容理解】論説文を正確に読解し、文章内容を把握した上で適切に要約できること。また、基礎的なデータを適切に読み解けること。
【3 情報発信能力】第三者が読んで、理解しやすく説得力のある文章を書くことができること。また、わかりやすく説得力のあるプレゼンテーションができること。
【4 議論するための基礎的な力】相手の発言を聞き取り、把握した上で、自分の意見を明確に述べることができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
少人数クラスのもとで基本的な学習能力を確実に身につけ、専門的な学習につなげます。
まず、大学における学びの特色について理解し、図書館ガイダンスを通じて資料・文献等を収集する実践的な技術を身につけます。さらに、クラスごとに指定された文献の読解や内容検討、ディスカッション等を通して批判的な見方を養い、適切な形式を踏まえたレポートを作成するとともに、グループもしくは個人でのプレゼンテーションを行います。
授業の進行に即して適宜課題が出され、クラス内でそのフィードバックを行い、学習の定着を図ります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	基礎ゼミの概要説明と自己紹介
第2回	大学における学びとは	高校までの勉強との違いを理解し、ノートの取り方等を学ぶ。
第3回	レポートの書き方（1）	問いを立て、論証することの重要性を学ぶ。また捏造、改ざん、盗用など、研究活動・研究倫理における不適切な行為を理解する。剽窃チェックソフトの活用や生成AI（ChatGPTなど）の利用にあたっての注意にも触れる。
第4回	図書館ガイダンス	OPAC資料検索・各種データベースの具体的な活用方法を学ぶ。
第5回	新聞・雑誌記事・統計データの活用	図書館データベースにより収集した記事や統計データの扱い方を学ぶ。
第6回	レポートの書き方（2）	批判的な検討の方法について理解し、問いの立て方を学ぶ。
第7回	レポートの書き方（3）	先行研究や各種データの適切な引用・紹介の方法を学ぶ。
第8回	論点をめぐる検討	文献の要約等を通して読解を深め、論点をめぐる整理と検討を行う。
第9回	論点をめぐるディスカッション	グループディスカッションにより、多角的な視点から論点の検討を深める。
第10回	プレゼンテーションの方法	プレゼンテーションの実施方法や資料作成の基礎を理解する。
第11回	レポートの作成と発表の準備	レポート執筆および発表に向けての準備を進める。
第12回	キャリア支援を目的としたグループワーク	学部上級生が実施するキャリア支援プログラムに参加する
第13回	グループ発表	グループ発表および質疑応答を行い、教員からのコメントを受ける。
第14回	まとめと今後の学習ガイダンス	半期の振返りを行うとともに、秋学期以降の学習計画について検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受け身で教えられる存在である「生徒」から、自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な、さまざまな学習スキル（技能）の確実な習得を目指します。授業内での学びを充実したものにするため、授業への参加はもちろんのこと、課題や授業内での発表に備えて自宅でしっかりと準備をしてください。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法　第3版』慶應義塾大学出版会、2019年
・各クラス指定の文献

【参考書】
クラスにおいて適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業での学習姿勢や期限を守った課題の提出、グループワークへの取り組みなど）：45％
提出課題（プレゼンテーション、レポート、等）：55％

【学生の意見等からの気づき】
・各クラスの担当教員の独自性を確保しつつ、アカデミック・スキルの基礎学習については全クラスを平準化したものとして進めます。
・生成AIに関する基礎知識やその適切な活用のあり方についての理解がますます求められるようになってきたため、授業でも意識して取り上げます。

【その他の重要事項】
・図書館ガイダンスはオンラインで行います（第4回を予定していますが、クラスによっては前後にずれる可能性があります）。また、ガイダンス後の振返りについては、クラスによって対面授業ないしオンラインで実施しますので、担当教員の指示に従ってください。
・学部上級生の主導によるキャリア支援のグループワーク（第12回を予定）は、通常の授業と同様出席が必須です。

【Outline (in English)】
Course outline:
At the beginning of the study at the Faculty of Lifelong Learning and Career Studies, the basic seminar aims to introduce students how to learn in university and equip them with basic learning skills.

Based on literature describing “life, work, and learning” from personal viewpoints, students reflect on their own viewpoints by understanding the text and examining their points of argument. Then, students make logical and compelling discussions.
Learning Objectives:
When you have finished this course, you will have developed much of the skills written below:
1. Search and collect information relevant to your academic interests
2. Understand and summarize academic papers and quantitative and/or
qualitative data
3.Write a paper and discuss issues that are comprehensive to the audience
4.Present your opinions by listening to others and understanding their points of view
Method(s)：
This course with small class sizes is designed to establish students’ academic skills and readiness for professional learning actives in college. Students will first learn about how to engage in academic activities in college. By participating a guidance tutorial given by library staffs, students will then develop skills to access to the information such as collecting articles and documents. Students are expected to develop styles of critical thinking through the review of literatures and class discussions, so that they are eligible to complete a research report and given a presentation based on that report.
Learning activities outside of classroom:
The main purpose of this class is for students to establish a host of academic skills so that they as passive learners as are in high school can transform themselves into active learners in college. Students are expected not only to actively participate in class but also engage in academic activities outside of the classroom(4 hrs).
Grading Criteria /Policy:
45 points (%) for participation,class assignments,and group activities
55 points (%) for class presentation and reflection papers

BSP100MA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

基礎ゼミ（O組）

佐藤　恵

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：木3/Thu.3　｜　配当年次：2025年度以降入学者：1〜22024年度以前入学者：1〜4年
備考（履修条件等）：単位認定先は、ILAC基盤科目0群（専門科目に含まない）

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キャリアデザイン学部での学習をスタートするにあたり、大学における学習のあり方を理解し、基本的な学習能力を身につけることが基礎ゼミの目的です。
「生きる・働く・学ぶ」を個人の視点から捉えた文献を素材とし、文章の読解や論点の整理・考察等を通して、自分自身の視点を捉え直します。その上で、論理的で説得力のある論述やプレゼンテーションを行います。

【到達目標】
授業が修了した時点で以下のような力を身につけていることを、この授業の具体的な到達目標とします。
【1 情報収集力】必要な情報を自分自身で判断した上で、適切に収集・蓄積できるようになること。
【2 情報の内容理解】論説文を正確に読解し、文章内容を把握した上で適切に要約できること。また、基礎的なデータを適切に読み解けること。
【3 情報発信能力】第三者が読んで、理解しやすく説得力のある文章を書くことができること。また、わかりやすく説得力のあるプレゼンテーションができること。
【4 議論するための基礎的な力】相手の発言を聞き取り、把握した上で、自分の意見を明確に述べることができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
少人数クラスのもとで基本的な学習能力を確実に身につけ、専門的な学習につなげます。
まず、大学における学びの特色について理解し、図書館ガイダンスを通じて資料・文献等を収集する実践的な技術を身につけます。さらに、クラスごとに指定された文献の読解や内容検討、ディスカッション等を通して批判的な見方を養い、適切な形式を踏まえたレポートを作成するとともに、グループもしくは個人でのプレゼンテーションを行います。
授業の進行に即して適宜課題が出され、クラス内でそのフィードバックを行い、学習の定着を図ります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	基礎ゼミの概要説明と自己紹介
第2回	大学における学びとは	高校までの勉強との違いを理解し、ノートの取り方等を学ぶ。
第3回	レポートの書き方（1）	問いを立て、論証することの重要性を学ぶ。また捏造、改ざん、盗用など、研究活動・研究倫理における不適切な行為を理解する。剽窃チェックソフトの活用や生成AI（ChatGPTなど）の利用にあたっての注意にも触れる。
第4回	図書館ガイダンス	OPAC資料検索・各種データベースの具体的な活用方法を学ぶ。
第5回	新聞・雑誌記事・統計データの活用	図書館データベースにより収集した記事や統計データの扱い方を学ぶ。
第6回	レポートの書き方（2）	批判的な検討の方法について理解し、問いの立て方を学ぶ。
第7回	レポートの書き方（3）	先行研究や各種データの適切な引用・紹介の方法を学ぶ。
第8回	論点をめぐる検討	文献の要約等を通して読解を深め、論点をめぐる整理と検討を行う。
第9回	論点をめぐるディスカッション	グループディスカッションにより、多角的な視点から論点の検討を深める。
第10回	プレゼンテーションの方法	プレゼンテーションの実施方法や資料作成の基礎を理解する。
第11回	レポートの作成と発表の準備	レポート執筆および発表に向けての準備を進める。
第12回	キャリア支援を目的としたグループワーク	学部上級生が実施するキャリア支援プログラムに参加する
第13回	グループ発表	グループ発表および質疑応答を行い、教員からのコメントを受ける。
第14回	まとめと今後の学習ガイダンス	半期の振返りを行うとともに、秋学期以降の学習計画について検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受け身で教えられる存在である「生徒」から、自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な、さまざまな学習スキル（技能）の確実な習得を目指します。授業内での学びを充実したものにするため、授業への参加はもちろんのこと、課題や授業内での発表に備えて自宅でしっかりと準備をしてください。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法　第3版』慶應義塾大学出版会、2019年
・各クラス指定の文献

【参考書】
クラスにおいて適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業での学習姿勢や期限を守った課題の提出、グループワークへの取り組みなど）：45％
提出課題（プレゼンテーション、レポート、等）：55％

【学生の意見等からの気づき】
・各クラスの担当教員の独自性を確保しつつ、アカデミック・スキルの基礎学習については全クラスを平準化したものとして進めます。
・生成AIに関する基礎知識やその適切な活用のあり方についての理解がますます求められるようになってきたため、授業でも意識して取り上げます。

【その他の重要事項】
・図書館ガイダンスはオンラインで行います（第4回を予定していますが、クラスによっては前後にずれる可能性があります）。また、ガイダンス後の振返りについては、クラスによって対面授業ないしオンラインで実施しますので、担当教員の指示に従ってください。
・学部上級生の主導によるキャリア支援のグループワーク（第12回を予定）は、通常の授業と同様出席が必須です。

【Outline (in English)】
Course outline:
At the beginning of the study at the Faculty of Lifelong Learning and Career Studies, the basic seminar aims to introduce students how to learn in university and equip them with basic learning skills.

Based on literature describing “life, work, and learning” from personal viewpoints, students reflect on their own viewpoints by understanding the text and examining their points of argument. Then, students make logical and compelling discussions.
Learning Objectives:
When you have finished this course, you will have developed much of the skills written below:
1. Search and collect information relevant to your academic interests
2. Understand and summarize academic papers and quantitative and/or
qualitative data
3.Write a paper and discuss issues that are comprehensive to the audience
4.Present your opinions by listening to others and understanding their points of view
Method(s)：
This course with small class sizes is designed to establish students’ academic skills and readiness for professional learning actives in college. Students will first learn about how to engage in academic activities in college. By participating a guidance tutorial given by library staffs, students will then develop skills to access to the information such as collecting articles and documents. Students are expected to develop styles of critical thinking through the review of literatures and class discussions, so that they are eligible to complete a research report and given a presentation based on that report.
Learning activities outside of classroom:
The main purpose of this class is for students to establish a host of academic skills so that they as passive learners as are in high school can transform themselves into active learners in college. Students are expected not only to actively participate in class but also engage in academic activities outside of the classroom(4 hrs).
Grading Criteria /Policy:
45 points (%) for participation,class assignments,and group activities
55 points (%) for class presentation and reflection papers

BSP100MA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

基礎ゼミ（P組）

武石　恵美子、荒川　裕子

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：木3/Thu.3　｜　配当年次：2025年度以降入学者：1～2 2024年度以前入学者：1～4年
備考（履修条件等）：単位認定先は、ILAC基盤科目0群（専門科目に含まない）

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キャリアデザイン学部での学習をスタートするにあたり、大学における学習のあり方を理解し、基本的な学習能力を身につけることが基礎ゼミの目的です。
「生きる・働く・学ぶ」を個人の視点から捉えた文献を素材とし、文章の読解や論点の整理・考察等を通して、自分自身の視点を捉え直します。その上で、論理的で説得力のある論述やプレゼンテーションを行います。

【到達目標】
授業が修了した時点で以下のような力を身につけていることを、この授業の具体的な到達目標とします。
【1 情報収集力】必要な情報を自分自身で判断した上で、適切に収集・蓄積できるようになること。
【2 情報の内容理解】論説文を正確に読解し、文章内容を把握した上で適切に要約できること。また、基礎的なデータを適切に読み解けること。
【3 情報発信能力】第三者が読んで、理解しやすく説得力のある文章を書くことができること。また、わかりやすく説得力のあるプレゼンテーションができること。
【4 議論するための基礎的な力】相手の発言を聞き取り、把握した上で、自分の意見を明確に述べることができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
少人数クラスのもとで基本的な学習能力を確実に身につけ、専門的な学習につなげます。
まず、大学における学びの特色について理解し、図書館ガイダンスを通じて資料・文献等を収集する実践的な技術を身につけます。さらに、クラスごとに指定された文献の読解や内容検討、ディスカッション等を通して批判的な見方を養い、適切な形式を踏まえたレポートを作成するとともに、グループもしくは個人でのプレゼンテーションを行います。
授業の進行に即して適宜課題が出され、クラス内でそのフィードバックを行い、学習の定着を図ります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	基礎ゼミの概要説明と自己紹介
第2回	大学における学びとは	高校までの勉強との違いを理解し、ノートの取り方等を学ぶ。
第3回	レポートの書き方（1）	問いを立て、論証することの重要性を学ぶ。また捏造、改ざん、盗用など、研究活動・研究倫理における不適切な行為を理解する。剽窃チェックソフトの活用や生成AI（ChatGPTなど）の利用にあたっての注意にも触れる。
第4回	図書館ガイダンス	OPAC資料検索・各種データベースの具体的な活用方法を学ぶ。
第5回	新聞・雑誌記事・統計データの活用	図書館データベースにより収集した記事や統計データの扱い方を学ぶ。
第6回	レポートの書き方（2）	批判的な検討の方法について理解し、問いの立て方を学ぶ。
第7回	レポートの書き方（3）	先行研究や各種データの適切な引用・紹介の方法を学ぶ。
第8回	論点をめぐる検討	文献の要約等を通して読解を深め、論点をめぐる整理と検討を行う。
第9回	論点をめぐるディスカッション	グループディスカッションにより、多角的な視点から論点の検討を深める。
第10回	プレゼンテーションの方法	プレゼンテーションの実施方法や資料作成の基礎を理解する。
第11回	レポートの作成と発表の準備	レポート執筆および発表に向けての準備を進める。
第12回	キャリア支援を目的としたグループワーク	学部上級生が実施するキャリア支援プログラムに参加する
第13回	グループ発表	グループ発表および質疑応答を行い、教員からのコメントを受ける。
第14回	まとめと今後の学習ガイダンス	半期の振返りを行うとともに、秋学期以降の学習計画について検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受け身で教えられる存在である「生徒」から、自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な、さまざまな学習スキル（技能）の確実な習得を目指します。授業内での学びを充実したものにするため、授業への参加はもちろんのこと、課題や授業内での発表に備えて自宅でしっかりと準備をしてください。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法　第3版』慶應義塾大学出版会、2019年
・各クラス指定の文献

【参考書】
クラスにおいて適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業での学習姿勢や期限を守った課題の提出、グループワークへの取り組みなど）：45％
提出課題（プレゼンテーション、レポート、等）：55％

【学生の意見等からの気づき】
・各クラスの担当教員の独自性を確保しつつ、アカデミック・スキルの基礎学習については全クラスを平準化したものとして進めます。
・生成AIに関する基礎知識やその適切な活用のあり方についての理解がますます求められるようになってきたため、授業でも意識して取り上げます。

【その他の重要事項】
・図書館ガイダンスはオンラインで行います（第4回を予定していますが、クラスによっては前後にずれる可能性があります）。また、ガイダンス後の振返りについては、クラスによって対面授業ないしオンラインで実施しますので、担当教員の指示に従ってください。
・学部上級生の主導によるキャリア支援のグループワーク（第12回を予定）は、通常の授業と同様出席が必須です。

【Outline (in English)】
Course outline:
At the beginning of the study at the Faculty of Lifelong Learning and Career Studies, the basic seminar aims to introduce students how to learn in university and equip them with basic learning skills.

Based on literature describing “life, work, and learning” from personal viewpoints, students reflect on their own viewpoints by understanding the text and examining their points of argument. Then, students make logical and compelling discussions.
Learning Objectives:
When you have finished this course, you will have developed much of the skills written below:
1. Search and collect information relevant to your academic interests
2. Understand and summarize academic papers and quantitative and/or
qualitative data
3.Write a paper and discuss issues that are comprehensive to the audience
4.Present your opinions by listening to others and understanding their points of view
Method(s)：
This course with small class sizes is designed to establish students’ academic skills and readiness for professional learning actives in college. Students will first learn about how to engage in academic activities in college. By participating a guidance tutorial given by library staffs, students will then develop skills to access to the information such as collecting articles and documents. Students are expected to develop styles of critical thinking through the review of literatures and class discussions, so that they are eligible to complete a research report and given a presentation based on that report.
Learning activities outside of classroom:
The main purpose of this class is for students to establish a host of academic skills so that they as passive learners as are in high school can transform themselves into active learners in college. Students are expected not only to actively participate in class but also engage in academic activities outside of the classroom(4 hrs).
Grading Criteria /Policy:
45 points (%) for participation,class assignments,and group activities
55 points (%) for class presentation and reflection papers

BSP100MA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

キャリアデザイン学入門

寺崎　里水、梅崎　修、安田　節之

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：月3/Mon.3　｜　配当年次：1〜2年
備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞
授業コード：C5017
科目名：キャリアデザイン学入門
＜2024年度以前入学者＞
授業コード：C5017
科目名：キャリアデザイン学入門
※入学年度によらず同一授業コード・科目名称

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キャリアデザイン学専攻における学びの学際性を認識し、キャリアデザイン学の目的と意義を明確にすることを目的とする。
この目的を達成するために、本授業では、本学部の3つの領域（発達・教育キャリア、ビジネスキャリア、ライフキャリア）の視点からキャリアデザイン学を紹介し、キャリアデザイン学の基本的な考え方を講義する。
これらを通して、本学部の一員としての自覚とキャリアデザイン学を学ぶ意欲を養う。

【到達目標】
①キャリアデザイン学の基礎的な理論や概念を理解できる。
②さまざまなキャリア支援の現場と、そこで求められる専門性についてイメージできる。
③現代社会を生きるためのキャリアデザイン学を学び、研究することの意義がわかる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP1」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
学部の三領域（発達・教育キャリア，ビジネスキャリア，ライフキャリア）の教員３名によるオムニバス授業をとる。
まず、経営学、経済学、社会学、教育学、心理学など、多岐にわたる分野の基礎的な理論や概念を学び、次にキャリア支援の場面や仕事に関する知識を得る。
この授業では、毎回の授業ごとに課題の提出が義務づけられる。課題提出とそれに対するフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。良いコメントや質問等は授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	キャリアデザイン学とは何かを学び、講義内容の構成を理解する。(梅崎)
第2回	キャリア選択・自律	キャリア選択は合理的計算が可能か。自律を見出す意識や態度とは。(梅崎)
第3回	ライフサイクル	人的資本理論やライフサイクル仮説を基に投資効率を計算する。(梅崎)
第4回	産業化・都市化・郊外化	産業化、都市化、郊外化のような社会の変化から世代の歴史を考える。(梅崎)
第5回	キャリア支援の現場紹介①	人事部・人材サービスの仕事(梅崎)
第6回	ライフキャリアとは何か	ライフキャリアとは何か、ウェルビーイングは何によって高まるのか。(安田)
第7回	人とコミュニティ	人間の行動や発達について、人とのコミュニティの関わりから考える。(安田)
第8回	人間行動の文化差	自己や自尊心は文化によってどのように異なるのか。独立的または協調的な自己とは何か。(安田)
第9回	キャリア支援の現場紹介②	ストレスマネジメント、予防・成長促進プログラム（安田）
第10回	教える・教わる・学ぶ	教育されることと学習することとの違いは何か。人はどのように学ぶのか。(寺崎)
第11回	学校教育制度と学歴社会	キャリアに重要な影響を及ぼす学歴と、オルタナティブな教育について考える。(寺崎)
第12回	社会教育と地域社会	学校以外の学びの場の発展、地域における居場所づくりを考える。(寺崎)
第13回	キャリア支援の現場紹介③	教師、社会教育主事、地域コーディネーター（寺崎）
第14回	キャリアデザイン学の展望	まとめ、４年間の学習にむけて(安田)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、授業のまとめと振り返りのために課題を課す。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。毎回レジュメを配布する。

【参考書】
田中研之輔・遠藤野ゆり・梅崎修編著（2024）『キャリア・スタディーズ　これからの働き方と生き方の教科書』日本能率協会マネジメントセンター

【成績評価の方法と基準】
授業への貢献度（出席と課題の提出）50％，定期試験50％。

【学生の意見等からの気づき】
どのように学習すべきなのか、初年次教育を兼ねて、ある程度示すようにする。

【学生が準備すべき機器他】
課題提出はすべて学習支援システムを利用するほか、授業内で学習支援システムを利用することがあるため、各自でPCやタブレットを準備すること。

【その他の重要事項】
特になし

【Outline (in English)】
*Learning objectives
The purpose of this class is to recognize the interdisciplinary nature of learning in the major of the career design studies and to clarify the purpose and significance of the career design studies.
*Methods
In order to achieve this objective, this class introduces career design studies from the perspective of the three areas of the faculty (development and educational careers, business careers, and life careers) and lectures on the basic concepts of career design studies.
Through these, students will develop an awareness of being a member of our faculty and a desire to learn about career design studies.
*Learning activities outside of class
About 2 hours before and after the class will be allocated for understanding the class contents.
*Grading criteria
Regular examinations (50%), in-class and out-of-class assignments (50%)

EDU100MA（教育学 / Education 100）

発達・教育キャリア入門A

遠藤　野ゆり

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：火4/Tue.4　｜　配当年次：1〜4年
備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞
授業コード：C5018
科目名：発達・教育キャリア入門A
＜2024年度以前入学者＞
授業コード：C5018
科目名：発達・教育キャリア入門A
※入学年度によらず同科目名称

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
発達・教育に関する基礎的な知識の習得と、それらの問題をどのような観点で切り取るかという視点の獲得とを目指します。私たちは多くの場合「自分の考え方は当然のことだ」「みんなそう考えている」「あたりまえだ」と思いこんでいます。つまり、自分の「あたりまえ」の枠組みの中でしかものごとを捉えられません。けれどそのままでは、自分の考えを押しつける浅い教育論しか展開できなくなります。自分の枠組みがどのようなものなのかを知り乗り越えていく方法を考えます。

【到達目標】
発達・教育に関する10のトピックをめぐる基礎的な知識を身につける。
自分がいかに普段「あたりまえの枠組み」の中で考えているかを理解し、そのルーツを探る。
自分の「あたりまえの枠組み」を超えるための視点を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP1」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業は原則を対面としつつ、対面での授業に参加できない学生には、6回まで、オンラインでの参加を認めます。対面での参加回数が不足している場合、課題等の成績のいかんを問わず、単位取得要件を満たしません。
本授業では10の教育問題（トピック）を取り上げます。各自教科書の第1節にある基礎的な知識を予習したうえで授業に臨んでください。毎時間、基礎知識の習得率を図る小テストを実施します。授業では、あたりまえの枠組みを乗り越える観点を提示し、予習してきた知識の捉え直しを行います。
講義形式をとりつつ授業内でのグループワークが毎回あります。
課題等については、授業内で一部の意見を取り上げて紹介するほか、寄せられた質問やコメントについては授業資料に回答を明記して配布します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方、課題の設定、テキスト、オンライン受講の方法等について説明する。授業実施の詳細（オンラインへのアクセスの仕方など）はHoppiiに記載する。
第2回	枠組みとしてのあたりまえ テキスト序章	「あたりまえ」を疑うとはどういうことか。「みんな」という言葉で表わされることの内実を考える。
第3回	家族の形 テキスト第1章	正しいデータに照らして家族の問題を捉える。
第4回	家庭教育 テキスト第2章	教育が家庭でなされるようになった歴史的経緯を理解し、家計と学力など家庭教育を制約する要因について学ぶ。
第5回	児童虐待 テキスト第3章	虐待された経験は子どもにどのような影響を与えるのかを学ぶ。虐待された子どもへの心理的影響や、発生要因、親の抱える孤独について考える。虐待する親の思いを学ぶ。「虐待する親はひどい」という常識的見方を超えて、虐待の発生過程を学ぶ。
第6回	つながり孤独 テキスト第4章	若者のSNSの問題を考え、人間関係とは何かを捉えなおす
第7回	いじめ テキスト第5章	悪いこととわかっていてもなぜいじめは生じるのか、雰囲気による他者理解の観点から考える。"
第8回	恋愛 テキスト第6章	恋愛について、近年の傾向を学び、成長における意味を考える。
第9回	カウンセリング テキスト第7章	相手の話を聞き内なる声を聞くという営みの奥深さを知る。
第10回	不登校 テキスト第8章	語ることで自分自身のあり方を作り上げていくという成長を考える。
第11回	発達障害 テキスト第9章	人によって見えている世界は全く違う、ということを知る。
第12回	キャリア教育 テキスト第10章	おとなになることとは与えられる側から与える側になること。可能性の中から選択すること、その選択に責任をとることという観点からキャリア形成の必要性を考える。
第13回	「あたりまえ」を支えるもの テキスト終章	多様な観点から「あたりまえ」を疑ったとしても私たちの世界が確かさを失わないということについて学ぶ
第14回	授業全体のふりかえり・評価	本講義を通して何を考えてきたのかを再検討し、学んだ内容の確認、今後の課題の設定を行う。また習得状況の確認を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストはすべて1章が3節構成になっています。各章の第1節にはその単元を学ぶ上での基礎知識がすべて書かれています。授業の時間上、基礎知識は予習課題とし、毎週テストを実施します。予習して臨むこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
遠藤野ゆり・大塚類（2020）『さらにあたりまえを疑え！　臨床教育学２』新曜社

【参考書】
適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
毎回の課題39％、期末課題（試験）61％（受講生の状況に合わせて変更する可能性があります。変更は必ず事前に学習支援システムを通じて受講生にお知らせします。）

【学生の意見等からの気づき】
オンラインで参加した場合に音声が聞き取りにくいとのことでしたので、マイクの使用など、音声システムを工夫するようにします。ただし、対面授業を原則としており、オンラインで受講した場合の音質等には一定の限界があることを了解してください。

【学生が準備すべき機器他】
授業内でにログインしてもらいクリックアンケートなどを実施することがあります。できるだけ、スマートフォンやPCなどの機器を持参してください（事前に連絡します）

原則対面の授業ですが、体調不良等に対応するため、6回まで、オンラインでも受講可能とします。その場合にオンライン環境は学生さん自身で整えてください。また、講義室のオンライン環境には限界があり、対面のような音質は確保できないことをあらかじめと了承ください。
教員の事情により対面授業の予定がオンラインに変更することもありえます。その場合に対面出席回数が不足しないように注意してください。

【その他の重要事項】
受講生の興味関心に応じて内容の調整をすることがあります。

【Outline (in English)】
Course outline: We aim to acquire fundamental knowledge on the issue of developmental and educational field and to acquire a viewpoint on how to cut out those problems. In many cases, we think that "my way of thinking is natural", "everyone thinks so", "it is natural". In other words, we can catch things only within our "obvious" framework. However, as it is, only the shallow educational theory which imposes his thought can be developed. I will think about ways to know and overcome what your framework is like.
Learning Objectives: The goal is to acquire basic knowledge about 10 topics related to development and education and, also, to understand how they usually think within the "natural framework" and explore their roots. For this goa, this class will cover 10 educational issues (topics). Students are required to prepare for the basic knowledge in Section 1 of each textbook before attending the class. Every class a quiz to measure the acquisition rate of basic knowledge is held. In the class, a viewpoint that overcomes the natural framework and reconsider the knowledge that we have prepared is showed.
Work to be done outside of class (preparation, etc.) :
Learning activities outside of classroom: all textbook chapters are composed of three chapters. Section 1 of each chapter contains all the basic knowledge for learning that unit. Due to class time, basic knowledge is a preparatory task and a weekly test is conducted. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria /Policy: 39%=quiz in each class, 61 %=term-end exam. (The grading criteria way may be changed according to the student’s requests)

EDU200MA（教育学 / Education 200）

発達・教育キャリア入門B【2025年度以降入学生用】

久井　英輔

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：火3/Tue.3　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：キャリアデザイン学部2024年度以前入学者は、この科目は履修できません。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
(授業の概要)
この授業では、「教育」を捉える上で、私たちが前提としがちな「学校」「教室」「子ども」「教科」といった「思考の檻」を相対化し、柔軟にかつ広い視点から「教育」を捉えるための題材を提供する。
(授業の目的・意義)
授業内容をとおして、学生が柔軟にかつ広い視点から「教育」を捉える力を身に着けることを目指す。

【到達目標】
教育を柔軟にかつ幅広くとらえる視点を、「生涯学習」「社会教育」の概念への理解を踏まえて学生が獲得することを目指す。
また、私たちの生活や文化、またその基盤にある意識や習慣が、「教育」と様々な形で結びついていることを学生が具体的な事例を通じて獲得することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP1」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
各回とも、テーマに関する講義を行った上で、そのテーマにおける重要な論点について各自のコメントシートの提出を求める。コメントシートで提示された重要な視点や質問については、次回授業にて教員からリプライするかたちで、フィードバックを行う。
基本的には講義形式で進めるが、簡易的なグループワークや、Googleフォームや学習支援システムを活用した授業内での講師と学生との質疑応答なども、必要に応じて適宜取り入れる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに：「教育」を檻から解き放つ？	「学校」や「子供」に捕らわれずに教育にかかわる制度や現象を把握することの重要さを、いくつかの事例を基に説明する。
第2回	「体験による学び」再考	教室や学校を超えた場での体験を通じた学習がなぜ重視されてきたか、また、どのような体験が「学習」につながるのか、事例を基に説明する。
第3回	「居場所」の現在	不登校や地域活動を背景とした青少年の「居場所」「サードプレイス」をめぐる議論と、そのような場を支える支援者の役割について説明する。
第4回	「つながり」を科学する	人と人との「つながり」が教育をどのように規定するか、逆に教育が「つながり」にどのような影響を与えるかについて、政治学・社会学で用いられるSocial Capital（社会関係資本）を鍵概念として説明する。
第5回	社会を捉える学びの試み【ゲストスピーカー回】	地域住民が自発的に立ち上げた学習活動（事例：小田原寺子屋スクールⅡ）が、地域を越えて「社会の捉え方」にアプローチしようとするとりくみを紹介する。
第6回	成人式という「伝統」の創造	「成人式」が教育上の要請や戦後初期の社会背景の中で、「新たな伝統」として普及していった過程を紹介する。
第7回	団地住民の共同性と「学び」	地域の課題を抱えた住民たちが学習を通してその解決を目指していく過程を、高度経済成長期の団地を事例として紹介する。
第8回	改善すべき対象としての「生活」	制度（政治・経済・教育など）の近代化から取り残された人々の生活・慣習が、教育によってどのように改善が試みられたか、戦前・戦後の事例を基に説明する。
第9回	「総中流」の幻想はなぜ生まれたのか？	「一億総中流」というイメージ・言説が昭和後期に生成した背景を、社会階層や教育、生活水準の変化などの観点から説明する。
第10回	「読書」という行為の歴史	一見、どの時代でも普遍的な行為のように思える「読書」が、近代化の中でどのように変化してきたかを、いくつかの事例を基に説明する。
第11回	余暇としての学びの戦後史	余暇時間をどのように「活用」すべきか、という教育的言説が、戦後においてどのように変化していったかを、成人を対象とした学習事業などを事例に紹介する。
第12回	なぜ人々は趣味を学ぶのか？【ゲストスピーカー回】	「趣味」「仕事」、あるいはそのどちらともいえない「シリアスレジャー」の概念について、実例を交えつつ近年の研究動向を紹介する。
第13回	推し活の源流、あるいは1970年代における学生文化の転回	アイドル文化を支える若者（特に大学生）の背景に、文化をめぐるどのような意識の変化があったかを説明する。
第14回	（共同作業としての）授業の振り返り	前回までの議論について、各受講者から提示された感想や質問を基に検討し、授業内容全体についての理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・準備学習は特に必要ない。
・各回の授業後、授業内で提示した参考文献の関連箇所を読むこと。
・期末レポートの執筆において、各回の授業内容を十分に復習すること。
・本授業の復習時間は4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。

【参考書】
特に使用しない。
（各回の内容に関する参考文献は、配布資料にて詳細に紹介する）

【成績評価の方法と基準】
毎回のコメントシート　60％
期末レポート　40％

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につき、フィードバックは特にありません。

【学生が準備すべき機器他】
ノートPC

【Outline (in English)】
【Outline】

This course provides materials to relativize the images we tend to take for granted such as “school,” “classroom,” “children,” and “subjects,” and to enabling a flexible and broad perspective on education.
【Learning Objectives】
The students will develop the ability to approach “education” with flexibility and a broad perspective by attending the course.
【Learning Activities Outside of Classroom】
Students will be expected to read document of lecture again after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
【Grading Criteria / Policy】
Final grade will be calculated according to the following process: Comment for every class (60%), final report (40%).

MAN100MA（経営学 / Management 100）

ビジネスキャリア入門A【2025年度以降入学生用】

酒井　理

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木3/Thu.3　｜　配当年次：1〜4年
備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞
授業コード：C5020
科目名：ビジネスキャリア入門A
＜2024年度以前入学者＞
授業コード：C7061
科目名：ビジネスキャリア入門D
※入学年度により授業コード・科目名が異なります

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
企業が継続的に生存して活動を続けていくためには、市場で様々な競争にさらされ、生き残っていくあるいは成長していく必要があります。企業がどのように考え、どのように行動するかを理解することは、私たちが社会に出て、さらに企業のなかで働いていくうえで大変重要なことです。
本講義では、ビジネス社会での働き方、生き方を考えるために必要となる、企業戦略やその活動を理解するための知識を学びます。ビジネスを理解することによって自らが生きていく社会を理解していく重要な視点を獲得します。

【到達目標】
本講義は、自らビジネスを考えて自分の力で自身のキャリアを開拓していく能力を獲得することを目的とします。
①ビジネスに関連する多くのフレームワークを理解して企業の様々な行動を分析できる
②ビジネスを理解して自分のアイデアをビジネスプランとして組み立てることができる
③自分で作成したビジネスプランを使って相手を説得することができる
以上、3点の能力獲得を到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
14回の授業を通して自分が考えたビジネスのプランを作成する課題に取り組みます。大きく３つのパートに分かれます。①こんなサービスがあったらいいなから、ビジネスアイデアにしていくアイデア発想のパート(1-1〜1-4)、②ビジネスアイデアをビジネスとしてどのように競争に勝って収益をあげていくか戦略を考えるパート(2-1〜2-4)、③継続的にビジネスとして成立しそうか収支を考えるパート(3-1〜3-4)、です。
受講者には経営（とくに経営戦略）の知識がないことを前提としていますので、配布資料を学習することによって、ビジネスアイデアの発想の方法、経営戦略の立て方、ビジネスモデルや収益モデルの作り方が理解できるように進めます。それをベースにビジネスを学んだことのない初心者でもスムースに課題に取り組めるように配慮します。また、わからないことなどを相談する機会を設けて、みなさんと伴走しながら進めていきますし、学生同士でも意見を交わせる機会を設けていきますので安心してください。
課題については、授業のなかで相談の回、講評の回を設けていますので、その際にみなさんの課題の進捗をききつつアドバイスや相談を行います。講評時に優秀な課題に関するコメントをすることでフィードバックをします。
楽しみながら（わくわくしながら）ワークに取り組めるような仕掛けをしていきたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	キャリアデザイン学部においてビジネスを学ぶ意味を考えます。キャリアにおいて、なぜ経済・経営を理解する必要があるのについて話します。学びに先行して、まず体験からはじめる意義について説明します。
第2回	(1-1)ビジネスアイデアの創出	やりたいことはあるか、何をしたいのか、やりたいビジネスはあるか、組織に属さない生き方、やりたいことを仕事にするキャリアデザインなどをベースにして、自分がやりたいことをビジネスにすることを考えます。
第3回	(1-2)ビジネスアイデアのブラッシュアップ	学生がお互いに協力して自分のアイデアをブラッシュアップしていきます。グループディスカッションで学生相互で意見を交えます。
第4回	(1-3)ビジネスの顧客価値を考える	共感マップとバリュープロポジションマップで顧客という視点からビジネスを捉える力を磨きます。
第5回	(2-1)ビジネスキャリアを考える	ゲストを招いて、これからのビジネス社会におけるキャリアデザインについて考えを深めます。
第6回	(2-2)ビジネスモデルを考える	ビジネスを展開していくうえで重要なビジネスモデルを解説して、パート１で考えた自分のアイデアをビジネスとして形にしていきます。
第7回	(2-2)経営環境分析を学ぶ	ビジネスを取り巻く経営環境を理解します。
第8回	(2-3)ビジネスモデルと戦略を考える	競争や市場を考慮しつつ、ビジネスを展開していく戦略を考えます。
第9回	(2-4)マーケティング戦略を考える	セグメンテーション、ターゲィング、ポジショニング、４Ｐといったマーケティングの基本を考えます。
第10回	(3-1)ビジネスプランの考え方を知る	ビジネスアイデアからビジネスの仕組み（ビジネスモデル）を考えて、展開する戦略を練った次のステップとして、アイデアがちゃんとビジネスとして成立するかどうかを考えていきます。
第11回	(3-2)ビジネスプランを作る	市場予測、収支計画をどのようにつくっていくかを考えます。
第12回	(3-3)ビジネスプランのブラッシュアップ	学生がお互いに協力しながら自分のビジネスモデルをブラッシュアップするとともに、各々の課題を改善してより良いビジネスプランになるようにアドバイスします。グループディスカッションで学生相互で意見を交えます。
第13回	ビジネスプランの講評	パート１のアイデア創出、パート２のビジネスモデル、パート３のプランと進めてきた課題を最終的にビジネスプランにしたものの講評をおこないます。提出された最終課題の評価できる点、改善点などの解説を行います。

第14回	web試験・まとめと解説	ここまでの総括としてweb試験を行います。選択式で知識を問う内容の試験を予定しています。まとめと解説をします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日頃から新聞に目を通して、日々の社会の動きに注意を払ってください。企業がどのような活動をしているのか、企業が競争をするとはどういうことなのか？ 新しい製品はどのような意図をもって発売されているのか？ など、身近なところから、物事を深く考える練習をしてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指示はしません。

【参考書】
特に必要とはしませんが、授業の中で参考資料として示すものを適宜参照してもらうといいと思います。
フィリップ・コトラー他『マーケティング原理』2014、丸善出版株式会社。(『Principles of Marketing 14th edition』)
和田充夫他『マーケティング戦略 第４版 (有斐閣アルマ)』2012、有斐閣。
石井淳蔵他『１からのマーケティング（第4版)』2019、碩学舎。
スタンフォード大学ハッソ・プラットナー・デザイン研究所『スタンフォード流デザイン思考を実践する人の38の技法』2018、アイリーニマネジメントスクール。
デービッド・アーカー『戦略立案ハンドブック』東洋経済,
沼上幹『新版わかりやすいマーケテイング戦略』有斐閣，2000年。
伊丹敬之『経営戦略の論理3版』日本経済新聞社，2003年。
エーベル『事業の定義』千倉書房，1992年。
H.ミンツバーグ『戦略計画　創造的破壊の時代』産業能率大学出版部，1997年。
梶井厚志『戦略的思考の技術　ゲーム理論を実践する』中公新書,2002年。
森岡毅，今西聖貴『確率思考の戦略論』KADOKAWA,2016年。

【成績評価の方法と基準】
①ビジネスに関連する多くのフレームワークを理解して企業の様々な行動を分析できたのか
②ビジネスを理解して自分のアイデアをビジネスプランとして組み立てることができたのか
③自分で作成したビジネスプランを使って相手を説得することができたのか
以上3点について、Web試験とビジネスプラン課題によって評価します。
web定期試験30%、ビジネスプラン課題50%、授業で取り組むワークシート提出20%の割合で評価します。
成績評価は合計で100点満点とし、60点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】
学生の理解度を勘案しながら対話の機会を積極的に用意します。

【学生が準備すべき機器他】
資料のアップロード、毎回の質問への回答などに学習支援システム（Webclass)、googleclasroomなどを使用します。

【その他の重要事項】
実務経験のある教員による授業です。
実社会を随所に感じられるような授業にするつもりです。
生成AI、周りの意見、webを積極的に活用して良質な課題が作成できるように努めてください。

【Outline (in English)】
[Course outline]
Companies face various competition in the market. And in the competition companies are required to survive and grow. Therefore, understanding how companies think and how to behave is very important for us to go into society and work in companies.
In this lecture, you will learn the elementary knowledge to understand the company's strategy or activity, which is necessary to think about how to work in the business society and how to live.
[Learning Objectives]
The objective of the class is to acquire the basic knowledge necessary to understand management. Specifically, the following three goals will be pursued
(1) To understand the many frameworks related to management strategy and to acquire a perspective that enables us to analyze the various actions of a company
(2) Understanding business systems
(3) To be able to apply original ideas to business
Throughout the course of the class, students will work on an assignment to create a plan for their own business. The 14 lessons will be divided into three parts.
(1) Idea generation part
(2) Strategy building part
(3) Business plan preparation part
[Learning activities outside of classroom]
Think about how companies operate, what it means for a company to compete, and with what intentions new products are launched. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
[Grading Criteria /Policy]
The following three points will be evaluated through a web-based examination and business plan assignment.
(1)Understanding of frameworks related to business strategy
(2)Understanding of business systems
(3)To turn your idea into a business.
The evaluation ratio is 40% for the web-based periodic exam and 60% for the business plan assignment. The total score is 100 points, and a score of 60 points or higher is required to pass the course.

MAN200MA（経営学 / Management 200）

ビジネスキャリア入門B【2025年度以降入学生用】

中野　貴之

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：月2/Mon.2　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞
授業コード：C5021
科目名：ビジネスキャリア入門B
＜2024年度以前入学者＞
授業コード：C7060
科目名：ビジネスキャリア入門C
※入学年度により授業コード・科目名が異なります

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、ビジネスキャリア入門として、キャリアデザインと関連付けながら経営学の基礎を学んでいきます。ビジネスが行われる主な場は、「株式会社」といわれる組織です。この講義では、株式会社の歴史、意義および課題等について、人々のキャリアと関連付けながら平易に講義していきます。

【到達目標】
株式会社をはじめ企業に関する基礎知識について、キャリアデザインと関連付けながら総合的に理解することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP1」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
本講義では、株式会社の諸側面について説明していきます。授業への動機付けの向上や理解度の確認のため授業内における発言、レポート執筆を求めます。その結果は授業中にフィードバックし、問題意識が深められていくように進めていきます。また、一部、グループワークも行い、意見を述べてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本講義の主題と到達目標を説明します。
第2回	ケーススタディ	特定の日本企業のケーススタディにより、株式会社の全体像を掴みます。
第3回	株式会社の歴史(1)	欧米における株式会社の歴史を学びます。
第4回	株式会社の歴史(2)	日本における株式会社の歴史を学びます。
第5回	企業情報の収集	企業情報の収集方法について学びます。
第6回	経営理念	経営理念の意義を、人々の幸福感と関連づけて学びます。
第7回	所有構造、経営者	企業の所有構造および経営者の意義について学びます。
第8回	中間レビュー	第2回〜第7回の講義内容をレビューします。
第9回	ビジネスモデルおよび事業ポートフォリオ	ビジネスモデルおよび事業ポートフォリオの意義と課題について学びます。
第10回	資本市場の意義	資本市場における株価形成の意義について学びます。
第11回	企業業績の分析(1)	企業業績の分析方法の基礎を学びます。
第12回	企業業績の分析(2)	企業業績の分析方法の応用を学びます。
第13回	投資家と上場企業の関係性	投資家と上場企業の関係性の現状と課題について学びます。
第14回	本講義のレビュー	本講義のレビューを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞記事を読むなど、企業をめぐる動向に関心をもってください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
開講時に指示します。

【参考書】
開講時に指示します。

【成績評価の方法と基準】
成績の評価は次のとおりです。
①平常点15%（授業内のQuiz、レポートの得点）
②定期試験85%

【学生の意見等からの気づき】
良いレポートをより積極的に紹介して、受講者のレポート作成に役立つ情報を提供します。

【Outline (in English)】
*Course outline
The purpose of this course is to understand the history, significance, and challenges of stock companies in relation to people's careers.
*Learning Objectives
The goal of this class is to provide students with a comprehensive understanding of basic knowledge about corporations such as the listed companies, while relating it to career studies.
*Learning activities outside of classroom
Students are encouraged to take an interest in the trends surrounding companies, for example by reading newspapers. Your required study time is at least 4 hours for each class meeting.
*Grading Criteria
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Quiz and short reports: 15%, Term-end examination: 85%.

SOC100MA（社会学 / Sociology 100）

ライフキャリア入門A【2025年度以降入学生用】

関水　徹平

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：月5/Mon.5　｜　配当年次：1〜4年
備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞
授業コード：C5022
科目名：ライフキャリア入門A
＜2024年度以前入学者＞
授業コード：C7063
科目名：ライフキャリア入門B
※入学年度により授業コード・科目名が異なります

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ひきこもりについて、とくに家族との関わりを焦点に当てて学ぶ。ひきこもりは、日本社会の構造、とくに家族のあり方や社会保障制度とも深く結びついた現象である。ひきこもりと家族の関連を学ぶことで、日本社会におけるライフキャリア、家族のあり方について理解を深めることを目的とする。

より具体的には、この授業では、ひきこもりが本人にとってどのような経験であるのかを取り上げるとともに、ひきこもりが家族にとってどのような問題として経験されるのか、そもそもなぜひきこもりは家族問題となるのか、そして、本人・家族にどのような支援が求められているのかといった主題について、社会学的な観点から考えていく。

【到達目標】
ひきこもりについて、とりわけ家族にとってのひきこもり問題について理解を深め、家族生活に関わるキャリアを考えることができるようになることを目標とする。ひきこもりという経験、ひきこもり本人にとっての家族、家族にとってのひきこもり問題について理解を深めることを通じて、自己の将来について考察できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP1」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
各回の授業は、ＰＰＴを用いた講義と、それに対する履修者の発言やリアクションペーパーによって進められる。また、必要に応じて映像資料を利用する。リアクションペーパーへの学生のコメントも授業内で紹介する。ひきこもりの経験者や支援者によるゲスト講義の回を設ける予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の概要・進め方・成績評価等
第2回	参加の困難と家族	家庭内における参加の困難と状況的自己
第3回	家族の変容とひきこもり問題	家族にとってのひきこもり問題と社会構造・社会変動との関連
第4回	ひきこもりと家族①	家族が本人の苦しみを理解する難しさ
第5回	ひきこもりと家族②	家族の歴史とひきこもり（戦争PTSDを例として）
第6回	ひきこもり経験者が語るひきこもりと家族	ひきこもり経験者によるゲスト講義（予定）
第7回	授業の小括・理解度の確認（中間試験）	小括と授業内試験(中間試験）の実施
第8回	ひきこもり経験と人生の物語	ひきこもりと戦後日本社会におけるライフコース規範との関連
第9回	ひきこもりと母娘関係	女性のひきこもり経験者の事例から考える母娘関係
第10回	ひきこもり・社会保障・家族①	家族機能を代替する民間・行政の取り組み
第11回	支援者が語るひきこもりと家族	ひきこもり支援に関わる方によるゲスト講義（予定）
第12回	ひきこもり・社会保障・家族②	国際比較の視点から考える家族とひきこもり
第13回	授業のまとめ	家族問題としてのひきこもりとライフキャリア
第14回	理解度の確認（期末試験）	授業内試験（期末試験）の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
適宜、指定されたものを遂行すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
とくに指定しない。

【参考書】
授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業内試験（中間20%、期末50%）、リアクションペーパー（30%）

【学生の意見等からの気づき】
学生の意見を真摯に受け止め、学生の視線に立った授業を展開したい。

【学生が準備すべき機器他】
オンラインでの授業受講・理解度の確認にあたってパソコンが必要です

【Outline (in English)】
This course explores the phenomenon of hikikomori (social withdrawal), with a specific focus on the dynamics between the individual and their family. Hikikomori is deeply intertwined with the structure of Japanese society, particularly regarding family expectations and the social security system. By studying the relationship between hikikomori and the family unit, students will deepen their understanding of life careers and the changing nature of the family in contemporary Japan.

SOC200MA（社会学 / Sociology 200）

ライフキャリア入門B【2025年度以降入学生用】

田中　研之輔

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：月4/Mon.4　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞
授業コード：C5023
科目名：ライフキャリア入門B
＜2024年度以前入学者＞
授業コード：C7062
科目名：ライフキャリア入門A
※入学年度により授業コード・科目名が異なります

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人生100年時代におけるライフキャリア論について、特に、コミュニティとキャリアの視点から理解を深める。毎週、現代社会におけるコミュニティとキャリアに関する具体的事例を取り上げ理論的蓄積と適宜検証作業を行う。＊理論的蓄積としてはプロティアンキャリア論の基礎枠組みを把握する。

【到達目標】
①ライフキャリア領域のコミュニティとキャリアに関する理論的理解と具体的事例の洞察的分析を行う能力を養うことができる。
②自身のライフキャリアプランを、社会動向の変化の中で考えることができる。
③少人数でのグループワーク時に、理論的見解を自分の言葉で述べることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP1」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
ライフキャリア領域のコミュニティとキャリアに関する基礎理論を把握し、現代社会におけるコミュニティの多様性・多層性を分析する視点を養う。毎週、コミュニティとキャリアに関する具体的事例を取り上げて理論的蓄積と適宜検証作業を行う。
＊コミュニティとキャリアに関する外部講師を招聘し、特別講演会を開催することもある。
フィードバックは、リアクションペーパーへの全体総括と適宜、個別コメントを各講義の冒頭で行う。
大学行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義のガイダンス：ライフキャリア論の射程	ライフキャリア論の学問的特性を学ぶ
第2回	人生100年時代のライフキャリア：プロティアン・キャリアの基礎	人生100年時代のライフキャリアについて、プロティアン・キャリア論の基礎に分析視座を学ぶ
第3回	人生100年時代のライフキャリア：大学の学び	人生100年時代のライフキャリアについて、特に大学での学びについて考える
第4回	人生100年時代のライフキャリア：大学の＜外＞の学び	人生100年時代のライフキャリアについて、特に大学の＜外＞の学びについて考える
第5回	人生100年時代のライフキャリア：大学から社会へ	人生100年時代のライフキャリアについて、大学から社会への移行について理解を深める
第6回	人生100年時代のライフキャリア：コミュニティの多様性	人生100年時代のコミュニティの多様性を確認する
第7回	人生100年時代のライフキャリア：デジタル・コミュニティの現在	人生100年時代のライフキャリアについて、デジタル・コミュニティの理解を深め、社会問題を分析する
第8回	人生100年時代のライフキャリア：野宿生活とコミュニティ	人生100年時代のライフキャリアの視点から、野宿者コミュニティを学ぶ
第9回	人生100年時代のライフキャリア：福祉・介護コミュニティ	人生100年時代のライフキャリアの視点から、福祉・介護コミュニティについて考える
第10回	人生100年時代のライフキャリア：災害とコミュニティ ボランタリズムの可能性	人生100年時代のライフキャリアの視点から、災害とコミュニティ・ボランタリズムについて学ぶ
第11回	人生100年時代のライフキャリア：若年層のストリート・コミュニティ	人生100年時代のライフキャリアの視点から、若者のストリートコミュニティについて学ぶ
第12回	人生100年時代のライフキャリア理論：プロティアンキャリアの射程	人生100年時代のライフキャリア理論のなかで、各事例を読みとく、プロティアン・キャリアの視点を習得する
第13回	人生100年時代のライフキャリア戦略：キャリア資本論	人生100年時代のライフキャリア戦略についてキャリア資本論を学ぶ
第14回	人生100年時代のライフキャリア：コミュニティとキャリア	人生100年時代のライフキャリアの視点からコミュニティとキャリアの現代的洞察を深める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各講義のポイントを復習しておく本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
田中研之輔『プロティアン』(2020 日経BP）

【参考書】
「プロティアン・キャリア」ゼミ　連載
https://jinjibu.jp/article/detl/opinion/4002/

【成績評価の方法と基準】
① 授業時の感想メモと平常点　50％
② 期末レポート、もしくは、期末試験を実施します。 50％

【学生の意見等からの気づき】
双方型教育にむけて、積極的に最新テクロノジーを授業支援に活用していく。

【その他の重要事項】
受講者の意見や見識をいかしていけるように可能な限りアクティブラーニング形式をとっていきます。本講義での問いかけに、「正解」はありません。自分の考えを伝える機会として積極的に参加してください。

【Outline (in English)】
Life Career (community) is a course designed to assist students with the lifelong process of career development. Students will participate in a variety of experiences as a group and individually. This coursework is designed to help students identify and examine their interests, personality, values, self-esteem, critical thinking skills and to use this increased self-awareness to make decisions about majors and careers. This course will emphasize that making an occupational career choice and life planning is a never-ending process subject to and affected by one's personal maturity and environmental changes.
【Work to be done outside of class】

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.
【Grading criteria】
Submission assignment (50%), normal score (50%).
The submitted assignments will be based on the achievement level of the assignments, based on the basic viewpoint of life career research and the degree of understanding of ideas.
The normal score is based on the degree of participation / contribution to the class and the attitude of attending the class.

PSY100MA（心理学 / Psychology 100）

キャリアと心理学

岩本　慧梧

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：火5/Tue.5　｜　配当年次：1〜4年
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
心理学とは，心のメカニズムを科学的な手法を用いて明らかにすることを目指す学問である。この授業では，人の「キャリア」を理解する上で必要となる心理学の基礎的な概念や理論を広く紹介することで，受講生が心理学の学術知を活かしたキャリアデザインの実践や，キャリアデザイン研究をおこなうための土台となる知識の獲得を目指す。

【到達目標】
①受講生が自身や他者のキャリアデザインをおこなう際に，心理学の知識を活かした実践ができるようになること
②キャリアデザイン研究をおこなう際に，必要となる心理学の研究を自ら参照する上で必要となる知識の土台を身につけること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業内課題やリアクションペーパーの提出には，Google Formを活用する予定である。提出された課題やリアクションペーパーの内容については，講師が授業内で積極的に紹介し，双方向性のある授業の実施を行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション・心理学を学ぶ意義	授業のスケジュール、内容、形式、評価方法及び心理学を学ぶ意義について説明する。
第2回	記憶・思考	人間の記憶のメカニズム，日常の中での思考の働きについて説明する。
第3回	知的能力と発達	知能の定義および測定法について説明する。また，人の生涯での成長や発達に関する基本的な理論やそれらを捉える上で重要な概念について解説する。
第4回	パーソナリティ	自己概念とパーソナリティに関する基礎的な理論を説明する。
第5回	24の強み	ポジティブ心理学における24の強み研究とキャリアデザインとの関連について説明する。
第6回	非認知能力	非認知能力が注目されるようになった展開と，非認知能力として扱われている心理学的概念について紹介する。
第7回	モチベーション（1）	モチベーションの基礎的な理論について説明する。
第8回	モチベーション（2）	モチベーションの理論をキャリアデザイン支援にどのように活かすかについて説明する。
第9回	対人認知	人が他者に関わる理解する際に特有の人の認知のメカニズムに関する基本的な理論を説明する。
第10回	コミュニケーション	コミュニケーションの機能や，親しみのあるコミュニケーションの特徴について説明する。
第11回	集団	援助行動、社会的促進など他者存在の影響に関する研究を説明する。
第12回	心の健康	ストレスに関する基礎的な理論と支援について説明する。
第13回	ウェルビーイング	ウェルビーイングに関する基礎的な理論と、代表的な介入方法について説明する。
第14回	まとめと総括	講義内容についての振り返りを行う。受講生の要望に応じて、13回の講義で取り上げられなかった心理学のトピックについて補足を行う場合もある。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業用資料を学習支援システムにアップロードする。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特定の参考書の指定は行わない。

【参考書】
授業内容をさらに深く理解する助けになるテキストについては，適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業内に実施される「理解度テスト」（計2回を予定，合計70%），および授業外「レポート課題」（1回，30%）に基づいて評価される。

【学生の意見等からの気づき】
学習支援システムを通じて学生のからのフィードバックを受け、授業方法に反映させる。

【学生が準備すべき機器他】
授業内でリアクションペーパーはオンラインで提出を求めるため，パソコンやスマートフォンの利用環境を整えておくことが求められる。

【Outline (in English)】
Course outline:
This course introduces foundational psychological concepts and theories necessary for understanding human career development. By broadly covering key ideas in psychology relevant to “career,” the course aims to help students build a solid knowledge base that supports (1) applying academic psychological knowledge to practical career design and (2) conducting research on career design informed by psychological science.
Learning Objectives
At the end of the course, students are expected to:
apply psychological knowledge to the practice of designing their own and others’ careers.
acquire a foundational understanding that enables them to independently locate, read, and refer to psychological research necessary for conducting career design research.
Learning activities outside of classroom
Course materials will be uploaded to the learning management system. Students are expected to spend approximately two hours on preparation and two hours on review for each class meeting.
Grading Criteria / Policies
Final grades will be determined based on the following components:
Understanding tests (two tests in total): 70%
Report assignment (one out-of-class report): 30%

ECN100MA（経済学 / Economics 100）

キャリアと経済学

小前　和智

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木1/Thu.1　｜　配当年次：1〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、経済学の基礎を学び、キャリアデザインを考えるうえでの方法論のひとつとして経済学への理解を目指す。キャリアは個人というミクロな主体の選択により形成される。ミクロ経済学はそうした個人の選択や意思決定を扱う学問の1つである。経済学の理論とその仮定を理解することは、キャリアデザインを考えるうえで多くのヒントをくれる。マクロ経済学は、国あるいは世界の経済を扱う学問である。国や世界の経済を考えるのに重要な変数を学ぶとともに、マクロ経済がキャリア及ぼす影響（キャリア形成が個人の選択だけではない面）についても授業のなかで紹介する。全体を通して、経済学の考え方の実践的な活用をイメージできるよう、具体的な例を多く交えて授業を進める。

【到達目標】
経済学の基本的な考え方を理解することで、実社会の現象を理解する術を身につける。具体的には以下の項目への到達を目標とする。
(1) 経済学の基本的な考え方を理解する
(2) 実社会で起こる現象の一部を経済学的に考えることができる
(3) 経済学の実践的な活用のイメージができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP1」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
主にパワーポイントのスライドを用いた授業を行う。学習支援システムで資料を配布するので、配布された資料を各自ダウンロードのうえ参加すること。各回の授業スライドの最後のページには「確認事項」のスライドを付けている。各回の授業後に必ず復習時を行い、その際に「確認事項」を自分の言葉で説明できるよう努めること。その他、授業に関する連絡や授業計画等の変更がある場合には、学習支援システムで連絡する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業のガイダンス、経済学概説	授業の概要を示し、その後ミクロ経済学とマクロ経済学について概説する。経済学を学ぶことによって、実社会をどのように捉えられるようになるのかイメージを持つ
第2回	ミクロ経済学（1）経済学の考え方	経済学の前提としての競争市場について解説し、重要な用語や概念についても説明する
第3回	ミクロ経済学（2）需要、供給、価格①	需要曲線と供給曲線について説明する。さらに、それらの交点が示す均衡価格や需要・供給曲線がシフトすることで価格が変化することについて学ぶ
第4回	ミクロ経済学（3）需要、供給、価格②	弾力性の概念を導入し、価格弾力性の大小の意味について考える。その後、第3回授業と同様に需要・供給曲線のシフトによる価格変化について学ぶ
第5回	ミクロ経済学（4）市場と効率性	余剰の概念を導入する。さらに、経済学における効率の概念を学ぶ
第6回	ミクロ経済学（5）不完全市場と政府の役割	第2回から第5回にかけては完全競争という市場環境を前提としてきた。本授業では、不完全競争、不完全情報、外部性など、これまで想定とは異なる市場環境下において生じる現象や、それに対する政府の役割を学ぶ
第7回	ミクロ経済（6）ゲーム理論入門	ゲーム理論の入門的な内容について学ぶ
第8回	マクロ経済学（1）マクロ経済を考えるうえでの構成要素と国民経済計算	前半では、GDP、労働市場、生産物市場、資本市場、景気循環、失業などについて学ぶ。後半は国民経済計算を説明する。一国の会計である国民経済計算を通してフロー、ストック、付加価値、三面等価などの概念を学ぶ
第9回	マクロ経済学（2）消費と貯蓄	消費がどのような要因によって決定されるかを学ぶ。また、消費と表裏一体として捉えられる貯蓄についても学ぶ
第10回	マクロ経済学（3）設備投資と貨幣需要	前半では、設備投資におけるフローとストックの関係や、設備投資に関する経済理論を学ぶ。後半では、貨幣の機能や定義、貨幣の需要と供給、利子率の決定理論について学ぶ
第11回	マクロ経済学（4）IS-LMモデル	前回までの内容を踏まえ、（新）古典派とケインズの経済学の考え方を整理したうえで、有効需要の法則を学ぶ。その後、IS-LMモデルについて説明する
第12回	マクロ経済学（5）インフレーション／労働市場	前半では、インフレーションとは何か、ディマンドプル・インフレーション、コストプッシュ・インフレーションについて学ぶ。後半では、（新）古典派とケインズの経済学それぞれから見た失業を説明し、さらにフィリップス曲線やベバリッジ曲線について学ぶ。
第13回	マクロ経済学（6）経済成長理論／本講座の内容をどう活かせるか	前半は、経済成長とは何か、経済学は経済成長をどう説明しているか学ぶ。後半では、第1回〜13回の内容を実社会に適用することでどういった考察ができるのか説明する
第14回	授業のまとめ	授業のまとめを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習と復習時間は各2時間を標準とする。明確な宿題として課されないが、学習支援システムを介して配布する「計算問題」は授業内容の理解を促し、定期試験対策になるので必ず取り組むこと（計算問題は初回授業のタイミングで配布するほか、場合によっては適宜追加的に配布する可能性がある）

【テキスト（教科書）】
【第1回〜第6回】ジェゼフ・E・スティグリッツ, カール・E・ウォルシュ『スティグリッツ入門経済学（第4版）』東洋経済新報社（購入しなくてよい）
【第7回】神取道宏『ミクロ経済学の力』日本評論社（購入しなくてよい）
【第8回〜第13回】福田慎一・照山博司『マクロ経済学・入門』有斐閣（購入しなくてよい）

【参考書】
授業内で適宜案内する

【成績評価の方法と基準】
評価は、中間テスト（授業内で実施）と期末テストで行う
中間テスト（50%）、期末テスト（50％）

【学生の意見等からの気づき】
丁寧な説明と評価してくださる受講生がいる一方で、「用語、単語が理解できない中で講義が進んでしまう」や「数式の理解が追い付かない」との声が聞かれた。講義資料の冒頭では目次を毎回見せるが、そのスライドでその授業全体での概念やポイントを説明して、授業への導入をより効果的にしていきたい。授業ではなるべく小刻みに質問できるタイミングを取っていく。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
わからないことはいつでも質問可能であり、積極的な授業への参加を期待する

【Outline (in English)】
In this course, students will learn the fundamentals of economics and develop an understanding of how economic thinking can serve as one methodological approach to career design. Careers are shaped by the choices of individuals. Microeconomics is a field of study that examines such individual choices and decision-making processes. Understanding economic theories and their underlying assumptions provides valuable insights for thinking about one's career design.
Macroeconomics, on the other hand, focuses on the economy of a nation or the world as a whole. In this course, students will learn key variables essential for understanding national and global economic conditions, while also exploring how macroeconomic trends influence individual careers — highlighting that career formation is not determined solely by personal choices.
Throughout the course, numerous concrete examples will be used to help students envision how economic perspectives can be applied in practical, real-world contexts.

SOC100MA（社会学 / Sociology 100）

キャリアと社会学

青木　淳弘

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水5/Wed.5　｜　配当年次：1〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代社会において、キャリアの選択肢は社会によって形成され、わたしたちはそれを選択しています。ときにわたしたちはそれを当たり前のことのように（＝「ふつう」のこととして）受け入れているが、それがなぜどのようにして社会的な合意として成立しているのかについて立ち止まって考えることは少ないのではないでしょうか。社会学はそのための道具といえる数多くの基礎概念を用意しており、それに基づいて自らの思考を組み立てていくことは、キャリアと社会の関係を読み解いていくうえで欠かせません。本講義では、社会学の基礎概念を紹介しながら、キャリアに関わる社会現象を読み解く力を鍛えていきます。

【到達目標】
（1）キャリアを構築する個人および個人が暮らす場である社会を理解する。
（2）社会学的思考法を応用して、人間関係や社会現象の歴史的・地域的展開について理解を深め、現状・課題を自らの言葉で説明できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP1」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
対面授業を基本としますが、状況によって、オンライン授業（Zoom）を行う可能性もあります。オンライン授業の場合、Zoomへのアクセス方法については、当日授業開始時刻までに、学習支援システムにてお伝えします。
講義形式の授業です。1つのテーマが数回分の授業に該当しますが、テーマごとの授業時間数は下記「授業計画」から変更する場合があります。また、状況に応じて、テーマの順番の入れ替え、テーマの差し替えの可能性もあります。関連事項も含め各テーマを深く掘り下げることで、その現状と課題についての理解を図ります。
授業での学びに対する、各自の気づきやコメントを、リアクションペーパー（小レポート）としてまとめ提出してもらうことがあります。提出されたリアクションペーパーから全体に対して講評・解説のフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方や目的、成績評価などについて説明する
第2回	「ふつう」の家族ってなんだろう？ (1)	近代家族や家族に関する概念を紹介し、単身世帯の急増という事実を概観します。「ふつう」の家族を問い直すために。
第3回	「ふつう」の家族ってなんだろう？ (2)	親ガチャ？ 家族の役割？ 絆？…日本の社会階層研究やブルデューの文化的再生産論を土台として、キャリアと社会学について考えます。
第4回	「ふつう」の家族ってなんだろう？ (3)	暮らしの設計図を描いてみましょう。家の作り、家族の形、そこにある「ふつう」が固定的でないことを認識したいと思います。
第5回	「ふつう」の大学生ってなんだろう？ (1)	学校や教育機会に関する概念を紹介し、そこに存在している規律訓練や格差の存在を概観します。「ふつう」の大学生を問い直すために。
第6回	「ふつう」の大学生ってなんだろう？ (2)	なぜ大学に行くのか？ ほんとに「最近の大卒は女性の方が採用面接の出来が良い」のか？ …社会化やジェンダーを等身大の大学生という視点から考えます。
第7回	「ふつう」の大学生ってなんだろう？ (3)	大学生としての生活。隣り合うひとの「ふつう」の大学生やキャリアに対する観点の違いを理解することを目指します。
第8回	「ふつう」に働くことってなんだろう？ (1)	男女雇用機会均等法とコース別雇用管理（＝事実上の男女別採用）、多様な働き方の拡大、といった「働くこと」やその選択について捉えるための社会学の概念を紹介します。
第9回	「ふつう」に働くことってなんだろう？ (2)	なんで働かなきゃいけないのか？ 多様な働き方はみんなをハッピーにするのか？ …働くことの「ふつう」について社会変動の観点を踏まえて問い直します。
第10回	「ふつう」に働くことってなんだろう？ (3)	なんで働きたいのか（または働きたくないのか）の意見交換をします。働くことに関する自由な意見を理解しつつ、自分のキャリアを見つめる機会にしたいと思います。
第11回	「ふつう」の町ってなんだろう？ (1)	都市型社会、コミュニティ、ジェンダーフリー型都市といった概念を理解します。自分たちが暮らす場所の「ふつう」を問い直すために。
第12回	「ふつう」の町ってなんだろう？ (2)	都会と田舎どっちに住むべき？ このまちは愛すべき場所なのか？ …地域社会のあり方を考え直すことで、キャリアの形成の多様性を見直すことを目指します。
第13回	「ふつう」の町ってなんだろう？ (3)	自分の気に入っている場所や気に入らない場所について観察してみましょう。地域社会のさまざまな「場」について考えたいと思います。
第14回	まとめ・総括…あらためて「ふつう」を見直すこと	授業全体をふりかえって改めて社会のさまざまな「ふつう」について問い直します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習として重要なことは、1回1回の授業からキャリアと社会学の視点・発想を学び、考え方の筋道を把握した上で、それをしっかりと消化し、次回以降の授業のベースをつくることです。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
授業中に随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】
期末レポート（７０%）、平常点（３０%）。
期末レポートについては、社会学の基本的な視点・発想の理解度をふまえた上で、レポートの達成度の状況を基準とします。

平常点については、小レポート、受講態度の状況を基準とします。欠席時間数が授業時間数の３分の１を超えた場合、もしくは、受講態度があまりにも悪い場合、不合格となります。なお、欠席時間数については、自己管理でお願いします（個別の問い合わせには応じられません）。

【学生の意見等からの気づき】
身近な具体的事例を多く取り入れることで理解を促進するというスタイルを継続していきたいと思います。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In modern society, career options are shaped by society, and we choose them. Sometimes we accept this as a matter of course, but I think that we rarely stop to think about why and how it has been established as a social consensus. Sociology provides a number of basic concepts that can be used as tools for this purpose, and building your own thoughts based on these concepts is essential for understanding the relationship between careers and society. In this lecture, we will introduce the basic concepts of sociology and work on developing the ability to understand social phenomena related to careers.
【Learning Objectives】
(1) To understand the individuals who build their careers and the society in which they live.
(2) To deepen understanding of the historical and regional development of human relationships and social phenomena by applying sociological thinking methods, and to be able to explain the current situation and issues in one's own words.
【Learning activities outside of classroom】
The important thing to do as preparation is to learn the perspectives and ideas of career and sociology from each lesson, grasp the line of thought, digest it thoroughly, and use it as a base for the next lesson and beyond.
The standard amount of time for preparation and review for this lesson is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
Final report (70%), class participation (30%).
The final report will be assessed on the basis of your understanding of the basic perspectives and ideas of sociology, as well as the quality of the report itself.
Class participation will be assessed on the basis of your performance in the short reports and your general attitude towards the course. If you miss more than one third of the classes, or if your attitude is deemed to be too poor, you will fail the course. Please manage your own attendance (we cannot respond to individual enquiries).

SOS200MA（その他の社会科学 / Social science 200）

キャリア政策基礎

武石　恵美子

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：木2/Thu.2　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、キャリアデザインに関連する政策の基礎について学びます。個人のキャリア選択は、それを取り巻く社会状況と密接に関連しており、この関係性を正しく理解することは不可欠です。特に、社会制度や法律などの社会政策は、キャリア形成のプロセスに深く関わっています。これに関して理解を深めるとともに、政策の課題を考える能力を養うことを目的に、この授業では、キャリア教育政策、家族形成などのライフキャリアに関する政策、職業選択や働き方に関する政策について、その変遷や背景と現状・課題に関して国際比較を交えながら講義をします。また、社会政策の展開は、個人の行動が社会として望ましい方向に向かうことが期待されますが、実際にはその通りにならないこともあります。これを説明する理論として行動経済学の「ナッジ理論」についても講義をして、キャリア政策について多角的に考えます。

【到達目標】
社会制度や法律などの社会政策がキャリア形成にいかに深く影響しているかについて理解を深めるとともに、それら政策における課題を批判的に分析・評価する能力を養うことを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP1」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
パワーポイントのスライドを用いた授業を行います。学習支援システムで資料を事前配布するので、この資料を準備して出席してください。資料がないと授業の理解が難しくなります。また、欠席した場合には、資料で内容を確認しておいてください。
授業に関する連絡や授業計画等の変更がある場合には、学習支援システムで連絡するので、随時確認をお願いします。
また、授業の初めに、学生からのコメントや質問を取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業のガイダンス、キャリア政策の基礎	授業ガイダンス。社会政策、キャリア政策概論。なぜ今「キャリア政策」を学ぶのか。
第2回	キャリアを取り巻く社会変動 教育政策①　キャリア教育の目的と変遷	キャリアを取り巻く変化（VUCA）について。 学校教育におけるキャリア教育の目的とその背景、変遷。
第3回	教育政策②　学校から仕事への移行、リスキリングと生涯学習	学校から仕事への移行の在り方の変化と関連する政策。インターンシップ制度。社会人の学び直し（リカレント教育）やリスキリングの重要性。
第4回	ライフ・イベントと社会政策①ジェンダー構造と社会政策	ジェンダー構造の国際比較と日本の課題。男女共同参画政策。性的マイノリティに関する政策。
第5回	ライフ・イベントと社会政策②　少子化対策、結婚・出産・子育て支援	少子化の状況と少子化対策の変遷（国際比較を含む）。結婚・出産・子育て支援の考え方と政策の変遷。現状と課題。
第6回	ライフ・イベントと社会政策③　共働き・共育て。高齢化対策	子育てにおける「共働き・共育て」の重要性。 人口高齢化と社会保障政策。
第7回	労働政策①　公正な働き方の実現	働くことの基礎にある適正な労働条件の確保。公正な処遇の実現、ハラスメント対策。
第8回	労働政策②　ディーセントな働き方の実現	働きやすく働きがいのあるディーセントな仕事とは何か。ジェンダー平等、ダイバーシティ経営。
第9回	労働政策③　多様な働き方のルール化	働き方改革の議論の変遷と関連する政策。ワーク・ライフ・バランス政策とは何か。
第10回	労働政策④　社会構造の変化と雇用システム	日本の雇用システムと社会構造の変化に伴う課題。メンバーシップ型雇用とジョブ型雇用の比較検討。働き方を取り巻く課題。
第11回	行動経済学・ナッジによる政策デザイン　①キャリアにおける意思決定とナッジの基礎	キャリア政策を実効性あるものにするうえで、個人の行動のパターンを行動経済学の視点から考える。行動経済学およびナッジの基礎。
第12回	行動経済学・ナッジによる政策デザイン　②ナッジで変える行動	ナッジを活用した政策の事例。
第13回	総括	講義の総括、まとめ。 キャリア政策の課題、これからのキャリア政策
第14回	授業内試験	授業内容の理解度を確認するため、授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備時間と復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
特になし。授業内でテーマに関連する文献を提示。

【成績評価の方法と基準】
評価は、平常点（発表やディスカッションなど授業への主体的な参加）60％と授業内試験40％で行います。

【学生の意見等からの気づき】
授業の最初の時間を使って、前回の復習を行うことで学生の講義内容への理解を深めます。また、質問があればいつでも質問をしていただき、それを授業で取り上げることで学習効果を高めていきたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
また、受講者の状況をみて、授業内容を変更する場合があります。

【Outline (in English)】
【Course outline】In this course, students will learn the fundamentals of policies related to career design. Individual career choices are closely intertwined with prevailing social conditions; therefore, gaining a proper understanding of this relationship is essential. In particular, social policies — including social systems and legislation — deeply influence the process of career formation.To deepen students' understanding of these dynamics, this course provides lectures on various policy areas: career education, life-career (such as family formation), and occupational choice and working styles. We will examine their historical transitions, underlying backgrounds, current status, and contemporary challenges.

Furthermore, while the development of these social policies is intended to guide individual behavior toward socially desirable outcomes, this is not always the case in practice. To explore this discrepancy, the course will also introduce "Nudge Theory" from the field of behavioral economics. By incorporating this theoretical perspective, students will be encouraged to think about career-related policies from multiple angles.
【Learning Objectives】 are to deepen students' understanding of how social policies, such as social systems and legislation, profoundly influence career formation, and to cultivate the ability to critically analyze and evaluate challenges within these policies.
【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】 Final grade will be calculated according to the following process.
Term-end examination (40%) and in-class contribution(60%).

LAW200MA（法学 / law 200）

キャリアと労働法

砂押　以久子

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：木3/Thu.3　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この授業では、雇用をめぐるさまざまな問題を法制度の観点から考察し、社会で働く上で必要な法律の知識を習得することを目的とします。

【到達目標】
　現在、就労をめぐる問題が山積しています。中でも、長時間労働に関しては、近年、過労によるうつ病自殺の事件が大きく報道されるに至り、長時間労働が社会的問題として広く認識されるようになりました。このような状況下において、「働き方改革」が断行されたわけですが、この「働き方改革」をめぐっては、新たにいくつかの問題が提起されており、議論の必要性が指摘されています。
　また、非正規雇用の問題に関しては、さまざまな法規制がなされてきてはいますが、非正規社員と正規社員との間の格差は依然として存在し、問題が解決されているとはいえません。この問題について、どのような解決法が考えられるか、今後のあり方について、検討を加えたいと考えます。
　このほか、雇用におけるジェンダーギャップの問題も完全に解決されたわけではありません。
　さらに、わが国の生産性が国際的にどんどん低下する中、雇用の流動性なども図られるべきではないか等の議論もなされています。
　この授業では、労働法が労働者保護の観点からどのような制度を用意しているのかについて学び、上記のような雇用をめぐる現代的問題をも検討しつつ、実施の就労の現場で、働く者として不利益を被らないために必要となる知識の習得を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
　授業形態としては、講義形式を用います。授業の具体的内容については、授業計画に示します。
　教科書を用い、教科書の内容に沿って授業を進めていきます。
　テーマによっては、授業内にリアクションペーパーの提出を求めます。提出してもらったリアクションペーパーに関しては、次回の授業において可能な限りすべて取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、さらに議論を深めることとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス 労働法とは？	授業をどのように行うかについての詳細を示します。 雇用に関するルールの概要を学びます。
第2回	採用から入社まで	採用内定取消しなどの問題を取り上げ、採用内定等の法的性質を学びます。
第3回	賃金	賃金保障がどのようになされているか学びます。
第4回	労働時間	労働時間規制がどのようになされているかについて学びます。
第5回	長時間労働をめぐる問題①	長時間労働をめぐりどのような問題が生じているかを指摘します。
第6回	長時間労働をめぐる問題②	長時間労働をいかに防ぐかについて検討します。
第7回	家庭と仕事の両立	休暇制度の仕組みについて学びます。少子化対策で様々な法制度ができていますが、実際にはどのような問題が起きているのか学びます。
第8回	雇用差別	雇用におけるさまざまな差別問題を取り上げ、検討します。
第9回	人事制度	人事制度をめぐるさまざまなルールを学びます。
第10回	懲戒制度と内部告発（公益通報）	懲戒制度に関し具体的な問題を取り上げ、学びます。なかでも、最近問題になっている内部告発（公益通報）について検討します。
第11回	ハラスメント	職場におけるハラスメントの実態とその予防について学びます。
第12回	雇用の終了	雇用の終了の仕方には、解雇・合意解約・退職があります。それぞれの問題について学びます。
第13回	非正規雇用	正社員と有非正規社員の違い及びその問題について学び、今後の解決策について検討します。
第14回	試験・まとめと解説	授業の内容が理解できたかについて確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　授業で学んだことを現実の問題として受け止め、雇用社会はいかにあるべきか常に考えることを心掛けてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
　砂押以久子『教えて！ 働くなら知っておきたい法律の知識 労働法講義』自由国民社（2024年）1800円

【参考書】
　菅野和夫『労働法〔第１３版〕』弘文堂
　荒木尚志『労働法［第６版］有斐閣
　浅倉むつ子・島田陽一・盛誠吾『労働法[第６版]』有斐閣アルマ
　別冊ジュリスト『労働判例百選〔第１０版〕』有斐閣
　『労働法の争点』有斐閣

【成績評価の方法と基準】
　学期末に授業内試験を実施します。
　平常点（リアクション・ペーパーなど)（２０%）と試験の点数（８０%）によって成績評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】
　取り上げるテーマに関して、具体的に生じている問題を指摘したうえで、法的に何が問題なのか、どのように解決が図られるべきかについて検討します。受講生からの質問・意見を受け付け、フィードバックを行います。

【学生が準備すべき機器他】
　必要に応じDVD・ビデオ教材を用います。

【その他の重要事項】
　授業内容については、シラバスに示した内容に沿って行うことを前提としますが、授業の進行状況により取り上げるテーマの順序が多少前後したり、その時々の雇用情勢により取り上げるテーマが変更になる場合があること、それに伴い、オンライン授業・対面授業も変更になることを予め了承いただきたく存じます。なお、授業内容に変更がある場合は、できるだけ早い段階で、事前にお知らせします。

【Outline (in English)】
【Course outline】
The aim of this course is to help students acquire getting the fundamental legal knowledges - especially labor law related mattes.
【Learning Objectives】
The goal of this course is to acquire the correct legal knowledge of labor law to avoid suffering disadvantage as a worker in real business world.
【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policies】
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Term-end examination: 80%, Short reports : 20%

SOC200MA（社会学 / Sociology 200）

キャリアとコミュニティ論

森屋　雅幸

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：木4/Thu.4　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地域のコミュニティは、あらゆる世代の多様な市民が活躍する場となり、生きがいをもって生活を送るという点で、人の生き方（ライフキャリア）と密接に関わっている。近年、こうした観点から都市部や地方における地域づくりの目標に地域のコミュニティの再生が掲げられ、さまざまな取り組みが自治体や市民によって取り組まれている。本授業では、おもに地域の文化との関わりをテーマとして、地域のコミュニティと市民のライフキャリアのつながりを、政策や各地の事例を通して理解することを目的とする。

【到達目標】
地域のコミュニティと市民のライフキャリアのつながりを地域の文化の関わりから理解し、このつながりが現代の地域づくりにどのようなインパクトを与えているのか考察し、説明することができることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
基本的に講義形式の授業を実施する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックするなど、受講者との双方向の授業を意識して実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス／ライフキャリアと地域のコミュニティ	授業の進め方について説明する。／市民のライフキャリアと地域のコミュニティの関わりについて説明する。
第2回	コミュニティデザインの歴史Ⅰ	地域文化が国の政策としてどのように取り扱われてきたのか、地域づくりとの接点を含めて、文化政策の観点から講義する。
第3回	コミュニティデザインの歴史Ⅱ	日本におけるコミュニティ政策の歴史と、そこに地域の文化がいかに介在してきたのか講義する。
第4回	市民活動とコミュニティⅠ	日本における市民活動と地域文化の関わりについて、文化財保存運動をテーマに講義する。
第5回	市民活動とコミュニティⅡ	近年の文化財保護政策において、地域のコミュニティと市民活動の関わりはどのように捉えられているのか、また、文化財保護政策でコミュニティと市民活動はどのように構想されてきたのか講義する。
第6回	地域文化財とコミュニティⅠ	お祭りなどの無形民俗文化財がコミュニティとライフキャリアにどのように結びついているのか講義する。
第7回	地域文化財とコミュニティⅡ	地域の文化財建造物を拠点に活動するNPOの取組みが地域課題の解決にいかに結びつくのか講義する。
第8回	地域文化財とコミュニティⅢ	地域の文化財建造物を拠点に活動する地域の任意団体の取組みをその歴史とともに紹介する。
第9回	地域文化財とコミュニティⅣ	市民が無形文化財の継承活動を地域博物館を拠点に展開する事例を紹介する。
第10回	地域文化財とコミュニティⅤ	文化財の内、史跡の保存と活用について、地域との関わりを踏まえて講義する。
第11回	地域博物館におけるコミュニティの活動Ⅰ	地域を丸ごと博物館として、市民主体で活動するエコミュージアムの理念や実践について日本国内の事例を紹介する。
第12回	地域博物館におけるコミュニティの活動Ⅱ	科学館における天文と市民をつなぐ活動を紹介する。
第13回	地域文化活動と地域の居場所	現代の社会で求められる「居場所」と地域文化活動の関わりについて講義する。
第14回	試験・まとめと解説	本授業のまとめ・解説をするとともに、到達目標を達成できたか確認する筆記試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の授業で取り上げた事例について、自主的に参考書に示した文献やインターネット等で調べて、準備学習・復習に努めること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
講義資料を必要に応じて配布する。

【参考書】
小田切徳美『農山村再生―『限界集落』問題を超えて―』（岩波書店、2009年）
広井良典『コミュニティを問いなおす―つながり・都市・日本社会の未来―』（筑摩書房、2009年）
森屋雅幸『地域文化財の保存・活用とコミュニティ―山梨県の擬洋風建築を中心に―』（岩田書院、2018年）
森屋雅幸『人間回復の場としての地域博物館―つながりとコミュニティの生成を目指して―』（東信堂、2025年）

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパー・授業への貢献（40％）、期末試験（60％）

【学生の意見等からの気づき】
アクティブラーニングを心がけた授業に取り組む。

【学生が準備すべき機器他】
出席は学習支援システム (WebClass) で確認するため、教室でインターネットにアクセスできるスマートフォン、ノートPCなどを準備しておくこと。

【その他の重要事項】
理由なく5回以上欠席した場合、成績評価しない。
理由なき早退・遅刻は3回で1回の欠席として扱う。
出席は初回授業からとる。
授業の詳細や方法についてHoppiiでアナウンスする場合があるため、アナウンスに留意すること。

【Outline (in English)】
Local communities are closely related to life careers in that they provide a place for diverse citizens of all ages to play an active role and live a life worth living. In recent years, the revitalization of local communities has become a goal of regional development in urban and rural areas, and a variety of initiatives are being undertaken by local governments and citizens. In this class, the main theme is the relationship with local culture, and the objective is to understand the connection between local communities and the life careers of citizens through policies and case studies from around Japan.

CAR100MA（キャリア教育 / Career education 100）

ファシリテーション論

徳田　太郎

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：火4/Tue.4　｜　配当年次：1〜4年
備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞
授業コード：C5030
科目名：ファシリテーション論
＜2024年度以前入学者＞
授業コード：C5030
科目名：ファシリテーション論
※入学年度によらず同一授業コード・科目名称
その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
持続可能な社会の担い手に求められるスキルとマインドの一つとして「ファシリテーション」を挙げることができる。ファシリテーションとは、参加型の場をつくることで、多様な人々による共創や協働を支援・促進する働きかけである。本授業においては、現代社会の課題解決におけるファシリテーションの意義、効果的なファシリテーションを行うための基礎的な知識や技術、およびファシリテーターとして行動するための心構えを、講義と演習を通じて理解・習得する。

【到達目標】
・参加者主体の話しあいや課題解決の方法論と、そのような場におけるファシリテーションの意義や役割を説明することができるようになる。
・社会における連携や協働の実現の鍵となる「当事者としての主体性」や「相互作用による創造性」を育むための働きかけができるようになる。
・演習での体験を通じ、メンバーの個性を活かし、ともに協力しあうチームを育んでいくためのリーダーシップを発揮できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
・第1回：オリエンテーションとして、授業の内容と進め方を確認する。
・第2回〜第4回：講義と質疑応答を中心に、ファシリテーションに関する基本的な考え方を学習する。
・第5回〜第12回：話しあいにおけるファシリテーションの技術を、各回それぞれ異なる技術に焦点を当てつつ、演習と解説を中心に習得する。
・第13回：それまでに学んだスキルとこころを活かして、実際に参加型の場を企画・運営し、相互にフィードバックを行う。
・第14回：まとめの講義と、授業内試験（レポート）を行う。
＊第1回〜第13回は、各授業時間の最後の10分程度を「振り返りシート」の作成に充てる（毎回提出のこと）。振り返りシートについては、次の回にいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。また演習におけるファシリテーターとしての（また参加者としての）言動については、その都度フィードバックを行う。
＊大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は、学習支援システムで通知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の内容と進め方を確認する（講義）
第2回	ファシリテーションとは何か	ファシリテーションの全体像を学ぶ（講義・演習）
第3回	ワークショップとは何か	ワークショップの全体像を学ぶ（講義・演習）
第4回	話しあいとは何か	話しあいにはモードがあることを学ぶ（講義・演習）
第5回	話しあいの場をつくる技術①空間のデザイン	物理的な「場」の影響を学ぶ（講義・演習）
第6回	話しあいの場をつくる技術②オリエンテーション	「方向づけ」の方法を学ぶ（講義・演習）
第7回	話しあいの場をつくる技術③チェックイン	「雰囲気づくり」を学ぶ（講義・演習）
第8回	話しあいの場をホールドする技術①発問	話しあいの「活性化」を学ぶ（講義・演習）
第9回	話しあいの場をホールドする技術②可視化	話しあいの「構造化」を学ぶ（講義・演習）
第10回	話しあいの場をホールドする技術③アイデアの発散〜集約	アイデアの発散〜集約の技術を学ぶ（講義・演習）
第11回	話しあいの場をホールドする技術④意見の吟味	対立解消・合意形成の技術を学ぶ（講義・演習）
第12回	プログラムを組み立てる技術	参加型の場を企画する方法を学ぶ（講義・演習）
第13回	ファシリテーション実践	参加型の場（ワークショップ）の運営を体験する（演習）
第14回	まとめ	まとめ（講義）および授業内試験（レポート）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。
・第2回〜第4回：予習として、テキストをよく読み、疑問点・質問事項を明確にすること。復習として、テキストやノートを読み返し、学んだことを整理すること。（予習・復習各120分程度）
・第5回〜第12回：予習として、各回の授業で指示するテーマにつき、テキストをもとに、「どのようなときに」「どのような働きかけを」「どのような点に留意して」行うと効果的かを説明できるよう準備すること。復習として、学んだことをどのように実践・活用・応用できるかを考え、ノートにまとめること。（予習・復習各120分程度）
・第13回：予習として、講義内容全体を振り返り、しっかりと準備をして演習に臨むこと。復習として、演習を通して学んだことや不十分なところを整理し理解しておくこと。（予習・復習各120分程度）

【テキスト（教科書）】
徳田太郎・鈴木まり子『ソーシャル・ファシリテーション：「ともに社会をつくる関係」を育む技法（改訂版）』（2024年4月、北樹出版、ISBN：978-4-7793-0747-8）。授業は、テキストを予習していることを前提に進める。

【参考書】
・中野民夫・森雅浩・鈴木まり子・冨岡武・大枝奈美『ファシリテーション：実践から学ぶスキルとこころ』（岩波書店、2009年）
・堀公俊 『ファシリテーション・ベーシックス：組織のパワーを引き出す技法』（日本経済新聞出版社、2016年）

【成績評価の方法と基準】
到達目標に記した3点について、小課題（各回の振り返りシート）の質と量（約60%）、レポート課題（授業内試験）（約20%）、発言や質問・演習など授業への参加度（約20%）から、総合的に評価する。期末の筆記試験は行わない。

【学生の意見等からの気づき】
「振り返りシートをもとにした講義展開」が好評であったため、引き続き各回の授業は「約3分の1が前回学習内容の深耕、約3分の2が新規学習内容の解説・体験」という漸進的な進め方を採用する。また、毎回くじ引きでグループを構成し、異なるメンバーで話しあいを行う方法も好評であったため、今年度も同様のグループ構成を採用する。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布や課題提出に、学習支援システムを使用します。

【その他の重要事項】
グループでの話しあいを中心にした体験型の授業です。履修希望者が多い場合は、受講者数を限定する可能性があります。その際、第1回授業の出席者を優先しますので、履修希望者は、必ず第1回授業に出席してください（第1回授業はオンラインで実施します）。

【実務経験のある教員による授業】
2003年にファシリテーターとして独立、以降、市民活動や地域づくり、医療・福祉、教育・文化などの領域を中心に、全国各地で会議やワークショップ等のファシリテーターとして実務経験を積む。それに関連して、実際の現場での事例をもとに、具体的なイメージをもつことができる授業を行う。

【Outline (in English)】
（Course outline）
Facilitation is one of the skills and mindsets required of the leaders of a sustainable society. It is an approach that supports and promotes co-creation and collaboration among diverse people by creating a participatory space. In this course, you will understand and acquire the significance of facilitation in solving the problems of modern society, the basic knowledge and skills for effective facilitation, and the mindset for acting as a facilitator through lectures and exercises.
（Learning Objectives）
1. You will be able to explain the methodology of participant-centered discussion and problem solving, and the significance and role of facilitation in such settings.
2. You will be able to work toward fostering "subjectivity as a party" and "creativity through interaction," which are the keys to the realization of cooperation and collaboration in society.
3. Through the experience of the exercises, you will be able to demonstrate leadership in fostering a team that utilizes the individuality of its members and cooperates together.
（Learning activities outside of classroom）
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
（Grading Criteria /Policies）
Your overall grade in the class will be decided based on the following;
short reports: 60%, term-end report: 20%, in class contribution: 20%.

CAR100MA（キャリア教育 / Career education 100）

若者と自立支援

大山　宏

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：土2/Sat.2　｜　配当年次：1〜4年
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
子ども・若者の貧困への注目や、若者の就労支援の社会的課題としての位置づけ等、近年は若者支援に対する社会的関心が高まっている。その背景には現代日本の社会構造により引き起こされる若者の困難状況があり、そうした状況下にある若者がどのように社会と関わっていくことを想定するかが問われている。しかし一方で、自立した若者のあるべき姿については、個人の努力で達成すべきものとみなされがちでもあるが、若者支援の実践では若者に対しては経済的な観点のみにとどまらない、包括的な支援が求められているといえる。
この講座では、若者が陥っている困難状況について具体的な事例等を用いながら知り、若者が社会とどのように関わっていくべきかを考えることを通し、若者に対してどのような支援が必要なのか検討する。

【到達目標】
１．若者の社会的な困難状況の実態と、その社会構造的背景について理解する。
２．若者支援のあり方に対する、同時代を生きる若者としての自らの視点を獲得する。
３．若者支援の具体的なプログラムを試作することを通して、若者支援の実践について知り、その現状と課題について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業形態については基本的に対面の講義形式で行う。
ただし授業の進行度に応じてアクティブラーニング（ディスカッション等）を実施する可能性がある。
また、授業の最後に毎回リアクションペーパーの課題を出すこととする。
提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、次の授業のはじめに全体に対してフィードバックを行う。
この他、授業の進め方については適宜変更を行う場合がある。
その場合、授業内での告知の他、学習支援システム等を活用して周知するので、連絡はこまめに確認をしておくことを求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義の内容や進め方について
第2回	若者支援の目的	若者支援の目的と各種政策・実践のキーワードの整理
第3回	「就業」と生きづらさ	「就業」を基盤とした自立についての検討
第4回	若者の生きづらさへの対応	日本型青年期・関係性の貧困・居場所
第5回	支援の双方向性	支援という行為の構造について
第6回	困難を有する若者への支援	若者世代が抱えやすい課題の整理と、課題を抱えた若者への対応について
第7回	参画支援	若者と社会の関係性について
第8回	対話への参加	相互に影響を与え合う関係性に、若者が参加していく構造について
第9回	現代的な自立の検討	現代社会における自立概念の射程について
第10回	若者と社会	若者と社会の関係性を取り持つ支援のあり方について
第11回	社会の創り手としての若者	自立として若者に求められる要件を、社会への適合と、社会の変革の双方の視点から整理する
第12回	支援の構想	具体的な支援手法の検討
第13回	若者支援の範囲	若者支援の領域で対応すべき課題の多様さについて
第14回	総括 若者の自立支援とは	自立の要件 若者支援の課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自己の経験に照らし合わせながら、若者に必要な支援について考える。参考書としてあげた文献を読んでおく。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
『〈学校から仕事へ〉変容と若者たち』乾彰夫・青木書店
『二極化する若者と自立支援』宮本みち子・小杉礼子編著・明石書店
『若者の居場所と参加』田中治彦・荻原建次郎編著・東洋館出版社
『子ども・若者の参画』子どもの参画情報センター編・萌文社
『若者と社会変容』アンディ・ファーロング/フレッド・カートメル・大月書店
など。

【成績評価の方法と基準】
平常点（リアクションペーパー・オンライン授業での様子）：４０％
レポート：６０％

【学生の意見等からの気づき】
具体的な事例について触れることが、理解度の向上につながるという意見が多数寄せられており、今年度もできるだけ具体的に現場の様子等が伝えられるように授業を行っていく。
また、前年度は毎回の授業で提出してもらうリアクションペーパーに対する返しを重点的に行い、授業のやる気につながったという声が多く寄せられたため、今年度も継続していく。

【学生が準備すべき機器他】
レジュメは授業前に学習支援システムにアップロードするので、それを見られるようにすること。
また、レポート提出等にも学習支援システムを利用する。

【Outline (in English)】
【Course outline】
The difficult situation of young people is at the core of a social issue "young people's independence".
In this lecture, you can study about the difficult situation of young people from specific case, and can consider the method of youth support.
【Learning Objectives】
The goals of this course are to understand why young people face socially difficult situations, and understand how to create a program to support young people.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
reports : 60%、in class contribution: 40%

CAR100MA（キャリア教育 / Career education 100）

労働市場と職業選択

上西　充子

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：火5/Tue.5　｜　配当年次：1〜4年
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では若者の学校から職業への移行過程を、若者と企業、双方の視点から、また労働市場の動向との関連において理解し検討できるようになることを目指します。
なぜ日本では職種を限定しない就職が一般的なのか、企業は経験者ではない新卒者に何を期待しているのかを理解し、近年の変化にも目を向けます。
さらに、アルバイトのトラブルを手がかりに、労働法への理解を促し、職場の労務管理や労働条件に注目することの必要性を理解します。

【到達目標】
個人のキャリアにおける大きな節目となる「学校から職業への移行期」の意味と課題を、一歩引いた俯瞰的な視点で多面的に捉えられるようになる。
大学生の就職と初期キャリアに関する論点を適切に理解し、自らの就職にも生かしていくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業ではレジュメに沿って解説や問題提起を行った後に、授業内容に沿ったミニ・レポートを計６回、授業内外で書きます。書くことを通して自分の考えを整理してください。ミニ・レポートの主な内容は次回の授業でフィードバックし、多面的なものの見方を促すと共に理解を深めます。加えて中間と期末、２回の授業内試験（論述試験）を実施します。
初回の授業はオンライン（Zoom）で実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	講義のテーマ、到達目標、受講上の注意、評価方法、文献紹介（Zoomで実施）
第2回	大卒労働市場を考える	卒業生の進路状況と早期離職状況、社会情勢との関係
第3回	企業は採用選考で何を評価しているのか	採用プロセスと選抜
第4回	新卒採用と中途採用／ジョブ型雇用とメンバーシップ型雇用	ジョブ型雇用・メンバーシップ型雇用の特徴と日本の現状
第5回	職業興味と職業適性	職業興味、職業適性と能力、企業の人材育成方針
第6回	アルバイトから考える労働問題	アルバイト就労の現状と問題
第7回	アルバイトと労働法	アルバイトのトラブルに即して労働法を理解する
第8回	職場の問題への向き合い方	「嫌ならやめればいい」のか、を考える
第9回	中間試験	中間試験実施
第10回	「まともな職場」とは	労働組合の役割、長時間労働と職場内規制
第11回	就職プロセスと労働条件	就職プロセスと就職支援会社の役割、労働条件への着目の重要性
第12回	労働条件・職場実態に関する客観情報の活用	「就職四季報」「女性の活躍推進企業データベース」などの活用
第13回	内定・就職をめぐるトラブル	労働契約としての就職／内定・就職をめぐるトラブルと関係法令、対処法
第14回	期末試験	期末試験実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
社会情勢の変動とそれを踏まえた論考に常日頃からアンテナを張り、読み解く習慣をつけること。新聞の購読（WEB版の有料購読を含む）を強く勧める。授業で紹介する記事や文献なども積極的に参照すること。
中間試験・期末試験に向けて、授業内容を振り返り、理解を深めておくこと。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
毎回の授業時に学習支援システムの教材欄にレジュメを掲示する。

【参考書】
さしあたり下記を挙げておきます。
・濱口桂一郎（2009）『新しい労働社会』岩波新書
・濱口桂一郎（2013）『若者と労働』中公新書ラクレ
・石田眞・浅倉むつ子・上西充子（2017）『大学生のためのアルバイト・就職トラブルQ＆A』旬報社
・駒川智子・金井郁（2024）『キャリアに活かす雇用関係論』世界思想社
・東洋経済新報社編『就職四季報　総合版』東洋経済新報社
・厚生労働省「知って役立つ労働法」WEB公開

【成績評価の方法と基準】
授業内外で計6回実施するミニ・レポート（配点50点）と中間試験（配点20点）、期末試験（配点30点）により評価する。なお、ミニ・レポートの提出が0〜2回の学生や、ミニ・レポートまたは中間試験・期末試験において代筆・剽窃などの不正行為が判明した学生には、単位を付与ししない（E評価とする）。詳しくは初回の授業で説明するので、必ず確認すること。

【学生の意見等からの気づき】
受講者からは、就職活動に役立った、アルバイトの働き方を見直すきっかけとなった、といった感想がみられる。
ミニ・レポートの執筆とフィードバックに加え、アクティブラーニングの機会を工夫したい。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを通じてレジュメの配布を行う。
オンラインの授業はZoomで行う。

【その他の重要事項】
初回の授業で授業の進め方や評価の方法、課題などの説明を行うため、必ず確認すること。なお、初回の授業はオンラインで実施する。ZoomのURLは学習支援システムの「お知らせ」にて連絡する。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course is designed to provide students with a basic understanding of the transition from school to work. The main topics include characteristics of the transition from school to work in Japan, career decisions, labor issues, and labor laws.
【Learning Objectives】
At the end of the course, students are expected to understand various issues related to employment and early careers, and apply them to their own employment.
【Learning activities outside of classroom】
Students will be expected to read newspaper articles and recommended books. Your study time will be more than four hours for a class.
【Grading Criteria/Policies】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Short reports: 50%, Mid-term examination: 20%, Term-end examination: 30%

CAR100MA（キャリア教育 / Career education 100）

ジェンダーと労働

上西　充子

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木1/Thu.1　｜　配当年次：1〜4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、男女の働き方の現状と課題を歴史的な経緯を踏まえて考えます。ワーク・ライフ・バランスへの配慮や雇用形態の多様化は、評価しうるものなのか、どこに課題があるのか、理解を深めることを通して、現実的なキャリア選択をみずから考えられるようになること、さらに、働き方の改善に社会人としてみずからかかわっていけるようになることが、本授業の目的です。

【到達目標】
男女の働き方の現状と課題を歴史的な経緯を踏まえて理解する。
雇用形態の多様化が若年期のキャリアに及ぼす影響を理解する。
まともな働き方を志向し、実現していくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業ではレジュメに沿って解説や問題提起を行った後に、授業内容に沿ったミニ・レポートを計６回、授業内外で書きます。雇用と労働をめぐる歴史的推移と現状を理解した上での考察であることを重視します。ミニ・レポートの主な内容は次回の授業でフィードバックします。加えて中間と期末、２回の授業内試験（論述試験）を実施します。
初回の授業はオンライン（Zoom）で実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	講義のテーマ、到達目標、受講上の注意、評価方法、文献紹介（Zoomで実施）
第2回	女性の働き方をめぐる法制度の変遷	男女雇用機会均等法と育児・介護休業法
第3回	コース別雇用管理	統計的差別／コース別雇用管理の実態
第4回	コース別雇用管理の変容と企業による女性活用の現在	正社員女性の戦力化の現状
第5回	派遣労働を考える	派遣労働の歴史的推移と問題点
第6回	雇用ポートフォリオと非正規労働	雇用ポートフォリオ／企業と労働者の双方から見た非正規雇用
第7回	中間試験	中間試験実施
第8回	非正規雇用の処遇改善／雇用によらない働き方	無期転換と同一労働・同一賃金／雇用によらない働き方の特徴と課題
第9回	男女の働き方とワークライフバランス	ケアレスマン・モデルと夫婦の生活時間・仕事時間
第10回	長時間労働とワーク・ライフ・バランス	残業の法的根拠と長時間労働の実態
第11回	長時間労働の規制と労働時間管理	働き方改革と勤務間インターバル規制
第12回	女性の管理職登用	女性の管理職登用とクリティカル・マス、男女の賃金格差の是正
第13回	転勤を考える	転勤をめぐる課題と企業の対応
第14回	期末試験	期末試験実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
社会情勢の変動とそれを踏まえた論考に常日頃からアンテナを張り、読み解く習慣をつけること。新聞の購読（WEB版の有料購読を含む）を強く勧める。授業で紹介する記事や文献なども積極的に参照すること。
中間試験・期末試験に向けて、授業内容を振り返り、理解を深めておくこと。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
毎回の授業時に学習支援システムの教材欄にレジュメを掲示する。

【参考書】
さしあたり下記を挙げておきます。
・濱口桂一郎（2009）『新しい労働社会』岩波新書
・濱口桂一郎（2013）『若者と労働』中公新書ラクレ
・川人博（2014）『過労自殺　第二版』岩波新書
・メアリー・C・ブリントン（2022）『縛られる日本人』中公新書
・駒川智子・金井郁（2024）『キャリアに活かす雇用関係論』世界思想社
・厚生労働省「知って役立つ労働法」WEB公開
・石田眞・浅倉むつ子・上西充子（2017）『大学生のためのアルバイト・就活トラブルQ＆A』旬報社

【成績評価の方法と基準】
授業内外で計6回実施するミニ・レポート（配点50点）と中間試験（配点20点）、期末試験（配点30点）により評価する。なお、ミニ・レポートの提出が0〜2回の学生や、ミニ・レポートまたは中間試験・期末試験において代筆・剽窃などの不正行為が判明した学生には、単位を付与ししない（E評価とする）。詳しくは初回の授業で説明するので、必ず確認すること。

【学生の意見等からの気づき】
働き方をめぐる歴史的な変化と今日的な働き方との関係を、より理解できるように、努めていきたい。
ミニ・レポートのフィードバックに加え、アクティブラーニングの機会を工夫したい。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを通じてレジュメの配布を行う。
オンラインの授業はZoomで行う。

【その他の重要事項】
初回の授業で授業の進め方や評価の方法、課題などの説明を行うため、必ず出席すること。なお、初回の授業はオンラインで実施する。
ZoomのURLは学習支援システムの「お知らせ」にて連絡する。
春学期の「労働市場と職業選択」（「職業選択論Ⅰ」）を受講した上での受講が望ましい。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course is designed to provide students with a basic understanding of changes in the labor market and working styles. The main themes include diversification of employment patterns, long working hours, work-life balance, and gender equality.
【Learning Objectives】
At the end of the course, students are expected to understand issues related to changing labor market and work styles, and to apply the knowledge to realize decent work.
【Learning activities outside of classroom】
Students will be expected to read newspaper articles and recommended books. Your study time will be more than four hours for a class.
【Grading Criteria/Policies】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Short reports: 50%, Mid-term report: 20%, Term-end report: 30%

CAR100MA（キャリア教育 / Career education 100）

ライフコース論

百瀬　由璃絵

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木5/Thu.5　｜　配当年次：1〜4年
備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞
授業コード：C5034
科目名：ライフコース論
＜2024年度以前入学者＞
授業コード：C5034
科目名：ライフコース論
※入学年度によらず同一授業コード・科目名称
その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
個々人が人生の各段階でどのような課題を担っているのか、個々人の人生の様々な段階における経験や選択が、その後のキャリアや生活にどのように影響するのかを理解するための基礎的な知識を獲得します。特に、出生から高齢期にいたるまでの重要なライフイベントに注目し、その時代的な変化、国際比較等によるライフコースの多様性についての思考力を深めます。それとともに、ライフコースに関わる様々なデータの見方や解釈の仕方についても学ぶことで、実証的なアプローチ方法についても理解し、活用できるようにします。これにより、経営戦略論やキャリア開発論などのほかの理論の基盤となる知識を学んでいきます。個々人がどのようにして職業上のスキルや知識を習得し、キャリアを構築していくのかといったキャリア開発を考えるうえで、個々のライフステージやキャリアを考慮することが可能となります。また、従業員が人生の各段階で異なるニーズや価値観を持つことを理解することは、企業にとって、従業員のライフステージに応じた働き方や人材の最適な配置などの経営戦略を考えるうえでも重要です。

【到達目標】
この授業は、個人と社会の相互作用の中で生じるキャリアのパターンの多様性を理解し、個人の生き方や社会システムを検討することを目的とします。ライフコースの時代的な変化とその背景、国際比較を通じた社会構造とライフコースの関係性について理解を深め、少子化、雇用不安、格差問題といった現代社会の問題が、どのような社会的状況から生じているのか、その解決のために今何が求められているのか、といった課題設定を行い、それに「ライフコース」の視点からアプローチができるようになることが到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP1」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業は基本的に講義を中心に進めますが、グループディスカッションや発表、適宜ミニレポート等を書くことにより、出席を確認することもあります。フィードバックは授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション：ライフコースとは何か？	授業のオリエンテーション、ライフコースの概念
第2回	なぜ今ライフコース・アプローチなのか？	ライフサイクルとライフコースの違い、ライフコースの考え方の背景
第3回	ライフコース論の基礎	ライフコース論をとらえる視点、ライフコースへのアプローチの方法
第4回	児童期から青年期へ	児童期の変化、国際比較、ポスト青年期の登場
第5回	青年期から成人期へ	学校から職業への移行期の変化
第6回	社会変動とライフコース	社会変動がライフコースに及ぼす影響
第7回	ジェンダーとライフコース	ジェンダー概念、ジェンダーによるライフコースの特徴
第8回	成人期・家族形成	家族の形成(結婚)、結婚をめぐる変化、国際比較
第9回	成人期：出産、子育て	出産行動の変化とその背景、課題、少子化について
第10回	働き方	雇用システムの特徴、働き方との関わり、働き方の課題
第11回	女性のライフコース	女性のライフコースをめぐる変化、現状、課題
第12回	男性のライフコース	男性のライフコースをめぐる変化、現状、課題
第13回	高齢期	就業から引退へ、高齢期の就業、引退後の生活構造
第14回	まとめ	授業の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で使う資料は適宜配布する予定ですが、授業前に文献講読（英語を含む）などを求めることもあります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは指定しません。授業で適宜紹介します。

【参考書】
グレン・H・エルダー, Jr., ジャネット・Z・ジール編著・登張真稲ほか訳(2013)『ライフコース研究の技法 −多様でダイナミックな人生を捉えるために』明石書店.
武石恵美子(2023)『キャリア開発論 − 自律性と多様性に向き合う(第2版)』中央経済社.
Buchmann, M. (1989). The script of life in modern society. Entry into adulthood in a changing world. Chicago, Ill.: University of Chicago Press.
その他、授業の中でテーマに沿った参考文献を紹介します。

【成績評価の方法と基準】
評価は、試験結果と授業出席内容で行います。出席内容(ミニレポート形式、内容も重視する)は平常点として50％、期末試験50％。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline (in English)】
【Course outline】This course is intended that students acquire the knowledge about the theme that an individual faces at each life stage, the understanding about the resource included the social system. Conventionally, the life has been caught by the word "life cycle", but the life is unique individually, and the same pattern is not repeated. Students will be able to understand the background where "life course" came to attract attention of and understand the basics about the concept of " life course". In addition, they will learn about the way of a viewpoint and the interpretation of various data about life course.
【Learning Objectives】The goal of this course is to understand the diversity of career patterns that arise in the interaction between individuals and society, and to examine individual lifestyles and social systems.
【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】 Final grade will be calculated according to the following process
Term-end examination (60%) and in-class contribution(40%)

CAR100MA（キャリア教育 / Career education 100）

生活設計論

高尾　真紀子

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水4/Wed.4　｜　配当年次：1〜4年
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
これからの人生を考える上で将来の社会構造とリスクを理解し、リスクに備える必要があります。日本の人口減少と少子高齢化、それに伴う社会保障費の増加は日本社会にとって最大の課題となっています。本講義では、日本の少子高齢化、人口減少の経済・社会への影響について理解し、子育て支援、年金、医療、介護・福祉などの社会保障制度について必要な知識と多角的な考え方を学びます。知識や多角的な視点を得て、自分自身の生活設計に活かすとともに、どのような制度が望ましいのか等について議論し、考えを深めます。

【到達目標】
日本の人口構造の変化等の基本的な課題について理解し、社会保障の基本的な考え方と子育て支援、年金、医療、介護・福祉等の現状と制度について基礎的な知識を習得します。さらに社会保障制度について自分なりの考え方を持ち、自分の生活設計に活用できるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
この授業は講義形式を中心としますが、講義の内容を踏まえてグループディスカッション等を行います。リアクションペーパーのコメントや質問については適宜全体にフィードバックして議論を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の概要や授業の進め方について説明する
第2回	人口減少と少子高齢化	日本及び地域別の人口構造の変化と将来展望について講義し、その社会・経済的影響について議論する。
第3回	未婚化・少子化の背景と影響	少子化の経済・社会的背景とその影響及び子育て支援策について議論する。
第4回	少子化対策と子育て支援策	少子化対策と子育て支援策の現状について議論する
第5回	社会保障の基本的な考え方とウェルビーイング	社会保障の基本的な考え方とウェルビーイングについて議論する
第6回	格差と貧困	格差と貧困の連鎖の問題について議論し、生活保護等の制度を理解する
第7回	年金制度①現状と背景	日本の年金制度の現状と制度創設・制度改革の背景について理解する
第8回	年金制度②世界各国の制度と制度改革	各国の年金制度の比較等を通じて、どのような年金制度が望ましいのか、議論する。
第9回	医療制度①特徴と課題	日本の医療の特徴とその背景、医療保険制度の課題について理解する。
第10回	医療制度②制度改革の方向性	各国の医療政策を比較し、どのような医療政策が望ましいのか議論する。
第11回	介護保険制度①創設の背景と現状	公的介護保険創設の背景と介護の現状について理解する
第12回	介護保険制度②課題と改革の方向性	公的介護保険制度の課題について理解し、どのような介護政策が望ましいか議論する。
第13回	障害者福祉と就労支援	障害者の福祉や就労支援について理解し、誰もが地域で暮らせる共生社会について議論する。
第14回	授業内試験	各回の内容を踏まえた論述形式の試験を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
社会保障は身近な問題であり、ニュース等で取り上げられることも多いため、日頃から新聞、ニュース報道に接し、問題意識をもっておくことが望ましい。自分の関心のあるテーマについては参考図書に挙げた書籍を読んでおくと役に立つ。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間（計 4 時間）を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書はありません。毎回レジュメや参考資料を配布します。

【参考書】
エスピン－アンデルセン『福祉資本主義の三つの世界』2001年，ミネルヴァ書房
阿部彩『子どもの貧困』2008年，岩波新書　『子どもの貧困Ⅱ』2014年，岩波新書
池上直己『日本の医療と介護』2017年，日本経済新聞社
大竹文雄・平井啓(編著)『医療現場の行動経済学　すれちがう医者と患者』2018年，東洋経済新報社
香取照幸『教養としての社会保障』2017年，東洋経済新報社
酒井正『日本のセーフティーネット格差　労働市場の変容と社会保険』2020年，慶應義塾大学出版会
柴田悠『子育て支援が日本を救う』2016年，勁草書房
筒井淳也『仕事と家族　日本はなぜ働きづらく、産みにくいのか』2015年，中公新書
筒井淳也『未婚と少子化　この国で子どもを産みにくい理由』2023年，PHP新書
中室牧子『「学力」の経済学」2015年，ディスカヴァー・トゥエンティワン
広井良典『日本の社会保障』1999年、岩波新書
広井良典『創造的福祉社会ー「成長」語の社会構想と人間・地域・価値』2011年、ちくま新書
山口慎太郎『「家族の幸せ」の経済学』2019年，光文社新書
山口 慎太郎 『子育て支援の経済学』2021年、日本評論社
山崎史郎『人口減少と社会保障－孤立と縮小を乗り越える』2017年，中公新書
その他、授業の中でテーマごとに参考文献を紹介します。

【成績評価の方法と基準】
授業への貢献(20％)　各回の課題(30％)　期末試験（50％）

【学生の意見等からの気づき】
学生から授業中に自分の考えを発言でき、他の学生の考えを知ることができたことが気づきにつながったとの感想があったので、今後も参加型の授業を続けていきたい。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In this course, students will understand the economic and social impact of Japan’s declining birthrate and aging population, and learn the necessary knowledge and multifaceted perspectives on social security systems, including childcare support, pensions, medical care, and long-term care and welfare.　Students will gain knowledge and multifaceted perspectives to apply to their own life planning, as well as to discuss and deepen their ideas about what kind of systems are desirable.
【Learning Objectives】

At the end of the course, students will be able to understand basic issues such as changes in Japan's population structure, and acquire basic knowledge of the current situation and systems of social security, childcare support, pensions, medical care, and long-term care and welfare. Furthermore, students are expected to have their own ideas about the social security system and apply them to their own life planning.

【Learning　activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. It is advisable to have an awareness of social security issues through daily contact with newspapers and news reports. It is also helpful to read the books listed in the reference list on topics of interest to you.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%、Short reports :30%、in class contribution: 20%

CAR100MA（キャリア教育 / Career education 100）

キャリアモデル・ケーススタディ

梅崎　修

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：木2/Thu.2　｜　配当年次：1〜4年
備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞
授業コード：C5036
科目名：キャリアモデル・ケーススタディ
＜2024年度以前入学者＞
授業コード：C5036
科目名：キャリアモデル・ケーススタディ
※入学年度によらず同一授業コード・科目名称

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自分のキャリアをデザインするにあたって、さまざまな生き方、働き方の事例を学び、そこから自分のモデルを作ることは有効な方法である。本講義では、様々な職場で実際に働く職業人の方々を教壇にお呼びして、仕事経験（キャリアヒストリー）を聞く。具体的な仕事の経験から、学生がどのようなキャリアを選び、そのためにどのような努力を行うべきかを学ぶ。

【到達目標】
ビジネスなど様々な分野で活躍する社会人と対話することで、社会人経験を間接的に理解する。また、そのような社会人の経験を引き出す話の聴き方やインタビュー術について理解を深め、以後の学部での学びに活かす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP7」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
最初に、この授業を受ける上で必要なヒアリング術とインタビュー術を講義する。インタビュー術を使ってゲスト講師のキャリア経験を聞き出していきます。課題等の配布・提出は「学習支援システム」で行います。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かしたいと思います。振り返りでは業界や職業知識の解説を適宜行い、理解の深耕、ゲストの仕事観の違いなどを説明します。ゲスト講師の回以外の授業では参加受講者同士で、簡単なワークを行うと認識しておいてください。授業は、対面を中心としながら、オンラインで講義する日もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方、この授業の目的を説明する。
第2回	聴く力とは？	キャリアの語りを聴き出すには聴く力と共感する力が必要である。その必要性を理論的に説明し、体験する。
第3回	下調べの方法	キャリアに関する下調べのしかたを説明する。自伝、伝記、オーラルヒストリーなどの文献資料を紹介する。
第4回	インタビュー術	インタビュー時における身体的スキルを説明する。インタビュー映像も見る。
第5回	聴く力、下調べ、インタビュー術の実践	これまでの学びを、デモ講義を通して実践し、次回以降のゲスト講師授業準備等に活かす
第6回	ゲスト講師①	NPO分野のゲスト講師の講演、質疑応答を行う。
第7回	ゲスト講師②	民間企業のゲスト講師の講演、質疑応答を行う。
第8回	ゲスト講師①②の振り返り	ゲスト講師の語りを振り返り、その語りをどのように解釈可能かを検討する。特に組織論の観点から検討を行う。
第9回	ゲスト講師③	プロフェッショナル職種のゲスト講師の講演、質疑応答を行う。
第10回	ゲスト講師④	官庁分野のゲスト講師の講演、質疑応答を行う
第11回	ゲスト講師③④の振り返りとキャリアモデルレポートの書き方	ゲスト講師の語りを振り返り、その語りをどのように解釈可能かを検討する。民間企業以外のキャリアを議論する。 またこれまでのキャリアトークの解釈を前提に、キャリアモデルレポートを作成する方法を講義する。
第12回	ゲスト講師⑤	民間企業のゲスト講師の講演、質疑応答を行う。
第13回	ゲスト講師⑥	起業家のゲスト講師の講演、質疑応答を行う。
第14回	ゲスト講師⑤⑥の振り返りとまとめ	ゲスト講師の語りを振り返り、その語りをどのように解釈可能かを検討する。これまでの多様なゲスト講師も振り返りながら、キャリアの多様性を議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ゲスト講師について事前下調べを必ず行うこと。下調べ→インタビュー→解釈という一連の流れのなかで学習する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。授業での投影資料は終了後に配布します。

【参考書】
特になし。必要な場合は適宜知らせる。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度（50%）と最終講義日に提出するレポート（50%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
授業中のリアクションペーパーを通じてみなさんの要望を反映します。昨年は質疑応答の仕方を工夫したことで議論が活発になりました。「意見を伝える」習慣を授業でも身につけていただきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。PCの持ち込みは可能です。

【その他の重要事項】
履修希望者はなるべく初回から出席すること。特に2回〜4回目までは授業の基本的な進め方について説明及び実習を行うので、2回〜4回までに欠席した場合は、単位の取得は不利となる

【Outline (in English)】
To designing our career, we learn examples of how to live and work for model people.
Making an image of your career is an effective way to career design.
In this lecture, we invite people who actually work in various workplaces to the teacher and listen to work experience (career history).
From specific work experience, students learn what kind of career to choose and what kind of effort can be done for that.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Final grade will be calculated according to the following process
Term-end report(50%) and in-class contribution(50%).

EDU200MA（教育学 / Education 200）

外書講読A【2025年度以降入学生用】

長岡　智寿子

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：火2/Tue.2　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞
授業コード：C5037
科目名：外書講読A
＜2024年度以前入学者＞
授業コード：C7153
科目名：外書講読B（発達・教育）
※入学年度によって授業コード・科目名が異なります
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、今日の国際教育開発の現状と課題について、私たち人間の生涯に渡る学びの様相を把握することを念頭に、社会学的な視点から検討するものである。具体的には、本授業の内容に即した英文資料の他、関連する文献資料や映像資料なども活用しながら理解を深めていく。

【到達目標】
本授業では、英文資料を中心に、広く国際社会における教育活動の動向を把握するとともに、子どもからおとなまであらゆる人々を対象とする生涯学習活動について、その今日的課題を問い直すことを目的とする。とりわけ、成人期の学習の必要性について、開発途上諸国の事例をもとにジェンダーの視点から事例検討を行う。
授業の到達目標としては、下記のとおり。
・生涯学習の理念について、国際的な観点から説明することができるようになること。
・成人期の学びの必要性を説明できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP6」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
・授業の初めに前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。
・リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介するとともに、さらなる議論に活かします。
・授業内で求めた課題に対する講評や解説も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義全体の概要説明をオンラインにて行います。
第2回	Background：data and development	生涯学習に関する歴史的経緯の把握、内容理解
第3回	Literacy is the human rights	人権の観点から理解する
第4回	Literacy learning & development	読み書きの学びの重要性を社会学的視点から理解
第5回	Stories of imagination (1) Social participation	Raising voices; peaking up for participation
第6回	Stories of imagination（2）Life skill	Literacy and Life ｓ kills
第7回	Stories of imagination（3）human rights	About employment rights with literacy for poor women
第8回	Stories of imagination（4）Minority	Women and Literacy in post-conflict
第9回	Stories of imagination（5）Knowledge for safe	Children's nutrition and literacy learning
第10回	Stories of imagination（6）Learning for life	Literacy and learning for young women
第11回	Stories of imagination（7）Learning for health	Learning reading, writing and health
第12回	Stories of imagination（8）Social empowerment	Community Empowerment
第13回	Challenges and solutions	Share and discussion for future
第14回	まとめ（試験、解説）	本講義全体を振り返って

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業で使用する英文資料について、事前に準備学習として必要な箇所に目を通しておくことを求めます。また、授業後は、内容の整理、把握を行うことを求めます。各2時間を標準としますが、詳細は各回にて説明いたします。

【テキスト（教科書）】
指定テキストは無し。

【参考書】
本授業で使用する英文資料は、下記のとおりです。
・『Literacy and Women's Empowerment: Stories of Success and Inspiration』,
UNESCO Institute for Lifelong Learning,2013
・『Quality Assurance Toolkit for Open and Distance Non-formal Education』,
Commonwealth of Learning, 2012
上記の資料を予定しています。詳細は初回のオリエンテーションの際に説明します。

【成績評価の方法と基準】
本授業の成績評価は、授業態度や平常点（40%）、期末レポート（60%）により、総合的に評価します。
積極的に授業に参画されることを求めます。

【学生の意見等からの気づき】
毎回、授業の際に、質問、意見等を記載してもらい、フィードバックを行える体制を整えていく。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
積極的に理解を深めていけるように、質問や意見等を望みます。

【Outline (in English)】
（Course outline）This course examines the current state and challenges of international educational development from a sociological perspective, with a focus on understanding the nature of lifelong learning throughout the human lifespan. Specifically, we will deepen our understanding by utilising English-language materials relevant to the course content, alongside related literature and visual resources.
（Learning Objectives）
・To be able to explain the principles of lifelong learning from an international perspective.
・To be able to explain the necessity of learning in adulthood.
（Learning activities outside of classroom）
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
（Grading Criteria /Policy）

Final grade will be calculated according to the following process
report (60%) and in-class contribution (40%).

EDU200MA（教育学 / Education 200）

キャリアコミュニケーション（英語）

福田　紀子

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：月3/Mon.3　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人権に基づいた社会のより良い変化(開発)に取り組むための活動は、課題を抱えた人々の間で実践が重ねられてきました。人権の基本的な概念理解や人道支援の国際基準（スフィア基準／Sphere Standards)のテキストやHuman Rights Based Dvelopementの研修素材を通して、人類共通の課題意識や試行錯誤の中で獲得した人権尊重の基本的な概念を理解し、どのように伝えようとしているのかをテキストとアクティビティからとらえます。そして、自分たちの社会にある人権問題への理解と関与につなぐ力をつけることを目指します。

【到達目標】
1）国際社会で積み上げられてきた合意文書、教材から、ジェンダーをはじめとする脆弱性の理解、パワーの所在、気付きにくい差別、参加とエンパワーメントなど市民社会と人権
に関わるに関する基本概念と歴史や経緯を理解する。
2）人権尊重の思考と行動枠組、、社会の公正な運営方法に必要な思考と行動のスキルを 自分と社会の現実と関連させながら理解し実践する。
3）参加型学習の学び方（手法、概念、進行）を経験し、人々をエンパワメントする学習について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】
ディプロマポリシーのうち「DP6」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
基本的に読んでおく英文資料、授業内で配布の資料（英・日)、ワークシートを元に進めます。資料の翻訳あるいは解説を分担する機会があります。
授業はレジュメを中心に配布資料の翻訳や概説、ワークシートによる自分の感覚や考えを示し、そこから考える活動を行いながら進めていきます。毎回提出いただくフィードバックシートのコメントの中からも、考えを深めたり、関連情報について取り上げていきます。その中でのディスカッション、フィードバックは基本的に日本語で行いますが、参加者の希望によっては一部英語でのセッションも可能です。
課題提示・提出はメール、学習支援システムを使用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Orientation Background of Participatory Approach for Empowermnent	〈この授業の進め方〉この授業の進め方、評価について。様々な分野、テーマの参加とエンパワメントのための学習を概観します
第2回	World Studies/Global Education-Educational framework, dimentions and Activities	80年代英国で実践された教育運動の素材から、(学校）教育の場で新しい課題に対応するために必要な概念、枠組み、側面とアクティビティを知ります。
第3回	Peace Education pathway for cultural peace-Difing Peace, A Typology of Violence	2000年代フィリピンの平和教育のテキストから平和の定義、暴力の類型を通して「平和」について考えます。
第4回	PRA/PLA-Participatory Learning approach for Community through discussion tools for visualization and empowerment	60〜70年代の経験（失敗）を踏まえて生まれた住民の主体的参加による学習過程からの開発手法の一つであるPRA/PLAについて、 共有のtools(手法)、ファシリテーターの態度、参加の場のあり方について学びます。
第5回	PRA/PLA ：Tools Practice	PRA/PLA 実践 様々なツールで参加型課題分析を行います ファシリテーター実践準備
第6回	Shpere Standards-Humanitarian Response with Rights Base Aproach〜Core Humanitarian Standards/CHS flower &reality	東日本大震災(2011)以降日本でも広がった人道支援の国際基準スフィアの基本理念、行動綱領、権利原則、必須基準などについて概説します
第7回	From Poverty To Dignity-a learning manual on human rights based development, introduction	From Poverty To Dignityの概説、構成を概説します ファシリテーション実践準備
第8回	Facilitaion Practice: Global Education 1	ファシリテーション実践／国際理解教育・グローバル教育
第9回	Facilitaion Practice: Global Education 2	ファシリテーション実践／国際理解教育・グローバル教育
第10回	Facilitaion Practice:From Poverty To Dignity-Human Rights Based Approaches：Non-discrimination &Attention to Vulnerable Group	ファシリテーション実践／脆弱性の理解に必要なパワーとエンパワーメント,Intersctionality,などについても考えます
第11回	Facilitaion Practice:From Poverty To Dignity：Participatio	ファシリテーション実践／参加、Citizenship、Advocacy等について考えます
第12回	Facilitaion Practice:From Poverty To Dignity-Human：Rights Based Approaches-Module9: empowerment	ファシリテーション実践／empowermentについて考えます
第13回	CHS constraction and Conflict Management/ Resolution in Japanese Context①	市民社会を活性化するために必要な知識・スキル・姿勢と参加を阻害する要因について、スフィア必須基準と「対立から学ぼう」の枠組みから考えます
第14回	CHS constraction and Conflict Management/ Resolution in Japanese Context②	日本における参加を阻害する文化価値観を超えるため変化の要因やアドボカシーについて考えます

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に紹介されたWeb上での資料、配布された資料は必ず読んでおいてください。特に事前に分担した箇所については必要に応じた翻訳・整理と小グループ／パートナーとの発表の準備が必要となります。
国際的な出来事、国内で起こる問題のグローバルなつながり、国際協力活動、身近な社会の課題に関心をもち、自分の関心と行動傾向を考えながら、授業の理解につなげて下さい。本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とします。（レポート課題作成を除く）

【テキスト（教科書）】
特に購入の必要はありません。教材は授業の中で配布またはWeb上の所在を伝えます。

【参考書】
『ワールドスタディーズー教え方学び方ハンドブック』『参加型で考える１２のものの見方、考え方』（以上、国際理解教育センター発行）
『Global Teacher, Global Learner 』(Graham Pike &David Selby)
https://archive.org/details/globalteacherglo0000pike/page/2/mode/2up
『Participatory Leaning and Action- A Traing Guide』(IIED)
https://www.iied.org/sites/default/files/pdfs/migrate/6021IIED.pdf
『The Sphere Handbook』(2018)
Sphere-Handbook-2018-EN.pdf
『From Poverty To Dignity : LEARNING MANUAL ON HUMAN RIGHTS BASED DEVELOPMENT』
https://wunrn.com/2009/01/poverty-to-dignity-learning-manual-on-human-rights-based-development/
以下参考文献：
Microaggressions in Everyday Life /
Derald Wing Sue, Lisa Beth Spanierman
Participatory Learning &Action-a trainer's guide(IIED)
Participation Handbook for Humanitarian Filed Workers;
http://www.urd.org/wp-content/uploads/2018/09/ParticipationHandbook_CHAPTER4.pdf
『参加型ワークショップ入門』（ロバート・チェンバース著）

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度、各回授業のふりかえりシート50％
翻訳課題、発表、成果（対面授業の場合模造紙作業等）10％
2回のレポート（中間／最終）40％

【学生の意見等からの気づき】
参加型学習の体験は積極的な評価を受けています。ただ話し合いやアクティビティが楽しいだけでなく、そこで伝えられる概念やメッセージを読み解き、進行・手法・思考の枠組・問いかけについての意味を自分で掴むことが必要です。不消化感を感じるときもあると思いますが、その感覚も経験として自分の中で保持し、他者に問いかける力に変え、共有から生まれる学びがあればと願います。

【その他の重要事項】
国際合意の文書は完成された概念やタテマエではありません。多くの人々の困難から学ぼうと世界中の人々が積み上げ、練り直し、現実の反映させようと格闘している文脈がひとつひとつあります。災害時の支援としての国際基準には人権感覚の基本とも言える考え方と現実の対応が示されています。慣れないコンセプトもあるかもしれませんが、身近なコミュニティでも、国際的な合意の文脈を理解する為にも必要かつ応用可能なものとして学んでいきましょう。
また「参加型」を中心とした対立解決のプロセスも世界の差別や緊張関係を平和的な手段で正していくために用いられる基本的な手法です。全体に分担したテキストのプレゼンテーションやフィードバックなど授業への関与を重視します。授業の進行によって分担の発表日が変更することもあります。
なお、担当教員は人道支援団体、参加型人権教育ファシリテーター、複数の自治体の男女共同参画センターを経て、現在スフィアトレーナーとして、また大阪西成区釜ヶ崎の支援団体の職員として活動するものです。様々な課題を抱える現場に共通して求められる「人権」「人権尊重」の実践力につながる学びについて取り組んでいます。

【Outline (in English)】
Course outline : Texts on this class would be the Global Education and PeaceEducation as pedagogy.And as andragogy, the handbook of Participatory Learning and Actions,SPHERE Handbook for HUMANITARIAN STANDARD, FROM POVERY TO DIGNITY for develoment workers.
All those texts are suggesting the framework, contents and approaches for the people's participation and empowerment through educational efforts.We try to grasp the meaning and approach of Participation as the basement of social justice and human rights.
Learning Objectives : Getting the Basic Concepts for understanding Citizen's Activism on Rights Base Approach for Social Justice with International Standard, Agreements and Methods.
Learning activities outside of classroom : Students are expected to
read the materials/assignments to translate/summary/analyze/apply into your own situation.
Grading Criteria /Policy
Participation in class, the feedback sheet for each class 50%
Assigned Translation &Group Presentation/ Facilitation 10%
Midterm/Final Report 40%

PSY200MA（心理学 / Psychology 200）

生涯発達心理学

廣川　進

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：水4/Wed.4　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人間は誕生から死に至るまで生涯にわたり、どのように発達し変化するのか、それぞれの発達段階に沿っての発達課題とその発達特性を心理学的な視点から研究する。またキャリア発達の観点から、生涯を通してどのように変化し発達するかについても研究する。学生自身が自己、家族、他者との関係を発達の軸から振り返り、課題を明らかにすることでさらなる成長発達をすることができる。

【到達目標】
誕生から死にいたるまでの生涯発達、その特性を深く学生が理解し、自分の今後のライフキャリアを展望するための気づきを得ることができる。
生涯発達心理学で使われるキーワードとその概念、具体例についての知識理解ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP1」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
人間発達の道筋とそれぞれの発達ステージにおける発達特性と発達課題について理解する。
毎回、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	発達段階と発達課題について考える	各発達段階の発達特性とその発達課題について概論的に学ぶ
第2回	遺伝と環境	人間の発達を左右する遺伝的な要因と環境的な要因について学ぶ
第3回	新生児・乳児期	誕生から約1歳半までの乳幼児の発達特性について学ぶ
第4回	幼児期	2歳から5歳の子どもの発達特性について学ぶ
第5回	児童期	小学生の発達特性について学ぶ
第6回	アイデンティとは	エリクソンのライフサイクル（心理社会的発達）理論やモラトリアムについて、具体例とともに学ぶ
第7回	思春期・青年期の課題	フロイトの精神分析、心の構造論、ブロスの分離個体化などを学ぶ
第8回	中年期危機と発達課題	小説『最後の家族』（村上龍）から中年危機が家族全員にあたえる影響、崩壊から再生について考える
第9回	男性の発達、父性の観点	「スターウォーズ」「エヴァンゲリオン」「鬼滅の刃」から父性について考える
第10回	女性の発達、母性の観点	アイデンティティの２つの軸、個としての達成／関係性における他者のケア、自己実現の援助を学ぶ
第11回	「語り」と発達	自己の人生を語る「自己物語」がアイデンティティをつくり、傷つきからの回復を支えることを事例から学ぶ
第12回	中年、老年期の発達とキャリア発達 生涯キャリア発達	中年期のキャリアの転機、危機、役職定年、定年と生涯キャリアにつて考える
第13回	老年期の発達課題	「老年的超越」について学ぶ
第14回	ストレスマネジメント	発達段階ごとの課題とストレッサーを理解し、適切に対処する方法を学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
関連図書の予習,本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。参考文献はその都度紹介します。

【参考書】
・発達心理学入門Ⅰ（乳児・幼児・児童）無藤隆編　東京大学出版会
・発達心理学入門Ⅱ（青年・成人・老人）無藤隆編　東京大学出版会
・アニメに学ぶ心理学「千と千尋の神隠し」を読む（愛甲修子）言視舎
・父滅の刃 消えた父親はどこへ アニメ・映画の心理分析 （樺沢紫苑）みらいパブリッシング
・エヴァンゲリオンの心理学　（樺沢紫苑）
・＜ほんとうの自分＞のつくり方　（榎本博明）講談社現代新書
・私とは何か　個人から分人へ（平野啓一郎）講談社現代新書

【成績評価の方法と基準】
毎回の感想レポート（60％）
期末レポート（40％）

【学生の意見等からの気づき】
臨床的な具体例の紹介や映画、ドラマ、物語などを適宜使って、生涯発達心理学の概念が理解しやすくなるように工夫する

【Outline (in English)】
(Course Outline)
This course explores the processes of human development and change across the entire lifespan, from birth to death. From a psychological perspective, students will examine the specific developmental tasks and characteristics unique to each life stage. Additionally, the course analyzes how individuals evolve and progress through the lens of career development.
(Learning Objectives)
By the end of this course, students will be able to:
Understand the psychological stages of development and their associated tasks.
Reflect on their own lives, family dynamics, and social relationships from a developmental viewpoint.
Identify personal or professional issues to facilitate further self-growth and career development.
(Learning Activities outside of classroom)
Students are expected to engage in the following:
Reviewing lecture materials and psychological theories discussed in class.
Reflecting on personal experiences to prepare for weekly class reports.
Conducting research and literature reviews for the comprehensive term-end report.
(Grading Criteria / Policy)
Final grades will be calculated based on the following components:
Weekly Class Reports (60%): Evaluation of understanding and reflection submitted after each session.
Term-end Report (40%): A final cumulative report demonstrating the integration of course concepts.

PSY200MA（心理学 / Psychology 200）

キャリアカウンセリングⅠ

廣川　進

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水2/Wed.2　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞
授業コード：C5040
科目名：キャリアカウンセリングⅠ
＜2024年度以前入学者＞
授業コード：C5040
科目名：キャリアカウンセリングⅠ
※入学年度によらず同一授業コード・科目名称

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キャリアカウンセリングはキャリア開発、キャリア形成において、問題を抱える人達を支援する大切なカウンセリングです。キャリアカウンセリングは、カウンセリングの中でも、「育てる、開発するカウンセリング」として位置づけられます。キャリア教育の中での生徒、学生達の相談、未就業者の相談、再就職の支援、組織・企業内でのキャリア形成の相談など、多様な場面で求められている大切なカウンセリングです。この授業を受講することによって、学生はまず、キャリアカウンセリングとは何かを理解し、そのためには、どのような支援を行うか、キャリアカウンセリングの進めかたの具体的なステップ、傾聴技法などについて理解することを授業の到達目標とします。

【到達目標】
学生はキャリアカウンセリングとは何かを理解し、その歴史、キャリアの理論、キャリアカウンセリングの担当者に求められる要件などに対する理解ができるようになることを達成目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業は基本的には教室でリアル対面で行います。
毎回、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
キャリアに関する問題解決を効果的に支援するためには、その背景となるキャリア理論、カウンセリング理論などを理解した上で、相談者のキャリア開発やキャリア形成の支援のために情報提供、助言指導などが必要になります。相談者がどのようなキャリア上の問題を抱えているのか、傾聴しながら、相談者を理解し、支援することが欠かせません。そのためには、キャリアカウンセリングは、具体的にどのように展開をしたらよいのか、そのステップはどのような過程をたどるのか、事例を取り上げて研究し、具体的な支援の方法を理解します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス　キャリアと転機	コロナ禍という変化の時代において、キャリア発達とは何か、キャリア支援とは何か、キャリアサポートはなぜ必要なのかについて学ぶ
第2回	今なぜ、キャリアカウンセリングか	ワークシートに記入しながら見つけた自分のキーワードを仕事につなぐ考え方を取り入れる
第3回	キャリア理論１	パーソンズとスーパーの紹介
第4回	キャリア理論２	ホランド、ブリッジス、ハンセン、シュロスバークの紹介
第5回	来談者中心療法	ロジャースの来談者中心療法、傾聴、受容共感、無条件の肯定的配慮などについて
第6回	キャリア理論３	クランボルツの紹介、危機・転機、変化対応力について
第7回	キャリアカウンセリングのプロセス	キャリアカウンセリングのプロセスを逐語録により具体的に検討する
第8回	ゲスト講師	ハローワークでの経験からの事例紹介
第9回	自律型キャリア、嫌われる勇気、同調圧力	日本において自律型キャリアを根付かせていくために必要なマインドとスキルと行動について考える
第10回	キャリア理論４	サビカスのナラティブ・アプローチの紹介
第11回	ソーシャル・ジャスティスとキャリア	社会的公平さの視点とキャリアカウンセリングについて
第12回	ゲスト講師	大学のキャリアセンターの事例紹介
第13回	キャリア転機とストレスマネジメント	転機にはストレスが掛かりやすいのでうまく対処する方法を解説する
第14回	まとめ	期末レポートの課題のポイントの説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
参考文献を紹介する本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。

【参考書】
木村周著「キャリアカウンセリング」　1997、雇用問題研究会

【成績評価の方法と基準】
毎回のレポート（60％）
期末レポート（40％）

【学生の意見等からの気づき】
授業の展開、スピードを学生理解に合わせて調整する。
前回のコメントシートに書かれた学生からの感想や質問を授業の冒頭に紹介しながら、双方向型の授業を心がける。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン利用の場合はZOOMが利用できる環境と端末

【その他の重要事項】
なし

【Outline (in English)】
（Course outline）
This course explores the processes of human development and change throughout the lifespan, from birth to death. From a psychological perspective, students will examine the specific developmental tasks and characteristics unique to each life stage. Furthermore, the course integrates theories of career counseling and development to analyze how individuals evolve, manage various life roles, and achieve personal growth.
（Learning Objectives）
By the end of this course, students will be able to:
Understand the psychological stages of development and their associated tasks.
Demonstrate a foundational knowledge of career counseling and development theories.
Analyze the interrelationships between work, family, and other life roles and factors.
Reflect on their own lives and social relationships from a developmental viewpoint to facilitate further self-growth.
（Learning activities outside of classroom）
To ensure a deep understanding of the course content, students are expected to engage in the following:

Spend approximately two hours of independent study before and after each class meeting.
Complete assigned readings from related books and reference materials prior to each session.
Reflect on personal experiences to prepare for the weekly class reports.
（Grading Criteria / Policy）
Final grades will be determined based on the following components:
Weekly Class Reports (60%): Evaluation of understanding and reflection submitted after each session.
Term-end Report (40%): A cumulative final report demonstrating the integration of course concepts and personal insights.

PSY200MA（心理学 / Psychology 200）

教育心理学

田澤　実

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水4/Wed.4　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程、外的及び内的要因の相互作用
・乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達
・様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論
・主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方
・主体的な学習活動を支える指導の基礎

【到達目標】
・幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程並びに特徴を理解する。
・幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義、リアクションペーパー提出。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	この授業の概要および成績評価等を説明する。
第2回	教育における発達理解の意義	発達と教育の関連
第3回	対人関係の発達	幼児、児童及び生徒の対人関係の発達および主体的学習を支える集団づくりの理解
第4回	認知の発達	乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達
第5回	アイデンティティ	心身の発達の過程、外的及び内的要因の相互作用
第6回	学習の理論	様々な学習の形態や概念
第7回	学習の指導	主体的な学習活動を支える指導の基礎
第8回	動機づけ	主体的学習を支える動機づけ
第9回	学習の評価	主体的学習を支える学習評価の在り方
第10回	記憶	様々な学習の過程を説明する代表的理論
第11回	性格の理解	乳幼児期から青年期の各時期における個人差
第12回	性格の様々な測定方法	個人差の測定方法
第13回	発達障害の理解	3つの発達障害の具体的特徴および歴史的背景
第14回	試験・まとめと解説	試験を行い、今までの授業のまとめをし、解説を加える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前課題を設ける回がある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
なし。授業レジュメを配布する。

【参考書】
子安増生ら 2015『教育心理学 第3版 (ベーシック現代心理学6)』有斐閣
文部科学省『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』（最新版）

【成績評価の方法と基準】
平常点30％、試験70％にて評価
〔※試験は論述試験を含む（持ち込み不可）〕

【学生の意見等からの気づき】
昨年度の授業の感想や試験結果を踏まえ、授業で扱うテーマについて一部変更を加えた。

【Outline (in English)】
This course introduces the fundamentals of educational psychology to students taking this course.
By the end of the course, students should be able to do the following:
- To understand the process and characteristics of physical and mental development of infants, children, and students,
- To acquire basic knowledge about the learning of infants, children, and students,
- To understand the basic concept of guidance that supports learning based on development.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Grading will be decided based on the Term-end examination (70%) and in-class contribution(30%).

PSY200MA（心理学 / Psychology 200）

教育心理学

軽部　雄輝

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：木2/Thu.2　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では，子どもの健全な成長と発達，および人格形成を援助する教育場面に関わる心理学的理論と方法について学ぶ。具体的には，下記に関するトピックについて扱う。
・幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程、外的及び内的要因の相互作用
・乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達
・様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論
・主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価のあり方
・主体的な学習活動を支える指導の基礎

【到達目標】
・幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程並びに特徴を理解する。
・幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
本授業は講義に加え、適宜グループディスカッション等を取り入れる。毎回の授業の最後に、Googleフォーム等を用いたミニレポート課題を課す。課題提示後速やかに、教場で回答・送信することを求める。なお、授業では「授業時間内に行う出席確認」と「教場での課題送信」の両方が確認できた場合のみ出席とみなす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと教育心理学の研究法	授業内容、到達目標、授業形式などを紹介する。また、教育心理学の分野で頻繁に用いられる研究手法について、理解する。
第2回	発達の過程	乳幼児期から青年期における様々な発達、および遺伝と環境の影響について理解する。
第3回	学習のメカニズム	様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論の基礎を理解する。
第4回	記憶と知識の活用	記憶の構造や種類、問題解決についての様々な理論や方法を説明し、認知の特徴と関連づけながら理解する。
第5回	知能の発達ととらえ方	知能の定義や構造を紹介し、知的活動を支える知能の発達について理解する。
第6回	動機づけ	主体的学習を支える動機づけを紹介し、やる気のメカニズムについて理解する。
第7回	自己と対人関係	自己の発達とそれに伴う対人関係の展開について、理解する。
第8回	学級集団の特徴と機能	学級集団の形成過程と、教師や学級風土が児童生徒に与える影響について、理解する。
第9回	学校不適応の理解	不登校や問題行動の背景にある心理的要因とストレスのメカニズムについて、理解する。
第10回	発達障害の理解	発達障害の定義や特性を理解し、個々のニーズに応じた学習支援や生活指導についての基礎的な考え方を理解する。
第11回	学習指導の心理	主体的な学習を支える指導法や、協同学習の理論と実際について理解する。
第12回	教育評価の理論と実践	教育評価の目的や機能を整理し、適切なテスト作成や成績評価の方法について理解する。
第13回	教育相談とチーム学校	教師に求められるカウンセリングマインドの基礎を理解する。また、他の専門家との連携のあり方について学ぶ。
第14回	まとめ	これまでの授業内容をまとめ、総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、授業で学んだ内容に関するショートレポートが課される。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教員が適宜指定する。

【参考書】
櫻井茂男（監修）黒田祐二（編著）　2012　『実践につながる教育心理学』　北樹出版
櫻井茂男（編）　2017　『改訂版たのしく学べる最新教育学―教職に関わるすべての人に―心理学』　図書文化
吉川成司・関田和彦・鈎治雄（編著）　2010　『はじめて学ぶ教育心理学』　ミネルヴァ書房
子安増生ら 2015『教育心理学 第3版 (ベーシック現代心理学6)』有斐閣
文部科学省『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』（最新版）

【成績評価の方法と基準】
定期試験（60％）、授業への積極的参加（40％）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
対面授業回では、授業内でのグループディスカッションや体験学習等を取り入れ、受講生間の意見交換や実践的な疑似演習の機会を設ける予定です。

【学生が準備すべき機器他】
対面授業回では、プロジェクターを利用し、教員はパワーポイントを用いて説明する。授業の最後に提示する課題は、web媒体を通じての回答を求めるため、PC等の電子端末を持参してください。

【その他の重要事項】
担当者は，適応指導教室でのスクールカウンセラーの実務経歴を有する。関連して、本授業では理論のみならず、可能な限り具体的な実践場面への応用についても受講生とともに検討する。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the mental and physical development of children, learning theory and educational evaluation.
The goal of this course is to understand the motivation and cognitive process in learning for children and to study how to integrate this knowledge into teaching practices.
It is also our aim to understand how teacher-student relationships and each child's disposition and developmental rate can affect their learning process and their ability to adapt to their learning environments.
We will also discuss educational psychology for learners with developmental disabilities.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 60%, in class contribution: 40%

PSY200MA（心理学 / Psychology 200）

教育心理学

児玉　茉奈美

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：金2/Fri.2　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では教育心理学を学ぶことで，人が学ぶときに心の中で起きていることを学ぶと同時に，その知識をもとに教育に関わる諸問題を考える力を養う。
授業内で扱う主なトピックは以下である。
・乳幼児期から青年期の各時期における認知発達や社会性の発達
・様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論
・主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方
・主体的な学習活動を支える指導の基礎
・教育場面で直面し得る現代的課題に関する心理学的検討

【到達目標】
・乳幼児や児童，および生徒の心身の発達の過程並びに特徴を理解する。
・乳幼児や児童，および生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け，発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。
・現代社会で生じる問題について理解を深め，自分なりに考える力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
本授業は主に対面での講義である。毎回授業の出席及びリアクションペーパーの提出を課題とし，リアクションペーパーについては次週フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 発達や学習を学ぶということ	授業内容，到達目標，授業形式などを紹介したうえで，本授業で発達や学習について学ぶ目的を明確にする
第2回	運動・言語の発達	子どもの身体や，言語の発達過程について説明する
第3回	認知の発達	子どもが物事を覚えたり理解する発達過程について説明する
第4回	自我の発達	「自分とは何か」を獲得する過程について説明する
第5回	社会性の発達	アタッチメントを基盤とした共感性など社会性の発達ついて説明する
第6回	動機づけ	動機づけ理論について説明し，意欲を高めるにはどうすれば良いか考える
第7回	知識の獲得	子どもが知識を獲得するメカニズムについて説明する
第8回	学習の過程	学習のメカニズムについて説明する
第9回	学習指導の形態	教育目的や方法に応じて，どのような学習指導を行うことが適切か説明し，学生自身が受けてきた学習指導を振り返る
第10回	学習活動を支える指導	子どもの学習を促すためには教師がどのような介入をすればよいか考える
第11回	学級集団づくり	学級やそこにいる教師，子どもたちがどのような関係性を形成し，それが子どもにどのような影響を与えるのか説明し，学校における集団の意義について考える
第12回	学習に対する評価	教育目的や方法に応じた学習評価の観点や時期，評価者をどう検討するかを説明する
第13回	子どものニーズに応じた教育	発達障がいの特徴や支援について説明する
第14回	試験・まとめと解説	授業内で期末試験を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
［準備学習］次回の授業内容について，教科書・参考書該当箇所を一読し，事前配布資料を精読する。
［復習］レジュメを参照しながら，学んだ概念，それに関連する先行研究を調べてみたりして理解を深める。
本授業の準備学習および復習時間は合計４時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
児玉佳一（編著）（2019）やさしく学ぶ教職課程：教育心理学　学文社（2300円＋税）

【参考書】
鎌原雅彦・竹鋼誠一郎（2019）やさしい教育心理学〔第5版〕　有斐閣　（2090 円）
櫻井茂男（監修）黒田祐二（編）(2018)実践につながる教育心理学　北樹出版　（2200 円）

【成績評価の方法と基準】
期末テスト50％，平常点（リアクションペーパーの提出を含めた授業への参加度）50％

【学生の意見等からの気づき】
資料の掲示は学期終了時まで継続し，いつでも再度ダウンロードして復習可能にしておくこととする。

【Outline (in English)】
Course outline
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the mental and physical development of children，learning theory and educational evaluation.
Learning Objectives
The goal of this course is to understand the motivation and cognitive process in learning for children and to study how to integrate this knowledge into teaching practices.
It is also our aim to understand how teacher-student relationships and each child's disposition and developmental rate can affect their learning process and their ability to adapt to their learning environments.
We will also discuss educational psychology for learners with developmental disabilities.
Learning activities outside of classroom
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria
Grading will be decided based on term-end test (50%), short reports in every class (50%).

PSY200MA（心理学 / Psychology 200）

教育心理学

山上　真貴子

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：水4/Wed.4　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程、外的及び内的要因の相互作用
・乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達
・様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論
・主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方
・主体的な学習活動を支える指導の基礎

【到達目標】
・幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程並びに特徴を理解する。
・幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業は原則として、穴埋めプリントを用いた講義形式で行い、適宜視聴覚教材を使用する。また、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。 レポート課題については、フィードバック希望者に対して個別、または、全体講評をフィードバックする予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	教育における発達理解の意義	発達に応じた学びについて考える。
第2回	認知の発達	学びの背後にある認知発達について考える。
第3回	対人関係の発達	学びを支える家族・仲間・教師との人間関係を考える。
第4回	アイデンティティ	学びと深くつながる自己・アイデンティティについて考える。
第5回	学習の理論	学習についてのさまざまな心理学の理論を紹介する。
第6回	記憶の種類	記憶の仕組みについて知り、学びについての理解を深める。
第7回	動機づけ	学びを支える「やる気」について考える。
第8回	性格の理解	学びや生活の場で見られるさまざまな個人差について考える。
第9回	性格の様々な測定方法	学びや生活の場で見られる個人差の把握の仕方について考える。
第10回	発達障害の理解	専門的知識に基づきつつ、教師という立場から発達障害をどうとらえるべきかを考える。
第11回	発達障害の支援・指導	現在提案されている発達障害に関するさまざまな支援法・指導法を紹介する。
第12回	学習の指導	集団での指導と個別指導をどう両立させていくかを考える。
第13回	学習の評価	現在の教育評価、今後の教育評価について考える。
第14回	試験・まとめと解説	後期を振り返りまとめを行う。試験も同日に実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
興味を持ったトピックについて、積極的に文献を参照し、理解を深めてください。また、授業ごとに出題されるまとめの問題について復習しておきましょう。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使わず、学習支援システムに事前に授業資料をアップします。ただし、希望者には、授業当日に同一内容の印刷資料を配布します。

【参考書】
鎌原雅彦ら 2019『やさしい教育心理学 第5版』有斐閣アルマ
子安増生ら 2015『教育心理学 第3版 (ベーシック現代心理学6)』有斐閣
文部科学省『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』（最新版）

【成績評価の方法と基準】
各回のリアクションペーパーの提出および小テストへの解答等をもとにした平常点（40％）、授業に対する理解をもとに，その知識を活用する力を問う期末レポート（30％）、および、小テストの問題から出題する期末テスト（30％）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
毎回のリアクションペーパーに、その授業での疑問点や感想等を書いていただきます。多かった質問や、授業の進行に関わるコメントについては、極力授業でフィードバックを行います。
何かあった時には、早めの報連相を心がけましょう（学期末に相談されても対応できない場合があります！）。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムに授業資料をアップします。今後学習支援システム経由でお知らせ発信をすることも多いかと思いますので、このシステムの使い方に慣れておくようにして下さい。

【Outline (in English)】
COURSE OUTLINE: The aim of this course is to help students acquire an understanding of the mental and physical development of children, learning theory and educational evaluation.
LEARNING OBJECTIVES: The goal of this course is to understand the motivation and cognitive process in learning for children and to study how to integrate this knowledge into teaching practices.
It is also our aim to understand how teacher-student relationships and each child's disposition and developmental rate can affect their learning process and their ability to adapt to their learning environments.
We will also discuss educational psychology for learners with developmental disabilities.
LEARNING ACTIVITIES OUTSIDE OF CLASSROOM: Students will be expected to have completed the required assignments after each class meetings. Your study time will be more than four hours for a class.
GRADING CRITERIA/POLICY: Grading will be decided based on term paper(30%), term-end examination(30%), and usual performance score(40%).

PSY200MA（心理学 / Psychology 200）

教育心理学

遠藤　裕子

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：水3/Wed.3　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程、外的及び内的要因の相互作用
・乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達
・様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論
・主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方
・主体的な学習活動を支える指導の基礎

【到達目標】
・幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程並びに特徴を理解する。
・幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
・対面でもオンラインでも、対話や双方向のやり取りを出来る限り大切にした授業を行います。
・オンデマンド教材の提供を行います。
・授業の始めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の内容、進め方、評価の仕方について説明します。自分自身が14回の授業で学ぶことを確認します。
第2回	教育における発達理解の意義	教育において「発達過程を理解すること」の意義を理解し、発達の基礎概念について学びます。
第3回	対人関係の発達	乳幼児から青年期にかけての子ども・青年を取りまくさまざまな対人関係、社会性の発達について学びます。
第4回	認知の発達	ピアジェの理論を参照しながら、人の認知発達について学びます。認知発達の過程を通して、幼児期から児童・青年期それぞれに対する教育的関わりの違いや、学校教育について考えます。
第5回	アイデンティティ	エリクソンの理論を中心に、生涯発達と発達の危機、特に青年期の発達課題について学びます。
第6回	学習の理論	条件づけなどの学習に関する基礎的な理論について学びます。
第7回	学習の指導	さまざまな教授法や学習方略について学びます。
第8回	動機づけ	主体的な学習を支える動機づけや学習を効果的に進めるための集団づくりについて学びます。
第9回	学習の評価	学習の成果を評価することの意義や役割について学び、特に学校教育の中で「児童・生徒を評価すること」との関連を考えます。
第10回	記憶の種類	記憶についての心理学的な理論を学び、記憶の仕組みを理解します。また、記憶と日常生活の関わりについて考えます。
第11回	性格の理解	「個性」というものをとらえるために、人格・性格や知的な能力についていくつかの心理学的な理論を学びます。
第12回	性格の様々な測定方法	心理学で使われる諸検査を紹介します。さまざまな測定や検査を学ぶことで「人の個性を理解する」ということについて考えます。
第13回	発達障害の理解	発達障害について正しく学び、理解を深めます。
第14回	発達障害の支援・指導	発達障害をかかえる児童・生徒への支援や指導などについて学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題などは授業日に完結することを基本としますが、事前に文献を読むことや授業内で取り組んだワークシートなどを用いての復習が必要になる場合があります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】
テキストは指定せず、必要に応じて、参考文献の紹介や資料の提供を行います。

【参考書】
・児玉佳一編著 2020 やさしく学ぶ教職課程 教育心理学 学文舎（2300円＋税）
・子安増生ら 2015『教育心理学 第3版 (ベーシック現代心理学6)』有斐閣 2100円＋税
・文部科学省『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』（最新版）

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパーや課題(60%)、中間・最終レポート(40%)を総合して成績評価を出します。
Your overall grade in the class will be decided based on the following reflective reports and questions: 80%, Term-end report : 20%

【学生の意見等からの気づき】
これまでの授業改善アンケートではすべての項目で概ね良い評価を得ました。継続していくと共に、毎回のリアクションペーパーの記述を大事に扱い、双方向のやり取りが出来るように留意します。

【学生が準備すべき機器他】
教材・資料の提供や課題の提出は学習支援システムを活用しますので、IT機器を準備してください。

【その他の重要事項】
小学校から大学院まですべての校種での教職経験があります。また、心理職の立場での授業や学校運営へのアドバイザーの経験もあり、本授業では関連した事例を取り上げ、具体的な場面から学ぶ機会にもします。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the mental and physical development of children, learning theory and educational evaluation.
The goal of this course is to understand the motivation and cognitive process in learning for children and to study how to integrate this knowledge into teaching practices.
It is also our aim to understand how teacher-student relationships and each child's disposition and developmental rate can affect their learning process and their ability to adapt to their learning environments.

We will also discuss educational psychology for learners with developmental disabilities.
Before each class meeting, students will be expected to have read books or documents. After each class meeting, students will be expected to have review worksheet.It takes 4hours.
Grading will be decided on short reports that students will submit each class meeting(80%)、and term-end report(20%).

PSY200MA（心理学 / Psychology 200）

教育心理学

児玉　茉奈美

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：金3/Fri.3　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では教育心理学を学ぶことで，人が学ぶときに心の中で起きていることを学ぶと同時に，その知識をもとに教育に関わる諸問題を考える力を養う。
授業内で扱う主なトピックは以下である。
・乳幼児期から青年期の各時期における認知発達や社会性の発達
・様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論
・主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方
・主体的な学習活動を支える指導の基礎
・教育場面で直面し得る現代的課題に関する心理学的検討

【到達目標】
・乳幼児や児童，および生徒の心身の発達の過程並びに特徴を理解する。
・乳幼児や児童，および生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け，発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。
・現代社会で生じる問題について理解を深め，自分なりに考える力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
本授業は主に対面での講義である。毎回授業の出席及びリアクションペーパーの提出を課題とし，リアクションペーパーについては次週フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 発達や学習を学ぶということ	授業内容，到達目標，授業形式などを紹介したうえで，本授業で発達や学習について学ぶ目的を明確にする
第2回	運動・言語の発達	子どもの身体や，言語の発達過程について説明する
第3回	認知の発達	子どもが物事を覚えたり理解する発達過程について説明する
第4回	自我の発達	「自分とは何か」を獲得する過程について説明する
第5回	社会性の発達	アタッチメントを基盤とした共感性など社会性の発達ついて説明する
第6回	動機づけ	動機づけ理論について説明し，意欲を高めるにはどうすれば良いか考える
第7回	知識の獲得	子どもが知識を獲得するメカニズムについて説明する
第8回	学習の過程	学習のメカニズムについて説明する
第9回	学習指導の形態	教育目的や方法に応じて，どのような学習指導を行うことが適切か説明し，学生自身が受けてきた学習指導を振り返る
第10回	学習活動を支える指導	子どもの学習を促すためには教師がどのような介入をすればよいか考える
第11回	学級集団づくり	学級やそこにいる教師，子どもたちがどのような関係性を形成し，それが子どもにどのような影響を与えるのか説明し，学校における集団の意義について考える
第12回	学習に対する評価	教育目的や方法に応じた学習評価の観点や時期，評価者をどう検討するかを説明する
第13回	子どものニーズに応じた教育	発達障がいの特徴や支援について説明する
第14回	試験・まとめと解説	授業内で期末試験を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
［準備学習］次回の授業内容について，教科書・参考書該当箇所を一読し，事前配布資料を精読する。
［復習］レジュメを参照しながら，学んだ概念，それに関連する先行研究を調べてみたりして理解を深める。
本授業の準備学習および復習時間は合計４時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
児玉佳一（編著）（2019）やさしく学ぶ教職課程：教育心理学　学文社（2300円＋税）

【参考書】
鎌原雅彦・竹鋼誠一郎（2019）やさしい教育心理学〔第5版〕　有斐閣　（2090 円）
櫻井茂男（監修）黒田祐二（編）(2018)実践につながる教育心理学　北樹出版　（2200 円）

【成績評価の方法と基準】
期末テスト50％，平常点（リアクションペーパーの提出を含めた授業への参加度）50％

【学生の意見等からの気づき】
資料の掲示は学期終了時まで継続し，いつでも再度ダウンロードして復習可能にしておくこととする。

【Outline (in English)】
Course outline
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the mental and physical development of children，learning theory and educational evaluation.
Learning Objectives
The goal of this course is to understand the motivation and cognitive process in learning for children and to study how to integrate this knowledge into teaching practices.
It is also our aim to understand how teacher-student relationships and each child's disposition and developmental rate can affect their learning process and their ability to adapt to their learning environments.
We will also discuss educational psychology for learners with developmental disabilities.
Learning activities outside of classroom
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria
Grading will be decided based on term-end test (50%), short reports in every class (50%).

EDU200MA（教育学 / Education 200）

臨床教育学

遠藤　野ゆり

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：火3/Tue.3　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人生の初期の大部分を学校で過ごす、という現代社会を生きる以上、キャリア形成に対する学校生活の影響力は非常に大きい。学校教育の意味と課題もそこには含まれている。そこで本授業では、本講義は「学校に行くこと／行かないこと」がキャリア形成に及ぼす影響を、一般論だけではなく、個々の生徒一人ひとりの具体的なエピソードを分析するなかで考える。また、教育を「学問」として探求するための手法として、データをつなぎ合わせ、教育問題が具体的に人間のキャリア形成に及ぼす影響について考えることを目指す。

【到達目標】
学校生活のキャリア形成に関する文科省、厚労省の示すデータを読み取れるようになることを目指す。
それらのデータが学術的な先行研究においてどのように位置づいているのかを理解すると共に、諸外国や日本国内の学校状況に関する知識を習得する。
実際の学校生活に関する事例を読み、自分の意見を表現できるようになることを目指す。
以上の目標を実現することで、学校教育および学校生活がキャリア形成においてどのような影響を与えているのかを多様な観点から理解することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義科目であり、オンラインと対面との組み合わせで進める。
オンラインでは、知識習得を目的とし、映像学習に加えて自身での調べ学習が含まれる。
対面時は、毎回グループワークがある。グループワークに参加することを単位履修の必須要件とする。またグループワークのために事前に課題を課すことがある。
オンラインと対面にかかわらず、毎回授業後に提出課題がある。課題等については、授業内で一部の意見を取り上げて紹介するほか、寄せられた質問やコメントについては授業資料に回答を明記して配布する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 授業実施の方法	授業の概要と進め方についての説明 「学校の機能」に関する検討
第2回	学校内の人間関係（事例検討）	共通の場所にいるように見えて学校という空間およびその人間関係の見え方は立場によって大きな違いがある。映像資料をもとに立場ごとに学校経験にどのような違いがあるのかを考える。
第3回	若者の人間関係形成の力学とその変化（講義）	「スクールカースト」「キャラ化」などの「若者論」の展開について学び、世代ごとの「若者」がその後どのようなキャリアに向かっていくのかを歴史的に追っていく。
第4回	教室空間と感覚過敏（事例検討）	不登校の原因の一つとして、視線恐怖などの社交不安障害や、感覚過敏などの発達障害がある。当事者の空間感覚を映像や文章から読み取る。
第5回	認知特性と空間環境が不登校等の学校適応に及ぼす影響（講義）	認知特性の構造や影響を理解し、学校適応の条件を捉える。また、不登校に関する近年の傾向をデータから読み取る。
第6回	ヤング・ケアラー（事例検討）	経済的な貧困に加え家族のケアを子どもながら担う人はどのような人生観を抱くのかをインタビューデータから読み取る。
第7回	貧困と社会関係資本（講義科目）	家計が学力に与える影響と、その後のキャリアに与える影響とを、様々なデータから読み取る。
第8回	過保護がキャリアに与える影響（事例検討）	過保護な環境で育つことの功罪についてインタビュー調査から読み取る。
第9回	文化資本と教育虐待（講義）	教育に正の影響を与えるとみなされやすい文化資本の高さがキャリアに与える影響と教育虐待との関係についてデータから読み取る。
第10回	受験がキャリアに及ぼす影響（事例検討）	思春期に大きな影響を及ぼす「受験」に関する事例を検討する。
第11回	地方・複線系学校システム・カリキュラム（講義）	都市部と地方における受験の違いや、進学校と進路多様校のカリキュラムの違いから、受験がキャリアに与える影響を捉える。
第12回	学歴がキャリアに及ぼす影響（事例検討）	学歴に翻弄された人生の事例を検討する
第13回	日本と海外における学歴の意味の違い（講義）	学歴がキャリアに与える影響を国際比較して捉える。
第14回	総括・ふりかえり	本講義全体を通して学校がキャリアに与える影響を整理する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
グループワークで読む事例は事前に課題とともに指示しますので、必ず予習をして臨んでください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
特にありません。必要に応じて講義内で配布します。

【成績評価の方法と基準】
毎回の事後課題39%、対面授業におけるグループワークの成果18%、期末テスト43％

【学生の意見等からの気づき】
グループワーク時には学生間の意見交換が深まるようにプログラムを組みます。

【学生が準備すべき機器他】
対面授業時は、パソコン（タブレット可）を持参してください。
大学のGoogleアカウントにサインインできるようにしておいてください。

【その他の重要事項】
受講生の興味関心に応じて授業のテーマは変更する可能性があります。

【Outline (in English)】
Course outline: As we spend most of our early life at school, the influence of school life on our career development is very great. The significance and problems of school education are included therein. Therefore, in this class, in this classes we think about the influence of "going to school / not going" on career formation not only in the general theory but also in analyzing each concrete episode of each individual student. As a method to explore education as "academics", we aim to think about the influence of educational problems on human career formation concretely by joining data.
Learning Objectives: Students are required to get skill to read the culture, sports, science and technology data　regarding career development in school life. presented by the Ministry of Education and the Ministry of Health, Labor, and Welfare. They are also required to understand how these data are positioned in academic precedent research and to acquire knowledge about school conditions in other countries and Japan. These requires are for students to be able to express their own opinions by reading case studies related to actual school life. By realizing the above goals, we aim to understand from various perspectives how school education and school life affect career development.
earning activities outside of classroom：
You will be instructed in advance about the examples to be read in the group work along with the assignments, so please be sure to prepare for the lessons. The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.
Grading Criteria /Policy：
Group work results in class: 18%, post-work assignments: 39%, final exam: 43%.

EDU200MA（教育学 / Education 200）

キャリア教育

児美川　孝一郎

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：火4/Tue.4　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本におけるキャリア教育の現状と課題

【到達目標】
①　キャリア教育とはなにか，その教育方法はいかにあるべきか，なぜキャリア教育が必要なのか等について，基本的な概念や考え方を理解する。
②　日本におけるキャリア教育の登場と展開の経緯について，基本的な事実，データ，社会的背景等を知るとともに，現状における問題点や課題を適切に理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義形式の授業であるが，可能な範囲で，受講者からの質疑や意見を求めたり，小課題の提出を求めたりする。
諸外国におけるキャリア教育の展開について，比較研究的な視点を持つことは重要であるが，本授業の対象は，主要には日本の学校教育におけるキャリア教育である。諸外国の事例については，日本との対比において参考になる点を示唆するにとどめる。
本授業の守備範囲は，日本におけるキャリア教育の歴史，理論，政策，学校レベルにおける施策である。
提出されたリアクションペーパーや課題等へのフィードバックは，次回の授業の最初にまとめて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業計画について概説するとともに，基本概念である「キャリア教育」について，本講義における共通理解の前提を確かめる。
第2回	職業教育からキャリア教育へ	内外のキャリア教育の成立史を概説し，職業教育とキャリア教育との異動について解説する。
第3回	権利としてのキャリア教育	いま，なぜキャリア教育が必要なのかという点とかかわって，権利としてのキャリア教育について解説する。
第4回	日本における職業指導と進路指導	戦前・戦後の日本における職業指導・進路指導の歴史について概説し，それぞれの時期における特徴や問題点について考察する。
第5回	進路指導改革としてのキャリア教育	現在のキャリア教育の源流のひとつとして，1990年代前半の進路指導改革の動きについて概説する。
第6回	若年就労支援策としてのキャリア教育	現在のキャリア教育の源流のもうひとつとして，政府レベルでの若年就労支援策の展開について概説する。
第7回	日本のキャリア教育の現状と課題	キャリア教育の登場以降の学校現場における取り組みを概観し，その特徴と問題点について考察する。
第8回	職場体験・インターンシップ	キャリア教育への取り組みとしての職場体験・インターンシップについて，現状と課題を考察する。
第9回	進路指導としてのキャリア教育	キャリア教育への取り組みとしての進路指導について，現状と課題を考察する。
第10回	教科教育を通じたキャリア教育	キャリア教育への取り組みとしての教科を通じてのキャリア教育について，現状と課題を考察する。
第11回	キャリア教育の担い手と組織体制	キャリア教育の担い手と学校内の組織体制のあり方について，現状と課題を考察する。
第12回	外部との連携	キャリア教育をすすめていくうえで不可欠な外部との連携について，いくつかの事例を踏まえて，考察する。
第13回	諸外国におけるキャリア教育	諸外国におけるキャリア教育への取り組みを紹介しつつ，日本のキャリア教育の現時点での到達点を確認し，今後の課題について考察する。
第14回	授業のまとめと試験	授業のまとめと試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
次回の授業内容については，学習支援システムにおいて予告されるので，自分なりの問題関心を深め，事前に資料・データ等を調べたうえで，授業にのぞむこと。
それぞれの授業時に紹介される参考文献については，自主的に読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に定めない。

【参考書】
児美川孝一郎『権利としてのキャリア教育』明石書店
児美川孝一郎『若者はなぜ「就職」できなくなったのか』日本図書センター
児美川孝一郎『キャリア教育のウソ』ちくまプリマー新書
児美川孝一郎『夢があふれる社会に未来はあるか』ベスト新書
児美川孝一郎『キャリア教育がわかる』誠信書房
授業時にも，随時，紹介していく。

【成績評価の方法と基準】
平常点（40％）
授業内試験（60％）

【学生の意見等からの気づき】
受講者に対するフィードバックを大切して授業運営をすすめる。

【その他の重要事項】
この授業は，情報の読解・分析力，課題発見・解決力の養成につながる諸課題を，授業運営の中に組み込んでおり，広い意味での受講生の就業力育成に資する。

【Outline (in English)】
This course introduces the current condition and issues of career education in Japan.
The goal of this course is to understand the theory and practice of career education.
Students will be expected to work on the indicated task after each class meeting.
Your overall grade in the class will be decided based on in-class contribution (40%) and term-end report (60%).

EDU200MA（教育学 / Education 200）

メディアリテラシーA

村上　郷子

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：木4/Thu.4　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業では、ユネスコの「メディア情報リテラシー」のカリキュラムに基づく理論的枠組みを学び、その背景にあるシティズンシップやデジタル・シティズンシップなどの概念を理化する。その方法論として、広告や新聞、SNSなどのメディア分析を行う。具体的には、授業前半で、メディア情報リテラシー教育の重要な概念（シチズンシップ、デジタル・シティズンシップ、リプレゼンテーションなど）に関する理論的背景を学ぶ。授業後半では、グループで特定テーマに関するメディア分析を行い、ディベートのかたちでグループのプレゼンを行うことにより、メディア情報リテラシーの知識やスキルを包括的に習得する。

【到達目標】
多様なメディアの分析を通じて、メディア情報リテラシー教育における４つの能力、批判的思考能力、メディアの制作、コミュニケーション能力、コラボレーション能力を身につけることができる。
　グループ活動では、プレゼン資料やおしゃべり原稿（シナリオ）などを作成することにより、実践的なメディア情報リテラシーのスキルを習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP1」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
シティズンシップ、メディア倫理、メディア・情報のリプレゼンテーションなど、メディア情報リテラシー教育の重要な概念に関する理論的背景を、演習を通じて学ぶ。授業の後半では、グループでテーマに関するメディア分析を行い、ディベートのかたちでプレゼンテーションを行う。なお、グループとテーマについては、履修者が確定した時点でアンケート調査・調整を行い、決定する。
　アンケート調査、プレゼンテーション、グループディスカッションの感想等については、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
大学行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業及び授業用グループウェア利用ガイダンス、 私のメディア史
第2回	メディア情報リテラシー（MIL)研究の理論的枠組み	メディア情報リテラシー教育（MILE）の基本概念と分析モデル
第3回	MILEとシティズンシップ①	メディアとシティズンシップに関する歴史的、文化的、社会的、政治的論点と課題
第4回	MILEとシティズンシップ②	グローバルシティズンシップにおけるデジタル・シティズンシップとMIL
第5回	世界のMIL	ヨーロッパ、とくにイギリス及び北米（アメリカ・カナダ）のMILの現状
第6回	日本のMIL	日本におけるMILの歴史、現状と課題について
第7回	メディア・情報のリプレゼンテーション①	ニュース報道とイメージの力(ジェンダー視点から見たビジュアルの力)、特に広告の分析
第8回	メディア・情報のリプレゼンテーション②（中間報告の提出）	多様性とリプレゼンテーションにおけるメディア・コード、特に新聞コンテンツの分析
第9回	課題 グループ活動①	グループごとに、各自がテーマについてメディア別に分析した内容をつきあわせる作業を行う。
第10回	グループ活動②	グループごとに多様性、シティズンシップ、プロパガンダについて、ディベートの内容を整理し、パワポにおおざっぱにまとめる。
第11回	グループ活動③	グループごとに、プレゼンテーションに関する最終打ち合わせをする。プレゼン資料、おしゃべり原稿の確認など。
第12回	研究発表①　多様性	平等・公正・正義に関するテーマのメディア分析 グループ発表(1)、全体討論、振り返り
第13回	研究発表②　若者とシチズンシップ	若者とシティズンシップに関するテーマのメディア分析 グループ発表(2)、全体討論、振り返り
第14回	研究発表③　プロパガンダ	プロパガンダに関するテーマのメディア分析 グループ発表(3)、全体討論、振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　状況によって、グループによる授業外の活動が入ってくることを了承すること。また、授業・グループ活動への積極的な参加が求められる。
　パートナー校の状況が許せば、海外の学生との交流もあり得るため、簡単な英語の読み書きが要求される場合もある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし。授業のレジメ、参考文献等は、その都度授業用グループウェア上にアップロードする。

【参考書】
必要に応じて提示する。

【成績評価の方法と基準】
個人の課題（分析）や中間報告などの提出物（30％）、グループによる課題制作物、プレゼン（プレゼン資料、班活動報告など含む)、授業の参加貢献度（20％）、個人レポート（50％）によって総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
グループ学習でのコミュニケーションツールとして、Hoppiiのグループウェアを用意したが、気軽には使えないとのこと。簡単なコミュニケーションには、LINEの活用も推奨する。

【学生が準備すべき機器他】
基礎的なパソコンスキルを習得していることが望ましい。

【その他の重要事項】
　本授業を受講する際は、「メディア教育論Ⅱ(メディアと教育Ⅱ)」をセットで履修することが望ましい。
　本授業では、グループ活動がしやすい情報実習室Hを使用している。定員は26名のため、人数が多いときは、最初の授業で、上級生でなおかつ出席が8割以上できる学生から受講者を確定する。出席8割が難しい学生や下級生は、最初の授業で選抜が行われる場合がある。

最初の授業で選抜による履修者が確定した場合、確定後の履修（授業2回目以降）は、いかなる理由も認めない。そのため、最初の授業には必ず出席すること。

最初の選抜で受講者の権利を得たが、本授業を履修しないと決めた者は、速やかに教員に連絡すること。

状況によっては海外の学生との交流もあり得るため、簡単な英語の読み書きが要求される場合もある。

【Outline (in English)】

(Course outline) : In class, we will study the theoretical framework based on the UNESCO “Media and Information Literacy” curriculum, and understand the concepts of citizenship and digital citizenship that lie behind it. As a methodology, we will analyze media such as advertisements, newspapers, and social networking services. Specifically, in the first half of the class, we will learn the theoretical background of important concepts in media and information literacy education (such as citizenship, digital citizenship, and representation). In the second half of the class, we will acquire comprehensive knowledge and skills in media and information literacy by analyzing media related to a specific theme in groups and presenting the results of our group debates.

(Learning Objectives) : Through analysis of diverse media, students can develop the following four competencies of media and information literacy education: critical thinking skills, media production, communication skills, and collaboration skills.

(Learning activities outside of classroom) : Students should be aware that group activities outside of class may be required depending on the situation. Active participation in class and group activities is expected.

(Grading Criteria /Policy) : Comprehensive evaluation will be based on individual assignment (analysis) (30%), group work and presentations (including presentation materials, group activity reports, etc.), class attendance and participation contribution (20%), and individual reports (50%).

EDU200MA（教育学 / Education 200）

市民社会における学びと実践

池田　佳代

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木2/Thu.2　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会的事業（社会課題を積極的に解決しようとする取り組み）の担い手は、行政・企業そして市民という３つのセクターに分類できる。各セクターは単独で事業を行うだけでなく、協働・助成・委託といった枠組みによって事業を行うことを通して、より丁寧に社会のニーズに応えようとする実態もみられる。それは市民的権利に基づく相互扶助の実践であり、共生社会の実現を目指す営みともいえる。本授業では環境・平和・地域福祉の分野で活動する市民セクターに注目し、社会課題に向けた実践の意義や可能性を検討する。それを踏まえて、それぞれの現場で”働く”人々の学びや市民セクターが果たす役割の重要性について理解することを目的とする。
関連するキーワード：コミュニティ、社会運動、非営利、市民社会、環境、平和、福祉

【到達目標】
1,「働くこと」や市民セクターにかかわる用語の意味や概念、活動形態や内容・メンバーシップ・社会問題への取り組みについて理解する。それにより多様なアクター・組織・イデオロギーのもとで社会が動いていることを洞察する力を育む。
2, 与えられた情報をもとに調べ・話し合い・発表し合うことにより学びを発展させる力（アカデミック・スキル)を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】
ディプロマポリシーのうち「DP6」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、Z その他 /Other

【授業の進め方と方法】
１，講義のほかグループワーク、ワークショップ等の主体的な学びの方法（アクティブ・ラーニング）を取り入れる。それに向けた自主的なフィールドワークを推奨する。
２，学生はグループワークに向けた資料の作成、授業の成果物としてレポートを提出する。
３, 発表及び提出物についてのフィードバックは授業中或いはHoppiiにおいて行う。
４, 必要に応じて取り上げる事例に詳しい実践家や専門家を招聘する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション〜働くとは	1,授業計画 2,「働くこと」に関わる言葉の意味や概念から考える
第2回	市民セクターの種類・制度・活動形態〜	1,自主事業・行政や企業との協働・助成・委託など多様な実践から考える 2,グループワークの進め方／アイスブレイク
第3回	環境分野の市民セクター（1）	未来へのアジェンダ〜地域NPOが担う環境行政関連事業＜国内事例＞
第4回	環境分野の市民セクター（2）	大学生が始めた脱炭素運動／鉱山開発による生活の破壊をデータで指摘する＜国際環境NGOの事例＞
第5回	環境分野の市民セクター（3）	気候危機とSDGs〜グローバルな人権問題と脱炭素に向けたエネルギー政策及び民間の取り組み
第6回	ワークショップ	気候正義に向けて私たちにできること〜討論及び発表
第7回	平和分野の市民セクター（1）	米軍基地と住民そして日本政府〜生活の現場からの訴え：何が変わり何が変わらないのか
第8回	平和分野の市民セクター（2）	核兵器禁止条約と地域安全保障の枠組み〜被ばく者とNGOの国際的な連携が生み出した変化
第9回	平和分野の市民セクター（3）	市民による外交・核兵器・平和構築〜歴史を踏まえた教育的活動
第10回	ワークショップ	平和な未来をどう創る？ 市民セクターの課題と可能性：討論及び発表
第11回	地域福祉分野の市民セクター（1）	地域力で貧困の連鎖を断ち切る〜多様なニーズに寄り添う学習支援活動
第12回	地域福祉分野の市民セクター（2）	住まいがない！ 〜不動産業界とNPOの協働による居住支援活動
第13回	地域福祉分野の市民セクター（3）	ワークショップ：子どもの話を聴く活動〜子どもの権利どう守る？
第14回	グループワーク（最終）	地域福祉分野の市民セクター調べ（自主・助成・委託・連携・協業の実践）に関する討論及び発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等)】
本授業の準備・復習時間には各2時間を標準とします。文献を読み、調べ、レポートにまとめて提出する活動を繰り返し行います。

【テキスト（教科書)】
各回の内容に合わせて使用する文献は参考書欄に記載している。そのうちの一部はプリント資料として配布するが、事前に入手することを推奨する。大学図書館や公共図書館などを通して事前に参照しておくこと。

【参考書】
1, アクティブラーニングの方法：ハード・ガブリエレ著 2016年『環境メディア・リテラシー―持続可能な社会に向かって』関西学院大学出版会（授業では特にp.48-70を参照します）
2, 働くことに関する用語：レイモンド・ウィリアムス著　2011年『完訳　キーワード辞典』平凡社
3, 環境分野：平田仁子/豊田陽介/ギャッチ・エバン/三谷優衣子著 2023年『気候変動を学ぼう―変化の担い手になるために』合同出版
4, 平和分野：ピースアルマナック刊行委員会編著 2025年『ピースアルマナック　核兵器と戦争のない地球へ』緑風出版
5, 地域福祉分野：川崎あや著2020年『NPOは何を変えてきたか―市民社会への道のり』有信堂
ほか授業中に適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加と運営への貢献、レポート等の提出：70％
最終レポート：30％

【学生の意見等からの気づき】
「働くという言葉は複数あり、そこに歴史的な経過が関連していることがわかった」「自分の将来をより幅広く展望することにつながった」「グループワークでは異なる意見を聞くことで刺激を受けた」「サスティナブルキャンパスを調べたことで地球温暖化に対して自分にもできることがあると感じられた」「反戦デモなどに今までは無関心だったが、平和にむけて多くの取り組みを知り、自分事としてとらえることができた」「空き家は戸建てだけではないと知り、メディア報道ではなぜ空き家＝戸建てという視点でしか伝えていないのか疑問に思った」「子どもを支援する活動について理解が深まった。今後は地域レベルの取り組みをさらに調べたい」などの意見がありました。グループワークを取り入れたことにより、自分一人の調査ではたどり着けなかった情報を得ること、話し合いを通じてさまざまな視点や意見に接することにより理解力が増したというコメントが多くありました。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出等のために学習支援システム等を利用します。

【その他の重要事項】
・授業計画等の変更等に関する連絡は授業中もしくは学習支援システムの「タイムライン」を主に使用します。
・提出されたレポートについては、必要に応じて類似性や剽窃、AIの誤用なども意識しながらチェックします。

【Outline (in English)】
（Course outline）
This class will focus on the civil society sector, which is active in community welfare, the environment, and peace-building. Learn how the three sectors of government, business and citizens complement each other in order to meet the needs of society. Furthermore, understand that these activities lead to mutual assistance and joint growth in civil society.
（Goal）
1, Understanding of the meaning of terms, and develop the ability to gain insight into how society operates under the influence of diverse actors, organizations, and ideologies.
2. Students develop their learning ability (academic skills) by investigating, discussing and presenting based on the information provided.
（Learning activities outside of classroom）
Lecture :Before/after each class meeting, students will be expected to spend more than two hours to understand the course content or to read, research, write.
（Grading Criteria /Policy）
Active participation and contribution, submission of reports: 70%
Final Report: 30%

EDU200MA（教育学 / Education 200）

格差社会の家族と教育

寺崎　里水

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水3/Wed.3　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この科目では、今日の格差社会における家族の生活、子育て、教育の実態について扱う。
2000年代以降、格差や貧困の問題が重要な社会問題としてクローズアップされるようになっている。この授業では、データで格差や貧困の現状を捉えることから始め、格差や貧困が家族関係や子どもの発達、進路選択、キャリア形成に及ぼす影響を学び、格差・貧困の是正にむけて、（学校）教育は何ができるかについて考える。
社会的不平等について、家族と教育に焦点をあてて考える基礎的な科目である。

【到達目標】
①今日の格差社会における家族の生活、子育て、教育の実態に関する知識を獲得し、格差是正に向けた自身の意見を持つ。
②他者と協働して行うグループワークを学びの機会として活用できる。
③適切な官公庁統計データを探し、利用することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP1」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
対面による講義とグループワークを用いる。資料配布は学修支援システムを通じて行うので、各自でダウンロードしたりプリントしたりすること。
専門用語を用いるので、リアクションペーパーを通じて理解度の把握に努める。またフィードバックを授業内で丁寧に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	導入として、格差と不平等をテーマに据える意義について述べる。授業の進め方の説明、授業の概要と目的の理解。
第2回	データで見る格差社会	貧困、格差、家族、地域、文化、機会
第3回	家族になることと格差	結婚、経済力、夫婦関係
第4回	子育てと格差	子どもの貧困、時間的貧困、家庭教育、食育、保育園という選択
第5回	グループワーク①	1000人の中学生の進路選択
第6回	進路選択と格差	トラッキング、学歴、ペアレントクラシー
第7回	貧困と学校	学校生活、体験、アイデンティティ、進路選択
第8回	学校の役割	反貧困教育、学校の荒れと国語学力、福祉と教育、部活動の意義
第9回	差異化と教育	家庭教育の格差、教育を用いた差異化戦略、「お受験」、留学
第10回	グループワーク②	四年制大学進学の格差
第11回	地域移動と格差	地域移動できる人、できない人、親子関係、ジェンダー
第12回	大人になることと格差	学校から職業への移行、子ども期から大人への移行、ヤングケアラー
第13回	格差の是正に向けて	教育費負担、所得の再配分、学校教育の見直し、「能力」再考
第14回	試験と全体の振り返り	授業内試験を実施するとともに、全体の授業の振り返りを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
基礎的な知識を扱う科目なので、知識の定着を求める。グループワーク課題によっては、授業時間外の予習を求めることがある。その場合、事前に指定された準備をしてこないとグループワークに十分に参加できないので注意すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。フィードバックについて、次の授業の初めにリアクションペーパーやミニ課題のいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
配布資料中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
グループワーク課題40％、最終試験60％。

【学生の意見等からの気づき】
とくになし。

【Outline (in English)】
Course Outline: This course covers the realities of family life, child-rearing, and education in today's society with inequality.
Learning Objectives:
(1) Acquire knowledge about the realities of family life, child-rearing, and education in today's society with inequality, and develop personal opinions on how to reduce this disparity.
(2) To be able to utilize group work in collaboration with others as an opportunity for learning.
(3) To be able to search for appropriate government statistics, understand their contents, and use them.
Learning Activities Outside of Classroom: Preparation and review should be 2 hours each.
Grading Criteria: Group Work Assignments: 40%, Final Exam: 60%.

EDU200MA（教育学 / Education 200）

ダイバーシティと学校

松尾　知明

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：水2/Wed.2　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、ダイバーシティと学校をテーマに、児童生徒の多様なニーズに対応して、学校ではさまざまな特色ある学びの経験が提供されていることについて考察する。前半では、自分自身の学校での学びの体験を振り返るとともに、他の受講生の体験と比較することを通して、学校での学びの経験は人それぞれに異なっていることを知る。後半は、自らの学校経験を踏まえ、国内外のさまざまな特色ある学校について学びながら、自分にとっての理想の学校の企画書を作成する。

【到達目標】
・自分自身の学校体験を振り返り、他者の体験と比較することで、学校での学びの経験は人それぞれに異なっていることに気づくことができる。
・自分自身の学校体験を踏まえ、多様な特色ある学校のビジョンや特徴を学ぶとともに、自分にとっての理想の学校の企画書を効果的に作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP1」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
本授業は、グループワークを中心に進めていく。グループで、課題について発表し合ったり、文献や動画をもとに意見交換をしたりする。また、自分自身の学校体験についてのスライド、理想の学校についての企画書を作成し、発表する。なお、対面で授業を実施し、授業のなかで課題についてのフィードバックを行う。また、学習支援システムを活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方
第2回	学びとは何か	学びの場としての学校
第3回	ライフコースと学校 ⑴就学前	就学前の学校・施設での学びとは
第4回	ライフコースと学校 ⑵小学校	小学校での学びとは
第5回	ライフコースと学校 ⑶中学校	中学校での学びとは
第6回	ライフコースと学校 ⑷高等学校	高等学校での学びとは
第7回	学校と私	学びの履歴
第8回	理想の学校を構想する	枠組みと構想
第9回	特別なニーズと学校 ⑴多様なニーズ	多様なニーズと夜間学校
第10回	特別なニーズと学校 ⑵グローバル化	グローバル化と学校
第11回	特別なニーズと学校 ⑶不登校	不登校とフリースクール
第12回	特別なニーズと学校 ⑷問題行動	問題行動と学校
第13回	理想の学校を提案する	発表と質疑
第14回	授業のまとめ	授業の振り返りとテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の準備として、指定された文献や資料などを読んでくる。また、テーマについて調べ、課題に答えたり、パワーポイントスライドを作成したりする。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
文献、資料などは指定または配布する。

【参考書】
文部科学省「学習指導要領」。

【成績評価の方法と基準】
授業への主体的な参加の姿勢（30％）、課題（50％）、テスト（20％）をもとに総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
自分の学校体験の振り返りを踏まえたグループワークの進め方を工夫する。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】
This lesson examines the theme of diversity and schools and how schools offer a variety of distinctive learning experiences in response to the diverse needs of pupils. In the first half of the course, students will reflect on their own school learning experiences and, through comparison with the experiences of other students in the course, learn that school learning is different for everyone. In the second half, the students learn about various distinctive schools at home and abroad, drawing on their own school experiences, and prepare a proposal for an ideal school for themselves.
【到達目標（Learning Objectives）】
▪ By reflecting on their own school experiences and comparing them with the experiences of others, they are able to realise that learning in schools is different for everyone.
▪ Based on their own school experiences, they can effectively prepare an ideal school proposal for themselves, referring to the visions and characteristics of a diverse range of distinctive schools.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Students will be expected to read materials, conduct research and study, reflect on their learning, prepare materials on the subject, and prepare a presentation. The standard preparation and review time is 2 hours each.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】
Grading will be decided based on in class contribution (30%), assignments and presentations (50%) and term-end examination (20%).

EDU200MA（教育学 / Education 200）
ダイバーシティと生涯学習（社会教育特講Ⅰ）【2025年度以降入学者用】

上野　昌之

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：火6/Tue.6　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：キャリアデザイン学部2024年度以前入学者は、この科目は履修できません。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、日本社会における多様なマイノリティ（例：先住民族、部落問題、在日コリアン、外国人就労者、障害者、LGBTQ+、女性、高齢者など）グループについて理解を深め、彼らのおかれた社会構造や歴史的背景を考察します。そのうえで差別や人権に目を向け、マイノリティが直面する課題を把握し、より公正で包摂的な社会を実現するための具体的な方策を探求することを目的とします。本講義を通じて、受講生は日本社会が様々な文化を受け入れ素地の必要性を学び、多様性の尊重と社会変革への主体的な関与の重要性を学びます。

【到達目標】
1. 多様なマイノリティの理解：日本社会におけるさまざまなマイノリティの歴史的・社会的背景、現状、課題を説明できる。
2. 構造的な差別と日本人特権の認識：マジョリティとマイノリティの関係を社会構造の観点から分析し、無意識のバイアスや制度的差別を認識できる。
3. 批判的思考の育成：社会的な偏見やステレオタイプを問い直し、異なる視点から物事を考察できる。
4. 包摂的な社会の実現に向けた提案：具体的な政策、制度、実践の提案を行い、より公正な社会のための行動計画を立案できる。
5. 対話と共生のスキルの習得：多様な価値観や立場を尊重し、建設的な議論を行う能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP1」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義形式を基本とする。授業内では質疑応答をしながら進める。バズセッションなり、グループで話し合うことも逐次行う。最後にリアクションペーパ記述の時間を設けるので、当日の講義での疑問、考えたことなどまとめ提出するように。翌週の冒頭にリアクションペーパーをもとに前回の確認を行う。
期間中に書籍を読み論評する課題を課す。課題図書は講義の中で指定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	今講義のガイダンスを行う。日本社会における社会的弱者（マイノリィテイー）の認識と自己における人権意識を考える。	日本における社会的なマイノリティにはどのような人々がいて、受講者の日常生活でどのような意識を持って接しているか内省する。
第2回	日本の中でも一番長いと考えられる被差別民（同和問題）について考える。	いわゆる部落差別というものの歴史的な経緯を知り、現代における状況や問題点を踏まえ、差別、人権について考える。
第3回	在日コリアン等（オールドカマー）についてその歴史と、人権意識を考える。	「在日」と言われる人々が生まれた歴史的な背景を把握し、現代社会での状況を知り、自己や社会の在り方を考える。
第4回	日本に在留するいわゆる不法難民（外国就労者（ニューカマー）について考える。	「外国人就労者」を必要とする日本社会の構造と、彼らのおかれている現状を把握し、日本人ファーストを唱える、日本社会の在り方を考える。
第5回	先住民族アイヌの形成についてアイヌ民族の歴史的・地理的な経緯から振り返る。	先住民族アイヌの歴史的な背景を把握し、日本と先住民族の関係を考える。
第6回	先住民族アイヌが現在までも継承している言語、文化について考える。	アイヌ民族が現在も継承している伝統文化を知ることで日本民族との違いを知る。
第7回	アイヌ文化の喪失について明治以降の日本の植民地主義とアイヌ民族について考える。	アイヌ民族が日本社会に組み込まれていく中で、先住民族アイヌについて独自文化の喪失過程を把握しその意味を考える。
第8回	アイヌ民族への差別と対抗に向けた人権活動についてポストコロニアルの視点から、現代の状況を考える。	アイヌは日本人日本社会からの差別の視線へどのような抵抗と対抗を行ってきたかを考える。
第9回	現代のアイヌ民族の民族復興活動をポストコロニアル的な視点から考え、国家と先住民族の共生を考える。	現代のアイヌ民族の民族復興活動をポストコロニアルの視点から考え、国家と先住民族の共生を考える。
第10回	障がい者を取り巻く問題について考える。	インクルーシブが一般化しようとしている社会がより良いものになっているのか、障害者視点を踏まえ考える。
第11回	性的マイノリティ（LGBTQ＋）を取り巻く問題について考える。	LGBTQ+の人々にとって日本社会は決して生きやすいものではない。彼らを受容する社会設計に必要なこととは何かを考える。
第12回	日本社会において女性を取り巻く問題について多角的に考える。	日本での女性の社会的な地位はマイノリティと言える。日本社会での女性をめぐる問題について考える。
第13回	日本社会を取り巻く高齢者についての問題を広く考える。	日本は高齢社会にある。高齢者をめぐり社会のいたるところに歪が生じている。より良い人生を全うするために必要なこととは何かを考える。
第14回	試験・まとめと解説。	現在の日本社会の抱える社会的マイノリテイとの関係を振り返り、公平で公正な社会の実現の構築に必要なものを考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
次回のテーマについて書籍やインターネットなどで情報を集め、日本社会の中でどのようなことがそのテーマで問題となっているのかを下調べしておく（3時間を標準とする）。講義終了後には講義で問題となっていた点について熟考し、当事者の立場と自己の立場でどのような齟齬が起きてくるのか、自己の考えをまとめておく（1時間を標準とする）。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。講義時に必要資料を配布する。
アイヌ民族に関しては別につぎのURLから中学生用資料をダウンロードしておくように。
https://www.ff-ainu.or.jp/web/potal_bunka/details/post.html

【参考書】
キム・ジへ『差別はたいてい悪意のない人がする』大月書店　2021年　1600円。

北村英哉・唐沢穣『偏見や差別はなぜ起こる？』ちとせプレス　2019年　2500円。
古橋エツ子監修、和田幸司編『人権論の教科書』ミネルバ書房　2021年　3000円。
北原モコットゥナシ『アイヌの真実』ベスト新書　2020年　1300円。
その他、各カテゴリーで様々な観点から書籍が出ているので、自分が興味を持ち読みやすいものを入手し、参考資料として使いなさい。

【成績評価の方法と基準】
・毎回提出されたリアクションペーパー（13回分)を評価の対象とする。「到達目標」を意識した記載を評価する（30％）。
・課題論文についてその内容を評価対象とする（20％）。
・授業への参加態度学習状況などを平常点として評価する（10％）。
・最終日の試験内容を評価する（40％）。

【学生の意見等からの気づき】
講義中にその日のテーマについて、いくつかの話し合いをしてもらいます。人数にもよりますが、できるだけ違った人との対話を大切にしてください。この講義は社会人の人も受講します。学生だけでなくそれぞれ違った経験を持った人たちを話し合うことで、自身の見聞を広げたり、自らが整理できていないところを明らかにすることもできます。
毎回のリアクションペーパーで、共有したい意見や興味深い発想があれば、次回に紹介し互いに考えてもらったりもしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
特に指定しない。

【その他の重要事項】
・課題またはリアクションペーパーを、生成AIにより作成し提出したものと考えられるものは減点(無効を含む)の対象とする。
・オフィスアワーについては、講師のため大学滞在時間が限られているため、授業前後の時間を当てる。単発、簡素なものは学習支援システム上で行う。

【Outline (in English)】
This course aims to deepen students' understanding of diverse minority groups in Japanese society, and to examine the social structures and historical contexts surrounding them. Building on this foundation, the course focuses on issues of discrimination and human rights, identifies the challenges faced by minority groups, and explores concrete measures for realizing a more just and inclusive society. Through this course, students will learn the importance of respecting diversity and of actively engaging in social change.As learning outcomes, students will be expected to critically reassess their own prejudices and stereotypes toward marginalized groups and to develop the ability to analyze issues from multiple perspectives. In order to acquire the skills necessary for dialogue and coexistence among different groups, students will consider the diverse values and positions that must be acknowledged and respected, and reflect on what is required to engage in constructive discussion.

EDU200MA（教育学 / Education 200）
地域づくりと生涯学習（社会教育特講Ⅱ）【2025年度以降入学者用】

大木　由以

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：金3/Fri.3　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：キャリアデザイン学部2024年度以前入学者は、この科目は履修できません。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
（授業の概要）
地域の歴史・文化や地域産業にかかわる多様な社会教育実践に目を向け、学びをとおした地域づくりの実態を知るとともに、その特徴を検討する。
（授業の目的・意義）
本授業は、受講者が、主として地域の歴史・文化や地域産業にかかわる多様な社会教育実践を分析することで、学びをとおした地域づくりのあり方、また、学びをとおした地域づくりに果たす社会教育の役割について、具体的に理解できるようになることを目的とする。
本授業の意義は様々な実践に触れることで多様な主体・内容・方法による社会教育実践のあり方を理解できるようになることである。

【到達目標】
受講者には、主として地域の歴史・文化や地域産業にかかわる多様な社会教育実践を分析する視座を獲得すること、そのうえで、学びをとおした地域づくりの特徴や、学びをとおした地域づくりに社会教育が果たす役割を説明できるようになることを期待している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
・教員による講義を基本とする。
・各回の授業後に、授業をとおして感じたこと考えたことについてリアクションペーパーを提出してもらう。書かれたことは、次回以降の授業で共有することがある。また、必要に応じて補足説明を行う。
・授業内に、提示されたトピックについて、学生間で意見交換をしてもらうことがある。
・提示された課題についてレポートを作成してもらう。作成されたレポートの内容は、授業内に、学生間で発表してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方を説明する。また、受講者には、身近な地域の歴史・文化や地域産業をめぐる現状と課題を検討してもらう。
第2回	多様な地域課題と地域づくり	多様な地域課題の解決方法について検討しながら、学びをとおした地域づくりという考え方について理解を深める。
第3回	公民館と地域産業	公民館について概説したうえで、地域産業にかかわる実践事例を分析し、その特徴を検討する。
第4回	公民館と地域の歴史・文化	公民館における地域の歴史・文化にかかわる実践事例を分析し、その特徴を検討する。
第5回	図書館と地域産業	図書館について概説したうえで地域産業にかかわる実践事例を分析し、その特徴を検討する。
第6回	図書館と地域の歴史・文化	図書館における地域の歴史・文化にかかわる実践事例を分析し、その特徴を検討する。
第7回	博物館と地域産業	博物館について概説したうえで、地域産業にかかわる実践事例を分析し、その特徴を検討する。
第8回	博物館と地域の歴史・文化	博物館における地域の歴史・文化にかかわる実践事例を分析し、その特徴を検討する。
第9回	社会教育施設の運営と地域づくり	第8回までの内容を踏まえ、社会教育施設の運営方法に目を向け、学びをとおした地域づくりのあり方について検討する。
第10回	文化施設による学習機会と地域づくり	文化施設について概説したうえで、学びをとおした地域づくりにかかわる実践事例を分析し、その特徴を捉える。
第11回	民間団体による学習機会と地域づくり	多用な民間団体について概説したうえで、学びをとおした地域づくりにかかわる実践事例を分析し、その特徴を検討する。
第12回	連携による学習機会と地域づくり	多様な主体の連携によってつくられる学習機会に注目して、学びをとおした地域づくりにかかわる実践事例を分析し、その特徴を検討する。
第13回	地域づくりと生涯学習	課題レポートの内容を共有しながら、グループディスカッションを行い、地域づくりと生涯学習について検討する。
第14回	全体の振り返り	地域の歴史文化・地域産業の現状と課題について確認をしたうえで、多様な主体による学習機会とその特徴について概観する。また、リアクションペーパー等で示された論点を取り上げながら、必要に応じてグループディスカッションを行い、授業全体への理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習は4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。

【参考書】
特に使用しない。

【成績評価の方法と基準】

各回のリアクションペーパー	30%
グループディスカッションへの貢献具合	30%
期末レポート	40%

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【その他の重要事項】
本科目は、社会教育主事講習等規程第11条に規定された「社会教育特講」に該当する。社会教育主事基礎資格取得、社会教育士（養成課程）の称号取得のための必修科目である。

【Outline (in English)】
This class is designed to help students understand the various community practices that develop local culture and industry. Students will be able to understand the concepts and historical background to evaluate the practices.
Students will gather practices for discussion and review class notes outside the classroom.
Classwork is a vital part of this class and regular attendance is necessary to pass the course.
Short reflection essays for each class (30%)
Active class participation (30%)
Final report (40%)

EDU200MA（教育学 / Education 200）

成人学習のデザイン（生涯学習支援論Ⅱ）

久井　英輔

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水1/Wed.1　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会教育における実践的な学習プログラムの作成手法や作成の際に必要な視点について解説し、それらの知識を活用して、地域社会の背景を踏まえた学習プログラム案作成のグループワークを行う。
（授業の目的・意義）
グループワークによる学習プログラム案の作成というプロセスを通じて、社会教育職員あるいは社会教育における学習支援者に求められる実践知（理論知を現実の状況に応じて適切に活用する能力）を体得する。

【到達目標】
社会教育における様々な学習支援技法を活用した学習プログラムの作成手法を理解する。また、これらの知識を生かして、地域社会の背景を踏まえた学習プログラム案を作成する基本的な実践力を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
最初の数回は、学習プログラム作成の基本的手法を学んだうえで、既存の学習プログラム（公民館などの社会教育施設が実際に実施した講座）を学生が検討し、学習プログラムに対する批評眼を養う。
これらを踏まえて、具体的な自治体／地域を想定して、グループワークで学習プログラム案（対象地域の特性の把握、実際の自治体社会教育計画の把握、学習プログラムの目的・概要と展開案、参加者対象アンケート案、広報案）を作成する。
作成した学習プログラム案については、教員、ゲストコメンテーター（社会教育施設職員）からだけでなく、学生相互にコメントし、個々人でより改善を進めたものを最終レポートとして提出する。グループワークでの成果に対する教員からのフィードバックは、授業内でのディスカッションを通して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス：社会教育における学習プログラムとは	社会教育における学習プログラムの特色について概観する
第2回	学習プログラム作成の現場から（ゲストスピーカー講義）	ゲストスピーカー（社会教育施設職員）から学習プログラム作成、実施、評価の実際について、情報提供していただく。
第3回	学習プログラム作成の基本的な手法①	社会教育の学習プログラム案作成の基本的な視点、および標準的な手順について解説する。
第4回	学習プログラム作成の基本的な手法②	地域社会の特性・課題把握、自治体社会教育計画との関連性、学習成果活用との関連性、広報の手法、調査データ活用、評価手法、など学習プログラムの企画・実施・評価に必要な構成要素について詳細に解説する。
第5回	学習プログラムの実例検討①	社会教育施設等における既存の学習プログラムを各受講者が選定しその詳細を調査する。
第6回	学習プログラムの実例検討②	社会教育施設等における既存の学習プログラムについて、各受講者が選定したプログラムの意義について発表し、質疑応答を行う。
第7回	学習プログラムの実例検討③	社会教育施設等における既存の学習プログラムについて、各受講者が選定したプログラムの改善すべき点について発表し、質疑応答を行う。
第8回	地域課題の把握	任意の地域（市町村など）を各受講者が選定し、その地域の課題、教育・学習・文化環境や、社会教育に関わる政策環境について個人レポートの発表を通じて把握する。
第9回	学習プログラム案の作成①	任意の地域を対象とした個人レポートの成果を基に、グループに分かれて一つの地域を選定し、地域社会の課題について、またその課題を背景とした学習プログラムの目的・概要を作成する。
第10回	学習プログラム案の作成②	グループ毎に、学習プログラム各回実施内容の詳細、学習成果活用の方向性、広報手法等に関する案を作成する。
第11回	学習プログラム案の作成③	グループ毎に、学習プログラムの受講者アンケート案、評価方法に関する案を作成する。
第12回	学習プログラム案の発表①	グループ毎に完成した学習プログラム案を発表する。
第13回	学習プログラム案の発表②	グループ毎の学習プログラム案について、学生間の質疑応答や社会教育施設職員（ゲストコメンテーター）を通じてその意義と課題を論じる。
第14回	学習プログラム案の振り返り	グループ毎に学習プログラム案の作成プロセスを振り返り、改善すべきポイントを明確化する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・個人ワーク、グループワークともに、授業時間外での準備時間が十分に必要となるので、留意すること。
・各回の授業後、参考書や授業内で提示した参考文献の関連箇所を読むこと。
・本授業の準備学習・復習時間は合わせて各回4時間以上を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。

【参考書】
髙井正・中村香編『生涯学習支援のデザイン』玉川大学出版部、2019年
国立教育政策研究所社会教育実践研究センター（清國祐二編集代表）『生涯学習支援論』ぎょうせい、2020年

【成績評価の方法と基準】
各回のコメントシート　30％
グループワークへの貢献度　20％
個人発表・グループ発表　25％
全体でのディスカッションへの貢献度　15％
学習プログラムの改善案（最終の個人レポート）　10％

【学生の意見等からの気づき】
受講者数によってグループワーク、発表、質疑応答にかける時間が大きく変化する授業である。例年受講者数がかなり変動するので、スケジュール、タイムテーブルについては、学生数に応じてある程度柔軟に対応できるよう心がけたい。また、後半のグループワークについて学生からの要望をうけて、グループワーク開始の際の工夫、またグループワーク実施回数増を予定している。

【学生が準備すべき機器他】
ノートPC（グループワーク等で使用）

【その他の重要事項】
本科目は、社会教育主事講習等規程第11条に規定された「生涯学習支援論」に該当します。社会教育主事任用資格取得、社会教育士（養成課程）の称号取得のための必修科目です。

【Outline (in English)】
(Course Outline)
The aims of this course are to provide students with knowledge on practical methods for planning learning programs in social education, and to supports group work of students for planning learning programs by utilizing basic knowledge.
(Learning Objectives)
The goals of this course are to help students to acquire “practical knowledge” (the ability of utilizing theoretical knowledge according to situation) for staffs or learning supporters of social education, by experiencing the process of planning learning programs.
(Learning Activities Outside of Classroom)
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
(Grading Criteria /Policy)
Final grade will be calculated according to the following process:
Submission of comment sheets: 30%
Contribution to group work: 20%
Individual presentation and group presentation: 25%
Contribution to discussion in class: 15%
Term-end report: 10％

EDU200MA（教育学 / Education 200）
生涯学習のプランニング（社会教育経営論Ⅰ）【2025年度以降入学者用】

久井　英輔

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：水1/Wed.1　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：キャリアデザイン学部2024年度以前入学者は、この科目は履修できません。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
（授業概要）
前半は「社会教育経営」という考え方と、それが社会教育行政において必要とされるようになった背景について概観する。その上で、社会教育調査、社会教育計画の策定、社会教育の広報、社会教育と評価、学習成果の活用、等、社会教育経営の観点から求められる具体的な知識について解説する。
後半は、これらの基本的知識の定着を図るため、演習または実習的に授業を展開する。第一に、自治体が実際に作成した社会教育計画の検討を各自で行い、学生間の質疑応答を実施する。第二に。実際の社会教育施設（公民館等を想定）の見学を行い、その経験に基づいてグループレポート作成、学生同士の質疑応答を実施する。
（授業目的）
「社会教育経営」という概念を、実際の自治体社会教育計画策定や社会教育施設の経営といった実践に活用できる形で理解する。

【到達目標】
「社会教育経営」という概念を、社会教育調査、社会教育計画策定、社会教育の広報、社会教育の評価、学習成果の活用、といった個別の論点と関連付けて理解できるようになる。また「社会教育経営」という観点から実際の自治体の計画や社会教育施設の事業を分析する力を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
前半は、社会教育経営という概念と、それに関わるいくつかの要素（社会教育調査、社会教育計画の策定、社会教育の広報、社会教育と評価、学習成果の活用、等）を講義形式で解説するとともに、実際の自治体の社会教育計画に関する分析・考察を個人発表の形で各学生が提示する。
後半は、社会教育施設（公民館を想定）の訪問と、その経験を踏まえた社会教育施設経営に関するグループ発表を行う。
学生に対するフィードバックは、毎回のコメントシート提出に対する教員からのリプライ、および、プレゼンテーションに対する教員のコメントなどの形で行うものとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	社会教育経営の基本的視点	「社会教育経営」という概念の意味を解説するとともに、この概念が必要とされるに到った背景について検討する。
第2回	自治体社会教育計画策定の実際	実際の都道府県や市区町村において、どのような留意点に配慮しながら社会教育計画が策定されているかについて解説を行う
第3回	社会教育関連法令の動向	生涯学習概論Ⅰで学んだ社会教育関連法令（特に社会教育法）に関して、特に今日において重要となっている規定について解説する。
第4回	社会教育調査とデータの活用	社会教育現場で実施されるアンケート調査について、量的分析の基本的性格を確認するとともに、住民、施設利用者、講座参加者対象のアンケートがそれぞれ具体的にどのように実施・活用されているかを解説する。
第5回	社会教育計画の実例の検討（1）	実際に都道府県レベルで策定されている社会教育計画を受講生個々人が適宜選定して概要を紹介し、自治体政策において社会教育がどのような意義を持つものと捉えられているのかを検討する。
第6回	社会教育計画の実例の検討（2）	実際に市区町村レベルで策定されている社会教育計画を各受講生個々人が適宜選定して概要を紹介し、自治体の政策において社会教育がどのような意義を持つものと捉えられているのかを検討する。
第7回	社会教育と広報	社会教育の施設・事業の広報に求められる手法の独自性とよく見られる工夫について紹介、考察する。
第8回	社会教育と評価	社会教育で扱われる「評価」の多様性（個人の学習成果の評価、事業の評価、行政評価）とその意義について検討する。
第9回	学習成果の活用	社会教育の学習プログラムで得られた個々人の学習成果が、どのように活用しうるか、またその活用のために社会教育行政が行っている取り組み（ボランティア活動、人材バンク登録など）がどのような取り組みをしているかを紹介する。
第10回	社会教育施設の今日的課題	社会教育施設の経営に求められる今日的な課題（財政、人員確保、利用者の高齢化など）について検討する。
第11回	社会教育施設実地視察の事前学習	実際に訪問する社会教育施設について、その経営方針や事業に関する質問等を学生間で検討する。
第12回	社会教育施設の実地視察	社会教育施設（公民館またはその類似施設、あるいは生涯学習センター）を訪問し、設備や経営方針、事業企画の傾向などを職員から説明を受けた上で、受講生との質疑応答を行う。
第13回	社会教育施設実地視察の報告資料作成	前回に訪問した社会教育施設について、施設経営に関する諸点（事業のテーマ・広報・評価手法、学習成果の活用、地域住民との関係性）をグループにて共有し、簡潔なプレゼンテーション資料を作成する。
第14回	社会教育施設実地視察の成果報告・共有	施設訪問における知見について、各グループのプレゼンテーションと討議を行った上で、これまでの授業の振り返りを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・各回の授業後、配布資料をよく読み返すとともに、配布資料で提示した参考文献の関連箇所を読むこと。

・自治体社会教育計画に関する個人発表については、授業内で発表資料を作成する時間は取れないので、授業外で十分に時間を取って準備すること。
・本授業の復習時間は4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
国立教育政策研究所社会教育実践研究センター（浅井経子編集代表）『社会教育経営論』ぎょうせい、2020年
田中雅文・中村香編『社会教育経営のフロンティア』玉川大学出版部、2019年

【成績評価の方法と基準】
毎回のコメントシート　40％
社会教育計画の実例検討を踏まえた個人発表　20％
社会教育施設実地視察を踏まえたグループ発表　20％
グループ、全体での討論への貢献度　20％

【学生の意見等からの気づき】
積極的な学生の参加が求められる授業であり、教員の問いかけや課題提示に対して、学生からの意欲的な発言や丁寧なレポート・レジュメ作成があり、教員・学生相互のコミュニケーションをうまく展開する形で授業が進んだ。
2026年度以降、資格課程科目だけでなくキャリアデザイン学部の専門科目となる関係上、受講者が大幅に増加する可能性がある。資格取得を目指す学生とそうでない学生との関心の違いを念頭に置いて、授業の細部を改善する必要があると考えられる。

【学生が準備すべき機器他】
ノートPC

【その他の重要事項】
本科目は、社会教育主事講習等規程第11条に規定された「社会教育経営論」に該当します。社会教育主事任用資格取得、社会教育士（養成課程）の称号取得のための必修科目です。

【Outline (in English)】
【Course outline】
The first half of the course will provide an overview of the concept of “social education management” and the background of its necessity in social education administration. Specific knowledge related to social education management, such as social education surveys, social education planning, public relations for social education, social education and evaluation, and utilization of learning outcomes, will also be explained.
The second half of the course will consist of presentations and group work to consolidate this knowledge. First, each student will examine an actual social education plan prepared by the local government. Second, students will visit actual social education facilities, prepare for group presentation based on their experiences in these visits.
【Learning Objectives】
The purpose of this course is to understand the concept of social education management as a practical concept that can be used in social education planning in local governments and projects at social education facilities.
【Learning activities outside of classroom】
Students will be expected to read documents of lecture again and references mentioned in the document of lecture after each class meeting. Students are also required to prepare for the presentation of social education plans and basically outside of class time. Your study time will be more than four hours for a class.
【Grading Criteria /Policy】
Final grade will be calculated according to the following process:
Submission of comment sheets: 40%
Individual presentation on plan of social education: 20%
Group presentation based on visits of social education facilities: 20%
Contribution to discussion: 20%

EDU200MA（教育学 / Education 200）

教育社会学【2025年度以降入学生用】

筒井　美紀

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：木3/Thu.3　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞
授業コード：C5057
科目名：教育社会学
＜2024年度以前入学者＞
授業コード：C7197
科目名：教育社会学Ⅰ
※入学年度により授業コード・科目名が異なります
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学校教育は社会のなかでどのような機能を果たしてきたのでしょうか。「社会で求められる態度や価値観を生徒に伝えてきた」「社会の高度化にともない、それに必要な能力とスキルを生徒に教えてきた」。このようなありきたりの見方こそ、学校教育が教え込んできたのです。しかし、学校教育は決して価値中立的ではありません。だから学校教育を裏返してよく見てみる必要があります。この相対化こそ、AIに使われるだけの人間にならないためのトレーニングです。一緒に「教育社会学」しましょう。

【到達目標】
・「教育のべき論」に飛びつかない――社会的現実を質的／量的データで捉える「ディテール力」の基礎を磨きます。
・「社会」のパーツを掘り下げる――「社会」という"big word"だけで考えていても理解は深まらない。家族、友人関係、バイト先、大学、将来の職場・職業・産業、家族・世帯・地域、AI化・・・社会学的な知識と理解を徐々に習得し、教育と結びつけて考える力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP1」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
　第1,7,14回をのぞき、対面授業を行ないます。
　この授業は反転授業方式です。指定テキストを読み、この予習レジュメのQuestionを毎回こなして「授業に参加」のこと。授業は、指定テキストに書かれていることをなぞるのではなく、それを発展させ深めます。授業で提出されるリアクションペーパーについては、その次の回の冒頭でいくつか取り上げてリプライをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	「森全体」を見渡す
第2回	中学校長「二人以上産む 最も大切」–どう思う？	社会科学の表現作法（テキスト第１章）、学校の諸機能
第3回	愛嬌たっぷり先生ロボットは有能か？	社会化とAIのインパクト（テキスト第6章）
第4回	どうしても働かなきゃダメ？	社会統制と「労働の道徳化」（テキスト第5章）
第5回	大学と大学生、どのように増えてきた？	グラフの作成・記述・考察
第6回	大学と大学生、なぜこんなに増えてきた？	機能主義、アクター理論
第7回	男女別学高校、なぜ・どのように減ってきた？	第5,6回で得たスキルと知識の応用エクササイズ
第8回	経済と労働と教育、どう変わってきた？	近過去に関する基礎知識の習得（テキスト第1,4章）
第9回	男女雇用機会均等法はいつ・なぜ制定された？	近過去に関する重要知識の習得
第10回	大学生の進路、なぜ・どのように変わってきた？	「能力」の構築主義的理解
第11回	やっぱり男性のほうが女性より仕事ができる？	統計的差別、ジェンダー化された能力、葛藤理論
第12回	給料2割減、週20時間労働を選ぶ？	ライフコース展望の男女差とその変化（テキスト第4章）
第13回	扶けてくれる人はどこにいる？	社会関係資本の脆弱化・偏在と包括支援政策（テキスト第7章）
第14回	まとめ	基礎概念の再確認、期末試験に向けて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
私の授業は反転授業方式です。予習レジュメのQuestionををこなして授業参加のこと。本授業の準備学習・復習時間は計4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
筒井美紀（2016）『自分の殻を突き破るキャリアデザイン――就活・将来の思い込みを解いて自由に生きる』有斐閣

【参考書】
駒川智子・金井郁編（2024）『キャリアに活かす雇用関係論』世界思想社

【成績評価の方法と基準】
期末試験100％

【学生の意見等からの気づき】
みなさん、授業を一緒に楽しみましょう。

【学生が準備すべき機器他】
パソコンやタブレットを持ってきてください。授業のプリント等上での配布はしません(すべてオンラインで掲載)。グラフ作成なども授業中にやります。

【Outline (in English)】
What role has school education played in society? "Schools have taught students the attitudes and values that society expects," "As society becomes more advanced, schools have taught students the abilities and skills that are necessary." These are the commonplace views that school education has instilled in you. However, school education is by no means value-neutral. That's why we need to look at school education from the inside out. This relativization is the very training that will keep you from becoming someone who is merely used by AI. Let's do "the sociology of education" together.
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text and answer some questions of "preparation resume." Your total study time will be four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the final exam（100%).

EDU200MA（教育学 / Education 200）

教育経済学

孟　碩洋

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木5/Thu.5　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞
授業コード：C5058
科目名：教育経済学
＜2024年度以前入学者＞
授業コード：C5058
科目名：教育経済学
※入学年度によらず同一授業コード・科目名称

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経済学の基礎的な考え方や分析手法を用いて、教育に係る諸問題、とりわけ身近な学校や大学での教育の役割や効果について考察を深める。大学へ進学する理由や、政府が学校や教育政策を運営し学費補助に税金を用いる理由といった問いを手がかりに、日本国内だけでなく国際的な視野から教育と経済の関係を比較・検討し、自身や次の世代の学びに関する論理的な考察を深めるための道具として、経済学の基礎的な概念や手法を学ぶ。

【到達目標】
本講義を通じて、主に次の2点を到達目標とする。第一に、身近な学校教育や大学教育に係る諸問題について考察を深め、自身の大学生活を捉え直すことができるようになる。第二に、経済学的なものの見方や分析方法を身につけ、教育を含む社会問題を論理的に考察し、分析を読み解き、適切な選択を行うことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
本講義は講義（インプット）を中心としつつ、受講人数に応じて受講者によるコメント発表、ミニディスカッション等を取り入れて進めます。講義回においても、演習問題やリアクションペーパー等の課題を課し、授業内容の理解と応用を確認します。授業への積極的な参加（発言、課題への取り組み等）を求めます。
なお、大学の方針や社会状況、教室事情等により、授業形態をオンライン（同時配信等）に変更する場合があります。変更が生じる場合は、学習支援システムおよび授業内で事前に周知します。
課題等に対するフィードバックは、講義時間内に教室で講評・解説を行うほか、学習支援システムを通じて返却・コメントを行う場合があります。受講人数が多い場合等には、必要に応じてオフィス・アワーを設け、課題の講評や質問対応をまとめて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	「経済学」で教育を捉えるとは。講義全般のテーマ・問題意識の紹介。履修案内、リアクションペーパーの説明。
第2回	教育投資の基礎理論（1）	なぜ人は教育を受けるのか。進学の意思決定、教育の効果（消費と投資）。人的資本理論の導入。
第3回	教育投資の基礎理論（2）	人的資本理論を基に教育の便益を考える。教育投資収益率の考え方と基本的な測り方。
第4回	教育投資の基礎理論（3）	学歴と賃金格差を説明する理論を含む他の見方の紹介。
第5回	教育投資の基礎理論（4）	基礎理論の整理とまとめ。中間レポート課題の説明（テーマ例・評価基準・提出方法）。
第6回	教育投資の基礎理論（5）	国内外の教育経済学実証研究の系譜と主要トピックの紹介。
第7回	復習・補足（中間）	第1〜6回のリアクションペーパーをもとに、質問の多かった論点を解説。中間レポート作成に向けたQ&A。
第8回	教育政策の経済学的評価（1）	政策評価の観点：効率性と公平性。教育効果を「測る」発想。教育生産関数の導入。
第9回	教育政策の経済学的評価（2）	教育生産関数の考え方を深める。相関と因果の違い、相関分析の基礎。
第10回	教育政策の経済学的評価（3）	学力等アウトカムの測定。実験的手法・準実験的手法の考え方を紹介。
第11回	教育政策の経済学的評価（4）	日本・世界の政策評価研究の紹介。費用対効果分析の基本的な考え方。
第12回	教育政策の経済学的評価（5）	政策評価（効率性・公平性、因果推論、費用対効果等）の観点を用いて、近年の主要論点（ジェンダー格差、国際化と人材移動、AIと学習・評価）を整理し、代表的な研究・政策論点を批判的に検討する。
第13回	教育政策の経済学的評価（6）	理論と実証の知見を用いて、教育政策を総合的に評価し、選択する枠組みを学ぶ。期末レポート課題の説明。
第14回	まとめ・補足	第7〜13回のリアクションペーパーをもとに、質問の多かった論点を解説。期末レポート課題に向けた総括とQ&A。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講人数に応じ講義の形式が変わるため、あくまで想定ですが、下記のような予習、復習を求める可能性があります。
・講義で取り上げた内容に関わる論文、調査、学術雑誌などでの論考を探し、筆者の主張をまとめた上で、講義で身に着けた観点から自身の考察を述べるレポートの作成。
・講義内容に係る演習問題の回答や、自身の考察をまとめたレポートの提出。
・講義内で上記の発表を行う可能性もあります。
・自主的に課題に取り組む姿勢が求められます。
・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に用いません。

【参考書】
授業の中で、適宜紹介し、必要に応じて参考資料を作成し配布します。

【成績評価の方法と基準】
平常点：40％程度（講義内での演習問題およびリアクションペーパーへの回答、授業内での発言等の積極的な参加）
レポート：60％程度（中間レポート、期末レポート）

【学生の意見等からの気づき】
本年度より新たに担当するため、前年度の授業改善アンケート結果に基づくフィードバックは行えない。代替として、各回のリアクションペーパーおよび授業内の質疑を通じて学生の理解度・要望を把握し、次回以降の講義内容（説明の補足、進度、演習量等）に反映する。

【その他の重要事項】
この講義では、経済学の基礎的な概念や分析手法を学習しますが、高校数学以上を用いた解説などを行う予定はありません。よって、予備的な数学の学習などは特に必要ありません。受講人数や参加者の希望により講義内容や形式を一部変更する可能性があります。このため、履修希望者は、必ず第１回の講義に出席し、ガイダンスを聴くとともに、受講希望理由書（200～400字）を提出していただきます。提出方法は、講義開始の一週間ほど前に学習支援システムよりアナウンスいたします。第１回の講義に出席できない方で履修を希望する方は、事前にメールにて連絡をください。

【Outline (in English)】
Outline
This course introduces key concepts and analytical approaches in economics and applies them to major issues in education. The course examines why individuals invest in education and why governments design education policies and provide financial support. Drawing on examples from both Japan and other countries, the course explores the roles and effects of schooling and higher education and develops an evidence-informed perspective on education and society.
Goals
By the end of the course, students will be able to:
1. Analyze contemporary issues in schooling and higher education using basic economic reasoning and concepts.
2. Explain major rationales for educational investment and public intervention in education.
3. Read and interpret empirical findings in education-related studies at an introductory level.
4. Evaluate education policies by considering efficiency and equity and make reasoned judgments based on evidence.
Methods
Classes are primarily lecture-based, supplemented by short student comments/presentations and brief in-class discussions depending on class size. Students will complete exercises and reflection/reaction papers to consolidate understanding and practice applying concepts. Feedback will be provided in class and/or through the learning management system; office hours may be arranged when needed. If required by university policy or logistical reasons, the class format may shift to an online synchronous mode, with prior notice provided via the learning management system and in class.
Assessment
Participation and in-class work: approx. 40% (in-class exercises, reaction papers, and active participation such as contributing to class discussions)
Written assignments: approx. 60% (midterm paper and final paper)

EDU200MA（教育学 / Education 200）

教育政策

村上　純一

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：月1/Mon.1　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞
授業コード：C5059
科目名：教育政策
＜2024年度以前入学者＞
授業コード：C5059
科目名：教育政策
※入学年度によらず同一授業コード・科目名称
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「教育」と「政策」とを結びつけて考える機会は、日常ではあまり多くないかもしれません。しかし、実際にはほとんどの教育活動は「政策」として策定され、それに則って実施されています。この授業では、教育に関する今日の「政策」を俯瞰し、そこに込められた目的や実施上の課題、今後の政策展望などを考えていきます。人のライフキャリアの視点も踏まえ、保育・就学前教育に関する政策から生涯学習政策までの段階に沿いながら今日の教育政策を考察したのち、今日における教育に関する諸問題をそれに関連する政策の観点から考え、理解を深めていきます。

【到達目標】
以下の各点について、当事者の視点で考え、理解できるようになることが目標です。
1）今日の教育政策における課題・問題点
2）公教育をめぐる諸政策の望ましい在り方
3）個々人のライフキャリアにおける各教育段階の意義・役割

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業は主に対面での講義形式で実施します。講義形式中心ではありますが、授業時間中の質疑応答も随時取り入れ、教員の講話一辺倒ではなく双方向のやり取りもある授業となるように努めていきます。また映像資料等も適宜ご紹介し、視聴覚教材を通した理解の深化も図っていきます。各回、授業の最後にはリアクションペーパーの提出を求めます。いただいたリアクションペーパーは翌週の授業でご紹介することでフィードバックし、受講生間でも共有して更なる理解の深化に繋げていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	「政策とは何か」を、教育と関連づけて考える。
第2回	国と地方の教育行政のしくみ	教育政策の実施主体としての教育行政について、国レベルおよび地方自治体レベルそれぞれの構造および政府間関係を、近年の改革動向も含めて理解する。
第3回	保育・就学前教育政策	幼保一元化等の近年の政策動向とも絡めて、保育・就学前教育をめぐる政策を理解する。
第4回	初等中等教育政策	初等中等教育（小中高）段階における政策を、教育課程・教員・財政などの視点から理解する。
第5回	高等教育政策	大学入試改革など近年の諸改革も含め、高等教育をめぐる政策の変遷を理解する。
第6回	社会教育・生涯学習政策	学校外での学び、大人の学びをめぐる政策の動向を理解する。
第7回	教育課程・カリキュラムに関する政策	最新の学習指導要領改訂、ICT教育や外国語教育の拡充など、教育課程・カリキュラムに関する最新の政策動向を学力調査との関連も踏まえて理解する。
第8回	学校の「安心・安全」に関する政策	教育現場の「安心・安全」を守るための政策上の工夫や課題を考える。
第9回	「開かれた学校づくり」に関する政策	学校と地域社会との連携・協働に関する政策の変遷や現状、課題について理解する。
第10回	いじめ・不登校・「子どもの貧困」に関する政策	いじめ問題をめぐる政策の動向や、不登校対策、「子どもの貧困」対策として策定・実施されている諸政策を、関連する法制度も踏まえ理解する。
第11回	学校の「働き方改革」	今日の学校教員の勤務実態と、その改善方策として考案されている政策について理解する。
第12回	学校部活動に関する政策	地域移行など、学校部活動をめぐる今日の政策動向について、部活動の歴史等も踏まえて考察・理解する。
第13回	少子化に関する教育政策	学校統廃合など、少子化に関連する教育政策について理解する。
第14回	授業のまとめ	授業全体をふりかえり、今日の教育政策のポイントを整理する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回、次の回の内容に関する予習課題を提示します。それに取り組んだ上で授業に参加するようにしてください。また各回の資料の末尾には関連する参考文献リストを添付します。1冊以上は必ず目を通すようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません。各回、資料を配布します。

【参考書】
資料の末尾に、各回の内容に即した参考文献リストを添付します。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は授業各回のリアクションペーパーと学期末レポートを綜合して行います。比率はリアクションペーパーの合計40％、期末レポート60％です。

【学生の意見等からの気づき】
授業は基本的に「一話完結」で様々なテーマを扱っていきます。2025年度の授業ではこれに対し、「色々なトピックを幅広く学べた」というご意見を複数いただきましたので、今年度も各回のテーマ設定は「一話完結」の形を踏襲しています。また各回の授業内容については、特に映像資料の活用が理解を深める上で有意義であったというお声を沢山頂戴しました。これを踏まえ、頼り過ぎないように注意しつつ、2025年度も映像資料の積極的な活用を図っていきたいと思います。一方、受講される方の人数に拠る部分もありますが、受講生同士での対話の機会がもっと欲しかったというご意見をいただきましたので、2026年度は受講生同士でのコミュニケーションを通じて理解を深める機会を多く設けられるよう工夫してまいりたいと思います。

【Outline (in English)】
【Course Outline】

It seems to be unusual to think about education as a content of public policies. However, almost all of the educational activities are planned as 'policy', and are implemented as such. In this lesson, we overview the educational policies of contemporary Japan and think of their purposes and issues. First, we treat the policy about nursing and pre-school education. Second, we treat the policy about school education. And, at last, we treat the policy about lifelong education. From the viewpoint of life stages, we consider the public policies of Japanese education.

【Learning Objectives】

Understanding three points below.

ⅰ）Issues of today's education policy

ⅱ）Ideals of educaton policiy

ⅲ）The importance and roles of each school stages

【Learning Activities outside of Classroom】

It takes two hours to make a preparation of one lesson, and it also takes two hours to review one lesson.

【Grading Criteria／Policy】

Comments of each lessons（40%）& Terminal Report（60%）

EDU200MA（教育学 / Education 200）

市民社会と教育改革

仲田　康一

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：月3/Mon.3　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
公教育は、人々の教育を受ける権利を保障していくために標準的で公的な仕組みを整えてきましたが、その制度的保障を発展させる形で、学校と地域社会の連携、そしてNPO・企業の学校への参入を通じて、多様な取り組みが進められています。
本講義では、以上に説明したような市民社会に根ざした独自の取り組みが公教育制度の中で進展することの意義と課題について、教育学のみならず、社会学・行政学・政治学等の社会科学的な観点からも考察を行うことで、教育に関して一段深い意見を持てるようにする手がかりを獲得してもらうことを目的とします。

【到達目標】
受講者には、授業終了までに次の3つの目標を達成できることを期待します。
1）日本における公教育の制度的特徴を、子どもの学習権保障との関わりで説明することができる
2）地域社会と連携して行われる教育実践や学校経営が、子ども・学校・地域・自治体・保護者等にとってどのような意義と課題を有するか、具体的な実践例を挙げながら説明することができる
3）民間企業やボランティアなどの私的セクターが学校教育に参入しつつある状況を、社会学・行政学・教育学の視座や概念により分析することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義形式の授業ですが、受講者からの質疑や意見を求めたり、グループ形式での意見交換や、学生によるプレゼンテーションを組み込みます。オンラインでリアクションペーパーを提出してもらい、次回の授業の最初にまとめてフィードバックを行います（必要に応じて個別にもフィードバックします）。
天候等の理由により、臨時にオンラインに変更する可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の方法・内容・予定・学ぶ意義・成績評価等について説明・合意する
第2回	日本の公教育の基盤	公教育制度の歴史的な成り立ちを論じる
第3回	戦後の学校制度と公教育の課題	憲法・教育基本法・国際人権規範に焦点を当てて、公教育の課題を説明する
第4回	母校研究（1）	母校についてのケース・スタディ（＝母校研究）を交流し、学びのキャリアを振り返る
第5回	母校研究（2）	母校研究について代表者の発表を共有する
第6回	「一条校」を中心とした教育保障	戦後の学校制度に焦点を当てて、公教育の課題を説明する
第7回	学校-地域連携政策①	公教育改革の一環としての学校-地域連携について、学校支援や学校ガバナンスの観点から論じる
第8回	学校-地域連携政策②	学校-地域連携の課題の焦点として、教育課程マネジメントの問題を論じる
第9回	学校-地域連携政策③	過疎地域における学校地域交流について論じる
第10回	市民セクター(NPO等の非営利団体)による教育分野への関与	困窮家庭の支援における市民セクターの関与に関する実態と課題を論じる
第11回	企業セクターの教育分野への関与	デジタル化、探究学習などにおける企業参入の実態と課題を論じる
第12回	セクター間協働の課題	VCSEセクターと公的セクターの今後の課題についてまとめる
第13回	レポートの授業内吟味	レポートの第１次提出を行い、受講生による相互吟味・批評を行う
第14回	まとめと内省	授業全体を振り返り、レポートの講評と最終提出までの指示を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
以下のような課題を所定の期日までに実施してもらいます。
・レジメの再読、まとめ（毎時）
・アテンダンスチェック課題の提出（毎時）
・母校研究の実施（所定締切日まで）
・最終レポートの作成（所定締切日まで）
これらを通じた準備学習・復習時間は各回2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
『コミュニティと教育』（仲田康一・大木真徳編著／放送大学教育振興会／2024年）
『地域教育経営論』（荻野亮吾・丹間康仁編著／大学教育出版／2022年）
『コミュニティ・スクールのポリティクス』（仲田康一著／勁草書房／2015年）

【成績評価の方法と基準】
各回の参加度（主にアテンダンスチェック課題やディスカッションへの参加状況にて把握）を40%、母校研究の成果を30%、最終レポートを30%として評価します。

【学生の意見等からの気づき】
引き続き学生相互の意見発表機会を大切にし、また、適切なフィードバックを心がけます。

【学生が準備すべき機器他】
パソコンやタブレットを使うことがあります。スマホだと小さいためおすすめしません。

【その他の重要事項】
教員をどれだけ活用するかが大学での学びの質を大きく左右します。教員への質問・相談は学生の権利であり、教員にとってもやりがいの源泉ですので、どうぞお気軽に。

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】
Public education has long established standard, official systems to guarantee children's right to learn. Now, as a way of developing this institutional framework, collaborations with communities, as well as with the voluntary and social enterprise sectors, are advancing, leading to a variety of new initiatives.
This course will examine the significance and challenges of these collaborations with the VCSE sector within the public education system, not only from an educational studies perspective but also from the viewpoints of social sciences such as sociology, public administration, and political science.
【到達目標（Learning Objectives）】
By the end of the course, students are expected to be able to achieve the following three objectives:

1) To be able to explain the institutional characteristics of public education in Japan in relation to securing children's right to learn.
2) To be able to examine the significance and challenges of school-community collaboration, referring to specific cases.
3) To be able to analyse how private sector entities, such as private companies and volunteers, are entering the school education system, using perspectives and concepts from sociology, public administration, and education.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Before and/or after each class, students are required to have completed the required assignments such as
- Rereading and summarising the material handed out in class
- Submitting Attendance Check Assignment.
- Conducting case study
The standard preparation and review time for this class is two hours each.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Overall grade in the class will be decided based on the following:
Attendance Check: 40%, Case study report: 30%, End of semester report: 30%

EDU200MA（教育学 / Education 200）

学習の社会史A

山口　真里

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水3/Wed.3　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞
授業コード：C5061
科目名：学習の社会史A
＜2024年度以前入学者＞
授業コード：C5061
科目名：学習の社会史A
※入学年度によらず同一授業コード・科目名称
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
私たちは、歴史的にどのような「学び」を経験してきたのでしょうか。また、現在の「教育」や「学習」のありかたは、どのような経緯で形作られてきたのでしょうか。
この授業では、おもに西洋における「学び」の展開を時代背景や地域的な事情に照らしながら辿り、子どもの学習機関としての学校がいかに成立し発展してきたのかを検討します。また、現代の「教育」や「学校」が直面する多くの問題が、それらの歴史とどのように関わっているのかを掘り下げて考えていきます。そうした考察を重ねることにより、各自が現在の教育を多角的にとらえ、これからの学びを構想する視点を獲得することを目指します。

【到達目標】
・西洋における学びや教育の変遷を、背景にある歴史事象と共に理解する。
・授業で学んだことを生かし、広い視野で現在の教育問題を考察する力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
・対面授業が中心ですが、必要に応じてオンラインで授業を行います。
・授業資料を提示しながら授業を進めます。
・授業内容の理解を深めるため、リアクションペーパーを実施します。提出されたリアクションペーパーは、次の授業で適宜コメントし、フィードバックします。
・講義中心ですが、授業に関わるテーマをグループでディスカッションし、他の受講生がどのように考察したのかを共有する機会を設けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義概要や評価の方法の説明 基礎的な概念の説明
第2回	近代以前の子育てと徒弟制	中世の共同体における子育て 徒弟制による世代間伝達
第3回	中世ヨーロッパの教育	キリスト教教育と大学の誕生 中世における子どもの生活
第4回	近代における子どもの発見	近代以前の子ども観とその転換 人口変動と子どもへのまなざしの変化
第5回	近代教育思想の形成	ルソー『エミール』の子ども観 コメニウス、ロックの教育思想
第6回	近代家族の出現	前近代の家族と子ども 近代家族と子どもの教育
第7回	家庭、主婦の誕生と子どもの教育	家庭における女性の位置づけと教育の変容
第8回	子どもと労働	工業化以前の子どもの労働 産業革命と子どもの労働
第9回	近代学校の成立と子どもの学び	近代以前の学校 産業革命と近代学校の出現
第10回	民衆学校の進展と義務教育	国民教育の成立過程 労働者階級の子ども期の成立
第11回	子どもの福祉と教育	保護の対象としての子どもと救済事業 権利主体としての子どもと「子どもの権利条約」
第12回	子どもの世紀	「子ども中心主義」と新教育運動 エレン・ケイ『子どもの世紀』
第13回	現代の子どもの学びと諸問題	多様化する家族と学校 子どもの学習における諸問題
第14回	振り返りとまとめ	これまでの復習とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業資料を用いて復習し、知識の定着を図ります。
・リアクションペーパーを通して授業内容の理解と発展的な考察を深めます。
・本授業の学習準備・復習時間は各2時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用せず、適宜、授業資料を提示します。

【参考書】
適宜、授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】
レポート課題60％、リアクションペーパー30％、授業への意欲・貢献・平常点10％を基準に総合的に評価します。
なお、総授業回数の2/3以上の出席を単位取得の要件とします。

【学生の意見等からの気づき】
受講生からのフィードバックを重視し、引き続き授業運営を工夫していきます。

【学生が準備すべき機器他】
・リアルタイム型のオンライン授業（Zoom使用）を受講するためのパソコン等、情報機器を準備してください。
・オンラインの授業およびグループ・ディスカッションは、カメラおよびマイクをONにできる環境で受講してください。
・授業についてのお知らせや資料配布・課題提出等に、学習支援システムを利用します。

【Outline (in English)】
（Course Outline）
In this course, we will trace the development of "learning" mainly in the West in the light of historical backgrounds and regional circumstance, and examine how schools as institutions for children's learning were established and developed.
In addition, we will delve into the many issues facing "education" and "schools" today and consider how these issues relate to history.
（Learning Objectives）
And it is the goal that each of us makes their meanings relative and to gain a perspective to conceive of the future.
（Learning activities outside of classroom）
After each class, students will be expected to have completed the reaction paper. Your study time will be about four hours for a class.
（Grading Criteria /Policy）
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Reports: 60%, Reaction papers: 30%, in class contribution: 10%

EDU200MA（教育学 / Education 200）

学習の社会史B

寺崎　里水

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：水2/Wed.2　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞
授業コード：C5062
科目名：学習の社会史B
＜2024年度以前入学者＞
授業コード：C5062
科目名：学習の社会史B
※入学年度によらず同一授業コード・科目名称

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本の社会を特徴づける要因のひとつとして学習、学歴、試験といった事柄に注目し、個人的なものと考えられている学習意欲が、学歴や試験、学校、学習集団といった社会的なものといかに関わっていったのかを考察する。

【到達目標】
授業中に学んだ概念、理論をいかし、歴史的事象を説明できる。
日本史の基礎的な知識をベースとし、現代の教育問題と関連付けて考えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
必要な資料は事前に学習支援システムで配布する。履修者は必要に応じて適宜ノートをとること。
授業内で課題提出を課すことがある。また、知識の定着を促すため、中間まとめの小テストを二度、課す。
課題提出は授業支援システムを通じて行う。課題や小テストに対するフィードバックは授業内に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方、評価の方法について説明する。社会史とはなにかについて学ぶ。（オンデマンド）
第2回	教育制度と学歴	近・現代社会における教育の役割について、教育制度と学歴という観点から考える。 古代、中世、近世における諸制度と教育機関について振り返る。
第3回	学歴主義の誕生	立身出世主義、受験生をキーワードに、近代以降の個人と学習の関係の理解を深める。
第4回	教育制度の成立過程と学校間格差	学校間の威信の格差について、学校教育制度の成立過程から考える。
第5回	中間まとめ①教育制度と学歴主義	小テストを実施し、その後、教育生徒と学歴主義に関する内容を復習する。
第6回	学校という場の権力性	学校が持つ規律訓練の力について考える。
第7回	試験と競争	学力や学歴をめぐる競争の仕組みの誕生について、試験制度を切り口に学ぶ。
第8回	学校の教育と村の教育	学校の教育と村の教育は何が異なっていたのか、考える。
第9回	中間まとめ②学校と試験	小テストを実施し、その後、学校と試験に関する内容を復習する。
第10回	家庭、主婦の誕生	女性と社会の関係について、家庭、主婦といったことばを手掛かりに考える。
第11回	教育家族の誕生	教育熱心な親の誕生、学校と親の関係の変化について考える。
第12回	女性にとっての成功	女性が学歴をめぐる競争にいかに巻き込まれていったのかについて学ぶ。
第13回	女子の身体観をめぐる教育の葛藤	女子の制服と運動用制服の成立過程を通して、女子の身体観をめぐる学校教育の役割について考える。
第14回	まとめと試験	制度の成立は我々の学ぶという行為にどのような影響を及ぼし的たのか、全体の振り返りを行う。 授業内試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指定文献や配布資料の精読を必須とする。日本史の知識が必須なので、各自高校までの内容を復習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
とくに指定しない。必要に応じて指示する。

【参考書】
必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】
小テスト40％、提出課題10％、試験50％

【学生の意見等からの気づき】
学生の反応を大切にしながら授業を進める。

【Outline (in English)】
Course Outline: This class aims for students to acquire advanced knowledge about Japanese history through keywords such as school, learning, examination, and family.
Learning Objectives: To be able to explain historical events using the concepts and theories learned in the class.
Learning Activities Outside of Classroom: Preparation and review should be 2 hours each.
Grading Criteria: In-class review mini-test and assignment submission 50%, final report 50%.

MAN200MA（経営学 / Management 200）

外書講読B【2025年度以降入学生用】

相澤　鈴之助

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木2/Thu.2　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞
授業コード：C5063
科目名：外書講読B
＜2024年度以前入学者＞
授業コード：C7253
科目名：外書講読B（ビジネス）
※入学年度によって授業コード・科目名が異なります

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
論文やレポートを執筆する際など、私たちはいろいろな文献を読みます。その際、日本語で書かれた文献だけでなく、英語で書かれた文献まで自由に読めると、私たちが獲得できる知識の範囲は大幅に広がります。この授業では、当初、平易な英字新聞記事を取り上げた後、経営学に関する古典的な研究論文に挑戦していきます。経営学の代表的な英語論文に実際に触れ、学問の意義や楽しさを体験してもらいたいと考えています。

【到達目標】
英語で書かれた専門的な文献（ジャーナルの文献）を、一人で読めるようになることが目標です。受講者のレベルに合わせて授業内容を編成しますので、英語に苦手意識を持っている人もぜひ受講してください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP6」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
本授業は、受講者を指名して、英語文献の解釈または要約を発表してもらいながら進めていきます。取り上げる英文は平易です。履修を希望する人は必ず第1回目の授業に必ず出席してください。
なお、受講者の発言に対して教員が随時コメントし、それらのフィードバックを通じて英文解釈能力の向上および専門知識の獲得を目指していきます。
大学行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の全体像と目標、講義内容の紹介を行います。
第2回	英字新聞記事を読む(1)	英字新聞の社会問題に関する記事の抜粋を読みます。
第3回	英字新聞記事を読む(2)	英字新聞のビジネスに関する記事の抜粋を読みます。
第4回	研究論文を読む(1)	英語文献Abell(1980)Defining the Businessの導入のp.xiiiを読みます。
第5回	研究論文を読む(2)	Abell(1980)Defining the Businessの導入のpp.3〜4を読みます。
第6回	研究論文を読む(3)	Abell(1980)Defining the Businessの導入のpp.4〜5を読みます。
第7回	研究論文を読む(4)	Abell(1980)Defining the Businessの導入のpp.5〜6を読みます。
第8回	研究論文を読む(5)	英語文献Barney(2001)の抜粋を読みます。
第9回	研究論文を読む(6)	Barney(2001)の抜粋のp.638を読みます。
第10回	研究論文を読む(7)	Barney(2001)の抜粋のp.630を読みます。
第11回	研究論文を読む(8)	英語文献Porter(2003) Competitive Strategyの導入を読みます。
第12回	研究論文を読む(9)	Porter(2003) Competitive Strategyの導入のpp.ix〜xを読みます。
第13回	研究論文を読む(10)	Porter(2003) Competitive Strategyの導入のpp.x〜xiを読みます。
第14回	本講義のレビュー	これまでの講義内容のまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
英語に親しむ機会を増やしてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
開講時に指示します。

【参考書】
開講時に指示します。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、次のとおりです。
①授業における発言、提出物70%
②平常点30%

【学生の意見等からの気づき】
英語を深く読むことができたという意見が多かったので、これまでの方針を継続していきます。受講者はやる気のある人が多いので、教員としてもやりがいのある授業です。

【その他の重要事項】
・英文による学術文献を地道に読んでいく授業ですので、授業に先立つ予習は必須です。当初、文法の解説も行いながら逐語訳を行っていますが、軌道に乗ってきたら、論旨をおさえる形態に変更し、進度を速めます。これらは、受講者の発表によって行うので、積極的に参加してください。
・生成AIの取り扱いについて
大学における学修は学生が主体的に学ぶことが本質であり、生成 AI から出力された内容をそのまま用いるなど、学生自らの手によらずにレポート等を作成することは、学生自身の学びを深めることに繋がらないため、本講義では利用を禁止します。
また、生成 AI から出力された内容に著作物の内容がそのまま含まれていた場合、これに気付かずにレポート等に用いると剽窃に当たる可能性があるため注意してください。
・受講希望者が30名を超えた場合には、受講者の選抜を行います。このため、初回の講義には必ず出席してください。

【Outline (in English)】
【Course outline】
If we can read not only Japanese but also literature written in English, the range of knowledge that we can acquire will be greatly expanded. In this lesson, initially, we will focus on plain English newspaper articles, before moving on to classic research papers on business administration. We would like students to experience the significance and enjoyment of learning by actually touching representative English papers on business administration.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
－ A.Understand the concepts and backgrounds necessary for business in English.
－ B.Able to read academic literature written in English.
【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Short reports : 70%、in class contribution: 30%

MAN200MA（経営学 / Management 200）

人材育成論Ⅰ

佐藤　厚

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：水3/Wed.3　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞
授業コード：C5064
科目名：人材育成論Ⅰ
＜2024年度以前入学者＞
授業コード：C5064
科目名：人材育成論Ⅰ
※入学年度によらず同一授業コード・科目名称

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人材育成論Ⅰでは、ヒトが企業社会の中で多様なキャリア形成を通じて多様な職業能力を獲得することの意義と方法、課題などについて学びます。現代産業社会では、組織は人的資源の活用と育成抜きには活動が成り立ちません。他方大半の現代人は組織に関わって働くことで生計を維持しています。そこで重要となるのは、ヒトが人材として育成され、また成長していく環境です。その環境の中で人材がキャリア形成を通じて職業能力を形成する現状と課題を学ぶのがこの授業の到達目標及びテーマとなります。

【到達目標】
この授業の学習目標は以下のようです。
(1)日本の人材育成のしくみと特徴及びその得失を理解する。
(2)日本の組織における職業教育訓練の方法とその特徴について説明することができるようになる。
(3)職業教育訓練がスキル形成やキャリア形成に及ぼす影響を理解し、あわせて労働市場とキャリア形成が多様化している現状及び政策課題についての認識を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP1」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
人材育成論Ⅰは、ビジネス領域での人材育成の基本パタンを、長期の職業キャリアの中で、OJT（仕事を通じた訓練）、Off-JT（研修など仕事を離れた訓練）、自己啓発（自学、自習など個人の主体的な学び）をベースに、職業能力の開発をはかることと捉えます。その上でこの人材育成の基本パタンが、技術革新の中でどう変化しているのか、働く者の性別や年齢、職業、勤務先の規模、業種などによりどのような違いがあるのか、についてその現状と課題を学習します。
　授業内での発表はとくに求めませんが、毎回授業終了時に、①その日の授業についての感想、コメント、質問をリアクションペーパーに書いて提出してもらいます。また②学習支援システムに授業内容の理解度を問う課題を課します。次回授業の冒頭にリアクションペーパーへのリプライ及び学習支援システムの課題の解答例を解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	なぜ人材育成について学ぶか。講義の進め方。参考文献の指示など
第2回	日本の人材育成システムの特徴――国際比較の視点から	1　日本の人材育成システムの特徴：職業教育訓練）への公的関与が低く、初期職業教育訓練への企業の関与高い 2　学校教育システムの特徴：入学試験難、進級・卒業容易、職業教育より一般教育重視 3　教育システムと雇用システムの補完性
第3回	能力開発とキャリア――これからのキャリア形成	1　これまでの雇用慣行と能力開発の基本パタン：新卒採用、異動・昇進というキャリア形成： 2　能力開発の方法：ＯＪＴ、Ｏｆｆ－ＪＴ、自己啓発 3　企業主導型能力開発と個人のキャリア形成との関係
第4回	技術革新と技能の変化	1　学説：高度化説と単純化説；技術決定論と社会決定論 2　戦後日本の技術革新と仕事・職場の変化：オートメション化、ME化段階、IT化段階、AI段階 3　情報技術の進展とホワイトカラーの仕事・職場の変化 4　情報技術の進展と新しい働き方――テレワーク
第5回	女性の職域とキャリア形成	1　性別職域分離とその理論：統計的差別理論 2　国際比較でみた性別分離：水平分離と垂直分離 3　職域統合へ向けて：M字型就労カーブ、男女雇用機会均等法、ポジィティブアクション
第6回	失業・転職とキャリア形成	1　失業について：失業者の定義 2　失業とセーフティネットのしくみ：失業のダメージ緩和のための雇用保険 3　転職について：入職経路としてのソーシャルネットワーク、「友人・知人」の重要さ
第7回	若者のキャリア形成――学校から職場へ	1　「就社」社会とその得失 2　初期キャリア問題の諸レベル：早期離職問題；正社員への移行困難問題；就業形態間の賃金格差問題；学校から職場への移行困難な者の階層格差問題 3　若者のキャリア形成問題への対応の方向性
第8回	非典型労働者のキャリア形成	1　非典型雇用の様々な働き方 2　企業の視点からみた非典型雇用：賃金節約；仕事の繁閑への対応 3　働く側からみた非典型雇用：家計の補助；都合のよい時間に働ける 4　問題への対応の方向性：非正規雇用に関わる法的規制と正社員への転換
第9回	高齢化とキャリア形成	1　高齢化と仕事からの引退過程：日本の特徴 2　定年制とライフスタイルの変化；就労・非就労の規定要因 3　安定した高齢期生活を支える政策課題：高年齢者雇用安定法の改正

第10回	事務系ホワイトカラーのキャリア形成	1「ホワイトカラー」とは：職業大分類の４つの職種の総称 2　企業内キャリアをみる視点：キャリアのタテ（昇進）とヨコ（異動） 3　国際比較からみた日本の特質：「遅い」昇進選抜と「幅広い」異動 4　人材育成からみたポイントと課題
第11回	技術系ホワイトカラーのキャリア形成	1　専門的・技術的職業従事者の増加 2　技術系ホワイトカラーの初期キャリア管理の重要性 3　研究・開発技術者のキャリア形成面での国際比較：日本の特徴 4　日本の技術者のキャリア形成上の特徴と課題
第12回	中小企業労働者のキャリア形成	1　中小企業の労働市場の特徴 2　中小企業の人事管理、人材育成の取組みの特徴 3　中小企業従業員の就業意識：組織との関係認識、職場の雰囲気 4　事業主からみた望ましい能力開発の方法、職業キャリア及び職業資格
第13回	ワーク・ライフ・バランスとキャリア形成	1　いまなぜワーク・ライフ・バランス（WLB）か 2　仕事と生活が両立しにくい現実 3　WLBを支える制度及び現状と目標 4　WLB施策実現にむけての課題――仕事の進め方の効率化と長時間労働の抑制
第14回	講義のまとめと試験について	1　講義全体の振り返りとまとめを行う 2　定期試験の傾向と対策 3　受講生との質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時に指示する参考文献に目を通す努力をすること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
　講義内容のかなりの部分は、佐藤博樹・佐藤厚編著『仕事の社会学（改訂版）』有斐閣(2014年）に準拠しているので、各自購入の上、受講と合わせて読むことが望ましいです。

【参考書】
佐藤厚『キャリア社会学序説』泉文堂(2011年)、佐藤厚『組織のなかで人を育てる』有斐閣（2016年）を購入し、併読することが望ましいです。

【成績評価の方法と基準】
・現時点での成績評価の方法と基準は以下のようです。
　毎回授業終了時に提出するリアクションペーパー及び学習支援システムの課題への回答をもって平常点とします（30点)。中間レポートを7回目の授業時に中間レポートを課します（20点)。期末に定期試験を実施します（50点)。

【学生の意見等からの気づき】
前回の講義の質問や感想について紹介し、簡単な振り返りを行う。毎回の講義のねらいを授業開始時に明示する。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
人材育成論Ⅰと人材育成論Ⅱをあわせて受講することが望ましい。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In this class,students can learn the importance and the way how employees work with firm develop their vocational skills and abilities in each organisations.　In industrial society　in modern society, human resource development may be indispansable for business activities of firms, on the other hand, working employees also depend on firms that empoly them. Main purpose of this class is to learn about environment in which firm train employees and employees develop thier skill.
【Learning Objectives】
(1) Understand the mechanism and characteristics of human resource development in Japan and their advantages and disadvantages.
(2) Be able to explain the methods and characteristics of vocational education and training in Japanese organizations.
(3) Understand the impact of vocational education and training on skill formation and career development, and deepen awareness of the current situation and policy issues in which the labor market and career development are diversifying.
【Learning activities outside classroom】
Make an effort to read the references instructed during class. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
1 Submit of Reaction paper and problem of Hoppii in each class. The standard is 30 points.
2 An interim report will be imposed at the end of the first half of the class. The purpose is to look back on the first half of the class. The standard is 20 points.
We conduct a regular test at the end of the term, The aim is to ask the degree of understanding of the content taken up in the class. The standard is 50 points.

MAN200MA（経営学 / Management 200）

人材育成論 II

佐藤　厚

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水3/Wed.3　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞
授業コード：C5065
科目名：人材育成論II
＜2024年度以前入学者＞
授業コード：C5065
科目名：人材育成論II
※入学年度によらず同一授業コード・科目名称

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人材育成論Ⅱでは、人々が企業社会の中で職業能力を形成することの意義と方法、課題などについて学びます。講義の前半では、日本企業の人材育成とキャリア形成の方法と課題についての基礎を学びます。また講義の後半では、国際比較を通じて、日本の人材育成とキャリア形成の特徴を学びます。

【到達目標】
この授業の学習目標は以下のようです。
(1) 日本の人材育成のしくみと特徴及びその得失を理解する。 (2) 日本の組織における職業教育訓練の方法とその特徴について説明すること ができるようになる。
(3) 職業教育訓練がスキル形成やキャリア形成に及ぼす影響を理解する。
(4) あわせて人材が育成されていくプロセスであるキャリア形成過程と労働市場が多様化している現状について、国際比較を通じた日本の特徴についての認識を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP1」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
　人材育成論Ⅱでは、日本の人材育成とキャリア形成について概論及び特徴を学びます。講義の前半では、日本企業の人材育成とキャリア形成の概論について学びます。
講義の後半では、日本の人材育成とキャリア形成の特徴について国際比較を通じて理解することに努めます。
　授業内での発表はとくに求めませんが、毎回授業終了時に、①その日の授業についての感想、コメント、質問をリアクションペーパーに書いて提出してもらいます。また②学習支援システムに授業内容の理解度を問う課題を課します。次回授業の冒頭にリアクションペーパーへのリプライ及び学習支援システムの課題の解答例を解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション——人材育成論Ⅱの進め方	講義の進め方、概要、成績評価の仕方などを説明します。 なお、この講義の前半とは、第1回から第6回までを、また後半とは第7回から第13回までを指します。
第2回	組織のなかで人を育てるということ	第2回では、以下のことを学びます。 1　組織内人材育成の要点。人材育成に関連する用語 2　人材育成を考えるための枠組み 3　人材開発の実践モデル 4　人材開発の二つの視点 5　企業の実践事例にみる実践モデルと二つの視点 6　日本の人材育成研究の蓄積にみる二つの視点の意義と課題
第3回	日本企業の人材育成の特徴とは——OJT、Off-JTと人事制度の関係	第3回では以下のことを学びます。 1　職業能力開発システムの国際比較と日本の特徴 2　日本の企業内能力開発のしくみ：OJT、Off-JTの意義と課題 3　企業主導型キャリア管理と個人主導型キャリア開発 4　マネージャーやリーダーの育成（プレイングマネージャー）
第4回	大企業の人材育成の事例	第4回では以下のことを学びます。 1　人事制度と教育訓練体系の事例 2　教育訓練体系の概要：フォーマルなOJTとインフォーマルなOJT 3　インフォーマルなOJTとしての職場学習：仕事管理のPDCAサイクル 4　インフォーマルなOJTとしてのキャリア：大企業部長のキャリア事例
第5回	大企業マネージャーのキャリア形成	第５回では以下のことを学びます。 1　インフォーマルなOJTとしてのキャリアを見る意義及び成長・発達・学習する側の視点 3　インタビュー調査の対象と調査項目 4　マネージャーの育成に必要なもの
第6回	タレントマネジメントとリーダー人材育成—これまでの人材育成の課題	第６回では、これまでの人材育成の課題としてのタレントマネジメントとリーダー人材育成について学びます。
第7回	雇用制度と職業教育訓練制度の国際比較——日本の位置と特徴	第7回から第13回までが後半となります。国際比較による日本の人材育成とキャリア形成の特徴を様々な角度から学びます。 第7回は以下のことを学びます。 1　スキル形成、雇用制度の国際比較研究 2　職業教育訓練（VET）の国際比較研究 3　日本の位置と特徴

第8回	企業コミュニティの変化とキャリア形成・キャリア自律	第８回では以下のことを学びます。 １　企業コミュニティと個人のキャリア ２　内部労働市場の生成と衰退 ３　キャリア形成と人材育成を考える三つの視点 ４　企業コミュニティの変化と初期キャリア ５　企業コミュニティの変化と中期キャリア ６　企業コミュニティの変化と後期キャリア ７　「新しい」コミュニティとキャリア形成
第9回	企業コミュニティと人事方針及び人材育成――実証データによる英独日比較	第９回では以下のことを学びます。 １　労働者の意識についての国際比較研究（一覧） ２　人事管理の方針・個人と組織の関係認識・職場の雰囲気についての英独日比較 ３　「人事管理による勤労意欲引き出し」仮説はイギリスやドイツでもあてはまるか？ ４　人事管理方針や人材育成の取組は勤労意欲（会社の発展のために自身の最善を尽くしたい）に影響を及ぼすか？　－－英独日比較 ５　考察とまとめ――日本と英独との差異の背景にあるものは何か？
第10回	ホワイトカラーのキャリア形成とキャリア自律に関する英独日比較――大企業管理職を中心に	第10回では以下のことを学びます。 １　ホワイトカラーのキャリア形成の国際比較研究 ２　ホワイトカラー及び大企業管理職の組織内キャリア ３　リーダーシップの特定と開発－－ ４　イギリス、ドイツ、日本のホワイトカラーのキャリア観 ５　望ましいキャリアコース
第11回	職業資格の日本の特質――独英との比較を中心に	第11回では以下のことを学びます。 １　日本の職業資格制度の理念と概要 ２　職業資格制度と教育制度及び労働市場との関連－－ドイツの特徴と日本の特徴 ３　職業資格制度と労働市場との関係についての研究 ４　教育制度と職業資格との関連－－日独比較、日英比較の視点から ５　まとめ――教育システムと雇用システムの補完性の意義。雇用システムと職業資格の共振可能性
第12回	職業教育訓練と労働市場との関係の最近の変化――ドイツとの比較を中心に	第12回では以下のことを学びます。 １　今回のフレームワークーードイツと日本の職業教育訓練システムと労働市場システム ２　ドイツにおける職業教育訓練システムと労働市場システムの変化 ３　日本における職業教育訓練システムと労働市場システムの変化 ４　まとめ
第13回	日本の特徴と歴史的背景。生涯学習（リカレント教育）に対する含意	第13回では以下のことを学びます。 １　後半の講義（日本の特徴）の主な事実発見 ２　日本の特徴の意味するもの－－生涯学習（リカレント教育）に対する含意 ３　日本の特徴の歴史的背景－－徒弟制の歴史にみる英独日の差異 ４　最後に――日本の課題
第14回	人材育成論Ⅱのまとめ	講義全体の振り返りとまとめを行います。 定期試験（もしくは最終レポートの課題）について説明します。 学生との質疑応答を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時に指示する参考文献に目を通す努力をすること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義前半のテキストとして佐藤厚『組織のなかで人を育てる』有斐閣（2016年）、佐藤厚・田中秀樹『人材開発とキャリア自律』中央経済社（近刊予定）を使用する。また講義後半のテキストとして佐藤厚『日本の人材育成とキャリア形成：英独日比較』中央経済社,2022年を使用する。なお、毎回、講義の骨子および統計データや調査結果を要約したｐｐｔレジメを配布（配信）する。また人材育成論Ⅰの内容を知りたい方には、佐藤博樹・佐藤厚編著『仕事の社会学』有斐閣2004年、佐藤厚『キャリア社会学序説』泉文堂2011年を併読をお勧めする。

【参考書】

人材育成論Ⅰの内容を知りたい方には、佐藤博樹・佐藤厚編著『仕事の社会学』有斐閣2004年、佐藤厚『キャリア社会学序説』泉文堂2011年を併読をお勧めする。

【成績評価の方法と基準】

１　毎回の授業時のリアクションペーパー提出及び学習支援システムの課題への回答をもって平常点とします。基準は30点です。

２　授業の前半が終わるころに中間レポートを課します。授業前半の振り返りが目的です。基準は20点です。

３　期末に定期試験を実施する。授業で取り上げた内容の理解度を問うのがねらいです。基準は50点です。

【学生の意見等からの気づき】

各論について出来る限り調査データや海外の事例等を織り交ぜて解説します。

【授業中に求められる学習活動】

C,D

【Outline (in English)】

【Course outline】

In Human Resources Development Theory II, you will learn the significance, methods, and challenges of people forming vocational abilities in corporate society. In the first half of the lecture, you will learn the basics of human resource development and career development methods and issues for Japanese companies. In the latter half of the lecture, we will learn the characteristics of human resource development and career development in Japan through international comparison.

【Learning Objectives】
The learning goals of this class are as follows.
(1) Understand the mechanism and characteristics of human resource development in Japan and their advantages and disadvantages. (2) Be able to explain the methods and characteristics of vocational education and training in Japanese organizations.
(3) Understand the effects of vocational education and training on skill development and career development.
(4) To deepen awareness of the characteristics of Japan through international comparisons regarding the career development process, which is the process of developing human resources, and the current situation of the diversified labor market.
【Learning activities outside of classroom】
Make an effort to read the references instructed during class. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
1 Submit of Reaction paper and problem of Hoppii in each class. The standard is 30 points.
2 An interim report will be imposed at the end of the first half of the class. The purpose is to look back on the first half of the class. The standard is 20 points.
We conduct a regular test at the end of the term, The aim is to ask the degree of understanding of the content taken up in the class. The standard is 50 points.

PSY200MA（心理学 / Psychology 200）

産業・組織心理学Ⅰ

坂爪　洋美

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：月4/Mon.4　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞
授業コード：C5066
科目名：組織行動論Ⅰ
＜2024年度以前入学者＞
授業コード：C5066
科目名：組織行動論Ⅰ
※入学年度によらず同一授業コード・科目名称

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
産業・組織心理学は、人が働くことを通じて経験する現象について心理学的視点から明らかにしようとするものです。本授業では、講義を通じて産業・組織心理学の主要概念について理解すること、理解を通じて働く人々や自らのキャリアをより良いものとする視点を獲得することを目的とします。

【到達目標】
本授業の到達目的は以下の２点です。
（1）産業・組織心理学の主要概念について理解し、日常の現象についてそれらの概念を用いて説明できるようになること。
（2）産業・組織心理学の知見を用いて、自らのキャリアについて展望を持てるようになること。
（3）産業・組織心理学の視点から、職場のマネジメントの問題点とその改善策を考えられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP1」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式で行われます。各回のテーマに則したテーマに関するリアクションペーパーの提出が求められることがあります。また、各回の授業終了後に提出された感想並びに質問に対するフィードバックを、翌授業回の冒頭に、全体に対して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業オリエンテーション	授業の概要や進め方、ならびに履修上の注意事項について説明します。
第2回	モチベーション①	モチベーションの内容理論：何がモチベーションを高めるのか
第3回	モチベーション②	モチベーションの過程理論：
第4回	リーダーシップ①	古典的リーダーシップ理論
第5回	リーダーシップ②	今日的なリーダーシップ理論：個別的な関係性の重視
第6回	公平性	公平性の諸理論：人が「公平さ」を感じる仕組み
第7回	職場のコミュニケーション①	コミュニケーション・職場とは何か
第8回	職場のコミュニケーション②	職場のコミュニケーションがもたらす功罪
第9回	個人と組織の関係性①組織社会化	組織への適応としての組織社会化
第10回	個人と組織の関係性②組織コミットメント	個人の組織に対する関与：人が組織にとどまる理由
第11回	個人と組織の関係性③組織エンゲージメント	組織と個人双方が高めあう関係
第12回	個人と組織の関係性④心理的契約	組織と個人の間の暗黙の関係
第13回	個人差を理解する	違いをもたらす要因としてのパーソナリティ
第14回	働きがいと働きやすさ	働きがい・働きやすさを高める仕組み

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞や雑誌記事に目を通し、働く人々にとって現在どのようなことが問題になっているかについて知識を獲得するようにしましょう。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。

【参考書】
山口裕幸・金井篤子編
『よくわかる産業・組織心理学』 2007年、ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】
期末テスト　80％
授業内で実施するリアクションペーパー20％

【学生の意見等からの気づき】
前回の授業についての学生からの感想・質問を参照して、テーマについての補足ならびに解説を追加する。

【学生が準備すべき機器他】
授業で用いる資料を事前に授業支援システムにアップするので、必要に応じて各自でダウンロードして、持参すること

【その他の重要事項】
授業計画は予定となります。1-2回外部講師による講演が入る可能性ならびに進捗状況による変更の可能性があります。

【Outline (in English)】
This course introduces basic topics/theories covered in industrial and organizational psychology, that studies human behavior in the workplace, specifically focusing on managing, supporting employees and aligning employee efforts with business needs.
The goal of this course to engage students in thinking critically about the needs of workplaces and understand how the science of I-O Psychology helps address those needs. Students will also develop skills for analyzing and integrating social phenomena from the perspective of industrial and organizational psychology.
Students are expected to gather information on issues arising in the current Japanese corporate workplace through reading newspapers and other sources. Self-study time will be two hours per class.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 80%、Short reports :20%

MAN200MA（経営学 / Management 200）

組織行動論 I

古田　克利

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：水4/Wed.4　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業概要
組織行動論の基礎としてモチベーション論、組織社会化論、キャリア発達論等の理論を学ぶ
授業の目的・意義
組織行動論に関する基礎的な概念、理論を正確に説明し、それらにもとづき個人を分析し課題を抽出できるようになることを目指す

【到達目標】
・組織行動論に関する基礎的な概念、理論を正確に説明できる
・組織行動論に関する基礎的な概念、理論にもとづき個人の行動を分析できる
・組織行動論に関する基礎的な概念、理論にもとづき個人の課題を抽出できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義および講義内容に基づく個人演習とグループ討議を行います。
授業内での発表や質問等に対するフィードバックは原則当日の授業内に行います。
リアクションペーパーや課題等に対するフィードバックは翌授業回の冒頭に、全体に対して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	本講義の概要・目的・成績評価方法
第2回	組織内キャリア（1）	キャリア発達段階の視点から個人の組織内キャリアを分析する
第3回	組織内キャリア（2）	キャリアトランジションの視点から個人の組織内キャリアを分析する
第4回	組織行動の実際（1）	実際の組織行動についてディスカッションする
第5回	モチベーション（1）	目標設定の視点から個人のモチベーションを分析する
第6回	モチベーション（2）	自己決定の視点から個人のモチベーションを分析する
第7回	組織行動の実際（2）	実際の組織行動についてディスカッションする
第8回	組織適応（1）	6次元モデルの視点から個人の組織社会化を分析する
第9回	組織適応（2）	沈黙動機の視点から個人の組織適応を分析する
第10回	組織適応（3）	援助希求行動の視点から個人の組織適応を分析する
第11回	組織行動の実際（3）	実際の組織行動についてディスカッションする
第12回	課題解決演習（1）	個人の課題について組織行動論の視点から分析する
第13回	課題解決演習（2）	個人の課題解決について組織行動論の視点から検討する
第14回	課題解決演習（3）	組織行動論の視点から個人の課題解決結果を発表する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・事前資料による事前学習
・講義内容の復習
・各回の授業の準備学習・復習時間は各2時間、計4時間を標準とする

【テキスト（教科書）】
適宜、学習支援システム上にて配付します

【参考書】
適宜、学習支援システム上で紹介します

【成績評価の方法と基準】
授業内課題（配点60％）
期末レポート（配点40％）

【学生の意見等からの気づき】
グループワークやペアワークを積極的に取り入れたいと考えています

【学生が準備すべき機器他】
パソコンを持参してください

【Outline (in English)】
Course outline
This course covers basic constructs and theories of organizational behavior, focusing on motivation theory, organizational socialization theory, and career development theory.
Learning objectives
Can explain basic constructs and theories of organizational behavior.
Can analyze individuals based on the constructs and theories of organizational behavior.
Can identify individual issues based on the constructs and theories of organizational behavior.
Learning activities outside of classroom
Summarize the key issues in the lectures.
Analyze real business cases using the perspectives explained in the lectures.
Before/after each class, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.
Grading Criteria
In-class Assignment: 60%
Final report: 40%

MAN200MA（経営学 / Management 200）

越境学習論【2025年度以降入学者用】

石山　恒貴

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木4/Thu.4　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：キャリアデザイン学部2024年度以前入学者は、この科目は履修できません。
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　不確実で変化の激しい環境化において、従来のような長期的な安定を全体にしたキャリアの進め方、働き方、生き方には限界があります。このような状況に対応する有効な打ち手のひとつが越境学習です。越境学習とは、自分にとって居心地のよいホームから、居心地の悪いアウェイにあえて飛び出し、そこから学びを得るという学習です。
　越境学習は大学生においても活用可能であるとともに、社会で活躍するようになってからも生涯にわたって活用可能です。
　本授業は、越境学習の概要、その意義、実践方法について、講義とゲスト講義による事例紹介を通じて習得することを目的とします。

【到達目標】
　不確実で変化の激しい環境化において、従来のような長期的な安定を全体にしたキャリアの進め方、働き方、生き方には限界がある。そのような不確実な環境における越境学習のの概要、その意義、実践方法について習得することを目的とする。とりわけ、大学生活においても越境学習を実践できることを重視する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
　越境学習に関する幅広い理論と事例を紹介しつつ，日本の現在における越境学習を理解し、それを実践できるようになることを重視する。
　授業は、講義とゲスト講義による事例紹介、およびグループワークを活用しながら進める。
　適宜実施する小レポート、中間レポート1回、最終レポート1回の提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	ガイダンス: 授業の進め方、活用方法等について説明、自己紹介
第2回	越境学習の概要	不確実な環境下において越境が求められる背景、その分類、内容、意義などを理解する
第3回	企業主導の越境学習	企業主導の越境学習の内容、意義と課題、事例を理解する
第4回	ゲスト講義（企業主導の越境学習1)	企業主導の事例を理解する（ベンチャー企業などへの越境）
第5回	ゲスト講義（企業主導の越境学習2)	企業主導の事例を理解する（新興国のNGOなどへの越境）
第6回	地域の越境学習	地域の越境学習の内容、意義と課題、事例を理解する
第7回	ゲスト講義（地域の越境学習)	地域の越境学習の事例を理解する
第8回	個人主導の越境学習	個人主導の越境学習の内容、意義と課題、事例を理解する
第9回	ゲスト講義（個人主導の越境学習)	個人主導の越境学習の事例を理解する
第10回	キャリアに越境学習をどういかすか	越境学習に関連するキャリア理論を紹介し、キャリアと越境学習の関連性を理解する
第11回	ゲスト講義（キャリアに越境学習を活かした事例)	キャリアに越境学習を活かした事例を理解する
第12回	越境学習によって、組織をどう変革するか	越境学習によって組織を変革する意義、課題などを理解する
第13回	ゲスト講義（越境学習によって組織を変革した事例）	越境学習によって組織を変革した事例を理解する
第14回	まとめ	これまでの授業を振り返り、今後、各自が越境学習をどのように実践していくかを検討する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・越境学習に関して講義、ゲスト講義で学んだ内容に関して、関連する情報に関心を持ち、社会での実践のあり方を検討する。
・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
　毎回、授業で配布するパワーポイントをテキストとして使用する。

【参考書】
石山恒貴『越境的学習のメカニズム』福村出版、2018年
石山恒貴・伊達洋駆『越境学習入門』日本能率協会マネジメントセンター、2022年

【成績評価の方法と基準】
①授業におけるグループワークなど議論の実施状況（40％）
②中間レポートと最終レポートの評価（60%）

【学生の意見等からの気づき】
　今年度が初回のため、越境学習に関する講演などでの今までの関心事項に基づき、講義を行う

【その他の重要事項】

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of cross-boundary learning. At the end of the course, participants are expected to explain the essential concepts of cross-boundary learning.
Goal
At the end of the course, students are expected to gain an overall perspective on cross-boundary learning theory.
Work to be done outside of class (preparation, etc.)
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading criteria
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
①In class contribution（40%）
②Evaluation of interim and final reports (60%)

MAN200MA（経営学 / Management 200）

簿記Ⅰ

赤城　諭士

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：月3/Mon.3　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　簿記Ⅰでは、簿記をはじめて学ぶ人を対象に、簿記一巡の手続きについて学習します。簿記は、会社が財産の管理を行ううえでも役立ちますが、現在では、「損益計算書」と「貸借対照表」と呼ばれる2つの表（「財務諸表」と呼ばれる）を作成する役割が重視されています。この財務諸表を作成するための手順が「簿記一巡の手続き」と呼ばれるものです。
　財務諸表は、今後、会計学（特に財務会計）を学ぶうえでも重要です。簿記・会計学の基礎を身につけるために簿記一巡の手続きにしたがって、自分で処理を行い、財務諸表を作成できるようにしていきましょう。

【到達目標】
　簿記一巡の手続きにしたがって、取引を処理し、財務諸表の作成までできるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
　配布資料にもとづいて説明し、問題演習を通じて当日の説明内容を確認する。また、授業の開始時に前回までの学習内容に関する小テストを実施し、知識の定着を図る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、簿記とは	・授業の進め方・成績評価方法の説明。 ・簿記の役割および手続きに関する説明。
第2回	貸借対照表①	・個人商店を前提に、資産・負債・資本について説明。
第3回	貸借対照表②	・財産法による純損益の計算 ・貸借対照表の作成。
第4回	損益計算書	・収益・費用についての説明 ・損益法による純損益計算 ・損益計算書の作成。
第5回	財務諸表の作成に必要な情報とその記録	・財務諸表を作成するのに必要な情報は何かを考える。 ・取引要素の分解
第6回	総合問題演習①	第1回から第5回までの説明内容に関わる問題演習。
第7回	第1回授業内試験	第1回から第6回までの授業内容に関わる試験と総括。
第8回	勘定口座を用いた記録	・勘定への記入のルール ・取引要素の結合関係
第9回	仕訳と転記	・仕訳と転記 ・仕訳の役割
第10回	試算表	・試算表の役割 ・合計試算表、残高試算表および合計残高試算表の作成
第11回	精算表、決算手続き①	・精算表の役割および作成方法 ・収益・費用勘定残高の損益勘定への振替仕訳
第12回	決算手続き②	・損益勘定残高の資本金勘定への振替。 ・総勘定元帳の締め切り。 ・繰越試算表の作成。 ・財務諸表の作成。
第13回	総合問題演習②	第8回から第12回までの説明内容に関わる問題演習。
第14回	第2回授業内試験	第2回から第13回までの授業内容に関わる試験と総括。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　授業支援システムを通じて事前配布する説明資料をあらかじめ読んでおくと理解が深まります。ですが、簿記では予習以上に復習が重要です。授業での説明内容を確認し、問題演習を繰り返すことで、簿記の手続きを身につけていってください。なお、本授業の準備・復習のための学習時間は各2時間を標準としています。

【テキスト（教科書）】
使用しない（配布資料にもとづいて説明および演習を行う）。

【参考書】
渡部裕亘、片山覚、北村敬子編著『検定簿記講義3級（2026年度版）』中央経済社。
渡部裕亘、片山覚、北村敬子編著『検定簿記ワークブック3級（2026年度版）』中央経済社。

【成績評価の方法と基準】
（1）成績評価方法
　授業内で実施する2回の試験の結果に基づいて評価する。
（2）成績評価基準・評価の配分等
　第1回試験（40％）、第2回試験（60％）

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
電卓（問題を解く際に必要となります。また、試験では電卓の持ち込みを認めます。）

【Outline (in English)】
Bookkeeping I is designed for beginners learning bookkeeping, covering the procedures for a full cycle of bookkeeping. While bookkeeping aids companies in managing their assets, its primary role today is to prepare financial statements. The procedures for preparing financial statements are referred to as the “full cycle of bookkeeping.”
　Financial statements are also crucial for future studies in accounting (especially financial accounting). To master the fundamentals of bookkeeping and accounting, learn how to prepare financial statements.

MAN200MA（経営学 / Management 200）

簿記 II

赤城　諭士

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：月3/Mon.3　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
簿記Ⅱでは、簿記Ⅰで学んだ簿記一巡の手続きを用いて、株式会社が行う様々な取引を処理していきます。例えば、商品の購入や設備投資を行った際の代金の決済方法には様々なものがあります。この授業では日本商工会議所主催の日商簿記検定試験3級の試験範囲に該当する取引を取り上げます。取引の処理を通じてビジネス実務に関する知識も身につけていきましょう。また、決算手続きについても、決算整理手続きを加えた方法を学んでいきます。

【到達目標】
株式会社を前提とした各種の取引について適切に処理できるようになる。また、決算整理を含めた財務諸表の作成を行えるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
テキストの内容を踏まえてパワーポイント等を用いて説明し、ワークブック等を利用した問題演習を通じて当日の説明内容を確認する。また、授業の開始時に前回までの学習内容に関する小テストを実施し、知識の定着を図る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	（1）ガイダンスと簿記一巡の手続きに関する復習	・授業の進め方・評価方法の説明。 ・問題演習を中心とした簿記一巡の手続きの復習。
第2回	商品売買取引①	・分記法と三分法
第3回	商品売買取引②	・返品、商品売買に伴う運送費等の処理
第4回	商品売買取引③	・当座預金と小切手 ・小切手を用いた代金決済とその処理
第5回	商品売買取引④	・約束手形を用いた代金決算とその処理 ・電子記録債権・債務
第6回	商品売買取引⑤	・代金の前払・前受があった場合の処理 ・商品券に関わる処理
第7回	商品以外の売買	・固定資産の売買 ・固定資産の売買代金の授受を後日とした場合の処理
第8回	金銭の貸借	・借用証書を用いる場合 ・約束手形を用いる場合 ・役員との間で生じる金銭の貸借
第9回	その他の取引	・従業員との関係で生じる取引（仮払金・仮受金等） ・小口現金
第10回	株式会社特有の処理	・株式を用いた資金調達 ・剰余金の配当と利益準備金の積み立て
第11回	決算整理①	・売上原価の計算 ・貸倒れの見積り ・固定資産の減価償却
第12回	決算整理②	・収益・費用の繰り延べ ・収益・費用の見越し ・現金過不足の処理
第13回	伝票および補助簿	・伝票を用いた記帳方法 ・補助簿の意義と商品有高帳の記入方法
第14回	授業内試験	第1回〜第13回までの授業内容に関わる試験と総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業前にテキストの該当箇所をあらかじめ読んでおくと理解が深まります。ですが、簿記では予習以上に復習が重要です。授業での説明内容を確認し、問題演習を繰り返すことで、簿記の手続きを身につけていってください。なお、本授業の準備・復習のための学習時間は各2時間を標準としています。

【テキスト（教科書）】
渡部裕亘、片山覚、北村敬子編著『検定簿記講義3級（2026年度版）』中央経済社。
渡部裕亘、片山覚、北村敬子編著『検定簿記ワークブック3級（2026年度版）』中央経済社。

【参考書】
必要に応じて、適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
（1）成績評価方法
授業内で実施する試験の結果に基づいて評価する。
（2）成績評価基準・評価の配分等
授業内で実施する試験（100％）

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
電卓（問題を解く際に必要となります。また、試験では電卓の持ち込みを認めます。）

【その他の重要事項】
現在、手形制度の変更が進められている関係上、今年度より簿記のテキストの内容が大幅に変更されることが予想されます。シラバス執筆時点ではまだ新しいテキストが発売されていませんので、このシラバスでは従来のテキスト（2025年度版）の内容に従って各授業内容を説明しています。ですが、実際の授業は2026年度版のテキストの内容に沿って進める予定ですので、その点を了承しておいてください。

【Outline (in English)】
In Bookkeeping II, we will process various transactions conducted by corporations using the full cycle of bookkeeping procedures learned in Bookkeeping I. Through processing these transactions, you will also gain knowledge about business practices. Furthermore, regarding year-end closing procedures, we will learn methods that incorporate financial statement adjustment procedures.

MAN200MA（経営学 / Management 200）

経営統計

中野　貴之

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：月3/Mon.3　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、大量の経営・企業データを、パソコンを用いて、整理、集約および分析する方法を学びます。Excelの基本操作から開始し、最終的には、統計学における基本的な検定方法および回帰分析まで学びます。使用するデータは、主に利益および売上等の経済・企業データですが、本演習で獲得できる分析方法は、分野に拘わらず、広く役立ちます。

【到達目標】
統計学の基礎知識を身に付けるとともに、統計を用いた専門的論文を読めるように指導します。高度な統計学は扱いません。あくまで統計分析の基礎を、実践で使えるようになることを目標に置きます。また、経済・経営のデータに精通できるように指導します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
情報実習室にて、演習形式にて行います。パソコンを用いた分析ですので、統計分析の楽しさを経験しながら、自然に分析手法が身についていくと思います。また、経済・経営のデータに精通できるようになります。また、レポートの提出を求めていきますが、受講者の意見等は授業内で紹介し、さらなる議論に活用します。
大学行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本講義の主題と到達目標を説明する。
第2回	エクセルの基本操作	企業データの処理の基礎として、MS-Excel、統計ソフトRの基本操作について学びます。
第3回	記述統計(1)	中心的尺度（平均、中位数、最頻値）について、企業データを用いて学びます。
第4回	記述統計(2)	ちらばりの尺度（レンジ、分散、標準偏差）について企業データを用いて学びます。
第5回	記述統計(3)	標準化（Z値）について学びます。企業データの大小を相対的に理解できるようになります。
第6回	記述統計(4)	2変量の相関について学びます。企業データの関連性について理解できるようになります。
第7回	回帰分析(1)	単回帰について学びます。企業データを一次関数により理解できるようになります。
第8回	回帰分析(2)	重回帰について学びます。目的変数と複数の独立変数との関連性について理解できるようになります。
第9回	回帰分析(3)	ダミー変数、交互作用項について学びます。企業データの決定要因をより詳しく理解できるようになります。
第10回	回帰分析(4)	回帰診断について学びます。企業データの回帰結果を正しく診断できるようになります。
第11回	回帰分析(5)	回帰分析を用いた、研究論文を読みます。企業データを用いた論文を正確に読めるようになります。
第12回	各種検定(1)	平均値、平均差の検定等について学びます。企業データが有意に異なるかどうかについて理解できるようになります。
第13回	各種検定(2)	分散比の検定、カイ二乗検定等について学びます。企業データの分散や比率が異なるどうかについて理解できるようになります。
第14回	各種検定(3)	回帰係数の検定について学びます。企業データの回帰の検定について理解できるようになります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
さまざまな授業で統計データが取り扱われることが多いと思いますので、それらに関心をもちつつ本講義を受けると、一層効果が高まるでしょう。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
開講時に指示します。

【参考書】
開講時に指示します。

【成績評価の方法と基準】
①授業における発言、取り組み: 25%
②授業内レポート: 45%
③授業内テスト: 30%

【学生の意見等からの気づき】
統計学を理解できてよかったという意見が多いので、引き続き受講者に有用な授業を行っていきます。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室で行い、パソコンを用いた演習を行いながら分析手法を身につけていきます。

【その他の重要事項】
・本講義は、「キャリア研究調査法（量的調査）」の実践編という位置づけにあります。新しい上級の知識を獲得するというよりは、基礎を十分に復習し、実践を積んで実際に自分で分析できるようになることが目的です。
・統計の基礎からはじめていくので、「キャリア研究調査法（量的調査）」を履修していない人でも大丈夫です。
・なお、本講義は情報実習室で行うため、履修人数に制限があります。初回の講義には必ず出席してください。履修制限を超えた場合には選考を行います。

【Outline (in English)】
*Course outline
The aim of this course is to master the basics of statistics. No prior basic knowledge is required.
*Learning Objectives
The goal of this class is to enable students to analyze and interpret large quantitative data on their own. This class will cover descriptive statistics, statistical tests and regression analysis.
*Learning activities outside of classroom
If you are interested in how statistical data is used in the media, it will be useful for your studies. Your required study time is at least 4 hours for each class meeting.
*Grading Criteria
Your overall grade in the class will be decided based on the following.

in class contribution: 25%. in class Reports: 45%, in class a test: 30%.

MAN200MA（経営学 / Management 200）

経営分析Ⅰ【2025年度以降入学者用】

中野　貴之

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：月3/Mon.3　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞
授業コード：C5072
科目名：経営分析Ⅰ
＜2024年度以前入学者＞
授業コード：C7268
科目名：経営分析論Ⅰ
※入学年度によって授業コード・科目名が異なります

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、財務諸表（貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書など）の情報を適切に収集および分析するための基本的な考え方や計算手法を習得することを目的とします。この授業では、財務諸表分析における収益性、安全性、効率性および成長性などに関する伝統的な分析方法を中心に学びます。また、設例や実際のデータを用いて演習を行います。

【到達目標】
具体的な到達目標は以下である。
①基本的な財務諸表(貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書）を読むことができる。
②財務数値の意味を理解する。
③企業の財務数値を用いて、受講者自身が分析を行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
財務諸表分析等の説明を行った上で、各自、実際に分析を行い、実習により理解していくことを基本とします。授業内レポートのフィードバックは、授業中に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本講義の主題と到達目標を説明します。
第2回	財務諸表分析の基礎	・財務諸表分析の意義 ・財務諸表分析の方法
第3回	財務諸表の見方	・連結財務諸表について ・連結財務諸表の相互関係
第4回	貸借対照表データによる安全性分析	・貸借対照表データによる基本分析 ・短期財務安全性の分析 ・長期財務安全性の分析 ・有利子負債の分析
第5回	損益計算書データによる収益性分析	・損益計算書データによる基本分析 ・段階別売上高利益率の算定 ・プロフォーマ利益 ・セグメント情報の分析
第6回	相互関係比分析による収益性分析(1)	・相互関係比と収益性分析について
第7回	相互関係比分析による収益性分析(2)	・投下資本利益率の算定 ・投下資本利益率の分解 ・ＲＯＡとＲＯＥの関係
第8回	中間レビュー	第7回までの学習内容についてレビューを行います。
第9回	効率性分析(1)	・使用総資本回転率 ・回転期間の分析
第10回	効率性分析(2)	・増加運転資本
第11回	キャッシュ・フロー・データによる分析(1)	・キャッシュ・フローと会計利益 ・活動区分別キャッシュ・フロー
第12回	キャッシュ・フロー・データによる分析(2)	・キャッシュ・フロー・データによる分析
第13回	キャッシュ・フロー・データによる分析(3)	・フリー・キャッシュ・フローの算定
第14回	本講義のレビュー	本講義のレビューを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・復習をこまめに行うことが知識の定着に有効です。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
乙政正太 著『財務諸表分析(第4版)』同文舘出版、2024年。

【参考書】
開講時に指示します。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は次のとおりです。
①平常点30%（授業内のQuiz、レポートの得点）
②定期試験70%

【学生の意見等からの気づき】
・抽象度の高い概念について、具体的な事例を用いた説明をすることを心がけます。
・また、実例を多く取り上げ、受講者が主体的に取り組めるように工夫します。

【その他の重要事項】
・本講義は、経営分析IIの基礎となります。会計学は専門性が高いですが、一度身に着けると、ずっと使うことができるやりがいのある勉強です。

【Outline (in English)】
*Course outline
The aim of this course is to help students acquire Business Analysis.　The goals of this course is to use financial statement information to understand the business conditions of companies based on management indicators and other information.
*Learning activities outside of classroom
Students are encouraged to review the class on a regular basis. Your required study time is at least 4 hours for each class meeting.
*Grading Criteria
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Quiz and short reports: 30%, Term-end examination: 70%.

MAN200MA（経営学 / Management 200）

経営分析 II【2025年度以降入学者用】

平井　裕久

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水2/Wed.2　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞
授業コード：C5073
科目名：経営分析II
＜2024年度以前入学者＞
授業コード：C7269
科目名：経営分析論II
※入学年度によって授業コード・科目名が異なります

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、財務諸表（貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書など）から得られる情報を利用し、そこから算定される経営指標などによって、企業の経営状態の実像や課題を観察する眼を養うことを目標とする。
財務諸表分析における、企業の収益性、安全性、効率性、成長性などに関する伝統的な分析方法を中心とし、また近年話題のテーマである企業価値評価についても、設例や上場企業のデータを用いて講義していく。

【到達目標】
具体的な到達目標は以下である。
①基本的な財務諸表(貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書）を読むことができる。
②財務数値の意味を理解する。
③企業の財務数値を用いて分析を行える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
本講義では、プレゼンテーションソフトを用いて説明する。講義内では、補足説明のためのプリントなどを配布し、より具体的な事例を確認する。また講義内において、数回の課題を行う予定である。また数回のリアクションペーパー提出を行って頂き、進捗スピードや内容の理解度について確認をおこなっていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の進め方や、経営分析を学ぶ意義や関連する研究の紹介などについて解説する。
第2回	第７章　キャッシュ・フロー・データによる分析	・キャッシュフローと会計利益 ・活動区分によるキャッシュフロー
第3回	第７章　キャッシュ・フロー・データによる分析	・フリーキャッシュフロー ・キャッシュコンバージョンサイクル(CCC)
第4回	財務諸表分析の基礎的確認	・財務諸表の確認 ・財務諸表分析の意義 ・分析手法
第5回	第９章　成長性分析	・業績の推移 ・業績予想との比較 ・上場企業の成長性
第6回	第10章　付加価値分析	・付加価値の意味 ・労働生産性の分析 ・労働分配率 ・経済的付加価値
第7回	第13章　利益マネジメントと財務諸表分析	・会計利益の操作性 ・利益マネジメントの方法と行使パターン ・利益マネジメント行動の検出
第8回	中間テスト	中間テストの実施および解説
第9回	第８章　損益分岐点分析	・損益分岐点分析の意味 ・限界利益と損益分岐点 ・営業レバレッジ ・変動費と固定費
第10回	補章　貨幣の時間的価値と割引計算	・貨幣の時間的価値 ・年金の現在価値 ・年金型投資商品の現在価値
第11回	第11章　倍率指標とキャッシュ・フローに基づく価値評価	・ファンダメンタル分析 ・企業価値評価の間便法
第12回	第11章　倍率指標とキャッシュ・フローに基づく価値評価	・配当割引モデル ・割引キャッシュ・フローモデルと企業価値評価
第13回	第12章　会計利益に基づく価値評価	・会計利益と株式価値評価 ・残余利益と株式価値評価モデル ・価値関連性分析 ・株価説明力に影響を及ぼす要因
第14回	試験・まとめと解説	まとめと試験実施および解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの該当章を事前によく読んで予習しておくこと。
講義終了後には、内容の理解を確実なものとするためにも復習をすること。
本授業の準備・復習時間は、各４時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
乙政正太 著『財務諸表分析(第4版)』同文舘出版，2024

【参考書】
桜井久勝『財務諸表分析（第5版）』中央経済社，2012
佐藤裕一『ビジュアル経営分析の基本（第5版）』日本経済新聞出版社，2012
森田松太郎『経営分析入門（第4版）』日本経済新聞出版社，2009
パレプ他、斉藤静樹監訳、筒井知彦他訳『企業分析入門（第2版）』東京大学出版会，2001
平松一夫他『事例でわかる企業分析』東京経済情報出版，2009
ペンマン、杉本徳栄他訳『財務諸表分析と証券評価』白桃書房，2005

【成績評価の方法と基準】
定期試験(60％)・中間テスト(30％)・平常点(10％)による総合評価

【学生の意見等からの気づき】
引き続き具体的な企業のデータを用いて、イメージしやすい講義をしたいと考えます。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布や課題提出等のために学習支援システム等を利用する

【その他の重要事項】
受講に際して、簿記の基礎的な知識(日商簿記３級程度)はあることが望ましい。
授業および試験においては、“電卓”を準備すること。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to develop students' ability to analyze corporate performance through information obtained from financial statements, including balance sheets, income statements, and cash flow statements. By examining key management indicators derived from these statements, students will learn to observe the actual financial condition of companies and identify underlying managerial issues.
The course focuses primarily on traditional methods of financial statement analysis, such as evaluating profitability, safety, efficiency, and growth. In addition, the course will also cover corporate valuation, a topic that has attracted increasing attention in recent years, using practical examples and data from publicly listed companies.

Students are expected to spend approximately four hours before and after each class meeting to review and deepen their understanding of the course content.
Final grades will be determined based on the following components:
・Term-end examination: 60%
・Short reports: 30%
・In-class contribution: 10%

MAN200MA（経営学 / Management 200）

経営組織論 I

梅木　眞

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：月1/Mon.1　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞
授業コード：C5074
科目名：経営組織論 I
＜2024年度以前入学者＞
授業コード：C5074
科目名：経営組織論 I
※入学年度によらず同一授業コード・科目名称

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
我々の生活は企業を中心としたさまざまな組織に支えられている。また、我々自身も組織の一員として働き、キャリアを形成している。春学期はミクロな視点＝組織の中の個人及び小集団に焦点を当てて学んでいく。

【到達目標】
組織理論の基礎・応用、および実践について、体系的に理解することを目標とする。将来企業組織などの一員として、働く人々の生産性を高めるために必要な知識を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
教科書及び参考図書に基づき、通常の講義形式で行う。授業内に行う小課題などに関しては、講義の際に随時対面にてフィードバックを行う。期末試験の講評に関しては授業支援システムにて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義内容、講義の進め方、評価方法などについての説明
第2回	個人行動の基礎	企業で働く人々の価値観や態度についての理解を深める
第3回	個人行動	従業員のものの見方（認知システム）や学習について理解を深める
第4回	働く人のパーソナリティ	パーソナリティの類型化と人間の感情
第5回	働く人の感情	パーソナリティや感情を、職務との関連で理解する
第6回	動機付けの基礎	初期の動機付け理論
第7回	動機付け理論（1）	現代の動機付け理論/マクレランド理論他
第8回	動機付け理論（2）	現代の動機付け理論/職務設計理論他
第9回	動機付けの実践（1）	動機付けの実践/MBO（目標による管理）他
第10回	動機付けの実践（2）	動機付けの実践/職務設計理論他
第11回	個人の意思決定（1）	意思決定のメカニズム：合理的意思決定と現実の意思決定
第12回	個人の意思決定（2）	意思決定の改善のためのツール：どうすれば生産性の高い意思決定を行うことができるか
第13回	集団行動（1）	集団に関する基礎、グループ・ダイナミクス
第14回	集団行動（2）	集団による意思決定のメカニズム、どうすれば組織的に良い意思決定を行うことができるか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストに沿って講義を進めていくので、指示された部分は事前に読んでおくこと。
皆さんが所属している集団や、これから就職するであろう組織をイメージしながら受講すると、理解が深まります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
スティーブンP.ロビンス（高木晴夫訳）『組織行動のマネジメント』ダイヤモンド社

【参考書】
Robbins and Judge(2021) Essentials of Organizational Behaviour, Global Edition. Pearson Education Limited.
(講義で用いるテキストのglobal versionです)
それ以外は必要に応じて講義中に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験で80％評価します。期末試験は対面あるいはオンラインのいずれかで行います（決定次第、授業支援システムで告知します）。また、授業中の小課題で20%の加点を行います。
成績評価基準は以下の通りです。
A+
組織理論の基礎・応用、および実践について、事例などを用いて十分に理論的に説明することができる
A-以上
組織理論の基礎・応用、および実践について、事例などを用いて理論的に説明することができる
B-以上
組織理論の基礎・応用、および実践について、不十分ではあるが理論的に説明することができる。
C以上
組織理論の基礎・応用、および実践について、不十分ながらも説明することができる。
D以下
組織理論の基礎・応用、および実践について、正確に説明することができない。

【学生の意見等からの気づき】
具体的な事例などを取り上げつつ、できるだけわかりやすい授業を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを通じて参考資料を配布する場合がありますので、指示に従ってください。

【Outline (in English)】
Our lives are supported by various organizations. We work as a member of the organization and form a career. In spring term, we focuses on individuals within the organization.
Learning objectives are to systematically understand the basics, applications, and practices of organizational theory. As a member of a corporate organization, acquire the knowledge necessary to increase the productivity of working people.
Outside of clasroom, deepen your understanding if you take the course while imagining the group to which you belong and the organization that you will find employment in the future.The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.
Lecture will proceed according to the textbook, so read the instructed part in advance.
90% will be evaluated in the final exam. The final exam will be held either face-to-face or online (as soon as it is decided, it will be announced on the class support system). Additionally, 10% points will be added for small assignments during class.
Report assignments will be assigned twice and will be evaluated.The grade evaluation criteria are as follows.
A +
Be able to explain the basics, applications, and practices of organizational theory sufficiently theoretically using examples.
A-below

Be able to theoretically explain the basics, applications, and practices of organizational theory using examples.
B-or higher
Be able to explain the basics, applications, and practices of organizational theory, albeit inadequately, theoretically.
C or above
Be able to explain the basics, applications, and practices of organizational theory, albeit inadequately.
D or less
It is not possible to accurately explain the basics, applications, and practices of organizational theory.

MAN200MA（経営学 / Management 200）

経営組織論 II

梅木　眞

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：月1/Mon.1　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞
授業コード：C5075
科目名：経営組織論II
＜2024年度以前入学者＞
授業コード：C5075
科目名：経営組織論II
※入学年度によらず同一授業コード・科目名称

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ヒトを動かし、組織を動かし、成果を出していくためにはどうすれば良いか。機能不全に陥った組織をどうすれば良いか。秋学期は集団、組織、組織間レベルの分析に焦点を当てていきます。

【到達目標】
組織理論の基礎・応用、および実践について、体系的に理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
教科書及び参考図書に基づき、通常の講義形式で行う。授業内に行う小課題などについては、講義の際に対面にて随時フィードバックを行う。期末試験の講評については授業支援システム内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義内容、講義の進め方、評価方法などについての説明
第2回	チーム	チームを理解する
第3回	コミュニケーション（1）	コミュニケーションのメカニズム
第4回	コミュニケーション（2）	コミュニケーションの阻害要因と改善メカニズム
第5回	リーダーシップ（1）	初期のリーダーシップ理論
第6回	リーダーシップ（2）	現代のリーダーシップ理論
第7回	パワーと組織内政治	組織内で行使される力
第8回	コンフリクト	コンフリクトの定義・分類・活用
第9回	交渉	組織内外における交渉のメカニズム
第10回	組織構造	組織構造の基礎と組織デザイン
第11回	組織文化	組織文化の類型化・文化の形成と業績との関連
第12回	人材管理	採用・育成・業績評価
第13回	組織変革と組織開発（1）	組織変革の基本
第14回	組織変革と組織開発（2）	変革のマネジメントと組織開発の具体的手法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストに沿って講義を進めていくので、指示された部分は事前に読んでおくこと。自分だったらどのように考え、行動するか、常に自身に置き換えて考えながら講義に臨んでください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
スティーブンP.ロビンス（高木晴夫訳）『組織行動のマネジメント』ダイヤモンド社

【参考書】
Robbins and Judge(2021) Essentials of Organizational Behaviour,Global Edition. Pearson Education Limited.
(講義で用いるテキストの global version です)
それ以外は必要に応じて講義中に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験で80％評価します。期末試験は対面あるいはオンラインのいずれかで行います（決定次第、授業支援システムで告知します)。また、授業中の小課題で20％評価します。
成績評価基準は以下の通りです。成績評価基準は以下の通りである。
A+
組織理論の基礎・応用、および実践について、事例などを用いて十分に理論的に説明することができる
A-以上
組織理論の基礎・応用、および実践について、事例などを用いて理論的に説明することができる
B-以上
組織理論の基礎・応用、および実践について、不十分ではあるが理論的に説明することができる。
C以上
組織理論の基礎・応用、および実践について、不十分ながらも説明することができる。
D以下
組織理論の基礎・応用、および実践について、正確に説明することができない。

【学生の意見等からの気づき】
できるだけ具体的な事例、手法などを示すことによってわかりやすい授業を心がけていきます。

【学生が準備すべき機器他】
参考資料を学習支援システムを用いて配布する場合があります。指示に従ってください。

【Outline (in English)】
In this lecture, we study how to influence people, manage organization, and achieve its goal. We focus on group, and organizational, and inter- organizational level.
Learning objectives are to systematically understand the basics, applications, and practices of organizational theory.
The lecture will proceed according to the text, so read the instructed part in advance. Please attend the lecture while always thinking about how to think and act if you are yourself.
The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.
90% will be evaluated in the final exam. The final exam will be held either face-to-face or online (as soon as it is decided, it will be announced on the class support system). Additionally, 10% points will be added for small assignments during class.
Report assignments will be assigned twice and will be evaluated.The grade evaluation criteria are as follows.
A +
Be able to explain the basics, applications, and practices of organizational theory sufficiently theoretically using examples.
A-below
Be able to theoretically explain the basics, applications, and practices of organizational theory using examples.
B-or higher
Be able to explain the basics, applications, and practices of organizational theory, albeit inadequately, theoretically.
C or above
Be able to explain the basics, applications, and practices of organizational theory, albeit inadequately.
D or less
It is not possible to accurately explain the basics, applications, and practices of organizational theory.

MAN200MA（経営学 / Management 200）

マーケティング論

小川　浩孝

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：月4/Mon.4　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞
授業コード：C5076
科目名：マーケティング論
＜2024年度以前入学者＞
授業コード：C5076
科目名：マーケティング論
※入学年度によらず同一授業コード・科目名称

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「マーケティング」という概念は1900 年代初頭にアメリカで生まれ、1950 年代から順次体系化・学習され実務に利用されてきた。日本でも60年代ごろから徐々に浸透を始め、今では企業や組織で働く人たちにとって必須の知識・ツールと理解されるようになってきた。しかしながら、「マーケティングとは何か？」「どんな要素が含まれているのか？」と聞かれても明確に答えられる人は意外と少ない。販売や広告活動、あるいは経営陣が決定する（一社員である自分とは無関係な）企業戦略だと混同している人たちも多い。また、マーケティングは営利企業の「販売拡大」「儲ける」ための概念・ツールであり、非営利組織や政府機関には関係ないと思っている人たちも多い。大学卒業後に皆さんが進む道は様々だろうが、この授業が、誰にとっても必須の知識・ツールとしての「マーケティング」への入口となり、変化の激しい社会にあっても活かせる原理として習得されることを目指す。さらに、秋学期に実施される「マーケティング・リサーチ（旧 流通・マーケティング戦略論)」へと発展的にコネクトすることで、理論のより深い理解や適用能力の向上を目指す。

【到達目標】
1. マーケティングに関する基本的な用語を理解し説明できるようになる
2. マーケティングに関する一般的な知識を習得し、その役割と基本的な理論を理解する
3. 社会のなかで実践されているマーケティング活動を理論と結びつけながら理解する
4. 最先端のマーケティング分野（SDGs、ソーシャルマーケティング、AIを用いたマーケティング、DIYマーケティングなど）の一旦に触れる
5. 日本国内にとどまらず、海外の最新のマーケティング課題・事例にも触れる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】
ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
授業は、テキストを用いた講義、グループディスカッション、グループワーク、個人による課題への提出、グループワークによる課題提出を併用する。
個人による課題提出はA4 1枚程度にまとめた課題に対するペーパーの提出（授業2-3回に1回程度の頻度）となる。またグループワークの結果による課題提出はプレゼンテーションの作成と授業内での発表による。これらに対するフィードバックは都度授業の中において行うか、もしくは個別にコメントなどを付けて返送する。講義にあたってはできる限り事例を用いてわかりやすく説明する。
事例には、実務家による講演や実務家の登場するビデオの鑑賞（日本語・英語）などを予定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業と教員の紹介。マーケティングという考え方	授業の中心的概念であるマーケティングが、どのような活動なのかを理解する。マーケティングをとりまく価値交換、顧客価値について理解する。
第2回	セグメンテーションとターゲティング	マーケティングにおける基本的概念のひとつであるSTP のうち、セグメンテーション(市場細分化) とターゲティングの重要性について考察する。
第3回	ポジショニング	STPのうち、競争するにあたって自分の立ち位置を決めるプロセスであるポジショニングを理解する。マーケティング戦略の基本となる差別化を決定づけるポジショニングの重要性を理解する。
第4回	マーケティング・ミックス	マッカーシーの4Pといわれる近代マーケティングを支える概念を理解する。マーケティング・ミックスとそれらを統合的にマネジメントしていくことが求められる現代の経営について理解する。
第5回	プロダクト	製品コンセプトや顧客のベネフィットについて理解する。またアイディア発想のグループワークを行う。ブレインライティグ、デザイン思考、オズボーンのチェックリストなどのメソッドなども取り入れながらグループに分かれて取り組む。
第6回	コミュニケーション（プロモーション）	企業のプロモーション、広告について理解する。営業などのセールスも含め幅広くプロモーションについて理解する。
第7回	プライシング	いろいろな価格決定のアプローチを理解する。消費者視点、企業視点、競争視点などから価格決定プロセスを理解する。
第8回	マーケティングと会計	売上・原価・粗利・営業利益、資産と負債などマーケティング戦略の計画決定と成果を測る上で不可欠な会計の基礎的知識を理解する。
第9回	チャネル（プレイス）	販売チャネルの種類、どのような製品であればどのような店舗で売ったらいいのか、どのようなチャネルが有効なのか等の概要を理解する。消費者向け（B2C)、産業向け・ビジネス向け（B2B）による違いも理解する。
第10回	消費者心理と消費者行動	消費者行動理論とマーケティングとの関わりについて理解する。購買心理や行動経済学などの著作にも触れ、購買行動の背後に働く心理を理解できるようにする。
第11回	顧客リレーションシップ	顧客満足と顧客価値はどう違うのか、顧客満足の向上はなぜ大切なのかを理解する。
第12回	マーケティング・リサーチの実際とブランドマネジメント	マーケティングリサーチの基礎概念・種類や特徴について理解する。また、ブランド、信頼がいかにマーケティングに影響を与えるかを事例をもとに理解する。

第13回	今日のマーケティング	ソーシャルマーケティング、グSDGsに関わるマーケティング、SNSやAIを用いたマーケティング、DIY マーケティングなど、マーケティングの最新領域に触れる。
第14回	まとめと解説・筆記試験	ここまでの話を総括し、これからのマーケティングを展望する。授業内で最終筆記試験を実施。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に教科書を読み質問等をまとめておいてください。日頃から新聞やニュースに目を通し、日々の社会・経済の動きに注意を払ってください。本授業の準備・復習時間は各2 時間を標準とします。2-3回に1回程度、A4で1ページほどの簡単な提出物があります。また、グループに分かれて課題に関するディスカッションを行い、協力して提出物にまとめてもらう場合もあります。毎回授業開始の直前に授業で使用するスライドのPDFをHoppiiに掲載します。ダウンロードしてメモを取るなどに利用してください。

【テキスト（教科書）】
恩蔵直人『マーケティング第2版』日本経済新聞出版、2019/2/1 990円

【参考書】
Kotler, P., Armstrong, G., Opresnik, M.O., Principles of MARKETING 18e GLOBAL EDITION, Pearson Education, 2020
和田充夫他『マーケティング戦略第6版(有斐閣アルマ)』2022、有斐閣
鹿毛康司 『「心」が分かるとモノが売れる』2021、日経BP
相良奈美香『行動経済学が最強の学問である』2023、SBクリエイティブ
越智 啓太『買い物の科学：消費者行動と広告をめぐる心理学』2024、実務教育出版

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、
1. マーケティングに関する基本的概念を習得したか
2. マーケティング理論を十分理解し、説明することができるか
3. 社会におけるマーケティングの役割を理解し、実際のマーケティング活動を理論に関連付けて説明することができるか
4. 最新のマーケティング分野を理解したか
の4点を試験によって評価する方法で行います。
成績評価は、平常点60%、最終試験40%の割合で行います。平常点は出席率、授業参加態度(Class Participation)、課題提出率、課題提出内容で判断します。グループ課題の場合は課題そのものの評価と、グループメンバー相互の貢献評価をミックスして行います。成績評価は合計で100点満点とし、60点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】
教員からの一方的な説明だけでなく、グループワークやグループディスカッション、地方の農家や海外ブランドのマーケティング上の具体的事例が刺激となり、学びが深まったという意見が見られました。出来るだけこのような要素を取り入れた授業構成をします。また、授業に双方向なコミュニケーションを取り入れるようにします。受講生の多い授業ですが、出来るだけこのような形での授業運営をしたいと思いますので、バラバラに教室の後方に着席するのではなく、参加しやすいように教室の前の方に固まって着席するよう協力をお願いします。

【学生が準備すべき機器他】
資料のアップロード、毎回の質問への回答などに学習支援システムHoppii、googlecrassroomを使用します。スマートフォン、タブレット、PCなどで、インターネットにアクセスできる環境を各自確保してください。

【その他の重要事項】
東京周辺の店舗に見学に行くグループ課題実施の可能性があります。交通費等は自己負担となります。また、訪問日程などは、店舗側やグループメンバーと調整し決定することになります。

教員は長年にわたり外資系企業のマーケティング部門や経営幹部を務め、現在は自身の中小企業（輸出入・卸小売・製品開発）を経営する実務家教員です。米国でMBAを取得し、その後、会社勤めをしながら法政の博士後期課程（経営学専攻）に通いました。経験した業界は、市場調査、消費財、産業財、医療機器、ラグジュアリーブランドなど多岐にわたります。
授業内容には出来るだけ実務経験を反映させ、皆さんの将来の進路に役立つものになるように心がけています。また、毎年留学生の受講も多い授業です。視野を大きく持ち、国境を超えた視点で世界を見、考える力を身に着けましょう。皆さんも貴重な時間とお金を大学での学習に投資しているわけなので、無駄にせず意味ある投資となるよう一緒に頑張りましょう。

【Outline (in English)】
< Course Outline>
The concept of "marketing" originated in the United States in the early 1900s and has been gradually systematized, studied, and applied in practice since the 1950s. It began to gradually spread in Japan around the 1960s, and is now recognized as essential knowledge and a tool for those working in companies and organizations. However, surprisingly few people can clearly answer the questions, "What is marketing?" and "What elements does it include?" Many confuse it with sales and advertising activities, or with corporate strategies decided by management (which have no relevance to them as employees). Many also believe that marketing is a concept and tool used by for-profit companies to "expand sales" and "make money," and is unrelated to non-profit organizations and government agencies. While you may choose different paths after graduating from university, this class will serve as a gateway to "marketing" as essential knowledge and a tool for everyone, and will help you master the principles that can be applied in a rapidly changing society. Furthermore, by connecting this course to "Marketing Research (formerly Distribution and Marketing Strategy)" offered in the fall semester, you will deepen your understanding of the theory and improve your ability to apply it.
＜Learning Objectives>
1. Be able to understand and explain basic marketing terminology.
2. Acquire general knowledge about marketing and understand its role and basic theory.
3. Understand marketing activities currently being practiced in society while linking them to theory.
4. Expose yourself to cutting-edge marketing fields (SDGs, social marketing, AI-based marketing, DIY marketing, etc.).
5. Expose yourself to the latest marketing issues and case studies not only in Japan but also overseas.
< Learning Methods>
Classes will combine lectures using textbooks, group discussions, group work, individual assignments, and group work assignments.
Individual assignments will consist of submitting a paper on approximately one A4 page (approximately once every 2-3 classes). Assignments resulting from group work will consist of creating a presentation and giving it in class. Feedback on these will be provided during each class, or will be returned individually with comments. Lectures will use case studies wherever possible to make explanations easy to understand.
Case studies will include lectures by practitioners and the viewing of videos (in Japanese and English) featuring practitioners.
< Learning Activities Outside of Classroom>

Please read the textbook in advance and prepare any questions you may have. Regularly read the newspaper and news, and pay attention to daily social and economic trends. The standard preparation and review time for this class is two hours. Approximately once every two or three classes, you will be required to submit a simple one-page A4 assignment. You may also be divided into groups to discuss an assignment and work together to compile an assignment. Just before each class begins, a PDF of the slides used in class will be posted on Hoppii. Please download it and use it to take notes, etc.
< Grading Criteria/Policy >
Students will be graded on the following four points:
1. Have you mastered the basic concepts of marketing?
2. Have you fully understood and can explain marketing theory?
3. Have you understood the role of marketing in society and can explain actual marketing activities in relation to theory?
4. Have you grasped the latest developments in the field of marketing?
Grades will be based on 60% class attendance and 40% final exam. Class attendance will be determined by attendance rate, class participation, assignment submission rate, and assignment submission content. For group assignments, evaluation will be based on a combination of the assignment itself and the mutual contributions of group members. Grades will be out of a total of 100 points, with a score of 60 or above being a pass.
< Others >
There may be a group assignment involving visiting stores around Tokyo. Students will be responsible for their own transportation costs. The visit schedule will be determined through coordination with the store and group members.
The instructor is a practitioner who has worked in the marketing department and as a senior executive at foreign-affiliated companies for many years. He currently runs his own small business (import/export, wholesale/retail, and product development). He earned an MBA in the United States and then studied for a doctorate in business administration at Hosei University while working for companies. His experience spans a wide range of industries, including market research, consumer goods, industrial goods, medical devices, and luxury brands.
The course content reflects his practical experience as much as possible, ensuring that it is useful for students' future careers. This class also attracts many international students every year. Students will develop the ability to broaden their perspective and see and think about the world from a transnational perspective. You are investing your valuable time and money in your university studies, so let's work together to make it a worthwhile investment.

MAN200MA（経営学 / Management 200）

マーケティング・リサーチ

小川　浩孝

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：月4/Mon.4　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
企業や組織が行うマーケティング活動の様々な局面においては、情報に基づいた意思決定（データ・ドリブン・マーケティング）が極めて重要であり、そのツールの一つが「マーケティング・リサーチ」である。日本語では「市場調査」と呼ばれているが、そのカバーする領域は「市場を調べる」という一言では括れないほど幅広く、深い。マーケティング・リサーチは適切に用いることが出来れば、意思決定を正しく行い、リスク要因を減らす手助けになるが、間違って使われれば、誤った意思決定を招き、大きな損失をもたらす可能性もある。さらに言えば、利己的な利益誘導のために用いることすら可能である。
従って、正しいマーケティング・リサーチの利用について基本を理解しておくことは大変重要である。
マーケティング・リサーチには企画・実施・分析・解釈・報告・提案といったプロセスや、多様な手段・手法があり、それらの基礎や適切な利用について学ぶのが本授業の目的である。
また、主な調査方法には思考や行動などの質的（定性的）側面について理解・分析する質的調査と、数量データを収集・分析する量的調査とがある。量的調査の分析にあたっては、統計的知識と解析が不可欠であるが、文系の学生たちにとっては苦手な分野かもしれない。本授業では高度な統計処理を学ぶことはせず、基本的概念を文系の学生にも平易に理解できる形で講義する。
併せて、事象・本質の深い理解に不可欠な消費者行動、社会心理学、行動経済学などの関連分野についても学習時間を設ける。
また、現在は、IT（SNS・AIを含む）の進化により日常生活の中で無意識のうちにデータ・情報が収集され利用されている。これらの活用や倫理的側面についても理解できるようにする。

【到達目標】
1 マーケティング活動における課題を理解し、課題を解決するために最適な調査の方法や仮説設定ができるようになる。
2 適切な調査を設計し、実施、データや情報を収集できるようになる。
3 得られたデータを分析できるようになる。
4 分析した結果を正しく解釈し、報告できるようになる。
5 マーケティング・リサーチの質を向上させるために、関連する分野についての基礎的概念を理解出来るようになる。
6 ITを用いたデータ収集・活用における手法や倫理的側面の重要性を理解している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
授業は、テキストを用いた講義、グループディスカッション、グループワーク、個人による課題への提出、グループワークによる課題提出を併用する。
個人による課題提出はA4 1枚程度にまとめた課題に対するペーパーの提出（授業2-3回に1回程度の頻度）となる。またグループワークによる課題提出は作業と授業内での発表による。これらに対するフィードバックは都度授業の中において行うか、もしくは個別にコメントなどを付けて返送する。関連分野の学習にあたっては入門書を購読し、感想や学んだことを課題提出・発表してもらう。講義にあたってはできる限り事例を用いてわかりやすく説明する。また事例紹介においては、実務家による講演や実務家の登場するビデオの鑑賞（日本語・英語）なども予定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の進め方 マーケティング・リサーチとは	マーケティング・リサーチ（市場調査）とはどのようなものかについて概観する。
第2回	課題（仮説）設定と調査手法	マーケティング課題の設定とそれに応じた調査手法の選択を理解する。
第3回	調査手法：質的調査（1）	質的調査の種類や実施にあたってのポイントについて理解する。
第4回	調査手法：質的調査（2）	質的調査の各種類についてさらに詳しく学ぶ。授業内での実習を含む。
第5回	調査手法：量的調査（1）	量的調査の種類、標本数、調査項目の立て方について理解する。
第6回	調査手法：量的調査（2）	質問の種類と作成について理解する。授業内での実習を含む。
第7回	調査に役立つ関連分野の理解	消費者行動、社会心理学、行動経済学などについて各自事前に読んだ参考書をもとに、概略を理解する。
第8回	統計処理の基礎概念（1）	初心者向けの入門書を使い、データ分析に用いられる統計概念（標準偏差、信頼区間など）を理解する。
第9回	統計処理の基礎概念（2）	初心者向けの入門書を使い、データ分析に用いられる統計概念（標準偏差、信頼区間など）を理解する。
第10回	多変量解析	因子分析、クラスター分析、重回帰分析など、多変量解析の種類や活用方法について理解する。
第11回	アンケート調査の企画と実施（1）	グループに分かれ、オンラインアンケートを作ってみる。それに基づいてアンケート調査を実際に行ってみる。
第12回	アンケート調査の企画と実施（2）	実際に収集したデータをもとにExcelなどを使い集計し、グループごとに発表する。
第13回	デジタルデータ収集やAIを利用したマーケティング・リサーチ	ホームページやSNSの閲覧、移動データなどのビッグデータがどのように利用されているか理解する。また、AI活用によるリサーチプロセスの効率化と制約について理解する。
第14回	まとめと最終試験	授業のまとめの後、試験を実施。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に参考書を読み質問等をまとめておいてください。日頃から新聞やニュースに目を通し、日々の社会・経済の動きに注意を払ってください。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。2-3回に1回程度、A4で1ページほどの簡単な提出物があります。また、グループに分かれて作業をすることもあります。毎回授業開始の直前に授業で使用するスライドのPDFをHoppiiに掲載します。ダウンロードしてメモを取るなどに利用してください。時間外に店舗見学を行う外出があります。数名のグループに分かれ指定された店舗の見学に出かけ、レポートにして発表・提出を行います。

【テキスト（教科書）】
なし　None

【参考書】
星野崇宏、上田雅夫『マーケティング・リサーチ入門』2018、有斐閣
米田恵美子『「専門家」以外の人のためのリサーチ&データ活用の教科書: 問題解決マーケティングの秘訣は、これだ!』2022、東洋経済新報社
大上丈彦『マンガでわかる統計学　ストーリーだから最後まで読める』2025、SBクリエイティブ
小島 寛之『完全独習　統計学入門』2006、ダイヤモンド社

佐々木彈『イラスト&図解 知識ゼロでも楽しく読める! 統計学のしくみ』2021、西東社
鹿毛康司 『「心」が分かるとモノが売れる』2021、日経BP
相良奈美香『行動経済学が最強の学問である』2023、SBクリエイティブ
越智 啓太『買い物の科学：消費者行動と広告をめぐる心理学』2024、実務教育出版

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、平常点60%、最終試験40%の割合で行います。平常点は出席率、授業参加態度(Class Participation)、課題提出率、課題提出内容で判断します。グループ課題の場合は課題そのものの評価と、グループメンバー相互の貢献評価をミックスして行います。成績評価は合計で100点満点とし、60点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】
教員からの一方的な説明だけでなく、グループワークやグループディスカッションが刺激となり、学びが深まったという意見が見られました。出来るだけこのような要素を取り入れた授業構成をします。また、授業に双方向なコミュニケーションを取り入れるようにします。受講生の多い授業ですが、出来るだけこのような形での授業運営をしたいと思いますので、バラバラに教室の後方に着席するのではなく、参加しやすいように教室の前の方に固まって着席するようご協力をお願いします。またグループに分かれて課題を行う場合は、一部の学生だけに負荷がかからないよう配慮したグループ分けを行います。また、学生同士相互に連絡が取りやすいよう連絡網の共有などを行います。
また、発表に時間がかかることが見られたため、タイムマネジメントに配慮した授業運営を行います。

【学生が準備すべき機器他】
資料のアップロード、毎回の質問への回答などに学習支援システムHoppii、googlecrassroomを使用します。スマートフォン、タブレット、PC などで、インターネットにアクセスできる環境を各自確保してください。

【その他の重要事項】
東京周辺の店舗に見学に行くグループ課題があります。交通費等は自己負担となります。また、訪問日程などは、店舗側やグループメンバーと調整し決定することになります。
教員は長年にわたり外資系企業のマーケティング部門や経営幹部を務め、現在は自身の中小企業（輸出入・卸小売・製品開発）を経営する実務家教員です。米国でMBAを取得し、その後、会社勤めをしながら法政の博士後期課程（経営学専攻）に通いました。経験した業界は、市場調査、消費財、産業財、医療機器、ラグジュアリーブランドなど多岐にわたります。
授業内容には出来るだけ実務経験を反映させ、皆さんの将来の進路に役立つものになるように心がけています。また、毎年留学生の受講も多い授業です。視野を大きく持ち、国境を超えた視点で世界を見、考える力を身に着けましょう。皆さんも貴重な時間とお金を大学での学習に投資しているわけなので、無駄にせず意味ある投資となるよう一緒に頑張りましょう。
統計については苦手意識を持つ人も多いと思いますが、初学者にも理解しやすく興味が持続できるよう、出来るだけ平易に講義することを心がけます。

【Outline (in English)】
< Course Outline>
Informed decision-making (data-driven marketing) is crucial in various aspects of marketing activities conducted by companies and organizations, and one of the tools used to achieve this is "marketing research." While known as "market research" in Japanese, the scope of this research is so broad and deep that it cannot be summed up simply as "researching the market."
When used appropriately, marketing research can help make correct decisions and reduce risk factors, but when used incorrectly, it can lead to incorrect decisions and result in significant losses. It can even be used for selfish gain.
Therefore, a basic understanding of how to properly use marketing research is extremely important.
Marketing research involves processes such as planning, implementation, analysis, interpretation, reporting, and proposals, as well as a variety of tools and techniques. The purpose of this class is to learn the basics of these and their appropriate use.
The main research methods are qualitative research, which understands and analyzes qualitative aspects such as thoughts and behaviors, and quantitative research, which collects and analyzes quantitative data. Statistical knowledge and analysis are essential when analyzing quantitative surveys, but this may be an area that is difficult for students in the humanities. This class will not cover advanced statistical processing, but will instead lecture on basic concepts in a way that is easy to understand even for students in the humanities.
In addition, there will be time set aside to study related fields such as consumer behavior, social psychology, and behavioral economics, which are essential for a deep understanding of phenomena and their essence.
Furthermore, with the evolution of IT (including social media and AI), data and information are now being collected and used unconsciously in everyday life. Students will also be able to understand how this information is used and the ethical aspects involved.
< Learning Objectives>
1. You will be able to understand the issues facing marketing activities and develop the most appropriate research methods and hypotheses to solve them.
2. You will be able to design and conduct appropriate research and collect data and information.
3. You will be able to analyze the data obtained.
4. You will be able to correctly interpret and report the results of analysis.
5. You will be able to understand basic concepts in related fields in order to improve the quality of marketing research.
6. You will understand the importance of methods and ethical aspects when collecting and utilizing data using IT.
< Learning Methods>
Classes will combine lectures using textbooks, group discussions, group work, individual assignments, and group work assignments.
Individual assignments will consist of submitting a paper on approximately one A4 page (approximately once every 2-3 classes). Group work assignments will consist of work and presentations in class. Feedback on these will be provided in class or returned individually with comments. When studying related fields, students will be required to subscribe to introductory books and submit assignments and presentations on their impressions and what they have learned. Lectures will use case studies wherever possible to make explanations easy to understand. Case studies will also include lectures by practitioners and videos featuring practitioners (in both Japanese and English).
< Learning Activities Outside Of Classroom>
Please read reference books and prepare any questions you may have in advance. Regularly read newspapers and the news, and pay attention to daily social and economic trends. The standard preparation and review time for each class is two hours. You will be required to submit a simple one-page A4 assignment approximately once every two or three classes. You may also work in groups. Just before each class begins, a PDF of the slides used in class will be posted on Hoppii. Please download them and use them for taking notes. There will be an outing to visit a store outside of class time. You will be divided into several groups and will go on a tour of a designated store, where you will then write a report to present and submit.
＜Grading Criteria>

Grades are calculated based on 60% regular class points and 40% final exam points. Regular class points are determined based on attendance rate, class participation, assignment submission rate, and assignment submission content. For group assignments, the grade is a combination of the assignment itself and the mutual contributions of group members. The maximum grade is 100 points, with a score of 60 or above being a pass.
＜Others＞
This group assignment involves visiting stores around Tokyo. Students are responsible for their own transportation costs. The schedule and schedule of visits will be determined through coordination with the stores and group members.
Instructor is a practitioner who has worked in the marketing department and as a senior executive at a foreign-affiliated company for many years. He currently runs his own small business (import/export, wholesale/retail, and product development). He earned his MBA in the United States and then studied for his doctorate in business administration at Hosei University while working for companies. His experience spans a wide range of industries, including market research, consumer goods, industrial goods, medical devices, and luxury brands.
We strive to incorporate our practical experience as much as possible into the course content to ensure it is useful for your future career. This class is also attended by many international students every year. Students should broaden their perspective and acquire the ability to see and think about the world from a transnational perspective. You are investing your precious time and money in your university studies, so let's work together to make sure it is a meaningful investment and not a waste.
While statistics may be challenging for many students, we will strive to make our lectures as easy to understand as possible, so that beginners can easily understand and maintain interest.

ECN200MA（経済学 / Economics 200）

仕事の経済学

梅崎　修

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：水2/Wed.2　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自分を取り巻く社会環境、特に労働市場の状況を理解することは、キャリアを形成する上で非常に重要となります。そこで、この講義では労働経済に関するテキストを利用しながら、現在の日本の労働市場の状況と歴史を理論と現実の双方から学んでいきます。なお、授業の中ではキャリア形成を研究するうえで有効な統計データの内容や労働問題の時代背景についても学習し、理解を深めていきます。

【到達目標】
ビジネスキャリアを関連する経済理論や社会環境を読みこなす能力を身につける。データを理解し、分析事例、労働問題を読み解くことはもちろんであるが、同時に労働経済学の主要な概念を理解し、人間が、どのような社会環境の中で、どのようにキャリア選択を行っているかを説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
本授業は、（1）テキストを使用し、一つのトピックスに関して、仕事映画の紹介します。（2）その解説を前提に続いて、経済理論や時代背景、社会問題を解説します。（1）はオンライン、（2）はオンデマンドでの授業を考えております。労働問題を参加学生と一緒に考察することを目指します。なお、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かしたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方と経済学を学ぶ意味、仕事映画について説明。
第2回	新規学卒労働市場の事例	仕事映画「何者」を紹介し、自分を「売る」とは何かを解説する。
第3回	新規学卒労働市場の理論と実証	前回の講義を続けて、新規学卒市場に関する研究を説明する。
第4回	現場主義の改善活動の事例	仕事映画「スーパーの女」と「県庁の星」を紹介し、企業の競争力を支える人材マネジメントを解説する。
第5回	現場主義の改善活動の理論と実証	第4回に続いて、企業の競争力と人材マネジメントに関する研究を説明する。
第6回	仕事配分と昇進システムの事例	仕事映画「ワーキング・ガール」と「9時から5時まで」を紹介し、昇進と昇格のメカニズムを解説。
第7回	仕事配分と昇進システムの理論と実証	第6回に続いて、仕事配分と昇進システムに関する研究を説明する。
第8回	ワークライフバランスの事例	仕事映画「下町の太陽」を紹介し、女性のキャリアデザインやワークライフバランスについて解説する。
第9回	ワークライフバランスの理論と実証	女性のキャリアデザインやワークライフバランスに関する研究を説明する。
第10回	雇用社会の誕生の事例	仕事映画「スーダラ節 わかっちゃいるけどやめられねぇ」を紹介し、雇用社会の形成を解説する。
第11回	雇用社会形成の理論と実証	雇用社会形成の歴史研究を説明する。
第12回	自己投資と転職の事例	仕事映画「マイレージマイライフ」を紹介し、自己投資と転職に関して解説する。
第13回	自己投資と転職の理論と実証	自己投資と転職に関する研究を説明する。
第14回	様々なキャリア	最終回のみ、振り返りと復習確認のために、オンライン・オンデマンドで行います。今後の雇用社会を展望する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前準備は特に要りませんが、授業後にテキストを読み直してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
梅崎修・松繋寿和・脇坂明『「仕事映画」に学ぶキャリアデザイン』（有斐閣）

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
授業内作業(40%)と学期末のレポート(60%)で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
企業事例も授業の進捗に合わせて紹介する。仕事経験が少ない学生に対して、職場の現実を伝えつつ、労働経済学の理論を学んでもらう。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布や課題提出等で学習支援システムを利用します。

【その他の重要事項】
この講義では、労働経済学者による仕事映画解説を学びながら、労働市場、企業組織、人事労務管理の仕組みについて学びます。毎回出席し、労働問題を把握しつつ、学問の考え方を身につけて下さい。

【Outline (in English)】
It is very important to understand the social conditions surrounding us and the labor market in building our careers. The purpose of this lecture is to understand the current Japanese labor market from both theory and reality by using text in this field. In the lecture, although the economic models are used, it assumes mathematics at junior high school level. In addition, we learn contents of statistical data which is related with career development and methods to use it, and the historical background of labor issues.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
Final grade will be calculated according to the following process Term-end report(60%) and in-class contribution(40%).

MAN200MA（経営学 / Management 200）

ブランド創造論

石原　篤

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：木3/Thu.3　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞
授業コード：C5079
科目名：ブランド創造論
＜2024年度以前入学者＞
授業コード：C5079
科目名：ブランド創造論
※入学年度によらず同一授業コード・科目名称

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
物や情報が溢れる時代に、人は何を基準に買い物をしたり、情報を取捨選択していくか。ブランドは人の気持ちを動かしたり、行動を生み出していく上で大きな役割を果たしています。
かつてブランド創造は、対象となるブランドに対する良質なイメージをつくること、表面を装うことだと誤解されていました。例えば、ブランドロゴやビジュアルづくりだけがブランド創造だとされていたのもその現れです。一方で、いま皆さんがブランドに触れる時にどこに目を向けるか。おそらくブランドの態度や行動ではないでしょうか。ブランドの表面だけではなく内面に目が向けられているわけです。このようにブランド創造の形はここ数十年で大きく変化し、現在も進化を続けています。
この講義では、ブランドとは何か、ブランドをどうつくるか、などを論理的な観点だけでなく、ブランドづくりの現場の実態や実情なども踏まえながら学んでいきます。
また、企業のマーケティング活動におけるブランドのあり方・つくり方を理解するだけでなく、受講生が一人の人間として自分自身のブランドをどのようにつくり上げていくかを学ぶことも目的とします。

【到達目標】
(1) ブランドとは何かを理解し、説明できる。
(2) ブランド創造のアプローチを理解し、実践する。
(3) ブランド創造に必要な合意形成ツール「企画書」の作成方法を、身につける。
(4) 正解のない多様性の時代の中で、セルフブランディングの重要性を理解し、実践してみる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
・講義は、博報堂出身で現在もクリエイティブディレクターとして活動する教員が勤めます。
・前半の授業は、論理と実例紹介を行う講義を中心に進めますが、理解を深めるためのアンケートや授業内課題を併用します。
・中盤から後半の授業は、リアリティのあるブランドづくりを学ぶために、広告業界・エンタメ業界・飲食業界でブランド創造に従事する方や、クリエイター・アーティストとして活動される方をゲストに招き、お話を伺います。（ゲストは変更になる可能性があります）
・後半の授業では、授業全体の振り返りを兼ねて「演習課題」を出題し取り組んでいただきます。
・課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。
・授業後には適宜アンケートの回答をお願いします。アンケートでいただいたコメントは次回以降の授業内で紹介し、講義内容の品質向上に役立てます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	教員自己紹介、講義の狙いと授業計画の説明、講義に期待するアンケートの回答
第2回	ブランド創造概論	ブランディング、マーケティング、コミュニケーションなどのキーワードの実践的な分類と関係性
第3回	ブランド創造史	1980年から2025年まで45年間にわたる日本のブランディングの変遷
第4回	ブランド創造とコピーライティング【ゲスト講義】	言葉を起点にブランドをつくり出す方法論 ※ゲストとしてコピーライターの方にお越しいただきます
第5回	ブランド創造とアートディレクション【ゲスト講義】	ブランドづくりにおけるアートディレクションという方法論 ※ゲストとしてアートディレクター/デザイナーの方にお越しいただきます
第6回	ブランド創造の新しい潮流①	地球環境・社会環境の変化に伴うサスティナブルなブランド創造
第7回	ブランド創造の新しい潮流②	WEB3.0時代におけるリアルとデジタルの境界線のないブランド創造
第8回	社会と接続するブランド創造【ゲスト講義】	ブランドづくりにおけるＰＲ（パブリックリレーションズ）という方法論 ※ゲストとしてクリエイティブディレクター/PRディレクターの方にお越しいただきます
第9回	ブランド戦略とアイデアのつくり方	ブランドづくりをしていくための戦略構築とアイデアのつくり方 「ブランド創造実習」課題発表
第10回	商品とブランド創造【ゲスト講義】	わたしが欲しい！ を、みんなが欲しい！ に昇華させるブランドづくり ※ゲストとしてD2Cブランドのブランドディレクターの方にお越しいただきます
第11回	お店とブランド創造【ゲスト講義】	店舗を起点にしたniko and ...のブランド創造 ※ゲストとしてライフスタイルブランドのブランドディレクターの方にお越しいただきます
第12回	社会とブランド創造【ゲスト講義】	社会課題を解決し実現したい世界をつくるためのブランドづくり ※ゲストとして社会起業家の方にお越しいただきます
第13回	ブランド創造実習講評	実習課題で提出された企画書を紹介しながら講評
第14回	セルフブランディングのススメ	ブランド創造に関わる働き方と受講生自身のセルフブランディングの方法論 ゲスト）株式会社電通 ビジネスプロデュース局所属 桑原卓也氏（法政大学経済学部卒業生）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
(1) 通常講義では適宜事前課題の出題、授業前後のアンケートを行います。
(2) また、本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。
(3) 実習においては、授業時間外の個人ワークとして、リサーチ、アイデア出し、企画書制作などを行なっていただきます。
(4) 実習に際して「アイデアの出し方」「企画書の書き方」などの補講を行う予定です。

【テキスト（教科書）】
使用しません。

【参考書】
・これからの「売れるしくみ」のつくり方　石原篤
・手書きの戦略論　「人を動かす」7つのコミュニケーション戦略　磯部光毅
・私とは何か　「個人」から「分人」へ　平野啓一郎
・なめらかなお金がめぐる社会。あるいは、なぜあなたは小さな経済圏で生きるべきなのか、ということ。　家入一真

【成績評価の方法と基準】
平常点 ５０％
実習課題の提出物 ５０％

【学生の意見等からの気づき】
演習課題にかける時間がもう少し欲しかったという意見をいただきましたので、課題発表を前倒しした授業スケジュールに変更しています。

【Outline (in English)】
■ Course outline
In this age of overflowing goods and information, what do people base their shopping and information choices on? Brands play a big role in moving people's minds and creating behavior. There used to be a misconception that brand creation was about creating a good image of the target brand, that is, creating a surface. For example, the fact that only brand logos and visuals were considered brand creation is a manifestation of this. On the other hand, where do you pay attention when you look at brands today? Perhaps it is the attitude and behavior of the brand to which you direct your attention? In other words, you are looking inside the brand, not just on the surface. Thus, the nature of brand creation has changed dramatically in recent decades and continues to evolve.
In this course, students will learn what a brand is and how to create a brand, not only from a logical point of view, but also by taking into account the actual situation and realities in the field of brand creation.
In addition to understanding how brands work in corporate marketing and how to create them, this course also aims to help students learn how to build their own brand as a person.
■ Learning Objectives
(1) To be able to understand and explain what a brand is.
(2) Understand and practice the brand creation approach.
(3) Learn how to create a "project proposal," a consensus-building tool needed to create a brand.
(4) In an age of diversity without a right answer, understand the importance of self-branding and practice it.
■ Learning activities outside of classroom
(1) In regular lectures, assignments will be made in advance and questionnaires will be given before and after each class, as appropriate.
(2) The standard preparation and review time for the class is two hours each.
(3) During the practical training, students will be asked to conduct research, come up with ideas, and create project proposals as individual work outside of school hours.
(4) In connection with the practical training, there will be supplementary lectures on "how to come up with ideas" and "how to write a project proposal."
■ Grading Criteria /Policy
Regular marks: 50%
Submissions for practical training assignments: 50%

MAN200MA（経営学 / Management 200）

国際経営論

森　直子

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：火5/Tue.5　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞
授業コード：C5080
科目名：国際経営論
＜2024年度以前入学者＞
授業コード：C5080
科目名：国際経営論
※入学年度によらず同一授業コード・科目名称

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業の受講生は、ダイナミックにグローバル展開されている国際経営とは何かを理解するための背景と基礎知識を得ることができます。
また、代表的な経営分析モデル・手法を学びます。
こうした基本的な知識の理解度は、短い授業のまとめの提出を通して評価されます。
さらに授業で学んだ知識をもとに、国際的な企業経営が持つ意味を理解するための視角、考え方を学ぶことができます。
最終的には、グローバル時代の現代社会そのものを広い視野で捉える訓練をします。

【到達目標】
国際経営を経営分析する代表的なモデル・手法を学び、企業活動のグローバル化の基本的な歴史や現状を知ることで、国際経営とはどのような経済活動なのかを理解することができる。また、国際ビジネスを形成する多様で複雑な要素、背景を知ることで、複雑化する世界で生きる人としての視野・視点を獲得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP6」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
この授業は、基本的に対面授業形式で進める予定です。（ただし、第1回はオンデマンド）
全授業を通して決まったテキストを使わず、毎回の授業で教材レジュメを配布し、その回のテーマについて、事例をなるべく多く使った説明をします。そのうち１回は、複雑化する世界を読み解く目を養うことについての特別講義をおこなう予定です。この回で、簡単なグループディスカッションをしたいと思います。また、毎回の授業で簡単な課題（クイズ）を出します。
さらに月に１回程度はクイズの代わりに短い授業のまとめの提出を課します。さらに学期末レポートを課す予定です。学期末レポートの提出は授業時間内に行う予定です。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	国際経営論を学ぶということ　―グローバル社会に生きるために―	授業の概要説明（オンデマンド配信）
第2回	国際経営論の基礎知識	多国籍企業論から始まった国際経営論を学ぶ
第3回	企業活動の国際化の歴史	貿易と海外直接投資、製造業からサービス産業の国際展開へ、IT 化社会以降のグローバルな企業活動
第4回	生産システムの国際展開	プロダクトサイクル理論、生産クラスター、国際分業
第5回	国際マーケティング	競争優位の考え方、市場のグローバル化と現地市場への適応化
第6回	国際人的資源管理	グローバル展開する組織構造、人材・制度の多様性・異文化経営
第7回	国際M＆A	「時間を買う」国際戦略提携、国際的な企業買収の動向と課題
第8回	研究開発と国際経営	R&D と立地問題、国際標準化戦略、知的財産権の国際管理
第9回	日本企業による国際経営の展開	世界のなかでの日本企業、日本的経営・生産システムの海外移転、グローバルネットワークと中小企業
第10回	ベンチャーと国際ビジネス	情報ネットワーク時代の「最初から世界を狙う」起業
第11回	国際協力と国際ビジネス	ＯＤＡ事業と国際ビジネスの関係、ＢＯＰビジネス、ソーシャルビジネス
第12回	アジアと国際ビジネス	新興国における国際ビジネスの変遷、地域経済統合の影響
第13回	【特別講義】複雑化する世界を読み解こう	複雑化、不安定化する世界をどのように理解していくのか、考える
第14回	激動の時代のグローバルビジネスを考える	視野を広げるためのさらなるヒント

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
月１回程度の提出が要求される授業のまとめの準備をするため、復習は必須です。また、企業活動のグローバル化に関する知識を高めるため、参考文献について図書館等を活用して読んだり、新聞・雑誌（オンライン配信含む）等で国際ビジネスのニュースに目を通してください。可能であれば、関連の学術論文にも目を通すことが望ましいです。本授業の準備学習・復習時間は４時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は特にもちいず、担当教員が作成した教材レジュメを配布する。

【参考書】
吉原英樹（2021）『国際経営〔第5版〕』有斐閣アルマ
三浦佳子・森内泰編著（2025）『入門テキスト国際経営』
大石芳裕（2017）『実践的グローバル・マーケティング』シリーズ・ケースで読み解く経営学2、ミネルバ書房

【成績評価の方法と基準】
（１）授業への積極的な貢献　60 %
（２）学期末レポート　40 %
※学期末レポートだけでは、単位はもらえません。
※（１）の内訳：
各回の授業で出すクイズへの回答提出　１９%
計４回提出する「授業のまとめ」　３２%
授業への積極的なフィードバックなど貢献点　９%

【学生の意見等からの気づき】
可能な限り、事例を挙げて授業を進めます。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
事前に経済学や経営学の知識がない学生でも履行できるような内容です。しかし、授業で得た情報を元に、自分で知識を深める努力が必要です。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In this course, students will learn the background of global business unfolding worldwide in the rapidly and dynamically transforming business environment. Students will also learn major business analysis models and methods.

【Learning Objectives】
At the end of the course, students are expected to understand the basic history, current status, and way of perceiving the global corporate activities, and to acquire a perspective and viewpoint as an international person.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following;
Term-end report: 40% and Active contribution to the class: 60% (quizzes in each class (19%), class summaries (32%), in class contribution (9%))

MAN200MA（経営学 / Management 200）

メディアビジネス論

石原　篤

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木3/Thu.3　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「メディア」とは何を意味するでしょうか？ 直訳すると「媒体」ですが、もっと噛み砕くと「人に何かを伝える手段」と考えられます。ブランディングにおいてはブランドの想いを伝える手段、マーケティングにおいては商品やサービスの特徴を伝える手段とも言えるでしょう。歴史を振り返ると、人が気持ちを伝える手段は「書簡」から始まり、その後、手紙や葉書へと変化しました。デジタルメディアの普及により電子メールが生まれ、近年ではLINEやSNSのダイレクトメッセージなど、多様な手段が使われるようになっています。メディアの進化に伴い、コンテンツやメッセージの表現も変化しています。例えば、手紙では「拝啓 ○○様」と書き始めるのが一般的でしたが、LINEでは前置きなしにメッセージを送ることがほとんどです。時には、絵文字やスタンプだけで気持ちを伝えることもあります。
本講義「メディアビジネス論」では、メディアとコンテンツ・メッセージの関係と、それらがブランディングやマーケティングにどのように活用されているかを学びます。また、テレビ、ラジオ、SNSなどのメディア企業の関係者や、メディアに最適化されたコンテンツ・メッセージの制作に携わる専門家を招き、ゲスト講義を実施します。さらに、受講生の皆さんが「どのメディアを使い、どのように想いを伝えるか」を考える機会を提供します。これにより、他の授業の課題やゼミでの活動、アルバイトや就職活動など、さまざまな場面で役立つスキルを身につけることを目指します。

【到達目標】
(1) ブランディングやマーケティングにおけるメディアの役割を理解し、説明できる。
(2) 多様なメディアビジネスの全体像を理解し、説明できる。
(3) メディアビジネスの実践的なコミュニケーションを理解し、設計できる。
(4) メディアビジネスへの理解を通して自分を表現（自己紹介）する方法論を構築する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP6」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
・講義は、博報堂出身で現在もクリエイティブディレクターとして活動する教員が勤めます。
・前半の授業は、論理と実例紹介を行う講義を中心に進めますが、理解を深めるためのアンケートや授業内課題を併用します。
・中盤から後半の授業は、多様化するメディアビジネスの理解を深めるために、メディア会社、広告会社、事業会社、等からのゲストに招き、お話を伺います。
・後半の授業では、授業全体の振り返りを兼ねて「演習課題」を出題し取り組んでいただきます。
・課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。
・授業後には適宜アンケートの回答をお願いします。アンケートでいただいたコメントは次回以降の授業内で紹介し、講義内容の品質向上に役立てます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	教員自己紹介、授業計画の説明、受講動機等に関するアンケート
第2回	メディアの役割	ブランディングやマーケティングにおけるメディアの役割
第3回	メディアの変遷	メディアビジネスの変遷を広告から紐解く
第4回	メディアの現在地	メディアビジネスの現在地を広告から紐解く
第5回	メディアビジネスの現場【ゲスト講義】	約70年の歴史のあるテレビメディアは今後どうなっていくか ※ゲストとしてテレビメディアに関わる方にお越しいただきます
第6回	デジタルメディアの変遷【ゲスト講義】	インターネットが一般化してから30年で何が起きているのか ※ゲストとしてデジタルに強いクリエイターにお越しいただきます
第7回	コミュニティとしてのラジメディア【ゲスト講義】	届ける力は弱いが、愛着やファンが作れるラジオメディアの魅力 ※ゲストとしてラジオメディアに関わる方にお越しいただきます
第8回	メディアに載せるコンテンツ①ドラマ編【ゲスト講義】	ドラマはどんなプロセスで作られるのか？ ※ゲストとしてドラマプロデューサーの方にお越しいただきます
第9回	メディアに載せるコンテンツ②VTuber編【ゲスト講義】	どうなってるの？ VTuberの世界。その最前線を探る。 ※ゲストとしてVTuberのプロデュース・マネジメントを行う方にお越しいただきます
第10回	メディアに載せるコンテンツ③マンガ編【ゲスト講義】	マンガはどんなプロセスで作られるのか？ ※ゲストとしてマンガ編集者の方にお越しいただきます
第11回	アイデアの発想法「演習課題発表」	演習課題を発表し、課題の内容に合わせたアイデアの出し方・発想法を学ぶ
第12回	すべては言葉から始まる【ゲスト講義】	メディア環境が変化しても変わらない、コンテンツ・メッセージを生み出す言葉について学ぶ。 ※ゲストとしてコピーライターの方にお越しいただきます
第13回	演習課題講評	演習課題の提出物を講評しながら、アイデアの出し方・発想法を再度学ぶ
第14回	あなたをどう表現するか？	授業の振り返りと共に、これからの時代に自分をどう表現していくかを考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
(1) 通常講義では適宜事前課題の出題、授業前後のアンケートを行います。
(2) また、本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
(3) 実習においては、授業時間外の個人ワークとして、リサーチ、アイデア出し、企画書制作などを行なっていただきます。
(4) 実習に際して「アイデアの出し方」「企画書の書き方」などの補講を行う予定です。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
・マスメディアとは何か 稲増一憲
・ソーシャルメディア時代の「大衆社会」論
・メディア論の名著30 佐藤卓己
・広告の仕事　広告と社会、希望について　杉山恒太郎
・クリエイティブ合気道　箭内道彦

・これからの「売れるしくみ」のつくり方　石原篤

【成績評価の方法と基準】
平常点 ５０％
実習課題の提出物 ５０％

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】
■Course Outline
What is "media"? Literally translated, it means "medium," but in simpler terms, it can be understood as "a means of conveying information to others." In branding, media serve as tools to communicate a brand's vision, while in marketing, they function as channels to convey the features of products and services.
Looking back at history, written letters were once the primary means of communication. Over time, they evolved into postcards, and with the rise of digital media, emails emerged. In recent years, diverse communication tools such as LINE and social media direct messages have become widely used.
As media evolve, the forms of content and messages also change. For example, traditional letters typically begin with "Dear [Name]," whereas LINE messages are often sent without any formal introduction. Sometimes, emotions can be conveyed solely through emojis or stickers.
This course, Media Business Studies, explores the relationship between media, content, and messaging, and examines how they are utilized in branding and marketing. Guest lectures will feature professionals from television, radio, and social media companies, as well as experts in media-optimized content creation.
Additionally, this course provides students with opportunities to reflect on which media to use and how to communicate their messages effectively. By doing so, students will develop skills that will be useful not only for academic assignments and seminar activities but also for part-time jobs and future career opportunities.
■Goal
(1) Understand and explain the role of media in branding and marketing.
(2) Gain a comprehensive understanding of various media businesses and be able to explain their overall structure.
(3) Understand and design practical communication strategies in the media business.
(4) Develop a methodology for self-expression (self-introduction) through an understanding of the media business.
■Work to be done outside of class (preparation, etc.)
(1) In regular lectures, assignments will be made in advance and questionnaires will be given before and after each class, as appropriate.
(2) The standard preparation and review time for the class is two hours each.
(3) During the practical training, students will be asked to conduct research, come up with ideas, and create project proposals as individual work outside of school hours.
(4) In connection with the practical training, there will be supplementary lectures on "how to come up with ideas" and "how to write a project proposal."
■Grading criteria
Regular marks: 50%
Submissions for practical training assignments: 50%

MAN200MA（経営学 / Management 200）

サービスビジネス論

村田　茂

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：木5/Thu.5　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
インターネットの急速な普及により、世界のビジネスは大きなパラダイムシフトを迎えることになりましたが、今も日々激しく変容を遂げています。このインターネットを軸としたデジタルシフト（DX化）の影響で、新しく生まれた産業もあれば、滅びゆく産業もあります。本講義では、デジタルシフトの影響を受けたサービス産業の中で、メディア産業と流通産業を重点的に取り上げ、変遷の経緯を学び、これからのビジネスを考察していきます。

【到達目標】
本講の目的は、「ビジネスの過去と現在を本質的に理解することで、未来を予見する力を養うこと」です。そのために必要な基礎的な戦略と様々なアイデア（ビジネスモデル）の事例を学び、ビジネス感覚を高めることを到達目標とします。
①サービスビジネスに関する一般的知識、基本的用語を説明できるか

②サービスビジネスの仕組みを理解し、説明できるか
③サービスビジネスの課題を解決するクリエイティブな発想を持つことができているか

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP6」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
教員が展開する講義資料に基づき授業を実施します。毎回ではありませんが、リアクションペーパー、アンケートを実施します。実施方法は基本的にはネット、システムを活用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	サービスビジネス研究の進め方	流通・サービスビジネスについて、研究課題の進め方を解説します。①情報収集・整理力　②本質を見抜く力　③問題意識を持つ力　④未来を予想する力
第2回	サービスビジネス業界研究①	第1回目は、出版業界（雑誌、コミック、電子書籍）
第3回	サービスビジネス業界研究②	第2回目は、新聞業界。
第4回	サービスビジネス業界研究③	第3回目は、放送業界（テレビ、ラジオ）。
第5回	web1.0、web2.0、web3.0の理解	サービスビジネスを大きく変容させている最大要因であるインターネットの普及について理解を深めます。そのはじまりからAI、ブロックチェーン、メタバースなど次世代ビジネスの可能性まで。
第6回	クリエイターエコノミー＝個人発信（SNS）	SNSの普及による個人発信の時代が到来。UGCサイトの隆盛、クリエイターの誕生、推し活などを解説。
第7回	サービスビジネス業界研究④	第4回目は、eコマース業界。
第8回	サービスビジネス業界研究⑤	第5回目は、インターネット広告業界。
第9回	新しいビジネスモデルの発明（ゲストスピーカー）	ZOZO、メルカリなど成功の秘密は？　ゲストスピーカーの就活・ビジネス経験談とともに、サービス企業のビジネスモデルについて探求します。
第10回	デジタルマーケティング	デジタル技術が発展していく中で、新しい機能や仕組みが生まれます。ビジネスのトレンドを「ビジネス用語」を使って、理解していきます。その中で、すべてのデジタルビジネスに不可欠なデジタルマーケティングの理解を深めます。
第11回	業界研究のまとめ	これまでの学習について総括します。
第12回	知の探究①…ビジネス環境変化、ビジネストレンド	グローバルで激変するビジネス環境、トレンドを理解し、俯瞰で考える力を学修します。
第13回	知の探究②…ビジネス論、ビジネス用語	ビジネス論（古典から現代まで）の基礎と、重要なビジネス用語（定番からトレンドまで）から、ビジネス構造を理解する力を学修します。
第14回	試験・課題レポート	試験と課題レポートを実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日頃から情報メディア（ビジネスニュースサイトや新聞、雑誌）に目を通して、日々の社会の動きに注意を払ってください。そして、問題意識を持ってください。サービスビジネスの多くは身近に利用しているものばかりです。自分はなぜ、このアプリを活用しているのか？　このビジネスはどのように成り立っているのか？　を考えてみてください。特に、新しいネットサービスなどは実際に試してみるのが良いでしょう。準備時間、復習時間ともに2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。
毎回、参考資料を用意します。

【参考書】
毎回、参考資料を用意します。
さらに探求したい場合の参考書は授業で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、以下の3点を評価します。
①サービスビジネスに関する一般的知識、基本的用語を説明できるか
②サービスビジネスの仕組みを理解し、説明できるか
③サービスビジネスの課題を解決するクリエイティブな発想を持つことができているか
授業内容からの小課題　50%
授業内容からの中課題　20%
総括レポート（大課題）　30%
成績評価は100点満点とし60点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】
学生が明確に興味を持っている事象については、重点的に解説すべく授業内容をアップデートしています。また、ゲスト会については、事前に「興味のある業界」「就職先候補の業界」についてアンケートを取り、招聘。授業内容と連動するかたちでリアルな現場の声を聞きます。

【学生が準備すべき機器他】
主に対面の授業になりますが、リモート授業も開催します。
資料のアップロード、質問への回答などに学習支援システムを使用します。スマートフォン、タブレット、ＰＣなどインターネットにアクセスできる環境を各自で確保してください。

【その他の重要事項】
＜実務経験のある教員による授業＞

出版・放送メディアや出版・音楽・映像制作などのエンタテインメントビジネスと、eコマース、UGC、アプリシステム開発などのデジタルビジネスに関して、現場からマネジメントまで、また、大企業とベンチャー企業の両方を経験してきた現役のビジネスマンによる授業になります。

【Outline (in English)】
【Course outline】
The rapid spread of the Internet has brought about a major paradigm shift in business around the world, and even today, the world is undergoing dramatic changes every day. Due to the influence of this digital shift (DX) centered on the Internet, there are new industries that have been born, and there are industries that will perish. In this lecture, among the industries affected by the digital shift, through the media industry and the distribution industry, we will learn the background of the transition and consider the future business.
【Learning Objectives】
The purpose of this course is to develop the ability to foresee the future by fundamentally understanding the past and present of business. The goal is to improve business sense by learning the basic strategies and examples of various ideas (business models) necessary for that purpose.
① Can you explain general knowledge and basic terms related to the distribution and service business
② Can you understand and explain the structure of the distribution/service business?
③ Do you have creative ideas to solve the problems of the distribution and service business?
【Learning activities outside of classroom】
Please read the information media (business news sites, newspapers, magazines) on a daily basis and pay attention to daily social movements. And be aware of the issues. Many of the distribution and service businesses are all about familiar things. Why am I using this app? "How does this business work?" "Please think about it." In particular, it is a good idea to actually try new Internet services. Standard time for both preparation and review is 2 hours.
【Grading Criteria /Policy】
Grading will be based on the following three points.
① Can you explain general knowledge and basic terms related to the service business
② Can you understand and explain the structure of the service business?
③ Do you have creative ideas to solve the problems of the service business?
Small assignments in class 10%
Test 40%
Issue 50%
The grade evaluation is based on 100 points, and 60 points or more is considered passing.

SOC200MA（社会学 / Sociology 200）

外書講読C【2025年度以降入学生用】

門脇　仁

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：火5/Tue.5　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞
授業コード：C5083
科目名：外書講読C
＜2024年度以前入学者＞
授業コード：C7302
科目名：外書講読A（ライフ）
※入学年度によって授業コード・科目名が異なります

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
世界を動かす情報はいかに発信され、伝達されていくのか。海外の情報にどうアプローチすれば、自分の研究やビジネスに役立てることができるのか。それにはまず、外国語によるさまざまな情報を吸収し、速く正確に処理するスキルが必要となる。この講義では、インタビュー、ルポルタージュ、講演、報告書、宣伝広告などの多様な英文を取り上げ、その訳読を通して英語による情報収集や調査の基礎的ノウハウを習得する。

【到達目標】
英語の文章を読み、音声を聴き取ることで、地球規模の情報を手際よくキャッチする能力を養成する。またそれを習慣化することで、受講者が今後も国際的視野を持ち続け、キャリアデザインと社会生活の質的向上に役立てていくことを目標とする。履修者は、読解・聴解の目安となる数値目標（速読スピード、TOEICスコアなど）を自分で定め、半年間の授業でそれをクリアできるようにしていくことが推奨される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
毎回Ａ４版１～２枚程度の平易な英文資料を配布し、翌週までにそれを読んでおくことを課題とする。講義では、課題文で取り上げる分野の背景や情報収集法、構文の読み解き、語彙と音声についてのアドバイスなどと併せて訳読を実践する。外国語の効果的な学習法や、リスニングの実技訓練も指導するので、文法や語彙を復習・再強化する必要のある学生も受講可能。
リアクションペーパーでの質問に対する回答や、個人発表についてのコメントといったフィードバックは、授業内で随時行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方と、英語の効果的な学習法を紹介。また、海外の情報ソースから情報検索する際の手順をアローダイアグラムつきで解説。
第2回	エッセー・伝記の読解	平易に書かれたオートバイオグラフィー（自伝）の一部を課題文とし、英文の情報構造を踏まえて内容を速く正確に読む方法を実践する。
第3回	海外ニュースの核心	メディアで入手した情報ではなく、グローバルな調査・統計にもとづく情報ソースにさかのぼり、一次情報を活用する方法を身につける。
第4回	インタビューの聴解・読解	英文雑誌のインタビュー記事を通じて、話者の強調する論点のつかみ方、口語英語のニュアンスなどを学び取る。
第5回	字幕英語の活用	洋画の一部を視聴し、英語字幕を活用したリスニングと読解の相乗的な強化法を学ぶ。
第6回	グローバルイシューの読み解き方	気候変動、砂漠化、人口問題など、地球規模の問題へのアプローチを探究。ここでは英字新聞の記事の読み方を学ぶ。
第7回	個人発表①	この時点までの授業で最も参考になった知識にもとづき、これから試してみたい英語学習法や、英語で調査研究をしてみたい分野などについて発表。
第8回	ルポルタージュの視点	National Geographic誌のルポルタージュを参考に、科学的・歴史的視点から構成された読み物の多様なあり方を見る。
第9回	ラジオの英語	平易な海外ラジオ番組をディクテーションし、音声の導入で語彙を増やしながら速読力も高めるトレーニング法を実践する。
第10回	プレゼンテーションの聴き方とシャドーイング	TED Conferenceで行われている各種の講演を題材に、英語でのプレゼンテーションを聴き取る方法や、シャドーイングによる英語イントネーションの実践方法などを学ぶ。
第11回	TOEICの活用法	TOEICの各パートで出題される問題文を取り上げ、英語のリスニング力と読解力をともに向上させる日常的なトレーニング方法を習得する。
第12回	メッセージを読み解く	2016年にノーベル文学賞を受賞したボブ・ディランをはじめ、海外ポップアーチストの歌詞を重視した音楽に注目し、表現や伝達のメカニズムを探る。
第13回	広告の英語	海外の商品広告、求人広告、テレビCMなどの英語を速く正確に読みこなすため、多種多様な海外広告に触れ、情報のエッセンスを抽出する。
第14回	個人発表②	これまでの授業で最も参考になった知識を発展させ、これから試してみたい英語学習法や、英語で調査研究をしてみたい分野などについて発表。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。
毎週、次回の授業で使用するコピー資料を配布するので、受講者は前もってそれに目を通し、考察を進めておくこと。

【テキスト（教科書）】
『広葉樹の国フランス』（門脇仁著、築地書館）

【参考書】
Tree Thieves――Crime and Survival In North America's Woods (Lyndsie Bourgon, Little, Brown Spark)
『エコカルチャーから見た世界』（門脇仁著、ミネルヴァ書房刊）

【成績評価の方法と基準】
筆記試験(50％)、平常点（50％）
リアクションペーパーの内容を特に重視する。

【学生の意見等からの気づき】
この授業を受講して読解力とリスニング能力が相乗的に高まったという学生の声が多い。今年度もこの点を一層重視し、できるだけ多様な情報を目と耳の両方から取り入れることができるようトレーニングする。またリアルタイムに進行している出来事や、時流に即したテーマを盛り込むことが履修者のモチベーション向上につながるので、これまでよりも一層現代的な視点を強化し、新鮮な情報を迅速に処理するノウハウに主眼を置く。さらに、受講者の英語力と要望に合わせてカリキュラム内容や指導レベルを微調整し、最適な授業を目指す。

【学生が準備すべき機器他】
教室設置のPC、プロジェクター、DVDプレーヤー、音響機器等を使用するので、個人発表者以外は機器の準備は不要。

【その他の重要事項】
全てのコースのベースとなる科目です。

【その他】
課題文の全訳を自分の解釈と照らし合わせ、理解度の向上に役立てる。ディクテーションもできるだけ毎回行うので、リスニング能力のアップをその都度チェックする。

【Outline (in English)】
How is information sent and shared to move our society? How can we access it to make use of them for study or business? To make it possible, we need some skills for collecting various information in foreign language and dealing with it quickly and properly. In this class, through reading various types of English writing such as essay, interview, reportage, presentation, bulletin, advertisement, etc., you would acquire fundamental knowledge to collect information and use it for your research.
By the end of this course, students are expected to do followings:
-Collecting information in the world effectively through reading and listening to English passages.
-Keeping themselves sensitive to international matters so as to draw their career and social life.
-Achieve a numeric target set by themselves concerning their reading speed, TOEIC score, etc.
Before/ after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Material for each session will be distributed in advance. Students should look it through and consider how to translate its English passages into Japanese.
Term-end examination: 50%, in-class contribution: 50%
Reaction paper will be regarded as important.

PSY200MA（心理学 / Psychology 200）

コミュニティ心理学

安田　節之

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：木3/Thu.3　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
コミュニティ心理学（community psychology）の理論と方法を学び，個人やコミュニティのウェルビーイングの促進について考える。

【到達目標】
①現代社会を生きるうえでのライフキャリアについて，コミュニティ心理学の視点から捉えることができる。
②個人やコミュニティのウェルビーイング促進のために必要な支援プログラムについて理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
この授業では，現代社会でよく生きる，即ちウェルビーイング（well-being）を高めることの意義やそれ下支えする社会のあり方についてコミュニティ心理学の理論と方法に基づいて考える。生活観やライフスタイルが人それぞれ違うなか，自分自身にフィットする人間・社会環境やコミュニティを踏まえたライフキャリアのあり方を学ぶ。まずウェルビーイングの考え方を確認し，よく生きるとは何か，どう定義・測定されるのか，さらにウェルビーイングの規定要因は何かなどについて理論や実証研究の知見をもとに考える。そのうえで，コミュニティ心理学における鍵概念とされるエンパワメント（empowerment）や心理的コミュニティ感覚（psychological sense of community）の役割や効果をライフキャリアの質向上の観点から掘り下げていく。さらに予防科学（prevention science）の考え方をもとに，様々な生活場面や社会的環境におけるストレスやリスクを予防・回避することの重要性について学ぶ。またグループ演習として，ライフキャリア支援のあり方について考え、組織やコミュニティといったメゾ・マクロレベルでの実施を想定した介入プログラムを設計する。授業全体を通して，リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し，更なる議論に活かすことにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業概要，成績評価等に関する説明を行う。
第2回	ウェルビーイング①	よく生きる，在る（being well）とはどのようなことを指しているのか。理論的背景を確認する。
第3回	ウェルビーイング②	ウェルビーイングの測定方法や規定要因について学ぶ。
第4回	ウェルビーイング③	ウェルビーイングの効果について研究結果・事例をもとに学ぶ。
第5回	コミュニティ心理学に基づくライフキャリアの学びとは何か	コミュニティ心理学の理論と方法に基づき，現代社会でよく生きることを考える。
第6回	コミュニティ心理学の価値観	ライフキャリアの質向上に関連するコミュニティ心理学の概念や価値観について学ぶ。
第7回	コミュニティ感覚	コミュニティ感覚の定義や理論的背景を確認し，コミュニティを心理学的に掘り下げるとはどういうことかを学ぶ。
第8回	エンパワメント	エンパワメントの定義および役割を考える。事例として高齢者の社会参加を挙げる。
第9回	多様性・ダイバーシティ	組織や地域コミュニティにおける多様性・ダイバーシティについて考える。
第10回	予防科学①	予防とは何かについて，構造および効果の側面から考える。
第11回	予防科学②	コミュニティ心理学における予防研究について知り，予防的介入の実践方法について考える。
第12回	ライフキャリアの質向上①	ライフキャリア支援の考え方と方法について学ぶ。
第13回	ライフキャリアの質向上②	ライフキャリア支援プログラムのあり方を事例を通して考える。
第14回	まとめ	授業での学びの総括および課題の提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
※授業内のディスカッションのため，配布資料の指定箇所を必ず読んだうえで授業に参加してください。本授業の準備学習(3時間)・復習時間(1時間)を標準とします。特に事前学習（配布資料の通読）に時間を費やしてください。

【テキスト（教科書）】
テキストは用いず，配布プリント，関連資料，演習用ワークシートを使用する。

【参考書】
「コミュニティ心理学：実践研究のための方法論（ワードマップ）」（日本コミュニティ心理学会研究委員会，2019, 新曜社）
「プログラム評価：対人・コミュニティ援助の質を高めるために(ワードマップ)」(安田節之，2011，新曜社)

【成績評価の方法と基準】
学期末試験(50％)，グループワーク（演習参加・発表・レポート作成）(30％)，授業への積極的な貢献度(出席状況を含む)(20％)を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
継続的に分かり易い授業を行う。大教室内でのグループワークにおけるより効率的な運営方法を検討する。

【Outline (in English)】
Theories and methods of community psychology (CP) will be discussed in this class. Specifically, we focus attentions on how well-being of individuals and communities is enhanced by such ideas as empowerment, sense of community, and prevention/promotion that are discussed in the literature of CP.

SOC200MA（社会学 / Sociology 200）

コミュニティ社会論Ⅰ

佐藤　恵

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：月3/Mon.3　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞
授業コード：C5085
科目名：コミュニティ社会論Ⅰ
＜2024年度以前入学者＞
授業コード：C5085
科目名：コミュニティ社会論Ⅰ
※入学年度によらず同一授業コード・科目名称

その他属性：〈他〉〈優〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人間は、どんな時代・どんな地域であっても、コミュニティを形成しつつ暮らしてきました。現代に生きる私たちの日常的な人間関係や社会現象は、別の時代・地域のそれと、どのように共通しまた異なっているのでしょうか。本講義では、社会学の基本的な視点・発想を学んだうえで、比較社会学の手法を通し、各テーマについて歴史比較や地域比較を行い、その理解を深めていきます。

【到達目標】
（1）社会学の基本的視点・発想を説明でき、具体的事例に応用することができる。
（2）コミュニティにおけるさまざまな人間関係や社会現象の歴史的・地域的展開について理解を深め、他の時代・他の文化との比較を通じて、現代コミュニティと日常生活の現状・課題を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP1」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
対面授業を基本としますが、状況によって、オンライン授業（Zoom）を行う可能性もあります。
オンライン授業の場合、Zoomへのアクセス方法については、当日授業開始時刻までに、学習支援システムにてお伝えします。
講義形式の授業です。1つのテーマが数回分の授業に該当しますが、テーマごとの授業時間数は下記「授業計画」から変更する場合があります。また、状況に応じて、テーマの順番の入れ替え、テーマの差し替えの可能性もあります。関連事項も含め各テーマを深く掘り下げることで、地域社会の現状と課題についての理解を図ります。
毎回、授業での学びに対する、各自の気づきやコメントを、リアクションペーパー（小レポート）としてまとめ提出してもらいます。次回の授業時間中に、提出されたリアクションペーパーからいくつかを取り上げ、全体に対して講評・解説のフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション／前近代・近代・現代における家族と絆	授業の到達目標・テーマ、概要・方法揺／生計をともにする者＝家族と見なしていた時代について知り、現代家族を相対化する
第2回	前近代・近代・現代における結婚と＜子ども＞の誕生	恋愛結婚は現代の産物であること、＜子ども＞へのまなざしの変容を知り、結婚と子どもを相対化する
第3回	性別役割分業の歴史的変遷および西欧／非西欧の相違	時代と地域とで、ジェンダーと社会構造の関係性が異なることを理解する
第4回	宗教から見た西欧の歴史的変遷	ルターの宗教改革とカルバンの予定説に焦点をあて、人びとの世界観と生活がどのように変化したかを理解する
第5回	近代資本主義に対する世俗内禁欲の影響	人びとの宗教的態度の変化が近代資本主義の発展を促したことを理解する
第6回	19世紀西欧経済の発展と自殺の増加	農業から商工業経済へと西欧が変貌することの意味を、自殺の増加から理解する
第7回	近代国民国家の発展と自殺の質的変容	近代国民国家の発展の意味を、アノミー的自殺と自己本位的自殺という概念から理解する
第8回	官僚制の歴史的変遷と西欧／非西欧の相違	王制・君主制時代から近代にかけて官僚制がどのように変化したかを、日欧中を比較しつつ理解する
第9回	地理的世界の拡大とネットワーキングの変遷	交通・通信手段の変遷を通史的に整理し、コミュニティや生活の変化に与えた影響を理解する
第10回	時代の変化と少年犯罪のまなざし方の変化	第3回の＜子ども＞の誕生も復習しつつ、少年犯罪と社会の変化の関係を理解する
第11回	歴史と社会を見る目（1）	コミュニティの健全性に関するデュルケームの理論を参照し、歴史と社会を見る目を養う
第12回	歴史と社会を見る目（2）	伝統的逸脱論とラベリング論を参照し、潜在的機能と予言の自己成就という視点を獲得する
第13回	歴史と社会を見る目（3）	ラベリング効果をキーワードに人間行動について理解し、歴史と社会を見る目を養う
第14回	まとめ・総括	歴史的比較社会学の視点に基づき通史的にまとめをする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習として重要なことは、1回1回の授業からコミュニティに応用可能な歴史的比較社会学の視点・発想を学び、考え方の筋道を把握した上で、それをしっかりと消化し、次回以降の授業のベースをつくることです。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
授業中に随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】
期末レポート（７０%）、平常点（３０%）。
期末レポートについては、社会学の基本的な視点・発想の理解度をふまえた上で、レポートの達成度の状況を基準とします。
平常点については、リアクションペーパー（小レポート）、受講態度の状況を基準とします。
欠席時間数が授業時間数の３分の１を超えた場合、もしくは、受講態度があまりにも悪い場合、不合格となります。
なお、欠席時間数については、自己管理でお願いします（個別の問い合わせには応じられません）。

【学生の意見等からの気づき】
身近な具体的事例を多く取り入れることで理解を促進するというスタイルを継続していきたいと思います。

【Outline (in English)】
(Course outline)
Humans always form communities whenever they are, wherever they go. How our today's life, our daily interactions and social phenomena, are similar to, or unique from, community dynamics in other ages and regions? This class covers the basic viewpoints and ideas on sociology and then utilizes comparative sociology techniques to deepen understandings on given themes through historical and regional comparisons.
(Learning Objectives)
At the end of the course, you are expected to A and B.

− A. Explaining the basic viewpoints and ideas on sociology and applying them to the particular cases.
− B. Explaining the problems and present situation of the modern communities and daily livings through the historical and regional comparisons by the deep understandings of communities.
（Learning activities outside of classroom）
You will be expected to prepare the next lecture through the deep understandings of sociological viewpoints after each class meeting. Your study time will be more than two hours each for before and after the classes.

（Grading Criteria /Policy）
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Term-end report: 70% ,in class contribution and short reports after each class meeting : 30%

SOC200MA（社会学 / Sociology 200）

若者文化論

玉川　博章

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：金2/Fri.2　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞
授業コード：C5086
科目名：若者文化論
＜2024年度以前入学者＞
授業コード：C5086
科目名：若者文化論
※入学年度によらず同一授業コード・科目名称

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現在社会において、エンタテイメントメディアは政治、経済的な側面を持ちながら、多くの人に受容され若者文化を創り上げてきました。本講義では、メディアの送り手の産業的側面（産業構造やビジネスモデル）と、その受容者の消費の両面に焦点を当てます。日本の1960年代以後の若者文化を、雑誌やテレビなどのマスメディアと、そこにかかわる広告や消費なども視野に入れ、分析していく。その際には、ポストフォーディズムやリキッドモダニティなど社会学にて議論されている現代社会の変化を前提に、我々を取り巻く日本の音楽・出版、映画などのエンターテイメント、キャラクター、アイドルを事例としたメディアの消費社会論から若者文化を考えます。

【到達目標】
日本の1960年代以後の若者文化を中心に、その特徴と背後で深く関係するメディアと政治、経済、文化の関係性を理解し、社会学や社会批評、文化批評などの学説を身につけることで、作品そのものやメディア産業のみにとらわれない社会に対する批判的思考ができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP1」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
対面授業のため（初回など一部授業回を除く）、基本的に講義形式となり、資料配付をした上で、視聴覚資料も織り交ぜながら、事例や学術的な分析・理論などを紹介していく。なお、オンラインの場合は、動画視聴と配付資料によるオンデマンド方式を前提とします。なお、簡単なレポート、感想などの課題を適宜実施したい。提出課題については、いつくか代表的な内容等を次回・次々回に紹介しコメント等も付加してフィードバックとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション メディアと若者文化（サブカルチャー）	授業概要説明と若者文化・サブカルチャーとは何なのかを先行研究も踏まえ紹介
第2回	文化と消費：消費社会論の基礎	若者文化分析の基盤となる文化と消費の関係性についての顕示的消費や文化資本の概念を紹介
第3回	物語消費論	大塚英志による1980年代若者文化を分析した物語消費論を紹介
第4回	80年代のバブル・消費文化	1970〜80年代の若者文化の象徴的事例である「新人類」などバブル文化と雑誌やメディアとの関係性
第5回	80年代における「オタク」と消費文化	1980年代における「新人類」と「オタク」という対照的サブカルチャーの対比的分析と島宇宙化・若者文化の細分化について
第6回	現代社会における文化とブランド、キャラクタービジネス	消費社会論とここまでの事例分析を踏まえて、ブランドや権利ビジネスとメディアや文化との関係を考察
第7回	後期近代の概論 ポストフォーディズム、リキッドモダニティ	現代社会の変化を捉える学説であるポストフォーディズムやリキッドモダニティの議論について学ぶ
第8回	メディアミックス① 手塚など	マーク・スタインバーグの著作をベースに、1960年代の子供向けアニメと広告・消費、文化との関係を分析
第9回	メディアミックス② 角川商法（映画と出版）	マーク・スタインバーグの著作をベースに、1970-80年代の映画と出版、音楽との関係を分析
第10回	メディアミックス③ 角川（アニメ・ゲーム・コミック）とネットによる参加型モデル	マーク・スタインバーグの著作をベースに、1980年代〜2000年代のアニメ・マンガについて
第11回	アイドルとメディア	アイドル文化が戦後〜現在の社会状況においてどのように考えられるのかを分析
第12回	アイドルと「消費者」（オタク）	アイドル文化が趣味集団、そして消費とどう関係しているのかを分析
第13回	コミュニケーションと消費：ブランド、ネット文化、アイドル	モノから体験、コミュニケーションへと変化する消費と若者文化について
第14回	まとめ サブカルチャーと後期近代	これまでの授業内容の整理と発展的議論ならびに授業の理解度確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業後に配付資料や受講時にとったメモ・ノート等を利用して復習し、授業で紹介した視聴覚資料や事例などについてインターネットなどで調べ確認、視聴すること。また、授業で取り上げた映像作品を鑑賞してみるとよいと思います。本授業の準備・復習時間は、各２時間(計４時間)を標準とします。
また、指示をした場合には予習として事前に資料等を閲覧・視聴する、課題の指示をした場合には自宅で作業し提出すること。

【テキスト（教科書）】
なし。原則的に資料を配布する予定。

【参考書】
大塚英志『物語消費論』、大塚英志『シン・モノガタリ・ショウヒ・ロン』、マーク・スタインバーグ『なぜ日本は〈メディアミックスする国〉なのか』、北田暁大・解体研編著『社会にとって趣味とは何か』、宮台真司『制服少女たちの選択』、貞包英之『サブカルチャーを消費する』、中西新太郎『「問題」としての青少年』、大澤真幸『電子メディア論』、中川佑介『角川映画 1976-1986』、森貴史『〈現場〉のアイドル文化論』など。他にも講義内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
授業参加・提出物（小テストや感想、小レポート等提出課題）50％＋試験（または期末レポート）50％
試験・期末レポートは授業で説明した社会学や文化研究の概念を理解した上で若者文化を分析できるかどうかを評価します。

【学生の意見等からの気づき】
大人数講義が予想されるが、一方通行とならないように、複数回の課題のフィードバックや授業時のアンケートなどでインタラクションを取るようにし、受講生の動向や意見も参考にしつつ授業を進行したい。また、初めに注意もしているが私語などは厳禁でお願いしたい。
なお、各自で複数の資料や論文を読むことにより理解が深まる内容の場合はオンデマンドのオンライン授業として、対面と組み合わせるので注意して欲しい。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出等のために学習支援システム等を利用

【Outline (in English)】
Entertainment media and youth culture has a political and economic side, and has been accepted by many people. This lecture will focus on both the industrial side (industrial structure and business model) and the consumption of its audience. We will analyze Japanese youth culture since the 1960s, including mass media industry such as magazines and television, as well as advertising and consumption.
In this lecture, referring to modern society theories such as Post-Fordism and liquid modernity, we think about youth culture and entertainment such as movies, anime characters, and idols from the theory of consumer society.
Students will be expected to search and watch websites and audiovisual materials introduced in class, after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Exams(or reports) assess your ability to analyze youth culture with an understanding of the theory of sociology and cultural studies.
Grading will be decided based on Term-end exams(or term-end reports)50% and in class contribution(Quizzes or comment tasks) 50%

SOC200MA（社会学 / Sociology 200）

身体表現論

叶　雄大

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：水2/Wed.2　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞
授業コード：C5087
科目名：身体表現論
＜2024年度以前入学者＞
授業コード：C5087
科目名：身体表現論
※入学年度によらず同一授業コード・科目名称

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
演劇的手法を使ったエクササイズを通して、自己の感性を磨き、自己の表現を再発見する。様々な表現方法を体験することで、自分の表現に自信を持ち、他者とのより良きコミュニケーションについて考える。

【到達目標】
自己の感覚力や表現方法を再発見する。感性を磨き自分なりの表現方法を獲得する。自己と他者を共に尊重しながらコミュニケーションをとる力を深める。
・自己肯定感（自尊感情）　・自己表現　・想像　・他者理解　・コミュニケーション能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
教科書内にある身体を動かすエクササイズの中で、感覚や身体に集中し自分自身の能力を再確認する 「自己発見」を第一期として、想像の活動を通じて他者との表現の違いや考え方を知る「他者理解」を第二期。グループディスカッションやインプロヴィゼーションの活動からのグループ創作から「共感・共有・伝え合う」事と「コミュニケーション」について考える第三期。第四期ではそれらのまとめとして、「多様性」や「生きる力」 について考え、テーマを定めた「創作創造」を体験する。フィードバック方法として、毎回の授業後に、フィードバックペーパーを作成し提出する。また、最終日にまとめのレポートを提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方と全体の概要を説明。アンケート。
第2回	コンディションづくり	表現をするための身体と心を整えるためのエクササイズを体験・考察。
第3回	身体・感覚１	身体を使ったエクササイズを体験・考察。
第4回	身体・感覚２	感覚の一つを遮断する事で、他の感覚に集中するエクササイズを体験・考察。
第5回	身体・感覚３	リズムや音・音楽を使ったエクササイズを体験し、グループでの創作を行う。
第6回	表現力を高める為に	感覚・感性を磨き表現力を高めるエクササイズの概要と考え方の講義。
第7回	コミュニケーション	コミュニケーションのエクササイズを体験・考察。
第8回	声・距離	他者との違いを楽しみながら、自分の特性を知るエクササイズを体験・考察。
第9回	インプロヴィゼーション１基礎	創作創造活動の基本をインプロヴィゼーションのエクササイズを通して体験・考察。
第10回	インプロヴィゼーション２言語	言語表現と劇作法の基礎のエクササイズと講義
第11回	インプロヴィゼーション３非言語	言語を使わない表現を体験し、グループでの創作創造活動を行う。
第12回	グループ創作	グループで創作テーマを話し合い、短いパフォーマンスを創作する
第13回	グループ創作と発表	創作したパフォーマンスを見せ合い、話し合う。
第14回	まとめと試験	全体のまとめと試験課題(30分程で課題に対して自由筆記のレポート)及び授業に対するアンケート

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の講義内に講義に対するフィードバックペーパーを提出。フィードバックペーパーの返却は行わないので、提出前に写真を撮るなど記録を残しておく事。本講義の復習・予習時間は、各2時間を標準とする。授業の記録を元に、復習として2時間、授業で学んだ事を普段の生活に応用し、身体や感覚を意識して生活する事。また、予習として2時間、次の授業のテーマについて、現時点での自身の考えや自身の表現方法の傾向を考えて、まとめておく事。その経験を含めたレポートを最終回の課題をふまえて作成・提出。また学期の途中で授業に関連した課題からレポートを提出。

【テキスト（教科書）】
アイデアとバリエーションで広がる表現活動プログラムレシピBOOK
太宰久夫 (監修)大塚恵美子・叶雄大・下川涼子・中根久寧 (共著)
アートインライフ刊　２０２３年１１月１２日初版　３６００円（送料込み）
http://www.artinlife.jp/books.html

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
実技中心の授業のため、原則として1/5以上欠席すると単位取得は不可とする。平常点として授業への参加姿勢70% レポート30%

【学生の意見等からの気づき】
昨年度好評だったエクササイズは今年も同様に行います。その他のエクサイズは差し替える可能性があります。体験を重視しつつ、理論についてのガイダンスも適宜入れ、体験した事の理解を深めるため、教科書を使った予習・復習のアナウンスを充実していきます。初回ガイダンス時と最終回に表現に関する簡単なアンケートを取ります。

【学生が準備すべき機器他】
教科書。筆記用具。水分補給用の飲み物など

【その他の重要事項】
教室のサイズにより、受講者数を制限 (選抜) することがあります。履修希望者は初回のオンラインガイダンスに必ず出席してアンケートを提出してください。
動きやすい服装(体操着・レオタード等の着用の必要はない)で参加する事。また、水分補給用の飲み物を持参する事を推奨します。授業後にミニレポートがあるため筆記具を持参してください。体験を通して気がついた事、感じた事、考えた事を元に、自分自身の表現方法を発見していきましょう。

【Outline (in English)】
【Course outline】Drama In Education :beginner's class.Classes will be held in a workshop style.【Learning Objectives】Improving communication skills from consideration of self and others' expressions【Learning activities outside of classroom】Find out what you did in the 2-hour class in real life. Use 2 hours to summarize your thoughts on the subject of the lesson【Grading Criteria /Policy】Class attitude and attendance 70%.In-class report and Last day free writing report 30%

SOC200MA（社会学 / Sociology 200）

地域文化論

八田　益之

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水5/Wed.5　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞
授業コード：C5088
科目名：地域文化論
＜2024年度以前入学者＞
授業コード：C5088
科目名：地域文化論
※入学年度によらず同一授業コード・科目名称

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本の地域文化は、全体としては経済的に下り坂の状況にあり、「こうすればうまくいく」という教科書的な正解は存在しない。一方で、逆風の中でも持続的に発展している地域やコミュニティの成功事例も数多く存在する。
本講義では、そうした実践者との対話や、受講者自身の越境体験を通じて、地域コミュニティがどのように社会的・経済的に持続され、成長しているのか、また、そこに個人がどのように関わりうるのかを探究する。
なお「地域文化」とは、主に日本の地方文化を想定するが、日本的な郷土文化・伝統文化に限定せず、"Community Culture"として、社会的・経済的持続性を含めて広く捉える。

【注意】
このテーマに確たる正解は存在しない。価値は「テーマに迫る試行錯誤の過程」にある。そのため、本講義自体を「試行錯誤のプロセス」と位置づける。
よって本シラバスは、出発時点における仮説であり、社会の変化、受講者の関心、講義の進行状況等に応じて、適宜更新する（変更時には説明を行う）。「完成品を一方的に求める」のではなく、「教室全体で共に試行錯誤を楽しむ姿勢」で参加してほしい。

【到達目標】
1. 地域コミュニティを「正解が存在する場」ではなく「人との関係性を更新し続ける場」として捉え直す視点
2. 他者との対話を通じて、自身の思考を更新し続ける能力
3. 未完成なアイデアを、社会の中で試行し改善していく姿勢
4. 自身の関心・経験・価値観をもとに、10年単位でキャリアを構想・説明できる力
5. 越境体験を通じて、多様な立場や価値観を理解し、翻訳・調整できる力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP7」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
① 実践者ゲストとの対話：　さまざまな地域・コミュニティで活動する実践者を招き、現場の経験や葛藤を共有してもらう。学生は事前調査を行い、主体的に質問・対話を行う。
② 越境型学習の重視：　学生自身の越境体験（旅・アルバイト・活動参加等）を学習資源として活用し、経験の言語化と再解釈を行う。
③ 協働的思考の促進：　グループワークや相互コメントを通じて、他者の視点を取り込みながら思考を深める。完成度よりも、仮説設定・試行・改善のプロセスを重視する。
④最終課題：　「10年後の地域文化論構想」をテーマに、自身の立場と経験に基づいた提案をまとめる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス／越境とは何か	授業方針説明・地域文化＝コミュニティ文化の再定義
第2回	【第1サイクル：越境実践者】①（予習）	対象地域・実践者事例の事前調査と問い設計
第3回	越境実践②（ゲスト）	異文化・異地域での信頼構築と実践プロセス
第4回	越境実践③（振り返り）	関係構築・失敗・成果の分析と個人化
第5回	【第2サイクル：越境翻訳者】①（予習）	企業・制度・地域連携事例の分析
第6回	越境翻訳②（ゲスト）	組織と地域をつなぐ意思決定と調整
第7回	越境翻訳③（振り返り）	制度制約と創造性の関係整理
第8回	【第3サイクル：現場更新者】①（予習）	地域資源・既存制度の再編集事例研究
第9回	現場更新②（ゲスト）	意味更新・価値転換の実践プロセス
第10回	現場更新③（振り返り）	文脈転換と持続性の検討
第11回	【統合・応用フェーズ】統合分析	3類型比較と自己ポジショニング
第12回	構想設計①	対象地域の課題整理と資源分析
第13回	構想設計②	持続可能なコミュニティ構想の設計
第14回	振り返り	成果発表・学習プロセスの内省

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
必要に応じ紹介・資料配布

【成績評価の方法と基準】
講義への貢献、各回の参加レポート、途中のレポート、で評価。期末試験は行わない。
点数配分は、講義進行により変化する（都度説明）。現時点での配分案は以下：
・講義出席＋貢献点：20％　（ゲスト講師回での事前質問・当日質問等、講義への貢献度合いを評価）
・各回参加レポート：40％
・最終レポート：40％
評価基準は、講義中に実レポートを使用し随時説明。

【学生の意見等からの気づき】
前年度のレポート等から、参加学生の意識と行動変容について、以下の重要な示唆が得られた。
① 「正解志向」から「試行志向」への転換：　多くの学生が、未完成でも提案する姿勢や、失敗を前提とした行動の重要性を実感した。
② 地域理解の質的変化：　地域を「課題解決の対象」として見る視点から、「関係性の蓄積として捉える視点」へと変化が見られた。
③ 対話を通じた思考深化：　他者の意見を資源として活用する能力が向上し、個人思考から協働思考への移行が確認された。
④ 行動意欲の向上：　応募・参加・相談など、実際の行動に移す学生が増加した。
⑤ 講義への参加意識の変化：　講義を「受けるもの」から「共につくるもの」と捉える意識が形成された。
これらの結果を踏まえ、次年度以降は、未完成アウトプットの制度化、失敗共有の機会拡充、越境体験の早期導入などを通じて、より実践的な学習環境の構築を目指す。

【学生が準備すべき機器他】
スマホ（またはタブレット・PC等）は毎回使用

【その他の重要事項】
講師は、大人の趣味スポーツの社会学について探求している。マラソンやトライアスロンなどの大会とは、単なるスポーツではなく、地域特有の課題を解決するための経済的社会的な活動である。また当学部では「ライフキャリア入門A」「質的調査法」ほか講義経験があり、キャリアデザインの視点をかけあわせてゆく。人が身体を以って体験したことは、AIに奪われることはなく、むしろAI時代により重要度を高めるはずだ。この発想を出発点として、「AIを使いこなす側」となるための場としていきたい。

【Outline (in English)】
This course explores Community Culture, focusing mainly on local communities in Japan, while not limiting the discussion to traditional or heritage culture.
Many local communities in Japan face economic and social challenges, and there is no single correct solution for sustainable development. At the same time, there are successful cases in which communities continue to grow under unfavorable conditions.
Through dialogue with practitioners and students' own boundary-crossing experiences, this course examines how community culture can be socially and economically sustainable, and how individuals can engage with local communities.
The course emphasizes learning through trial and error, collaborative discussion, and reflective writing. Students are encouraged to develop their own perspectives through observation, dialogue, and practice.
Rather than providing fixed answers, the course is designed as an exploratory and experimental learning process. This syllabus represents an initial hypothesis and may be updated according to social changes, student interests, and class progress.
By the end of the course, students are expected to enhance their ability to analyze community issues, communicate with diverse stakeholders, and design long-term career perspectives.

SOC200MA（社会学 / Sociology 200）

アート・マネジメント論

山口　佳子

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：金2/Fri.2　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞
授業コード：C5089
科目名：アート・マネジメント論
＜2024年度以前入学者＞
授業コード：C5089
科目名：アート・マネジメント論
※入学年度によらず同一授業コード・科目名称

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会のシステムや価値観が大きく変化しつつある今日、わたしたちの生き方や考え方、働き方などにおいて、「創造性（クリエイティビティ）」が強く求められるようになってきています。そのようななかで、自由な発想や表現にのっとって生み出されるアート、もしくはアート的な要素が、かつてないほど注目を集めています。この授業では、アートのもつ美的価値に加えて、近年重視されているその社会的・経済的価値についても多角的に分析し、現代社会におけるアートの位置づけや意義を明らかにしていきます。

【到達目標】
わたしたちの生活をより豊かなものにしてくれるアートは、どのように生産（創造）され、流通（普及）し、消費（鑑賞）されているのでしょうか。この授業では、現代社会におけるアートのしくみを学びます。特に、アートを「する人」（アーティスト）と、アートを「見る人」（観客、愛好家、市民など）のあいだに立ち、アートと一般の人々とを「つなぐ人」（サポーター、マネージャー、プランナーなど）に焦点を当て、彼ら「つなぎ手」たちが、地域や企業のなかでどのような活動を展開しているのかを探ります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
毎回、テーマを決めた講義を実施する予定です。講義ではテーマについての感想・意見を書いてもらったりするほか、授業の理解についてや社会的な問題意識についての参加者の意識を確認しながら進めます。
なお、初回アンケートにより、授業テーマや授業形態に若干の変更があり得るほか、フィールドワークやゲスト講師による講義を行います。基本的に、講義資料の配布、課題の提出、フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。個別の質問等は随時教室内やメール等で受け付けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の目的と進め方について説明と第2 回目以降の授業内容に必要なアンケートを行う。
第2回	ポストコロナにおけるアートの現状と変化	ポストコロナにおける文化芸術の現状と変化について知り、マネジメントの役割への理解を深める。
第3回	アート・マネジメントとは何か	アート・マネジメントの成り立ちについて概説する。
第4回	アートと国家	日本の文化政策の経緯をたどり、現状の課題について探る。
第5回	アートと地方自治体	アートを活用したまちづくりや地域活性化について学ぶ。
第6回	アートと社会	アートが社会のなかに定着していく過程をたどる。
第7回	アートと企業①	企業活動のなかにアートがどのように取り入れられてきたか、歴史的事例を学ぶ。
第8回	アートと企業②	企業活動のなかにアートがどのように取り入れられているのかを具体的に探る。
第9回	フィールドワーク	劇場や美術館などのアートの現場に実際に足を運び、現場の課題や問題点について調査・検討を行う。
第10回	アートの現場と市場	芸術文化の組織経営の実際について学ぶ。
第11回	アートにおける様々なキャリア①	芸術文化施設での仕事にとどまらないアートやコミュニティに関わる職業のキャリア形成について、具体的な事例を学ぶ。
第12回	アートにおける様々なキャリア②	実際にアートに関わる職業に携わるゲストを招き、具体的な活動やそこでの課題や問題点を学ぶ。
第13回	アートと法・制度	日本における文化芸術を取り巻く法律や制度について概説する
第14回	授業のまとめ・最終課題説明	これまでの講義のまとめと最終課題についての解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
美術館や劇場、ライブハウス、音楽フェスティバル、地域のアート・プロジェクトなど、アートの現場に実際に足を運び、現代の日本におけるアートの諸様相やその課題についてフィールド調査を行い、その成果をレポートにまとめたりプレゼンテーションを行うことが求められます（フィールド活動の際に、入場料などの費用が若干かかる可能性があります）。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは特に指定しませんが、授業中に資料を配布したり読むべきリンク先を指示したりします。

【参考書】
『アーツ・マネジメント概論三訂版』小林真理・片山泰輔・伊藤裕夫・中川幾郎・山崎稔恵、水曜社（2009）
『文化政策の現在』小林真理編、東京大学出版会（2018）
※このほか、授業中に適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】
授業内の小レポートや課題レポートなどの平常点（４５％）と最終課題（５５％）から総合的に評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】
美術、デザイン、舞台芸術、様々なアートにかかわる事象を紹介しながら学んでいきます。また、授業内のゲストは、皆さんの関心に応じて決定していく予定です。

【学生が準備すべき機器他】
課題提出等に授業支援システムを使用するので、必ず登録を行ってください。

【Outline (in English)】
Today, social systems and values are changing fast and drastically, so "creativity" or creative thinking is strongly required in our way of life, way of thinking and way of working. In such circumstances, the art or anything artistic created from free thinking and expression is attracting more attention than ever. In this class, in addition to the aesthetic value of art, we will analyze its social and economic value which has been emphasized in recent years in a multilateral way and will clarify the position and significance of art in our society.

・Learning activities outside of the classroom ： Students will be expected to research art sites such as museums, theatres, live music venues, music festivals and local art projects and conduct field research on various aspects of art and its challenges in contemporary Japan. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
・Grading Criteria /Policies ： Your overall grade in the class will be decided based on regular marks such as in-class short reports and assignment reports (45%), and the final assignment (55%).

SOC200MA（社会学 / Sociology 200）

メディア文化論

堤　信子

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水2/Wed.2　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞
授業コード：C5090
科目名：メディア文化論
＜2024年度以前入学者＞
授業コード：C5090
科目名：メディア文化論
※入学年度によらず同一授業コード・科目名称

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、テレビ、ラジオ、雑誌などによるメディア文化の歴史と現状について各メディアの具体的な事例をもとに紐解いていく。今日、メディアは、作り手と受け手の相互コミュニケーションを大事にしていく傾向にあり、メディアの受け手もメディア文化形成の一端を担っているといえる。また、ソーシャルメディアの隆盛により、メディアを創り出し、様々な日常を発信していくことができる。そこで本講義では、メディア文化の展開を学ぶだけでなく、アナウンサーなどの表現者としての技術や、多種多様なメディアを創り出していく手法も実践的に学んでいく。

【到達目標】
各種メデイアの中身を理解することにより、今後ますます多種多様になっていく各種メディアとの関わり方を学ぶことができる。
また、プロのアナウンサーの指導により、各自の表現力、コミュニケーション力の向上をも目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP6」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
対面授業を予定しています。表現力を磨くための演習をも取り入れます。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション：メディア文化とは？	われわれのまわりに存在する主要メディアに着目し、メディア文化を捉える視座を確立する。全講義内容の解説や、アンケートの実施も。
第2回	メディア文化の源流：雑誌、ラジオ、テレビ	雑誌、ラジオ、テレビの主要メディアの歴史的経緯を理解する。
第3回	雑誌メディアの文化論	週刊誌、月刊誌何例かを取りあげ、雑誌の成り立ちや紙面構成などを分析していくことで、雑誌によるメディア文化形成を読み解く。
第4回	ラジオメディアの文化論	ラジオ番組の何例かを取り上げ、その歴史的経緯を分析し、またラジオに関するDVD視聴などを通し、ラジオによるメディア文化形成を読み解く。
第5回	テレビメディアの文化論	朝のレギュラー番組を取り上げ、番組に携わるスタッフ、出演者などの役割、生放送の仕組み、そして視聴率の裏側を知ることで、メディアにおけるテレビの立場を紐解く。
第6回	テレビメディアの文化論②	テレビ局勤務のゲストを迎えて、局員としての仕事や、テレビ局の今後の役割と、番組フォーマット販売の裏側などについて紐解く
第7回	書籍メディアの文化論	書籍の成り立ちや歴史、出版本の制作秘話を交え、取材や執筆のルール、出版までの流れを知ることを通し、書籍メディアを理解する。
第8回	メディアの現場と裏側を知るためのゲスト対談１	大手出版社で働くプロをゲストにお迎えし、出版社の現状や様々な仕事の内容などについて理解する。
第9回	メディアの現場と裏側を知るためのゲスト対談２	通信社の現場で働くプロをゲストにお迎えし、メディアのあり方、現場での仕事の内容などについて理解する。
第10回	ウェブメディアの文化論	ウェブメディアの特徴や今後の可能性を洞察し個人の関わり方を考える。統計の専門家やウェブメディア編集長をゲストに迎えることも。
第11回	アナウンサー対談	現役アナウンサーをゲストに迎え、その仕事の裏側、心構えなどについて、同じくアナウンサーである講師と対談する。
第12回	メディアの現場と裏側を知るゲスト対談３	テレビ番組の制作に携わる放送作家などをゲストに招いて対談、番組の成り立ち、仕事の現場などについて理解する。
第13回	メディアの現場と裏側を知るゲスト対談４	ラジオ番組の制作者をゲストに招いて対談、番組の成り立ち、仕事の現場、音声メディアの今後などについて理解する。
第14回	アナウンサーに学ぶ情報の伝え方	アナウンサーなどのメディアにおける出演者が身につける技術の一つ、発声やプレゼン方法などの基礎を学ぶことで、表現力を身につける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
時々、リポート提出もあります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は、「発信する人のためのメディアリテラシー」晶文社を時々使用
パワーポイント中心です。

【参考書】
堤信子著「１００人中９９人に好かれるありがとう上手の習慣」ディスカヴァー２１
堤信子著「旅鞄いっぱいの京都・奈良」エイ出版社
「旅鞄いっぱいのパリふたたび」実業之日本社
「旅鞄いっぱいの京都ふたたび」実業之日本社
「東京文具雑貨散歩〜旅鞄いっぱいの東京」辰巳出版
「暮らしの図鑑〜手紙の楽しみ」翔泳社

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業のコメントカードや授業態度）５０％と　最終課題レポート５０％

【学生の意見等からの気づき】
学生とのやりとりを重視した授業にしていきたいと思っています。

メディア各方面から多彩なゲストをお迎えする対談を通し、社会人基礎力、キャリア形成に役立つ知識や考え方を学ぶ内容が、毎年好評ですので、２０２６年度も引き続きそのような内容についても充実させていく予定です。

【学生が準備すべき機器他】
パワーポイントやDVD映像などを見せたりするので、スクリーンを使用します。

【Outline (in English)】
In this lecture, we will understand the history and current status of media culture by television, radio, magazines etc. based on concrete examples of each media. Today, the media tends to cherish mutual communication between creators and recipients, and it can be said that media recipients also play a part in media culture formation. Also, with the rise of social media, it is possible to create media and transmit various daily life. Therefore, in this lecture, in addition to learning the development of media culture, we will also practice the techniques as an announcer and other expressors, as well as the methods to create a wide variety of media.
・By understanding the contents of various media, you can learn how to interact with various media, which will become more diverse in the future.
In addition, we aim to improve each person's expressiveness and communication skills through the guidance of professional announcers .
・Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content
・Grading will be decided based on term-end report (50%), and the quality of the students' experimental performance in the lab & lab reports (50%).

SOC200MA（社会学 / Sociology 200）

文化マーケティング論

横石　崇

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：金3/Fri.3　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞
授業コード：C5091
科目名：文化マーケティング論
＜2024年度以前入学者＞
授業コード：C5091
科目名：文化マーケティング論
※入学年度によらず同一授業コード・科目名称

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、「文化志向のマーケティング」をテーマに学びます。近年、社会環境の変化とともに、消費者の価値観やライフスタイルは大きく変容しています。こうした時代背景のもと、「文化」と「産業」が交差する領域の重要性は、これまで以上に高まっています。企業が生活者と持続的で良好な関係を築くためには、製品やサービスを単なる機能や利便性として捉えるのではなく、文化的な視点から捉え直し、社会的意義や物語性を備えた価値として提示することが求められています。
現代のマーケティングにおいては、戦略立案や商品開発といった実務的な手法に加えて、「なぜそのプロジェクトに取り組むのか」「そのプロダクトは社会にどのような意味を持つのか」といった根源的な問いに向き合い、明確なコンセプトを構築する力が不可欠です。こうした思考は、ブランドの信頼性や共感を生み出す基盤となります。本授業では、現代社会の動向や事例を踏まえながら、「なぜ文化志向のプロダクトやプロジェクトが求められているのか」を理解する視点と、それを具体的な形へと落とし込むための思考力・表現力を身につけることを目的とします。授業を通じて得られる視点やスキルは、マーケティング分野にとどまらず、変化の激しいビジネス環境において幅広く応用可能なものとなるでしょう。本授業を通して、文化と産業が交わる領域における新たな価値創造の可能性を、受講者の皆さんと共に探究していきます。

【到達目標】
キャリアデザインとコミュニケーションデザインの視点を通じて文化志向のマーケティングを捉え直し、近い将来この分野で活躍するために必要となる考え方や方法論を身につけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
本授業では、マーケティングと文化を包括的かつ動的に捉え、それらの相互結合を図る。マーケティングの基礎知識を身につけるとともに、講師による事例紹介や、文化とマーケティングが交わる領域で活躍する実践者をゲストとして迎え、講義およびディスカッションを行う。授業ごとに授業内レポートや課題の提出を指示し、特に優れたコメントや内容については授業内で紹介し、さらなる議論の発展に活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業全体の説明（第１回のみオンライン授業）
第2回	文化マーケティングとは	文化マーケティングが重視される背景と基礎概論
第3回	文化マーケティング基礎の理解①	マーケティングの考え方（ポジショニング戦略）
第4回	文化マーケティング基礎の理解②	マーケティングの考え方（ブランディング戦略）
第5回	文化マーケティング基礎の理解③	マーケティングの考え方（エンゲージメント戦略）
第6回	文化マーケティング事例紹介①	講師が実践するマーケティングと文化が重なる領域の事例紹介（コミュニティ領域）
第7回	文化マーケティング事例紹介②	講師が実践するマーケティングと文化が重なる領域の事例紹介（広告・メディア領域）
第8回	文化マーケティング事例紹介③	講師が実践するマーケティングと文化が重なる領域の事例紹介（アート・エンタテイメント領域）
第9回	職業・仕事としての文化マーケティング①	マーケティングと文化が重なる領域の実践者による事例紹介（コミュニティ領域）
第10回	職業・仕事としての文化マーケティング②	マーケティングと文化が重なる領域の実践者による事例紹介（広告・メディア領域）
第11回	職業・仕事としての文化マーケティング③	マーケティングと文化が重なる領域の実践者による事例紹介（アート・エンタテイメント領域）
第12回	文化マーケティングを実践するためのキャリアプランニング	企業や地域との関わり方や就労方法について
第13回	振り返り、授業内レポートの事前解説	授業内レポートのポイント解説、解答事例の紹介
第14回	授業内レポートの実施及び解説	授業内レポートの解説、実施（参考資料持ち込み可）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内で紹介した事例について実際の展開を調べ、可能な範囲でフィールド調査を行う。授業内で紹介した参考文献を読む。本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
授業内で適宜紹介

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への積極的な参加70%、授業内レポートの提出30%）

【学生の意見等からの気づき】
一方的な講義形式に限らず、実際に記述作業を行いながら双方向性を重視し、文化マーケティング論の習得を目指す。

【学生が準備すべき機器他】
パソコンやタブレット

【Outline (in English)】
① Course Outline
In today's society, rapid social changes have led to significant shifts in consumer values and patterns of consumption. As a result, the intersection of culture and industry is becoming increasingly important for companies seeking to build meaningful and sustainable relationships with consumers. In the field of marketing — expected to grow ever more complex — practical approaches such as strategy development and product planning remain essential. At the same time, the ability to develop strong concepts by deeply considering social significance, purpose, and context has become a critical competency.
This course examines these issues within the framework of contemporary society. Students will be encouraged to reflect on fundamental questions such as Why is this needed? For what purpose? And for whom? Through this process, the course aims to cultivate the ability to critically assess whether and how culture-oriented marketing is necessary in today's world.

② Learning Objectives
By the end of this course, students will have gained an understanding of the core concepts, perspectives, and methodologies of culture-oriented marketing, and will be able to apply this way of thinking to real-world contexts.
③ Learning Activities Outside of the Classroom
Students are expected to complete assigned readings and short assignments after each class session. The estimated study time outside the classroom is more than two hours per class.
④ Grading Criteria / Policy
Final grades will be determined based on the following components:
・Short reports: 30%
・In-class participation and contribution: 70%

CUM200MA（文化財科学・博物館学 / Cultural assets study and museology 200）

ミュージアム概論

森屋　雅幸

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：土2/Sat.2　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞
授業コード：C5092
科目名：ミュージアム概論
＜2024年度以前入学者＞
授業コード：C5092
科目名：ミュージアム概論
※入学年度によらず同一授業コード・科目名称

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博物館（ミュージアム）の定義や理念、目的や機能に関する講義を通し、博物館の諸活動に従事するのに不可欠な基礎的知識を習得し、専門性の基礎となる能力を養うことを目的とする。

【到達目標】
博物館の理念や目的、博物館の成り立ちや多様性、法令や諸制度に関する知識を習得し、現代社会において博物館が果たす役割や意義を理解して、論理的に説明できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
基本的に講義形式の授業を実施する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックするなど、受講者との双方向の授業を意識して実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	博物館とは何か	博物館の定義・理念について博物館法やICOMの憲章等から解説する。
第2回	博物館の誕生	西洋におけるミュージアムの誕生から日本における博物館の創設まで概観し、講義する。
第3回	博物館発達の歴史	明治時代から戦後、高度経済成長を経て現代に至るまでの日本における博物館の歴史を概観し、講義する。
第4回	博物館学と学史	博物館学とその学史について主要な研究を紹介し、博物館学の目的等についても講義する。
第5回	博物館の法制度	博物館法および関連する文化財保護法やその他制度を解説する。
第6回	博物館の種類	館種、設置者別などによる博物館の種類について紹介する。
第7回	博物館の機能Ⅰ	博物館の機能である収集・保管・展示の方法と現場での実践を紹介し、その意義を講義する。
第8回	博物館の機能Ⅱ	博物館の機能である調査研究・教育普及の方法と現場での実践を紹介し、その意義を講義する。
第9回	学芸員の役割	学芸員の博物館における役割と現代に求められる姿を解説する。
第10回	博物館と地域社会Ⅰ	博物館と地域のコミュニティ、まちづくりの関わりを示す博物館論と博物館を拠点としたコミュニティによるまちづくりの事例を紹介する。
第11回	博物館と文化財保護	博物館が収集、保管、調査研究などの対象とする博物館資料（文化財）の保護の仕組みは、どのように発展してきたのか講義する。
第12回	博物館と地域社会Ⅱ	「エコミュージアム」の理論とフランスにおける歴史、日本国内における実践事例を紹介する。
第13回	現代の博物館の現状・課題と展望	現代の博物館の現状と課題を確認するとともに、今後の博物館がどのようにあるべきか展望を講義する。
第14回	試験・まとめと解説	本授業のまとめ・解説をするとともに、到達目標を達成できたか確認する筆記試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の準備学習・復習の内容は、初回の授業で指示します。初回の授業の準備学習は、過去に自分が見学して印象に残っている博物館や現在興味のある博物館の概要をまとめておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。
自分が興味・関心のある博物館を日頃から見学すること。東京国立博物館、国立科学博物館、国立美術館（国立西洋美術館、国立近代美術館等）はキャンパスメンバーとして常設展を無料で見学ができるので活用すること。

【テキスト（教科書）】
毎回、講義資料を配布します。

【参考書】
鷹野光行他編『新編博物館概論』（同成社、2011年）
伊藤寿朗『市民のなかの博物館』（吉川弘文館、1993年）
金山喜昭『博物館と地方再生－市民・自治体・企業・地域との連携－』（同成社、2017年）
岩城卓二・高木博志編『博物館と文化財の危機』（人文書院、2020年）

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパー・授業への貢献（40％）、授業内課題（20％）、期末試験（40％）

【学生の意見等からの気づき】
アクティブラーニングを心がけた授業に取り組む。

【学生が準備すべき機器他】
出席は学習支援システム (WebClass) で確認するため、教室でインターネットにアクセスできるスマートフォン、ノートPCなどを準備しておくこと。

【その他の重要事項】
理由なく5回以上欠席した場合、成績評価しない。
理由なき早退・遅刻は3回で1回の欠席として扱う。
出席は初回授業からとる。
授業の詳細や方法についてHoppiiでアナウンスする場合があるため、アナウンスに留意すること。

【Outline (in English)】
Through lectures on the definition, philosophy, purpose, and functions of museums, this course aims to provide students with the basic knowledge that is indispensable for engaging in various museum activities and to develop skills that will serve as the foundation of their expertise.

CUM200MA（文化財科学・博物館学 / Cultural assets study and museology 200）

ミュージアム経営論

森田　喜久男

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：水1/Wed.1　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞
授業コード：C5093
科目名：ミュージアム経営論
＜2024年度以前入学者＞
授業コード：C5093
科目名：ミュージアム経営論
※入学年度によらず同一授業コード・科目名称

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博物館の経営のあるべき姿について、技術的観点と政策的観点の両方から学びます。まず、なぜ博物館経営について考えなくてはならないのか、そのような考えが出てきた背景を説明します。次に、博物館経営の基盤や広報・営業の実際、博物館をめぐるネットワーク、経営形態などを解説します。

【到達目標】
博物館学芸員として、自分自身の業務をマネージメントできるスキル、博物館学芸員として、博物館という組織全体の動きを見ながら業務を遂行できるスキルを身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
基本的には講義形式をとり、博物館教育に関わる基本事項の取得に重点を置きます。ただし、授業に際しては学生への質問や意見を求め、学生がわかりやすく理解できるように双方向の授業を行っていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	博物館経営論の意義	まず、ミュージアムマネージメントという考え方の基底にあるものを説明します。その上でミュージアムマネージメントは、どういう原理とシステムで動いていくべきなのか、その理念と体系を解説します。さらにミュージアムマネージメントという考えがなぜ必要なのか、この点について言及します。
第2回	ミュージアムマネージメントを構成する機能	ミュージアムマネージメントを構成する４つの機能、ヴィジョン・アイデンティティ・マーケティング・アドミニストレーションについて解説を加えた後で、ミュージアムマネージメントを行う際に不可欠の資質であるミュージアム・マインドとマネージメント・スキルについて言及します。さらにミュージアムマネージメントに必要な人材はいかにして養成されるべきかといった問題についても考えます。
第3回	博物館行政の実態	まず博物館法とそれに関連する法規によって国の博物館行政の歴史を概観します。また文化振興条例をもとに地方公共団体における博物館行政について解説します。
第4回	博物館行政の財政状況と施設・設備・組織・人材の実態	静岡県立美術館を事例に博物館の収入・支出の実態とステークホルダーに与えている影響を考えます。また、博物館に必要な施設・設備について、文部科学省が示した望ましい基準を確認した上で、実態はどうであったか、静岡県立美術館を事例に検討します。さらに滋賀県立琵琶湖博物館を事例に博物館組織の仕組みと職員の役割について説明します。
第5回	博物館の使命と評価	博物館の使命とは何か、まずその考え方から説明し、使命書の作成や行動計画の立案の進め方について解説します。また博物館評価の実態について説明し、評価のあるべき姿についても考えます。
第6回	博物館倫理	まず、博物館倫理規程の必要性を解説し、国際博物館会議（ＩＣＯＭ）の職業倫理規程を概観します。併せて博物館の危機管理についても言及します。
第7回	博物館における広報・営業	まず集客と広報・営業の関係について解説し、次に博物館学芸員ならではの集客戦略のあり方を考えます。
第8回	博物館における資金調達	博物館の資金調達の前提として、やっておかなくてはならないことは何か、これを確認した上で、資金調達のための組織づくりのあり方、さらに資金調達の過程を解説します。
第9回	ミュージアムショップとレストラン	博物館におけるミュージアムショップの存在意義、特徴、さらにコンセプトや経営計画のポイントを解説します。また、ミュージアムショップの商品構成やオリジナルグッズについても言及します。さらにミュージアムカフェやレストランについても取り上げます。
第10回	市民や他館との連携	まず、博物館経営に市民が参画することの意義について述べ、友の会など支援組織との連携はどうあるべきか、解説した上で、他の博物館・機関・団体などとの連携について、具体的な事例にもとづき講義します。
第11回	地域社会・国際社会との連携	博物館は地域社会とはどのような形で連携すべきなのか、さまざまな観点からの協働、連携について考えます。また博物館をめぐる国際交流の動きについても言及いたします。

第12回	独立行政法人と指定管理者制度	国立博物館が独立行政法人になってどのように変わったのか、その特徴を整理します。関連して地方独立行政法人についても述べます。また、地方自治体の公的施設に指定管理者制度が導入された背景と博物館における指定管理者制度の多様性、さらに指定管理者制度のメリット、デメリットについて解説いたします。また博物館においてＰＦＩが導入されている事例と課題についても言及いたします。
第13回	確認テスト	博物館経営に関わる筆記試験を実施し、学力の定着度について考えます。
第14回	まとめ	この講義全体の振り返りを行うと共に、今後の博物館経営の課題について考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義内容を理解できたかどうか、その点を確認し、知識の定着を図るために授業終了後、毎回200字程度の復習レポートを提出していただきます。疑問点はそこで指摘していただければ、翌週にお答えします。また、自分自身が博物館を建設するとしたら、どのような博物館にするのか、そのミッションを考えていただくなど、授業に直結する課題レポートを適宜課します。

【テキスト（教科書）】
大堀哲・水嶋英治編『博物館学』Ⅲ（学文社　2012年 ISBN978-4-7620-2286-9）

【参考書】
①Ｐ．Ｆ．ドラッカー『現代の経営』上・下（ダイヤモンド社　2006年）
②小林克『新博物館学　これからの博物館経営』（同成社　2009年）

【成績評価の方法と基準】
復習レポート（20％）、課題レポート（20％）、確認テスト（60%）

【学生の意見等からの気づき】
復習レポート、課題レポート、確認テスト、質疑応答、アンケート結果をフィードバックします。

【Outline (in English)】
Learning about the current state and challenges of museum management from both
theoretical and practical perspectives

CUM200MA（文化財科学・博物館学 / Cultural assets study and museology 200）

ミュージアム経営論

森屋　雅幸

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：土1/Sat.1　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞
授業コード：C5094
科目名：ミュージアム経営論
＜2024年度以前入学者＞
授業コード：C5094
科目名：ミュージアム経営論
※入学年度によらず同一授業コード・科目名称

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博物館の適切な管理・運営について理解し、博物館経営（ミュージアム・マネジメント）に関する基礎的能力と応用力を養うことを目的とする。

【到達目標】
博物館の経営基盤、使命・計画・評価、博物館倫理（行動規範）、市民参画・他館連携、地域社会との関わりなど博物館経営に関する理解を深め、現代に求められる博物館の適切な管理・運営について考察できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
基本的に講義形式の授業を実施する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックするなど、受講者との双方向の授業を意識して実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	博物館経営とはなにか（ガイダンス含む）	授業ガイダンスに加え、博物館を経営の視点から考える必要性と「ミュージアム・マネジメント」の概念について講義する。
第2回	博物館の社会的使命とその役割	博物館の社会的使命とは何か説明し、使命書の作成や行動計画の立案について講義する。
第3回	博物館の経営基盤Ⅰ	博物館に関する法令から、博物館経営の歴史や経営を支える行財政制度について、講義する。
第4回	博物館の経営基盤Ⅱ	博物館の財政状況や施設・設備・組織・人材の実態を講義する。
第5回	博物館経営の現状Ⅰ	公立博物館における近年の経営動向について解説する。
第6回	博物館経営の現状Ⅱ	私立博物館における近年の経営動向について解説する。
第7回	博物館経営の現状Ⅲ	独立行政法人、指定管理者制度、PFIについて説明する。
第8回	博物館における連携Ⅰ	ボランティアなどの博物館における市民参画ついて講義する。
第9回	博物館における連携Ⅱ	企業・他館との連携やネットワークについて講義する。
第10回	博物館の企画運営Ⅰ	地域社会と連携・協働する博物館経営について講義する。
第11回	博物館の企画運営Ⅱ	ユニバーシティ・ミュージアムの歴史と経営について講義する。
第12回	博物館における危機管理	博物館の災害対策について日常的な防災と地震・水害への対策を事例に講義する。
第13回	博物館経営の課題と展望	近年の改正博物館法・博物館法において博物館経営に求められる博物館の姿と、課題について講義する。
第14回	試験・まとめと解説	本授業のまとめ・解説をするとともに、到達目標を達成できたか確認する筆記試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の授業で取り上げた事例について、自主的に文献や現地調査をするなど準備学習・復習に努めるとともに、最新の関連した報道も日常的に調べておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。
自分が興味・関心のある博物館を日頃から見学すること。東京国立博物館、国立科学博物館、国立美術館（国立西洋美術館、国立近代美術館等）はキャンパスメンバーとして常設展を無料で見学ができるので活用すること。

【テキスト（教科書）】
毎回、講義資料を配布する。

【参考書】
金山喜昭編『転換期の博物館経営』（同成社、2020年）
佐々木亨・今村信隆『博物館経営論〔改訂新版〕』（放送大学教育振興会、2023年）

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパー・授業への貢献（40％）、授業内課題（20％）、期末試験（40％）

【学生の意見等からの気づき】
アクティブラーニングを心がけた授業に取り組む。

【学生が準備すべき機器他】
出席は学習支援システム (WebClass) で確認するため、教室でインターネットにアクセスできるスマートフォン、ノートPCなどを準備しておくこと。

【その他の重要事項】
理由なく各学期5回以上欠席した場合、成績評価しない。
理由なき早退・遅刻は3回で1回の欠席として扱う。
出席は初回授業からとる。
授業の詳細や方法についてHoppiiでアナウンスする場合があるため、アナウンスに留意すること。

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to understand the proper management and operation of museums and to develop basic and applied skills in museum management.

HUG200MA（人文地理学 / Human geography 200）

進歩と平和

熊谷　智博

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水2/Wed.2　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では人類の社会がどのように発展してきたか、それに合わせてどのように平和になっていったのかを、人文地理学的観点から解説する。合わせてそれが道徳や規範、犯罪に関する心理メカニズムに与えた影響についても解説する。受講生は現代社会の平和がどのように達成されたかについて理解し、現代社会の問題について考えることができるになることが本講義の目的である。

【到達目標】
受講生は人類社会がどのように変化してきたか、そしてそれが社会をどのように平和にしてきたかについての基本的知識を身につけ、現代社会の問題についてその知識を活かして議論できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業内課題はHoppiiを利用してを提出するという形式で行う予定。尚, 課題の範囲は複数回の授業内容をまたがる事もある。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に生かす予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義全体の内容や到達目標について説明する。
第2回	人間の自己家畜化①	集団内の暴君に対する排除過程について解説する。
第3回	人間の自己家畜化②	協力とフリーライダー問題について解説する。
第4回	集団と社会の拡大	集団の規模拡大から生じた変化について解説する。
第5回	超部族と国家	国家と官僚制の登場が犯罪と戦争に与える影響について解説する。
第6回	脱家父長制的血族主義	教会の婚姻・家族プログラムが都市化と市場に与えた影響について解説する。
第7回	WEIRDの誕生	新しい社会観をもつWEIRDな人々の誕生について人文地理学的観点から解説する。
第8回	WEIRDの影響	WEIRDな人々が社会と平和に与えた影響について解説する。
第9回	平和化①	平和化の全体的な変化について解説する。
第10回	平和化②	平和化に対して文明の発達が与えた影響について解説する。
第11回	平和化③	平和に対する人道主義の影響について解説する。
第12回	平和化④	権利意識の変化が平和化に与えた影響について解説する。
第13回	平和化⑤	平和化に対して現代社会が直面している問題について解説する。
第14回	まとめ	講義内容についての振り返り、総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業用資料を学習支援システムにアップロードする。それを元に授業内容を事前に確認した上で、次の授業に臨むように。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
授業開始時点では特定の教科書の指定は行わない。授業の進行によって必要な場合は適宜テキストを紹介する。

【参考書】
授業開始時点では特定の参考書の指定は行わない。授業の進行によって必要な場合は適宜テキストを紹介する。

【成績評価の方法と基準】
学期末試験結果に加えて、課題の提出と授業に対する積極的な質問を中心に成績評価を行う。具体的には課題＋質問で40％、学期末試験（授業内試験を予定しているが、受講者数などによっては試験期間での実施へ変更することもある。また突発的な事態が生じた場合はレポート課題にて代替する可能性もある）60％の配分とする。課題や質問の具体的なやり方については授業開始時に学習支援システムに記載する。

【学生の意見等からの気づき】
学習支援システムを通じて学生のからのフィードバックを受け、授業方法に反映させる。

【学生が準備すべき機器他】
一部課題はインターネットへの接続が必要となるので、利用できる環境を整えておくように。

【その他の重要事項】
担当教員が出張等の場合、Google classroomを利用したオンデマンド形式で授業を代替実施することもある。その場合は授業内やHoppii等で告知するので各自確認の上、期限内に受講すること。詳細については初回授業に説明する。

【Outline (in English)】
This course explains how human societies have developed over time and how they have become increasingly peaceful, from a human geographical perspective. It also examines how these developments have influenced psychological mechanisms related to morality, social norms, and crime. The objective of this course is for students to understand how peace in contemporary society has been achieved and to develop the ability to think critically about issues facing modern society.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination: 60%, Short reports and in class contribution (e.g. asking questions): 40%

SOC200MA（社会学 / Sociology 200）

多文化社会論A

安藤　優子

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：金4/Fri.4　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「自分らしく在りたい」という言葉は今や一種の「流行」のように使われているが、果たして「自分らしい」とは具体的にどのような在りようを意味しているのか。本講義では、「らしく在る」ことを多角的に分解・分析して考察することによって、「らしさ」とは何かをともに考えていく。
一般に個人が自分の行動様態や意見を決定するときに、無意識に、あるいは潜在的意識として、「女らしさ」や「男らしさ」に代表されるような、性別に基づく社会通念的規範ージェンダーに実は大きく影響されている。しかしながら、社会通念は実際には正体不明であり、単なる多数派の意見であったりする。よって、本講義ではまず学生自身がどんな「らしさ」に規定されているかを知る、気づくことを目的とし、それにより「自分らしさ」を形成する際に何が阻害要因になっているかをはっきりと認識することになる。

【到達目標】
本講義の到達目標は、学生が「自分らしさ」の形成のためには「自他の区別」ができるようになることが土台であることを理解することである。「自他の区別」とは自分は自分であるという「自己受容」を容易にし、同時に自分とは異なる「他者」を受容することになるからである。つまり、「他者」との比較では「自分らしさ」の形成はできないという「らしさ」の本質に気づくことを目標にしているのである。また、「常識」「あたりまえ」「ふつう」といういわゆる「多数派の正解」が唯一の正解ではないことに気づくことにより、自分の「正解」を導き出す力を養うことも重要な到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP6」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義は毎回各テーマについて具体例を挙げながら講師のレクチャーが基本であるが、必要に応じてさらに思考を深めるために他受講生とのグループディスカッションを実施し、多様な視点からの論点整理に役立てる。
授業において、学生に求められるのは、能動的な参加姿勢と自分で考え、独自の視点を形成することである。また講義内容への感想、疑問、意見などを講義終了前にコメントシートに記入してもらい、重要な論点や理解への齟齬などは次の講義冒頭でフィードバックする。
講義では、板書とスライド資料を併用し、画像や映像も適宜使用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序章：本講義の概要と意義について	講義の進め方についての説明・評価やレポートについて。講師の紹介
第2回	マジョリティーとマイノリティー	自分はマジョリティーなのか、それともマイノリティーなのか。その区分は属するコミュニティーによって変化することを理解する
第3回	「ふつう」「あたりまえ」「みんな」というお化け	「らしさ」や「べき」論は、「ふつう」とか「あたりまえ」という概念の延長上にある。「みんな」の実体は？ 多数派の正解という「お化け」を考える
第4回	公的領域（ポリス）と私的領域（オイコス）	公的領域は政治・経済という公的組織に属する男性領域で、私的領域はイエにて無償のケア全般を担う女性領域とされる。つまり、性別役割分業の基本概念について学ぶ。
第5回	ゲタと落とし穴ー女性の社会進出と「同化「従属」	講師の40年以上に及ぶテレビ報道でのキャリア形成過程において、個人が何をなしたかよりも「女性」がやったという割増評価（ゲタ）とその反動（落とし穴）について。
第6回	日本の女性認識はどこからー日本型福祉社会論	戦後日本の社会通念としての「女性認識」はどこに起源を求めるべきか。日本型福祉社会論が規定した「女性認識」を紐解く。
第7回	究極のボーイズクラブー政治の世界と女性性の利用	公的領域の主たる分野としての政治の世界。日本初の女性総理が誕生して見えてきた女性性の利用。しかし女性性の利用は、裏返せば男性性の規定でもあることを理解する。
第8回	キャリアの梯子を昇ってみたものの・・・	女性リーダーたちが今なお深刻な問題として直面している、同性間の分断、ミソジニー、インポスター症候群など、「ガラスの天井」とは何かを論じる。
第9回	自分は自分ー自他の区別と自己受容	自分らしさの形成には、自分と他者を「区別」することが欠かせない。なぜならば、「らしさ」の形成は自己受容であるから。自分と他者の区別がなぜ必要かを共に考える。
第10回	多様性と公平・平等	「らしさ」の形成で欠かせないのは、「何が真の平等であるか」という根源的な問いに向き合うことである。制度（フォーマル）と暗黙のルール（インフォーマル）な制度が機会の均等を阻むことを理解する。
第11回	無意識の偏見（差別）と隠された攻撃性	無意識の偏見・差別は主にマイクロアグレッション（小さな攻撃性）として日々の個々人の言動に表出している。他方隠された攻撃性は、意識的に歪曲した表現で他者を攻撃する。この両者の表現について気づきを喚起する。
第12回	違いはちがい	「らしさ」の形成は自己受容を土台とすることは先行講義にて理解を得たが、それでは他者を受容することはどういうことなのだろうか。違いはちがいという、シンプルな答えを具体的に例示する。
第13回	多数派の正義は「正解」ではないー同調圧力に屈しない	講義のまとめとして、「らしさ」を形成するためには、自己受容し、他者との比較に陥らないことを学んできたが、同時に多数派に「同調」する圧力に屈することが「没個人」であることをあらためて認識する機会とする。
第14回	全講義を通じてのキーワードの整理と質疑応答	講義内容の総括としての、質疑など。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自分の「らしさ」に向き合うことは、誰もが気づかないまでも日々の暮らしで実践していることである。その意味では、学生は講義内で出てきたキーワードを自分自身の身のまわりに置き代えて考えることを日常的にしての「気づき」として欲しい。また資料として毎講義に提示するPowerPointの内容は必ずあらてめて目を通して、自分なりの解釈を進めて欲しい。参考文献については、必要に応じて提示するので、関係箇所を読むことは必須であり、さらに自分の関心において必要と思われる文献を読むなど、講義の前後に2時間程度は自分の思考を深める学習をして欲しい。

【テキスト（教科書）】
毎講義において必要な文献を提示する。

【参考書】
参考書は特に提示はしないが、必読の文献の他にさらなる理解を広げる参考文献も講義に応じて提示する。

【成績評価の方法と基準】
本講義で最も重要視する点は、「自ら考える」ことである。そのため、毎講義の終了直前にミニコメントを記入する時間を設け、提出することを義務付ける。コメントは、質問、意見、感想など、自身の講義に対する「考え」をまとめることを目的としている。このミニコメントが評価の30%。
さらに、講義への積極的な参加姿勢も評価の対象とする。講義内での意見の提示、質問、グループワークへの積極参加などである。当然出席率も「積極姿勢」の評価に含まれるが、受動的な参加ではなく、共に講義内容を深め、理解をしていく協調姿勢を評価する。30%。
期末レポートは40%。受講生全員に同一テーマを提示し、文字数なども含めて講義終盤に詳細を提示する。

【学生の意見等からの気づき】
本年度からの授業担当となるので、アンケートは実施していませんので、特にありません。

【その他の重要事項】
椙山女学園大学　外国語学部客員教授　2023年4月～2026年3月
主に、ジェンダーとメディア論、コミュニケーション論、国際関係論を講義。
この「らしさ」の形成と阻害要因の講義では、ジェンダーとコミュニケーション論において核となった「らしさ」の形成と、それを阻害するもの―社会通念や同調圧力などについてあらためて考えを深めていくことを、学生と共に試みたい。

【Outline (in English)】
Course outline
The phrase "I want to be myself" is now used almost like a trend, but what exactly does "being oneself" mean in concrete terms? In this lecture, we will explore what "being oneself" entails by deconstructing and analyzing it from multiple angles.
Generally, when individuals decide their behavior patterns or opinions, they are often unconsciously or subconsciously influenced by socially conditioned norms based on gender — such as "femininity" or "masculinity"— which are deeply ingrained. However, societal norms are often ill-defined and may simply represent majority opinion. Therefore, this lecture aims first to help you recognize and understand what kind of "typical" expectations define you. This awareness will clarify the obstacles that hinder the formation of your own unique self.
Learning outcomes
The foundation for forming one’s own identity is the ability to distinguish between self and others. This lecture aims to help students understand that distinction facilitates self-acceptance while simultaneously enabling acceptance of others who are different.
Learning activities outside of classroom
Students will be expected to go over the materials shown in the previous class and try to rebuild own opinion about the lecture. Students are required to spend more than two hours before and after the class.
Grading criteria/Policies
your overall grade in the class will be decided based on the following
Mini comment submitting at the end of each class, 30%, active class participation 30%, Term-end report 40%.

SOC200MA（社会学 / Sociology 200）

多文化社会論B

挽地　康彦

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：火3/Tue.3　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、19世紀後半以降の植民地統治期から第二次大戦後の高度成長期までの期間を対象にして、近代日本における民族関係を歴史的に考察する。人口移動の観点からみると、帝国日本の内地では、海外諸国や旧植民地へ「日本人」が移出し、旧植民地からは植民地支配を受けた「朝鮮人」や「台湾人」が移入するなど、国際移動と多文化状況が一般的であった。他方、帝国が崩壊する第二次大戦後では、外地からの引揚げ、内地から帰国、開拓移民、海外移民、出稼ぎ労働など、戦前とは異なる人口移動をともないながら、戦後日本社会の内部に社会的弱者と民族的マイノリティを生み出していった。授業では、近代日本における政治的情勢の変化と多様な人口移動を視野に入れつつ、帝国日本の「内地」や「外地」で、そして戦後日本社会の内部でどのような民族関係が編み出されたのかを検証し、その特徴と現代的意味を考えることを目的とする。

【到達目標】
近代日本の移民史に依拠しながら、異民族間に生じた諸問題を植民地支配、戦争、開拓、労働、入管、ナショナリズムなどの観点から検討することで、単一民族国家の神話に囚われない歴史観の習得をめざす。具体的には、「日本人」とは誰か、「移民」とはどういう存在だったのか？ 近代日本における異民族間の社会関係はいかなるものだったか？ 戦後における民族的マイノリティの位置づけと外国人労働者の受け入れにはどのような関係にあったのか？ といった問いを追究することで、現代日本の移民問題を考えるうえでの基礎的な力を養っていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP6」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業形態は対面授業を基本とし、半期のうち７回までの授業を同時双方向型のオンライン授業（Zoom）で行う。各回の授業資料は、データ（PDF）で配信しながら進める（受講者が多いため、紙資料の配布は行わない）。
ZoomのURLとパスコードは、以下のとおりです。
https://hosei-ac-jp.zoom.us/j/88696120263?pwd=JCGhab1RhkBsA3rUj7IsVnPbbGlcd2.1
ミーティングID：886 9612 0263
パスコード：099223

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	過去という〈外国〉への旅
第2回	近代日本における移民の動態	近代初頭の日本において「移民」とは誰を指していたのか。当時の認識枠組みを踏まえ、移民動向を数的な規模から確認する。
第3回	戦前日本の民族関係①：朝鮮	帝国日本の「内地」と、その「外地」であった朝鮮。その２つの社会空間における異文化接触と民族関係を多角的に考察する。
第4回	戦前日本の民族関係②：満州	1920年代以降の移民送出の社会的背景を概観しながら、戦前の満州移民事業と戦後の中国残留邦人の歴史について学ぶ。
第5回	「帝国」外部への移住	「帝国」外部への移住が示していた〈過去〉とはどのようなものか。中南米出身の日系人の〈現在〉から、その歴史を振り返る。
第6回	敗戦と引揚げ	日本敗戦にともなう膨大な人口移動と社会的混乱を「引揚げ」の観点から捉え、占領期の絡み合った民族関係に着目する。
第7回	帝国崩壊と帰国	帝国日本の崩壊による旧植民地出身者の「帰国」にフォーカスしながら、おもに在日朝鮮人の「解放」の意味を問う。
第8回	ポストコロニアル・キャンプ	占領初期の入管政策を貫いた「内なる敵」のポリシングという問題を、管理・収容・送還の諸側面から批判的に検討する。
第9回	玄界灘における民族関係史	朝鮮戦争下の北九州を舞台に繰り広げられた帝国主義と軍事史のレイシズムを、虐げられた者たちの文化実践から読み解く。
第10回	開拓と移民	戦後日本の開拓史と移民史の交点に見出される出郷者たちの姿に焦点をあてて、戦後復興の裏面史を描いていく。
第11回	戦後日本の海外移民	戦後復興と成長の陰で再開された、知られざる中南米への海外移住の歴史について当時の国際関係と文芸作品から掘り起こす。
第12回	経済成長と民族的マイノリティ	戦後日本の経済成長期において外国人労働者を代替したのは誰だったのか？ 当時の底辺労働者の供給メカニズムを説明する。
第13回	アメラジアンとは誰か？	沖縄に特有の民族関係の問題を考えるために、「アメラジアン」と呼ばれる人びとの置かれた状況を複眼的に解読していく。
第14回	まとめ／帝国の逆襲	厳格化の一途をたどる現代の入管政策やヘイトが蔓延する社会状況と結びつけながら、これまでの授業内容を振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内容を理解するために、各授業回のテーマに関する情報収集などの準備学習に２時間、授業後に関連文献の読解など復習時間に２時間を必要とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。授業回に応じてレジュメや資料を配信する。

【参考書】
参考・参照すべき文献は複数に上るため、授業の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業内容の理解度を測るために学期半ばで行う小テスト（20%）、学期末に提出を求める課題レポートの内容（70%）、平常点（10%）で評価する。
学期末レポートの課題は、提出期限の約１カ月前に指示する。レポート評価の基準は、以下の３つに設定する（①授業内容を踏まえているか、②習得した知見について正しく理解しているか、③独善的な論理展開でなく他者理解の観点から論述されているか）。
なお、小テストや学期末レポートの課題は、授業に出席しないと作成困難な内容となる。配信する授業レジュメのパッチワークでは単位取得の基準をクリアできない。とりわけ、期末レポートでは課題を正確に理解したうえで、受講者自身が主体的に調べ考察した内容が展開されてはじめて基準をクリアできる。

【学生の意見等からの気づき】
授業内容の理解に不安を覚える学生がいることから、学期半ばに小テストを実施して理解度を確認する。また、学習効果の高さの理由の他に、体調の優れない受講者が授業参加を希望するケースが少なくないことから、７回分の授業をオンラインで実施する。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン授業（Zoom）の場合
・パソコン（カメラ付き）
・インターネット接続が可能な環境
・パソコンがどうしても用意できない場合は、スマートフォンにzoomのアプリをインストールしておくこと。

【その他の重要事項】
・本科目では、初回授業を含めた７回分の授業をZoomを用いたオンライン形式で行う。
・初回の授業は、４月７日（火）３限（13:10 ～ 14:50）にオンラインで行う。
・各授業のなかで質疑応答の時間を設ける予定である。

【Outline (in English)】
Course outline：
This course will historically examine ethnic relations in modern Japan, covering the period from the colonial rule after the late 19th century to the period of rapid economic growth after World War II. From the perspective of population movement, international migration and multicultural conditions were common in the main islands of imperial Japan, with “Japanese” moving out to overseas countries and former colonies, and “Koreans” and “Taiwanese” moving in from the former colonies under colonial rule. On the other hand, after World War II, when the empire collapsed, the population movements differed from those of the prewar period, such as repatriation from the overseas territories, returnees from the main islands of Japan, pioneer immigrants, overseas immigrants, and migrant labor, creating socially vulnerable groups and ethnic minorities within postwar Japanese society. The purpose of this class is to examine what kind of ethnic relations were developed in the “inner” and “outer” regions of imperial Japan and within postwar Japanese society, and to consider their characteristics and contemporary significance, while taking into account the changing political situation and diverse population movements in modern Japan.
Learning Objectives：
By relying on the history of immigration in modern Japan and examining various issues that arose among different ethnic groups from the perspectives of colonial rule, war, settlement, labor, immigration, and nationalism, the course aims to develop a historical perspective that is not limited by the myth of a racially homogeneous nation. Specifically, the following questions will be pursued in order to cultivate basic skills for thinking about immigration issues in contemporary Japan. Who are “Japanese”? What kind of people were “immigrants”? What were the social relations between different ethnic groups in modern Japan? What was the relationship between the position of ethnic minorities and the acceptance of foreign workers in postwar Japan?
Learning activities outside of classroom：
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
Grading Criteria /Policies：
Final grade will be calculated according to the following process Mid-term examination(20%), term-end report(70%) and in-class contribution(10%).
The term-end report assignment will be given approximately one month before the due date. The following three criteria will be used in the evaluation of the report (1) whether it is based on the contents of the class, (2) whether the student has a correct understanding of the knowledge acquired, and (3) whether the report is written from the perspective of understanding others, rather than from a self-righteous logical perspective.

SOC200MA（社会学 / Sociology 200）

多文化社会論C

挽地　康彦

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：火3/Tue.3　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、かつて多民族・多文化社会の指針として位置づけられた「多文化主義」（multiculturalism）について批判的に検討し、その後に提起された「間文化主義」や「多自然主義」などの新たな知見を吟味することを目的とする。文化の多様性と価値の平等を認め、互いのアイデンティティの尊重を唱える多文化主義は、民主主義国家における統合政策の精神であったが、西洋社会では他者への不寛容と排斥が蔓延し、多文化主義は失敗したと認識された。多文化主義はなぜ行き詰まったのか。多文化主義による社会統合を後退させた要因は何だったのか。そして多文化主義を乗り越えるために、今日どのような考え方が提起されているのか。授業では、上記の観点をめぐって議論しながら、日本版多文化主義でもある「多文化共生」についても、あわせて考察する。

【到達目標】
多文化主義の盛衰をめぐる歴史的・社会的な背景を踏まえながら、まずは、①多文化主義とそれに関連する諸概念との関係性を理解し、つぎに②多民族・多文化社会において多文化主義が失速するに至ったメカニズムと要因を多角的に捉えられるようになることが求められる。そのうえで、③ポスト多文化主義の思想的潮流についての知見を習得することをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP6」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業形態は対面授業を基本とし、半期のうち７回までの授業を同時双方向型のオンライン授業（Zoom）で行う。各回の授業資料は、データ（PDF）で配信しながら進める（受講者が多いため、紙資料の配布は行わない）。
ZoomのURLとパスコードは、以下のとおりです。
https://hosei-ac-jp.zoom.us/j/84630179315?pwd=XHbl87wCGeIpe3yrumMqgbO7nEe1YP.1
ミーティングID：846 3017 9315
パスコード：041116

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業方針の確認と問題提起
第2回	欧州移民政策の変遷①	20世紀後半以降におけるヨーロッパの移民政策を概観し、多民族・多文化が浸透していく社会的背景について学ぶ。
第3回	欧州移民政策の変遷②	20世紀後半以降におけるヨーロッパの移民政策を概観し、多民族・多文化が浸透していく社会的背景について学ぶ。
第4回	エスニック・リバイバル①	移民国アメリカの公民権運動以降の人種やエスニシティをめぐる議論と政策の展開について、ヨーロッパの経験と比較する。
第5回	エスニック・リバイバル②	移民国アメリカの公民権運動以降の人種やエスニシティをめぐる議論と政策の展開について、ヨーロッパの経験と比較する。
第6回	多文化主義の盛衰	多文化主義の諸特徴と意義、その台頭から後退までの経緯について共有する。
第7回	多文化社会の構成原理	同化主義、文化多元主義、文化相対主義などの諸概念を多文化社会の構成原理として分類しながら、多文化主義との関係を整理する。
第8回	多文化主義論争①	多文化主義に内在する困難性を、文化的固有性と普遍的価値の間のジレンマ（多文化主義と普遍主義の対立）の観点から概説する。
第9回	多文化主義論争②	多文化主義に内在する困難性を、文化的差異と分離・分裂の間のジレンマ（多文化主義と分離主義の対立）の観点から概説する。
第10回	多文化主義論争③	多文化主義に内在する困難性を、文化的共同体と個人の自由の間のジレンマ（多文化主義と個人主義の対立）の観点から概説する。
第11回	日本における多文化共生①	日本が移民国家へ転換するなかで、いかなる目的で「多文化共生」が唱導されたのかを、欧米社会の多文化主義と比較しながら確認する。
第12回	日本における多文化共生②	日本の多文化共生が空虚なスローガンで終始している問題点を、90年代以降の入管行政や日本型排外主義との関係から考察する。
第13回	ポスト多文化主義	多文化主義を批判的に乗り越えるための契機として、間文化主義、ノマディズム、コスモポリタニズム、多自然主義などの思潮を検討する。
第14回	まとめ	「要塞化」するホスト社会と「破局」に直面する難民との間にある諸問題について示唆する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内容を理解するために、各授業回のテーマに関する情報収集などの準備学習に２時間、授業後に関連文献の読解など復習時間に２時間を必要とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。授業回に応じてレジュメや資料を配信する。

【参考書】
参考・参照すべき文献は複数に上るため、授業の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業内容の理解度を測るために学期半ばで行う小テスト（20%）、学期末に提出を求める課題レポートの内容（70%）、平常点（10%）で評価する。
学期末レポートの課題は、提出期限の約１カ月前に指示する。レポート評価の基準は、以下の３つに設定する（①授業内容を踏まえているか、②習得した知見について正しく理解しているか、③独善的な論理展開でなく他者理解の観点から論述されているか）。
なお、小テストや学期末レポートの課題は、授業に出席しないと作成困難な内容となる。配信する授業レジュメのパッチワークでは単位取得の基準をクリアできない。とりわけ、期末レポートでは課題を正確に理解したうえで、受講者自身が主体的に調べ考察した内容が展開されてはじめて基準をクリアできる。

【学生の意見等からの気づき】
授業内容の理解に不安を覚える学生がいることから、学期半ばに小テストを実施して理解度を確認する。また、学習効果の高さの理由の他に、体調の優れない受講者が授業参加を希望するケースが少なくないことから、７回分の授業をオンラインで実施する。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン授業（Zoom）の場合
・パソコン（カメラ付き）
・インターネット接続が可能な環境
・パソコンがどうしても用意できない場合は、スマートフォンにzoomのアプ
リをインストールしておくこと。

【その他の重要事項】
・本科目では、初回授業を含めた７回分の授業をZoomを用いたオンライン形式で行う。
・初回の授業は、９月２２日（火）３限（13:10 ～ 14:50）にオンラインで行う。
・各授業のなかで質疑応答の時間を設ける予定である。

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to critically examine multiculturalism, which was once positioned as a guideline for a multiethnic and multicultural society, and to examine new findings such as "interculturalism" and "multinaturalism" that have been raised since then. Multiculturalism, which recognizes cultural diversity and equality of values, and advocates respect for each other's identity, was the spirit of integration policies in democratic countries, but intolerance and exclusion of others became widespread in Western society, and multiculturalism was recognized as a failure. Why has multiculturalism stalled? What were the factors that led to the regression of social integration through multiculturalism? And what ideas are being proposed today to overcome multiculturalism? In this course, we will discuss the above perspectives, and also consider "multicultural conviviality," which is the Japanese version of multiculturalism.
Learning Objectives：
Based on the historical and social background of the rise and fall of multiculturalism, students will first understand the relationship between (1) multiculturalism and related concepts, and then (2) the mechanisms and factors that led to the failure of multiculturalism in multi-ethnic and multicultural societies from multiple perspectives. In addition, the course aims to provide students with an understanding of (3) the ideological trends of post-multiculturalism.
Learning activities outside of classroom：
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
Grading Criteria /Policies：
Final grade will be calculated according to the following process Mid-term examination(20%), term-end report(70%) and in-class contribution(10%).
The term-end report assignment will be given approximately one month before the due date. The following three criteria will be used in the evaluation of the report (1) whether it is based on the contents of the class, (2) whether the student has a correct understanding of the knowledge acquired, and (3) whether the report is written from the perspective of understanding others, rather than from a self-righteous logical perspective.

ARS200MA

アジア社会論Ⅰ

日下部　尚徳

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：火1/Tue.1　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞
授業コード：C5099
科目名：アジア社会論Ⅰ
＜2024年度以前入学者＞
授業コード：C5099
科目名：アジア社会論Ⅰ
※入学年度によらず同一授業コード・科目名称

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、南アジア地域の社会構造と経済動向に関する理解を深めることを通じて、文化の根底にある価値観の多様性を学びます。南アジアは、アフガニスタン、バングラデシュ、ブータン、インド、モルディヴ、ネパール、パキスタン、スリランカの8つの国家群によって構成される地域を指します。南アジアの人口は15億人を超えており、世界人口の5分の1以上がこの地域で暮らしています。
講義では、南アジア地域がかかえる貧困や紛争などの社会的課題とともに、今後日本との関係が深まっていくことが予想される同地域に住む人びとが置かれている社会的状況について学びます。
講義は、講義形式の授業を通じて南アジア社会経済への理解を深めると同時に、南アジア社会と我々の社会の関連性を自ら考える力を養うことを目的としています。

【到達目標】
1、南アジア地域の社会構造と経済動向に関する理解を深める
2、南アジアにおける貧困や紛争などの社会的課題を構造的に理解する
3、南アジア社会と日本社会の関わりを自らの言葉で具体的に論じられるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP6」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
対面講義とオンデマンド方式を活用した反転授業を併用する。学習支援システムで本授業の開講日までに具体的なオンデマンド型授業の方法等、各回の授業の前に授業計画や課題等を指示する。フィードバックは対面および学習支援システム上で行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	南アジア社会の学び方	異文化理解とは何か：異なる社会の学び方
第2回	世界の中の南アジア	日本と世界と南アジア
第3回	南アジアの社会構造	宗教・民族の視点から
第4回	南アジアの経済事情	インド・バングラデシュの経済状況
第5回	南アジアの政治構造	インド・バングラデシュの選挙制度
第6回	映像から考える南アジア①宗教	映像にみる南アジアの宗教
第7回	映像から考える南アジア②貧困・紛争	映像にみる南アジアの貧困・紛争
第8回	南アジアの紛争課題	バングラデシュの民族紛争から考える平和構築
第9回	グローバリゼーションのなかの南アジア	船舶解体産業を事例に
第10回	南アジア社会各論①歴史と文化	バングラデシュの歴史と文化
第11回	南アジア社会各論②経済発展	バングラデシュの経済発展
第12回	南アジア社会各論③貧困	南アジアの農村事例から考える貧困
第13回	南アジアと開発援助	南アジア社会とわたしたちのつながり
第14回	まとめと授業内レポート解説	まとめとレポート解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1. 授業内で指示した教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと
2. 講義に関連する新聞記事のスクラップをおこなうこと
3. 授業終了時に示す課題についてリアクションペーパーを作成すること
4. 次回の授業範囲を予習し、わからない用語の意味等の理解をしておくこと
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする

【テキスト（教科書）】
大橋正明・村山真弓・日下部尚徳・安達淳哉編『バングラデシュを知るための66章』（明石書店、2017年）

【参考書】
外川昌彦・杉江あい・日下部尚徳編『現代バングラデシュ――経済成長と激動する社会』（東京大学出版会、2025年）

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパー／Reaction paper/in-class assignments（56％）
レポート課題／ Report assignments, mid-term/final paper（44％）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline (in English)】
The course aims to deepen students' comprehensive understanding of the politics, economy, diplomacy, and culture of South Asia.　On this basis, students will learn about social situations faced by people in South Asia, mainly social challenges such as poverty, conflicts, and environmental issues.
Learning Objectives
1. To be able to understand basic words relating to the politics, economy, diplomacy, and culture of South Asia.
2. To understand the modern history of South Asia.
3. To be able to discuss social issues in South Asia.
Learning activities outside of classroom
Participants are requested to read the text before each class.
1. To read the literature and audiovisual references instructed in the class in advance.
2.　To make clippings of newspaper articles relevant to the course.
3.　To submit reports on the topics shown at the end of each class.
Grading Criteria /Policy
Reaction paper/in-class assignments　（56％）
Report assignments, mid-term/final paper　（44％）

ARS200MA

アジア社会論 II

日下部　尚徳

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：火2/Tue.2　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞
授業コード：C5100
科目名：アジア社会論II
＜2024年度以前入学者＞
授業コード：C5100
科目名：アジア社会論II
※入学年度によらず同一授業コード・科目名称

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
南アジアの国々の事例を通じて、日本も含めたアジアの貧困問題や災害被害、紛争問題に関する理解を深めます。同時に、それぞれの問題に対して、どのような対策がとられているのかについても学びます。本年度は特に災害としての新型コロナウイルスがアジアの国々の社会問題にあたえた影響についても議論を深めます。

【到達目標】
1. 南アジアの国々における社会的課題を具体的に論じられるようになる
2. アジアの社会的課題に対して自身がどのようにかかわるべきかを考えられるようになる
3. 南アジアの社会、文化に対する理解を深める

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP6」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
対面講義とオンデマンド方式を活用した反転授業を併用する。学習支援システムで本授業の開講日までに具体的なオンデマンド型授業の方法等、各回の授業の前に授業計画や課題等を指示する。フィードバックは対面および学習支援システム上で行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	南アジア地域の特徴と学び方
第2回	南アジアの地域概要	政治と経済（インド・バングラデシュを中心に）
第3回	南アジアと新型コロナウイルス：インドを中心に	インドの新型コロナウイルス対応
第4回	南アジアと新型コロナウイルス：バングラデシュを中心に	バングラデシュの新型コロナウイルス対応
第5回	南アジアの貧困とその背景	貧困課題と児童労働
第6回	南アジアの貧困とその対策	女子児童労働の課題
第7回	南アジアの貧困と世界の貧困	南アジアと世界の児童労働
第8回	南アジアの災害とその背景	サイクロン災害を事例に
第9回	南アジアの災害とその対策	バングラデシュにおけるサイクロン対策を事例に
第10回	南アジアの紛争とその背景	チッタゴン丘陵問題を事例に
第11回	南アジアの難民問題とその背景	ロヒンギャ難民問題を事例に、難民問題がおきる背景を学びます。
第12回	南アジアの難民問題への対応	ロヒンギャ難民問題を事例に、難民対応の現状と課題を学びます。
第13回	南アジアの難民問題のこれから	ロヒンギャ難民問題を事例に、今後われわれがアジアの難民問題とどう向き合っていくべきか、議論を深めます。
第14回	南アジアの社会問題のまとめとレポート解説	アジアの社会的課題に対して自身がどのようにかかわるべきかを考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1. 授業内で指示した教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと
2. 講義に関連する新聞記事のスクラップをおこなうこと
3. 授業終了時に示す課題についてリアクションペーパーを作成すること
4. 次回の授業範囲を予習し、わからない用語の意味等の理解をしておくこと
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする

【テキスト（教科書）】
①日下部尚徳『わたし８歳、職業、家事使用人。――世界の児童労働者1億5200万人の1人』（合同出版、2018年）
②日下部尚徳『自分ゴトとして考える難民問題――SDGs時代の向き合い方』（岩波書店、2025年）

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパー／Reaction paper/in-class assignments（56％）
レポート／Report assignments, mid-term/final paper　（44％）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline (in English)】
This course aims to deepen understanding of issues affecting the world, including Japan, such as poverty, disaster damage, and conflict through the cases of those in South Asia. It also looks at what kinds of countermeasures are taken to tackle each problem.
Learning Objectives
1 To be able to concretely discuss social issues of so-called developing countries in South Asia.
2 To be able to consider how to get involved with social issues of so-called developing countries in South Asia.
Learning activities outside of classroom
Participants are requested to read the text before each class.
1. To read the literature and audiovisual references instructed in the class in advance.
2. To make clippings of newspaper articles relevant to the course.
3. To submit reports on the topics shown at the end of each class.
Grading Criteria /Policy
Reaction paper/in-class assignments　（56％）
Report assignments, mid-term/final paper　（44％）

ARS200MA

国際関係論Ⅰ

岩田　哲弥

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：水5/Wed.5　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞
授業コード：C5101
科目名：国際関係論Ⅰ
＜2024年度以前入学者＞
授業コード：C5101
科目名：国際関係論Ⅰ
※入学年度によらず同一授業コード・科目名称

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、国際関係論を専門理論の体系として学ぶのではなく、基礎理論としての「国際社会を読み解くための基本的な『見方・考え方・整理の仕方』を身につけること」を目的とする。現代社会では、外交や国際政治に限らず、企業活動、メディア、ＮＰＯ、自治体など、あらゆる分野が国際環境と結びついている。本授業では、学生の生活経験に近いテーマ（文化、ＳＮＳ、旅行、ニュース等）を入口に、国際社会を「地理・文化・歴史」という三つの視点から因数分解して理解する。国際関係論の基礎的な視座を通じて、国際ニュースを立体的に読み解き、異なる立場や価値観を踏まえて考える力を養い、将来のキャリア形成に資する国際的素養を培う。

【到達目標】
本授業の修了時に、受講生は以下を達成することを目標とする。
１．国際社会を理解するための基本的な視点を説明できる
２．国際ニュースや社会現象を背景要因から整理できる
３．主要地域（欧米・アジア・太平洋・中東・アフリカ）の基礎的特徴を理解できる
４．異文化や価値観の違いによるズレや誤解を説明できる
５．国際関係と自らの将来のキャリアとの接点を考察できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP6」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義を中心に、写真・映像資料、ニュース事例、簡単なディスカッションを組み合わせて進めます。
抽象的な概念は、具体例に置き換えて説明し、理解を深めるようにします。なお、発言や発表は、強制する形ではなく段階的・希望制とし、学生の心理的負担に配慮します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	＜第Ⅰ部：国際関係論への導入（見方を身につける）＞ ガイダンス：国際関係論とは何か	授業の進め方 キャリアと国際社会のつながりの見方を学ぶ
第2回	文化の「当たり前」はどこから来るのか	日常経験から考える価値観の違い
第3回	食文化・祝日から見る国際社会	宗教・気候・歴史との関係
第4回	ＳＮＳ・ポップカルチャーと国際関係	ソフトパワーと価値観の可視化
第5回	＜第Ⅱ部：異文化理解と国際ニュースの読み方＞ 海外旅行・日常トラブルから学ぶ国際関係	異文化コミュニケーションのズレ
第6回	日本の「暗黙のルール」を国際比較する	時間感覚・責任・謝罪の違い
第7回	国際ニュースの読み方	背景を「地理・文化・歴史」に分解する
第8回	メディアと国際社会	情報の切り取り方と受け止め方
第9回	＜第Ⅲ部：地域理解と国際社会の構造＞ 国際関係論から見たアメリカ・ヨーロッパ	価値観、多様性、統合と分断
第10回	アジアと中国をどう理解するか	歴史、人口、社会構造
第11回	中東・アフリカ・太平洋が示す国際関係の構造 （かつて「周縁」と呼ばれた地域と国際社会）	宗教、資源、環境、日本との関係
第12回	＜第Ⅳ部：国際関係とキャリアへの接続＞ 企業・国際協力・ＮＰＯと国際関係	ビジネスと国際社会の接点
第13回	国際社会と価値観	ジェンダー、宗教、文化的配慮
第14回	まとめ：国際社会をどう読み、どう関わるか	振り返りとキャリアへの接続

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
１講義の準備学習・復習時間は、４時間程度を標準とします（纏まった時間でなくて良いです）。
予習：①自分自身が興味のある国際関係分野について、常に情報をアップデートしておきましょう。②前回までの講義内容を次の講義前に見直しておくようにしてください。
復習：社会・文化背景や時代背景の理解をイメージしてもらうために、講義の中で、古今東西の映画・音楽等を紹介することがあります。それらを視聴することも復習の一つとなります。理由は、講義の中で、その都度お話しします。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定しません。毎回、講義用スライドおよび配布資料を使用します。

【参考書】
・講義回ごとに、必要に応じて紹介します。
・『国際学を学ぶ―グローバル化時代を学び始める人へ』（小林浩史郎／JIPAS）は、ある太平洋島嶼国研究ではトップクラスの学者が、学際レベルを超えるため敢えてペンネームで書いた著書です。国際学入門より、もう一つ手前の入門書です。国際学の入門書として、背景理解の補助となる文献です。

【成績評価の方法と基準】
・リアクションペーパー・授業参加・小課題：40％
・期末レポート（または最終課題）：60％
※知識量ではなく、理解の深さ、考察力、自分の言葉で語れるようになることを重視します。

【学生の意見等からの気づき】
・講義中に配布・回収するリアクションペーパーや簡易コメント用プリント（コンセプトペーパー）を通じて、学生の理解度や関心分野を把握し、それを踏まえて授業内容や説明方法の改善に反映する予定です。
・学生からの質問や意見を参考に、具体例の追加や説明の補足を行うなど、理解の深化につながる工夫を継続的に行っていく予定です。

【その他の重要事項】
・質問などに関しては、授業の前後の口頭だけでなく、コメントペーパー的なものも検討します。

・シラバスで記載している講義計画については、若干変更する可能性があります。

【Outline (in English)】
This course aims to provide students with fundamental perspectives and ways of thinking for understanding contemporary international affairs. By analyzing global issues through elements such as states, regions, culture, history, and institutions, students will develop the ability to interpret international news and global trends.
The course avoids excessive reliance on specialized theories and instead uses maps, case studies, and current events to support step-by-step learning. Students are encouraged to connect global issues with their own lives and career paths, forming a foundation for further academic study.

ARS200MA

国際関係論 II

岩田　哲弥

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：火5/Tue.5　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞
授業コード：C5102
科目名：国際関係論II
＜2024年度以前入学者＞
授業コード：C5102
科目名：国際関係論II
※入学年度によらず同一授業コード・科目名称

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、「国際関係論Ⅰ」で身につけた国際社会の基本的な見方・考え方を踏まえ、より具体的な国際課題や現実の場面に応用する力を養うことを目的とする。学生の皆さんが、近い将来経験するであろう企業活動、国際協力、メディア、行政、ＮＰＯなど、実社会における国際的な場面では、単なる知識ではなく、「状況をどう読み、どのように判断し、どう行動するか」が問われる。本授業では、国際ニュース、地域課題、価値観の衝突、危機管理などを題材に、国際関係論の視点を用いた思考訓練を行う。最終的には、国際社会と自らのキャリアを具体的に結びつけ、社会に出た後も再現可能な「考え方の型」を獲得することを目指す。
［履修上の注意］
「国際関係論Ⅱ」は、「国際関係論Ⅰ」で扱う国際社会の基本的な見方・考え方を前提として進める科目です。そのため、「国際関係論Ⅰ」を履修していることが望まれます。やむを得ず本授業のみを履修する場合には、授業内で提示される資料や説明を参考にしながら、国際ニュースの背景を「地理・文化・歴史」の視点で整理することを意識してください。不明点がある場合は、授業後やオフィスアワー等での質問を歓迎します。

【到達目標】
本授業の修了時に、受講生は以下を達成することを目標とする。
１．国際関係論の視点を用いて、具体的な国際課題を分析できる
２．立場や利害の異なる主体（国家・企業・個人等）を整理して説明できる
３．国際社会における対立や協調の背景を論理的に考察できる
４．国際的な課題と自らの将来の進路・キャリアとの関係を説明できる
５．関心のある国際関係について自分の考えを文章や口頭で分かりやすく表現できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP6」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義を中心に、写真・映像資料、ニュース事例、簡単なディスカッションを組み合わせて進める予定です。
抽象的な概念は、具体例に置き換えて説明し、理解を深めるようにします。また、ディスカッションや簡単な発表は、強制する形ではなく段階的・希望制とし、学生の心理的負担に配慮します。
国際関係論Ⅰで学んだ「因数分解の視点（地理・文化・歴史）」を常に意識して活用する方針です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	＜第Ⅰ部：国際関係論Ⅰの視点を応用する＞ ガイダンス：国際関係論ⅠからⅡへ	・授業の進め方 ・「見る」から「考え、判断する」へ
第2回	国際社会の主体を整理する	国家・企業・国際機関・市民社会
第3回	国際社会での利害と立場の違いを読む	なぜ意見は対立するのか
第4回	＜第Ⅱ部：現代の国際課題を読み解く＞ 「国際安全保障」をやさしく理解する	紛争・抑止・平和構築の基本
第5回	「グローバル経済」と国際関係	サプライチェーンと私たちの生活
第6回	「環境・気候変動」と「国際協力」	なぜ合意は難しいのか
第7回	人権・価値観と国際社会	普遍性と文化差のあいだ
第8回	＜第Ⅲ部：地域・事例から考える国際関係＞ アジア太平洋地域の国際関係	日本を取り巻く環境 （太平洋島嶼国の事例も扱う）
第9回	中東・アフリカをどう理解するか	紛争・資源・歴史的背景
第10回	国際ニュースのケース分析	背景・主体・選択肢を整理する
第11回	＜第Ⅳ部：国際関係とキャリアへの接続＞ 仕事の現場における国際関係	企業・行政・国際分野の実例
第12回	「危機管理」とコミュニケーション	誤解・情報・判断の重要性
第13回	国際社会と自分のキャリアを考える	関心分野への応用
第14回	まとめ：国際社会とどう向き合うか	振り返りと将来への展望

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
１講義の準備学習・復習時間は、４時間程度を標準とします。（纏まった時間でなくて良いです）。
予習：①自分自身が興味のある国際関係分野について、常に情報をアップデートしておきましょう。②前回までの講義内容を次の講義前に見直しておくようにしてください。
復習：社会・文化背景や時代背景の理解をイメージしてもらうために、講義の中で、古今東西の映画・音楽等を紹介することがあります。それらを視聴することも復習の一つとなります。理由は、講義の中で、その都度お話しします。

【テキスト（教科書）】
・教科書は指定しません。毎回、講義用スライド、配布資料、ニュース記事等を使用します。

【参考書】
・講義回ごとに、必要に応じて紹介します。
・『国際学を学ぶ―グローバル化時代を学び始める人へ』（小林浩史郎／JIPAS）は、ある太平洋島嶼国研究ではトップクラスの学者が、学際レベルを超えるため敢えてペンネームで書いた著書です。国際学入門より、もう一つ手前の入門書です。国際学の入門書として、背景理解の補助となる文献です。

【成績評価の方法と基準】
・リアクションペーパー・小課題：30％
・授業参加・簡易発表（希望制）：20％
・期末レポート（または最終課題）：50％
※国際情勢は常に変化します。よって（基本的な知識を除く）知識の正確さよりも、考え方の整理、論理性、自分の言葉での説明を重視します。

【学生の意見等からの気づき】
・講義中に配布・回収するリアクションペーパーや簡易コメント用プリント（コンセプトペーパー）を通じて、学生の理解度や関心分野を把握し、それを踏まえて授業内容や説明方法の改善に反映する予定です。
・学生からの質問や意見を参考に、具体例の追加や説明の補足を行うなど、理解の深化につながる工夫を継続的に行っていく予定です。

【その他の重要事項】
・質問などに関しては、授業の前後の口頭だけでなく、コメントペーパー的なものも検討します。
・シラバスで記載している講義計画については、若干変更する可能性があります。
・履修上の留意事項として、「国際関係論Ⅱ」は、「国際関係論Ⅰ」で扱う国際社会の基本的な見方・考え方を前提として進める科目です。そのため、「国際関係論Ⅰ」を履修していることが望まれます。やむを得ず本授業のみを履修する場合には、授業内で提示される資料や説明を参考にしながら、国際ニュースの背景を「地理・文化・歴史」の視点で整理することを意識してください。不明点がある場合は、授業後やオフィスアワー等での質問を歓迎します。

【Outline (in English)】
This course builds on the perspectives and ways of thinking acquired in “International Relations I”and aims to develop students’ ability to apply them to concrete international issues and real-world situations.
In the near future, students are likely to engage in various international contexts, such as business activities, international cooperation, media, public administration, and work in NGOs. In such settings, what matters is not merely possessing knowledge, but being able to understand situations, make appropriate judgments, and take responsible action.
Through the analysis of international news, regional issues, value conflicts, and crisis management, this course provides practical training in analytical thinking based on international relations.
Ultimately, the course aims to help students connect global issues with their own career paths and acquire transferable ways of thinking that can be applied after graduation.
[Course Prerequisite]
This course is designed on the assumption that students have completed “International Relations I”.
Therefore, prior completion of “International Relations I”is strongly recommended.
Students who take this course without having completed “International Relations I”are expected to review the provided materials carefully and organize international news using the perspectives of geography, culture, and history.
Questions are welcome after class or during office hours.

ARS200MA

国際地域研究Ⅰ

福井　令恵

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：火5/Tue.5　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞
授業コード：C5103
科目名：国際地域研究Ⅰ
＜2024年度以前入学者＞
授業コード：C5103
科目名：国際地域研究Ⅰ
※入学年度によらず同一授業コード・科目名称
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近年、従来の国家の枠組みだけでなく「地域」という枠組みの重要性が増している。本コースでは、グレートブリテン島およびアイルランド島にある社会を対象に、「地域」という概念の理解を深め、さらに地域間の関係性を学ぶ。具体的には、イングランド・スコットランド・ウェールズ・北アイルランド・アイルランドの社会を、それぞれの関係性に着目しつつ、理解する。これらの社会を自分とはまったく無関係の社会としてではなく、私たちとつながりのある、同時代の社会である点を実感できるよう授業を行う。

【到達目標】
「地域」や「国家」という概念を検討し、社会の多様性を理解する力を身につけることを目標とする。アイルランド島とグレートブリテン島における諸地域の関係性に注目し、歴史や社会構造を踏まえながら理解を深め、対象の社会や人々を多面的に捉えることができる。また、「ブレグジットとその影響」「文化ナショナリズム」「社会的包摂と排除」といった現代社会が抱える課題について、理解と考察を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP1」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業は、パワーポイントと配布資料による講義を中心とします。授業内でグループワークやディスカッションを行う場合があります。
毎回、授業で各自の気づきやコメントをリアクションペーパーとして提出してもらいます（単なる感想やまとめではなく、授業内容をふまえた自身の問いや考えといった記述内容を評価します。）
リアクションペーパー等における良いコメントや質問は授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。
なお、以下の授業計画は受講者数や進捗状況によって一部変更（テーマの順番の入れ替え、テーマの差し替え）する場合があります。変更がある場合は、授業内やHoppiiで連絡をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の進め方・方針について	地域研究とはどのような学問なのか、また授業の方針と各回の内容を説明する。日本に住む私たちにとって、他の国・地域を学ぶ重要性について考える。
第2回	地域とヨーロッパ	< 国家> の絶対的な地位が揺らぎ、国家を超える組織や機構、運動の果たす役割の重要性とともに、下位レベルの< 地域> の重要性が増してきた。ここでは、ヨーロッパと地域について、多層化と再編をキーワードに考える。
第3回	イギリスを構成する諸地域	< 地域> という概念をもとにイギリス（UK）の諸地域を捉えることの意義を考える。イングランド、ウェールズ、スコットランド、アイルランド、北アイルランドについて、それぞれの地域について私たちが知っている事やイメージについて、それらがどこから得られているのか考える。
第4回	イングランド社会・文化①	イギリス（UK）内の< 地域> の独自性・独立性について検討する。中心的な位置づけにあるイングランドについて学ぶ。
第5回	イングランド社会・文化②	グレートブリテン島の他の諸地域およびアイルランド島の地域などとの関係からイングランド問題を考える。
第6回	ウェールズ社会・文化	ウェールズの歴史文化を概観する。また、言語（ウェールズ語）に注目し、文化ナショナリズムについて考察する。
第7回	スコットランド社会・文化①	スコットランド社会の現在を考える。特にイングランドとの関係性から検討する。
第8回	スコットランド社会・文化②	ブレグジットと近年の独立機運の高まり、EUとの関係性について考える。
第9回	英国のまとめ	現代英国社会が抱える課題についての理解を深める。
第10回	アイルランド社会・文化①	アイルランドの国としての成り立ちについて、学ぶ。なぜ現在、アイルランド島に二つの国があるのか理解する。
第11回	アイルランド社会・文化②	アイルランド独立後のアイルランド社会・文化について学ぶ。文化ナショナリズムと現代アイルランド社会の変容を考える。
第12回	北アイルランド社会	北アイルランド社会に存在する分断を考える。またブレグジットの影響について理解する。
第13回	アイルランドのまとめ	大きく変動するアイルランドの現在と課題について理解する。
第14回	まとめ	まとめ・試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布した資料、関連文献を読む。授業後にはリアクションペーパーの提出をする。またミニレポートの提出があるので、授業内容を復習をし、自分の言葉で説明できるようにすること。
課題レポート執筆に向けては、関連文献を読み、適切な準備を行うこと。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義に関連した資料を配布するため、テキストは指定しない。

【参考書】
長谷川貴彦、『イギリス現代史』、2017年　岩波新書.
井野瀬 久美子編、『イギリス文化史』、2010年、昭和堂.
その他、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
・平常点（リアクションペーパー・ミニレポートの内容、授業への積極的参加）：40％
・期末試験：60％

＊原則5回以上欠席の場合、単位取得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】
身近な例を使って理解を促進するという方法を継続していく。

【その他の重要事項】
＊受講者数に応じて授業の内容は一部変更する可能性がある。
＊初回の授業で授業の進め方や評価の方法、課題などの説明を行うので、履修を検討している人は必ず参加すること。

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to reconsider the concepts of “region”(or“sub-nation”) and “nation state” by examining the cases of the UK and Ireland. The course will also focus on the relationship between these sub-nations (England, Wales, Scotland, and Northern Ireland). At the end of the course, students are expected to understand the societies in the UK and Ireland from various perspectives.
Grading criteria: 1) Term-end examination 60%, 2) Short reports and in class contribution 40%.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

ARS200MA

国際地域研究 II

福井　令恵

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：火5/Tue.5　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞
授業コード：C5104
科目名：国際地域研究II
＜2024年度以前入学者＞
授業コード：C5104
科目名：国際地域研究II
※入学年度によらず同一授業コード・科目名称

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
異なる文化、ナショナル・アイデンティティ、歴史観をもつ住民集団の「共生」のあり方について考える。
主たる事例として、イギリスとアイルランドという地域のなかの、「ひとつの国」・独自の地域である北アイルランドをとりあげる。そこでは、〈異〉文化と〈異なる〉国家帰属意識を持つ住民集団が対立しつつも、ともに生きる道を模索してきた。
本コースではその事例を通して、共存（異なる立場や記憶を抱えながらも、暴力を避け、対話と制度を通じて日常生活を共有していく）という、今日の社会が直面する重要な課題――日本社会にも関わる問題――について考察する。

【到達目標】
現代社会において私たちは、多様な文化的・社会的バックグラウンドを持つ人々とともに同じ場所で暮らしている。異なる文化や歴史観をもつ人々と「共に暮らす」というのは、往々にして緊張関係や対立を伴う。主として北アイルランドの紛争後社会を事例にし、長年の対立関係のなかで暮らす人々がどのように困難な取り組みに向き合っているのか、またそこでのあらたな課題について、社会構造を踏まえ理解する。コースの最後には、他者への理解を深め、より良い関係を構築するためにどのような点が重要なのか、自分の考えをまとめ、説明できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP6」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業は、パワーポイントと配布資料による講義を中心とします。授業内でグループワークやディスカッションを行う予定です。
毎回、授業で各自の気づきやコメントをリアクションペーパーとして提出してもらいます（単なる感想やまとめではなく、授業内容をふまえた自身の問いや考えといった記述内容を評価します。）
リアクションペーパー等における良いコメントや質問は授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。
なお、以下の授業計画は受講者数や進捗状況によって一部変更（テーマの順番の入れ替え、テーマの差し替え）する場合があります。変更がある場合は、授業内やHoppiiで連絡をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の進め方・方針	授業のねらいと具体的な進め方、評価方法・また対象地域の概要について説明する。 エスニック集団間関係について概説する
第2回	北アイルランドの成り立ちと歴史	エスニック集団間関係について考える（アイルランド島にある二つの国の歴史背景を理解する）。
第3回	住民集団間関係と紛争	対立してきた住民集団間の関係と紛争の背景にある歴史・社会構造について理解する。
第4回	国家の境界とその間	アイルランド、イギリス、北アイルランドの関係を考える。
第5回	和平合意と集合的アイデンティティ	どのような仕組みで和平が可能になったのか理解する。国籍と帰属意識について考える。
第6回	レビュー	前半のまとめを行う。
第7回	文化とナショナリズム	文化とナショナリズムの関係について、具体的な例をもとに考える。
第8回	紛争経験の表象	「当事者」はどのように紛争経験を捉えているのだろうか。コミュニティメディアから考える。
第9回	学校教育制度と教育の分断	北アイルランドの教育制度から、分断状況の現状について学ぶと同時に、分断社会を超えるための試みと課題について考える。
第10回	学校教育と＜歴史＞（前半）	実際の教材をもとに、歴史教育について検討する。
第11回	学校教育と＜歴史＞（後半）	学校で学ぶ歴史教育について検討し、現状と課題についてまとめる。
第12回	社会的記憶	集合的記憶の果たす機能について考える。
第13回	地域を読み解く視点	ブレグジットで再び顕在化したアイルランド国境問題と、近年注目される分断を越える新たなつながり・協力について考える。
第14回	まとめ	まとめ・試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布した資料、関連文献を読む。
授業後には毎回リアクションペーパーの提出をする。また、ミニレポートの提出がある場合は、授業内容を復習をし、自分の言葉で説明できるようにすること。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは特に指定しませんが、授業ではほぼ毎回プリント資料を配布します。

【参考書】
・尹 慧瑛　『暴力と和解のあいだ 北アイルランド紛争を生きる人びと』　2007年　法政大学出版局.
・福井令恵、『紛争の記憶と生きる: 北アイルランドの壁画とコミュニティの変容』、2015年、青弓社.
その他、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への積極的参加、ミニレポート・リアクションペーパーの内容）：40％
期末試験：60％
＊原則5回以上欠席の場合、単位取得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】
受講者からの質問は歓迎しますので、積極的に質問してください。受講者の人数等にもよりますが、受講者が主体的に参加できるようにディスカッションやグループワークの時間を取りたいと思います。

【その他の重要事項】
＊受講者数に応じて授業の内容は多少変更する可能性がある。
＊初回の授業で授業の進め方や評価の方法、課題などの説明を行うので、履修希望者は必ず当日参加すること。
＊本コースは、春学期とは別個の独立した科目だが、春学期の授業内容と関連する点があるため、国際地域研究Ｉを受講していることが望ましい。

【Outline (in English)】
In this course, students consider how people with different cultures and ethnic backgrounds in society live side by side, by exploring the case of Northern Ireland. After 30 years of conflict between two groups (Protestant/Catholic, Unionist/Nationalist), the momentous peace agreement was reached. The society has been tackling important issues to eliminate social, economic, and cultural segregation. At the end of the course, students will be able to explain their thoughts on what is important for understanding others and building better relationships.
Grading: 1) Term-end examination 60%, 2) Short reports and in-class contributions 40%.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

PSY300MA（心理学 / Psychology 300）
キャリアカウンセリングII（ケーススタディ）【2025年度以降入学生用】

宮脇　優子

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：金3/Fri.3　｜　配当年次：3〜4年
備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞
授業コード：C5105
科目名：キャリアカウンセリングII（ケーススタディ）
＜2024年度以前入学者＞
授業コード：C7160
科目名：キャリアカウンセリングIII（ケーススタディ）
※入学年度により授業コード・科目名が異なります

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キャリアカウンセリングの様々な事例（ケース）を学習することによってキャリアカウンセリングの実践について学び、キャリアカウンセリングの意義や方法について理解することを目的とする。
まずは、キャリアカウンセリングの基礎的な事項－その独自性や起源・発展の経緯、社会においてキャリアカウンセリングが求められてきた背景、また現在のニーズを学ぶ。次に、キャリアカウンセラーに必要とされる能力（技能）や要件、キャリアカウンセリングの具体的な進め方、心理アセスメントや心理学理論の応用を学ぶ。それらを踏まえた上で、様々なケースについて考察・学習し、実践への理解を深めることとする。

【到達目標】
・キャリアカウンセリングの基礎的事項（その独自性、起源と発展の経緯、社会から求められる理由）について理解できている。
・キャリアカウンセリングのケーススタディを通して
①現代の産業組織において働く人々が抱える心理的問題、キャリアカウンセリングへのニーズを理解できている。
②キャリアカウンセリングのケースの見立て方、援助のあり方・援助方法への理解ができている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
・前半（第1回〜第5回）のキャリアカウンセリングの基礎的事項については講義を中心として進める。第6回以降のケーススタディ（事例検討）は、講義に加え、個人ワークとグループでの意見交換及びグループ発表をおり交ぜて行う。
・授業終了後にリアクション・ペーパーの提出を求め、次週の授業の中で前回の授業で提出されたリアクション・ペーパーからいくつか取り上げ、全体共有・質問に対するフィードバックを行う。
・第10回の講義内容（心理アセスメント）に関連して、アセスメントツール（キャリア・インサイト）をキャリア情報ルームにて体験していただく（希望者）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション、キャリアカウンセリングとは何か	授業の目的と進め方、成績評価について説明。 カウンセリング、キャリアカウンセリングの定義と独自性（特徴）について学ぶ。
第2回	カウンセリングの起源と発展	カウンセリング誕生の背景、発展の経緯、産業組織における発達史を学ぶ。
第3回	働く人を取り巻く社会経済・雇用環境の変化とキャリアカウンセリングの役割①	社会経済・雇用環境の変化、現在に至る経緯を知り、産業組織におけるキャリアカウンセリングの果たせる役割を理解する。
第4回	働く人のメンタルヘルスの現状とキャリアカウンセリングの役割②	働く人のメンタルヘルスの現状を理解し、産業組織におけるキャリアカウンセリングの果たせる役割を理解する。
第5回	キャリアカウンセラーに必要とされる能力	キャリアカウンセラーに必要とされる能力（技能）、要件を学ぶ。
第6回	キャリアカウンセリングの具体的展開とケーススタディ①	キャリアカウンセリングの具体的な進め方（ﾌﾟﾛｾｽ）を学ぶ。 ケースを読み、ケースの読み取り方・見立て方を学ぶ。
第7回	キャリアカウンセリングのケーススタディ②	C.R.ロジャーズの理論を学ぶ。 若者への就職支援のケースを検討する。
第8回	キャリアカウンセリングのケーススタディ③	転職に纏わる支援のケース、職場の人間関係問題への支援のケースを検討。心理学理論を応用したアプローチを学ぶ。
第9回	子育てしながら働く女性へのキャリア支援④	子育てしながら働く女性のキャリアの現状及びキャリア支援のあり方について学ぶ。
第10回	キャリアカウンセリングにおける心理アセスメント/ケーススタディ⑤	キャリアカウンセリングにおける心理アセスメントの意義、心理検査の活用方法、職業選択理論を学ぶ。心理検査を用いたケースを検討し、キャリアカウンセリングにおける効果的な心理検査の活用を学ぶ。
第11回	キャリアカウンセリングのケーススタディ⑥	職業性ストレスモデルを学び、職場不適応のケースを検討する。
第12回	キャリアカウンセリングのケーススタディ⑦	ストレス、ストレス・コーピングについて学び、職場不適応のケース（管理職編）を検討する。
第13回	キャリアカウンセリングのケーススタディ⑧	職場のメンタルヘルス問題への対応、キャリアカウンセリングの組織開発への活用について、ケースを通して学ぶ。
第14回	まとめと振り返り	これまでの授業の振り返りと総括のフィードバックを行う。 また、期末レポート作成にあたっての復習ポイントを解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回講義資料の復習、各回の講義に該当するテキスト部分の予習・復習等、本授業の準備・復習時間は、各回計4時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】
「働く人へのキャリア支援－働く人の悩みに応える２７のヒント」
宮脇優子編著　金剛出版　2015

【参考書】
「入門キャリアカウンセリングとメンタルヘルス－基礎知識と実践」
宮脇優子・廣　尚典著　金子書房　2021

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への参加度及び取り組み姿勢）５０％
期末レポート課題　５０％

【学生の意見等からの気づき】
産業組織領域、心理学領域の専門用語やトピックは理解度を確認しながら進めます。ケーススタディは、グループワークでの意見交換・発表も取り入れながら、授業内容への体験的な理解、より深い理解を目指した授業を展開します。

【学生が準備すべき機器他】
第1回の授業のみオンライン授業（オンデマンド形式）となります。オリエンテーション・講義資料（パワーポイントPDF）は学習支援システムへの掲載となるため、学習支援システムからの読み取りに情報機器（パソコン、スマートフォン等のデバイス）が必要になります。

【その他の重要事項】
担当教員は、人材採用広報及び人事教育・人事コンサルティング事業を生業とする民間企業での勤務を経て、民間企業、公的機関において働く人を支援するカウンセラーとして活動をしている。キャリアカウンセラーとしての23年の経験で支援してきた人は5,000人を超える。
上記の実務経験をふまえて、今、現実社会で発生している働く人々の様々な心理的問題に焦点を当て、それらに対するキャリアカウンセラー（キャリアコンサルタント）の援助の実際について授業の中で紹介しながら進めていきます。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students learn about career counseling practices and understand the significance and methods of career counseling by studying various cases of career counseling.
The first phase is to understand the basics of career counseling. The second phase will focus on the requirements for being a career counselor and the counseling procedures as well as the psychological assessment and the application of psychological theories in this field. Lastly, you will examine its practical usage by looking into various cases.
By the end of the course, students should be able to do followings:
－ Understand the basics of career counseling, i.e.its origin, development history, uniqueness of career counseling and the reason why career counseling is required in today's society.
－ Through case studies of career counseling,
① Understand aspects of modern industrial organizations , especially the psychological problems of working people and the social needs for career counselling.
②Understand and learn how to examine of career counseling cases and help working people.
Students will be expected to have completed the required assignments before/after each class meeting, Your study time will be more than four hours for a class.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Learning state in class and in-class contribution:50%,Term-end examination:50%

EDU300MA（教育学 / Education 300）

メディアリテラシーB

村上　郷子

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木4/Thu.4　｜　配当年次：3〜4年
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
マルチメディアを活用したグループによる協働活動を通じて、様々なメディア文化の様式を理解し、メディアの読み解きや映像制作に関する基礎的なスキルを学ぶ。特に、デジタルストーリーテリングの動画制作を通じてメディアの批判的分析と創造を目指す。

【到達目標】
デジタルストーリーテリングの制作を通じて、メディア情報リテラシー教育における４つの能力、批判的思考能力、メディアの制作、コミュニケーション能力、コラボレーション能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment、Z その他 /Other

【授業の進め方と方法】
メディア情報リテラシー教育の重要な概念に関する理論的背景及び実際を学びながら、グループで決定したテーマについて各自がメディア制作（デジタルストーリング等の動画）を行い、プレゼンを行う。毎回講義とグループワークを組み合わせる。テーマについては、2・3回目の授業でアンケート調査を行う。
　アンケート調査、プレゼンテーション、グループディスカッションの感想等については、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
大学行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス（オンライン）	授業及び授業用グループウェア利用ガイダンス 、メディア情報リテラシー教育（MILE）とは何か
第2回	メディア情報言語①	多様なメディア情報的テクストのなかのコードときまり
第3回	メディア情報言語②	海外の動画、HP、ポスターで使われるコードの分析と評価
第4回	広告①	広告規制の分析と適用、収益モデルとしての広告
第5回	広告② グループ分けを決める	パブリック・サービス・アナウンスメント（PSA)とはなにか(分析と企画)
第6回	新旧のメディア①	メディアの歴史、新旧メディアの違い、グループ活動(絵コンテ、ストーリー展開)
第7回	新旧のメディア②	民主主義社会におけるニュー・メディアの可能性と弊害、グループワーク（ストーリー展開）
第8回	課題制作①	グループによる素材集め（ビデオ・写真撮影等）
第9回	課題制作②	グループによるプレゼン資料（パワポ）の作成および動画やデジスト等の制作
第10回	課題制作③	グループ発表の最終確認（パワポ・動画やデジスト等の最終確認）
第11回	課題発表①（くじで発表初回となった班の発表）	課題のグループ発表(1)、全体討論 (何を伝えたいのか、各自のテーマを明確にする)、グループ発表の評価
第12回	課題発表②（くじで発表二回目となった班の発表）	課題のグループ発表(2)、全体討論（何を伝えたいのか、各自のテーマを明確にする)、グループ発表の評価
第13回	課題発表③（くじで発表3回目となった班の発表）	課題のグループ発表(3)、全体討論（何を伝えたいのか、各自のテーマを明確にする)、グループ発表の評価
第14回	メディアと教育に関する総まとめ	振り返り・総合ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
グループによる授業外の活動が入ってくることを了承すること。また、授業・グループ活動への積極的な参加が求められる。
　パートナー校の状況が許せば、海外の学生との交流もあり得るため、簡単な英語の読み書きが要求される場合もある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし、適時参考資料・レジメを授業用グループウェア上にアップロードする。

【参考書】
必要に応じて提示する。

【成績評価の方法と基準】
個人による課題制作物（個人のデジスト・動画作品、他授業での課題）（30％)、グループによる課題制作物、プレゼン（プレゼン資料、班活動報告など含む)、授業への参加・出席（30％)、個人レポート（40％）によって総合的に評価する。
授業の性質上、授業への出席とグループ活動への参加が重視され、出席は80％を目安とする。欠席は3回までは不問とする。正当な理由がなく出席不良（14回中4回以上の欠席）のものは、「グループによる課題制作物、プレゼン、授業への参加・出席（30％)」の部分は０とする。正当な理由があるため４回以上欠席するものは、欠席理由を記した証明書を持参すること。トータルで５回以上無断欠席する・したものの成績は、理由の如何を問わず原則として０とする。本授業は「必修」ではないため、欠席が多くなると予想される者は、他の授業を検討されたい。
　全ての班活動のプロセス、毎回の宿題・決定事項、共有ファイル（文書・パワポ・画像・他）提出物等はグループ活動の記録として共有するため、必ず授業用グループウェア(Hoppii)上にアップロードすることを原則とする。また、授業での全ての提出物は、授業用グループウェア上にアップロードすることを原則とする。よって、アップロードが不完全であったり、なされていない場合は成績の評価はできないため、０になる。ファイルをアップロードをする際、必ずリンクの確認をすること。

【学生の意見等からの気づき】
シラバス原稿作成時アンケート結果集計中

【学生が準備すべき機器他】
基礎的なパソコン・動画作成スキルを習得していることが望ましい。

【その他の重要事項】
・授業では授業用グループウェアを教員及び学生同士（海外の学生も含む）のコミュニケーションツールとして活用する。
　本授業では、グループ活動がしやすい情報実習室Hを使用している。定員は26名のため、人数が多いときは、最初の授業で、上級生から受講者を確定する。下級生は、最初の授業で選抜が行われる場合がある。
　最初の授業で選抜による履修者が確定した場合、確定後の履修（授業2回目以降）は、いかなる理由も認めない。そのため、最初の授業には必ず出席すること。
　最初の選抜で受講者の権利を得たが、本授業を履修しないと決めた者は、速やかに教員に連絡すること。

状況によっては海外の学生との交流もあり得るため、簡単な英語の読み書きが要求される場合もある。

【Outline (in English)】
（Course outline）: Students will analyze media and information contents and create digital-story telling (DST) videos.
（Learning Objectives）： Through the production of digital storytelling, students will acquire four skills in media and information literacy education: critical thinking skills, media production, communication skills, and collaboration skills.
（Learning activities outside of classroom）: Students should be aware that group activities outside of class will be included. In addition, active participation in class and group activities is expected.
（Grading Criteria /Policy）： Comprehensive evaluation will be made based on individual project work (individual digital and video works, assignments) (30%), group project work, presentations (including presentation materials, group activity reports, etc.), class participation (30%), and individual reports (40%).

EDU300MA（教育学 / Education 300）

リスク社会における包括支援と教育

筒井　美紀

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木3/Thu.3　｜　配当年次：3〜4年
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本は「リスク社会」であり、「能力をつけて良い会社に就職する」といった自助戦略はさほど有効ではありません。誰もがいつ何時、自治体や地域の手厚い助けが必要な、人生の困難に遭遇しかねません。だから、私たちは公助・共助がきちんと機能する社会を再創造する必要があるのです。自治体や地域が現在、就労困難者・生活困窮者に対してどのような包括支援や教育訓練を展開しているのかを、社会学的な視点から具体的に学ぶなかで、より善い社会のデザインします。

【到達目標】
就労困難者・生活困窮者への包括支援や教育訓練というと、「どう接したら／教えたらよいか」という対人関係の次元が浮かぶことが多いでしょう。同時に理解すべきなのは、人・モノ・カネ・情報といった諸資源の組織化のありよう、教育の意義や機能や形態の変化、実現されるべき諸価値、といった点です。このクラスでは、ミクロな次元から、自治体やビジネス、NPOや地域社会、組織や制度へと社会学的な視野を広げます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
　第10回と第14回をのぞき対面で実施します。
　毎回、冒頭に前回リアペへのリプライ・導入解説、次に班やペアでの話し合い、続いてその報告と授業者の発展的解説、というスタイルです。毎回のミニ予習課題をやったうえで身体を教室に運ぶこと。すると班での議論の密度が濃くなり、充実感が得られ、実力がつきます。
　中間レポートにはコメントを入れて返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	「リスク社会」がもたらしたものと社会の反応・対応
第2回	自治体による就労・生活支援とは何か	自治体の新たな役割と求められる支援の包括性（テキスト序章）
第3回	国の福祉政策・労働政策はなぜ・どう変わってきたか	労働市場と福祉供給の劣化とそれへの対応（テキスト第２章）
第4回	シングルマザーを支援する飲食店	ビジネスは福祉を代替するか？（テキスト第９章）
第5回	横浜市の生活保護受給者への就労支援	行政セクターにおける就労支援の展開と課題（テキスト３章第３節）
第6回	社会調査と分析のコツ	調査で得たデータがどのように分析・加工され論文となるか（レポート作成のコツ）
第7回	就労・生活支援の営利組織への委託	行政と民間の「パートナーシップ」が孕む課題（テキスト第４章）
第8回	支援と銘打たない支援	スモールステップを踏んだ支援と教育訓練、自治体の福祉・労政部門の連携（テキスト第８章）
第9回	就労・生活支援の「出口」をどう創るか	中小企業支援の福祉的性質（テキスト第７章）
第10回	地域のニーズを掘り起こす	雇用創出と就労につなげるには（テキスト第 11 章）
第11回	高齢者と生きづらい若者とをつなぐ	協同労働の可能性と課題（テキスト第５章）
第12回	中間的就労／社会的就労、半福祉・半就労とは何か	より善い社会（とくに労働と福祉と教育の領域）に向けた諸価値（テキスト序章）
第13回	誰もが働き、生きていける社会とは	より善い社会をデザインする（テキスト終章）
第14回	期末試験に向けて	基礎概念などの総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
私の授業は反転授業方式です。テキストを毎回１章読み、予習レジュメの「問い」を解くという準備をして授業に臨むこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
筒井美紀・櫻井純理・本田由紀編著（2014）『就労支援を問い直す――自治体と地域の取り組み――』勁草書房。

【参考書】
授業中適宜指示

【成績評価の方法と基準】
中間レポート30％、期末試験70％

【学生の意見等からの気づき】
リアクションペーパーでは、「自分が住んでいる自治体がこんなにも就労支援に取組んでいるとは知らなかった」「役所と言えば保守的で官僚的で旧態依然としていると思っていたが違った」「気がつかないだけで、どれだけ自分が社会保障や社会福祉に支えられているかを知った」「賃労働だけでは生きていけないことがよく分かった」など、＜眼からウロコンタクト＞系のコメントも多いです。

【学生が準備すべき機器他】
パソコンやタブレットを持参のこと。

【Outline (in English)】
Course Outline Learning:
The Japanese society is "the risk society," and self-help strategy (Be more competent, and you will get a job in a prestageous company) is not so effective. Everyone may meet at anytime disorienting dilenma which needs enough support from the municipality and the local community. Therefore, we should recreate our society where the public and mutual support function well.
Objectives Learning
The students are to learn how to design better societies through reading and discussing the efforts by some municipalities and local organizations for comprehensive support of the people with difficulties in work and life. The goal is to widen your sociological perspective and to design a better society.
Activities Outside of Classroom
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text and answer some questions of "preparation resume."
Grading Criteria/Policy
Your study time will four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following: mid-term paper 30% and term paper 70%.

EDU300MA（教育学 / Education 300）

現代の教育思想

岩本　俊一

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：火3/Tue.3　｜　配当年次：3〜4年
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代社会における教育的諸問題ならびに諸課題を教育の論理に即して分析し、これを通じて教育的なものの見方・考え方ができる力を培うことができるようになることを本講義の概要・目的とする。

【到達目標】
一億総教育評論家と言われるほどに現代社会に流布する常識的な教育論から脱し、現代社会が抱える教育的諸問題を教育の論理に即して理解する手がかりを得ること、そしてさらにそうした諸問題を教育独自の視点の下に考えることができるようになることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP1」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義形式によって行うことを基本とするが、質疑応答の機会を適宜設ける。課題等を課した場合には、その提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに　－本講義の概要とねらい	本講義の到達目標や概要ならびに評価基準について説明する。
第2回	序論 －教育的なものの見方と考え方について	教育的なものの見方・考え方とはどのようなことか、またその基礎となる教育の論理とはどのようなことかについて論じる。
第3回	教育の思想と教育学	人権思想の発展と教育学の成立について
第4回	現代社会における教育の諸問題(1) －「ゆとり教育」と「学力」の問題	あるべき「ゆとり教育」について論じる。
第5回	現代社会における教育の諸問題(2) －公教育における道徳教育の問題	近代公教育における世俗性（ライシテ）の原則と道徳教育の可能性について論じる。
第6回	現代社会における教育の諸問題(3) －「特別の教科　道徳」の問題	上記５を踏まえ、「特別の教科　道徳」（「道徳」の教科化）の問題について論じる。
第7回	現代社会における教育の諸問題(4) －教員養成の問題	教師の「資質」向上をめぐる問題－日本における教員養成政策の変質について論じる。
第8回	教育におけるヒューマニズムの探究(1) －近代教育思想の展開	近代教育思想の本質とその史的発展について論じる。
第9回	教育におけるヒューマニズムの探究(2) 子どもの発見	ルソーにおける「子どもの発見」の意味について論じる。
第10回	教育におけるヒューマニズムの探究(3) ルソーの教育思想の継承と課題	ルソーの教育思想の現代的継承の在り方について論じる。
第11回	教育における体罰の問題(1)体罰肯定の思想の問題	体罰肯定論―体罰は教育的情熱の発露である―の本質的問題点について論じる。
第12回	教育における体罰の問題(2) 体罰克服の論理	体罰批判の思想を手がかりにして体罰克服の論理を論じる。
第13回	本講義を振り返って（質疑応答）	本講義の内容などについて質疑応答を適宜交えてまとめをする。
第14回	まとめと試験	授業のまとめと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義の後に内容をまとめるなど、復習を通じて理解を深めること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は特に使用しない。

【参考書】
参考文献については必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末に行われる試験100％で評価する。
平常点は加味しない。

【学生の意見等からの気づき】
指摘された点については、予測された点も多々あり、慎重に検討しつつ、真摯に改善に努める予定である。

【Outline (in English)】
Outline:
In this class we will examine the issues and challenges surrounding education in present-day society using a pedagogical framework.
The purpose of this examination will be to cultivate the students' ability to conceptualize and think from a pedagogical standpoint.
Goal:
The goal is to understand the problems of education in modern society according to the logic of education.
Learning activities outside of classroom:
After the lecture, try to understand the contents.
Grading Criteria /Policy:
Grade only in the final exam.
Emphasis is placed on whether the lecture content is understood accurately.

PSY300MA（心理学 / Psychology 300）

産業・組織心理学 II

今城　志保

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：金1/Fri.1　｜　配当年次：2025年度以降入学者：3〜4
2024年度以前入学者：2〜4年
備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞
授業コード：C5110
科目名：産業・組織心理学II
＜2024年度以前入学者＞
授業コード：C5110
科目名：産業・組織心理学II
※入学年度によらず同一授業コード・科目名称

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
産業・組織心理学Ⅰに続き、産業・組織心理学の主要なトピックスについて学んでいきます。産業・組織心理学Ⅱでは、特にキャリアに関連する領域、ならびに産業・組織心理学と隣接する人材マネジメントにフォーカスをあてます。組織は働き手の思いと雇用側の思いが時には調和し、時には対立するフィールドです。そこではどのようなことが問題となるのか見ていきます。

【到達目標】
本授業の到達目標は以下の３点です。
（1）産業・組織心理学の主要的な概念を理解し、それらを用いて組織の諸問題を考えられるようになること
（2）組織の様々な取り組みが、個人に対して与える影響について理解できるようになること
（3）自らのキャリアを考える上で、学んだ概念を用いることができるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP1」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式で行われます。授業の中で、オンラインのアンケートフォームを用いて、概念の確認や自分の考えを深めるために、数項目の質問に回答していただきます。回答内容については、適宜次回の授業の中で、フィードバックを行います。また、アンケートフォームでは任意の質問を記入できますので、そこに質問が記入された場合は、翌授業回の冒頭に、全体に対して回答を行います。
7回目か8回目の授業で、グループ課題をおしらせします。グループ課題は、原則授業外の時間を使って進めていただきます。最終日に、グループ課題をまとめたレポートを提出していただきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業オリエンテーション	授業の概要ならびに進め方について紹介します。
第2回	キャリアを理解する①	キャリアに関する主な理論を学びます
第3回	キャリアを理解する②	日本企業のホワイトカラーのこれまでの典型的なキャリアと今後の可能性について考えます
第4回	組織風土を理解する①	組織風土と組織文化について紹介します
第5回	組織風土を理解する②	昨今関心が高まる心理的安全性について紹介します
第6回	ダイバーシティ①	ダイバーシティに関する理論や研究知見を紹介します
第7回	ダイバーシティ②	比較文化心理学の知見を用いて、文化の異なる人とともに働くことについて考えます
第8回	ダイバーシティ③	女性のキャリアについて考えます
第9回	ダイバーシティ④	高齢者就労について考えます
第10回	職場の学習・職場以外の学習①	大人の学びについて考えます
第11回	職場の学習・職場以外の学習②	企業における研修や能力開発について、紹介します
第12回	職場の学習・職場以外の学習③	経験学習について考えます
第13回	予備	上記の授業での積み残しや遅れを回収するための時間にあてます
第14回	グループ課題の発表	各グループから口頭で、グループ課題について、報告していただきます

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
私達のキャリアを取り巻く環境に興味を持ちましょう。キャリアや「働く」こと、「人事管理」「人材マネジメント」に関する新聞記事・雑誌記事等に広く目を通して下さい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません

【参考書】
金井壽宏　働くひとのためのキャリア・デザイン　2002年 PHP新書
守島基博　人材マネジメント入門　2004年　日経文庫
外島　裕・田中　堅一郎　産業・組織心理学エッセンシャルズ　2019　ナカニシヤ出版

【成績評価の方法と基準】
毎回の授業中のアンケートで60％，グループ課題で作成したレポートとその発表の評価を40％とします。なお，グループ課題については，自身と他のメンバーの課題への貢献度合いを申告してもらい，それを加味したうえで、グループ課題の評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません

【Outline (in English)】
Students will study major topics in industrial/organizational psychology. Psychology II will focus specifically on career-related areas and human resource management.
The three objectives of this class are as follows.
(1) To understand the main concepts of industrial/organizational psychology and to be able to think about various organizational problems using these concepts.
(2) To be able to understand the impact of various HR practices on employees.
(3) To be able to use the concepts learned in considering one's own career.
Take an interest in the environment surrounding our careers. Read widely newspaper and magazine articles on careers,"working,"and"human resource management."Standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
The evaluation will be based on a questionnaire given in each class (60%) and a report and presentation on a group assignment (40%). For group assignments, I will ask each student to report the degree of their own and
other members' contribution to the assignment, which will be taken into account in the evaluation of the group assignment.

MAN300MA（経営学 / Management 300）

キャリア開発論

髙崎　美佐

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：月1/Mon.1　｜　配当年次：2025年度以降入学者：3〜4 2024年度以前入学者：2〜4年
備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞
授業コード：C5111
科目名：キャリア開発論
＜2024年度以前入学者＞
授業コード：C5111
科目名：キャリア開発論
※入学年度によらず同一授業コード・科目名称

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、キャリアに関する理論の基礎を学びつつ、企業側の人材開発（HRD）や人事管理のメカニズムの中で、個人のキャリアがどのように開発・形成されるのかを考えます。「会社に入れば一生安泰」という時代は終わり、「人生100年」となり、働く期間は長期化しています。
そういった環境の変化の中で、従来のように組織にキャリアをゆだねるだけでなく、自律的にキャリアを形成していくことが求められるようになってきています。
本講義では、個人のキャリアという視点だけでなく、社会や雇用の仕組みとともに学ぶことで、より実態に即したキャリア開発の視点を身に付けることを目指します 。

【到達目標】
本授業の到達目標は以下の3点です。
①キャリアに関する基礎的な理論や知識の習得し、働くことと関連させて考えられる
②個人のキャリア開発においての日本型雇用システムのメリットとデメリットを説明できる
③個人のキャリア開発に関する課題を発見し、それをマネジメントし解決する方法がわかる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業は、ビジネスキャリア開発関連した理論等の概説や講義を中心に進めますが、ディスカッションや発表も取り入れることがあります。
授業中にミニレポートを書いていただく等によって出席確認をします。ミニレポートの内容は、授業中などに全体に対してフィードバックすることがあります。
使用する資料等は、「学習支援システム」において事前に提供します。
授業に出席する際には、事前に目を通し、必要に応じてご自身で準備をお願いします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、オリエンテーション。キャリア開発と人材開発	講義の進め方と評価方法を理解する。キャリア開発と人材開発の違いを学ぶ。（テキスト第1章）
第2回	キャリア開発に関する理論	主要なキャリア理論を学ぶ。（テキスト第1章）
第3回	日本型雇用と個人のキャリア	日本型雇用の特徴を把握し、個人のキャリア開発への影響を考える。キャリア開発の主体についての考え方を整理する。（テキスト第2・3章）
第4回	キャリア自律	キャリア自律の考え方について学び、支える仕組みについて知る。（テキスト第4章）
第5回	大学から社会への移行	大学までの学びと就職後のキャリア形成について学ぶ
第6回	ライフイベントとキャリア	結婚・出産等の転機と、キャリア継続の課題を整理する（テキスト第8章）
第7回	仕事と生活の両立とキャリア	仕事と生活の両立によってキャリア継続を支える法制度や、企業の具体的な支援策を理解する。（テキスト第9・10章）
第8回	ワーク・ライフ・バランスと働き方改革	ワークキャリアとライフキャリアの調和の問題、働き方改革の現状や課題について考える。（テキスト第7章）
第9回	多様な人材を活かす	多様な人材を活かす、ダイバーシティ経営について学ぶ。（テキスト第5章）
第10回	正社員の多元化とそのキャリア	正社員の働き方の現状、限定正社員等多元化の動向、勤務地政策の現状について学ぶ。（テキスト第9章）
第11回	非正規労働者のキャリア開発	パート、派遣などの非正規労働者のキャリア開発の現状と課題を知る。（テキスト第11章）
第12回	管理職と専門職	組織内での昇進や、専門性を追求するキャリアの存在とその違いを理解する。
第13回	職場の問題への対処	ブラック企業、ハラスメントなど職場の問題への対処について知る（テキスト第12章）
第14回	総括	講義の総括、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。
事前にテキスト（教科書）や資料に目を通して授業に臨んでください。また、キャリア開発に関する企業事例やトピックスの収集も行ってください。

【テキスト（教科書）】
教科書は、武石恵美子『キャリア開発論－自律性と多様性に向き合う（第2版）』（中央経済社）です。テキストを参照しながら授業を進めます。

【参考書】
それぞれの授業で取り上げるテーマに関連して、適宜参考文献を紹介します。関心のあるテーマがあれば、是非読んでください。

【成績評価の方法と基準】
評価は、期末試験結果60％と、平常点（授業への主体的な参加、ミニレポート等の提出やその内容）40％で行います。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
各回の内容は、進捗状況などに応じて、変更・調整する可能性があります。

【Outline (in English)】
【Course outline】 This course is intended that students understand how a personal business carrier is developed under the structural change of the economic society and the employment system. Students will learn how the circumstances surrounding careers are changing amid changes in the economy and society. This course covers such topics as career self-reliance, the diversity management, and work/life balance.
【Learning Objectives】 The learning objectives for this course are as follows:
① Acquire fundamental theories and knowledge about careers and be able to relate them to working life
② Explain the advantages and disadvantages of the Japanese employment system in the context of individual career development
③ Identify challenges in individual career development and understand methods to manage and resolve them
【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】 Final grade will be calculated according to the following process
Term-end examination(60%) and in-class contribution(40%).

MAN300MA（経営学 / Management 300）

組織行動論 II

古田　克利

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水4/Wed.4　｜　配当年次：3〜4年
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業概要：
組織行動論の基礎としてリーダーシップ論、人事評価論、組織文化論等の理論を学ぶ
授業の目的・意義：
組織行動論に関する基礎的な概念、理論を正確に説明し、それらにもとづき組織を分析し課題を抽出できるようになることを目指す

【到達目標】
・組織行動論に関する基礎的な概念、理論を正確に説明できる
・組織行動論に関する基礎的な概念、理論にもとづき組織を分析できる
・組織行動論に関する基礎的な概念、理論にもとづき変革を提案、実行できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義および講義内容に基づく個人演習とグループ討議を行います。
授業内での発表や質問等に対するフィードバックは原則当日の授業内に行います。
リアクションペーパーや課題等に対するフィードバックは翌授業回の冒頭に、全体に対して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	本講義の概要・目的・成績評価方法
第2回	マネジメント論（1）	自組織のマネジャーの役割を分析する
第3回	マネジメント論（2）	自組織のリーダーの行動を分析する
第4回	組織プロセス（1）	6つの戦術の視点から自組織の組織社会化の仕組みを分析する
第5回	組織プロセス（2）	自組織のメンタルモデルを分析する
第6回	組織行動の実際（1）	実際の組織行動についてディスカッションする
第7回	人材マネジメント（1）	自組織の職務特性を分析する
第8回	人材マネジメント（2）	自組織の人事評価の仕組みを分析する
第9回	人材マネジメント（3）	自組織のコンピテンシーを分析する
第10回	組織行動の実際（2）	実際の組織行動についてディスカッションする
第11回	課題解決演習（1）	自組織の課題について組織行動論の視点から分析する
第12回	課題解決演習（2）	自組織の課題解決について組織行動論の視点から検討する
第13回	課題解決演習（3）	組織行動論の視点から自組織の課題解決結果を発表する
第14回	まとめと試験	まとめと試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・事前資料による事前学習
・講義内容の復習
・各回の授業の準備学習・復習時間は各2時間、計4時間を標準とする

【テキスト（教科書）】
適宜、学習支援システム上にて配付します

【参考書】
適宜、学習支援システム上で紹介します

【成績評価の方法と基準】
授業内課題（配点60％）
期末レポート（配点40％）

【学生の意見等からの気づき】
グループワークやペアワークを積極的に取り入れたいと考えています

【学生が準備すべき機器他】
パソコンを持参してください

【Outline (in English)】
Course outline
This course covers fundamental theories of organizational behavior, focusing on leadership theory, performance appraisal theory, organizational culture theory, and related concepts.
Learning objectives
Can explain basic constructs and theories of organizational behavior.
Can analyze an organization based on the constructs and theories of organizational behavior.
Can identify organizational issues based on fundamental concepts and theories of organizational behavior.
Learning activities outside of classroom
Summarize the key issues in the lectures.
Analyze real business cases using the perspectives explained in the lectures.
Before/after each class, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.
Grading Criteria
In-class Assignment: 60%
Final report: 40%

MAN300MA（経営学 / Management 300）

アントレプレナーシップ論【2025年度以降入学生用】

北原　成憲

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：水2/Wed.2　｜　配当年次：3〜4年
備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞
授業コード：C5113
科目名：アントレプレナーシップ論
＜2024年度以前入学者＞
授業コード：C7270
科目名：アントレプレナーシップ論Ⅰ
※入学年度により授業コード・科目名が異なります

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
起業家精神（アントレプレナーシップ）とは、単に会社を興すことだけを指すのではありません。不確実な状況下で自ら問いを立て、旗を掲げ、周囲を巻き込みながら「決断」を積み重ねて価値を創造していく姿勢そのものです。
本講義では、数多くの新製品・新サービスの誕生に携わってきた株式会社マクアケの専門性執行役員/R&Dプロデューサー（講師）、および、最前線で活躍する起業家ゲストを招き、彼らが直面した「リアルな決断の場面」を模擬体験します。前半ではケーススタディを通じて決断の経験値を積み、後半では自らの「あったらいいな」を形にする商品企画と、他者の共感を生むプレゼンテーション手法を学びます。単なる知識の習得に留まらず、自身の内なる情熱をビジネスの形へと昇華させる「実践的な起業家マインド」の修得を目指します。

【到達目標】
①起業家が直面する課題と、それに対する意思決定のプロセスを理解できる。
②自身の原体験や興味関心から独自のビジネスアイデアを抽出し、言語化できる。
③N1インタビューを通じて顧客ニーズを捉え、アイデアを具体化できる。
④資金調達や仲間集めに必要な「共感を生むプレゼンテーション」の構成と技術を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
本講義は以下の3つのフェーズで進行します。
①「決断の疑似体験」フェーズ（第1回〜第6回）：講師やゲスト起業家による創業ストーリーを聴講。ターニングポイントとなった場面で「自分ならどうするか」をディスカッションし、決断の要諦を学びます。
②「アイデア具現化」フェーズ（第7回〜第10回）：自身の「あったらいいな」を起点に、N1インタビュー等の手法を用いて商品企画を磨き上げます。
③「共感と発信」フェーズ（第11回〜第14回）：企画を他者に伝え、応援を得るためのプレゼンテーション技術を学び、最終発表に向けてアウトプットを完成させます。
※毎授業後、気づきや今後解決したい課題を「感想文（リアクションペーパー）」として提出します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーションと「決断」の基礎	授業の進め方と評価方法の解説。講師（北原）の実務経験に基づき、起業家が直面する「決断」の基礎をディスカッション形式で学ぶ。
第2回	ゲスト講演に基づくケース：創業と志	ゲスト起業家の創業ストーリーをもとに、アイデアを事業に変える際の「最初の一歩」と、リスクを負ってでも挑戦する際の決断の軸について議論する。
第3回	ゲスト講演に基づくケース：逆境と軌道修正	ゲスト起業家の実体験をもとに、事業開始後の予期せぬ困難や計画変更（ピボット）の場面を検討。失敗を学びに変える「修正の決断」のプロセスを体験する。
第4回	ゲスト講演に基づくケース：組織と人材	ゲスト起業家の講演を通じ、採用やチームビルディングにおける葛藤を学ぶ。「ヒト」に関わる難しい意思決定において、何を優先すべきかをグループで考察する。
第5回	ゲスト講演に基づくケース：社会価値と成長	ゲスト起業家がビジネスを拡大させる段階で直面した決断を題材にする。利益と社会貢献のバランスなど、視座の高い意思決定のあり方を学ぶ。
第6回	ゲスト講演に基づくケース：多様な起業領域	地域課題の解決や社内起業など、独自の領域で旗を掲げる起業家の視点に触れる。多様な起業家たちの決断の共通項と相違点を整理し、自身のマインドを養う。
第7回	商品アイデアの創出	ヒット商品の共通項を解説。自身の「好きなこと」「不満」から商品アイデアを企画する。
第8回	N1インタビューの理解と実践	「売れる」アイデアにするための顧客インタビュー手法を学び、学生同士でインタビューを実践して商品アイデアを磨く。
第9回	商品アイデアのブラッシュアップ	インタビュー結果を反映した商品アイデアについて、学生同士で意見を交換しながらブラッシュアップする。
第10回	テストマーケティングの理解	市場性を検証する手法（Makuake等の活用含む）を解説。自身の企画をどう世に問うかのプランを立てる。
第11回	共感を呼ぶプレゼンテーション術	投資家や顧客、仲間の心を動かすためのストーリー構成や資料作成のポイントを講義する。
第12回	プレゼン資料のブラッシュアップ	学生同士でペアを組み、プレゼン内容を相互添削。授業後に最終レポート（商品アイデアのプレゼン資料）を提出。
第13回	講評と総括	提出された最終レポートへのフィードバック。優秀な最終レポート提出者の発表と、全体のまとめ。
第14回	最終プレゼンテーション大会	選出された数名の学生によるピッチ（発表）を実施。起業家精神を社会でどう活かすかを総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日頃から新聞や雑誌、インターネットに目を通し、どのような商品が、どのような人に人気なのか？　その商品をどの企業が、どのような意図やプロセスで生み出したのか？　なぜその商品はヒットしたのか？　など、商品が生まれるプロセスやヒットの背景について深く考える練習をしてください。本授業の準備学習・復習時間はそれぞれ2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
中山亮太郎「日本最大級 Makuake が仕掛ける! クラウドファン ディング革命 面白いアイデアに1億円集まる時代」
坊垣佳奈「Makuake 式『売れる』の新法則」
小霜和也「ここらで広告コピーの本当の話をします。」
藤田晋「渋谷ではたらく社長の告白」
エリック・リース「リーンスタートアップ」
その他、授業の参考資料として示すものを参照してください。

【成績評価の方法と基準】
①平常点（毎回の感想文提出）：40%
講義内容への深い考察、および「自分ならどう決断するか」という主体的な姿勢を評価します。
②最終レポート（商品アイデアのプレゼン資料）：60%
アイデアの独自性、顧客ニーズの捉え方、アイデアに至った切り口のストーリー、プレゼンテーションとしての共感性・説得力を評価します。

【学生の意見等からの気づき】
学生の理解度を考慮しながら、対話の機会を積極的に提供します。

【学生が準備すべき機器他】
資料のアップロードや毎回の質問への回答などには、授業支援システム「Hoppii」を使用します。プレゼン資料作成やリサーチのため、PC、タブレット等のデバイスを準備してください。

【その他の重要事項】
実務経験として、これまで 48,000 件（2025年12月末時点）以上の新製品・新サービスの誕生をサポートしてきた、株式会社マクアケの専門性執行役員/R&Dプロデューサーによる授業です。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Entrepreneurship is not just about starting a company; it is the mindset of identifying problems, taking initiative, and making a series of "decisions" to create value under uncertain conditions.
In this course, the lecturer — an R&D producer involved in the birth of numerous innovative products — and various guest entrepreneurs will present real-world "critical decision-making" scenarios. The first half of the course focuses on simulating these decisions through case studies based on the guests' actual startup stories. Students will engage in group discussions to explore what actions they would take in such situations.
The second half shifts to a hands-on phase where students develop their own "I wish this existed" product ideas. Through N1 interviews and the development of a persuasive presentation, students will learn how to gain empathy and support from others. This course aims to cultivate a practical entrepreneurial spirit by bridging the gap between personal passion and business realization.
【Learning Objectives】
The objective of this lecture is to understand the process of transforming an idea into a business and to develop the mindset required for entrepreneurial decision-making.
1. Understand the challenges entrepreneurs face and the logic behind their decision-making processes.
2. Be able to extract and verbalize original business ideas based on personal experiences and interests.
3. Refine product ideas through "N1 interviews" to capture specific customer needs.
4. Master the structure and techniques of "empathy-driven storytelling" required for fundraising and building partnerships.
【Learning activities outside of classroom】
Students are encouraged to regularly read newspapers, magazines, and follow digital trends to observe what products are popular and why. Always ask yourself, "What would I do if I were the founder of this service?" and "How can I improve this inconvenience?" Please spend a standard of two hours for preparation and two hours for review for each lecture.
【[Grading Criteria / Policy】
The grading will be based on the following percentage:
・Class Participation &Reflection Papers (40%): Evaluation of the depth of insight in weekly reflections and the proactive stance in the "decision-making" discussions.
・Final Report / Presentation Deck (60%): Evaluation of the originality of the idea, understanding of customer needs, and the persuasiveness/empathy of the presentation.
The total score for the grading is 100 points, and a score of 60 points or higher is considered passing.

SOS300MA（その他の社会科学 / Social science 300）

職業キャリア政策論

岩月　真也

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：水4/Wed.4　｜　配当年次：3〜4年
その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業の目的は、職業に関する基礎的な知識を身につけ、職業と社会・労働市場・企業・個人との関係について理解した上で、個別の職業に関する国際比較を含む情報収集や意見交換を通じて、今後の職業キャリアについて考えることです。

【到達目標】
以下を到達目標とします。
①「職業」に関する基礎的な知識や考え方を理解すること
②「職業」と社会・労働市場・企業・個人との関係を理解すること
③個別の「職業」や「職業キャリア」に関する検討や国際比較の観点を通じて、今後の職業キャリアに向けての気づきや示唆を得ること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP6」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
①初回はオンライン型、それ以外は原則として対面方式の授業を予定しています。
②毎回学習支援システムに授業の資料（PDFファイル）を、授業前にアップします。資料をご覧いただきながら授業を受講してください（資料は投影しますが、紙では配布しませんので、ご自身で打ち出していただくか、当日ノートパソコン上でご覧いただけるようにご準備ください）。
③オンライン型の回については、ZoomのURLを学習支援システムでご案内しますので、事前にご確認ください。当日は授業時間の５分前に接続可能な状況としますので、時間までにオンラインでご入室ください。
④原則として毎回の授業で、確認テスト・リアクションペーパーもしくは課題レポートの提出を求めます。課題レポートは2回程度の提出を予定しています。
⑤確認テスト・リアクションペーパーや課題レポートに対して、授業の中でフィードバックを行います。
⑥受講の状況などによって、授業計画を一部変更することがあります。学習支援システムで告知しますので、ご確認いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション（同時双方向型）	①授業のオリエンテーション ②職業についてのイントロダクション
第2回	日本的雇用システムと職業	①日本的雇用システムの現状と課題 ②新卒採用と職業
第3回	賃金制度と職業	①賃金制度の仕組み ②国際比較
第4回	仕事の仕組みと職業	①仕事の仕組み ②国際比較 ③課題レポート１の説明
第5回	労働時間制度と職業	①労働時間制度の類型 ②実態と課題
第6回	AI活用と職業	①影響を受ける職業 ②AI導入後の変化 ③国際比較
第7回	若年者と職業	①採用 ②離職 ③世代間の相違
第8回	ジェンダーと職業	①職業選択におけるジェンダーの影響 ②女性のキャリアについて考える
第9回	高齢者と職業	①定年、継続雇用 ②人的資源管理
第10回	ダイバーシティと職業	①雇用類型 ②技能実習制度 ③特定技能制度
第11回	職業人の講話〜公共的職業を事例として	①職業人の講話 ②意見交換
第12回	職業の国際比較①〜米国教員を事例として	①米国教員の報酬制度 ②米国教員の労使関係
第13回	職業の国際比較②〜日本教員を事例として	①日本教員の報酬制度 ②日本教員の労使関係 ③課題レポート２の説明
第14回	授業の振り返り	①課題レポートに関するフィードバック ②これまでの授業の補足とポイントの振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
原則として毎回の授業で、確認テスト・リアクションペーパーの提出を求めます。
また、課題レポート（１５００字程度で２回提出を想定）については、授業時間外で作成いただくことになります。
本授業の準備・復習時間は、参考文献等の購読も含めれば４時間程度となります。

【テキスト（教科書）】
テキストは指定しません。授業の資料は授業前に学習支援システムにアップします。

【参考書】
授業のなかで必要に応じてご紹介いたします。

【成績評価の方法と基準】
課題レポート2本（各30％、計60％）、確認テスト・リアクションペーパーおよび質問・意見交換（40％）で評価します。
課題レポートに関しては、分析・考察の深さ、論理的な説明力、理解の正しさ、着眼点等のオリジナリティといった内容面および見出し・段落設定といった様式面を評価します。参考文献などから引用いただく場合は、引用部分と自身の考えについて記述した部分が、峻別できるように記述してください（それができているかどうかも評価対象とします）。
課題レポートは必ず期限までにご提出いただきますようお願いいたします（アクセス集中などの危険がありますので、リスクマネジメントとして、遅くとも締切前日までにはご提出ください）。
また、課題レポートは配点60点の範囲で評価・採点しますので、課題レポートの提出のみでは不可になる可能性が高いことにご留意ください。確認テスト・リアクションペーパー及び質問・意見交換に積極的にご参加ください。

【学生の意見等からの気づき】
職業の内容が体系的に理解できるように、授業の構成を検討したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
スマートフォン、パソコン等の情報機器。オンライン接続環境。

【Outline (in English)】
＜Course outline＞
In this class, students learn about the relationship between jobs and society, the labor market, companies, and individuals.
＜Learning Objectives＞
The goal is to have a basic knowledge of the profession and to be able to think about your future career.
＜Learning activities outside of classroom＞

The standard time for preparatory study and review for this class is 2 hours each.
＜Grading Criteria /Policy＞
Grading will be decided based on reports (60%), and verification tests and reaction papers (40%).

SOC300MA（社会学 / Sociology 300）

コミュニティ社会論Ⅱ

佐藤　恵

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：月3/Mon.3　｜　配当年次：2025年度以降入学者：3～42024年度以前入学者：2～4年
備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞
授業コード：C5115
科目名：コミュニティ社会論Ⅱ
＜2024年度以前入学者＞
授業コード：C5115
科目名：コミュニティ社会論Ⅱ
※入学年度によらず同一授業コード・科目名称

その他属性：〈他〉〈優〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人間の内面・行動と社会の存続・歴史とは、どのように相互に影響し合っているのでしょうか。本講義では、コミュニティ社会論Ⅰに引き続き、比較社会学の手法を通し、各テーマについて歴史比較や地域比較を行い、コミュニティと人間の日常生活に関する理解を深めます。コミュニティ社会論Ⅰでは、より大きな歴史の流れを把握しましたが、本講義では、より現代に近い時代を合わせ鏡にしていきます。

【到達目標】
（1）社会学の基本的視点・発想を説明でき、具体的事例に応用することができる。
（2）コミュニティにおけるさまざまな人間関係や社会現象の歴史的・地域的展開について理解を深め、他の時代・他の文化との比較を通じて、現代コミュニティと日常生活の現状・課題を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP1」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
対面授業を基本としますが、状況によって、オンライン授業（Zoom）を行う可能性もあります。
オンライン授業におけるZoomへのアクセス方法については、当日授業開始時刻までに、学習支援システムにてお伝えします。
講義形式の授業です。1つのテーマが数回分の授業に該当しますが、テーマごとの授業時間数は下記「授業計画」から変更する場合があります。また、状況に応じて、テーマの順番の入れ替え、テーマの差し替えの可能性もあります。関連事項も含め各テーマを深く掘り下げることで、地域社会の現状と課題についての理解を図ります。
毎回、授業での学びに対する、各自の気づきやコメントを、リアクションペーパー（小レポート）としてまとめ提出してもらいます。次回の授業時間中に、提出されたリアクションペーパーからいくつかを取り上げ、全体に対して講評・解説のフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション／子ども問題の歴史	授業の到達目標・テーマ、概要・方法／「最近の子どもは○○が問題だ」というまなざし方（社会病理的見方）の歴史を把握する
第2回	近代社会とアイデンティティ	アイデンティティ概念が常識化し、歴史理解もこの概念抜きにはできなくなっていることを理解する
第3回	権力支配の歴史と庶民の反動形成	ルサンチマンの概念を手がかりに、人間心理のアイロニーと歴史の関係を理解する
第4回	西欧における前近代・近代・現代の社会的性格	「社会とパーソナリティ構造」の理論に基づき西欧を通史的に理解する
第5回	第一次世界大戦後のドイツにおける「自由からの逃走」	第4回の知識を踏まえて、戦争・社会・人間心理の関係を深く理解する
第6回	資本主義の展開と欲望の模倣	資本主義が機能するには欲望の模倣が起動する社会的装置が必要であることを理解する
第7回	近代社会とエディプス・コンプレックス論	第6回の知識を踏まえて、近代社会とは何かをエディプス・コンプレックス論から理解する
第8回	コミュニティの存続と準拠集団	コミュニティ存続の条件を、比較的準拠集団と規範的準拠集団という概念から理解する
第9回	社会史的視点（1）	19世紀末から20世紀初頭の流行現象を取り上げ、制度史では着目しない、人びとの生活について理解する
第10回	社会史的視点（2）	20世紀中盤以降の流行現象を取り上げ、大衆社会の拡大について理解する
第11回	社会史的視点（3）	戦後の流行歌を取り上げ、大衆的生活の様相について理解する
第12回	社会史的視点（4）	血液型性格判別というステレオタイプの習俗を取り上げつつ、社会史理論をまとめる
第13回	歴史と社会の再生産	第12回の知識を踏まえて、社会的ステレオタイプが予言の自己成就として機能し、第5回で学んだ「社会とパーソナリティ構造」を再生産することを理解する
第14回	まとめ・総括	比較社会学の理論・概念を歴史理解に応用することについてまとめをする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習として重要なことは、1回1回の授業からコミュニティに応用可能な歴史的比較社会学の視点・発想を学び、考え方の筋道を把握した上で、それをしっかりと消化し、次回以降の授業のベースをつくることです。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
授業中に随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】
期末レポート（７０%）、平常点（３０%）。
期末レポートについては、社会学の基本的な視点・発想の理解度をふまえた上で、レポートの達成度の状況を基準とします。
平常点については、リアクションペーパー（小レポート）、受講態度の状況を基準とします。
欠席時間数が授業時間数の３分の１を超えた場合、もしくは、受講態度があまりにも悪い場合、不合格となります。
なお、欠席時間数については、自己管理でお願いします（個別の問い合わせには応じられません）。

【学生の意見等からの気づき】
身近な具体的事例を多く取り入れることで理解を促進するというスタイルを継続していきたいと思います。

【Outline (in English)】
（Course outline）

How our internal aspects and external behaviors affect, and at the same time are influenced by, the survival of society and history? This class follows the comparative sociology methodologies introduced in Community &Society I to further explore communities and people's daily life through historical and regional comparisons. In Community &Society I, we looked at the overall flow of human history. In this class, we focus on ages closer to our time as the subject of comparison.
（Learning Objectives）
At the end of the course, you are expected to A and B.
－ A. Explaining the basic viewpoints and ideas on sociology and applying them to the particular cases.
－ B. Explaining the problems and present situation of the modern communities and daily livings through the historical and regional comparisons by the deep understandings of communities.
（Learning activities outside of classroom）
You will be expected to prepare the next lecture through the deep understandings of sociological viewpoints after each class meeting. Your study time will be more than two hours each for before and after the classes.

（Grading Criteria /Policy）
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Term-end report: 70% ,in class contribution and short reports after each class meeting : 30%

SOC300MA（社会学 / Sociology 300）

家族論

笠原　良太

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：月2/Mon.2　｜　配当年次：2025年度以降入学者：3～42024年度以前入学者：2～4年
備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞
授業コード：C5116
科目名：家族論
＜2024年度以前入学者＞
授業コード：C5116
科目名：家族論
※入学年度によらず同一授業コード・科目名称

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
家族社会学の基本概念・理論を学んだうえで、ライフコースの視点から家族について考察する。ライフコースは単なる「人生」ではなく、生涯にわたる社会的役割・役割移行からなる軌道に関する社会的・文化的パターンである。家族の各メンバーの発達過程を捉え、社会と家族との関連をさまざまな角度から考察する。

【到達目標】
・家族社会学の基本概念・理論について理解する
・ライフコースの視点から、ライフステージごとの発達課題、人生移行のあり方を社会学的視点から捉えることができる
・家族に関する一次資料をもとに、各時代・地域の家族生活および家族戦略を読み解き、社会と家族との関連を多元的・動態的に捉える視角を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
本授業では、家族に関する映像資料や日記・生活文などを活用しながら、家族の実態にせまる。具体的なトピックスは、ライフステージの移行、発達、ライフイベントである。それぞれについて、性別、階層、地域、産業ごとの多様性に着目する。また、後半には現代家族の問題や多様な家族のあり方を理解し、「家族」を社会的な対象として捉える想像力を身につける。個人・グループワークの時間を設け、主体的な学を促進する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本講義の目的と概要、導入
第2回	家族とは何か	家族の成立、親族と家族
第3回	家族の歴史	どのように変化してきたのか
第4回	ライフコースの方法・道具	役割、年齢、コーホート、世代、重要な他者、人間行為力
第5回	社会変動と家族	時代状況の整理、多元的な時間枠組み、タイミング
第6回	子どもの教育と家族	子どもの社会化、階層・文化の再生産、子どもの貧困
第7回	青年の自立と家族	高学歴化、前期親子関係、世代間移動
第8回	配偶者選択と結婚	晩婚・非婚化、夫婦関係、離婚・再婚
第9回	親なり・子育て	少子化、性別役割分業、育児ネットワーク
第10回	仕事と家庭	生活時間、ワークライフバランス、家族の産業・地域特性
第11回	子どもの巣立ち	中年期親の発達課題、子どもの離家と空間的距離、定年退職
第12回	家族の介護と福祉	中期・後期親子関係、ケアとジェンダー、「老老介護」
第13回	高齢期を生きる	祖父母・孫関係、配偶者の死と未亡人期、人生の再検討
第14回	理解度の確認	まとめと理解度の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
適宜、指定されたものを遂行すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする

【テキスト（教科書）】
特になし。必要に応じて、資料を配布する

【参考書】
日本家政学会編, 2018,『現代家族を読み解く12章』丸善出版（ISBN：9784621303436）.
西野理子・米村千代編, 2019,『よくわかる家族社会学』ミネルヴァ書房（ISBN：9784623085514 ）.
嶋﨑尚子, 2008,『ライフコースの社会学』学文社（ISBN：9784762018022 ）.

【成績評価の方法と基準】
授業内のワークおよびリアクションペーパー（40％）、最終課題（授業内試験）（60％）

【学生の意見等からの気づき】
学生の意見を真摯に受け止め、学生の視線に立った授業を展開したい

【Outline (in English)】
First, we will learn the fundamental concepts and theories of family sociology and examine the family from a life course perspective.The life course is not merely a “life span,” but rather a social and cultural pattern concerning the trajectory of social roles and role transitions throughout one’s lifespan. We will capture the developmental processes of each family member and examines the relationship between society and the family from various angles.

SOC300MA（社会学 / Sociology 300）

プログラム評価論

安田　節之

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：月2/Mon.2　｜　配当年次：3〜4年
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ライフキャリア課題の解決を目的とした対人・コミュニティ援助のあり方について学び，プログラム評価(program evaluation)のスキルを習得する。※2027年度までの科目移行期間(旧：世代間交流論→新：プログラム評価論)については，世代間交流論の内容を踏まえた講義とする。

【到達目標】
①地域や社会の課題と連動したライフキャリアの捉え方や課題解決の方法が分かる。
②対人援助やコミュニティ援助を目的としたプログラムの開発と評価方法が分かる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
教育機関や企業組織そして地域コミュニティには，人材育成・組織開発・地域活性化などを目的とした多種多様な実践活動が存在します。そして対人援助やコミュニティ援助という形で実践されるこれらの活動について，説明責任（アカウンタビリティ）や科学的根拠(エビデンス)が求められる時代となっています。この講義では，主にライフキャリア課題の解決を目的とするプログラムを客観的に捉え，その成果や効果を評価し，実践の質向上につなげるための方法論を学びます。プログラムの価値や意義は，経済的指標などで捉えることが困難な個人や集団に対する教育的・心理的効果として現れることが多いため，社会調査・実験心理学・心理測定といった方法論との親和性が高くなります。この授業では、プログラムを客観化・可視化する手順をまず習得したうえで、具体例を通してプログラムを実証的に評価するための方法を学びます。演習としてグループワークを頻繁に行うため，他の学生との積極的なコミュニケーションが必要となります。またリアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し，授業のディスカッションに活かします。
※2027年度までの科目移行期間(旧：世代間交流論→新：プログラム評価論)については，世代間交流論の内容を踏まえた講義とする。よって各回で扱うライフキャリア課題や支援プログラムの例は世代間交流の内容を含むものとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業内容の説明、評価方法の説明など。
第2回	理論的背景①	学際的視点からライフキャリア課題について学ぶ①（事例：駄菓子屋）。
第3回	理論的背景②	学際的視点からライフキャリア課題について学ぶ②（課題学習文献：プログラム評価の学び）。
第4回	理論的背景③	ライフキャリア課題におけるソーシャルキャピタルの役割を検討する。
第5回	理論的背景④	アイデンティティとライフキャリア課題（事例：シェアハウス）。
第6回	理論的背景⑤	超高齢社会におけるライフキャリア課題（事例：高齢者施設）。
第7回	実践的課題	プログラム開発に向けたライフキャリア課題を検討する（演習：問題分析ワーク）。
第8回	プログラムの開発①	プログラムの実施背景と活動方針の検討（演習：ゴール設定）。
第9回	プログラムの開発②	ロジックモデルの枠組みからプログラムを捉える（演習：ロジックモデル開発①）。
第10回	プログラムの開発③	ロジックモデルを完成し運営方法を検討する（演習：ロジックモデル開発②）。
第11回	プログラムの評価①	プログラムのプロセスと成果・効果を検討する（演習：アウトカムとデータ収集計画の計画）。
第12回	プログラムの開発②	効果検証を行うための評価クエスチョンおよび評価デザインを考案する（演習：評価クエスチョンの設定)。
第13回	プログラム評価計画の発表	プログラムの開発および評価計画についての発表を行う。
第14回	まとめ	授業全体を振り返り、各課題を提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布資料の指定箇所を必ず読んだうえで授業に参加してください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
配布資料等を使用する。

【参考書】
「プログラム評価：対人・コミュニティ援助の質を高めるために(ワードマップ)」(安田節之，2011，新曜社)

【成績評価の方法と基準】
学期末試験(50％)，グループワーク（演習参加・発表・レポート作成）(30％)，授業への積極的な貢献度(出席状況を含む)(20％)を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
大教室における授業でも、コメント票作成などを通して学生の能動的参加を促すようにする。グループワークではより効率的な運営を行う。

【その他の重要事項】
※2027年度までの科目移行期間(旧：世代間交流論→新：プログラム評価論)については，世代間交流論の内容を踏まえた講義とする。

【Outline (in English)】
Theories and applications of program evaluation (PE) will be covered in this class, where students are expected to learn how problems and targeted issues are addressed, goals and programs are defined and developed, and appropriate methods of PE are applied in evaluating programs.

PSY300MA（心理学 / Psychology 300）

社会心理学

奥山　智天

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：水3/Wed.3　｜　配当年次：3〜4年
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会心理学とは、個人の「こころ」がどのように社会に影響を与え、また、社会がどのように個人の「こころ」に影響を与えるのかという、個人と社会の相互作用を探求する学問である。社会心理学を学ぶことで、身近な社会現象がどのようなメカニズムで生じ、人々の心理や行動にどのような影響を与えているのかを理解するための一つの視点を獲得することが可能となる。
本講義の目的は、①いくつかの重要な実証研究を通して社会心理学における主要な理論を学び、②それらの理論を用いて日常生活における社会現象を説明できる能力を身に付けることにある。
本講義では、まず社会的認知などの「個人レベル」の心理現象を学び、その後、社会的アイデンティティ理論などの主要概念について学びながら、個人の心理が「集団レベル」や「文化レベル」の社会現象とどのように結びついているのかというグループ・ダイナミックス（集団力学）について理解を深める。

【到達目標】
①様々な実証研究を通して、社会心理学の重要な理論が理解できるようになる。
②社会心理学の理論を用いて、身近な社会現象を説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式で行う。毎回の授業で、リアクションペーパー（小課題を含む）への回答を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	社会心理学とはどのような学問か
第2回	個人レベルの心理①：同調と社会的認知	人はなぜ同調するのか？
第3回	個人レベルの心理②：ステレオタイプと社会的推論	偏見や差別はなぜ生じるのか？
第4回	個人レベルの心理③：気分と感情	天気が良いと気分も良い？
第5回	個人レベルの心理④：態度と説得	どうすれば人を説得することができるのか？
第6回	集団レベルの心理①：対人行動	人はなぜ他者を助けるのか？
第7回	集団レベルの心理②：人間関係	人はなぜ人間関係に葛藤を抱えるのか？
第8回	集団レベルの心理③：組織と集団過程	どのようなリーダーが好まれるのか？
第9回	集団レベルの心理④：集団間葛藤	社会的アイデンティティ理論とは何か？
第10回	文化レベルの心理①：文化と自己	日本人とアメリカ人は何が違うのか？
第11回	文化レベルの心理②：文化と感情	アメリカでは名誉が大事？
第12回	文化レベルの心理③：文化と幸福	日本の幸福度はなぜ低い？
第13回	文化レベルの心理④：社会生態学的アプローチ	稲作が日本文化を作った？
第14回	期末試験	（対面で実施予定）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業後に講義内容の復習を行うこと。本授業の準備・復習時間は、各回４時間以上を標準とする。期末試験の前には講義内容を総復習し、試験対策を行うこと。

【テキスト（教科書）】
テキストは用いない。授業時間外に自主学習する際の参考書籍は【参考書】の欄を参照。なお、関連する学術論文は授業内で適宜紹介する。

【参考書】
初学者向け
・「社会心理学キーワード」、山岸俊男、有斐閣双書
より詳しく学びたい方向け
・「社会心理学概論」、北村英哉・内田由紀子編、ナカニシヤ出版

【成績評価の方法と基準】
・毎回の授業で課されるリアクションペーパーへの回答（40％）
・期末試験の成績（60％）

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更のため、該当しない。

【その他の重要事項】
授業の進捗状況によっては、講義内容が一部変更になる場合があります。

【Outline (in English)】
- This course introduces several key theories in social psychology through various empirical studies.
- At the end of the course, students are expected to understand key theories in social psychology and acquire skills to explain social phenomena using the theories.
- After each class, students will be expected to spend four hours understanding the course content. Before the final exam, students will be expected to spend sufficient time reviewing the course content.
- Your overall grade will be determined based on the in-class reflection paper (40%) and the final examination (60%).

SOC300MA（社会学 / Sociology 300）

文化経営論

山口　佳子

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：月3/Mon.3　｜　配当年次：2025年度以降入学者：3〜4 2024年度以前入学者：2〜4年
備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞
授業コード：C5119
科目名：文化経営論
＜2024年度以前入学者＞
授業コード：C5119
科目名：文化経営論
※入学年度によらず同一授業コード・科目名称

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
21世紀の成熟社会においては、「文化」が重要なファクターとなっています。ここで言う文化には、美術や音楽や演劇といった芸術文化はもとより、日常の生活文化や伝統文化、映画やアニメ、ファッションなどの若者文化やポピュラー文化、さらには街並みや景観まで含まれます。それらを文化的「資源」ととらえ、まちづくりやひとづくり、あるいは文化産業をはじめとするビジネスなどに活用していくための「マネジメント」のあり方を考えます。

【到達目標】
文化のしくみを知り、文化に働きかけ、新しい文化を創生していくために、「文化をマネジメント（経営）する」という視点を養います。より具体的には、以下のふたつの面からアプローチします。まず、日本の文化政策、自治体の文化行政、文化予算やファンドレイジングなど、文化を取り巻くさまざまな制度について理解します。続いて、文化産業、企業メセナ、文化関連のＮＰＯなど、文化を推進したり支援している多様な実践的活動について、その現状と課題、今後の可能性などを探ります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
毎回、テーマを決めた講義を実施する予定で、オンデマンドと対面のハイブリッド型で進行します。講義ではテーマについての感想・意見を書いてもらったりするほか、授業の理解についてや社会的な問題意識についての参加者の意識を確認しながら進めます。
なお、初回アンケートにより、授業テーマや授業形態に若干の変更があり得るほか、フィールドワークやゲスト講師による講義を行います。基本的に、講義資料の配布、課題の提出、フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。個別の質問等は随時教室内やメール等で受け付けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の目的と進め方について説明するほか、授業への関心についての簡単なアンケートを行う。
第2回	今日の文化政策	文化政策の現在の動向を概観する。
第3回	日本の文化政策のなりたち	芸術文化と文化政策の関わりを知る。文化政策の成り立ち、歴史について学ぶ。
第4回	オンライン/online	都市と芸術文化（創造都市）、まちづくり、地域活性化との関わりを学ぶ。
第5回	日本の文化政策④	「文化芸術基本法」をはじめ、文化の振興を支える法的基盤について学ぶ。
第6回	文化と経済①	文化を支える予算やファンドレイズについて理解する。
第7回	文化と経済②	文化産業／創造産業について、ゲストによる事例をもとに考察する。
第8回	企業による文化支援	企業メセナを中心に企業と文化の関係を探る。
第9回	フィールドワーク	公立セクターが主体となった芸術文化事業を自身の関心に応じて視察・見学する。
第10回	市民社会と文化①	「創造都市」という考えを中心に文化と社会の関わりについて、ゲストによる事例をもとに考察する。
第11回	市民社会と文化②	まちづくり・地域活性化の観点から文化的アプローチについて、ゲストによる事例をもとに考察する。
第12回	文化経営の可能性①	ファッションとサスティナビリティに関わる観点から、ゲストによる事例をもとに考察する。
第13回	文化経営の可能性②	授業を通じて学んだことをもとに、文化をマネジメントするための方法や今後の可能性について考える。
第14回	授業内試験	授業内試験を実施し、ここまでの学びを振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博物館や美術館、劇場などの文化施設、まちづくりのための各種プロジェクト、企業や自治体が開催するイベントなど、文化に関わる現場に実際に足を運び、そのマネジメントについてフィールド調査を行うことが求められます（その際、若干の入場料等が発生する可能性があります）。また、文化関連の企画立案や、そのプレゼンテーションのための準備の時間を必要とします。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは特に指定しませんが、授業中に文献を配布したり必要なリンク先を提示します。

【参考書】
授業中に適宜、参考図書および参考ウェブサイトを提示します。

【成績評価の方法と基準】
授業内の小レポートや課題レポートなどの平常点（４０％）と最終試験（６０％）から総合的に評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】
課題提出等に授業支援システムを使用するので、必ず登録を行ってください。

【Outline (in English)】
In the mature society of the 21st century, “culture” has become an important factor. Culture here includes not only artistic culture such as art, music, and theater, but also daily life culture, traditional culture, youth culture and popular culture such as movies, animation, and fashion, as well as cityscapes and landscapes. We consider them as cultural “resources” and think about how to “manage” them so that they can be utilized for town development, people development, and business, including cultural industries.
・Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
・Grading Criteria /Policies： Your overall grade in the class will be decided based on regular marks such as in-class short reports and assignment reports (40%) and the final examination (60%).

BSP100MA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

キャリア研究調査法入門（A-D組）

濱松　若葉

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：月4/Mon.4　｜　配当年次：1〜2年
備考（履修条件等）：キャリアデザイン学部A〜D組

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会調査は、現実の社会からデータを収集し、得られたデータの分析を通じて、社会現象を認識し理解する過程およびその方法です。本講義では、2 年生春学期の「キャリア研究調査法（質的調査、量的調査）」や、2 年生秋学期開始のゼミでの学習・卒業論文研究に向けた土台作りをします。

【到達目標】
本講義は、高校までに学習した基礎的数学や国語や社会の知識・技能を発展させて、社会調査の基本的な考え方と技能とをマスターします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
・毎回、具体的事例や練習問題やグループワークを通じて、自分が「社会調査ができる」ようになるよう、段階的に知識や視点を獲得していきます。
・授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。
・リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に生かします。
・各講義の最後は、当日に学んだ内容を復習する問題に取り組むこととします。
なお、受講生の皆さんの学習進捗状況や興味関心によっては、全員が到達目標たる学びを得られるよう、柔軟に進行方法をブラッシュアップしていきたいと考えています。こうした変更を行う場合は、授業内で別途提示・説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	どうして「調査法」を学ぶの？ ——料理を食べる人から作る人へ	データを読み取る力／調査力が、今後の大学での学び、就職活動・社会人生活でも重要であることを理解する。
第2回	中高の数学は大学でも大事！	中高で習った数学を応用する。概念を問う習慣を身につける。数える。平らに均す。均した散らばりを測る。
第3回	表からグラフを描いてみよう①—データの読み取り基礎	グラフの描出と記述のコツを修得する。仮説設定の重要性を理解する。 度数分布表、棒・帯・円グラフを作る。標準偏差を体感する。
第4回	表からグラフを描いてみよう②——データの読み取り基礎	「発達・教育」「ビジネス」「ライフ」に関連するデータを用いて、上記の練習を繰り返す。グラフを言葉で記述する。
第5回	政府統計を加工する	カット＆ペーストではなく、自分の視点で官庁統計のエクセル表を、自分の視点を定めて、グラフなどに加工する。グラフを用いて職業・産業の変化を記述・説明する。
第6回	仮説と変数ってなんだ？ ——アンケートを作る前に	仮説の構成：変数と因果関係、概念仮説と作業仮説、を理解する。30程度のデータセットを用いて、クロス表を手計算で作成する。
第7回	その質問文、答えやすい？ ——アンケートの作成	調査票の構成を理解する。質問文・選択肢の作り方を修得する。
第8回	量的調査のまとめ 中間試験	質的調査の概要 対象者サンプリング、調査票の配布・回収法、各種手法など、量的調査のまとめをする。質的調査の概要を確認する。 また、習得状況を確認するために授業内で中間試験を実施する。
第9回	インタビュー調査の準備／本番／文字おこし	依頼状・アポ取り、下調べ、質問項目案といった準備と、録音、ノート、文字起こし、インフォーマント・チェック、お礼状作成などの過程を学ぶ。
第10回	インタビューをやってみよう！	構造化・非構造化・半構造化等、ライフヒストリーのインタビュー練習を 3〜4 人で行なう。得られたデータを整理する。
第11回	インタビュー調査を用いて論文を書く——何をどう書けばいいの？	反訳データを KJ 法などで検討する。400 字の文章にまとめ、単なるエッセイや感想文に終わらない書き方の基礎を学ぶ。
第12回	観察法：その 1 ——目に見え聞こえることを書き取ってみる	目に見え聞こえることを書き取ってみる映像を見て、観察したことを書き取る。全体を見る、細部を見る、見たものから考えるという実践を通して観察法の基礎を学ぶ。
第13回	観察法：その 2——立ち位置が変わると発見も変わる	観察法：参与・非参与の方法について学ぶ。映像を自らの立ち位置＝役割をかえることによって対象の見え方が変化することを理解する。
第14回	試験・まとめと解説	総括、成果の公表の仕方、調査倫理も含め、質的調査のまとめをする。 2 年生春学期「調査法」クラス選択のイメージを抱きつつ、総括をする。 また、授業内で期末試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
習得状況に応じて、宿題や予習課題が出されることがあります。課題は適宜、授業内で提示・説明します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。毎回の授業で資料を配布します。

【参考書】
授業内で適宜提示・紹介します。
質的調査に関する研究者の立ち位置やフィールドワークの手法など、授業時間外により深く考え、自主的に学ぶ拠り所としては、下記の書籍を推薦します。
適宜、ご自身の研究関心に合わせてご一読ください。
佐藤郁哉『社会調査の考え方』（上・下）2016年
岸政彦　『生活史の方法　——人生を聞いて書く』2025年

【成績評価の方法と基準】
コメントシート(10%)、中間試験（20％）、期末試験（70％）

【学生の意見等からの気づき】
受講人数の多い授業ですので、グループワークの分け方を工夫しつつディスカッションを取り入れたいと考えています。
また、調査に必要なアプリケーションの操作方法について、ゆっくり丁寧に解説していくことで、PCスキルに対する苦手意識を皆が持たないような授業運営を心掛けていきます。

【学生が準備すべき機器他】
・資料配布のために、学習支援システムを用いる可能性があります。紙配布かデータ配布か、受講生の希望を参考に判断します。詳細は初回の授業で説明・相談します。
・回によっては、パソコンを使用することがあります。
こちらも、詳細は初回の授業で説明します。

【その他の重要事項】
授業が開講してから、連絡方法をお伝えする予定ですので、必要に応じて適宜アポイントを取ってください。
また、質問事項がある場合は、授業後しばらく時間を設けますので、その際に声をかけて頂いて問題ありません。
皆さんと共に学び、共に考える時間を大切にしていきたいと思います。
各回、遠慮なく、質問・授業のフィードバックをお寄せください。

【Outline (in English)】
Outline and objectives： Social research is the process and method of recognizing and understanding social phenomena through collecting data from real society and the analysis of the obtained data. This lecture will lay the foundation for the "Career Research Survey Methods (Qualitative and Quantitative Research)" in the spring semester of the second year and for the study in seminars and graduation thesis research that will begin in the fall semester of the second year.
Goal: To master the skills necessary for social research
Work to be done outside of class: Homework and preparatory assignments may be given. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading criteria: Mid-term exam (30%), final exam (70%)

BSP100MA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

キャリア研究調査法入門（E-H組）

大間　哲

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木4/Thu.4　｜　配当年次：1〜2年
備考（履修条件等）：キャリアデザイン学部E〜H組

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「キャリア研究調査」とは、キャリアデザイン学のために行う「社会調査」です。
「社会調査」とは、社会の現状を理解し、問題を解決するために行う「調査」です。私達が住んでいる「現実の社会」からデータを収集し、得られたデータの分析をすることで、社会現象を認識し理解することができます。社会調査とは、実際にはそのデータ収集と分析の過程およびその方法のことを示します。
当授業では、2 年生春学期の「キャリア研究調査法（質的調査、量的調査）」や、2 年生秋学期開始のゼミでの学習・卒業論文研究に向けた土台作りをします。

【到達目標】
当授業は、高校までに学習した基礎的な数学や国語や社会の知識・技能を発展させて、社会調査の基本的な考え方と技能とをマスターします。
最終的には、みなさんが自分で「社会調査ができる」ようになることを目標とします。そのために、量的調査及び質的調査の用語や意義・意味を理解し、調査を計画・設計し、実際にその手法を実践できるようになることがゴールです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
（学期の途中で変更になる場合は、別途提示します。）
・毎回、具体的事例や練習問題やグループワークを通じて、自分が「社会調査ができる」ようになるよう、段階的に知識や視点を獲得していきます。
・授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行うと共に、授業内で紹介し、さらに深い議論に生かします。
・各講義では、当日に学んだ内容に関する問題（エクササイズ）に取り組みます。
・必修の大教室の授業ですが、極力教員による一方的な講義ではなく、学生と教員の双方向のコミュニケーションができる授業を目指します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	社会調査法とは どうして「調査法」を学ぶのか？	・社会の様子やデータを読み取る力「調査力」が、今後の大学での学び、就職活動、社会人生活、ひいては安心・安全な生涯を送るためにも重要であることを理解する。
第2回	「数字」という言葉を使ってまとめる 〜中高で習った数学を使って数字を眺めてみる〜	・中高で習った数学を思い出し、数える。平らに均す。均した散らばりを測ることを知る。 ・概念を問う習慣を身につける。 ※「数字」も「ことば」の一種なので、「数字」を過度に恐れる必要はありません。
第3回	表からグラフを描く① 〜データの読み取り基礎〜	・グラフの描出と記述のコツを修得する。 ・仮説設定の重要性を理解する。 ・度数分布表、棒・帯・円グラフを作る。標準偏差を「体感」する。 ※体感とは、数字・文字的な理解ではなく、感じてみることです。
第4回	表からグラフを描く② 〜データの読み取り基礎〜	・キャリアデザインに関連するデータを用いて、上記の練習を繰り返す。 ・いろいろなグラフの種類を知る。 ・グラフを言葉で記述し、仮説を考える。
第5回	信頼できるデータを使う 〜政府統計を利用する〜	・政府（官庁）統計という信頼できるデータを使い、グラフを作ってみる。（他人が作った既存のグラフをコピペするのではなく、政府統計のエクセルなどの表を自分の視点を定めて、グラフなどに加工する。） ・グラフを用いて、職業・産業や教育の変化を記述・説明する。
第6回	「問い」⇒「仮説」⇒「調査」 仮説と変数とは？ 〜アンケートを作る前に〜	・グラフの記述⇒仮説を立てる。 ・仮説の構成：変数と因果関係、理論仮説（概念仮説）と実証仮説（作業仮説）を理解する。 ・仮説を検証するための調査設計を学ぶ。
第7回	アンケートの作り方 〜その質問文は、答えやすいか？ 〜	・調査票（アンケート）とは何か、調査票の構成を理解する。 ・質問文・選択肢の作り方を修得する。
第8回	量的調査のまとめと社会調査にとって大切なこと 〜公正であることと科学的であること〜	・第1回〜前回まで学んだ、量的調査について、復習し、各回の学習内容を結び付けて理解する。 ・社会調査にとって大切な「公正」と「科学的」ということについて復習する。
第9回	量的調査の分析 質的調査への橋渡し	・因果関係と相関関係について学び、量的調査の分析方法について知る。 ・量的調査について全体を俯瞰的に振り返る。 ・量的調査と質的調査を比較し、質的調査の特徴を学ぶ。
第10回	質的調査の導入 インタビューとは	・質的調査について、導入的学習をする。 -質的調査で大切なこと -質的研究とは -質的研究の具体的な方法 ・インタビュー調査について学ぶ。 -インタビューとは -インタビューの形式（構造化・半構造化・非構造化） -インタビューの作法（良い聞き手になるには？） ・ライフヒストリーインタビューについて知る。

第11回	より良いインタビューの為に ～質問を深める～	・インタビュー調査について全体の流れ学ぶ。 -準備：依頼状・アポ取り、下調べ、質問項目案作成 -実査：録音、フィールドノート記述 -終了後：文字起こし、インフォーマント・チェック、お礼状作成等 ・質問を深めるためのコツを学ぶ。 などの過程を学ぶ。 構造化・非構造化・半構造化等、ライフヒストリーのインタビュー練習を 3～4 人で行なう。 得られたデータを整理する。
第12回	インタビュー調査をまとめる～質的研究の分析の入り口～	・録音、文字起こし等の実質的な行い方を学ぶ。 ・多くの情報を含む「リッチデータ」をKJ法を用いて分析する方法を学ぶ。 ・KJ法を実際に行ってみる。
第13回	観察法－目に見えることを書きとる ～キャリア選択のシーンを観察する～	・参与観察・非参与観察の方法について学ぶ。 ・映像を見て、観察したことを書き取る。 ・全体を見る、細部を見る、見たものから考えるという実践を通して観察法の基礎を学ぶ。 ・メモを取る実習をしてみる。 そこからフィールドノートに纏める方法について知る。
第14回	調査倫理 キャリアデザインにとって最も大切なこと	・公正であることの大切さを学ぶ。 ・調査倫理について学ぶ。 ・総括として、キャリアデザインにとって最も大切なことは何かを確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・宿題や軽い予習課題が出されることがあります。また、提出必須の課題も出されることがあります。
・提出必須のものは、未提出や遅延しての提出の場合、減点の対象になります。
・そのほかに、提出自由課題が出されることもあります。その場合提出をすれば加点されます。
・当授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業中に指示

【参考書】
・『はじめての社会調査』三井さよ 他 著 世界思想社 (2023)
・『学生・社会人のための情報リテラシー入門』大間 哲 著 カットシステム（2025)
・法政大学『学習支援ハンドブック』http://www.hoseikyoiku.jp/lf/（法政大学教育開発・学習支援センター）のメニューより「学習支援ハンドブック」を選択。（ダウンロードをしておく必要はないが、授業時にパソコンから参照できるように、一度見つけて確認をしておくこと）
その他は、授業中に指示

【成績評価の方法と基準】
中間試験（25％）、期末試験（55％）、課題等（授業への参画・平常点を含む）（20％）
基本的に、テストの得点と授業への参画で成績が決まります。
授業への「参画」とは、出席だけをしていればよいということではありません。授業中での積極的な反応、発信（質問やリアクションペーパーへの記述内容も含む）、課題の提出等です。
また、提出の義務のない自由提出課題を出されることがあります。その場合、自由提出課題の得点は加算点となります。

【学生の意見等からの気づき】
「『社会調査？？？』ギモンばかりで始まった授業でしたが、身近なテーマを扱ってくださったり山手線ゲーム（一人ひとりが『お題』に沿って短く発言をする時間）などで積極的に授業に参加でき、とても自分事として多くのことを学ぶことができました」
「自分が考える視点と他人の視点では異なり、他の人の意見も聞けたことがとても印象に残りました」
「先生の人柄が現れていて、とっても楽しかったです」
（以上、リアクションペーパーより）
＝＝＝
特に、多くの学生から好評だった、全員が発言し互いの意見を聞く時間（山手線ゲーム）を今後も実施したい。
大人数の必修クラスだが、極力全員が「楽しく」学べるように工夫していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
エクセル（等の表計算ソフト）が使えるパソコン・タブレット等の機器

【その他の重要事項】
・当授業では、進度によりシラバスの予定から授業日程が多少前後する可能性があります。その場合は都度授業中に指示します。
・当授業は、中間試験と期末試験を行います。実施日程等については、授業中に指示します。
・当授業においては、プロンプト（AIに対する指示文）を明示することを条件に、生成AIの使用を認めます（テスト時等教員が禁止した場合を除く）。例えば、課題等に生成AIを使用した出力を含める場合には、提出する課題の他に、「プロンプトは以下のように記述し、以下のように出力を得た」等として、書いたプロンプトと生成AIの出力自体も併せて提出しなくてはなりません。

【Outline (in English)】
[Course Overview]
Social research is a form of "investigation" conducted to understand the current state of society and address its issues. By collecting data from the "real world" and analyzing the obtained data, we can recognize and comprehend social phenomena. Social research refers to the processes and methods involved in data collection and analysis.
This course lays the foundation for learning in the second-year spring semester course, "Career Research Methods (Qualitative and Quantitative Research)," as well as for seminars starting in the fall semester and leading to graduation thesis research.
[Learning Objectives]
This course aims to build upon the foundational knowledge and skills in mathematics, Japanese, and social studies learned up to high school, enabling students to master the basic concepts and techniques of social research.
The final goal is for students to become capable of independently conducting "social research." To achieve this, students will learn the terminology, significance, and meaning of quantitative and qualitative research, plan and design surveys, and practice these methods in real-world applications.
[Learning activities outside of classroom]
Homework and preparatory assignments may be given. Assignments designated as mandatory must be submitted on time, as late submissions or failure to submit may result in a deduction of points.
The standard preparation and review time for this course is 2 hours each per session.
[Grading Criteria /Policy]
Midterm Exam: 25%
Final Exam: 55%
Assignments (including participation and class performance): 20%

BSP100MA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

キャリア研究調査法入門（I-L組）

森山　洸

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：月4/Mon.4　｜　配当年次：1〜2年
備考（履修条件等）：キャリアデザイン学部I〜L組

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会調査は、現実の社会からデータを収集し、得られたデータの分析を通じて、社会現象を認識し理解する過程およびその方法です。本講義では、2年生春学期の「キャリア研究調査法（質的調査、量的調査）」や、2年生秋学期開始のゼミでの学習・卒業論文研究に向けた土台作りをします。

【到達目標】
本講義は、高校までに学習した基礎的数学や国語や社会の知識・技能を発展させて、社会調査の基本的な考え方と技能とをマスターします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
・毎回、具体的事例や練習問題やグループワークを通じて、自分が「社会調査ができる」ようになるよう、段階的に知識や視点を獲得していきます。
・授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。
・リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に生かします。
・各講義の最後は、当日に学んだ内容を復習する問題に取り組みます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	どうして「調査法」を学ぶの？ ——料理を食べる人から作る人へ	データを読み取る力／調査力が、今後の大学での学び、就職活動・社会人生活でも重要であることを理解する。
第2回	中高の数学は大学でも大事！	中高で習った数学を応用する。概念を問う習慣を身につける。数える。平らに均す。均した散らばりを測る。
第3回	表からグラフを描いてみよう①——データの読み取り基礎	グラフの描出と記述のコツを修得する。仮説設定の重要性を理解する。 度数分布表、棒・帯・円グラフを作る。標準偏差を体感する。
第4回	表からグラフを描いてみよう②——データの読み取り基礎	「発達・教育」「ビジネス」「ライフ」に関連するデータを用いて、上記の練習を繰り返す。グラフを言葉で記述する。
第5回	政府統計を加工する——カット＆ペーストではなく、自分の視点で	官庁統計のエクセル表を、自分の視点を定めて、グラフなどに加工する。グラフを用いて職業・産業の変化を記述・説明する。
第6回	仮説と変数ってなんだ？ ——アンケートを作る前に	仮説の構成：変数と因果関係、概念仮説と作業仮説、を理解する。30 程度のデータセットを用いて、クロス表を手計算で作成する。
第7回	その質問文、答えやすい？ ——アンケートの作成	調査票の構成を理解する。質問文・選択肢の作り方を修得する。
第8回	量的調査のまとめ 中間試験	対象者サンプリング、調査票の配布・回収法、各種手法など、量的調査のまとめをする。質的調査の概要を確認する。 また、習得状況を確認するために授業内で中間試験を実施する。
第9回	インタビュー調査の準備／本番／文字おこし	依頼状・アポ取り、下調べ、質問項目案といった準備と、録音、ノート、文字起こし、インフォーマント・チェック、お礼状作成などの過程を学ぶ。
第10回	インタビューをやってみよう！	構造化・非構造化・半構造化等、ライフヒストリーのインタビュー練習を 3〜4 人で行なう。得られたデータを整理する。
第11回	インタビュー調査を用いて論文を書く——何をどう書けばいいの？	反訳データを KJ 法などで検討する。400 字の文章にまとめ、単なるエッセイや感想文に終わらない書き方の基礎を学ぶ。
第12回	観察法：その１——目に見え聞こえることを書き取ってみる	映像を見て、観察したことを書き取る。全体を見る、細部を見る、見たものから考えるという実践を通して観察法の基礎を学ぶ。
第13回	観察法：その２——立ち位置が変わると発見も変わる	観察法：参与・非参与の方法について学ぶ。映像を自らの立ち位置＝役割をかえることによって対象の見え方が変化することを理解する。
第14回	期末試験・まとめと解説	成果の公表の仕方、調査倫理も含め、質的調査のまとめをする。2 年生春学期「調査法」クラス選択のイメージを抱きつつ、総括をする。 また、授業内で期末試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
宿題や予習課題が出されることがあります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。毎回の授業で資料を配布します。

【参考書】
より授業での学びを深めたい人は、以下の本を読むことをお勧めします。
盛山和夫（2004）『社会調査法入門』有斐閣.
佐藤郁哉（2015）『社会調査の考え方［上］』東京大学出版会.
特に以下は新書なので読みやすいと思います。
上野千鶴子（2018）『情報生産者になる』筑摩書房.

【成績評価の方法と基準】
中間試験（30％）、期末試験（70％）

【学生の意見等からの気づき】
本講義は、教員による一方向的な講義にとどまらず、学生への問いかけ、グループワーク、Excelを用いた簡単な統計実習、オンラインツールを活用したKJ法などを取り入れ、できるだけ学生の能動的な参加を促すアクティブ・ラーニング形式で実施します。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布や出席確認等のために、積極的に学習支援システムを用います。
スマートフォンやパソコンの利用については授業中に説明します。

【その他の重要事項】
質問事項がある場合は、授業後に声をかけていただいて構いません。
各回、遠慮なく、質問・授業のフィードバックをお寄せください。

【Outline (in English)】
【Course outline】 Social research is the process and methodology of collecting data from real-world society and analyzing it to recognize and understand social phenomena. This course serves as a foundation for students preparing for the "Career Research Methods course (qualitative or quantitative research)" in the spring semester of second year, as well as for seminar-based learning and graduation thesis research starting in the fall semester of second year.
【Learning Objectives】 This course builds upon the foundational knowledge and skills in mathematics, language, and social studies acquired in high school, enabling students to master the fundamental concepts and techniques of social research.
【Learning activities outside of classroom】 Homework and preparation assignments may be given. Students are expected to spend approximately two hours on both preparation and review for each class session.
【Grading Criteria /Policy】Grades will be determined based on a midterm exam (30%) and a final exam (70%).

BSP100MA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

キャリア研究調査法入門（M-P組）

大倉　韻

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木4/Thu.4　｜　配当年次：1〜2年
備考（履修条件等）：キャリアデザイン学部M〜P組

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会調査は、現実の社会からデータを収集し、得られたデータの分析を通じて、社会現象を認識し理解する過程およびその方法です。本講義では、2年生春学期の「キャリア研究調査法（質的調査、量的調査）」や、2年生秋学期開始のゼミでの学習・卒業論文研究に向けた土台作りをします。

【到達目標】
本講義は、高校までに学習した基礎的数学や国語や社会の知識・技能を発展させて、社会調査の基本的な考え方と技能とをマスターします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
毎回、具体的事例や練習問題やグループワークを通じて、自分が「社会調査ができる」ようになるよう、段階的に知識や視点を獲得していきます。
授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。
各講義の最後に、当日に学んだ内容を復習する問題に取り組んでもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	どうして「調査法」を学ぶの？ ——料理を食べる人から作る人へ	データを読み取る力／調査力が、今後の大学での学び、就職活動・社会人生活でも重要であることを理解する。
第2回	中高の数学は大学でも大事！	中高で習った数学を応用する。概念を問う習慣を身につける。 数える。 平らに均す。均した散らばりを測る。
第3回	表からグラフを描いてみよう①——データの読み取り基礎	グラフの描出と記述のコツを修得する。仮説設定の重要性を理解する。 度数分布表、棒・帯・円グラフを作る。標準偏差を体感する。
第4回	表からグラフを描いてみよう②——データの読み取り基礎	「発達・教育」「ビジネス」「ライフ」に関連するデータを用いて、上記の練習を繰り返す。グラフを言葉で記述する。
第5回	政府統計を加工する——カット＆ペーストではなく、自分の視点で	官庁統計のエクセル表を、自分の視点を定めて、グラフなどに加工する。 グラフを用いて職業・産業の変化を記述・説明する。
第6回	仮説と変数ってなんだ？ ——アンケートを作る前に	仮説の構成：変数と因果関係、概念仮説と作業仮説、を理解する。30程度のデータセットを用いて、クロス表を手計算で作成する。
第7回	その質問文、答えやすい？ ——アンケートの作成	調査票の構成を理解する。質問文・選択肢の作り方を修得する。
第8回	量的調査のまとめ	対象者サンプリング、調査票の配布・回収法、各種手法など、量的調査のまとめをする。
第9回	中間テスト・質的調査の概要	中間試験を実施する。質的調査の概要を確認する。
第10回	インタビューをやってみよう！	構造化・非構造化・半構造化等、ライフヒストリーのインタビュー練習を3〜4人で行なう。得られたデータを整理する。
第11回	インタビュー調査を用いて論文を書く——何をどう書けばいいの？	反訳データをKJ法などで検討する。400字の文章にまとめ、単なるエッセイや感想文に終わらない書き方の基礎を学ぶ。
第12回	観察法：その１——目に見え聞こえることを書き取ってみる	全体を見る、細部を見る、見たものから考えるという実践を通して観察法の基礎を学ぶ。
第13回	観察法：その2——立ち位置が変わると発見も変わる	観察法：参与・非参与の方法について学ぶ。映像を自らの立ち位置＝役割をかえることによって対象の見え方が変化することを理解する。
第14回	学期末テスト・まとめと解説	期末試験を実施する。授業の振り返りをおこない、次年度以降の学習へと接続する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
宿題や予習課題が出されることがあります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。毎回の授業で資料を配布します。

【参考書】
マシュー・J.サルガニック,2019,『ビット・バイ・ビット – デジタル社会調査入門』有斐閣.
原純輔,2016,『社会調査　しくみと考えかた』左右社.

【成績評価の方法と基準】
中間試験（30％）、期末試験（70％）

【学生の意見等からの気づき】
留学生など日本語を母語としない学生のために、難しい用語についてはルビや英語表記などを記載する。

【学生が準備すべき機器他】
表計算やグラフの作成をおこなうことがあるためパソコンを持参するのが望ましいが、必須ではない。パソコンを使用しない場合は電卓やスマホの電卓アプリを用意しておくこと。

【Outline (in English)】
[Course outline]
Social survey is a process and method to understand social phenomena by collecting data from real society and analyzing the obtained data. In this lecture, we will make a foundation for research on graduation thesis and learning in seminars after the second semester, such as “Career research survey method (qualitative and quantitative survey)” courses.
[Learning Objectives]
In this course, students will master the basic concepts and skills of social research by developing their knowledge and skills in basic mathematics, Japanese and social studies that they have learned up to high school.
[Learning activities outside of classroom]
You may be given homework and prep assignments. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
[Grading Criteria /Policy]

Mid-term exam (30%), final exam (70%)

SOC200MA（社会学 / Sociology 200）

キャリア研究調査法（質的調査）

佐藤　厚

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：火4/Tue.4　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：キャリア研究調査法入門を修得済の学生のみ履修可能
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会調査は、現実の社会からデータを収集し、得られたデータの分析を通して、社会現象を認識し理解する過程およびその方法です。
社会調査によって社会的なリアリティを把握することで、わたしたちは、これまで見えていなかったことに気づき、認識を豊かなものにすることができます。
本講義では、社会調査のうち、統計的計算や数字に頼らない「質的調査」に焦点を合わせ、その各手法について学びます。

【到達目標】
質的調査の基礎について理解し、各手法を実践できるようになることを目標とします。
調査法は方法論ですので、さまざまな分野・対象への適用が可能です。授業での学びを通し、応用的定着として、各自が関心を持つ研究対象について、質的調査の方法を適用し、ゼミ論・卒論において質的な分析を行うことができるようになることをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業においては、質的調査の基本的学習を行いつつ、授業外の時間に、各手法を用いて調査実習を行ってもらいます。
各手法について説明を掘り下げつつ、実際に実践してみることを通して、質的調査についての理解・定着を図ります。
なお、課題等に対するフィードバック方法としては、授業時間内に講評・解説の時間を設けることとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の到達目標・テーマ、概要・方法。
第2回	社会調査／質的調査について	社会調査とは。質的調査と量的調査の違い。
第3回	インタビュー法（1）	インタビュー法の解説。
第4回	インタビュー法（2）	インタビュー法の調査事例。
第5回	インタビュー法（3）	インタビュー法を用いたミニ実習発表会。
第6回	ライフストーリー法（1）	ライフストーリー法の解説。
第7回	ライフストーリー法（2）	ライフストーリー法の調査事例。
第8回	ライフストーリー法（3）	ライフストーリー法を用いたミニ実習発表会。
第9回	観察法（1）	観察法の解説。
第10回	観察法（2）	観察法の調査事例。
第11回	観察法（3）	観察法を用いたミニ実習発表会。
第12回	調査データの読解	調査データ読解上の注意。
第13回	発表会（1）	授業で学んだ手法のうち一つを選んで実習を行い、その成果についてレポート構想発表会を行う（問題意識の明確化を中心に）。
第14回	発表会（2）	授業で学んだ手法のうち一つを選んで実習を行い、その成果についてレポート構想発表会を行う（データの読解を中心に）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自、授業外の時間に調査実習を行い、発表会に備えます。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
授業中に随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】
提出課題（５０%）、平常点（５０%）。
提出課題については、質的調査の基本的な視点・発想の理解度をふまえた上で、課題の達成度の状況を基準とします。
平常点については、授業への参加・貢献度、受講態度の状況を基準とします。

【学生の意見等からの気づき】
ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション等、少人数の参加型授業という側面を重視していきたいと思います。

【キャリアデザイン学部より】
本科目を履修するためには「キャリア研究調査法入門」を修得済みであることが必要です。

【Outline (in English)】
【Outline and objectives】
This seminar focuses on qualitative methods in the career studies. It is structured as a survey course, exposing students to a range of practical issues rather than intensive training in a single approach.
【Goal】
The purpose of the seminar is twofold: First, to provide participants with a broad sense of qualitative research strategies. Secondly to write a short analytical essay and to give presentations for students.
【Work to be done outside of class】
Each student will conduct survey training outside of class to prepare for the presentation.
The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.
【Grading criteria】
Submission assignment (50%), normal score (50%).
The submitted assignments will be based on the achievement level of the assignments, based on the basic viewpoint of qualitative research and the degree of understanding of ideas.
The normal score is based on the degree of participation / contribution to the class and the attitude of attending the class.

SOC200MA（社会学 / Sociology 200）

キャリア研究調査法（質的調査）

濱中　義隆

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：金1/Fri.1　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：キャリア研究調査法入門を修得済の学生のみ履修可能
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会調査は、現実の社会からデータを収集し、得られたデータの分析を通して、社会現象を認識し理解する過程およびその方法です。
社会調査によって社会的なリアリティを把握することで、わたしたちは、これまで見えていなかったことに気づき、認識を豊かなものにすることができます。
本講義では、社会調査のうち、統計的計算や数字に頼らない「質的調査」に焦点を合わせ、その各手法について学びます。

【到達目標】
質的調査の基礎について理解し、各手法を実践できるようになることを目標とします。
調査法は方法論ですので、さまざまな分野・対象への適用が可能です。授業での学びを通し、応用的定着として、各自が関心を持つ研究対象について、質的調査の方法を適用し、ゼミ論・卒論において質的な分析を行うことができるようになることをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業においては、質的調査の基本的学習を行いつつ、授業外の時間に、各手法を用いて調査実習を行ってもらいます。
各手法について説明を掘り下げつつ、実際に実践してみることを通して、質的調査についての理解・定着を図ります。
なお、課題等に対するフィードバック方法としては、授業時間内に講評・解説の時間を設けることとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の到達目標・テーマ、概要・方法。
第2回	社会調査／質的調査について	社会調査とは。質的調査と量的調査の違い。
第3回	インタビュー法（1）	インタビュー法の解説。
第4回	インタビュー法（2）	インタビュー法の調査事例。
第5回	インタビュー法（3）	インタビュー法を用いたミニ実習発表会。
第6回	ライフストーリー法（1）	ライフストーリー法の解説。
第7回	ライフストーリー法（2）	ライフストーリー法の調査事例。
第8回	ライフストーリー法（3）	ライフストーリー法を用いたミニ実習発表会。
第9回	観察法（1）	観察法の解説。
第10回	観察法（2）	観察法の調査事例。
第11回	観察法（3）	観察法を用いたミニ実習発表会。
第12回	調査データの読解	調査データ読解上の注意。
第13回	発表会（1）	授業で学んだ手法のうち一つを選んで実習を行い、その成果についてレポート構想発表会を行う（問題意識の明確化を中心に）。
第14回	発表会（2）	授業で学んだ手法のうち一つを選んで実習を行い、その成果についてレポート構想発表会を行う（データの読解を中心に）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自、授業外の時間に調査実習を行い、発表会に備えます。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
授業中に随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】
提出課題（５０%）、平常点（５０%）。
提出課題については、質的調査の基本的な視点・発想の理解度をふまえた上で、課題の達成度の状況を基準とします。
平常点については、授業への参加・貢献度、受講態度の状況を基準とします。

【学生の意見等からの気づき】
ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション等、少人数の参加型授業という側面を重視していきたいと思います。

【キャリアデザイン学部より】
本科目を履修するためには「キャリア研究調査法入門」を修得済みであることが必要です。

【Outline (in English)】
【Outline and objectives】
This seminar focuses on qualitative methods in the career studies. It is structured as a survey course, exposing students to a range of practical issues rather than intensive training in a single approach.
【Goal】
The purpose of the seminar is twofold: First, to provide participants with a broad sense of qualitative research strategies. Secondly to write a short analytical essay and to give presentations for students.
【Work to be done outside of class】
Each student will conduct survey training outside of class to prepare for the presentation.
The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.
【Grading criteria】
Submission assignment (50%), normal score (50%).
The submitted assignments will be based on the achievement level of the assignments, based on the basic viewpoint of qualitative research and the degree of understanding of ideas.
The normal score is based on the degree of participation / contribution to the class and the attitude of attending the class.

SOC200MA（社会学 / Sociology 200）

キャリア研究調査法（質的調査）

佐藤　恵

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：木4/Thu.4　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：キャリア研究調査法入門を修得済の学生のみ履修可能
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会調査は、現実の社会からデータを収集し、得られたデータの分析を通して、社会現象を認識し理解する過程およびその方法です。
社会調査によって社会的なリアリティを把握することで、わたしたちは、これまで見えていなかったことに気づき、認識を豊かなものにすることができます。
本講義では、社会調査のうち、統計的計算や数字に頼らない「質的調査」に焦点を合わせ、その各手法について学びます。

【到達目標】
質的調査の基礎について理解し、各手法を実践できるようになることを目標とします。
調査法は方法論ですので、さまざまな分野・対象への適用が可能です。授業での学びを通し、応用的定着として、各自が関心を持つ研究対象について、質的調査の方法を適用し、ゼミ論・卒論において質的な分析を行うことができるようになることをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業においては、質的調査の基本的学習を行いつつ、授業外の時間に、各手法を用いて調査実習を行ってもらいます。
各手法について説明を掘り下げつつ、実際に実践してみることを通して、質的調査についての理解・定着を図ります。
なお、課題等に対するフィードバック方法としては、授業時間内に講評・解説の時間を設けることとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の到達目標・テーマ、概要・方法。
第2回	社会調査／質的調査について	社会調査とは。質的調査と量的調査の違い。
第3回	インタビュー法（1）	インタビュー法の解説。
第4回	インタビュー法（2）	インタビュー法の調査事例。
第5回	インタビュー法（3）	インタビュー法を用いたミニ実習発表会。
第6回	ライフストーリー法（1）	ライフストーリー法の解説。
第7回	ライフストーリー法（2）	ライフストーリー法の調査事例。
第8回	ライフストーリー法（3）	ライフストーリー法を用いたミニ実習発表会。
第9回	観察法（1）	観察法の解説。
第10回	観察法（2）	観察法の調査事例。
第11回	観察法（3）	観察法を用いたミニ実習発表会。
第12回	調査データの読解	調査データ読解上の注意。
第13回	発表会（1）	授業で学んだ手法のうち一つを選んで実習を行い、その成果についてレポート構想発表会を行う（問題意識の明確化を中心に）。
第14回	発表会（2）	授業で学んだ手法のうち一つを選んで実習を行い、その成果についてレポート構想発表会を行う（データの読解を中心に）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自、授業外の時間に調査実習を行い、発表会に備えます。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
授業中に随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】
提出課題（５０%）、平常点（５０%）。
提出課題については、質的調査の基本的な視点・発想の理解度をふまえた上で、課題の達成度の状況を基準とします。
平常点については、授業への参加・貢献度、受講態度の状況を基準とします。

【学生の意見等からの気づき】
ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション等、少人数の参加型授業という側面を重視していきたいと思います。

【キャリアデザイン学部より】
本科目を履修するためには「キャリア研究調査法入門」を修得済みであることが必要です。

【Outline (in English)】
【Outline and objectives】
This seminar focuses on qualitative methods in the career studies. It is structured as a survey course, exposing students to a range of practical issues rather than intensive training in a single approach.
【Goal】
The purpose of the seminar is twofold: First, to provide participants with a broad sense of qualitative research strategies. Secondly to write a short analytical essay and to give presentations for students.
【Work to be done outside of class】
Each student will conduct survey training outside of class to prepare for the presentation.
The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.
【Grading criteria】
Submission assignment (50%), normal score (50%).
The submitted assignments will be based on the achievement level of the assignments, based on the basic viewpoint of qualitative research and the degree of understanding of ideas.
The normal score is based on the degree of participation / contribution to the class and the attitude of attending the class.

SOC200MA（社会学 / Sociology 200）

キャリア研究調査法（質的調査）

田中　研之輔

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：月3/Mon.3　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：キャリア研究調査法入門を修得済の学生のみ履修可能
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会調査は、現実の社会からデータを収集し、得られたデータの分析を通して、社会現象を認識し理解する過程およびその方法です。
社会調査によって社会的なリアリティを把握することで、わたしたちは、これまで見えていなかったことに気づき、認識を豊かなものにすることができます。
本講義では、社会調査のうち、統計的計算や数字に頼らない「質的調査」に焦点を合わせ、その各手法について学びます。

【到達目標】
質的調査の基礎について理解し、各手法を実践できるようになることを目標とします。
調査法は方法論ですので、さまざまな分野・対象への適用が可能です。授業での学びを通し、応用的定着として、各自が関心を持つ研究対象について、質的調査の方法を適用し、ゼミ論・卒論において質的な分析を行うことができるようになることをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業においては、質的調査の基本的学習を行いつつ、授業外の時間に、各手法を用いて調査実習を行ってもらいます。
各手法について説明を掘り下げつつ、実際に実践してみることを通して、質的調査についての理解・定着を図ります。
なお、課題等に対するフィードバック方法としては、授業時間内に講評・解説の時間を設けることとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の到達目標・テーマ、概要・方法。
第2回	社会調査／質的調査について	社会調査とは。質的調査と量的調査の違い。
第3回	インタビュー法（1）	インタビュー法の解説。
第4回	インタビュー法（2）	インタビュー法の調査事例。
第5回	インタビュー法（3）	インタビュー法を用いたミニ実習発表会。
第6回	ライフストーリー法（1）	ライフストーリー法の解説。
第7回	ライフストーリー法（2）	ライフストーリー法の調査事例。
第8回	ライフストーリー法（3）	ライフストーリー法を用いたミニ実習発表会。
第9回	観察法（1）	観察法の解説。
第10回	観察法（2）	観察法の調査事例。
第11回	観察法（3）	観察法を用いたミニ実習発表会。
第12回	調査データの読解	調査データ読解上の注意。
第13回	発表会（1）	授業で学んだ手法のうち一つを選んで実習を行い、その成果についてレポート構想発表会を行う（問題意識の明確化を中心に）。
第14回	発表会（2）	授業で学んだ手法のうち一つを選んで実習を行い、その成果についてレポート構想発表会を行う（データの読解を中心に）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自、授業外の時間に調査実習を行い、発表会に備えます。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
授業中に随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】
提出課題（５０%）、平常点（５０%）。
提出課題については、質的調査の基本的な視点・発想の理解度をふまえた上で、課題の達成度の状況を基準とします。
平常点については、授業への参加・貢献度、受講態度の状況を基準とします。

【学生の意見等からの気づき】
ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション等、少人数の参加型授業という側面を重視していきたいと思います。

【キャリアデザイン学部より】
本科目を履修するためには「キャリア研究調査法入門」を修得済みであることが必要です。

【Outline (in English)】
【Outline and objectives】
This seminar focuses on qualitative methods in the career studies. It is structured as a survey course, exposing students to a range of practical issues rather than intensive training in a single approach.
【Goal】
The purpose of the seminar is twofold: First, to provide participants with a broad sense of qualitative research strategies. Secondly to write a short analytical essay and to give presentations for students.
【Work to be done outside of class】
Each student will conduct survey training outside of class to prepare for the presentation.
The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.
【Grading criteria】
Submission assignment (50%), normal score (50%).
The submitted assignments will be based on the achievement level of the assignments, based on the basic viewpoint of qualitative research and the degree of understanding of ideas.
The normal score is based on the degree of participation / contribution to the class and the attitude of attending the class.

SOC200MA（社会学 / Sociology 200）

キャリア研究調査法（質的調査）

西村　純

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：月5/Mon.5　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：キャリア研究調査法入門を修得済の学生のみ履修可能
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会調査は、現実の社会からデータを収集し、得られたデータの分析を通して、社会現象を認識し理解する過程およびその方法です。
社会調査によって社会的なリアリティを把握することで、わたしたちは、これまで見えていなかったことに気づき、認識を豊かなものにすることができます。
本講義では、社会調査のうち、統計的計算や数字に頼らない「質的調査」に焦点を合わせ、その各手法について学びます。

【到達目標】
質的調査の基礎について理解し、各手法を実践できるようになることを目標とします。
調査法は方法論ですので、さまざまな分野・対象への適用が可能です。授業での学びを通し、応用的定着として、各自が関心を持つ研究対象について、質的調査の方法を適用し、ゼミ論・卒論において質的な分析を行うことができるようになることをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業においては、質的調査の基本的学習を行いつつ、授業外の時間に、各手法を用いて調査実習を行ってもらいます。
各手法について説明を掘り下げつつ、実際に実践してみることを通して、質的調査についての理解・定着を図ります。
なお、課題等に対するフィードバック方法としては、授業時間内に講評・解説の時間を設けることとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の到達目標・テーマ、概要・方法。
第2回	社会調査／質的調査について	社会調査とは。質的調査と量的調査の違い。
第3回	インタビュー法（1）	インタビュー法の解説。
第4回	インタビュー法（2）	インタビュー法の調査事例。
第5回	インタビュー法（3）	インタビュー法を用いたミニ実習発表会。
第6回	ライフストーリー法（1）	ライフストーリー法の解説。
第7回	ライフストーリー法（2）	ライフストーリー法の調査事例。
第8回	ライフストーリー法（3）	ライフストーリー法を用いたミニ実習発表会。
第9回	観察法（1）	観察法の解説。
第10回	観察法（2）	観察法の調査事例。
第11回	観察法（3）	観察法を用いたミニ実習発表会。
第12回	調査データの読解	調査データ読解上の注意。
第13回	発表会（1）	授業で学んだ手法のうち一つを選んで実習を行い、その成果についてレポート構想発表会を行う（問題意識の明確化を中心に）。
第14回	発表会（2）	授業で学んだ手法のうち一つを選んで実習を行い、その成果についてレポート構想発表会を行う（データの読解を中心に）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自、授業外の時間に調査実習を行い、発表会に備えます。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
授業中に随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】
提出課題（５０%）、平常点（５０%）。
提出課題については、質的調査の基本的な視点・発想の理解度をふまえた上で、課題の達成度の状況を基準とします。
平常点については、授業への参加・貢献度、受講態度の状況を基準とします。

【学生の意見等からの気づき】
ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション等、少人数の参加型授業という側面を重視していきたいと思います。

【キャリアデザイン学部より】
本科目を履修するためには「キャリア研究調査法入門」を修得済みであることが必要です。

【Outline (in English)】
【Outline and objectives】
This seminar focuses on qualitative methods in the career studies. It is structured as a survey course, exposing students to a range of practical issues rather than intensive training in a single approach.
【Goal】
The purpose of the seminar is twofold: First, to provide participants with a broad sense of qualitative research strategies. Secondly to write a short analytical essay and to give presentations for students.
【Work to be done outside of class】
Each student will conduct survey training outside of class to prepare for the presentation.
The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.
【Grading criteria】
Submission assignment (50%), normal score (50%).
The submitted assignments will be based on the achievement level of the assignments, based on the basic viewpoint of qualitative research and the degree of understanding of ideas.
The normal score is based on the degree of participation / contribution to the class and the attitude of attending the class.

SOC200MA（社会学 / Sociology 200）

キャリア研究調査法（質的調査）

鈴木　由真

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：火5/Tue.5　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：キャリア研究調査法入門を修得済の学生のみ履修可能
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会調査は、現実の社会からデータを収集し、得られたデータの分析を通して、社会現象を認識し理解する過程およびその方法です。
社会調査によって社会的なリアリティを把握することで、わたしたちは、これまで見えていなかったことに気づき、認識を豊かなものにすることができます。
本講義では、社会調査のうち、統計的計算や数字に頼らない「質的調査」に焦点を合わせ、その各手法について学びます。

【到達目標】
質的調査の基礎について理解し、各手法を実践できるようになることを目標とします。
調査法は方法論ですので、さまざまな分野・対象への適用が可能です。授業での学びを通し、応用的定着として、各自が関心を持つ研究対象について、質的調査の方法を適用し、ゼミ論・卒論において質的な分析を行うことができるようになることをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業においては、質的調査の基本的学習を行いつつ、授業外の時間に、各手法を用いて調査実習を行ってもらいます。
各手法について説明を掘り下げつつ、実際に実践してみることを通して、質的調査についての理解・定着を図ります。
なお、課題等に対するフィードバック方法としては、授業時間内に講評・解説の時間を設けることとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の到達目標・テーマ、概要・方法。
第2回	社会調査／質的調査について	社会調査とは。質的調査と量的調査の違い。
第3回	インタビュー法（1）	インタビュー法の解説。
第4回	インタビュー法（2）	インタビュー法の調査事例。
第5回	インタビュー法（3）	インタビュー法を用いたミニ実習発表会。
第6回	ライフストーリー法（1）	ライフストーリー法の解説。
第7回	ライフストーリー法（2）	ライフストーリー法の調査事例。
第8回	ライフストーリー法（3）	ライフストーリー法を用いたミニ実習発表会。
第9回	観察法（1）	観察法の解説。
第10回	観察法（2）	観察法の調査事例。
第11回	観察法（3）	観察法を用いたミニ実習発表会。
第12回	調査データの読解	調査データ読解上の注意。
第13回	発表会（1）	授業で学んだ手法のうち一つを選んで実習を行い、その成果についてレポート構想発表会を行う（問題意識の明確化を中心に）。
第14回	発表会（2）	授業で学んだ手法のうち一つを選んで実習を行い、その成果についてレポート構想発表会を行う（データの読解を中心に）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自、授業外の時間に調査実習を行い、発表会に備えます。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
授業中に随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】
提出課題（５０%）、平常点（５０%）。
提出課題については、質的調査の基本的な視点・発想の理解度をふまえた上で、課題の達成度の状況を基準とします。
平常点については、授業への参加・貢献度、受講態度の状況を基準とします。

【学生の意見等からの気づき】
ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション等、少人数の参加型授業という側面を重視していきたいと思います。

【キャリアデザイン学部より】
本科目を履修するためには「キャリア研究調査法入門」を修得済みであることが必要です。

【Outline (in English)】
【Outline and objectives】
This seminar focuses on qualitative methods in the career studies. It is structured as a survey course, exposing students to a range of practical issues rather than intensive training in a single approach.
【Goal】
The purpose of the seminar is twofold: First, to provide participants with a broad sense of qualitative research strategies. Secondly to write a short analytical essay and to give presentations for students.
【Work to be done outside of class】
Each student will conduct survey training outside of class to prepare for the presentation.
The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.
【Grading criteria】
Submission assignment (50%), normal score (50%).
The submitted assignments will be based on the achievement level of the assignments, based on the basic viewpoint of qualitative research and the degree of understanding of ideas.
The normal score is based on the degree of participation / contribution to the class and the attitude of attending the class.

SOC200MA（社会学 / Sociology 200）

キャリア研究調査法（質的調査）

池田　佳代

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：水1/Wed.1　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：キャリア研究調査法入門を修得済の学生のみ履修可能
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会調査は、現実の社会からデータを収集し、得られたデータの分析を通して、社会現象を認識し理解する過程およびその方法です。
社会調査によって社会的なリアリティを把握することで、わたしたちは、これまで見えていなかったことに気づき、認識を豊かなものにすることができます。
本講義では、社会調査のうち、統計的計算や数字に頼らない「質的調査」に焦点を合わせ、その各手法について学びます。

【到達目標】
質的調査の基礎について理解し、各手法を実践できるようになることを目標とします。
調査法は方法論ですので、さまざまな分野・対象への適用が可能です。授業での学びを通し、応用的定着として、各自が関心を持つ研究対象について、質的調査の方法を適用し、ゼミ論・卒論において質的な分析を行うことができるようになることをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業においては、質的調査の基本的学習を行いつつ、授業外の時間に、各手法を用いて調査実習を行ってもらいます。
各手法について説明を掘り下げつつ、実際に実践してみることを通して、質的調査についての理解・定着を図ります。
なお、課題等に対するフィードバック方法としては、授業時間内に講評・解説の時間を設けることとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の到達目標・テーマ、概要・方法。
第2回	社会調査／質的調査について	社会調査とは。質的調査と量的調査の違い。
第3回	インタビュー法（1）	インタビュー法の解説。
第4回	インタビュー法（2）	インタビュー法の調査事例。
第5回	インタビュー法（3）	インタビュー法を用いたミニ実習発表会。
第6回	ライフストーリー法（1）	ライフストーリー法の解説。
第7回	ライフストーリー法（2）	ライフストーリー法の調査事例。
第8回	ライフストーリー法（3）	ライフストーリー法を用いたミニ実習発表会。
第9回	観察法（1）	観察法の解説。
第10回	観察法（2）	観察法の調査事例。
第11回	観察法（3）	観察法を用いたミニ実習発表会。
第12回	調査データの読解	調査データ読解上の注意。
第13回	発表会（1）	授業で学んだ手法のうち一つを選んで実習を行い、その成果についてレポート構想発表会を行う（問題意識の明確化を中心に）。
第14回	発表会（2）	授業で学んだ手法のうち一つを選んで実習を行い、その成果についてレポート構想発表会を行う（データの読解を中心に）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自、授業外の時間に調査実習を行い、発表会に備えます。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
授業中に随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】
提出課題（５０%）、平常点（５０%）。
提出課題については、質的調査の基本的な視点・発想の理解度をふまえた上で、課題の達成度の状況を基準とします。
平常点については、授業への参加・貢献度、受講態度の状況を基準とします。

【学生の意見等からの気づき】
ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション等、少人数の参加型授業という側面を重視していきたいと思います。

【キャリアデザイン学部より】
本科目を履修するためには「キャリア研究調査法入門」を修得済みであることが必要です。

【Outline (in English)】
【Outline and objectives】
This seminar focuses on qualitative methods in the career studies. It is structured as a survey course, exposing students to a range of practical issues rather than intensive training in a single approach.
【Goal】
The purpose of the seminar is twofold: First, to provide participants with a broad sense of qualitative research strategies. Secondly to write a short analytical essay and to give presentations for students.
【Work to be done outside of class】
Each student will conduct survey training outside of class to prepare for the presentation.
The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.
【Grading criteria】
Submission assignment (50%), normal score (50%).
The submitted assignments will be based on the achievement level of the assignments, based on the basic viewpoint of qualitative research and the degree of understanding of ideas.
The normal score is based on the degree of participation / contribution to the class and the attitude of attending the class.

SOC200MA（社会学 / Sociology 200）

キャリア研究調査法（質的調査）

井上　公人

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：水3/Wed.3　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：キャリア研究調査法入門を修得済の学生のみ履修可能

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会調査は、現実の社会からデータを収集し、得られたデータの分析を通して、社会現象を認識し理解する過程およびその方法です。
社会調査によって社会的なリアリティを把握することで、わたしたちは、これまで見えていなかったことに気づき、認識を豊かなものにすることができます。
本講義では、社会調査のうち、統計的計算や数字に頼らない「質的調査」に焦点を合わせ、その各手法について学びます。

【到達目標】
質的調査の基礎について理解し、各手法を実践できるようになることを目標とします。
調査法は方法論ですので、さまざまな分野・対象への適用が可能です。授業での学びを通し、応用的定着として、各自が関心を持つ研究対象について、質的調査の方法を適用し、ゼミ論・卒論において質的な分析を行うことができるようになることをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業においては、質的調査の基本的学習を行いつつ、授業外の時間に、各手法を用いて調査実習を行ってもらいます。
各手法について説明を掘り下げつつ、実際に実践してみることを通して、質的調査についての理解・定着を図ります。
なお、課題等に対するフィードバック方法としては、授業時間内に講評・解説の時間を設けることとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の到達目標・テーマ、概要・方法。
第2回	社会調査／質的調査について	社会調査とは。質的調査と量的調査の違い。
第3回	インタビュー法（1）	インタビュー法の解説。
第4回	インタビュー法（2）	インタビュー法の調査事例。
第5回	インタビュー法（3）	インタビュー法を用いたミニ実習発表会。
第6回	ライフストーリー法（1）	ライフストーリー法の解説。
第7回	ライフストーリー法（2）	ライフストーリー法の調査事例。
第8回	ライフストーリー法（3）	ライフストーリー法を用いたミニ実習発表会。
第9回	観察法（1）	観察法の解説。
第10回	観察法（2）	観察法の調査事例。
第11回	観察法（3）	観察法を用いたミニ実習発表会。
第12回	調査データの読解	調査データ読解上の注意。
第13回	発表会（1）	授業で学んだ手法のうち一つを選んで実習を行い、その成果についてレポート構想発表会を行う（問題意識の明確化を中心に）。
第14回	発表会（2）	授業で学んだ手法のうち一つを選んで実習を行い、その成果についてレポート構想発表会を行う（データの読解を中心に）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自、授業外の時間に調査実習を行い、発表会に備えます。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
授業中に随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】
提出課題（５０%）、平常点（５０%）。
提出課題については、質的調査の基本的な視点・発想の理解度をふまえた上で、課題の達成度の状況を基準とします。
平常点については、授業への参加・貢献度、受講態度の状況を基準とします。

【学生の意見等からの気づき】
ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション等、少人数の参加型授業という側面を重視していきたいと思います。

【キャリアデザイン学部より】
本科目を履修するためには「キャリア研究調査法入門」を修得済みであることが必要です。

【Outline (in English)】
【Outline and objectives】
This seminar focuses on qualitative methods in the career studies. It is structured as a survey course, exposing students to a range of practical issues rather than intensive training in a single approach.
【Goal】
The purpose of the seminar is twofold: First, to provide participants with a broad sense of qualitative research strategies. Secondly to write a short analytical essay and to give presentations for students.
【Work to be done outside of class】
Each student will conduct survey training outside of class to prepare for the presentation.
The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.
【Grading criteria】
Submission assignment (50%), normal score (50%).
The submitted assignments will be based on the achievement level of the assignments, based on the basic viewpoint of qualitative research and the degree of understanding of ideas.
The normal score is based on the degree of participation / contribution to the class and the attitude of attending the class.

SOC200MA（社会学 / Sociology 200）

キャリア研究調査法（質的調査）

山﨑　正枝

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：火4/Tue.4　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：キャリア研究調査法入門を修得済の学生のみ履修可能
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会調査は、現実の社会からデータを収集し、得られたデータの分析を通して、社会現象を認識し理解する過程およびその方法です。
社会調査によって社会的なリアリティを把握することで、わたしたちは、これまで見えていなかったことに気づき、認識を豊かなものにすることができます。
本講義では、社会調査のうち、統計的計算や数字に頼らない「質的調査」に焦点を合わせ、その各手法について学びます。

【到達目標】
質的調査の基礎について理解し、各手法を実践できるようになることを目標とします。
調査法は方法論ですので、さまざまな分野・対象への適用が可能です。授業での学びを通し、応用的定着として、各自が関心を持つ研究対象について、質的調査の方法を適用し、ゼミ論・卒論において質的な分析を行うことができるようになることをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業においては、質的調査の基本的学習を行いつつ、授業外の時間に、各手法を用いて調査実習を行ってもらいます。
各手法について説明を掘り下げつつ、実際に実践してみることを通して、質的調査についての理解・定着を図ります。
なお、課題等に対するフィードバック方法としては、授業時間内に講評・解説の時間を設けることとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の到達目標・テーマ、概要・方法。
第2回	社会調査／質的調査について	社会調査とは。質的調査と量的調査の違い。
第3回	インタビュー法（1）	インタビュー法の解説。
第4回	インタビュー法（2）	インタビュー法の調査事例。
第5回	インタビュー法（3）	インタビュー法を用いたミニ実習発表会。
第6回	ライフストーリー法（1）	ライフストーリー法の解説。
第7回	ライフストーリー法（2）	ライフストーリー法の調査事例。
第8回	ライフストーリー法（3）	ライフストーリー法を用いたミニ実習発表会。
第9回	観察法（1）	観察法の解説。
第10回	観察法（2）	観察法の調査事例。
第11回	観察法（3）	観察法を用いたミニ実習発表会。
第12回	調査データの読解	調査データ読解上の注意。
第13回	発表会（1）	授業で学んだ手法のうち一つを選んで実習を行い、その成果についてレポート構想発表会を行う（問題意識の明確化を中心に）。
第14回	発表会（2）	授業で学んだ手法のうち一つを選んで実習を行い、その成果についてレポート構想発表会を行う（データの読解を中心に）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自、授業外の時間に調査実習を行い、発表会に備えます。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
授業中に随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】
提出課題（５０%）、平常点（５０%）。
提出課題については、質的調査の基本的な視点・発想の理解度をふまえた上で、課題の達成度の状況を基準とします。
平常点については、授業への参加・貢献度、受講態度の状況を基準とします。

【学生の意見等からの気づき】
ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション等、少人数の参加型授業という側面を重視していきたいと思います。

【キャリアデザイン学部より】
本科目を履修するためには「キャリア研究調査法入門」を修得済みであることが必要です。

【Outline (in English)】
【Outline and objectives】
This seminar focuses on qualitative methods in the career studies. It is structured as a survey course, exposing students to a range of practical issues rather than intensive training in a single approach.
【Goal】
The purpose of the seminar is twofold: First, to provide participants with a broad sense of qualitative research strategies. Secondly to write a short analytical essay and to give presentations for students.
【Work to be done outside of class】
Each student will conduct survey training outside of class to prepare for the presentation.
The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.
【Grading criteria】
Submission assignment (50%), normal score (50%).
The submitted assignments will be based on the achievement level of the assignments, based on the basic viewpoint of qualitative research and the degree of understanding of ideas.
The normal score is based on the degree of participation / contribution to the class and the attitude of attending the class.

SOC200MA（社会学 / Sociology 200）

キャリア研究調査法（量的調査）

安田　節之

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：月2/Mon.2　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：キャリア研究調査法入門を修得済の学生のみ履修可能
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
実証的なキャリア研究を進めるために必要となる量的調査と統計手法の基礎を学びます。キャリアデザインは、様々な学問分野から構成される学際領域であると考えられています。しかし、どのような研究課題に取り組むとしても分析の考え方や手順は共通です。本講義を通して量的調査の枠組みによるキャリアデザイン研究を行うためのスキルを磨いてください。

【到達目標】
(1)　量的な調査法の基礎について理解する
(2)　基本的な統計手法や分析について理解する
(3)　卒業論文等において自ら研究を計画し、実行するための基本的なスキルを身に着ける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
テキストに基づく講義が中心となります。単なる統計の講義ではなく、量的な調査とは何かについても丁寧に説明します。
リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	研究方法論の重要性。
第2回	社会調査について	量的調査と質的調査の違い。 調査と実験の違い
第3回	データと変数	変数とは 質的変数と量的変数とは 尺度水準について
第4回	変数の特徴を分析する (1)：変数の分布と中心	度数分布表とは 度数分布表の視覚化(グラフの作成) 代表値（平均値、中央値、最頻値）
第5回	変数の特徴を分析する (2)：変数のばらつき	範囲 分散・標準偏差
第6回	変数の関係を分析する (1)	クロス集計表
第7回	変数の関係を分析する (2)	散布図
第8回	変数の関係を分析する (3)	相関
第9回	変数の関係を分析する (4)	クロス集計と散布図
第10回	変数の関係について深く考える	因果関係-原因と結果について
第11回	母集団と標本	標本の抽出
第12回	部分から全体を知る：推測統計学	母数と標本統計量 推定
第13回	統計的検定の考え方	帰無仮説と対立仮説 有意水準
第14回	量的調査の論文例	上記までに習ってきた知識を復習するとともに、実際に量的調査が使われている例を紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞やニュースにおける様々な統計情報（世論調査、ランキング、経済統計など）に関心を持ってください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
神林博史／三輪哲著　『社会調査のための統計学：このとおりやればすぐできる』　2011年　技術評論社

【参考書】
必要に応じて授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】
「授業への積極的な貢献度」：50%
「レポートや課題の提出」：50%

【学生の意見等からの気づき】
授業内の様子、およびヒアリングなどの意見も踏まえて再調整しました。また毎回の講義テーマに沿った演習課題(例：エクセルやSPSSを用いたデータ分析、アンケート項目の作成とデータ収集)については各担当教員の裁量に任せ、学生の興味・関心を重視しつつ量的調査に必要なスキルの習得を促すこととしました。

【キャリアデザイン学部より】
本科目を履修するためには「キャリア研究調査法入門」を修得済みであることが必要です。

【Outline (in English)】
The main purpose of this class is to acquire basic knowledge about quantitative research method and develop skills to conduct quantitative studies concerning career development.
Learning Objectives:
・Understand basics of quantitative methodologies
・Know how to analyze data by using statistical methods
・Develop skills to design and plan own research projects
Learning activities outside of classroom:
Students are expected not only to actively participate in class but also engage in academic activities outside of the classroom(4hrs).
Grading Criteria /Policy:
50 points (%) for participation, class assignments, and group activities
50 points (%) for mid-term and/or final papers

SOC200MA（社会学 / Sociology 200）

キャリア研究調査法（量的調査）

濱中　義隆

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：金2/Fri.2　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：キャリア研究調査法入門を修得済の学生のみ履修可能
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
実証的なキャリア研究を進めるために必要となる量的調査と統計手法の基礎を学びます。キャリアデザインは、様々な学問分野から構成される学際領域であると考えられています。しかし、どのような研究課題に取り組むとしても分析の考え方や手順は共通です。本講義を通して量的調査の枠組みによるキャリアデザイン研究を行うためのスキルを磨いてください。

【到達目標】
(1)　量的な調査法の基礎について理解する
(2)　基本的な統計手法や分析について理解する
(3)　卒業論文等において自ら研究を計画し、実行するための基本的なスキルを身に着ける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
テキストに基づく講義が中心となります。単なる統計の講義ではなく、量的な調査とは何かについても丁寧に説明します。
リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	研究方法論の重要性。
第2回	社会調査について	量的調査と質的調査の違い。 調査と実験の違い
第3回	データと変数	変数とは 質的変数と量的変数とは 尺度水準について
第4回	変数の特徴を分析する (1)：変数の分布と中心	度数分布表とは 度数分布表の視覚化(グラフの作成) 代表値（平均値、中央値、最頻値）
第5回	変数の特徴を分析する (2)：変数のばらつき	範囲 分散・標準偏差
第6回	変数の関係を分析する (1)	クロス集計表
第7回	変数の関係を分析する (2)	散布図
第8回	変数の関係を分析する (3)	相関
第9回	変数の関係を分析する (4)	クロス集計と散布図
第10回	変数の関係について深く考える	因果関係-原因と結果について
第11回	母集団と標本	標本の抽出
第12回	部分から全体を知る：推測統計学	母数と標本統計量 推定
第13回	統計的検定の考え方	帰無仮説と対立仮説 有意水準
第14回	量的調査の論文例	上記までに習ってきた知識を復習するとともに、実際に量的調査が使われている例を紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞やニュースにおける様々な統計情報（世論調査、ランキング、経済統計など）に関心を持ってください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
神林博史／三輪哲著　『社会調査のための統計学：このとおりやればすぐできる』　2011年　技術評論社

【参考書】
必要に応じて授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】
「授業への積極的な貢献度」：50%
「レポートや課題の提出」：50%

【学生の意見等からの気づき】
授業内の様子、およびヒアリングなどの意見も踏まえて再調整しました。また毎回の講義テーマに沿った演習課題(例：エクセルやSPSSを用いたデータ分析、アンケート項目の作成とデータ収集)については各担当教員の裁量に任せ、学生の興味・関心を重視しつつ量的調査に必要なスキルの習得を促すこととしました。

【キャリアデザイン学部より】
本科目を履修するためには「キャリア研究調査法入門」を修得済みであることが必要です。

【Outline (in English)】
The main purpose of this class is to acquire basic knowledge about quantitative research method and develop skills to conduct quantitative studies concerning career development.
Learning Objectives:
・Understand basics of quantitative methodologies
・Know how to analyze data by using statistical methods
・Develop skills to design and plan own research projects
Learning activities outside of classroom:
Students are expected not only to actively participate in class but also engage in academic activities outside of the classroom(4hrs).
Grading Criteria /Policy:
50 points (%) for participation, class assignments, and group activities
50 points (%) for mid-term and/or final papers

SOC200MA（社会学 / Sociology 200）

キャリア研究調査法（量的調査）

井上　公人

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：水4/Wed.4　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：キャリア研究調査法入門を修得済の学生のみ履修可能
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
実証的なキャリア研究を進めるために必要となる量的調査と統計手法の基礎を学びます。キャリアデザインは、様々な学問分野から構成される学際領域であると考えられています。しかし、どのような研究課題に取り組むとしても分析の考え方や手順は共通です。本講義を通して量的調査の枠組みによるキャリアデザイン研究を行うためのスキルを磨いてください。

【到達目標】
(1)　量的な調査法の基礎について理解する
(2)　基本的な統計手法や分析について理解する
(3)　卒業論文等において自ら研究を計画し、実行するための基本的なスキルを身に着ける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
テキストに基づく講義が中心となります。単なる統計の講義ではなく、量的な調査とは何かについても丁寧に説明します。
リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	研究方法論の重要性。
第2回	社会調査について	量的調査と質的調査の違い。 調査と実験の違い
第3回	データと変数	変数とは 質的変数と量的変数とは 尺度水準について
第4回	変数の特徴を分析する (1)：変数の分布と中心	度数分布表とは 度数分布表の視覚化(グラフの作成) 代表値（平均値、中央値、最頻値）
第5回	変数の特徴を分析する (2)：変数のばらつき	範囲 分散・標準偏差
第6回	変数の関係を分析する (1)	クロス集計表
第7回	変数の関係を分析する (2)	散布図
第8回	変数の関係を分析する (3)	相関
第9回	変数の関係を分析する (4)	クロス集計と散布図
第10回	変数の関係について深く考える	因果関係-原因と結果について
第11回	母集団と標本	標本の抽出
第12回	部分から全体を知る：推測統計学	母数と標本統計量 推定
第13回	統計的検定の考え方	帰無仮説と対立仮説 有意水準
第14回	量的調査の論文例	上記までに習ってきた知識を復習するとともに、実際に量的調査が使われている例を紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞やニュースにおける様々な統計情報（世論調査、ランキング、経済統計など）に関心を持ってください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
神林博史／三輪哲著　『社会調査のための統計学：このとおりやればすぐできる』　2011年　技術評論社

【参考書】
必要に応じて授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】
「授業への積極的な貢献度」：50%
「レポートや課題の提出」：50%

【学生の意見等からの気づき】
授業内の様子、およびヒアリングなどの意見も踏まえて再調整しました。また毎回の講義テーマに沿った演習課題(例：エクセルやSPSSを用いたデータ分析、アンケート項目の作成とデータ収集)については各担当教員の裁量に任せ、学生の興味・関心を重視しつつ量的調査に必要なスキルの習得を促すこととしました。

【キャリアデザイン学部より】
本科目を履修するためには「キャリア研究調査法入門」を修得済みであることが必要です。

【Outline (in English)】
The main purpose of this class is to acquire basic knowledge about quantitative research method and develop skills to conduct quantitative studies concerning career development.
Learning Objectives:
・Understand basics of quantitative methodologies
・Know how to analyze data by using statistical methods
・Develop skills to design and plan own research projects
Learning activities outside of classroom:
Students are expected not only to actively participate in class but also engage in academic activities outside of the classroom(4hrs).
Grading Criteria /Policy:
50 points (%) for participation, class assignments, and group activities
50 points (%) for mid-term and/or final papers

SOC200MA（社会学 / Sociology 200）

キャリア研究調査法（量的調査）

大川　明李

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：火2/Tue.2　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：キャリア研究調査法入門を修得済の学生のみ履修可能
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
実証的なキャリア研究を進めるために必要となる量的調査と統計手法の基礎を学びます。キャリアデザインは、様々な学問分野から構成される学際領域であると考えられています。しかし、どのような研究課題に取り組むとしても分析の考え方や手順は共通です。本講義を通して量的調査の枠組みによるキャリアデザイン研究を行うためのスキルを磨いてください。

【到達目標】
(1)　量的な調査法の基礎について理解する
(2)　基本的な統計手法や分析について理解する
(3)　卒業論文等において自ら研究を計画し、実行するための基本的なスキルを身に着ける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
テキストに基づく講義が中心となります。単なる統計の講義ではなく、量的な調査とは何かについても丁寧に説明します。
リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	研究方法論の重要性。
第2回	社会調査について	量的調査と質的調査の違い。 調査と実験の違い
第3回	データと変数	変数とは 質的変数と量的変数とは 尺度水準について
第4回	変数の特徴を分析する (1)：変数の分布と中心	度数分布表とは 度数分布表の視覚化(グラフの作成) 代表値（平均値、中央値、最頻値）
第5回	変数の特徴を分析する (2)：変数のばらつき	範囲 分散・標準偏差
第6回	変数の関係を分析する (1)	クロス集計表
第7回	変数の関係を分析する (2)	散布図
第8回	変数の関係を分析する (3)	相関
第9回	変数の関係を分析する (4)	クロス集計と散布図
第10回	変数の関係について深く考える	因果関係-原因と結果について
第11回	母集団と標本	標本の抽出
第12回	部分から全体を知る：推測統計学	母数と標本統計量 推定
第13回	統計的検定の考え方	帰無仮説と対立仮説 有意水準
第14回	量的調査の論文例	上記までに習ってきた知識を復習するとともに、実際に量的調査が使われている例を紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞やニュースにおける様々な統計情報（世論調査、ランキング、経済統計など）に関心を持ってください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
神林博史／三輪哲著　『社会調査のための統計学：このとおりやればすぐできる』　2011年　技術評論社

【参考書】
必要に応じて授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】
「授業への積極的な貢献度」：50%
「レポートや課題の提出」：50%

【学生の意見等からの気づき】
授業内の様子、およびヒアリングなどの意見も踏まえて再調整しました。また毎回の講義テーマに沿った演習課題(例：エクセルやSPSSを用いたデータ分析、アンケート項目の作成とデータ収集)については各担当教員の裁量に任せ、学生の興味・関心を重視しつつ量的調査に必要なスキルの習得を促すこととしました。

【キャリアデザイン学部より】
本科目を履修するためには「キャリア研究調査法入門」を修得済みであることが必要です。

【Outline (in English)】
The main purpose of this class is to acquire basic knowledge about quantitative research method and develop skills to conduct quantitative studies concerning career development.
Learning Objectives:
・Understand basics of quantitative methodologies
・Know how to analyze data by using statistical methods
・Develop skills to design and plan own research projects
Learning activities outside of classroom:
Students are expected not only to actively participate in class but also engage in academic activities outside of the classroom(4hrs).
Grading Criteria /Policy:
50 points (%) for participation, class assignments, and group activities
50 points (%) for mid-term and/or final papers

SOC200MA（社会学 / Sociology 200）

キャリア研究調査法（量的調査）

林　洋一郎

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：木3/Thu.3　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：キャリア研究調査法入門を修得済の学生のみ履修可能
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
実証的なキャリア研究を進めるために必要となる量的調査と統計手法の基礎を学びます。キャリアデザインは、様々な学問分野から構成される学際領域であると考えられています。しかし、どのような研究課題に取り組むとしても分析の考え方や手順は共通です。本講義を通して量的調査の枠組みによるキャリアデザイン研究を行うためのスキルを磨いてください。

【到達目標】
(1)　量的な調査法の基礎について理解する
(2)　基本的な統計手法や分析について理解する
(3)　卒業論文等において自ら研究を計画し、実行するための基本的なスキルを身に着ける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
テキストに基づく講義が中心となります。単なる統計の講義ではなく、量的な調査とは何かについても丁寧に説明します。
リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	研究方法論の重要性。
第2回	社会調査について	量的調査と質的調査の違い。 調査と実験の違い
第3回	データと変数	変数とは 質的変数と量的変数とは 尺度水準について
第4回	変数の特徴を分析する (1)：変数の分布と中心	度数分布表とは 度数分布表の視覚化(グラフの作成) 代表値（平均値、中央値、最頻値）
第5回	変数の特徴を分析する (2)：変数のばらつき	範囲 分散・標準偏差
第6回	変数の関係を分析する (1)	クロス集計表
第7回	変数の関係を分析する (2)	散布図
第8回	変数の関係を分析する (3)	相関
第9回	変数の関係を分析する (4)	クロス集計と散布図
第10回	変数の関係について深く考える	因果関係-原因と結果について
第11回	母集団と標本	標本の抽出
第12回	部分から全体を知る：推測統計学	母数と標本統計量 推定
第13回	統計的検定の考え方	帰無仮説と対立仮説 有意水準
第14回	量的調査の論文例	上記までに習ってきた知識を復習するとともに、実際に量的調査が使われている例を紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞やニュースにおける様々な統計情報（世論調査、ランキング、経済統計など）に関心を持ってください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
神林博史／三輪哲著　『社会調査のための統計学：このとおりやればすぐできる』　2011年　技術評論社

【参考書】
必要に応じて授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】
「授業への積極的な貢献度」：50%
「レポートや課題の提出」：50%

【学生の意見等からの気づき】
授業内の様子、およびヒアリングなどの意見も踏まえて再調整しました。また毎回の講義テーマに沿った演習課題(例：エクセルやSPSSを用いたデータ分析、アンケート項目の作成とデータ収集)については各担当教員の裁量に任せ、学生の興味・関心を重視しつつ量的調査に必要なスキルの習得を促すこととしました。

【キャリアデザイン学部より】
本科目を履修するためには「キャリア研究調査法入門」を修得済みであることが必要です。

【Outline (in English)】
The main purpose of this class is to acquire basic knowledge about quantitative research method and develop skills to conduct quantitative studies concerning career development.
Learning Objectives:
・Understand basics of quantitative methodologies
・Know how to analyze data by using statistical methods
・Develop skills to design and plan own research projects
Learning activities outside of classroom:
Students are expected not only to actively participate in class but also engage in academic activities outside of the classroom(4hrs).
Grading Criteria /Policy:
50 points (%) for participation, class assignments, and group activities
50 points (%) for mid-term and/or final papers

SOC200MA（社会学 / Sociology 200）

キャリア研究調査法（量的調査）

梅村　慶嗣

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：水3/Wed.3　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：キャリア研究調査法入門を修得済の学生のみ履修可能
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
実証的なキャリア研究を進めるために必要となる量的調査と統計手法の基礎を学びます。キャリアデザインは、様々な学問分野から構成される学際領域であると考えられています。しかし、どのような研究課題に取り組むとしても分析の考え方や手順は共通です。本講義を通して量的調査の枠組みによるキャリアデザイン研究を行うためのスキルを磨いてください。

【到達目標】
(1)　量的な調査法の基礎について理解する
(2)　基本的な統計手法や分析について理解する
(3)　卒業論文等において自ら研究を計画し、実行するための基本的なスキルを身に着ける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
テキストに基づく講義が中心となります。単なる統計の講義ではなく、量的な調査とは何かについても丁寧に説明します。
リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	研究方法論の重要性。
第2回	社会調査について	量的調査と質的調査の違い。 調査と実験の違い
第3回	データと変数	変数とは 質的変数と量的変数とは 尺度水準について
第4回	変数の特徴を分析する (1)：変数の分布と中心	度数分布表とは 度数分布表の視覚化(グラフの作成) 代表値（平均値、中央値、最頻値）
第5回	変数の特徴を分析する (2)：変数のばらつき	範囲 分散・標準偏差
第6回	変数の関係を分析する (1)	クロス集計表
第7回	変数の関係を分析する (2)	散布図
第8回	変数の関係を分析する (3)	相関
第9回	変数の関係を分析する (4)	クロス集計と散布図
第10回	変数の関係について深く考える	因果関係-原因と結果について
第11回	母集団と標本	標本の抽出
第12回	部分から全体を知る：推測統計学	母数と標本統計量 推定
第13回	統計的検定の考え方	帰無仮説と対立仮説 有意水準
第14回	量的調査の論文例	上記までに習ってきた知識を復習するとともに、実際に量的調査が使われている例を紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞やニュースにおける様々な統計情報（世論調査、ランキング、経済統計など）に関心を持ってください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
神林博史／三輪哲著　『社会調査のための統計学：このとおりやればすぐできる』　2011年　技術評論社

【参考書】
必要に応じて授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】
「授業への積極的な貢献度」：50%
「レポートや課題の提出」：50%

【学生の意見等からの気づき】
授業内の様子、およびヒアリングなどの意見も踏まえて再調整しました。また毎回の講義テーマに沿った演習課題(例：エクセルやSPSSを用いたデータ分析、アンケート項目の作成とデータ収集)については各担当教員の裁量に任せ、学生の興味・関心を重視しつつ量的調査に必要なスキルの習得を促すこととしました。

【キャリアデザイン学部より】
本科目を履修するためには「キャリア研究調査法入門」を修得済みであることが必要です。

【Outline (in English)】
The main purpose of this class is to acquire basic knowledge about quantitative research method and develop skills to conduct quantitative studies concerning career development.
Learning Objectives:
・Understand basics of quantitative methodologies
・Know how to analyze data by using statistical methods
・Develop skills to design and plan own research projects
Learning activities outside of classroom:
Students are expected not only to actively participate in class but also engage in academic activities outside of the classroom(4hrs).
Grading Criteria /Policy:
50 points (%) for participation, class assignments, and group activities
50 points (%) for mid-term and/or final papers

SOC200MA（社会学 / Sociology 200）

キャリア研究調査法（量的調査）

長瀬　毅

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：金2/Fri.2　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：キャリア研究調査法入門を修得済の学生のみ履修可能
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
実証的なキャリア研究を進めるために必要となる量的調査と統計手法の基礎を学びます。キャリアデザインは、様々な学問分野から構成される学際領域であると考えられています。しかし、どのような研究課題に取り組むとしても分析の考え方や手順は共通です。本講義を通して量的調査の枠組みによるキャリアデザイン研究を行うためのスキルを磨いてください。

【到達目標】
(1)　量的な調査法の基礎について理解する
(2)　基本的な統計手法や分析について理解する
(3)　卒業論文等において自ら研究を計画し、実行するための基本的なスキルを身に着ける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
テキストに基づく講義が中心となります。単なる統計の講義ではなく、量的な調査とは何かについても丁寧に説明します。
リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	研究方法論の重要性。
第2回	社会調査について	量的調査と質的調査の違い。 調査と実験の違い
第3回	データと変数	変数とは 質的変数と量的変数とは 尺度水準について
第4回	変数の特徴を分析する (1)：変数の分布と中心	度数分布表とは 度数分布表の視覚化(グラフの作成) 代表値（平均値、中央値、最頻値）
第5回	変数の特徴を分析する (2)：変数のばらつき	範囲 分散・標準偏差
第6回	変数の関係を分析する (1)	クロス集計表
第7回	変数の関係を分析する (2)	散布図
第8回	変数の関係を分析する (3)	相関
第9回	変数の関係を分析する (4)	クロス集計と散布図
第10回	変数の関係について深く考える	因果関係-原因と結果について
第11回	母集団と標本	標本の抽出
第12回	部分から全体を知る：推測統計学	母数と標本統計量 推定
第13回	統計的検定の考え方	帰無仮説と対立仮説 有意水準
第14回	量的調査の論文例	上記までに習ってきた知識を復習するとともに、実際に量的調査が使われている例を紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞やニュースにおける様々な統計情報（世論調査、ランキング、経済統計など）に関心を持ってください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
神林博史／三輪哲著　『社会調査のための統計学：このとおりやればすぐできる』　2011年　技術評論社

【参考書】
必要に応じて授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】
「授業への積極的な貢献度」：50%
「レポートや課題の提出」：50%

【学生の意見等からの気づき】
授業内の様子、およびヒアリングなどの意見も踏まえて再調整しました。また毎回の講義テーマに沿った演習課題(例：エクセルやSPSSを用いたデータ分析、アンケート項目の作成とデータ収集)については各担当教員の裁量に任せ、学生の興味・関心を重視しつつ量的調査に必要なスキルの習得を促すこととしました。

【キャリアデザイン学部より】
本科目を履修するためには「キャリア研究調査法入門」を修得済みであることが必要です。

【Outline (in English)】
The main purpose of this class is to acquire basic knowledge about quantitative research method and develop skills to conduct quantitative studies concerning career development.
Learning Objectives:
・Understand basics of quantitative methodologies
・Know how to analyze data by using statistical methods
・Develop skills to design and plan own research projects
Learning activities outside of classroom:
Students are expected not only to actively participate in class but also engage in academic activities outside of the classroom(4hrs).
Grading Criteria /Policy:
50 points (%) for participation, class assignments, and group activities
50 points (%) for mid-term and/or final papers

SOC200MA（社会学 / Sociology 200）

キャリア研究調査法（量的調査）

川瀬　萌馨

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：月3/Mon.3　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：キャリア研究調査法入門を修得済の学生のみ履修可能
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
実証的なキャリア研究を進めるために必要となる量的調査と統計手法の基礎を学びます。キャリアデザインは、様々な学問分野から構成される学際領域であると考えられています。しかし、どのような研究課題に取り組むとしても分析の考え方や手順は共通です。本講義を通して量的調査の枠組みによるキャリアデザイン研究を行うためのスキルを磨いてください。

【到達目標】
(1)　量的な調査法の基礎について理解する
(2)　基本的な統計手法や分析について理解する
(3)　卒業論文等において自ら研究を計画し、実行するための基本的なスキルを身に着ける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
テキストに基づく講義が中心となります。単なる統計の講義ではなく、量的な調査とは何かについても丁寧に説明します。
リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	研究方法論の重要性。
第2回	社会調査について	量的調査と質的調査の違い。 調査と実験の違い
第3回	データと変数	変数とは 質的変数と量的変数とは 尺度水準について
第4回	変数の特徴を分析する (1)：変数の分布と中心	度数分布表とは 度数分布表の視覚化(グラフの作成) 代表値（平均値、中央値、最頻値）
第5回	変数の特徴を分析する (2)：変数のばらつき	範囲 分散・標準偏差
第6回	変数の関係を分析する (1)	クロス集計表
第7回	変数の関係を分析する (2)	散布図
第8回	変数の関係を分析する (3)	相関
第9回	変数の関係を分析する (4)	クロス集計と散布図
第10回	変数の関係について深く考える	因果関係-原因と結果について
第11回	母集団と標本	標本の抽出
第12回	部分から全体を知る：推測統計学	母数と標本統計量 推定
第13回	統計的検定の考え方	帰無仮説と対立仮説 有意水準
第14回	量的調査の論文例	上記までに習ってきた知識を復習するとともに、実際に量的調査が使われている例を紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞やニュースにおける様々な統計情報（世論調査、ランキング、経済統計など）に関心を持ってください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
神林博史／三輪哲著　『社会調査のための統計学：このとおりやればすぐできる』　2011年　技術評論社

【参考書】
必要に応じて授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】
「授業への積極的な貢献度」：50%
「レポートや課題の提出」：50%

【学生の意見等からの気づき】
授業内の様子、およびヒアリングなどの意見も踏まえて再調整しました。また毎回の講義テーマに沿った演習課題(例：エクセルやSPSSを用いたデータ分析、アンケート項目の作成とデータ収集)については各担当教員の裁量に任せ、学生の興味・関心を重視しつつ量的調査に必要なスキルの習得を促すこととしました。

【キャリアデザイン学部より】
本科目を履修するためには「キャリア研究調査法入門」を修得済みであることが必要です。

【Outline (in English)】
The main purpose of this class is to acquire basic knowledge about quantitative research method and develop skills to conduct quantitative studies concerning career development.
Learning Objectives:
・Understand basics of quantitative methodologies
・Know how to analyze data by using statistical methods
・Develop skills to design and plan own research projects
Learning activities outside of classroom:
Students are expected not only to actively participate in class but also engage in academic activities outside of the classroom(4hrs).
Grading Criteria /Policy:
50 points (%) for participation, class assignments, and group activities
50 points (%) for mid-term and/or final papers

SOC200MA（社会学 / Sociology 200）

キャリア研究調査法（量的調査）

田中　友理

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：金1/Fri.1　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：キャリア研究調査法入門を修得済の学生のみ履修可能
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
実証的なキャリア研究を進めるために必要となる量的調査と統計手法の基礎を学びます。キャリアデザインは、様々な学問分野から構成される学際領域であると考えられています。しかし、どのような研究課題に取り組むとしても分析の考え方や手順は共通です。本講義を通して量的調査の枠組みによるキャリアデザイン研究を行うためのスキルを磨いてください。

【到達目標】
(1)　量的な調査法の基礎について理解する
(2)　基本的な統計手法や分析について理解する
(3)　卒業論文等において自ら研究を計画し、実行するための基本的なスキルを身に着ける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
テキストに基づく講義が中心となります。単なる統計の講義ではなく、量的な調査とは何かについても丁寧に説明します。
リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	研究方法論の重要性。
第2回	社会調査について	量的調査と質的調査の違い。 調査と実験の違い
第3回	データと変数	変数とは 質的変数と量的変数とは 尺度水準について
第4回	変数の特徴を分析する (1)：変数の分布と中心	度数分布表とは 度数分布表の視覚化(グラフの作成) 代表値（平均値、中央値、最頻値）
第5回	変数の特徴を分析する (2)：変数のばらつき	範囲 分散・標準偏差
第6回	変数の関係を分析する (1)	クロス集計表
第7回	変数の関係を分析する (2)	散布図
第8回	変数の関係を分析する (3)	相関
第9回	変数の関係を分析する (4)	クロス集計と散布図
第10回	変数の関係について深く考える	因果関係-原因と結果について
第11回	母集団と標本	標本の抽出
第12回	部分から全体を知る：推測統計学	母数と標本統計量 推定
第13回	統計的検定の考え方	帰無仮説と対立仮説 有意水準
第14回	量的調査の論文例	上記までに習ってきた知識を復習するとともに、実際に量的調査が使われている例を紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞やニュースにおける様々な統計情報（世論調査、ランキング、経済統計など）に関心を持ってください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
神林博史／三輪哲著　『社会調査のための統計学：このとおりやればすぐできる』　2011年　技術評論社

【参考書】
必要に応じて授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】
「授業への積極的な貢献度」：50%
「レポートや課題の提出」：50%

【学生の意見等からの気づき】
授業内の様子、およびヒアリングなどの意見も踏まえて再調整しました。また毎回の講義テーマに沿った演習課題(例：エクセルやSPSSを用いたデータ分析、アンケート項目の作成とデータ収集)については各担当教員の裁量に任せ、学生の興味・関心を重視しつつ量的調査に必要なスキルの習得を促すこととしました。

【キャリアデザイン学部より】
本科目を履修するためには「キャリア研究調査法入門」を修得済みであることが必要です。

【Outline (in English)】
The main purpose of this class is to acquire basic knowledge about quantitative research method and develop skills to conduct quantitative studies concerning career development.
Learning Objectives:
・Understand basics of quantitative methodologies
・Know how to analyze data by using statistical methods
・Develop skills to design and plan own research projects
Learning activities outside of classroom:
Students are expected not only to actively participate in class but also engage in academic activities outside of the classroom(4hrs).
Grading Criteria /Policy:
50 points (%) for participation, class assignments, and group activities
50 points (%) for mid-term and/or final papers

EDU200MA（教育学 / Education 200）

キャリア研究調査実習A（行動と意識の測定）

蟹江　教子

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：月2/Mon.2　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：この授業は、受講者の抽選や選抜を実施する可能性があります。詳細は、学習支援システムにてご確認ください。
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
量的調査によって人間の行動と意識を測定するための方法を理解する。具体的には教育や家族、ライフスタイルに関連したデータを題材として、分析ソフトを用いて分析を行い、効果的な結果のまとめ方についても学ぶ。

【到達目標】
（1）問題意識を明確化し、仮説やリサーチ・クエッションをたてることができる。
（2）先行研究の探し方、既存データの利用方法などを学ぶ。
（3）簡単なアンケート調査の作成、実施、分析の手順を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義と演習形式で進める。課題レポートについては授業等でその都度フィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方について説明する。
第2回	2次データ	官庁統計や2次分析等で使用することができるデータアーカイブについて紹介する。
第3回	尺度	名義尺度、順序尺度、間隔尺度、比例尺度など、尺度の特徴を確認する。
第4回	度数分布と代表値	学力テストデータ等を用いて、度数分布表、度数分布図などを作成する。
第5回	散布図と相関	学力や大学進学に影響する要因を考え、2変数の関係を検討する。
第6回	心理尺度	満足度、幸福度など見えないものを測定するための方法について理解する。
第7回	平均の比較（1）	2つの変数の間に差があるかどうか、データを用いて分析する。
第8回	平均の比較（2）	ある変数について3つ以上のグループの間に差があるかどうか、データを用いて分析する。
第9回	単回帰分析	一つの変数からもう一つの変数を予測する。
第10回	重回帰分析	複数の変数からある一つの変数を予測する。
第11回	因子分析	複数の変数の関係の強さからその背後にある要因(因子）を考える。
第12回	カイ２乗検定	クロス集計表から、分布の違いを調べる。
第13回	データ分析に挑戦	仮説に基づいてデータを分析する。
第14回	結果報告会	分析結果を報告する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習、復習時間は各2時間とする。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
小宮あすか、布井雅人,2018,『Excelで今すぐはじめる心理統計』講談社

【成績評価の方法と基準】
提出課題（50％）とそのプレゼンテーション（20％）、授業への積極的な取り組み（30％）

【学生の意見等からの気づき】
受講生の興味・関心にあった内容を例として取り上げる予定

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室を使用する。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In this class, students will gain an understanding of methods used to measure human behavior and attitudes through quantitative research. Specifically, students will learn how to analyze data related to education, family, and lifestyle using analytical software and how to effectively summarize results.
【Learning Objectives】
(1) Clarify the awareness of a problem and formulate a hypothesis.
(2) Learn how to search for previous research and use existing data.
(3) Learn how to create, conduct, and analyze a simple questionnaire survey.
【Learning activities outside of classroom】
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
【Grading Criteria/Policy】
Final grade will be calculated according to the following process report (50%), presentation of results (20%), and in-class contribution（30%).

EDU200MA（教育学 / Education 200）

キャリア研究調査実習B（「上京する」ことの質的社会調査）

福重　清

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：火2/Tue.2　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：この授業は、受講者の抽選や選抜を実施する可能性があります。詳細は、学習支援システムにてご確認ください。
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、インタビュー調査の設計、先行研究の検討、質問項目の検討、調査の実施、トランスクリプション、データの分析、結果の報告（レポートの作成）といった質的社会調査の一連の過程を実践的に学習します。特にこの授業では、調査テーマを「『上京する』ことの質的社会調査」とし、進学や就職、結婚などで地方から都市（東京）へと移動してくる人を対象に、彼らはなぜ都市（東京）へと移動してくるのか、彼らはそこで何を経験するのか、といったことをインタビュー調査を通じて明らかにすることを目指します。

【到達目標】
（1）質的社会調査の意義を特に量的社会調査との違いにおいて理解する。
（2）質的社会調査の技法を実際に調査を行うことを通じて理解する。
（3）事前の文献研究を含めた調査の設計から対象の選定、インタビューの実施、データの分析、結果のとりまとめまでの一連の質的社会調査の過程を経験する。
（4）質的社会調査を通じて「上京する」人が抱く思いを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP3」に関連

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
この授業では、グループワークを中心に学習を進めます。具体的には、学生が自らの問題関心に従って問いを立て、それに基づいてグループを構成した上で、自分たちで調査を設計・実施し、データをまとめ、分析し、最終的には研究成果を各自でレポートにまとめるということを行ってもらいます。また授業では、ほぼ毎回、教員から指示・課題が出されます。例えば、「次週までに○○を読んでくるように」などと課題が出されたら、次の回では全員がその文献を読んできていることを前提に授業を進め、発言を求めます。学生の報告や課題、質問等に対するフィードバックは、授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	質的社会調査の意義とその進め方	授業の進め方および質的社会調査の意義とその進め方について解説する。
第2回	調査テーマに関する先行研究の検討（1）	石黒格ほか『「東京」に出る若者たち―仕事・社会関係・地域間格差』を検討する。
第3回	調査テーマに関する先行研究の検討（2）	吉川徹『学歴社会のローカル・トラック―地方からの大学進学』を検討する。
第4回	各自の問題関心の発表とグループ分け	事前にまとめてきた各自の問題関心を発表し、グループ分けを行う。
第5回	各グループの問題関心の確認と検討	事前にまとめてきた各グループの問題関心を発表し、内容を検討する。
第6回	グループ毎の先行研究の収集と検討	グループ毎に予め収集した先行研究の内容を報告し、検討する。
第7回	グループ毎の問いと調査内容の確認	グループ毎に考えてきた問いと調査内容を確認し、検討する。
第8回	インタビュー調査の実施	グループ毎にインタビュー調査を実施する。また、得られたデータの扱いについて解説する。
第9回	トランスクリプトの作成と内容の確認	インタビューで得られた音声データを文字起こしし、その内容を確認する。
第10回	調査結果の分析と考察（1）	グループ毎に調査データを分析し、結果を考察する。
第11回	調査結果の分析と考察（2）	引き続きグループ毎に調査データを分析し、結果を考察する。
第12回	調査結果レポートのまとめ方	調査結果のレポートのまとめ方について解説し、レポートの執筆にとりかかる。
第13回	調査結果レポート第一稿の発表と修正箇所の検討	各自で執筆した調査結果レポートの第一稿を発表し、修正すべき箇所を検討する。
第14回	調査結果レポート完成稿の提出と振り返り	各自で執筆した調査結果レポートの完成稿を発表し、授業で学んだ内容を振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
この授業では、授業時間外にグループワークや課題の作成をしてもらい、その結果を毎回の授業の中で報告してもらいます。授業時間そのものは主に各自（各グループ）の発表と討論に使用します。発表のための資料収集や調査、分析、報告レジュメの作成などの作業は、基本的に授業時間外に行ってもらいます。

【テキスト（教科書）】
教科書として特定のものを使用することはしない。

【参考書】
谷富夫・山本努編著『よくわかる質的社会調査　プロセス編』(2010) ミネルヴァ書房
岸政彦ほか『質的社会調査の方法―他者の合理性の理解社会学』(2016) 有斐閣
石黒格ほか『「東京」に出る若者たち―仕事・社会関係・地域間格差』(2012) ミネルヴァ書房
吉川徹『学歴社会のローカル・トラック―地方からの大学進学』(2001) 世界思想社

【成績評価の方法と基準】
グループワークへの貢献度：40%、授業内の課題：20%、最終レポート：40%

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
授業内で提示します。

【その他の重要事項】
質的社会調査、インタビュー調査は手間のかかる試行錯誤の連続です。話を聞かせてもらいたい相手と人間的な信頼関係が築けなければ、深い話を語ってもらうことなどできません。質的社会調査こそ調査者の誠実さとコミュニケーション力が求められるのです。質的社会調査の実習を通じて、ぜひ人の話を誠実に聞く力を身につけてもらいたいと思います。

【Outline (in English)】
授業の概要（Course outline）
This course provides a practical, hands-on learning experience covering the entire process of qualitative social research, including research design, literature review, designing an interview guide, fieldwork, transcription, data analysis, and reporting (writing a research paper). The specific research theme for this course is "A Qualitative Study on 'Moving to the City' (with a focus on Tokyo)." Focusing on individuals who have migrated from rural to urban areas for reasons such as education, employment, or marriage, we aim to clarify through interview research why they chose to move to the city and what kinds of experiences they encounter there.
到達目標（Learning Objectives）

The goal of this course is to understand the techniques of qualitative social research through the practice of a research project.

授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）

Students are required to collaborate on group work and complete assigned tasks outside of scheduled class time. Students are expected to spend at least four hours per class on these activities. The outcomes of these activities must be reported during each class.

成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）

Final grades will be determined based on contribution to group work (40%), assignments given in class (20%), and a final report (40%).

MAN200MA（経営学 / Management 200）

キャリア研究調査実習C（データで語るキャリア）

久保田　貴文

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：月4/Mon.4　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：この授業は、受講者の抽選や選抜を実施する可能性があります。詳細は、学習支援システムにてご確認ください。
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業を通じて，就業を中心とする働くことに関する調査の実施方法について理解すると同時に，自分自身で調査を計画実施する際に必要なスキルを修得する。この授業では，既存の調査票を参照しながら，調査票の設計方法，対象者の選定や回答依頼方法，分析方法，考察，まとめ，そして報告・プレゼンするまでの一連の作業についてレクチャーし，その一部を体験することを通じて，量的調査のノウハウを身につける事を目標とする。

【到達目標】
（1）先行研究の調べ方，仮説・リサーチクエッションの立案ができるようになる
（2）調査票を作成出来るようになる
（3）統計データをグラフで視覚化することが出来るようになる
（4）簡単なデータ分析が出来るようになる
（5）得られた結果を報告出来るようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式で進めるパートと，個人またはグループでの実習形式で進めるパートで構成される。講義では調査を実際に行う際に必要となるスキルをレクチャーし，その一部について実習を行う。実習では、マイクロソフト・エクセルおよびマイクロソフト・パワーポイントを用いる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方ならびに調査の概要を紹介する。また、論文の書き方について学修する。
第2回	量的調査	よくある量的調査について学修する。また、論文の書き方について学修する。
第3回	調査計画の立案	調査計画の立案の方法を学修する。
第4回	統計グラフの基礎・作成（1）	統計グラフとは何かについて学修し，実際の調査結果の表・グラフから統計データの視覚化について学修する。また、論文の書き方について学修する。
第5回	統計グラフの基礎・作成（2）	1変数の質的データの視覚化、1変数の量的データの視覚化を行う。また，エクセルを用いた演習も行う。また、論文の書き方について学修する。
第6回	就労に関するデータの分析（1）	2変数のデータの視覚化について行う。クロス集計、母比率の差の検定を行う。また，エクセルを用いた演習も行う。また、論文の書き方について学修する。
第7回	就労に関するデータの分析（2）	代表値・散らばり、母平均の差の検定を行う。また，エクセルを用いた演習も行う。また、論文の書き方について学修する。
第8回	就労に関するデータの分析（3）	統計的検定について総まとめを行う。また，エクセルを用いた演習も行う。
第9回	就労に関するデータの分析（4）	就労に関するデータの分析についてまとめを行う。論文の書き方について学修する。
第10回	回帰分析	問いを設定し、答えを見つけるためのリサーチの計画を概観する。また、自身の考えた計画で回帰分析することを想定する。
第11回	調査票の作成	調査票を作成する。
第12回	プレゼンテーション（1）	効果的なプレゼンテーションとは
第13回	プレゼンテーション（2）	発表スライドの作成
第14回	プレゼンテーション（3）	プレゼン大会を開催する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回で情報機器を使った実習を行うため，授業後に実施内容について復習等が必要である（2時間）。また，毎回の授業において次回の実施内容を説明するので，必要に応じて準備学習を実施すること（2時間）。

【テキスト（教科書）】
指定しない。必要に応じて授業内で指示する。

【参考書】
・基礎からわかる 論文の書き方 (講談社現代新書) / 小熊 英二
・実例でよくわかるアンケート調査と統計解析 / 菅民郎

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な貢献度： 50%（5%の課題を10回程度、主にレポート・論文の書き方についての課題、データ分析についての課題。各回の到達度をチェックする。）
レポートや課題の提出： 50%（10%のレポートを5回。データ分析、アンケート調査計画、アンケート調査票、プレゼン資料、プレゼン（質疑を含む）。）

【学生の意見等からの気づき】
特にマイクロソフト・エクセルを使った演習，量的調査の結果についての分析のスキルとその統計的な背景や考え方を十分に習得出来るように，演習の際に補助する予定である。

【学生が準備すべき機器他】
情報機器を利用した授業であるが、持参の必要性については初回の授業にて指示する。オンライン授業になった場合には、マイクロソフト・エクセルを用いてデータ分析を実施し、マイクロソフト・パワーポイントを用いてプレゼンテーションの資料作成・実施するので、その準備が必要な場合がある。

【その他の重要事項】
第11講は、受講生の進捗や理解度を鑑みて、それよりも前に実施することがある（その場合には、以降の順番が多少前後する）。2026年12月14日（月）は授業を行わない（2027年1月18日は授業を行う）。
【生成AI使用について】当該科目については，統計処理，文章の作文，グラフの作成，プレゼンのための画像その他の素材においても，生成AIを使用しても構わないが，その場合には何らかの方法でその旨を示すこと。
【オフィスアワーについて】オフィスアワーについては特段に設けてはいないが，月曜日3限目は教授室に滞在しているため，事前にアポを取っていただければ対応する。

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】

Through lecture, learn how to conduct surveys related to career mainly in employment, and at the same time, acquire the skills necessary to plan and conduct research yourself. In this class, lectures will be given on a series of tasks from the design of the questionnaire, the method of selecting subjects and requesting answers, analysis methods, consideration, and summarization, while referring to the existing questionnaire, and experiencing some of them. Through this, the goal is to acquire the know-how of quantitative research.
【到達目標（Learning Objectives）】
Through lecture, learn how to conduct surveys related to career mainly in employment, and at the same time, acquire the skills necessary to plan and conduct research yourself. Through this, the goal is to acquire the know-how of quantitative research.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content practice.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Active contribution to the class: 50%
Approximately ten assignments worth 5% each will be given. These assignments will mainly focus on report and academic writing skills, as well as data analysis tasks. Each assignment will be used to assess students' level of achievement in each class session.
Reports and assignments: 50%
Five reports worth 10% each will be required. These include data analysis, a questionnaire survey plan, a questionnaire form, presentation materials, and a presentation (including Q&A).

MAN200MA（経営学 / Management 200）

キャリア研究調査実習Ｄ（仕事とビジネスの質的研究）

岸田　泰則

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：月1/Mon.1　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：この授業は、受講者の抽選や選抜を実施する可能性があります。詳細は、学習支援システムにてご確認ください。
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、仕事とビジネスの現場を調査することを通して、質的調査のプロセスを体感してもらいます。事前の十分な準備や適切な調査の実施、そして結果の丁寧な分析を行うことで、産業や労働におけるリアリティに迫ることができます。

【到達目標】
①インタビュー調査を実際に行うことで、質的調査の一連のプロセスを学びます
②産業・労働研究における質的調査の活かし方を学びます
③ゼミ論・卒論で質的調査を行うための実践的な能力を身に着けます

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
実習を中心に、講義を交えながら授業を行います。講義で質的調査の基礎を学んだうえで、インタビュー調査の実習に活かしていきます。調査の事前準備に始まり、調査の実施、調査結果の分析取りまとめといった一連のプロセスを実行していきます。調査テーマは、受講者の問題関心を参考のうえ設定します。課題等に対するフィードバックは、授業内で適宜行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の目的・到達目標などの説明、インタビュー法の概説（講義）
第2回	質的調査の概説（1）	調査テーマについての概説（講義と若干の実習）
第3回	質的調査の概説（2）	インタビューの準備の概説（講義と若干の実習）
第4回	質的調査の概説（3）	インタビューの実施手法の概説（講義）
第5回	質的調査の概説（4）	インタビュー・データの分析にあたっての概説（講義と若干の実習）
第6回	質的調査の概説（5）	論文の執筆についての概説（講義）
第7回	質的調査の活かし方	質的調査を用いた産業・労働研究の紹介（講義）
第8回	質的調査の実践（1）	調査対象の産業・企業の実状を把握するための予備調査（実習）
第9回	質的調査の実践（2）	仕事の現場を学ぶためのインタビュー調査（実習）
第10回	質的調査の実践（3）	仕事の現場を学ぶためのインタビュー調査（実習）
第11回	質的調査の実践（4）	調査から得た情報をもとに、記録文書の作成（実習）
第12回	質的調査の実践（5）	作成した記録文書の報告、共有（実習）
第13回	質的調査のまとめ（1）	インタビュー調査の結果報告（発表）
第14回	質的調査のまとめ（2）	インタビュー調査の結果報告（発表）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
調査の準備（調査対象の産業や企業に関する下調べ）と調査の記録文書の作成、調査の取りまとめを行います。
準備学習・復習・宿題等の授業時間外の学習は、各回4時間が標準となります。

【テキスト（教科書）】
各回の授業において、事前に授業資料を提示します。

【参考書】
山口富子編、2023、『インタビュー調査法入門―質的調査実習の工夫と実践』ミネルヴァ書房。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業中の発言など）40％、提出課題（「授業時間外の学習」の成果）60％。

【学生の意見等からの気づき】
学生のテーマに応じて必要な調査協力者を選定します。

【学生が準備すべき機器他】
授業資料（パワーポイントのスライド）のアップロードなどで、学習支援システムHoppiiを使用します。

【その他の重要事項】
製造業で30年以上にわたる実務経験のある教員による授業です。
実社会を随所に感じられるような授業にします。

【Outline (in English)】
(Course Outline)
In this class, students will experience the qualitative research process by conducting interviews with working individuals and/or representatives of companies. Through careful preparation, appropriate conduct of interviews, and systematic analysis of the findings, students will gain insight into the realities of industry and labor.
(Learning Objectives)
By the end of the course, students will be able to:
Plan and conduct qualitative interviews in an appropriate manner.
Organize interview records and analyze qualitative data.
Summarize findings clearly and reflect on their implications for understanding industry and labor.
(Learning Activities Outside of Classroom)
Students are expected to engage in learning activities outside of class time, including:
Preliminary research on the industries and companies (or interviewees) to be studied.
Preparation for interviews (e.g., refining questions and organizing objectives).
Creating a written record of the interviews (e.g., interview notes and/or transcripts).
Summarizing and reflecting on the interview results in submitted assignments.
The standard amount of study outside of class time for preparation, review, and assignments is 4 hours per session.
(Grading Criteria/Policy)
Grades will be based on:
40%: Class participation (e.g., in-class comments and engagement)
60%: Submitted assignments (outputs based on learning activities outside of class time, including preparation, interview records, and summaries)

SOC200MA（社会学 / Sociology 200）

キャリア研究調査実習Ｅ（ウェルビーイング）

林　洋一郎

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：木4/Thu.4　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：この授業は、受講者の抽選や選抜を実施する可能性があります。詳細は、学習支援システムにてご確認ください。
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、心理測定と量的調査の基礎を学びます。キャリアデザインは様々な学問分野から構成される学際領域ですが、個人の思考、態度、感情といった観察できない概念を対象にすることが多くあります。このような観察できない概念を心理学では構成概念と呼びます。構成概念とは、例えば、知能、能力、パーソナリティ、態度、行動などです。構成概念を測定するための方法を体系化した心理測定（psychometrics）という領域があります。本講義では、心理測定の哲学を重視しながら量的調査法について学びます。キャリアに関わる研究の多くは人を対象にしており、キャリアを実証的に研究する上で、心理測定の方法や考え方は有用です。また、心理測定は統計学と密接に関連しているため、統計学の知識が不可欠となります。そこで本講義では、心理測定に基づく量的調査法を修得します。統計分析には、フリーの統計ソフトであるRというプログラム言語を使用し、その分析手法の修得を目指します。分析にはRを使いやすくするためのRStudioという統合開発環境（IDE）を使用する予定ですが、生成AIの活用により、プログラムに不慣れな方でも比較的容易に扱えるようになっています。なお、使用するソフトウェアについては変更することがあります。

【到達目標】
以下の内容に関する知識、考え方、スキルを身につけることを目標とします。
・心理学的な調査法の基礎概念を理解する。具体的には、構成概念の考え方や捉え方、質問紙（questionnaire）の設計や分析方法についてのスキルを修得する。
・信頼性や妥当性など心理測定の基礎概念を理解する。
・統計ソフトを使った多変量解析の基本を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP3」に関連

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義と実習を組み合わせて授業を進めていきます。欠席するとキャッチアップするのが大変だと思いますので、出席を心がけてください。また、授業スケジュールは変更される可能性があります。
提出物は、授業中、授業支援システム、メールなどを通じてフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の全体概要
第2回	心理学研究法と研究倫理	調査と調査法以外の研究方法を対比させながら調査法について学ぶ
第3回	リサーチ・クエスチョンと仮説	リサーチ・クエスチョンや仮説の具体的な設定の仕方について学ぶ
第4回	テスト理論の基礎①	信頼性の概念について学ぶ
第5回	テスト理論の基礎②	構成概念妥当性と項目反応理論
第6回	質問紙の作成	SD法、リッカート尺度、google form
第7回	統計ソフトウェアの導入	R、HAD、JPSPなど無料の統計ソフトを紹介
第8回	基礎統計量①	記述統計量、ヒストグラム、箱ひげ図
第9回	基礎統計量②	変数間の関連。クロス集計や相関係数の概念とその算出。
第10回	探索的因子分析と信頼性係数	psych packageを使って探索的因子分析を行う。平行分析やMAPなど、統計的に因子数を決定する方法についても言及する。また、信頼性係数αの算出方法について学ぶ。
第11回	重回帰分析	pequodパッケージを用いた重回帰分析の方法を学ぶ
第12回	平均値の差の検定	t検定と一元配置の分散分析
第13回	平均値の差の検定②	二元配置の分散分析と交互作用
第14回	Q＆A	Rの操作法など不明な点があれば質問を受ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ディレクトリー、ショートカットキーなどPCの操作が十分に行えるスキルを身につけてください。Rの操作に重点をおくため、統計の詳細な解説については概略にとどめます。よって基本的な統計知識については、指定の参考書などを参考にして、自習によって補ってください。
　なお、本授業の準備・復習時間は、各４時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
緒賀郷志(2019) Rによる心理・調査データ解析　第２版 東京図書

【参考書】
清水裕士ほか(2021)『心理学統計法』 放送大学教育振興会

【成績評価の方法と基準】
統計ソフトの使用を含むので、クラスへの出席と実習への積極的参加を重視します。分析の結果は、卒論のみならず何らかのレポートという形式で公表されると思います。よって最終レポートも重視します。
平常点：70%　最終レポート：30%
※欠席が3回以上の場合、自動的に成績不可とします。

【学生の意見等からの気づき】
　データやエビデンスに基づく主張は、説得力があることを学んで欲しいです。

【学生が準備すべき機器他】
各自のノートパソコンを持参してください。WindowsでもMacでも構いませんが、Windowsを前提として説明を進めていきます。ただし、Macでも問題はありません。

【その他の重要事項】
ディレクトリ、ショートカットキーなどを理解しており、PCの基本操作ができることが前提です。PC操作に不安がある方は、授業の進行に支障をきたす可能性があるため、事前にスキル向上に努めてください。
本授業では、Rというプログラム言語を使用します。したがって、一度でも欠席すると授業についていくのが困難になります。体調不良等のやむを得ない状況を除いて、毎回出席するようにしてください。また、Rというプログラムを使った実習という性格上、受講者数は10名に限定します。

【Outline (in English)】
(Course outline) This lecture will cover the basics of psychometrics and quantitative research. Career design is an interdisciplinary field consisting of various academic disciplines, and uncover unobservable concepts such as thoughts, attitudes, and feelings of individuals. Such unobservable objects are called constructs in psychology.

Constructs include, for example, intelligence, ability, personality, attitudes, and behavior. There is a field of psychometrics that systematizes methods for measuring constructs. This course will focus on quantitative research methods with an emphasis on the philosophy of psychometrics. The methods and concepts of psychological measurement will be useful when writing the thesis. For statistical analysis, we will use R, a free statistical software. The analysis will be practiced using sample data including well-being provided by the lecturer. This lecture will be conducted using R studio, an integrated development environment (IDE) that makes R easy to use, but the software to be used is subject to change.
（Learning Objectives）The goal is for students to acquire knowledge, concepts, and skills related to the following topics. Specifically, the course aims to cover:
-Learning the basic concepts of psychological research methods. This includes understanding and conceptualizing constructs, as well as gaining skills in designing and analyzing questionnaires.
-Understanding the fundamental concepts of psychological measurement, such as reliability and validity.
-Learning the basics of multivariate analysis using statistical software.
（Learning activities outside of classroom）
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
（Grading Criteria /Policy）
Since the use of statistical software is included, attendance and active participation in practical exercises are emphasized. The results of the analysis are expected to be published not only in the thesis but also in some form of report. Therefore, the final report is also emphasized.
Class participation: 70% Final report: 30%
Note: If you have three or more absences, you will automatically receive a failing grade.

SOC200MA（社会学 / Sociology 200）

キャリア研究調査実習F（まちづくり論）

大西　未希

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：月4/Mon.4　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：この授業は、受講者の抽選や選抜を実施する可能性があります。詳細は、学習支援システムにてご確認ください。
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近年、「まちづくり」の在り方が注目されている。地域に根ざしたまちづくりを考えるためには、まずはつぶさな視点でまちを調査すること、そのデータを検討し、地域にある資産と課題を浮かび上がらせることが重要である。そこで本授業では「まちづくり」をテーマとした社会調査（質的調査）のプロセスを学び、実践的な能力を身につけることを目指す。

【到達目標】
(1)質的調査の調査デザイン、調査手続きについて説明できる。
(2)質的調査におけるデータ収集、分析の手法について説明できる。
(3)対象地域において適切な調査デザインを採用し、調査・分析を進めることができる。
(4)対象地域への調査結果からまちづくりの提案を行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
一方向的講義を行うだけでなく、講義内外でのフィールドワーク演習、グループディスカッションを行うことでスキル獲得を目指す。能動的姿勢が必要となる（参画度も授業評価対象となる）。
▼演習：提示されたフィールドワーク演習課題を期限までに行い、学習支援システムより提出。提出された課題を講義内で発表したり、講師からフィードバックすることがある。
▼自習：学習支援システムなどを利用して講師からのお知らせ、資料提示などを行う。それを元に復習をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション（オンデマンド予定）	授業の到達目標、概要、方法の解説と履修希望アンケート実施 ※希望人数により履修選抜
第2回	質的調査の概要	質的調査と量的調査の調査法の違い、質的調査を元にした研究の事例、情報機器を用いたデータ収集演習
第3回	質的調査の方法　情報機器を使ったデータ取得	前回の演習のフィードバック、フィールドワークの姿勢について、考現学の発想の解説とデータ収集演習
第4回	質的調査の方法　フィールドノート	前回の演習のフィードバック、考現学の発想に基づいたデータ収集バリエーション・フィールドノートの書き方の解説と演習
第5回	質的調査の方法　スケッチ・メモ	前回の演習のフィードバック、路上観察におけるスケッチやメモのデータを用いた研究成果、定点観測の手法解説、定点観測の調査設計・データ収集演習
第6回	質的調査の実践　データ検討	データセッションの手法、データ分類の手法解説、データセッションの実践
第7回	質的調査の実践　調査の手続き	質的調査デザインの組み立て方、問いと作業仮説について、調査対象地域の選定方法、アポイントメントの取り方、依頼書の書き方解説と演習
第8回	質的調査の実践　参与観察の手法	参与観察の手法、ラポール、現場へのアクセス権に関する解説、質的調査デザインのブラッシュアップ演習、フィールドワーク実習
第9回	質的調査の実践　文献調査	まちづくりの現在、地域資産、地域研究の事例、文献や既存の資料の調査、地域の歴史等事実関係の整理、作業仮説の立て方の解説と演習、フィールドワーク実習
第10回	質的調査の実践　データ分析の手法	定性的コーディングとコード化の解説、実践、データ整理演習、フィールドワーク実習
第11回	質的調査の実践　データ分析の実践	データセッション実習、コーディングの実践
第12回	質的調査の結果まとめ	データセッション実習、フィールドワークのまちづくりへの活かし方事例、課題と資産の考え方解説
第13回	質的調査の結果まとめ	データ整理の手法、まちづくりのアイデアの考え方の解説と演習
第14回	質的調査の結果まとめ	質的調査の成果から「まちづくりへの提案」をテーマにした構想を発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業の中で実習課題が課されることがある。
・授業外に調査実習を行うことがある。
・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
指定なし。

【参考書】
佐藤郁哉（2006）『フィールドワーク– 書を持って街へ出よう（増訂版）』新曜社
前田拓也・秋谷直矩・朴沙羅・木下衆編（2016）『最強の社会調査入門――これから質的調査をはじめる人のために』ナカニシヤ出版

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な貢献度：20% 授業内課題：30% 最終課題：50%

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
・パソコンを利用する回がある。事前に告知するので、ノートパソコンを持参の上講義に出席すること。
・スマホを利用する回がある。

【その他の重要事項】
・履修選抜の可能性がありますので、初回講義を〆切日までにオンデマンドで受講の上履修希望アンケートを提出してください。
・演習授業のため、基本的に遅刻欠席は原則NG。
・授業外で行う課題もあります。締め切り厳禁。
・欠席した場合は、授業支援システムから講義資料を確認し、演習を各自行っておくこと。
・課題は共有し、講評をしあうことがあります。プライバシーにできる限り配慮いたしますが気になることがある方はご相談ください。
・不明点は大西まで質問してください。オフィスアワーを設定いたしますので、ご希望の方は事前にメールをいただけますと助かります。
連絡先：大西　未希　miki.onishi.35@hosei.ac.jp
私たちの生活は、地続きに「まち」とつながっています。

例えば、家の近所にはどんな張り紙があるでしょうか。屋外に何が置いてあるでしょうか。ゴミ捨てのルールをどんな方法でアナウンスしあっているでしょうか。これはほんの一例ですが、落ち着いて家の周りをめぐるだけでも、豊かなフィールドワークはできます。
皆さんには実際にまちを歩いたり、日常過ごす中でデータを取得してきてもらいます。演習の内容は、この講義の受講生のみでシェアします。人びとの個別具体的な暮らし、営みを丁寧に観察しましょう。ミクロな視点でまちを見ると、なぜか人が集まって談笑している場所、待ちあわせがよくされている場所などがあることなどが見えてきます。人びとの暮らしと「まち」との関係にもフォーカスし、まちと人びとのどのような関係性があり得るのか、考える時間にしたいと思います。
まちづくりの施策に関心がある方はもちろん、散歩や、ものを観察することが好きという関心の方も歓迎します。
講師はこれまで東京都立川市や三宅島をはじめとした地域で官民と共同しながら地域での取り組みを行ってきましたので、実践の中でのお話もシェアできればと思います。

【Outline (in English)】
【Outline and Objectives】
Qualitative research involves the collection and rigorous analysis of observations, interviews, and other records of human activity, allowing us to gain a richer understanding of the structures, processes, and perspectives that drive or shape human behavior. We will also practice some of the activities associated with conducting qualitative research studies relevant to community development.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to:
・Demonstrate skills related to survey design and survey procedures for qualitative research
・Explain and apply methods of study, participant observation, and interviews
・Conduct appropriate surveys in the target area
・Make proposals for community development based on the results of surveys in the target area
【Learning Activities Outside of the Classroom】
Students will be expected to complete required fieldwork assignments after each class. Study time will exceed four hours per class session.
【Grading Criteria/Policy】
Final grades will be calculated based on homework (30%), the term-end report (50%), and in-class contributions (20%).

CAR200MA（キャリア教育 / Career education 200）

キャリアサポート事前指導

廣川　進

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：月3/Mon.3　｜　配当年次：2〜4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「キャリアサポート実習」のための事前指導の授業である。他者との協働を通じた意思決定を促進する能力を身につけることを目的とする。

【到達目標】
・傾聴や質問技法を適切に使うことができる
・アサーションの観点を取り入れたコミュニケーションができる
・ファシリテーションを活用し、グループでの話し合いを円滑に進めることができる
・ワークショップ形式のプログラムを考案し、実演できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
受講者同士でのグループワーク、授業内での発表、校内実習、リアクションペーパー提出など。体験型の科目であるため、フィードバックおよび講評や解説は随時行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	この授業の流れを説明する。
第2回	コミュニケーション（1）	傾聴のワークをする。
第3回	コミュニケーション（2）	質問技法、リレーション（信頼関係）づくりのワークをする。
第4回	コミュニケーション（3）	「頼む」「断る」を題材にしたアサーションのワークをする。
第5回	グループワークのスキル（1）	アイスブレイク、ファシリテーション、ブレインストーミング等を扱う。自由で創造的な話し合いを体験する。
第6回	グループワークのスキル（2）	ＫＪ法を扱う。話し合いを収束させていくプロセスを体験する。
第7回	ワークショップ形式のプログラム作成（1）	自由なアイデア出しで発想を広げることを学び、ワークショップ形式のプログラムを作成する。
第8回	ワークショップ形式のプログラム作成（2）	今までに学んだスキルを使って自由で創造的な話し合いを行い、ワークショップ形式のプログラムを完成させる。
第9回	ワークショップ形式のプログラム発表	これまでの授業を踏まえてプログラムを発表、実演する。実習に向けて準備する。
第10回	実習リハーサル（1）	実習に向けて当日を想定し、リハーサルを実施する（前半）。
第11回	実習リハーサル（2）	実習に向けて当日を想定し、リハーサルを実施する（後半）。完成したプログラムの講評をする。
第12回	実習	作成したプログラムを学部1年生に実施する。
第13回	実習の振り返り・発表	実習について振り返りを行い、発表する。
第14回	まとめと振り返り	春学期に学んだ授業内容について振り返りを行う。授業を履修することで獲得した知識やスキルついて振り返り、言語化する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。プログラムの作成では、授業外の時間に自主的に集まって話し合うことが必要になる場合がある。

【テキスト（教科書）】
プリントおよび用語集を授業時に配布する。

【参考書】
授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点50％、レポート課題50％にて評価。

【学生の意見等からの気づき】
引き続き、学生の意見を取り入れていく。

【その他の重要事項】
半期で欠席は2回まで許容する。3回欠席したら単位を認めない。15分以内の遅刻は遅刻とし、遅刻3回で欠席1回とみなす。16分以上の遅刻は欠席とする。

【Outline (in English)】
This course aims to develop students' communication skills, essential for fostering the growth of others. By the end of the course, students will be capable of:
Utilizing listening and questioning techniques effectively.
Communicating assertively.
Facilitating group discussions with practical moderation skills.
Designing and delivering workshop-style programs.
Students are expected to dedicate over four hours of study time per class. Assessment will be based on report submissions (50%) and active contributions in class (50%).

CAR200MA（キャリア教育 / Career education 200）

キャリアサポート事前指導

児美川　孝一郎

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：水2/Wed.2　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「キャリアサポート実習」のための事前指導の授業である。他者との協働を通じた意思決定を促進する能力を身につけることを目的とする。

【到達目標】
・傾聴や質問技法を適切に使うことができる
・アサーションの観点を取り入れたコミュニケーションができる
・ファシリテーションを活用し、グループでの話し合いを円滑に進めることができる
・ワークショップ形式のプログラムを考案し、実演できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
受講者同士でのグループワーク、授業内での発表、校内実習、リアクションペーパー提出など。体験型の科目であるため、フィードバックおよび講評や解説は随時行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	この授業の流れを説明する。
第2回	コミュニケーション（1）	傾聴のワークをする。
第3回	コミュニケーション（2）	質問技法、リレーション（信頼関係）づくりのワークをする。
第4回	コミュニケーション（3）	「頼む」「断る」を題材にしたアサーションのワークをする。
第5回	グループワークのスキル（1）	アイスブレイク、ファシリテーション、ブレインストーミング等を扱う。自由で創造的な話し合いを体験する。
第6回	グループワークのスキル（2）	ＫＪ法を扱う。話し合いを収束させていくプロセスを体験する。
第7回	ワークショップ形式のプログラム作成（1）	自由なアイデア出しで発想を広げることを学び、ワークショップ形式のプログラムを作成する。
第8回	ワークショップ形式のプログラム作成（2）	今までに学んだスキルを使って自由で創造的な話し合いを行い、ワークショップ形式のプログラムを完成させる。
第9回	ワークショップ形式のプログラム発表	これまでの授業を踏まえてプログラムを発表、実演する。実習に向けて準備する。
第10回	実習リハーサル（1）	実習に向けて当日を想定し、リハーサルを実施する（前半）。
第11回	実習リハーサル（2）	実習に向けて当日を想定し、リハーサルを実施する（後半）。完成したプログラムの講評をする。
第12回	実習	作成したプログラムを学部1年生に実施する。
第13回	実習の振り返り・発表	実習について振り返りを行い、発表する。
第14回	まとめと振り返り	春学期に学んだ授業内容について振り返りを行う。授業を履修することで獲得した知識やスキルついて振り返り、言語化する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。プログラムの作成では、授業外の時間に自主的に集まって話し合うことが必要になる場合がある。

【テキスト（教科書）】
テキストおよび用語集を授業時に配布する。

【参考書】
授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点50％、レポート課題50％にて評価。

【学生の意見等からの気づき】
引き続き、学生の意見を取り入れていく。

【その他の重要事項】
半期で欠席は2回まで許容する。3回欠席したら単位を認めない。15分以内の遅刻は遅刻とし、遅刻3回で欠席1回とみなす。16分以上の遅刻は欠席とする。

【Outline (in English)】
This course aims to develop students' communication skills, essential for fostering the growth of others. By the end of the course, students will be capable of:
Utilizing listening and questioning techniques effectively.
Communicating assertively.
Facilitating group discussions with practical moderation skills.
Designing and delivering workshop-style programs.
Students are expected to dedicate over four hours of study time per class. Assessment will be based on report submissions (50%) and active contributions in class (50%).

CAR200MA（キャリア教育 / Career education 200）

キャリアサポート事前指導

田澤　実

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：水2/Wed.2　｜　配当年次：2〜4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「キャリアサポート実習」のための事前指導の授業である。他者との協働を通じた意思決定を促進する能力を身につけることを目的とする。

【到達目標】
・傾聴や質問技法を適切に使うことができる
・アサーションの観点を取り入れたコミュニケーションができる
・ファシリテーションを活用し、グループでの話し合いを円滑に進めることができる
・ワークショップ形式のプログラムを考案し、実演できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
受講者同士でのグループワーク、授業内での発表、校内実習、リアクションペーパー提出など。体験型の科目であるため、フィードバックおよび講評や解説は随時行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	この授業の流れを説明する。
第2回	コミュニケーション（1）	傾聴のワークをする。
第3回	コミュニケーション（2）	質問技法、リレーション（信頼関係）づくりのワークをする。
第4回	コミュニケーション（3）	「頼む」「断る」を題材にしたアサーションのワークをする。
第5回	グループワークのスキル（1）	アイスブレイク、ファシリテーション、ブレインストーミング等を扱う。自由で創造的な話し合いを体験する。
第6回	グループワークのスキル（2）	ＫＪ法を扱う。話し合いを収束させていくプロセスを体験する。
第7回	ワークショップ形式のプログラム作成（1）	自由なアイデア出しで発想を広げることを学び、ワークショップ形式のプログラムを作成する。
第8回	ワークショップ形式のプログラム作成（2）	今までに学んだスキルを使って自由で創造的な話し合いを行い、ワークショップ形式のプログラムを完成させる。
第9回	ワークショップ形式のプログラム発表	これまでの授業を踏まえてプログラムを発表、実演する。実習に向けて準備する。
第10回	実習リハーサル（1）	実習に向けて当日を想定し、リハーサルを実施する（前半）。
第11回	実習リハーサル（2）	実習に向けて当日を想定し、リハーサルを実施する（後半）。完成したプログラムの講評をする。
第12回	実習	作成したプログラムを学部1年生に実施する。
第13回	実習の振り返り・発表	実習について振り返りを行い、発表する。
第14回	まとめと振り返り	春学期に学んだ授業内容について振り返りを行う。授業を履修することで獲得した知識やスキルついて振り返り、言語化する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。プログラムの作成では、授業外の時間に自主的に集まって話し合うことが必要になる場合がある。

【テキスト（教科書）】
テキストおよび用語集を授業時に配布する。

【参考書】
授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点50％、レポート課題50％にて評価。

【学生の意見等からの気づき】
引き続き、学生の意見を取り入れていく。

【その他の重要事項】
半期で欠席は2回まで許容する。3回欠席したら単位を認めない。15分以内の遅刻は遅刻とし、遅刻3回で欠席1回とみなす。16分以上の遅刻は欠席とする。

【Outline (in English)】
This course aims to develop students' communication skills, essential for fostering the growth of others. By the end of the course, students will be capable of:
Utilizing listening and questioning techniques effectively.
Communicating assertively.
Facilitating group discussions with practical moderation skills.
Designing and delivering workshop-style programs.
Students are expected to dedicate over four hours of study time per class. Assessment will be based on report submissions (50%) and active contributions in class (50%).

CAR200MA（キャリア教育 / Career education 200）

キャリアサポート実習

児美川　孝一郎

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水2/Wed.2　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中学生および高校生を対象にしたキャリア教育プログラムを作成し実施する経験を通して、他者との協働を通じた意思決定を促進する能力を身につけることを目的とする。

【到達目標】
・他者のニーズ、視点、行動を理解し、ファシリテーションを通じて他者と関わりを持つことができる。
・中学生および高校生を対象としたワークショップ形式のキャリア教育プログラムを考案し、実演ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
受講者同士でのグループワーク、授業内での発表、校外実習、リアクション ペーパー提出など。体験型の科目であるため、フィードバックおよび講評や解説は随時行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	この授業の流れを説明する。 1つ目の実習先の下調べをする。
第2回	実習のリハーサル（1）	実習の前半部分のリハーサルをする。
第3回	実習のリハーサル（2）	実習の後半部分のリハーサルをする。
第4回	実習（1）	1つ目の校外実習
第5回	実習報告（1）	1つ目の校外実習の報告をする。 全体で共有し、次の実習へ備える。
第6回	キャリア教育プログラムの作成（1）	2つ目の実習先の高校の下調べをする。 実習先の生徒の特徴を踏まえたキャリア教育プログラムを作成する。全体の概要をイメージする。
第7回	キャリア教育プログラムの作成（2）	実習で関わった生徒の特徴を踏まえたキャリア教育プログラムをあらたに作成する。詳細をつめる。
第8回	キャリア教育プログラムの発表（1）	完成したプログラムの発表と講評をする（前半の班）。
第9回	キャリア教育プログラムの発表（2）	完成したプログラムの発表と講評をする（後半の班）。実習で用いるプログラムを決定する。
第10回	実習のリハーサル（1）	実習の前半部分のリハーサルをする。
第11回	実習のリハーサル（2）	実習の後半部分のリハーサルをする。
第12回	実習（2）	2つ目の校外実習
第13回	実習報告（2）	2つ目の校外実習の報告をする。 全体で共有する。
第14回	まとめと振り返り	授業を履修することで獲得した知識やスキルについて振り返り、言語化する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。キャリア教育プログラムの作成では、授業外の時間に自主的に集まって話し合うことが必要になる場合がある。

【テキスト（教科書）】
キャリアサポート事前指導で配布したテキストと用語集を用いる。

【参考書】
授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点50％、レポート50％にて評価。

【学生の意見等からの気づき】
引き続き、学生の意見を取り入れていく。

【その他の重要事項】
・実習日の決定は実習先との調整が必要になるため、授業計画が変更になることがある。この科目を履修するためには「キャリアサポート事前指導」の単位を履修していることが条件になる。
・半期で欠席は２回まで許容する。3回欠席したら単位を認めない。15分以内の遅刻は遅刻とし、遅刻３回で欠席１回とみなす。16分以上の遅刻は欠席とする。

【Outline (in English)】
This course is tailored to assist junior high and high school students in developing communication skills pertinent to career education. By the end of this course, students will be equipped to:
Understand and empathize with the needs, perspectives, and behaviors of others and engage effectively with them through facilitation techniques.
Designed and executed a workshop-style career education program for junior high and high school students.
Students are required to complete all assigned tasks following each class session. They should anticipate dedicating over four hours of study time per class. Assessment of student performance will be based on report submissions (50%) and active in-class contributions (50%).

CAR200MA（キャリア教育 / Career education 200）

キャリアサポート実習

田澤　実

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水2/Wed.2　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中学生および高校生を対象にしたキャリア教育プログラムを作成し実施する経験を通して、他者との協働を通じた意思決定を促進する能力を身につけることを目的とする。

【到達目標】
・他者のニーズ、視点、行動を理解し、ファシリテーションを通じて他者と関わりを持つことができる。
・中学生および高校生を対象としたワークショップ形式のキャリア教育プログラムを考案し、実演ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
受講者同士でのグループワーク、授業内での発表、校外実習、リアクション ペーパー提出など。体験型の科目であるため、フィードバックおよび講評や解説は随時行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	この授業の流れを説明する。 1つ目の実習先の下調べをする。
第2回	実習のリハーサル（1）	実習の前半部分のリハーサルをする。
第3回	実習のリハーサル（2）	実習の後半部分のリハーサルをする。
第4回	実習（1）	1つ目の校外実習
第5回	実習報告（1）	1つ目の校外実習の報告をする。 全体で共有し、次の実習へ備える。
第6回	キャリア教育プログラムの作成（1）	2つ目の実習先の高校の下調べをする。 実習先の生徒の特徴を踏まえたキャリア教育プログラムを作成する。全体の概要をイメージする。
第7回	キャリア教育プログラムの作成（2）	実習で関わった生徒の特徴を踏まえたキャリア教育プログラムをあらたに作成する。詳細をつめる。
第8回	キャリア教育プログラムの発表（1）	完成したプログラムの発表と講評をする（前半の班）。
第9回	キャリア教育プログラムの発表（2）	完成したプログラムの発表と講評をする（後半の班）。実習で用いるプログラムを決定する。
第10回	実習のリハーサル（1）	実習の前半部分のリハーサルをする。
第11回	実習のリハーサル（2）	実習の後半部分のリハーサルをする。
第12回	実習（2）	2つ目の校外実習
第13回	実習報告（2）	2つ目の校外実習の報告をする。 全体で共有する。
第14回	まとめと振り返り	授業を履修することで獲得した知識やスキルについて振り返り、言語化する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。キャリア教育プログラムの作成では、授業外の時間に自主的に集まって話し合うことが必要になる場合がある。

【テキスト（教科書）】
キャリアサポート事前指導で配布したテキストと用語集を用いる。

【参考書】
授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点50％、レポート50％にて評価。

【学生の意見等からの気づき】
引き続き、学生の意見を取り入れていく。

【その他の重要事項】
・実習日の決定は実習先との調整が必要になるため、授業計画が変更になることがある。この科目を履修するためには「キャリアサポート事前指導」の単位を履修していることが条件になる。
・半期で欠席は２回まで許容する。3回欠席したら単位を認めない。15分以内の遅刻は遅刻とし、遅刻３回で欠席１回とみなす。16分以上の遅刻は欠席とする。

【Outline (in English)】
This course is tailored to assist junior high and high school students in developing communication skills pertinent to career education. By the end of this course, students will be equipped to:
Understand and empathize with the needs, perspectives, and behaviors of others and engage effectively with them through facilitation techniques.
Designed and executed a workshop-style career education program for junior high and high school students.
Students are required to complete all assigned tasks following each class session. They should anticipate dedicating over four hours of study time per class. Assessment of student performance will be based on report submissions (50%) and active in-class contributions (50%).

CAR200MA（キャリア教育 / Career education 200）

キャリアサポート実習

廣川　進

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：月3/Mon.3　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中学生および高校生を対象にしたキャリア教育プログラムを作成し実施する経験を通して、他者との協働を通じた意思決定を促進する能力を身につけることを目的とする。

【到達目標】
・他者のニーズ、視点、行動を理解し、ファシリテーションを通じて他者と関わりを持つことができる。
・中学生および高校生を対象としたワークショップ形式のキャリア教育プログラムを考案し、実演ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
受講者同士でのグループワーク、授業内での発表、校外実習、リアクション ペーパー提出など。体験型の科目であるため、フィードバックおよび講評や解説は随時行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	この授業の流れを説明する。 1つ目の実習先の下調べをする。
第2回	実習のリハーサル（1）	実習の前半部分のリハーサルをする。
第3回	実習のリハーサル（2）	実習の後半部分のリハーサルをする。
第4回	実習（1）	1つ目の校外実習
第5回	実習報告（1）	1つ目の校外実習の報告をする。 全体で共有し、次の実習へ備える。
第6回	キャリア教育プログラムの作成（1）	2つ目の実習先の高校の下調べをする。 実習先の生徒の特徴を踏まえたキャリア教育プログラムを作成する。全体の概要をイメージする。
第7回	キャリア教育プログラムの作成（2）	実習で関わった生徒の特徴を踏まえたキャリア教育プログラムをあらたに作成する。詳細をつめる。
第8回	キャリア教育プログラムの発表（1）	完成したプログラムの発表と講評をする（前半の班）。
第9回	キャリア教育プログラムの発表（2）	完成したプログラムの発表と講評をする（後半の班）。実習で用いるプログラムを決定する。
第10回	実習のリハーサル（1）	実習の前半部分のリハーサルをする。
第11回	実習のリハーサル（2）	実習の後半部分のリハーサルをする。
第12回	実習（2）	2つ目の校外実習
第13回	実習報告（2）	2つ目の校外実習の報告をする。 全体で共有する。
第14回	まとめと振り返り	授業を履修することで獲得した知識やスキルについて振り返り、言語化する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。キャリア教育プログラムの作成では、授業外の時間に自主的に集まって話し合うことが必要になる場合がある。

【テキスト（教科書）】
キャリアサポート事前指導で配布したテキストと用語集を用いる。

【参考書】
授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点50％、レポート50％にて評価。

【学生の意見等からの気づき】
引き続き、学生の意見を取り入れていく。

【その他の重要事項】
・実習日の決定は実習先との調整が必要になるため、授業計画が変更になることがある。この科目を履修するためには「キャリアサポート事前指導」の単位を履修していることが条件になる。
・半期で欠席は２回まで許容する。3回欠席したら単位を認めない。15分以内の遅刻は遅刻とし、遅刻３回で欠席１回とみなす。16分以上の遅刻は欠席とする。

【Outline (in English)】
This course is tailored to assist junior high and high school students in developing communication skills pertinent to career education. By the end of this course, students will be equipped to:
Understand and empathize with the needs, perspectives, and behaviors of others and engage effectively with them through facilitation techniques.
Designed and executed a workshop-style career education program for junior high and high school students.
Students are required to complete all assigned tasks following each class session. They should anticipate dedicating over four hours of study time per class. Assessment of student performance will be based on report submissions (50%) and active in-class contributions (50%).

CAR200MA（キャリア教育 / Career education 200）

キャリア体験事前指導

石山　恒貴

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：木2/Thu.2　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業の目的は、キャリア体験（インターンシップ）の事前に、現実社会の状況、働き方、生き方（ワークキャリア、ライフキャリア）に関する理解を深め、それを行動につなげることにあります。グループワークを重視し、他の学生との交流を通して、多様な視点、傾聴、質問、自己表現を培い、インターンシップを有効なものとすることを目指します。

【到達目標】
（事前準備）
①インターンシップの意義を理解し、その開拓の方法、開拓のための情報の活用を理解し、開拓をうまく実践できる
②現実社会の状況、働き方、生き方（ワークキャリア、ライフキャリア）を理解する
③グループワークを通じて、多様な視点、傾聴、質問、自己表現を培う
（インターンシップ中）
①インターンシップ先で円滑に受け入れられること
②ワークキャリア、ライフキャリアの実態を理解すること
③働く人々との対人関係能力（傾聴、質問、自己表現を使ったコミュニケーションができる）を醸成すること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
この授業は、夏休みのインターンシップ（5日以上）の準備を行うものであり、秋学期の「キャリア体験学習」を履修することで完結となる。インターンシップ先については自身で開拓いただくが、教員教員が紹介できる企業もあるため、その希望などは個別に相談しつつ進める。。
インターンシップの開拓自体が貴重な経験となるが、そのために教員のアドバイス、情報提供、インターン先で円滑に受け入れられるためのロールプレイなど積極的に行い、インターンシップ開拓を支援する。
またインターンシップ開拓にあたり、実践的に参考になるゲスト講義を行う。
また、インターンシップサイトの活用のためのゲスト講義も実施する。
さらにグループワークを重視した参加型授業であり、学生同士、教員からの実践的なフィードバックを行う。ゲスト講義など、スケジュールについては、一部変更の可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	ガイダンス: 授業の進め方、活用方法等について説明、自己紹介
第2回	現実の社会におけるワークキャリア、ライフキャリアの実態（講義）	現実の社会におけるワークキャリア、ライフキャリアの実態を理解する
第3回	ゲスト講師との対話（インターンシップの専門家）	ゲスト講師（インターンシップの専門家）から、インターンシップの目的、開拓について解説してもらい、それを理解する
第4回	グループワーク1（ディスカッション）	インターンシップの目的、開拓の手段、方針、ESの作成などについて
第5回	グループワーク1（プレゼンテーション）	インターンシップの自身の開拓方針について発表する
第6回	ゲスト講義によるインターンシップサイトの活用など、開拓の進め方	ゲスト講義によってインターンシップサイトの活用などの理解を深め、実践できるようにしていく
第7回	グループワーク2（ディスカッション）	インターンシップ開拓にあたり、企業研究・業界研究の進め方について話し合い、自身の方針を決める
第8回	グループワーク2（プレゼンテーション）	インターンシップ開拓にあたり、企業研究・業界研究の進め方について話し合い、自身の方針を発表するとともに、中間レポートの準備をする
第9回	グループワーク3（ディスカッション）	働く価値観について、自己分析を進めるために話し合う
第10回	グループワーク3（プレゼンテーション）	自己の働く価値観について、発表を行う
第11回	グループワーク4（ゲスト講義＋ディスカッション）	ゲストからの情報提供を受けて、インターン先で円滑に受け入れられるためにはどうしたらいいか話し合う。
第12回	グループワーク4（ディスカッション	インターン先で円滑に受け入れられるためにはどうしたらいいかについて、発表する
第13回	グループワーク4（プレゼンテーション）	インターン先で円滑に受け入れられるためにはどうしたらいいかについて、発表する
第14回	まとめ	これまでの授業における気づきを振り返り、これからインターンシップに臨むにあたり、各自が何を目的（持ち帰りたいものはなにか）について、共有しあう

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・各自、インターンシップ開拓の情報収集を進めるとともに、開拓に向けた行動を進める。
・プレゼンテーションの準備を授業外時間にも行う。
・本授業の事前学習・復習は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
　特定の教科書を使用せず、毎回の授業でレジュメを使用する。基本的には紙での配布せず、学習システムにアップする。

【参考書】
田中研之輔・遠藤野ゆり・梅崎修編著(2024)『キャリア・スタディーズ　これからの働き方と生き方の教科書』日本能率協会マネジメントセンター.
その他は、授業で指示する。

【成績評価の方法と基準】
①授業におけるグループワークでの取組みと発表（50%）
②インターンシップ開拓に関する取り組み（10%）
③中間レポートと最終レポートの評価（40%）

【学生の意見等からの気づき】
ゲストからの話が参考になったとの意見が多く、なるべく多様なゲストに参加してもらう。
インターンシップ開拓の不安が払しょくされたことの評価が多いため、よりその点を重視していく。

【その他の重要事項】
・参加型であるため楽しみながら、積極的、主体的に取り組んでいただきたい。

【キャリアデザイン学部より】
本科目を履修するには3月下旬の体験型選択必修科目ガイダンスに出席し、選抜に合格する必要があります。必ず掲示で詳細を確認してください。

【Outline (in English)】
*Course outline

The aim of this course is to deepen your understanding of the realities of the working world, how to work and how to live (work career, life career) before your career experience (internship), and to turn that understanding into action.
*Learning Objectives
The goals of this class are
(1) To understand the significance of internships and be able to prepare for and act towards developing them
(2) To understand the situation of the real world, how to work, and how to live (work career, life career)
(3) To cultivate diverse perspectives, listening, questioning, and self-expression through group work
*Learning activities outside the classroom
Preparing for presentations requires time outside of class hours. At least 4 hours of study time outside of class hours is required for each lesson.
*Grading Criteria
① Group work and presentations in class (50%)
② Efforts to find an internship placement (10%)
③ Evaluation of interim and final reports (40%)

CAR200MA（キャリア教育 / Career education 200）

キャリア体験事前指導

田中　研之輔

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：木4/Thu.4　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、働き方をインタラクティブなグループワークと、学外でのインターンシップ経験（短期、中期、長期）を通じて実践的に学んでいくことを目的としています。就職活動の内定を狙いとしたものではなく、卒業後社会人として生きていく為の基礎力を身につけていきます。

【到達目標】
①　毎回のグループワークとプレゼンテーションにより、考える力、伝える力、まとめる力を養います。
②　企業分析、市場分析、自己分析、などの多角的な分析手法をみにつけ、社会洞察力と適応力を磨いていきます。
③　インターンシップを通じて、働き方の基礎を学ぶことができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
本講義はインターン実習が要件で秋学期の「キャリア体験学習」単位取得をもって選択必修科目である体験型科目の履修を終了する。
〇A、Bコースの二種類がある。Aコースは大学が実習先を準備するもの、Bコースは教員の指導のもと自ら期間内に希望する実習先を開拓するものである。＊本講義はBコースで実施する。実習先が面接試験を必須としているところも多い。体験することに価値がある。
〇実習先は多様である。実習期間も、開始・終了時期も異なる。通常6、7月に実習先にコンタクトし、原則実習は夏休みに行う。
授業の密度を高め効率化を図り授業成果を高めるために共同授業の形式も多用する。クラス分けは実習先により決定する。実習先の決定及び実習後の報告は個別に時間をとり面談を実施する。
（授業の概要）
〇実習先は教員との面談により決定するが、実習先へのコンタクトや事務手続きは学生が主体となって行う。書類作成・授受事務などは単位取得の要件である。
〇実習先を事前に調べ社会人マナーについても基礎的な知識を身につける。
〇体験学習を履修した先輩からの話を聞く機会を設ける。
〇また君たちが働くことになる日本社会について考える場も提供したいと考えている。
（手続き）
〇在学生向け履修ガイダンス後速やかに事前申込書・志望理由書・自己PRなど（予定）の書類の提出が必要である。煩瑣となるが、就活の予行だと考えてほしい。
〇なお、キャリア体験学習（プロジェクト）及びキャリア体験学習（国際）との並行履修はできない。
フィードバックは、リアクションペーパーや課題の全体総括と適宜、個別コメントを各講義の冒頭で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	大学から社会への移行の基礎理解	大学から社会への移行の基礎理解を深める
第2回	自己分析とインターンシップ先選定	自己理解ワークを実施するとともに、インターンシップ先を選定する。
第3回	前半メンバーの面談と実習先の仮決定、インターンシップ先と関連業界の調査、グループワーク	①前半メンバーの希望先聴取と実習先仮決定 ②逐次、実習予定先と関連業界調査の開始 ③既述のグループワーク
第4回	後半メンバーの面談と実習先の仮決定、実習先と関連業界の調査、グループワーク	①後半メンバーの希望先聴取と実習先仮決定 ②逐次、実習予定先と関連業界調査の開始 ③既述のグループワーク
第5回	グループワーク発表会①	自己理解での気づきを発表し、議論する。
第6回	グループワーク発表会②	業界研究での気づきを発表し、議論する。
第7回	異業種の業界分析①	異業種の業界研究を行う。
第8回	インターンシップ先外部講師招聘	体験学習を履修した先輩からの話を聞いて質疑応答
第9回	事前調査のグループ内発表・教員との前半メンバーの個別打合わせ　Ⅰ	①各自の事前調査のグループ内発表と情報の共有 ②実習先に関しての教員との前半メンバーの打合せ
第10回	事前調査のグループ内発表・教員との後半メンバーの個別打合わせ　Ⅱ	①各自の事前調査のグループ内発表と情報の共有 ②実習先に関しての教員との後半メンバーの打合せ
第11回	社会人基礎力を培う①	「社会で働くということ」（外部講師の予定）
第12回	社会人基礎力を培う②	心構え、マナー、電話のかけ方など
第13回	金融・銀行・証券関連の業界分析のグループワーク	金融・銀行・証券関連の業界分析のグループワークを行う
第14回	IT・通信関連の業界分析のグループワーク	IT・通信関連の業界分析のグループワークを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習先の情報収集や実習先へのコンタクト。実習先に関連して民間企業、NPO、公共団体などについて情報の収集と整理。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
田中研之輔　『先生は教えてくれない就活のトリセツ』（2017 ちくまプリマー新書）

【参考書】
必要資料は適宜、講義内で指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点80％、報告書（講義内発表＋実習に係わる書類作成能力など）20％　により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
本講義は働き方に特化したきわめて実践的な学びの場です。インターンに採用されない経験、インターン先での失敗、上手く行かずに悩む学生もいます。失敗は成長のエンジンです。他の受講者と失敗経験も共有しながら、そこでの打開策も練り上げていきますので、働き方を学びたい学生はぜひ、受講してください。

【キャリアデザイン学部より】
本科目を履修するには3月下旬の体験型選択必修科目ガイダンスに出席し、選抜に合格する必要があります。必ず掲示で詳細を確認してください。

【Outline (in English)】
This course of internship is a culminating learning experience for students studying in the fields of worksites. This experience allows students the opportunity to practice the application of theory and apply the knowledge acquired through academic preparation, while learning the skills of an entry level practitioner. Experience at an internship site offering career development not only draws on major and minor course offerings, but allows the integration of course work from all fields of study during the development of professional skills.

【Work to be done outside of class】
Each student will conduct internship of class to prepare for the presentation.
The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.
【Grading criteria】
Submission assignment (20%), normal score (80%).
The submitted assignments will be based on the achievement level of the assignments, based on the basic viewpoint of qualitative research and the degree of understanding of ideas.
The normal score is based on the degree of participation / contribution to the class and the attitude of attending the class.

CAR200MA（キャリア教育 / Career education 200）

キャリア体験事前指導

野中　利明

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：金4/Fri.4　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
AIの急速な進化により、これまでの多くの仕事をAIに任せる時代をむかえます。では人間がやるべき仕事とは何なのか？
変化が激しく先行きの見通しの立ちにくいこれからの時代において、自分自身が何をよりどころにどのような人生・キャリアを歩んで行くべきかを通年で考える授業の春学期の講義です。
本講義では、授業でのインタラクティブな議論及びインターンシップの準備とインターンシップ経験を通じてその理解を深めます。

【到達目標】
①自らのキャリア・人生設計について考えることの意義を理解すること
②自ら実習先の調査・開拓を行い、実習での働く経験を通じて自分自身のキャリアに対する考えを深めること
③議論を進めながら思考を深めるプロセスを身に着けること
①Understand the importance of self-career and life design.
②Proactively find/create internship opportunities and deepen career perspectives through practical experience.
③Acquire the process of critical thinking through discussion.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
１．この授業は原則夏休みに行う体験実習の事前準備を行うためのものです。
秋学期の「キャリア体験学習」の単位取得をもって選択必修科目である体験型科目の履修を修了とします。
２．インターン先の検討に際しては、教員がアドバイスを行いつつ、学生が自ら実習先にコンタクトして実習先との調整・事務手続きを行います。
・実習先の選定についてはA,B2つのコースがあり、Aは大学が実習先を用意、Bは学生が実習先を開拓するものですが、本講義ではBコースのみの実施となります。
・実習先を自ら開拓すること自体が貴重な学びの機会になります。
３．希望者多数の場合には選抜を行います。
４．原則実習は夏休みに行いますが、受入れ先の都合によっては、夏休み以外に実施することもあります。
５．毎回、ディスカッションの場を設けて、インタラクティブな議論を通じて思考を深めていくことを学びます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の目的と概要説明、受講の心構え、自己紹介
第2回	グループワーク（ディスカッション）	自己分析とやりたい仕事のイメージ出し（自分は何を大切にしているのか、自分はどのような価値観を持っているのかを言語化し、自分自身を客観視する。そのうえでどのような仕事をしたいかを考える）
第3回	グループワーク（課題）	自分はどのような価値観を持ち、どのような仕事につきたいかをまとめ各グループでプレゼンを行う
第4回	インターン希望先のヒアリング（教員との個別面談）と業界研究Ⅰ（前半）	インターン希望業種・希望先について教員と個別面談　関連の業界の調査実施
第5回	インターン希望先のヒアリング（教員との個別面談）と業界研究Ⅱ（後半）	インターン希望業種・希望先について教員と個別面談
第6回	グループワーク（ディスカッション）	何のために仕事をするのか？ 就職か？ 起業か？ 大手企業か？ ベンチャー企業か？ など仕事のあり方について議論をする
第7回	グループワーク（課題）	自分は何の為に働くのか？ どのような働き方を望むのか？ についてまとめ、グループ内でプレゼンし、議論する
第8回	社会人とのディスカッションⅠ	大手企業で働く社会人とのディスカッションを通じて、働く意味・意義を考える
第9回	社会人とのディスカッションⅡ	ベンチャー企業で働く社員人とのディスカッションを通じて、働く意味・意義を考える
第10回	インターン先の業界研究と企業研究（資料取りまとめ）①	グループごとの調査する業界・企業対象を決めて調査を行う
第11回	インターン先の業界研究と企業研究（資料取りまとめ）②	グループごとの調査する業界・企業対象を決めて調査を行う
第12回	インターン先の業界研究と企業研究のプレゼン実施①	グループ単位でのプレゼン実施（前半）
第13回	インターン先の業界研究と企業研究のプレゼン実施②	グループ単位でのプレゼン実施（後半）
第14回	インターンに向けた所信表明	春学期の総括として、インターンに向けた所信表明を行う（全員実施）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習先の業界・企業情報の収集並びに実習先へのコンタクトを実施します。
実習先を自ら開拓すること自体が大きな学びの場になります。
教科書からだけでは学ぶことのできない、実体験に基づく深い学びを経験しながら、自分自身のキャリアプラン・ライフプランへの考察を深めてもらいます。
Students will gather information on industries and companies for their internships and initiate contact with potential hosts. The process of securing an internship independently serves as a significant learning opportunity. By gaining profound, experience-based insights that cannot be acquired from textbooks alone, students are expected to deepen their reflections on their own career and life plans.

【テキスト（教科書）】
特に指定しません

【参考書】
「プロティアン」　田中研之輔　日経BP社
「ライフシフト」　リンダ・グラットン　プレジデント社
「ワークシフト」　リンダ・グラットン　プレジデント社
「冒険の書」　孫泰蔵　日経BP社
「人生の経営戦略」　山口周　ダイヤモンド社

【成績評価の方法と基準】
①授業におけるグループワークなどへの取組み姿勢（60%）
②各種レポートの提出状況及び内容（40%）
① Class participation in group work and other activities (60%)
② Submission status and quality of various reports (40%)

【学生の意見等からの気づき】
全員参加型の授業を前提として、自ら考える、発言する、思考を深める場をできる限り多く設けます。

【学生が準備すべき機器他】
PCを毎回持参のこと

【Outline (in English)】
With the rapid evolution of AI, we are entering an era where many traditional jobs will be delegated to machines. What, then, is the work that humans should do?
This is the Spring Semester module of a year-long course designed to explore how to navigate your life and career in this unpredictable age of drastic change, and what personal foundations you should rely on. In this course, students will deepen their understanding through interactive classroom discussions, internship preparation, and hands-on internship experiences.

CAR200MA（キャリア教育 / Career education 200）

キャリア体験学習

石山　恒貴

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木2/Thu.2　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業の目的は、夏休みのインターンシップ経験を振り返り、事前に考えていた現実社会の状況、働き方、生き方（ワークキャリア、ライフキャリア）に関して得られた新たな知見を深め、今後のキャリアに活かすことにある。特に、インターンシップで積んだ原体験／現体験を振り返り、ストーリー化して、それをエッセイとして言語化し、今後のキャリアに活かすことを学んでいく。

【到達目標】
この授業の到達目標は以下のとおりである。
①インターンシップ経験を振り返り、学習したポイントをまとめる
②事前に考えていた現実社会の状況、働き方、生き方（ワークキャリア、ライフキャリア）に関する新たな気づきをまとめる
③インターンシップで積んだ原体験／現体験を振り返り、ストーリー化して、それをエッセイとして言語化する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
・この授業の受講にあたっては、春学期の「キャリア体験事前指導」を修了のうえ、夏休みにインターンシップ体験を実施していることが求められる。
・インターンシップの振り返りを深めるため、グループ内で相互にインターンシップの経験をインタビューしあう。そのインタビューでふまえて、インターンシップの原体験／現体験をストーリー化し、エッセイに転換していく。
・後半では、気づきを業界研究、職種研究、企業研究に結びつけるためのグループ討議と発表を行う。
・前半でまとめたエッセイを改善するアドバイスをグループ内で相互に行い、その後、エッセイを個人発表する。
・さらにグループワークを重視した参加型授業であり、学生同士、教員からの実践的なフィードバックを行う。ゲスト講義など、スケジュールについては、一部変更の可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	秋学期の授業の概要について説明するとともに、新たなグループ分けとグループ討議の方針について検討する
第2回	インターンシップ結果インタビュー1（グループ）	エッセイでストーリを書くための準備として、それぞれがインターンシップでどんな原体験／現体験をしたのか、それを振り返るための相互インタビューを行う
第3回	インターンシップ結果インタビュー2（グループ）	エッセイでストーリを書くための準備として、それぞれがインターンシップでどんな原体験／現体験をしたのか、それを振り返るための相互インタビューを行う
第4回	インターンシップ結果インタビュー3（発表）	インターンシップ結果インタビューを行ったうえでの、グループとしての気づきを発表する
第5回	インタビューのエッセイへの転換を考える1（グループ）	インターンシップを振り返るための相互インタビューを、具体的にエッセイのためにストーリ化して、ほかの人にわかりやすく伝えるためにはどうすればいいか検討する
第6回	インタビューのエッセイへの転換を考える2（発表）	前回の討議内容を、各グループが発表する
第7回	ゲスト講師との対話（インターンシップの専門家）	ゲスト講師（インターンシップの専門家）から、インターンシップの気づきのまとめ方を解説してもらい、それを理解する
第8回	インターンの気づきを業界・職種・企業研究に活かす1（グループ）	今までの授業を踏まえ、業界地図、就職四季報を活用して、どのような業界・職種・企業研究ができるか、アイデアを話し合う
第9回	インターンの気づきを業界・職種・企業研究に活かす2（発表）	前回の討議内容を、各グループが発表する
第10回	エッセイの発表とアドバイスセッション1（グループ）	各自が作成してきたエッセイを発表し、そのエッセイについて、相互にアドバイスしあう
第11回	エッセイの発表とアドバイスセッション2（発表）	前回の討議内容を、各グループが発表する
第12回	エッセイの全体発表1（個人発表）	各自が作成してきたエッセイを発表する
第13回	エッセイの全体発表2（個人発表）	各自が作成してきたエッセイを発表する
第14回	まとめ	春学期、インターンシップ、秋学期の授業を振り返り、その気づきを今後に活かす

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・各自、インターンシップ先とは、インターンシップ終了後も可能な範囲で連携し、情報収集する。
・プレゼンテーションの準備を授業外時間にも行う。
・本授業の事前学習・復習は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書を使用せず、毎回の授業でレジュメを使用する。基本的には紙での配布せず、学習システムにアップする。

【参考書】
田中研之輔・遠藤野ゆり・梅崎修編著(2024)『キャリア・スタディーズ　これからの働き方と生き方の教科書』日本能率協会マネジメントセンター.
その他は、授業で指示する。

【成績評価の方法と基準】
①インターンシップ体験の個人報告の評価（30%）
②授業におけるグループワークでの取組みと発表（30%）
③中間レポートと最終レポートの評価（40%）

【学生の意見等からの気づき】
インターンシップは振り返ってこそ学びになる、他の人の経験が学びになる、ゲストなど社会人のプレゼンが学びになる、こうした意見があり、これらをいかした授業を進める

【その他の重要事項】
・参加型であるため楽しみながら、積極的、主体的に取り組んでいただきたい。
・インターンシップ関連の書類（先方の確認印が必要なものを含む）などの提出をもってインターンシップの実施を確認するので、提出が必要になる。

【キャリアデザイン学部より】
本科目は「キャリア体験事前指導」を修得(S〜C-)した場合のみ履修可能です。

【Outline (in English)】
*Course outline
The aim of this course is to reflect on the internship experience over the summer holidays, deepen the new knowledge gained about the real world, work styles and ways of life (work career, life career) that you had thought about in advance, and apply this to your future career.
*Learning Objectives
The goals of this class are
①Reflect on your internship experience and summarize the key points you learned
② Summarize any new insights you gained about the real world, work styles, and ways of life (work career, life career) that you had considered in advance
③ Think about your future career, making use of your internship experience
*Learning activities outside the classroom
Preparing for presentations requires time outside of class hours. At least 4 hours of study time outside of class hours is required for each lesson.
*Grading Criteria
① Evaluation of individual presentations on internship experience (30%)
②Group work and presentations in class (30%)
③Evaluation of interim and final reports (40%)

CAR200MA（キャリア教育 / Career education 200）

キャリア体験学習

田中　研之輔

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木4/Thu.4　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では働き方を実践的に学びながら、そこでの失敗経験を共有し、打開策を見つけ出していきます。本講義は大学内/外の相互補完的な学びに特徴があり、卒業後の生き方をデザインしていく力と方向性を学んでいきます。

【到達目標】
①働く場・働き方・働く人の多様性を認識する。
②実習を言語化する。
③働くとは何かを改めて考え、キャリアデザインする意識を明確化する。
④伝えるためのインタビューの仕方を学ぶ。
⑤キャリアデザインのドライバー（駆動力）を探索する。
⑥インターンシップの総括を行い、社会人としての基礎力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
①　実習体験をグループワークにより共有し働く現場の多様性を認識し②体験を教員に対する報告（面接形式）・グループワークでの発言・スピーチ（個人発表）・エッセイ執筆（編集により文集の作成）により言語化し③働くことを講義やグループワークで改めて考察する。グループワークのテーマとしては「エッセイで何を伝えたいか」、「キャリアドライバーを探す」などを予定。④インタビューの仕方をプロから学んだ上で⑤実際にインタビューを行いチームで映像作品などを制作し⑥発表する。
グループワークが中心のプログラムである。外部講師の講義も予定するが、あくまでも君たちでつくりあげる授業にしたい。リーダーシップやフォロワーシップを学び、また聴き方、アサーションやファシリテーションなどのスキルを試す良い機会を提供する。
フィードバックは、リアクションペーパーへの全体総括と適宜、個別コメントを各講義の冒頭で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	実習の進捗と振り返り	秋学期授業概要の説明と実習の振り返り。実習日誌などの書類作成・提出、グループワークの準備
第2回	○教員との個別面談（面接形式）Ⅰ ○グループワーク（実習先での体験共有）Ⅰ	○３分間スピーチ（教員に実習先の話をまとめる） ○グループワーク「エッセイで何を伝えたいか」を予定
第3回	○教員との個別面談（面接形式）Ⅱ ○グループワーク（実習先での体験共有）Ⅱ	同上 但し、エッセイのテーマを決める。
第4回	○教員との個別面談　Ⅲ ○グループ作品制作に向けて　Ⅰ	同上 ○グループワーク「キャリアドライバーを探す」を予定
第5回	実習発表会	エッセイを踏まえて実習報告（スピーチ）を行う。
第6回	グループ作品制作に向けて　Ⅱ	○グループワーク「キャリアドライバーを探す」を予定
第7回	講義「働くとは？」	現場で指導されている外部講師をお迎えする（予定）
第8回	キャリアモデルに学ぶ	現場でインタビューを行い映像を制作されているプロをお迎えする（予定）。
第9回	新規事業開発の体験①	新規事業の開発手順・注意点を学ぶ。
第10回	新規事業開発の体験②	新規事業開発のモデルをつくる
第11回	新規事業開発の体験③	新規事業開発案を相互に検討し、練り上げる
第12回	新規事業発表会①	企業関係者を招聘し、新規事業の発表会を実施する
第13回	新規事業発表会②	企業関係者を招聘し、新規事業の発表会を実施し、フィードバックから再検討していく
第14回	インターンシップ報告会	インターンシップでの学びを報告し、総括していく

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
①授業時間外にインタビューやインターンシップに時間をとられる可能性が高い。②この機会にキャリアデザインとは何かをじっくり考える時間をもってもらいたい。③働く場として関心ある業態・業界、企業・NPO・公共団体についての情報を種々のメディアによりフォローすることを薦める。④実習先とのコンタクトが継続される場合がある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
田中研之輔　「先生は教えてくれない就活のトリセツ』（ちくまプリマー新書）

【参考書】
授業内で適宜、伝える

【成績評価の方法と基準】
平常点80％、報告書（講義内発表＋実習に係わる書類作成能力など）20％　により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
春学期での実践的な学び、夏期休業期間中のインターンシップ経験を通じて、毎年、秋学期の本講座では飛躍的な成長をみせてくれます。少人数でインタラクティブに学べることの強みを最大限にいかしていきましょう。

【その他の重要事項】
○大変な時代になっている。まずは自分のことを考える。それから他人のことを考えよ。自分のことは自分で決める。生きる覚悟と社会で役に立つという高い志を持たないといけない。
○先が見えにくい時代だといわれている。
経済のグローバル化に加え、格差の拡大、地球環境の悪化など問題は数多い。
けれど、いつの時代も変わらないことがある。
それは、社会は人で成り立っているという事実だ。
キャリアデザイン学部では、人のエクスパートを育てている。
自分自身を磨き、人の活かし方を学び、人とともにある未来を考える。
人の専門家の視点から、さまざまなフィールドを見渡している。
ダイヤはダイヤでしか磨けないように、人は人でしか磨けない。
だから授業は座学にとどまらない。
フィールドワークや体験学習、インターンシップなど、学ぶ分野も幅広い。
物事を多角的に観る眼を鍛えるためだ。
人について深く学ぶことで、自分自身を客観視する力を身につける。
自分と向き合いながら「やれること」と「やれないこと」を見極める。
キャリアデザイン学部での学びは、生涯学習の第一歩であり、その積み重ねが、社会で通用する力となる（キャリアデザイン学部のパンフレットを引用）。

【キャリアデザイン学部より】
本科目は「キャリア体験事前指導」を習得（S〜C-)した場合のみ履修可能です。

【Outline (in English)】
This course of internship is a culminating learning experience for students studying in the fields of worksites. This experience allows students the opportunity to practice the application of theory and apply the knowledge acquired through academic preparation, while learning the skills of an entry level practitioner. Experience at an internship site offering career development not only draws on major and minor course offerings, but allows the integration of course work from all fields of study during the development of professional skills.
【Work to be done outside of class】
Each student will conduct survey internship outside of class to prepare for the presentation.
The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.
【Grading criteria】
Submission assignment (20%), normal score (80%).
The submitted assignments will be based on the achievement level of the assignments, based on the basic viewpoint of qualitative research and the degree of understanding of ideas.
The normal score is based on the degree of participation / contribution to the class and the attitude of attending the class.

CAR200MA（キャリア教育 / Career education 200）

キャリア体験学習

野中　利明

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：金4/Fri.4　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
AIの急速な進化により、これまでの多くの仕事をAIに任せる時代をむかえます。では人間がやるべき仕事とは何なのか？
変化が激しく先行きの見通しの立ちにくいこれからの時代において、自分自身が何をよりどころにどのような人生・キャリアを歩んで行くべきかを通年で考える授業の秋学期の講義です。
本講義はインターンシップの体験を振り返りながら、そこでの学びを整理すると共に、自分自身の価値観を言語化し、今後の人生、キャリアについて考える授業です。
本講義では議論の機会を多く設け、様々な価値観、考え方に触れながら、これからの自分のありたい姿を描出してもらいます。

【到達目標】
自ら主体的に考え、行動する思考様式、行動様式を身に着けていること
自分が大切にしたい価値観や仕事観が言語化できていること
自分自身が歩みたい人生・キャリアプランの輪郭が見えるようになること
Having acquired a proactive mindset and behavioral patterns to think and act independently.
Having a clear way to express the values and work ethics you hold dear.
Gaining a clearer outline of your desired life path and career plan.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
①実習経験を振り返り、グループワークを通じて、学びや気づきを言語化し、整理する。
②グループワークにて業界研究を行い、情報収集、プレゼン資料を作成し、各チームでプレゼンを行う。
③10年後の世の中の状況をイメージして、自分がどうなっていたいかを取りまとめる。グループワークにて相互に発表し、議論を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	実習の報告とオリエンテーション	・夏休みの実習の振り返り ・秋学期授業の概要説明
第2回	個別面談、　グループワーク（前半）	・教員に実習の状況を説明する（ショートスピーチ） ・グループで実習の状況を相互に共有する
第3回	個別面談、　グループワーク（後半）	・教員に実習の状況を説明する（ショートスピーチ） ・グループで実習の状況を相互に共有する
第4回	社会人とのデスカッション（大手企業勤務の若手会社員を想定）	・企業で働く社会人の話を聞いて、自分のキャリアを考える
第5回	社会人とのデスカッション（大手企業勤務の中堅・幹部社員を想定）	・企業で働く社会人の話を聞いて、自分のキャリアを考える
第6回	社会人とのデスカッション（起業家を想定）	・起業家の話を聞いて、自分のキャリアを考える
第7回	グループワークⅡ①（業界分析：業界の概要調査と仮説出し）	・業界を特定し、現状分析及び将来予測を行い、働き方を考える ・10年後の社会をイメージし、自分がその時にどうありたいかを考える ・業界の概要調査と仮説出し）
第8回	グループワークⅡ②（業界分析：業界の将来予測とディスカッション）	・業界を特定し、現状分析及び将来予測を行い、働き方を考える ・10年後の社会をイメージし、自分がその時にどうありたいかを考える ・業界の将来予測仮説の検証とディスカッション
第9回	グループワークⅡ③（業界分析：これまでの調査結果を踏まえて働き方についてプレゼン）	・業界を特定し、現状分析及び将来予測を行い、働き方を考える ・各チームのプレゼンとディスカッション
第10回	グループワークⅢ（10年後予測：10年後の世の中を考える資料収集と仮説出し）	・10年後の社会をイメージし、世の中の働き方がどうなっていて、自分がその時にどうありたいかを考える ・情報収集・資料作成
第11回	グループワークⅢ（10年後予測：10年後の世の中の仮説検証と議論）	・10年後の社会をイメージし、世の中の働き方がどうなっていて、自分がその時にどうありたいかを考える ・10年後の世の中の仮説検証と議論
第12回	グループワークⅢ発表①（10年後予測：10年後の予測とその時代に自分たちがどうありたいかについてプレゼン）	・10年後の社会をイメージし、世の中の働き方がどうなっていて、自分がその時にどうありたいかを考える ・各グループごとのプレゼン及びプレゼンへの質疑・ディスカッション
第13回	グループワークⅢ発表②	・10年後の社会をイメージし、世の中の働き方がどうなっていて、自分がその時にどうありたいかを考える ・各グループごとのプレゼン及びプレゼンへの質疑・ディスカッション
第14回	総括　1年間の振り返り	・1年間を振り返り、インターンと授業を通じて、何を感じ、何を学んだのかを整理し、これからの自分の人生をどうしていきたいかを発表する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
①授業時間外にインタビューや課題に時間を取られる可能性があります。
②自分自身のキャリア・生き方についてどうありたいかじっくり考えてもらいたいと思います。
③関心ある業界・企業の動向については、日頃からアンテナを立てて情報収集を心がけてください。
④実習先とのコンタクトが継続されることがあります。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。
① Please be aware that you may be required to spend time on interviews and assignments outside of class hours.
② I would like you to take the time to deeply consider your career path and how you want to live your life.

③ Please make an effort to stay informed and keep a close watch on the trends of the industries and companies you are interested in.
④Communication with your internship site may continue even after the training period.
Preparation and review for this course are expected to take approximately two hours each.

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
「プロティアン」　田中研之輔　日経BP社
「ライフシフト」　リンダ・グラットン　プレジデント社
「ワークシフト」　リンダ・グラットン　プレジデント社
「冒険の書」　孫泰蔵　日経BP社

【成績評価の方法と基準】
①授業におけるグループワークなどへの取組み姿勢（60%）
②各種レポートの提出状況及び内容（40%）
① Attitude toward class participation and group work (60%)
② Submission status and content of reports (40%)

【学生の意見等からの気づき】
全員参加型の授業を前提に学生一人一人が自ら考え、発言し、議論を通じて思考を深める機会を多く設けます。

【学生が準備すべき機器他】
毎回　PCを持参のこと

【その他の重要事項】
この授業では自ら主体性をもって考え、行動することが求められます。授業では毎回、ディスカッションの機会を設けます。
また実習に関しては、インターン先を自ら探して、自らコンタクトして経験をすることで、主体的に学び・考える姿勢が身につきます。

【Outline (in English)】
With the rapid evolution of AI, we are entering an era where many traditional jobs will be delegated to machines. What, then, is the work that humans should do?
This is the Fall Semester component of a year-long course designed to explore how to navigate your life and career in this unpredictable age of drastic change, and what personal foundations you should rely on.
In this course, students will reflect on their internship experiences to organize what they have learned. They will also work on articulating their personal values to better consider their future lives and careers. Through frequent discussions and exposure to diverse perspectives, students will define their ideal future selves.

CAR200MA（キャリア教育 / Career education 200）

PBLチュートリアル

酒井　理

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：水4/Wed.4　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本期は、後期の企業ミッション（実在のマーケティング課題）に取り組むためのチュートリアル期である。課題の要件分解、顧客・市場・競合理解（3C等）、一次/二次調査設計、データ分析・可視化、提案書作成、プレゼンテーション、プロジェクトマネジメント、研究倫理（個人情報・著作権・生成AI利用）を学ぶ。
また、外部アウトプットとして、締め切りのある外部のマーケティングコンペにチームで企画を提出する（第7回：Gate 1）。外部提出を通じて、企画の型（インサイト→コンセプト→施策→KPI/実装）を確立し、後期に転用する。

【到達目標】
①課題を要件分解し、論点・ターゲット・仮説・KPIを設定できる。
②二次情報（市場/競合/事例）を収集し、出典を明示して根拠を構築できる。
③インサイトからコンセプトを立て、施策（4P/コミュニケーション）に落とし込める。
④企画の実装イメージ（体制・運用・概算コスト・リスク）と効果測定（KPI）を簡潔に提示できる。
⑤チームで役割分担・進捗管理を行い、期限内に提出物を完成させられる。
⑥守秘・個人情報・著作権・生成AIの責任ある利用を遵守できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
チームによるプロジェクト学習（グループワーク、レビュー、発表）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	PBLの進め方、評価、ルール（守秘・権利・AI）
第2回	課題読解	要件分解、論点設定、成功条件（KPI）整理
第3回	市場/顧客/競合の整理	3C、ジョブ、購買状況の把握
第4回	仮説構築	ターゲット仮説・価値仮説、検証方針
第5回	二次調査	市場データ、競合、事例、引用・出典
第6回	企画書設計	インサイト→コンセプト→施策骨子、図表化
第7回	外部マーケティングコンペ提出	提出版確定・提出（チーム）
第8回	振り返り	ルフレビュー、改善仮説（後期転用の明文化）
第9回	一次調査設計	インタビュー/観察/簡易アンケ、倫理・同意
第10回	分析入門	基本集計・可視化・示唆抽出
第11回	戦略設計	STP、ポジショニング、差別化
第12回	施策設計	4P/コミュニケーション、優先順位
第13回	実装・測定	WBS、概算コスト、KPI/検証デザイン
第14回	前期まとめ	後期に向けた計画確定（役割、WBS、調査計画）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習・復習として、調査・分析・資料作成・チームミーティング（議事録作成含む）を行う。週1コマあたり合計4時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
個人：基礎スキル課題（課題定義・調査計画・ミニ分析）……25%
チーム：外部マーケティングコンペ提出（Gate 1）……50%
個人：省察（レビューシート：改善仮説と後期への転用）……25%
※外部コンペは受賞等ではなく、提出物の品質で評価する。
※主要成果物は共通ルーブリック（根拠・一貫性・実装性・測定可能性）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
2026年度からの授業のため特になし。

【その他の重要事項】
実務経験のある教員による授業
担当教員は、中小企業のコンサルティング、スタートアップ評価の経験を踏まえて、授業では、根拠と論理に基づく企画提案の作法と、実装・効果測定まで見据えた社会実装型のPBLを指導する。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This is a year-long course (enrollment for the full year only) conducted in collaboration with an industry partner. Student teams develop evidence-based marketing proposals from market/customer understanding to strategy, tactics, implementation planning, and measurement. The course includes a tutorial component and milestone reviews (“gates”), culminating in a final proposal and presentation to the company.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students will be able to:
Translate a company mission into issues, target segments, hypotheses, and KPIs.
Conduct and interpret primary/secondary research to support decision-making.
Build coherent proposals linking insight → strategy (STP/positioning) → tactics (4Ps/communications).
Design feasible implementation plans (resources, timeline, cost, and risk).
Create measurable evaluation plans (KGI/KPI, measurement and validation).
Collaborate effectively in teams and follow professional standards (confidentiality, data protection, IP, responsible AI use).
【Learning activities outside of classroom】
Students are expected to spend about 4 hours per week per class meeting on preparation and review, including research, analysis, drafting deliverables, team meetings/documentation, and presentation rehearsal.
【Grading Criteria / Policy】
Grades are based on both process and deliverable quality across course milestones: individual foundational work and reflection, team deliverables at each gate (including a competition-style submission and two interim reviews with the company), the final team proposal and presentation, and individual contribution with peer evaluation. Major deliverables are assessed using a common rubric: Evidence, Coherence, Feasibility, Measurability (competition outcomes are not graded).

CAR200MA（キャリア教育 / Career education 200）

PBLチュートリアル

山岡　義卓

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：金4/Fri.4　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目では、本科目および秋学期に開講される「PBL実践」の両方を通じて、約7か月にわたる企業等との共同プロジェクトを実施する。このうち、本科目では、プロジェクト実施のための事前学習と共同プロジェクトの一部を実施する。

【到達目標】
本授業の目標は次のとおり。
①協力企業等の事業活動やプロジェクトのテーマ等について情報収集する。
②グループワークの進め方を身につける。
③プロジェクトの目標を設定し、実施計画を作成する。
④プロジェクトをスタートさせ、軌道に乗せる。
なお、「PBL実践」も含めて以下の4点が得られることを到達目標とする。
①大学で学ぶ諸理論が実社会でどのように活かされているかを知る
②自己の職業適性や興味・関心への理解を深める
③職業人になることへの意識を醸成し、働くことの心構えを学ぶ
④社会人としての基本的なスキルやビジネスマナーを学ぶ

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
本科目および「PBL実践」を通じて、約7か月にわたる企業等との共同プロジェクトをグループワークにより実施する。プロジェクトを通して、販売促進、マーケティング、営業、商品開発などの活動を体験する。
本科目では主にプロジェクトの事前学習に重点を置き、プロジェクトの進め方や連携企業等に関する情報収集、目標設定や実施計画の作成等、プロジェクトを進めるために必要な知識や技術を習得する。そのうえで、プロジェクトをスタートさせ、軌道に乗せるところまで実施する。プロジェクトの実施にあたっては、必要に応じて企業訪問や実習等を行う。
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション、授業ガイダンス	授業計画の説明と受講にあたっての心構え、準備等について説明する。
第2回	プロジェクトの進め方	企業等とプロジェクトを進める際の基本的な方法等を説明する。
第3回	協力企業等概要およびテーマ説明	企業等の事業概要やテーマについて説明する。
第4回	演習①（課題抽出、整理）	実際の課題に取り組む際の事前学習として模擬演習を行う。
第5回	演習②（課題解決提案、発表）	前回の続きとして、課題解決提案の作成と発表を行う。
第6回	協力企業等との顔合わせ・テーマ設定	協力企業等と面談し、テーマ設定や実施計画の作成を行う。
第7回	チームの役割分担、目標設定	実施テーマに合わせてチーム内の役割分担を決め、チームとしての目標設定を行う。
第8回	協力企業および業界に関する事前調査	企業の事業概要や市場、商品等について調査を行う。
第9回	活動計画の作成①	企業担当者と情報交換のうえ実施テーマに合わせて全体の活動計画を作成する。
第10回	活動計画の作成②	全体の活動計画を踏まえて必要な作業を確認し、それぞれの実施計画を作成する。
第11回	テーマに関する調査①	テーマに関して、企業における現状（商品ラインナップや技術、販路等）を調査する。
第12回	テーマに関する調査②	テーマに関して、市場規模や競合の有無、ポジショニング等を調査する。
第13回	調査結果等の整理	調査結果を整理し、プロジェクト実施のための戦略を立案する。
第14回	中間発表会	春学期の活動内容および今後の展望等を発表し意見交換を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
活動にあたってインターネットの検索やワード、エクセルの操作が必要になる。テーマに応じて授業時間外に企業訪問等の学外活動を行う場合がある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて参考文献の指示や参考資料を配布する。

【参考書】
必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】
14回目の授業において中間発表を行う。成績は、授業内の課題およびプロジェクトへの取り組み姿勢（50点）、中間発表（50点）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
「目的を再確認し、相手の立場に立って考えながら取り組みを続けることが、長期的には信頼の形成や新たな機会の創出に繋がる」とのコメントより、情報共有ツールの活用等により、目標設定や進捗管理の重要性を意識づけられるよう働きかける。
「さまざまな特性を持つ人々が一つの目標に向かい、それぞれの得意分野を生かしながら噛み合わせていくことの重要性を学ぶことができた」とのコメントより、事前学習やプロジェクト運営においては成果を求めるだけでなく、その土台となるチームづくりにも留意する。
「発表して終わるのではなくフィードバックをもらうことで後の自分のためになると感じた」とのコメントより、相互フィードバックの時間を設ける等、振り返りの機会をこれまで以上に重視する。

【学生が準備すべき機器他】
課題等は学習支援システムを用いて提出する。必要に応じてノートパソコンを使用する。企業との打ち合わせ等は遠隔会議ツールを使用することもある。

【その他の重要事項】
「PBL実践」を履修する場合は、この科目を履修する必要があります。企業等との共同プロジェクトの実施という性質上、授業時間以外にも随時活動を行う。また、秋学期も含めた活動であることから、テーマによっては夏期休業期間中も活動を実施する。
協力企業等の理解と協力を得て運営されるプログラムであり、履修する学生諸君には法政大学キャリアデザイン学部を代表する学生として、大きな責任が課せられることを正しく認識する必要がある。
担当教員は企業におけるビジネスと支援機関におけるコーディネータの実務経験を有している。調査やスケジュール管理、企画書の作成等のノウハウを含めて講義するとともに、実務経験を活かしてプロジェクト活動への助言を行う。
欠席3回以上は他の評価項目によらず単位を認めない。

【キャリアデザイン学部より】
本科目を履修するには3月下旬の体験型選択必修科目ガイダンスに出席し、選抜に合格する必要があります。必ず掲示で詳細を確認してください。

【Outline (in English)】
(Course outline)
In this course, preliminary learning to implement the project and part of the project will be executed.

(Learning Objectives)
The goals of this class are as follows:
- Collect information on business activities of cooperating companies and project themes.
- Learn how to proceed with group work.
- Set project goals and create an implementation plan.
- Start the project and get it on track.
(Learning activities outside of classroom)
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time is 2 hours each for preparation and review for a class.
(Grading Criteria /Policy)
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Implementation status of assignments in class and attitude toward projects : 50%
Presentation in the 14th class : 50%

CAR200MA（キャリア教育 / Career education 200）

PBL実践

酒井　理

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水4/Wed.4　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本期は、企業から提示される実在のマーケティングミッションに対して、前期で確立した「企画の型（課題読解→インサイト→コンセプト→施策→KPI/実装）」を転用し、戦略化・実装化・測定可能化まで行う実践期である。企業担当者との**中間レビュー（Gate 2/3）**を通じて方向性と品質を担保し、最終提案書と最終発表を行う。

【到達目標】
①企業ミッションをスコープ化し、ターゲット・KPI・制約条件を合意形成できる。
②市場/顧客/競合分析を踏まえ、インサイトを戦略（STP/ポジショニング）に昇華できる。
③施策を4P等で設計し、優先順位・ロードマップとして提示できる。
④実装計画（体制・運用・WBS・概算コスト）とリスク低減策を具体化できる。
⑤効果測定（KGI/KPI、計測方法、検証設計、改善ループ）を提案に組み込める。
⑥企業レビューのフィードバックを整理し（Must/Should/Could）、改善を反映できる。情報・著作権・生成AIの責任ある利用を遵守できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
チームによるプロジェクト学習（グループワーク、レビュー、発表）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	企業キックオフ	ミッション提示・質疑、制約、成功条件（KPI）合意
第2回	課題再定義	スコープ、ターゲット、KPI確定
第3回	二次調査 sprint	市場/競合/カテゴリ文脈
第4回	一次調査設計	インサイト仮説、質問票、対象定義
第5回	一次調査実施	仮説更新
第6回	コンセプト確定	価値提案、ポジショニング骨子
第7回	戦略化	提出版確定・提出（チーム）
第8回	施策設計	施策ポートフォリオ、優先順位、ロードマップ
第9回	企業中間レビュー①（Gate 2）	方向性合意、追加検証指示
第10回	実装設計	基本集計・可視化・示唆抽出
第11回	効果測定設計	KPIツリー、検証、ダッシュボード案
第12回	リスク/法務/倫理	権利・景表法等、炎上、個人情報
第13回	企業中間レビュー②（Gate 3）	8割版レビュー→最終改善点確定
第14回	最終発表会	提案発表・講評、最終提出、個人省察

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習・復習として、調査・分析・資料作成・チームミーティング（議事録作成含む）を行う。週1コマあたり合計4時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
チーム：企業中間レビュー①（Gate 2）……20%
チーム：企業中間レビュー②（Gate 3）……20%
チーム：最終提案（提案書＋発表＋質疑）……50%
個人：貢献（プロセス）＋ピア評価……10%（±10%程度で補正）
※主要成果物は共通ルーブリック（根拠・一貫性・実装性・測定可能性）で評価する。
※Gate2、3は春学期のGate1の続き。

【学生の意見等からの気づき】
2026年度からの授業のため特になし。

【その他の重要事項】
実務経験のある教員による授業
担当教員は、中小企業のコンサルティング、スタートアップ評価の経験を踏まえて、授業では、根拠と論理に基づく企画提案の作法と、実装・効果測定まで見据えた社会実装型のPBLを指導する。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This is a year-long course (enrollment for the full year only) conducted in collaboration with an industry partner. Student teams develop evidence-based marketing proposals from market/customer understanding to strategy, tactics, implementation planning, and measurement. The course includes a tutorial component and milestone reviews (“gates”), culminating in a final proposal and presentation to the company.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students will be able to:
・Translate a company mission into issues, target segments, hypotheses, and KPIs.
・Conduct and interpret primary/secondary research to support decision-making.
・Build coherent proposals linking insight → strategy (STP/positioning) → tactics (4Ps/communications).
・Design feasible implementation plans (resources, timeline, cost, and risk).
・Create measurable evaluation plans (KGI/KPI, measurement and validation).
・Collaborate effectively in teams and follow professional standards (confidentiality, data protection, IP, responsible AI use).
【Learning activities outside of classroom】
Students are expected to spend about 4 hours per week per class meeting on preparation and review, including research, analysis, drafting deliverables, team meetings/documentation, and presentation rehearsal.
【Grading Criteria / Policy】
Grades are based on both process and deliverable quality across course milestones: individual foundational work and reflection, team deliverables at each gate (including a competition-style submission and two interim reviews with the company), the final team proposal and presentation, and individual contribution with peer evaluation. Major deliverables are assessed using a common rubric: Evidence, Coherence, Feasibility, Measurability (competition outcomes are not graded).

CAR200MA（キャリア教育 / Career education 200）

PBL実践

山岡　義卓

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：金4/Fri.4　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目では、春学期開講の「PBLチュートリアル」と本科目の両方を通じて、約7か月にわたる企業等との共同プロジェクトを実施する。このうち、本科目では、春学期にスタートしたプロジェクトを継続して実施し、最終的な成果に結び付け、プロジェクト全体の成果発表を行うところまで実施する。

【到達目標】
本科目の目標は次のとおり。
①春学期にスタートしたプロジェクトを目標に向けて継続する。
②期間内に成果に結び付けられるようにプロジェクトを終結させる。
③これまでの活動を取りまとめ発表する。
④プロジェクトを振り返り、学習内容を確認する。
なお、「PBLチュートリアル」も含めて以下の4点が得られることを到達目標とする。
①大学で学ぶ諸理論が実社会でどのように活かされているかを知る
②自己の職業適性や興味・関心への理解を深める
③職業人になることへの意識を醸成し、働くことの心構えを学ぶ
④社会人としての基本的なスキルやビジネスマナーを学ぶ

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
「PBLチュートリアル」および本科目を通じて、約7か月にわたる企業等との共同プロジェクトをグループワークにより実施する。プロジェクトを通して、販売促進、マーケティング、営業、商品開発などの活動を体験する。
本科目では主にプロジェクトの実施と、成果のとりまとめと発表、振り返りを実施する。春学期に作成した実施計画書に基づきメンバー全員が協力しプロジェクトの成果が得られるように活動する。プロジェクト終了後、成果を取りまとめ発表し、活動の振り返りを行う。
プロジェクトの実施にあたっては、必要に応じて企業訪問や実習等を行う。
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	春学期の活動振り返り	春学期の活動内容を振り返り、進捗に応じて実施計画を見直す。
第2回	企画案の作成	テーマに沿って企画案を作成する。
第3回	追加調査	企画案の実現性を高めるために必要な情報を収集するために追加調査等を行う。
第4回	企画案のブラッシュアップ	追加調査の情報等を参照し企画案をブラッシュアップし、協力企業等に提案できるレベルの企画書として完成させる。
第5回	企画実施の準備	販売促進やイベント実施等、企画実施のための準備作業を行う。
第6回	企画の実施	販売促進やイベント実施等の企画を実施する。
第7回	実施結果の評価	実施結果をアンケート調査や販売実績等により評価する。
第8回	実施結果の振り返りと改善策の検討	実施結果と評価を踏まえて自分たちの実施した結果を振り返り、改善策を検討する。
第9回	プレゼンテーション講座	成果報告会に向けてプレゼンテーションのつくり方について説明する。
第10回	プレゼンテーション資料作成	成果報告会に向けてプレゼンテーション資料の作成等準備作業を行う。
第11回	成果報告会リハーサル	成果報告会のリハーサルを行う。
第12回	成果報告会	活動内容について成果報告会を行う。
第13回	プロジェクトの振り返り	春学期からの活動を含めてこれまでの振り返りと意見交換を行う。
第14回	成果報告書作成	成果報告会や振り返りも含めこれまでの学習成果を確認し、成果報告書を作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
活動にあたってインターネットの検索やワード、エクセルの操作が必要になる。テーマに応じて授業時間外に企業訪問等の学外活動を行う場合がある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて参考文献の指示や参考資料を配布する。

【参考書】
必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】
グループごとに成果報告書の作成および成果報告会におけるプレゼンテーションを行う。成績は、プロジェクトへの取り組み姿勢（50点）、成果報告書および成果発表（50点）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
「目的を再確認し、相手の立場に立って考えながら取り組みを続けることが、長期的には信頼の形成や新たな機会の創出に繋がる」とのコメントより、情報共有ツールの活用等により、目標設定や進捗管理の重要性を意識づけられるよう働きかける。
「さまざまな特性を持つ人々が一つの目標に向かい、それぞれの得意分野を生かしながら噛み合わせていくことの重要性を学ぶことができた」とのコメントより、事前学習やプロジェクト運営においては成果を求めるだけでなく、その土台となるチームづくりにも留意する。
「発表して終わるのではなくフィードバックをもらうことで後の自分のためになると感じた」とのコメントより、相互フィードバックの時間を設ける等、振り返りの機会をこれまで以上に重視する。

【学生が準備すべき機器他】
課題等は学習支援システムを用いて提出する。必要に応じてノートパソコン
を使用する。企業との打ち合わせにおいては遠隔会議ツールを使用することもある。

【その他の重要事項】
この科目を履修するには、「PBLチュートリアル」を履修していることが条件になります。
企業等との共同プロジェクトの実施という性質上、授業時間以外にも随時活動を行う。また、秋学期も含めた活動であることから、テーマによっては夏期休業期間中も活動を実施する。
協力企業等の理解と協力を得て運営されるプログラムであり、履修する学生諸君には法政大学キャリアデザイン学部を代表する学生として、大きな責任が課せられることを正しく認識する必要がある。
担当教員は企業におけるビジネスと支援機関におけるコーディネータの実務経験を有している。調査やスケジュール管理、企画書の作成等のノウハウを含めて講義するとともに、実務経験を活かしてプロジェクト活動への助言を行う。
欠席3回以上は他の評価項目によらず単位を認めない。

【キャリアデザイン学部より】
本科目は「PBLチュートリアル」を修得(S〜C-)した場合のみ履修可能です。

【Outline (in English)】
(Course outline)
In this course, we will conduct the project and present the results.
(Learning Objectives)
The goals of this class are as follows:
- Continue toward the goal of the project that started in the spring semester.
- End the project so that results can be obtained within the period.
- Summarize the activities and give a presentation.
- Look back on the project and confirm what you have learned.
(Learning activities outside of classroom)
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time is 2 hours each for preparation and review for a class.
(Grading Criteria /Policy)
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Attitude toward projects : 50%
Achievement report and final presentation : 50%

CAR200MA（キャリア教育 / Career education 200）

フィールドワーク事前指導（国際）

松尾　知明、郭　艷娜

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：月2/Mon.2　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は、日本と関係が深い台湾を事例として、グローバルな視野からキャリアデザインから検討することを目的としている。春学期については、①台湾の歴史や社会、文化、人々について学ぶ、②中国語を学ぶ、③台湾につながる人々や大学生と交流する、④グローバルなキャリア（人生）のデザインについて考える。

【到達目標】
①台湾の歴史や社会、文化、人々についての基本的な知識をもつことができる。② 交流で必要な最低限の中国語を話すことができる。③台湾につながる人々や大学生と効果的にコミュニケーションをとることができる。④台湾を事例に、グローバルなキャリアデザインについての自分なりの考えをもつことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
①対面で授業を実施し、学習支援システムを活用する。②教科書や調べ学習を通して台湾やグルーバルなキャリアデザインについての基本的な知識を得る。③中国語の学習をする。④台湾の学生と交流をする。課題は授業で発表し合い、フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 中国語学習①	自己紹介、概要説明 中国語を学ぶ
第2回	台湾事情①台湾の地理 中国語学習②	台湾を旅行するとしたら 中国語を学ぶ
第3回	台湾事情②台湾の歴史 中国語学習③	台湾の歴史を知ろう 中国語を学ぶ
第4回	台湾事情③台湾の政治 中国語学習④	台湾の政治を知ろう 中国語を学ぶ
第5回	台湾事情④台湾の社会 中国語学習⑤	台湾の社会を知ろう 中国語を学ぶ
第6回	台湾事情⑤ 台湾の経済 中国語学習⑥	台湾の経済を知ろう 中国語を学ぶ
第7回	台湾事情⑥ 歴史や文化の探訪 中国語学習⑦	現地体験学習の準備 中国語を学ぶ
第8回	台湾事情⑦ 企業訪問 中国語学習⑧	現地体験学習の準備 中国語を学ぶ
第9回	台湾事情⑧ インターンシップ　中国語学習⑨	現地体験学習の準備 中国語を学ぶ
第10回	台湾事情⑨ 台湾の大学生	元智大学学生との交流
第11回	現地体験学習に向けて しおり作成①計画 中国語学習⑩	しおりの計画をする 中国語を学ぶ
第12回	現地体験学習に向けて しおり作成②編集 中国語学習⑪	しおりの編集をする 中国語を学ぶ
第13回	現地体験学習に向けて しおり作成③完成 中国語学習⑫	しおりを完成させる 中国語を学ぶ
第14回	前期のまとめ 中国語学習⑬	現地体験学習への準備 中国語を学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・テキストの精読　・必要な資料収集　・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
赤松 美和子、若松 大祐編著『台湾を知るための72章（第二版）』明石書店

【参考書】
野島　剛　『台湾とは何か』(ちくま新書)

【成績評価の方法と基準】
主体的な参加の姿勢（30％）、課題の遂行（70％）などをもとに総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
日本と台湾との比較をもとに、自分自身について内省的に考えさせる。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン

【その他の重要事項】
・対象者は、2〜4年生。
・この授業の受講希望者は、3月末のガイダンスに参加し、学部窓口に参加希望を申請するものとする。
・受講にあたっては、キャリア体験学習（国際）の参加条件や現地実習の中止時の対応について十分理解した上で申し込むこと。
・参加者は、定員を超えた場合、面接を実施して決定する。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This class aims to explore career designs in a global society by getting to know Taiwan. The major themes of the Taiwan experience study in the Spring semester are 1) understanding its history, society, culture and people, 2) learning Chinese language, 3) meeting and interacting with Taiwanese people and college students, and 4) considering meaning of career design in a global and multicultural society.
【Learning Objectives】
Students are able to 1) acquire basic knowledge of its history, society, culture and people, 2) use simple Chinese language as a communication tool, 3)interact effectively with Taiwanese people and college students, and 4) have their own idea on career design in a global and multicultural society.
【Learning activities outside of classroom】
Students will be expected to read the text and materials, conduct research and study and prepare presentations. Your study time will be more than four hours for a class.
【Grading Criteria/Policy】
Grading will be decided based on in class contribution (30%) and assignments and presentations (70%).

CAR200MA（キャリア教育 / Career education 200）

フィールドワーク（国際）

松尾　知明、郭　艶娜

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：月2/Mon.2　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は、日本と関係が深い台湾を事例として、グローバルな視野からキャリアデザインについて検討することを目的としている。秋学期については、①台湾の歴史や社会、文化、人々について学ぶ、②中国語を学ぶ、③台湾につながる人々や大学生と交流する、④現地体験学習を振り返り、報告書と動画を作成する、⑤グローバルなキャリア（人生）のデザインについて考える。

【到達目標】
①台湾の歴史や社会、文化、人々についての基本的な知識をもつことができる。② 交流で必要な最低限の中国語を話すことができる。③台湾につながる人々や大学生と効果的にコミュニケーションをとることができる。④キャリア体験学習（国際・台湾）」プログラムの報告書と動画を効果的に作成することができる。⑤台湾を事例に、グルーバルなキャリアデザインについての自分なりの考えをもつことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
①対面で授業を実施し、学習支援システムを活用する。②教科書やインターネットでの調べ学習を通して台湾や国際的なキャリアデザインについての基本的な知識を得る。③中国語の学習をする。④台湾につながる人々や大学生と交流する。⑤春学期と秋学期で学習した成果物をもとに報告書・動画づくりを行う。課題は授業で発表し合い、フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション ポスター・報告書づくりの計画①はじめに	秋学期の授業の見通し ポスター・報告書制作に向けて
第2回	現地体験学習の振り返り：印象に残っていること 報告書づくりの計画②提案の検討	発表と討論 ポスター・報告書制作の計画、役割分担
第3回	国慶節行事への参加	台湾の文化を知る
第4回	現地体験学習の振り返り：学んだこと 報告書づくりの計画③構成やレイアウト	発表と討論 構成、レイアウト等の決定
第5回	現地体験学習の振り返り：見方や考え方が変化したこと 報告書づくりの計画④工程表	発表と討論 工程表の検討
第6回	現地体験学習の振り返り： 報告書づくり①執筆・依頼	発表と討論 原稿の執筆・依頼
第7回	報告書づくり②執筆・整理	原稿の執筆・整理
第8回	テーマ研究 報告書づくり③編集作業	現地体験学習からの問い 編集作業　原稿のチェック
第9回	報告書づくり④校正	編集作業　印刷しての校正
第10回	報告書づくり⑤最終チェック	報告書の完成
第11回	報告書の合評会	報告書の振り返り
第12回	動画の作成	動画作成の計画
第13回	動画の作成・編集	動画の撮影・編集
第14回	プログラム全体の振り返り	春学期、現地体験学習、秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
資料の整理と読み込み。参考文献の読み込み。 ポスター・報告書の原稿執筆、編集作業。 ポスター発表会への参加。動画の作成。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
赤松 美和子、若松 大祐編著『台湾を知るための72章（第二版）』明石書店

【参考書】
野嶋　剛『台湾とは何か』ちくま新書

【成績評価の方法と基準】
主体的な参加の姿勢（30％）、課題、報告書・動画づくり（70％）などをもとに総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
報告書と動画づくりの計画を立て、協力して作成できるように支援する。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン

【その他の重要事項】
春学期に引き続き、授業は、松尾知明と郭艶娜が分担して担当する。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This class aims to explore career designs in a global society by getting to know Taiwan. The major themes of the Taiwan experience study in the Fall semester are 1) understanding its history, society, culture and people, 2) learning Chinese language , 3) meeting and interacting with Taiwanese people and college students, 4) making a report and a video, 5) considering meaning of career design in a global and multicultural society.
【Learning Objectives】
Students are able to 1) acquire basic knowledge of its history, society, culture and people, 2) interact effectively with Taiwanese people and college students, 3) design and create a report and a video as a team, and 4) have their own idea on career design in a global and multicultural society.
【Learning activities outside of classroom】
Students will be expected to read the text and materials, conduct research and study, reflect on their learning and prepare presentations. They also will be expected to plan, create, edit a report and a video, and prepare for the presentation. Your study time will be more than four hours for a class.
【Grading Criteria/Policy】
Grading will be decided based on in class contribution (30%) and assignments and presentations (70%).

CAR200MA（キャリア教育 / Career education 200）

フィールドワーク事前指導（ESD）

遠藤　野ゆり

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：水4/Wed.4　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、秋学期に実施される「フィールドワーク（ESD）」とセットで履修する必要があります。
本授業では、ESD（持続可能な教育）に関するフィールドワーク（授業時間外）を実施し、その効果検証を行います。春学期期間中の授業では、コミュニケーションスキルの習得やフィールドワークの基礎的手法を学習し、また映像制作の基礎を学びます。これらを通して、実習先において子どもたちの学びを支援するのに必要な姿勢と技術とを習得します。

【到達目標】
ESDを教育現場にて実施するための準備過程において、エスノメソドロジーの基本的な考え方を学びます（知識）。他者と協働する際に必要な基礎的コミュニケーション能力を習得します（技能）。企画を作成するにあたって、ねらいを定めそれを実現化していく思考方法やアイデアを形にし実施する企画力を習得します（思考力・判断力・表現力）。他者の学びを支援する際に求められる姿勢を体得し、主体的にプログラムを担う姿勢を培います（主体的に学ぶ態度）。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
授業は原則として、実習の準備に向けた演習方式でおこないます。
授業は、事前課題、授業内のグループワークとディスカッション、事後課題のスタイルで実施されます。事後課題は授業支援システムで実施し、次回授業にてフィードバックをおこないます。
また、フィールドワーク基礎実習パート、映像編集パートにおいて、授業時間外に制作をおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション・授業のルールづくり	参加者で授業の概要を確認し、授業に参加する目的を共有したうえで、本授業におけるルール作りを受講生自ら行います。
第2回	コミュニケーションスキル①傾聴	コミュニケーションスキルの基礎として、傾聴の技術を学びます。
第3回	コミュニケーションスキル②ブレインストーミングとKJ法	コミュニケーションスキルの基礎として、ブレインストーミングとKJ法を実践的に学びます。
第4回	コミュニケーションスキル③アサーティブな伝達	コミュニケーションスキルの基礎として、アサーションの考え方を学び、自身の主張方法の癖を修正する実践を行います。
第5回	コミュニケーションスキル④ディスカッションスキル	コミュニケーションスキルの基礎として、ディスカッションをする際の時間配分や目的からずれない話し合い方などの技術を学びます。
第6回	フィールドワーク基礎実習①エスノメソドロジーとは何か	フィールドワークのベースとなるエスノメソドロジーの考え方を学ぶために文献講読をおこないます。
第7回	フィールドワーク基礎実習②フィールドノーツのつけい方	フィールドノーツを実際につけ、そのスキルを習得します。
第8回	フィールドワーク基礎実習③ノーツの考察と分析	フィールドノーツを分析する方法を学びます。
第9回	フィールドワーク基礎実習④アクションリサーチの仕方とノーツの改善	フィールドノーツの分析結果をもとにフィールドに還元する方法や姿勢を学び、ノーツの改善方法を学びます。
第10回	映像編集①ねらいの設定	映像編集を行うプロセスを学び作成する映像のねらいを設定します。
第11回	映像編集②素材集めと絵コンテ作成	映像制作のために必要な素材を撮影します。また絵コンテの作成方法を習得します。
第12回	映像編集③編集	実際に映像編集を行い、実習にて映像編集の方法を参加者に伝える方法を学びます。
第13回	映像編集④作品発表とフィードバック	作成した映像作品を共有し映像の専門的観点からフィードバックを受けます。
第14回	春学期のまとめと夏休みの課題	春学期に学んだことと残った課題を確認するための面談を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業後に、学習支援システムにて事後課題が課されます。
フィールドワーク先の開拓、関係づくり、フィールドノーツを、授業時間外に実施します。
事前の文献講読、映像作品の編集作業を行います。
本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
毎回の授業後課題28％、フィールドノーツとその考察レポート21％、映像編集作品21％、毎回の授業へのコミットメント30％。

【学生の意見等からの気づき】
2026年度に初めて開講する科目です。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン（スマホやタブレットなどでも可ですが、学習支援システム等に随時アクセスし入力できる状態にしてください）

【その他の重要事項】
本授業は原則として欠席を認めません。欠席回数については、学部の実践系科目群のルールにのっとります（欠席3回以上で単位習得不可。15分以上の遅刻は欠席に換算）。
やむを得ない事情で授業を休む場合は事前に連絡をしてください。
教員連絡先:noyuriendo@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】
Course outline: Students must take this class in conjunction with the "Fieldwork (ESD)" class held in the fall semester.
Students will conduct fieldwork related to ESD (Education for Sustainable Development) and evaluate its effectiveness. In this class, students acquire communication skills, learn basic fieldwork techniques, and learn the basics of video production. Through these, they acquire the attitudes and techniques necessary to support children's learning during their internship.

Learning Objectives: In the process of preparing to implement ESD in the classroom, students learn the basic concepts of ethnomethodology (knowledge). They acquire the basic communication skills necessary for collaborating with others (skills). When creating a plan, they acquire the thinking skills to set goals and realize them, as well as the planning ability to shape and implement ideas (thinking ability, judgment, and expression). They master the attitude required when supporting the learning of others and cultivate the ability to take ownership of the program (attitude of independent learning).
Grading Criteria /Policy: The evaluation of this class is based on 28% post-class assignments, 21% field notes and discussion reports, 21% video edited works, and 30% commitment to each class.

CAR200MA（キャリア教育 / Career education 200）

フィールドワーク（ESD）

遠藤　野ゆり

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水4/Wed.4　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、春学期に実施される「フィールドワーク事前指導（ESD）」とセットで履修する必要があります。
本授業では、ESD（持続可能な教育）に関するフィールドワーク（授業時間外）を実施し、その効果検証を行います。秋学期期間中の授業では、春学期に修得したコミュニケーションスキル、映像編集のスキルを活かし、小学生の学習を支援します。またそのフィールワークを通して得たデータを分析し、研究としてまとめ、発表します。

【到達目標】
ESDを教育現場にて実施した経験を生かして、エスノメソドロジーの基本的な考え方を再検証します（知識）。他者と協働する際に必要な基礎的コミュニケーション能力を実践的に改善していきます（技能）。企画を作成するにあたって、ねらいを定めそれを実現化していく思考方法やアイデアを形にし実施する企画力を習得します（思考力・判断力・表現力）。他者の学びを支援する際に求められる姿勢を体得し、主体的にプログラムを担う姿勢を培います（主体的に学ぶ態度）。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
授業は原則として、実習の準備と実施、そして研究成果発表をおこないます。授業は、事前課題、授業内のグループワークとディスカッション、事後課題のスタイルで実施されます。事後課題は授業支援システムで実施し、次回授業にてフィードバックをおこないます。また、授業時間外に小学校にて実習をおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	春学期のふりかえりと秋学期の課題設定	参加者で秋学期授業の概要を確認し、授業に参加する目的を共有したうえで、本授業の課題設定を受講生自ら行います。
第2回	実習Ⅰのプログラムづくり①	実習Ⅰのプログラムづくりとして実習先について学びます。実習Ⅰの目的とゴールを設定します。
第3回	実習Ⅰのプログラムづくり②	実習Ⅰの具体的なプログラムを作成します。
第4回	実習Ⅰのプログラムづくり③	実習Ⅰのプログラムのリハーサルを実施します。
第5回	実習Ⅰのふりかえりとフィールドノーツの検証	実習Ⅰをふりかえりフィールドノーツを読み合います。実習Ⅱに向けて課題を確認します。
第6回	実習Ⅱのプログラムづくり①	実習Ⅱのプログラムづくりとして目的とゴールを設定します。
第7回	実習Ⅱのプログラムづくり②	実習Ⅱのプログラムを具体的に作成します。
第8回	実習Ⅱのプログラムづくり③	実習Ⅱのプログラムを実践してみて課題を検証します。
第9回	実習Ⅱのプログラムづくり④	改善された実習Ⅱのプログラムのリハーサルを実施します。
第10回	研究成果発表の準備①	実習を終えてフィールドノーツを整理し研究テーマを設定します。
第11回	研究成果発表の準備②	研究成果の発表に向けて発表資料（パワーポイント）を作成します。
第12回	研究成果発表の準備③	研究成果の発表に向けて発表資料（動画）を作成します。
第13回	研究成果発表	研究成果を相互に発表し合いフィードバックをおこないます。
第14回	一年間のまとめと今後の課題	一年間で学んだことを確認し、残った今後の課題に学生生活で取り組むだめの面談を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業後に、学習支援システムにて事後課題が課されます。
実習を授業時間外に実施します。
実習後にフィールドノーツをつけ、研究成果発表の準備をおこないます。
本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
毎回の授業後課題28％、実習でのコミットメント21％、研究成果のパワーポイント資料と動画21％、毎回の授業へのコミットメント30％。なお、実習に参加しなかった場合は、単位の取得は認められません。

【学生の意見等からの気づき】
2026年度に初めて開講する科目です。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン（スマホやタブレットなどでも可ですが、学習支援システム等に随時アクセスし入力できる状態にしてください）

【その他の重要事項】
本授業は原則として欠席を認めません。欠席回数については、学部の実践系科目群のルールにのっとります（欠席3回以上で単位習得不可。15分以上の遅刻は欠席に換算）。
やむを得ない事情で授業を休む場合は事前に連絡をしてください。
教員連絡先:noyuriendo@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】
Course outline: Students must be take this class in conjunction with the "Fieldwork Preparatory Training (ESD)" course held in the spring semester.
In this class, students will conduct fieldwork (outside of class hours) related to ESD (Education for Sustainability) and evaluate its effectiveness. During the fall semester, students will use the communication and video editing skills they acquired in the spring semester to support elementary school students' learning. They will also analyze the data obtained through this fieldwork, compile it into a research project, and present it.
Learning Objectives: Utilizing experience in implementing ESD in the classroom, students will reexamine the basic concepts of ethnomethodology (knowledge). Students will practically improve the basic communication skills necessary for collaborating with others (skills). When creating a plan, students will acquire the thinking skills to set goals and realize them, as well as the planning skills to shape and implement ideas (thinking ability, judgment, and expression). Students will acquire the attitude required to support the learning of others and cultivate the ability to take an active role in the program (an active learning attitude).

Grading Criteria /Policy: The evaluation of this class will be determined by 28% of the assignments after each class, 21% of the commitment during the practical training, 21% of the PowerPoint presentation and video of the research results, and 30% of the commitment to each class. Please note that if you do not participate in the practical training, you will not be granted credits.

CAR200MA（キャリア教育 / Career education 200）

フィールドワーク事前指導（地域創造）

高尾　真紀子

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：水4/Wed.4　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業の目的は、フィールドワーク（地域創造）の事前に、地域社会の課題、地域で暮らす多様な人々の生活や働き方に関する理解を深め、地域における活動や実践につなげる準備をすることにあります。グループワークを重視し、他の学生やゲスト講師との対話や交流を通じて、自分とは異なる視点や価値観を理解するとともに、他者との協働や自己表現力を培い、フィールドワークを有効なものとすることを目指します。

【到達目標】
①地域社会の課題、自分とは異なる立場や価値観の人々の生き方、働き方を理解する
②ゲスト講師の講演を聞き、適切な質問をすることができる。
③グループワークを通じて、他者と協働しながら一つのものを作り上げることができる
④学習の成果をまとめ、プレゼンテーションをすることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
この授業は、夏休み中のフィールドワークの準備を行うものであり、秋学期の「フィールドワーク（地域創造）」を履修することで完結となります。
ゲスト講義とディスカッション、グループワークを重視した参加型授業です。様々なグループワークの技法を使って課題の発見、構造化、アイディアの探索を行い、授業内での発表によりプレゼンテーションスキルを身につけます。学生同士、ゲストや教員からのフィードバックにより、新たな気づきを得ることが可能になります。ゲスト講師の講義後にはリアクションペーパーの提出が必要です。
ゲスト講義など、スケジュールについては、一部変更の可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の概要と進め方 自己紹介
第2回	地域創造とは何か（講義）	地域づくりが必要とされる背景と考え方について学ぶ
第3回	地域社会とウェルビーイング（講義）	地域ウェルビーイングの考え方と事例紹介
第4回	ゲスト講義とディスカッション	地域創造事例１（高齢者の居場所づくり）についての講義を聞き、議論する
第5回	グループワーク１（ディスカッション）	グループワークの手法として、ブレーンストーミングと親和図法を学び、実施する
第6回	グループワーク１（プレゼンテーション）	第5回のグループワークの成果を発表する
第7回	ゲスト講義とディスカッション	福祉施設・サービスの体系と概要についての講義を聞き、地域でどのような支援が求められるかについて議論する
第8回	グループワーク２（ディスカッションとプレゼンテーション）	第5回で学んだブレーンストーミングと親和図法を使ってグループワークを実施し、グループで発表する
第9回	ゲスト講義とディスカッション	障害者施設と地域との関わりについてのゲスト講義を聞き、議論する
第10回	グループワーク３（ディスカッション）	グループワークの手法として二軸法と構造シフト発想法を学び、第9回の講義テーマに基づき実施する。
第11回	グループワーク３（プレゼンテーション）	第10回のグループワークの成果を発表する
第12回	ゲスト講義とディスカッション	地域創造事例２　夏休みのフィールドワーク先である、社会福祉法人の概要と取組みについて講義を聞き、議論する
第13回	ゲスト講義とディスカッション	高齢者施設と地域との関わりについてのゲスト講義及び施設訪問にあたっての留意事項について学ぶ
第14回	まとめと振り返り	各自のレポートを発表する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
地域社会の課題について日頃から問題意識をもって情報収集しておくことが望ましい。プレゼンテーションの準備を授業外時間にも実施することが求められる。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は使用せず、各回のレジュメを学習支援システムにアップします。

【参考書】
石岡丈昇『エスノグラフィー入門』2024年、ちくま新書
高尾真紀子編著『みんなでつくる幸せなまち　地域ウェルビーイング　4分類と7つの実践例』2025年、三恵社
前野隆司他『システム×デザイン思考で世界を変える』2014年、日経BP社

【成績評価の方法と基準】
グループワーク・プレゼンテーションへの貢献(50％)、中間・最終レポート（50％）

【学生の意見等からの気づき】
本年度の新規科目につきフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
発表などでPCが必要な場合には指示します。

【その他の重要事項】
ゲストの都合によりオンライン授業になる場合があります。

【Outline (in English)】
【Course outline】
The purpose of this course is to deepen understanding of community challenges and the diverse lifestyles and work practices of people living in the area prior to fieldwork, preparing students to engage in activities and practices within the community. Emphasizing group work, the course aims to foster understanding of perspectives and values different from one's own through dialogue and interaction with fellow students and guest lecturers. It also seeks to cultivate collaborative skills and self-expression abilities, thereby ensuring effective fieldwork.
【Learning Objectives】
① Understand the challenges facing local communities and the ways of life and work of people with different perspectives and values.
② Listen to guest lecturers and ask appropriate questions.
③ Through group work, collaborate with others to create something together.
④ Summarize learning outcomes and deliver presentations.
【Learning　activities outside of classroom】

It is desirable to maintain an awareness of issues within the local community and gather information on them on a regular basis. Preparation for presentations is also required outside of class time.
The standard preparation and review time for this course is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
Contribution to group work and presentations (50%), Midterm and final reports (50%)

CAR200MA（キャリア教育 / Career education 200）

フィールドワーク（地域創造）

高尾　真紀子

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水3/Wed.3　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業の目的は、夏休み期間中のフィールドワークの経験を振り返り、事前学習で学んだ地域社会の課題や多様な人々との交流で得られた新たな知見を深め、地域での活動や実践、今後のキャリアに活かしていくことです。

【到達目標】
この授業の到達目標は以下のとおりである。
①フィールドワークの経験を振り返り、そこで得た学びを共有する。
②グループワークによる課題解決やプレゼンテーションの手法を身につける、
③グループでフィールドワークの成果を発表する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
この授業の受講にあたっては、春学期の「フィールドワーク事前指導（地域創造）」を修了のうえ、夏休み期間中にフィールドワークを実施していることが求められる。
フィールドワークを振り返り、その経験を共有するとともに、新たな気づきを得る。グループワークの技法による課題の構造化、課題解決のまとめ方を学び、プレゼンテーションを行う。さらに、グループでポスターを作成し、成果を学内で発表する。
ゲスト講義など、スケジュールについては、一部変更の可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	秋学期の授業の進め方
第2回	フィールドワーク体験に関するプレゼンテーション①	各自がフィールドワークを振り返り、発表する
第3回	フィールドワーク体験に関するプレゼンテーション②	各自がフィールドワークを振り返り、発表する
第4回	フィールドワーク体験に関するプレゼンテーション③	各自がフィールドワークを振り返り、発表する
第5回	ゲスト講師による講義とディスカッション	地域創造事例３　地域づくりを実践するゲスト講師による講義とディスカッションを行う
第6回	グループワーク１（ディスカッション）	グループワークの技法として因果関係ループ図などを学び、実施する
第7回	グループワーク２（プレゼンテーション）	グループワークのプレゼンテーション技法として、ストーリーテリング・手書きの図などを実施する
第8回	グループワーク３（ディスカッション）	課題解決のためのグループワークの技法として、バリューグラフなどを学び、実施する
第9回	グループワーク（ポスター作成）	各グループでプレゼンテーション資料（ポスター）を作成する
第10回	グループワーク（ポスター作成）	各グループでプレゼンテーション資料（ポスター）を作成する
第11回	グループワーク（ポスター作成）	各グループでプレゼンテーション資料（ポスター）を作成する
第12回	グループ成果発表	各グループでプレゼンテーションを行う
第13回	グループ成果発表	各グループでプレゼンテーションを行う
第14回	まとめと振り返り	最終レポート作成に向けて準備する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
フィールドワークの体験レポートの作成、プレゼンテーションの準備を授業外時間にも行う。
本授業の事前学習・復習は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書を使用せず、毎回の授業で必要に応じてレジュメを使用する。基本的には紙での配布はせず、学習システムにアップする。

【参考書】
石岡丈昇『エスノグラフィー入門』2024年、ちくま新書
高尾真紀子編著『みんなでつくる幸せなまち　地域ウェルビーイング　4分類と7つの実践例』2025年、三恵社
前野隆司他『システム×デザイン思考で世界を変える』2014年、日経BP社

【成績評価の方法と基準】
①フィールドワークの体験レポート(30％)
②グループワークにおける貢献と成果発表（30%）
③最終レポートの評価（40%）

【学生の意見等からの気づき】
本年度の新規科目のためフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
プレゼンテーション用のポスター作成のためパワーポイント等が利用できるPCが必要となります。

【その他の重要事項】
フィールドワークの参加が前提となりますので、フィールドワーク先からの書類の提出が必要になります。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In this course, students will reflect on their fieldwork experiences conducted during the summer break. Through group work and presentations, students will deepen their understanding of regional issues and interactions with diverse people acquired through prior learning.
【Learning Objectives】
The learning objectives for this course are as follows:
① Reflect on fieldwork experiences and share insights gained.
② Acquire skills for problem-solving and presentation through group work.
③ Present fieldwork outcomes as a group.
【Learning　activities outside of classroom】
Prepare fieldwork experience reports and presentations outside of class time.
Standardize 2 hours each for pre-class preparation and review for this course.
【Grading Criteria /Policy】
Fieldwork Experience Report (30%)
Contribution to Group Work and Presentation of Results (30%)
Final Report (40%)

CAR200MA（キャリア教育 / Career education 200）

多文化教育Ⅰ

村田　晶子

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：木2/Thu.2　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目は、受講者の多文化理解力、多文化協働力を高めることを目的とします。受講者は、在留外国人を取り巻く課題を理解し、共生のために何が必要なのか考えを深めます。本科目を通じて、言語文化的に多様な背景をもつ人々と協働し、学び合うことがなぜ大切なのか理解し、自らイニシアティブをとって、文化紹介、国際交流、学習支援を実践することができるようになります。

【到達目標】
本科目を通じて、学生は以下のことができるようになります。
・自分の異文化体験を批判的に省察し、言語化することができるようになる
・在日外国人が抱える問題を理解し、どのような解決方法があるのかアイディアを出せるようになる
・多文化協働力を高められる
・交流活動を企画し、実践することができるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP7」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
・本授業は履修学生をグループに分け、毎回の授業で課題を提示し、グループ内でディスカッションを行い、全体に共有します。
【課題等に対するフィードバック方法】
・リアクションペーパー等におけるよいコメントは授業内で紹介し、さらなるディスカッションに活かします。
・課題等の提出・フィードバックはGoogle Classroomを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業内容提示、履修の有無判断
第2回	留学・英語神話	大学のグローバル化、留学、英語学習について考える。
第3回	日本で学ぶ留学生の視点	留学生の来日動機、来日して抱える問題点について学ぶ。
第4回	異文化適応	様々な異文化適応の理論を学ぶ。学内の留学生交流を始める。
第5回	「やさしい日本語」	「やさしい日本語」が提唱されるようになった背景、社会的な意義、具体的な使い方を学ぶ。
第6回	外国人労働者の受け入れ状況	外国人労働者の在留資格、受け入れの実態、受け入れ制度の問題点について学ぶ。
第7回	ステレオタイプについて考える	ステレオタイプのメカニズムを理解し、自分のステレオタイプについて掘り下げる。
第8回	「ハーフ」	「ハーフ」という呼び方について考える。当事者の多様な経験を理解する。
第9回	日本人論	・過去の「日本人論」を知るとともに、現代のメディアによる「日本人」「●●人」の描き方を考える。 ・プロジェクトのトピックをグループで選ぶ。
第10回	ヘイトスピーチ、マジョリティー特権、マイクロアグレッション	・ヘイトスピーチ、マジョリティー特権、マイクロアグレッションについて考える。 ・プロジェクトの企画書を作成する。
第11回	文化紹介プロジェクトの準備	グループに分かれてプロジェクトの準備
第12回	プロジェクトの実施	グループに分かれて文化紹介プロジェクトを実施
第13回	プロジェクトの発表	プロジェクトの発表とディスカッション
第14回	教場試験	最終レポートを作成、提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
この授業は２単位ですので、大学設置基準に鑑みた場合１回につき４時間以上の授業時間外の学習が必要となります。
学生は授業で指示されたテキストをあらかじめ読んできてください。また、課外活動として、各自が留学生との国際交流を行います（毎週1時間程度）。

【テキスト（教科書）】
村田晶子・長谷川由香・河内彩香・プレフューメ裕子・竹山直子『やさしいことばで国際交流：交流パートナーのための活動集』（リンクからダウンロードできますhttps://doi.org/10.50921/jlp.3.0_1）

【参考書】
参加者の理解状況に応じて参考書の情報を知らせます。

【成績評価の方法と基準】
・積極的な授業の参加度 25%
・課題　35%
・最終発表　20%
・最終レポート 20%

【学生の意見等からの気づき】
最終課題の準備時間がもう少しほしかったという声があったので、次回からもう少し時間を増やしたい。

【学生が準備すべき機器他】
・授業の連絡、ハンドアウトの配布、宿題の提出は全て法政大学用のGoogle Classroomを用いるため、履修者は必ずGoogle Classroomに２回目の授業までに登録してください（クラスコードは初回の授業で伝えます）。

【その他の重要事項】
・第１回のオリエンテーション、第２回のグループ分けに必ず参加すること。１回目、2回目の欠席者の履修は原則許可しません。どうしても欠席しなければならない場合には必ず事前に教員に連絡してください。
・本授業を体験型選択必修科目として履修する場合、この科目と秋学期の「多文化教育Ⅱ」をペアで履修することが単位取得の条件となります。
・履修者数が多い場合は、履修理由希望書によって選抜します。

【その他】
毎回の授業でのグループディスカッションへの参加が求められます。遅刻・早退、欠席の可能性が高い学生、課題に取り組む時間が取りにくい学生は履修をご遠慮ください。

【キャリアデザイン学部より】
本科目を履修するには3月下旬の体験型選択必修科目ガイダンスに出席し、選抜に合格する必要があります。必ず掲示で詳細を確認してください。

【Outline (in English)】
The course seeks to enhance students' multicultural awareness and understanding of linguistically and culturally diverse groups of people living in Japan. It also aims to develop students' multicultural collaboration skills.
【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to 1) critically reflect upon their own multicultural experiences; 2) understand the social issues impacting foreign residents; 3) enhance multicultural communication skills; and 4) conduct cultural exchanges.
【Learning Activities outside of Classroom】
Students will be given weekly assignments that they will be expected to complete by the due dates set by the instructor. Your study time will be about four hours for each class meeting.
【Grading Policy】
Grading will be decided on the basis of the following:
In-class Contribution: 25%
Assignments: 35%
Final Presentation: 20%
Final Paper: 20%
・Students who want to take the course must attend the first and second class sessions. Those who fail to do so cannot take the course.

CAR200MA（キャリア教育 / Career education 200）

多文化教育 II

村田　晶子

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木2/Thu.2　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生は春学期に学んだことを踏まえて、国際協働学習、そして、多文化共生をテーマとしたボランティア活動に参加します。これにより、文化的多様性の理解を深め、多文化協働力、社会貢献意識を高めます。

【到達目標】
本科目でボランティア活動に参加することを通じて、学生は多様な背景をもつ人々と協働するためのスキルや資質を高めることができます（例：傾聴力、発信力、文化分析力、偏見やステレオタイプに気づく力、関係性の構築力、対立への対応力、自己省察力、柔軟な態度、自己管理力、積極的に働きかける力等）。そして、多文化共生社会に貢献するために何が必要なのかを理解し、自ら行動することができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP7」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
＊体験学習期間は参加者の活動→振り返り→次への応用というサイクルが中心になります。
【課題等に対するフィードバック方法】
・よい振り返りのコメントは全員に紹介し、ボランティア活動に活かします。
・課題等の提出・フィードバックはGoogle Classroomを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション ボランティアプロジェクトの説明	授業内容提示、履修の有無判断、ボランティアプロジェクトの選択
第2回	プロジェクトごとに活動計画を立てる	活動計画表の作成
第3回	海外大学とのオンライン国際協働学習の開始	海外班はオンライン合同オリエンテーションに参加
第4回	チュートリアル１	小グループに分かれてボランティア活動の振り返りを行う。
第5回	チュートリアル２	小グループに分かれてボランティア活動のふりかえりと、計画の調整を行う。
第6回	チュートリアル３	小グループに分かれてボランティア活動の課題を検討し、改善のための目標を設定する。
第7回	中間テスト	ボランティアの動画を分析し、レポートを提出
第8回	チュートリアル４	交流動画を踏まえたディスカッションを行う。
第9回	チュートリアル５	小グループに分かれてボランティア活動の最終成果物作成の準備を行う。
第10回	海外大学との協働発表会①	海外大学とのオンライン合同発表会とディスカッション②（ベトナム班）
第11回	海外大学との協働発表会②	海外大学とのオンライン合同発表会とディスカッション③（アメリカ班）
第12回	ボランティアのまとめと発表準備	各グループにわかれて、クラスでの成果発表会の準備を行う。
第13回	成果発表会１	グループの成果報告（海外班）
第14回	成果発表会２	グループの成果報告（それ以外の班）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
この授業は２単位ですので、大学設置基準に鑑みた場合１回につき４時間以上の授業時間外の学習が必要となります。
授業時間外で、学内の留学生との国際交流、そして各自が選んだボランティア活動をします。

【テキスト（教科書）】
村田晶子・長谷川由香・河内彩香・プレフューメ裕子・竹山直子『やさしいことばで国際交流：交流パートナーのための活動集』（リンクからダウンロードできますhttps://doi.org/10.50921/jlp.3.0_1）

【参考書】
村田晶子（編）(2022)『オンライン国際交流と協働学習：多文化共生のために』くろしお出版
村田晶子・中山京子・藤原孝章・森茂岳雄（編）(2019)『チャレンジ多文化体験・多文化共修ワークブック』ナカニシヤ出版

【成績評価の方法と基準】
・積極的な授業の参加度 25%
・課題　35%
・最終発表　15%
・最終成果物 25%

【学生の意見等からの気づき】
SDGsをテーマとした留学生とのディスカッションが大変だったと感じた学生がいた。来年度は、社会問題のディスカッションをやさしい日本語でどのように行ったらよいのか、事前練習をもっと入れたい。

【学生が準備すべき機器他】
・授業の連絡、ハンドアウトの配布、宿題の提出は全て法政大学用のGoogle Classroomを用いるため、履修者は必ずGoogle Classroomに第１週目の授業までに登録してください。
・ハンドアウトが見られるように教室にPCか通信端末を持ってきてください。

【その他の重要事項】
・本授業を体験型選択必修科目として履修する場合、本年度の春学期「多文化教育Ｉ」に引き続きペアで履修し単位を取得することが条件となります。それ以外で履修できる学生は本年度の4月の段階で秋学期の履修を許可している学生のみです。
・第１回のオリエンテーション、第２回のグループ分けに必ず参加すること。第１回目、第２回目の欠席者の履修は原則許可しません。どうしても欠席しなければならない場合には必ず事前に教員に連絡してください。

【その他】
ボランティア活動は相手あっての活動です。遅刻やキャンセルは相手に失礼です。きちんと活動に取り組む時間が取れない学生は履修をご遠慮ください。

【キャリアデザイン学部より】
本科目は「多文化教育Ｉ」を習得（S〜C-）した場合のみ履修可能です。

【Outline (in English)】
The course aims to enhance students' multicultural collaboration skills and their awareness of social contributions through international exchange and volunteer activities.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to apply their collaborative skills to promote social diversity and inclusion.
【Learning Activities outside of Classroom】

Students will be given weekly assignments that they will be expected to complete by the due dates set by the instructor. Your study time will be about four hours for each class meeting.
【Grading Policy】
Grading will be decided on the basis of the following:
In-class Contribution: 25%
Assignments: 35%
Final Presentation: 15%
Final Papers: 25%
・Students who want to take the course must attend the first and second class sessions. Those who fail to do so cannot take the course.

CAR200MA（キャリア教育 / Career education 200）

メディアリテラシー実習Ⅰ

坂本　旬

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：水4/Wed.4　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
メディアリテラシーの基本概念と映像言語の基本を学ぶ。受講生はメディアリテラシーの基本原理を理解し、それを用いて短い映像作品を制作することによって、メディアリテラシーの基礎を実践的に身につける。

【到達目標】
・受講生はメディアリテラシーの概念を理解し、メディアリテラシーの概念を説明できる。
・メディアリテラシーにおける映像言語の基礎知識を理解する。
・基本的な映像制作能力を身につけ、メディアリテラシーの概念を意識した短い映像を制作することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
メディアリテラシーの歴史を学び、基礎概念を学びながら映像制作の基本的な技法を習得する。前半はテレビ番組や映画などの映像を用いて、映像言語とメディアリテラシーの基本的知識を習得する。後半はデジタル・ストーリーテリングや公共広告などの短い映像制作実習を行う。
・授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
・良いリアクションペーパーは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。
・課題等の提出・フィードバックは授業支援システムを通じて行う予定。
・オフィス・アワーで、課題（試験やレポート等）に対して講評する。
・最終授業で、13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。
この授業は、基本は対面とし、必要に応じて、オンラインで実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要および必要機器の説明（Zoomによるオンライン授業）
第2回	メディアリテラシーの基本	メディアリテラシーの基礎概念を学ぶ
第3回	メディアリテラシーの原理	メディアリテラシーの基本原理を学ぶ
第4回	メディアリテラシーの歴史	メディアリテラシーの歴史を学ぶ
第5回	メディアの読み解きを学ぶ	メディアのジャンルと分析の方法を学ぶ
第6回	デジタル・ストーリーテリングの基礎	デジタル・ストーリーテリングの理論と技法を学ぶ
第7回	デジタル・ストーリーテリングの作り方	デジタル・ストーリーテリングの制作方法を学ぶ
第8回	デジタル・ストーリーテリング作品の発表	課題のデジタル・ストーリーテリング作品の発表を行う
第9回	現代社会のメディア	広告やPV、ニュースなど身の回りにあるさまざまなメディア・メッセージを学ぶ
第10回	広告メディアとメディアメッセージ	広告映像の中にあるメディア・メッセージの読み解き方を学ぶ
第11回	広告メディアと表現技法	広告映像の表現技法を学ぶ
第12回	公共広告の制作方法	公共広告の作り方を学ぶ
第13回	映像編集の方法	映像編集の基本的な方法を学ぶ
第14回	公共広告の構想	公共広告の絵コンテの発表会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間外では、授業期間中提示された課題の制作を行う。なお、本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
坂本旬『メディアリテラシーを学ぶ』大月書店、2022年

【参考書】
坂本旬『メディア情報教育学』法政出版局、2014年
坂本・山脇編著『メディアリテラシー　吟味思考を育む』時事通信社、2021年
寺崎里水・坂本旬『地域と世界をつなぐSDGsの教育学』法政大学出版局、2021年

【成績評価の方法と基準】
小テスト30％、提出物50％、平常点20％
授業評価基準（ルーブリック）
・基本
積極的に授業に参加し、発言する
静止画・動画による映像作品を制作する
締め切りに間に合うように作品を提出する
振り返りレポートを書いて提出する
・発展
メディアリテラシーの5つのキークエスチョンを理解している
映像の表現技法を説明することができる
絵コンテを作ることができる
映像編集の方法を理解し、パソコンで編集ができる
・応用
映像の企画・取材・制作が一人でできる
他者に適切なアドバイスや支援ができる
授業以外のさまざまな社会活動に学んだことを活用できる

【学生の意見等からの気づき】
メディアリテラシーの基本を理解することが良い作品制作につながることが理解できた。

【学生が準備すべき機器他】
映像編集可能なWindowsまたはMacノートブックPCを用意すること。
編集ソフトとして無料版ダビンチ・リゾルブ(DavinciResolve)を推奨する。
https://www.blackmagicdesign.com/jp/products/davinciresolve/
カメラとして使用できるスマートフォンやデジタルカメラを用意すること。

【その他の重要事項】
本授業では動画の提出に法政大学のBOXを使用する。使用方法は以下のリンクを参照すること。
https://netsys.hosei.ac.jp/protected/manual/distance/manual-box.html

【他の授業との関連】
「メディアリテラシー実習Ⅰ」は映像制作の基本を学び、「メディアリテラシー実習Ⅱ」はドキュメンタリー映像制作を行う。ⅠとⅡは連続して履修すること。また、3年次以上では「キャリアデザイン学総合演習」を履修することが望ましい。

【キャリアデザイン学部より】
本科目を履修するには3月下旬の体験型選択必修科目ガイダンスに出席し、選抜に合格する必要があります。必ず掲示で詳細を確認してください。

【Outline (in English)】
To study the core concepts of media literacy
To explore how the media construct their messages
To learn how to make a Public Service Announcement

The goal of the course is for students to understand the concept of media literacy and the language of video, to acquire video production skills, and to be able to produce short videos. Students will produce videos outside of class time. Evaluation will be based on 30% quizzes, 50% submissions, and 20% study attitude.
Students need to work outside of the classroom to create their work. The amount of time varies depending on the student,but Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

CAR200MA（キャリア教育 / Career education 200）

メディアリテラシー実習Ⅱ

坂本　旬

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水4/Wed.4　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
受講生は、メディアリテラシーの基礎概念に関する学習を土台に、ドキュメンタリーの技法と分析手法を学び、ショート・ドキュメンタリーを制作する。

【到達目標】
・メディアリテラシーの観点からドキュメンタリーの歴史と理論を学ぶ
・メディアリテラシーの概念を用いてドキュメンタリーを分析する
・取材による実践的なドキュメンタリー映像の制作および評価を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
本授業は、「メディアリテラシー実習Ⅰ」の学習を土台に、短いドキュメンタリー映像制作を行い、基本的な映像制作の方法を学ぶ。なお、本授業は春学期に「メディアリテラシー実習Ⅰ」を履修し、メディアリテラシーの基本概念を学習した学生のみが履修できる。「メディアリテラシー実習Ⅱ」のみの受講は認めないので、注意すること。
・授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
・良いリアクションペーパーは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。
・課題等の提出・フィードバックは授業支援システムを通じて行う予定。
・オフィス・アワーで、課題（試験やレポート等）に対して講評する。
・最終授業で、13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。
この授業は、基本は対面とし、必要に応じてオンラインとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・公共広告作品上映会	メディアリテラシー実習Ⅰの受講生が作った公共広告映像作品の上映を行う
第2回	メディアリテラシーとドキュメンタリーの基礎	ドキュメンタリー映像の基礎理論を学ぶ
第3回	メディアリテラシーとドキュメンタリーの歴史	ドキュメンタリー映像の歴史を学ぶ
第4回	メディアリテラシーとドキュメンタリーの構造	ドキュメンタリーのシーンやカットの構造を学ぶ
第5回	カメラ・マイクの使い方	施設の使い方とカメラとマイクの基本的な使い方を学ぶ。
第6回	ビデオ撮影実践法	ビデオ撮影の実際のノウハウを実践的に学ぶ。
第7回	構成・絵コンテの作成	実際に企画書や絵コンテを制作し、映像の構成を組み立てる。
第8回	企画の発表	受講生ひとりずつによる企画の発表。
第9回	編集の仕方(1)キャプチャーの仕方	パソコンに撮影した動画を取り込む方法を学ぶ。
第10回	編集の仕方(2)編集の基本	動画編集の基本を学ぶ。
第11回	編集の仕方(3)音響とテロップ	動画に音声・音楽やテロップを入れる方法を学ぶ。
第12回	編集の仕方(4)仕上げ	編集の仕上げの方法を学ぶ。
第13回	編集作業の点検	それぞれの編集作業の点検を行う。
第14回	発表会	制作映像の発表会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ロケハンや取材、撮影、編集はすべて各人が課外時間に行う。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
坂本旬『メディアリテラシーを学ぶ』大月書店、2022年

【参考書】
坂本旬『メディア情報教育学』法政出版局、2014年
坂本・山脇編著『メディアリテラシー　吟味思考を育む』時事通信社、2021年
寺崎里水・坂本旬『地域と世界をつなぐSDGsの教育学』法政大学出版局、2021年

【成績評価の方法と基準】
小テスト30％、提出物50％、平常点20％
授業評価基準（ルーブリック）
・基本
積極的に授業に参加し、発言する
静止画・動画による映像作品を制作する
締め切りに間に合うように作品を提出する
振り返りレポートを書いて提出する
・発展
メディア・リテラシーの5つのキークエスチョンを理解している
映像の表現技法を説明することができる
絵コンテを作ることができる
映像編集の方法を理解し、パソコンで編集ができる
・応用
映像の企画・取材・制作が一人でできる
他者に適切なアドバイスや支援ができる
授業以外のさまざまな社会活動に学んだことを活用できる

【学生の意見等からの気づき】
セルフドキュメンタリーが多くなっているが、ドキュメンタリーの最初の一歩として肯定的に捉えている。

【学生が準備すべき機器他】
映像編集可能なWindowsまたはMacノートブックPCを用意すること。
編集ソフトとして無料版ダビンチ・リゾルブ(DavinciResolve)を推奨する。
https://www.blackmagicdesign.com/jp/products/davinciresolve/
カメラとして使用できるスマートフォンやデジタルカメラを用意すること。
本授業では動画の提出に法政大学のBOXを使用する。使用方法は以下のリンクを参照すること。
https://netsys.hosei.ac.jp/protected/manual/distance/manual-box.html

【その他の重要事項】
「メディアリテラシー実習Ⅰ」で身につけたスキルをもとに、ひとり一つの作品の制作を行う。共同制作は認めないので注意。実践的な学習のため、無断欠席は禁止する。授業時間外の学習活動が多いため、アルバイトやサークル活動が忙しい学生は注意すること。また、春学期の「メディアリテラシー実習Ⅰ」を履修していない学生は原則として履修できない。

【キャリアデザイン学部より】
本科目を履修するには3月下旬の体験型選択必修科目ガイダンスに出席し、抽選に合格する必要があります。必ず掲示で詳細を確認してください。

【履修条件】
本科目は「メディアリテラシー実習Ⅰ」を習得（S〜C-）した場合のみ履修可能です。

【Outline (in English)】
To explore how the core concepts of media literacy are adapted to the documentary
To study how to make and evaluate the documentary
The goal of the course is for students to understand the history and concepts of documentary video and to be able to produce short documentary videos. Students will produce videos outside of class time. Evaluation will be based on 30% quizzes, 50% submissions, and 20% study attitude.
Students need to work outside of the classroom to create their work. The amount of time varies depending on the student, but Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

CAR200MA（キャリア教育 / Career education 200）

職業能力ベーシックスキルⅠ

岩出　朋子

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：月3/Mon.3　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
職業人や社会人に必要な基礎的な能力を身につけることを目指します。主な内容は、ビジネスコミュニケーションやビジネスマナーの習得です。さまざまな世代と円滑にコミュニケーションを図る技術、社会に出る前に知っておきたい基本的な行動や考え方など、実際に役立つ知識やスキルを学びます。
具体的には、①ビジネスコミュニケーション（話す・聴く・文章表現・メールの基本）、②ビジネスマナー（挨拶・敬語・礼儀）、③人間関係の構築（報告・連絡・相談、多様性の理解、合意形成）、④セルフマネジメント（時間・体調・ファイナンス）⑤プレゼンテーション（個人発表とグループ発表）などのスキルをテーマとして扱います。

【到達目標】
本授業の目標は下記の５つとします。
①職業人・社会人のコミュニケーション、マナーなどビジネススキルの基本を理解し、実践できるようになる。
②職業人・社会人として必要なセルフマネジメント（時間・体調・ファイナンス）の基本を理解し、実践できるようになる。
③自己分析やライフラインチャートを通して、自己理解を深めることができる。
④プレゼンテーション力や文章力を身につけることができる。
⑤主体性を持ち、自分で考え、伝え、行動すること、チームワークの重要性を習得し、行動できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
授業は講義と実習を組み合わせて進めます。各自での確認やペア・チームでのレビューを行いながら、知識を「わかる」だけでなく「できる」レベルまで習得できることを目指します。初対面の人とも円滑にコミュニケーションがとれるよう、適度な緊張感を持って取り組めるチームまたはグループ編成で実習を行います。
フィードバックはリアクションペーパーや宿題の提出を通じて実施し、優れた内容やコメントは授業内で紹介し、全員で共有してさらに理解を深めます。演習では、チーム発表や受講者同士のコメントによる双方向評価を取り入れることで、互いの気づきや成長につなげます。全体発表の際も、授業内でフィードバックを行います。
授業は原則として対面で実施しますが、状況に応じてZoomによるリアルタイム型オンライン授業を行うこともあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 授業概要と受講上の注意受講動機の確認	受講概要（ビジネスコミュニケーションとマナー）と目標、授業の進め方、注意事項の説明。受講動機の確認。
第2回	雇用環境の概要 セルフマネジメント	雇用関連のデータから現実を把握する。社会人と学生の違いを考える。ビジネスコミュニケーション、ビジネスマナー、セルフマネジメントが必要な理由について考えて理解を深める。
第3回	ワークルールの理解 自己理解の意義と方法(1)	労働基準法や労働組合法など、働く上で守るべき法律や契約などの基本的なワークルールを理解する。 【個人実習】ライフラインチャートを元に過去を振返り、自己理解を深める。
第4回	自己理解の意義と方法(2)	【個人実習】ライフラインチャートを元に自己理解を深める。「履歴書・自己紹介書」を作成する。 【ディスカッション】AIを活用した「履歴書・自己紹介書」作成におけるリスクと就活における影響
第5回	スピーチ演習 フィードバックの方法	【スピーチ①】１分間スピーチ スピーチのポイントを学ぶ。 第2回〜第4回の成果として1分間スピーチを実施する。
第6回	セルフマネジメント（体調・ファイナンス） コミュニケーションツール	セルフマネジメント（体調・ファイナンス）の重要性を学ぶ。 SNSを含めたコミュニケーションツールについて、世代間の認知の違いを知る。 【ディスカッション】社会人が利用するコミュニケーションツールと世代間ギャップ
第7回	セルフマネジメント（時間） 情報伝達「報・連・相」	セルフマネジメント（時間）の重要性を学ぶ。 情報伝達「報・連・相」の重要性を理解する。
第8回	社会人の基礎力 状況に合わせたきき方	「社会人基礎力」について知る。 ３つの「聞く・効く・訊く」。状況にあわせた使い方、聞き上手になるためのポイント、人間関係を築くききかたを学ぶ
第9回	読み手に伝わる文章 AI活用メリット・デメリット	わかりやすい文章の書き方について学ぶ。よくある間違いやビジネス文書とビジネスメール、ビジネスチャットの書き方を学ぶ。限られた時間で文章作成をして自分の特性を把握する。ＡＩ活用のメリット・デメリットについても議論していく。
第10回	ビジネスマナーの基本	インターンシップや就職活動を意識した、社会人としてのマナー（挨拶・言葉遣い・服装）について確認する。人間関係を構築する際に必要なアサーションを学ぶ。
第11回	コンセンサスとグループプレゼンテーション(1) テーマ理解	【グループワーク】 ケーススタディ：プロジェクト最終決定(go or no-go) コンセンサスの重要性を理解する。テーマについて理解し、話し合いをする。コンセンサスを得る体験学習で理解を深める。
第12回	コンセンサスとグループプレゼンテーション(2) 資料作成・プレゼンテーションの準備	【グループワーク】 資料作成と発表の準備を行う。 構成・話し方などポイントを理解して、話し合った結果をプレゼンテーションするための資料作成・発表の準備を行う。
第13回	コンセンサスとグループプレゼンテーション(3) 全体発表	【プレゼンテーション】 発表資料を元に、グループ別に発表する。 他のグループの結果から、コンセンサスのプロセスを理解する。プレゼンテーションをおこない、プレゼンテーション力を身につける。

第14回　スピーチ演習　試験・まとめと解説　【スピーチ②】今までの学びを１分間スピーチ
授業全体のまとめと理解度を最終試験レポートで確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
岩出朋子著『はじめてのキャリアデザイン 大学生編』Kindle出版

【参考書】
授業中に随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
単位取得に必要な出席回数は必ず出席してください。
①「出席票」での確認及びリアクションペーパーを提出してもらいます。コメントの内容や習得度合30％
②受講態度（積極的に参加しているか・宿題の提示・発表内容等）50％、
③最終回に実施する理解度テスト20％
（注意事項）
授業に主体的に参加してください。個人のワークおよびチーム演習もありますので、周囲に迷惑をかけないように積極的に取り組んでください。苦手な内容がある場合にも自分で意識することで習得することができますので、諦めずに参加してください。オンライン授業の取り組むマナーや通常の授業中もマナーについて注意しますので、遵守してください。資料や連絡事項は、事前に学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】
企業のインターンシップ、人事・採用担当情報などを取り入れます。演習時間を増やし、受講者同士の相互理解も深めていきます。

【学生が準備すべき機器他】
オンラインで実施する時には、情報機器（パソコン・ネットワーク環境）を整備してください。授業時間は演習が多いので、静かな場所で受講し、発言できる環境にしてください。オンラインで参加するマナー等についても説明しますので、遵守してください。

【その他の重要事項】
本授業は実務経験のある教員が担当します。業界の特徴や企業側に立った視点を含めて情報提供を行います。本授業は、2022年度以降入学生（体験型科目として履修）・2021年度以前入学生（展開科目・総合として履修）ともに、授業に参加するには春学期授業開始前に申込みが必要です（選抜・抽選を行います）。必ず学部掲示板の案内を確認し、指示に従って下さい。

【Outline (in English)】
【Course outline】This course aims to equip students with the fundamental abilities necessary to function effectively in a professional environment. The main focus is on acquiring practical business communication skills and business etiquette. Students will learn usable knowledge and skills, including techniques for smooth communication across generations, as well as essential professional behaviors and mindsets required before entering the workforce.
Specifically, the course will cover the following themes:
(1)Business Communication: Fundamentals of speaking, listening, written expression, and email etiquette.
(2)Business Etiquette: Greetings, honorific language (keigo), and professional courtesy.
(3)Building Relationships: Reporting/Informing/Consulting (Horenso), understanding diversity, and consensus-building.
(4)Self-Management: Time management, health management, and personal finance.
(5)Presentations: Individual and group presentations.
【Learning Objectives】The goals of this course are as follows:
(1)Understand and practice the fundamentals of business skills, including professional communication and etiquette.
(2)Understand and practice the fundamentals of self-management (time, health, and finance) required of working professionals.
(3)Deepen self-understanding through self-analysis and life-line charts.
(4)Develop presentation and writing skills.
Cultivate proactivity — including the ability to think, communicate, and act (5)independently — and master the importance of teamwork in practice.
【Learning activities outside of classroom】Study Preparation and Review Students are expected to spend approximately 2 hours each on preparation and review per class session.
【Grading Criteria /Policy】Attendance and Evaluation Criteria Students must meet the minimum attendance requirement to receive credit. Evaluation is based on the following:
・Attendance and Reaction Papers (30%): Assessed based on submission of attendance records, reaction papers, and the depth of comprehension demonstrated in the comments.
・Class Participation and Attitude (50%): Assessed based on active participation, submission of assignments, and quality of presentations.
・Final Understanding Test (20%): A comprehension test conducted in the final session.

CAR200MA（キャリア教育 / Career education 200）

職業能力ベーシックスキルII

岩出　朋子

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：月3/Mon.3　｜　配当年次：2〜4年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、就職活動やインターンシップに役立つ、実践的な職業能力の習得を目指します。
カリキュラムでは主に①自己理解、②仕事理解、③OB・OG・社会人による講話に取り組みます。まず①自己理解では、職業興味検査や自己分析を通して、自分の強みや弱みを発見します。②仕事理解では、業界や企業について調査し、実際のインターンシップや就職活動に活かすための情報収集の方法を学びます。③OB・OG・社会人による講話では、就活の進め方や働く意義、さまざまな働き方など、現場の声を聞きながら社会人との交流を深めます。
2年次以降、本格化するインターンシップや就職活動に備え、シミュレーション形式でリアルな体験を先取りし、多様なキャリア形成の在り方について理解を深めることも目標としています。

【到達目標】
本授業の目標は下記の5つとします。
①業界・職種・企業の調査方法を習得できる。
②自己分析や職業興味検査を通して、自己理解を深めることができる。
③社会人の講話を通して、質問の仕方の習得と社会人の職業意識やキャリアの考え方を学ぶことができる。
④プレゼンテーション力や文章力を身につける。
⑤チームで協力する重要性や、主体的に行動できる力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
授業は講義と実習を組み合わせて進めます。
仕事理解の実習では、グループに分かれて企業リサーチを行い、プレゼンテーションを行います。他の業界についても理解を広げる機会となります。
自己理解の実習では、ホランド職業選択理論（RIASEC）を通して、自分の興味がある職業を確認する。職業の興味から業界を拡げて考えます。
授業は少人数制で行い、学生同士や講師とのコミュニケーションを重視します。フィードバックは宿題や授業中の発表・成果物に対しコメントを行い、全体発表の場でもその都度フィードバックを実施します。授業は原則として対面で実施しますが、状況に応じてZoomによるリアルタイム型オンライン授業を行うこともあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 受講動機の確認	自己紹介・授業内容、身につけておくとよいスキルについて理解する。就職活動のスケジュールとそれまでに準備することについて理解する。現在の雇用環境の概要（PEST分析）を理解する。
第2回	「業界・職種・企業」の情報収集方法と企業分析(1)	業界・職種・企業情報の集め方・調べ方を理解する。文系・理系に関わらずの活躍する職場や、多様な採用経路とその後のキャリア形成についても理解する。企業分析の方法として、PEST分析、バリューチェーン（VC）、重要成功要因（KSF）を理解し活用する。
第3回	「業界・職種・企業」の情報収集方法と企業分析(2)	プレゼンテーションのグループに分かれる。担当する企業リサーチの計画を立てる。業界の企業間競争、人員構成や雇用区分について検討する。 リサーチ事例：サイゼリヤ
第4回	「業界・職種・企業」の情報収集方法と企業分析(3)	【グループプレゼンテーション】 インターンシップの意義を理解する。企業リサーチを開始する。 キャリアセンター訪問して、キャリアセンターの利用方法を学ぶ。また、AIを活用して企業の情報を調べ分析する。
第5回	「業界・職種・企業」の情報収集方法と企業分析(4)	【グループプレゼンテーション】 企業と組織の仕組み リサーチ事例：BMSG・任天堂 発表資料作成、プレゼン準備を行う
第6回	業界・企業研究の発表(1)	【グループプレゼンテーション】 企業と組織の仕組み 事例：セブンイレブン パワーポイントを使い、グループプレゼンテーションを実施する。他グループの発表も参考にし、他業界に興味を拡げることや調査の視点を学ぶ。
第7回	業界・企業研究の発表(2)	【グループプレゼンテーション】 企業と組織の仕組み 事例：ヤマト運輸 パワーポイントを使い、グループプレゼンテーションを実施する。他グループの発表も参考にし、他業界に興味を拡げることや調査の視点を学ぶ。
第8回	業界・企業研究の発表(3)	【グループプレゼンテーション】 企業が求める人物像 事例：ファーストリテイリング・しまむら パワーポイントを使い、グループプレゼンテーションを実施する。他グループの発表も参考にし、他業界に興味を拡げることや調査の視点を学ぶ。
第9回	業界・企業研究の発表(4)	【グループプレゼンテーション】 働きやすい職場環境 事例：メルカリ パワーポイントを使い、グループプレゼンテーションを実施する。他グループの発表も参考にし、他業界に興味を拡げることや調査の視点を学ぶ。
第10回	業界・企業研究の発表(5)	【グループプレゼンテーション】 賃金の仕組みと労働 事例：IKEA パワーポイントを使い、グループプレゼンテーションを実施する。他グループの発表も参考にし、他業界に興味を拡げることや調査の視点を学ぶ。

第11回	業界・企業研究の発表(6)	【グループプレゼンテーション】 社会保障と労働法 事例：ビックイシュー日本 パワーポイントを使い、グループプレゼンテーションを実施する。他グループの発表も参考にし、他業界に興味を拡げることや調査の視点を学ぶ。
第12回	職業興味調査	【個人実習】ホランド職業選択理論（RIASEC）を通して、自分の興味がある職業を確認する。職業の興味から業界を拡げて考えてみる。
第13回	OB・OG・社会人による講話	社会人から、企業におけるキャリアデザインの考え方を学び、自己の棚卸に活用する。
第14回	まとめ・総合演習	授業全体のまとめ・総合演習・最終試験レポート

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
グループプレゼンテーションの課題となる業界・企業の研究を行います。授業外でのリサーチ、グループメンバーとの話し合いの時間を取ってもらいます。自己理解においては、内省することや文章化の時間は各自必要になります。

【テキスト（教科書）】
岩出朋子著『はじめてのキャリアデザイン 大学生編』Kindle出版

【参考書】
授業中に随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度とリアクションペーパー40％、「業界・職種・企業」研究の発表40%、最終試験レポート20％を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
企業のインターンシップ、人事・採用担当情報などを取り入れます。演習時間を増やし、受講者同士の相互理解も深めていきます。

【学生が準備すべき機器他】
オンラインで実施する時には、情報機器（パソコン・ネットワーク環境）を整備してください。授業時間は演習が多いので、静かな場所で受講し、発言できる環境にしてください。オンラインで参加するマナー等についても説明しますので、遵守してください。

【その他の重要事項】
本授業は実務経験のある教員が担当します。業界の特徴や企業側に立った視点を含めて情報提供を行います。本授業は、2022年度以降入学生（体験型科目として履修）・2021年度以前入学生（展開科目・総合として履修）ともに、授業に参加するには春学期授業開始前に申込みが必要です（選抜・抽選を行います）。必ず学部掲示板の案内を確認し、指示に従って下さい。

【Outline (in English)】
【Course outline】This course aims to help students acquire practical professional skills that are essential for job hunting and internships. The curriculum focuses on three main pillars: (1) Self-understanding, (2) Understanding the world of work, and (3) Guest lectures by alumni and professionals.
First, regarding Self-understanding, students will discover their strengths and weaknesses through vocational interest assessments and self-analysis. Second, for Understanding the world of work, students will research various industries and corporations, learning effective information-gathering methods to apply to actual internships and job hunting. Third, through Guest lectures, students will deepen their interaction with professionals while hearing firsthand accounts regarding the job-hunting process, the significance of work, and diverse working styles.
The goal is to prepare students for the full-scale internship and job-hunting season that begins in their second year. This is achieved by providing simulated, realistic experiences and deepening their understanding of diverse approaches to career development.

【Learning Objectives】The goals of this course are as follows:
(1)Acquire methods for researching industries, job types, and companies.
(2)Deepen self-understanding through self-analysis and vocational interest assessments.
(3)Learn about professional awareness and career perspectives from working professionals, while mastering effective questioning techniques.
(4)Develop presentation and writing skills.
(5)Understand the importance of teamwork and cultivate the ability to act proactively.
【Learning activities outside of classroom】Students are expected to spend approximately 2 hours each on preparation and review per class session.
・Preparation: Students will conduct research on industries and companies for the group presentation assignment. This requires time for off-class research and meetings with group members.
・Review: For the self-understanding component, students will need to allocate time for self-reflection and composing written analysis.
【Grading Criteria /Policy】Students will be comprehensively evaluated based on the following criteria:
・Active participation and reaction papers: 40%
・Presentation on "Industry, Job Type, and Company" research: 40%
・Final exam report: 20%

EDU200MA（教育学 / Education 200）

演習（発達・教育）【2年生用】

遠藤　野ゆり

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水5/Wed.5　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
興味関心のあるテーマについてデータや先行研究を調べる力を身につけます。
レジュメの切り方、プレゼンの仕方を身につけます。
ディスカッションの基本、司会進行の仕方を身につけます。
自分の身近な出来事やその分析を文章で表現する力を身につけます。

【到達目標】
興味関心のあるテーマについて自分なりに調べ、適切なレジュメの作成、プレゼン、文章化ができる。
授業内で質の高いディスカッションができる。
教育課題に主体的に取り組み積極的に社会に参画できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
原則として対面授業です。毎週の事前課題レポートをメールで提出してもらい、それに対してはコメントを入れて返却します。授業内でのディスカッションに対して、最後に教員からのフィードバックを行います。全14回授業の後、最終レポートを提出してもらい、これに対してフィードバックをコメントにて入れて返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ゼミとは何か 本ゼミの進め方 担当者決め。
第2回	ゼミにおけるレジュメ作成の力	レジュメを作成するとはどういうことかを考えます。
第3回	レジュメの作成（実践編）	課題図書について自分なりのレジュメを作成します。それについての講評を行い、よりよいレジュメ作りの方法を学びます。
第4回	プレゼンの仕方	プレゼンの大事なポイント、問題提起で欠かせないポイントを考えます。
第5回	発表①	担当者によるテーマ発表とディスカッション。
第6回	発表②	担当者によるテーマ発表とディスカッション。
第7回	発表③	担当者によるテーマ発表とディスカッション。
第8回	発表④	担当者によるテーマ発表とディスカッション。
第9回	発表⑤	担当者によるテーマ発表とディスカッション。
第10回	事例の記述	事例を記述するとはどういうことかを学びます。
第11回	事例の記述（実践）①	事例として記述したものをそれぞれ読み合い、良い点、不足している点などを考えます。
第12回	事例の修正	事例として記述したものをそれぞれ読み合い、良い点、不足している点などを考えます。
第13回	事例の記述（実践）③	事例として記述したものをそれぞれ読み合い、良い点、不足している点などを考えます。最終的な事例を書きあげます。
第14回	ゼミの総括・先輩の卒業論文講読	自分たちの発表や事例の書き方を確認し、先輩の書いた卒業論文を講読し最終的な目標を見定めます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの講読、事例の記述、プレゼンの準備などを行います。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
授業でのプレゼンテーション30% ディスカッション30%　その他授業活動への貢献40%

【学生の意見等からの気づき】
受講生が主体的に参加できる演習を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】
発表に際して投影機器を使う場合には事前に準備しておくこと。
パソコンを用意してください。

【その他の重要事項】
初回授業の前に受講生に対して課題の連絡をします。

【Outline (in English)】
Course outline
Students will acquire the ability to research data and previous research on topics of interest.
Students will learn how to write a resume and give a presentation and the basics of discussions and how to moderate them.
Students will acquire the ability to express their own familiar events and their analysis in writing.
Learning Objectives
This class aims to acquire the ability to examine data and previous researches about issue of interest.
To learn how to make resume and how to present it.
To learn how to do "discussion" and "moderator work.
To acquire the ability to express your familiar events and its analysis with writing.
Learning activities outside of classroom
Students will read texts, write case studies, and prepare presentations. The standard time for preparation and review for this class is two hours each.
Grading Criteria /Policy
Presentation in class 30% Discussion 30% Contribution to other class activities 40%

EDU200MA（教育学 / Education 200）

演習（発達・教育）【3・4年生用】

遠藤　野ゆり

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：水5/Wed.5　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
プロジェクトに関してゼミでの調査結果を記述・分析・考察します。
興味関心のあるテーマについて先行研究を洗い出します。
学術論文を読む力を身につけます。
卒論の構想をたて、調査を進めます。

【到達目標】
ゼミでの調査結果を記述・分析・考察します。
興味関心のあるテーマについて先行研究を洗い出します。
学術論文を読む力を身につけます。
卒論の構想をたてます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
ディスカッション形式で行います。
先行研究と学術論文の講読は輪番制です。
事前に提出されたレポートはコメントを入れてメールにてそれぞれにゼミの前に返却いたします。またslack等を通じて全体で共有できるようにいたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	秋学期の計画をたてます。
第2回	調査結果の分析	調査で得られたデータをデータ化する作業、すなわち事例を記述する力を身につけます。
第3回	結果の報告	事例について記述の仕方、考察等を検討します。
第4回	事例と考察の修正	検討内容に基づいて事例や考察を修正します。報告集を作ります。
第5回	図書館の使い方（確認）	図書館の利用について指導を受けます。
第6回	学術論文の講読①	第一担当者の選んだ学術論文を講読し学術論文の書き方に慣れます。
第7回	学術論文の講読②	第二担当者の選んだ学術論文を講読し学術論文の書き方に慣れます。
第8回	学術論文の講読③	第三担当者の選んだ学術論文を講読し学術論文の書き方に慣れます。
第9回	学術論文の講読④	第四担当者の選んだ学術論文を講読し学術論文の書き方に慣れます。
第10回	学術論文の講読⑤	第五担当者の選んだ学術論文を講読し学術論文の書き方に慣れます。
第11回	卒業論文執筆に向けて① テーマの設定	卒業論文の執筆に向けてテーマを絞ります。
第12回	卒業論文執筆に向けて② 事例の確認	卒業論文の執筆に向けて事例を読み合い確認します。
第13回	卒業論文執筆に向けて③ 章の組み方	論文の基本構成を学びます。
第14回	卒業研究構想発表	卒業研究の構想を発表し検討します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事例の記述や論文講読、レジュメ作成などをおこないます。毎週レポートとして事前に提出してもらいます。
講読論文の読解など本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
適宜指示します。

【参考書】
適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点(毎回のレポート、授業への貢献度）100％

【学生の意見等からの気づき】
特に改善点は指摘されていません。計画を引き継ぎますが受講生の要望を取り入れて臨機応変に対応します。

【学生が準備すべき機器他】
パソコンを用意してください。

【Outline (in English)】
TCourse outline：This course aims to helps students gain the ability to describe, analyze and discuss the results of the survey at the seminar; to identify the prior research on the subjects of interest; to acquire the ability to read academic paper; to make the plan of the graduation thesis and proceed with the investigation.
Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to do the followings:
A: you will, analyze, consider and write the results of their research in seminars.
B: you will identify previous research on a topic that interests you.
C: You will get the ability to read academic papers.
D: You will make the plan of your thesis.
Learning activities outside of classroom:
You need to read literature, writing resumes, writing papers, etc.
You need to implement projects to solve problems in educational settings.
The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.
Grading Criteria /Policy:
Your overall grade in the class will be decided based on in class contribution: 100%

EDU200MA（教育学 / Education 200）

演習（発達・教育）【3・4年生用】

遠藤　野ゆり

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水6/Wed.6　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
プロジェクトに関してゼミでの調査結果を記述・分析・考察します。
興味関心のあるテーマについて先行研究を洗い出します。
学術論文を読む力を身につけます。
卒論の構想をたて、調査を進めます。

【到達目標】
ゼミでの調査結果を記述・分析・考察します。
興味関心のあるテーマについて先行研究を洗い出します。
学術論文を読む力を身につけます。
卒論の構想をたてます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
ディスカッション形式で行います。
先行研究と学術論文の講読は輪番制です。
事前に提出されたレポートはコメントを入れてメールにてそれぞれにゼミの前に返却いたします。またslack等を通じて全体で共有できるようにいたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	秋学期の計画をたてます。
第2回	調査結果の分析	調査で得られたデータをデータ化する作業、すなわち事例を記述する力を身につけます。
第3回	結果の報告	事例について記述の仕方、考察等を検討します。
第4回	事例と考察の修正	検討内容に基づいて事例や考察を修正します。報告集を作ります。
第5回	論文講読の基礎	論文講読の基礎的な知識を習得します。
第6回	学術論文の講読①	第一・二担当者の選んだ学術論文を講読し学術論文の書き方に慣れます。
第7回	学術論文の講読②	第三・四担当者の選んだ学術論文を講読し学術論文の書き方に慣れます。
第8回	学術論文の講読③	第五・六担当者の選んだ学術論文を講読し学術論文の書き方に慣れます。
第9回	学術論文の講読④	第七・八担当者の選んだ学術論文を講読し学術論文の書き方に慣れます。
第10回	学術論文の講読⑤	第九・十担当者の選んだ学術論文を講読し学術論文の書き方に慣れます。
第11回	卒業論文執筆に向けて① テーマの設定	卒業論文の執筆に向けてテーマを絞ります。
第12回	卒業論文執筆に向けて② 事例の確認	卒業論文の執筆に向けて事例を読み合い確認します。
第13回	卒業論文執筆に向けて③ 章の組み方	論文の基本構成を学びます。
第14回	次年度卒業研究構想発表	次年度の卒業研究の構想に関して発表します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事例の記述や論文講読、レジュメ作成などをおこないます。毎週レポートとして事前に提出してもらいます。
講読論文の読解など本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
適宜指示します。

【参考書】
適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点(毎回のレポート、授業への貢献度）100％

【学生の意見等からの気づき】
特に改善点は指摘されていません。計画を引き継ぎますが受講生の要望を取り入れて臨機応変に対応します。

【学生が準備すべき機器他】
パソコンを用意してください。

【Outline (in English)】
TCourse outline：This course aims to helps students gain the ability to describe, analyze and discuss the results of the survey at the seminar; to identify the prior research on the subjects of interest; to acquire the ability to read academic paper; to make the plan of the graduation thesis and proceed with the investigation.
Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to do the followings:
A: you will, analyze, consider and write the results of their research in seminars.
B: you will identify previous research on a topic that interests you.
C: You will get the ability to read academic papers.
D: You will make the plan of your thesis.
Learning activities outside of classroom:
You need to read literature, writing resumes, writing papers, etc.
You need to implement projects to solve problems in educational settings.
The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.
Grading Criteria /Policy:
Your overall grade in the class will be decided based on in class contribution: 100%

EDU200MA（教育学 / Education 200）

演習（発達・教育）【2年生用】

児美川　孝一郎

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水5/Wed.5　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
若者のキャリア形成とその支援

【到達目標】
①　今日の若者のキャリア形成上の諸問題，および対応するキャリア支援の諸課題について，主として教育場面を探求の対象としつつ，その実践的および専門的理解を深める。
②　参加者各自が設定した小テーマについて，それを探求・調査・分析するためのスキルを獲得するとともに，研究発表を通じて，プレゼンテーションとコミュニケーションの力量向上をはかる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
　演習の具体的な運営方法については，参加者と相談しながら，随時決めていく。
　想定される学習活動は，①共通文献の輪読と検討，②個人またはグループによる研究発表と討論，等である。
　学生の発表等に対するフィードバックはその場で，提出された課題等へのフィードバックは，次回の授業の最初にまとめて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	参加者の問題関心を交流し，各自の小テーマ設定のためのディスカッションを行う。
第2回	ゼミ運営計画の策定	参加者の小テーマについて交流し，共有化をはかる。ゼミ運営計画を策定する。
第3回	共通文献の検討①	事前に指定した共通文献について，報告者からの発表を受けて，全体でディスカッションする。
第4回	共通文献の検討②	事前に指定した共通文献について，報告者からの発表を受けて，全体でディスカッションする。
第5回	共通文献の検討③	事前に指定した共通文献について，報告者からの発表を受けて，全体でディスカッションする。
第6回	研究発表①	報告者が自らの小テーマについて研究発表を行い，全体でディスカッションする。
第7回	研究発表②	報告者が自らの小テーマについて研究発表を行い，全体でディスカッションする。
第8回	研究発表③	報告者が自らの小テーマについて研究発表を行い，全体でディスカッションする。
第9回	研究発表④	報告者が自らの小テーマについて研究発表を行い，全体でディスカッションする。
第10回	研究発表⑤	報告者が自らの小テーマについて研究発表を行い，全体でディスカッションする。
第11回	研究発表⑥	報告者が自らの小テーマについて研究発表を行い，全体でディスカッションする。
第12回	研究発表⑦	報告者が自らの小テーマについて研究発表を行い，全体でディスカッションする。
第13回	研究発表⑧	報告者が自らの小テーマについて研究発表を行い，全体でディスカッションする。
第14回	まとめ	学習全体の振り返りを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　共通文献の検討の際には，事前に指定文献を熟読してくる。発表の担当者は，入念な準備と発表用レジュメを作成する。
　個人研究発表に際しては，先行研究の収集・読解，仮説的な理論フレームの考案など，ふだんから準備を重ねておく。自分以外の参加者の発表に際しても，テーマは前週に周知されるので，関連情報を調べたり，提示された参考文献を熟読しておく。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
　特に定めない。

【参考書】
　児美川孝一郎『権利としてのキャリア教育』（明石書店）
　児美川孝一郎『若者はなぜ「就職」できなくなったのか』（日本図書センター）
　児美川孝一郎『「親活」の非ススメ』（徳間書店）
　児美川孝一郎『キャリア教育のウソ』（ちくまプリマー新書）
　児美川孝一郎『夢があふれる社会に希望はあるか』（ベスト新書）
　児美川孝一郎『まず教育論から変えよう』（太郎次郎社エディタス）
　児美川孝一郎『自分のミライの見つけ方』（旬報社）
　児美川孝一郎『キャリア教育がわかる』（誠信書房）
　児美川孝一郎『新自由主義教育の40年』（青土社）
　児美川孝一郎『「教育改革」は何を改革してきたのか』（誠信書房）
　その他，授業時に，随時紹介していく。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は，平常点によって行う。

【学生の意見等からの気づき】
参加者からのフィードバックを大切にして授業運営をすすめる。

【その他の重要事項】
　少人数形式の演習授業であり，学生参加型の主体的学習を重視している。かつ，受講生には，調査，研究，レジュメ作成，プレゼンテーション，論文執筆のサイクルを経験してもらうため，本授業は，結果として，学生の就業力向上に資するところが少なくない。

【Outline (in English)】
Course outline：
Students will participate in presentations and discussions on the topic of "Youth Career Development and Support."
Learning Objectives：
1. Deepen academic understanding of the topic.
2. Acquire the skills to explore, research, and analyze the topic, while also improving presentation and communication abilities.
Learning activities outside of classroom：
Standard preparation and review time for this class is two hours each.
Grading Criteria /Policy：
Grading will be based on regular class marks.

EDU200MA（教育学 / Education 200）

演習（発達・教育）【3・4年生用】

児美川　孝一郎

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：水5/Wed.5　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
若者のキャリア形成とその支援

【到達目標】
①　今日の若者のキャリア形成上の諸問題，および対応するキャリア支援の諸課題について，主として教育場面を探求の対象としつつ，その実践的および専門的理解を深める。
②　参加者各自が設定した小テーマについて，それを探求・調査・分析するためのスキルを獲得するとともに，研究発表を通じて，プレゼンテーションとコミュニケーションの力量向上をはかる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
　演習の具体的な運営方法については，参加者と相談しながら，随時決めていく。
　想定される学習活動は，①共通文献の輪読と検討，②ワークショップ形式等でのテーマ討論，③個人またはグループによる研究発表と討論，④ゲストスピーカーを招いてのヒアリングの実施，等である。
　授業時以外での課外活動として，夏冬にゼミ合宿を実施する。学外の研究会・研究集会等への参加，若者に対するキャリア形成支援の現場への訪問調査の実施等についても検討したい。
　秋学期授業と併せて履修することを原則とする。年度末には，「ゼミ紀要（学生による研究論文集）」を発行する。
　学生の発表や提出された課題等へのフィードバックは，授業時および次回の授業の最初に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	参加者の問題関心を交流し，各自の小テーマ設定のためのディスカッションを行う。
第2回	春学期のゼミ運営計画の策定	参加者の小テーマについて交流し，共有化をはかる。春学期のゼミ運営計画を策定する。
第3回	共通文献の検討①	事前に指定した共通文献について，報告者からの発表を受けて，全体でディスカッションする。
第4回	共通文献の検討②	事前に指定した共通文献について，報告者からの発表を受けて，全体でディスカッションする。
第5回	共通文献の検討③	事前に指定した共通文献について，報告者からの発表を受けて，全体でディスカッションする。
第6回	研究発表①	報告者が自らの小テーマについて研究発表を行い，全体でディスカッションする。
第7回	研究発表②	報告者が自らの小テーマについて研究発表を行い，全体でディスカッションする。
第8回	研究発表③	報告者が自らの小テーマについて研究発表を行い，全体でディスカッションする。
第9回	研究発表④	報告者が自らの小テーマについて研究発表を行い，全体でディスカッションする。
第10回	研究発表⑤	報告者が自らの小テーマについて研究発表を行い，全体でディスカッションする。
第11回	研究発表⑥	報告者が自らの小テーマについて研究発表を行い，全体でディスカッションする。
第12回	研究発表⑦	報告者が自らの小テーマについて研究発表を行い，全体でディスカッションする。
第13回	研究発表⑧	報告者が自らの小テーマについて研究発表を行い，全体でディスカッションする。
第14回	春学期のまとめ	春学期の学習全体について振り返りを行い，ディスカッションを通じて，夏合宿および秋学期の研究課題を抽出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　共通文献の検討の際には，事前に指定文献を熟読してくる。発表の担当者は，入念な準備と発表用レジュメを作成する。
　個人研究発表に際しては，先行研究の収集・読解，仮説的な理論フレームの考案など，ふだんから準備を重ねておく。自分以外の参加者の発表に際しても，テーマは前週に周知されるので，関連情報を調べたり，提示された参考文献を熟読しておく。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
　特に定めない。

【参考書】
　児美川孝一郎『権利としてのキャリア教育』（明石書店）
　児美川孝一郎『若者はなぜ「就職」できなくなったのか』（日本図書センター）
　児美川孝一郎『「親活」の非ススメ』（徳間書店）
　児美川孝一郎『キャリア教育のウソ』（ちくまプリマー新書）
　児美川孝一郎『夢があふれる社会に希望はあるか』（ベスト新書）
児美川孝一郎『まず教育論から変えよう』（太郎次郎社エディタス）
　児美川孝一郎『自分のミライの見つけ方』（旬報社）
　児美川孝一郎『キャリア教育がわかる』（誠信書房）
　児美川孝一郎『新自由主義教育の40年』（青土社）
　児美川孝一郎『「教育改革」は何を改革してきたのか』（誠信書房）
　その他，授業時に，随時紹介していく。

【成績評価の方法と基準】
　成績評価は，平常点で行う。

【学生の意見等からの気づき】
参加者からのフィードバックを大切にして授業運営をすすめる。

【その他の重要事項】
　少人数形式の演習授業であり，学生参加型の主体的学習を重視している。かつ，受講生には，調査，研究，レジュメ作成，プレゼンテーション，論文執筆のサイクルを経験してもらうため，本授業は，結果として，学生の就業力向上に資するところが少なくない。

【Outline (in English)】
Course outline：
Students will participate in presentations and discussions on the topic of "Youth Career Development and Support."
Learning Objectives：
1. Deepen academic understanding of the topic.
2.　Acquire the skills to explore, research, and analyze the topic, while also improving presentation and communication abilities.
Learning activities outside of classroom：
Standard preparation and review time for this class is two hours each.
Grading Criteria /Policy：
Grading will be based on regular class marks.

EDU200MA（教育学 / Education 200）

演習（発達・教育）【3・4年生用】

児美川　孝一郎

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水6/Wed.6　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
若者のキャリア形成とその支援

【到達目標】
①　今日の若者のキャリア形成上の諸問題，および対応するキャリア支援の諸課題について，主として教育場面を探求の対象としつつ，その実践的および専門的理解を深める。
②　参加者各自が設定した小テーマについて，それを探求・調査・分析するためのスキルを獲得するとともに，研究発表を通じて，プレゼンテーションとコミュニケーションの力量向上をはかる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
　演習の具体的な運営方法については，参加者と相談しながら，随時決めていく。
　想定される学習活動は，①共通文献の輪読と検討，②ワークショップ形式等でのテーマ討論，③個人またはグループによる研究発表と討論，④ゲストスピーカーを招いてのヒアリングの実施，等である。
　授業時以外での課外活動として，夏冬にゼミ合宿を実施する。学外の研究会・研究集会等への参加，若者に対するキャリア形成支援の現場への訪問調査の実施等についても検討したい。
　春学期授業から引き続き履修することを原則とする。年度末には，「ゼミ紀要（学生による研究論文集）」を発行する。
　学生の発表や提出された課題等へのフィードバックは。授業時および次回の授業の最初に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	共同研究のテーマ設定	春学期における個人研究発表の内容も踏まえ，秋学期の共同研究のテーマ設定のためのディスカッションを行う。
第2回	秋学期のゼミ運営計画の策定	共同研究を進めるためのグループ分けを行い，秋学期のゼミの運営計画を策定する。
第3回	共通文献の検討①	事前に指定した共通文献について，報告グループからの発表を受けて，全体でディスカッションする。
第4回	共通文献の検討②	事前に指定した共通文献について，報告グループからの発表を受けて，全体でディスカッションする。
第5回	共通文献の検討③	事前に指定した共通文献について，報告グループからの発表を受けて，全体でディスカッションする。
第6回	研究発表①	報告グループが担当テーマについて研究発表を行い，全体でディスカッションする。
第7回	研究発表②	報告グループが担当テーマについて研究発表を行い，全体でディスカッションする。
第8回	研究発表③	報告グループが担当テーマについて研究発表を行い，全体でディスカッションする。
第9回	研究発表④	報告グループが担当テーマについて研究発表を行い，全体でディスカッションする。
第10回	研究発表⑤	報告グループが担当テーマについて研究発表を行い，全体でディスカッションする。
第11回	研究発表⑥	報告グループが担当テーマについて研究発表を行い，全体でディスカッションする。
第12回	研究発表⑦	報告グループが担当テーマについて研究発表を行い，全体でディスカッションする。
第13回	研究発表⑧	報告グループが担当テーマについて研究発表を行い，全体でディスカッションする。
第14回	秋学期のまとめ	秋学期の学習全体について振り返りを行い，ディスカッションを通じて，冬合宿および秋学期の研究課題を抽出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　共通文献の検討の際には，事前に指定文献を熟読してくる。発表の担当グループは，入念な準備と発表用レジュメを作成する。
　グループ研究発表に際しては，先行研究の収集・読解，仮説的な理論フレームの考案など，ふだんから準備を重ねておく。自分の属するグループ以外のグループ発表に際しても，テーマは前週に周知されるので，関連情報を調べたり，提示された参考文献を熟読しておく。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
　特に定めない。

【参考書】
　児美川孝一郎『権利としてのキャリア教育』（明石書店）
　児美川孝一郎『若者はなぜ「就職」できなくなったのか』（日本図書センター）
　児美川孝一郎『「親活」の非ススメ』（徳間書店）
　児美川孝一郎『キャリア教育のウソ』（ちくまプリマー新書）
　児美川孝一郎『夢があふれる社会に希望はあるか』（ベスト新書）
児美川孝一郎『まず教育論から変えよう』（太郎次郎社エディタス）
　児美川孝一郎『自分のミライの見つけ方』（旬報社）
　児美川孝一郎『キャリア教育がわかる』（誠信書房）
　児美川孝一郎『新自由主義教育の40年』（青土社）
　児美川孝一郎『「教育改革」は何を改革してきたのか』（誠信書房）
　その他，授業時に，随時紹介していく。

【成績評価の方法と基準】
　成績評価は，平常点で行う。

【学生の意見等からの気づき】
参加者からのフィードバックを大切にして授業運営をすすめる。

【その他の重要事項】
　少人数形式の演習授業であり，学生参加型の主体的学習を重視している。かつ，受講生には，調査，研究，レジュメ作成，プレゼンテーション，論文執筆のサイクルを経験してもらうため，本授業は，結果として，学生の就業力向上に資するところが少なくない。

【Outline (in English)】
Course outline：
Students will participate in presentations and discussions on the topic of "Youth Career Development and Support."
Learning Objectives：
1. Deepen academic understanding of the topic.
2.　Acquire the skills to explore, research, and analyze the topic, while also improving presentation and communication abilities.
Learning activities outside of classroom：

Standard preparation and review time for this class is two hours each.
Grading Criteria /Policy：
Grading will be based on regular class marks.

EDU200MA（教育学 / Education 200）

演習（発達・教育）【2年生用】

坂本　旬

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：月5/Mon.5　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
デジタル市民とメディアリテラシー教育の実践的研究
受講生はショート・ドキュメンタリーを制作するスキルを身につけ、ESDやSDGsの理論を学び、学校や地域でのESDおよび実践的なメディアリテラシー支援能力を身につける。

【到達目標】
・多様なメディアを活用しながら、自ら進んで市民メディア教育活動に参加する。
・メディアリテラシーを用いた探究学習を行う。
・異文化交流・協働を実行するための基礎能力を身につける。
・ESDやSDGsの実践知を身につけ、学校支援を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
・課題等の提出・フィードバックは授業支援システムを通じて行う。
・授業の初めに、前回の授業で提出された授業支援システムのコメントからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
・コメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。
・オフィス・アワーで、課題（作品やレポート等）に対して講評する。
・最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	授業のあらましの解説と分担決定
第2回	基礎学習	市民メディア教育および異文化探究学習の基本的理論と方法の学習
第3回	ESDの基礎学習	ゼミが制作したESD動画を用いて基礎理論を学ぶ
第4回	SDGsと映像の理論(1)	SDGsの教育学の基礎理論を学ぶ
第5回	SDGsと映像の実践(2)	ビデオレターを用いた実践事例を学ぶ
第6回	SDGsと映像の実践(3)	ユネスコスクールにおける実践事例を学ぶ
第7回	SDGsと映像の実践(4)	映像制作ワークショップを行う
第8回	市民メディア教育活動の基礎(1)	市民メディア教育活動の基礎理論を学ぶ
第9回	市民メディア教育活動の基礎(2)	市民メディア教育活動の実践を学ぶ
第10回	市民メディア教育活動の基礎(3)	市民メディア教育団体との協働学習を企画する
第11回	市民メディア教育活動の基礎(4)	市民メディア団体とメディアに関する教育ティーチインを行う
第12回	地域・異文化交流の概要	地域・異文化交流に関する基礎を学ぶ
第13回	地域・異文化交流の計画	地域・異文化交流を計画する
第14回	授業の振り返り	これまでの学習活動を振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学外の学校での授業支援、地域での取材や映像制作など主要な活動のほとんどが課外活動となる。なお、夏季休業中の海外研修活動は正規の授業ではなく、課外活動の一環として行うことを理解されたい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
坂本旬『メディアリテラシーを学ぶ』(2022年)
寺崎里水・坂本旬『地域と世界をつなぐSDGsの教育学』(2021年)

【参考書】
坂本旬『メディア情報教育学』法政出版局（2014年）

【成績評価の方法と基準】
平常点50％、レポート等の提出物50％
授業評価基準（ルーブリック）
●コンピテンシー
多様なメディアを活用しながら、自ら進んで市民メディア活動に参加し、異文化対話を行い、他者の異文化対話を支援し、全地球的(グローバル)な異文化対話の発展に対して、自覚的に寄与することができる。
●受講態度（4段階）
1 8割以上ゼミに出席している。
2 ゼミでの討論に参加し、発言する。
3 グループやゼミをまとめ、意見をまとめることができる。
4 自主的に新しい企画を立て、ゼミをまとめて引っ張っていくことができる。
●映像制作態度（4段階）
1 メディアにかかわるさまざまな社会問題に関心を持つ。
2 メディアにかかわる人権や倫理の問題について、自分の意見を発表することができる。
3 メディアにかかわる社会問題をテーマとした映像制作や論文執筆ができる。
4 メディアにかかわる社会問題について、主体的に社会に対して発信することができる。
●映像制作技術（4段階）
1 ビデオカメラや三脚等の撮影に使用する機材を正しく使うことができる。
2 ビデオカメラを使って、カメラワー クを意識した撮影ができる。
3 作品の企画・構成を作り、パソコンを用いて５分程度の映像編集ができる。
4 ドキュメンタリー映像制作のための企画・構成・取材・撮影・編集等のスキルを身につける。
●ファシリテーション（4段階）
1 小中高校の授業支援に参加する。
2 小中高校生や他の学生の映像制作を適切に支援することができる。
3 他国の学生への映像制作を適切に支援することができる。
4 ゼミ内外での映像制作の他者支援を自分で企画して、実施することができる。
●異文化対話（4段階）
1 異文化対話が必要な理由を自覚し、他者に説明できる。
2 異文化に対するステレオタイプなものの見方や偏見を理解し、それを乗り越えようとする。
3 国内外での異文化を持った他者とさまざまなメディアを活用して積極的にコミュニケーションをする。
4 異文化を越えた協働(コラボレーション)を主体的に企画し、実践することができる。

【学生の意見等からの気づき】
教科書を用いて基礎理論を学ぶことは地域でのフィールドワークに大いに役立つ。

【学生が準備すべき機器他】
授業は資格課程実習室（精密）とCALS（キャリア・アクティブ・ラーニング・スタジオ）を併用する。映像編集可能なWindowsまたはMacノートブックPCを用意すること。
編集ソフトとして無料版ダビンチ・リゾルブ(DavinciResolve)をインストールしておくこと。https://www.blackmagicdesign.com/jp/products/davinciresolve/
カメラとして使用できるスマートフォンやデジタルカメラを用意すること。

本授業では動画の提出に法政大学のBOXを使用する。使用方法は以下のリンクを参照すること。
https://netsys.hosei.ac.jp/protected/manual/distance/manual-box.html

【その他の重要事項】
演習参加にあたって、次の授業を履修することが望ましい。
「メディアリテラシー実習Ⅰ・Ⅱ」、「メディアリテラシーⅠ・Ⅱ」

【Outline (in English)】
Students will learn the concepts of digital citizenship and media literacy education in a practical way. Students will learn basic theories of media literacy and cross-cultural exchange and Education for Sustinable Development (ESD) and the SDGs, and plan fieldwork in schools and communities.Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Learning outcomes will be evaluated by video works and reflection reports.
Grading Criteria /Polic:50% for regular marks, 50% for reports and other submissions

EDU200MA（教育学 / Education 200）

演習（発達・教育）【3・4年生用】

坂本　旬

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：月5/Mon.5　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
デジタル市民とメディアリテラシー教育の実践的研究
受講生はショート・ドキュメンタリーを制作するスキルを身につけ、ESDやSDGsの理論を学び、学校や地域でのESDおよび実践的なメディアリテラシー教育支援能力を身につける。

【到達目標】
・多様なメディアを活用しながら、自ら進んで市民メディア教育活動に参加する。
・メディアリテラシーを用いた探究学習を行う。
・異文化交流・協働を実行するための基礎能力を身につける。
・ESDやSDGsの実践知を身につけ、学校支援を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
・課題等の提出・フィードバックは授業支援システムを通じて行う。
・授業の初めに、前回の授業で提出された授業支援システムのコメントからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
・コメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。
・オフィス・アワーで、課題（作品やレポート等）に対して講評する。
・最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。
・必要に応じて校外研修を実施する。（夏季休業中にバンコク研修を実施）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	授業のあらましの解説と分担決定
第2回	基礎学習	市民メディア教育および異文化探究学習の基本的理論と方法の学習
第3回	ESDの基礎学習	ゼミが制作したESD動画を用いて基礎理論を学ぶ
第4回	SDGsと映像の理論(1)	SDGsの教育学の基礎理論を学ぶ
第5回	SDGsと映像の実践(2)	ビデオレターを用いた実践事例を学ぶ
第6回	SDGsと映像の実践(3)	ユネスコスクールにおける実践事例を学ぶ
第7回	SDGsと映像の実践(4)	映像制作ワークショップを行う
第8回	市民メディア活動の基礎(1)	市民メディア教育活動の基礎理論を学ぶ
第9回	市民メディア活動の基礎(2)	市民メディア教育活動の実践を学ぶ
第10回	市民メディア活動の基礎(3)	市民メディア教育団体との協働学習を企画する
第11回	市民メディア活動の基礎(4)	市民メディア教育団体とメディアに関するティーチインを行う
第12回	地域・異文化交流の概要	地域・異文化交流に関する基礎を学ぶ
第13回	地域・異文化交流の計画	地域・異文化交流を計画する
第14回	授業の振り返り	これまでの学習活動を振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学外の学校での授業支援、地域での取材や映像制作など主要な活動のほとんどが課外活動となる。なお、夏季休業中の海外研修活動は正規の授業ではなく、課外活動の一環として行うことを理解されたい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
坂本旬『メディアリテラシーを学ぶ』(2022年)
寺崎里水・坂本旬『地域と世界をつなぐSDGsの教育学』(2021年)

【参考書】
坂本旬『メディア情報教育学』法政出版局（2014年）

【成績評価の方法と基準】
平常点50％、レポート等の提出物50％
授業評価基準（ルーブリック）
●コンピテンシー
多様なメディアを活用しながら、自ら進んで市民メディア活動に参加し、異文化対話を行い、他者の異文化対話を支援し、全地球的(グローバル)な異文化対話の発展に対して、自覚的に寄与することができる。
●受講態度（4段階）
1 8割以上ゼミに出席している。
2 ゼミでの討論に参加し、発言する。
3 グループやゼミをまとめ、意見をまとめることができる。
4 自主的に新しい企画を立て、ゼミをまとめて引っ張っていくことができる。
●映像制作態度（4段階）
1 メディアにかかわるさまざまな社会問題に関心を持つ。
2 メディアにかかわる人権や倫理の問題について、自分の意見を発表することができる。
3 メディアにかかわる社会問題をテーマとした映像制作や論文執筆ができる。
4 メディアにかかわる社会問題について、主体的に社会に対して発信することができる。
●映像制作技術（4段階）
1 ビデオカメラや三脚等の撮影に使用する機材を正しく使うことができる。
2 ビデオカメラを使って、カメラワー クを意識した撮影ができる。
3 作品の企画・構成を作り、パソコンを用いて５分程度の映像編集ができる。
4 ドキュメンタリー映像制作のための企画・構成・取材・撮影・編集等のスキルを身につける。
●ファシリテーション（4段階）
1 小中高校の授業支援に参加する。
2 小中高校生や他の学生の映像制作を適切に支援することができる。
3 他国の学生への映像制作を適切に支援することができる。
4 ゼミ内外での映像制作の他者支援を自分で企画して、実施することができる。
●異文化対話（4段階）
1 異文化対話が必要な理由を自覚し、他者に説明できる。
2 異文化に対するステレオタイプなものの見方や偏見を理解し、それを乗り越えようとする。
3 国内外での異文化を持った他者とさまざまなメディアを活用して積極的にコミュニケーションをする。
4 異文化を越えた協働(コラボレーション)を主体的に企画し、実践することができる。

【学生の意見等からの気づき】
教科書を用いて基礎理論を学ぶことは地域でのフィールドワークに大いに役立つ。

【学生が準備すべき機器他】
授業は資格課程実習室（精密）とCALS（キャリア・アクティブ・ラーニング・スタジオ）を併用する。映像編集可能なWindowsまたはMacノートブックPCを用意すること。
編集ソフトとして無料版ダビンチ・リゾルブ(DavinciResolve)をインストールしておくこと。https://www.blackmagicdesign.com/jp/products/davinciresolve/
カメラとして使用できるスマートフォンやデジタルカメラを用意すること。

本授業では動画の提出に法政大学のBOXを使用する。使用方法は以下のリンクを参照すること。
https://netsys.hosei.ac.jp/protected/manual/distance/manual-box.html

【その他の重要事項】
演習参加にあたって、次の授業を履修することが望ましい。
「メディアリテラシー実習Ⅰ・Ⅱ」、「キャリアデザイン学総合演習」（秋期)、「卒業論文」（4年）「メディア教育論Ⅰ・Ⅱ」、「図書館演習」（坂本担当）なお、メディアリテラシー実習は体験型授業として事前に申し込みが必要。要注意。

【Outline (in English)】
Students will learn the concepts of digital citizenship and media literacy education in a practical way. Students will learn basic theories of media literacy and cross-cultural exchange and Education for Sustinable Development (ESD) and the SDGs, and plan fieldwork in schools and communities.Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Learning outcomes will be evaluated by video works and reflection reports.
Grading Criteria /Polic:50% for regular marks, 50% for reports and other submissions

EDU200MA（教育学 / Education 200）

演習（発達・教育）【3・4年生用】

坂本　旬

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：月6/Mon.6　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
デジタル市民とメディアリテラシー教育の実践的研究
受講生はショート・ドキュメンタリーを制作するスキルを身につけ、ESDやSDGsの理論を学び、学校や地域でのESDおよび実践的なメディアリテラシー支援能力を身につける。

【到達目標】
・多様なメディアを活用しながら、自ら進んで市民メディア教育活動に参加する。
・メディアリテラシーを用いた探究学習を行う。
・異文化交流・協働を実行するための基礎能力を身につける。
・ESDやSDGsの実践知を身につけ、学校支援を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
・課題等の提出・フィードバックは授業支援システムを通じて行う。
・授業の初めに、前回の授業で提出された授業支援システムのコメントからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
・コメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。
・オフィス・アワーで、課題（作品やレポート等）に対して講評する。
・最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。
・原則として、2年生と3年生は合同で授業を行うが、2年生のみ6限目に入門用授業を実施する。
・必要に応じて校外研修を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	授業のあらましの解説と分担決定
第2回	基礎学習	市民メディア教育および異文化探究学習の基本的理論と方法の学習
第3回	ESDの基礎学習	ゼミが制作したESD動画を用いて基礎理論を学ぶ
第4回	SDGsと映像の理論(1)	SDGsの教育学の基礎理論を学ぶ
第5回	SDGsと映像の実践(2)	ビデオレターを用いた実践事例を学ぶ
第6回	SDGsと映像の実践(3)	ユネスコスクールにおける実践事例を学ぶ
第7回	SDGsと映像の実践(4)	映像制作ワークショップを行う
第8回	市民メディア教育活動の基礎(1)	市民メディア教育活動の基礎理論を学ぶ
第9回	市民メディア教育活動の基礎(2)	市民メディア教育活動の実践を学ぶ
第10回	市民メディア教育活動の基礎(3)	市民メディア教育団体との協働学習を企画する
第11回	市民メディア教育活動の基礎(4)	市民メディア団体とメディアに関する教育ティーチインを行う
第12回	地域・異文化交流の概要	地域・異文化交流に関する基礎を学ぶ
第13回	地域・異文化交流の計画	地域・異文化交流を計画する
第14回	授業の振り返り	これまでの学習活動を振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学外の学校での授業支援、地域での取材や映像制作など主要な活動のほとんどが課外活動となる。なお、夏季休業中の海外研修活動は正規の授業ではなく、課外活動の一環として行うことを理解されたい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
坂本旬『メディアリテラシーを学ぶ』(2022年)
寺崎里水・坂本旬『地域と世界をつなぐSDGsの教育学』(2021年)

【参考書】
坂本旬『メディア情報教育学』法政出版局（2014年）

【成績評価の方法と基準】
平常点50％、レポート等の提出物50％
授業評価基準（ルーブリック）
●コンピテンシー
多様なメディアを活用しながら、自ら進んで市民メディア活動に参加し、異文化対話を行い、他者の異文化対話を支援し、全地球的(グローバル)な異文化対話の発展に対して、自覚的に寄与することができる。
●受講態度（4段階）
1 8割以上ゼミに出席している。
2 ゼミでの討論に参加し、発言する。
3 グループやゼミをまとめ、意見をまとめることができる。
4 自主的に新しい企画を立て、ゼミをまとめて引っ張っていくことができる。
●映像制作態度（4段階）
1 メディアにかかわるさまざまな社会問題に関心を持つ。
2 メディアにかかわる人権や倫理の問題について、自分の意見を発表することができる。
3 メディアにかかわる社会問題をテーマとした映像制作や論文執筆ができる。
4 メディアにかかわる社会問題について、主体的に社会に対して発信することができる。
●映像制作技術（4段階）
1 ビデオカメラや三脚等の撮影に使用する機材を正しく使うことができる。
2 ビデオカメラを使って、カメラワー クを意識した撮影ができる。
3 作品の企画・構成を作り、パソコンを用いて５分程度の映像編集ができる。
4 ドキュメンタリー映像制作のための企画・構成・取材・撮影・編集等のスキルを身につける。
●ファシリテーション（4段階）
1 小中高校の授業支援に参加する。
2 小中高校生や他の学生の映像制作を適切に支援することができる。
3 他国の学生への映像制作を適切に支援することができる。
4 ゼミ内外での映像制作の他者支援を自分で企画して、実施することができる。
●異文化対話（4段階）
1 異文化対話が必要な理由を自覚し、他者に説明できる。
2 異文化に対するステレオタイプなものの見方や偏見を理解し、それを乗り越えようとする。
3 国内外での異文化を持った他者とさまざまなメディアを活用して積極的にコミュニケーションをする。
4 異文化を越えた協働(コラボレーション)を主体的に企画し、実践することができる。

【学生の意見等からの気づき】
教科書を用いて基礎理論を学ぶことは地域でのフィールドワークに大いに役立つ。

【学生が準備すべき機器他】
授業は資格課程実習室（精密）とCALS（キャリア・アクティブ・ラーニング・スタジオ）を併用する。映像編集可能なWindowsまたはMacノートブックPCを用意すること。
編集ソフトとして無料版ダビンチ・リゾルブ(DavinciResolve)をインストールしておくこと。https://www.blackmagicdesign.com/jp/products/davinciresolve/

カメラとして使用できるスマートフォンやデジタルカメラを用意すること。
本授業では動画の提出に法政大学のBOXを使用する。使用方法は以下のリンクを参照すること。
https://netsys.hosei.ac.jp/protected/manual/distance/manual-box.html

【その他の重要事項】
演習参加にあたって、次の授業を履修することが望ましい。
「メディアリテラシー実習Ⅰ・Ⅱ」、「キャリアデザイン学総合演習」（秋期）、「卒業論文」（4年）「メディア教育論Ⅰ・Ⅱ」、「図書館演習」（坂本担当）

【Outline (in English)】
Students will learn the concepts of digital citizenship and media literacy education in a practical way. Students will learn basic theories of media literacy and cross-cultural exchange and Education for Sustinable Development (ESD) and the SDGs, and plan fieldwork in schools and communities.Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Learning outcomes will be evaluated by video works and reflection reports.
Grading Criteria /Polic:50% for regular marks, 50% for reports and other submissions

EDU200MA（教育学 / Education 200）

演習（発達・教育）【2年生用】

田澤　実

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木5/Thu.5　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キャリアデザインに関連した先行研究の基本的な原理を学ぶ。また、口頭発表および自己調整的な学習習慣のスキルの獲得も目指す。

【到達目標】
・自ら研究を深めたいと思うようなテーマを探るために、関心事に関連した社会現象や政策・施策等について基本的な知識を得るための方法を知っている。
・上記で得た知識を総合的に説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
フィードバックは随時行う。
【集団で話し合うためのスキル】
・実演を通してワークショップの進め方を理解する。
【自らの研究テーマ】
自分が関心のある新聞記事および論文等を発表する。「いかにして関心のあるテーマの最新ニュースを集めるのか」という方法についても学ぶ。ゼミ生はそれぞれ自分の関心事に近いテーマの資料で発表し、それについてゼミ生間でディスカッションする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	この授業の流れを説明する。
第2回	集団で話し合うためのスキル（1）	ワークショップの進め方について理解する。
第3回	集団で話し合うためのスキル（2）	ワークショップを実演する。
第4回	写真を用いた自己紹介（1）	自分らしいと思われる過去・現在・未来の写真を撮影して、まとめる。
第5回	写真を用いた自己紹介（2）	上記を基にしてプレゼンテーションをする。
第6回	情報収集のスキル（1）	新聞記事の情報の集め方を身につける。
第7回	情報収集のスキル（2）	集めた新聞記事を発表する。自らの関心事を探る。
第8回	文献収集（1）	自らの関心事にあわせて担当文献を決める。
第9回	文献収集（2）	内容に基づいた疑問や論点を整理する。
第10回	文献発表（1）	論点を基にしてディスカッションする。（前半）
第11回	文献発表（2）	論点を基にしてディスカッションする。（後半）
第12回	文献発表と考察（1）	今までに発表した文献と文献のつながりについて考察する。（前半）
第13回	文献発表と考察（2）	今までに発表した文献と文献のつながりについて考察する。（後半）
第14回	まとめ	演習での学びを振り返り、言語化する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献講読の回数は、受講者人数によって変更する可能性がある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
田澤実 2016「図書館情報とスマートフォンを併用した文献の探し方」『法政大学キャリアデザイン学部紀要』13, p227-251.

【成績評価の方法と基準】
平常点50％、課題50％にて評価。

【学生の意見等からの気づき】
集団で話し合うためのスキルを学んだあとに、自らの研究テーマを探る流れは好評であった。今年度も継続することにする。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室で授業を行う。

【その他】
ホームページの参考のこと
【田澤実研究室】
http://www.i.hosei.ac.jp/ mtazawa/lab/

【Outline (in English)】
(Course Outline)
This course is designed to introduce the fundamentals of academic research to students enrolled in the program.
(Learning Objectives)
Upon successful completion of the course, students will acquire the skills to:
Gain a comprehensive understanding of social phenomena, policies, and measures within their specific areas of interest.
Communicate and articulate their acquired knowledge effectively.
(Learning Activities Outside of Classroom)
Students are required to complete tasks assigned after each class session. A minimum commitment of four hours of study time per class is expected.
(Grading Criteria/Policy)
Student assessment will be based on report submissions (50%) and in-class performance (50%).

EDU200MA（教育学 / Education 200）

演習（発達・教育）【3・4年生用】

田澤　実

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：木5/Thu.5　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生涯発達心理学や教育心理学の観点から探究する。アカデミックライティング，心理学に基づいた引用表記および研究方法の基礎について学ぶ。

【到達目標】
・アメリカ心理学会（American Psychological Association）引用スタイル、アカデミックライティング、学術研究の基礎を身につける。
・キーワード検索を用いて、先行研究を探すことができる。
・Excelを使って数値データから視覚的に理解しやすい図表を作成できる。
・それらの図表から読み取れることを解釈し、他者に説明できる。
・問題と目的、方法、結果、考察という一連の論文の書き方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
フィードバックは随時行う。
演習および授業内での発表。
■３年次
・数グループに分かれて、調査を行う対象者を決定。
・その対象者には現在、どのような問題が起こっているのか先行研究を探す。
・グループごとに、その対象者にアンケートやインタビューを行い、分析。
・グループごとに最終レポートを作成。
■４年次
・各自テーマを深めて卒論に取り組む。
・自分でデータを収集することが必須である。必要に応じて統計分析の仕方も教える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	キックオフミーティング	到達目標を共有する。
第2回	卒論関心発表（１）	卒論の関心に関連するキーワードを探る。
第3回	卒論関心発表（２）	キーワード検索を用いて、先行研究を探した結果を報告する。
第4回	共同調査（１）	共同研究で扱うテーマについて議論する。
第5回	共同調査（２）	共同研究のテーマのキーワードを探る。
第6回	共同調査（３）	キーワード検索を用いて、先行研究を探して、まとめる。
第7回	共同調査（４）	共同研究で扱うデータを収集する。
第8回	共同調査（５）	収集したデータを分析する。
第9回	共同調査（６）	データを解釈して、どのような図表にまとめて表現するか考える。
第10回	共同調査（７）	グループ内で結果の解釈について議論する。
第11回	共同調査（８）	結果について本文で記述する。
第12回	共同調査（９）	得られた結果と先行研究の対比をする。考察を深める。
第13回	共同調査（10）	問題と目的、方法、結果、考察という一連の流れで書く。
第14回	卒論中間発表	予備調査の計画を含めて卒論の中間発表をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
年に数度の課題がある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
文献の探し方@法政大学
http://www.i.hosei.ac.jp/ mtazawa/ref/

【成績評価の方法と基準】
平常点50％、課題50％にて評価。

【学生の意見等からの気づき】
昨年度の評価をもとにして、４月の最初の授業で改めて意見を聞く。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室を利用する。

【Outline (in English)】
(Course Outline)
This course offers an in-depth understanding of the fundamental principles of academic research, tailored for students enrolled in the program.
(Learning Objectives)
By the conclusion of this course, students will be equipped to:
Acquire knowledge of the basics of the American Psychological Association (APA) citation style, academic writing, and research methodologies.
Execute keyword searches for sourcing previous research studies.
Develop visually appealing charts and graphs from numerical data using Excel.
Interpret data presented in figures and tables and effectively communicate their findings.
Understand the structure involved in writing a series of academic papers, encompassing aspects such as the problem statement, purpose, methodology, results, and discussion.
(Learning Activities Outside of Classroom)
Students are required to complete assignments after each class session. They should anticipate dedicating over four hours per class session to coursework.
(Grading Criteria/Policy)
Assessment will be based on report submissions (50%) and class participation (50%).

EDU200MA（教育学 / Education 200）

演習（発達・教育）【3・4年生用】

田澤　実

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木6/Thu.6　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ゼミ論および卒業論文を完成させる。

【到達目標】
授業終了時に以下の能力を身につけていることを目標とする。
・重要な理論と方法論を説明できる
・重要な研究成果について，その研究方法・結果・含意の重要性を判断できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
フィードバックは随時行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	秋学期のスケジュール、課題、発表順などを確認する。
第2回	3年生関心発表（1）	個人の関心事を発表する。
第3回	3年生関心発表（2）	先行研究を探すためのキーワードを探る。
第4回	文献の探し方	キーワードから先行研究を探す技法を紹介する。
第5回	4年生中間発表（1）	卒業論文の中間発表を行う。
第6回	4年生中間発表（2）	予備調査の結果について考察を加える。
第7回	4年生中間発表（3）	本調査を視野に入れて全体の構成を検討する。
第8回	3年生中間発表（1）	なぜそのテーマを扱う意義があるのか。イントロダクションに該当する文言を考える。
第9回	3年生中間発表（2）	そのテーマはどこまでのことが明らかになっているのか概観する。
第10回	3年生中間発表（3）	先行研究の問題点およびまだ明らかになっていない点を探る。
第11回	3年生中間発表（4）	上記の問題点に対して代案を示す。文献レビューのオリジナリティーを探る。
第12回	3年生中間発表（5）	上記までの流れを精緻化する。およその章立てを確定する。
第13回	図表のまとめ方	視覚的に理解しやすい図表の作成方法を紹介する。
第14回	4年生卒論発表	卒論の要旨を報告する。質疑応答を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献を事前に読み込む作業や調査の実施。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
田澤実 2016「図書館情報とスマートフォンを併用した文献の探し方」『法政大学キャリアデザイン学部紀要』13, p227-251.

【成績評価の方法と基準】
課題（5割）、平常点（5割）にて評価。

【学生の意見等からの気づき】
計画上は現状維持とした。ゼミの進行については必要に応じて話し合いの時間を設ける。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室を利用する。

【Outline (in English)】
(Course Outline)
In this course, students will develop the proficiency required for writing academic reports, as demonstrated through the senior thesis project.
(Learning Objectives)
By the conclusion of this course, students will be able to:
Clearly explain and describe the primary methods and theories relevant to their field of study.
Critically assess various studies, focusing on their methodologies, results, conclusions, and overall impact.
(Learning Activities Outside of Classroom)
Students are obligated to submit assignments following each class session. They are also expected to allocate over four hours for study and coursework preparation per class.
(Grading Criteria/Policy)
Evaluation of students' performance will be based on a combination of report submissions (50%) and active class participation (50%).

EDU200MA（教育学 / Education 200）

演習（発達・教育）【2年生用】

筒井　美紀

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水5/Wed.5　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
卒業論文完成をゴールに、＜学術論文７つの構成要素＞という基本中の基本である作法をマスターしたうえで、現時点での卒論構想（プロポーザル）を書いてみる。

【到達目標】
世の中にはさまざまなタイプ・レベルの論文がある。その良しあしを見抜く眼力を磨くこと。論文の名に値する論文には、この７つが入っている――それが＜学術論文７つの構成要素＞だ。そのうえで、自分でも卒論構想を書いてみて、自分は何にパッションがあるのか、本当に研究したいことは何か、これからどんな本を読み、何を対象にしたらよいのか――などなど悩みぬくこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
ゼミ生の問題関心（入ゼミ時の志望理由書に書かれたこと）に基づき、授業担当者が書籍や論文をピックアップし、毎回みんなで読んで検討する。報告者は毎回１〜２名だが、全員が課題として要約とコメントを書いてくること。議論はゼミ生に「お任せ」、筒井は最後に２０分程度解説する。授業終了時までに、全員にオンラインで課題のフィードバックをする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ゼミの進め方、ミニ・レクチャー＜学術論文７つの構成要素＞
第2回	聴き取り・観察調査の論文を検討する①	要約方法の解説を中心とする
第3回	聴き取り・観察調査の論文を検討する②	社会学的諸概念を理解する
第4回	聴き取り・観察調査の論文を検討する③	調査方法と知見の関係を理解する
第5回	既存統計データの加工と分析	政府統計の活用法を習得する
第6回	伊藤和子（2025）その①	「はじめに」の検討
第7回	伊藤和子（2025）その②	第1章の検討
第8回	伊藤和子（2025）その③	第2章の検討
第9回	伊藤和子（2025）その④	第3章の検討
第10回	伊藤和子（2025）その⑤	第4章の検討
第11回	伊藤和子（2025）その⑥	第5章の検討
第12回	伊藤和子（2025）その⑦	「おわりに」の検討
第13回	卒論構想発表①	複数報告（班に分かれて）
第14回	卒論構想発表②	複数人報告（3,4年生も参加）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回議論する文献について、要約とコメントを書いてくること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
伊藤和子（2025）『ビジネスと人権』岩波書店。

【参考書】
入ゼミ生の関心に合わせて適時指示。

【成績評価の方法と基準】
毎回提出の課題：５０％　ゼミでの報告と議論：５０％

【学生の意見等からの気づき】
オンラインでのフィードバック好評なので続けます。

【学生が準備すべき機器他】
パソコンやタブレットを持参してください。

【その他の重要事項】
５・６限全体が「筒井ゼミ」なので、２年生は両方出席のこと

【Outline (in English)】
Course Outline
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text and write some comments and then in the class students are to share and discuss them.
Learning Objectives
In order to write a sociological graduation thesis, the students are to master the < the seven components of academic paper> , the basic skill, and theh to wtite a provisional proposal for it.
Learning activities outside of classroom
Study time will be averagelly two hours for a class.
Grading Criteria /Policy
Grading will be based on the quality of the presentation (50%) and discussion (50%).

EDU200MA（教育学 / Education 200）

演習（発達・教育）【3・4年生用】

筒井　美紀

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：水5/Wed.5　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テーマ：「教育・生活・労働・自治体・ＮＰＯ・政策・支援」
なぜ、何らかの社会問題が生じると、人びとは何かと教育に期待する／解決を求めるのだろうか？ 教育はそんなに万能だろうか？「働くことはいいことだ」「働くことで人間は成長する」、その根拠は？「地方分権の方が住民の目が届くから、より良い政策が展開できる」、本当だろうか？ ——などなど、ついつい私たちが自明視していることへ疑いの目を向けること。では本当はどうなのか？ をとことん調査し文献を紐解き、集めた資料・データに基づいて分かりやすく論理的な文章にすること。このような、研究・学術論文の作法（≒大学の学び）を身体にしみ込ませ、上記諸領域の少なくともいずれか1つに関わる、あなたが好きなテーマをやり抜くこと（それによって身につく総合力は、どこへ行っても応用が効く）が、この演習のゴールである。

【到達目標】
筒井ゼミでは２年間かけて卒業論文を完成してゆく。３年生春学期では、その土台部分を固める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
前年度秋学期・春休みの進捗を踏まえて、卒論研究の進捗を報告する。先行研究の検討や質問紙項目案、インタビュー項目案など、適宜進捗報告をする。学生同士の議論ののち、最後に教員からフィードバックを行なう。発表レジュメに対するコメントを学習支援システム上にて返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	春休みの進捗報告①	順番に、読んだ文献やデータ分析について紹介する 引用方法に留意する
第2回	春休みの進捗報告②	順番に、読んだ文献やデータ分析について紹介する 概念に留意する
第3回	春休みの進捗報告③	順番に、読んだ文献やデータ分析について紹介する データに留意する
第4回	春休みの進捗報告④	順番に、読んだ文献やデータ分析について紹介する 理論に留意する
第5回	卒論構想発表①	＜学術論文７つの構成要素＞の（１）〜（５）に沿ったレジュメにて報告し議論する 解明課題の宣言に留意
第6回	卒論構想発表②	＜学術論文７つの構成要素＞の（１）〜（５）に沿ったレジュメにて報告し議論する 解明の重要性に留意
第7回	卒論構想発表③	＜学術論文７つの構成要素＞の（１）〜（５）に沿ったレジュメにて報告し議論する 独創性の提示に留意
第8回	卒論構想発表④	＜学術論文７つの構成要素＞の（１）〜（５）に沿ったレジュメにて報告し議論する データと方法に留意
第9回	卒論進捗報告①	順番に、進んだところまでを報告し議論する 解明課題の妥当性
第10回	卒論進捗報告②	順番に、進んだところまでを報告し議論する 課題の重要性の説得力
第11回	卒論進捗報告③	順番に、進んだところまでを報告し議論する 先行研究の検討の妥当性
第12回	卒論進捗報告④	順番に、進んだところまでを報告し議論する 独創性の妥当性
第13回	卒論進捗報告⑤	順番に、進んだところまでを報告し議論する データ収集の留意点
第14回	卒論進捗報告⑥	順番に、進んだところまでを報告し議論する 依頼状の下書き

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
卒論研究に必要なすべてのことを行なう。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
各自の卒論研究に応じて、各自が決定する（“選球眼”を養う！）。

【参考書】
適宜助言

【成績評価の方法と基準】
発表（レジュメ）の出来具合50％、ディスカッション（仲間に対する知的貢献）50％

【学生の意見等からの気づき】
学習支援システムへの、発表レジュメへのコメントの掲載、続けます。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン、タブレットなど持参

【Outline (in English)】
Theme: Education, Life, Labour, Municipality, NPO, Policy and Support
Course Outline
Before each class meeting, students will be expected to have written the presentation documents and/or read those of others. And then in the class you will share and discuss them.
Learning Objectives
Why are people likely to expect education to solve the social problems when they have happened? Is education so almighty? "Working makes a person develop." On what ground do you think so? "Decentralization can implement better policies because the distance to the residents is shorter." Is it true? —- In this class we are to deconstruct what we usually take it for granted, to do the research, analyze data and write a logical and relevant paper. Devote yourself to this both hard and joyful work!
Learning activities outside of classroom
Study time will be averagely two hours for a class.
Grading Criteria /Policy
Grading will be based on the quality of the presentation (50%) and discussion (50%).

EDU200MA（教育学 / Education 200）

演習（発達・教育）【3・4年生用】

筒井　美紀

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水6/Wed.6　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テーマ：「教育・生活・労働・自治体・ＮＰＯ・政策・支援」
なぜ、何らかの社会問題が生じると、人びとは何かと教育に期待する／解決を求めるのだろうか？ 教育はそんなに万能だろうか？「働くことはいいことだ」「働くことで人間は成長する」、その根拠は？「地方分権の方が住民の目が届くから、より良い政策が展開できる」、本当だろうか？ ――などなど、ついつい私たちが自明視していることへ疑いの目を向けること。では本当はどうなのか？ をとことん調査し文献を紐解き、集めた資料・データに基づいて分かりやすく論理的な文章にすること。このような、研究・学術論文の作法（≒大学の学び）を身体にしみ込ませ、上記５領域の少なくともいずれか1つに関わる、あなたが好きなテーマをやり抜くこと（それによって身につく総合力は、どこへ行っても応用が効く）が、この演習のゴールである。

【到達目標】
筒井ゼミでは２年間かけて卒業論文を完成してゆく。３年生秋学期では、各自がより一層具体的に研究を進めてゆく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
夏休みの進捗を踏まえて、引き続きどんどん進める。先行研究の検討やインタビュー調査結果など、適宜進捗報告をする。学生同士で議論したあと、教員が最後にフィードバックする。発表レジュメへのコメントを学習支援システムにて返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	夏休みの進捗報告①	順番に、行なった作業や調査について報告し議論する 収集したデータの妥当性
第2回	夏休みの進捗報告②	順番に、行なった作業や調査について報告し議論する データ分析・解釈の妥当性
第3回	夏休みの進捗報告③	順番に、行なった作業や調査について報告し議論する 先行研究検討とデータとのレリバンス
第4回	夏休みの進捗報告④	順番に、行なった作業や調査について報告し議論する 独創性とデータとのレリバンス
第5回	卒論進捗報告①	前回報告時以降の進捗について報告し議論する 諸知見を整理する
第6回	卒論進捗報告②	前回報告時以降の進捗について報告し議論する 諸知見の整理から解明課題を修正する
第7回	卒論進捗報告③	前回報告時以降の進捗について報告し議論する 修正した解明課題から独創性を洗練する
第8回	卒論進捗報告④	前回報告時以降の進捗について報告し議論する 洗練した独創性から先行研究検討を修正する
第9回	卒論進捗報告⑤	前回報告時以降の進捗について報告し議論する 追加先行研究の探し方
第10回	卒論進捗報告⑥	前回報告時以降の進捗について報告し議論する 追加した先行研究の検討を検討
第11回	卒論進捗報告⑦	前回報告時以降の進捗について報告し議論する 章立て案を検討する
第12回	卒論進捗報告⑧	前回報告時以降の進捗について報告し議論する 序章の概要の検討
第13回	卒論進捗報告⑨	前回報告時以降の進捗について報告し議論する 終章の概要の検討
第14回	卒論進捗報告⑩	前回報告時以降の進捗について報告し議論する 分析の諸章の検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
卒論研究に必要なすべてのことを行なう。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
各自の卒論研究に応じて、各自が決定する（“選球眼”を養う！）。

【参考書】
適宜助言

【成績評価の方法と基準】
発表（レジュメ）の出来具合50％、ディスカッション（仲間に対する知的貢献）50％

【学生の意見等からの気づき】
報告に対する学習支援システムでのフィードバックが好評なので続けます。

【学生が準備すべき機器他】
パソコンやタブレットを持参

【Outline (in English)】
Theme: Education, Life, Labour, Municipality, NPO, Policy and Support
Course Outline
Before each class meeting, students will be expected to have written the presentation documents and/or read those of others. And then in the class you will share and discuss them.
Learning Objectives
Why are people likely to expect education to solve the social problems when they have happened? Is education so almighty? "Working makes a person develop." On what ground do you think so? "Decentralization can implement better policies because the distance to the residents is shorter." Is it true? —- In this class we are to deconstruct what we usually take it for granted, to do the research, analyze data and write a logical and relevant paper. Devote yourself to this both hard and joyful work!
Learning activities outside of classroom
Study time will be averagely two hours for a class.
Grading Criteria /Policy
Grading will be based on the quality of the presentation (50%) and discussion (50%).

EDU200MA（教育学 / Education 200）

演習（発達・教育）【2年生用】

寺崎　里水

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水5/Wed.5　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
興味関心のあるテーマを見つけるために、社会認識をつくるための力を身につけます。スキルとしては、文献の探し方、データの読み方、情報のまとめ方、プレゼンの仕方といったことを身につけます。勉強ができる、成績が良い、頭がいい、いい人、地頭がよい、先生からの評価が高いなど、学校や社会でよいパフォーマンスを示す人を指すことばはたくさんあります。自分はいったいどういうふうになりたいのか、興味関心のあるテーマを探しながら、かつアカデミック・スキルを身につけながら、自分自身の社会への位置づき方を考えていきましょう。

【到達目標】
世の中の出来事が自分とどのようにつながっているのかが実感できるようになること、自分の身の回りの出来事を、ある学説や理論に則って、専門用語を使いながら説明しようと試みるようになることを目標とします。
人に説得的に自分の意見を説明できる、人の発表に対して建設的な意見を言える、質の良いディスカッションができるようにファシリテイトするといった技術についても学びます。人の能力の発揮の仕方にはいろいろなタイプがありますので、いろいろな活動を経験して、自分がどんなことが得意なのか、自分のつよみを理解してください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
論文講読、ワークショップをもとに、ディスカッション形式で行います。
あらかじめ与えられたテーマや課題について取り組む力よりも、自分自身でテーマを設定し、課題を発見して取り組む力を重視します。そのためのサポートをします。課題に対するフィードバックは授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	アイスブレーキング。 ゼミの進め方。 ゼミでのルールの確認。
第2回	プレゼンテーションの種類と方法	レジュメをつくる、パワポをつくる、ポスターをつくる、論文を書くといった方法について、それぞれの特性と作法を学ぶ。
第3回	文献を読む-学力論①	学歴をめぐる最先端の文献を読み、知識と語彙を増やす。
第4回	文献を読む-学力論②	学力や階層格差をめぐる最先端の文献を読み、知識と語彙を増やす。
第5回	ディスカッション	学力論の２本の論文を読んで増えた語彙をつかって、自らの経験や問題意識をとらえなおす。
第6回	文献を読む-ジェンダー①	ジェンダーとはなにかについて、最先端の文献を読み、知識と語彙を増やす。
第7回	文献を読む-ジェンダー②	差別とジェンダーについて扱った文献を読み、知識と語彙を増やす。
第8回	ディスカッション	ジェンダーに関する２つの文献を読んで増えた語彙をつかって、自らの経験や問題意識をとらえなおす。
第9回	文献を読む-家族①	家族と子供の教育をめぐる最先端の文献を読み、知識と語彙を増やす。
第10回	文献を読む-家族②	近代家族をめぐる最先端の文献を読み、知識と語彙を増やす。
第11回	ディスカッション	文献を読んで増えた語彙をつかって、自らの経験や問題意識をとらえなおす。
第12回	自らの問題関心を明確にする	これから考えたいことを人に説明する。
第13回	文献リストをつくる	情報を収集して、自らのテーマに基づく文献リストをつくる。その方法を学ぶ。
第14回	まとめ	情報を収集し、知識や語彙を増やしていく方法について、具体的に学ぶ。 課題レポートを作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指定された文献の講読、プレゼンの準備を必ず行うこと。自らのテーマについて考えるためにも、ニュースを見る、映画を見る、本や漫画を読む、旅行に行く、コンサートに行く、筋トレするなど、積極的な活動を行って、経験の幅をひろげること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
プレゼンテーションの出来30％、提出物50％、授業への貢献20％。

【学生の意見等からの気づき】
参加者からのフィードバックを大切にして授業運営をすすめる。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムをチェックできる機器を自分で用意すること。

【その他の重要事項】
特になし

【Outline (in English)】
Course Outline: It is a small seminar that learns about education, social strata, and gender issues.
Learning Objectives: To be able to explain your opinions persuasively to others, to give constructive opinions on others' presentations, and to facilitate good quality discussions
Learning Activities Outside of Classroom: Preparation and review should be 2 hours each.
Grading Criteria: 30% for presentation, 50% for work submitted, and 20% for contribution to the class.

EDU200MA（教育学 / Education 200）

演習（発達・教育）【3・4年生用】

寺崎　里水

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：水5/Wed.5　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
興味関心のあるテーマに基づき、質的、量的いずれかの調査を実施し、関連文献を講読し、卒業論文執筆を進めます。

【到達目標】
自らの考えを理論的、説得的にまとめる力、社会の見かたを養い、学習や行動につなげていく力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
方法論についてまとめたテキスト、論文をいくつか読みます。
その後は各人の関心に基づいて文献を収集、整理し、その成果を学習支援システムの課題提出機能を用いて提出します。授業内で提出物に基づいて議論を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	ゼミの進め方、分担決め、指定文献の配布等。
第2回	方法論を学ぶ①	問いをたてるということについて学ぶ。
第3回	方法論を学ぶ②	仮説をたて、調査計画を練る方法について学ぶ。
第4回	方法論を学ぶ③	フィールドワークについて学ぶ。
第5回	テーマの検討①	各自の現在のテーマ設定、作業の進捗状況について報告する。
第6回	文献を読む①	学校観察をもとにした文献を読み、これまでの方法論の学習を振り返る。
第7回	文献を読む②	インタビューをもとにした文献を読み、これまでの方法論の学習を振り返る。
第8回	文献を読む③	雑誌分析をもとにした文献を読み、これまでの方法論の学習を振り返る。
第9回	テーマの検討②	各自の現在のテーマ設定、作業の進捗状況について報告する。
第10回	個人研究発表①	各自のテーマに基づき文献を収集し、整理して発表する。
第11回	個人研究発表②	各自のテーマに基づき文献を収集し、整理して発表する。
第12回	個人研究発表③	各自のテーマに基づき文献を収集し、整理して発表する。
第13回	振り返り	ここまでの作業を振り返り、今後の課題を明確化し、レポート執筆への意欲を高める。
第14回	まとめ	ディスカッションを行い、最終レポート執筆作業をすすめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献収集、整理、語句調べなどを各自で行うこと。また、レジュメ作成、レポート執筆を課す。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
とくになし

【参考書】
太田裕子（2019）『はじめて「質的研究」を「書く」あなたへ』東京図書
轟亮・杉野勇・平沢和司編（2021）『入門・社会調査法（第4版）』法律文化社
桜井厚・小林多寿子編著（2005）『ライフストーリー・インタビュー』せりか書房

【成績評価の方法と基準】
授業内の発言30％、読書ノート10％、レポート60％

【学生の意見等からの気づき】
参加者からのフィードバックを大切にして授業運営をすすめる。

【Outline (in English)】
Course Outline: It is a small seminar dealing with issues of education, social class, gender. We may conduct qualitative surveys or quantitative surveys.
Learning Objectives: Students will acquire the ability to summarize their own ideas theoretically and persuasively, develop a view of society, and connect their ideas to learning and action.
Learning Activities Outside of Classroom: Preparation and review should be 2 hours each.
Grading Criteria: In-class remarks: 30%, reading notes: 10%, report: 60%.

EDU200MA（教育学 / Education 200）

演習（発達・教育）【3・4年生用】

寺崎　里水

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水6/Wed.6　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
興味関心のあるテーマに基づき、文献講読および卒業論文執筆を進めます。
また、それとは別に、社会の出来事と大学の学びとを結びつける活動として、合宿や学外のセミナー、シンポジウムなどの機会を積極的に利用します。

【到達目標】
自らの考えを理論的、説得的にまとめる力、社会の見かたを養い、学習や行動につなげていく力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
方法論についてまとめたテキスト、論文をいくつか読みます。
その後は各人の関心に基づいて文献を収集、整理し、その成果をゼミで発表します。その場で内容について議論を行います。フィードバックは授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	ゼミの進め方、分担決め、指定文献の配布等。 夏休み中の課題の回収、講評。 合宿の振り返り。
第2回	合宿報告	合宿の活動成果について報告し、レポートの執筆分担などを決める。
第3回	個人研究発表①	各自のテーマに基づき文献を収集し、整理して発表する。
第4回	個人研究発表②	各自のテーマに基づき文献を収集し、整理して発表する。
第5回	個人研究発表③	各自のテーマに基づき文献を収集し、整理して発表する。
第6回	文献を読む①教育領域	最新の学会誌から論文を１つ選び、精読する。
第7回	文献を読む②心理領域	最新の学会誌から論文を１つ選び、精読する。
第8回	文献を読む③その他の領域	最新の学会誌から論文を１つ選び、精読する。
第9回	個人研究発表④	各自の現在のテーマ設定、作業の進捗状況について報告する。
第10回	個人研究発表⑤	各自のテーマに基づき文献を収集し、整理して発表する。
第11回	個人研究発表⑥	各自のテーマに基づき文献を収集し、整理して発表する。
第12回	振り返り	ここまでの作業を振り返り、今後の課題を明確化し、レポート執筆への意欲を高める。
第13回	レポート執筆準備	最終レポート提出にむけ、ディスカッションを行い、執筆作業をすすめる。
第14回	まとめ	研究成果発表に向けて、プレゼンの練習をする。 最終レポートを提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献収集、整理、語句調べなどを各自で行うこと。また、レジュメ作成、レポート執筆を課す。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
とくになし

【参考書】
とくになし

【成績評価の方法と基準】
授業中の発言、発表、レジュメの出来30％、読書ノート10％、レポート60％

【学生の意見等からの気づき】
参加者からのフィードバックを大切にして授業運営をすすめる。

【学生が準備すべき機器他】
参加者からのフィードバックを大切にして授業運営をすすめる。

【Outline (in English)】
Course Outline: It is a seminar that discusses social issues such as education, social stratum, gender, etc.
Learning Objectives: Develop the ability to summarize one's own ideas theoretically and persuasively, develop a social perspective, and connect it to learning and action.
Learning Activities Outside of Classroom: Preparation and review should be 2 hours each.
Grading Criteria: In-class remarks, presentations, resume work 30%, reading notes 10%, report 60%.

EDU200MA（教育学 / Education 200）

演習（発達・教育）【2年生用】

仲田　康一

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木5/Thu.5　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テーマを「教育改革の社会学」とし、国・自治体・学校・民間団体などによって進められる様々な教育改革について、広い社会的視野と、事実に依拠して検証するための基礎的な考え方・見方を学ぶ演習とする。

具体的には、3年・4年次の演習に向け、先輩の研究から学ぶこと、文献を共同で分析すること、「聴き合うワーク」を行って交流を深めること、プレゼンによりアカデミックスキルを養うことなどを目的とする。

【到達目標】
身近な教育問題を、学校経営、教育行政、教育制度、教育政策などの領域で用いられる概念や視角と関わりあわせながら理解し、説明できるようになること。
自らの問題関心を明確にし、言語化できるようにすること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
共通の文献を読むこと、聴き合うワークをすることなどを、ゼミでの共通活動を行う。
同時に、自らの関心トピックについて個人で深め、調査し、その結果をゼミで報告する。
フィードバックは、各授業時間の中で行うことを基本とするが、授業以外の時間における個別の相談にも柔軟に応じることとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	方針説明(教員/Headzから)、自己紹介、必要な役割分担に関する意見出しを行う
第2回	運営計画の策定	手挙げの募集や活動の日程調整
第3回	インタビューの練習	聴き合うワークを行う
第4回	共通文献の検討①	近年の教育課程改革の動向について
第5回	共通文献の検討②	近年のこども政策の動向について
第6回	10月マンスリー報告	先輩の報告に参加し、研究進展に向けたアイデアを出す
第7回	共通文献の検討③	近年の学校経営改革の動向について
第8回	共通文献の検討④	近年の教育DXの動向について
第9回	11月マンスリー報告	先輩の報告に参加し、意見交換する
第10回	事例の収集	自らの関心トピックにおける先進的な事例を選定する
第11回	事例の分析	前週で選定した事例の取組をまとめ、自らの調査報告を仕上げる
第12回	12月マンスリー報告①	自らのトピック調べの成果を報告するとともに、先輩の報告に対してコメントする
第13回	12月マンスリー報告②	卒論の口述試験に参加する
第14回	全体総括	授業全体の振り返りを行い、春休みの課題を共有する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。
関心トピック調べの内容や計画については教員との面談を経たうえで10月上旬の段階で確定させ、個別に取り組む。授業時間の一部を使って短く進捗共有するためのセッションを複数回設け、第12週の報告に臨む。

【テキスト（教科書）】
テキストは特に指定せず、参照すべき文献・資料については、その都度示す。

【参考書】
参照すべき文献・資料については、その都度示す。

【成績評価の方法と基準】
関心トピック調べの成果物を6割程度、通例のゼミでの発言状況や課題の実施状況を4割程度として評価する。ゼミ運営への貢献やゼミ活動への参加姿勢なども評価に加味する。

【学生の意見等からの気づき】
フィールドワークを共同で行えればと考えている。

【学生が準備すべき機器他】
PCなど。

【その他の重要事項】
自分がこだわりたい問題と出会い、しつこく調べ、いろいろな角度から解釈し、自分なりの言葉で論じられるようになることを目指す。演習の具体的な運営方法（行事含む）については、学生と相談しながら共同で考えていきたい。各々がゼミ運営についての意見を持ち、誰かが感じるゼミの問題を皆の問題にできるような場にできればと考えている。

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】
Seminar on Educational policy, management,and administration
【到達目標（Learning Objectives）】
Students will develop their understanding on issues relating to education policy, management, and administration to prepare for the third and fourth year of study.Students will learn critical thinking and build academic skills through presentations, discussions and report writing.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
All students, not just the presenter, are required to read the literature in advance.
Students are expected to prepare for the presentation and revise their presentations based on feedback.
Studens' study time will be more than two hours for a class
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Presentations: 50%, Contribution to discussion: 50%

EDU200MA（教育学 / Education 200）

演習（発達・教育）【3・4年生用】

仲田　康一

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：木5/Thu.5　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テーマを「教育改革の社会学」とし、国・自治体・学校・民間団体などによって進められる様々な教育改革について、広い社会的視野と、事実に依拠して検証するための基礎的な考え方・見方を学ぶ演習とする。

ミニ・ケース・スタディに取り組むとともに、授業内ではケース・スタディの文献や研究手法の学習を行う。

【到達目標】
身近な教育問題を、学校経営、教育行政、教育制度、教育政策などの領域で用いられる概念や視角と関わりあわせながら理解し、説明できるようになること。
自らの問題関心を明確にし、言語化できるようにすること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
共通文献については事前に読み込んでおくことを前提に、教員からの設問に応えながら内容理解を図る。
ミニ・ケース・スタディの計画については教員との面談を経たうえで4月の段階で確定させ、個別に取り組む。授業時間の一部を使って短く進捗共有するためのセッションを複数回設け、第13週の報告に臨む。
フィードバックは、各授業時間の中で行うことを基本とするが、授業以外の時間における個別の相談にも柔軟に応じることとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の概要説明／ゴールの合意	授業の大まかな方針を共有し、合意する
第2回	文献の調達と分担	役割分担や、具体的な計画を策定する
第3回	共通文献の検討①	地域活性化と島留学のケースを扱う
第4回	共通文献の検討②	学校の市民性教育のケースを扱う
第5回	共通文献の検討③	地域における多セクターの包括連携による学習生活支援のケースを扱う
第6回	公開情報の分析	ゼミの先輩が執筆した論文を参考に、公開情報を分析する手法を学ぶ
第7回	量的手法の概観①	データ、変数、量的変数／質的変数、散布図・バブルチャートなどを扱う
第8回	量的手法の概観②	値の再割当て、クロス集計、相関分析などを扱う
第9回	共通文献の検討④	外国にルーツを持つ高校生の学習・進路支援のケースを扱う
第10回	共通文献の検討⑤	不登校児童生徒に対する教育委員会の取組のケースを扱う
第11回	量的手法の概観③	リッカート尺度を学ぶ
第12回	報告準備	翌週の成果報告に向けて資料を完成させる
第13回	研究成果報告	グループ形式で研究の成果を報告し、質疑応答を行う
第14回	全体総括	授業全体の振り返りを行い、春休みの課題を共有する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキストは特に指定せず、参照すべき文献・資料については、その都度示す。

【参考書】
参照すべき文献・資料については、その都度示す。

【成績評価の方法と基準】
ミニ・ケース・スタディの成果物を6割程度、通例のゼミでの発言状況や課題の実施状況を4割程度として評価する。ゼミ運営への貢献やゼミ活動への参加姿勢なども評価に加味する。

【学生の意見等からの気づき】
フィールドワークを共同で行えればと考えている。

【学生が準備すべき機器他】
PCなど。

【その他の重要事項】
自分がこだわりたい問題と出会い、しつこく調べ、いろいろな角度から解釈し、自分なりの言葉で論じられるようになることを目指す。演習の具体的な運営方法（行事含む）については、学生と相談しながら共同で考えていきたい。各々がゼミ運営についての意見を持ち、誰かが感じるゼミの問題を皆の問題にできるような場にできればと考えている。

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】
Seminar on Educational policy, management,and administration
【到達目標（Learning Objectives）】
Students will develop their understanding on issues relating to education policy, management, and administration to prepare for the third and fourth year of study.Students will learn critical thinking and build academic skills through presentations, discussions and report writing.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
All students, not just the presenter, are required to read the literature in advance.
Students are expected to prepare for the presentation and revise their presentations based on feedback.
Studens' study time will be more than two hours for a class
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Presentations: 50%, Contribution to discussion: 50%

EDU200MA（教育学 / Education 200）

演習（発達・教育）【3・4年生用】

仲田　康一

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木6/Thu.6　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テーマを「教育改革の社会学」とし、国・自治体・学校・民間団体などによって進められる様々な教育改革について、広い社会的視野と、事実に依拠して検証するための基礎的な考え方・見方を学ぶ演習とする。

具体的には、学校経営、教育行政、教育制度、教育政策などに関わる課題について、専門的な理解を深める。また、プレゼンテーション、議論、レポートの作成を通じて、社会科学的なものの見方や、アカデミックスキルを養う。

【到達目標】
身近な教育問題を、学校経営、教育行政、教育制度、教育政策などの領域で用いられる概念や視角と関わりあわせながら理解し、説明できるようになること。
自らの問題関心を明確にし、言語化できるようにすること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
個人個人が自らの研究を進めることを前提に、進捗の各段階における助言を授業内で行う。
フィードバックは、各授業時間の中で行うことを基本とするが、授業以外の時間における個別の相談にも柔軟に応じることとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	方針説明(教員/Headzから)、自己紹介、必要な役割分担に関する意見出しを行う
第2回	運営計画の策定	手挙げの募集や活動の日程調整
第3回	インタビューの練習	聴き合うワークを行う
第4回	先行研究の吟味①	概念や問題設定の観点で先行研究を吟味する
第5回	先行研究の吟味②	研究手法の観点で先行研究を吟味する
第6回	10月マンスリー報告	研究テーマ、先行研究、リサーチデザインの観点で研究の進捗を報告する
第7回	研究方法の吟味①	研究方法を決定し、対象を確定する
第8回	研究方法の吟味②	質問項目等を確定し、研究に着手する
第9回	11月マンスリー報告	調査の手応え＋現時点で得られそうな知見を共有する
第10回	調査の継続	調査を継続し、方法を微修正する
第11回	結果の分析	調査結果を分析し、報告内容を考案する
第12回	12月マンスリー報告①	調査の完了報告と知見の共有
第13回	12月マンスリー報告②	卒論の口述試験
第14回	全体総括	授業全体の振り返りを行い、春休みの課題を共有する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキストは特に指定せず、参照すべき文献・資料については、その都度示す。

【参考書】
参照すべき文献・資料については、その都度示す。

【成績評価の方法と基準】
２回の報告と、ディスカッションへの貢献を、それぞれ50％として評価する。

【学生の意見等からの気づき】
フィールドワークを共同で行えればと考えている。

【その他の重要事項】
自分がこだわりたい問題と出会い、しつこく調べ、いろいろな角度から解釈し、自分なりの言葉で論じられるようになることを目指す。演習の具体的な運営方法（行事含む）については、学生と相談しながら共同で考えていきたい。各々がゼミ運営についての意見を持ち、誰かが感じるゼミの問題を皆の問題にできるような場にできればと考えている。

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】
Seminar on Educational policy, management,and administration
【到達目標（Learning Objectives）】
Students will develop their understanding on issues relating to education policy, management, and administration to prepare for the third and fourth year of study.Students will learn critical thinking and build academic skills through presentations, discussions and report writing.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
All students, not just the presenter, are required to read the literature in advance.
Students are expected to prepare for the presentation and revise their presentations based on feedback.
Studens' study time will be more than two hours for a class
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Presentations: 50%, Contribution to discussion: 50%

EDU200MA（教育学 / Education 200）

演習（発達・教育）【2年生用】

久井　英輔

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水5/Wed.5　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
（授業の概要）
発達・教育領域（社会教育・生涯学習研究、または学生が関心を持つその他の領域）を中心とした先行研究の検討、研究構想の作成をすすめるとともに、教育の実践現場（公民館等の社会教育施設）への見学・参加を実施する。
（授業の目的・意義）
発達・教育領域（社会教育・生涯学習研究、または学生が関心を持つその他の領域）に関わるテーマを中心に、実践的関心を踏まえつつ客観的にこれらの対象を把握し、学問的な問いを提示できる力を、先行研究の検討、研究構想の作成と実践現場への参加を通じて獲得することを目的とする。

【到達目標】
発達・教育領域（社会教育・生涯学習研究、あるいはその他学生の関心のある領域）における主要な知識・視点を、先行研究検討、研究構想作成や実践現場（公民館等の社会教育施設）への参加を通じて把握できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
発達・教育領域（社会教育・生涯学習研究、あるいは学生が関心のあるその他の領域）から各自でテーマを立てて、先行研究を検討するとともに研究構想を作成していく。それと並行して、実際の地域住民の学びを支援する社会教育施設等の取り組みを見学し、職員の助言の下に事業の企画運営にも参加する。
受講生に対するフィードバックは、基本的に授業内の質疑応答の中で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	卒論進捗状況報告①	4年生の卒論進捗状況報告をもとに、内容の事実確認を中心に討論を行う。
第2回	卒論進捗状況報告②	4年生の卒論進捗状況報告をもとに、使用されている概念や用語の妥当性を中心に討論を行う。
第3回	文献講読①	2年生による課題文献の要約とコメントをもとに、社会教育研究の重要な論点について討論を踏まえて確認する。
第4回	文献講読②	2年生による課題文献の要約とコメントをもとに、発表者の研究関心との関連について討論を通じて検討する。
第5回	卒論構想発表①	3年生による卒論構想発表をもとに、関連領域の動向や先行研究の評価について、討論を踏まえて検討する。
第6回	卒論構想発表②	3年生による卒論構想発表をもとに、データ収集、分析方法の妥当性について、討論を踏まえて検討する。
第7回	卒論進捗状況発表③	提出直前の時期の4年生による卒論進捗状況発表をもとに、主にその論理整合性について討論を踏まえて検討する。
第8回	卒論進捗状況発表④	提出直前の時期の4年生による卒論進捗状況発表をもとに、主にその実践的意義について討論を踏まえて検討する。
第9回	社会教育施設での事業の企画・準備	社会教育施設でゼミ生が実施する事業（夏休み中にある程度検討済み）について、運営の細部を検討する。
第10回	社会教育施設での事業実施と振り返り	社会教育施設でゼミ生が実施する事業（授業外で実施済み）について、振り返りと自己評価を行う。
第11回	ミニレポート発表①	2年生によるミニレポート発表とそれをもとにした討論を踏まえ、発表者の問題関心について明確化させていく。
第12回	ミニレポート発表②	2年生によるミニレポート発表とそれをもとにした討論を踏まえ、発表者に適した研究手法の選択について検討する。
第13回	卒論報告会（公開ゼミ）	4年生が既に提出した卒論の要旨報告を基に、討論を行う（公開ゼミ形式）。
第14回	卒論構想発表会	3年生の現時点での卒論進捗状況に関する発表をもとにした討論をふまえて、今後の執筆計画を検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・先行研究検討の際には参加者全員が予め熟読し、コメント、疑問点を整理しておくこと。
・発表準備は基本的に授業時間外で行うものとする。
・本授業の準備学習・復習時間は各2時間以上を標準とする。

【テキスト（教科書）】
多岐にわたるので、授業内で提示する。課題文献のマスターコピーまたはPDFファイルは、担当教員が用意する。

【参考書】
津田英二、久井英輔、鈴木眞理編『社会教育・生涯学習研究のすすめ：社会教育の研究を考える』学文社、2015年

【成績評価の方法と基準】
先行研究検討、研究構想報告　40％
ディスカッションへの貢献度　50％
教育活動（学生企画事業）への貢献度　10％

【学生の意見等からの気づき】
昨年度は社会教育施設の見学に加えて、社会教育施設における一コーナーの企画・実施という形で、ゼミ生の共同による社会教育実践に取り組んだ。今年度は、ゼミの活動のメインである文献講読、個々の卒論執筆とのバランスに配慮し、学生の負担が過大とならないよう留意したい。

【学生が準備すべき機器他】
ノートPC

【Outline (in English)】
【Course Outline】
The aim of this course is to discuss topics on education (social education, lifelong learning, and other areas of interest to students) based on presentation for a comprehensive examination of previous research and for original research plans. Additionally, we will conduct visits and participation in educational activities.
【Learning Objectives】

The goal of this course is to help students to objectively grasp subjects related to the education (social education, lifelong learning, and other areas of interest to students). This is to be done by considering practical concerns, and by developing the capability to present scholarly inquiries. This goal will be achieved through presentation for a comprehensive examination of previous research and for an original research plan, and active participation in educational activities.
【Learning Activities Outside of Classroom】
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
【Grading Criteria / Policy】
Final grade will be calculated according to the following process: Presentation for an examination of previous research and for original research plan (40%), contribution to discussion (50%), contribution to educational activities (10%).

EDU200MA（教育学 / Education 200）

演習（発達・教育）【3・4年生用】

久井　英輔

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：水5/Wed.5　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
（授業の概要）
発達・教育領域（社会教育・生涯学習研究、または学生が関心を持つその他の領域）を中心とした基礎文献の講読をすすめるとともに、教育の実践現場（公民館等の社会教育施設、その他）への見学・参加を実施する。
（授業の目的・意義）
発達・教育領域（社会教育・生涯学習研究、または学生が関心を持つその他の領域）に関わるテーマを中心に、実践的関心を踏まえつつ客観的にこれらの対象を把握し、学問的な問いを提示できる力を、基礎文献の講読と実践現場への参加を通じて獲得することを目的とする。

【到達目標】
発達・教育領域（社会教育・生涯学習研究、あるいはその他学生の関心のある領域）における主要な知識・視点を、基礎文献講読や実践現場（公民館等の社会教育施設）への参加を通じて把握できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
発達・教育領域（社会教育・生涯学習研究、あるいは学生が関心のあるその他の領域）を中心に、基礎文献を講読していく。それと並行して、実際の地域住民の学びを支援する社会教育施設等の取り組みを見学し、職員の助言の下に事業の企画運営にも参加する。
受講生に対するフィードバックは、基本的に授業内の質疑応答の中で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	振り返りと年間ゼミ活動計画の検討①	前年度のゼミ活動について、教員、学生の立場からそれぞれ振り返り、今年度の活動の指針を決定する。
第2回	振り返りと年間ゼミ活動計画の検討②	今年度の活動指針をもとに、各学生の事情に応じて発表スケジュールを確定する作業を行う。
第3回	文献講読①	4年生が自身の卒論に深く関わる文献を紹介する。
第4回	文献講読②	4年生による文献紹介をもとに、各自の卒論においてどのように活用できるか、討論を踏まえて検討する。
第5回	文献講読③	自分の興味関心につながる文献を3年生が各々紹介し、討論を通じて丁寧な内容解釈を行う。
第6回	文献講読④	3年生の文献発表をもとに、どのような領域・手法による卒論執筆課が適切か、受講者ごとに検討する。
第7回	卒論構想発表①	以前の文献講読を踏まえ、3年生が卒論の対象となる関心領域について説明する。
第8回	卒論構想発表②	3年生による卒論の対象となる関心領域の説明について、どのような論文の方向性が考えられるか、ブレーンストーミング形式で議論を行う。
第9回	卒論進捗状況発表①	各4年生が作成中の卒論に関して、論構成、仮説の設定を改めて検討する。
第10回	卒論進捗状況発表②	各4年生が作成中の卒論に関して、具体的に検討するデータ・対象、分析手法を改めて検討する。
第11回	卒論構想発表③	3年生が今後執筆する卒論について、テーマ設定とその背景にある現状がどのようなものであるか、発表と討論を通じて検討する。
第12回	卒論構想発表④	3年生が今後執筆する卒論について、類似する研究がどの程度展開されているか、発表と討論を通じて検討する。
第13回	卒論構想発表⑤	3年生が今後執筆する卒論について、適切な研究対象がどのように確定されるか、発表と討論を通じて検討する。
第14回	卒論構想発表⑥	3年生が今後執筆する卒論について、どの分析方法を適切なもの選定できるか、発表と討論を通じて検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・講読文献は予め熟読し、コメント、疑問点を整理しておくこと。
・発表準備は基本的に授業時間外で行うものとする。
・本授業の準備学習・復習時間は各2時間以上を標準とする。

【テキスト（教科書）】
多岐にわたるので、授業内で提示する。文献のマスターコピーまたはPDFファイルは、担当教員が用意する。

【参考書】
津田英二、久井英輔、鈴木眞理編『社会教育・生涯学習研究のすすめ：社会教育の研究を考える』学文社、2015年

【成績評価の方法と基準】
基礎文献・卒論構想の発表　40％
ディスカッションへの貢献度　50％
教育活動（学生企画事業）への貢献度　10％

【学生の意見等からの気づき】
昨年度は社会教育施設の見学に加えて、社会教育事業における一コーナーの企画という形で、ゼミ生の共同による社会教育実践に取り組んだ。今年度は、ゼミの活動のメインである文献講読、個々の卒論執筆とのバランスに配慮し、学生の負担量が過大とならないよう留意したい。

【学生が準備すべき機器他】
ノートPC

【Outline (in English)】
【Course Outline】
The aim of this course is to discuss topics on education (social education, lifelong learning, and other areas of interest to students) based on presentation for review of basic literature. Additionally, we will conduct visits and participation in educational activities.
【Learning Objectives】

The goal of this course is to help students to objectively grasp subjects related to the education (social education, lifelong learning, and other areas of interest to students). This is to be done by considering practical concerns, and by developing the capability to present scholarly inquiries. This goal will be achieved through presentation for review of basic literature. a comprehensive examination of previous research, the creation of research plans, and active participation in educational activities.
【Learning Activities Outside of Classroom】
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
【Grading Criteria / Policy】
Final grade will be calculated according to the following process: Presentation for review of basic literature reading and for graduation thesis (49%), contribution to discussion (50%), contribution to educational activities (10%).

EDU200MA（教育学 / Education 200）

演習（発達・教育）【3・4年生用】

久井　英輔

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水6/Wed.6　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
（授業の概要）
発達・教育領域（社会教育・生涯学習研究、または学生が関心を持つその他の領域）を中心とした研究進捗の報告をすすめるとともに、教育の実践現場（公民館等の社会教育施設、その他）への見学・参加を実施する。
（授業の目的・意義）
発達・教育領域（社会教育・生涯学習研究、または学生が関心を持つその他の領域）に関わるテーマを中心に、実践的関心を踏まえつつ客観的にこれらの対象を把握し、学問的な問いを提示できる力を、研究進捗報告と実践現場への参加を通じて獲得することを目的とする。

【到達目標】
発達・教育領域（社会教育・生涯学習研究、あるいはその他学生の関心のある領域）における主要な知識・視点を、文献講読、研究進捗報告、実践現場（公民館等の社会教育施設）の企画への参加を通じて把握できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
発達・教育領域（社会教育・生涯学習研究、あるいは学生が関心のあるその他の領域）から各自でテーマを立てて、研究の進捗状況を報告する。それと並行して、実際の地域住民の学びを支援する社会教育施設等の取り組みを見学し、職員の助言の下に事業の企画運営にも参加する。
受講生に対するフィードバックは、基本的に授業内の質疑応答の中で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	卒論進捗状況報告①	4年生の卒論進捗状況報告をもとに、内容の事実確認を中心に討論を行う。
第2回	卒論進捗状況報告②	4年生の卒論進捗状況報告をもとに、使用されている概念や用語の妥当性を中心に討論を行う。
第3回	文献講読①	2年生による課題文献の要約とコメントをもとに、社会教育研究の重要な論点について討論を踏まえて確認する。
第4回	文献講読②	2年生による課題文献の要約とコメントをもとに、発表者の研究関心との関連について討論を通じて検討する。
第5回	卒論構想発表①	3年生による卒論構想発表をもとに、関連領域の動向や先行研究の評価について、討論を踏まえて検討する。
第6回	卒論構想発表②	3年生による卒論構想発表をもとに、データ収集、分析方法の妥当性について、討論を踏まえて検討する。
第7回	卒論進捗状況発表③	提出直前の時期の4年生による卒論進捗状況発表をもとに、主にその論理整合性について討論を踏まえて検討する。
第8回	卒論進捗状況発表④	提出直前の時期の4年生による卒論進捗状況発表をもとに、主にその実践的意義について討論を踏まえて検討する。
第9回	社会教育施設での事業の企画・準備	社会教育施設でゼミ生が実施する事業（夏休み中にある程度検討済み）について、運営の細部を検討する。
第10回	社会教育施設での事業実施と振り返り	社会教育施設でゼミ生が実施する事業（授業外で実施済み）について、振り返りと自己評価を行う。
第11回	ミニレポート発表①	2年生によるミニレポート発表とそれをもとにした討論を踏まえ、発表者の問題関心について明確化させていく。
第12回	ミニレポート発表②	2年生によるミニレポート発表とそれをもとにした討論を踏まえ、発表者に適した研究手法の選択について検討する。
第13回	卒論報告会（公開ゼミ）	4年生が既に提出した卒論の要旨報告を基に、討論を行う（公開ゼミ形式）。
第14回	卒論構想発表会	3年生の現時点での卒論進捗状況に関する発表をもとにした討論をふまえて、今後の執筆計画を検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・発表準備は基本的に授業時間外で行うものとする。
・本授業の準備学習・復習時間は各2時間以上を標準とする。

【テキスト（教科書）】
多岐にわたるので、授業内で提示する。文献のマスターコピーまたはPDFファイルは、担当教員が用意する。

【参考書】
津田英二、久井英輔、鈴木眞理編『社会教育・生涯学習研究のすすめ：社会教育の研究を考える』学文社、2015年

【成績評価の方法と基準】
卒論研究の進捗報告　40％
ディスカッションへの貢献度　50％
教育活動（学生企画事業）への貢献度　10％

【学生の意見等からの気づき】
昨年度は社会教育施設の見学に加えて、社会教育事業における一コーナーの企画・実施という形で、ゼミ生の共同による社会教育実践に取り組んだ。今年度は、ゼミの活動のメインである文献講読、個々の卒論執筆とのバランスに配慮し、学生の負担量が過大とならないよう留意したい。

【学生が準備すべき機器他】
ノートPC

【Outline (in English)】
【Course Outline】
The aim of this course is to discuss topics on education (social education, lifelong learning, and other areas of interest to students) based on presentation for report of research progress. Additionally, we will conduct visits and participation in educational activities.
【Learning Objectives】
The goal of this course is to help students to objectively grasp subjects related to the education(social education, lifelong learning, and other areas of interest to students). This is to be done by considering practical concerns, and developing the capability to present scholarly inquiries. This goal will be achieved through presentation for report of research progress, and active participation in educational activities.
【Learning Activities Outside of Classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
【Grading Criteria / Policy】
Final grade will be calculated according to the following process: presentation for report of research progress (40%), contribution to discussion (50%), contribution to educational activities (10%).

EDU200MA（教育学 / Education 200）

演習（発達・教育）【2年生用】

廣川　進

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水5/Wed.5　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ゼミ生は個人個人が最も研究したいテーマを選択し、自ら情報集を行い、情報を整理し、独自の情報を再構築し、研究をまとめ発表することを目的とする。その過程において、情報収集の力、整理まとめる力、分析する力、自分の頭で考える力、そして、ゼミで皆の前で発表するプレゼンテーションの力を涵養することをゼミの目的とする。

【到達目標】
学生は研究発表により、自己の研究内容をまとめ、発表し、ゼミ生、教員との討議からさらに研究を深める。研究過程とその発表結果、評価により、研究に対する興味関心をさらに強化し、学ぶ意欲をさらに動機づけられ、自己効力感を得ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
授業での発表の際に必要なフィードバックを行う。
個々に研究テーマを決め、研究を個々に実施し、ゼミの中で発表を行う。また、そのテーマに関して、ゼミで討論を行い、テーマをさらに深める。互いに自己の意見を発表し、交換し合うことにより、多角的に物事を考え、見る目を養う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ゼミのオリエンテーション	概要の説明
第2回	相互理解を深める	ゼミ生同士で相互理解を深める討論を行う
第3回	グループ研究発表１	グループで与えられた課題について発表し討論を行う
第4回	グループ研究発表２	前回の討議を踏まえて再度グループで与えられた課題について発表し討論を行う
第5回	個人研究発表１	個人研究発表を行い討論を行う　ゼミ生①
第6回	個人研究発表２	個人研究発表を行い討論を行う　ゼミ生②
第7回	個人研究発表３	個人研究発表を行い討論を行う　ゼミ生③
第8回	個人研究発表４	個人研究発表を行い討論を行う　ゼミ生④
第9回	個人研究発表５	個人研究発表を行い討論を行う　ゼミ生⑤
第10回	個人研究発表６	個人研究発表を行い討論を行う　ゼミ生⑥
第11回	個人研究発表７	個人研究発表を行い討論を行う　ゼミ生⑦
第12回	個人研究発表８	個人研究発表を行い討論を行う　ゼミ生⑧
第13回	個人研究発表９	個人研究発表を行い討論を行う　ゼミ生⑨
第14回	個人研究発表１０	個人研究発表を行い討論を行う　ゼミ生⑩

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自己の研究発表のための情報収集、学習を行い、発表の資料を作成する本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内で紹介する

【参考書】
私とは何か　「個人」から「分人」へ　（平野啓一郎）　講談社現代新書
＜ほんとうの自分＞のつくり方　自己物語の心理学　（榎本博明）　講談社現代新書
アニメに学ぶ心理学　『千と千尋の神隠し』を読む　（愛甲修子）　言視舎
生きる意味　（上田紀行）　岩波新書
認められたいの正体　（山竹伸二）　講談社現代新書
愛着障害　子ども時代を引きずる人びと　（岡田尊司）　光文社新書
母という病　（岡田尊司）　ポプラ新書
発想法　川喜田二郎　中公新書

【成績評価の方法と基準】
平常点（個人研究発表、ゼミへの積極的参画度　５０％）
発表　３０％
期末レポート　２０％

【学生の意見等からの気づき】
SNSやYOUTUBEなども取り入れた活動にしていく

【学生が準備すべき機器他】
オンラインで行う際に可能な環境と端末

【その他の重要事項】
主体性、自主性を重視する

【Outline (in English)】
You can select the theme that you wants to study most. Do information collections yourself, organize information, rebuild your own information, and make presentation your research.
In the process, the purpose of seminars is to gain the power of information gathering, organizing, analyzing, thinking with one's own mind, and making presentations at seminars.
・Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
・Before each class meeting, students will be expected to have read the Related Books.
・Grading Method and Criteria
Regular points (individual research presentations, active participation in seminars 50%)
Presentations 30％
Final report 20％

EDU200MA（教育学 / Education 200）

演習（発達・教育）【3・4年生用】

廣川　進

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：水5/Wed.5　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ゼミ生は個人個人が最も研究したいテーマを選択し、自ら情報集を行い、情報を整理し、独自の情報を再構築し、研究をまとめ発表することを目的とする。その過程において、情報収集の力、整理まとめる力、分析する力、自分の頭で考える力、そして、ゼミで皆の前で発表するプレゼンテーションの力を涵養することをゼミの目的とする。

【到達目標】
学生は研究発表により、自己の研究内容をまとめ、発表し、ゼミ生、教員との討議からさらに研究を深める。研究過程とその発表結果、評価により、研究に対する興味関心をさらに強化し、学ぶ意欲をさらに動機づけられ、自己効力感を得ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
授業での発表の際に必要なフィードバックを行う。
個々に研究テーマを決め、研究を個々に実施し、ゼミの中で発表を行う。また、そのテーマに関して、ゼミで討論を行い、テーマをさらに深める。互いに自己の意見を発表し、交換し合うことにより、多角的に物事を考え、見る目を養う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ゼミのオリエンテーション	概要の説明
第2回	相互理解を深める	ゼミ生同士で相互理解を深める討論を行う
第3回	グループ研究発表１	グループで与えられた課題について発表し討論を行う
第4回	グループ研究発表２	前回の討議を踏まえて再度グループで与えられた課題について発表し討論を行う
第5回	個人研究発表１	個人研究発表を行い討論を行う　ゼミ生①
第6回	個人研究発表２	個人研究発表を行い討論を行う　ゼミ生②
第7回	個人研究発表３	個人研究発表を行い討論を行う　ゼミ生③
第8回	個人研究発表４	個人研究発表を行い討論を行う　ゼミ生④
第9回	個人研究発表５	個人研究発表を行い討論を行う　ゼミ生⑤
第10回	個人研究発表６	個人研究発表を行い討論を行う　ゼミ生⑥
第11回	個人研究発表７	個人研究発表を行い討論を行う　ゼミ生⑦
第12回	個人研究発表８	個人研究発表を行い討論を行う　ゼミ生⑧
第13回	個人研究発表９	個人研究発表を行い討論を行う　ゼミ生⑨
第14回	個人研究発表１０	個人研究発表を行い討論を行う　ゼミ生⑩

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自己の研究発表のための情報収集、学習を行い、発表の資料を作成する本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内で紹介する

【参考書】
私とは何か　「個人」から「分人」へ　（平野啓一郎）　講談社現代新書
＜ほんとうの自分＞のつくり方　自己物語の心理学　（榎本博明）　講談社現代新書
アニメに学ぶ心理学　『千と千尋の神隠し』を読む　（愛甲修子）　言視舎
生きる意味　（上田紀行）　岩波新書
認められたいの正体　（山竹伸二）　講談社現代新書
愛着障害　子ども時代を引きずる人びと　（岡田尊司）　光文社新書
母という病　（岡田尊司）　ポプラ新書
発想法　川喜田二郎　中公新書

【成績評価の方法と基準】
平常点（個人研究発表、ゼミへの積極的参画度　５０%）
発表　３０%
期末レポート　２０%

【学生の意見等からの気づき】
SNSやYOUTUBEなども取り入れた活動にしていく

【学生が準備すべき機器他】
オンラインで行う際に可能な環境と端末

【その他の重要事項】
主体性、自主性を重視する

【Outline (in English)】
You can select the theme that you wants to study most. Do information collections yourself, organize information, rebuild your own information, and make presentation your research.
In the process, the purpose of seminars is to gain the power of information gathering, organizing, analyzing, thinking with one's own mind, and making presentations at seminars.
・Before/after each class meeting, students will be expected to spend　two hours to understand the course content.
・Before each class meeting, students will be expected to have read the　Related Books.
・Grading Method and Criteria
Regular points (individual research presentations, active participation in seminars 50%)
Presentations 30%
Final report 20%

EDU200MA（教育学 / Education 200）

演習（発達・教育）【3・4年生用】

廣川　進

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水6/Wed.6　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ゼミ生は個人個人が最も研究したいテーマを選択し、自ら情報集を行い、情報を整理し、独自の情報を再構築し、研究をまとめ発表することを目的とする。その過程において、情報収集の力、整理まとめる力、分析する力、自分の頭で考える力、そして、ゼミで皆の前で発表するプレゼンテーションの力を涵養することをゼミの目的とする。

【到達目標】
学生は研究発表により、自己の研究内容をまとめ、発表し、ゼミ生、教員との討議からさらに研究を深める。研究過程とその発表結果、評価により、研究に対する興味関心をさらに強化し、学ぶ意欲をさらに動機づけられ、自己効力感を得ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
授業での発表の際に必要なフィードバックを行う。
個々に研究テーマを決め、研究を個々に実施し、ゼミの中で発表を行う。また、そのテーマに関して、ゼミで討論を行い、テーマをさらに深める。互いに自己の意見を発表し、交換し合うことにより、多角的に物事を考え、見る目を養う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ゼミのオリエンテーション	概要の説明
第2回	相互理解を深める	ゼミ生同士で相互理解を深める討論を行う
第3回	グループ研究発表１	グループで与えられた課題について発表し討論を行う
第4回	グループ研究発表２	前回の討議を踏まえて再度グループで与えられた課題について発表し討論を行う
第5回	個人研究発表１	個人研究発表を行い討論を行う　ゼミ生①
第6回	個人研究発表２	個人研究発表を行い討論を行う　ゼミ生②
第7回	個人研究発表３	個人研究発表を行い討論を行う　ゼミ生③
第8回	個人研究発表４	個人研究発表を行い討論を行う　ゼミ生④
第9回	個人研究発表５	個人研究発表を行い討論を行う　ゼミ生⑤
第10回	個人研究発表６	個人研究発表を行い討論を行う　ゼミ生⑥
第11回	個人研究発表７	個人研究発表を行い討論を行う　ゼミ生⑦
第12回	個人研究発表８	個人研究発表を行い討論を行う　ゼミ生⑧
第13回	個人研究発表９	個人研究発表を行い討論を行う　ゼミ生⑨
第14回	個人研究発表１０	個人研究発表を行い討論を行う　ゼミ生⑩

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自己の研究発表のための情報収集、学習を行い、発表の資料を作成する本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内で紹介する

【参考書】
私とは何か　「個人」から「分人」へ　（平野啓一郎）　講談社現代新書
＜ほんとうの自分＞のつくり方　自己物語の心理学　（榎本博明）　講談社現代新書
アニメに学ぶ心理学　『千と千尋の神隠し』を読む　（愛甲修子）　言視舎
生きる意味　（上田紀行）　岩波新書
認められたいの正体　（山竹伸二）　講談社現代新書
愛着障害　子ども時代を引きずる人びと　（岡田尊司）　光文社新書
母という病　（岡田尊司）　ポプラ新書
発想法　川喜田二郎　中公新書

【成績評価の方法と基準】
平常点（個人研究発表、ゼミへの積極的参画度　５０％）
発表　３０％
期末レポート　２０％

【学生の意見等からの気づき】
SNSやYOUTUBEなども取り入れた活動にしていく

【学生が準備すべき機器他】
オンラインで行う際に可能な環境と端末

【その他の重要事項】
主体性、自主性を重視する

【Outline (in English)】
You can select the theme that you wants to study most. Do information collections yourself, organize information, rebuild your own information, and make presentation your research.
In the process, the purpose of seminars is to gain the power of information gathering, organizing, analyzing, thinking with one's own mind, and making presentations at seminars.
・Before/after each class meeting, students will be expected to spend　two hours to understand the course content.
・Before each class meeting, students will be expected to have read the　Related Books.
・Grading Method and Criteria
Regular points (individual research presentations, active participation in seminars 50%)
Presentations 30％
Final report 20％

EDU200MA（教育学 / Education 200）

演習（発達・教育）【2年生用】

松尾　知明

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木5/Thu.5　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、多文化社会をめぐる諸課題に焦点をあて、多文化共生と教育に関する調査研究を進めることを通して、多文化共生のあり方を追究したい。具体的には、多文化共生をテーマに、事例を通して、基本的な研究の考え方や進め方について学ぶとともに、自分の設定したテーマを追究して、研究レポートにまとめる。

【到達目標】
・多文化共生と教育に関する概念、動向や課題などについての知識を深めることができる。
・興味あるテーマについて調査研究を進め、効果的に研究レポートを書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
対面で授業を実施し、学習支援システムを活用する。担当したテーマについてレジュメを作成し発表を行い話し合う。また、個人の興味・関心に従い問いを立て、調査研究を進めて研究レポートを作成し発表を行う。授業のなかで課題についてのフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	多文化化と学校
第2回	チーム研究の進め方	研究の計画づくり
第3回	２つの言語や文化を生きる	グループワークと討論
第4回	文化とアイデンティティ	グループワークと討論
第5回	外国につながる子どもと学校	グループワークと討論
第6回	多様な子どもと学校	グループワークと討論
第7回	外国人児童生徒と公立学校	グループワークと討論
第8回	夜間中学校	グループワークと討論
第9回	外国人学校・インターナショナルスクール	グループワークと討論
第10回	外国人児童生徒教育と公立学校	発表⑴と討論
第11回	外国人学校とアイデンティティ	発表⑵と討論
第12回	夜間中学校と居場所	発表⑶と討論
第13回	インターナショナルスクール／IBプログラム	発表⑷と討論
第14回	授業のまとめ	振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の準備として、教科書や関連する文献や資料を読んでくる。興味・関心に従って調査研究を進め、研究レポートを作成し、プレゼンの準備をする。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
松尾知明『多文化クラスの授業デザイン－外国につながる子どものために』明石書店、2021年.

【参考書】
授業において適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加状況（30%）、課題、パワーポイントスライド、プレゼン、研究レポート（70％）をもとに総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
多文化についての見方・考え方を広げるよう指導に留意する。

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】
In this course, focusing on cases of multicultural education in Japan, trends and issues related to multicultural conviviality are explored. Also, with the theme of multicultural symbiosis, research reports are written by conducted by conducting case studies. Through these learning activities, how to actualize multicultural coexistence is discussed and explored.
【到達目標 / Goal】
Students are able to deepen knowledge of concepts, trends and issues related to multicultural conviviality and education.
Students are able to conduct research on themes of multicultural issues and write an effective report.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Students will be expected to read the text, conduct research and study, reflect on their learning, prepare materials on the subject, and prepare a presentation.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】
Grading will be decided based on in class contribution (30%) and assignments and presentations (70%).

EDU200MA（教育学 / Education 200）

演習（発達・教育）【3・4年生用】

松尾　知明

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：木5/Thu.5　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、多文化社会をめぐる諸課題に焦点をあて、多文化共生と教育に関する調査研究を進めることを通して、多文化共生のあり方を追究したい。具体的には、多文化共生をテーマに、事例を通して、基本的な研究の考え方や進め方について学ぶとともに、自分の設定したテーマを追究して、研究レポートにまとめる。

【到達目標】
・多文化共生と教育に関する概念、動向や課題などについての知識を深めることができる。
・興味あるテーマについて調査研究を進め、効果的に研究レポートを書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
発表とグループワークを中心に進める。課題は、授業のなかでフィードバックを行う。調査研究の進め方や研究レポートの書き方について、具体的な事例を検討しながら学ぶ。また、個人の興味・関心に従い問いを立て、調査研究を進めて研究レポートを作成し発表を行う。授業のなかで課題についてのフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	多文化化と学校
第2回	チーム研究の進め方	研究の計画づくり
第3回	２つの言語や文化を生きる	バイリンガリズム・バイカルチャリズム
第4回	文化とアイデンティティ	位置取り
第5回	外国につながる子どもと学校	動向と課題
第6回	多様な子どもと学校	多様な子どもへの対応
第7回	外国人児童生徒と公立学校	学校への適応
第8回	公立学校・夜間中学校	居場所
第9回	外国人学校・インターナショナルスクール	在日外国人とグローバル人材
第10回	横浜教育委員会、国際交流協会の事例	チーム発表⑴
第11回	飯田北いちょう小学校	チーム発表⑵
第12回	横浜吉田中学校	チーム発表⑶
第13回	横浜中華学院	チーム発表⑷
第14回	授業のまとめ	振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の準備として、教科書や関連する文献や資料を読んでくる。興味・関心に従って調査研究を進め、研究レポートを作成し、プレゼンの準備をする。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
松尾知明『多文化クラスの授業デザイン－外国につながる子どものために』明石書店、2021年。

【参考書】
授業において適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加状況（30%）、レジュメと発表（20％）、研究レポートとプレゼン（50％）をもとに総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
ゼミ生の集団づくりを工夫する。

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】
In this course, focusing on cases of multicultural education in Japan, trends and issues related to multicultural symbiosis are explored. Also, with the theme of multicultural symbiosis, research reports are written by conducted by conducting case studies. Through these learning activities, how to actualize multicultural coexistence is discussed and explored.
【到達目標 / Goal】
Students are able to deepen knowledge of concepts, trends and issues related to multicultural symbiosis and education.
Students are able to conduct research on themes of multicultural issues and write an effective report.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Students will be expected to read the text, conduct research and study, reflect on their learning, prepare materials on the subject, and prepare a presentation.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】
Grading will be decided based on in class contribution (30%) and assignments and presentations (70%).

EDU200MA（教育学 / Education 200）

演習（発達・教育）【3・4年生用】

松尾　知明

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木6/Thu.6　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
グローバル化の進展に伴い、多様性を価値ある資源として捉え直し、多様な人々の共生をいかに進めるのかが大きな課題となっている。本授業では、諸外国における多文化共生と教育について検討することを通して、多文化共生のあり方を追究したい。

【到達目標】
・諸外国の多文化共生と教育に関する動向や課題などについての知識を深めることができる。
・興味あるテーマについて調査研究を進め、効果的に研究レポートを書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
発表とグループワークを中心に進める。課題は、授業のなかでフィードバックを行う。調査研究の進め方や研究レポートの書き方について、具体的な事例を検討しながら学ぶ。また、個人の興味・関心に従い問いを立て、調査研究を進めて研究レポートを作成し発表を行う。授業のなかで課題についてのフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方
第2回	英国（イングランド）の多文化教育	発表と討論
第3回	フランスの多文化教育	発表と討論
第4回	ヒューマンライブラリー	発表と討論
第5回	アメリカの多文化教育	発表と討論
第6回	カナダの多文化教育	発表と討論
第7回	オーストラリアの多文化教育	発表と討論
第8回	ニュージーランドの多文化教育	発表と討論
第9回	多文化共生プレゼン・リハーサル	プレゼンと討論
第10回	シンガポールの多文化教育	発表と討論
第11回	韓国の多文化教育	発表と討論
第12回	キャリアデザインについて	発表と討論
第13回	ムスリムと教育	発表と討論
第14回	まとめ	振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の準備として、教科書や関連する文献や資料を読んでくる。興味・関心に従って調査研究を進め、研究レポートを作成し、プレゼンの準備をする。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
松尾知明『多文化教育の国際比較－世界10カ国の教育政策と移民政策』明石書店、2017年。

【参考書】
業において適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加状況（30%）、レジュメと発表（20％）、研究レポートとプレゼン（50％）をもとに総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
研究の進め方、まとめ方の指導を工夫する。

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】
With the advancement of globalization, reevaluating diversity as a valuable resource and figuring out how to promote the coexistence of various people has become a major challenge. In this course, through examining multicultural coexistence and education in different countries, we aim to explore the ways in which multicultural coexistence can be realized.
【到達目標 / Goal】
・You can deepen your knowledge about trends and challenges related to multicultural coexistence and education in other countries.
・You can conduct research on topics of interest and effectively write research reports.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Students will be expected to read the text, conduct research and study, reflect on their learning, prepare materials on the subject, and prepare a presentation.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】
Grading will be decided based on in class contribution (30%) and assignments and presentations (70%).

MAN200MA（経営学 / Management 200）

演習（ビジネス）【2年生用】

上西　充子

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水5/Wed.5　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
働くことをめぐる諸問題から各自の問題関心に合わせたテーマを取り上げ、文献やデータに基づく多角的な理解を目指します。
働く者の側の事情、働かせる側の事情、さらにその両者のあり方に影響を与える労働市場や法制度のあり方を視野に入れながらテーマの考察を深めていきます。

【到達目標】
テーマに関わる基礎知識を習得する。
文献を読み、情報収集を行う中で、論点を把握することができる。
論点をめぐる考察を深め、その結果を適切に発表・論述できる。
論点をめぐって受講生同士で考察を深め合うことができる。
みずからが探求したい「問い」を見つけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
２年次秋学期は、文献を読み込み、論点を明らかにしていくこと、その論点についてディスカッションを行う中でみずからの「問い」を形成していくこと、書式に従った論文を書くこと、データや文献を収集することなど、３年次にゼミ論を書くための準備をする期間と位置づけます。
課題レポートについては順次、具体的にフィードバックを行います。
取り上げるテーマは参加者の関心に応じて変更がありえます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	参加者の問題意識の共有、ゼミの進め方の検討
第2回	テーマをめぐるディスカッション	テーマをめぐるディスカッションに慣れる
第3回	労働時間と生活時間をめぐる文献Aの検討	文献Aに関するレジュメの作成と内容の理解。論点をめぐるディスカッション
第4回	労働時間と生活時間をめぐる文献Bの検討	文献Bに関するレジュメの作成と内容の理解。論点をめぐるディスカッション
第5回	労働時間と生活時間をめぐる論点の整理	労働時間と生活時間をめぐる論点の整理と発表
第6回	労働時間と生活時間をめぐる論点の考察	労働時間と生活時間をめぐる論点の考察とディスカッション
第7回	キャリア形成と企業の労務管理をめぐる文献Cの検討	文献Cに関するレジュメの作成と内容の理解。論点をめぐるディスカッション
第8回	キャリア形成と企業の労務管理をめぐる文献Dの検討	文献Dに関するレジュメの作成と内容の理解。論点をめぐるディスカッション
第9回	キャリア形成と企業の労務管理をめぐる論点の整理	キャリア形成と企業の労務管理をめぐる論点の整理と発表
第10回	キャリア形成と企業の労務管理をめぐる論点の考察	キャリア形成と企業の労務管理をめぐる論点の考察とディスカッション
第11回	データの読解	データの読解と検討
第12回	関連文献・データの収集方法	文献・データの所在と収集方法
第13回	関連文献・データの収集	文献・データの収集と発表
第14回	「問い」の明確化	各自の「問い」の発表と明確化

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献の読解、レジュメの作成、レポートの執筆、プレゼンの準備、文献の収集など、入念な準備を求める。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に定めない。

【参考書】
・木下是雄（1994）『レポートの組み立て方』ちくま学芸文庫
ゼミで取り上げる文献については、授業内で随時指示する。

【成績評価の方法と基準】
ゼミへの主体的な参加（レジュメの作成と発表、ディスカッションへの参加等）：60％
レポート：40％

【学生の意見等からの気づき】
一人一人の力量形成に、より力を入れていきたいと考えています。

【Outline (in English)】
【Course outline】
The course will focus on various issues related to work, according to each student's interest.　Students are expected to have a multifaceted understanding based on literature and data.
【Learning Objectives】
At the end of this course, students are expected to acquire basic knowledge on the subject and improve important skills for independent research.
【Learning activities outside of classroom】
Careful preparation is required, including reading the assigned literature, writing resumes and reports, preparing presentations, and collecting literature.
Your study time will be more than four hours for a class.
【Grading Criteria/Policies】
Grading will be decided based on in-class contribution (60%) and reports (40%).

MAN200MA（経営学 / Management 200）

演習（ビジネス）【3・4年生用】

上西　充子

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：水5/Wed.5　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
働くことをめぐる諸問題から各自の問題関心に合わせたテーマを取り上げ、ゼミ論の執筆に向けた準備を進めます。

【到達目標】
関連文献を読み込み、みずからの「問い」を深めることができる。ゼミ論の執筆に向けて、独自調査の計画を立てて実行することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
卒論の執筆に向け、３年次にはゼミ論の完成を目指します。春学期は、各自が設定したゼミ論の「問い」に関連した文献・データを適切に収集して検討した上で、「問い」を改めて文章化し、その「問い」を深めるための独自調査の計画を立てて発表し、実行していきます。課題レポートについては順次、具体的にフィードバックを行います。４年次は卒業論文執筆指導となります。シラバスの「卒業論文（ビジネス）」を参照すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ゼミ論の「問い」の発表と検討	各自が設定したゼミ論テーマの「問い」を発表し、ディスカッションする
第2回	ゼミ論の「問い」の再検討	前回の発表とコメントを受けて、改めて各自がゼミ論テーマの「問い」を再検討し、ディスカッションする
第3回	論文の構成の理解	論文の基本的な構成を理解する
第4回	先行研究の収集	文献収集状況の発表
第5回	先行研究の検討	収集した文献の重要度の検討
第6回	先行研究の論点整理	収集した文献の論点整理
第7回	独自調査の計画の策定	先行研究を踏まえた独自調査の内容と方法を検討する
第8回	独自調査の計画の発表	各自が独自調査の計画を発表する
第9回	独自調査の計画の再検討	フィードバックをふまえて各自が独自調査の計画を再検討する
第10回	独自調査の実施の中間報告	各自が独自調査に着手し、その状況を中間報告する
第11回	中間報告をめぐるディスカッション	各自の中間報告について、ディスカッションする
第12回	研究計画の再検討	独自調査の実施を踏まえ、さらなる文献検討や独自調査の必要性を再検討する
第13回	今後の研究計画の検討	今後の研究計画を検討する
第14回	振り返りとまとめ	各自の進捗状況を振り返り、ゼミ論の中間発表に向けた各自の課題を検討する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献・データを収集し、論点を整理し、発表の準備を行う。
独自調査を企画し、実施する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に定めない

【参考書】
・木下是雄（1994）『レポートの組み立て方』ちくま学芸文庫
その他の文献については、授業内で随時指示します。

【成績評価の方法と基準】
ゼミへの主体的な参加：30％
先行研究の収集と理解：30％
独自調査の企画と実施：40％

【学生の意見等からの気づき】
一人ひとりの力量形成に、より力を入れていきたいと考えています。

【その他の重要事項】
２年次の演習からの継続受講を原則とします。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In this course, students will take up themes from various issues related to work, according to their own interests, and prepare to write their seminar papers.
【Learning Objectives】
Students are expected to deepen their "questions" by reading related literature and begin research for writing their seminar papers.
【Learning activities outside of classroom】
Students will be expected to plan and conduct their own research.
Your study time will be more than four hours for a class.
【Grading Criteria/Policies】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
In-class contribution ：30％
Collecting and understanding related literature：30％
Planning and conducting original research：40％

MAN200MA（経営学 / Management 200）

演習（ビジネス）【3・4年生用】

上西　充子

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水6/Wed.6　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
働くことをめぐる諸問題から各自の問題関心に合わせたテーマを取り上げ、ゼミ論の執筆に取り組みます。

【到達目標】
適切な論文構成により、ゼミ論を完成させることができる。
ゼミ論執筆のプロセスを通じて、みずからの卒論の研究課題と研究方法を固めていくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
秋学期はゼミ論の執筆に取り組みます。論文の構成の方法、先行研究への適切な言及方法、研究結果の整理の方法などを実践的に学びながら、ゼミ論を完成させます。
課題レポートについては順次、具体的にフィードバックを行います。
４年次は卒業論文執筆指導となります。シラバスの「卒業論文（ビジネス）」を参照すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究課題の文章化	研究課題を文章化し、検討する
第2回	ゼミ論中間発表	各自のゼミ論の構想を中間発表する
第3回	ゼミ論中間発表の検討	各自のゼミ論の構想を相互に検討する
第4回	論文の構成	論文の構成を検討する
第5回	既存の文献から学ぶ	すぐれた論文の構成を既存の文献を通じて検討する
第6回	論文構成の検討	みずからの論文構成を再検討する
第7回	ゼミ論の執筆状況の確認	ゼミ論の執筆状況を確認する
第8回	ゼミ論の執筆指導	ゼミ論の執筆状況を確認し、個別指導を行う
第9回	ゼミ論の執筆内容の再検討	ゼミ論の執筆内容を再検討し、個別指導を行う
第10回	ゼミ論の発表	ゼミ論を発表する
第11回	ゼミ論へのコメント	各自のゼミ論に相互にコメントを行う
第12回	ゼミ論に対するコメントの検討	ゼミ論の発表に対し、寄せられたコメントを検討する
第13回	振り返り	ゼミ論執筆を振り返る
第14回	今後に向けた課題設定	ゼミ論執筆を振り返り、卒論に向けた課題設定を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
独自調査結果を整理し、中間発表の準備を行う。
ゼミ論の執筆を進める。
ゼミ論発表に向けた準備を行う。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に定めない

【参考書】
・木下是雄（1994）『レポートの組み立て方』ちくま学芸文庫
その他の文献については、授業内で随時指示します。

【成績評価の方法と基準】
ゼミへの主体的な参加：30％
発表：20％
ゼミ論：50％

【学生の意見等からの気づき】
一人ひとりの力量形成に、より力を入れていきたいと考えています。

【その他の重要事項】
２年次の演習からの継続受講を原則とします。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In this course, students will take up themes from various issues related to work, according to their own interests, and work on writing seminar papers.
【Learning Objectives】
Students are expected to complete a seminar pater with an appropriate structure.
【Learning activities outside of classroom】
Students are expected to prepare a presentation and write a seminar paper.
Your study time will be more than four hours for a class.
【Grading Criteria/Policies】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
In-class contribution ：30％
Presentation：20％
Seminar paper：50％

MAN200MA（経営学 / Management 200）

演習（ビジネス）【2年生用】

梅崎　修

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水5/Wed.5　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地域を対象として、社会調査の実践的な学習を進めていきます。まず、地域データ分析やインタビューの理論や方法を学びます。その後、実際に地域調査を実施する中で、調査のスキルを身に付けることを目指します。また、同時に地域経済や地域活性化政策について文献を読みながら議論をし、現代における地域経済について学びます。

【到達目標】
2年生秋学期の授業なので、3年次以降の演習に繋がるように調査スキルの学習を第一に考えます。一人で地域経済の官庁統計を理解し、分析できること。さらに、人物にアポイントメントをとり、インタビュー調査を実施できることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
西村幸夫・野澤康「まちの見方・調べ方－地域づくりのための調査法入門」（朝倉書店）や岡田知弘・品田茂「行け行け！ わがまち調査隊－市民のための地域調査入門」（自治体研究社）の数章を基礎に調査法を学び、実際に地域調査を行います。調査対象地域に関しては、学生と一緒に相談しながら決めたいと思いますが、繰り返し調査地域を訪れるので、大学から近い地域になります。なお、課題等の提出は授業支援システムを利用し、フィードバックはを授業とオフィスアワーを通じて行う予定です

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ゼミの運営方針の説明。班分けなど。	ゼミの運営方針を説明し、お互いの自己紹介を行います。
第2回	地域の官庁統計の説明。	地域統計を解説。
第3回	統計情報の分析（1）	実際の官庁統計を分析してみる。
第4回	統計情報の分析（2）	前回講義に引き続き、官庁統計を分析してみる。
第5回	統計分析の実習	ある地域を決めて、統計分析を実際に行う。
第6回	報告会	統計分析のレポート報告会
第7回	地域資料の利用方法（地図、行政資料、歴史資料）	地域の文献資料の探し方を解説。
第8回	地域図書館・資料館の訪問。	実際に地域の図書館・資料館を訪問する。
第9回	インタビュー調査方法の説明	インタビュー調査方法について、解説。
第10回	インタビュー調査の企画会議	インタビュー調査の計画を練る。
第11回	地域まちあるき	外に出て、調査対象を探す。
第12回	インタビュー調査実習①	インタビューを実施。その経験を振り返る。
第13回	インタビュー調査実習②	インタビューを実施。その経験を振り返る。
第14回	報告会	インタビュー調査のレポート報告会。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
地域調査を軸とした演習運営なので、授業時間外に調査の時間を確保してもらいます。実際は、班分けをして調査を行いますので、学生の自主性が重んじられます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
決まったテキストは使用せず、配布資料を使って授業をします。

【参考書】
西村幸夫・野澤康「まちの見方・調べ方－地域づくりのための調査法入門」（朝倉書店）
岡田知弘・品田茂「行け行け！ わがまち調査隊－市民のための地域調査入門」（自治体研究社）

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な貢献度(50%）＋報告内容（50%）

【学生の意見等からの気づき】
地理的情報など、基礎的な地域情報を適宜抗議していく。授業の中で皆さんの意見を取り入れてより良いものにしていければと思っています。

【学生が準備すべき機器他】
パソコンやicレコーダーを使用します。

【Outline (in English)】
The main objects of this course are to get method of social research and conduct research about local economy or community by yourself. To achieve this goal, this course is to study how to use official statistics, conduct literature searching, interview somebody and carry out an observation.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
Final grade will be calculated according to the following process Report(50%) and in-class contribution(50%).

MAN200MA（経営学 / Management 200）

演習（ビジネス）【3・4年生用】

梅崎　修

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：水5/Wed.5　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
調査を通じた地域研究・地域マネジメントが授業のテーマである。具体的な調査実習を通して地域活動について考えてもらう。梅崎演習では、調査報告だけでなく、各地域での地域連携プロジェクトも実施してきた。プロジェクトの企画運営を通じて、地域マネジメントの課題解決について議論する。

【到達目標】
身に付けた調査スキルを使って実際の調査を企画、実施、論文・レポートにまとめる。地域が抱える課題を調査で浮き彫りにし、その上で地域活性化やまちづくりに対する具体的な提案ができるようになる。地域との連携プロジェクトでは、プロジェクトの企画力、チーム運営力などを身に付けてほしい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
3年生は、班ごとの地域調査レポートの作成と地域プロジェクト運営、4年生はプロジェクトの完成と卒業論文の作成を第一に考える。春学期の授業では、調査の企画、開始までを指導を受けながら少しずつ進める。なお、課題等の提出は授業支援システムを利用し、フィードバックはを授業とオフィスアワーを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の進め方を話し合う。班分けなどを決める。
第2回	調査法解説	これまでの調査経験を振り返り、新たに身に付けるべき調査法について検討。
第3回	論文・レポートの書き方	論文・レポートの書き方を解説。
第4回	論文・レポートの発表の仕方	論文・レポートの発表の仕方を解説。
第5回	地域経済学（文献）を読む。	地域経済学に関する文献を読み、議論する。
第6回	オーラルヒストリー（文献）を読む	オーラルヒストリーに関する文献を読み、議論する。
第7回	まちづくり（文献）を読む。	まちづくりに関する文献を読み、議論する。
第8回	調査企画報告①	約５名が調査企画を報告。調査企画について教員、学生からのコメントを受ける。
第9回	調査企画報告②	約５名が調査企画を報告。調査企画について教員、学生からのコメントを受ける。
第10回	調査企画報告③	約５名が調査企画を報告。調査企画について教員、学生からのコメントを受ける。
第11回	調査経過報告①	約５名が調査経過を報告。調査企画について教員、学生からのコメントを受ける。
第12回	調査経過報告②	約５名が調査経過を報告。調査企画について教員、学生からのコメントを受ける。
第13回	調査経過報告③	約５名が調査経過を報告。調査企画について教員、学生からのコメントを受ける。
第14回	夏休み合宿準備	合宿先での調査を全員で議論。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
調査は、基本的に授業外の時間で行います。時間を確保して、事前準備、調査実施、調査のまとめを行ってもらいます。また、授業時間とは別にサブゼミに参加してもらいます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。必要に応じてコピーを配ります。

【参考書】
特になし。必要に応じてコピーを配ります。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な貢献度50%、レポート・論文の報告内容50%

【学生の意見等からの気づき】
卒業論文に関しては、長文を書くのに苦労をするので、春学期の段階から論文の書き方を講義していく。

【Outline (in English)】
In this seminar, students will learn regional management through investigations. Seminar students plan and conduct research while learning the survey method. At the Umezaki seminar, we have managed research reports as well as regional cooperation projects in each region. We will discuss the problem solving of regional management through project planning and management.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
Final grade will be calculated according to the following process Report(50%) and in-class contribution(50%).

MAN200MA（経営学 / Management 200）

演習（ビジネス）【3・4年生用】

梅崎　修

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水6/Wed.6　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
調査を通じた地域研究・地域マネジメントが授業のテーマである。具体的な調査実習を通して地域活動について考えてもらう。梅崎演習では、調査報告だけでなく、各地域での地域連携プロジェクトも実施してきた。プロジェクトの企画運営を通じて、地域マネジメントの課題解決について議論する。

【到達目標】
春学期に引き続き、身に付けた調査スキルを使って実際の調査を企画、実施、論文・レポートにまとめる。秋学期は、レポートや論文の完成を目指す。地域が抱える課題を調査で浮き彫りにし、その上で地域活性化やまちづくりに対する具体的な提案ができるようになる。地域との連携プロジェクトでは、プロジェクトの企画力、チーム運営力などを身に付けてほしい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
3年生は、班ごとの地域調査レポートの作成と地域プロジェクト運営、4年生は卒業論文の作成を第一に考える。春学期の授業では、調査の企画、開始までを指導を受けながら少しずつ進める。なお、課題等の提出は授業支援システムを利用し、フィードバックはを授業とオフィスアワーを通じて行う予定です

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	夏休み合宿の振り返り	夏休み合宿の振り返り、議論をする。
第2回	文章力向上のための講義	長文を論理的に書くためのノウハウを講義する。
第3回	プレゼンテーション向上のための講義	プレゼンテーションを時間内にわかりやすく行うためのノウハウを講義する。
第4回	文献購読（アクションリサーチ）	地域連携プロジェクトを最終的な課題提案につなげるために、アクションリサーチの文献を読む。
第5回	文献購読（地域政策）	地域政策の論文を輪読し、議論する。
第6回	レポート・論文の中間報告①	約５名がレポート・論文の経過を報告。教員、学生からのコメントを受ける。
第7回	レポート・論文の中間報告②	約５名がレポート・論文の経過を報告。教員、学生からのコメントを受ける。
第8回	レポート・論文の中間報告③	約５名がレポート・論文の経過を報告。教員、学生からのコメントを受ける。
第9回	レポート・論文の中間報告④	約５名がレポート・論文の経過を報告。教員、学生からのコメントを受ける。
第10回	ゲスト講師の講義	地域活性化に携わるゲスト講師の講義
第11回	地域連携プロジェクトのワークショップ①	サブゼミ中心に進めてきた地域連携プロジェクトの成果報告とワークショップ形式で議論。
第12回	地域連携プロジェクトのワークショップ②	サブゼミ中心に進めてきた地域連携プロジェクトの成果報告とワークショップ形式で議論。
第13回	レポート・論文の最終報告①	10名ずつ、論文・レポートの最終報告会。サブゼミの時間も使う。
第14回	レポート・論文の最終報告②	10名ずつ、論文・レポートの最終報告会。サブゼミの時間を使う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
調査は、基本的に授業外の時間で行います。時間を確保して、事前準備、調査実施、調査のまとめを行ってもらいます。また、授業時間とは別にサブゼミに参加してもらいます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。必要に応じてコピーを配ります。

【参考書】
河野哲也「レポート・論文の書き方入門　第3版」慶應義塾大学出版会

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な貢献度50%、レポート・論文の報告内容50%

【学生の意見等からの気づき】
レポート・卒業論文作成は、長文を書くことに苦労するので、細かいチェックポイントを設けて指導していく。

【Outline (in English)】
In this seminar, students will learn regional management through investigations. Seminar students plan and conduct research while learning the survey method. At the Umezaki seminar, we have managed research reports as well as regional cooperation projects in each region. We will discuss the problem solving of regional management through project planning and management.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
Final grade will be calculated according to the following process Report(50%) and in-class contribution(50%).

MAN200MA（経営学 / Management 200）

演習（ビジネス）【2年生用】

酒井　理

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水5/Wed.5　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業では、実践的にマーケティングを学びます。少人数でマーケティングに関わるプロジェクトを自分たちで企画して、実際に運営します。プロジェクトベーストラーニングを通して、企画力、構想力、実行力を身につけます。

【到達目標】
秋学期を通じてマーケティングに関する専門的知識を獲得することを目標とします。またグループワークによって協調性を養いつつ、他者とのディスカッションを通して理解をさらに深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
ゼミはグループワークを中心に進めます。何事もゼミ生相互に協働しながら活動を行います。プロジェクトを実施します。また3年と合同でビジネスプランコンテストに参加します。
毎週の活動や課題に関しては、毎回の授業時にフィードバックします。プロジェクトの進捗に応じて、個別にアイデアの壁打ちなど柔軟に対応します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	秋学期のゼミの運営方法について意見を交換します。
第2回	ゼミ計画とチームビルディング	秋学期の２年生プロジェクトの計画を立てるとともに，チームを形成してプロジェクトに臨む準備をします
第3回	マーケティングコンテストプラン作成1	マーケティングコンテストに参加するための準備をします。
第4回	マーケティングコンテストプラン作成2	マーケティングコンテストに参加するための準備をします。
第5回	マーケティングコンテストプラン中間発表	コンテストに提出するプランの途中経過を発表します.
第6回	マーケティングコンテストプラン作成3	マーケティングコンテストに参加するための準備をします。
第7回	マーケティングコンテスト提出プランの発表	ブラッシュアップした最終提案を発表します
第8回	マーケティングコンテストの振り返り	PDCAのチェックを行います. 実践をゼミ全体で振り返ります.
第9回	プロジェクトの準備	プロジェクトのテーマを決定して，計画を立てます
第10回	プロジェクトパートナーとの打合せ	ともにプロジェクトを進める外部機関との調整を行います
第11回	プロジェクトの実施1	提案に基づいて実践を行います。
第12回	プロジェクトの実施2	実践しながら計画や運用を修正して実践内容を改善します。
第13回	プロジェクトの振り返り	プロジェクト実施までのプロセスを振り返ります。
第14回	まとめ	プロジェクトを報告書にまとめるための活動総括を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
プロジェクトを成功させるために、日常生活のなかで、さまざまな経験を積む事を心がけてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業開始後に決定します。

【参考書】
適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
ゼミへの貢献度４０%，プロジェクトへの取り組み姿勢４０%，プロジェクトの成果２０%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
学生同士、学生と教員のディスカッションが活発になるように工夫をします。

【その他の重要事項】
ゼミを運営するにあたって、学生の専門的知識の獲得の他、行動力、判断力、創造力、コミュニケーション能力、主体性を涵養あるいは向上させることを意識しています。これらは社会に出たときに重要と思われる資質・能力だと考えます。

【Outline (in English)】
[Course outline]
In class, we will learn marketing practically. We plan and manage the projects involved in marketing by a small group and actually manage it. Through project-based learning, we will acquire creativity, structure-building ability, and execution skill.
[Learning Objectives]
The goal is to acquire specialized knowledge of marketing throughout the fall semester. Students will also deepen their understanding through discussions with others while developing cooperative skills through group work.
[Method]
The seminar will focus on group work. All activities are conducted in collaboration with each other. Projects will be implemented. We also participate in business plan contests. Feedback on weekly activities and assignments will be provided in each class.
[Learning activities outside of classroom]
To ensure the success of projects, be sure to gain a variety of experiences on a regular basis. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
[Grading Criteria /Policy]
The evaluation will be based on 40% contribution to the seminar, 40% attitude toward the project, and 20% results of the project.

MAN200MA（経営学 / Management 200）

演習（ビジネス）【3・4年生用】

酒井　理

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：水5/Wed.5　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業では、実践的にマーケティングを学びます。少人数でマーケティングに関わるプロジェクトを自分たちで企画して、実際に運営します。プロジェクトベーストラーニングを通して、創造力、構想力、実行力を身につけます。

【到達目標】
春学期を通じてマーケティングに関する専門的知識を獲得することを目標とします。協調性を養いつつ、他者とのディスカッションを通して理解をさらに深めます。春学期では文献資料を集める経験を経ることで情報収集の技術を獲得することも目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
ゼミはPBL（プロジェクトベーストラーニング）によって進めます。ある課題に対してそれを解決するためのプロセスを通してさまざまなことを学んでいこうとする方法です。実際の行動をともないますので、「協調性」「責任感」「リーダーシップ」「実行力」がすべてのゼミ生に求められます。
ゼミの取り組みは大きく２つあります。①プロジェクトの企画と運営、②新たなビジネスプランの考案です。プロジェクトは現実に何かを動かす経験をすることになります。ビジネスプランの考案は、ビジネスプランコンテストに参加して外部の評価を受けます。
毎週の活動や課題に関しては、毎回の授業時にフィードバックします。プロジェクトの進捗に合わせた個別の壁打ち相談やフィードバックは柔軟に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	ゼミの運営方法について意見を交換します。学生主体で運営していけるような形を話合いで決めていきます。
第2回	プロジェクトビルディング(コンセプトの構築)	プロジェクトを作り上げるためにアイディア発想、プロジェクトコンセプトの構築をグループワークをしながら進めます。
第3回	プロジェクトビルディング（計画策定）	プロジェクト実践を想定した計画を策定するためのグループワークをおこないます。
第4回	ビジネスプラン（アイディア発想ワーク）	ビジネスプランコンテストに向けてアイディア出しを行います。グループワークでアイディアを洗練させます。
第5回	ビジネスプラン（プランの作成）	ビジネスプランコンテストのテーマに合わせた内容をかためます。
第6回	ビジネスプラン（プレゼンテーション）	ゼミ内でプレゼンテーションを行ってプランのブラッシュアップを行います。
第7回	プロジェクト実施に向けたリサーチ準備	プロジェクトを実際にローンチする前に、事前のマーケティングリサーチを計画します。
第8回	リサーチの実行	プロジェクトを行うにあたって必要なマーケティングリサーチを実施します。
第9回	リサーチデータの収集と分析	マーケティングリサーチを行って集めたデータを分析します。
第10回	プロジェクトビルディング（実装準備）	プロジェクトを実際にローンチするための最終的な調整を行います。
第11回	プロジェクトのローンチ	プロジェクト実際に立ち上げて実行していきます。
第12回	プロジェクトのモニタリング	プロジェクトのを実行し、その経過をモニタリングして、分析します。
第13回	プロジェクトの修正	プロジェクトの問題点を抽出して分析します。
第14回	春学期まとめ	夏期休暇中のゼミの活動計画と秋学期の準備をおこないます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
社会の出来事はすべて現場で起きています。とにかく何ごとも実践です。現場で体験する、実際にアクションを起こして経験していくことが大事です。机に向かって勉強するよりは、外に出かけてさまざまな事象に向き合うようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指示しません。

【参考書】
適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
ゼミへの貢献度５０%，プロジェクトへの取り組み姿勢５０%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
学生同士、学生と教員のディスカッションを活発にする工夫をしていきます。

【その他の重要事項】
ゼミを運営するにあたって、学生の専門的知識の獲得の他、行動力、判断力、創造力、コミュニケーション能力、主体性を涵養あるいは向上させることを意識しています。これらは社会に出たときに重要と思われる資質・能力だと考えます。

【Outline (in English)】
[Course outline]
In class, we will learn marketing practically. We plan and manage the projects involved in marketing by a small group and actually manage it. Through project-based learning, we will acquire creativity, structure-building ability, and execution skill.
[Learning Objectives]
The goal is to acquire specialized knowledge of marketing throughout the spring and fall semesters. Students will further deepen their understanding through discussions with others while developing cooperative skills. In the spring semester, students will also acquire information-gathering skills through experience in gathering literature.
[earning activities outside of classroom]
All social events are happening on the ground. Anyway, everything is a practice. Experience in the field, take action, and experience.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
[Grading Criteria /Policy]
Evaluation will be based on 50% contribution to the seminar and 50% commitment to the project.

MAN200MA（経営学 / Management 200）

演習（ビジネス）【3・4年生用】

酒井　理

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水6/Wed.6　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テーマは『マーケティング実践』です。世の中に役立つ、人々にとって価値のあるものを創造して相手に提供していくことがマーケティングの役割ですから、それに関することであればよしとして、研究課題は幅広く受け入れたいと思います。

【到達目標】
秋学期を通じてマーケティングに関する専門的知識を獲得することを目標とします。またグループワークによって協調性を養いつつ、他者とのディスカッションを通して理解をさらに深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
ゼミはグループワークを中心に進めます。何事もゼミ生相互に協働しながら活動を行います。秋学期は、春学期と同様にプロジェクトを実施します。また、半期に１度のビジネスプランコンテストに参加します。3年生は卒業論文のベースとなるようにプロジェクトの内容を深く掘り下げてまとめる作業を行います。
毎週の活動や課題に関しては、毎回の授業時にフィードバックします。プロジェクトの進捗に合わせた個別の壁打ち相談やフィードバックは柔軟に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	秋学期のゼミの運営方法について意見を交換します。
第2回	マーケティング研究論文のレビュー１（サービスマーケティング）	プロジェクトに関わるマーケティングの研究論文を渉猟して整理して要約する作業を行います。テーマはサービス・マーケティング。
第3回	マーケティング研究論文のレビュー２（サービタイゼーション）	プロジェクトに関わるマーケティングの研究論文を渉猟して整理して要約する作業を行います。テーマはサービタイゼーション。
第4回	マーケティング研究論文のレビュー３（AIとIoT）	プロジェクトに関わるマーケティングの研究論文を渉猟して整理して要約する作業を行います。テーマはAIとIoT。
第5回	ゲスト講師とのディスカッション（マーケティング）	マーケターをゲストに、実際に行われているマーケティングを題材にディスカッションを行います。
第6回	ゲスト講師とのディスカッション（スタートアップ）	起業のノウハウ、マインドセットなどをテーマにディスカッションを行います。
第7回	バーチャルビジネスゲームの実施	インターネット広告企業の人事部を招いてビジネスゲームを行います。ビジネスセンス修得のヒントを得ます。
第8回	プロジェクトのロジック構築	研究的視点からプロジェクトのロジックを組み立てます。
第9回	プロジェクトのコンセプト再考	研究の視点からプロジェクトを捉え直してコンセプトを再考する作業を行います。
第10回	プロジェクト計画のリファイン	プロジェクトを走らせながら新たなロジックとコンセプトで計画をリファインします。
第11回	プロジェクトの実施	プロジェクトを運営して、マーケティングの実際、プロジェクトマネジメントの実際を学びます
第12回	検証データの収集と分析	プロジェクトを通して、仮説の検証を行います。得られたデータを分析して結論を導き出します。
第13回	プロジェクトの振り返り	プロジェクトをクロージングして、ここまでのプロセスの振り返りを行います。
第14回	まとめ	プロジェクトを報告書にまとめるための活動総括を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
プロジェクトを成功させるために、日常生活のなかで、さまざまな経験を積む事を心がけてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業開始後に決定します。

【参考書】
適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
ゼミへの貢献度５０％，取り組み姿勢５０％で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
学生同士、学生と教員のディスカッションが活発になるように工夫をします。

【学生が準備すべき機器他】
ゼミで配布する資料はすべてデジタルドキュメントです。PC、タブレット、スマートフォンなどコミュニケーションサービスの"Slack"にアクセスできる環境が必要です。

【その他の重要事項】
ゼミを運営するにあたって、学生の専門的知識の獲得の他、行動力、判断力、創造力、コミュニケーション能力、主体性を涵養あるいは向上させることを意識しています。これらは社会に出たときに重要と思われる資質・能力だと考えます。

【Outline (in English)】
[Course outline]
The theme of the class is practical marketing. The role of marketing is to create something that is useful to the world and valuable to people and provide it to others. The seminar accepts a wide range of research projects.
[Learning Objectives]
The goal is to acquire specialized knowledge of marketing through the spring and fall semesters. Students will also deepen their understanding through discussions with others while developing cooperative skills through group work.
[Method]
The seminar will focus on group work. All activities are conducted in collaboration with each other. In the fall semester, projects are conducted in the same manner as in the spring semester. Third-year students will work in-depth to summarize the contents of their projects as the basis for their graduation thesis.
[Learning activities outside of classroom]
Be sure to gain a variety of experiences to ensure the success of your project. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
[Grading Criteria /Policy]
Evaluation will be based on 50% contribution to the seminar and 50% attitude toward the seminar.

MAN200MA（経営学 / Management 200）

演習（ビジネス）【2年生用】

坂爪　洋美

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：月5/Mon.5　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、産業・組織心理学の視点から、働く人々や人材マネジメントについて広くとらえた上で、考えていきます。具体的には個人のwell-beingを追及する心理学と、人材の活用を通じたパフォーマンスの向上を求める組織との間で生じる様々な現象について理解を深めます。
ここ数年は、前半は、グループディスカッションを通じて議論を深め、後半は、企業とのコラボで提案をしています。

【到達目標】
到達目標は大きく分けて２つあります。
（１）産業・組織心理学の基礎概念について、①正しく理解した上で、自分の言葉で説明できるようになること、②働く場の様々な問題への対応策を個人レベル、職場レベル、組織レベルで考えられるようになること
（２）3年次以降のゼミ活動につながるように、①仮説を立てて検証し、レポートを作成するまでの調査実施、レポート作成、プレゼンテーションのスキル獲得、②グループワークに必要なコミュニケーション力、を身に着けること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
導入時期は、グループディスカッションになれることを目的に、ディベートならびにグループワークを数回実施する。中盤以降は、グループに分かれて、企業から提示されたテーマに対する提案を検討し、最終報告に向けてプレゼンテーションの準備を行う。
ゼミの中で出た質問や意見に対しては、その授業内で全体に対してコメントする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	ゼミの進め方と自己紹介
第2回	ディベートに向けて	ディベートについての説明
第3回	第1回ディベート（1）	指定されたテーマについて調べる
第4回	第1回ディベート（2）	ディベートの実施
第5回	第2回ディベート（1）	指定されたテーマについて調べる
第6回	第2回ディベート（2）	ディベートの実施
第7回	企業に向けた提案（1）	グループに分かれて、現状分析を行う
第8回	企業に向けた提案（2）	グループに分かれて、提案内容を検討する
第9回	企業に向けた提案（3）	グループに分かれて、提案内容を検討する
第10回	企業に向けた提案（4）	プレゼンテーション練習を行う。
第11回	企業に向けた提案（5）	プレゼンテーション
第12回	活動の振り返り	ゼミ活動について振り返りを行う
第13回	卒論発表会（1）	卒論に対してコメントを行う
第14回	次年度に向けた準備	次年度のゼミ活動にむけた提案をする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
□ディベートならびに企業からの課題に向けた提案について
　指定されたテーマに関する情報収集ならびに整理は、必要に応じて各自で行うこと。ゼミの時間内はメンバーとのディスカッションと意見の整理を行う。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
木下是雄（1994）『レポートの組み立て方』ちくま学芸文庫

【参考書】
授業内に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（レジュメ・プレゼンテーション・ディスカッションや調査実施における積極的な関与）：6割
調査報告（報告書とプレゼンテーション）：４割

【学生の意見等からの気づき】
よりゆとりのあるスケジュールでの進行とします。

【授業中に求められる学習活動につ いて】
I

【Outline (in English)】
In this course, we will consider the state of working people and human resource management from the perspective of industrial and organizational psychology. For the past few years, in the first few sessions of the course, each student prepared materials on a pre-designated theme (e.g., one-day internship) and had a group discussion to deepen their understanding of the theme. In the latter half of the course, students made proposals on themes presented by companies.
There were two objectives of this course.
(1) To understand the basic concepts of industrial/organizational psychology, and to be able to propose solutions to the issues presented by companies.
(2) To be able to collect necessary information and data to solve problems, and to be able to logically derive solutions.
(3) To acquire the communication skills necessary for group work
Students are expected to collect and organize information on the assigned topic by themselves as necessary. During the seminar time, students will discuss and organize their opinions with other members. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
The criteria for grading are as follows. Active involvement during resume creation, discussion, and survey implementation: 60%. Preparation and reporting of presentation materials: 40%.

MAN200MA（経営学 / Management 200）

演習（ビジネス）【3・4年生用】

坂爪　洋美

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：月5/Mon.5　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、産業組織心理学の観点から、働く人々（これから働く人々を含む）に関わる課題についての調査を行いレポートを作成します。この活動を通じて、学生は働く人々の現状や課題について理解を深め、それらを解決するために有益な視点を獲得することを目指します。

【到達目標】
到達目標は２つです。
（１）産業・組織心理学の基礎概念について、①正しく理解した上で、自分の言葉で説明できるようになること、②働く場の様々な問題への対応策を個人レベル、職場レベル、組織レベルで考えられるようになること
（２）仮説を立ててデータを収集し、統計的な分析を行い、結果についてのレポートを作成するといった調査実施からレポート作成、プレゼンテーションに関わる幅広いスキルの獲得

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
ゼミ生をグループに分けて、グループごとに調査テーマを設定し、調査を進め、最終手kにレポートを作成する。教員は、毎回その日の進捗に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	ゼミの進め方と自己紹介
第2回	調査に向けて	調査アイディアの検討とグループ分け
第3回	調査テーマの設定	各グループで調査テーマを決定する
第4回	先行研究の整理①	関連分野の先行研究を集める
第5回	先行研究の整理②	関連分野の先行研究を整理する
第6回	調査案の確定	調査案を決定する
第7回	調査の実施①	実際に調査を実施する
第8回	調査の実施②	実際に調査を実施する
第9回	分析①	収集されたデータの分析を行う
第10回	分析②	データ分析に基づいた考察を行う
第11回	レポート作成①	調査をレポートとして完成させる
第12回	レポート作成②	教員からの指摘に基づいてレポートをブラッシュアップする
第13回	プレゼンテーション練習	翌週の報告会に向けて発表練習を行う
第14回	報告会	各グループの結果を共有する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自の調査テーマに関する情報収集ならびに整理は、必要に応じて各自で行うこと。授業の時間内はメンバーとのディスカッションを中心に行う。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
木下是雄（1994）『レポートの組み立て方』ちくま学芸文庫

【参考書】
授業内に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（レジュメ・プレゼンテーション・ディスカッションや調査実施における積極的な関与）：6割
調査報告（報告書とプレゼンテーション）：４割

【学生の意見等からの気づき】
収集されたデータ分析にかける時間をやや増やす

【授業中に求められる学習活動につ いて】
I

【Outline (in English)】
In this class, students learn how to conduct research on issues involving working people (including those who will be working) and how to write a report describing the findings. Through these studies, students aim to gain a better understanding of the current situation and problems of working people and gain useful perspectives to solve them.
There are two goals for this class.
(1)To understand the basic concepts of industrial and organizational psychology and to be able to explain the problems of working people using these concepts
(2)Acquisition of a wide range of skills from conducting research to reporting and presentation, including hypothesizing, collecting data, performing statistical analysis, and reporting on analysis results
Students are required to collect and organize information on their research topics before the start of the class. Activities during class hours will focus on discussions based on data collected in advance. The standard time for preparatory study and review in this class is 2 hours each.
The criteria for grading in this class are as follows. Active involvement in resumes, presentation discussions and surveys: 60%
Research reports (prepared reports and presentations): 40%

MAN200MA（経営学 / Management 200）

演習（ビジネス）【3・4年生用】

坂爪　洋美

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：月6/Mon.6　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、産業・組織心理学の視点から、働く人々や人材マネジメントについて広くとらえた上で、考えていきます。具体的には個人のwell-beingを追及する心理学と、人材の活用を通じたパフォーマンスの向上を求める組織との間で生じる様々な現象について理解を深めます。
ここ数年は、前半は、グループディスカッションを通じて議論を深め、後半は、企業とのコラボで提案をしています。

【到達目標】
到達目標は大きく分けて２つあります。
（１）産業・組織心理学の基礎概念について、①正しく理解した上で、自分の言葉で説明できるようになること、②働く場の様々な問題への対応策を個人レベル、職場レベル、組織レベルで考えられるようになること
（２）3年次以降のゼミ活動につながるように、①仮説を立てて検証し、レポートを作成するまでの調査実施、レポート作成、プレゼンテーションのスキル獲得、②グループワークに必要なコミュニケーション力、を身に着けること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
導入時期は、グループディスカッションになれることを目的に、ディベートならびにグループワークを数回実施する。中盤以降は、グループに分かれて、企業から提示されたテーマに対する提案を検討し、最終報告に向けてプレゼンテーションの準備を行う。
ゼミの中で出た質問や意見に対しては、その授業内で全体に対してコメントする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	ゼミの進め方と自己紹介
第2回	ディベートに向けて	ディベートについての説明
第3回	第1回ディベート（1）	指定されたテーマについて調べる
第4回	第1回ディベート（2）	ディベートの実施
第5回	第2回ディベート（1）	指定されたテーマについて調べる
第6回	第2回ディベート（2）	ディベートの実施
第7回	企業に向けた提案（1）	グループに分かれて、現状分析を行う
第8回	企業に向けた提案（2）	グループに分かれて、提案内容を検討する
第9回	企業に向けた提案（3）	グループに分かれて、提案内容を検討する
第10回	企業に向けた提案（4）	プレゼンテーション練習を行う。
第11回	企業に向けた提案（5）	プレゼンテーション
第12回	活動の振り返り	ゼミ活動について振り返りを行う
第13回	卒論発表会（1）	卒論に対してコメントを行う
第14回	次年度に向けた準備	次年度のゼミ活動にむけた提案をする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
□ディベートならびに企業からの課題に向けた提案について
　指定されたテーマに関する情報収集ならびに整理は、必要に応じて各自で行うこと。ゼミの時間内はメンバーとのディスカッションと意見の整理を行う。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
木下是雄（1994）『レポートの組み立て方』ちくま学芸文庫

【参考書】
授業内に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（レジュメ・プレゼンテーション・ディスカッションや調査実施における積極的な関与）：6割
調査報告（報告書とプレゼンテーション）：４割

【学生の意見等からの気づき】
よりゆとりのあるスケジュールとなるように、内容を絞り込んで進める。

【授業中に求められる学習活動につ いて】
I

【Outline (in English)】
In this course, we will consider the state of working people and human resource management from the perspective of industrial and organizational psychology. For the past few years, in the first few sessions of the course, each student prepared materials on a pre-designated theme (e.g., one-day internship) and had a group discussion to deepen their understanding of the theme. In the latter half of the course, students made proposals on themes presented by companies.
There were two objectives of this course.
(1) To understand the basic concepts of industrial/organizational psychology, and to be able to propose solutions to the issues presented by companies.
(2) To be able to collect necessary information and data to solve problems, and to be able to logically derive solutions.
(3) To acquire the communication skills necessary for group work
Students are expected to collect and organize information on the assigned topic by themselves as necessary. During the seminar time, students will discuss and organize their opinions with other members. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
The criteria for grading are as follows. Active involvement during resume creation, discussion, and survey implementation: 60%. Preparation and reporting of presentation materials: 40%.

MAN200MA（経営学 / Management 200）

演習（ビジネス）【3・4年生用】

佐藤　厚

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：木5/Thu.5　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この演習では「人事管理とキャリア形成」を主たる研究テーマとします。テーマから知られるように、ａ）人事管理の側での働かせ方と、ｂ）働く側の長期的な働き方のニーズ（＝キャリア選択と形成）の調整・両立が最大のポイントとなり、そのあり方を探ることが演習のねらいとなります。

【到達目標】
春学期をベースにグループテーマを設定し、仮説→調査→検証のPDCAサイクルを主体的に回す力を養成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
秋学期では、春学期で編成したグループをベースに、サブテーマを設定し、論点の整理、資料の収集及びフィールドワークを行います。
・リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。
・課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。
・最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	各班ごとに合宿までの総括と秋学期の進め方の確認を行う
第2回	文献研究（和文）	グループ研究(各班)：主に和文の文献レビューと問題意識の整理を行う
第3回	文献研究（欧米）	グループ研究(各班)：主に欧米の文献レビューと問題意識の整理を行う
第4回	ゲストスピーカーヒアリング（ゼミのOB）	ゼミのOBをゲストとして招待し、自身のこれまでのキャリア、今の勤務先の仕事を聞く。あわせてグループ研究の問題意識について聞いてもらうことを通じて当初の問題意識をより明確化する
第5回	ヒアリング調査の質問表の企画	グループ研究(各班)のうち、訪問ヒアリングの質問紙の検討を行う
第6回	ヒアリング調査の仮説の検討	グループ研究(各班)のうち、訪問ヒアリングの質問紙及び仮説の検討を行う
第7回	ゲストスピーカーヒアリング（ゼミのOG）	ゼミのOGをゲストとして招待し、自身のこれまでのキャリア、今の勤務先の仕事を聞く。あわせてグループ研究の問題意識について聞いてもらうことを通じて当初の問題意識をより明確化する
第8回	グループ研究の骨子のまとめ	グループ研究(各班)のうち、グループ研究のまとめ方の骨子の検討とレポートの作成を行う
第9回	グループ研究の内容のまとめ	グループ研究(各班) のうち、グループ研究のまとめ方の内容の検討とレポートの作成を行う
第10回	ゲストスピーカーヒアリング（大学院のOB）	大学院ののOBをゲストとして招待し、自身のこれまでのキャリア、今の勤務先の仕事を聞く。あわせてグループ研究の問題意識について聞いてもらうことを通じて当初の問題意識をより明確化する
第11回	グループ研究の個々人のまとめの報告	グループ研究：レポートのまとめの報告 個人のまとめを行う
第12回	グループ研究全体のまとめの報告と討論	グループ研究：レポートのまとめの報告 班ごとのまとめを行う
第13回	ゲストスピーカーヒアリング（大学院のOG）	ゼミのOGをゲストとして招待し、自身のこれまでのキャリア、今の勤務先の仕事を聞く。あわせてグループ研究の問題意識について聞いてもらうことを通じて当初の問題意識をより明確化する
第14回	グループ研究まとめの報告と討論及び振り返り	グループ研究：レポートのまとめの報告 ゼミ全体のまとめを行う 振り返りを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・通常の演習とは別にサブゼミを班ごとに行い、文献レビューやヒアリング調査の準備をする必要があります。
・また企業への訪問とヒアリングの実施も通常の演習とは別に行う必要があります。
・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
とくに指定はしない。必要に応じて参考文献を演習時に指示します。

【参考書】
佐藤博樹・佐藤厚『仕事の社会学』有斐閣
佐藤　厚『キャリア社会学序説』泉文堂
佐藤博樹・藤村博之・八代充史『新しい人事労務管理』有斐閣
佐藤　厚『ホワイトカラーの世界』日本労働研究機構
佐藤　厚『組織のなかで人を育てる－－企業内人材育成とキャリア形成の方法』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

演習への出席と取り組み姿勢５０％。演習の課題レポート５０％です。

【学生の意見等からの気づき】
先輩の作成したグループレポート論集を参考にしながら、自分たちの到達目標を自覚し、明確化してもらう。

【学生が準備すべき機器他】
担当者はレジメを作成し、報告すること。

【その他の重要事項】
特になし

【Outline (in English)】
【Course outline】
The theme of this class is "Human Resource Development and Career Formation".

You can learn the way how employer develop human resource and how employees develop their skill and knowledge.
This theme can be divided into some subthemes, such as work way of younger workers, women workers, white collar worker.
You can get knowledge and skill about these themes through this class.
【Learning Objectives】
Group themes will be set based on the spring semester, and the ability to independently run the PDCA cycle of hypothesis → research → verification will be cultivated.
【Learning activities outside of classroom】
・ In addition to regular exercises, it is necessary to hold sub-seminars for each group to prepare for literature reviews and hearing surveys.
・It is also necessary to visit the company and conduct hearings separately from the usual exercises.
・The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
Attendance at exercises and 50% attitude. It is 50% of the exercise report.

MAN200MA（経営学 / Management 200）

演習（ビジネス）【3・4年生用】

佐藤　厚

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木6/Thu.6　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この演習では「人事管理とキャリア形成」を主たる研究テーマとします。テーマから知られるように、ａ）人事管理の側での働かせ方と、ｂ）働く側の長期的な働き方のニーズ（＝キャリア選択と形成）の調整・両立が最大のポイントとなり、そのあり方を探ることが演習のねらいとなります。

【到達目標】
春学期をベースにグループテーマを設定し、仮説→調査→検証のPDCAサイクルを主体的に回す力を養成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
秋学期では、春学期で編成したグループをベースに、サブテーマを設定し、論点の整理、資料の収集及びフィールドワークを行います。
・リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。
・課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。
・最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	各班ごとに合宿までの総括と秋学期の進め方の確認を行う
第2回	文献研究（和文）	グループ研究(各班)：主に和文の文献レビューと問題意識の整理を行う
第3回	文献研究（欧米）	グループ研究(各班)：主に欧米の文献レビューと問題意識の整理を行う
第4回	ゲストスピーカーヒアリング（ゼミのOB）	ゼミのOBをゲストとして招待し、自身のこれまでのキャリア、今の勤務先の仕事を聞く。あわせてグループ研究の問題意識について聞いてもらうことを通じて当初の問題意識をより明確化する
第5回	ヒアリング調査の質問表の企画	グループ研究(各班)のうち、訪問ヒアリングの質問紙の検討を行う
第6回	ヒアリング調査の仮説の検討	グループ研究(各班)のうち、訪問ヒアリングの質問紙及び仮説の検討を行う
第7回	ゲストスピーカーヒアリング（ゼミのOG）	ゼミのOGをゲストとして招待し、自身のこれまでのキャリア、今の勤務先の仕事を聞く。あわせてグループ研究の問題意識について聞いてもらうことを通じて当初の問題意識をより明確化する
第8回	グループ研究の骨子のまとめ	グループ研究(各班)のうち、グループ研究のまとめ方の骨子の検討とレポートの作成を行う
第9回	グループ研究の内容のまとめ	グループ研究(各班) のうち、グループ研究のまとめ方の内容の検討とレポートの作成を行う
第10回	ゲストスピーカーヒアリング（大学院のOB）	大学院ののOBをゲストとして招待し、自身のこれまでのキャリア、今の勤務先の仕事を聞く。あわせてグループ研究の問題意識について聞いてもらうことを通じて当初の問題意識をより明確化する
第11回	グループ研究の個々人のまとめの報告	グループ研究：レポートのまとめの報告 個人のまとめを行う
第12回	グループ研究全体のまとめの報告と討論	グループ研究：レポートのまとめの報告 班ごとのまとめを行う
第13回	ゲストスピーカーヒアリング（大学院のOG）	ゼミのOGをゲストとして招待し、自身のこれまでのキャリア、今の勤務先の仕事を聞く。あわせてグループ研究の問題意識について聞いてもらうことを通じて当初の問題意識をより明確化する
第14回	グループ研究まとめの報告と討論及び振り返り	グループ研究：レポートのまとめの報告 ゼミ全体のまとめを行う 振り返りを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・通常の演習とは別にサブゼミを班ごとに行い、文献レビューやヒアリング調査の準備をする必要があります。
・また企業への訪問とヒアリングの実施も通常の演習とは別に行う必要があります。
・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
とくに指定はしない。必要に応じて参考文献を演習時に指示します。

【参考書】
佐藤博樹・佐藤厚『仕事の社会学』有斐閣
佐藤　厚『キャリア社会学序説』泉文堂
佐藤博樹・藤村博之・八代充史『新しい人事労務管理』有斐閣
佐藤　厚『ホワイトカラーの世界』日本労働研究機構
佐藤　厚『組織のなかで人を育てる－－企業内人材育成とキャリア形成の方法』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

演習への出席と取り組み姿勢５０％。演習の課題レポート５０％です。

【学生の意見等からの気づき】
先輩の作成したグループレポート論集を参考にしながら、自分たちの到達目標を自覚し、明確化してもらう。

【学生が準備すべき機器他】
担当者はレジメを作成し、報告すること。

【その他の重要事項】
特になし

【Outline (in English)】
【Course outline】
The theme of this class is "Human Resource Development and Career Formation".

You can learn the way how employer develop human resource and how employees develop their skill and knowledge.
This theme can be divided into some subthemes, such as work way of younger workers, women workers, white collar worker.
You can get knowledge and skill about these themes through this class.
【Learning Objectives】
Group themes will be set based on the spring semester, and the ability to independently run the PDCA cycle of hypothesis → research → verification will be cultivated.
【Learning activities outside of classroom】
・ In addition to regular exercises, it is necessary to hold sub-seminars for each group to prepare for literature reviews and hearing surveys.
・It is also necessary to visit the company and conduct hearings separately from the usual exercises.
・The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
Attendance at exercises and 50% attitude. It is 50% of the exercise report.

MAN200MA（経営学 / Management 200）

演習（ビジネス）【3・4年生用】

武石　恵美子

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：木5/Thu.5　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「これからの働き方を考える」を年間テーマに授業を進めます。
働く人の多様化(ダイバーシティ)、それに伴う働き方の現状や課題を題材にして、少人数によるディスカッション、文献講読、実証研究の進め方、論文作成など研究の基礎を学ぶとともに、キャリアデザインについての理解を深めることを目指します。

【到達目標】
現代社会におけるビジネスキャリア形成に関する問題意識をもち、その解明のために実証的な研究、分析ができるようにすることを目標とします。具体的には、研究テーマの設定、課題意識の明確化、文献研究の進め方、問題意識への実証的なアプローチの方法、実証的なデータ等から結論を導く方法、論文やレポートの書き方など、一連の研究の流れを習得することを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
授業は、年間を通じてグループ別の研究テーマを設定し、その研究課題を解決するための文献講読、データ等の収集などを行い、論文を執筆します。講義、発表、ディスカッション、調査等を組み合わせて実施することになります。特に、実証的な調査（インタビューやアンケートなど）を実施し、そのデータを加工・分析して結論を導くことを重視します。
課題等の提出・フィードバックは各授業の中で実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の概要についてのオリエンテーション
第2回	研究テーマの設定	研究テーマの設定、その内容の具体化を行う
第3回	研究テーマの深め方	研究テーマについてテーマの絞り込みや深化を行う
第4回	文献収集の方法、文献の読み方	文献収集の方法、その読み方について
第5回	研究の企画	研究の企画を行う
第6回	研究方法の検討	研究の方法を検討する
第7回	調査内容の検討	調査対象や内容の検討を行う
第8回	中間報告	研究の中間報告を行う
第9回	調査の実施	フィールド調査を実施する
第10回	調査の実施の継続	フィールド調査を継続する
第11回	調査の実施とデータの集約	引き続きフィールド調査を実施しデータの集約を行う
第12回	調査の実施とデータの集約の継続	引き続きフィールド調査を実施しデータの集約を継続する
第13回	データの収集、分析方法	データの整理方法についての講義
第14回	総括	半期の進捗の振り返り、まとめ、夏休みの課題など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間外には、研究のための文献サーベイや調査の実施等を行うことになります。本授業の各回における準備学習・復習時間は4時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは適宜授業内で指定します。

【参考書】
授業の中で適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
出席と受講態度、研究への取組姿勢、研究論文、ゼミ活動への貢献等を総合的に評価します。
レポート等課題対応50％、授業の参加姿勢50％。

【学生の意見等からの気づき】
全体のディスカッションやグループで研究する作業を重視していきます。

【その他の重要事項】
2年次までに、「ライフコース論」「キャリア開発論」を含めて、職業キャリアや企業の人材マネジメントに関する授業を受講していることが望ましいと考えます。

【Outline (in English)】
Course outline： In this seminar, the theme is “how the coming work-style changes”. In this course, I will pick it up about the agenda of current situation of the work-style. Students will be able to deepen the understanding about the carrier design through a discussion, documents reading and article writing.
Learning Objectives： The goal of this course is to enable students to have awareness of problems related to business career development and to conduct empirical research and analysis to elucidate them.
Learning activities outside of classroom： In addition to class time, students will be expected to voluntarily conduct literature surveys, research, and analysis. Students required study time is at least 4 hours.
Grading Criteria /Policy： Final grade will be calculated according to the following process ; Mid-term/Term-end report and other report assignment (50%) and in-class contribution(50%).

MAN200MA（経営学 / Management 200）

演習（ビジネス）【3・4年生用】

武石　恵美子

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木6/Thu.6　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「これからの働き方を考える」を年間テーマに授業を進めます。
働く人の多様化(ダイバーシティ)、それに伴う働き方の現状や課題を題材にして、少人数によるディスカッション、文献講読、実証研究の進め方、論文作成など研究の基礎を学ぶとともに、キャリアデザインについての理解を深めることを目指します。

【到達目標】
現代社会におけるビジネスキャリア形成に関する問題意識をもち、その解明のために実証的な研究、分析ができることを目標とします。
具体的には、研究テーマの設定、課題意識の明確化、文献研究の進め方、問題意識への実証的なアプローチの方法、実証的なデータ等から結論を導く方法、論文やレポートの書き方など、一連の研究の流れを習得することを到達目標とします。
また、次年度の卒業論文のテーマについて検討を進めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
授業は、年間を通じてグループ別の研究テーマを設定し、その研究課題を解決するための文献講読、データ等の収集などを行い、論文を執筆します。
秋学期の前半は、春学期から進めてきたグループ別の研究課題について、文献講読、データ等の収集などを行った内容を論文としてグループごとに執筆します。また研究成果の発表と発表内容に関するディスカッションを行います。
後半は、新たに視野を広げるために、共通文献を講読して簡単なグループ研究を行い、ディスカッションを行いながらテーマにアプローチをします。卒業論文執筆のためのテーマを検討するプロセスと位置付けて、研究を進めます。
課題等の提出・フィードバックは各授業の中で実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	秋学期授業のオリエンテーション	秋学期の概要についてのオリエンテーション
第2回	テーマに関する論文の執筆	春学期から取り組んできた研究を論文に取りまとめる。
第3回	研究発表の準備	研究発表のための準備を行う。
第4回	研究発表会	研究の発表を行い、内容について相互にコメントをする。
第5回	共通文献（1章、2章）の講読	指定した共通文献の1章、2章について、内容理解とテーマ討議を行う。
第6回	共通文献（3章、4章）の講読	指定した共通文献の3章、4章について、内容理解とテーマ討議を行う。
第7回	卒業論文のテーマ設定の基礎理解	卒業論文のテーマを設定するための、文献講読や方法について講義を行う。
第8回	グループ別テーマ研究のテーマ設定	秋学期後半のグループ別テーマ研究のテーマを設定する。
第9回	グループ別テーマ研究における現状分析	グループ別テーマ研究に関して、現状の把握・分析を進める。
第10回	グループ別テーマ研究における課題状分析	グループ別テーマ研究に関して、課題や政策等についての分析を進める。
第11回	グループ別テーマ研究の発表	グループ別テーマ研究の発表を行い、相互にコメントする。
第12回	卒業論文のテーマ構想の発表	次年度の卒業論文のテーマについての構想を発表し、相互にコメントする。
第13回	卒業論文発表会	4年生の卒業論文の発表をきいて、質疑を行う。
第14回	授業の総括、まとめ	授業の振り返り、総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
問題意識を持ったり、事実を発見したりするために、多くの文献を読むことが必要です。また、実態把握のための調査等、授業内では対応できないことも多いので、主体的、積極的に取り組むことを重視します。本授業の各回における準備学習・復習時間は4時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは適宜授業内で指定します。

【参考書】
授業の中で適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
出席と受講態度、研究への取組姿勢、研究論文、ゼミ活動への貢献等を総合的に評価します。
レポート等課題対応50％、授業の参加姿勢50％。

【学生の意見等からの気づき】
ディスカッションやグループで研究する作業を重視していきます。

【Outline (in English)】
Course outline： In this seminar, the theme of the course is “how the coming work-style changes”. In this course, I will pick it up about the agenda of current situation of the work-style. Students will be able to deepen the understanding about the carrier design through a discussion, documents reading and article writing. In the process, they will acquire tools and develop perspectives to apply to their own research.
Learning Objectives： The goal of this course is to enable students to have awareness of problems related to business career development and to conduct empirical research and analysis to elucidate them.
Learning activities outside of classroom： In addition to class time, students will be expected to voluntarily conduct literature surveys, research, and analysis. Students required study time is at least 4 hours.
Grading Criteria /Policy： Final grade will be calculated according to the following process ; Mid-term/Term-end report and other report assignment （50%) and in-class contribution(50%).

MAN200MA（経営学 / Management 200）

演習（ビジネス）【3・4年生用】

中野　貴之

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：月5/Mon.5　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、計量分析の基礎を演習を行いながら学んでいく。

【到達目標】
各種計量分析が一通りできるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
講義と演習双方を行う。レポートの提出を求めるが、受講者の意見等は授業内で紹介し、さらなる議論に活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本講義の主題と到達目標を説明する。
第2回	パソコン操作の基本	パソコン操作の基本を学ぶ。
第3回	データ処理の基礎	データ処理の基礎について学ぶ。
第4回	データの種類	研究で用いるデータの種類について学ぶ。
第5回	データセットの構築(1)	統計パッケージにおいて、データセットを構築する方法を概説する。
第6回	データセットの構築(2)	グループワークを通じて、データセットの構築をより深く学ぶ。
第7回	データセットの構築(3)	データセットの構築を効率的に行えるように、簡単なプログラミングを学ぶ。
第8回	変数の相関(1)	変数の相関の基本を学ぶ。
第9回	変数の相関(2)	変数の相関の解釈方法やより高度な相関係数について学ぶ。
第10回	単変量分析	単変量分析の方法を学ぶ。
第11回	多変量分析	多変量分析の方法を学ぶ
第12回	計量分析の演習(1)	財務データを用いた演習を行う。
第13回	計量分析の演習(2)	アンケート・データを用いた演習を行う。
第14回	計量分析の演習(3)	作表について演習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞をよく読むなど、自らを取り巻く動向に関心をもつこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
開講時に指示する。

【参考書】
開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】
①授業への取り組み姿勢、結果および成果（70%）
②ゼミの運営および活動への貢献（30%）

【学生の意見等からの気づき】
前向きに取り組んだとの意見が多いため、同様のスタイルで授業を行っていく。

【Outline (in English)】
*Course outline
The aim of this course is to master master the basics of quantitative analysis.
*Learning Objectives
The goal of this class is to be able to perform various types of quantitative analysis.
*Learning activities outside of classroom
Students are encouraged to take an interest in the trends surrounding them, for example by reading newspapers. Your required study time is at least 4 hours for each class meeting.
*Grading Criteria
Your overall grade in the class is determined based on in-class contribution (70%) and contribution to seminar management and activities (30%).

MAN200MA（経営学 / Management 200）

演習（ビジネス）【3・4年生用】

中野　貴之

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：月5/Mon.5　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、企業行動等について、計量的な分析を実施できる能力を身につけることを目的とする。そのために、基本的な統計手法について学ぶとともに、実証的な研究論文の読み方を学んでいく。

【到達目標】
計量的な分析を実施できる能力と、実証的な研究論文の読み方を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
講義と発表双方を行う。レポートの提出を求めるが、受講者の意見等は授業内で紹介し、さらなる議論に活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本講義の主題と到達目標を説明する。
第2回	統計分析の基礎(1)	データセットの構築を行う。
第3回	統計分析の基礎(2)	アンケートデータの分析方法について学ぶ。
第4回	統計分析の基礎(3)	前回に続いて、アンケートデータの分析方法について学ぶ。
第5回	統計分析の基礎(4)	会計のアーカイバルデータの分析方法について学ぶ。
第6回	統計分析の基礎(5)	会計の代表的な論文の分析の複製を試みる。
第7回	統計分析の基礎(6)	前回に続いて、会計の代表的な論文の分析の複製を試みる。
第8回	研究論文のサーベイ(1)	会計数値に関する論文を輪読する。
第9回	研究論文のサーベイ(2)	前回に続いて、会計数値に関する論文を輪読する。
第10回	研究論文のサーベイ(3)	サステナビリティ開示に関する論文を輪読する。
第11回	研究論文のサーベイ(4)	前回に続いて、サステナビリティ開示に関する論文を輪読する。
第12回	研究論文のサーベイ(5)	上場の意義と課題に関する論文を輪読する。
第13回	研究論文のサーベイ(6)	上場の意義と課題に続いて、会計学に関する論文を輪読する。
第14回	研究論文のサーベイ(7)	資本コストに関する論文を輪読する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞をよく読むなど、自らを取り巻く動向に関心をもつこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
開講時に指示する

【参考書】
開講時に指示する

【成績評価の方法と基準】
①授業への取り組み姿勢、結果および成果（70%）
②ゼミの運営および活動への貢献（30%）

【学生の意見等からの気づき】
本演習の内容に前向きに取り組んだとの意見が多いため、同様のスタイルで授業を行っていく。

【Outline (in English)】
*Course outline
The aim of this course is to acquire the ability to conduct quantitative analysis of corporate behavior. For this purpose, we will learn basic statistical methods and how to read empirical research papers.
*Learning Objectives
The goal of this class is to acquire the ability to conduct quantitative analysis and to read empirical research papers.
*Learning activities outside of classroom
Students are encouraged to take an interest in the trends surrounding them, for example by reading newspapers. Your required study time is at least 4 hours for each class meeting.
*Grading Criteria
Your overall grade in the class is determined based on in-class contribution (70%) and contribution to seminar management and activities (30%).

MAN200MA（経営学 / Management 200）

演習（ビジネス）【2年生用】

中野　貴之

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：月4/Mon.4　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、春学期に学習した知識を踏まえて、実際に研究主題を選択し、実証的な研究を実施し、一定の研究成果を残すことを目的とする。各自、具体的な研究テーマを設定し、研究発表に向けた作業を行っていく。

【到達目標】
各自研究を実施し、論文等の形態で研究成果を残すことを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
主に実証的な作業を行っていく。レポートの提出を求めるが、受講者の意見等は授業内で紹介し、さらなる議論に活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本講義の主題と到達目標を説明する。
第2回	研究テーマの設定(1)	研究テーマについて、グループで検討する。
第3回	研究テーマの設定(2)	研究テーマを、各グループで具体的に絞り込む。
第4回	先行研究の検討	先行研究の検討を各グループで行う。
第5回	仮説の構築(1)	検証仮説について検討する。
第6回	仮説の構築(2)	候補となる検証仮説を具体的に特定する。
第7回	データ分析(1)	データの分析を開始する。
第8回	データ分析(2)	データの分析をグループワークにより進める。
第9回	データ分析(3)	前回に続いて、データの分析をグループワークにより進める。
第10回	検証結果の考察	検証結果について、グループにおいて議論する。
第11回	検証結果の再検討	各グループにおいて再検証を行う。
第12回	発表資料の作成(1)	発表資料の作成を行う。
第13回	発表資料の作成(2)	前回に続いて、発表資料の作成を行う。
第14回	発表	各グループの発表を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞をよく読むなど、自らを取り巻く動向に関心をもつこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
開講時に指示する。

【参考書】
開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】
①授業への取り組み姿勢、結果および成果（70%）
②ゼミの運営および活動への貢献（30%）

【学生の意見等からの気づき】
本演習の内容に前向きに取り組んだとの意見が多いため、同様のスタイルで授業を行っていく。

【Outline (in English)】
*Course outline
The purpose of this course is for students to choose a research topic and conduct empirical research. Each student will set a specific research theme and work toward presenting their research.
*Learning Objectives
The goal of this class is for students to write and present their research results in a paper.
*Learning activities outside of classroom
Students are encouraged to take an interest in the trends surrounding them, for example by reading newspapers. Your required study time is at least 4 hours for each class meeting.
*Grading Criteria
Your overall grade in the class is determined based on in-class contribution (70%) and contribution to seminar management and activities (30%).

MAN200MA（経営学 / Management 200）

演習（ビジネス）【2年生用】

古田　克利

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木5/Thu.5　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
組織行動論の視点から、組織の中の人の行動について理解を深めます。経営学、心理学、社会学などの学問分野で蓄積された知見にもとづき、現実世界の現象を捉える思考法を学びます。個人ワークとグループワークを組み合わせ、現実の課題解決提案や新規事業提案に取り組みます。

【到達目標】
・組織行動論の主要な概念や理論について説明できる
・組織行動論の主要な概念や理論を用いて、組織で起きている現象を説明し、課題を抽出できる
・組織行動論の主要な概念や理論を用いて、組織で起きている課題に対する解決策を提案できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
導入時期は、文献調査にもとづくグループディスカッションを数回実施する。中盤以降は、グループに分かれて、特定の組織に対する提案を検討し、最終報告に向けてプレゼンテーションの準備を行う。ゼミの中で出た質問や意見に対しては、その授業内で全体に対してコメントする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	ゼミの進め方と自己紹介
第2回	文献調査1（個人ワーク）	文献調査の方法をレクチャーし、指定されたテーマについて調査する
第3回	文献調査1（グループワーク）	指定されたテーマについて調査した内容をグループ内で発表する
第4回	文献調査2（個人ワーク）	自らテーマを設定し、文献調査を行う
第5回	文献調査2（グループワーク）	自ら設定したテーマについて調査した内容をグループ内で発表する
第6回	現状調査（個人ワーク）	所属する組織の現状調査をおこない発表する
第7回	テーマ説明	後半のグループワークのテーマ説明を行う
第8回	現状調査1	テーマに関連する現状調査を行う
第9回	現状調査2	テーマに関連する調査内容を発表しフィードバックを受ける
第10回	課題の抽出	調査に基づいて課題を設定する
第11回	解決策の提案1	課題解決策の提案を検討する
第12回	解決策の提案2	課題解決策の提案を行い、フィードバックを受ける
第13回	最終報告会	プレゼンテーションを行う
第14回	次年度に向けた準備	次年度のゼミ活動にむけた提案をする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
□各種調査と課題解決策の提案について
　指定されたテーマに関する情報収集ならびに整理は、必要に応じて各自で行うこと。ゼミの時間内は発表とディスカッションを行う。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
授業内に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（レジュメ・プレゼンテーション・ディスカッションや調査実施における積極的な関与）：6割
調査報告（プレゼンテーション）：4割

【学生の意見等からの気づき】
チーム活動を中心に進めたいと考えています

【学生が準備すべき機器他】
パソコンを持参してください

【授業中に求められる学習活動につ いて】
I

【Outline (in English)】
（Course Outline）
In this course, we will consider human behavior in organizations from the perspective of organizational behavior theory. Based on knowledge in academic fields such as business administration, psychology, and sociology.　Students will learn how to think about real-world phenomena.　Through a combination of individual and group work, students work on proposals for solving real-world problems or new business proposals.
（Learning Objectives）
There were three objectives of this course.
(1)To be able to explain key concepts and theories of organizational behavior.
(2)To be able to explain phenomena occurring in an organization and identify issues using key concepts and theories of organizational behavior.
(3)To be able to propose solutions to problems occurring in the organization.
（Learning Activities Outside of Classroom）
During the seminar time, students will discuss and organize their opinions with other members. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
（Grading Criteria/Policy）
The criteria for grading are as follows. Active involvement during resume creation, discussion, and survey implementation: 60%.　Preparation and reporting of presentation materials: 40%.

MAN200MA（経営学 / Management 200）

演習（ビジネス）【3・4年生用】

古田　克利

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：木5/Thu.5　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
組織行動論の視点から、組織の中の人の行動について理解を深めます。経営学、心理学、社会学などの学問分野で蓄積された知見にもとづき、現実世界の現象を捉える思考法を学びます。個人ワークとグループワークを組み合わせ、現実の課題解決提案や新規事業提案に取り組みます。

【到達目標】
・組織行動論の主要な概念や理論について説明できる
・組織行動論の主要な概念や理論を用いて、組織で起きている現象を説明し、課題を抽出できる
・組織行動論の主要な概念や理論を用いて、組織で起きている課題に対する解決策を提案できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
導入時期は、文献調査にもとづくグループディスカッションを数回実施する。中盤以降は、グループに分かれて、特定の組織に対する提案を検討し、最終報告に向けてプレゼンテーションの準備を行う。ゼミの中で出た質問や意見に対しては、その授業内で全体に対してコメントする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	ゼミの進め方と自己紹介
第2回	文献調査1（個人ワーク）	文献調査の方法をレクチャーし、指定されたテーマについて調査する
第3回	文献調査1（グループワーク）	指定されたテーマについて調査した内容をグループ内で発表する
第4回	文献調査2（個人ワーク）	自らテーマを設定し、文献調査を行う
第5回	文献調査2（グループワーク）	自ら設定したテーマについて調査した内容をグループ内で発表する
第6回	現状調査（個人ワーク）	所属する組織の現状調査をおこない発表する
第7回	テーマ説明	後半のグループワークのテーマ説明を行う
第8回	現状調査1	テーマに関連する現状調査を行う
第9回	現状調査2	テーマに関連する調査内容を発表しフィードバックを受ける
第10回	課題の抽出	調査に基づいて課題を設定する
第11回	解決策の提案1	課題解決策の提案を検討する
第12回	解決策の提案2	課題解決策の提案を行い、フィードバックを受ける
第13回	最終報告会	プレゼンテーションを行う
第14回	次年度に向けた準備	次年度のゼミ活動にむけた提案をする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
□各種調査と課題解決策の提案について
　指定されたテーマに関する情報収集ならびに整理は、必要に応じて各自で行うこと。ゼミの時間内は発表とディスカッションを行う。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
授業内に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（レジュメ・プレゼンテーション・ディスカッションや調査実施における積極的な関与）：6割
調査報告（プレゼンテーション）：4割

【学生の意見等からの気づき】
チーム活動を中心に進めたいと考えています

【学生が準備すべき機器他】
パソコンを持参してください

【授業中に求められる学習活動につ いて】
I

【Outline (in English)】
（Course Outline）
In this course, we will consider human behavior in organizations from the perspective of organizational behavior theory. Based on knowledge in academic fields such as business administration, psychology, and sociology.　Students will learn how to think about real-world phenomena.　Through a combination of individual and group work, students work on proposals for solving real-world problems or new business proposals.
（Learning Objectives）
There were three objectives of this course.
(1)To be able to explain key concepts and theories of organizational behavior.
(2)To be able to explain phenomena occurring in an organization and identify issues using key concepts and theories of organizational behavior.
(3)To be able to propose solutions to problems occurring in the organization.
（Learning Activities Outside of Classroom）
During the seminar time, students will discuss and organize their opinions with other members. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
（Grading Criteria/Policy）
The criteria for grading are as follows. Active involvement during resume creation, discussion, and survey implementation: 60%.　Preparation and reporting of presentation materials: 40%.

MAN200MA（経営学 / Management 200）

演習（ビジネス）【3・4年生用】

古田　克利

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木6/Thu.6　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
組織行動論の視点から、組織の中の人の行動について理解を深めます。経営学、心理学、社会学などの学問分野で蓄積された知見にもとづき、現実世界の現象を捉える思考法を学びます。個人ワークとグループワークを組み合わせ、現実の課題解決提案や新規事業提案に取り組みます。

【到達目標】
・組織行動論の主要な概念や理論について説明できる
・組織行動論の主要な概念や理論を用いて、組織で起きている現象を説明し、課題を抽出できる
・組織行動論の主要な概念や理論を用いて、組織で起きている課題に対する解決策を提案できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
導入時期は、文献調査にもとづくグループディスカッションを数回実施する。中盤以降は、グループに分かれて、特定の組織に対する提案を検討し、最終報告に向けてプレゼンテーションの準備を行う。ゼミの中で出た質問や意見に対しては、その授業内で全体に対してコメントする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	ゼミの進め方と自己紹介
第2回	文献調査1（個人ワーク）	文献調査の方法をレクチャーし、指定されたテーマについて調査する
第3回	文献調査1（グループワーク）	指定されたテーマについて調査した内容をグループ内で発表する
第4回	文献調査2（個人ワーク）	自らテーマを設定し、文献調査を行う
第5回	文献調査2（グループワーク）	自ら設定したテーマについて調査した内容をグループ内で発表する
第6回	現状調査（個人ワーク）	所属する組織の現状調査をおこない発表する
第7回	テーマ説明	後半のグループワークのテーマ説明を行う
第8回	現状調査1	テーマに関連する現状調査を行う
第9回	現状調査2	テーマに関連する調査内容を発表しフィードバックを受ける
第10回	課題の抽出	調査に基づいて課題を設定する
第11回	解決策の提案1	課題解決策の提案を検討する
第12回	解決策の提案2	課題解決策の提案を行い、フィードバックを受ける
第13回	最終報告会	プレゼンテーションを行う
第14回	次年度に向けた準備	次年度のゼミ活動にむけた提案をする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
□各種調査と課題解決策の提案について
　指定されたテーマに関する情報収集ならびに整理は、必要に応じて各自で行うこと。ゼミの時間内は発表とディスカッションを行う。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
授業内に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（レジュメ・プレゼンテーション・ディスカッションや調査実施における積極的な関与）：6割
調査報告（プレゼンテーション）：4割

【学生の意見等からの気づき】
チーム活動を中心に進めたいと考えています

【学生が準備すべき機器他】
パソコンを持参してください

【授業中に求められる学習活動につ いて】
I

【Outline (in English)】
（Course Outline）
In this course, we will consider human behavior in organizations from the perspective of organizational behavior theory. Based on knowledge in academic fields such as business administration, psychology, and sociology.　Students will learn how to think about real-world phenomena.　Through a combination of individual and group work, students work on proposals for solving real-world problems or new business proposals.
（Learning Objectives）
There were three objectives of this course.
(1)To be able to explain key concepts and theories of organizational behavior.
(2)To be able to explain phenomena occurring in an organization and identify issues using key concepts and theories of organizational behavior.
(3)To be able to propose solutions to problems occurring in the organization.
（Learning Activities Outside of Classroom）
During the seminar time, students will discuss and organize their opinions with other members. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
（Grading Criteria/Policy）
The criteria for grading are as follows. Active involvement during resume creation, discussion, and survey implementation: 60%.　Preparation and reporting of presentation materials: 40%.

MAN200MA（経営学 / Management 200）

演習（ビジネス）【3・4年生用】

松浦　民恵

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：水5/Wed.5　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
論文執筆に不可欠な「思い」や「問い」を持てるように、共同研究や卒業研究の実践を通じて、知識の醸成、論理的な思考の訓練を行います。また、調査の企画・実施を通じて、調査の基礎的なスキルを醸成します。

【到達目標】
①研究対象とするテーマについて、学術的な文献や論文をサーベイできるようになること
②研究対象とするテーマについて、十分な理解のもとで独創性のある問いを設定し、説得的な論旨を展開できるようになること
③調査を企画・実施することを通じて、調査の基礎的なスキルを身につけること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
ゼミには毎回出席。個人での発表やグループワークについても主体的、積極的な参加が必須条件です。３年生は共同研究、４年生は卒論に関する構想発表の機会を設け、教員のフィードバックに加えて、社会人（研究者・実務家）からもコメントを頂きます。
ゼミは原則として対面で実施しますが、社会人の招聘や個別指導の回などについては、事前連絡の上オンラインやハイブリッドで実施する場合があります。
また、受講の状況や別の企画の提案等によって、授業計画の一部を変更する可能性がありますので、予めご了承ください。
なお、フィードバックは演習の時間内にその都度行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーションと卒論研究計画案の発表（３・４年生合同）	①オリエンテーション ②４年生による卒業研究の研究計画案の発表 ③質疑と教員コメント
第2回	３年生の研究テーマ案の発表	①３年生による研究テーマ案の発表 ②質疑と３・４年生による議論
第3回	３年生共同研究のテーマ案に関する先行研究サーベイと議論	①３年生の共同研究テーマに関する先行研究 ②共同研究テーマ庵に関する議論
第4回	３年生共同研究のテーマ案の仮決定	①３年生による研究テーマ改訂案の発表 ②質疑と教員コメント ③テーマ案の決定とグループ分け
第5回	３年生共同研究の構想の検討	①先行研究サーベイの共有 ②先行研究サーベイを踏まえた共同研究の問いや切り口の検討
第6回	３年生共同研究の構想の再検討	①問いや切り口の再検討 ②調査方法の検討 ③中間発表資料の作成
第7回	３年生共同研究構想中間発表	①共同研究の構想に関する中間発表 ②質疑と教員コメント
第8回	構想発表会の準備	①中間発表のコメントを踏まえた共同研究の練り直し ②構想発表会の資料の作成と発表準備
第9回	構想発表会１回目＜３・４年生・社会人合同＞	①構想発表会１回目（３年生共同研究等） ②質疑と社会人・教員コメント
第10回	構想発表会２回目＜３・４年生・社会人合同＞	①３年生共同研究進捗確認 ②論構想発表会２回目（４年生卒論・前半） ③質疑と社会人・教員コメント
第11回	構想発表会３回目＜３・４年生・社会人合同＞	①３年生共同研究進捗確認 ②論構想発表会２回目（４年生卒論・後半） ③質疑と社会人・教員コメント
第12回	３年生共同研究　調査設計	①調査方法の確定 ②依頼状や調査票の案の作成
第13回	３年生共同研究　調査実施	①依頼状や調査票の確定 ②調査の実施
第14回	ゼミ活動の振り返り・諸連絡と今後に関する意見交換＜３・４年生合同＞	①ゼミ活動の振り返り ②諸連絡 ③今後に関する意見交換

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ゼミの時間の大部分は発表の場となりますので、発表準備（研究のための文献サーベイや調査の実施、結果のとりまとめ、発表資料の作成等）はゼミの時間外に実施頂くことが多くなります。
本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて、授業のなかで適宜提示します。

【参考書】
必要に応じて、授業のなかで適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】
ゼミの議論や研究に関する取り組み姿勢・内容（70％）、ゼミの運営・活動 への貢献（30％）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】
構想発表会・発表会などにおける、社会人との交流を継続・発展させていきたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン等の情報機器、参考文献。オンライン接続環境。

【その他の重要事項】
ゼミのゴールは「思いを実現できる実務家」を社会に送り出すことです。ゼミ活動を「仕事」のように進められればと思っております。皆さんと一緒に面白いゼミにしたいので、ゼミ生の皆さんも当事者として、必要なアイディアをどんどん出して改善を進めていただきますよう、よろしくお願いします。
特に発表会前は５・６限さらには７限にわたって、ゼミを実施したり共同研究の作業が必要になったりしますので、ゼミの日の５限以降は他の予定を入れないようにしてください。

【Outline (in English)】
＜Course outline＞
Students will be trained to hone their own knowledge and logical thinking in this course and to develop their passion for the issues that are important for the thesis.
＜Learning Objectives＞
1.To be able to survey academic literature and articles on the subject of research
2.Ability to set original questions and develop persuasive arguments with a full understanding of the subject under study
3.Developing basic research skills through the planning and implementation of surveys
＜Learning activities outside of classroom＞
The standard time for preparatory study and review for this class is 2 hours each.
＜Grading Criteria /Policy＞

Grading will be decided based on in-class contributions(70%) and contributions to seminar activities and management(30%).

MAN200MA（経営学 / Management 200）

演習（ビジネス）【3・4年生用】

松浦　民恵

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水6/Wed.6　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
３年生は、共同研究のなかで、調査結果の分析・解釈の訓練を行い、結論や示唆について考察を深めます。また、卒業論文の執筆に向けた準備に入ります。４年生は卒業論文を完成させます。

【到達目標】
①調査結果の分析・解釈ができるようになること
②論理的・説得的な資料や論文を執筆できるようになること
③わかりやすく発表し、質問やコメントに対して論理的に回答ができるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
ゼミには毎回出席。個人での発表やグループワークについても主体的、積極的な参加が必須条件です。共同研究の分析や発表を行います。
３年生は共同研究、４年生は卒論に関する成果発表の機会を設け、教員のフィードバックに加えて、社会人（研究者・実務家）からもコメントを頂きます。
ゼミは原則として対面で実施しますが、社会人の招聘や個別指導の回などについては、事前連絡の上オンラインやハイブリッドで実施する場合があります。
また、受講の状況や別の企画の提案等によって、授業計画の一部を変更する可能性がありますので、予めご了承ください。
なお、フィードバックは演習の時間内にその都度行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション ＜３・４年生合同＞	①自己紹介、ゼミの進め方に関する説明と意見交換 ②3年生共同研究、4年生卒論の進捗共有
第2回	３年生共同研究進捗確認・共有	①３年生共同研究の進捗の確認と共有 ②質疑と教員コメント
第3回	３年生共同研究　分析方法の検討	共同研究の分析方法の検討・役割分担の確認等
第4回	データ分析の解説	データ分析の解説とHADによる実践
第5回	３年生共同研究・中間発表資料の作成（１）	①発表資料の作成 ②意見交換と教員コメント
第6回	３年生共同研究・中間発表資料の作成（２）	①教員コメントを踏まえた発表資料の改訂 ②意見交換と教員コメント
第7回	３年生共同研究・中間発表資料の作成（３）	①教員コメントを踏まえた共同研究の発表資料の再改訂 ②意見交換と教員コメント
第8回	３年生共同研究中間発表 ＜２・３・４年生合同＞	①中間発表 ②意見交換と教員コメント
第9回	３年生共同研究・＜最終＞ 発表資料の作成（１）	①中間発表を踏まえた共同研究の発表資料の改訂 ②意見交換と教員コメント
第10回	３年生共同研究・＜最終＞ 発表資料の作成（２）	①教員コメントを踏まえた共同研究の発表資料の改訂と発表準備 ②意見交換と教員コメント
第11回	３年生共同研究＜最終＞発表 ＜３年生・社会人合同＞	①３年生共同研究＜最終＞発表 ②発表に関する質疑・意見交換
第12回	発表の振り返りと今後の進め方	①３年生共同研究発表の振り返り ②卒業論文の研究計画案作成に向けた説明 ③ゼミ活動に関する意見交換
第13回	４年生卒論発表（１） ＜３・４年生・社会人合同＞	①卒論の発表（前半） ②質疑と社会人・教員コメント
第14回	４年生卒論発表（２） ＜３・４年生・社会人合同＞	①卒論の発表（後半） ②質疑と社会人・教員コメント

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ゼミの時間の大部分は発表・コメントや意見交換の場となりますので、発表準備（研究のための文献サーベイや調査の実施、結果のとりまとめ、発表資料の作成等）はゼミの時間外に実施頂くことが多くなります。
本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて、授業のなかで適宜提示します。

【参考書】
必要に応じて、授業のなかで適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】
ゼミの議論や研究に関する取り組み姿勢・内容（70％）、ゼミの運営・活動への貢献（30％）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】
研究のより効率的な進め方を、ゼミ生と相談しながら模索していきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン等の情報機器、参考文献等。オンライン接続環境。

【その他の重要事項】
ゼミのゴールは「思いを実現できる実務家」を社会に送り出すことです。ゼミ活動を「仕事」のように進められればと思っております。皆さんと一緒に面白いゼミにしたいので、ゼミ生の皆さんも当事者として、必要なアイディアをどんどん出して改善を進めていただきますよう、よろしくお願いします。
特に発表会前は５・６限さらには７限にわたって、ゼミを実施したり共同研究の作業が必要になったりしますので、ゼミの日の５限以降は他の予定を入れないようにしてください。

【Outline (in English)】
＜Course outline＞
Students will be trained to hone their own knowledge and logical thinking in this course and to develop their passion for the issues that are important for the thesis.
＜Learning Objectives＞
1.To be able to analyze and interpret survey results
2.To be able to write logical and persuasive materials and papers
3.Ability to present clearly and respond logically to questions and comments
＜Learning activities outside of classroom＞
The standard time for preparatory study and review for this class is 2 hours each.
＜Grading Criteria /Policy＞
Grading will be decided based on in-class contributions(70%) and contributions to seminar activities and management(30%).

SOC200MA（社会学 / Sociology 200）

演習（ライフ）【2年生用】

荒川　裕子

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木5/Thu.5　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「アート」「文化」「創造性」「趣味」「地域コミュニティ」といったキーワードをもとに、これらをわたしたちの生き方や働き方にどう活かしていくことができるのかを、演習（調べる・発表する・議論する・企画する・実践する、等々）を通じて追求し、総合的な研究スキルを身に付けます。学生各自が興味を持っている領域（美術、音楽、文芸、映画、舞踏、服飾、サブカルチャー、アートマネジメント、文化政策、まちづくり、等）についての研究を深めていくと同時に、プレゼンテーションやディスカッションを通して、他のゼミ生たちの研究の成果を共有します。

【到達目標】
文化やアートと社会との関わりをめぐる多角的・多層的な視野を養います。アカデミックな研究の手法を修得するとともに、教室での座学に終始せず、学外でさまざまなフィールド活動を実施することにより、現場でのマネジメント能力も身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
原則として学年の別なく合同でゼミを実施します。幾つかの文献資料（論文、芸術批評、新聞・雑誌記事など）を手がかりにしながら、アートに関わるさまざまなトピックスについて、グループもしくは個人で研究を進め、その成果を発表します。併せて、ゼミ生が共同で文化芸術に関連するプロジェクトを実施します（そのための企画や準備は、サブゼミの時間を利用します）。
そのほか、ゼミ活動に必要な文献検索の方法やインタビュー調査法などのレクチャーも随時実施します。
授業のフィードバックは、ゼミの時間のはじめに随時行うとともに、必要に応じて面談の機会も設けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の目的と進め方について説明する。
第2回	文献研究①	文化やアートをめぐる現状を理解するために文献研究を行う。
第3回	文献研究②	文献から課題を抽出し、問題設定を行う。
第4回	文献研究③	設定したテーマについて、先行研究のサーベイを行う。
第5回	文献研究④	テーマに関連した資料やデータを収集する。
第6回	文献研究⑤	収集した資料やデータを用いながら論を組み立てる。
第7回	プレゼンテーション①	前半のグループが研究の途中経過を報告し、全体でディスカッションを行う。
第8回	プレゼンテーション②	後半のグループが研究の途中経過を報告し、全体でディスカッションを行う。
第9回	研究の実践①	ゼミ論の執筆に向けて、研究テーマを設定する。
第10回	研究の実践②	研究テーマに関する先行研究のサーベイを行う。
第11回	研究の実践③	テーマに関連した資料やデータを収集し、必要に応じてフィールド調査を実施する。
第12回	研究の実践④	収集した資料やデータを用いながら論を組み立てる。
第13回	プレゼンテーション③	前半のグループが研究の成果を報告し、全体でディスカッションを行う。
第14回	プレゼンテーション④	後半のグループが研究の成果を報告し、ディスカッションを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
研究成果のプレゼンテーションに向けて、文献調査やデータ収集などの作業を積極的に行うことが求められます。また、ゼミ活動の一環として学内外でさまざまなプロジェクトを行うため、企画立案から実施までかなりの時間を必要とします。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは特に指定しませんが、適宜文献資料を配布します。

【参考書】
ゼミにおいて適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加姿勢（プレゼンテーションへの取り組み、ディスカッションへの積極的な参加など）：50％
期末レポート：50％
※単位取得の要件として、2年次の終わりにはレポート執筆、3年次の終わりにはゼミ論ないしゼミ活動報告書を作成することが求められます。また4年次には、大学での学習・研究の総まとめとして、卒業論文を執筆することを原則として義務づけます。

【学生の意見等からの気づき】
サブゼミにおけるさまざまな活動にもかなりの時間を割く必要がありますが、それによって充実したゼミ活動を行っているという認識が非常に高いようです。

【その他の重要事項】
ゼミは、学生たちが自ら主体的に作り上げていくものです。皆さんの積極的な参加を期待します。
ゼミ活動には、発表の準備や資料収集・調査など、授業以外にもかなりの時間を割くことが求められます。また、学外の美術館や文化施設に出かける際、入館料や交通費等の費用が若干かかることを予めご了承ください。

【Outline (in English)】
In this course, students will explore how elements such as art, culture and, creativity can be applied to the way we live and work. Each student will deepen their research in their own area of interest and share the results of their research with other students through presentations and discussions.
Students will develop a multifaceted and multi-layered perspective on the relationship between culture, art and society. In addition to mastering academic research methods, students will also acquire management skills through a variety of field activities outside the university.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following;
Final report (50%) and in class contribution (50%).

SOC200MA（社会学 / Sociology 200）

演習（ライフ）【3・4年生用】

荒川　裕子

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：木5/Thu.5　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「アート」「文化」「創造性」「趣味」「地域コミュニティ」といったキーワードをもとに、これらをわたしたちの生き方や働き方にどう活かしていくことができるのかを、演習（調べる・発表する・議論する・企画する・実践する、等々）を通じて追求し、総合的な研究スキルを身に付けます。学生各自が興味を持っている領域（美術、音楽、文芸、映画、舞踏、服飾、サブカルチャー、アートマネジメント、文化政策、まちづくり、等）についての研究を深めていくと同時に、プレゼンテーションやディスカッションを通して、他のゼミ生たちの研究の成果を共有します。

【到達目標】
文化やアートと社会との関わりをめぐる多角的・多層的な視野を養います。アカデミックな研究の手法を修得するとともに、教室での座学に終始せず、学外でさまざまなフィールド活動を実施することにより、現場でのマネジメント能力も身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
原則として学年の別なく合同でゼミを実施します。幾つかの文献資料（論文、芸術批評、新聞・雑誌記事など）を手がかりにしながら、アートに関わるさまざまなトピックスについて、グループもしくは個人で研究を進め、その成果を発表します。併せて、ゼミ生が共同で文化芸術に関連するプロジェクトを実施します（そのための企画や準備は、サブゼミの時間を利用します）。
そのほか、ゼミ活動に必要な文献検索の方法やインタビュー調査法などのレクチャーも随時実施します。
授業のフィードバックは、ゼミの時間のはじめに随時行うとともに、必要に応じて面談の機会も設けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の目的と進め方について説明する。
第2回	文献研究①	文化やアートをめぐる現状を理解するために文献研究を行う。
第3回	文献研究②	文献から課題を抽出し、問題設定を行う。
第4回	文献研究③	設定したテーマについて先行研究のサーベイを行う。
第5回	文献研究④	テーマに関連した資料やデータを収集する。
第6回	文献研究⑤	収集した資料やデータを用いながら論を組み立てる。
第7回	プレゼンテーション①	前半のグループが研究の途中経過を報告し、全体でディスカッションを行う。
第8回	プレゼンテーション②	後半のグループが研究の途中経過を報告し、全体でディスカッションを行う。
第9回	研究の実践①	ゼミ論の執筆に向けて、研究テーマを設定する。
第10回	研究の実践②	研究テーマに関する先行研究のサーベイを行う。
第11回	研究の実践③	テーマに関連した資料やデータを収集し、必要に応じてフィールド調査を実施する。
第12回	研究の実践④	収集した資料やデータを用いながら論を組み立てる。
第13回	プレゼンテーション③	前半のグループが研究の成果を報告し、全体でディスカッションを行う。
第14回	プレゼンテーション④	後半のグループが研究の成果を報告し、ディスカッションを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
研究成果のプレゼンテーションに向けて、文献調査やデータ収集などの作業を積極的に行うことが求められます。また、ゼミ活動の一環として学内外でさまざまなプロジェクトを行うため、企画立案から実施までかなりの時間を必要とします。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは特に指定しませんが、適宜文献資料を配布します。

【参考書】
ゼミにおいて適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加姿勢（プレゼンテーションへの取り組み、ディスカッションへの積極的な参加など）：50％
期末レポート：50％
※単位取得の要件として、2年次の終わりにはレポート執筆、3年次の終わりにはゼミ論ないしゼミ活動報告書を作成することが求められます。また4年次には、大学での学習・研究の総まとめとして、卒業論文を執筆することを原則として義務づけます。

【学生の意見等からの気づき】
サブゼミにおけるさまざまな活動にもかなりの時間を割く必要がありますが、それによって充実したゼミ活動を行っているという認識が非常に高いようです。

【その他の重要事項】
ゼミは、学生たちが自ら主体的に作り上げていくものです。皆さんの積極的な参加を期待します。
ゼミ活動には、発表の準備や資料収集・調査など、授業以外にもかなりの時間を割くことが求められます。また、学外の美術館や文化施設に出かける際、入館料や交通費等の費用が若干かかることを予めご了承ください。

【Outline (in English)】
In this course, students will explore how elements such as art, culture and, creativity can be applied to the way we live and work. Each student will deepen their research in their own area of interest and share the results of their research with other students through presentations and discussions.
Students will develop a multifaceted and multi-layered perspective on the relationship between culture, art and society. In addition to mastering academic research methods, students will also acquire management skills through a variety of field activities outside the university.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following;
Final report (50%) and in class contribution (50%).

SOC200MA（社会学 / Sociology 200）

演習（ライフ）【3・4年生用】

荒川　裕子

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木6/Thu.6　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「アート」「文化」「創造性」「趣味」「地域コミュニティ」といったキーワードをもとに、これらをわたしたちの生き方や働き方にどう活かしていくことができるのかを、演習（調べる・発表する・議論する・企画する・実践する、等々）を通じて追求し、春学期の成果を土台にさらに研究スキルを高めていきます。学生各自が興味を持っている領域（美術、音楽、文芸、映画、舞踏、服飾、サブカルチャー、アートマネジメント、文化政策、まちづくり、等）についての研究を深めていくと同時に、プレゼンテーションやディスカッションを通して、他のゼミ生たちの研究の成果を共有します。

【到達目標】
文化やアートと社会との関わりをめぐる多角的・多層的な視野を養います。アカデミックな研究の手法を修得するとともに、教室での座学に終始せず、学外でさまざまなフィールド活動を実施することにより、現場でのマネジメント能力も身につけます。春学期に続き、さらなる研究能力の涵養を目ざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
原則として学年の別なく合同でゼミを実施します。幾つかの文献資料（論文、芸術批評、新聞・雑誌記事など）を手がかりにしながら、アートに関わるさまざまなトピックスについて、グループもしくは個人で研究を進め、その成果を発表します。併せて、ゼミ生が共同で文化芸術に関連するプロジェクトを実施します（そのための企画や準備は、サブゼミの時間を利用します）。
そのほか、ゼミ活動に必要な文献検索の方法やインタビュー調査法などのレクチャーも随時実施します。
授業のフィードバックは、ゼミの時間のはじめに随時行うとともに、必要に応じて面談の機会も設けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の目的と進め方について説明する。
第2回	文献研究①	文化やアートをめぐる現状を理解するために文献研究を行う。
第3回	文献研究②	文献から課題を抽出し、問題設定を行う。
第4回	文献研究③	設定したテーマについて先行研究のサーベイを行う。
第5回	文献研究④	テーマに関連した資料やデータを収集する。
第6回	文献研究⑤	収集した資料やデータを用いながら論を組み立てる。
第7回	プレゼンテーション①	前半のグループが研究の途中経過を報告し、全体でディスカッションを行う。
第8回	プレゼンテーション②	後半のグループが研究の途中経過を報告し、全体でディスカッションを行う。
第9回	研究の実践①	ゼミ論の執筆に向けて、研究テーマを設定する。
第10回	研究の実践②	研究テーマに関する先行研究のサーベイを行う。
第11回	研究の実践③	テーマに関連した資料やデータを収集し、必要に応じてフィールド調査を実施する。
第12回	研究の実践④	収集した資料やデータを用いながら論を組み立てる。
第13回	プレゼンテーション③	前半のグループが研究の成果を報告し、全体でディスカッションを行う。
第14回	プレゼンテーション④	後半のグループが研究の成果を報告し、ディスカッションを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
研究成果のプレゼンテーションに向けて、文献調査やデータ収集などの作業を積極的に行うことが求められます。また、ゼミ活動の一環として学内外でさまざまなプロジェクトを行うため、企画立案から実施までかなりの時間を必要とします。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは特に指定しませんが、適宜文献資料を配布します。

【参考書】
ゼミにおいて適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加姿勢（プレゼンテーションへの取り組み、ディスカッションへの積極的な参加など）：50％
期末レポート：50％
※単位取得の要件として、2年次の終わりにはレポート執筆、3年次の終わりにはゼミ論ないしゼミ活動報告書を作成することが求められます。また4年次には、大学での学習・研究の総まとめとして、卒業論文を執筆することを原則として義務づけます。

【学生の意見等からの気づき】
サブゼミにおけるさまざまな活動にもかなりの時間を割く必要がありますが、それによって充実したゼミ活動を行っているという認識が非常に高いようです。

【その他の重要事項】
ゼミは、学生たちが自ら主体的に作り上げていくものです。皆さんの積極的な参加を期待します。
ゼミ活動には、発表の準備や資料収集・調査など、授業以外にもかなりの時間を割くことが求められます。また、学外の美術館や文化施設に出かける際、入館料や交通費等の費用が若干かかることを予めご了承ください。

【Outline (in English)】
In this course, students will explore how elements such as art, culture and, creativity can be applied to the way we live and work. Each student will deepen their research in their own area of interest and share the results of their research with other students through presentations and discussions.
Students will develop a multifaceted and multi-layered perspective on the relationship between culture, art and society. In addition to mastering academic research methods, students will also acquire management skills through a variety of field activities outside the university.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following;
Final report (50%) and in class contribution (50%).

SOC200MA（社会学 / Sociology 200）

演習（ライフ）【3・4年生用】

熊谷　智博

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：水3/Wed.3　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
私達が生活している社会では様々な問題が生じます。これらについて社会心理学を中心に人間科学や社会科学の知識を用いて、その原因と変化の過程について「診断」し、それが人々の生活に対して深刻な問題を与えるならばそれを解決する「治療」のためにはどうすれば良いかをゼミ生ともに考え、体系化していきます。z

【到達目標】
ゼミ生が各自で取り上げた問題点について、科学的な研究方法を用いて検討できる能力を身につけ、将来のキャリア形成に役立てられるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
3年次ゼミでは先行研究を元に、研究を計画、実施することでデータを収集し、それを分析・考察することで、社会心理学研究を実際に経験して貰います。同時に各ゼミ生が既に獲得している知識についてもプレゼンテーションをして貰います。また必要に応じて学外にて文化的活動を行い、教養を高めます。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に生かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ゼミの活動方針、全体としての目標、扱うテーマの範囲等について説明します。
第2回	社会心理学研究の基礎知識	社会心理学の基本的知識について議論します。
第3回	社会心理学の研究計画法	社会心理学研究を実際に行う方法について議論します。
第4回	社会心理学研究の実施・発表①	３人程度のグループを作り、研究テーマについて検討します。
第5回	社会心理学研究の実施・発表②	グループでの研究テーマを再度検討します。
第6回	社会心理学研究の実施・発表③	グループでの研究テーマについて決定します。
第7回	社会心理学研究の実施・発表④	決定したテーマについて、検討対象を具体化します。
第8回	社会心理学研究の実施・発表⑤	決定したテーマに対して研究方法について議論します。
第9回	社会心理学研究の実施・発表⑥	研究方法について決定します。
第10回	社会心理学研究の実施・発表⑦	研究計画を立てます。
第11回	社会心理学研究の実施・発表⑧	研究計画を発表します。
第12回	社会心理学研究の実施・発表⑨	発表に対するコメントに基づいて、研究結果を修正します。
第13回	社会心理学研究の実施・発表⑩	研究計画を立て、それに基づいてデータの収集を行います。
第14回	社会心理学研究の実施・発表⑪	収集したデータの分析を行い、結果を発表します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ゼミでは発表が中心となるため、授業時間外に各自で事前に調査、準備しておく必要があります。グループワークなどではゼミ生同士で予定の調整などをして貰います。また必要に応じてゼミの時間外に個別に指導する場合もあります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業開始時点では特定の教科書の指定は行いません。授業の進行によって必要な場合は適宜テキストを紹介します。

【参考書】
授業開始時点では特定の参考書の指定は行いません。授業の進行によって必要な場合は適宜テキストを紹介します。

【成績評価の方法と基準】
ゼミでの発表内容の出来（50%）とディスカッションの内容（50%）から評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】
ディスカッションを中心に授業を進めますので、その際に出てきた意見を積極的に取り入れます。

【Outline (in English)】
In this seminar course, students will learn how to conduct social psychological study and discuss about results.
Goals of this course are that students understand scientific way of study, and learn how to use those knowledge for their future career.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following: presentation of your study: 50%, discussion with other members: 50%.

SOC200MA（社会学 / Sociology 200）

演習（ライフ）【3・4年生用】

熊谷　智博

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水3/Wed.3　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
私達が生活している社会では様々な問題が生じます。これらについて社会心理学を中心に人間科学や社会科学の知識を用いて、その原因と変化の過程について「診断」し、それが人々の生活に対して深刻な問題を与えるならばそれを解決する「治療」のためにはどうすれば良いかをゼミ生ともに考え、体系化していきます。z

【到達目標】
ゼミ生が各自で取り上げた問題点について、科学的な研究方法を用いて検討できる能力を身につけ、将来のキャリア形成に役立てられるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
3年次ゼミでは先行研究を元に、研究を計画、実施することでデータを収集し、それを分析・考察することで、社会心理学研究を実際に経験して貰います。同時に各ゼミ生が既に獲得している知識についてもプレゼンテーションをして貰います。また必要に応じて学外にて文化的活動を行い、教養を高めます。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に生かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ゼミの活動方針、全体としての目標、扱うテーマの範囲等について説明します。
第2回	社会心理学研究の基礎知識	社会心理学の基本的知識について議論します。
第3回	社会心理学の研究計画法	社会心理学研究を実際に行う方法について議論します。
第4回	社会心理学研究の実施・発表①	３人程度のグループを作り、研究テーマについて検討します。
第5回	社会心理学研究の実施・発表②	グループでの研究テーマを再度検討します。
第6回	社会心理学研究の実施・発表③	グループでの研究テーマについて決定します。
第7回	社会心理学研究の実施・発表④	決定したテーマについて、検討対象を具体化します。
第8回	社会心理学研究の実施・発表⑤	決定したテーマに対して研究方法について議論します。
第9回	社会心理学研究の実施・発表⑥	研究方法について決定ます。
第10回	社会心理学研究の実施・発表⑦	研究計画を立てます。
第11回	社会心理学研究の実施・発表⑧	研究計画を発表します。
第12回	社会心理学研究の実施・発表⑨	発表に対するコメントに基づいて、研究結果を修正します。
第13回	社会心理学研究の実施・発表⑩	研究計画を立て、それに基づいてデータの収集を行います。
第14回	社会心理学研究の実施・発表⑪	収集したデータの分析を行い、結果を発表します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ゼミでは発表が中心となるため、授業時間外に各自で事前に調査、準備しておく必要があります。グループワークなどではゼミ生同士で予定の調整などをして貰います。また必要に応じてゼミの時間外に個別に指導する場合もあります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業開始時点では特定の教科書の指定は行いません。授業の進行によって必要な場合は適宜テキストを紹介します。

【参考書】
授業開始時点では特定の参考書の指定は行いません。授業の進行によって必要な場合は適宜テキストを紹介します。

【成績評価の方法と基準】
ゼミでの発表内容の出来（50%）とディスカッションの内容（50%）から評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】
ディスカッションを中心に授業を進めますので、その際に出てきた意見を積極的に取り入れます。

【Outline (in English)】
In this seminar course, students will learn how to conduct social psychological study and discuss about results.
Goals of this course are that students understand scientific way of study, and learn how to use those knowledge for their future career.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following: presentation of your study: 50%, discussion with other members: 50%.

SOC200MA（社会学 / Sociology 200）

演習（ライフ）【2年生用】

齋藤　嘉孝

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水5/Wed.5　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代の日本では、虐待・ＤＶ、あるいは“でき婚”・子育て不安・夫婦不仲・離婚・不妊・晩婚化・熟年離婚など、家族に関する話題に事欠かない。本演習では「家族」あるいは「親子」「夫婦（パートナー）」というものをテーマとする。

【到達目標】
次のような事項を具体的な目標として、キャリアデザインを学ぶ。
・自己理解（自分自身のこれまでの家族生活を振り返り、自己を洞察する）。
・他者理解（現代の家族は自分の経験している家族ばかりでなく、多様であることを理解し、自己の視野の枠組みやこだわりなどを自覚することで、他者の家族への偏見や差別を軽減させる）。
・家族生活を通した将来のデザイン（自己や他者を理解することにより視野を広げ、今後の自己の家族生活（恋愛および結婚・夫婦関係・子育て・介護等）や就業・働き方、交友関係や地域生活の築き方について考える）。
・調査スキルの獲得（実際に調査を行うことで、情報収集や分析の具体的スキルを修得する）。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
まず自己理解・他者理解を、いくつかのワークを通して進める。次に、家族に関する文献を読み、ディスカッションを行う。同時に、興味ある家族生活を送る人や、家族を支援する専門職などを対象に、各自でインタビュー調査をおこなう。また、のちに量的調査（アンケート調査）を共同で行うため、調査デザインを進める。課題に対するフィードバックは、個別添削やコメント等を通じて毎回おこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	自己理解・他者理解にむけたワーク１	自己や他者を理解するため、家族生活を中心にした自己理解・他者理解を始める。
第2回	自己理解・他者理解にむけたワーク２	各種のワークを行うことにより、家族生活を中心にした自己理解を進める。
第3回	自己理解・他者理解にむけたワーク３	各種のワークを行うことにより、家族生活を中心にした自己理解を深める。
第4回	自己理解・他者理解にむけたワーク４	各種のワークを行うことにより、家族生活を中心にした自己理解だけでなく、他者理解も行う。
第5回	自己理解・他者理解にむけたワーク５	各種のワークを行うことにより、家族生活を中心にした自己理解および他者理解を進める。
第6回	自己理解・他者理解にむけたワーク６	各種のワークを行うことにより、家族生活を中心にした自己理解および他者理解を深める。
第7回	自己理解・他者理解にむけたワーク７	各種のワークを行うことにより、家族生活を中心にした自己理解・他者理解を洗練させ、整理する。
第8回	文献購読１	家族に関する文献を読み始め、ディスカッションを行う。
第9回	文献購読２	家族に関する文献を読み、ディスカッションを行う。
第10回	文献購読３	家族に関する文献を読み、ディスカッションを深める。
第11回	文献購読４	家族に関する文献を読み、ディスカッションをさらに洗練させる。
第12回	文献購読５	家族に関する文献を読み、ディスカッションを行い、さらに理解を深める。
第13回	総合的整理１	既読の文献を整理し、各自で見解をまとめる。
第14回	総合的整理２	既読の文献をまとめ、その総括的な議論を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ふだんから、家族やそれを取り巻く環境に興味を持っておくことが重要である。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
開講時に指示する。

【参考書】
授業内で必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点50％、課題50％

【学生の意見等からの気づき】
引き続き、学生の目線に立ち、実践的かつ学術的な内容でありたい。

【Outline (in English)】
This course deals with families, parent and children, and partners. We see many family problems in this society such as abuse, domestic violence, marriage before child-birth, anxiety of child-rearing, marital discord, divorce, too late marriage, and old-age divorce. We learn these problems through many ways (e.g., discussion, paper-reading, analyses, surveys, interviews). Learning objectives of this course are to understand students themselves and others, to design their careers regarding family life and to get research methodology skills. Learning activities outside of classroom are homework and preparation (about 2 hours per class). Grading criteria are composed of class participation 50% and homework 50%.

SOC200MA（社会学 / Sociology 200）

演習（ライフ）【3・4年生用】

齋藤　嘉孝

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：水5/Wed.5　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代の日本では、虐待・ＤＶ、あるいは“でき婚”・子育て不安・夫婦不仲・離婚・不妊・晩婚化・熟年離婚など、家族に関する話題に事欠かない。本演習では「家族」あるいは「親子」「夫婦（パートナー）」というものをテーマとする。

【到達目標】
次のような事項を具体的な目標として、キャリアデザインを学ぶ。
・自己理解（自分自身のこれまでの家族生活を振り返り、自己を洞察する）。
・他者理解（現代の家族は自分の経験している家族ばかりでなく、多様であることを理解し、自己の視野の枠組みやこだわりなどを自覚することで、他者の家族への偏見や差別を軽減させる）。
・家族生活を通した将来のデザイン（自己や他者を理解することにより視野を広げ、今後の自己の家族生活（恋愛および結婚・夫婦関係・子育て・介護等）や就業・働き方、交友関係や地域生活の築き方について考える）。
・調査スキルの獲得（実際に調査を行うことで、情報収集や分析の具体的スキルを修得する）。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
まず自己理解・他者理解を、いくつかのワークを通して進める。次に、家族に関する文献を読み、ディスカッションを行う。同時に、興味ある家族生活を送る人や、家族を支援する専門職などを対象に、各自でインタビュー調査をおこなう。また、のちに量的調査（アンケート調査）を共同で行うため、調査デザインを進める。課題に対するフィードバックは、個別添削やコメント等を通じて毎回おこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	文献購読ガイダンス	家族に関する文献を検索し、ディスカッションを行う。
第2回	文献購読１	家族に関する文献を実際に読み、ディスカッションを行う。
第3回	文献購読２	家族に関する文献を読み、ディスカッションを深める。
第4回	文献購読３	家族に関する文献を読み、ディスカッションを行い、各自スピーチをする。
第5回	文献購読４	家族に関する文献を読み、ディスカッションしてきたことを整理する。
第6回	社会調査１	ゼミ生共同で１つの調査（アンケート）を行うための調査デザインを始める。
第7回	社会調査２	ゼミ生共同で１つの調査を行うための調査デザインを進める（仮説作成）。
第8回	社会調査３	ゼミ生共同で１つの調査を行うための調査デザインを進める（標本設定）。
第9回	社会調査４	ゼミ生共同で１つの調査を行うための調査デザインを進める（質問紙作成）。
第10回	社会調査５	ゼミ生共同で１つの調査を行うための調査デザインを進める（質問紙洗練）。また、各自で質的調査（インタビュー）を進める。
第11回	社会調査６	ゼミ生共同で１つの調査を行うための調査デザインを進める（予備調査）。また、各自で質的調査（インタビュー）を進める。
第12回	社会調査７	ゼミ生共同で１つの調査を行うための調査デザインを進める（予備調査結果の解釈）。また、各自で質的調査（インタビュー）を進める。
第13回	社会調査８	ゼミ生共同で１つの調査を行うための調査デザインを進める。また、各自で質的調査（インタビュー）を進める。
第14回	総合的整理	調査デザインの進展や不備を振り返り、さらに洗練させる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ふだんから、家族やそれを取り巻く環境に興味を持っておくことが重要である。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
開講時に指示する。

【参考書】
授業内で必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点50％、課題50％

【学生の意見等からの気づき】
引き続き、学生の目線に立ち、実践的かつ学術的な内容でありたい。

【Outline (in English)】
This course deals with families, parent and children, and partners. We see many family problems in this society such as abuse, domestic violence, marriage before child-birth, anxiety of child-rearing, marital discord, divorce, too late marriage, and old-age divorce. We learn these problems through many ways (e.g., discussion, paper-reading, analyses, surveys, interviews). Learning objectives of this course are to understand students themselves and others, to design their careers regarding family life and to get research methodology skills. Learning activities outside of classroom are homework and preparation (about 2 hours per class). Grading criteria are composed of class participation 50% and homework 50%.

SOC200MA（社会学 / Sociology 200）

演習（ライフ）【3・4年生用】

齋藤　嘉孝

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水6/Wed.6　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代の日本では、虐待・ＤＶ、あるいは“でき婚”・子育て不安・夫婦不仲・離婚・不妊・晩婚化・熟年離婚など、家族に関する話題に事欠かない。本演習では「家族」あるいは「親子」「夫婦（パートナー）」というものをテーマとする。

【到達目標】
次のような事項を具体的な目標として、キャリアデザインを学ぶ。
・自己理解（自分自身のこれまでの家族生活を振り返り、自己を洞察する）。
・他者理解（現代の家族は自分の経験している家族ばかりでなく、多様であることを理解し、自己の視野の枠組みやこだわりなどを自覚することで、他者の家族への偏見や差別を軽減させる）。
・家族生活を通した将来のデザイン（自己や他者を理解することにより視野を広げ、今後の自己の家族生活（恋愛および結婚・夫婦関係・子育て・介護等）や就業・働き方、交友関係や地域生活の築き方について考える）。
・調査スキルの獲得（実際に調査を行うことで、情報収集や分析の具体的スキルを修得する）。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
まず自己理解・他者理解を、いくつかのワークを通して進める。次に、家族に関する文献を読み、ディスカッションを行う。同時に、興味ある家族生活を送る人や、家族を支援する専門職などを対象に、各自でインタビュー調査をおこなう。また、のちに量的調査（アンケート調査）を共同で行うため、調査デザインを進める。課題に対するフィードバックは、個別添削やコメント等を通じて毎回おこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	社会調査１	ゼミ生共同で１つの調査（アンケート）を行うための調査を進める。本調査に向けた手続きをする。
第2回	社会調査２	質問紙の整理をする。標本デザインを洗練させる。
第3回	社会調査３	質問紙を配布（回収）するとともに、整理・管理の仕方を学ぶ。
第4回	社会調査４	質問士紙の回収を終え、有効票・無効票などのチェックを行う。
第5回	社会調査５	データ入力の仕方を学ぶ。欠損値等の扱いについて学ぶ。
第6回	社会調査６	データ入力を完了させる。
第7回	社会調査７	データクリーニングを行う。
第8回	統計的分析１	卒論にむけて、統計的な分析を学習する。記述統計を学ぶ。
第9回	統計的分析２	卒論にむけて、統計的な分析を学習する。クロス表分析を学ぶ。
第10回	統計的分析３	卒論にむけて、統計的な分析を学習する。クロス表分析を深める。
第11回	統計的分析４	卒論にむけて、統計的な分析を学習する。分散分析を学ぶ。
第12回	統計的分析５	卒論にむけて、統計的な分析を学習する。分散分析を深める。
第13回	各自報告	各自で進めた統計分析の結果を報告する。
第14回	総合的整理	調査結果や分析結果を整理し、ディスカッションする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ふだんから、家族やそれを取り巻く環境に興味を持っておくことが重要である。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
開講時に指示する。

【参考書】
授業内で必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点50％、課題50％

【学生の意見等からの気づき】
引き続き、学生の目線に立ち、実践的かつ学術的な内容でありたい。

【Outline (in English)】
This course deals with families, parent and children, and partners. We see many family problems in this society such as abuse, domestic violence, marriage before child-birth, anxiety of child-rearing, marital discord, divorce, too late marriage, and old-age divorce. We learn these problems through many ways (e.g., discussion, paper-reading, analyses, surveys, interviews). Learning objectives of this course are to understand students themselves and others, to design their careers regarding family life and to get research methodology skills. Learning activities outside of classroom are homework and preparation (about 2 hours per class). Grading criteria are composed of class participation 50% and homework 50%.

SOC200MA（社会学 / Sociology 200）

演習（ライフ）【2年生用】

佐藤　恵

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：月5/Mon.5　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　演習テーマは「自分で考える力を身につけよう！」です。
　ニュース記事等をもとにしたディスカッションを通して、ゼミ生仲間の多様な意見に触れ、ものの見方の幅を広げつつ、自分なりの考えをまとめ、説明するトレーニングを行います。
　さらに、年度末の研究発表会に向けたグループワークにおいて、関心のある社会学的テーマを選択し、データ・資料を収集しながら、中間報告・ディスカッションを行い、自分たちの考えをまとめあげていきます。

【到達目標】
　ニュース記事等の読解をもとに行うディスカッションを通して、自分で考え説明できる力を身につけるのとともに、グループワークにおいて自分たちでテーマを選択し、データ・資料を収集しながら、研究発表会に向けて考えをまとめあげることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
　演習形式の授業です。
　具体的な内容としては、①ニュース記事等の読解をもとに行うディスカッション、②研究発表会に向けたグループワーク（中間報告・ディスカッション）です。
　進行方法等に関しては、参加者と相談の上、状況に応じて決めていきます。
　なお、課題等に対するフィードバック方法としては、授業時間内に講評・解説の時間を設けることとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の到達目標・テーマ、概要・方法
第2回	テキスト講読（1）	社会的存在としての人間
第3回	テキスト講読（2）	社会学の考え方
第4回	テキスト講読（3）	社会生活の諸相
第5回	研究発表会準備（1）	研究における問いという観点から
第6回	研究発表会準備（2）	仮説構成という観点から
第7回	研究発表会準備（3）	先行研究のサーベイという観点から
第8回	ニュース記事ディスカッション（1）	行為の分析
第9回	ニュース記事ディスカッション（2）	秩序の解読
第10回	ニュース記事ディスカッション（3）	社会の構想
第11回	研究発表会中間報告（1）	データの整理・分析を中心に
第12回	研究発表会中間報告（2）	論理整合性・ストーリーラインを中心に
第13回	研究発表会中間報告（3）	問いに対応したかたちでの結論の提示を中心に
第14回	総括	ゼミ内容の総合的なまとめ・振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　研究発表に必要なデータ・資料を収集しつつ、可能な範囲で構想を練り、中間報告に備えてください。
　本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
　開講後にお伝えします。

【参考書】
　授業中に随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】
　提出課題（５０%）、平常点（５０%）。
　提出課題については、社会学の基本的な視点・発想の理解度をふまえた上で、課題の達成度の状況を基準とします。
　平常点については、授業への参加・貢献度、受講態度の状況を基準とします。
　欠席時間数が授業時間数の３分の１を超えた場合、もしくは、受講態度があまりにも悪い場合、不合格となります。

【学生の意見等からの気づき】
　具体的事例を通して社会学理論をできる限り分かりやすく解説していきます。
　また、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション等、少人数の参加型授業という側面を重視していきたいと思います。

【Outline (in English)】
(Course outline)
The practice theme is “Develop Your Thinking Skill!”
Through discussions based on news articles, etc., students mutually share diverse opinions with other classmates, widen their scopes, and cultivate skills to form their own opinions and explain them.
Furthermore, in the groupwork for the year-end presentation, students select social and cultural themes they are interested in, collect data and materials, and form their collective opinions through interim reports and discussions.
(Learning Objectives)
At the end of the course, you are expected to A and B.
– A. Acquiring the abilities for thinking and explaining by yourselves through the discussions about various news articles.
– B. Assembling considerations for the workshop by selecting the topics and gleaning literature and data by yourselves.
(Learning activities outside of classroom)
Before the workshop, you will be expected to make the concept gleaning literature and data by yourselves.
Your study time will be more than two hours each for before and after the classes.
(Grading Criteria /Policy)
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Assignments : 50%, in class contribution: 50%

SOC200MA（社会学 / Sociology 200）

演習（ライフ）【3・4年生用】

佐藤　恵

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：月5/Mon.5　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　演習テーマは「社会学の考え方：『常識を疑え！』」です。
　社会学は、「常識を疑う」というスタンスのもとで、社会・文化についての研究を行う学問です。ただし、「常識を疑う」ということは、何も、今まで誰も思いつかなかったような大発見をするということではありません。自分のものの見方・考え方の幅を広げ、自分にとっての新たな気づき・学びを得ていく実践を指します。そうした実践は、どのようなキャリアを築いていくにしても、必要不可欠となるものです。
　当ゼミでは、以上のような社会学の基本的な視点・発想に立脚した上で、ゼミ参加者が自分なりの関心あるテーマについて社会学的に研究し、ゼミ論（３年次）、卒論（４年次）を作成できるようになることをめざします。社会学的な視点・発想に基づいていれば、各自のゼミ論・卒論のテーマは自由です。

【到達目標】
（１）社会学の基本的視点・発想を説明でき、具体的事例に応用することができる。
（２）コミュニティにおけるさまざまな人間関係や社会現象について理解を深め、説明することができる。
（３）ゼミ論・卒論を執筆し、質・量ともに十分な水準の論文として完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
　演習形式の授業です。
　具体的な内容としては、①ゼミ論・卒論作成に向けた構想発表・全体ディスカッション、②テキスト講読とそれに基づくディスカッション、③ニュース記事に基づくディスカッション等です。
　進行方法に関しては、参加者と相談の上、状況に応じて決めていきますが、毎週のゼミの時間以外に、論文構想発表会を年に数回開催して、ゼミ論・卒論の完成をめざしていく予定です。
　なお、課題等に対するフィードバック方法としては、授業時間内に講評・解説の時間を設けることとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	春学期オリエンテーション	ゼミ論・卒論の基本的な構成や意義、執筆に向けた年間計画に関するオリエンテーション：春学期ゼミ運営方法に関する話し合い
第2回	テキスト講読（１）	社会の中の人間、集団と個人
第3回	テキスト講読（２）	文化と価値
第4回	テキスト講読（３）	システムと生活世界
第5回	テキスト講読（４）	場面と対面
第6回	テキスト講読（５）	変容する家族
第7回	テキスト講読（６）	都市の人間関係
第8回	テキスト講読（７）	階層移動と学歴
第9回	テキスト講読（８）	逸脱と社会変動
第10回	ゼミ論・卒論作成に向けた構想発表（１）	研究における問いという観点から
第11回	ゼミ論・卒論作成に向けた構想発表（２）	仮説構成という観点から
第12回	ゼミ論・卒論作成に向けた構想発表（３）	調査の方法という観点から
第13回	ゼミ論・卒論作成に向けた構想発表（４）	データの整理・分析という観点から
第14回	春学期総括	春学期ゼミ内容を総合的にまとめ、振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　各自のゼミ論・卒論執筆に必要なデータ・資料を収集しつつ、時間をかけて構想を練り、構想発表に備えてください。
　本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
　開講後にお伝えします。

【参考書】
　授業中に随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】
　ゼミ論・卒論（５０%）、平常点（５０%）。
　ゼミ論・卒論については、社会学の基本的な視点・発想の理解度をふまえた上で、論文内容の達成度の状況を基準とします。
　平常点については、ゼミ活動への参加・貢献度、受講態度の状況を基準とします。
　欠席時間数が授業時間数の３分の１を超えた場合、もしくは、受講態度があまりにも悪い場合、不合格となります。

【学生の意見等からの気づき】
　具体的事例を通して社会学理論をできる限り分かりやすく解説していきます。
　また、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション等、少人数の参加型授業という側面を重視していきたいと思います。

【Outline (in English)】
（Course outline）
The practice theme is “Invitation to Sociology: Doubt Your Common Sense!”
Upon obtaining basic sociological viewpoints and way of thinking, students cultivate individual ability to sociologically analyze themes they are personally interested in.
As long as the discourse is based on sociological views and ideas (which are covered in textbook-based lessons), students may choose their own themes for seminar essays and graduation theses.
（Learning Objectives）
The goals of this course are to A, B, and C.
－ A. Explaining the basic viewpoints and ideas on sociology and applying them to the particular cases.
－ B. Explaining the problems by the deep understandings of various human relationships and social phenomena in the community.
－ C. Completing seminar essays and graduation theses with the certain standards in quantity and quality.
（Learning activities outside of classroom）
You will be expected to prepare the presentation by deep consideration with gleaning literature and data.
Your study time will be more than two hours each for before and after the classes.
（Grading Criteria /Policy）
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Seminar essay　Graduation thesis : 50%, in class contribution: 50%

SOC200MA（社会学 / Sociology 200）

演習（ライフ）【3・4年生用】

佐藤　恵

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：月6/Mon.6　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　演習テーマは「社会学の考え方：『常識を疑え！』」です。
　社会学は、「常識を疑う」というスタンスのもとで、社会・文化についての研究を行う学問です。ただし、「常識を疑う」ということは、何も、今まで誰も思いつかなかったような大発見をするということではありません。自分のものの見方・考え方の幅を広げ、自分にとっての新たな気づき・学びを得ていく実践を指します。そうした実践は、どのようなキャリアを築いていくにしても、必要不可欠となるものです。
　当ゼミでは、以上のような社会学の基本的な視点・発想に立脚した上で、ゼミ参加者が自分なりの関心あるテーマについて社会学的に研究し、ゼミ論（3年次）、卒論（4年次）を作成できるようになることをめざします。社会学的な視点・発想に基づいていれば、各自のゼミ論・卒論のテーマは自由です。

【到達目標】
（1）社会学の基本的視点・発想を説明でき、具体的事例に応用することができる。
（2）コミュニティにおけるさまざまな人間関係や社会現象について理解を深め、説明することができる。
（3）ゼミ論・卒論を執筆し、質・量ともに十分な水準の論文として完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
　演習形式の授業です。
　具体的な内容としては、①ゼミ論・卒論完成に向けた中間発表・全体ディスカッション、②テキスト講読とそれに基づくディスカッション、③ニュース記事に基づくディスカッション等です。
　進行方法に関しては、参加者と相談の上、状況に応じて決めていきますが、毎週のゼミの時間以外に、論文構想発表会を年に数回開催して、ゼミ論・卒論の完成をめざしていく予定です。
　なお、課題等に対するフィードバック方法としては、授業時間内に講評・解説の時間を設けることとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	秋学期オリエンテーション	ゼミ論・卒論完成に向けたオリエンテーション：秋学期ゼミ運営方法に関する話し合い
第2回	テキスト講読（1）	意味と相互主観性
第3回	テキスト講読（2）	社会的アイデンティティ
第4回	テキスト講読（3）	ラベリング・スティグマ、正常／異常
第5回	テキスト講読（4）	社会構築主義
第6回	テキスト講読（5）	ジェンダー
第7回	テキスト講読（6）	社会の中の権力
第8回	テキスト講読（7）	共同体、国家、市民社会
第9回	テキスト講読（8）	移民、国民国家、グローバル化
第10回	ゼミ論・卒論完成に向けた中間発表（1）	問題意識の明確化を中心に
第11回	ゼミ論・卒論完成に向けた中間発表（2）	論理整合性・ストーリーラインを中心に
第12回	ゼミ論・卒論完成に向けた中間発表（3）	学術的意義・独自性を中心に
第13回	ゼミ論・卒論完成に向けた中間発表（4）	問いに対応したかたちでの結論の提示を中心に
第14回	年間総括	1年間のゼミ内容を総合的にまとめ、振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　各自のゼミ論・卒論執筆に必要なデータ・資料を収集しつつ、時間をかけて構想を練り、中間発表に備えてください。
　本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
　開講後にお伝えします。

【参考書】
　授業中に随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】
　ゼミ論・卒論（５０%）、平常点（５０%）。
　ゼミ論・卒論については、社会学の基本的な視点・発想の理解度をふまえた上で、論文内容の達成度の状況を基準とします。
　平常点については、ゼミ活動への参加・貢献度、受講態度の状況を基準とします。
　欠席時間数が授業時間数の３分の１を超えた場合、もしくは、受講態度があまりにも悪い場合、不合格となります。

【学生の意見等からの気づき】
　具体的事例を通して社会学理論をできる限り分かりやすく解説していきます。
　また、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション等、少人数の参加型授業という側面を重視していきたいと思います。

【Outline (in English)】
（Course outline）
The practice theme is “Invitation to Sociology: Doubt Your Common Sense!”
Upon obtaining basic sociological viewpoints and way of thinking, students cultivate individual ability to sociologically analyze themes they are personally interested in.
As long as the discourse is based on sociological views and ideas (which are covered in textbook-based lessons), students may choose their own themes for seminar essays and graduation theses.
（Learning Objectives）
The goals of this course are to A, B, and C.
－ A. Explaining the basic viewpoints and ideas on sociology and applying them to the particular cases.
－ B. Explaining the problems by the deep understandings of various human relationships and social phenomena in the community.
－ C. Completing seminar essays and graduation theses with the certain standards in quantity and quality.
（Learning activities outside of classroom）
You will be expected to prepare the presentation by deepen consideration with gleaning literature and data.
Your study time will be more than two hours each for before and after the classes.
（Grading Criteria /Policy）
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Seminar essay　Graduation thesis : 50%, in class contribution: 50%

SOC200MA（社会学 / Sociology 200）

演習（ライフ）【2年生用】

田中　研之輔

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木5/Thu.5　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キャリア理論の最新動向を英文ジャーナルを通じて理解を深め、社会動態の動向を経験的事例と個人的な関心にひきつけて考えていくことを狙いとしています。

【到達目標】
①毎週の英文ジャーナルの輪読により、英文のリーディングスキルを向上させることができます。
②共通課題のグループワークを通じて、他の受講者の考えを理解した上で自分の考えを述べることができるようになります。
③プレゼンテーションの機会を通じて、伝える力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
本講座は、キャリア理論の最先端の動向を把握する為に、①最新英文ジャーナルを読み、②グループワークで共通テーマを深堀していきます。議論から導き出されたテーマを翌週に③プレゼンテーションをして、知識の相互理解を深めていきます。
尚、本講座の取り組みと卒業論文の執筆は連動しています。理論の理解と経験的事例の分析をもとに、個人研究もまとめていきます。
フィードバックは、リアクションペーパーへの全体総括と適宜、個別コメントを各講義の冒頭で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	キャリア理論の包括的な理解①	THE BIG FIVE CAREER THEORIES S. Alvin Leung のディスカッションとグループワーク
第2回	キャリア理論の包括的な理解②	Holland's theory of career choice John Holland のディスカッションとグループワーク
第3回	キャリア理論の包括的な理解③	THE SYSTEMS THEORY FRAMEWORK OF CAREER DEVELOPMENT AND COUNSELING: CONNECTING THEORY AND PRACTICE Wendy Patton のディスカッションとグループワーク
第4回	グローバルキャリア理論の包括的な理解①	REVIEWING GLOBAL CAREER DIMENSIONS: TOWARDS A FUTURE RESEARCH MODEL TINEKE CAPPELLEN のディスカッションとグループワーク
第5回	グローバルキャリア理論の包括的な理解②	Developing Career Capital for Global Careers: The Role of International Michael Dickmann のディスカッションとグループワーク
第6回	グローバルキャリア理論の包括的な理解③	CONTEXT AND GLOBAL MOBILITY: DIVERSE GLOBAL WORK ARRANGEMENTS Wolfgang Mayrhofer のディスカッションとグループワーク
第7回	プロティアンキャリア理論の包括的な理解①	SUCCESS IN THE PROTEAN CAREER: A PREDICTIVE STUDY OF PROFESSIONAL ARTISTS AND TERTIARY ARTS GRADUATES Ruth Bridgstock のディスカッションとグループワーク
第8回	プロティアンキャリア理論の包括的な理解②	Reassessing the protean career concept: empirical findings, conceptual components, and measurement GUBLER, M., ARNOLD のディスカッションとグループワーク
第9回	プロティアンキャリア理論の包括的な理解③	THE MEDIATING EFFECT OF PERCEIVED EMPLOYABILITY ON THE RELATIONSHIP BETWEEN PROTEAN CAREER ORIENTATION, AFFECTIVE COMMITMENT AND SUBJECTIVE CAREER SUCCESS AMONG ACADEMICS IN PAKISTAN By JUNAID ZAFAR のディスカッションとグループワーク
第10回	バウンダリーレスキャリア理論の包括的な理解①	Traditional to Boundaryless Career : Redefining Career in 21st Centaury Anshu Lochab
第11回	バウンダリーレスキャリア理論の包括的な理解②	Is the Boundaryless Career Applicable to all?An Investigation of Black Knowledge Intensive Workers in the UK のディスカッションとグループワーク
第12回	バウンダリーレスキャリア理論の包括的な理解③	Boundaryless career and career success: the impact of emotional and social competencies Fabrizio Gerli のディスカッションとグループワーク
第13回	プロティアンキャリアとバウンダリーレスキャリアの理論的相違に関する理解①	Protean and boundaryless careers: An empirical exploration Jon P. Briscoe のディスカッションとグループワーク
第14回	プロティアンキャリアとバウンダリーレスキャリアの理論的相違に関する理解②	Protean and boundaryless career attitudes scale: Spanish translation and validation Mihaela Enache のディスカッションとグループワーク

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題英文の輪読とクリティカルレビューコメントの準備　本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて参考資料を配付します。

【参考書】
必要に応じて参考資料を配付します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（70％）、期末レポートや講義内課題（30％）による総合評価

【学生の意見等からの気づき】
適宜、補足論文を共有サイトにアップします。

【その他の重要事項】
＊ゼミでは、英語文献を読んでいく機会が多くなると思います。ただし、履修時に英語が苦手でも問題ありません。具体的でわかりやすい事例を取り上げていきながら、英語にも次第に慣れていきましょう。もちろん、英語が得意だという学生も歓迎します。そのような学生には、さらに、飛躍的に英語力ものばせるようサポートしていきます。

【Outline (in English)】
This course introduces research methods,academic writing and practical presentation skills ,as they require to the undergraduate degree of career studies. This practical academic session provides a macro-micro perspective of the methods associated with conducting scholarly research in all follow-on core, qualitative courses, and the academic thesis.
【Work to be done outside of class】
Each student will conduct survey training outside of class to prepare for the presentation.
The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.
【Grading criteria】
Submission assignment (20%), normal score (80%).
The submitted assignments will be based on the achievement level of the assignments, based on the basic viewpoint of qualitative research and the degree of understanding of ideas.
The normal score is based on the degree of participation / contribution to the class and the attitude of attending the class.

SOC200MA（社会学 / Sociology 200）

演習（ライフ）【3・4年生用】

田中　研之輔

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：木5/Thu.5　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キャリア理論の最新動向を英文ジャーナルを通じて理解を深め、社会動態の動向を経験的事例と個人的な関心にひきつけて考えていくことを狙いとしています。

【到達目標】
①毎週の英文ジャーナルの輪読により、英文のリーディングスキルを向上させることができます。
②共通課題のグループワークを通じて、他の受講者の考えを理解した上で自分の考えを述べることができるようになります。
③プレゼンテーションの機会を通じて、伝える力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
本講座は、キャリア理論の最先端の動向を把握する為に、①最新英文ジャーナルを読み、②グループワークで共通テーマを深堀していきます。議論から導き出されたテーマを翌週に③プレゼンテーションをして、知識の相互理解を深めていきます。
尚、本講座の取り組みと卒業論文の執筆は連動しています。理論の理解と経験的事例の分析をもとに、個人研究もまとめていきます。
フィードバックは、リアクションペーパーへの全体総括と適宜、個別コメントを各講義の冒頭で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	キャリア理論の包括的な理解①	THE BIG FIVE CAREER THEORIES S. Alvin Leung のディスカッションとグループワーク
第2回	キャリア理論の包括的な理解②	Holland's theory of career choice John Holland のディスカッションとグループワーク
第3回	キャリア理論の包括的な理解③	THE SYSTEMS THEORY FRAMEWORK OF CAREER DEVELOPMENT AND COUNSELING: CONNECTING THEORY AND PRACTICE Wendy Patton のディスカッションとグループワーク
第4回	グローバルキャリア理論の包括的な理解①	REVIEWING GLOBAL CAREER DIMENSIONS: TOWARDS A FUTURE RESEARCH MODEL TINEKE CAPPELLEN のディスカッションとグループワーク
第5回	グローバルキャリア理論の包括的な理解②	Developing Career Capital for Global Careers: The Role of International Michael Dickmann のディスカッションとグループワーク
第6回	グローバルキャリア理論の包括的な理解③	CONTEXT AND GLOBAL MOBILITY: DIVERSE GLOBAL WORK ARRANGEMENTS Wolfgang Mayrhofer のディスカッションとグループワーク
第7回	プロティアンキャリア理論の包括的な理解①	SUCCESS IN THE PROTEAN CAREER: A PREDICTIVE STUDY OF PROFESSIONAL ARTISTS AND TERTIARY ARTS GRADUATES Ruth Bridgstock のディスカッションとグループワーク
第8回	プロティアンキャリア理論の包括的な理解②	Reassessing the protean career concept: empirical findings, conceptual components, and measurement GUBLER, M., ARNOLD のディスカッションとグループワーク
第9回	プロティアンキャリア理論の包括的な理解③	THE MEDIATING EFFECT OF PERCEIVED EMPLOYABILITY ON THE RELATIONSHIP BETWEEN PROTEAN CAREER ORIENTATION, AFFECTIVE COMMITMENT AND SUBJECTIVE CAREER SUCCESS AMONG ACADEMICS IN PAKISTAN By JUNAID ZAFAR のディスカッションとグループワーク
第10回	バウンダリーレスキャリア理論の包括的な理解①	Traditional to Boundaryless Career : Redefining Career in 21st Centaury Anshu Lochab
第11回	バウンダリーレスキャリア理論の包括的な理解②	Is the Boundaryless Career Applicable to all?An Investigation of Black Knowledge Intensive Workers in the UK のディスカッションとグループワーク
第12回	バウンダリーレスキャリア理論の包括的な理解③	Boundaryless career and career success: the impact of emotional and social competencies Fabrizio Gerli のディスカッションとグループワーク
第13回	プロティアンキャリアとバウンダリーレスキャリアの理論的相違に関する理解①	Protean and boundaryless careers: An empirical exploration Jon P. Briscoe のディスカッションとグループワーク
第14回	プロティアンキャリアとバウンダリーレスキャリアの理論的相違に関する理解②	Protean and boundaryless career attitudes scale: Spanish translation and validation Mihaela Enache のディスカッションとグループワーク

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題英文の輪読とクリティカルレビューコメントの準備　本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて参考資料を配付します。

【参考書】
必要に応じて参考資料を配付します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（70％）、期末レポートや講義内課題（30％）による総合評価

【学生の意見等からの気づき】
適宜、補足論文を共有サイトにアップします。

【その他の重要事項】
＊ゼミでは、英語文献を読んでいく機会が多くなると思います。ただし、履修時に英語が苦手でも問題ありません。具体的でわかりやすい事例を取り上げていきながら、英語にも次第に慣れていきましょう。もちろん、英語が得意だという学生も歓迎します。そのような学生には、さらに、飛躍的に英語力ものばせるようサポートしていきます。

【Outline (in English)】
This course introduces research methods,academic writing and practical presentation skills ,as they require to the undergraduate degree of career studies. This practical academic session provides a macro-micro perspective of the methods associated with conducting scholarly research in all follow-on core, qualitative courses, and the academic thesis.
【Work to be done outside of class】
Each student will conduct survey training outside of class to prepare for the presentation.
The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.
【Grading criteria】
Submission assignment (20%), normal score (80%).
The submitted assignments will be based on the achievement level of the assignments, based on the basic viewpoint of qualitative research and the degree of understanding of ideas.
The normal score is based on the degree of participation / contribution to the class and the attitude of attending the class.

SOC200MA（社会学 / Sociology 200）

演習（ライフ）【3・4年生用】

田中　研之輔

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木6/Thu.6　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キャリア理論の最新動向を英文ジャーナルを通じて理解を深め、社会動態の動向を経験的事例と個人的な関心にひきつけて考えていくことを狙いとしています。

【到達目標】
①毎週の英文ジャーナルの輪読により、英文のリーディングスキルを向上させることができます。
②共通課題のグループワークを通じて、他の受講者の考えを理解した上で自分の考えを述べることができるようになります。
③プレゼンテーションの機会を通じて、伝える力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
本講座は、キャリア理論の最先端の動向を把握する為に、①最新英文ジャーナルを読み、②グループワークで共通テーマを深堀していきます。議論から導き出されたテーマを翌週に③プレゼンテーションをして、知識の相互理解を深めていきます。
尚、本講座の取り組みと卒業論文の執筆は連動しています。理論の理解と経験的事例の分析をもとに、個人研究もまとめていきます。
フィードバックは、リアクションペーパーへの全体総括と適宜、個別コメントを各講義の冒頭で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	キャリア理論の包括的な理解①	THE BIG FIVE CAREER THEORIES S. Alvin Leung のディスカッションとグループワーク
第2回	キャリア理論の包括的な理解②	Holland's theory of career choice John Holland のディスカッションとグループワーク
第3回	キャリア理論の包括的な理解③	THE SYSTEMS THEORY FRAMEWORK OF CAREER DEVELOPMENT AND COUNSELING: CONNECTING THEORY AND PRACTICE Wendy Patton のディスカッションとグループワーク
第4回	グローバルキャリア理論の包括的な理解①	REVIEWING GLOBAL CAREER DIMENSIONS: TOWARDS A FUTURE RESEARCH MODEL TINEKE CAPPELLEN のディスカッションとグループワーク
第5回	グローバルキャリア理論の包括的な理解②	Developing Career Capital for Global Careers: The Role of International Michael Dickmann のディスカッションとグループワーク
第6回	グローバルキャリア理論の包括的な理解③	CONTEXT AND GLOBAL MOBILITY: DIVERSE GLOBAL WORK ARRANGEMENTS Wolfgang Mayrhofer のディスカッションとグループワーク
第7回	プロティアンキャリア理論の包括的な理解①	SUCCESS IN THE PROTEAN CAREER: A PREDICTIVE STUDY OF PROFESSIONAL ARTISTS AND TERTIARY ARTS GRADUATES Ruth Bridgstock のディスカッションとグループワーク
第8回	プロティアンキャリア理論の包括的な理解②	Reassessing the protean career concept: empirical findings, conceptual components, and measurement GUBLER, M., ARNOLD のディスカッションとグループワーク
第9回	プロティアンキャリア理論の包括的な理解③	THE MEDIATING EFFECT OF PERCEIVED EMPLOYABILITY ON THE RELATIONSHIP BETWEEN PROTEAN CAREER ORIENTATION, AFFECTIVE COMMITMENT AND SUBJECTIVE CAREER SUCCESS AMONG ACADEMICS IN PAKISTAN By JUNAID ZAFAR のディスカッションとグループワーク
第10回	バウンダリーレスキャリア理論の包括的な理解①	Traditional to Boundaryless Career : Redefining Career in 21st Centaury Anshu Lochab
第11回	バウンダリーレスキャリア理論の包括的な理解②	Is the Boundaryless Career Applicable to all?An Investigation of Black Knowledge Intensive Workers in the UK のディスカッションとグループワーク
第12回	バウンダリーレスキャリア理論の包括的な理解③	Boundaryless career and career success: the impact of emotional and social competencies Fabrizio Gerli のディスカッションとグループワーク
第13回	プロティアンキャリアとバウンダリーレスキャリアの理論的相違に関する理解①	Protean and boundaryless careers: An empirical exploration Jon P. Briscoe のディスカッションとグループワーク
第14回	プロティアンキャリアとバウンダリーレスキャリアの理論的相違に関する理解②	Protean and boundaryless career attitudes scale: Spanish translation and validation Mihaela Enache のディスカッションとグループワーク

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題英文の輪読とクリティカルレビューコメントの準備　本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて参考資料を配付します。

【参考書】
必要に応じて参考資料を配付します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（70％）、期末レポートや講義内課題（30％）による総合評価

【学生の意見等からの気づき】
適宜、補足論文を共有サイトにアップします。

【その他の重要事項】
＊ゼミでは、英語文献を読んでいく機会が多くなると思います。ただし、履修時に英語が苦手でも問題ありません。具体的でわかりやすい事例を取り上げていきながら、英語にも次第に慣れていきましょう。もちろん、英語が得意だという学生も歓迎します。そのような学生には、さらに、飛躍的に英語力ものばせるようサポートしていきます。

【Outline (in English)】
This course introduces research methods,academic writing and practical presentation skills ,as they require to the undergraduate degree of career studies. This practical academic session provides a macro-micro perspective of the methods associated with conducting scholarly research in all follow-on core, qualitative courses, and the academic thesis.
【Work to be done outside of class】
Each student will conduct survey training outside of class to prepare for the presentation.
The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.
【Grading criteria】
Submission assignment (20%), normal score (80%).
The submitted assignments will be based on the achievement level of the assignments, based on the basic viewpoint of qualitative research and the degree of understanding of ideas.
The normal score is based on the degree of participation / contribution to the class and the attitude of attending the class.

SOC200MA（社会学 / Sociology 200）

演習（ライフ）【2年生用】

福井　令恵

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水5/Wed.5　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、「ともに生きる」という課題を、さまざまな視点から考えていきます。主として多文化共生やジェンダーに関する議論を取り上げます。身近な事例を手がかりに、その背景にある歴史的・社会的構造についても理解を深めます。
また、文献講読、ディスカッション、発表を通して、文献の読解力、必要な文献の探し方、情報の整理・まとめ方といったスキルを身につけます。

【到達目標】
以下の4点を到達目標とする。
１．テーマに関する基本的な知識の習得。
２．文献を読むスキルの向上（それぞれの文献の論点・エッセンスをきちんとつかむこと）。
３．必要文献の探し方の習得。
４．問題関心を形成すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
文献講読・発表、グループディスカッション、グループワークを中心に進めます。文献を読み、各自が毎回レジュメを作成し演習に参加します。レジュメのフィードバックを行うとともに、良い内容については、授業内で共有し、さらなる考察につなげていきます。
【注】下記の授業計画は、状況によって一部変更の場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション ＜３・４年生との合同＞	ゼミの進め方、ゼミでのルールを確認する。
第2回	レジュメのつくり方、文献の読み方	ゼミにおいて必要な、基本的なスキル――読書ノートのつくり方、報告の仕方、文献講読の基礎――を習得する。
第3回	基本文献講読①	文献を読み、内容の理解を深めたうえでディスカッションをする。（基礎編　文献１）
第4回	基本文献講読②	文献を読み、内容の理解を深めたうえでディスカッションをする。（基礎編　文献２）
第5回	基本文献講読③	文献を読み、内容の理解を深めたうえでディスカッションをする。（基礎編　文献３）
第6回	基本文献講読④	文献を読み、内容の理解を深めたうえでディスカッションをする。（基礎編　文献４）
第7回	後半運営計画の策定（見直し）	これまでの授業を振り返り、後半の計画について見直しを含めた具体化を行う。
第8回	文献の集め方、論文の読み方、レポートの書き方①	文献サーベイのための、文献の集め方について理解する。
第9回	文献の集め方、論文の読み方、レポートの書き方②	論文の読み方について理解する（論文の基本構成にもついても確認する）。
第10回	文献の集め方、論文の読み方、レポートの書き方③	レポートの書き方を習得する（基礎ゼミの内容を踏まえたうえで、より良いポートを書くにはどうしたらよいか、検討する）。
第11回	文献の集め方、論文の読み方、レポートの書き方④	自分の関心にもとづいたテーマを発表をする（文献の集め方、論文の読み方、レポートの書き方①〜③をふまえる）。
第12回	研究発表① ＜３年生との合同＞	研究発表とディスカッション（前半）。
第13回	研究発表② ＜３・４年生との合同＞	研究発表とディスカッション（後半）。
第14回	まとめ ＜３・４年生との合同＞	４年生の卒論発表 全体を振り返り、総括をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献講読に当たっては、毎回必ず念入りに文献を読み、指定されたやり方にしたがって予習をした上で討論に参加すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内で指示する。

【参考書】
適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
研究への取り組み姿勢、ゼミ活動への貢献等を評価する。
具体的には、
授業への参加姿勢・ゼミへの貢献度 50％
レポートやレジュメ等課題対応・内容 50％。

【学生の意見等からの気づき】
フィードバックを重視しつつ授業運営をすすめます。

【学生が準備すべき機器他】
ノートパソコンを持参すること。

【その他の重要事項】
ゼミは、学生たちが自ら主体的に作り上げていくものです。皆さんの積極的な参加を期待します。
不定期で5・6限にまたがってゼミを実施することがあるので、ゼミの日は、5・6限とも他の予定を入れないようにしてください。原則として3年生終了時までに、国際地域研究Ⅰ・Ⅱを履修してください。

【Outline (in English)】
Students examine issues of multicultural coexistence and gender through the lens of structural inequalities.This course is also designed to develop research and writing skills (finding sources, learning citation styles, and cultivating critical reading and writing skills).
Before/after each class meeting, students will be expected to spend at least four hours to understand the course content.
Grading: 1) Written assignments and handouts 50%, 2) In-class contributions and discussions 50%.

SOC200MA（社会学 / Sociology 200）

演習（ライフ）【3・4年生用】

福井　令恵

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：水5/Wed.5　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、「ともに生きる」という課題を考えていきます。主として多文化共生やジェンダーについて扱います。テーマに基づき、文献購読、ディスカッション、発表を行います。文献の読解力の向上、必要な文献の探し方、論理的・説得的な議論の展開といったアカデミック・スキルズを身につけます。また、調査の企画・実施を通じて、卒論執筆に向けてのステップを進めます。

【到達目標】
ゼミのグループ研究を進めるとともに、自分の興味・関心にもとづいてテーマと問いを設定します。
アカデミックスキルズ（適切な文献の探し方・読み方、自分の考えを理論的・説得的にまとめる力）を身につけます。
また卒論執筆・研究に向けて準備を進めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
共通文献の読み込みによりさらに知識を習得し、グループでの議論を通じて理解を深めます。また、各自の関心に基づいて文献を収集、整理し、成果をゼミで発表します。その内容について、全体および個別のフィードバックを行います。
【注】下記の授業計画は、状況によって一部変更の場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の目的と進め方について説明する。
第2回	研究テーマの検討	問いを考える。
第3回	文献研究①	発表と討論を行う（前半）。
第4回	文献研究②	発表と討論を行う（中間）。
第5回	文献研究③	発表と討論を行う（後半）。
第6回	ここまでのまとめ	これまでの内容をまとめ、課題や問題設定について議論する。
第7回	調査について学ぶ	情報を収集し、分析する方法について考える。
第8回	調査について考える	各自の関心、調査の計画を発表する。
第9回	文献リスト作成	研究テーマに関する先行研究を調べる。
第10回	研究発表①	研究構想の発表と議論（前半）。
第11回	研究発表②	研究構想の発表と議論（後半）。
第12回	研究テーマの進め方について計画を立てる①	研究構想発表と議論を受けて、今後の具体的な進め方を検討する（前半）。
第13回	研究テーマの進め方について計画を立てる②	研究構想発表と議論を受けて、今後の具体的な進め方を検討する（後半）。
第14回	総括	まとめ、夏の課題について検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
研究成果の発表に向けて、文献調査やデータ収集などの作業をサブゼミの時間に行うなど、積極的な参加が求められます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業で適宜紹介する。

【参考書】
ゼミにおいて適宜提示・助言する。

【成績評価の方法と基準】
研究への取り組み姿勢、ゼミ活動への貢献等を評価する。
具体的には、発表・レジュメ等の内容　50％、授業の参加姿勢・ゼミへの貢献度（仲間に対する知的貢献）　50％。

【学生の意見等からの気づき】
卒業論文執筆に関して、長い分量を書くことに対する不安を少なくするために、春学期から論文の書き方を紹介・指導する。

【学生が準備すべき機器他】
ノートパソコンを持参すること。

【その他の重要事項】
不定期で5・6限にまたがってゼミを実施することがあるので、ゼミの日は、5・6限とも他の予定を入れないようにしてください。3年生終了時までに、国際地域研究Ⅰ・Ⅱを履修すること。

【Outline (in English)】
This course examines issues of multicultural coexistence and gender from the perspectives of sociology and cultural studies. Students study the main challenges to making society more inclusive for everyone, with particular attention to the social, cultural, and structural factors that shape these issues.
The course also develops research and writing skills (finding sources, learning citation styles, and cultivating critical reading and writing skills).
Grading: 1) Presentations and written assignments 50%, 2) In-class contributions and discussions 50%.

SOC200MA（社会学 / Sociology 200）

演習（ライフ）【3・4年生用】

福井　令恵

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水6/Wed.6　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「ともに生きる」という課題を考えていきます。主として多文化共生やジェンダーについて扱います。ゼミのテーマに基づき、文献講読、ディスカッション、発表を行います。文献の読解力の向上、必要な文献の探し方、論理的・説得的な議論の展開といったアカデミック・スキルズを身につけます。
3年生は卒業論文の執筆に向けた準備を始めます。4年生は卒業論文を完成させます。

【到達目標】
自分の興味・関心にもとづいたテーマを社会的構造/歴史的・文化的文脈との関連のなかで捉える視点を獲得します。また、アカデミック・スキルズ（より具体的な問いの設定、適切な文献の探し方・読み方、調査結果の分析・考察、自分の考えを理論的・説得的にまとめる力）を身につけます。わかりやすい発表、質問やコメントに対して論理的な回答ができるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
共通文献の読み込みによりさらに知識を習得し、グループでの議論を通じて理解を深めます。また、各自の関心に基づいて文献を収集、整理し、成果をゼミで発表します。その内容について、全体および個別のフィードバックを行います。
【注】下記の授業計画は、状況によって一部変更の場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の目的と進め方について説明する。
第2回	研究テーマの検討	問いを考える。
第3回	文献研究①	発表と討論を行う（前半）。
第4回	文献研究②	発表と討論を行う（中間）。
第5回	文献研究③	発表と討論を行う（後半）。
第6回	ここまでのまとめ	これまでの内容をまとめ、課題や問題設定について議論する。
第7回	調査について学ぶ	情報を収集し、分析する方法について考える。
第8回	調査について考える	各自の関心、調査の計画を発表する。
第9回	文献リスト作成	研究テーマに関する先行研究を調べる。
第10回	研究発表①	研究構想の発表と議論（前半）。
第11回	研究発表②	研究構想の発表と議論（後半）。
第12回	研究テーマの進め方について計画を立てる①	研究構想発表と議論を受けて、今後の具体的な進め方を検討する（前半）。
第13回	研究テーマの進め方について計画を立てる②	研究構想発表と議論を受けて、今後の具体的な進め方を検討する（後半）。
第14回	総括	まとめ、夏の課題について検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
研究成果の発表に向けて、文献調査やデータ収集などの作業をサブゼミの時間に行うなど、積極的な参加が求められます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業で適宜紹介する。

【参考書】
ゼミにおいて適宜提示・助言する。

【成績評価の方法と基準】
研究への取り組み姿勢、ゼミ活動への貢献等を評価する。
具体的には、発表・レジュメ・レポートの内容　50％、授業の参加姿勢・ゼミへの貢献度（仲間に対する知的貢献）　50％。

【学生の意見等からの気づき】
卒業論文執筆に関して、長い分量を書くことに対する不安を少なくするために、春学期から論文の書き方を紹介・指導する。

【学生が準備すべき機器他】
ノートパソコンを持参すること。

【その他の重要事項】
不定期で5・6限にまたがってゼミを実施することがあるので、ゼミの日は、5・6限とも他の予定を入れないようにしてください。原則として3年生終了時までに、国際地域研究Ⅰ・Ⅱを履修すること。

【Outline (in English)】
This course examines issues of multicultural coexistence and gender from the perspectives of sociology and cultural studies.Students study the main challenges to making society more inclusive for everyone, with particular attention to the social, cultural, and structural factors that shape these issues. The course also develops research and writing skills (finding sources, learning citation styles, and cultivating critical reading and writing skills).
Grading: 1) Presentations and written assignments 50%, 2) In-class contributions and discussions 50%.

SOC200MA（社会学 / Sociology 200）

演習（ライフ）【2年生用】

森屋　雅幸

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木5/Thu.5　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、地域の文化と現代の日本の地域社会との関わり、そしてコミュニティ形成、地域づくりに地域の文化がどのように関係して、地域課題の解決にいかに寄与するのか、演習を通して、理解を深めることを目的とする。

【到達目標】
地域文化、コミュニティ、地域づくりというキーワードとそれにまつわるさまざまな概念や理論を理解したうえで、自身で問いを立て、地域の文化を支える機関や組織、人と、それらの活動をフィールドワークや文献調査などから捉えて把握し、分析・考察へつなぐことができることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
テーマに関連する文献講読からの学びと、受講者の興味・関心にもとづき、地域の文化を活かした地域づくりを実践する現場へのフィールドワークの実施を予定している。課題等に対するフィードバックは演習内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	演習の目的、進め方、受講生の問題意識を確認する。
第2回	演習の内容確認	演習を通じて学ぶことを確認する。
第3回	文献講読Ⅰ	地域文化、コミュニティ、地域づくりのテーマに応じた文献の要約と発表。
第4回	文献講読Ⅱ	地域文化、コミュニティ、地域づくりのテーマに応じた文献の要約と発表。
第5回	文献講読Ⅲ	地域文化、コミュニティ、地域づくりのテーマに応じた文献の要約と発表。
第6回	文献講読Ⅳ	地域文化、コミュニティ、地域づくりのテーマに応じた文献の要約と発表。
第7回	調査の方法Ⅰ	問題関心からリサーチクエスチョンの立て方について、文献講読を通して理解する。
第8回	調査の方法Ⅱ	仮説検証のための調査方法について、文献講読を通して理解する。
第9回	調査の方法Ⅲ	調査における心構えについて、文献講読を通して理解する。
第10回	フィールドワークの事前準備	フィールドワーク先の地域概要について、文献調査の成果を報告、共有する。
第11回	フィールドワークの実施	地域文化、コミュニティ、地域づくりのテーマに応じたフィールドで実態調査を実施する。
第12回	フィールドワークの振り返り	調査から明らかになったことについて報告・共有する。
第13回	問題関心とリサーチクエスチョン	演習を通じて生じた自身の問題関心からリサーチクエスチョンを作成して報告・共有する。
第14回	演習の振り返り	到達度と今後の課題について確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献講読や報告準備など、準備・復習時間として各2時間程度を標準とする。日頃から、自身の問題関心を深め、関連する文献講読やインターネット、報道等からの情報収集を積極的に進め、興味・関心を向けられるフィールドを探求する姿勢が求められる。
授業開始までに国立国会図書館の利用者登録を済ませておくことが望ましい。

【テキスト（教科書）】
受講生の興味・関心に応じて、適宜紹介する。

【参考書】
必要に応じて紹介・配布する。

【成績評価の方法と基準】
演習への取り組み姿勢や報告内容（50％）、レポート課題（50％）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
ゼミ生同士の交流を意識した演習に取り組む。

【その他の重要事項】
ゼミの運営は、参加者が主体的に関わって行う。受け身でなく、自発的に自分の興味・関心があるテーマを追究していく姿勢が求められる。
自身の研究テーマを見つけるためにも、なるべく日頃から、演習のテーマに関するニュースや新聞などから情報を得ておくこと。
理由なく各学期5回以上欠席した場合、成績評価せず、理由なき早退・遅刻は3回で1回の欠席として扱う（フィールドワークも同様）。
出席は初回授業からとる。
学外の博物館などの施設にフィールドワークで訪れる場合、交通費などの費用負担が発生する。

【Outline (in English)】
The purpose of this class is to deepen understanding, through exercises, of the relationship between local culture and contemporary Japanese local communities, and how local culture relates to community generation and regional development, and how it contributes to solving local problems.

SOC200MA（社会学 / Sociology 200）

演習（ライフ）【3・4年生用】

森屋　雅幸

単位数：単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：木5/Thu.5　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、地域の文化と現代の日本の地域社会との関わり、そしてコミュニティ形成、地域づくりに地域の文化がどのように関係して、地域課題の解決にいかに寄与するのか、演習を通して、理解を深めることを目的とする。

【到達目標】
地域文化、コミュニティ、地域づくりというキーワードとそれにまつわるさまざまな概念や理論を理解したうえで、自身で問いを立て、地域の文化を支える機関や組織、人と、それらの活動をフィールドワークや文献調査などから捉えて把握し、分析・考察へつなぐことができることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
テーマに関連する文献講読からの学びと、受講者の興味・関心にもとづき、地域の文化を活かした地域づくりを実践する現場へのフィールドワークの実施を予定している。課題等に対するフィードバックは演習内で行う。3年生は研究テーマの明確化、4年生は卒業論文の執筆へ向けた準備を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	演習の目的、進め方、受講生の問題意識を確認する。
第2回	研究テーマの見つけ方	各自の研究テーマの見つけ方を解説する。
第3回	文献講読Ⅰ	研究テーマに応じた文献の要約の発表とディスカッションを行う。
第4回	文献講読Ⅱ	研究テーマに応じた文献の要約の発表とディスカッションを行う。
第5回	文献講読Ⅲ	研究テーマに応じた文献の要約の発表とディスカッションを行う。
第6回	文献講読Ⅳ	研究テーマに応じた文献の要約の発表とディスカッションを行う。
第7回	文献講読Ⅴ	研究テーマに応じた文献の要約の発表とディスカッションを行う。
第8回	研究の方法Ⅰ	各自の研究テーマの先行研究の探し方を解説する。
第9回	研究の方法Ⅱ	類似した研究テーマのグループでディスカッションをして、各自の研究テーマにおける問題意識を深める。
第10回	研究の方法Ⅲ	論文の構成、執筆について解説する。
第11回	研究の方法Ⅳ	文献調査による各自の研究テーマを探究して、発表し、意見交換する。
第12回	研究の方法Ⅴ	文献調査による各自の研究テーマを探究して、発表し、意見交換する。
第13回	研究の方法Ⅵ	文献調査による各自の研究テーマを探究して、発表し、意見交換する。
第14回	演習の振り返り	到達度と今後の課題について確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献講読や報告準備など、準備・復習時間として各2時間程度を標準とする。日頃から、自身の問題関心を深め、関連する文献講読やインターネット、報道等からの情報収集を積極的に進め、興味・関心を向けられるフィールドを探求する姿勢が求められる。
授業開始までに国立国会図書館の利用者登録を済ませておくこと。

【テキスト（教科書）】
受講生の興味・関心に応じて、適宜紹介する。

【参考書】
必要に応じて紹介・配布する。

【成績評価の方法と基準】
演習への取り組み姿勢や報告内容（50％）、レポート課題（50％）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
ゼミ生同士の交流を意識した演習に取り組む。

【その他の重要事項】
ゼミの運営は、参加者が主体的に関わって行う。受け身でなく、自発的に自分の興味・関心があるテーマを追究していく姿勢が求められる。
自身の研究テーマを見つけるためにも、なるべく日頃から、演習のテーマに関するニュースや新聞などから情報を得ておくこと。
理由なく各学期5回以上欠席した場合、成績評価せず、理由なき早退・遅刻は3回で1回の欠席として扱う（フィールドワークも同様）。
出席は初回授業からとる。
学外の博物館などの施設にフィールドワークで訪れる場合、交通費などの費用負担が発生する。

【Outline (in English)】
The purpose of this class is to deepen understanding, through exercises, of the relationship between local culture and contemporary Japanese local communities, and how local culture relates to community generation and regional development, and how it contributes to solving local problems.

SOC200MA（社会学 / Sociology 200）

演習（ライフ）【3・4年生用】

森屋　雅幸

単位数：単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木6/Thu.6　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、地域の文化と現代の日本の地域社会との関わり、そしてコミュニティ形成、地域づくりに地域の文化がどのように関係して、地域課題の解決にいかに寄与するのか、演習を通して、理解を深めることを目的とする。

【到達目標】
地域文化、コミュニティ、地域づくりというキーワードとそれにまつわるさまざまな概念や理論を理解したうえで、自身で問いを立て、地域の文化を支える機関や組織、人と、それらの活動をフィールドワークや文献調査などから捉えて把握し、分析・考察へつなぐことができることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
テーマに関連する文献講読からの学びと、受講者の興味・関心にもとづき、地域の文化を活かした地域づくりを実践する現場へのフィールドワークの実施を予定している。課題等に対するフィードバックは演習内で行う。3年生は研究テーマの明確化、4年生は卒業論文の執筆へ向けた準備を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	演習の目的、進め方、受講生の問題意識を確認する。
第2回	研究テーマの見つけ方	各自の研究テーマの見つけ方を解説する。
第3回	文献講読Ⅰ	研究テーマに応じた文献の要約の発表とディスカッションを行う。
第4回	文献講読Ⅱ	研究テーマに応じた文献の要約の発表とディスカッションを行う。
第5回	文献講読Ⅲ	研究テーマに応じた文献の要約の発表とディスカッションを行う。
第6回	文献講読Ⅳ	研究テーマに応じた文献の要約の発表とディスカッションを行う。
第7回	文献講読Ⅴ	研究テーマに応じた文献の要約の発表とディスカッションを行う。
第8回	研究の方法Ⅰ	各自の研究テーマの先行研究の探し方を解説する。
第9回	研究の方法Ⅱ	類似した研究テーマのグループでディスカッションをして、各自の研究テーマにおける問題意識を深める。
第10回	研究の方法Ⅲ	論文の構成、執筆について解説する。
第11回	研究の方法Ⅳ	文献調査による各自の研究テーマを探究して、発表し、意見交換する。
第12回	研究の方法Ⅴ	文献調査による各自の研究テーマを探究して、発表し、意見交換する。
第13回	研究の方法Ⅵ	文献研究による各自の研究テーマを探究して、発表し、意見交換する。
第14回	演習の振り返り	到達度と今後の課題について確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献講読や報告準備など、準備・復習時間として各2時間程度を標準とする。日頃から、自身の問題関心を深め、関連する文献講読やインターネット、報道等からの情報収集を積極的に進め、興味・関心を向けられるフィールドを探求する姿勢が求められる。
授業開始までに国立国会図書館の利用者登録を済ませておくこと。

【テキスト（教科書）】
受講生の興味・関心に応じて、適宜紹介する。

【参考書】
必要に応じて紹介・配布する。

【成績評価の方法と基準】
演習への取り組み姿勢や報告内容（50％）、レポート課題（50％）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
ゼミ生同士の交流を意識した演習に取り組む。

【その他の重要事項】
ゼミの運営は、参加者が主体的に関わって行う。受け身でなく、自発的に自分の興味・関心があるテーマを追究していく姿勢が求められる。
自身の研究テーマを見つけるためにも、なるべく日頃から、演習のテーマに関するニュースや新聞などから情報を得ておくこと。
理由なく各学期5回以上欠席した場合、成績評価せず、理由なき早退・遅刻は3回で1回の欠席として扱う（フィールドワークも同様）。
出席は初回授業からとる。
学外の博物館などの施設にフィールドワークで訪れる場合、交通費などの費用負担が発生する。

【Outline (in English)】
The purpose of this class is to deepen understanding, through exercises, of the relationship between local culture and contemporary Japanese local communities, and how local culture relates to community generation and regional development, and how it contributes to solving local problems.

SOC200MA（社会学 / Sociology 200）

演習（ライフ）【2年生用】

安田　節之

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：月5/Mon.5　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この演習（ゼミ）の学びの柱はコミュニティ心理学とプログラム評価です。この2つの柱をもとに，どのような人間の行動や心理が社会のなかでより良く生きる（live a good life），よい人生を送ること，つまりライフキャリアの質を高めることにつながるのかについて検討します。そして，どのような取り組み（プログラム）がライフキャリアの質向上に貢献できるのかについて各自の研究テーマをもとに考えていきます。前半のコミュニティ心理学につづき，後半ではプログラム評価について学びます。

【到達目標】
① 個人や集団に対して実施されるライフキャリア・プログラムの実情を知る。
② 自らが関心をもつ社会課題を理解し、その原因(問題)の分析が行えるようになる。
③ 今後のライフキャリアについて心理学の視点から捉えることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
皆さんが興味・関心のあるテーマは人それぞれだと思います。各自がゼミで取り組みたいというテーマを自主的に選び，研究していく形で全く問題ありません。ただ，そのテーマが単なる自分の関心事というだけでなく，より広く社会の関心事（例：社会課題）であることが大切であると考えています。自己満足の研究で終わってしまわないように，つまり“そんなことが分かってどうするのか（so what?）”あるいは“そんなことを研究して何になるのか（for what?）”とならないように，できるだけ「自分だけでない誰かのライフキャリアの質を高めるための視点」から問いを立てるところからスタートしてください。ゼミでは課題図書や論文を読み，個人研究テーマに関するディスカッションを行います。また3年生と共同で調査データの収集・分析を行います。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。以上の方法を用いて，プログラム評価の基礎と応用を学びます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業内容の説明、評価方法の説明など
第2回	プログラム評価とは	プログラム評価研究に関する主要概念の確認
第3回	プログラム評価の方法論	課題学習の資料を基にしたプログラム評価の基礎の学び
第4回	評価の検討①	ライフキャリア入門C・世代間交流論で扱ったプログラムの検討（グループワーク）
第5回	学年別ゼミ	構想発表（2年），データ分析演習（3年）
第6回	評価の検討②	ライフキャリア入門C・世代間交流論で扱ったプログラムの検討（グループワーク）
第7回	ロジックモデルの作成①	ロジックモデルの開発に向けた情報収集・整理
第8回	学年別ゼミ	データ分析演習（2年），ゼミ論進捗状況の報告（3年）
第9回	ロジックモデルの作成②	ロジックモデルの開発・精査
第10回	ロジックモデルの作成②	コミュニティ心理学に基づく予防科学の論点整理と仮説生成。
第11回	評価クエスチョン・実験デザインによるプログラム評価①	評価における疑問点と実験デザインの検討
第12回	実験デザインによるプログラム評価②	実験デザインを活用したプログラム評価の検討
第13回	今後の研究課題の検討	プログラム評価に基づく研究課題の設定。
第14回	卒業論文発表会	4年の卒論発表会およびディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
地域社会や様々な人々のライフキャリアの課題について考えるようにしてください。ゼミの時間以外の個人学習およびサブゼミ等を活用して、自分自身が探求したい研究テーマの設定をしっかりと行ってください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて資料を配布する。また課題図書(テキスト)は授業時に検討・決定する。

【参考書】
「プログラム評価：対人・コミュニティ援助の質を高めるために(ワードマップ)」(安田節之，2011，新曜社)

【成績評価の方法と基準】
個人・グループ発表（50%）、授業への積極的な貢献度（出席状況を含む）(50%）を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
ゼミで学ぶ専門知識とライフキャリアの学びとのバランスをとる。

【Outline (in English)】
The purpose of this seminar is to help students understand the theory and methods of community psychology and program evaluation. Based on those understanding, students are to learn about how they can build their careers in the future for the purpose of living a good live in the future.
Goal
・Know programs that are relevant to individual and community well-being
・Understand ways of analyzing social issues and solving those problems.
・Understand your own quality of life from psychological points of view.
Learning activities outside of classroom:
Students are expected not only to actively participate in class but also engage in academic activities outside of the classroom(2hrs for reading and 2hrs for outreach studies)..
Grading Criteria /Policy:
50 points (%) for participation, class assignments, and group activities
50 points (%) for class presentations

SOC200MA（社会学 / Sociology 200）

演習（ライフ）【3・4年生用】

安田　節之

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：月5/Mon.5　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この演習（ゼミ）の学びの柱はコミュニティ心理学とプログラム評価です。この2つの柱をもとに，どのような人間の行動や心理が社会のなかでより良く生きる（live a good life），よい人生を送ること，つまりライフキャリアの質を高めることにつながるのかについて検討します。そして，どのような取り組み（プログラム）がライフキャリアの質向上に貢献できるのかについて各自の研究テーマをもとに考えていきます。

【到達目標】
① 個人や集団に対して実施されるライフキャリア・プログラムの実情を知る。
② 自らが関心をもつ社会課題を理解し、その原因(問題)の分析が行えるようになる。
③ 今後のライフキャリアについて心理学の視点から捉えることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
皆さんが興味・関心のあるテーマは人それぞれだと思います。各自がゼミで取り組みたいというテーマを自主的に選び，研究していく形で全く問題ありません。ただ，そのテーマが単なる自分の関心事というだけでなく，より広く社会の関心事（例：社会課題）であることが大切であると考えています。自己満足の研究で終わってしまわないように，つまり“そんなことが分かってどうするのか（so what?）”あるいは“そんなことを研究して何になるのか（for what?）”とならないように，できるだけ「自分だけでない誰かのライフキャリアの質を高めるための視点」から問いを立てるところからスタートしてください。ゼミでは課題図書や論文を読み，個人研究テーマに関するディスカッションを行います。また3年生と共同で調査データの収集・分析を行います。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業内容の説明、評価方法の説明など
第2回	ウェルビーイング①	ライフキャリア支援の考え方について，ウェルビーイングの視点から学ぶ。（概念の復習・映像資料）
第3回	ウェルビーイング②	ウェルビーイングについての論点整理および仮説生成。（グループワークによる論点整理・仮説生成）
第4回	学年別ゼミ①	ゼミ論構想発表（2年），ゼミ論データ分析演習（3年）
第5回	コミュニティ感覚①	コミュニティ感覚についての論点整理と仮説生成。
第6回	コミュニティ感覚②	前回の仮説生成に基づく研究アイデアの検討。
第7回	学年別ゼミ②	データ分析演習（2年），ゼミ論進捗報告（3年）。
第8回	エンパワメント①	エンパワメント概念の論点整理。
第9回	エンパワメント②	グループワークによる仮説生成。
第10回	予防科学①	コミュニティ心理学に基づく予防科学の論点整理と仮説生成。
第11回	予防科学②	予防科学の仮説生成（続）
第12回	ゼミ論構想発表会	3年のゼミ論構想発表会およびディスカッション。
第13回	今後の研究課題の検討	コミュニティ心理学に基づく研究課題の設定。
第14回	卒業論文発表会	4年の卒論発表会およびディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
地域社会や様々な人々のライフキャリアの課題について考えるようにしてください。ゼミの時間以外の個人学習およびサブゼミ等を活用して、自分自身が探求したい研究テーマの設定をしっかりと行ってください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて資料を配布する。また課題図書(テキスト)は授業時に検討・決定する。

【参考書】
「プログラム評価：対人・コミュニティ援助の質を高めるために(ワードマップ)」(安田節之，2011，新曜社)

【成績評価の方法と基準】
個人・グループ発表（50%）、授業への積極的な貢献度（出席状況を含む）(50%）を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
ゼミで学ぶ専門知識とライフキャリアの学びとのバランスをとる。

【Outline (in English)】
The purpose of this seminar is to help students understand the theory and methods of community psychology and program evaluation. Based on those understanding, students are to learn about how they can build their careers in the future for the purpose of living a good live in the future.
Goal
・Know programs that are relevant to individual and community well-being
・Understand ways of analyzing social issues and solving those problems.
・Understand your own quality of life from psychological points of view.
Learning activities outside of classroom:
Students are expected not only to actively participate in class but also engage in academic activities outside of the classroom (2hrs for reading and 2hrs for outreach studies).
Grading Criteria /Policy:
50 points (%) for participation, class assignments, and group activities
50 points (%) for class presentations

SOC200MA（社会学 / Sociology 200）

演習（ライフ）【3・4年生用】

安田　節之

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：月6/Mon.6　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　ライフキャリア支援を目的として実施されるプログラムの分析を行う。またキャリアデザインに関する量的調査研究の計画・実施・分析方法を学ぶ。

【到達目標】
① 各自が関心をもつプログラムの分析・評価スキルを習得する。
② 量的調査研究の方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
　この授業(演習)では、各自の研究テーマに沿ったプログラムの分析を行う。２年次に行った社会課題の分析を通して、課題解決に向けたプログラムのゴールの明確化を行う。そして、各自のプログラムのロジックモデルを完成させる。
　またキャリアデザインの調査研究の演習として、グループで量的調査を計画・実施する。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ゼミ内容の説明。
第2回	個人研究テーマの検討と共有①	２年次に検討した課題の分析結果をもとに各自の研究テーマを共有する（前半）。
第3回	個人研究テーマの検討と共有②	２年次に検討した課題の分析結果をもとに各自の研究テーマを共有する（後半）。
第4回	個人研究テーマの検討と共有③	２年次に検討した課題の分析結果をもとに各自の研究テーマを共有する（まとめ）。
第5回	ライフキャリア調査研究の検討①	ゼミでのワークとして、グループで量的調査の計画・準備を行う。
第6回	ライフキャリア調査研究の検討②	ゼミでのワークとして、テーマの設定・先行研究の検討・質問項目の作成を行う。
第7回	ライフキャリア調査研究の検討③	ゼミでのワークのまとめを行う。
第8回	ライフキャリア調査研究の実施①	調査を実施し、データの分析を行う。
第9回	ライフキャリア調査研究の実施②	調査を実施し、結果の考察を行う。
第10回	ライフキャリア調査研究の実施③	調査を実施し、データの分析および結果の考察の整合性を確認する。
第11回	ライフキャリア調査研究の実施④	調査を実施し、データの分析および結果の考察の最終確認をする。
第12回	ライフキャリア調査研究の実施⑤	調査実施に関して全体のまとめを行う。
第13回	個人研究の進捗状況の確認	各自の研究についてゼミで共有し進捗状況を確認する。
第14回	総括	半期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
個人の研究テーマ(プログラム評価の準備)に関しては、ゼミ以外の時間(個人学習やサブゼミ活用)で継続的に進め、しっかりとプレゼンテーションできるようにしてください。また4年生は、秋学期での卒業論文完成に向けて、サブゼミ等を活用して積極的に論文執筆に取り組んでください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて資料を配布する。

【参考書】
「プログラム評価：対人・コミュニティ援助の質を高めるために(ワードマップ)」(安田節之，2011，新曜社)

【成績評価の方法と基準】
個人・グループ発表（50%）、授業への積極的な貢献度（出席状況を含む）（50%）を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline (in English)】
Students will acquire knowledge and skills to develop and evaluation life-designing programs in this seminar. Particular attention will be placed on helping students to develop quantitative-analytic techniques to conduct related research studies.
Learning Objectives:
・Build analytic skills to evaluation programs that you are interested in
2. Gain skills to conduct quantitative research
Learning activities outside of classroom:
Students are expected not only to actively participate in class but also engage in academic activities outside of the classroom.
Grading Criteria /Policy:
50 points (%) for participation, class assignments, and group activities
50 points (%) for class presentations

EDU400MA（教育学 / Education 400）

卒業論文（発達・教育）

遠藤　野ゆり

単位数：4単位　｜　開講セメスター：年間授業/Yearly
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses　｜　配当年次：4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
質の高い卒業論文を書きます。
データを収集する方法、根拠を示しながら論理的に読者を説得する力を習得します。考えを文章でまとめ、わかりやすく表現する能力を習得します。

【到達目標】
明確な問いを立ててそれに対する適切なデータ・資料を収集し価値ある考察をする。それを文章で適切に表現する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】
T 卒業論文/卒業研究/卒業制作 /Thesis

【授業の進め方と方法】
4年生は卒業論文の報告とディスカッションの繰り返しです。
1カ月に1度、進捗状況を確認する面談もしくはメールでの相談を行います。卒業論文の執筆状況を鑑みながら適宜個別面談にてフィードバックを行います。11月中旬に時間外授業にて卒業論文の全員報告会を行います。これに対するフィードバックはメールにて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	卒業論文構想発表	卒業論文の構想を発表します。授業全体の計画を立てます。
第2回	卒業論文進捗状況発表①	卒業論文執筆者1人目により卒論の進捗状況の報告と今後の方針についてのディスカッションを行います。
第3回	卒業論文進捗状況発表②	卒業論文執筆者2人目により卒論の進捗状況の報告と今後の方針についてのディスカッションを行います。
第4回	卒業論文進捗状況発表③	卒業論文執筆者3人目により卒論の進捗状況の報告と今後の方針についてのディスカッションを行います。
第5回	卒業論文進捗状況発表④	卒業論文執筆者4人目により卒論の進捗状況の報告と今後の方針についてのディスカッションを行います。
第6回	卒業論文進捗状況発表⑤	卒業論文執筆者5人目により卒論の進捗状況の報告と今後の方針についてのディスカッションを行います。
第7回	卒業論文進捗状況発表⑥	卒業論文執筆者6人目により卒論の進捗状況の報告と今後の方針についてのディスカッションを行います。
第8回	卒業論文進捗状況発表⑦	卒業論文執筆者により卒論の進捗状況の報告と今後の方針についてのディスカッションを行います。
第9回	卒業論文進捗状況発表⑧	卒業論文執筆者7人目により卒論の進捗状況の報告と今後の方針についてのディスカッションを行います。
第10回	卒業論文進捗状況発表⑨	卒業論文執筆者8人目により卒論の進捗状況の報告と今後の方針についてのディスカッションを行います。
第11回	卒業論文進捗状況発表⑩	卒業論文執筆者9人目により卒論の進捗状況の報告と今後の方針についてのディスカッションを行います。
第12回	卒業論文進捗状況発表⑪	卒業論文執筆者10人目により卒論の進捗状況の報告と今後の方針についてのディスカッションを行います。
第13回	卒業論文進捗状況発表⑫	卒業論文執筆者11人目により卒論の進捗状況の報告と今後の方針についてのディスカッションを行います。
第14回	卒業論文進捗状況発表⑬	卒業論文執筆者12人目により卒論の進捗状況の報告と今後の方針についてのディスカッションを行います。
15	卒業論文進捗状況発表⑭	卒業論文執筆者1・2人目により卒論の進捗状況の報告と今後の方針についてのディスカッションを行います。
16	卒業論文進捗状況発表⑮	卒業論文執筆者3・4人目により卒論の進捗状況の報告と今後の方針についてのディスカッションを行います。
17	卒業論文進捗状況発表⑯	卒業論文執筆者5・6人目により卒論の進捗状況の報告と今後の方針についてのディスカッションを行います。
18	卒業論文進捗状況発表⑰	卒業論文執筆者7・8人目により卒論の進捗状況の報告と今後の方針についてのディスカッションを行います。
19	卒業論文進捗状況発表⑱	卒業論文執筆者9・10人目により卒論の進捗状況の報告と今後の方針についてのディスカッションを行います。
20	卒業論文進捗状況発表⑲	卒業論文執筆者11・12人目により卒論の進捗状況の報告と今後の方針についてのディスカッションを行います。
21	卒業論文最終報告前半	卒業論文の最後の報告会を行います（前半）
22	卒業論文最終報告後半	卒業論文の最後の報告会を行います（後半）
23	卒業論文口述試験前半	卒業論文の口述試験を行います（前半）
24	卒業論文口述試験後半	卒業論文の口述試験を行います（後半）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
データを取り卒業論文を執筆する本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。卒業論文の調査、執筆は各自が授業時間外で行い、授業では、進捗状況の報告と合評を行います。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
卒業論文100％（うち11月末時点での完成度を評価の10％とします）

【学生の意見等からの気づき】
アンケートからは特に要望はありませんが、受講生の要望を応じて柔軟に対応します。

【学生が準備すべき機器他】
パソコンを持参してください。

【その他の重要事項】
授業時間外でも必要に応じて適宜質問、相談にくること。就職活動等のスケジュールによって授業に参加できない場合は、1カ月に1回程度は進捗状況の報告をすること。

【Outline (in English)】
Course outline
This class aims to write a high quality thesis.
The aims are to learn how to collect data, to gain the ability to persuade the reader logically with evidences. We will compile sentences with ideas and master the ability to express them clearly.
Learning Objectives
The goal of this class is to ask clear questions, collect appropriate data and materials to answer them, conduct valuable considerations, and express them appropriately in writing.
Learning activities outside of classroom
The standard time for preparation and review for this class, in which students collect data and write their graduation thesis, is two hours each. Each student will research and write their graduation thesis outside of class hours, and in class they will report on their progress and provide a collective review.
Grading Criteria /Policy
Graduation thesis evaluation 100％.

EDU400MA（教育学 / Education 400）

卒業論文（発達・教育）

児美川　孝一郎

単位数：4単位　｜　開講セメスター：年間授業/Yearly
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses　｜　配当年次：4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
卒業論文の作成に沿って，各ステップごとに指導していく。先行研究の調査，データ分析方法，およびインプリケーションの捉え方等，具体的に指導していく。

【到達目標】
卒業論文としての要件を備えた論文を執筆できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】
T 卒業論文/卒業研究/卒業制作 /Thesis

【授業の進め方と方法】
卒業論文の執筆に向けて，「授業の概要と目的」に書いたように指導を進めていく。学生の発表等に対するフィードバックは，そのつど行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	学術論文の意義について説明する。
第2回	研究方法の概説①	理論研究、実証研究および文献サーベイ等，研究方法について説明する。
第3回	研究方法の概説②	それぞれの研究方法を活用した文献を検討する。
第4回	研究方法の概説③	ぞれぞれの研究方法の特徴を理解する。
第5回	テーマの設定①	テーマ選択の意義について説明する。
第6回	テーマの設定②	論文執筆にあたっての問題意識を探究する。
第7回	テーマの設定③	自らの問題意識を踏まえて、候補となるテーマを考案する。
第8回	先行研究の調査①	テーマに関連する先行研究を幅広く調査する。
第9回	先行研究の調査②	調査した先行研究を小テーマごとに整理する。
第10回	先行研究の調査③	先行研究の知見について整理する。
第11回	先行研究の調査④	先行研究において残された課題を探究する。
第12回	先行研究の調査⑤	先行研究についての検討をまとめる。
第13回	研究計画の確定①	具体的な研究テーマを設定する。
第14回	研究計画の確定②	データ収集の方法，分析方法等、実質的な研究内容を構想する。
15	調査データの整備①	論文執筆のための調査を結成する。
16	調査データの整備②	調査データを収集し，整理する。
17	調査データの整備③	収集した調査データデータベース化する。
18	検証仮説の検討①	検証すべき仮説等を設定する。
19	検証仮説の検討②	検証すべき仮説等と先行研究との関連を整理する。
20	検証仮説の検討③	検証すべき仮説等と調査の設計の整合性について検討する。
21	分析の実施①	調査データを用いて仮説の妥当性を検討する。
22	分析の実施②	調査データと仮説との不整合の理由・要因を考察する。
23	論文執筆①	論文の目的，先行研究について執筆する。
24	論文執筆②	検証すべき仮説，調査の設計について執筆する。
25	論文執筆③	調査データに基づいて仮説を検証する。
26	論文執筆④	調査から得られた知見やインプリケーション等について執筆する。
27	リファインの作業①	論文全体を振りかえり，加筆・修正等を行う。
28	リファインの作業②	ゼミにおいて論文を発表し，寄せられた意見を踏まえて，論文をリファインする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
卒業論文以前に，3 年生からのゼミ活動に熱心に取り組むことが重要である。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に定めない

【参考書】
開講時に指示する

【成績評価の方法と基準】
成績評価は，研究への取り組み（50％）および論文の内容（50％）に基づいて行う。

【学生の意見等からの気づき】
受講者からのフィードバックを生かして，卒業論文指導を行う。

【Outline (in English)】
Course outline：
In preparation for writing a graduation thesis, students will receive guidance on surveying previous research, analyzing data, structuring the paper, and method of writing.
Learning Objectives：
Students will be able to write a paper that meets the requirements for a graduation thesis.
Learning activities outside of classroom：
Standard time for preparation and review for this class is two hours each.
Grading Criteria /Policy：
Grading will be based on normal point (50%) and the evaluation of the thesis (50%).

EDU400MA（教育学 / Education 400）

卒業論文（発達・教育）

坂本　旬

単位数：4単位　｜　開講セメスター：年間授業/Yearly
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses　｜　配当年次：4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
３年間の学習成果を論文執筆または映像作品の制作
受講生は卒業論文の執筆または卒業制作として映像作品を制作する。

【到達目標】
３年間の学習成果をふまえ、自己の問題意識をよりいっそう高めて、学問的社会的に価値のある論文の執筆または映像作品を制作することができる。（要件等については「履修の手引き」参照。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】
T 卒業論文/卒業研究/卒業制作 /Thesis

【授業の進め方と方法】
卒論指導は原則としてゼミの前の月曜4目を中心に行う。卒論は論文またはドキュメンタリー映像作品(ドキュメンタリードラマも含む)のいずれかとする。どちらを選ぶか、あらかじめ選択しておくこと。「演習（発達・教育）」を履修すること。
・授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
・良いリアクションペーパーは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。
・課題等の提出・フィードバックは授業支援システムを通じて行う予定。
・オフィス・アワーで、課題（試験やレポート等）に対して講評する。
・最終授業で、27回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	学習方法を解説する（Zoomによるオンライン授業）
第2回	卒論の書き方・作品の作り方(1)	メディアを活用した基本的な論文の書き方と映像作品の作り方
第3回	卒論の書き方・作品の作り方(2)	テーマの決め方と論文・映像の構成
第4回	卒論の書き方・作品の作り方(3)	仮のテーマを決める
第5回	卒論の書き方・作品の作り方(4)	さまざまな情報収集の方法（Evernoteの活用法）
第6回	卒論の書き方・作品の作り方(5)	OPACによる書誌情報の収集の仕方
第7回	卒論の書き方・作品の作り方(6)	各種のオンラインデータベースの使い方
第8回	卒論の書き方・作品の作り方(7)	RefWorks等を活用した情報を管理方法
第9回	卒論の書き方・作品の作り方(8)	アウトラインプロセッサーを活用した論文や作品の構成の作り方
第10回	卒論の書き方・作品の作り方(9)	情報共有のためのGoogleDocsの使い方
第11回	テーマの設定と構成(1)	論文や作品のテーマの設定
第12回	テーマの設定と構成(2)	テーマに関する事前情報の収集と構成
第13回	テーマの設定と構成(3)	問題意識を整理して文章とリストにまとめる
第14回	春期授業の振り返り	春期の授業で学んだことを振り返り秋期学習の準備をする
15	テーマの発表	テーマを発表し、いろいろな人の意見を聞く（夏合宿）
16	情報の収集と構成(1)	情報の収集と構成を考える（映像の場合は絵コンテの制作）
17	情報の収集と構成(2)	情報の収集と構成を考える（映像の場合は絵コンテの制作）
18	情報の収集と構成(3)	情報の収集と構成を考える（映像の場合は絵コンテの制作）
19	情報の整理と執筆・撮影の準備	収集した情報をパソコンに取り込んで整理し、執筆や撮影に備える
20	執筆（撮影・編集）～完成	完成に向けた論文の執筆（映像の場合は撮影・編集）と個別指導
21	卒論・卒業制作企画書の制作	企画書のフォーマットに沿って企画書・絵コンテを作る
22	卒論・卒業制作企画書の検討	作成した企画書・絵コンテを全員で検討する
23	卒論・卒業制作の分担の決定	執筆または撮影、編集など個々人の分担を決める
24	卒論・卒業制作の制作・撮影の下準備	データの収集および映像撮影のロケハンを行う
25	執筆・撮影の実施	企画書や絵コンテにもとづいて執筆や撮影を行う
26	執筆・撮影の中間報告	執筆・撮影内容を検討し、不足がある場合は執筆や撮影を追加する
27	編集と完成	編集作業を行い、完成させる
28	卒業論文または卒業制作の発表	ゼミの最終日に卒論または卒業制作を発表する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
卒論・卒業作品は基本的に課外学習として行い、授業ではそのためのアドバイスをする場とする。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
坂本旬『メデ ィアリテラシーを学ぶ』大月書店(2022年)
坂本旬『メディア情報教育学』法政出版局（2014年）
寺崎里水・坂本旬『地域と世界をつなぐSDGsの教育学』(2021年)

【成績評価の方法と基準】
構成、引用・参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件。さらに内容の独創性に応じて評価を行う。
卒業論文の場合は、論文としての形式50%、内容50%、合計100%。
卒業制作の場合は、提出文書（絵コンテを含む）50%、コンテンツ50%、合計100%。

【学生の意見等からの気づき】
論文・卒業作品のテーマはできるだけ早めに決定し、必要なスケジュールをたてることが必要。

【学生が準備すべき機器他】
論文作成にはパソコンを用いる。ドキュメンタリー作品の制作については、DVカメラとパソコンを用いる。
本授業では動画の提出に法政大学のBOXを使用する。使用方法は以下のリンクを参照すること。
https://netsys.hosei.ac.jp/protected/manual/distance/manual-box.html

【その他の重要事項】
ドキュメンタリービデオを卒論として選択する場合、ビデオ制作は一人一作品とするが、制作過程にゼミ生同士が協力し合うことは可とする。一作品の長さは一人で制作する場合15～20分程度。複数人で制作する場合はこの数字に人数をかけたものとなる。

また、ビデオ作品は、映像制作の意図を含む企画書、シナリオ（絵コンテ）、ナレーション原稿、参考文献一覧表、制作記録、等を含め、１万2000字以上の文字原稿を付けて一つの作品とみなす。ビデオだけでは作品と見なさないので、注意すること。
その他の詳細については、卒論指導時に紹介する。

【Outline (in English)】
(Course Outline)
Students will choose either an academic paper or a documentary film as the final outcome of their three-year seminar study. The paper will explore a theme central to the seminar, while the video work will take the form of a documentary film. Both will be reviewed upon completion.
(Learning Objectives)
By the end of this course, students will be able to conduct independent research and express their findings in a sustained academic or creative format. Students will develop skills in either scholarly writing or documentary production, deepening their engagement with the seminar's core themes.
(Learning Activities Outside of Classroom)
The writing of the academic paper and the production of the video work will be carried out primarily outside of class time. Students will receive instructor guidance as needed throughout the process.
(Grading Criteria/Policy)
For graduation theses: format as a thesis (50%) and content (50%), totaling 100%.
For graduation video work: submitted documents including the storyboard (50%) and content (50%), totaling 100%.

EDU400MA（教育学 / Education 400）

卒業論文（発達・教育）

田澤　実

単位数：4単位　｜　開講セメスター：年間授業/Yearly
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses　｜　配当年次：4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
卒業論文の作成に沿って、各ステップごとに指導していく。先行研究の調査、データ分析方法、インプリケーションの捉え方等、具体的に指導していく。

【到達目標】
・重要な理論と方法論を説明できる
・重要な研究成果について，その研究方法・結果・含意の重要性を判断できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】
T 卒業論文/卒業研究/卒業制作 /Thesis

【授業の進め方と方法】
卒業論文の執筆に向けて指導を進めていく。随時、学生の発表等に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	学術論文の意義について説明する。
第2回	研究方法の概説①	実証研究および文献サーベイ等について説明する。
第3回	研究方法の概説②	各方法に依拠した文献を検討する。
第4回	研究方法の決定	自らの関心事に基づいて研究方法を決定する。
第5回	テーマの設定①	テーマ選択の意義について説明する。
第6回	テーマの設定②	自らの問題意識を探り、候補となるテーマのキーワードを洗い出す。
第7回	テーマの設定③	候補となるテーマを決定する。
第8回	先行研究の調査①	テーマに関連する先行研究を収集する。
第9回	先行研究の調査②	収集した先行研究から要点を抜き出す。
第10回	先行研究の調査③	先行研究で明らかになっていることをまとめる。
第11回	先行研究の調査④	先行研究の知見と残された課題を識別する。
第12回	先行研究の調査⑤	先行研究を通じて、自らが扱う研究の位置づけを明らかにする。
第13回	研究計画の確定①	具体的な研究テーマを設定し、データ収集方法に要する時間を見積もる。
第14回	研究計画の確定②	実質的な研究内容とそれに要する時間を見積もる。
15	調査データの整備①	調査データを収集する。
16	調査データの整備②	収集した調査データの概要を把握する。
17	調査データの整備③	調査データについてデータベース化を行う。
18	検証仮説の検討①	問題背景について再検討を行う。
19	検証仮説の検討②	目的について再検討を行う。
20	検証仮説の検討③	仮説検証等等について再検討を行う。
21	分析の実施①	仮説を決定する。
22	分析の実施②	データを用いて分析を行う。
23	論文執筆①	研究デザイン等との各パーツについて執筆を行う。
24	論文執筆②	検証結果、発見事項等の各パーツについて執筆を行う。
25	論文執筆③	インプリケーション等の各パーツについて執筆を行う。
26	リファインの作業①	ゼミにおいて論文を発表する。
27	リファインの作業②	寄せられた意見を踏まえて論文をリファインする。
28	リファインの作業③	リファインの作業を経て、論文を完成させる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
卒業論文以前に、3年生からのゼミ活動に熱心に取り組むことが重要である。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に定めない

【参考書】
開講時に指示する

【成績評価の方法と基準】
卒業論文に書かれた内容（100％）

【学生の意見等からの気づき】
受講者からのフィードバックを取り入れながら卒業論文指導を行う。

【Outline (in English)】
（Course Outline）
Students will develop the skill of writing academic reports.
（Learning Activities）
By the end of the period, students should have the following competencies:
・Explain and describe primary methods and theories.
・Assess critical studies in their methods, results, conclusions, and impact.
（Learning Activities Outside of Classroom）
Students are required to submit assignments after each class session. Students are expected to dedicate over four hours of study time per class.
（Grading Criteria/Policy）
Grades will be determined based on reports (100%).

EDU400MA（教育学 / Education 400）

卒業論文（発達・教育）

筒井　美紀

単位数：4単位　｜　開講セメスター：年間授業/Yearly
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses　｜　配当年次：4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教育・生活・労働・自治体・ＮＰＯ・政策・支援の、少なくともいずれか１つをテーマとして、社会学の卒業論文を完成させる。

【到達目標】
「嗚呼、その答えが知りたい！」と読者に思わせ、社会的意義のある、かつ、学術論文の型・作法をマスターした「美しい」、内容の濃い、社会学の卒業論文を書き上げること、それがこの演習のゴールである。そのプロセスであなたは、より高次の精神性をもって生きてゆくことの意味を実感するだろう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】
T 卒業論文/卒業研究/卒業制作 /Thesis

【授業の進め方と方法】
【授業形態】
発表担当者が自身の研究の報告をし、それをもとに自由闊達に議論をする。
【授業の進め方】
　学術論文を書き上げるには、実にたくさんの作業をこなし、そのなかで習熟していくことが不可欠である。それゆえ筒井ゼミでは、「仕上がった学術論文・本ってのはこういうものなのだな」という、「美しい完成品」の「審美眼（どうやって組み立てられ、何が部材として使われているから素晴らしいのかの理解）」を養う。卒論執筆は、「じゃあ自分も一丁やってみるか」とそれを実践に移すものだ。怒涛のような作業のなかで、自分の初発の問題関心とセンスを信じて失わずに続けられるか。我流では難しい。だから適宜フィードバックする。その大前提は自力でどんどん進めることだ。課題である発表レジュメへのコメントを支援システム上でもフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究計画の発表①	「学術論文7つの構成要素」の①～⑤を盛り込んで書き、それを発表する。
第2回	研究計画の発表②	前回続き（順番に発表）。リファインする。ゴーサインが出次第、実査に入る。
第3回	研究計画の発表③	前回続き（順番に発表）。リファインする。丹念のロジックを心がける。
第4回	研究計画の発表④	前回続き（順番に発表）。リファインする。概念定義をしっかりする。
第5回	分析結果の発表と検討①	データ分析・知見の検討。収集したデータの性質に留意。
第6回	分析結果の発表と検討②	データ分析・知見の検討。分析手法の妥当性に留意。
第7回	分析結果の発表と検討③	データ分析・知見の検討。分析から知見を導出するロジックに留意。
第8回	分析結果の発表と検討④	データ分析・知見の検討。知見の含意に留意。
第9回	分析結果の発表と検討⑤	考察と解釈の検討。論理性と妥当性に留意。
第10回	分析結果の発表と検討⑥	考察と解釈の検討。先行研究との関係に留意。
第11回	分析結果の発表と検討⑦	考察と解釈の検討。収集したデータの限界性との関係に留意。
第12回	分析結果の発表と検討⑧	考察と解釈の検討。自分の研究の独自性は何か。
第13回	章立ての検討①	リファインした論文全体の構成案について発表し検討する。目次の作成。
第14回	章立ての検討②	リファインした論文全体の構成案について発表し検討する。序章に必要な構成要素が入っているか。
15	章立ての検討③	リファインした論文全体の構成案について発表し検討する。第二章で先行研究の検討と自分の視点が対比できているか。
16	章立ての検討④	リファインした論文全体の構成案について発表し検討する。分析の諸章がしっかり組み立てられているか。
17	草稿の一部をもとにアドバイス①	1章分を目安に指導する。
18	草稿の一部をもとにアドバイス②	イントロの章に関して指導する。
19	草稿の一部をもとにアドバイス③	先行研究に関する章に関して指導する。
20	草稿の一部をもとにアドバイス④	分析の諸章に関して指導する。問と知見がきれいに対応しているか。
21	草稿の一部をもとにアドバイス⑤	分析の諸章に関して指導する。分析の流れが論理的か。
22	草稿の一部をもとにアドバイス⑥	序章と終章に関して指導する。分析の諸章をうまく挟み込んでいるか
23	草稿の一部をもとにアドバイス⑦	序章と終章に関して指導する。序章が読者を誘う力強さを持っているか。
24	草稿の一部をもとにアドバイス⑧	序章と終章に関して指導する。終章が力強いダメ押しになっているか。
25	第一稿の朱入れ①	リライトのポイントを助言。曖昧に書いたところを厳密に書く。
26	第一稿の朱入れ②	リライトのポイントを助言。類似概念を必要に応じてきちんと統一する。
27	第一稿の朱入れ③	リライトのポイントを助言。説得力を持たせる文章の運び。
28	第一稿の朱入れ④	リライトのポイントを助言。効果的な繰り返しと強調方法。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
卒論執筆に必要なこと全てを行う。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
適宜指示。

【参考書】
適宜指示。

【成績評価の方法と基準】
卒業論文の出来具合１００％。

【学生の意見等からの気づき】
学習支援システムにアップされたレジュメに対して、同じく掲示板をも用いたコメントのフィードバックが好評なので続けます。

【Outline (in English)】
The students are to write a socioligical graduation thesis, choosing the theme from education, life, labour, municipality, NPO, policy and/or support. Before each class meeting, students will be expected to have written the presentation documents on your thesis. Study time will a few hours for a class. Grading will be based on the quality of the graduation thesis.

EDU400MA（教育学 / Education 400）

卒業論文（発達・教育）

寺崎　里水

単位数：4単位　｜　開講セメスター：年間授業/Yearly
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses　｜　配当年次：4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学における学修の集大成として卒業論文に取り組みます。卒業論文としてふさわしい課題設定、論文構成、議論、考察を行います。

【到達目標】
論文としてふさわしい形にすること、他者に自分の考察を伝えられることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】
T 卒業論文/卒業研究/卒業制作 /Thesis

【授業の進め方と方法】
個人の作業と全体での検討を並行して行います。随時、メールや対面で指導をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	卒業論文の位置づけ、意義について説明します。卒業論文に取り組むという意識を高めます。
第2回	テーマの設定（1）	個人が課題とする研究テーマについて、先行研究の知見を踏まえながら検討します。
第3回	テーマの設定（2）	個人が課題とする研究テーマについて、先行研究の知見と前回の検討を踏まえながらさらに検討します。
第4回	テーマの設定（3）	個人が課題とする研究テーマについて、先行研究の知見を踏まえながら、さらに検討します。
第5回	調査方法の設定（1）	調査方法の選び方について概説したあと、理論研究、実証研究および文献サーベイ等各人が選択する方法について検討します。
第6回	調査方法の設定（2）	調査方法の選び方について概説したあと、理論研究、実証研究および文献サーベイ等各人が選択する方法について、前回の検討を踏まえながら検討します。
第7回	調査方法の設定（3）	調査方法の選び方について概説したあと、理論研究、実証研究および文献サーベイ等各人が選択する方法について、さらに検討します。
第8回	先行研究の調査（1）	テーマに関連する先行研究を広く調査し、それらの知見と残された課題を識別し、各自のテーマを明確にします。（専門書）
第9回	先行研究の調査（2）	テーマに関連する先行研究を広く調査し、それらの知見と残された課題を識別し、各自のテーマを明確にします。（学会誌）
第10回	先行研究の調査（3）	テーマに関連する先行研究を広く調査し、それらの知見と残された課題を識別し、各自のテーマを明確にします。（データの読み方）
第11回	先行研究の調査（4）	テーマに関連する先行研究を広く調査し、それらの知見と残された課題を識別し、各自のテーマを明確にします。（データのとり方）
第12回	先行研究の調査（5）	テーマに関連する先行研究を広く調査し、それらの知見と残された課題を識別し、各自のテーマを明確にします。（結論の導き方）
第13回	中間報告（1）	テーマ、方法、先行研究を踏まえ、調査計画を立案し、発表します。
第14回	中間報告（2）	テーマ、方法、先行研究を踏まえ、調査計画を立案し、前回の検討内容を踏まえ、発表します。
15	中間報告（3）	テーマ、方法、先行研究を踏まえ、調査計画を立案し、最終的な案を発表します。
16	分析の実施と経過発表（1）	各自で研究テーマに基づいて分析を進めます。分析の結果生じた課題等について検討しながら、考察を深めます。（調査の状況）
17	分析の実施と経過発表（2）	各自で研究テーマに基づいて分析を進めます。分析の結果生じた課題等について検討しながら、考察を深めます。（データの整理）
18	分析の実施と経過発表（3）	各自で研究テーマに基づいて分析を進めます。分析の結果生じた課題等について検討しながら、考察を深めます。（データクリーニング）
19	分析の実施と経過発表（4）	各自で研究テーマに基づいて分析を進めます。分析の結果生じた課題等について検討しながら、考察を深めます。（仮説の妥当性）
20	分析の実施と経過発表（5）	各自で研究テーマに基づいて分析を進めます。分析の結果生じた課題等について検討しながら、考察を深めます。（基礎的な分析）
21	分析の実施と経過発表（6）	各自で研究テーマに基づいて分析を進めます。分析の結果生じた課題等について検討しながら、考察を深めます。（考察）
22	論文完成にむけた個別指導（1）	それぞれの進行状況に応じて個別に指導します。（量的）
23	論文完成にむけた個別指導（2）	それぞれの進行状況に応じて個別に指導します。（質的）
24	論文完成にむけた個別指導（3）	それぞれの進行状況に応じて個別に指導します。（分析の精緻化）
25	論文完成にむけた個別指導（4）	それぞれの進行状況に応じて個別に指導します。（分析のやり直し）
26	論文完成にむけた個別指導（5）	それぞれの進行状況に応じて個別に指導します。（仮説が成立しなかったら）
27	論文完成にむけた個別指導（6）	それぞれの進行状況に応じて個別に指導します。（知見から考察へ）

28	最終仕上げ	論文としてふさわしい構成になっているかどうかを確認しながら、最終的な仕上げを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テーマに関する文献を空き時間に探し、計画的に読んでいくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。フィードバックは必要性のあるときに対面、オンライン等で行います。

【テキスト（教科書）】
特に定めない

【参考書】
特に定めない

【成績評価の方法と基準】
論文の内容100%

【学生の意見等からの気づき】
互いの学修を助けあうような雰囲気を醸成していきたい。

【Outline (in English)】
Course Outline: In this class, the students are going to write on graduation thesis as a compilation of their studies at the university.
Learning Objectives: The goal is to make it suitable for a paper and to be able to communicate your thoughts to others.
Learning Activities Outside of Classroom: Preparation and review should be 2 hours each.
Grading Criteria: 100% determined by the content of the paper.

EDU400MA（教育学 / Education 400）

卒業論文（発達・教育）

仲田　康一

単位数：4単位　｜　開講セメスター：年間授業/Yearly
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses　｜　配当年次：4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
卒業論文の作成に沿って，各ステップごとに指導していく。先行研究の調査、データ分析方法、およびインプリケーションの捉え方等、具体的に指導していく。

【到達目標】
卒業論文としての要件を備えた論文を執筆できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】
T 卒業論文/卒業研究/卒業制作 /Thesis

【授業の進め方と方法】
卒業論文の執筆に向けて、「授業の概要と目的」に書いたように指導を進めていく。学生の発表等に対するフィードバックは、そのつど行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	学術論文の意義について説明する。
第2回	研究方法の概説①	文献の種類やその収集・整理の方法について説明する。
第3回	研究方法の概説②	主に質的研究に依拠した文献を検討する。
第4回	研究方法の概説③	主に量的研究に依拠した文献を検討する。
第5回	テーマの設定①	テーマ選択の意義について説明する。
第6回	テーマの設定②	執筆者の問題意識を探る。
第7回	テーマの設定③	候補となるテーマを洗い出す。
第8回	先行研究の調査①	テーマに関連する先行研究を広く調査する。
第9回	先行研究の調査②	テーマに関連する先行研究の知見を整理する。
第10回	先行研究の調査③	テーマに関連する先行研究を広く調査し、それらの知見と残された課題を識別する。
第11回	先行研究の調査④	テーマに関連する先行研究について残された課題を整理する。
第12回	先行研究の調査⑤	テーマに関連する先行研究を踏まえ、自らの研究のオリジナリティを見出す。
第13回	研究計画の確定①	具体的な研究テーマを、具体的なデータ収集方法および分析方法等を含めて設定する。
第14回	研究計画の確定②	研究計画を確定する。
15	調査データの整備①	調査データの収集を行う。
16	調査データの整備②	調査データの整理を行う。
17	調査データの整備③	調査データのデータベース化を行う。
18	検証仮説の検討①	仮説等に即して暫定的な分析を行い、仮説やリサーチクエスチョンにどのような修正が必要か考える。
19	検証仮説の検討②	仮説やリサーチクエスチョンの再吟味を行う。
20	検証仮説の検討③	データの状況を踏まえて、仮説やリサーチクエスチョンを修正する。
21	分析の実施①	新たな仮説やリサーチクエスチョンに基づき、データを分析する。
22	分析の実施②	データ分析を継続し、主要な知見となりそうな結果を明確化する。
23	論文執筆①	論文の目的、先行研究の各パーツについて執筆を行う。
24	論文執筆②	仮説、研究デザインの各パーツについて執筆を行う。
25	論文執筆③	検証結果、発見事項とインプリケーションの各パーツについて執筆を行う。
26	リファインの作業①	各パーツを通観し、用語の統一や論理的整合性について確認する。
27	リファインの作業②	ゼミにおいて論文を発表し、寄せられた意見を踏まえて、論文をリファインする。
28	リファインの作業③	誤字脱字や書式の確認を行い、提出版として完成させる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
卒業論文以前に、2年生からのゼミ活動に熱心に取り組むことが重要である。個人の卒論指導やゼミ内でのディスカッション（中間報告）を通しての学びやアドバイスを十分に反映させること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に定めない

【参考書】
開講時に指示する

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、研究への取り組み（50％）および論文の内容（50％）に基づいて行う。

【学生の意見等からの気づき】
受講者からのフィードバックを生かして，卒業論文指導を行う。

【Outline (in English)】
This course gives guidance for writing graduation thesis.
The goal of this course is to write graduation thesis.
Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class meeting.
Final grade will be calculated according to the evaluation of graduation thesis.

EDU400MA（教育学 / Education 400）

卒業論文（発達・教育）

久井　英輔

単位数：4単位　｜　開講セメスター：年間授業/Yearly
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses　｜　配当年次：4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
（授業の概要）
発達・教育領域（社会教育・生涯学習研究、または学生が関心を持つその他の領域）における学術研究としての基本を踏まえた卒業論文の作成をすすめる。
（授業の目的・意義）
発達・教育領域（社会教育・生涯学習研究、または学生が関心を持つその他の領域）に関わるテーマを中心に、実践的関心を踏まえつつ客観的にこれらの対象を把握し、学問的な問いとそれに対する答えを提示できる力を、卒業論文執筆を通じて獲得することを目的とする。

【到達目標】
発達・教育領域（社会教育・生涯学習研究、あるいはその他学生の関心のある領域）における学術的考察（問題状況の提示、先行研究の検討、仮説の提示、客観的研究方法に基づいた論証）を提示できる力を、卒業論文執筆を通じて獲得できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】
T 卒業論文/卒業研究/卒業制作 /Thesis

【授業の進め方と方法】
発達・教育領域（社会教育・生涯学習研究、あるいは学生が関心のあるその他の領域）から各自でテーマを立てて、卒業論文の執筆状況を報告する。基本的には個別指導であるが、必要に応じて複数学生間で報告内容を共有する時間も設ける
受講生に対するフィードバックは、基本的に授業内の質疑応答、およびメール等で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマに関する問題状況の概観①	自分が関心を持つ研究テーマに関連する問題状況について情報収集する。
第2回	研究テーマに関する問題状況の概観②	自分が関心を持つ研究テーマに関連する問題状況について収集した情報を整理する。
第3回	先行研究の整理・検討①	自分が関心を持つテーマに関わる先行研究を収集する。
第4回	先行研究の整理・検討②	収集した先行研究を整理し、論じられてきた点、論じられていない点を明確にする。
第5回	中間報告①	研究テーマに関する問題状況、先行研究の整理・検討についてこれまでの成果を発表する。
第6回	中間報告②	研究テーマに関する問題状況、先行研究の整理・検討についての発表を基に、学生同士の質疑応答も交えて研究の方向性を討議する。
第7回	仮説の提示①	研究テーマに関する問題状況、先行研究の整理・検討を踏まえて、どのような仮説が提示できるかを検討する。
第8回	仮説の提示②	いくつかの仮説の候補を比較したうえで、どのような仮説の提示を行うかを確定する。
第9回	研究手法の確定①	仮説検証のために必要な研究手法について、複数の可能性を取り上げて検討する。
第10回	研究手法の確定②	仮説検証のために望ましい研究手法を確定する。
第11回	論文構成の検討①	自身の関心や先行研究などをもとに、論文構成案をいくつか作成する。
第12回	論文構成の検討②	複数の論文構成案を検討した上で、構成を確定する。
第13回	中間報告③	仮説、研究手法、論文構成についてこれまでの研究成果を発表する。
第14回	中間報告④	仮説、研究手法、論文構成についての発表を基に、学生同士の質疑応答も交えて研究の方向性を討議する。
第15回	収集データの検討①	仮説検証のため収集したデータを整理する。
第16回	収集データの検討②	収集データについて、予定していた研究手法で分析可能か、再確認する。
第17回	収集データの分析①	収集データについて、自分の仮説検証に最も資する手法で分析を行う。
第18回	収集データの分析②	収集データの分析結果を整理する。
第19回	仮説の検証、考察①	データ分析から仮説の検証を行う。
第20回	仮説の検証、考察②	仮説の検証結果がもたらす学術的意義、実践的意義について考察する。
第21回	中間報告⑤	収集データの分析、仮説の検証とそれを踏まえた考察についてこれまでの研究成果を発表する。
第22回	中間報告⑥	収集データの分析、仮説の検証とそれを踏まえた考察についての発表を基に、学生同士の質疑応答も交えて、論文の完成に向けて必要な作業について討議する。
第23回	論文構成の再検討	ここまでの研究作業を再検討し、以前決定した論文構成の妥当性について再検討する。
第24回	論文草稿の検討①	卒業論文の草稿を作成した上で、論理的な整合性について最終的な確認を行う。
第25回	論文草稿の検討②	卒業論文の草稿を作成した上で、学術論文としての形式について最終的に確認する。
第26回	卒業論文の報告と共有①	完成した卒業論文の内容を発表する。
第27回	卒業論文の報告と共有②	卒業論文の発表をもとに、学生相互でディスカッション（コメント、疑問点の提示など）を行う。
第28回	卒業論文の報告と共有③	卒業論文執筆のプロセスを振り返り、各自の研究上の課題について再確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・卒業論文の進捗状況の報告作成は、基本的に授業時間外に行うものとする。
・本授業の準備学習・復習時間は各2時間以上を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。

【参考書】
津田英二・久井英輔・鈴木眞理編『社会教育・生涯学習研究のすすめ：社会教育の研究を考える』学文社、2015年

【成績評価の方法と基準】
問題設定・仮説の妥当性とオリジナリティ：20％
先行研究の検討状況：20％
研究方法の妥当性：20％
記述の論理性・形式性：20％
結論の学問的・実践的示唆：20％

【学生の意見等からの気づき】
卒論執筆予定者に対する年間の指導スケジュールを昨年度は明確に提示していなかったため、今年度は、指導に関する長期的の見通しを早めに学生に伝えることを心がけたい。
また、学生の都合に応じた柔軟な対応は維持しつつも、ある程度指導（面談）の曜日・時間帯を固定する方向で検討したい。

【Outline (in English)】
【Course Outline】
The aim of this course is to complete graduation thesis on education (social education, lifelong learning, and other areas of interest to students) based on academic formality and logical structure.
【Learning Objectives】
The goal of this course is to help students to objectively grasp subjects related to the education (social education, lifelong learning, and other areas of interest to students), and to present scholarly inquiries. This goal will be achieved through writing graduation thesis.
【Learning Activities Outside of Classroom】
Your study time will be more than four hours for a class.
【Grading Criteria /Policy】
Final grade will be calculated according to the following process: validity and originality of problem formulation and hypotheses (20%), review of previous studies (20%), validity of research methods (20%), logical coherence and formality (20%), academic and practical Implications of the conclusion (20%)

EDU400MA（教育学 / Education 400）

卒業論文（発達・教育）

廣川　進

単位数：4単位　｜　開講セメスター：年間授業/Yearly
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses　｜　配当年次：4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
卒業論文の作成の方法と手順を理解し、獲得し、実際に論文を完成させる。

【到達目標】
各自が卒業論文として研究するテーマを選び、そのテーマについて調査、文献調査、文章の推敲、討論、等々をとおして、自らの主張としての論文を完成させ、大学卒業にふさわしい知的探求者へと成長することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】
T 卒業論文/卒業研究/卒業制作 /Thesis

【授業の進め方と方法】
　卒業論文の作成の方法と手順について、ステップごとに指導していく。問題意識とテーマ設定、研究課題の確定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導し、スキルを蓄積していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	学術論文作成に取り組む意義と準備すべき点について説明する。
第2回	研究方法の概説①	理論研究、実証研究という二つの研究手法の特徴と性格について概説する。
第3回	研究方法の概説②	理論研究、実証研究それぞれの手順の概要を説明する。
第4回	研究方法の概説③	前回の続きに加えて文献の探し方を紹介する。
第5回	テーマの設定①	執筆者の問題意識を整理する。
第6回	テーマの設定②	問題意識から、候補となるテーマを洗い出す。
第7回	テーマの設定③	テーマを報告し、他者の批判に応え説明する。
第8回	先行研究の調査	洗い出したテーマに関する先行研究を広く調査し、そこに示されている知見と残された課題を識別する。その上で、先行研究に何が足りないか、いかなる課題や問題が残されているかを把握する。
第9回	研究計画の策定	具体的な研究テーマを設定し、先行研究のレビューと批判、検証仮説の作成、データ収集方法および分析方法など、計画する。
第10回	小論文の執筆	課題、論点など明確にし、いくつかの点について、実際に論文を書き、書くことの意味を実感する。
第11回	個人研究発表①	これまで調査研究した内容を各自プレゼン、討議を行い論文の質を高める。質的研究で心理学系のテーマ
第12回	個人研究発表②	これまで調査研究した内容を各自プレゼン、討議を行い論文の質を高める。質的研究で社会学的テーマ
第13回	個人研究発表③	これまで調査研究した内容を各自プレゼン、討議を行い論文の質を高める。量的研究で心理学系テーマ
第14回	個人研究発表④	これまで調査研究した内容を各自プレゼン、討議を行い論文の質を高める。量的研究で社会学的テーマ
15	個人研究発表⑤	これまで調査研究した内容を各自プレゼン、討議を行い論文の質を高める。
16	研究計画の再検討	研究テーマ・課題、検証すべき仮説、用いる研究手法を再検討し、研究計画を再検討する。
17	調査データの収集と整理①	それぞれの研究計画に従いつつ、量的データ、質的データを収集し、データベース化を行う。
18	調査データの収集と整理②	調査を一定読み込み、自分の研究テーマに照らしてその意味を検討する。
19	調査データによる検証仮説の検討①質的データ	収集・整理したデータと検証仮説を照合し、仮説の補強や修正の必要がある場合はそれを行う。主に質的データについて。
20	調査データによる検証仮説の検討②量的データ	収集・整理したデータと検証仮説を照合し、仮説の補強や修正の必要がある場合はそれを行う。主に量的データについて。
21	分析の実施①	仮説およびデータを用いて分析を行う。この分析が論文の中核部分となる。主に量的分析を中心に。
22	分析の実施②	仮説およびデータを用いて分析を行う。この分析が論文の中核部分となる。主に質的分析を中心に。
23	論文執筆	実際の論文執筆体制に入る。
24	論文のリファイン	ゼミで論文を発表し、寄せられた意見を踏まえて、論文をリファインする。
25	論文の完成①	論文提出に向けた、基本的な確認の作業を行う。
26	論文の完成②	論文提出に向けた、内容面からの確認の作業を行う。
27	論文の完成③	論文提出に向けて学生同士で読み合わせての確認の作業を行う。
28	論文の完成④	論文提出に向けた、最終的な仕上げ作業を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
３年生からのゼミ活動に熱心に取り組み、卒業論文作成のイメージと課題意識を培っておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
開講時に提示する。

【参考書】
適宜提示する。

【成績評価の方法と基準】
論文完成に至るまでの研究への取り組み（５０%）、および論文の内容（５０%）を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生の探究したいテーマを重視して、研究計画を作っていく指導を行う。

【Outline (in English)】
(Course Outline)
This course provides guidance for students in planning, conducting, and completing their graduation thesis. Students will develop their research topics, review relevant literature, and learn how to design and conduct their research projects. Through regular supervision and discussion, the course supports students in organizing their ideas and producing a well-structured graduation thesis.
(Learning Objectives)
By the end of the course, students will be able to:
Explain the purpose and structure of an academic graduation thesis.
Analyze research topics related to career design and related fields.
Apply appropriate research methods to their graduation thesis project.
Develop and complete an original graduation thesis.
(Learning Activities Outside of Classroom)
Students are expected to spend approximately two hours before and after each class meeting to review course materials and prepare their research progress.
Before each class meeting, students are also expected to read the related books and materials relevant to their research topics.
(Grading Criteria / Policy)
Final grades will be determined based on the following components:
Approach to research leading up to the completion of the thesis: 50%
Content and quality of the graduation thesis: 50%

EDU400MA（教育学 / Education 400）

卒業論文（発達・教育）

松尾　知明

単位数：4単位　｜　開講セメスター：年間授業/Yearly
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses　｜　配当年次：4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
独自のテーマを追究して、多文化共生と教育に関する卒業論文を完成させる。多文化社会と教育に関連する調査研究を進めることを通して、多文化共生の実現に向けた方策やあり方の一端を検討して、そのための示唆を得る。

【到達目標】
・自分の興味・関心に基づき、多文化共生と教育に関するテーマを自ら設定して、計画を立て、調査研究を進めることができる。
・調査研究から得られた結果をもとに、論文作成の留意事項に従って卒業論文をまとめることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】
T 卒業論文/卒業研究/卒業制作 /Thesis

【授業の進め方と方法】
春学期は、演習内で指導を行う。授業計画に従い、各自の研究テーマを設定し、先行研究を踏まえて研究計画を立て、調査研究を進める。秋学期は必要に応じて個別指導を行う。進捗状況をもとに研究計画の見直しを行い、調査研究を遂行して、卒業論文にまとめる。課題は、授業のなかでフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	卒業研究の考え方・進め方について
第2回	テーマの検討	調査研究の構想
第3回	テーマの設定	テーマと調査研究の立案
第4回	先行研究の収集	先行研究の進め方
第5回	先行研究の検討	文献リストの発表と質疑
第6回	先行研究の整理	文献リストの修正と整理
第7回	リサーチクエッチョンと研究計画の検討	リサーチクエッチョンの設定
第8回	リサーチクエッチョンと研究計画の構想	リサーチクエッチョンに応える研究計画の構想
第9回	データの収集の考え方	データの収集と整理の考え方・進め方
第10回	データの収集	進捗状況の報告
第11回	データの収集と検討	データについての質疑と修正
第12回	データの整理	進捗状況の報告と質疑
第13回	中間発表①前半	発表と質疑
第14回	中間発表②後半	発表と質疑、今後の課題
15	進捗状況の報告と計画の見直し	研究活動の振り返り
16	データ分析の考え方	データ分析の考え方・進め方
17	データ分析の方法	データ分析の検討
18	データ分析の実際	データ分析の報告と質疑
19	データ分析の見直し	データ分析の再検討
20	データ分析の完了	進捗状況の報告と質疑
21	卒業論文の執筆①論文とは	卒業論文の執筆の考え方・進め方
22	卒業論文の執筆②アウトライン	アウトラインの報告と質疑
23	卒業論文の執筆③論文の表現	表現についての留意点と表現のチェック
24	卒業論文の執筆④論文の展開	論文の論理構成の検討
25	卒業論文の執筆⑤推敲の方法	卒業論文の推敲の考え方・進め方
26	卒業論文の執筆⑥仕上げ	ドラフトの完成と校正
27	卒論発表①前半	プレゼンと質疑
28	卒論発表②後半	プレゼンと質疑、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
基本文献を読み、先行研究を深める。調査研究を主体的に進める。また、報告やプレゼンの準備をする。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
授業において適宜紹介する。

【参考書】
授業において適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
主体的な参加の姿勢、課題やプレゼン（30％）、論文の形式や内容（70％）などをもとに総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
定期的にチェックするようにする。

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】
Graduate theses on multicultural conviviality and education are completed by setting up and exploring individually selected themes. Through conducting research projects related to multicultural society and education, how to actualize multicultural coexistence is discussed and implicated.
【到達目標 / Goal】
Students are able to set up a theme, plan the research design, and conduct research on issues related to multicultural conviviality and education.
Students are able to complete graduate thesis on the multicultural issue according to the notes of thesis preparation.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Students will be expected to read the text, conduct research and study, reflect on their learning, prepare materials on the subject, and prepare a presentation.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】
Grading will be decided based on assignments and presentations (30%) and graduate thesis (70%).

MAN400MA（経営学 / Management 400）

卒業論文（ビジネス）

上西　充子

単位数：4単位　｜　開講セメスター：年間授業/Yearly
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses　｜　配当年次：4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
卒業論文の完成に向けて、自らの問題意識に即した研究テーマの設定、論文の構成、先行研究の調査、データの収集と分析、調査結果の整理と記述の方法などを段階的に学び、卒業論文を完成させる。

【到達目標】
自らが明らかにすべき問いを立てることができる。
研究課題を絞り込み、先行研究への適切な言及と適切な研究方法によって、その研究課題を明らかにすることができる。
読み手に説得的な論述を行った卒論を作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】
T 卒業論文/卒業研究/卒業制作 /Thesis

【授業の進め方と方法】
下記の授業計画に従って、演習内で指導を行います。秋学期には適宜個別指導を並行して行います。フィードバックはその都度、授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	卒論ガイダンス	卒論執筆の意義について説明する
第2回	卒論執筆スケジュールの検討	卒論執筆スケジュールを検討する
第3回	卒論構想の発表	各自の問題意識を発表する
第4回	卒論構想の検討	各自の問題意識を深める
第5回	研究方法の概説	研究方法について概説する
第6回	量的調査法の検討	量的調査法に基づく文献を検討する
第7回	質的調査法の検討	質的調査法に基づく文献を検討する
第8回	研究課題の設定	各自の問題意識を深め研究課題を絞り込む
第9回	研究課題の文章化	研究課題を文章化する
第10回	先行研究の調査	先行研究の探し方を学ぶ
第11回	先行研究の検討	収集した先行研究を検討する
第12回	先行研究の整理	先行研究から得られる知見を理解し、分析の視点から学ぶとともに、残された課題を認識する
第13回	研究計画の検討	研究課題に即した研究計画を検討する
第14回	研究計画の策定	調査方法を具体的に検討し、調査・執筆スケジュールを検討する
15	調査結果の発表	調査結果を整理して発表する
16	分析方法の検討	調査結果の分析方法を改めて検討する
17	分析結果の発表	分析結果を発表する
18	知見の検討	調査結果から得られた知見を検討する
19	知見の文章化	得られた知見を文章化する
20	章立ての検討	論文全体の構成案を検討する
21	執筆内容の検討：課題設定	課題設定の執筆内容を検討する
22	執筆内容の検討：先行研究	先行研究の検討の執筆内容を検討する
23	執筆内容の検討：調査結果	調査結果の執筆内容を検討する
24	執筆内容の検討：まとめ	まとめの執筆内容を検討する
25	執筆内容の検討：文献リスト	文献リストの内容を検討する
26	論文の発表	論文を発表し、寄せられたコメントを検討する
27	論文のリファイン	コメントを踏まえて論文を修正する
28	卒論発表	提出した卒論の要旨を発表し、その内容と意義について議論する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
基本文献・関連文献を読み込む。
データの収集と分析を行う。
卒論の完成に向けて、執筆を進める。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
・木下是雄（1994）『レポートの組み立て方』ちくま学芸文庫
その他の参考書については、必要に応じて、随時提示する。

【成績評価の方法と基準】
先行研究の論旨の的確な把握、引用や記述のルールの順守、分析方法の的確さ（40％）、文章の明確さ、論理構成の的確さ（40％）、課題設定の独創性、知見の独創性（20％）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
研究課題の絞り込みが難しいと感じる学生が多いように見受けられます。先行研究の収集・分析と並行しての研究課題の絞り込みを早期からサポートしていきます。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In this course, students will learn step-by-step how to set up a research theme in line with their interests, structure a thesis, research previous studies, collect and analyze data, and organize and describe the results of their research.
【Learning Objectives】
Students are expected to complete their thesis using appropriate research methods.
【Learning activities outside of classroom】
Students are expected to survey previous research, collect and analyze data, and work towards the completion of the thesis. Your study time will be more than four hours for a class.
【Grading Criteria/Policies】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Accurate understanding of previous research and appropriate analysis methods: 40%
Logical description: 40%
Originality 20%

MAN400MA（経営学 / Management 400）

卒業論文（ビジネス）

梅崎　修

単位数：4単位　｜　開講セメスター：年間授業/Yearly
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses　｜　配当年次：4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
4年生を対象に、キャリアデザイン学に関する卒業論文執筆のための研究指導を行う。
学術的に価値のある論文執筆を目指した指導を行う。

【到達目標】
学術論文のための論文作成方法を学ぶ。具体的には、調査から意味解釈や因果関係の推測、さらには検証ができる能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】
T 卒業論文/卒業研究/卒業制作 /Thesis

【授業の進め方と方法】
春学期は論文の書き方を指導し、秋学期は論文に具体的コメントを行う。個別指導が中心であるが、春学期に1回、秋学期1回、発表会を行う。なお、課題等の提出は授業支援システムを利用し、フィードバックはを授業とオフィスアワーを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	春学期のスケジュール確認	卒論執筆の年間スケジュールを確認する。
第2回	卒論テーマ報告（1）	1人30分×3名で卒論テーマを発表し、議論する。
第3回	卒論テーマ報告（2）	1人30分×3名で卒論テーマを発表し、議論する。
第4回	卒論テーマ報告（3）	1人30分×3名で卒論テーマを発表し、議論する。
第5回	卒論テーマ報告（4）	1人30分×2名で卒論テーマを発表し、議論する。
第6回	調査方法講義（ヒアリング調査）	卒業論文で使える方法論について講義する。
第7回	調査方法講義（観察法）	卒業論文で使える方法論について講義する。
第8回	調査計画発表（5）	1人30分×3名で調査計画を発表し、議論する。
第9回	調査計画発表（6）	1人30分×3名で調査計画を発表し、議論する。
第10回	調査計画発表（7）	1人30分×3名で調査計画を発表し、議論する。
第11回	調査計画発表（8）	1人30分×2名で調査計画を発表し、議論する。
第12回	論文構成	論文構成の書き方を講義。
第13回	図書館と情報検索のやり方	情報検索の方法を講義。
第14回	先行研究のまとめ方	先行研究を整理する方法を講義。
15	相談	調査計画の個別相談を受ける。
16	調査結果の報告（9）	1人30分×3名で調査結果を発表し、議論する。
17	調査結果の報告（10）	1人30分×3名で調査結果を発表し、議論する。
18	調査結果の報告（11）	1人30分×3名で調査結果を発表し、議論する。
19	調査結果の報告（12）	1人30分×2名で調査結果を発表し、議論する。
20	調査結果の分析・解釈（1）	1人30分×3名で分析・解釈を発表し、議論する。
21	調査結果の分析・解釈（2）	1人30分×3名で分析・解釈を発表し、議論する。
22	調査結果の分析・解釈（3）	1人30分×3名で分析・解釈を発表し、議論する。
23	調査結果の分析・解釈（4）	1人30分×2名で分析・解釈を発表し、議論する。
24	発表方法	プレゼンテーションの方法を講義する。
25	議論の方法	質問、批判の方法を学ぶ。
26	卒論発表会（1）	1人約30分×3名で卒論発表。
27	卒論発表会（2）	1人約30分×3名で卒論発表。
28	卒論発表会（3）	1人約30分×3名で卒論発表。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間外に調査、執筆を行うことになる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
作品の完成度を80%、授業での発言など貢献度を20%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
論文作成だけでなく、論文の発表方法も教授し、簡潔でわかりやすい発表ができるようにする。

【Outline (in English)】
I will provide support to fourth graders for writing their graduation thesis and producing academically valuable papers. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
Final grade will be calculated according to the following process Term-end report(80%) and in-class contribution(20%).

MAN400MA（経営学 / Management 400）

卒業論文（ビジネス）

酒井　理

単位数：4単位　｜　開講セメスター：年間授業/Yearly
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses　｜　配当年次：4年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業では、自分たちが手がけたマーケティングに関わるプロジェクトを論文にします。
現状を把握するための分析、実際の問題を解決するための実践のプロセスを通して、仮説設定と検証実験による学術的なアプローチを学びます。

【到達目標】
卒業論文の完成が最終目標です。
アンケート調査、インタビュー調査などで集めたデータを使用した実証的な研究方法によって論文を完成させます。
卒業論文を完成させることを通して、具体的には以下の能力を獲得します。
・事象や物事、思考を構造化して考えられるようになる
・取り扱う要素を論理的に構成できるようになる
・思考を言語化して表現できるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】
T 卒業論文/卒業研究/卒業制作 /Thesis

【授業の進め方と方法】
必ず実証データを使用して研究を進めます。アンケートでデータを集めても結構ですし、消費者へのインタビューや街頭観察でデータを収集することでも結構です。さらに企業訪問してインタビューを行うのも推奨します。とにかく、実際に現場に出向いて自分でデータを集めて現象について考察することを求めます。自分の足で現場に出向いてデータを直接集めます。
学生の提出された課題のフィードバックは、毎回、授業時の指導としておこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	卒業論文研究の進め方について説明します。
第2回	テーマ・仮説の設定1	研究テーマを発表して、ゼミ内で意見を交換します。
第3回	テーマ・仮説の設定2	研究テーマを発表して、ゼミ内で意見を交換します。
第4回	テーマ・仮説の設定3	研究テーマを発表して、ゼミ内で意見を交換します。
第5回	文献サーベイ1	実際に現場に出てリサーチした結果（集めたデータの分析結果）を報告します。
第6回	文献サーベイ2	実際に現場に出てリサーチした結果（集めたデータの分析結果）を報告します
第7回	文献サーベイ3	実際に現場に出てリサーチした結果（集めたデータの分析結果）を報告します
第8回	リサーチデザイン1	自分で考えたリサーチの進め方を報告します。
第9回	リサーチデザイン2	自分で考えたリサーチの進め方を報告します。
第10回	リサーチデザイン3	自分で考えたリサーチの進め方を報告します。
第11回	リサーチ結果報告1	実際に現場に出てリサーチした結果（集めたデータの分析結果）を報告します。
第12回	リサーチ結果報告2	実際に現場に出てリサーチした結果（集めたデータの分析結果）を報告します。
第13回	リサーチ方法の改善1	本格的なリサーチの実施に向けて、テストリサーチの反省を踏まえた改善を考えて報告します。
第14回	リサーチ方法の改善2	本格的なリサーチの実施に向けて、テストリサーチの反省を踏まえた改善を考えて報告します。
15	オリエンテーション	秋学期の進め方について意見交換を行います。
16	論文執筆作法	論文の執筆ルールについて説明します。
17	論文執筆作法	論文の執筆ルールについて説明します。
18	個別指導1	各自執筆と個別指導を行います。
19	個別指導2	論文執筆の途中経過の報告を行います。
20	個別指導3	各自執筆と個別指導を行います。
21	中間発表1	論文執筆の途中経過の報告を行います。
22	中間発表2	論文執筆の途中経過の報告を行います。
23	個別指導1	論文執筆の途中経過の報告を行います。
24	個別指導2	論文執筆の途中経過の報告を行います。
25	個別指導3	論文執筆の途中経過の報告を行います。
26	研究成果の発表1	最終的に完成した論文の内容を発表します。
27	研究成果の発表2	最終的に完成した論文の内容を発表します。
28	研究成果の発表3	最終的に完成した論文の内容を発表します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
社会の出来事はすべて現場で起きています。フィールド（現場）に出向いて研究を進めることを強く推奨します。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
各自の研究成果である卒業論文の評価が１００％です。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート対象外科目のため非実施

【その他の重要事項】
学生の専門的知識の獲得の他、行動力、判断力、創造力、コミュニケーション能力、主体性を涵養あるいは向上させることを意識しています。これらは社会に出たときに重要と思われる資質・能力だと考えます。

【Outline (in English)】
[Course outline]
In this lesson, we will make a paper on marketing projects which we have conducted.
We will learn academic approaches based on hypothesis setting and verification experiments on analysis to understand the current situation and practice process to solve problems in a "real" world.
[Learning Objectives]

The final goal is to complete a graduation thesis. The thesis will be completed through empirical research methods using data collected through questionnaires, interviews, and other surveys.
[Method]
Students are encouraged to use empirical data, whether quantitative or qualitative, to guide their research. Empirical data can be surveys, log data, consumer interviews, or street observations. Visits to companies to conduct interviews are also encouraged. Students are asked to actually go to the field and collect their own data to discuss the phenomenon. Please visit the field with your own feet and collect data directly. Feedback on student's submitted assignments will be given as guidance in each class.
[Learning activities outside of classroom]
All social events are happening on the ground. Students are strongly encouraged to go into the field to conduct research. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
[Grading Criteria /Policy]
The evaluation of the graduation thesis is 100%.
Logic, contribution to society, and empirical research are the evaluation criteria.

MAN400MA（経営学 / Management 400）

卒業論文（ビジネス）

坂爪　洋美

単位数：4単位　｜　開講セメスター：年間授業/Yearly
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses　｜　配当年次：4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
4年間の学習の集大成として、自らの興味関心に基づき研究テーマを設定し、テーマに基づく調査の実施、調査結果の検討を通じて、卒業論文を完成させます。

【到達目標】
卒業論文作成上の到達目標は以下の通りです
（1）興味関心を研究テーマとして構築できるようになる
（2）研究テーマに関連する先行研究をレビューしまとめられるようになる
（3）調査を設計し実施できるようになる
（4）調査結果の分析ができるようになる
（5）分析結果をふまえ論文を執筆できるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】
T 卒業論文/卒業研究/卒業制作 /Thesis

【授業の進め方と方法】
前期については論文執筆に進め方ならびに調査の実施に関するレクチャーが中心になる。後期は調査実施状況に応じた個別指導が中心となる。
毎回提出されたレジュメに対して、個別にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマについての検討（1）	各自の興味に基づき研究テーマを抽出する
第2回	研究テーマについての検討（2）	各自の興味に基づき研究テーマを精査する
第3回	論文の書き方について理解する（1）	卒業論文の構成と書き方について講義と実習を行う
第4回	論文の書き方について理解する（2）	論文を読みつつ、論文の基本的な書き方について学習する
第5回	先行研究のレビューを理解する（1）	各自のテーマに関連する先行研究を持ちより発表する
第6回	先行研究のレビューを理解する（2）	各自のテーマに関連する先行研究を持ちより発表する
第7回	先行研究のレビューを理解する（3）	先行研究のまとめ方をレクチャーし、集めた資料をまとめる
第8回	調査計画を立案する（1）	研究テーマを仮説として構築する
第9回	調査計画を立案する（2）	研究テーマを仮説として構築する
第10回	調査計画を立案する（3）	仮説のブラッシュアップを図る
第11回	調査票の作成（1）	仮説検証に必要な調査票を作成する（1）
第12回	調査票の作成（2）	仮説検証に必要な調査票を作成する（2）
第13回	中間報告（1）	それまでの作業についてパワーポイントにまとめて発表し、ディスカッションを行う
第14回	中間報告（2）	それまでの作業についてパワーポイントにまとめて発表し、ディスカッションを行う
第15回	中間報告（3）	それまでの作業についてパワーポイントにまとめて発表し、ディスカッションを行う
第16回	夏休みの報告	夏休み中の進捗について報告する
第17回	分析方法を学ぶ（1）	調査の分析方法に関するレクチャーを行った上で各自で分析を行う
第18回	分析方法を学ぶ（2）	調査の分析方法に関するレクチャーを行った上で各自で分析を行う
第19回	分析方法を学ぶ（3）	調査の分析方法に関するレクチャーを行った上で各自で分析を行う
第20回	結果をまとめる（1）	分析結果を論文としてまとめる方法について講義を行った上で、各自結果をまとめる
第21回	結果をまとめる（2）	結果を論文としてまとめる
第22回	考察の進め方を学ぶ（1）	考察の進め方をレクチャーした上で、各自考察の進め方を検討する
第23回	考察の進め方を学ぶ（2）	各自考察をまとめる
第24回	論文の書き方（1）	論文の書き方についてのレクチャーを行い、各自これまでの成果を論文としてまとめる
第25回	論文の書き方（2）	論文として書き上げたものについて検討する
第26回	論文の書き方（3）	論文として書き上げたものについて検討する
第27回	論文発表（1）	論文を発表しコメントをもらう
第28回	論文発表（2）	論文を発表しコメントをもらう

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
卒業論文の作成は各自が主体的に行うものである。授業は進捗の確認と進捗のサポートが中心であることから、何よりも主体的・積極的な準備が求められる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
各自のテーマに合わせて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
卒業論文の完成度に基づいて評価します。
具体的には、①問題設定の明確さ20%、②先行研究の充実度20%、③調査結果の適切な分析20%、④仮説に基づいた考察20%、⑤文章の明確さ20%、です。

【学生の意見等からの気づき】
調査の実施時期を前倒しにし、余裕を持ったスケジュールとします。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to develop skills to write graduation thesis and write out graduation thesis.This course provide the student with knowledge of how to seek facts and how to plan, carry out and present work as well as theoretical and practical specialization within a industrial/organizational psychological subject area.
The objectives for writing the graduation thesis are as follows:
(1) To be able to construct a research theme based on one's interests
(2) To be able to review and summarize previous research related to the research theme
(3) To be able to design and conduct a survey
(4) To be able to analyze the results of a survey
(5) To be able to analyze the research results

The preparation of the graduation thesis is a self-initiated process. Since the class focuses on checking progress and supporting progress, proactive and active preparation is required above all. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
The criteria for grading are as follows. Specifically, they are as follows. (1) clarity of problem formulation 20%, (2) thoroughness of prior research 20%, (3) appropriate analysis of research results 20%, (4) hypothesis-based discussion 20%, and (5) clarity of writing 20%.

MAN400MA（経営学 / Management 400）

卒業論文（ビジネス）

佐藤　厚

単位数：4単位　｜　開講セメスター：年間授業/Yearly
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses　｜　配当年次：4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
卒論作成を演習及び学部での学びの総決算として位置づけて指導します。参加者各自の研究テーマを設定し、関連文献の収集とレビュー、実証的データの収集と分析に基づき、論理一貫性のある論旨を展開しながら、説得力ある結論を導く文章の作成および作成能力の獲得を目標とします。

【到達目標】
　各自の問題意識とテーマにそって個別に執筆指導を行います。
春学期は、問題意識とテーマの明確化と鍵文献の収集とレビューに主眼を置きます。
　各自の卒論テーマに関連した文献レビューを幅広く行い、内容を理解してもらう。
また先行研究の知見と自分の考えを区別して論述する力を養成する。
　以上の学習を通じて、①テーマ設定力、②テーマに基づく情報収集力、③収集した情報を分析する方法、④分析結果を論理的な文章にまとめる思考力と編集力、を形成します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】
T 卒業論文/卒業研究/卒業制作 /Thesis

【授業の進め方と方法】
各自の問題意識にそってテーマ案及び論文の骨子についての報告及びそれについてのコメント、フィードバックを基本に、個別に執筆指導を行います。
春学期は、問題意識とテーマの明確化と鍵文献の収集とレビューに主眼を置きます。
合宿をはさんで、秋学期は、文章全体の章別構成の明確化と説得力ある文章の作成、および論文の完成を目標とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	卒論執筆の意義、執筆のプロセスなど
第2回	研究テーマの明確化と関連文献の収集及びレビュー（1）	各自の研究テーマにとって重要な文献を収集し、系統的に読み込み、かつ進捗の報告を行う
第3回	研究テーマの明確化と関連文献の収集及びレビュー（2）	各自の研究テーマにとって重要な文献を収集し、系統的に読み込み、かつ進捗の報告を行う
第4回	研究テーマの明確化と関連文献の収集及びレビュー（3）	各自の研究テーマにとって重要な文献を収集し、系統的に読み込み、かつ進捗の報告を行う
第5回	研究テーマの明確化と関連文献の収集及びレビュー（4）	各自の研究テーマにとって重要な文献を収集し、系統的に読み込み、かつ進捗の報告を行う
第6回	研究テーマの明確化と関連文献の収集及びレビュー（5）	各自の研究テーマにとって重要な文献を収集し、系統的に読み込み、かつ進捗の報告を行う
第7回	研究テーマの明確化と関連文献の収集及びレビュー（6）	各自の研究テーマにとって重要な文献を収集し、系統的に読み込み、かつ進捗の報告を行う
第8回	研究テーマの明確化と関連文献の収集及びレビュー（7）	各自の研究テーマにとって重要な文献を収集し、系統的に読み込み、かつ進捗の報告を行う
第9回	研究テーマの明確化と関連文献の収集及びレビュー（8）	各自の研究テーマにとって重要な文献を収集し、系統的に読み込み、かつ進捗の報告を行う
第10回	研究テーマの明確化と関連文献の収集及びレビュー（9）	各自の研究テーマにとって重要な文献を収集し、系統的に読み込み、かつ進捗の報告を行う
第11回	研究テーマの明確化と関連文献の収集及びレビュー（１０）	各自の研究テーマにとって重要な文献を収集し、系統的に読み込み、かつ進捗の報告を行う
第12回	卒論骨子の発表とコメント（1）	各自執筆した卒論の骨子を発表し、ゼミ生、教員からコメントをもらう
第13回	卒論骨子の発表とコメント（2）	各自執筆した卒論の骨子を発表し、ゼミ生、教員からコメントをもらう
第14回	卒論骨子の発表とコメント（3）	各自執筆した卒論の骨子を発表し、ゼミ生、教員からコメントをもらう
第15回	テーマ設定、章別構成、構造化された文章の書き方について	各自の研究テーマにそった論旨と章別構成を明確化し文章化を図りつつ、執筆を完成させる際の留意事項を理解する
第16回	論旨、章別構成の明確化と執筆（1）	各自の研究テーマにそった論旨と章別構成を明確化し文章化を図りつつ、執筆を完成させる
第17回	論旨、章別構成の明確化と執筆（2）	各自の研究テーマにそった論旨と章別構成を明確化し文章化を図りつつ、執筆を完成させる
第18回	論旨、章別構成の明確化と執筆（3）	各自の研究テーマにそった論旨と章別構成を明確化し文章化を図りつつ、執筆を完成させる
第19回	論旨、章別構成の明確化と執筆（4）	各自の研究テーマにそった論旨と章別構成を明確化し文章化を図りつつ、執筆を完成させる
第20回	論旨、章別構成の明確化と執筆（5）	各自の研究テーマにそった論旨と章別構成を明確化し文章化を図りつつ、執筆を完成させる
第21回	論旨、章別構成の明確化と執筆（6）	各自の研究テーマにそった論旨と章別構成を明確化し文章化を図りつつ、執筆を完成させる
第22回	論旨、章別構成の明確化と執筆（7）	各自の研究テーマにそった論旨と章別構成を明確化し文章化を図りつつ、執筆を完成させる
第23回	論旨、章別構成の明確化と執筆（8）	各自の研究テーマにそった論旨と章別構成を明確化し文章化を図りつつ、執筆を完成させる
第24回	論旨、章別構成の明確化と執筆（9）	各自の研究テーマにそった論旨と章別構成を明確化し文章化を図りつつ、執筆を完成させる
第25回	論旨、章別構成の明確化と執筆（１０）	各自の研究テーマにそった論旨と章別構成を明確化し文章化を図りつつ、執筆を完成させる
第26回	執筆と推敲（1）	文章化の完成を目指しての可能な限りの推敲（1）
第27回	執筆と推敲（2）	文章化の完成を目指しての可能な限りの推敲（2）
第28回	口頭試問	論旨を口頭で説明し、コメントについてリプライする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
系統的な文献の収集と読み込みが必要です。
執筆にむけた一定の執筆時間の確保が必要です。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
適宜、授業時に指示します。

【参考書】
各自の関心に応じて適宜、文献を指示します。

【成績評価の方法と基準】
毎回のゼミでの報告への取り組みと論文の到達水準、完成度(70％)
口頭試問での論旨の口頭説明及びコメントへのリプライの的確さ（30％）

【学生の意見等からの気づき】
中間段階での到達点を明確化し、課題を意識してもらう。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
特にありません。

【Outline (in English)】
In this class,students study each topics through writing paper for graduation.
Main purpose of this class is to comlete paper for graduation,collecting useful information for each topics, then analysing the information based on some research method,and writing structured sentenses.
【Goal】
e will provide individual writing guidance according to each person's awareness of the problem and the theme.
The spring semester will focus on problem awareness, clarification of themes, and collection and review of key literature.
Perform a wide range of literature reviews related to your bachelor thesis theme and have them understand the content.
In addition, develop the ability to distinguish and discuss the findings of previous research and one's own ideas.
Through the above learning, you will develop (1) theme setting ability, (2) theme-based information gathering ability, (3) method of analyzing collected information, and (4) thinking ability and editing ability to summarize the analysis results into logical sentences.
【Learning activities outside of classroom】
It is necessary to collect and read systematic literature.
It is necessary to secure a certain amount of writing time for writing. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
We will evaluate each seminar's efforts to report, the achievement level of the dissertation, and the degree of completion (70 %).
Emphasis is placed on the accuracy of oral explanations and replies to comments in oral examinations (30%).

MAN400MA（経営学 / Management 400）

卒業論文（ビジネス）

武石　恵美子

単位数：4単位　｜　開講セメスター：年間授業/Yearly
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses　｜　配当年次：4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キャリアデザイン学に関する卒業論文執筆のための研究指導を行う。キャリアデザイン学の視点から自分の問題意識を掘り下げ、4年間の学びの集大成とする。

【到達目標】
卒業論文執筆により、自らの問題意識をもとに課題を設定し、その課題解決のために実証的な方法によって論証を行い、課題に対する結論を導く能力の開発を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】
T 卒業論文/卒業研究/卒業制作 /Thesis

【授業の進め方と方法】
演習の進め方は、春学期は論文の書き方等の指導を講義形式で行い、秋学期は個別指導を中心に進め論文の完成を目指す。
課題等の提出・フィードバックは各授業の中で個別に実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文テーマの発表	論文の構想、テーマを報告し、研究にあたっての問題意識を明確にする。
第2回	論文の書き方	卒業研究とは何か、論文の書き方の基礎を知り、論文の事例を学ぶ。
第3回	研究方法の解説	理論研究、実証研究および文献サーベイ等，研究方法について説明する。
第4回	テーマに関連する研究サーベイ	研究内容や方法を決めるために、テーマに関連する研究をサーベイする。
第5回	研究の背景・意義の明確化	研究テーマに関する現状や課題等を把握し、自身の研究の背景や意義を明確にする。
第6回	研究内容・研究計画の策定	研究内容を決定し、研究計画を策定する。
第7回	先行研究のサーベイ	テーマに関連する先行研究をサーベイする。
第8回	先行研究内容の検討	先行研究を調査し、それらの知見と残された課題を識別する。
第9回	実証方法の検討、具体化	研究テーマを明らかにするための方法を検討し、実証方法を具体的に決定する（調査対象、内容等の決定）。
第10回	データ等の収集のための課題や内容の明確化	データ収集のために、研究課題を明確にし、それにアプローチするための調査内容等を決定する。
第11回	データ等の収集	データを収集する。
第12回	データの収集（継続）と集約	データ収集を継続的に進めるとともに、データの集約を行う。
第13回	論文の中間とりまとめ	進捗した内容について、論文を中間的にまとめる。
第14回	春学期のまとめと総括	各自の論文の経過報告を行い、総括する。
15	中間報告会	進捗についての中間報告を行う。
16	中間報告会の講評	中間報告の講評を行い、今後の進め方について検討する。
17	収集したデータ整理	収集したデータの整理を行う。
18	現状分析	収集したデータから現状分析を行い、その内容を論文としてまとめる。
19	データの解釈	データの解釈を行い、その内容を論文としてまとめる。
20	仮説の検証、論証	自分の研究において、仮説の検証、論証を行う。
21	論文執筆	論文の執筆を行う。
22	論文執筆へのフィードバック	執筆した論文の内容について、教員からフィードバック行う。
23	論文の中間発表	論文の中間発表を行い、相互にフィードバックを行う。
24	論文の修正	論文についてのフィードバックを踏まえた修正を行う。
25	論文の修正（継続）と精査	論文の修正を継続し、図表や文献などの精査を行う。
26	論文完成	論文を完成させて、提出する。
27	卒業論文発表会	2,3,4年生合同ゼミにおいて、卒業論文の発表および質疑を行う。
28	卒業論文の振り返りとフィードバック	卒業論文の執筆に対して学生自身が振り返り（省察）を行うとともに、教員及び学生同士のフィードバックを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
論文執筆のための文献研究や調査・分析等を自主的に行う必要がある。卒業論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが何より重要であり、当然であるが、授業に出席するだけでは論文は執筆できない。本授業の各回における準備学習・復習時間は4時間以上を標準とする。

【テキスト（教科書）】
個人のテーマに応じて適宜指定する。

【参考書】
個人のテーマに応じて適宜指定する。

【成績評価の方法と基準】
論文の内容を総合的に評価する。
具体的には、問題意識の設定、先行研究サーベイの的確さ、現状分析を踏まえた結論と考察が論理的に導かれているという点を重視し、論文の成果で評価する(論文の成果が100％)。

【学生の意見等からの気づき】
進行に関して互いの報告会を行い、情報を共有しつつ、互いの問題意識から触発を受けるようにする。

【学生が準備すべき機器他】
研究の内容によってパソコンが必要になる。

【Outline (in English)】
【Course outline】 In this seminar, students will write the graduation thesis about carrier design studies. They will examine own article theme and complete learning of 4 years.
【Learning Objectives】 The goal of this course is to develop the ability to set a problem based on students' own awareness of the problem, to solve it by an empirical method , and to draw conclusions.
【Learning activities outside of classroom】 In addition to class time, students will be expected to voluntarily conduct literature surveys, research, and analysis for their graduation thesis. Students required study time is at least 4 hours.
【Grading Criteria /Policy】 Grading will be decided based on the quality of the students' graduation thesis（100％）.

MAN400MA（経営学 / Management 400）

卒業論文（ビジネス）

中野　貴之

単位数：4単位　｜　開講セメスター：年間授業/Yearly
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses　｜　配当年次：4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　卒業論文の作成に沿って、各ステップごとに指導していく。先行研究の調査、データ分析方法およびインプリケーションの捉え方等、具体的に指導していく。

【到達目標】
　一定水準以上の論文として、卒業論文を仕上げることが到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】
T 卒業論文/卒業研究/卒業制作 /Thesis

【授業の進め方と方法】
授業は、講義と発表とを組み合わせて行う。卒業論文の構想、草稿については、議論の上、「朱」を入れるなど随時フィードバックを行っていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	学術論文の意義について説明する。
第2回	研究方法の概説(1)	理論研究、実証研究および文献サーベイ等，研究方法について説明する。また、各方法に依拠した文献を検討する。3回に分けて考察する。
第3回	研究方法の概説(2)	実証研究の意義と限界について考察する。
第4回	研究方法の概説(3)	文献サーベイの方法について検討する。
第5回	テーマの設定(1)	テーマ選択の意義について説明するとともに執筆者の問題意識を探り、候補となるテーマを洗い出す。
第6回	テーマの設定(2)	受講者が研究テーマについて発表する（第1回目）。
第7回	テーマの設定(3)	受講者が研究テーマについて発表する（第2回目）。
第8回	先行研究の調査(1)	テーマに関連する先行研究を広く調査し、それらの知見と残された課題を識別する方法について概説する。
第9回	先行研究の調査(2)	受講者の研究テーマの主たる先行研究について発表する（第1回目）。
第10回	先行研究の調査(3)	受講者の研究テーマの主たる先行研究について発表する（第2回目）。
第11回	先行研究の調査(4)	受講者の研究テーマの主たる先行研究について発表する（第3回目）。
第12回	先行研究の調査(5)	受講者の研究テーマの主たる先行研究について発表する（第4回目）。
第13回	研究計画の策定(1)	具体的な研究テーマを設定し、データ収集方法および分析方法等、実質的な研究内容とそれに要する時間を見積もる。
第14回	研究計画の策定(2)	受講者の研究計画について発表する。
第15回	調査データの整備(1)	調査データの収集、データベース化の方法について指導する。
第16回	調査データの整備(2)	受講者別にデータ、文献のデータベース化について指導する。
第17回	検証仮説の検討(1)	検証仮説等について再検討を行う。
第18回	検証仮説の検討(2)	受講者の検証仮説等について発表を行う。
第19回	分析の実施(1)	仮説およびデータを用いて分析を行う。
第20回	分析の実施(2)	分析結果の解釈および追加分析を行う。
第21回	論文執筆(1)	論文の目的、先行研究、仮説、研究デザイン、検証結果、発見事項とインプリケーション等の各パーツについて執筆を行う。
第22回	論文執筆(2)	原稿を具体的に遂行していく（第1回目）。
第23回	論文執筆(3)	原稿を具体的に遂行していく（第2回目）。
第24回	リファインの作業(1)	ゼミにおいて論文を発表し、寄せられた意見を踏まえて、論文をリファインする。
第25回	リファインの作業(2)	リファインした点を中心に発表を行う（第1回目）。
第26回	リファインの作業(3)	リファインした点を中心に発表を行う（第2回目）。
第27回	最終調整(1)	論文提出に向けた、最終的な仕上げ作業を行う。
第28回	最終調整(2)	最終原稿の最終確認を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
卒業論文以前に、ゼミ活動に熱心に取り組むことが重要である。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
開講時に指示する

【参考書】
開講時に指示する

【成績評価の方法と基準】
①研究への取り組みおよび研究指導への対応（40%）
②論文の形式的完成度（20%）
③先行研究文献に対する研究の新規性、信頼性および独自性（40%）

【学生の意見等からの気づき】
前向きに取り組んだとの意見が多いため、同様のスタイルで授業を行っていきます。

【Outline (in English)】
*Course outline
The purpose of this course is to provide students with a comprehensive method of writing a graduation thesis. I will provide specific guidance on surveying previous research, data analysis and interpretation.
*Learning Objectives
The goal is to complete the graduation thesis as a paper of a certain level or higher.
*Learning activities outside of classroom
It is important to work diligently on the seminar activities. Your required study time is at least 4 hours for each class meeting.
*Grading Criteria
Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Attitude toward research: 40%, Formality and completeness of the paper: 20%, Novelty, reliability, and originality of the research: 40%.

MAN400MA（経営学 / Management 400）

卒業論文（ビジネス）

古田　克利

単位数：4単位　｜　開講セメスター：年間授業/Yearly
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses　｜　配当年次：4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
4年間の学習の集大成として、自らの興味関心に基づき研究テーマを設定し、テーマに基づく調査の実施、調査結果の検討を通じて、卒業論文を完成させます。

【到達目標】
卒業論文作成上の到達目標は以下の通りです
（1）興味関心を研究テーマとして構築できるようになる
（2）研究テーマに関連する先行研究をレビューしまとめられるようになる
（3）調査を設計し実施できるようになる
（4）調査結果の分析ができるようになる
（5）分析結果をふまえ論文を執筆できるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】
T 卒業論文/卒業研究/卒業制作 /Thesis

【授業の進め方と方法】
前期については論文執筆に進め方ならびに調査の実施に関するレクチャーが中心になる。後期は調査実施状況に応じた個別指導が中心となる。
毎回提出されたレジュメに対して、個別にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマについての検討（1）	各自の興味に基づき研究テーマを抽出する
第2回	研究テーマについての検討（2）	各自の興味に基づき研究テーマを精査する
第3回	論文の書き方について理解する（1）	卒業論文の構成と書き方について講義と実習を行う
第4回	論文の書き方について理解する（2）	論文を読みつつ、論文の基本的な書き方について学習する
第5回	先行研究のレビューを理解する（1）	各自のテーマに関連する先行研究を持ちより発表する
第6回	先行研究のレビューを理解する（2）	各自のテーマに関連する先行研究を持ちより発表する
第7回	先行研究のレビューを理解する（3）	先行研究のまとめ方をレクチャーし、集めた資料をまとめる
第8回	調査計画を立案する（1）	研究テーマを仮説として構築する
第9回	調査計画を立案する（2）	研究テーマを仮説として構築する
第10回	調査計画を立案する（3）	仮説のブラッシュアップを図る
第11回	調査票の作成（1）	仮説検証に必要な調査票を作成する（1）
第12回	調査票の作成（2）	仮説検証に必要な調査票を作成する（2）
第13回	中間報告（1）	それまでの作業についてパワーポイントにまとめて発表し、ディスカッションを行う
第14回	中間報告（2）	それまでの作業についてパワーポイントにまとめて発表し、ディスカッションを行う
第15回	中間報告（3）	それまでの作業についてパワーポイントにまとめて発表し、ディスカッションを行う
第16回	夏休みの報告	夏休み中の進捗について報告する
第17回	分析方法を学ぶ（1）	調査の分析方法に関するレクチャーを行った上で各自で分析を行う
第18回	分析方法を学ぶ（2）	調査の分析方法に関するレクチャーを行った上で各自で分析を行う
第19回	分析方法を学ぶ（3）	調査の分析方法に関するレクチャーを行った上で各自で分析を行う
第20回	結果をまとめる（1）	分析結果を論文としてまとめる方法について講義を行った上で、各自結果をまとめる
第21回	結果をまとめる（2）	結果を論文としてまとめる
第22回	考察の進め方を学ぶ（1）	考察の進め方をレクチャーした上で、各自考察の進め方を検討する
第23回	考察の進め方を学ぶ（2）	各自考察をまとめる
第24回	論文の書き方（1）	論文の書き方についてのレクチャーを行い、各自これまでの成果を論文としてまとめる
第25回	論文の書き方（2）	論文として書き上げたものについて検討する
第26回	論文の書き方（3）	論文として書き上げたものについて検討する
第27回	論文発表（1）	論文を発表しコメントをもらう
第28回	論文発表（2）	論文を発表しコメントをもらう

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
卒業論文の作成は各自が主体的に行うものである。授業は進捗の確認と進捗のサポートが中心であることから、何よりも主体的・積極的な準備が求められる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
各自のテーマに合わせて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
卒業論文の完成度に基づいて評価します。
具体的には、①問題設定の明確さ20%、②先行研究の充実度20%、③調査結果の適切な分析20%、④仮説に基づいた考察20%、⑤文章の明確さ20%、です。

【学生の意見等からの気づき】
定期的に1on1を実施する予定です

【Outline (in English)】
The aim of this course is to develop skills to write graduation thesis and write out graduation thesis.This course provide the student with knowledge of how to seek facts and how to plan, carry out and present work as well as theoretical and practical specialization within a industrial/organizational psychological subject area.
The objectives for writing the graduation thesis are as follows:
(1) To be able to construct a research theme based on one's interests
(2) To be able to review and summarize previous research related to the research theme
(3) To be able to design and conduct a survey
(4) To be able to analyze the results of a survey
(5) To be able to analyze the research results

The preparation of the graduation thesis is a self-initiated process. Since the class focuses on checking progress and supporting progress, proactive and active preparation is required above all. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
The criteria for grading are as follows. Specifically, they are as follows. (1) clarity of problem formulation 20%, (2) thoroughness of prior research 20%, (3) appropriate analysis of research results 20%, (4) hypothesis-based discussion 20%, and (5) clarity of writing 20%.

MAN400MA（経営学 / Management 400）

卒業論文（ビジネス）

松浦　民恵

単位数：4単位　｜　開講セメスター：年間授業/Yearly
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses　｜　配当年次：4年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
これまでの大学生活における学びの集大成として、自らの興味関心に基づいて問いを立て、調査の実施、調査結果の分析・検討を通じて、卒業論文を執筆し、完成させる。

【到達目標】
①論文の問いが設定できるようになること
②調査を企画・設計し、実施できるようになること
③調査結果の分析・解釈ができるようになること
③分析結果を踏まえて、説得力のある論理的な文章を書けるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】
T 卒業論文/卒業研究/卒業制作 /Thesis

【授業の進め方と方法】
春学期は研究計画書や調査に関する相談、秋学期は分析や執筆に関する相談を行う。
授業計画はアンケート調査を実施する場合を想定して記述しているが、テーマや調査方法に応じて進め方は変更する。
受講生と相談のうえ、卒論指導の方法を一部オンラインに変更する可能性がある。
なお、フィードバックは卒論指導や発表の都度行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーションと卒業論文の研究計画案の発表＜３・４年生合同＞	①オリエンテーション ②４年生による卒業論文の研究計画案の発表 ③質疑と教員コメント
第2回	論文執筆に向けた解説	卒業論文の構成、執筆上の留意点についての解説
第3回	問いの検討（１）	①先行研究と問いの案との提示 ②論文になり得るかについての検討 （第１グループ）
第4回	問いの検討（２）	①先行研究と問いの案の提示 ②論文になり得るかについての検討 （第２グループ）
第5回	問いの検討（３）	①先行研究と問いの案の提示 ②論文になり得るかについての検討 （第３グループ）
第6回	問いの再検討	①先行研究の追加サーベイ ②コメントを踏まえた問いの再検討
第7回	問いの確定	問いや仮説の仮決定
第8回	資料作成	構想発表会資料の準備
第9回	構想発表会（１）＜３・４年生・社会人合同＞	研究計画の提示と検討（第１グループ）
第10回	構想発表会（２）＜３・４年生・社会人合同＞	研究計画の提示と検討（第２グループ）
第11回	構想発表会（３）＜３・４年生・社会人合同＞	研究計画の提示と検討（第３グループ）
第12回	研究計画再考	議論を踏まえた練り直し
第13回	調査方法の策定	問いに答えられる、仮説を検証できる調査方法の検討・策定
第14回	調査項目・調査票の作成	調査方法に応じて調査項目や調査票を作成
第15回	オリエンテーション	①オリエンテーション ②研究の進捗共有と意見交換
第16回	分析の相談（１）	調査の分析方法に関する相談（第１グループ）
第17回	分析の相談（２）	調査の分析方法に関する相談（第２グループ）
第18回	データ分析の解説	データ分析の解説とHADによる実践
第19回	分析の相談（３）	調査の分析方法に関する相談（第３グループ）
第20回	分析	各自分析を進める
第21回	執筆の相談（１）	分析結果を踏まえて論文骨子を作成し、論文を執筆する（第１グループ）
第22回	執筆の相談（２）	分析結果を踏まえて論文骨子を作成し、論文を執筆する（第２グループ）
第23回	執筆の相談（３）	分析結果を踏まえて論文骨子を作成し、論文を執筆する（第３グループ）
第24回	論文の推敲（１）	論文をお互いに推敲する
第25回	論文の推敲（２）	論文をお互いに推敲する（続き）
第26回	論文発表の準備	発表用資料を作成する
第27回	論文発表（１）＜２・３・４年生・社会人合同＞	論文の発表と質疑（第１グループ）
第28回	論文発表（２）＜２・３・４年生・社会人合同＞	論文の発表と質疑（第２グループ）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
卒業論文の執筆、執筆に伴う先行研究サーベイや調査の実施の大部分は、授業時間外に、各自主体的に実施いただくことになります（授業は進捗確認と必要に応じたアドバイス中心）。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて、授業のなかで適宜提示します。

【参考書】
必要に応じて、授業のなかで適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】
取り組みの進め方（30％）、卒業論文の内容（40％）、口述試験等の発表・質疑（30％）によって評価します。
卒業論文の内容は、以下の観点から評価します。
①問いの立て方（自己の関心が絞られているか、独創性があるか等）
②先行研究レビュー（十分にサーベイがなされているか等）
③調査の企画・設計・実施・分析（適切な手順、方法か等）
④文章の展開（論理的な説得力があるか等）

【学生の意見等からの気づき】
スケジュールをできるだけ前倒しにしていきたいと考えております。また、完成してからでなく、研究フレームワークがある程度見えてきた段階で、ビジネスパーソン等との対話の機会を設けます。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン等の情報機器、参考文献等。

【その他の重要事項】
演習（ビジネス）３・４年生（春５限・秋６限）とは別に卒論指導を行うことが多いですが、演習（ビジネス）３・４年生（春・秋）に出席して頂くこともあります。

卒論指導や演習参加のスケジュールが変則的になりますので、オリエンテーション時に連絡するスケジュールをよく確認してください。

【Outline (in English)】
＜Course outline＞
Through this course, students will develop skills to write graduation thesis and write out graduation thesis.
＜Learning Objectives＞
・Ability to set appropriate questions
・To be able to plan, design and conduct surveys
・To be able to analyze and interpret survey results
・To be able to write persuasive and logical sentences based on the results of analysis
＜Learning activities outside of classroom＞
The standard time for preparatory study and review for this class is 2 hours each.
＜Grading Criteria /Policy＞
Grading will be decided based on how to proceed with the graduation thesis (30%), the content of the graduation thesis (40%), and the presentation of graduation thesis (30%).

SOC400MA（社会学 / Sociology 400）

卒業論文（ライフ）

荒川　裕子

単位数：4単位　｜　開講セメスター：年間授業/Yearly
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses　｜　配当年次：4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文化やアート、趣味、生き甲斐、地域コミュニティといった多様な観点からキャリアデザインにアプローチし、論文を作成します。問題提起（研究テーマの設定）、先行研究のサーベイ、論文の構成（章立て）、ヒアリングやアンケート、文献などによる調査のしかた等を、段階的に学んでいき、最終的にアカデミックな論文を完成させることを目指します。

【到達目標】
大学における四年間の学びの集大成として、アカデミックな形式にのっとった論文を執筆します。自分自身の関心領域や問題意識を明確にし、仮説を組み立て、それを論証していくために必要な資料やデータを収集し、説得力のある文章にまとめていく力を身に付けます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【主な授業方法】
T 卒業論文/卒業研究/卒業制作 /Thesis

【授業の進め方と方法】
各自が自らのテーマにそって個別に研究を進めると同時に、適宜、教室において論文作成の経過報告を行い、他の受講生たちとのディスカッションを通じて考察を深めていきます。必要に応じて、教員による個別指導も複数回実施します。学生へのフィードバックは適宜授業内に時間を設けて行うとともに、学習支援システムでも共有します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	学術論文とは何かについて説明する。
第2回	研究方法の概要①基礎編	理論研究と実証研究、文献のサーベイや検索方法など、研究の進め方について学ぶとともに、具体的な研究事例を紹介する。
第3回	研究方法の概要②応用編	前回に引き続き、理論研究と実証研究、文献のサーベイや検索方法など、研究の進め方についてより詳しく説明するとともに、より広範な研究事例を紹介する。
第4回	研究テーマの設定①	自身の問題意識にもとづいて適切なテーマを設定するために、ディスカッションを交えながら検討していく（グループ１）。
第5回	研究テーマの設定②	自身の問題意識にもとづいて適切なテーマを設定するために、ディスカッションを交えながら検討していく（グループ２）。
第6回	研究テーマの設定③	自身の問題意識にもとづいて適切なテーマを設定するために、ディスカッションを交えながら検討していく（グループ３）。
第7回	先行研究の調査①	自身の研究テーマに関連する先行研究を広く調査し、それらの知見をもとに、自らの課題を明確にしていく（前半）。
第8回	先行研究の調査②	自身の研究テーマに関連する先行研究を広く調査し、それらの知見をもとに、自らの課題を明確にしていく（後半）。
第9回	研究計画の策定①	具体的な研究テーマを設定し、おおまかな論文構成を組み立て、必要な調査等の計画を立てる（グループ１）。
第10回	研究計画の策定②	具体的な研究テーマを設定し、おおまかな論文構成を組み立て、必要な調査等の計画を立てる（グループ２）。
第11回	研究計画の策定③	具体的な研究テーマを設定し、おおまかな論文構成を組み立て、必要な調査等の計画を立てる（グループ３）。
第12回	中間報告①	第一グループが各自の研究テーマや論文構成、文献表等を発表し、ゼミ内で議論する。
第13回	中間報告②	第二グループが各自の研究テーマや論文構成、文献表等を発表し、ゼミ内で議論する。
第14回	中間報告③	第三グループが各自の研究テーマや論文構成、文献表等を発表し、ゼミ内で議論する。
第15回	調査の実施とデータの集積①	説得力のある論を展開していくために必要な調査を実施し、データを集積していく（前半）。
第16回	調査の実施とデータの集積②	説得力のある論を展開していくために必要な調査を実施し、データを集積していく（後半）。
第17回	仮説の検討①	これまでに得られたデータをもとに、仮説の検討を試みる（グループ１）。
第18回	仮説の検討②	これまでに得られたデータをもとに、仮説の検討を試みる（グループ２）。
第19回	仮説の検討③	これまでに得られたデータをもとに、仮説の検討を試みる（グループ３）。
第20回	論文の組み立て①	論の展開にそって説得力のある明快な章立てを行う（グループ１）。
第21回	論文の組み立て②	論の展開にそって説得力のある明快な章立てを行う（グループ２）。
第22回	論文の組み立て③	論の展開にそって説得力のある明快な章立てを行う（グループ３）。
第23回	論文の執筆①	論文の目的、先行研究、仮説、調査のプロセスとその結果、自分自身の考察、という流れにそって、適宜個別指導を受けながら執筆を行う（グループ１）。
第24回	論文の執筆②	論文の目的、先行研究、仮説、調査のプロセスとその結果、自分自身の考察、という流れにそって、適宜個別指導を受けながら執筆を行う（グループ２）。
第25回	論文の執筆③	論文の目的、先行研究、仮説、調査のプロセスとその結果、自分自身の考察、という流れにそって、適宜個別指導を受けながら執筆を行う（グループ３）。
第26回	リファインの作業①	論文の内容を発表し、寄せられた意見を踏まえて、論文のリファインを行う（前半）。

第27回　リファインの作業②　論文の内容を発表し、寄せられた意見を踏まえて、論文のリファインを行う（後半）。
第28回　論文の完成に向けて　論文の提出に向けて書式等を整え、最終的な仕上げを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
論文執筆に向けて、文献の収集やフィールド調査など、各自の研究テーマにそってさまざまな課外活動が必要となります。また、ときどきの経過発表に向けて、スライドやレジュメの作成等の準備作業を行うことも求められます。こうした準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
適宜文献資料の配布や関連ウェブサイトの提示等を行います。
また、一年次に履修した基礎ゼミのテキストやノートを適宜活用することが望ましいです。

【参考書】
授業中に適宜提示します。各自のテーマにそった文献等の紹介も適宜個別に行います。

【成績評価の方法と基準】
研究への取り組み姿勢：50％
論文の完成度：50％

【学生の意見等からの気づき】
アンケート対象外科目のため非実施

【Outline (in English)】
Students will approach "career design" from various perspectives such as culture, art, hobbies, purpose in life, and local communities, and write a thesis. As the culmination of four years of university study, students write a thesis in an academic format. Students will learn to clarify their own areas of interest and awareness of issues, formulate a hypothesis, gather the necessary data and materials to prove it, and summarize it in a persuasive text.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Commitment to research (50%) and completeness of the thesis (50%)

SOC400MA（社会学 / Sociology 400）

卒業論文（ライフ）

熊谷　智博

単位数：4単位　｜　開講セメスター：年間授業/Yearly
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses　｜　配当年次：4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
卒業論文執筆のための研究指導を行う。学術的に価値のある論文執筆を目指した指導を行う。論文執筆のベースとなる先行研究のレビュー、論文のフレームワーク及び仮説の構成、調査の企画を中心に習得する。

【到達目標】
卒業論文執筆に必要な一連の知識と技法―問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の習得と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開する方法など―を習得する。
そのうち春学期は問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の習得と調査の実施を中心に習得する。秋学期は調査の実施、分析、まとめを中心に指導を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【主な授業方法】
T 卒業論文/卒業研究/卒業制作 /Thesis

【授業の進め方と方法】
演習の進め方は個別指導を中心に展開する。担当教員と学生の意向も踏まえて開講形態や内容を決定する。卒業論文の執筆過程で、中間発表会において報告が求められる。本シラバスでは、一般的な指導の進め方を書いており、テーマによっては変更がありうる。授業計画は、研究テーマや方法論によって異なるが、以下に基本的な内容を記す。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に生かす予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	卒業論文の基本的な構成や意義、執筆に向けた年間計画に関するオリエンテーションを行う。
第2回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討①	自らの問題意識を明らかにし、社会的な重要性を踏まえて研究テーマを設定するための指導を行う。
第3回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討②	自らの問題意識を明らかにし、社会的な重要性を踏まえて研究テーマを設定するための指導を行う。
第4回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討③	自らの問題意識を明らかにし、社会的な重要性を踏まえて研究テーマを設定するための指導を行う。
第5回	先行研究の検討①	研究テーマに関連する先行研究を体系的に収集し、読み込み、検討することを通じて、研究の論点をより明らかにしていくための指導を行う。
第6回	先行研究の検討②	研究テーマに関連する先行研究を体系的に収集し、読み込み、検討することを通じて、研究の論点をより明らかにしていくための指導を行う。
第7回	先行研究の検討③	研究テーマに関連する先行研究を体系的に収集し、読み込み、検討することを通じて、研究の論点をより明らかにしていくための指導を行う。
第8回	研究方法の決定、調査内容等の検討①	適切な方法論に基づき、実現可能な研究方法を検討し、決定するための指導を行う。 調査対象、調査時期、調査内容について指導を行う。
第9回	研究方法の決定、調査内容等の検討②	適切な方法論に基づき、実現可能な研究方法を検討し、決定するための指導を行う。 調査対象、調査時期、調査内容について指導を行う。
第10回	研究方法の決定、調査内容等の検討③	適切な方法論に基づき、実現可能な研究方法を検討し、決定するための指導を行う。 調査対象、調査時期、調査内容について指導を行う。
第11回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導①	調査の実施について適宜指導を行う。
第12回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導②	調査の実施について適宜指導を行う。
第13回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導③	調査の実施について適宜指導を行う。
第14回	研究の中間とりまとめ	中間発表会に向けた準備を、研究の枠組み、仮説構成、調査の方法という観点から行う。
第15回	オリエンテーション	中間発表会を踏まえて執筆に向けた後半の計画に関するオリエンテーションを行う。
第16回	調査の実施状況の確認①	研究テーマに即した調査が適切に行われているか、進捗状況を確認し、適宜指導を行う。
第17回	調査の実施状況の確認②	研究テーマに即した調査が適切に行われているか、進捗状況を確認し、適宜指導を行う。
第18回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導①	調査結果のとりまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。
第19回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導②	調査結果のとりまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。
第20回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導③	調査結果のとりまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。
第21回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導④	調査結果のとりまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。
第22回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導⑤	調査結果のとりまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。
第23回	論文執筆の助言、指導①	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。

第24回	論文執筆の助言、指導②	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。
第25回	論文執筆の助言、指導③	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。
第26回	論文の最終チェック①	卒業論文の完成度を高めるための指導を、論文全体の構成の観点から行う。
第27回	論文の最終チェック②	卒業論文の完成度を高めるための指導を、論文全体の構成の観点から行う。
第28回	論文の最終チェック③	卒業論文の完成度を高めるための指導を、論文全体の構成の観点から行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・関連文献の読み込み、データの収集と分析、執筆など、卒業論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。

演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【参考書】

参考書は、必要に応じて、担当の教員が指定する。

【成績評価の方法と基準】

論文の内容を総合的に評価する（100%）。

卒業論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、授業内での研究に関する議論への参加が基本要件である。

卒業論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。

【学生の意見等からの気づき】

学生の問題意識に合致した指導体制の推進およびそのための中間発表会での学生、教員からのコメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞

社会心理学、グループダイナミックス、紛争解決。

＜研究テーマ＞

集団間紛争の心理過程について研究しています。最近は集団間の協力や援助を促進する要因についても研究を進めています。

＜主要研究業績＞

熊谷智博（2019）. 第3章　集団間の紛争はどのように悪化するのか - キャンプ実験を例に　日本心理学会監修　大渕憲一編　紛争と和解を考える：集団の心理と行動　誠信書房　pp.46-72.

Tomohiro Kumagai (2017). Social Psychological Factors of Peace-Building. Conflicts and Peacebuilding: Toward the Sustainable Society (pp.101-108). GRM program, Doshisha University.

熊谷智博 (2016). 第15章：集団間紛争とその解決および和解　大渕憲一監修　紛争・暴力・公正の心理学　北大路書房　pp.192-203.

熊谷智博（2014）. 第9章：集団の中の個人、第10章：集団間関係. 脇本竜太郎編著、熊谷智博、竹橋洋毅、下田俊介共著　基礎からまなぶ社会心理学　サイエンス社　pp.153-192.

熊谷智博（2013）. 集団間不公正に対する報復としての非当事者攻撃の検討　社会心理学研究, 29, 2. 86-93.

熊谷智博・大渕憲一　監訳（2012）紛争と平和構築の社会心理学: 集団間の葛藤とその解決　北大路書房 Intergroup Conflicts and Their Resolution: A Social Psychological Perspective. D. Bar-Tal (Ed.) New York, NY: Psychology Press.

【Outline (in English)】

In this course, I instruct how to use preceding studies, to make hypothesis, and to plan survey for a graduation thesis.

Goals of this course are that students understand scientific way of study, and become to write a graduation thesis.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on your graduation thesis.

SOC400MA（社会学 / Sociology 400）

卒業論文（ライフ）

齋藤　嘉孝

単位数：4単位　｜　開講セメスター：年間授業/Yearly
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses　｜　配当年次：4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
卒業論文の完成を最終目標とする。そのために必要な学問的知識や技術、視点などを学ぶ。各自がそれぞれのテーマで取り組むことになるが、共通するテーマとして「家族」に関するものを選ぶこととする。

【到達目標】
卒業論文の執筆を目標とする。論文を書き上げるのであって、レポートやエッセイではないことに注意したい。学術的な論理やエビデンス、文章法などが必要となるが、それらの習得も目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【主な授業方法】
T 卒業論文/卒業研究/卒業制作 /Thesis

【授業の進め方と方法】
卒業論文を作成するため、各段階ごとに指導する。先行研究の読み込み方や引用のしかた、データの収集や分析方法、および社会や政策への提言の書き方等について、具体的に取りあげる。履修者は各自で学習していき、その進展に応じて指導を行う。課題に対するフィードバックは、個別添削やコメント等を通じて毎回おこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	学術論文の概要や意義等について
第2回	研究方法１	理論研究、量的／質的実証研究、文献サーベイ等の研究方法について学ぶ
第3回	研究方法２	理論研究、量的／質的実証研究、文献サーベイ等の研究方法についてより深く学ぶ
第4回	研究方法３	理論研究、量的／質的実証研究、文献サーベイ等の研究方法についての学びを洗練させる
第5回	テーマ設定１	問題意識やテーマを明確化し、具体的にどのような研究スタイルが適しているかを考え始める
第6回	テーマ設定２	問題意識やテーマを明確化し、具体的にどのような研究スタイルが適しているかを考える
第7回	テーマ設定３	問題意識やテーマを明確化し、具体的にどのような研究スタイルが適しているかをより深く吟味する
第8回	先行研究の探索１	テーマに関連する先行研究を調査し始め、それらの知見と残された課題を識別する
第9回	先行研究の探索２	テーマに関連する先行研究を広く調査し、それらの知見と残された課題を識別する
第10回	先行研究の探索３	テーマに関連する先行研究をより広く調査し、それらの知見と残された課題の識別を深める
第11回	先行研究の探索４	テーマに関連する先行研究をより広く調査し、それらの知見と残された課題を整理する
第12回	先行研究の探索５	テーマに関連する先行研究をさらにより広く調査し、それらの知見と残された課題の整理を洗練させる
第13回	研究・調査計画の策定１	具体的な研究・調査のテーマを設定し、データ収集方法および分析方法等を計画する
第14回	研究・調査計画の策定２	具体的な研究・調査のテーマを設定し、データ収集方法および分析方法等の計画を洗練させる
15	データ収集１	調査データの収集・入力・整理等の準備をおこなう
16	データ収集２	調査データの収集・入力・整理等を始める
17	データ収集３	調査データの収集・入力・整理等を実際におこなう
18	データ収集４	調査データの収集・入力・整理等の作業をまとめる
19	データ分析１	検証仮説を再検討し、データを分析し始める
20	データ分析２	検証仮説を再検討し、データを分析する
21	データ分析３	検証仮説を再検討し、データ分析を深める
22	データ分析４	検証仮説を再検討し、データを分析結果を解釈する
23	論文執筆１	論文における形式・書式・文章作成等を学び、実際に執筆する
24	論文執筆２	論文における形式・書式・文章作成等を学び、執筆内容を深める
25	報告およびディスカッション１	論文を口頭発表し、各側面に関する意見やディスカッションを参考にして論文を作成する
26	報告およびディスカッション２	論文を口頭発表し、各側面に関する意見やディスカッションを参考にして論文を洗練させる
27	論文完成１	論文提出に向け、最終的な仕上げ作業や推敲等をおこなう
28	論文完成２	論文提出に向け、最終的な仕上げ作業や推敲等を洗練させる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
２年次からのゼミ活動やこれまでの各授業等において、熱心に取り組むことが重要である。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
開講時に指示する。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点50％、課題50％

【学生の意見等からの気づき】
アンケート対象外科目のため非実施

【Outline (in English)】
The aim of this course is to complete an academic paper. Learn necessary academic knowledge, skills and perspectives along with each student's theme. The individual theme must be chosen among the topics concerning families. Learning objective of this course is to write academic papers. Learning activities outside of classroom are homework and preparation (about 2 hours per class). Grading criteria are composed of class participation 50% and homework 50%.

SOC400MA（社会学 / Sociology 400）

卒業論文（ライフ）

佐藤　恵

単位数：4単位　｜　開講セメスター：年間授業/Yearly
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses　｜　配当年次：4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　社会学は、「常識を疑う」というスタンスのもとで、社会・文化についての研究を行う学問です。ただし、「常識を疑う」ということは、何も、今まで誰も思いつかなかったような大発見をするということではありません。自分のものの見方・考え方の幅を広げ、自分にとっての新たな気づき・学びを得ていく実践を指します。そうした実践は、どのようなキャリアを築いていくにしても、必要不可欠となるものです。
　この授業では、以上のような社会学の基本的な視点・発想に立脚した上で、参加者が自分なりの関心あるテーマについて社会学的に研究し、卒業論文を作成できるようになることをめざします。社会学的な視点・発想に基づいていれば、各自の論文のテーマは自由です。

【到達目標】
（1）社会学の基本的視点・発想を説明でき、具体的事例に応用することができる。
（2）コミュニティにおけるさまざまな人間関係や社会現象について理解を深め、説明することができる。
（3）卒業論文を執筆し、質・量ともに十分な水準の論文として完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【主な授業方法】
T 卒業論文/卒業研究/卒業制作 /Thesis

【授業の進め方と方法】
　演習形式の授業です。
　具体的な内容としては、①ゼミ論（卒論のベース）における発見のシェア、②卒業論文作成に向けた中間発表・全体ディスカッション、③卒業論文執筆です。
　進行方法等に関しては、参加者と相談の上、状況に応じて決めていきますが、毎週の卒論ゼミの時間以外に、論文構想発表会を年に数回開催して、卒論の完成をめざしていく予定です。
　なお、課題等に対するフィードバック方法としては、授業時間内に講評・解説の時間を設けることとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	春学期オリエンテーション	卒業論文の基本的な構成や意義、執筆に向けた年間計画に関するオリエンテーション
第2回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討	自らの問題意識を明らかにし、社会的な重要性を踏まえて研究テーマを設定
第3回	先行研究の検討（1）	研究テーマに関連する先行研究を体系的に収集し、読み込み、検討
第4回	先行研究の検討（2）	研究テーマに関連する先行研究の検討結果を発表
第5回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導	適切な方法論に基づき、実現可能な研究方法を検討:質的調査（インタビュー法、観察法、ライフストーリー法）や文献研究
第6回	研究方法の決定、調査内容等の検討	調査対象、調査時期、調査内容について発表と指導
第7回	研究の中間とりまとめ(1)	中間発表に向けた準備：研究における問いという観点から
第8回	研究の中間とりまとめ（2）	中間発表に向けた準備：仮説構成という観点から
第9回	研究の中間のとりまとめ（3）	中間発表に向けた準備：調査の方法という観点から
第10回	調査研究データの分析（1）	収集したデータの整理
第11回	調査研究データの分析（2）	収集したデータの分析
第12回	論文の構成・考察に関する検討	論理整合性、独自性の検討
第13回	論文の結論に関する検討	問いに対応したかたちでの結論の提示
第14回	春学期総括	春学期授業内容を総合的にまとめ、振り返る
15	秋学期オリエンテーション	論文執筆・完成に向けたオリエンテーション
16	中間発表会（1）	問題意識の明確化を中心に
17	中間発表会（2）	データの読解を中心に
18	中間発表会（3）	論文のストーリーラインを中心に
19	中間発表会（4）	結論を中心に
20	調査の実施状況の確認（1）	研究テーマに即した調査が適切に行われているか進捗状況の確認（データ収集の側面）
21	調査の実施状況の確認（2）	研究テーマに即した調査が適切に行われているか進捗状況の確認（データ分析の側面）
22	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する発表とディスカッション（1）	調査結果の取りまとめ方を改めて検討
23	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する発表とディスカッション（2）	研究方法・研究テーマに即した分析と解釈になっているか検討
24	論文のブラッシュアップ（1）	論文の構成に留意して
25	論文のブラッシュアップ（2）	先行研究との差別化、オリジナリティのアピールに留意して
26	論文のブラッシュアップ（3）	データ読解の掘り下げ方に留意して
27	論文の最終チェック	論文の構成の確認：各章のつながり、ストーリーラインの観点から
28	年間総括	1年間の授業内容を総合的にまとめ、振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　各自の研究を進める上で必要なデータ・資料を収集しつつ、時間をかけて構想を練り、中間発表および論文執筆に備えてください。
　本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
　特に指定しません。必要に応じて資料を配付します。

【参考書】
　授業中に随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】
　論文内容（７０%）、平常点（３０%）。
　論文内容については、社会学の基本的な視点・発想の理解度をふまえた上で、卒業論文の達成度の状況を基準とします。
　平常点については、ゼミ活動への参加・貢献度、受講態度の状況を基準とします。
　欠席時間数が授業時間数の３分の１を超えた場合、もしくは、受講態度があまりにも悪い場合、不合格となります。

【学生の意見等からの気づき】
　アンケート対象外科目のため非実施

【Outline (in English)】
（Course outline）
Based on their respective seminar essays, the participants of the graduation thesis seminar sociologically analyze their own choice of themes and prepare graduation theses through several interim reports and discussions taking place during the course.
（Learning Objectives）
The goals of this course are to A, B, and C.
－ A. Explaining the basic viewpoints and ideas on sociology and applying them to the particular cases.
－ B. Explaining the problems by the deep understandings of various human relationships and social phenomena in the community.
－ C. Completing graduation theses with the certain standards in quantity and quality.
（Learning activities outside of classroom）
You will be expected to prepare the presentation and writing theses by deepen consideration with gleaning literature and data.
Your study time will be more than two hours each for before and after the classes.
（Grading Criteria /Policy）
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Thesis : 70%, in class contribution: 30%

SOC400MA（社会学 / Sociology 400）

卒業論文（ライフ）

田中　研之輔

単位数：4単位　｜　開講セメスター：年間授業/Yearly
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses　｜　配当年次：4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　本講座は、①ライフキャリアに関する理論整理、②方法論の選定と検討、③質的調査の実施と分析、④執筆を通じて、個人研究論文を仕上げていくことを目的としています。

【到達目標】
①ライフキャリアに関する理論レビューができるようになります。
②質的調査に基づいたアカデミックライティングの基礎がみにつきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【主な授業方法】
T 卒業論文/卒業研究/卒業制作 /Thesis

【授業の進め方と方法】
本ゼミの主要テーマは、「人生100年時代のライフキャリアを理論的、経験的に分析する」です。現代都市東京は、疑いもなく、文化・経済・政治の集積都市として世界的に注目されています。しかし、東京に身を置くわれわれですら、東京の全貌を捉えることは難しいことです。また逆に、東京で生活しているからこそ、東京がみえにくいのだともいえるかもしれません。本ゼミでは、ライフキャリア論の理論的視座、フィールドワークの認識論、インタビュー方法論を学びながら、それぞれの身体資本を最大限に活かしうる「現場」で参与観察（可能ならば、観察的参与）を実施していくための実践的サポートをしていきます。 一筋縄ではいかない「現場」の選択、コミットメント、のプロセスそのものをゼミの中で議論し共有していきましょう。その意味で、本ゼミは、ゼミ生の個人プロジェクトではなく、ゼミ生の集合的な協働プロジェクトとしてフィールドワークを位置づけています。また、大学から社会への移行とその後のライフキャリア戦略を実践的に学ぶ機会でもあります。
フィードバックは、卒論への個別フィードバックを全員に対して、定期的に行っていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	テーマ設定「ライフキャリア、労働・情報・現代社会論・都市社会論」から個人テーマを選定、検討	個人研究論文の関心テーマの絞り込みを行う
第2回	卒論テーマの候補選択	個人研究テーマの候補を３つに絞る
第3回	卒論テーマの選定	３つの候補から一つに絞る
第4回	卒論テーマに関する関連文献の検討	主要先行研究の検討を行う
第5回	卒論テーマに関する理論的枠組みの構築①	卒論テーマに関する理論的視座を構築する
第6回	卒論テーマに関する理論的枠組みの構築②	卒論テーマに関する理論的視座を構築し、精査する
第7回	先行研究に関する検討会①	先行研究の整理に関して、プレゼンを行い検討する
第8回	先行研究に関する検討会②	先行研究の整理に関して、プレゼンを行い、精査する
第9回	研究対象の選定	研究対象を具体的に選定する
第10回	研究方法の整理	研究方法を整理する
第11回	インタビュー法の検討	インタビュー法の検討を行う
第12回	プレインタビューの実施	模擬インタビューを実施する
第13回	フィールドワーク法の検討	フィールドワーク法の検討を行う
第14回	フィールドワーク法のプレワーク	フィールドワーク法を模擬的に実施する
15	調査の設計	調査スケジュールを具体的に検討する
16	調査の開始	研究対象への調査を行う
17	調査の中間報告	調査状況の報告と確認を行う
18	理論整理・方法論の記述	理論整理と方法論に関する記述を行う
19	理論・方法論の記述内容の検討	理論・方法論の記述内容の検討を行う
20	調査データの収集と分析	調査データを収集し、分析する
21	調査データの体系化と考察	調査データの体系化を行い、考察を加える
22	調査データの分析と記述	調査データの分析と記述をするめる
23	調査データの考察と結論	調査データの考察と結論を導き出す
24	調査データの考察と結論の記述	調査データの考察と結論を記述する
25	卒論全体の記述を検討する	卒論全体の記述の精度を高める
26	卒論研究発表会①	研究報告15分　質疑応答15分の研究発表会を実施する （前半組）
27	卒論研究発表会②	研究報告15分　質疑応答15分の研究発表会を実施する（後半組）
28	卒業論文集の制作	完成させた卒業論文集をまとめ、デジタル論集を作成する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
英文課題&理論整理論文を毎週、読み続け、議論にそなえる。
計画的に質的調査を実施し、論文を執筆していきます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
毎週、電子版英文資料を共有サイトにアップします。

【参考書】
必要に応じて参考資料を配付します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（25％）、各段階での課題（25％）、卒業論文（50％）による総合評価

【学生の意見等からの気づき】
補足論文の検討と個人研究報告会をさらに充実化させる。

【Outline (in English)】
This course introduces research methods and academic writing as they require to the undergraduate degree of career studies. This practical academic session provides a macro-micro perspective of the methods associated with conducting scholarly research in all follow-on core, qualitative courses, and the academic thesis.
【Work to be done outside of class】
Each student will conduct survey training outside of class to prepare for the presentation.
The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.
【Grading criteria】
Submission assignment (50%), normal score (50%).
The submitted assignments will be based on the achievement level of the assignments, based on the basic viewpoint of career studies research and the degree of understanding of ideas.

The normal score is based on the writing research paper and the degree of participation / contribution to the class and the attitude of attending the class.

SOC400MA（社会学 / Sociology 400）

卒業論文（ライフ）

福井　令恵

単位数：4単位　｜　開講セメスター：年間授業/Yearly
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses　｜　配当年次：4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学生活の学びの集大成として、自らの問題意識や興味・関心にもとづいた卒業論文を執筆し、完成させる。
問いを立て、先行研究のサーベイを行い、調査を実施し、分析・考察をしてアカデミックな論文としてふさわしい卒論を完成させます。

【到達目標】
自分の興味・関心に基づき、テーマを自ら設定して、計画を立て、調査研究を進めることができる。また、調査研究から得られた結果の分析・解釈を行い、説得力のある論理的な文章を書けるようになる。論文作成の留意事項に従って卒業論文をまとめることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【主な授業方法】
T 卒業論文/卒業研究/卒業制作 /Thesis

【授業の進め方と方法】
春学期は、演習時に指導を行う予定である。授業計画に従い、各自の研究テーマを設定し、先行研究を踏まえて研究計画を立て、調査研究を進める。秋学期は必要に応じて個別指導を行う。進捗状況をもとに各自が研究計画の見直しを行い、調査研究を遂行して、卒業論文を完成させる。
課題等のフィードバックは、春学期は授業のなかで講評や解説を行う時間を設ける。秋学期は個別にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	卒業研究の進め方について、説明する。
第2回	テーマの設定（1）	調査研究の構想（1）。
第3回	テーマの設定（2）	調査研究の構想（2）。
第4回	先行研究の検討（1）	先行研究の検討をもとに自らの課題を明確化する（1）。
第5回	先行研究の検討（2）	先行研究の検討をもとに自らの課題を明確化する（2）。
第6回	リサーチクエスチョンと研究計画（1）	リサーチクエスチョンと研究計画の策定（1）。
第7回	リサーチクエスチョンと研究計画（2）	リサーチクエスチョンと研究計画の策定（2）。
第8回	リサーチクエスチョンと研究計画（3）	研究テーマ、リサーチクエスチョンの発表をし、今後の計画を提出する。
第9回	データの収集と整理（1）	データの収集（1）。
第10回	データの収集と整理（2）	データの収集（2）。
第11回	データの収集と整理（3）	これまでに得られたデータの整理をする。
第12回	仮説の検討	データのもとに、仮設の検討を試みる。
第13回	中間発表（1）	中間報告（章立て、これまでの研究活動内容と今後の予定）（1）。
第14回	中間発表（2）	中間報告（章立て、これまでの研究活動内容と今後の予定）（2）。
15	進捗状況の報告と見直し	研究活動の報告。
16	データの蓄積・整理・分析（1）	説得力のある議論の展開に必要なデータの収集・整理・分析を行う（1）。
17	データの蓄積・整理・分析（2）	説得力のある議論の展開に必要なデータの収集・整理・分析を行う（2）。
18	論文の組み立て	明確な章立ての確認。
19	卒業論文の執筆（1）	適宜指導を受けながら、論文を執筆する（1）。
20	卒業論文の執筆（2）	適宜指導を受けながら、論文を執筆する（2）。
21	卒業論文の執筆（3）	適宜指導を受けながら、論文を執筆する（3）。
22	卒業論文の執筆（4）	適宜指導を受けながら、論文を執筆する（4）。
23	卒業論文の執筆（5）	適宜指導を受けながら、論文を執筆する（5）。
24	卒業論文の執筆（6）	適宜指導を受けながら、論文を執筆する（6）。
25	卒業論文の見直し（1）	論文全体を書きあげ、見直しをする（1）。
26	卒業論文の見直し（2）	論文全体を書きあげ、見直しをする（2）。
27	卒業論文の完成	卒業論文の完成。
28	卒論発表	ゼミ生（2・3年生）などへの卒論発表。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献を読み、先行研究の整理と、問いの設定をする。調査研究を主体的に進める。また、報告やプレゼンの準備をする。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業において適宜紹介する。

【参考書】
授業において適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
論文の内容を総合的に評価する（100%）。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
ノートパソコンを持参すること。

【Outline (in English)】
The aim of this seminar is to write a high-quality thesis.
Students learn the necessary processes to complete their research paper, such as how to collect data and develop the ability to write coherently and present ideas rationally. In this course, students will report on the progress of their research and discuss it with other students. Individual guidance will be provided several times as necessary.
Students are expected to spend about 4 hours per week for required and optional readings and research activities.
Grading criteria: Thesis 100%.

SOC400MA（社会学 / Sociology 400）

卒業論文（ライフ）

安田　節之

単位数：4単位　｜　開講セメスター：年間授業/Yearly
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses　｜　配当年次：4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
3年次に執筆・提出したライフキャリア研究またはプログラム評価研究に関するゼミ論をもとに卒業論文を完成させることを目的とする。

【到達目標】
・ライフキャリアまたはプログラム評価に関する卒業研究を論文としてまとめあげる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【主な授業方法】
T 卒業論文/卒業研究/卒業制作 /Thesis

【授業の進め方と方法】
ゼミ論執筆の段階では，先行研究のレビューやデータ収集・分析などに個人差があると予想されるため，ゼミ全体での報告（中間発表）やディスカッションでの学びを各自の卒論にする。またゼミおよびサブゼミでの個人の卒論指導を通して，研究報告としての論文の質を高める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	卒業研究および卒業論文の意義や卒論執筆・提出の流れについて確認する。
第2回	問題と目的および先行研究の確認①	研究テーマに関する問題設定や研究目的を改めて自身のリサーチクエスチョンに反映させる。
第3回	問題と目的および先行研究の確認②	研究テーマの先行研究に関する調査を開始する。
第4回	問題と目的および先行研究の確認③	先行研究に関して、適切な論文・書籍のレビューが行われているかを確認する。
第5回	研究方法①	量的調査について，質問紙データの設定に関する背景（理論・実践）を確認する。
第6回	研究方法②	量的調査について，質問紙データの設定に関する理論背景を確認する。
第7回	研究方法③	量的調査について，質問紙データの設定に関する実践を確認する。
第8回	研究方法④	質的調査について，データ収集の方法（インタビューガイド）などの確認を行う。
第9回	研究方法⑤	質的調査については，データ収集の方法（インタビューガイド）などの再確認を行う。
第10回	研究方法⑥	量的調査と質的調査の内容や方法の整合性について確認を行う。
第11回	研究結果①	集中的なデータ分析を行い，結果の算出方法に向けた論点の明確化を行う。
第12回	研究結果②	集中的なデータ分析を行い，結果の解釈の明確化を行う。
第13回	研究結果③	集中的なデータ分析を行い，結果の解釈の明確化の再確認を行う。
第14回	研究結果④	集中的なデータ分析を行い，考察執筆に向けた論点の明確化を行う。
15	研究結果⑤	集中的なデータ分析を行い，考察執筆に向けた論点の明確化の再確認を行う。
16	研究結果⑥	集中的なデータ分析を行い，結果の解釈の方法や考察執筆の整合性について確認を行う。
17	追加データ収集の検討①	前段階の研究結果の状況を踏まえ，各自のリサーチクエスチョンに対して必要十分なデータが収集できたかを再確認する。必要であれば，追加データの収集計画を立てる。
18	追加データ収集の検討②	前段階の研究結果の状況を踏まえ，各自のリサーチクエスチョンに対して必要十分なデータが収集できたかを再確認する。
19	追加データ収集の検討③	前段階の研究結果の状況を踏まえ，必要であれば，追加データの収集計画を立てる。
20	中間報告①	ゼミ全体の卒論執筆状況の確認のための中間報告（前半）を行う。
21	中間報告②	ゼミ全体の卒論執筆状況の確認のための中間報告（後半）を行う。
22	考察（ディスカッション）①	中間報告でのフィードバックを参考に執筆した考察の執筆を行う。
23	考察（ディスカッション）②	中間報告でのフィードバックを参考に執筆した考察の執筆を継続する。
24	考察（ディスカッション）③	中間報告でのフィードバックを参考に執筆した考察を完成させる。
25	論文完成①	問題・目的，先行研究レビュー，研究方法と結果の分析を行う。
26	論文完成②	考察の全体を確認し，卒論完成・提出にむけた作業を行う。
27	成果報告①	卒論の最終報告および卒論執筆を通しての成果の報告を行う（前半）。
28	成果報告②	卒論の最終報告および卒論執筆を通しての成果の報告を行う（後半）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
卒業論文の執筆については各自のペースで進めてもらう形で結構ですが，個人の卒論指導やゼミ内でのディスカッション（中間報告）を通しての学びやアドバイスを十分に反映させた卒論にしてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて紹介する。

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
卒業論文の完成度（80%），授業への積極的な貢献度（20%）を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
グループでのディスカッションの時間と個人の卒業論文の指導のバランスをとる。

【Outline (in English)】
This seminar focuses attention on completing an individual thesis that is based on issues related to life-designing problems and/or program evaluation.

Goal
・Complete undergraduate thesis that are related to community psychology and/or program evaluation
Learning activities outside of classroom:
Students are expected not only to actively participate in class but also engage in academic activities outside of the classroom (two hours for reading and two hours for outreach studies).
Grading Criteria /Policy:
80 points (%) for thesis paper
50 points (%) for class presentations

LANe100MA（英語 / English language education 100）

国際コミュニケーション語学（英語Ⅰ）

ＪＵＳＴＩＮ　ＦＡＬＫＵＳ

単位数：1単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：月4/Mon.4　｜　配当年次：1〜4年
備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞
授業コード：C5293
科目名：国際コミュニケーション語学（英語 I）
＜2024年度以前入学者＞
授業コード：C5293
科目名：国際コミュニケーション語学（英語 I）
※入学年度によらず同一授業コード・科目名称

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The objective of this class is to greatly develop students' English communication skills, thereby increasing their self-confidence as foreign language speakers.

【到達目標】
The goal of the Spring course is to get students to communicate in smooth, natural English

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP7」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
（学期の途中で変更になる場合には、別途提示します。 /If the Method(s) is changed, we will announce the details of any changes.
Students will be challenged with a variety of English-listening activities, English video activities, and English 'conversation' activities. Pair English-speaking activities will often be used, for practice. Feedback about student answers will be given by the teacher, during classes. If students would like additional feedback: please ASK the teacher, during class time.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Orientation & introducing yourself	Introduction to the course & the basics of self-introductions
第2回	Talking about 'me', and asking about 'you'	Talking about hobbies, interests, family and so on
第3回	Things I did, things I've done	Talking about important past events and experiences
第4回	The world around me	Using 'There is/are' and 'X is Y' to describe your world
第5回	Short Speaking Task 1: Speech	Very short speech, reviewing work covered so far
第6回	My 'certain' future	Talking about schedules and fixed plans
第7回	My 'uncertain' future	Talking about possibilities
第8回	Short Speaking Task 2: Pair Role Play	Short role-play with a partner
第9回	Intonation: Focus on rhythm	Learning to speak with a natural English rhythm
第10回	Intonation: Focus on 'information'	Learning how to divide your speech into information units
第11回	Discussion Skills 1	Learning how to engage in enthusiastic English discussions
第12回	Discussion Skills 2	Preparing for the Discussion task
第13回	Short Speaking Task 3: Small-Group Discussion	Short Discussion Task, in groups of 3 or 4 students
第14回	Course Overview	Going over what we have learned, and discussing the summer holidays

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて１時間を標準とします。Students are expected to review all material covered in class, and to prepare adequately for speaking tests. University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
The teacher will provide his own materials.

【参考書】
There are no particular references for this class.

【成績評価の方法と基準】
Participation: (including the timely completion of all homework assignments) 30%
Speaking Tests: 70%
In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】
Not applicable

【学生が準備すべき機器他】
The intention at the moment is to conduct the class face-to-face. If, however, there is a need to conduct one or more classes online, students will require access to ZOOM

【Outline (in English)】
Course Outline: In this course, students will gain confidence in English communication through tasks focussing on meaningful and relevant topics
Learning Objectives: The objective of this class is to greatly develop students' English communication skills, thereby increasing their self-confidence as foreign language speakers.
Learning Activities Outside Of Classroom: Students should take time to review all material covered in class, work on homework tasks, and prepare adequately for the short speaking tasks.
Grading Criteria: Students will be assessed via several speaking tasks; active and enthusiastic participation in class activities will also be taken into account.

LANe100MA（英語 / English language education 100）

国際コミュニケーション語学（英語Ⅱ）

ＪＵＳＴＩＮ　ＦＡＬＫＵＳ

単位数：1単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：月4/Mon.4　｜　配当年次：1〜4年
備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞
授業コード：C5294
科目名：国際コミュニケーション語学（英語II）
＜2024年度以前入学者＞
授業コード：C5294
科目名：国際コミュニケーション語学（英語II）
※入学年度によらず同一授業コード・科目名称

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The objective of this class is to further develop students' English communication skills, helping them to identify without reservation as 'English speakers'.

【到達目標】
The goal of the Autumn course is to encourage and facilitate students' smooth transition to being confident and competent English speakers.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP7」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
（学期の途中で変更になる場合には、別途提示します。 /If the Method(s) is changed, we will announce the details of any changes.
Students will be challenged with a variety of English-listening activities, English video activities, and English 'conversation' activities. Pair English-speaking activities will often be used, for practice. Feedback about student answers will be given by the teacher, during classes. If students would like additional feedback: please ASK the teacher, during class time.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Orientation & review	Introduction to the course; Overview of what was covered in Semester 1
第2回	My Part-Time Job: Obligations & Duties	Learning to control modal verbs for 'Obligation' – must, have to, should, can't, etc.
第3回	What do you think I should do?	Extending the concept of Obligation to include Advice, Suggestions, Requests, etc.
第4回	Short Speaking Task 1: Speech	Very short speech, reviewing work covered so far
第5回	English for practical situations 1	Dealing with 'communication situations' that commonly arise when travelling in a foreign country
第6回	English for practical situations 2	Dealing with more 'communication situations' that commonly arise when travelling in a foreign country
第7回	English for practical situations 3 – Preparing the role play	In pairs, writing and rehearsing a short script that covers 2-3 'communication situations'
第8回	Short Speaking Task 2: Pair Role Play	Short role-play with a partner
第9回	Intonation: Focus on Tone	Learning to control the Primary Tones of English
第10回	Intonation: Focus on Information Structure	Learning about 'New' and 'Given' information
第11回	The 'culture' of being an English speaker	Speaking with commitment
第12回	The 'culture' of being an English listener	Asking questions to show interest
第13回	Small-Group Discussion Tas	Short Discussion Test, in groups of 3 or 4 students
第14回	Course Overview	Going over what we have learned, and discussing students' future plans

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて１時間を標準とします。Students are expected to review all material covered in class, and to prepare adequately for speaking tests. University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
The teacher will provide his own materials.

【参考書】
There are no particular references for this class.

【成績評価の方法と基準】
Participation: (including the timely completion of all home-work assignments) 30%
Speaking Tests: 70%
In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】
Not applicable

【学生が準備すべき機器他】
Students should always bring pens and paper to class, along with a decent-quality binder containing previously received handouts

【Outline (in English)】
Course Outline: In this course, students will gain confidence in English communication through tasks focussing on meaningful and relevant topics
Learning Objectives: The objective of this class is to greatly develop students' English communication skills, thereby increasing their self-confidence as foreign language speakers.
Learning Activities Outside Of Classroom: Students should take time to review all material covered in class, work on homework tasks, and prepare adequately for the short speaking tasks.
Grading Criteria: Students will be assessed via several speaking tasks; active and enthusiastic participation in class activities will also be taken into account.

LANe100MA（英語 / English language education 100）

国際コミュニケーション語学（英語III）

Ｋｒｅｇｇ　Ｊｏｈｎｓｔｏｎ

単位数：1単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：月3/Mon.3　｜　配当年次：1〜4年
備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞
授業コード：C5295
科目名：国際コミュニケーション語学（英語III）
＜2024年度以前入学者＞
授業コード：C5295
科目名：国際コミュニケーション語学（英語III）
※入学年度によらず同一授業コード・科目名称

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
様々なトピックについて、短いながらも、効果的・説得力のあるプレゼンテーションができるようになることを目指します。スピーチの方法をを基礎から学び、自信をもってプレゼンテーションを行うことができるようにしましょう（詳細は以下の英文の記載を読んでください）。
To learn how to deliver short, effective speeches in English on a variety of topics.

【到達目標】
This course is designed primarily to improve students' presentation skills and thereby to develop their integrative English language proficiency. The goal is to acquire basic presentations skills, including how to organize a presentation, supporting arguments with evidence, effective use of visual aids, and aspects of delivery such as eye contact or gesture.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP7」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
The students will learn about the 3 messages involved in making effective speeches &presentations: The physical message, the visual message, and the story message. The students will view and discuss model speeches and make their own speeches based on the demonstrations. The students will develop confidence in delivering effective speeches and presentations.
Feedback on submitted assignments and quizzes will be given at the beginning of the following class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Course Intro &level check Extemporaneous speeches	Ice breakers Course objectives Vocabulary management
Week 2	The Physical Message Unit 1 Posture &Eye contact	Having good posture Making eye contact Model presentation 1 Prepare to give informative speech Prepare quadrant
Week 3	The Physical Message Unit 2 Gestures Unit 1 quiz Give informative speech	Using gestures in speech Model presentation 2 Prepare layout speech grid Prepare to give layout speech
Week 4	The Physical Message Unit 3 Voice Inflection Unit 2 quiz Give layout speech	Using voice inflection Model presentation 3 Prepare storyboard &visuals
Week 5	The Visual Message Unit 4 Effective Visuals Unit 3 quiz Give demonstration speech	Preparing visuals for speech Model presentation 4 Prepare 2-country comparison charts
Week 6	The Visual Message Unit 5 Explaining Visuals Unit 4 quiz Explain 2-country comparison charts	Using visuals during presentation Model presentation 5 Prepare explanations &visual aids for 2-country speech
Week 7	Unit 5 quiz Give 2-country comparison speech &Peer Review	Review Units 1-5 Compare/ contrast 2 countries
Week 8	The Story Message Organization of a speech	Presentation organization Components of presentation script
Week 9	The Story Message Introduction Unit 6 quiz	Effective presentation introductions Model introductions: Episode 6 Prepare storyboard for 2 product presentation
Week 10	The Story Message The Body: evidence &transitions Unit 7 quiz Explain introduction for product speech	Body of presentation Including evidence Using transitions & sequencers Prepare storyboard and charts for product speech
Week 11	The Story Message The Conclusion Unit 8 quiz Explain body of product speech	Conclusion of presentation Including evidence Using transitions & sequencers Model presentation body Prepare conclusion for product speech
Week 12	Watch full Presentation &Peer Review Unit 9-10 quiz	Review presentation components Prepare for final presentations
Week 13	Final Presentations (Day 1): Product comparison (5-6 minutes)	Final Presentations (Day 1): Product comparison (5-6 minutes)
Week 14	Final Presentations (Day 2) : Product comparison (5-6 minutes) Course review & wrap up	Final Presentations (Day 2): Product comparison (5-6 minutes)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to complete weekly assignments, review for regular quizzes, and prepare presentations to give in class.
本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とします。/ University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Speaking of Speech: Premium Edition, Basic Presentation Skills for Beginners
New edition 2021, Harrington, LeBeau
ISBN 9784863123854

【参考書】
Speaking of Speech: Premium Edition, Basic Presentation Skills for Beginners
New edition 2021, Harrington, LeBeau
ISBN 9784863123854

【成績評価の方法と基準】
Quizes-20%
Homework-15%,
Participation 20%
Presentations 45%
*In principle, no more than three absences per term are allowed

【学生の意見等からの気づき】
Added emphasis on eye contact and use of transitions in presentations.

【学生が準備すべき機器他】
OHC &projector, DVD &CD player in classroom

【その他の重要事項】
Class size is limited to 20 students. Students who wish to take the course need to attend the first class in order to ensure that they can register for the course. In the event that the number of students wishing to take the class exceeds 20, the students will be selected based on a listening and vocabulary test.

【キャリアデザイン学部より】
2014年度～2016年度入学者のみ，市ヶ谷基礎科目4群（必修外国語＜英語＞に充当も可能です。

【Outline (in English)】
Learn how to organize and deliver effective speeches and presentations, Listen to and take notes on other students' speeches and model speeches, Evaluate and offer peer feedback on classmates' speeches,

LANe100MA（英語 / English language education 100）

国際コミュニケーション語学（英語IV）

Ｋｒｅｇｇ　Ｊｏｈｎｓｔｏｎ

単位数：1単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：月3/Mon.3　｜　配当年次：1〜4年
備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞
授業コード：C5296
科目名：国際コミュニケーション語学（英語IV）
＜2024年度以前入学者＞
授業コード：C5296
科目名：国際コミュニケーション語学（英語IV）
※入学年度によらず同一授業コード・科目名称

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
アカデミック・スキルズ（講義などのディスカッションの仕方、聞き方、ノートの取り方、賛否・意見の述べ方など）を学び、伸ばします。また、語彙力の向上にも役立ちます（詳細は以下の英文の記載を読んでください）。
Discussion skills, listening &note-taking, presenting, building vocabulary

【到達目標】
In this course, students will learn key vocabulary related to each topic covered , develop listening and note taking skills by listening to academic lectures. Additionally, students will develop their speaking skills in expressing opinions, agreeing/disagreeing, confirming/clarifying. Students will also work on expressions for leading and participating in discussions as well as presenting on topics researched.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP7」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
The students will discuss the topics for each unit in groups or pairs and then study some of the related vocabulary. Then students will take notes while listening to a short academic lecture on the topics. The students will then review, discuss, and summarize the points mentioned in the lecture. At the conclusion of each unit, there will be a review test, and research assignments on the topics introduced in the lecture for discussion or to present later.
Feedback on speeches, homework assignments, and quizzes will be given at the beginning of the following class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Course Intro &level check Vocabulary assessment	Ice Breakers Introduce course &asses vocabulary level Introduction to note-taking strategies Preview unit 1
Week 2	Unit 1: Happiness Introduction of topic &Preview of key AWL vocabulary	Introduction of topic & Preview of key AWL vocabulary Signal phrases for intro Unit 1 lecture preview
Week 3	Unit 1: Happiness Review lecture contents & discussion	Review lecture notes Comprehension check questions Discussion: state opinion, agree, disagree
Week 4	Unit 1 Quiz Unit 2: Learning styles Preview key AWL vocabulary & lecture structure	Unit 1 quiz Unit 2 introduction of topic & AWL Vocabulary Lecture: Rhetorical questions
Week 5	Unit 2: Learning styles Lecture notes & comprehension	Review lecture notes Check comprehension questions Discussion: asking for opinions
Week 6	Unit 2 Quiz Unit 3 Sleep Preview key AWL vocabulary & lecture structure	Quiz on Unit 2 Unit 3: Introduction of topic &AWL vocabulary Lecture: Signal phrases for details
Week 7	Unit 3: Sleep Lecture notes & comprehension	Review Lecture notes Check comprehension questions Discussion: State opinion & paraphrasing
Week 8	Unit 3 quiz Unit 4: Negotiating Preview key AWL vocabulary & lecture structure	Quiz on Unit 3 Unit 4: Introduction of topic &AWL vocabulary Lecture: Listing of ideas
Week 9	Unit 4: Negotiating Lecture notes & comprehension	Review Lecture notes Check comprehension questions Discussion: Clarifying & Confirming
Week 10	Unit 4 quiz Unit 5: Modern Art Preview key AWL vocabulary & lecture structure	Quiz on Unit 4 Unit 5: Introduction of topic &AWL vocabulary Lecture: Defining terms
Week 11	Unit 5: Modern Art Lecture notes & comprehension	Review Lecture notes Check comprehension questions Discussion: Disagreement
Week 12	Unit 5 quiz Unit 6: Robots Preview key AWL vocabulary & lecture structure	Quiz on Unit 5 Unit 6: Introduction of topic &AWL vocabulary Lecture: Intonation of numbers
Week 13	Unit 6: Robots Lecture notes & comprehension	Review Lecture notes Check comprehension questions Discussion: Offering examples/facts
Week 14	Unit 6 quiz Vocabulary quiz U 1-6	Unit 6 quiz Course Review &wrap-up

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Review vocabulary, Prepare for end of chapter tests, Further research on topic, Plan to present findings to class or small groups. 本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とします。/ University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Contemporary Topics 1 4th edition: 21st Century skills for Academic Success. Solórzano, Frazier, &Rost
ISBN: 9780134400648

【参考書】
Contemporary Topics 1 4th edition: 21st Century skills for Academic Success. Solórzano, Frazier, &Rost

ISBN: 9780134400648

【成績評価の方法と基準】
Quizes-60%
Homework-20%,
Participation 10%
Presentations/ Discussion activities 10%

【学生の意見等からの気づき】
Increased emphasis on discussion in small groups of issues brought up in the lectures and vocabulary development

【学生が準備すべき機器他】
【教室必要備品】OHC &projector, DVD &CD player in classroom

【その他の重要事項】
This class is suitable for students having a TOEIC score between 480 and 660

【キャリアデザイン学部より】
2014年度～2016年度入学者のみ，市ヶ谷基礎科目4群（必修外国語＜英語＞に充当も可能です。

【Outline (in English)】
In this course, students learn and practice note taking strategies by listening to lectures. They also will discuss the topics introduced in each lecture and conduct further research on the topics to present in class.

LANe100MA（英語 / English language education 100）

国際コミュニケーション語学（英語Ⅴ）

Ｋｒｅｇｇ　Ｊｏｈｎｓｔｏｎ

単位数：1単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：木3/Thu.3　｜　配当年次：1〜4年
備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞
授業コード：C5297
科目名：国際コミュニケーション語学（英語Ⅴ）
＜2024年度以前入学者＞
授業コード：C5297
科目名：国際コミュニケーション語学（英語Ⅴ）
※入学年度によらず同一授業コード・科目名称

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
高校までに学んだ英語と文法の知識を定着させながら、自分の伝えたいことをより正確に表現し、相手に伝わる英文を書けるようになることを目指します。伝わる書き方にはコツがあるので、そのコツも学んでいきます（詳細は以下の英文の記載を読んでください）。
The objective of the course is to consolidate the knowledge of English language and grammar learned in secondary school and develop their ability to express themselves more freely in writing

【到達目標】
After taking this course, the students should have learned the following:
1. the concept of the paragraph with reference to its unity, coherence, and structure, including topic sentences, various types of supporting sentences , and concluding sentences
2. the mechanics of typing and formatting a composition
3. how to edit one's own and others' compositions
4. how to effectively complete a timed writing task

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP7」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
Students in this course will work individually on writing preparation activities and actually writing their own descriptive and persuasive paragraphs.
Student will also collaborate with students in pairs or groups to compare ideas and peer review each other's writing in terms of grammar, unity and cohesion of writing.
Students will also be tested on the material taught in the course, including two timed writing exams.
Feedback on submitted assignments and quizzes will be given at the beginning of the next class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Sentences & Paragraphs	Components of sentences and paragraphs
第2回	Topic sentences Descriptive paragraphs	Preparation to write a descriptive paragraph
第3回	Concluding sentences Adjectives Conjunctions	Components of effective concluding sentences Using adjectives and conjunctions in sentences
第4回	Feedback on 1st draft of descriptive paragraph	Review and recommendations on 1st draft Preparation for peer reivew
第5回	Homework test 1 Using "although" Submit 2nd draft of descriptive paragraph	Test on homework exercises How to use "although" in sentence
第6回	Writing test Feedback on 2nd draft	In-class timed writing test
第7回	Test feedback Paragraph development Persuasive paragraphs	Pre-writing for 3rd writing assignment How to develop paragraphs
第8回	Benefits and consequences Outlines	Including benefits, consequences, and results in paragraphs Using outlines to organize ideas
第9回	Cause &effect	Including causes and effects in paragraphs Prepare outline for 3rd writing assignment
第10回	Paraphrasing Supporting sentences outside sources	Practice paraphrasing Including outside sources in writing Citing sources correctly in paragraphs
第11回	3rd writing assignment Using conditional sentences Making comments	Submit 3rd writing assignment Practice using conditionals as support Commenting on ideas in writing
第12回	Homework test 2 Thesis statements Introductions	Structure of thesis statements Structure of introductory paragraphs Peer review of 3rd writing assignment
第13回	Review and feedback writing 3	Review and feedback on 3rd writing assignment Prepare for final writing assignment
第14回	Final In-Class writing test	Timed writing: 2 Persuasive paragraphs

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Homework exercises contained in the course digital handouts
Assigned writing drafts (typed, correctly formatted, and printed out for submission in class)本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とします。/ University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Handouts and reading material will be provided by the lecturer and will be distributed through Google Classroom for this course

【参考書】
http://my.vocabularysize.com/
http://quizlet.com
www.englishgrammar.org
Google Classroom: Registration details will be provided on the Hosei LMS and at the first class meeting

【成績評価の方法と基準】
Participation in class: 10%
Two in-class quizzes on the homework: 20%
Three submitted writing assignments: 50%

Final in-class writing test: 20%
In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】
Increased work on paragraph development and referencing outside sources as evidence.

【学生が準備すべき機器他】
Submitted writing assignments must be typed, formatted correctly, and submitted through the Google Classroom page for the course. All students taking the class will need to join the Google Classroom page, for which details will be provided in the first week of class.

【その他の重要事項】
Class size is limited to 20 students. Students who wish to take the course need to attend the first class in order to ensure that they can register for the course. In the event that the number of students wishing to take the class exceeds 20, the students will be selected based on a writing and vocabulary test.

【キャリアデザイン学部より】
2014年度～2016年度入学者のみ，市ヶ谷基礎科目4群（必修外国語＜英語＞に充当も可能です。

【Outline (in English)】
Develop the skills necessary to write and correctly format effective paragraphs and to write multi-paragraph essays within a set time frame

MAN200MA（経営学 / Management 200）

就業機会とキャリア特講E-働くことと労働組合-

上西　充子、梅崎　修

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：火4/Tue.4　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞
授業コード：C5298
科目名：就業機会とキャリア特講E-働くことと労働組合-
＜2024年度以前入学者＞
授業コード：C5298
科目名：就業機会とキャリア特講E-働くことと労働組合-
※入学年度によらず同一授業コード・科目名称

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、連合（日本労働組合総連合会）と教育文化協会が主催する寄付講座です。毎回、職場の最前線で活躍するユニオン(労働組合）リーダーをゲスト講師としてお招きし、働くことに伴う様々な課題や課題解決のための労働組合の活動などについて、働く側の目線で事例を交えながら講義していただき、受講者からの質疑により理解を深めます。
講義は、働く意味を見つけること、働く環境や労働条件をより良くすること、職場の仲間を作っていくことなど、具体的な企業情報や業界情報を交えながら行います。変動する職場環境の中で、働く人たちのキャリアデザインも揺らいでいます。その中で働く人々はどのような困難を抱え、労働組合はどのような役割を果たしているのでしょうか。様々な立場にある労働組合関係者のお話を聞きながら、一緒に考えていきます。
学生の間に、働く現場のリアルで最新の情報を聞けるのはとても貴重な機会です。

【到達目標】
働く現場の変化や、安心して働く上での問題について、深く理解している。
企業や業界の実務知識や労働法制、社会的支援などの知識を身につけている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
本授業は、ゲスト講師に自らの経験に基づいて講義していただき、その後質疑応答を行います。質疑にあたっては、適宜、グループワークを取り入れる予定です。
授業の進め方やレポートに関する説明は第1回目の授業で行いますので、受講を考えている学生は、第1回目授業を必ず受講をしてください。
ゲスト講師からは、労働組合の活動について説明していただくだけでなく、様々な業界や企業の最新の情報についても講義してもらいます。学生からの主体的な参加により理解が深まりますので、積極的に質問などをしてください。なお、ゲスト講師との調整により、計画に変更が生じる可能性がありますので、定期的に学習支援システムで予定を確認してください。
授業で使用する資料等は、学習支援システムにおいて、受講登録者に当該授業の前に提供します。資料内容を確認し、資料を準備して授業を受講してください。各回の授業では質問の時間を多めに確保しますので、積極的に質問をおこなってください。そのことが、皆さんの疑問や問題意識に対するフィードバックとなり、また、毎回のゲスト講師の方の論点の深掘りにも寄与することとなります。なお、若手組合員とのグループディスカッションも可能な範囲で組み込む予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	【オリエンテーション】 労働組合とは何か	担当教員から授業の導入を行い、「労働組合とは何か」を理解する
第2回	【開講の辞】 連合寄付講座で法政大学の皆さんに学んでほしいこと 【課題提起】 「働くこと」について考える〜労働組合の役割と意義〜	【開講の辞】 連合寄付講座の開講の趣旨を伝えることで、本講座を通じて学んでほしいことは何かを理解してもらう。 【課題提起】 「働くこと」について考えてもらうとともに、労働者を取り巻く現状と課題を明確化する。また、労働組合の役割や意義について学び、労働組合がめざす社会のイメージを掴んでもらう。 （2025年度ゲストは教育文化協会）
第3回	【ケーススタディ①】 労働時間の短縮に向けた取り組み	働く者が健康で安心して暮らすために、労働組合はどのように取り組んでいるのか。長時間労働の是正や休暇取得の促進など、労働時間の短縮に向けた取り組み事例を聴き、理解してもらう。近年導入の進んでいるテレワークに関する事例にも触れてもらう。（2025年度ゲストは生保労連）
第4回	【ケーススタディ②】 公務労働の現状と公共サービスの役割	「安定した職場」と言われる公務員の働き方の現状はどうなっているのか。公務職場の現状・課題と良質な公共サービス（新しい公共）の実現に向けた公務労組の取り組み事例を聴き、理解してもらう。（2025度ゲストは伊藤ハム米久労働組合）
第5回	【ケーススタディ③】 非正規雇用労働者の組織化と処遇改善に向けた取り組み	なぜ、非正規雇用労働者の組織化や処遇改善が必要なのか。企業別労組における非正規雇用労働者の労働組合加入および正規雇用労働者との処遇格差是正に向けた取り組み事例を聴き、考えてもらう。 （2025度ゲストは自治労）
第6回	【ケーススタディ④】 デジタル化の進展に伴う課題と労働組合の役割	AI技術やDXの進展に伴う働き者への影響と、それに対して労働組合ではどのような対応が行われているのかを聞き、デジタル化が進展する中で働くということについて考えてもらう。 （2025年度ゲストはKDDI労働組合）
第7回	【ケーススタディ⑤】 男女がともに働きやすい職場づくりに向けた取り組み	男女がともに活き活きと働き続けるための課題や具体策とは何か。職場の環境改善や当該課題の解決に取り組む労働組合役員から話を聴き、考えてもらう。 （2025年度ゲストは全労金）

第8回	【ケーススタディ⑥】 雇用と生活を守る取り組み	技術革新やグローバル化が進む中、労働組合はどのように働く者の雇用と生活を守るのか。サプライヤーを多く抱える中小企業労組が働く者の労働条件改善に向けてどのような取り組みを実施しているのか、実例を聞き、理解してもらう。 またＪＡＭで働く若手職員とのグループディスカッションを通じて、現場の実態について理解を深める。（2025年度ゲストはJAM。若手職員を含めたグループディスカッションあり）。
第9回	【課題への対応①】 いま働く現場で何が起きているのか ～労働相談からみた若者雇用の現状～	若者に関わる労働相談事例等からいま職場で起きている問題を身近なものとして捉えてもらうとともに、それらの解決に向けた労働組合の役割とワークルールの重要性について理解してもらう。（2025年度ゲストは連合　総合組織局）
第10回	【課題への対応②】 働諸条件の維持・向上に向けた取り組み	労働組合は、働く者の労働条件の維持・向上に向けて、どのように取り組んでいるのか。なかでも代表的な取り組みとして挙げられる「春闘」は、なぜ同時期に全国一斉に行うのか。連合の取り組みを聴き、学生に理解してもらう。（2025年度ゲストは連合　労働条件・中小地域対策局）
第11回	【課題への対応③】 あらゆるハラスメントの根絶に向けた労働組合の取り組み	セクハラ・パワハラをはじめとするあらゆるハラスメントは人権をも脅かす重大な問題であり、誰もがいきいきと働き続けられる社会の実現に向けてはあらゆるハラスメントの根絶が必要不可欠である。あらゆるハラスメントの根絶に向けて労働組合がどのような取り組みを実施しているのか、連合もしくは産別の取り組みを聞き、その重要性を理解してもらう。（2025年度ゲストは連合　ジェンダー平等・多様性推進局）
第12回	【課題への対応④】 国際労働運動の役割 ～グローバリゼーションへの対応～	進行するグローバリゼーションに労働組合はどのように対応しているのか。国際労働機関の役割や、多国籍企業問題に対する取り組み、国内だけでは解決できない課題に対する労働組合の国際的な役割・取り組みについて考えてもらう。（2025年度ゲストはITUC）
第13回	【修了講義】 連合運動の現在と未来 ～これから社会へ出る皆さんへ～	すべての働く者が安心してくらすことができる社会の実現に向けて、連合・労働組合は何をすべきか。連合の課題認識を聴いて、これからの社会や働き方、連合運動の役割について具体的に考えてもらう。（2025年度ゲストは連合事務局）
第14回	【論点整理】 「働くということ」と労働組合	担当教員が、ケーススタディーを振り返り、それぞれの課題と労働組合の役割の確認を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
初回授業時に全14回分の講義概要を配布します。それをもとに、会社、業界、労働組合について下調べをしておいてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特にありません。

【参考書】
授業内で随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（コメント内容含む）が50％、レポートが50％。
毎回の授業への積極的な参加を重視する。

【学生の意見等からの気づき】
労働用語、組合関連用語も随時説明していきます。

【その他の重要事項】
授業の予定はゲスト講師との調整により、テーマ内容の変更や順番の入れ替え等が発生する可能性があります。大きな変更は予定していませんが、最初の授業で詳細な予定を提示しますのでご了承ください。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This class is a donation course sponsored by the Union (Japan Trade Union Confederation) and the Education and Culture Association.
Each time, we invite labor union officials who are active on the front lines of the workplace as guest lecturers to give lectures on the activities of the labor union with examples.
Lectures will be given with company information and industry information, such as finding the meaning of work, improving the working environment and working conditions, and making colleagues in the workplace.
In the changing work environment, the career design of workers is also shaking. What difficulties do the people working in it have, and what role does the union play? We will think together while listening to the stories of labor union officials from various positions.
【Learning Objectives】
Students are expected to understand deeply the changes in the workplace and the issues involved in working in a safe and secure environment.
They are also expected to acquire practical knowledge of companies and industries, labor laws, and social support.
【Learning activities outside of classroom】
A total of 14 lecture outlines will be distributed at the time of the first class. Use it to do some preliminary research on companies, industries, and trade unions.
The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
In-class contributions (including comments): 50%
Term-end report: 50%.

CAR300MA（キャリア教育 / Career education 300）

就業応用力養成Ⅰ

鈴木　美伸

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：水3/Wed.3　｜　配当年次：3～4年
備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞
授業コード：C5299
科目名：就業応用力養成Ⅰ
＜2024年度以前入学者＞
授業コード：C5299
科目名：就業応用力養成Ⅰ
※入学年度によらず同一授業コード・科目名称

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学後期は社会へのトランジション（移行）期であり、大学で修得すべき必須の知見（アカデミックスキル）を確認し、社会への応用力に発展させる時期です。
この授業では、様々な産業の企業事例のビデオ教材、社会人ゲストの講話、ビジネス事例・統計等を題材に、社会課題の発見とそれに取り組むための実践知の理解・修得・発揮を目指します。
企業や社会人から持ち込まれたキャリアではなく、どんな問題に直面しても、なんとかできる強い意志、思考方法、対応力、それが『大学生のキャリア』であり、それこそが社会でも立派に通用する、就業応用力の養成です。
＊「就業応用力」は「就職力」ではありませんが、就職活動を学生の未知の課題と捉え、アカデミックスキルで効率よく対処できるようになります。
つまり、就職力は就業応用力の一部(発揮）ともいえます。

【到達目標】
修得すべき７つのチカラ
１．社会常識・ビジネスマナー・コンプライアンス
　⇒組織を効率よく運営参画するスキル
　⇒社会規範となる倫理観
２．他者を説得できるロジカルシンキング
　⇒データの収集（質問票調査）を行う定量調査スキル
　⇒フィールドワークによる定性調査スキル
　⇒定量・定性データの分析技術による論理的な提案作成力
３．他者を動かすコミュニケーション力
　⇒共感・質問・提言する個別対人スキル
　⇒カウンセリング・コーチング・コンサルティング
４．組織を動かすコミュニケーション力
　⇒社会人（企業）に対して説得的な提言（プレゼンテーション力）
　⇒チームビルディングとイノベーション（ファシリテーション力）
５．組織を活性化するリーダーシップ
　⇒モチベーション・マネジメント
　⇒４つの状況対応型リーダーシップ
６．社会で未知の道を拓くチカラ
　⇒キャリアモデルの発見（文献調査、フィールドワーク等）
　⇒自分自身の２０代のキャリアプランの作成
７．社会を生き抜くための実践知
　⇒暗黙知（体験）を形式知（言語）化するメタ認知能力
　⇒メタ認知を社会の中で発揮するベタ認知能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
この授業は、大学・企業に対して、学生による企画・提案を行ないます。
ＰＢＬ（プロジェクトベースラーニング）型の運営です。
履修人数によりますが、グループワークを中心に行い、最終的には大学・企業に対しての提言（レポート＆プレゼンテーション）を行います。
公開授業（全学部対象）の特長を活かし、他学部学生との知見の交換を重視します。
授業では毎回提出のリアクションペーパーを、次回授業でフィードバックします。
＊受講者の学習進捗状況とゲスト講師の都合で、授業順が変更になることがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	大学とは何か 大学で学ぶべきアカデミックスキルの理解 大学を使い倒す	大学の歴史と構造 ・各学部のアイデンティティ ・就業力とは ・学生と企業の認識差 ・社会で求められる力
第2回	大学と企業のミスマッチ研究 社会の求める人材とは メタ認知とパラ認知の理解	グループディスカッション ・データの見方 ・討議の手法 ・ブレーンストーミング
第3回	ロジカルシンキング・ライティング・プレゼンテーション 企業採用選考を論理的に解析し、対処するためには	論理的な文章 ・作文と論文の違い ・ビジネス文書作成 ・エントリーシート解析
第4回	旅行業界事例研究 新入社員の課題と魅力 上司を動かす力とは	・ビジネスマナー ・報連相の重要点 ・トラブル対処力 ・顧客満足向上とは
第5回	ビジネス事例研究－１ 半導体業界 世界を制した経営者	起業家精神 ・ベンチャー企業 ・株主重視経営 ・ＭＢＡ
第6回	ビジネス事例研究－２ 化学製品業界 世界企業と渡り合うには	大企業経営 ・グローバル企業経営 ・提案力の構造 ・世界で通用する力
第7回	社会人ケーススタディ－１ 就社・就職・就場の時代 ホテル、出版業界 全ての経験をキャリアにするには	働き方の進化 ・大学と仕事の関係 ・企業と個人の関係 ・コンサルティング
第8回	食品関連業界事例研究 世界に通用するBtoB技術 知られざる世界一の優良企業	企業進化論 ・百年企業 ・最先端技術力 ・ビジネスプレゼンテーション
第9回	文房具旅行用品業界事例研究 モノヅクリの魅力 企業提案ワークショップ	中小企業経営 ・大企業との差別化 ・商品企画力 ・プレゼンテーション
第10回	プロジェクトベースラーニング（ＰＢＬ）－１ 企業からの課題提示	・市場調査 ・新商品開発（マーケティング） ・チーム別ワークショップ

第11回	社会人ケーススタディ－２ 20代のキャリア形成 副業・兼業・越境学習 コンサルティング業界とは	新しい就労形態 ・パラレルキャリア ・進路の意志決定 ・大学生活とビジネスの接続
第12回	プロジェクトベースラーニング（ＰＢＬ）－２ 課題討議	授業協力企業からの課題 ・ビジネスマナー ・ヒアリングスキル ・課題発見力
第13回	金融業界事例研究 地方創生事業の実際 六次産業への挑戦	金融機関の底力 ・起業家行動の支援 ・全国ネットワークの活用 ・中小企業診断士の力
第14回	プロジェクトベースラーニング（ＰＢＬ）－３ 課題発表	企業へのプレゼンテーション ・課題解決力 ・プレゼンテーション力 ・ゲスト企業からの講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・グループ別に授業外での活動があります。定量調査（質問票調査）、定性調査（企業訪問調査）では相当量の作業を求めます。
・統計学や社会調査の素養があると有効です。
＊事前知識がなくとも、高い目標に挑戦する意欲があれば全力で指導します。
但、他者と協働して自分を成長させたい強い意志とクラスメートへの配慮（チームワークへの貢献）は必須です。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定はありません。必要な資料は毎回教員が配布します。

【参考書】
・「大学とは何か」吉見俊哉（岩波新書）
・「論文・レポートの基本」石黒圭、日本実業出版社
・「大学生のためのレポート・論文の書き方」石井一成、ナツメ社
・「スマホ脳」アンデシュ・ハンセン （新潮新書)

【成績評価の方法と基準】
成績配点
・受講態度（発言数・発言内容）　⇒３０点
・毎回の小レポート（リアクション・ペーパー）⇒３０点
・授業期間中レポート　⇒２０点
・期末レポート　⇒２０点
総合評点が６０点以上を合格とします。
（欠席が３回以上の者は成績評価対象外）
＊遅刻厳禁、私語、居眠りは退席を命じます。

【学生の意見等からの気づき】
他学部学生とのディスカッションから学ぶことが多いとのことで、グループワークを重視します。
特に公開授業のメリットを最大限に活かし、学生所属の各学部の知見をレポート＆プレゼンで他学生に説明する方式は、他科目のリアクションペーパー、レポート、論文、更に就職活動のエントリーシートの書き方にも役立ったとのことです。

【学生が準備すべき機器他】
特にありませんが、学習支援システムを活用します。
レポート＆プレゼンがあるので、ワードとパワーポイントは必須スキルです。
ＰＣは大学貸出のもので大丈夫です。

【その他の重要事項】
法政大学のテーマである「実践知育成授業」を目指します。
＊ゲスト招聘者・企業は、先方の都合により変更になる場合があります。
＊全学部対象なので、様々な学部の学生を歓迎します。
　楽単ではありませんし、甘い採点もしませんが、社会で必ず役立つ力を教えます。
▼実務経験のある教員による授業
担当教員は、日米企業での人事採用能力開発経験者であり、授業における行動基準は社会で求められるビジネスマナーを重視、レポートの評価基準も社会で通用する論理的な文章を指導します。

【Outline (in English)】
（Course Outline）
The university latter period is a transition (shift) period to society and is the time to recognize the indispensable knowledge which should be acquired at a university (academic skills) and make application ability to society develop.
（Learning Objectives）
I aim at learning and a show of video teaching materials of various industrial enterprise cases, a talk of a member of society guest and practical wisdom to work on discovery and that of a social problem by using a business case and the statistics, etc. as a base material at this session.
（Learning Activities Outside of Classroom）
・ There are activities outside the class for each group. Quantitative surveys (questionnaire surveys) and qualitative surveys (company visit surveys) require a considerable amount of work.
・ It is effective if you have a background in statistics and social research.
* Even if you do not have prior knowledge, if you are willing to challenge high goals, we will do our best to guide you.
However, a strong will to collaborate with others and give consideration to classmates (contribution to teamwork) is essential. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.
（Grading Criteria/Policy）
Grade score
・Attendance attitude (number of remarks / content of remarks / contribution in group work) ⇒ 30 points
・ Every small report (reaction paper) ⇒ 30 points
・Report during class period ⇒20 points
・ Term-end report ⇒ 20 points
A passing score of 60 or higher is considered as a pass.
(People who are absent 3 times or more are not eligible for grade evaluation)
* Strictly forbidden to be late, private language, and dozing will order you to leave.

CAR300MA（キャリア教育 / Career education 300）

就業応用力養成 II

鈴木　美伸

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水3/Wed.3　｜　配当年次：3〜4年
備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞
授業コード：C5300
科目名：就業応用力養成II
＜2024年度以前入学者＞
授業コード：C5300
科目名：就業応用力養成II
※入学年度によらず同一授業コード・科目名称

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学での学びの集大成として「自由を生き抜く実践知」の発揮に取り組みます。
未知の社会課題を理解・分析し、提言する力を身につけます。
同時にこれからの社会に必要な新しい働き方とライフスタイルを学びます。
アカデミックスキルの実践として、社会課題（特に人口少子化社会における社会変動への対処、大学が求められる変革能力）を抽出して具体的な提言を行います。
＊「就業応用力」は「就職力」ではありませんが、就職活動を学生の未知の課題と捉え、アカデミックスキルで効率よく対処できるようになります。
つまり、就職力は就業応用力の一部もしくは発揮といえます。

【到達目標】
どんな問題に直面しても、なんとかできる強い意志、思考方法、対応力、を就業応用力として考え、具体的に以下の８つの力を修得します。
１．事実をベースに語る提言力　（事実と意見を峻別する）
２．３つの分析手法力　（時間・空間・実験分析）
３．知恵の生成プロセスを経た改革力（データから情報へ）
４．問題解決の視点力　（What? Why? How?）
５．構造分析の要素考察力
６．マクロとミクロの視点を統合力　（定量と定性調査力）
７．一次情報に触れる取材力　（但、百聞一見を盲信しない）
８．上記のスキルを統合・応用する力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
この授業は、大学・企業に対して、学生による企画・提案を行ないます。
ＰＢＬ（プロジェクトベースラーニング）型の運営です。
履修人数によりますが、グループワークを中心に行い、最終的には大学・企業に対しての提言（プレゼンテーション＆レポート）を行います。
公開授業（全学部対象）の特長を活かし、他学部学生との知見の交換を重視します。
授業では毎回提出のリアクションペーパーを、次回授業でフィードバックします。
＊受講者の学習進捗状況とゲスト講師の都合で、授業順が変更になることがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	アカデミックスキル 大学生で学ぶべきチカラ 大学を使い倒すために	８つのアカデミックスキルの具体例と演習 ・大学生の就職活動をアカデミックスキルで分析する
第2回	社会で通用する高度なコミュニケーションスキル 共感・質問・提案	応談スキル ・カウンセリング ・コーチング ・コンサルティング
第3回	法政大学と実践知 自由を生き抜くとはどういう意味か？ 組織を動かすには （ビデオ教材使用）	実践知の学問別理解 ・哲学的理解 ・心理学的理解 ・経営学的理解
第4回	ライフスタイル研究－１ 就社・就職・就場の時代 企業特殊能力から起業家へ ２１世紀の生き方へ	社会人講話と質疑応答 ・20代、30代、40代のキャリア形成 ・質問力 ・ファシリテーション力
第5回	ライフスタイル研究－２ パラレルキャリア 社会人の能力開発力 社会を楽しく生き抜くために	副業・兼業の現在 ・ワークライフバランス ・フリーランスの生き方 ・大学生の兼業とは
第6回	情報分析力グループワーク マスコミ情報の分析理解 ロジカルシンキング 情報に惑わされないために	新聞記事の分析 ・防衛費の分析 ・交通事故判例 ・サンクコストの理解
第7回	課題レポート＆プレゼンテーション－１ 学部固有の知見とは 法政と各学部のアイデンティティ	構造化レポートの書き方 ・因果律型エッセイ ・プレゼンテーションの構造 ・質疑応答手法
第8回	ライフスタイル研究－３ 社会課題解決のキャリアモデル 夢を形にして社会課題に取り組んだ人々	実践知偉人伝 ・官僚のケース ・社会企業家のケース ・世界に誇れる日本人
第9回	マーケティングスキルによる構造分析 グローバルビジネス企画 語学力と提案力 （ビデオ教材）	市場調査と企画力 ・定量定性調査の注意点 ・ブランド商品の販売例 ・卒論への応用
第10回	プロジェクトベースラーニング（ＰＢＬ）－１ 広告代理店の事例 大学をプロデュースするには	社会人講話 ・広告業界の現状 ・傾聴スキル ・課題発見力
第11回	プロジェクトベースラーニング（ＰＢＬ）－２ 学生目線が採用担当者を変える	社会人講話 ・企業人事部の課題 ・採用市場と戦略の分析 ・学生視点の問題提起
第12回	人生の３つのカーブ 文献・統計・フィールドワークのデータ	世代別の課題 ・Ｊ字カーブ（20代） ・M字カーブ（30代） ・Ｘ字カーブ（40代）

第13回	課題レポート＆プレゼンテーション－２ 法政大学の実践知とは	企業へのプレゼンテーション ・課題解決力 ・プレゼンテーション力 ・ゲスト企業からの講評
第14回	授業総括 課題発表ふりかえり	アカデミックスキル確認 ・受講生講評・プレゼンテーション力 ・課題確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・グループ別に授業外での活動があります。定量調査（質問票調査）、定性調査（企業訪問調査）では相当量の作業を求めます。
・統計学や社会調査の素養があると有効です。
＊春学期「就業応用力養成Ｉ」の履修が望ましいですが、
　事前知識がなくとも、高い目標に挑戦する意欲があれば全力で指導します。
　但し、他者と協働して自分を成長させたい強い意志とクラスメートへの配慮（チームワークへの貢献）は必須です。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定はありません。必要な資料は毎回教員が配布します。

【参考書】
・「大学とは何か」吉見俊哉（岩波新書）
・「リーダーシップの心理学」國分康孝、講談社新書
・「性格スキル」鶴光太郎 祥伝社新書
・「成功するプレゼンテーション」箱田忠明、日本経済新聞社
・「ファシリテーターの道具箱」森時彦、ダイヤモンド社
・「スマホ脳」アンデシュ・ハンセン （新潮新書)

【成績評価の方法と基準】
成績配点
・受講態度（発言数・発言内容）　⇒３０点
・毎回の小レポート（リアクション・ペーパー）⇒３０点
・グループワークでの貢献度　⇒２０点
・期末レポート　⇒２０点
総合評点が６０点以上を合格とします。
（欠席が３回以上の者は成績評価対象外）
＊遅刻厳禁、私語、居眠りは退席を命じます。

【学生の意見等からの気づき】
他学部学生とのディスカッションから学ぶことが多いとのことで、グループワークを重視します。
特に公開授業のメリットを最大限に活かし、学生所属の各学部の知見をレポート＆プレゼンで他学生に説明する方式は、他科目のリアクションペーパー、レポート、論文、更に就職活動のエントリーシートの書き方にも役立ったとのことです。

【学生が準備すべき機器他】
特にありませんが、学習支援システムを活用します。
レポート＆プレゼンがあるので、ワード、パワーポイントは必須スキルです。
大学用意のＰＣを理由すれば結構です。

【その他の重要事項】
法政大学のテーマである「実践知育成授業」を目指します。
＊ゲスト招聘者・企業は、先方の都合により変更になる場合があります。
＊全学部対象なので、様々な学部の学生を歓迎します。
　楽単ではありませんし、甘い採点もしませんが、社会で必ず役立つ力を教えます。
▼実務経験のある教員による授業
担当教員は、日米企業での人事採用能力開発経験者であり、授業における行動基準は社会で求められるビジネスマナーを重視、レポートの評価基準も社会で通用する論理的な文章を指導します。

【Outline (in English)】
（Course Outline）
"Practical Wisdom for Freedom" Hosei University advocates which survives freedom is mastered at this session.
Everyone understands a social problem and learns new how to work and lifestyle necessary to future society through the practice which is analyzed and proposed.
（Learning Objectives）
I pick a social problem (the transformation ability from which handle to social change and a university in population low birthrate society are asked in particular) out and propose specifically as practice of an academic skills.
（Learning Activities Outside of Classroom）
・ There are activities outside the class for each group. Quantitative surveys (questionnaire surveys) and qualitative surveys (company visit surveys) require a considerable amount of work.
・ It is effective if you have a background in statistics and social research.
* Even if you do not have prior knowledge, if you are willing to challenge high goals, we will do our best to guide you.
However, a strong will to collaborate with others and give consideration to classmates (contribution to teamwork) is essential. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.
（Grading Criteria/Policy）
Grade score
・Attendance attitude (number of remarks / content of remarks) ⇒ 30 points
・ Every small report (reaction paper) ⇒ 30 points
・ Contribution in group work ⇒ 20 points
・ Term-end report ⇒ 20 points
A passing score of 60 or higher is considered as a pass.
(People who are absent 3 times or more are not eligible for grade evaluation)
* Strictly forbidden to be late, private language, and dozing will order you to leave.

EDU100MA（教育学 / Education 100）

教職入門

吉田　直子

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：月1/Mon.1　｜　配当年次：1〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、教職を将来の選択肢のひとつとして考え、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について基本的な知識や考え方を理解し、教職に就くとはどういうことか、そのためにどのようなことを学び、身につけておかなければならないのかなど、自らの適性を判断して教職への意欲を高めることを目的としている。
具体的には、教職の意義及び教員の役割、教員の職務内容を主たる要素として授業を構成する。近年、日々の生活や学習に困難を抱える児童・生徒への対応、保護者や地域課題への対応など、教師が向き合う課題は多様性と複雑さを増している。教職という職業にはこれまで以上に時代や社会の変化に向き合い、生涯にわたって学び続ける自覚が求められている。また「チーム学校」への対応など、学校の内外との連携も重視されてきており、教員一人ひとりの役割を理解すると同時に、組織として諸課題に対応することも期待されている。今日の学校教育や学校教員の現状や諸課題についての概要をおさえながら、教員の仕事のありよう、生き方等について具体的な検討を行い、受講生一人ひとりの教職についての理解を深めていきたい。

【到達目標】
教職を将来の選択肢のひとつとして考え、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について基本的な知識や考え方を理解し、教職に就くとはどういうことか、そのためにどのようなことを学び、身につけておかなければならないのかなど、自らの適性を判断して教職への意欲を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP1」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
対面授業を基本とする。また、学生同士の学び合いを促進するため、グループワークやグループディスカッション等の活動を重視する。リアクションペーパー等で提出されたコメントのうち、全体に共有することが望ましいと判断したものについては、次回の授業の冒頭でいくつか取り上げ、フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入と教職への条件：免許・養成（履修）・採用制度の概要と４年間の学びのイメージ	教職履修の全体イメージ、本授業の構成、進め方と評価
第2回	教師という職業の特徴	教師という職業世界への接近と大学における教職課程
第3回	教職の歴史	教職観の変遷と今日の教員の役割
第4回	専門職としての教師の成長・育成	身分保障・服務義務、教員研修
第5回	現代学校と教職員の権利・職責	学校改革の展開、教職員の種類と職責、教師の権利と「働き方改革」
第6回	教育指導の全体像	教育の専門家としての教師、教師の指導文化、教員評価
第7回	学校組織のなかの教師	教職員の構成、校務分掌とチームワーク（同僚性）、年間指導計画
第8回	職務内容①：教科指導	学習指導要領改訂の概要と教科の変更点
第9回	職務内容②：生徒・生活指導	生徒指導の日本的特質、校則指導、いじめ指導
第10回	職務内容③：総合的な学習の時間と進路指導	総合的な学習の時間の位置づけ、職業・進路指導、キャリア教育
第11回	職務内容④：学級経営	学級の歴史、学級規模、担任教師の役割
第12回	教師の課題①：多様化する子どもの課題	子どもたちの今日的課題（子どもの貧困、学力格差、不登校など）
第13回	教師の課題②：多様な関係者との連携	「チーム学校」への対応、保護者や地域との協働・連携、「共生」社会
第14回	まとめ：変わる学校、学び続ける教師	変わる子どもの学び、学び続ける教師

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業後のリアクションペーパーの作成、次回課題への取り組み、学習指導要領の内容に関する小テストの準備、ショートプレゼンテーションや最終レポート作成に必要な調査・研究をふくめ、本授業の準備学習・復習等の時間は各4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に定めない。学習にかかわる資料等は授業の中で教員が適宜準備し、学習支援システムを通して配布する。

【参考書】
中学校学習指導要領（平成29年3月公示　文部科学省）
高等学校学習指導要領（平成30年3月公示、文部科学省）
上記は、文部科学省のウェブサイトより、PDFでダウンロード可。
その他の参考文献等は、授業内で適宜提示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への主体的な参加状況（学習支援システムを活用し、授業終了後3日以内にコメント、次回の授業開始までに準備課題を提出）に対する評価（40%）、ショートプレゼンテーション（10%）、授業内小テスト（25%）、最終レポートに対する評価（25%）を総合的に見る。期末試験は行わない。
なお、原則として、授業回数の3分の2以上の出席を単位認定の前提条件とする（ただし、大学が認める活動や病気等、正当な理由により欠席し、証明書類を提出した場合は個別に配慮する）。

【学生の意見等からの気づき】
・教員に求められるコミュニケーションスキルについて、学生同士で体験・実践する場を丁寧につくる。
・講師自身の民間企業での勤務経験および教員経験も共有しつつ、「教育」について、幅広い視点から捉える機会を提供する。

【学生が準備すべき機器他】
講義はスライドの投影やビデオ教材などを活用して進めるが、講義資料は基本的にデジタルデータで学習支援システムより提供する。リアクションペーパーや準備課題、最終レポートの提出も学習支援システムを介して行う。また、講義中も学習支援システムを利用したり、ネット接続が必要な活動を行うため、ノートPCやタブレット等のデジタル機器の持参を求める。

【Outline (in English)】
In this lecture, people aiming for the teaching profession will learn fundamental matters related to teaching jobs, and will decide their aptitude and will aim to raise motivation for the teaching profession. We will examine the current situations of school education and school teachers, their careers, future issues and so on.
In this class, students will consider teaching as one of their future options, and will gain a basic understanding of the significance of the teaching profession, the role of teachers, their qualifications and abilities, and their duties. They will also consider what it means to be a teacher, what they need to learn and acquire in order to do so, and determine their own aptitude and motivation for the teaching profession.

The standard amount of time for learning activities outside of classroom is four hours each, including writing a reaction paper after class and preparing to submit two scheduled assignments. Evaluations will be based on a comprehensive assessment of the student's independent participation in the class (submitting comments before/after class) (40%) mini test(20%), short presentation(15%) and final report(25%).

EDU100MA（教育学 / Education 100）

教職入門

吉田　直子

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：水2/Wed.2　｜　配当年次：1〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、教職を将来の選択肢のひとつとして考え、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について基本的な知識や考え方を理解し、教職に就くとはどういうことか、そのためにどのようなことを学び、身につけておかなければならないのかなど、自らの適性を判断して教職への意欲を高めることを目的としている。
具体的には、教職の意義及び教員の役割、教員の職務内容を主たる要素として授業を構成する。近年、日々の生活や学習に困難を抱える児童・生徒への対応、保護者や地域課題への対応など、教師が向き合う課題は多様性と複雑さを増している。教職という職業にはこれまで以上に時代や社会の変化に向き合い、生涯にわたって学び続ける自覚が求められている。また「チーム学校」への対応など、学校の内外との連携も重視されてきており、教員一人ひとりの役割を理解すると同時に、組織として諸課題に対応することも期待されている。今日の学校教育や学校教員の現状や諸課題についての概要をおさえながら、教員の仕事のありよう、生き方等について具体的な検討を行い、受講生一人ひとりの教職についての理解を深めていきたい。

【到達目標】
教職を将来の選択肢のひとつとして考え、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について基本的な知識や考え方を理解し、教職に就くとはどういうことか、そのためにどのようなことを学び、身につけておかなければならないのかなど、自らの適性を判断して教職への意欲を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP1」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
対面授業を基本とする。また、学生同士の学び合いを促進するため、グループワークやグループディスカッション等の活動を重視する。リアクションペーパー等で提出されたコメントのうち、全体に共有することが望ましいと判断したものについては、次回の授業の冒頭でいくつか取り上げ、フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入と教職への条件：免許・養成（履修）・採用制度の概要と４年間の学びのイメージ	教職履修の全体イメージ、本授業の構成、進め方と評価
第2回	教師という職業の特徴	教師という職業世界への接近と大学における教職課程
第3回	教職の歴史	教職観の変遷と今日の教員の役割
第4回	専門職としての教師の成長・育成	身分保障・服務義務、教員研修
第5回	現代学校と教職員の権利・職責	学校改革の展開、教職員の種類と職責、教師の権利と「働き方改革」
第6回	教育指導の全体像	教育の専門家としての教師、教師の指導文化、教員評価
第7回	学校組織のなかの教師	教職員の構成、校務分掌とチームワーク（同僚性）、年間指導計画
第8回	職務内容①：教科指導	学習指導要領改訂の概要と教科の変更点
第9回	職務内容②：生徒・生活指導	生徒指導の日本的特質、校則指導、いじめ指導
第10回	職務内容③：総合的な学習の時間と進路指導	総合的な学習の時間の位置づけ、職業・進路指導、キャリア教育
第11回	職務内容④：学級経営	学級の歴史、学級規模、担任教師の役割
第12回	教師の課題①：多様化する子どもの課題	子どもたちの今日的課題（子どもの貧困、学力格差、不登校など）
第13回	教師の課題②：多様な関係者との連携	「チーム学校」への対応、保護者や地域との協働・連携、「共生」社会
第14回	まとめ：変わる学校、学び続ける教師	変わる子どもの学び、学び続ける教師

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業後のリアクションペーパーの作成、次回課題への取り組み、学習指導要領の内容に関する小テストの準備、ショートプレゼンテーションや最終レポート作成に必要な調査・研究をふくめ、本授業の準備学習・復習等の時間は各4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に定めない。学習にかかわる資料等は授業の中で教員が適宜準備し、学習支援システムを通して配布する。

【参考書】
中学校学習指導要領（平成29年3月公示　文部科学省）
高等学校学習指導要領（平成30年3月公示、文部科学省）
上記は、文部科学省のウェブサイトより、PDFでダウンロード可。
その他の参考文献等は、授業内で適宜提示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への主体的な参加状況（学習支援システムを活用し、授業終了後3日以内にコメント、次回の授業開始までに準備課題を提出）に対する評価（40%）、ショートプレゼンテーション（10%）、授業内小テスト（25%）、最終レポートに対する評価（25%）を総合的に見る。期末試験は行わない。
なお、原則として、授業回数の3分の2以上の出席を単位認定の前提条件とする（ただし、大学が認める活動や病気等、正当な理由により欠席し、証明書類を提出した場合は個別に配慮する）。

【学生の意見等からの気づき】
・教員に求められるコミュニケーションスキルについて、学生同士で体験・実践する場を丁寧につくる。
・講師自身の民間企業での勤務経験および教員経験も共有しつつ、「教育」について、幅広い視点から捉える機会を提供する。

【学生が準備すべき機器他】
講義はスライドの投影やビデオ教材などを活用して進めるが、講義資料は基本的にデジタルデータで学習支援システムより提供する。リアクションペーパーや準備課題、最終レポートの提出も学習支援システムを介して行う。また、講義中も学習支援システムを利用したり、ネット接続が必要な活動を行うため、ノートPCやタブレット等のデジタル機器の持参を求める。

【Outline (in English)】
In this lecture, people aiming for the teaching profession will learn fundamental matters related to teaching jobs, and will decide their aptitude and will aim to raise motivation for the teaching profession. We will examine the current situations of school education and school teachers, their careers, future issues and so on.
In this class, students will consider teaching as one of their future options, and will gain a basic understanding of the significance of the teaching profession, the role of teachers, their qualifications and abilities, and their duties. They will also consider what it means to be a teacher, what they need to learn and acquire in order to do so, and determine their own aptitude and motivation for the teaching profession.

The standard amount of time for learning activities outside of classroom is four hours each, including writing a reaction paper after class and preparing to submit two scheduled assignments. Evaluations will be based on a comprehensive assessment of the student's independent participation in the class (submitting comments before/after class) (40%) mini test(20%), short presentation(15%) and final report(25%).

EDU100MA（教育学 / Education 100）

教職入門

猪股　大輝

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木4/Thu.4　｜　配当年次：1〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目では、受講生が教職を将来の選択肢のひとつとして考え、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について基本的な知識や考え方を理解できること、教職に就くとはどういうことか、そのためにどのようなことを学び、身につけておかなければならないのかなど、自らの適性を判断して教職への意欲を高めることを目的としている。
具体的には、教職の意義及び教員の役割、教員の職務内容を主に学習する。近年、日々の生活や学習に困難を抱える児童・生徒への対応、保護者や地域課題への対応など、教師が向き合う課題は多様性と複雑さを増している。教職という職業にはこれまで以上に教育するという行為への強い気持ちと生涯にわたって学び続けるという自覚が求められている。また「チーム学校」への対応など、学校の内外との連携も重視されてきており、教員一人ひとりの役割を理解すると同時に組織として諸課題に対応することも期待されている。受講生が本科目を通じ、今日の学校教育や学校教員の現状、教師を取り巻く諸問題についての概要をおさえながら、教員の仕事のありよう、生き方等について具体的な検討を行い、教職について理解を深めることを目指す。

【到達目標】
本科目は、受講生が、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について基本的な知識や考え方を理解できること、教職に就くとはどういうことか、そのためにどのようなことを学び、身につけておかなければならないのかなど、自らの適性を判断することで、将来の選択肢の一つとして教職を捉え、教職への意欲を高めることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP1」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
レジュメ配布による講義形式を中心とするが、授業中に適宜ペアワークやディスカッションを導入し、学生の教職への理解を深める。また、毎回の授業後にコメントペーパーを作成してもらい、必要に応じて次回の授業でフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入と教職への条件：免許・養成（履修）・採用制度の概要と４年間の学びのイメージ	本講義の概要、方法、評価を説明する。また、開放性を基本とする教員養成制度の仕組みと意義、教師になるために学ぶべき内容を概観する。
第2回	教師という職業の特徴	教師の職業的特徴や地位について、歴史的、国際的、社会的に比較し考える。
第3回	教職の歴史	古代から新教育期までの教育史を、プラトン、ルソー、デューイなどの思想家に着目してたどり、我々が自明視する「学校」「教師」の根源的性格を検討する。
第4回	専門職としての教師の成長・育成：研修等の制度	戦後日本における教師の専門職性や学校を巡る考え方の変遷を、戦後の生活綴方や、70年代の「楽しい授業」論などを扱うなかで検討し、「よい教師」の多様なあり方について考える。
第5回	現代の学校と教師の資質・役割	近年の教育改革における教師像について理解するとともに、これからの「よい教師」のあり方について、ショーン、アレント、イリッチなどの思想家の考えを踏まえながら考える。
第6回	教師の権利と義務：服務規律や身分保障	教師の権利・身分保障と服務、及び教師を取り巻く行政制度の仕組みを理解する。
第7回	職務の全体像	学校における教職員の職務や構成、校務分掌とチームワーク（同僚性）を理解する。また、部活動問題を中心とした教師の多忙化問題や、教師のメンタルヘルスなど近年の諸問題を知る。
第8回	職務内容①：教科指導	現行学習指導要領の概要を理解するとともに、「よい授業」とはなにかについて、望ましい教育技術・教育評価・授業計画とはどのようなものか、といった観点から検討する。
第9回	職務内容②：生徒・生活指導	生徒・生活指導をめぐる教師の役割の歴史や、多忙化・ブラック校則・いじめ問題など今日的課題を知る。また、生徒・生活指導の基盤として今日ますます重要視される「子どもの権利」について学び、「子どもの声を聞く」ことがどのようなことかを考える。
第10回	職務内容③：進路指導・キャリア教育	学校教育と労働世界・企業社会との接続について制度的観点と歴史的観点の両者から検討する。また、近年の教育界のキーワードであり進路指導においても重要視される「主体性」とはなにを意味するかについて原理的に検討する。
第11回	職務内容④：学級経営	「学級」の歴史や「学級づくり」を巡る戦後の議論を手がかりに、特にシティズンシップ教育の観点から「よい学級」のあり方と教師の役割を考える。また、オルタナティブとして、幼児教育・保育における教師論にも触れる。
第12回	「チームとしての学校」：学校組織のなかの教師	「チームとしての学校」をめぐる今日的議論の展開を理解する。また、子どもの貧困、学力格差、不登校など今日的課題に向かう教師の役割を考える。
第13回	地域・家庭・多様な専門家との連携	「コミュニティ・スクール」や保護者・地域の学校参加による「開かれた学校」をめぐる今日的議論を理解するとともに、これまでの学習を踏まえた「これからの教師」像について検討する。
第14回	試験・まとめと解説：変わる学校、学び続ける教師	試験を実施し、講評として知識基盤社会において「学び続ける教師」の意義と可能性、教師の公共的使命について考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【事前学習】
授業中に提示された参考書等を適宜確認し、授業内容を予習する（各2時間）。

【事後学習】
各回で講義内容を整理しリアクション・ペーパーを作成するとともに、課題として与えられたレポート等に取り組む（各2時間）。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない

【参考書】
・中学校学習指導要領（平成29年3月公示　文部科学省）
・高等学校学習指導要領（平成30年3月公示、文部科学省）
・生徒指導提要（令和4年12月、文部科学省）
※PDFでダウンロード可能
・その他、授業中に適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】
基本的な知識や考え方を理解できること、4年間の教職課程の学びに主体的に取り組む意思があることを下記をもとに総合的に評価する。
・毎授業ごとのリアクション・ペーパー：10％
・授業内で指示する課題：20％
・定期試験（授業内試験）：70％

【学生の意見等からの気づき】
本授業は、「よい教師」とはなにかについて、授業内で扱う様々な考えを使いながら受講生各自が考えを深められるようになることを目指す授業です。
このために、講義だけでなく、クリッカーを用いて教室の中の様々な学生同士の考えを授業内で確認しあえる場を設けたり、受講する多様な学部学科の学生同士で簡単な授業案を作り、見せ合う機会を設けるなど、双方向的な学びの場づくりを進めます。なお、その際のグループづくりや進行等は教員が必ず援助し、それぞれの学生の学びのスタイルを尊重しながら、各自が考えを深められるような環境構成を行います。

【学生が準備すべき機器他】
授業中に適宜指示する

【Outline (in English)】
The purpose of this lecture is to increase students' motivation to become teachers by considering teaching as a future option, understanding basic knowledge and ideas about the significance of teaching, the role, qualifications, and duties of teachers, what it means to be a teacher, and what they need to learn and acquire in order to become a teacher, and determining their own aptitude for the teaching profession.
Specifically, the course will be structured with the significance of the teaching profession, the role of teachers, and the duties of teachers as the main elements. In recent years, the challenges that teachers face have become more diverse and complex, such as dealing with students who have difficulties in their daily lives and learning, and dealing with parents and community issues. The profession of teaching requires more than ever an awareness of the need to face the changing times and society, and to continue learning throughout one's life. In addition, there is an increasing emphasis on cooperation with people inside and outside the school, such as in response to "team schools," and teachers are expected to understand their individual roles and to respond to various issues as an organization. The course aims to deepen each student's understanding of the teaching profession by providing an overview of the current state of school education and school teachers and the various issues they face, and by examining specific aspects of the work of teachers and their way of life.
【Learning activities outside of classroom】
The following is required for each lecture.
* Pre-Class
Preparation for the class by checking the reference books, etc. provided in the class (2 hours).
* Post-class
Work on reaction papers and assigned reports, etc(2 hours).
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Reaction papers：20％
Report：20％
Term-end examination(in class)：60％

EDU100MA（教育学 / Education 100）

教職入門

寺崎　里水

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：月2/Mon.2　｜　配当年次：1〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、教職を将来の選択肢のひとつとして考え、教職意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について基本的な知識や考え方を理解し、教職に就くとはどういうことか、そのためにどのようなことを学び、身につけておかなければならないのかなど、自らの適性を判断して教職への意欲を高めることを目的としている。
具体的には、教職の意義及び教員の役割、教員の職務内容を主たる要素として授業を構成する。近年、日々の生活や学習に困難を抱える児童・生徒への対応、保護者や地域課題への対応など、教師が向き合う課題は多様性と複雑さを増している。教職という職業にはこれまで以上に時代や社会の変化に向き合い、生涯にわたって学び続ける自覚が求められている。また「チーム学校」への対応など、学校の内外との連携も重視されてきており、教員一人ひとりの役割を理解すると同時に、組織として諸課題に対応することも期待されている。今日の学校教育や学校教員の現状や諸課題についての概要をおさえながら、教員の仕事のありよう、生き方等について具体的な検討を行い、受講生一人ひとりの教職についての理解を深めていきたい。

【到達目標】
教職を将来の選択肢のひとつとして考えることを前提に、以下の事柄を到達目標とする。
①教職意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について基本的な知識や考え方が理解できること。
②教職に就くとはどういうことか、そのためにどのようなことを学び、身につけておかなければならないのかが理解できること。
③授業を通して、自らの適性を判断して教職への意欲を高めること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP1」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業は対面で行います。
教職課程の入門科目として位置付けられており、指定された教科書をもとに講義を行うほか、個々人やグループでワークをしたり、課題レポートを提出したりしてもらいます。
課題提出やそのフィードバックは、授業内と学習支援システムの両方を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入と教職への条件：4年間の学びのイメージ	職業を選択するということ、教職を選択するということ
第2回	教師像の構築	教師という職業世界への接近と大学における教職課程
第3回	職業としての教師へのハードル	教員免許・養成制度・教員採用
第4回	専門職としての教師の成長・育成	研修・免許更新・服務義務
第5回	教育指導の本質と意義	教育の専門家としての教師
第6回	教職の歴史的特質	教職観の変遷と今日の教員の役割
第7回	教職に関する実務①	学校という組織の運営・校務分掌
第8回	教職に関する実務②	教師としてのキャリア
第9回	教育の方法	学習指導要領の位置づけ、能動的な学習への参加
第10回	教師の職務実態①	学級経営、多様化する子どもたち
第11回	教師の職務実態②	生徒指導・進路指導
第12回	教師の課題①	子どもの貧困、学力格差、力のある学校
第13回	教師の課題②	チーム学校への対応、協働と連携
第14回	試験、振り返り、教職の方向性	試験とその振り返り、変わる子どもの学び、学び続ける教師

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指定された課題をすることが予習になるように講義内容を考えています。必ず課題を終わらせ、提出したのちに、授業に参加してください。
教科書の内容すべてを授業内で扱えるわけではないので、授業で触れた章はもちろん、関連文献・資料として紹介されたものを各自で読んだり調べたりしてください。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
高妻紳二郎・植上一希・佐藤仁・寺崎里水・伊藤亜希子・藤田由美子（2023）『新版教職概論』協同出版

【参考書】
生徒指導提要（平成22年3月、文部科学省）　※PDFでダウンロード可能
植上一希・寺崎里水（2018）『わかる・役立つ教育学入門』大月書店

【成績評価の方法と基準】
基本的な知識や考え方を理解できること、４年間の教職課程の学びに主体的に取り組む意思があることを総合的に評価する。
具体的には、提出課題の内容：40%、試験：60%で評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】
とくになし

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを利用する場面があるので、インターネットに接続し、必要な資料をダウンロードしてプリントアウトしたり、重要だと感じた内容を自身でノートにまとめることが必要です。ネットに接続できる環境、パソコン、パソコンが用意できない場合はタブレット（スマホは画面が小さいので推奨しません）が必要です。

【その他の重要事項】
教職課程を履修する学生を対象に開講する科目です。

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】
In this lecture, students aiming for the teaching profession will learn fundamental matters related to teaching jobs, and will decide their aptitude and will aim to raise motivation for the teaching profession.
We will examine the current situations of school education and school teachers, their careers, future issues and so on.
【到達目標（Learning Objectives）】
In this class, students will consider teaching as one of their future options, and will gain a basic understanding of the significance of the teaching profession, the role of teachers, their qualifications and abilities, and their duties. They will also consider what it means to be a teacher, what they need to learn and acquire in order to do so, and determine their own aptitude and motivation for the teaching profession.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Students may be required to reflect their learning through the class. Furthermore, it is expected that students will study and research the opinions about teaching professions.
Your required study time is at least four hours.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Grading will be decided based on the following process:
- In-class assignments: 40%

- Final exam: 60%

EDU100MA（教育学 / Education 100）

教育原理

筒井　美紀

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木5/Thu.5　｜　配当年次：1〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
第1回で教育原理を学ぶことの意義を説明したうえで、序盤・中盤は順に歴史を追って、政治・経済・社会・家族と教育との関係を確認しながら、基礎的概念を修得し、代表的な教育思想について理解します。終盤は現代社会における教育的諸課題を、小グループでの議論を初めとした相互的・双方向的なやりとりをとおして、教育の基礎的概念や思想・理念を応用しつつ考察する力を磨きます。

【到達目標】
　教育は日常的な営みであるため、日ごろ用いている卑近な言葉で何気なく考え語ってしまいます。しかし、そうした言葉――「発達」「個性」「教育」「学校」「教師」「家族」「子供」「知識」「わかる」など――が意味するところを根本的に考察し、教育の本質や理念に迫ろうとした人びとがいます。そのような思想家や理論家は何と言っているのでしょうか。
　また私たちは、いまある教育を「あたりまえ」と考えがちですが、過去からあるいは未来から見れば、私たちが過去の教育を見て「どうして？」と疑問を抱くことがあるように、必ずしも「あたりまえ」ではないのです。なぜでしょうか。
この授業では、教育の基本的諸概念を正確に修得し、教育の本質や理念を歴史的・社会的・思想的変化と関連づけながら理解します。この作業をとおして、現実の教育や学校の営みを、その変遷をも踏まえつつ、深く掘り下げて考察する力を磨きます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP1」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
　最終回をのぞき対面実施します。
　授業は予習を大前提に進むので、履修者はテキストブックを読み、毎回の「予習&授業プリント」にある質問（Qや■■や［　　］など）や「〜しよう」に対して回答し（ノートに書く、など）授業に臨んでください。
　なお、授業終了時に毎回の課題が出されるので、学習支援システムに解・考察を書き込んで提出のこと。課題へのフィードバックは次回授業冒頭で行ないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション：教育の理念・歴史・思想を学ぶことの意義	テキストのまえがきと序章
第2回	近代以前の教育（1）　古代の教育：教育と教育思想の発祥	なぜ教育は支配階級のためにしか存在しなかったのか？（テキスト第1章第1・2節）
第3回	近代以前の教育（2）：中世における「学校」の諸形態	修道院・修道僧が「学校」「教師」のモデルになったのはなぜか？（テキスト第1章第3節）
第4回	近代の教育（1）：近代初期・中期の社会と教育思想	社会階層の形成と教育の関係（テキスト第1章第4節）
第5回	近代の教育（1）：市民社会と教育思想	絶対王政に対抗する市民社会で生まれた教育思想は（ルソーとコメニウス）（テキスト第1章第4節）
第6回	近代の教育（2）：産業革命と教育思想	産業革命による社会変化はもたらした教育観・方法論への影響（助教法）（テキスト第2章第3,4節）
第7回	現代の教育（1）：近代公教育制度の成立と展開、およびその教育思想	帝国主義はなぜ・どのように近代公教育制度の成立を促したか？（テキスト第2章第5節）
第8回	現代の教育（2）：公教育成立完成期、新教育（進歩主義教育）	「児童中心主義」が生まれてきた社会的背景（テキスト第2章第5節）
第9回	近代化以前の日本の教育	近世までの政治・社会と教育（テキスト第3章）
第10回	日本の近代教育システムの誕生とその歩み	支配層の教育と民衆の教育、近代化によるその統合（テキスト第4章第1,2節）
第11回	第二次世界大戦後の教育	揺れ動いてきた教育政策（テキスト第4章第3節）
第12回	現代公教育の課題（1）教育を受けられない世界の子どもたち	（義務）教育の重要性とそこからの排除（テキスト第5章第1節）
第13回	現代公教育の課題（2）多様な子どもがともにまなぶ教育	インクルーシブ教育とは何か（テキスト第5章第2節）
第14回	総まとめ：教育の理念・歴史・思想についてのふりかえり	基礎的諸概念を中心に総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の進め方と方法を参照。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
遠藤野ゆり・筒井美紀（2023）『まなぶことの歩みと成り立ち－－公教育の原理的探究』法政大学出版局

【参考書】
・筒井美紀（2014）『大学選びより100倍大切なこと』ジャパンマシニスト社
・中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（本文、解説、資料）（最新版、文部科学省）
→ 文部科学省ホームページよりダウンロードできます。http://www.mext.go.jp/a_menu/01_c.htm

【成績評価の方法と基準】
教育学の基本的諸概念を理解しているか、それを用いて学校・教育の歴史的変遷や現状・その課題を記述し、教育の理念と照らし合わせながら考察する力がついているかを、以下の2つの方法で確認し評価します。
毎回授業終了時提出の課題26%（2×13回）, 期末論述試験74%

【学生の意見等からの気づき】
パワーポイントのスライドは、図や表によるまとめを多くしています。

【学生が準備すべき機器他】
授業にはパソコンやタブレットを持ってきてください。紙は配りません。また、毎回の課題提出はオンラインです。無い人はスマートフォンでも構いませんが、画面小さくて見えにくかったりします。

【Outline (in English)】
Since education is a daily activity, we casually think and talk in the familiar words we use every day. However, there are thinkers and theorists who tried to clarify the essence of education through fundamental consideration of the meaning of such words- "development," "individuality," "education," "school," "teacher," "family," "children," "knowledge," "understanding," etc. What do they say?

Also, we tend to think of existing education as "natural", but it is not "natural:" when we may ask "why?" looking at education in the past time, we usually don’t think it as "natural". What does this mean?
In this class, you will accurately acquire the basic concepts of education and understand the essence and ideals of education in relation to historical, social, and ideological changes. Through this work, you will develop your ability to delve deeply into actual education and school activities.
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text and answer some questions of "preparation resume." Your study time will be an hour for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following: mini-work after every class 26% and term-end examination 74%.

EDU100MA（教育学 / Education 100）

教育原理

澤里　翼

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：月2/Mon.2　｜　配当年次：1〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
第1回で教育原理を学ぶことの意義を説明したうえで、序盤・中盤は順に歴史を追って、政治・経済・社会・家族と教育との関係を確認しながら、基礎的概念を修得し、代表的な教育思想について理解します。終盤は現代社会における教育的諸課題を、小グループでの議論を初めとした相互的・双方向的なやりとりをとおして、教育の基礎的概念や思想・理念を応用しつつ考察する力を磨きます。

【到達目標】
教育は日常的な営みであるため、日ごろ用いている卑近な言葉で何気なく考え語ってしまいます。しかし、そうした言葉――「発達」「個性」「教育」「学校」「教師」「家族」「子供」「知識」「わかる」など――が意味するところを根本的に考察し、教育の本質や理念に迫ろうとした人びとがいます。そのような思想家や理論家は何と言っているのでしょうか。
また私たちは、いまある教育を「あたりまえ」と考えがちですが、過去からあるいは未来から見れば、私たちが過去の教育を見て「どうして？」と疑問を抱くことがあるように、必ずしも「あたりまえ」ではないのです。なぜでしょうか。
　この授業では、教育の基本的諸概念を正確に修得し、教育の本質や理念を歴史的・社会的・思想的変化と関連づけながら理解します。この作業をとおして、現実の教育や学校の営みを、その変遷をも踏まえつつ、深く掘り下げて考察する力を磨きます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP1」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
序盤は講義中心ですが、中盤以後は授業前半でグループで調べた内容を発表してもらい後半で解説や不足部分の講義を行います。毎回の授業後に学習支援システムを通して意見や感想を提出してもらい、全体で共有したり、個別にコメントを返したりしています。
授業は原則として対面で行う予定ですが、感染状況等に応じて柔軟に対応できるようにしています。詳細は初回の授業の際に口頭で説明し、学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション：教育の理念・歴史・思想を学ぶことの意義	講師の紹介、今後の授業内容、評価の方針等についてもお話しします。
第2回	古代の教育、近代以前の教育（1）教育と教育思想の発祥	教育や教育学に影響を与えた、ギリシャの哲学者や中国の思想家等を紹介します
第3回	中世の教育（1）：近代以前の教育（2）「学校」の諸形態	「学校」の成立とその形態について扱います
第4回	中世の教育（2）：近代以前の教育（3）「こども」とは	子どもを生まれながらに「善」「悪」あるいは「白紙」とみる見方について発表してもらい・解説します。
第5回	近代の教育（1）：市民社会と教育思想	教育における遺伝と環境の役割について過去の思想を追ったうえで、現在の展開について紹介します
第6回	近代の教育（2）：産業革命と教育思想	一斉教授/経験的学習の歴史とそれらのメリットデメリットについて考えます
第7回	現代の教育（1）：近代公教育制度の成立と展開、およびその教育思想	教育費負担のしくみがどうあるべきかについて議論します
第8回	現代の教育（2）：現代教育・学校の諸問題と制度・教育改革	学校に通うことの意義／遠隔授業、不登校、オルタナティブな教育について考えます
第9回	発達と学習	インクルーシブ教育の意義と課題について考えます
第10回	公教育・家庭・地域社会の関係	学校運営への家庭や地域の関わり方について議論します。
第11回	教科指導・生徒指導の諸理論	いじめや体罰などの教育問題について考えます
第12回	個性・能力・学力と教育思想	教育格差、学力格差の問題について扱います。
第13回	高度知識社会における学校・教員・教科書の役割	学校の運営や教師の働き方について考えます
第14回	総まとめ：教育の理念・歴史・思想についてのふりかえり	小テスト実施予定です

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
グループの担当箇所について調べ、発表してもらう予定です。最低１回は授業外でグループの打ち合わせが必要になると思います。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません

【参考書】
・木村元・小玉重夫・船橋一男（2019）『教育学をつかむ【改訂版】』有斐閣。
・筒井美紀・遠藤野ゆり（2013）『教育を原理する――自己にたち返る学び』法政大学出版局・筒井美紀（2014）『大学選びより100倍大切なこと』ジャパンマシニスト社
・中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（本文、解説、資料）（最新版、文部科学省）
→ 文部科学省ホームページよりダウンロードできます。http://www.mext.go.jp/a_menu/01_c.htm

【成績評価の方法と基準】
授業への貢献度（各回提出してもらうリアクションペーパー）20％
授業への貢献度（ミニ・グループ・ディスカッション）20％
期末テスト　60％

【学生の意見等からの気づき】
授業支援システムにできるだけ資料をアップするようにしています。

【学生が準備すべき機器他】
Hoppi上に課題を提出してもらうことが多いので情報機器を適宜使用してください。

【その他の重要事項】
・授業支援システムなどを利用して課題等を提示しますので、体調がすぐれない時などには無理をせずご相談ください。

【Outline (in English)】
This course introduce basic concepts and theories of education by learning about the history of education and the current education system in relation to politics, economics, society and family.
This class includes active learning; group discussion about today's educational issues.
Goals

Since education is a daily activity, we casually think and talk in the familiar words we use every day. However, there are thinkers and theorists who tried to clarify the essence of education through fundamental consideration of the meaning of such words- "development," "individuality," "education," "school," "teacher," "family," "children," "knowledge," "understanding," etc. What do they say?
Also, we tend to think of existing education as "natural", but it is not "natural:" when we may ask "why?" looking at education in the past time, we usually don't think it as "natural". What does this mean?
In this class, you will accurately acquire the basic concepts of education and understand the essence and ideals of education in relation to historical, social, and ideological changes. Through this work, you will develop your ability to delve deeply into actual education and school activities.
Work to be done outside of class
You will need to have at least one group meeting outside of class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Criteria
attendance 20％
group work　20％
final exam　60％

EDU100MA（教育学 / Education 100）

教育原理

飯窪　真也

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：木2/Thu.2　｜　配当年次：1〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
第1回で教育原理を学ぶことの意義を説明したうえで、序盤・中盤は順に歴史を追って、政治・経済・社会・家族と教育との関係を確認しながら、基礎的概念を修得し、代表的な教育思想について理解します。終盤は現代社会における教育的諸課題を、小グループでの議論を初めとした相互的・双方向的なやりとりをとおして、教育の基礎的概念や思想・理念を応用しつつ考察する力を磨きます。

【到達目標】
教育は日常的な営みであるため、日ごろ用いている卑近な言葉で何気なく考え語ってしまいます。しかし、そうした言葉――「発達」「個性」「教育」「学校」「教師」「家族」「子供」「知識」「わかる」など――が意味するところを根本的に考察し、教育の本質や理念に迫ろうとした人びとがいます。そのような思想家や理論家は何と言っているのでしょうか。
また私たちは、いまある教育を「あたりまえ」と考えがちですが、過去からあるいは未来から見れば、私たちが過去の教育を見て「どうして？」と疑問を抱くことがあるように、必ずしも「あたりまえ」ではないのです。なぜでしょうか。
この授業では、教育の基本的諸概念を正確に修得し、教育の本質や理念を歴史的・社会的・思想的変化と関連づけながら理解します。この作業をとおして、現実の教育や学校の営みを、その変遷をも踏まえつつ、深く掘り下げて考察する力を磨きます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP1」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
毎回、講義とグループワークを交えた形式で行い、リアクションペーパーを提出していただきます。フィードバックは次回の授業時に行います。
大学行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション：教育の理念・歴史・思想を学ぶことの意義	授業で扱う内容を俯瞰します。
第2回	古代の教育、近代以前の教育（１）教育と教育思想の発祥	古代ギリシア・ローマ時代における教育の発祥について、当時の社会背景と結び付けながら考察します。
第3回	中世の教育（１）：近代以前の教育（２）「学校」の諸形態	キリスト教社会の文脈とその文脈における教育の意味を考察します。
第4回	中世の教育（２）：近代以前の教育（３）「こども」とは	時代によって異なる「こども」の捉え方について考察します。
第5回	近代の教育（１）：市民社会と教育思想	ルネッサンス期の社会やものの見方の変化に基づく教育についての考えを考察します。
第6回	近代の教育（２）：産業革命と教育思想	産業革命を背景にした公教育黎明期の教育システムについて考察します。
第7回	現代の教育（１）：近代公教育制度の成立と展開、およびその教育思想	近代的な国家の成立に伴う国家による教育の基本的な枠組みについて考察します。
第8回	現代の教育（２）：現代教育・学校の諸問題と制度・教育改革	現代日本の教育整備の向かう方向について、その背景にある考え方から考察します。
第9回	発達と学習	教育を考える際の基本になる発達と学習の基礎的な考え方を学びます。
第10回	公教育・家庭・地域社会の関係	公教育と家庭、地域社会の関係について、今日的な課題をとりあげ考察します。
第11回	教科指導・生徒指導の諸理論	教科指導・生徒指導の諸理論について学びます。
第12回	個性・能力・学力と教育思想	教育思想の背景にある個性・能力・学力の考え方について掘り下げます。
第13回	高度知識社会における学校・教員・教科書の役割	高度知識社会における学校・教員・教科書の役割について、総括的に考察します。
第14回	総まとめ：教育の理念・歴史・思想についてのふりかえり（授業内試験）	授業で扱った内容を振り返り、次の学びへつなぎます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義の内容について復習を行ってください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・遠藤野ゆり・筒井美紀『まなぶことの歩みと成り立ち　公教育の原理的探究』法政大学出版局、2300円＋税

【参考書】
・中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（本文、解説、資料）（最新版、文部科学省）
→ 文部科学省ホームページよりダウンロードできます。http://www.mext.go.jp/a_menu/01_c.htm

【成績評価の方法と基準】
教育学の基本的諸概念を理解しているか、それを用いて学校・教育の歴史的変遷や現状・その課題を記述し、教育の理念と照らし合わせながら考察する力がついているかを、以下の３つの方法で確認し評価します。
授業への参加姿勢30%，リアクションペーパー30%，授業内論述試験40%等により総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】
活動の時間を十分に確保するようにします。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【Outline (in English)】
【Course outline】
In this lecture, you will learn the history of education, in the relationship of politics, economy, society family and some basic concepts of education, some educational thoughts.
【Learning Objectives】
Students will acquire the basic concepts of education accurately and understand the essence and philosophy of education in relation to historical, social, and ideological changes. Through this work, students will hone their ability to delve deeply into actual education and school activities, taking into account the changes that have taken place.
【Learning activities outside of classroom】
Review the content of each lecture. The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】

The following evaluations are conducted to check whether students understand the basic concepts of pedagogy, and whether they have the ability to describe the historical changes, current situation, and issues of schools and education using them, and to examine them in light of educational principles.
Comprehensive judgment will be made based on 30% of participation in class, 30% of reaction papers, 40% of essay test in class.

EDU100MA（教育学 / Education 100）

教育原理

澤里　翼

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：水2/Wed.2　｜　配当年次：1〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
第1回で教育原理を学ぶことの意義を説明したうえで、序盤・中盤は順に歴史を追って、政治・経済・社会・家族と教育との関係を確認しながら、基礎的概念を修得し、代表的な教育思想について理解します。終盤は現代社会における教育的諸課題を、小グループでの議論を初めとした相互的・双方向的なやりとりをとおして、教育の基礎的概念や思想・理念を応用しつつ考察する力を磨きます。

【到達目標】
教育は日常的な営みであるため、日ごろ用いている卑近な言葉で何気なく考え語ってしまいます。しかし、そうした言葉――「発達」「個性」「教育」「学校」「教師」「家族」「子供」「知識」「わかる」など――が意味するところを根本的に考察し、教育の本質や理念に迫ろうとした人びとがいます。そのような思想家や理論家は何と言っているのでしょうか。
また私たちは、いまある教育を「あたりまえ」と考えがちですが、過去からあるいは未来から見れば、私たちが過去の教育を見て「どうして？」と疑問を抱くことがあるように、必ずしも「あたりまえ」ではないのです。なぜでしょうか。
　この授業では、教育の基本的諸概念を正確に修得し、教育の本質や理念を歴史的・社会的・思想的変化と関連づけながら理解します。この作業をとおして、現実の教育や学校の営みを、その変遷をも踏まえつつ、深く掘り下げて考察する力を磨きます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP1」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
序盤は講義中心ですが、中盤以後は授業前半でグループで調べた内容を発表してもらい後半で解説や不足部分の講義を行います。毎回の授業後に学習支援システムを通して意見や感想を提出してもらい、全体で共有したり、個別にコメントを返したりしています。
授業は原則として対面で行う予定ですが、感染状況等に応じて柔軟に対応できるようにしています。詳細は初回の授業の際に口頭で説明し、学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション：教育の理念・歴史・思想を学ぶことの意義	講師の紹介、今後の授業内容、評価の方針等についてもお話しします。
第2回	古代の教育、近代以前の教育（1）教育と教育思想の発祥	教育や教育学に影響を与えた、ギリシャの哲学者や中国の思想家等を紹介します
第3回	中世の教育（1）：近代以前の教育（2）「学校」の諸形態	「学校」の成立とその形態について扱います
第4回	中世の教育（2）：近代以前の教育（3）「こども」とは	子どもを生まれながらに「善」「悪」あるいは「白紙」とみる見方について発表してもらい・解説します。
第5回	近代の教育（1）：市民社会と教育思想	教育における遺伝と環境の役割について過去の思想を追ったうえで、現在の展開について紹介します
第6回	近代の教育（2）：産業革命と教育思想	一斉教授/経験的学習の歴史とそれらのメリットデメリットについて考えます
第7回	現代の教育（1）：近代公教育制度の成立と展開、およびその教育思想	教育費負担のしくみがどうあるべきかについて議論します
第8回	現代の教育（2）：現代教育・学校の諸問題と制度・教育改革	学校に通うことの意義／遠隔授業、不登校、オルタナティブな教育について考えます
第9回	発達と学習	インクルーシブ教育の意義と課題について考えます
第10回	公教育・家庭・地域社会の関係	学校運営への家庭や地域の関わり方について議論します。
第11回	教科指導・生徒指導の諸理論	いじめや体罰などの教育問題について考えます
第12回	個性・能力・学力と教育思想	教育格差、学力格差の問題について扱います。
第13回	高度知識社会における学校・教員・教科書の役割	学校の運営や教師の働き方について考えます
第14回	総まとめ：教育の理念・歴史・思想についてのふりかえり	小テスト実施予定です

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
グループの担当箇所について調べ、発表してもらう予定です。最低１回は授業外でグループの打ち合わせが必要になると思います。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません

【参考書】
・木村元・小玉重夫・船橋一男（2019）『教育学をつかむ【改訂版】』有斐閣。
・筒井美紀・遠藤野ゆり（2013）『教育を原理する――自己にたち返る学び』法政大学出版局・筒井美紀（2014）『大学選びより100倍大切なこと』ジャパンマシニスト社
・中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（本文、解説、資料）（最新版、文部科学省）
→ 文部科学省ホームページよりダウンロードできます。http://www.mext.go.jp/a_menu/01_c.htm

【成績評価の方法と基準】
授業への貢献度（各回提出してもらうリアクションペーパー）20％
授業への貢献度（ミニ・グループ・ディスカッション）20％
期末テスト　60％

【学生の意見等からの気づき】
授業支援システムにできるだけ資料をアップするようにしています。

【学生が準備すべき機器他】
Hoppi上に課題を提出してもらうことが多いので情報機器を適宜使用してください。

【その他の重要事項】
・授業支援システムなどを利用して課題等を提示しますので、体調がすぐれない時などには無理をせずご相談ください。

【Outline (in English)】
This course introduce basic concepts and theories of education by learning about the history of education and the current education system in relation to politics, economics, society and family.
This class includes active learning; group discussion about today's educational issues.
Goals

Since education is a daily activity, we casually think and talk in the familiar words we use every day. However, there are thinkers and theorists who tried to clarify the essence of education through fundamental consideration of the meaning of such words- "development," "individuality," "education," "school," "teacher," "family," "children," "knowledge," "understanding," etc. What do they say?
Also, we tend to think of existing education as "natural", but it is not "natural:" when we may ask "why?" looking at education in the past time, we usually don't think it as "natural". What does this mean?
In this class, you will accurately acquire the basic concepts of education and understand the essence and ideals of education in relation to historical, social, and ideological changes. Through this work, you will develop your ability to delve deeply into actual education and school activities.
Work to be done outside of class
You will need to have at least one group meeting outside of class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Criteria
attendance 20％
group work　20％
final exam　60％

EDU100MA（教育学 / Education 100）

教育の制度・経営

植竹　丘

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：金1/Fri.1　｜　配当年次：1〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業の構成は、大きく二分される。一つは、学校の組織・経営を枠付け、規制する公教育や行財政の法制度やしくみを理解し考えることである。もう一つが、学校の組織・経営を具体的な諸側面において理解し考えことであり、危機管理や安全対策、地域との連携も取り上げる。

【到達目標】
日本の学校教育に関する制度的及び経営的なトピックを取り上げ、教員として必須な公教育の法制度及び学校の組織・経営に関わる基礎的な内容を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
原則として担当者による講義を行う．毎回講義終了時に疑問点を提出してもらい，発展的な考察がなされているものや全体で共有すべきものについては，続回でリアクションを行う．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション（現代社会と学校改革）	講義の内容，進め方，評価方法，社会科学的に教育現象を見る
第2回	世界の教育改革	日本の教育制度や教育改革の内容と諸外国における教育制度や教育改革の比較について
第3回	憲法・教育基本法	戦後日本の教育行政の理念である「法律主義」及びその中心に位置づく「憲法・教育基本法体制」について
第4回	教育行政のしくみ	文部科学省及び教育委員会の仕組みと役割，教育政策決定過程について
第5回	学習指導要領と教科書制度	教育課程の基準について
第6回	教育財政制度と無償化	予算中の教育費の使われ方について，義務教育費国庫負担金制度，教員給与制度について
第7回	学校組織の法としくみ	学校組織の特性及び教員の勤務の特徴と課題について
第8回	学級経営	「学級」の特殊性及び教員の業務について
第9回	学校と教員の評価	「PDCAサイクル」下での学校評価及び教員評価
第10回	教員の成長と同僚性	教職の専門職性とラーフコースについて
第11回	子どもの人権と学校	パターナリズムに基づく教員の統治について
第12回	学校の危機管理と安全対策	学校の安全管理が教員に求められるようになった背景及び課題について
第13回	「チームとしての学校」	学校が教員だけで構成されるのではなく，専門職と協働して学校運営を行う際の課題について
第14回	地域・家庭・多様な専門家に開かれた学校づくり	学校外部との連携が求められるようになった背景及び課題について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の参考文献に記載されている文献を入手し読了すること．大学設置基準第21条第2項の規定に基づく，本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする．

【テキスト（教科書）】
指定しない

【参考書】
毎回のレジュメの参考文献リストを参照．
全体を通じての参考文献として，
阿内春生編（2024）『基礎から学ぶ教育行政学・教育制度論』昭和堂．
村上祐介・勝野正章（2024）『［改訂新版］教育行政と学校経営』放送大学教育振興会．
青木栄一・川上泰彦（2023）『［改訂版］教育の行政・政治・経営』放送大学教育振興会．
村上祐介・橋野晶寛（2020）『教育政策・行政の考え方』有斐閣．
小川正人（2019）『日本社会の変動と教育政策』左右社．
小川正人（2010）『教育改革のゆくえ』筑摩書房．
小川正人（2010）『現代の教育改革と教育行政』放送大学教育振興会．
藤田英典・大桃敏行編著（2010）『学校改革』（リーディングス日本の教育と社会11）日本図書センター．
藤田英典（1997）『教育改革』岩波書店．
日本教育経営学会編『日本教育経営学会紀要』各年版．
文部科学省「学習指導要領」（最新版）、同ホームページ上の資料（法令、審議会答申等）

【成績評価の方法と基準】
期末試験70%
疑問点の内容30%

【学生の意見等からの気づき】
毎回コメントシートとして疑問点を提出させ，続回にリアクションを行うことで理解が深まることが確認できたため継続する予定である．

【学生が準備すべき機器他】
レジュメは学習支援システムにアップされるため，プリントアウトして持参されたい（推奨）．
レジュメをプリントアウトしない場合はパソコンやタブレット等電子機器によって閲覧されたい．

【Outline (in English)】
The content of this class consists of the two parts. The first one is focused on Japanese laws and systems in educational administration and finance. The second is related to the topics on school organization and management including risk management,safety measure and cooperation with local community, It is necessary for those who attend the class to understand the basic knowledge of them and consider these matters by themselves.
Grade evaluation is based on 70% of the final exam and 30% of questions.
Outside class, read the literature listed in the bibliography for each class. The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

EDU100MA（教育学 / Education 100）

教育の制度・経営

植竹　丘

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：金1/Fri.1　｜　配当年次：1〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業の構成は、大きく二分される。一つは、学校の組織・経営を枠付け、規制する公教育や行財政の法制度やしくみを理解し考えることである。もう一つが、学校の組織・経営を具体的な諸側面において理解し考えことであり、危機管理や安全対策、地域との連携も取り上げる。

【到達目標】
日本の学校教育に関する制度的及び経営的なトピックを取り上げ、教員として必須な公教育の法制度及び学校の組織・経営に関わる基礎的な内容を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
原則として担当者による講義を行う．毎回講義終了時に疑問点を提出してもらい，発展的な考察がなされているものや全体で共有すべきものについては，続回でリアクションを行う．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション（現代社会と学校改革）	講義の内容，進め方，評価方法，社会科学的に教育現象を見る
第2回	世界の教育改革	日本の教育制度や教育改革の内容と諸外国における教育制度や教育改革の比較について
第3回	憲法・教育基本法	戦後日本の教育行政の理念である「法律主義」及びその中心に位置づく「憲法・教育基本法体制」について
第4回	教育行政のしくみ	文部科学省及び教育委員会の仕組みと役割，教育政策決定過程について
第5回	学習指導要領と教科書制度	教育課程の基準について
第6回	教育財政制度と無償化	予算中の教育費の使われ方について，義務教育費国庫負担金制度，教員給与制度について
第7回	学校組織の法としくみ	学校組織の特性及び教員の勤務の特徴と課題について
第8回	学級経営	「学級」の特殊性及び教員の業務について
第9回	学校と教員の評価	「PDCAサイクル」下での学校評価及び教員評価
第10回	教員の成長と同僚性	教職の専門職性とラーフコースについて
第11回	子どもの人権と学校	パターナリズムに基づく教員の統治について
第12回	学校の危機管理と安全対策	学校の安全管理が教員に求められるようになった背景及び課題について
第13回	「チームとしての学校」	学校が教員だけで構成されるのではなく，専門職と協働して学校運営を行う際の課題について
第14回	地域・家庭・多様な専門家に開かれた学校づくり	学校外部との連携が求められるようになった背景及び課題について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の参考文献に記載されている文献を入手し読了すること．大学設置基準第21条第2項の規定に基づく，本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする．

【テキスト（教科書）】
指定しない

【参考書】
毎回のレジュメの参考文献リストを参照．
全体を通じての参考文献として，
阿内春生編（2024）『基礎から学ぶ教育行政学・教育制度論』昭和堂．
村上祐介・勝野正章（2024）『［改訂新版］教育行政と学校経営』放送大学教育振興会．
青木栄一・川上泰彦（2023）『［改訂版］教育の行政・政治・経営』放送大学教育振興会．
村上祐介・橋野晶寛（2020）『教育政策・行政の考え方』有斐閣．
小川正人（2019）『日本社会の変動と教育政策』左右社．
小川正人（2010）『教育改革のゆくえ』筑摩書房．
小川正人（2010）『現代の教育改革と教育行政』放送大学教育振興会．
藤田英典・大桃敏行編著（2010）『学校改革』（リーディングス日本の教育と社会11）日本図書センター．
藤田英典（1997）『教育改革』岩波書店．
日本教育経営学会編『日本教育経営学会紀要』各年版．
文部科学省「学習指導要領」（最新版）、同ホームページ上の資料（法令、審議会答申等）

【成績評価の方法と基準】
期末試験70%
疑問点の内容30%

【学生の意見等からの気づき】
毎回コメントシートとして疑問点を提出させ，続回にリアクションを行うことで理解が深まることが確認できたため継続する予定である．

【学生が準備すべき機器他】
レジュメは学習支援システムにアップされるため，プリントアウトして持参されたい（推奨）．
レジュメをプリントアウトしない場合はパソコンやタブレット等電子機器によって閲覧されたい．

【Outline (in English)】
The content of this class consists of the two parts. The first one is focused on Japanese laws and systems in educational administration and finance. The second is related to the topics on school organization and management including risk management,safety measure and cooperation with local community, It is necessary for those who attend the class to understand the basic knowledge of them and consider these matters by themselves.
Grade evaluation is based on 70% of the final exam and 30% of questions.
Outside class, read the literature listed in the bibliography for each class. The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

EDU100MA（教育学 / Education 100）

教育の制度・経営

仲田　康一

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木2/Thu.2　｜　配当年次：1〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業の構成は、大きく二分される。一つは、学校の組織・経営を枠付け、規制する公教育や行財政の法制度やしくみを理解し考えることである。もう一つが、学校の組織・経営を具体的な諸側面において理解し考えことであり、危機管理や安全対策、地域との連携も取り上げる。

【到達目標】
日本の学校教育に関する制度的及び経営的なトピックを取り上げ、受講生が、教員として必須な公教育のの法制度及び学校の組織・経営に関わる基礎的理解を得ることを目標とする。なお、学校組織・経営の基礎知識には、地域との連携、安全と危機管理もふくまれる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
原則として講義形式で進めるが、授業内で学生が相互に意見交換する機会を設ける。毎回講義終了時にオンラインでコメントを提出してもらい、疑問や発展的な考察がなされているものや全体で共有すべきものについては、続回でリアクションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	現代社会と学校改革
第2回	世界の教育改革	イギリス・アメリカなどの教育改革
第3回	憲法・教育基本法	教育を受ける権利・教育の目的等
第4回	教育行政のしくみ	教育政策と教育行政、教育委員会と学校
第5回	学習指導要領と教科書制度	学習指導要領準拠の意味、教科書検定と教師の選択権
第6回	教育行財政制度と教育の無償化	国際比較、経済格差と教育格差
第7回	学校組織の法としくみ	学校教育法の理解と学校組織の在り方
第8回	学級経営	生活指導などを踏まえ不登校・いじめ問題を考える
第9回	学校と教員の評価	学校評価制度と教員評価制度に法律と学校の実態
第10回	教員の成長と同僚性	教員に求められる資質・能力と同僚性の構築
第11回	子どもの人権と学校	子どもの権利条約と体罰・校則等について考える
第12回	学校の危機管理と安全対策	パンデミックと学校、自然災害と防災教育など
第13回	チームとしての学校	学校教育活動と教職員の協同
第14回	地域・家庭・多様な専門家に開かれた学校づくり	学習指導要領と「社会に開かれた教育課程」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習は、授業で指定された文献などを読んでおく。新聞等で教育や子どもに関わる記事を読み、コメントをノート等に書いておく。復習は、授業内容を振り返りノート等に整理しておく。
本授業の準備学習・復習は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
勝野正章・藤本典裕返書『教育行政学(改訂新版)』学文社
文部科学省「学習指導要領」（最新版）、同ホームページ上の資料（法令、審議会答申等）
佐藤学著『第四次産業革命と教育の未来　ポストコロナ時代のICT教育』　岩波ブックレットNo. 1045

【成績評価の方法と基準】
基礎知識の理解度だけでなく、自らの考えを知識やデータで裏付けて論述できるかを評価する。授業内の発表やコメントペーパー等（40％程度）、最終レポート(60％程度)によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
ゲストスピーカーの招聘については、高評価を得た。授業の進行や先方の都合に依存する部分もあるが、引き続き実現できるよう検討する。

【その他の重要事項】
教員をどれだけ活用するかが大学での学びの質を大きく左右します。教員への質問・相談は学生の権利であり、教員にとってもやりがいの源泉ですので、どうぞお気軽に。

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】
The content of this class consists of the two parts. The first one is focused on Japanese laws and systems in educational administration and finance. The second is related to the topics on school organization and management including risk management,safety measure and cooperation with local community, It is necessary for those who attend the class to understand the basic knowledge of them and consider these matters by themselves.
【到達目標（Learning Objectives）】
The objective is for students to acquire a fundamental understanding of the legal framework of public education and the organisation and management of schools, which is essential for teaching professionals. To this end, the course will address institutional and managerial topics pertinent to the Japanese school system, including community collaboration, safety, and crisis management.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Before and/or after each class meeting, students are required to have completed the required assignments such as
- Rereading and summarising the material handed out in class
- Submitting Attendance Check Assignment.
The standard preparation and review time for this class is two hours each.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Grading is determined by the students' understanding of basic knowledge as well as their competence to argue and support their own ideas with knowledge and data. Evaluation will be based on in-class presentations, comment papers, etc. (approx. 40%) and a term end report (approx. 60%).

EDU100MA（教育学 / Education 100）

教育の制度・経営

小池　由美子

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：木5/Thu.5　｜　配当年次：1〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業の構成は、大きく二分される。一つは、教育の制度を枠付け、規制する公教育や行財政の法制度やしくみを理解し考えることである。もう一つが、学校の組織・経営を具体的な諸側面において理解し考えることである。日本の教育制度の成り立ちや法体系、生徒理解、危機管理や安全対策、地域との連携を取り上げる。身近な教育問題から取り上げる。目的は教師として教壇に立つ知識、生徒理解の視座を身に付けることにある。

【到達目標】
日本の学校教育に関する制度的なトピックを学び、教員として必須な公教育の法制度に関わる事柄を理解することができる。学校組織・経営の知識として、教育行政との関係や、生徒理解、地域との連携、安全と危機管理などを理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義を行う。適宜グループディスカッションを行う。毎回講義終了後にレポートを提出する。レポートから、疑問や発展的な考察がなされているものを、続回で全体で共有する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	教育の制度と経営とは何か 現代社会と日本の教育の現状
第2回	学校教育と子どもの人権 ①	子どもの権利条約 不登校問題
第3回	学校教育と子どもの人権②	いじめ問題とその構造 いじめ防止対策推進法
第4回	学校教育と子どもの人権③	体罰問題　学校教育法 事例研究
第5回	学校教育子どもの人権④	教育格差と経済格差 反貧困学習の事例研究
第6回	学校の危機管理と安全対策	子どもの命と健康を守る 学校保健安全法
第7回	日本の教育制度の成り立ち	平安時代から江戸時代にかけての教育制度
第8回	明治から昭和までの教育	大日本帝国憲法下の教育 自由教育運動
第9回	戦後の教育政策	新制の学校制度、教育委員会や教育政策の変遷
第10回	憲法と教育基本法	教育を受ける権利 教育基本法で何が規定されているか
第11回	教科書制度	教科書検定・採択制度 教師の教科教育の専門性
第12回	教育委員会制度と教育振興基本計画	教育委員会の機能 教育振興基本計画第四期の内容
第13回	諸外国の教育	OECDのキーコンピテンシー概念　学力とICTの効果
第14回	まとめ・試験	これまでの授業の振り返り 試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習として、授業で指定された文献などを読んでおく。新聞等で教育や子どもに関わる記事を読み、コメントをノート等に書いておく。
復習はレポートを作成し、授業内容を振り返りノート等に整理する。本授業の準備学習・復習は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
なし　必要な資料は授業で配布する。

【参考書】
勝野正章・藤本典裕返書『教育行政学(改訂新版)』学文社
文部科学省「学習指導要領」（最新版）、同ホームページ上の資料（法令、審議会答申等）
佐藤学著『第四次産業革命と教育の未来　ポストコロナ時代のICT教育』　岩波ブックレットNo. 1045

【成績評価の方法と基準】
基礎知識の理解度だけでなく、自らの考えを知識やデータで裏付けて論述できるかを評価する。授業への参加の仕方やレポート等（４０%程度）、試験(６０%程度)によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
毎回提出するレポートから、出された疑問や深めたい課題等を授業でフィードバックしている。その結果、学生からは自分以外の多様な意見に触れることができ、視野が広がるという声が寄せられている。

【その他の重要事項】
公立高校教諭の経験があり、その視座から教育関連法規や学校経営等に関する知見を活かし、学校の実態を踏まえて講義を行う。

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】
The content of this class consists of the two parts. The first one is focused on Japanese laws and systems in educational administration and finance. The second is related to the topics on school organization and management including risk management, safety measure and cooperation with local community, It is necessary for those who attend the class to understand the basic knowledge of them and consider these matters by themselves.
到達目標（Learning Objectives）
By the end of the course, students should be able to do the followings:
-Understand matters related to the legal system of public education.
-Understand school organization.
授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）
Students will be expected to spend four hours to understand the course content.
成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policies）
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 50%、Short reports: 40%、in class contribution: 10%

EDU200MA（教育学 / Education 200）

教育課程論

飯窪　真也

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木2/Thu.2　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
カリキュラム研究及び学習指導要領の検討をもとに、教育課程の意義や編成の方法を考察するとともに、事例研究や指導計画の立案や評価を実践することを通して、カリキュラム・マネジメントの考え方・進め方について理解する。

【到達目標】
資質・能力の育成をめざした教育課程の意義や編成の方法及びカリキュラム・マネジメントの考え方・進め方を理解している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP7」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
毎回、講義とグループワークを交えた形式で行い、リアクションペーパーを提出していただきます。
講義の後半では、グループで指導計画の作成と発表を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業で扱う内容の全体像を俯瞰します
第2回	カリキュラムとは	カリキュラムデザインの基本的な考え方について学びます
第3回	学習指導要領とは	教育課程編成の基準となる学習指導要領について学びます
第4回	学習指導要領の変遷	教育課程編成の基準となる学習指導要領の移り変わりについて考察します
第5回	学習指導要領改訂の要点	新学習指導要領改訂の要点について学びます
第6回	教育内容の選択	教育内容選択の原理について学びます
第7回	教育内容の組織化	教育内容を組織化する際の基本的な考え方について学びます
第8回	学力論の系譜	学力についての考え方を学びます
第9回	カリキュラム・マネジメント	カリキュラム・マネジメントの考え方について学びます
第10回	社会に開かれた教育課程	社会に開かれた教育課程の考え方について学びます
第11回	教育課程と指導計画－通時性と共時性	これまで学習した考え方を基に指導計画を立案します
第12回	教育課程と指導計画－教科・領域の横断	これまで学習した考え方を基に指導計画を立案・検討します
第13回	カリキュラム評価	カリキュラムデザインにおける評価の考え方について学びます
第14回	授業のまとめとテスト	授業内容を振り返り、今後につなげます

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義内容の復習を行ってください。
指導計画の作成と発表にあたって授業時間外の準備が必要です。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）→ 文部科学省ホームページよりダウンロードできます。http://www.mext.go.jp/a_menu/01_c.htm

【参考書】
松尾知明『新版　教育課程・方法論－コンピテンシーを育てる学びのデザイン』学文社、2018年。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加姿勢（30％）、リアクションペーパー（30％）、授業内試験（40％）等をもとに総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
活動の時間を十分に確保するようにします。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【Outline (in English)】
【Course outline】
This class aims to discuss the significance of school curriculum and methods of their development based on the study of curriculum research and the National Courses of Study. Also, the class further examines and explores the ideas and implementations of the curriculum management through case studies, curriculum development, and their evaluation.
【Learning Objectives】
Students are able to understand the significance of school curriculum, methods of their developments, and ideas and implementations of the curriculum management for competency building.
【Learning activities outside of classroom】
Review the content of each lecture. Preparation outside of class time is required for creating and presenting a lesson plan. The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
Comprehensive judgment will be made based on 30% of participation in class, 30% of reaction papers, 40% of essay test in class.

EDU200MA（教育学 / Education 200）

教育課程論

黄　郁倫

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：金2/Fri.2　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、カリキュラムに関して、その概念の歴史的変遷、近年の改革動向、特徴的な開発事例、という3つの観点から扱うことによって、より多角的に理解することを目指す。また、カリキュラム研究及び学習指導要領の検討をもとに、教育課程の意義や編成の方法を考察するとともに、事例研究や指導計画の立案や評価を実践することを通して、カリキュラム・マネジメントとカリキュラムに基づいたICTの活用の考え方・進み方について理解する。

【到達目標】
資質・能力の育成を目指した教育課程の意義や編成の方法及びカリキュラム・マネジメントの考え方・進み方を理解している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP7」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
本授業は、講義とともに主にグループディスカッションを行われる。事例は、VTRなども利用しできるだけ具体的に紹介することを心がける。また、毎回授業の際には、振り返りのコメントペーパーの提出を求める。振り返りのフィードバックは、毎回授業の始めの時間で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	コンテンツからコンピテンシーへ
第2回	カリキュラムとは	学びの経験のデザイン
第3回	教育内容の選択	教育の目的
第4回	教育内容の組織化	教育内容の選択・配列
第5回	学習指導要領とは	性格及び位置付け
第6回	学習指導要領の変遷	歴史的な展開
第7回	学習指導要領改訂なの要点	教育課程編成の目的及び基本原理
第8回	学力論の系譜	学力に関する理論の経緯
第9回	カリキュラム。マネージメント	カリキュラム・マネジメントの考え方・進み方
第10回	社会に開かれた教育課程	社会に開かれた事例の紹介
第11回	教育課程と指導計画ー通時性と共時性	学年・学期・単元をまたぐ視点
第12回	教育課程と指導計画ー教科・領域の横断	教科・領域の横断およびICT教育の活用
第13回	カリキュラム評価	カリキュラムの改善
第14回	授業のまとめ	日本のおける特徴的なカリキュラム

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
扱う概念や理論が多岐に亘るため、受講者には、レジュメや参考文献を活用して毎回の復習を丁寧に行うことが求められる。また、授業の内容により、文献の読みや資料の調査が宿題として出される。本授業の準備・復習時間は、合計４時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
佐藤学『教育方法学』岩波書店、1996年
佐藤学『教育の方法』左右社、2010年
秋田喜代美／藤江康彦『授業研究と学習過程』放送大学教育振興会、2010年
文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）
松尾知明『新版　教育課程・方法論ーコンピテンシーを育てる学びのデザイン』学文社、2018年

【成績評価の方法と基準】
コメントペーパー及び授業への参加姿勢40％、ホームワーク20％、期末レポート40％等をもとに総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
ディスカッションの時間と個人の振り返りの時間をバランスを取って保障する。

【Outline (in English)】
Course outline:
This class aims at providing diverse understanding of the concept of curriculum by introducing it from three perspectives: historical changes of the concept, recent reform trends, and characteristic reform cases. In addition, through studying researches on curriculum and the curriculum guidelines, it is hoped to help students to understand the significance of curriculum and the usage of ICT as well as the practical way to organize, design, study, and evaluate it.
Learning objectives:
Students are able to understand the significance of school curriculum, methods of their developments, and ideas and implementations of the curriculum for competency building.
Learning activities outside of classroom:
Since the concepts and theories are diverse, students are required to carefully review resumes and references. In addition, depending on the content of each lecture, reading and investigating information on particular topics may be assigned as homework. The preparation and review time for this class is about 4 hours every week.
Grading criteria/ Policy:
Attendance and learning attitude 40%
Homework 20%
Report 40%

EDU200MA（教育学 / Education 200）

教育課程論

飯窪　真也

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：木1/Thu.1　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
カリキュラム研究及び学習指導要領の検討をもとに、教育課程の意義や編成の方法を考察するとともに、事例研究や指導計画の立案や評価を実践することを通して、カリキュラム・マネジメントの考え方・進め方について理解する。

【到達目標】
資質・能力の育成をめざした教育課程の意義や編成の方法及びカリキュラム・マネジメントの考え方・進め方を理解している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP7」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
毎回、講義とグループワークを交えた形式で行い、リアクションペーパーを提出していただきます。
講義の後半では、グループで指導計画の作成と発表を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業で扱う内容の全体像を俯瞰します
第2回	カリキュラムとは	カリキュラムデザインの基本的な考え方について学びます
第3回	学習指導要領とは	教育課程編成の基準となる学習指導要領について学びます
第4回	学習指導要領の変遷	教育課程編成の基準となる学習指導要領の移り変わりについて考察します
第5回	学習指導要領改訂の要点	新学習指導要領改訂の要点について学びます
第6回	教育内容の選択	教育内容選択の原理について学びます
第7回	教育内容の組織化	教育内容を組織化する際の基本的な考え方について学びます
第8回	学力論の系譜	学力についての考え方を学びます
第9回	カリキュラム・マネジメント	カリキュラム・マネジメントの考え方について学びます
第10回	社会に開かれた教育課程	社会に開かれた教育課程の考え方について学びます
第11回	教育課程と指導計画－通時性と共時性	これまで学習した考え方を基に指導計画を立案します
第12回	教育課程と指導計画－教科・領域の横断	これまで学習した考え方を基に指導計画を立案・検討します
第13回	カリキュラム評価	カリキュラムデザインにおける評価の考え方について学びます
第14回	授業のまとめとテスト	授業内容を振り返り、今後につなげます

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義内容の復習を行ってください。
指導計画の作成と発表にあたって授業時間外の準備が必要です。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）
→ 文部科学省ホームページよりダウンロードできます。http://www.mext.go.jp/a_menu/01_c.htm

【参考書】
松尾知明『新版　教育課程・方法論－コンピテンシーを育てる学びのデザイン』学文社、2018年。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加姿勢（30％）、リアクションペーパー（30％）、授業内試験（40％）等をもとに総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
活動の時間を十分に確保するようにします。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【Outline (in English)】
【Course outline】
This class aims to discuss the significance of school curriculum and methods of their development based on the study of curriculum research and the National Courses of Study. Also, the class further examines and explores the ideas and implementations of the curriculum management through case studies, curriculum development, and their evaluation.
【Learning Objectives】
Students are able to understand the significance of school curriculum, methods of their developments, and ideas and implementations of the curriculum management for competency building.
【Learning activities outside of classroom】
Review the content of each lecture. Preparation outside of class time is required for creating and presenting a lesson plan. The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
Comprehensive judgment will be made based on 30% of participation in class, 30% of reaction papers, 40% of essay test in class.

EDU200MA（教育学 / Education 200）

教育課程論

飯窪　真也

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木1/Thu.1　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
カリキュラム研究及び学習指導要領の検討をもとに、教育課程の意義や編成の方法を考察するとともに、事例研究や指導計画の立案や評価を実践することを通して、カリキュラム・マネジメントの考え方・進め方について理解する。

【到達目標】
資質・能力の育成をめざした教育課程の意義や編成の方法及びカリキュラム・マネジメントの考え方・進め方を理解している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP7」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
毎回、講義とグループワークを交えた形式で行い、リアクションペーパーを提出していただきます。
講義の後半では、グループで指導計画の作成と発表を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業で扱う内容の全体像を俯瞰します
第2回	カリキュラムとは	カリキュラムデザインの基本的な考え方について学びます
第3回	学習指導要領とは	教育課程編成の基準となる学習指導要領について学びます
第4回	学習指導要領の変遷	教育課程編成の基準となる学習指導要領の移り変わりについて考察します
第5回	学習指導要領改訂の要点	新学習指導要領改訂の要点について学びます
第6回	教育内容の選択	教育内容選択の原理について学びます
第7回	教育内容の組織化	教育内容を組織化する際の基本的な考え方について学びます
第8回	学力論の系譜	学力についての考え方を学びます
第9回	カリキュラム・マネジメント	カリキュラム・マネジメントの考え方について学びます
第10回	社会に開かれた教育課程	社会に開かれた教育課程の考え方について学びます
第11回	教育課程と指導計画－通時性と共時性	これまで学習した考え方を基に指導計画を立案します
第12回	教育課程と指導計画－教科・領域の横断	これまで学習した考え方を基に指導計画を立案・検討します
第13回	カリキュラム評価	カリキュラムデザインにおける評価の考え方について学びます
第14回	授業のまとめとテスト	授業内容を振り返り、今後につなげます

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義内容の復習を行ってください。
指導計画の作成と発表にあたって授業時間外の準備が必要です。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）→ 文部科学省ホームページよりダウンロードできます。http://www.mext.go.jp/a_menu/01_c.htm

【参考書】
松尾知明『新版　教育課程・方法論－コンピテンシーを育てる学びのデザイン』学文社、2018年。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加姿勢（30％）、リアクションペーパー（30％）、授業内試験（40％）等をもとに総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
活動の時間を十分に確保するようにします。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【Outline (in English)】
【Course outline】
This class aims to discuss the significance of school curriculum and methods of their development based on the study of curriculum research and the National Courses of Study. Also, the class further examines and explores the ideas and implementations of the curriculum management through case studies, curriculum development, and their evaluation.
【Learning Objectives】
Students are able to understand the significance of school curriculum, methods of their developments, and ideas and implementations of the curriculum management for competency building.
【Learning activities outside of classroom】
Review the content of each lecture. Preparation outside of class time is required for creating and presenting a lesson plan. The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
Comprehensive judgment will be made based on 30% of participation in class, 30% of reaction papers, 40% of essay test in class.

EDU200MA（教育学 / Education 200）

教育課程論

川津　貴司

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：金6/Fri.6　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
カリキュラム研究及び学習指導要領の検討をもとに、教育課程の意義や編成の方法を考察するとともに、事例研究や指導計画の立案や評価を実践することを通して、カリキュラム・マネジメントの考え方・進め方について理解する。

【到達目標】
資質・能力の育成をめざした教育課程の意義や編成の方法及びカリキュラム・マネジメントの考え方・進め方を理解している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP7」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
毎回の授業は「テキストの講読」という形式で行う。具体的には、学生による「レジュメ発表」（テキストの内容説明）と、グループを作っての「話し合い」の二部構成で進める。また学生には、毎回の授業の前にテキストをあらかじめ読み、「小レポート」を作成してきてもらう。
フィードバックの方法としては、毎回の「小レポート」に対して教員からコメントを付して返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	コンテンツからコンピテンシーへ
第2回	カリキュラムとは	学びの経験のデザイン
第3回	教育内容の選択	教育の目的
第4回	教育内容の組織化	教育内容の選択・配列
第5回	学習指導要領とは	性格及び位置付け
第6回	学習指導要領の変遷	歴史的な展開
第7回	学習指導要領改訂の要点	教育課程編成の目的及び基本原理
第8回	学力論の系譜	学力はどのように問題となってきたか
第9回	カリキュラム・マネジメント	カリキュラム・マネジメントの考え方・進め方
第10回	社会に開かれた教育課程	教育課程のデザイン
第11回	教育課程と指導計画－通時性と共時性	指導計画のデザイン
第12回	教育課程と指導計画－教科・領域の横断	学年・学期・単元をまたぐ視点
第13回	カリキュラム評価	ＰＤＣＡサイクルとカリキュラムの改善
第14回	授業のまとめとテスト	総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業の前にテキストを読み、「小レポート」を作成する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキスト（教科書）は指定なし。プリントを配布する。

【参考書】
文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）
松尾知明『新版　教育課程・方法論－コンピテンシーを育てる学びのデザイン』学文社、2018年。

【成績評価の方法と基準】
教育課程の意義や編成の方法及びカリキュラム・マネジメントの考え方・進め方を理解したか、という観点から評価を行う。
毎回の小レポート（５０%）、期末試験（５０%）をもとに総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生さんどうしの意見交換を大切にし、「話しやすい」環境づくりを心がけています。
「他の学生さんの考え・意見をいろいろ聞いてみたい」という人にも向いている授業です。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
授業の進め方などについては、受講者と相談のうえ最終的に決定します。初回授業には必ず出席してください。
また前述のとおり、「話し合い」を積み重ねていく授業なので、継続的に参加できる人が受講してください。
この授業では、自由を重んじ社会の進歩に寄与する教師の育成をめざします。

【Outline (in English)】
This class aims to discuss the significance of school curriculum and methods of their development based on the study of curriculum research and the National Courses of Study. Also, the class further examines and explores the ideas and implementations of the curriculum management through case studies, curriculum development, and their evaluation.
Students are able to understand the significance of school curriculum, methods of their developments, and ideas and implementations of the curriculum management for competency building.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following,
Term-end examination: 50%, Short reports : 50%

EDU200MA（教育学 / Education 200）

教育方法論（ICT活用を含む）

岩本　俊一

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：火3/Tue.3　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教育の方法や技術のなかにICTの活用を位置づけ、基礎的な理論や概念、活用法を学ぶとともに、それらの知識・技能をもとに資質・能力を育成するための学習指導案を作成する。

【到達目標】
資質・能力の育成をめざして、教育の方法や技術、ICTの活用に関する基礎的な知識・技能を身に付けるとともに、学習指導案を効果的に作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP7」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
まず、教育における方法の問題を、教授技術の学として成立するにいたる道筋をたどる中で論じるとともに日本の学校教育における具体的ありかたをいくつかの実践例を取り上げて分析する。さらに情報通信技術の活用を教師の専門性とかかわらせて考察する。
　課題等を課した場合には、課題締切後の授業冒等、適宜フィードバックの機会を設ける予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	ねらいと概要
第2回	教育方法、ICTの活用と教師の専門性	教師の専門性について考える。その際、ICTの活用についても留意する
第3回	教育方法とICTの基礎的理論と実践	児童生徒の学びと学習理論についてICTの活用を含めて考える。
第4回	ICT活用の意義と理論	ICTを用いた教育の在り方について考察する。
第5回	新学習指導要領と教育方法、ICTの活用	新学習指導要領とICTを活かした資質・能力の育成について論じる
第6回	教育方法と情報活用能力（情報モラルを含む）	教育方法と情報活用能力について論じる。
第7回	教育目標とICTを活用した授業のデザイン	単元学習活動における目標及び設定について論じる（ICT活用を含む）
第8回	学力と評価の観点（ICT活用を含む）	ICT活用の観点を含めた評価の考え方・進め方について論じる
第9回	主体的・対話的で深い学びとICTの活用	主体的な学び/対話的な学びについて論じる
第10回	個に応じた指導の工夫とICTの活用	個に応じた指導について考える
第11回	ICT活用を含めた教材の作成・活用	情報機器の基本的な使用方法及び活用方法について
第12回	発問や板書、ICT活用などの指導技術	発問や板書などの指導の基本的技術について論じる
第13回	ICT活用を考慮した学習評価	ICT活用を考慮した評価の考え方・進め方について論じる
第14回	授業のまとめ、テスト	ふりかえりと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義の後に内容をまとめるなど、復習を通じて理解を深めること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は特に使用しない。

【参考書】
文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）、松尾知明『新版 教育課程・方法論－コンピテンシーを育てる学びのデザイン』学文社、2018年。

【成績評価の方法と基準】
期末に行われる試験（授業内試験）100％で評価する。
平常点は加味しない。

【学生の意見等からの気づき】
指摘された点については、予測された点も多々あり、慎重に検討しつつ真摯に改善に努める予定である。

【Outline (in English)】
【Course outline】
The aim of this course is to help students understand basic concepts, ideas and application regarding education methods and techniques, information communication technology (ICT) and teaching materials, and students are further able to design lesson plans effectively for competency building
【Learning objectives】
Students are able to understand basic concepts, ideas and application regarding education methods and techniques, information communication technology (ICT) and teaching materials, and students are further able to design lesson plans effectively for competency building
【Learning activities outside of classroom】
Make an effort to rewiew, such as summarizing the content after the lecture. Time for preparation and rewiew is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
Evaluated only by the final exam(１００%).

EDU200MA（教育学 / Education 200）

教育方法論（ICT活用を含む）

松尾　知明

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：月4/Mon.4　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
資質・能力を育成する教育への転換が求められるなかで、教育の現場では教師一人ひとりに授業デザイン力が求められる時代になっている。本授業は、教育の方法や技術のなかに情報通信技術の活用を位置づけ、基礎的な理論や概念、活用法を学ぶとともに、それらの知識・技能をもとに資質・能力を育成するための学習指導案を作成する。

【到達目標】
資質・能力の育成をめざして、教育の方法及び技術、情報通信技術の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付けるとともに、学習指導案を効果的に作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP7」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
対面で授業を実施し、学習支援システムを活用する。教育の方法及び技術、情報通信技術についての基礎的な概念、考え方や活用法を学ぶとともに、それらの知識・技能をもとに資質・能力を育成するための単元指導計画を作成する。授業のなかで課題についてのフィードバックを行う。授業中・復習に使用するので教科書を必ず購入すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション、教育方法と中心的な課題としての情報通信技術の活用	学びのイノベーションの時代
第2回	教育方法、情報通信技術活用（学習指導と校務）と教師の専門性	学びのデザイン力をつけるには
第3回	教育方法と情報通信技術の基礎的理論と実践	学びと学習理論
第4回	情報通信技術の活用の意義と理論	情報通信技術による教育の革新
第5回	新学習指導要領と教育方法、情報通信技術の活用	資質・能力の育成に向けて
第6回	教育方法と情報活用能力	学習活動の構想
第7回	教育目標と情報通信技術を活用した授業のデザイン教育の内容と学習活動	単元設定の理由、単元の目標単元と指導計画、学習活動の構想
第8回	学力と評価の観点（情報通信技術を含む）	評価規準の設定
第9回	主体的・対話的で深い学びと情報通信技術の活用	思考力を育む
第10回	個に応じた指導の工夫と情報通信技術の活用	一斉指導から個に応じた指導へ
第11回	教材の作成・活用と情報通信技術の活用	学びのツール
第12回	学習評価と情報通信技術の活用	評価の考え方・進め方
第13回	発問や板書、情報通信機器などの指導技術	授業を実践する
第14回	教育方法と情報通信技術の活用に関する授業まとめ	授業の振り返り、テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の準備として、教科書の該当する部分や資料を読んでくるとともに、課された課題を行う。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
松尾知明『新版　教育課程・方法論－コンピテンシーを育てる学びのデザイン』学文社、2018年。

【参考書】
文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）

【成績評価の方法と基準】
授業への参加姿勢（30％）、課題（40％）、テスト（30％）等をもとに総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
議論の問いを工夫をする。

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】
This class aims to examine basic concepts, ideas and application of education methods and techniques. Also, on the basis of this knowledge and skills, the class further discusses how to develop lesson plans to enhance competencies and actually design them.
【到達目標（Learning Objectives）】
Students are able to understand basic concepts, ideas and application regarding education methods and techniques, information communication technology (ICT) and teaching materials, and students are further able to design lesson plans effectively for competency building.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Students will be expected to read the text and materials, prepare a presentation, research teaching materials and write lesson plans.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】
Grading will be decided based on in class contribution (30%), assignments and presentations (40%) and term-end examination (30%).

EDU200MA（教育学 / Education 200）

教育方法論（ICT活用を含む）

黄　郁倫

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：月2/Mon.2　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教育の方法や技術のなかにICTの活用を位置づけ、教育方法の基礎的な理論や概念、ICT活用法を学ぶとともに、それらの知識・技能をもとに資質・能力を育成するための学習指導案を作成する。

【到達目標】
資質・能力の育成をめざして、教育の方法や技術、ICTの活用に関する基礎的な知識・技能を身に付けるとともに、学習指導案を効果的に作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP7」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
本授業は、講義とともに主にグループディスカッションを行われる。事例は、VTRなども利用しできるだけ具体的に紹介することを心がける。また、毎回授業の際には、振り返りのコメントペーパーの提出を求める。振り返りのフィードバックは、毎回授業の始めの時間で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	教育方法と中心的な課題としてのICTの活用
第2回	教育方法、ICT活用（学習指導の校務）と教師の専門性	教師の専門性を探りながら教育方法を考える。
第3回	教育方法とICTの基礎的理論と実践	教育方法の理論基礎を遡る。
第4回	ICTを活用した学習指導と校務（総合型校務支援システムを含む）の意義と理論	ICT教育の背景を紹介する。
第5回	新学習指導要領と教育方法、ICT（情報モラルを含む等での横断的活用）	ICT教育の理論を紹介する。
第6回	教育方法と情報活用能力（情報モラルを含む）	授業におけるICT教育の実践を紹介する。
第7回	教育目標とICTを活用した授業のデザイン	指導案の作成について考える。
第8回	学力と評価の観点（ICT活用を含む）	学力と評価の関係について考える。
第9回	主体的・対話的で深い学びとICTの活用	アクティブ・ラーニングについて考える。
第10回	個に応じた指導の工夫とICTの活用	個別最適化について考える。
第11回	教材の作成・活用と各教科等の特性に応じたICT（情報モラルを含む）の活用	教材研究とICT機材の活用についてを紹介する。
第12回	発問や板書、ICT活用などの指導技術	教材研究とICT教育の活用の実践を紹介する。
第13回	学習評価とICT活用	評価の仕方について考える。
第14回	教育方法とICT活用に関する授業のまとめ、テスト	授業のまとめをする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
扱う概念や理論が多岐に亘るため、受講者には、レジュメや参考文献を活用して毎回の復習を丁寧に行うことが求められる。また、授業の内容により、文献の読みや資料の調査が宿題として出される。本授業の準備・復習時間は、各４時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
佐藤学　『教育の方法』　左右社、2010年
秋田喜代美　『新しい時代の教職入門　改訂版』　有斐閣アルマ、2015年
文部科学省　「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」「教育の情報化に関する手引」（最新版）
松尾知明　『新版 教育課程・方法論－コンピテンシーを育てる学びのデザイン』学文社、2018年。

【成績評価の方法と基準】
コメントペーパー及び授業への参加姿勢40％、ホームワーク20％、期末レポート40％等をもとに総合的に評価する

【学生の意見等からの気づき】
ディスカッションの時間と個人の振り返りの時間をバランスを取って保障する。

【Outline (in English)】
[Course outline]
This course aims at providing the basic theory and concept of pedagogical methods as well as the skills of using ICT technology in class in order to make students have the ability to create lesson plans based on the knowledge and skills listed in National Learning Guidance.
[Learning objects]
Students should be able to have knowledge and skills related to educational methods, use ICT for education, and effectively create lesson plans based on National Learning Guidance.
[Learning activities outside of classroom]
This course requires about 4 hours of reviewing and doing assignments after class.
[Grading criteria/Policy]
Attendance and learning attitudes 40%
Assignments 20%
Final report 40%

EDU200MA（教育学 / Education 200）

教育方法論（ICT活用を含む）

黄　郁倫

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：火2/Tue.2　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教育の方法や技術のなかにICTの活用を位置づけ、教育方法の基礎的な理論や概念、ICT活用法を学ぶとともに、それらの知識・技能をもとに資質・能力を育成するための学習指導案を作成する。

【到達目標】
資質・能力の育成をめざして、教育の方法や技術、ICTの活用に関する基礎的な知識・技能を身に付けるとともに、学習指導案を効果的に作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP7」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
本授業は、講義とともに主にグループディスカッションを行われる。事例は、VTRなども利用しできるだけ具体的に紹介することを心がける。また、毎回授業の際には、振り返りのコメントペーパーの提出を求める。振り返りのフィードバックは、毎回授業の始めの時間で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	教育方法と中心的な課題としてのICTの活用
第2回	教育方法、ICT活用（学習指導の校務）と教師の専門性	教師の専門性を探りながら教育方法を考える。
第3回	教育方法とICTの基礎的理論と実践	教育方法の理論基礎を遡る。
第4回	ICTを活用した学習指導と校務（総合型校務支援システムを含む）の意義と理論	ICT教育の背景を紹介する。
第5回	新学習指導要領と教育方法、ICT（情報モラルを含む等での横断的活用）	ICT教育の理論を紹介する。
第6回	教育方法と情報活用能力（情報モラルを含む）	授業におけるICT教育の実践を紹介する。
第7回	教育目標とICTを活用した授業のデザイン	指導案の作成について考える。
第8回	学力と評価の観点（ICT活用を含む）	学力と評価の関係について考える。
第9回	主体的・対話的で深い学びとICTの活用	アクティブ・ラーニングについて考える。
第10回	個に応じた指導の工夫とICTの活用	個別最適化について考える。
第11回	教材の作成・活用と各教科等の特性に応じたICT（情報モラルを含む）の活用	教材研究とICT機材の活用についてを紹介する。
第12回	発問や板書、ICT活用などの指導技術	教材研究とICT教育の活用の実践を紹介する。
第13回	学習評価とICT活用	評価の仕方について考える。
第14回	教育方法とICT活用に関する授業のまとめ、テスト	授業のまとめをする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
扱う概念や理論が多岐に亘るため、受講者には、レジュメや参考文献を活用して毎回の復習を丁寧に行うことが求められる。また、授業の内容により、文献の読みや資料の調査が宿題として出される。本授業の準備・復習時間は、各４時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
佐藤学　『教育の方法』　左右社、2010年
秋田喜代美　『新しい時代の教職入門　改訂版』　有斐閣アルマ、2015年
文部科学省　「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」「教育の情報化に関する手引」（最新版）
松尾知明　『新版 教育課程・方法論－コンピテンシーを育てる学びのデザイン』学文社、2018年。

【成績評価の方法と基準】
コメントペーパー及び授業への参加姿勢40％、ホームワーク20％、期末レポート40％等をもとに総合的に評価する

【学生の意見等からの気づき】
ディスカッションの時間と個人の振り返りの時間をバランスを取って保障する。

【Outline (in English)】
[Course outline]
This course aims at providing the basic theory and concept of pedagogical methods as well as the skills of using ICT technology in class in order to make students have the ability to create lesson plans based on the knowledge and skills listed in National Learning Guidance.
[Learning objects]
Students should be able to have knowledge and skills related to educational methods, use ICT for education, and effectively create lesson plans based on National Learning Guidance.
[Learning activities outside of classroom]
This course requires about 4 hours of reviewing and doing assignments after class.
[Grading criteria/Policy]
Attendance and learning attitudes 40%
Assignments 20%
Final report 40%

EDU200MA（教育学 / Education 200）

教育方法論（ICT活用を含む）

川津　貴司

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：金6/Fri.6　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教育の方法や技術のなかにICTの活用を位置づけ、基礎的な理論や概念、ICTの活用法を学ぶとともに、それらの知識・技能をもとに資質・能力を育成するための学習指導案を作成する。

【到達目標】
資質・能力の育成をめざして、教育の方法や技術、ICTの活用に関する基礎的な知識・技能を身に付けるとともに、学習指導案を効果的に作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP7」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
毎回の授業は「テキストの講読」という形式で行う。具体的には、学生による「レジュメ発表」（テキストの内容説明）と、グループを作っての「話し合い」の二部構成で進める。また学生には、毎回の授業の前にテキストをあらかじめ読み、「小レポート」を作成してきてもらう。
フィードバックの方法としては、毎回の「小レポート」に対して教員からコメントを付して返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	教育方法の中心的課題としてのICTの活用
第2回	教育方法と教師の専門性	ICT活用（学習指導と校務）と教師の専門性
第3回	教育方法の基礎的理論と実践	ICTを活用した児童生徒の学びと学習理論
第4回	ICT活用の意義と理論	ICTを活用した学習指導と校務（統合型校務支援システムを含む）の意義と理論
第5回	新学習指導要領と教育方法、ICTの活用	情報モラルを含む各教科等での横断的活用
第6回	教育方法と情報活用能力	活動的な学びの組織化（情報モラルを含む）
第7回	教育目標と授業のデザイン	単元設定の目標（ICT活用を含む）
第8回	学力の観点	ICTを活用した学力の観点
第9回	主体的・対話的で深い学び	対話的学びとICTの活用
第10回	個に応じた指導の工夫	ICTを活用した個性を生かす方法
第11回	教材の作成・活用	各教科等の特性に応じたICT（情報モラルを含む）の活用
第12回	発問や板書などの指導技術	ICTを活用した指導技術を事例から学ぶ
第13回	学習評価	評価におけるICTの活用
第14回	教育方法とICT活用に関する授業のまとめ、テスト	総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業の前にテキストを読み、「小レポート」を作成する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキスト（教科書）は指定しない。プリントを配布する。

【参考書】
文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」「教育の情報化に関する手引き」（最新版）
松尾知明『新版　教育課程・方法論－コンピテンシーを育てる学びのデザイン』学文社、2018年。

【成績評価の方法と基準】
教育の方法及び技術、ICT及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付け、単元指導計画を効果的に作成することができるか、という観点から評価を行う。
毎回の小レポート（５０%）、期末試験（５０%）をもとに総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生さんどうしの意見交換を大切にし、「話しやすい」環境づくりを心がけています。
「他の学生さんの考え・意見をいろいろ聞いてみたい」という人にも向いている授業です。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
授業の進め方などについては、受講者と相談のうえ最終的に決定します。初回授業には必ず出席してください。
また前述のとおり、「話し合い」を積み重ねていく授業なので、継続的に参加できる人が受講してください。
この授業では、自由を重んじ社会の進歩に寄与する教師の育成をめざします。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This class aims to examine basic concepts, ideas and application of education methods and techniques. Also, on the basis of this knowledge and skills, the class further discusses how to develop lesson plans to enhance competencies and actually design them.
【Learning Objectives】
Students are able to understand basic concepts, ideas and application regarding education methods and techniques, information communication technology (ICT) and teaching materials, and students are further able to design lesson plans effectively for competency building.
【Learning activities outside of classroom】
Students will be expected to read the text and materials, prepare a presentation, research teaching materials and write lesson plans.Your study time will be more than four hours for a class.
【Grading Criteria/Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following,
Term-end examination: 50%, Short reports : 50%

FRI200MA（情報学フロンティア / Frontiers of informatics 200）

図書館演習

坂本　旬

単位数：4単位　｜　開講セメスター：年間授業/Yearly
曜日・時限：水5/Wed.5　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代社会における新しい図書館像の探究とメディア情報リテラシーの理解

【到達目標】
(1)ユネスコのメディア情報リテラシー教育の基本的な考え方を理解する。
(2)メディア情報リテラシー・カリキュラムに基づいた実践を行うことができる。
(3)ユネスコのメディア情報リテラシーの理念・運動にもとづいた公共図書館・学校図書館像を構想することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
ユネスコの日本語版と英語版カリキュラムをテキストとして用いてディスカッションを行う。また秋期では、一人ひとりがカリキュラムにもとづいたワークショップを企画・実施し、図書館司書としてのワークショップ実践力を身につける。
・授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
・良いリアクションペーパーは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。
・課題等の提出・フィードバックは授業支援システムを通じて行う予定。
・オフィス・アワーで、課題（試験やレポート等）に対して講評する。
・最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の内容と方法の解説
第2回	授業支援システムの使い方	司書課程専用授業支援システムHULiCの使い方を解説する
第3回	デジタル・インクルージョンの概念	デジタル・インクルージョン概念の枠組みについて学ぶ
第4回	図書館の包摂性と読書バリアフリーの必要性	図書館の包摂性と読書バリアフリー、情報アクセシビリティを学ぶ
第5回	メディア情報リテラシーの基礎理論	メディア情報リテラシーに関する基礎理論を学ぶ
第6回	メディアと情報の政策	メディア情報リテラシーにかかわる政策の見通しについて学ぶ
第7回	メディアと情報に関する基礎理解	民主主義社会におけるメディアと情報に関する基礎知識を学ぶ
第8回	メディアと情報の評価	メディアと情報の評価方法について学ぶ
第9回	メディアと情報の創造と活用	メディアと情報の創造や活用方法の基礎を学ぶ
第10回	司書・司書教諭の能力	実践の核になる司書や司書教諭の能力について学ぶ
第11回	メディア情報リテラシーと学校図書館	ユネスコのメディア情報リテラシーと学校図書館の役割について学ぶ
第12回	メディア情報リテラシーと公共図書館	ユネスコのメディア情報リテラシーと公共図書館の役割について学ぶ
第13回	図書館におけるデジタル・ストーリーテリングの必要性	図書館におけるデジタル・ストーリーテリング実践の有効性を学ぶ
第14回	デジタル・ストーリーテリング制作実習	デジタル・ストーリーテリング制作の実際を体験する
15	秋学期ガイダンス	春学期の振り返りと秋学期授業のガイダンス
16	シチズンシップ、表現・情報の自由と生涯学習	シチズンシップ、表現・情報の自由と生涯学習について学ぶ
17	ニュース、メディア倫理と情報倫理	ニュース、メディア倫理と情報倫理について学ぶ
18	メディアと情報のリプレゼンテーション	メディアと情報のリプレゼンテーションについて学ぶ
19	メディアと情報の言語	メディアと情報の言語について学ぶ
20	情報メディアと広告	広告について学ぶ
21	新旧のメディア	新旧のメディアについて学ぶ
22	インターネットの機会と挑戦	インターネットの機会と挑戦について学ぶ
23	情報リテラシーと図書館スキル	情報リテラシーと図書館スキルについて学ぶ
24	コミュニケーション、メディア情報リテラシーと学習	コミュニケーション、メディア情報リテラシーと学習について学ぶ
25	メディアの技術	メディアの技術について学ぶ
26	デジタル・ブックトーク制作の方法	デジタル・ブックトークの方法を学び、プランを作る
27	デジタル・ブックトークの制作	デジタル・ブックトークを制作する
28	デジタル・ブックトークの発表	制作したデジタル・ブックトークを発表する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
司書課程専用授業支援システム(HULiC)を用いた事前学習および宿題をする。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
坂本旬『メディアリテラシーを学ぶ』大月書店(2022年)

【参考書】
坂本旬『メディア情報教育学』法政出版局（2014年）
寺崎里水・坂本旬『地域と世界をつなぐSDGsの教育学』(2021年)

【成績評価の方法と基準】
小テスト30％、提出課題30％、平常点40％

【学生の意見等からの気づき】
多様な専門家をゲストとして授業に呼ぶことで授業に活気が出た。後半ではディスカッション主体の授業をすることができた。

【学生が準備すべき機器他】
ノートPCを用意すること。
本授業では動画の提出に法政大学のBOXを使用する。使用方法は以下のリンクを参照すること。
https://netsys.hosei.ac.jp/protected/manual/distance/manual-box.html

【その他の重要事項】
実習として映像制作（デジタル・ストーリーテリングおよびデジタル・ブックトーク）を行う。

【授業中に求められる学習活動について】
A,B,C,D,E,F,G,H

【Outline (in English)】
Exploration of the new image of libraries in modern society and an understanding of media information literacy.

(1) To understand the basic concept of media information literacy of UNESCO.
(2) To be able to practice based on the media and information literacy curriculum.
(3) To be able to conceptualize the image of public libraries and school libraries based on UNESCO's media and information literacy principles and movements.
The goal is to understand UNESCO's Media and Information Literacy (MIL), to be able to implement practices based on the MIL curriculum, and to be able to envision a public or school library based on MIL.
Grading criteria are as follows. 30% for quiz, 30% for report, and 40% for attitude.
Students will be required to do prep work and homework prepared in advance.
For film production, students will conduct interviews and edit videos outside of class time. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

FRI200MA（情報学フロンティア / Frontiers of informatics 200）

図書館演習

村上　郷子

単位数：4単位　｜　開講セメスター：年間授業/Yearly
曜日・時限：月5/Mon.5　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期は、講義のほか、グループによる研究調査とその発表を行い、公共図書館を取りまく様々な課題について理解を深める。秋学期は、グループによる公共図書館へのフィールド調査やプレゼンを行うことにより、公立図書館の現状と課題について総合的に理解する。

【到達目標】
春学期は、講義のほか、学生による研究発表を行うことにより、公立図書館の現状と課題について理解することができる。
秋学期は、東京23区中央立図書館を中心に、グループによる対面・参与調査を行い、個別事例に基づく図書館の現状と課題について総合的に理解することができる。また、プレゼンにおける配付資料、プレゼン資料、おしゃべり原稿（シナリオ）などを作成することにより、実践的なメディア情報リテラシーのスキルを習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar、Z その他 /Other

【授業の進め方と方法】
授業は、春・秋共に初回のみオンラインで行う。Hoppiiで、ZoomのURLを確認すること。
春学期は、図書館環境や情報資源のデジタル化、司書の雇用形態、多様なサービスなどについての中間報告及び調査報告のプレゼンを行い、調査内容に関する報告書を提出する。その際、各項目の課題について指摘し、課題の解決策・提案等も提示すること。
　秋学期は、グループによる中間報告及び現地調査を行うことにより、図書館の実際についての理解を深め、その調査結果のプレゼンテーションを行う。
　春・秋学期、それぞれ授業で学んだことをまとめた学期末レポートを提出する。また、授業の一環として、協働学習およびメディア情報リテラシーに関するアンケート調査を実施する。自身のメディア情報リテラシーのスキル・能力について自己評価をすることによって、どのスキル・能力がどの程度伸びたのかを客観的にみるためのものである。
　アンケート調査やグループディスカッションの感想等については、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス（オンライン）	春学期授業及び授業用グループウェア(HULiC)の利用ガイダンスについて
第2回	図書館政策の動向	主として、公共図書館の図書館政策及び政策の変遷を多様な情報資源から分析
第3回	図書館サービスの策定と課題	公共図書館の多様な利用者を対象にした多様なサービスの現状と課題
第4回	公立図書館の現状と課題①	知的自由と検閲
第5回	公立図書館の現状と課題②	図書館職員の役割と労働形態（指定管理者制度を含む）
第6回	公立図書館の現状と課題③	民間企業・NGO、行政、大学研究機関などを含めた市民との協働
第7回	公立図書館の現状と課題④	図書館環境及び情報資源のデジタル化の現状と課題（中間報告書を課す）
第8回	グループ活動 オリテン＋ブレインストーミング	オリテン＋ブレインストーミング、各自の中間報告書（調べた内容）を基に研究テーマと課題を決める。
第9回	グループ活動①	グループによる言及テーマと課題、調査方法などを略式の中間発表によって共有する。 グループによる研究発表の準備①
第10回	グループ活動②	グループによる研究発表の準備②グループ内での役割分担及びパワポのスライドたたき台を作成
第11回	グループ活動③	グループによる研究発表の準備③発表での出し物を考える。同時に発表資料やパワポのスライド等を精査する。
第12回	グループ活動④	グループによる研究発表の準備及びリハーサル④（予備）
第13回	学生による研究発表①	主たるテーマを軸にした2つのテーマについて発表する。発表後はプレゼンの評価を行う。
第14回	学生による研究発表②	主たるテーマを軸にした2つのテーマについて発表する。発表後はプレゼンの評価を行う。時間が許せば、簡単なまとめの議論を行う。
15	秋学期授業ガイダンス（オンライン）	公立図書館の比較概要
16	東京23区中央図書館の動向①	個人・グループの調査対象図書館の選定
17	東京23区中央図書館の動向②	調査対象図書館及びグループの確定、アポの取り方
18	調査計画案作成①（グループ）	インタビューの極意、調査テーマの決定
19	調査計画案作成②（グループ）	調査でのインタビュー項目の決定、現地調査の結果提出
20	発表順の抽選	個人によるグループ活動報告書提出①
21	グループ調査進行状況チェック①	配付資料作成の極意
22	グループ調査進行状況チェック②	プレゼン資料作成の極意
23	グループ調査進行状況チェック③	プレゼンの極意、インタビュー調査の結果提出
24	グループ調査進行状況チェック④	グループ活動
25	リハーサル(予備)	グループによる配付資料提出、プレゼンのリハーサル
26	グループ・プレゼンテーション①	プレゼンの実践と評価。事前に決められたプレゼンの順番に従い、進めていく。
27	グループ・プレゼンテーション②	プレゼンの実践と評価。各グループの評価は個人情報を抜いた形で量的・質的（コメント等）評価を公開する。
28	公共図書館の現状と課題・グループ活動総括	振り返り・総合ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　春学期は、研究発表の準備や研究課題について、グループで十分に話し合いの時間を確保すること。

秋学期は、グループや個人による現地調査や班活動がメインになるので、受講生には授業への積極的な参加とリーダシップが求められる。また、授業時間外のグループ活動が入ってくることを了承しておくこと。

授業用グループウェア(Hoppii)を教員及び学生同士のコミュニケーションツールとして活用する。グループ活動では、Hoppiiだけではなく、簡単な確認のためのコミュニケーションツールとしてLINE等を含むSNSも積極的に活用すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし。

【参考書】
必要な資料や参考文献等は、適時提示する。

【成績評価の方法と基準】
（1）グループ活動・授業への参加と貢献度、及びプレゼンテーション（配付資料、プレゼン資料等）（春学期15％＋秋学期15％＝合計30％）
（2）個人の課題・アンケート＋個人の覆面調査など（20％）
（3）課題研究に関する報告書＋春・秋学期末レポート（50％）
授業の性質上、授業への出席とグループ活動への参加が重視される。出席は80％を目安とする。欠席は3回までは不問とする。正当な理由がなく出席不良（14回中10回以下）のものは、「（1）グループ活動・授業への参加と貢献度、及びプレゼンテーション」の部分は０とする。正当な理由があるため４回以上欠席するものは、欠席理由を記した証明書を持参すること。トータルで５回以上無断欠席する・したものの成績は、理由の如何を問わず原則として０とする。

全ての班活動のプロセス、毎回の宿題・決定事項、共有ファイル（文書・パワポ・画像・他）提出物等はグループ活動の記録として共有するため、必ず授業用グループウェア(HULiC)上にアップロードすることを原則とする。また、授業での全ての提出物は、授業用グループウェア上にアップロードすることを原則とする。よって、アップロードが不完全であったり、なされていない場合は成績の評価はできないため、０になる。ファイルをアップロードをする際、必ずリンクの確認をすること。

【学生の意見等からの気づき】
シラバス原稿作成時アンケート結果集計中

【Outline (in English)】
During the spring semester, in addition to lectures, students will conduct group research inquiries and presentations to deepen their understanding of various issues surrounding public libraries. In the fall semester, through group field research at public libraries and presentations, students will gain a comprehensive understanding of the current state and challenges facing public libraries.

FRI200MA（情報学フロンティア / Frontiers of informatics 200）

図書館演習

竹之内　禎

単位数：4単位　｜　開講セメスター：年間授業/Yearly
曜日・時限：金3/Fri.3　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目は春期のテーマを「生きるための本と図書館の世界」、秋期のテーマを「書物の歴史と教養の形成」とします。春期は、本と図書館の知識を「生きる意味」の発見・実現に生かす「実践知」の基盤を身に着けることをめざします。秋期は、西洋を中心に、文学史、思想史、学問史における重要著作をおさえつつ、古代ギリシャから近現代までの主要な書物を取り上げ、教養の基礎となる書物の知識を獲得することをめざします。年間を通じて、学生による選書と書籍紹介を毎回の課題とし、話題を共有していきます。大人の心に効く絵本を紹介する絵本セラピーの方法も学びます。総合的に、教養の読書を自分自身の生涯にわたる人格形成の力として高めていく基礎を培うことをめざします。なお、進路として司書をめざす方のサポートも行います。

【到達目標】
(1)さまざまな状況にある人々の「いきがい」や「生きる意味」を、フランクルの創造価値、体験価値、態度価値というキーワードからとらえ、その充実のための支援について、司書課程で学んだ情報リテラシー（問題解決のための情報資源活用能力）を応用できるようになること。
(2)生涯を通じて自分自身の人格形成に資する学びを続けるために、本の世界への知識と関心を広めること。特に西洋を中心とした文学史、思想史、学問史における重要著作の概要を説明できるようになること。
(3)絵本セラピーや朗読会、読書会などのブックコミュニケーション（本を通じたコミュニケーション）の手法を学び、大人が読書を楽しむ方法、自分自身が「教養の読書」を実践する方法を確立すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
・テキスト『生きる意味の情報学』から論点を抽出し、関連する話題と書籍・映像メディア等を紹介しあい、意見交換を行います。
・図書の歴史については、図書館やメディアの歴史とあわせて知識として教授するとともに、毎回、関連情報を調べる課題を課します。
・ブックコミュニケーションについては、古今東西の書物を題材に、本だけでなくメディアミックス作品（漫画、アニメ、映画等）も視野に入れ、作品の相互紹介と意見交換をしていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス 生きる意味の思想と実践：フランクル・ロゴセラピーの世界	テキスト第1章の論点をまとめ、ヴィクトール・E・フランクルの「生きる意味」の思想について、創造価値・体験価値・態度価値の観点から学ぶ。
第2回	自己実現から意味実現へ：ロゴイストのすすめ LIFEの核はIF	テキスト第3章前半の論点をまとめ、「やりたいこと」と「意味あること」の違い、PTSDとPTGの違いについて学ぶ。コラム3を参考に、人生のIFについて考察する。
第3回	人生の岐路に向き合う	テキスト第3章後半の論点をまとめ、仕事の選び方、仕事に取り組む姿勢について学ぶ。コラム4を参考に「自分にあるもの・できることシート」を作成する。
第4回	声に乗せて届ける	テキスト第4章とコラム5を参考に、「声に乗せて届ける」活動をしているYouTube等の動画（朗読など）を探索する。著作権についても考慮する。参考動画：『この声をきみに』（NHKオンデマンドで有料配信）
第5回	ボランティアを通じた創造価値	テキスト第5章を参考に、録音図書及びバリアフリー情報資源について学び、ボランティアや寄付を通じた創造価値について考察する。
第6回	見えない世界を生きる原動力	テキストの第6章を参考に、視覚障害者にとっての生きる意味について考察する。参考文献：穴澤雄介『見えなくなったら希望が見えた』、ヨシタケシンスケ『みえるとかみえないとか』、伊藤亜紗『目の見えない人は世界をどう見ているのか』。
第7回	絵本セラピーとの出会い：言葉の奥にあるcompassion	テキスト第7章の論点をまとめ、絵本セラピーの方法と考え方について学ぶ。絵本セラピーのプログラムを作成する。
第8回	読書の体験を伝える：読書感想文とビブリオバトル	テキスト第8章の論点をまとめ、身近な書籍でミニ読書感想文を作成し、動画を視聴してビブリオバトルの実際について学ぶ。
第9回	精神次元を体験する旅：消費の観光を超えて 本で旅する／本が旅する 登山は哲学とともに	テキスト第9章の論点をまとめ、精神次元を体験する旅の論点について学ぶ。コラム9, 10を参考に旅に関する書籍・映画・ドラマを探索する。
第10回	ネット・ゲーム依存は子どものSOS	テキスト第10章の論点をまとめ、ネット・ゲーム依存と読書の効用について検討する。
第11回	喪失体験と意味の回復	テキスト第11章の論点をまとめ、喪失体験と意味の回復について、悲哀と抑鬱の違いを中心に学ぶ。また、グリーフケアに関連する書籍を紹介しあう。
第12回	それでも人生にイエスと言う	テキスト第12章とコラム12を参考に、不可避の運命に対して意味を見出す姿勢、苦悩する人に寄り添う姿勢を学ぶ。
第13回	共創・共感・共苦のメディア	テキスト終章の論点をまとめ、共創・共感・共苦のメディアの考え方について、図書館を例として検討する。
第14回	意味発見シート 暮らしの風景を生きる	第2章を参考に、「意味発見シート」に取り組む。「暮らしの風景を生きる」をテーマにまちづくり（シティプロモーション）の論点について学ぶ。「暮らしの風景」を写真におさめる。観光資源としての図書館について考える。
第15回	古代ギリシャの著述家と著作	ギリシャ哲学、ギリシャ悲劇ほか
第16回	古代アレクサンドリア図書館①	古代の知識を集積したプトレマイオス朝エジプトの王立図書館の歴史
第17回	古代アレクサンドリア図書館②	古代アレクサンドリア図書館を舞台とした作品

第18回	古代ローマの著述家と著作	キケロ、カエサル、セネカ、プリニウスほか
第19回	キリスト教と聖書	日本語版・英語版・ドイツ語版の比較
第20回	中世前期の三つの世界：西欧、東ローマ、イスラム世界	西欧の写本づくりとビザンツの書物、イスラムの科学と文学
第21回	イスラム世界の著述家と著作	イスラム科学、アラビアン・ナイト
第22回	中世後期からルネサンス期の著述家と著作	普遍論争、騎士道物語、ダンテ、ペトラルカ、シェイクスピア
第23回	ドイツの著述家と著作	ドイツ史と作品：ファウスト、モモ、ドイツ観念論、実存思想
第24回	フランスの著述家と著作	フランス史と作品：星の王子さま　ほか
第25回	イギリスの著述家と著作	英国史と作品：ガリバー旅行記、不思議の国のアリス　ほか
第26回	アメリカ合衆国の著述家と著作	米国史と作品：老人と海、アルジャーノンに花束を　ほか
第27回	北欧諸国の著述家と著作	アンデルセン童話、ムーミンほか
第28回	まとめ	教養の読書

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回のテーマに関連した図書を探して、紹介する準備をしてください。本授業の予習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書『生きる意味の情報学　共創・共感・共苦のメディア』竹之内禎編著　東海大学出版部　2022.3
※通常価格だと高価なため、書店経由ではなく著者割で直接販売いたします。最初の3回の授業に必要な内容はPDFでも配布します。

【参考書】
①ヴィクトール・E・フランクル著、池田香代子訳
『夜と霧　新版』みすず書房、2002年
https://www.msz.co.jp/book/detail/03970/
②河原理子著『フランクル『夜と霧』への旅』平凡社、2012年
https://www.heibonsha.co.jp/book/b160190.html
③NHKオンデマンドで配信されている番組「100分de名著　フランクル『夜と霧』」「この声をきみに」の視聴をお勧めしています（個別契約が必要です）。
https://www.nhk.or.jp/meicho/famousbook/14_frankl/index.html
https://www.nhk-ondemand.jp/goods/G2012039429SA000/
https://www.nhk-ondemand.jp/program/P201700157600000/index.html

【成績評価の方法と基準】
毎回の授業後の課題（50％）
授業内での報告及びコメント（50％）

【学生の意見等からの気づき】
テーマによって外部のゲスト講師を招く可能性があります。また、長期休み中に図書館や大型書店、絵本専門店等の見学、読書関連イベントへの参加（任意）も行えればと考えています。

【その他の重要事項】
本科目は対面授業を基本としながら、オンライン授業も取り入れるハイブリッド形式で実施予定です。「図書館情報学概論Ⅰ及び情報サービス論」あるいは「図書館情報学概論Ⅰ、Ⅱ」が履修済みであることが望ましいです（四年生、大学院生、通信教育部、科目等履修生は除く）。

【Outline (in English)】
Course outline
The theme of this class is "the world of books and libraries for fulfillment" (spring semester) and "history of books and building up knowledge" (autumn semester).
In this class, we quest the way to forming our identity by reading and library utilization.
Learning Objectives
By the end of the course, students should be able to do the followings:
(1) By applying the information literacy (the ability to use information resources for problem solving) learned in the librarian course, people living with various problems will find "meaning of life" from the perspective of creative value, experience value, and attitude value. to lead a fulfilling life, and to be linked to support at the level of action and practice
(2) To spread knowledge and interest in the world of books in order to continue learning that contributes to the formation of one's own personality throughout life. To be able to explain the outline of important works in the history of literature, the history of thought, and the history of scholarship, especially in the West.
(3) Learn book communication methods such as picture book therapy, and establish your own method of making reading habits while enjoying adult reading.
Learning activities outside of classroom
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Grading Criteria /Policy
Grading will be decided based on the short reports (50%), in-class contribution including making presentations and comments (50%).

FRI200MA（情報学フロンティア / Frontiers of informatics 200）

図書館サービス概論

栗原　智久

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：金5/Fri.5　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
図書館サービスとは？　みなさんの思いうかべるものは？
この授業では、図書館サービスの意義・種類・目的・方法・目標・評価などについて学習します。
実例をもとに、また図書館の種別・属性によるところからもみてみます。
みなさんのアイデアもグループディスカッションなどを通じて掲げてもらい、考察します。

【到達目標】
①図書館サービスを理解する。
②学習したことをもとに、自ら図書館サービスをこなすことができる知識、また図書館サービスを考案できる力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
対面授業による講義が基本ですが、みなさんに能動的に考えてもらう時間、アイデアを出してもらう時間も設けます。（提出・発表）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	図書館におけるサービス	イントロダクションとして、みなさんが思いつくサービスを掲げてもらいます。その上で、図書館サービスの意義・種類・目的・方法などについて考えます。
第2回	情報サービス	図書館における情報サービスについて、レファレンスサービス・レフェラルサービス・カレントアウェアネスサービスをはじめとして、説明します。
第3回	閲覧サービス	資料提供サービスとしての閲覧サービスについて学習します。閲覧のための空間提供についてもふれます。
第4回	複写サービス	資料提供サービスとしての複写サービスについて学習します。複写に関連する著作権についてもふれます。
第5回	貸出サービス	資料提供サービスとしての貸出サービスについて学習します。自館と他館における館間相互貸借についてもふれます。
第6回	情報提供サービス	レファレンスサービスをコアに、情報を提供するとはどういうことか、学習し、考えます。
第7回	児童・生徒・学生サービス	乳幼児〜ヤングアダルト、調べ学習・総合的な学習の時間などに応えるサービスについて、具体的にみていきます。
第8回	アウトリーチサービス	通常サービスを利用するのがむずかしい人（ところ）へのサービスについて考えます。
第9回	発信型サービス	受動的ではなく能動的なサービスとしての発信型サービスについて、アナログ型・デジタル型ともにみていきます。
第10回	講座・セミナー	実例をもとに、具体的にみていきます。評価します。
第11回	連携・協力サービス	博物館など類縁機関との連携・協力、内部連携・協力について、実例をもとに、具体的にみていきます。評価します。
第12回	図書館（情報）利用教育	図書館を、図書館の情報・サービスを、利用する、利用させる情報リテラシーについて学習し、考えます。
第13回	図書館サービスのこれから	実例をもとに、ユニークなサービスをみてみます。評価します。これからの図書館サービスについて、目標を含めて考えます。
第14回	まとめと試験	まとめと試験を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の前後にプリントをよく読んで、準備・復習します。自分で気になる図書館を、訪問したり、ホームページで確認したりするなどして、授業で学習したことと照らし合わせて知識としての定着をはかってください。
実際に、宿題（課題レポート）で、図書館サービスを調査します。（提出）
毎回、準備学習に2時間、復習に2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
毎回テキストプリントを配布します。

【参考書】
授業時に複数紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点(25%)　提出物(25%)　期末試験(50%)

【学生の意見等からの気づき】
みなさんが図書館に関心があり、そのサービスに興味があることはわかっています。自らそれを積極的に調べたくなるような学習内容を目指します。

【その他の重要事項】
図書館司書課程必修科目です。
博物館図書室、公共図書館協議会での実務経験を示せればと思っています。

【Outline (in English)】
Course outline : The aim of this course is to help students understand Library Service.
Learning Objectives : By the end of the course, students should be able to do Library Service and plan for Library Service.
Learning activities outside of classroom : Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria / Policies : In-class performance(20%) Report(30%)　Term-end examination(50%)

FRI200MA（情報学フロンティア / Frontiers of informatics 200）

情報サービス演習

菅原　真悟

単位数：4単位　｜　開講セメスター：年間授業/Yearly
曜日・時限：月6/Mon.6　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報サービスとは、利用者の情報ニーズに応じ、その問題解決のために必要な情報を提供するサービスのことで、現代の図書館の重要なサービスと位置づけられている。この授業では、演習を通して次の2点を主に扱う。
1.情報源（データベース）を検索し回答する方法を学ぶ
2.発信型情報サービスのためのウェブサイト・データベースを構築する方法を学ぶ

【到達目標】
利用者の質問に回答し、回答と回答プロセスをデータベース化できるようになる。利用者教育プログラムの構築ができるようになる。発信型情報サービスのために必要なICTの基礎知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
・利用者の質問に回答する方法を学ぶ。情報源として、事典、書誌などの資料や、データベース、インターネット情報などを使えるようにする。模擬的な問答を演習に用いる。
・データベースの使い方について、利用者教育を想定した発表を行う演習を取り入れる。
・発信型情報サービスのためのウェブサイト作成、データベース構築を学ぶ。
・図書館の情報サービスについて調査し発表する課題を課す。
・毎回の授業で、授業の振り返りを掲示板に投稿する時間を設ける。
・授業の初めに、前回の授業で提出された掲示板への感想・コメントからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックする。また、必要に応じて掲示板上でも個々にフィードバックする。
・課題等の提出・フィードバックは授業支援システムを通じて行う。
・発表課題では、すべての発表について質疑応答を通じたフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス：情報サービスとは	図書館の情報サービス。利用者質問の種類と対応。利用者に回答する際に注意すべき点。
第2回	図書検索(1)	法政大学図書館OPACの使い方。
第3回	図書検索(2)	検索演算子を使った検索演習。
第4回	図書検索(3)	検索式を用いた検索方法。NDL-OPAC。
第5回	情報サービス(1)	情報サービスの現状。
第6回	情報サービス(2)	レファレンス事例データベース。
第7回	図書館に関する最新情報を探す	カレント・アウェアネスの活用方法。
第8回	論文検索(1)	CiNiiを使った論文検索（基礎）。
第9回	論文検索(2)	CiNiiを使った論文検索（応用）。
第10回	横断検索・連想検索	情報を横断的に探す方法。連想検索。
第11回	雑誌記事検索	MAGAZINEプラス・大宅壮一文庫などのデータベースの活用。
第12回	新聞記事検索	新聞社のデータベースの活用。
第13回	さまざまなデータベースを使う(1)	辞書・事典・歴史・地図検索。
第14回	さまざまなデータベースを使う(2)	統計・議会情報・法令検索・判例検索などのデータベースの活用。
第15回	春学期のまとめ	春学期の振り返りとまとめ。
第16回	ウェブ検索	ウェブで情報を探す。検索エンジンの仕組み。
第17回	人物情報検索	人物情報について調べる方法。
第18回	特許検索	特許や商標等の知財情報を調べる方法。
第19回	発信型情報サービス	これまでの情報サービスと発信型情報サービスの比較。
第20回	理系論文検索(1)	シソーラスを用いた検索。科学技術系論文を探す。
第21回	理系論文検索(2)	医学系論文を探す。
第22回	SNS演習	図書館とソーシャルメディア。
第23回	発表会(1)発信型情報サービスの現状	図書館の発信型情報サービスについて、個人またはグループで調べた内容を発表。
第24回	CMS演習(1)	CMSと図書館サイト構築の現状。
第25回	CMS演習(2)	図書館サイトのコンテンツ分析。
第26回	CMS演習(3)	CMS用いた図書館サイトの構築演習。
第27回	CMS演習(4)	グループでレファレンス演習。レファレンス事例データベースの構築。
第28回	発表会(2)新しい発信型情報サービス	新しい発信型情報サービスについて、個人またはグループで発表。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて授業でプリントを配布します。

【参考書】
講義の中で随時指示します。

【成績評価の方法と基準】
発信型情報サービスについて、グループまたは個人発表　30%
小レポートの提出、データベース演習での発表　30%
授業内演習への参加（授業への貢献）　40%
小レポート・発表の資料等はすべて授業支援システムへアップロードして提出すること。

【学生の意見等からの気づき】
情報サービスについての理解を深めるために、演習やグループディスカッションの時間を増やします。利用者教育についての理解を深めるために、レファレンスを想定した演習を増やします。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室のPCを使いますが、個人のPCを持ち込んでも構いません。

【その他の重要事項】
情報実習室で授業を行うため、人数超過の場合は抽選となります。必ず第1回目の授業に出席すること。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course covers the following:
(1) How to search information sources (databases); and
(2) How to build a website and database for an outgoing information service.
【Learning Objectives】
It will be possible to answer users' questions and make a database of answers. Students acquire the basic knowledge of ICT necessary for outgoing information services in libraries.
【Learningactivities outside of classroom】
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following
Two presentations: 30%、Short reports and presentations: 30%、in class contribution: 40%

FRI200MA（情報学フロンティア / Frontiers of informatics 200）

情報サービス演習

田中　順子

単位数：4単位　｜　開講セメスター：年間授業/Yearly
曜日・時限：金3/Fri.3　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報サービスとは、利用者の情報ニーズに応じ、その問題解決のために、情報を提供するサービスのことをいいます。現代の図書館では重要なサービスに位置づけられています。そこで、この授業では、演習をとおして情報サービスの意義と実務について学びます。

【到達目標】
情報サービスの設計から評価に至る一連の業務について、実践的な学習をとおして理解を深めます。具体的には、情報サービスの基本的な業務であるレファレンスサービス、情報検索サービスに関する実践力を身につけ、さらに図書館が積極的に情報を発信するスキルを習得します。
Students learn about how to respond user's need.
First, go to library and research various books,
Then, they present their research results and learn how to express them effectively.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
情報サービスの業務に関し実践的な力を養うため、レファレンスサービス、情報検索サービスを中心に、レファレンス・コレクションの評価、レファレンス・インタビューの技法、図書館利用教育プログラムづくりなどについての演習を行います。また、情報発信型サービスについても学びます。
学生の調査結果の発表と提出物に対し、適切なアドバイスを行います。フィードバックは、授業中に受け付けます。さらにメールアドレスを提示し、適宜受け付けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス/情報サービスの概要	授業内容と進め方について/情報検索の基礎
第2回	情報検索の基本（1）	コンピュータ検索の技術　①OPAC検索の基礎と応用
第3回	情報検索の基本（2）	コンピュータ検索の技術　②論理演算
第4回	情報検索の基本（3）	コンピュータ検索の技術　③トランケーション
第5回	情報サービスの設計	情報サービスの態勢づくり
第6回	情報資源の探し方(1)	情報資源の特徴とアクセスの方法
第7回	情報資源の探し方(2)	情報資源の活用、インターネット上の情報資源
第8回	情報検索基礎演習(1)	図書・図書情報に関する検索
第9回	情報検索基礎演習(2)	雑誌・雑誌記事に関する検索
第10回	情報検索基礎演習(3)	新聞・新聞記事に関する検索
第11回	情報検索基礎演習(4)	法律、外交資料の検索
第12回	情報検索基礎演習(5)	レファレンスブック検索
第13回	情報検索基礎演習(6)	統計の検索
第14回	情報検索基礎演習(7)/春学期のまとめ	情報検索、回答結果の評価
15	レファレンス・インタビュー(1)	インタビューの技法
16	レファレンス・インタビュー(2)	質問に対する回答の方法
17	情報検索演習(1)	「ことば」に関する課題と回答
18	情報検索演習(2)	「ひと・団体」に関する課題と回答
19	情報検索演習(3)	「とき」に関する課題と回答
20	情報検索演習(4)	「ところ」に関する課題と回答
21	情報検索演習(5)	「本・作者・作品」に関する課題と回答
22	情報検索演習(6)	「もの・事柄」に関する課題と回答
23	情報検索演習(7)	「雑誌・新聞」に関する課題と回答
24	情報検索演習(8)	書誌に関する課題と回答
25	情報検索演習(9)	インターネットで調べられない質問に対する調査
26	情報発信型サービスの実際(1)	情報発信型サービスを行っている事例について解説
27	情報発信型サービスの実際(2)	地域の特徴を生かした情報発信型サービスの実情
28	図書館利用教育の実際/秋学期のまとめ	総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義内容を復習し、与えられた課題について、図書館などで文献調査に取り組みます。本授業のための調査・復習時間は各4時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しません。

【参考書】
参考書などは、適宜授業のなかで紹介します。

【成績評価の方法と基準】
情報サービスに関する発表、演習（課題に対する回答の提出内容）によって成績を評価します。配分は発表20％、演習80％です。授業に対する積極的な貢献度が認められる場合、最終評価の参考にします。

【学生の意見等からの気づき】
授業の準備（課題の回答）が大変だとの意見が見られますが、その努力、積み重ねが必要なことを説明し、学生が課題調査に取り組めるように指導していきます。

【Outline (in English)】
This course deals with the basic concepts and importance of information services on modern libraries. It also enhances the development of student's skill in information retrieval.
Before each class meeting, students will go to library and research various books to answer user's need.
Then in the class, they present their research results and submit research reports.
Students will spend more than four hours to research various books for making report.
After class they need to study about the course content.
Research reports(80%)
Presentation about their research results in the class.(20%)

FRI200MA（情報学フロンティア / Frontiers of informatics 200）

情報サービス演習

田中　順子

単位数：4単位　｜　開講セメスター：年間授業/Yearly
曜日・時限：土4/Sat.4　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報サービスとは、利用者の情報ニーズに応じ、その問題解決のために、情報を提供するサービスのことをいいます。現代の図書館では重要なサービスに位置づけられています。そこで、この授業では、演習をとおして情報サービスの意義と実務について学びます。

【到達目標】
情報サービスの設計から評価に至る一連の業務について、実践的な学習をとおして理解を深めます。具体的には、情報サービスの基本的な業務であるレファレンスサービス、情報検索サービスに関する実践力を身につけ、さらに図書館が積極的に情報を発信するスキルを習得します。
Students learn about how to respond user's need.
First, go to library and research various books,
Then, they present their research results and learn how to express them effectively.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
情報サービスの業務に関し実践的な力を養うため、レファレンスサービス、情報検索サービスを中心に、レファレンス・コレクションの評価、レファレンス・インタビューの技法、図書館利用教育プログラムづくりなどについての演習を行います。また、情報発信型サービスについても学びます。
学生の調査結果の発表と提出物に対し、適切なアドバイスを行います。フィードバックは、授業中に受け付けます。さらにメールアドレスを提示し、適宜受け付けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス/情報サービスの概要	授業内容と進め方について/情報検索の基礎
第2回	情報検索の基本（1）	コンピュータ検索の技術　①OPAC検索の基礎と応用
第3回	情報検索の基本（2）	コンピュータ検索の技術　②論理演算
第4回	情報検索の基本（3）	コンピュータ検索の技術　③トランケーション
第5回	情報サービスの設計	情報サービスの態勢づくり
第6回	情報資源の探し方（1）	情報資源の特徴とアクセスの方法
第7回	情報資源の探し方（2）	情報資源の活用、インターネット上の情報資源
第8回	情報検索基礎演習（1）	図書・図書情報に関する検索
第9回	情報検索基礎演習（2）	雑誌・雑誌記事に関する検索
第10回	情報検索基礎演習（3）	新聞・新聞記事に関する検索
第11回	情報検索基礎演習（4）	法律、外交資料の検索
第12回	情報検索基礎演習（5）	レファレンスブック検索
第13回	情報検索基礎演習（6）	統計の検索
第14回	情報検索基礎演習（7）/春学期のまとめ	情報検索、回答結果の評価
15	レファレンス・インタビュー(1)	インタビューの技法
16	レファレンス・インタビュー(2)	質問に対する回答の方法
17	情報検索演習(1)	「ことば」に関する課題と回答
18	情報検索演習(2)	「ひと・団体」に関する課題と回答
19	情報検索演習(3)	「とき」に関する課題と回答
20	情報検索演習(4)	「ところ」に関する課題と回答
21	情報検索演習(5)	「本・作者・作品」に関する課題と回答
22	情報検索演習(6)	「もの・事柄」に関する課題と回答
23	情報検索演習(7)	「雑誌・新聞」に関する課題と回答
24	情報検索演習(8)	書誌に関する課題と回答
25	情報検索演習(9)	インターネットで調べられない質問に対する調査
26	情報発信型サービスの実際(1)	情報発信型サービスを行っている事例について解説
27	情報発信型サービスの実際(2)	地域の特徴を生かした情報発信型サービスの実情
28	図書館利用教育の実際/秋学期のまとめ	総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義内容を復習し、与えられた課題について、図書館などで文献調査に取り組みます。本授業のための調査・復習時間は各4時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しません。

【参考書】
参考書などは、適宜授業のなかで紹介します。

【成績評価の方法と基準】
情報サービスに関する発表、演習（課題に対する回答の提出内容）によって成績を評価します。配分は発表20％、演習80％です。授業に対する積極的な貢献度が認められる場合、最終評価の参考にします。

【学生の意見等からの気づき】
授業の準備（課題の回答）が大変だとの意見が見られますが、その努力、積み重ねが必要なことを説明し、学生が課題調査に取り組めるように指導していきます。

【Outline (in English)】
This course deals with the basic concepts and importance of information services on modern libraries. It also enhances the development of student's skill in information retrieval.
Before each class meeting, students will go to library and research various books to answer user's need.
Then in the class, they present their research results and submit research reports.
Students will spend more than four hours to research various books for making report.
After class they need to study about the course content.
Research reports(80%)
Presentation about their research results in the class.(20%)

FRI200MA（情報学フロンティア / Frontiers of informatics 200）

図書館情報資源概論

小黒　浩司

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：月5/Mon.5　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
多様な図書館情報資源について、形態別、主題別の特性の概略を学習する。また図書館情報資源の収集と選択、評価、保存など、図書館における情報資源の管理の実際を学ぶ。加えて、代表的な図書館情報資源である図書や雑誌についての理解を深めるために、その流通事情などについても学ぶ。

【到達目標】
学生は、図書館情報資源の収集、保存のあり方などについての基礎的な知識の習得から、資料・情報の収集と提供が図書館の基本的な機能であることを理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
下記授業計画のように、前半では主要な図書館情報資源の種類について、形態別、主題別に解説する。後半では図書館情報資源の維持・管理の手法や意義などについて概説する。
最終授業で、13回までの講義内容のまとめを行い、試験を実施予定である。試験、課題等のフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。
なお、新型コロナウィルス等の感染状況などによっては、オンラインでの開講となる可能性がある。具体的なオンライン授業の方法、各回の授業計画の変更などについては、学習支援システムでその都度提示するので、学習支援システムの提示を必ず確認すること。 また、フィードバックは同じく学習支援システムより行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の進め方についてのガイダンス	授業の進め方、成績評価などについて、オンライン形式で説明する。
第2回	図書館情報資源とは何か	図書館情報資源について、図書館法など関連法規の上から説明する。
第3回	図書館情報資源の類型	『日本目録規則 1987年版改訂3版』の類型、並びに同規則2018年版の機器種別などによって、図書館情報資源の概略を説明する。
第4回	図書・逐次刊行物	図書と逐次刊行物について概説する。
第5回	視聴覚資料・電子資料	視聴覚資料と電子資料について概説する。
第6回	図書館情報資源の選択と収集	図書館における資料選択と収集の形態について概説する。
第7回	蔵書評価	図書館における蔵書評価の種類などについて概説する。
第8回	蔵書管理	図書館における蔵書管理の技法などについて概説する。
第9回	図書館情報資源の更新	図書館における資料の更新の意義などについて概説する。
第10回	資料保存	図書館における資料保存のあり方などについて概説する。
第11回	資源共有	図書館情報資源の収集と保存の協力について概説する。
第12回	資料選択の自由	図書館における資料収集と選択の自由について概説する。
第13回	出版流通	日本の出版流通の現状を、メディア別ならびに流通過程から概説する。
第14回	まとめ	試験・まとめ。新型コロナウィルスの感染状況によっては、変更の可能性があるので注意すること。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間外の学習は、準備学習・復習各2時間程度を標準としている。授業中に配布するプリントに参考文献、関連ウェブサイトのURLなどを掲載するので、活用してほしい。

【テキスト（教科書）】
指定しない。授業中に適宜プリントを配布する。

【参考書】
新訂図書館資料論　小黒浩司編著　東京書籍　2008

【成績評価の方法と基準】
期末試験の得点（80％）に、授業への参加・貢献度（20％）を加えて評価する予定である。
ただし新型コロナウィルス等の感染状況などによっては、オンラインでの開講となる可能性がある。この場合、成績評価の方法と基準が変更となるが、詳細な方法などは、学習支援システムにて連絡する。

【学生の意見等からの気づき】
授業中に配布するプリントに参考文献などを掲載するので、復習に活用してほしい。不明な点などは、メールで問い合わせること（kohji.oguro.58@hosei.ac.jp）。

【学生が準備すべき機器他】
新型コロナウィルス等の感染状況などによっては、第2回以降の授業についても、オンラインでの開講となる可能性があるので、PC・タブレットなどの情報機器を準備しておくことが望ましい。

【その他の重要事項】
質問などは遠慮なくメールで問い合わせること（kohji.oguro.58@hosei.ac.jp）。

【Outline (in English)】
[Course outline]
This course introduces the characteristics of various library information resources.
[Learning Objectives]
At the end of the course, students are expected to comprehend library information resources.
[Learning activities outside of classroom]
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
[Grading Criteria /Policy]
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 80%, contribution: 20%

FRI200MA（情報学フロンティア / Frontiers of informatics 200）

図書館情報資源概論

村上　郷子

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：月4/Mon.4　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
印刷資料、非印刷資料および電子資料やネットワーク情報源からなる図書館情報資源全般についての基本的な知識や概念について総合的に学ぶ。

【到達目標】
・図書館資料の基礎的な学習としてのメディアの歴史、資料の類型と特質、資料の収集と保存、生産、印刷、出版・流通過程などを総合的に理解することができる。
・「紙の博物館」または「印刷博物館」に実際に行き、実物を見たり触ったりすることにより、図書館資料についての体験的・身体的造詣を深めることができる。
・現地での見学から得られた知識や体験を基にした小レポートを書くことにより、授業を通じて得られた知識や体験を身体化し、より確実にすることができる。
・授業の初めに、前回の授業の簡単な確認クイズを行うことにより、知識を定着することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、Z その他 /Other

【授業の進め方と方法】
授業の初回のみオンラインで行う。Hoppiiで、ZoomのURLを確認すること。
本授業では、資料の構造や歴史、現代社会における図書の出版・流通過程などの基礎的なコンセプトについて、講義だけではなく、紙の博物館や印刷博物館などへの実地見学と併せて学習する。
　講義が中心ではあるが、適時視聴覚教材の活用やグループデスカッションなども取り入れる。また、授業内外で授業用グループウェアを教員及び学生同士のコミュニケーションツールとして活用する。
　毎回授業の初めに、前回の授業の確認クイズを行う。確認クイズのフィードバックは確認クイズ回収後直ちに行い、知識の定着を図る。
　アンケート調査やグループディスカッションの感想等については、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	図書館資料の意義と知的自由（オンライン）	授業ガイダンス 図書館資料の定義と類型
第2回	メディアの発展史①（紙の発明）	情報と記録化、紙の定義、製紙技術の伝播等
第3回	図書館資料の類型（印刷資料）	図書、逐次刊行物（雑誌、新聞）、小冊子、地図等
第4回	図書館資料の類型（非印刷資料）	点字資料、録音資料、マイクロ資料、映像資料、音声資料他
第5回	資料特論	専門資料及び特殊資料（灰色文献、政府刊行物、地域資料等）
第6回	メディアの発展史②（印刷革命(1) 木版・活版印刷他）	木版印刷・活版印刷の歴史
第7回	メディアの発展史③（印刷革命(2) 印刷物の制作システム） 紙の博物館または印刷博物館見学	印刷物の制作システム、主な印刷の種類、印刷の用紙 小レポート
第8回	電子資料・図書のデジタル化	AIの活用、図書のデジタル化、電子コンテンツ、電子出版、ネットワーク情報資源等
第9回	図書の出版流通のしくみ	出版流通経路、業界三位一体の構図、小売業の現状と流通の仕組み、再販売価格維持制度等
第10回	図書館資料と知的自由、人文・社会科学・科学技術・生活分野の情報資源	図書館の自由、知る権利、人文・社会科学・科学技術・生活分野の情報資源とその特徴
第11回	蔵書論、蔵書管理	蔵書の意義、収集方針、複本と予約、蔵書の更新、蔵書の評価、除籍と廃棄、資源共有など
第12回	図書館資料コレクション構築の理論(選書)	選書の意義、選書論、選書方法、選書のための情報源など
第13回	図書館資料の受入と資料の組織化、書庫管理 まとめ	受入・登録業務、資料の装備、予算管理、書庫管理の意義、資料の保存と修復、メディア変換など
第14回	総まとめ	筆記試験・まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講者は、テキストの該当頁を事前に必ず読んでおくこと。また、授業のレジメを事前にダウンロードし、空欄を埋めておくことが望ましい。
「紙の博物館」「印刷博物館」への実地見学については、時間帯によって各自が授業外に行き、小レポートを提出することも可能である。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
馬場俊明編著『図書館情報資源概論』、日本図書館協会、最新版（JLA 図書館情報学テキストシリーズ 3-8)

【参考書】
岸田和明編著、改訂 図書館情報資源概論 (現代図書館情報学シリーズ)、2020、樹村房

【成績評価の方法と基準】
（1）毎回の確認クイズ（30％）、（2）小レポート（20％）、（3）学期末試験（50％）によって総合的に評価する。
全ての提出物は、授業用グループウェア(Hoppii)上にアップロードすることを原則とする。よって、アップロードが不完全であったり、なされていない場合は成績の評価はできないため、0になる。ファイルをアップロードをする際、必ずリンクの確認をすること。
毎回、授業の前に前回授業の確認クイズを行うため、欠席や遅刻が多いとそれだけ得点が減るので注意すること。また、授業開始より20分経過して入室した者は遅刻とする。

【学生の意見等からの気づき】
ディベートを希望するコメントがいくつか見られた。なんとかその時間を捻出したい。

【Outline (in English)】
(Course outline and Learning Objectives) : Students will learn the foundations of library information resources that consist of print materials/resources, non-print materials/resources, electronic materials/resources, and network information/resources. Students also learn patterns of media history, the collection, preservation, production of library resources, and publication and circulation processes. In addition, students are required to visit the "Paper Museum" and the "Printing Museum" and write papers as a part of the course requirement.
(Learning activities outside of classroom) : Students are required to read the relevant pages of the textbook in advance. It is also advisable that students download the class learning materials in advance and fill in the blanks.

Students are expected to visit the "Paper Museum" and "Printing Museum" outside of class and submit a short report. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
（Grading Criteria /Policy）: The overall evaluation will be based on (1) a quiz at each class (30%), (2) two short reports (30%), and (3) a final exam (40%).

FRI200MA（情報学フロンティア / Frontiers of informatics 200）

図書館情報資源概論

村上　郷子

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：木5/Thu.5　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
印刷資料、非印刷資料および電子資料やネットワーク情報源からなる図書館情報資源全般についての基本的な知識や概念について総合的に学ぶ。

【到達目標】
・図書館資料の基礎的な学習としてのメディアの歴史、資料の類型と特質、資料の収集と保存、生産、印刷、出版・流通過程などを総合的に理解することができる。
・「紙の博物館」または「印刷博物館」に実際に行き、実物を見たり触ったりすることにより、図書館資料についての体験的・身体的造詣を深めることができる。
・現地での見学から得られた知識や体験を基にした小レポートを書くことにより、授業を通じて得られた知識や体験を身体化し、より確実にすることができる。
・授業の初めに、前回の授業の簡単な確認クイズを行うことにより、知識を定着することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、Z その他 /Other

【授業の進め方と方法】
授業の初回のみオンラインで行う。Hoppiiで、ZoomのURLを確認すること。
本授業では、資料の構造や歴史、現代社会における図書の出版・流通過程などの基礎的なコンセプトについて、講義だけではなく、紙の博物館や印刷博物館などへの実地見学と併せて学習する。
　講義が中心ではあるが、適時視聴覚教材の活用やグループデスカッションなども取り入れる。また、授業内外で授業用グループウェアを教員及び学生同士のコミュニケーションツールとして活用する。
　毎回授業の初めに、前回の授業の確認クイズを行う。確認クイズのフィードバックは確認クイズ回収後直ちに行い、知識の定着を図る。
　アンケート調査やグループディスカッションの感想等については、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	図書館資料の意義と知的自由（オンライン）	授業ガイダンス 図書館資料の定義と類型
第2回	メディアの発展史①（紙の発明）	情報と記録化、紙の定義、製紙技術の伝播等
第3回	図書館資料の類型（印刷資料）	図書、逐次刊行物（雑誌、新聞）、小冊子、地図等
第4回	図書館資料の類型（非印刷資料）	点字資料、録音資料、マイクロ資料、映像資料、音声資料他
第5回	資料特論	専門資料及び特殊資料（灰色文献、政府刊行物、地域資料等）
第6回	メディアの発展史②（印刷革命(1) 木版・活版印刷他）	木版印刷・活版印刷の歴史
第7回	メディアの発展史③（印刷革命(2) 印刷物の制作システム） 紙の博物館または印刷博物館見学	印刷物の制作システム、主な印刷の種類、印刷の用紙 小レポート
第8回	電子資料・図書のデジタル化	AIの活用、図書のデジタル化、電子コンテンツ、電子出版、ネットワーク情報資源等
第9回	図書の出版流通のしくみ	出版流通経路、業界三位一体の構図、小売業の現状と流通の仕組み、再販売価格維持制度等
第10回	図書館資料と知的自由、人文・社会科学・科学技術・生活分野の情報資源	図書館の自由、知る権利、人文・社会科学・科学技術・生活分野の情報資源とその特徴
第11回	蔵書論、蔵書管理	蔵書の意義、収集方針、複本と予約、蔵書の更新、蔵書の評価、除籍と廃棄、資源共有など
第12回	図書館資料コレクション構築の理論(選書)	選書の意義、選書論、選書方法、選書のための情報源など
第13回	図書館資料の受入と資料の組織化、書庫管理 まとめ	受入・登録業務、資料の装備、予算管理、書庫管理の意義、資料の保存と修復、メディア変換など
第14回	総まとめ	筆記試験・まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講者は、テキストの該当頁を事前に必ず読んでおくこと。また、授業のレジメを事前にダウンロードし、空欄を埋めておくことが望ましい。
「紙の博物館」「印刷博物館」への実地見学については、時間帯によって各自が授業外に行き、小レポートを提出することも可能である。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
馬場俊明編著『図書館情報資源概論』、日本図書館協会、最新版（JLA 図書館情報学テキストシリーズ 3-8)

【参考書】
岸田和明編著、改訂 図書館情報資源概論 (現代図書館情報学シリーズ)、2020、樹村房

【成績評価の方法と基準】
（1）毎回の確認クイズ（30％）、（2）小レポート（20％）、（3）学期末試験（50％）によって総合的に評価する。
全ての提出物は、授業用グループウェア(Hoppii)上にアップロードすることを原則とする。よって、アップロードが不完全であったり、なされていない場合は成績の評価はできないため、0になる。ファイルをアップロードをする際、必ずリンクの確認をすること。
毎回、授業の前に前回授業の確認クイズを行うため、欠席や遅刻が多いとそれだけ得点が減るので注意すること。また、授業開始より20分経過して入室した者は遅刻とする。

【学生の意見等からの気づき】
ディベートを希望するコメントがいくつか見られた。なんとかその時間を捻出したい。

【Outline (in English)】
(Course outline and Learning Objectives) : Students will learn the foundations of library information resources that consist of print materials/resources, non-print materials/resources, electronic materials/resources, and network information/resources. Students also learn patterns of media history, the collection, preservation, production of library resources, and publication and circulation processes. In addition, students are required to visit the "Paper Museum" and the "Printing Museum" and write papers as a part of the course requirement.
(Learning activities outside of classroom) : Students are required to read the relevant pages of the textbook in advance. It is also advisable that students download the class learning materials in advance and fill in the blanks.

Students are expected to visit the "Paper Museum" and "Printing Museum" outside of class and submit a short report. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
（Grading Criteria /Policy）: The overall evaluation will be based on (1) a quiz at each class (30%), (2) two short reports (30%), and (3) a final exam (40%).

FRI200MA（情報学フロンティア / Frontiers of informatics 200）

図書館情報資源特論

小黒　浩司

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：月5/Mon.5　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
図書館情報資源概論では扱わなかった情報資源、主題情報について、学習する。とくに電子資料については、その収集・提供・保存などについて、十分に理解する。

【到達目標】
学生は、図書館情報資源概論での学習を基礎に、近年図書館で重視されている各種情報資源の特性などについての発展的な学習から、図書館の資料・情報の収集と提供が図書館の基本的な機能であることを理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
下記授業計画のように、前半では近年公共図書館で重視されている図書館情報資源の種類について、形態別、主題別に解説する。後半では学術図書館で重視されている図書館情報資源の種類について、形態別、主題別に解説する。
最終授業で、13回までの講義内容のまとめを行い、試験を実施予定である。試験、課題等のフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。
なお、新型コロナウィルス等の感染状況などによっては、オンラインでの開講となる可能性がある。具体的なオンライン授業の方法、各回の授業計画の変更などについては、学習支援システムでその都度提示するので、学習支援システムの提示を必ず確認すること。また、フィードバックは同じく学習支援システムより行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	電子資料に関する動向	最初に授業の進め方、成績評価などについて説明し、電子資料に関する近年の動向を概説する。
第2回	政府刊行物	図書館における政府刊行物の収集・提供の歴史や意義などについて概説する。
第3回	地域資料	図書館における地域資料の収集・提供の歴史や意義などについて概説する。
第4回	法情報	図書館における法情報の収集・提供の歴史や意義などについて概説する。
第5回	統計資料	図書館における統計資料の収集・提供の歴史や意義などについて概説する。
第6回	健康・医療情報	図書館における健康・医療情報の収集・提供の歴史や意義などについて概説する。
第7回	生活・労働情報	図書館における生活・労働情報の収集・提供の歴史や意義などについて概説する。
第8回	音楽資料	図書館における音楽資料の収集・提供の歴史や意義などについて概説する。
第9回	地図資料	図書館における地図資料の収集・提供の歴史や意義などについて概説する。
第10回	読書の電子化	1990年代にはじまり、2010年代になり本格化した日本における「電子読書」の歴史と現状を概説する。
第11回	歴史的音源	SP盤レコードなどの歴史的音源の電子化や配信の状況を概説する。
第12回	ウェブアーカイビング	ウェブアーカイビングの意義や現状を概説する。
第13回	オンライン資料	オンライン資料の収集と提供の現状を概説する。
第14回	まとめ	試験・まとめ。新型コロナウィルスの感染状況によっては、変更の可能性があるので注意すること。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間外の学習は、準備学習・復習各2時間程度を標準としている。授業中に配布するプリントに参考文献、関連ウェブサイトのURLなどをなどを掲載するので、近年注目されている図書館情報資源に関する理解を深めてほしい。

【テキスト（教科書）】
指定しない。授業中に適宜プリントを配布する。

【参考書】
新訂図書館資料論　小黒浩司編著　東京書籍　2008

【成績評価の方法と基準】
期末試験の得点（80％）に、授業への参加・貢献度（20％）を加えて評価する予定である。ただし新型コロナウィルス等の感染状況などによっては、オンラインでの開講となる可能性がある。この場合、成績評価の方法と基準が変更となるが、詳細な方法などは、学習支援システムにて連絡する。

【学生の意見等からの気づき】
授業中に配布するプリントに理解の参考となる情報源などを掲載するので、復習に活用してほしい。不明な点などは、メールで問い合わせること（kohji.oguro.58@hosei.ac.jp）。

【学生が準備すべき機器他】
新型コロナウィルス等の感染状況などによっては、オンラインでの開講となる可能性があるので、PC・タブレットなどの情報機器を準備しておくことが望ましい。

【その他の重要事項】
質問などは遠慮なくメールで問い合わせること（kohji.oguro.58@hosei.ac.jp）。

【Outline (in English)】
[Course outline]
This course introduces the characteristics of various library information resources and subject information that you did not learn in the spring semester, focusing on electronic materials.
[Learning Objectives]
At the end of the course, students are expected to comprehend library information resources.
[Learning activities outside of classroom]
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
[Grading Criteria /Policy]
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 80%, contribution: 20%

FRI200MA（情報学フロンティア / Frontiers of informatics 200）

図書館情報資源特論

村上　郷子

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：月4/Mon.4　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
多様な資料を扱う専門図書館を中心に、インターネットを介した事前調査研究、グループによる現地調査及びインタビュー調査を行い、専門図書館の現状と課題を総合的に理解する。

【到達目標】
専門図書館への現地調査や専門図書館司書へのインタビューを通して、各専門図書館の情報資源の実際を理解し、専門図書館および専門図書館情報資源に関する課題を発見することができる。
グループの班員とともに、専門図書館や情報資源を取りまく様々な課題の解決策や提案等を考えることによって、専門図書館および情報資源について包括的に理解することができる。
また、プレゼンテーションをグループで行うことにより、他者との協働、図書館の利用法や検索方法、情報機器の活用法、プレゼンテーションの技術などを総合的に学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、Z その他 /Other

【授業の進め方と方法】
授業の初回のみオンラインで行う。Hoppiiで、ZoomのURLを確認すること。
グループに分かれて、さまざまな専門図書館について事前にインターネットを介した調査研究を行ったうえで現地調査を行い、選んだ専門図書館の評価をする。授業の中頃には現地調査を行う前の中間発表を行い、教員及び視聴者の学生のフィードバックをもらう。後半には調査結果及び評価に関するプレゼンテーションを行う。各グループのプレゼンテーションは、クラス全体で自己評価・他己評価する。
　プレゼンテーションでは、調査テーマについて、「問題の所在」を明らかにし、その「解決策」を提示する。
　アンケート調査、プレゼンテーション、グループディスカッションの感想等については、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	秋学期授業ガイダンス（オンライン）	個人・グループによる調査方法について
第2回	専門図書館の機能	専門図書館の機能 個人・グループの調査対象図書館の確定、アポの取り方
第3回	専門資料の概要、調査計画の検討・資料収集	調査計画案作成（グループ活動）
第4回	メタデータ、調査計画の検討・資料収集	調査計画案作成（グループ活動）
第5回	新聞・雑誌情報、グループ活動	インタビューの極意、調査計画の検討・資料収集
第6回	政治・行政資料、情報提供、グループ活動	発表順の抽選、現地基本調査の報告書（宿題）の提出
第7回	プレゼン資料作成の極意、グループ活動	資料作成・現地調査等
第8回	統計データ情報、グループ活動	個人の調査計画の報告書提出①、資料作成・現地調査等
第9回	プレゼンの極意、グループ活動	グループ調査進行状況チェック
第10回	グループ活動	グループによる打ち合わせ・資料作成
第11回	プレゼンのリハーサル	グループ調査進行状況チェック
第12回	グループ・プレゼンテーション①　利用者の立場からみた専門図書館の課題発見と解決策を探る	プレゼンの実践と評価（利用者の立場からみた専門図書館の課題発見と解決策を探る）
第13回	グループ・プレゼンテーション②　利用者の立場からみた専門図書館への課題と解決案を探る	プレゼンの実践と評価（利用者の立場からみた専門図書館への課題と解決案を探る）
第14回	グループ活動のまとめ・全体討議	まとめ・全体討議

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
この授業は数名のグループに分かれてさまざまな専門図書館のインターネットを介したフィールド調査及びインタビュー調査を行い、それをパワーポイントなどにまとめ、グループでのプレゼンを行う。そのため、授業時間外の活動が入ってくることを了承しておくこと。また、グループや個人による現地調査や班活動がメインになるため、授業への積極的な参加（出席は8割以上）が求められる。
　授業の一環として、協働学習、メディア情報リテラシーに関するアンケート調査も実施する。本授業の準備学習・復習を含む授業外活動は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
必要な資料や参考文献等は、適時提示する。

【成績評価の方法と基準】
（1）個人の調査計画・グループ活動報告書①②、個人の調査報告書（30％）
（2）グループ活動・授業への参加（出席）と貢献度（出席重視）、グループ活動及びプレゼンテーション、グループによる配付資料、プレゼン内容など（30％）
（3）個人のレポート（40％）
全ての提出物は授業用グループウェア(Hoppii)上にアップロードすることを原則とする。
授業の性質上、授業への出席とグループ活動への参加が重視される。出席は80％を目安とする。欠席は3回までは不問とする。正当な理由がなく出席不良（14回中4回以上の欠席）のものは、「（2）グループ活動・授業への参加（出席）・（30％）」の部分は0とする。正当な理由があるため4回以上欠席するものは、欠席理由を記した証明書を持参すること。トータルで5回以上無断欠席する・したものの成績は、理由の如何を問わず原則として0とする。欠席が多くなると予想される者は、他の授業を検討されたい。
全ての班活動のプロセス、毎回の宿題・決定事項、共有ファイル（文書・パワポ・画像・他）提出物等はグループ活動の記録として共有するため、必ず授業用グループウェア(HULiC)上にアップロードすることを原則とする。
また、授業での全ての提出物は、授業用グループウェア上にアップロードすることを原則とする。よって、アップロードが不完全であったり、なされていない場合は成績の評価はできないため、0になる。ファイルをアップロードをする際、必ずリンクの確認をすること。

【学生の意見等からの気づき】
グループ活動において、他の班員との日程調整やグループ活動全体の日程調整が大変という声を聞く。いつでも意見交換及び情報共有ができるグループウェア活用の徹底とグループ活動に必要な情報の提供に努めたい。ちょっとした情報共有では、班員同士のLINEの活用も奨励する。

【Outline (in English)】
（Course outline &learning objectives）：Students are required to perform field work (students choose one special library as their own fields) and interview librarians as a pair or group in order to compare and evaluate several special libraries to find out current situations and issues of the special libraries. Students will make presentations, lead discussions, and present problems which the special libraries were confronted with as well as the ways of solving the problems.
（Learning activities outside of classroom）： In this class, students will be divided into groups to conduct field research and interview surveys of various special libraries, to summarize in a PowerPoint presentation and to present to the group. Students are expected to understand that there will be activities outside of class time.
The standard for out-of-class activities including preparation and review for this class is 2 hours each.
（Grading Criteria /Policy）: (1) Individual research plans, group activity reports, and individual research reports (30%)
(2) Group activities, class participation (attendance) and contribution (emphasis on attendance), group activities and presentations, handouts by the group, presentation content, etc. (30%)
(3) Individual reports (40%)
All submissions are to be uploaded on the class groupware (HULiC) as a rule.

FRI200MA（情報学フロンティア / Frontiers of informatics 200）

図書館情報資源特論

村上　郷子

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木5/Thu.5　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
多様な資料を扱う専門図書館を中心に、インターネットを介した事前調査研究、グループによる現地調査及びインタビュー調査を行い、専門図書館の現状と課題を総合的に理解する。

【到達目標】
専門図書館への現地調査や専門図書館司書へのインタビューを通して、各専門図書館の情報資源の実際を理解し、専門図書館および専門図書館情報資源に関する課題を発見することができる。
グループの班員とともに、専門図書館や情報資源を取りまく様々な課題の解決策や提案等を考えることによって、専門図書館および情報資源について包括的に理解することができる。
また、プレゼンテーションをグループで行うことにより、他者との協働、図書館の利用法や検索方法、情報機器の活用法、プレゼンテーションの技術などを総合的に学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar、Z その他 /Other

【授業の進め方と方法】
授業の初回のみオンラインで行う。Hoppiiで、ZoomのURLを確認すること。
グループに分かれて、さまざまな専門図書館について事前にインターネットを介した調査研究を行ったうえで現地調査を行い、選んだ専門図書館の評価をする。授業の中頃には現地調査を行う前の中間発表を行い、教員及び視聴者の学生のフィードバックをもらう。後半には調査結果及び評価に関するプレゼンテーションを行う。各グループのプレゼンテーションは、クラス全体で自己評価・他己評価する。
　プレゼンテーションでは、調査テーマについて、「問題の所在」を明らかにし、その「解決策」を提示する。
　アンケート調査、プレゼンテーション、グループディスカッションの感想等については、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	秋学期授業ガイダンス（オンライン）	個人・グループによる調査方法について
第2回	専門図書館の機能	専門図書館の機能 個人・グループの調査対象図書館の確定、アポの取り方
第3回	専門資料の概要、調査計画の検討・資料収集	調査計画案作成（グループ活動）
第4回	メタデータ、調査計画の検討・資料収集	調査計画案作成（グループ活動）
第5回	新聞・雑誌情報、グループ活動	インタビューの極意、調査計画の検討・資料収集
第6回	政治・行政資料、情報提供、グループ活動	発表順の抽選、現地基本調査の報告書（宿題）の提出
第7回	プレゼン資料作成の極意、グループ活動	資料作成・現地調査等
第8回	統計データ情報、グループ活動	個人の調査計画の報告書提出①、資料作成・現地調査等
第9回	プレゼンの極意、グループ活動	グループ調査進行状況チェック
第10回	グループ活動	グループによる打ち合わせ・資料作成
第11回	プレゼンのリハーサル	グループ調査進行状況チェック
第12回	グループ・プレゼンテーション①　利用者の立場からみた専門図書館の課題発見と解決策を探る	プレゼンの実践と評価（利用者の立場からみた専門図書館の課題発見と解決策を探る）
第13回	グループ・プレゼンテーション②　利用者の立場からみた専門図書館への課題と解決案を探る	プレゼンの実践と評価（利用者の立場からみた専門図書館への課題と解決案を探る）
第14回	グループ活動のまとめ・全体討議	まとめ・全体討議

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
この授業は数名のグループに分かれてさまざまな専門図書館のインターネットを介したフィールド調査及びインタビュー調査を行い、それをパワーポイントなどにまとめ、グループでのプレゼンを行う。そのため、授業時間外の活動が入ってくることを了承しておくこと。また、グループや個人による現地調査や班活動がメインになるため、授業への積極的な参加（出席は8割以上）が求められる。
　授業の一環として、協働学習、メディア情報リテラシーに関するアンケート調査も実施する。本授業の準備学習・復習を含む授業外活動は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
必要な資料や参考文献等は、適時提示する。

【成績評価の方法と基準】
（1）個人の調査計画・グループ活動報告書①②、個人の調査報告書（30％）
（2）グループ活動・授業への参加（出席）と貢献度（出席重視）、グループ活動及びプレゼンテーション、グループによる配付資料、プレゼン内容など（30％）
（3）個人のレポート（40％）
全ての提出物は授業用グループウェア(Hoppii)上にアップロードすることを原則とする。
授業の性質上、授業への出席とグループ活動への参加が重視される。出席は80％を目安とする。欠席は3回までは不問とする。正当な理由がなく出席不良（14回中4回以上の欠席）のものは、「（2）グループ活動・授業への参加（出席）・（30％）」の部分は0とする。正当な理由があるため4回以上欠席するものは、欠席理由を記した証明書を持参すること。トータルで5回以上無断欠席する・したものの成績は、理由の如何を問わず原則として0とする。欠席が多くなると予想される者は、他の授業を検討されたい。
全ての班活動のプロセス、毎回の宿題・決定事項、共有ファイル（文書・パワポ・画像・他）提出物等はグループ活動の記録として共有するため、必ず授業用グループウェア(HULiC)上にアップロードすることを原則とする。
また、授業での全ての提出物は、授業用グループウェア上にアップロードすることを原則とする。よって、アップロードが不完全であったり、なされていない場合は成績の評価はできないため、0になる。ファイルをアップロードをする際、必ずリンクの確認をすること。

【学生の意見等からの気づき】
グループ活動において、他の班員との日程調整やグループ活動全体の日程調整が大変という声を聞く。いつでも意見交換及び情報共有ができるグループウェア活用の徹底とグループ活動に必要な情報の提供に努めたい。ちょっとした情報共有では、班員同士のLINEの活用も奨励する。

【Outline (in English)】
（Course outline &learning objectives）：Students are required to perform field work (students choose one special library as their own fields) and interview librarians as a pair or group in order to compare and evaluate several special libraries to find out current situations and issues of the special libraries. Students will make presentations, lead discussions, and present problems which the special libraries were confronted with as well as the ways of solving the problems.
（Learning activities outside of classroom）： In this class, students will be divided into groups to conduct field research and interview surveys of various special libraries, to summarize in a PowerPoint presentation and to present to the group. Students are expected to understand that there will be activities outside of class time.
The standard for out-of-class activities including preparation and review for this class is 2 hours each.
（Grading Criteria /Policy）: (1) Individual research plans, group activity reports, and individual research reports (30%)
(2) Group activities, class participation (attendance) and contribution (emphasis on attendance), group activities and presentations, handouts by the group, presentation content, etc. (30%)
(3) Individual reports (40%)
All submissions are to be uploaded on the class groupware (HULiC) as a rule.

FRI200MA（情報学フロンティア / Frontiers of informatics 200）

読書と豊かな人間性

田中　順子

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：月2/Mon.2　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
読書と豊かな人間性の関係について学ぶ。読書は人間性にどのような影響を与えるのか、その方法はいかなるものか。読書教育を進めるために、図書館と司書教諭の役割について考える。具体的には、読書の意義と効用について知り、児童、生徒の発達段階に応じた適切な指導について学ぶ。本についての知識を深め、子どもと本をつなぐ具体的な方法を身に着けるための実践も行う。毎回、その日の学びを深めるためにグループ発表を行う。

【到達目標】
読書教育のこれまでの流れを知る。さらにそれを発展させ、課題を克服するために司書教諭は何ができるかを考える。本についての知識を蓄え、本と子供を結び付けるスキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
基本的に対面授業とする。授業の解説を受けて、自分の考えをまとめグループ発表を行う。数回、読み聞かせやブックトークなど、子供と本を結び付ける様々な実践を行う。
フィードバックは、授業中に受け付けます。さらにメールアドレスを提示し、適宜受け付けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	読書の意義と効用について	現代における読書の意義と効用について学ぶ。学生自身の読書体験を振り返る
第2回	これまでの読書環境と読書習慣について	子どもたちの読書状況について学ぶ。社会環境の変化と子供の読書習慣の関係を探る。 学習指導要領の変遷について学ぶ。
第3回	発達段階と読書指導	子どもの発達段階に合わせた読書指導について学ぶ。 幼少期、小学校期、中学校期、高等学校期の読書指導について。
第4回	生涯学習と読書	生涯を通じて読書を楽しみ、学習を続けていけるように、基本的な力を身に着ける指導について学ぶ。山形の図書館利用教育を徹底している小学校の取り組みを参考にする。
第5回	図書館の現状　様々な取り組みについて	子どもにとって快適な図書館、読書推進に貢献できる図書館について考える。 具体的に様々な工夫をしている図書館を事例として学ぶ。
第6回	教科指導と読書指導　司書教諭の役割	学校図書館における司書教諭の役割として、読書能力を高める指導、調べ学習の力をつける指導について学ぶ。
第7回	読書と心の教育について	「心の教育」における、読書の役割について考える。 読書療法についても取り上げる。
第8回	家庭や地域との連携	ブックスタートなど、家庭や保健所のような他機関と図書館が連携することで、本や読書と出会う環を整備する方法について学ぶ。
第9回	子供と本をつなぐスキルを身に着ける１	読み聞かせ、ストーリーテリング、ブックトークについて学んだあと学生による実演を行う
第10回	子供と本をつなぐスキルを身に着ける２	読書郵便、読書感想文、読書感想画について学んだあと学生による実演を行う
第11回	子供と本をつなぐスキルを身に着ける３	アニマシオンについて学んだあと学生による実演を行う
第12回	子供と本をつなぐスキルを身に着ける４	本の魅力を伝える力を身に着けるため、学生による読書会、ビブリオバトルを行う
第13回	子供の読書活動の推進について	「子どもの読書活動の推進に関する法律」「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」に基づき、各地方自治体、学校などの取り組みについて学ぶ。
第14回	まとめ 様々な課題をどう克服するか考える	これまでの学びを振り返り、読書と豊かな人間性についてまとめ、課題について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストを事前に予習して授業に臨む。
実演の準備、授業の予習に２時間、復習に2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
探究　学校図書館学　第4巻　読書と豊かな人間性
「探究　学校図書館学」編集委員会編著　全国学校図書館協議会

【参考書】
『図書館をつくる　教育を変える』山形県鶴岡市立朝暘第一小学校　著
全国学校図書館協議会

【成績評価の方法と基準】
平常点（グループ発表における発言、授業時の小課題）：30％
中間レポート：20％
期末レポート：50％

【学生の意見等からの気づき】
自らが読書によって得られたものを探求し、読書指導の手法を学ぶことで、さらに読書の魅力に気づく学生が多かった。

【Outline (in English)】
(Course outline)
I want to discuss the meaning of reading books for humans, using some statistics and research.
I also explain the way to attract children, for example, how to read children some books, how to let them read books deeply and how interesting books are.
(Learning Objectives)
・ Students can explain the importance of reading books.
・ Students can use technique such as reading children some books and organizing book reading environment.
(Learning activities outside of classroom)
Since the lecture will be given according to the chapter of the textbook, please read the relevant part of the textbook in advance before the lecture. The standard preparation and review time for this lecture is 2 hours each.
(Grading Criteria /Policy)
Class assignments (30%), mid-term report(20%), term-end report (50%) .

FRI200MA（情報学フロンティア / Frontiers of informatics 200）

情報メディアの活用

坂本　旬

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水3/Wed.3　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
受講生は、情報メディア社会を生きる市民に必要なメディア情報リテラシーを育成するための学校図書館と情報メディア活用の基礎を学び、実践力を養う。

【到達目標】
(1)今日の情報メディア社会を生きる人間のあり方を考察することができる。
(2)学校図書館における情報メディア活用の実践力を身に付ける。
(3)情報メディア社会に生きる市民として求められるメディア情報倫理を理解する。
(4)情報メディアを活用した基礎的な映像制作スキルを身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
前半はメディア情報リテラシーの基本的な考え方を学び、後半は実際の情報メディアを用いた創作活動を行う。
・授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
・良いリアクションペーパーは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。
・課題等の提出・フィードバックは授業支援システムを通じて行う予定。
・オフィス・アワーで、課題（試験やレポート等）に対して講評する。
・最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の内容や学習方法、司書課程専用授業支援システムの使い方などを解説する
第2回	高度情報社会と人間	グローバル化するメディア社会の特徴を考える
第3回	情報メディアの発展と社会の変化	情報メディアの発展と社会の変化の関係を考える
第4回	情報メディアの特性と選択	情報・メディアの特性と活用のためのメディア情報リテラシーの概念を学ぶ
第5回	情報倫理と市民社会	市民社会における著作権や肖像権、表現・情報の自由、読書バリアフリーなどの情報倫理を学ぶ
第6回	情報メディアの種類とその特性	さまざまな情報メディアの種類と特性を学ぶ
第7回	情報リテラシーと情報検索・探究学習	情報リテラシーと情報検索・探究学習の関係を具体例を通して学ぶ
第8回	学校図書館と情報リテラシー教育	学校図書館が情報リテラシー教育の中心に位置することを学ぶ
第9回	視聴覚メディアとメディアリテラシー	視聴覚メディアとメディア・リテラシーの関係を学ぶ
第10回	視聴覚メディアの活用と学習	視聴覚メディアの仕組みと学習についての基本的な理論を学ぶ
第11回	学校図書館とコンピュータ・情報発信	デジタル・ストーリーテリングを学校図書館で活用する方法を学ぶ
第12回	映像制作の実際	映像制作の過程を実践的に学ぶ
第13回	映像評価の実際	映像を評価する方法を実践的に学ぶ
第14回	映像作品の発表会	映像作品を発表し、評価をする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
司書課程用授業支援システム(HULiC)を用いて、事前に準備された予習や宿題等を行う。映像制作では、授業時間外の取材や編集を行います。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
坂本旬『メディアリテラシーを学ぶ』大月書店(2022年)

【参考書】
坂本旬『メディア情報教育学』(法政大学出版局)2014年
寺崎里水・坂本旬『地域と世界をつなぐSDGsの教育学』(2021年)

【成績評価の方法と基準】
授業評価の方法と基準は以下の通り。授業への参加30%、映像制作20%、課題レポート50%。

【学生の意見等からの気づき】
授業の最後に映像を導入することで、映像制作を通じた学習の振り返りができた。

【学生が準備すべき機器他】
スマートフォンやパソコンなどの映像制作可能な情報機器。新型コロナ感染症流行のため、オンライン授業となる場合は、オンライン授業に用いる端末が必要である。
本授業では動画の提出に法政大学のBOXを使用する。使用方法は以下のリンクを参照すること。
https://netsys.hosei.ac.jp/protected/manual/distance/manual-box.html

【その他の重要事項】
授業の中で映像制作を行うため、欠席はなるべくしないこと。

【Outline (in English)】
To study basic theories of digital media and information literacy for school librarians
To produce digital storytelling video about books and reading life
The goal is to acquire the ability to examine people living in an information media society, the ability to use information media in school libraries, media ethics, and basic video production skills.
Grading criteria are as follows. Class participation is 30%, filmmaking is 20%, and reports are 50%. Students will be required to do prep work and homework prepared in advance.For film production, students will conduct interviews and edit videos outside of class time. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

FRI200MA（情報学フロンティア / Frontiers of informatics 200）

情報メディアの活用

村上　郷子

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：火1/Tue.1　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学校図書館における情報メディア全般の特性と活用方法を理解し、司書教諭に必要な情報メディアの基本的な知識、技能を習得することにより、メディア情報リテラシーの基礎を習得する。

【到達目標】
司書教諭に必要な情報メディアの基本的な知識、技能を習得することができる。例えば、学校図書館の広報誌、簡単なCM・動画広報、簡単な図表、パワポなど、限られた汎用ソフトを使って、制作することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment、Z その他 /Other

【授業の進め方と方法】
授業の初回のみオンラインで行う。Hoppiiで、ZoomのURLを確認すること。
学校図書館の利用と検索、情報機器の活用法、AIを含めたアプリケーションの活用法、プレゼンテーションの方法など、各項目の課題演習をこなすことによって、基礎的なメディア情報リテラシーの取得を目指す。授業後半では、グループによる広報紙およびCM・動画制作を行い、グループによるプレゼンを行う。
　アンケート調査やプレゼンテーション、グループディスカッションの感想等については、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	情報メディアの特性と活用（オンライン）	情報実習室及び授業用グループウェア利用ガイダンス、「司書教諭」の規定、学校図書館とメディア
第2回	メディアの歴史（課題①　「未来の学校図書館」ポンチ絵))	学校図書館とメディア情報リテラシー
第3回	レポート・論文の書き方（課題②　引用文献）	レポート・論文作成法－10のステップ
第4回	検索の基礎理論（課題③　検索）	データベース、検索システム、論理演算、他
第5回	パスファインダー（課題④　パスファインダー作成）	パスファインダー製作作り方・考え方、主題の選び方他
第6回	法政大学図書館　検索実習	データベース検索の実際（有料データベース、洋書、他）
第7回	プレゼンテーションの基礎・著作権（課題⑤　パワーポイント）（グループを決める）	プレゼンテーションの目的と方法、著作権、AIの活用と課題他
第8回	広報誌：見出しとレイアウト、ホームページの仕組みと作り方	読ませるための基礎理論、見出しとレイアウトの基本、ホームページの目的と機能、レイアウト、グループ活動
第9回	情報倫理・著作権・AIの活用他（グループ活動によるブレインストーミング）	情報リテラシー、AIと著作権、グループ活動
第10回	学校図書館からの情報発信①	グループによる広報誌制作（その１)、各班の広報誌タイトルと役割分担の決定
第11回	学校図書館からの情報発信②	グループによる広報誌制作（その２)、広報誌の構成、レイアウト、コンテンツの作成
第12回	学校図書館からの情報発信③	グループによる広報誌制作（その３）広報誌の校正、プレゼン・リハーサル
第13回	グループ・プレゼンテーション①	グループ・プレゼンテーション
第14回	情報メディアの活用・グループ活動総括	振り返り・まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業以外にも演習課題の提出やグループによる広報誌制作およびビデオ制作を行う。課題をしっかりこなし、授業にも積極的に参加することが求められる。また、授業後半のグループ学習においては、班によっては授業外での活動も求められる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
なし。必要な資料や参考文献等は、適時提示する。

【参考書】
・高鍬 裕樹・田嶋 知宏著『情報メディアの活用』、放送大学教育振興会、新訂、2022
・五十嵐絹子著『学校図書館ビフォー・アフター物語―図書館活用教育の全国展開を願って』、国土社、2009

【成績評価の方法と基準】
課題（30％)、授業への積極的な貢献度（出席状況を含む)、グループ・プロジェクト及びプレゼンテーション（30％)、個人のプロジェクト作品（40％）によって総合的に評価する。
全ての提出物は、授業用グループウェア(Hoppii)上にアップロードすることを原則とする。よって、アップロードが不完全であったり、なされていない場合は成績の評価はできないため、０になる。ファイルをアップロードをする際、必ずリンクの確認をすること。

【学生の意見等からの気づき】
課題のワードについてはほとんどの学生がある程度のスキル（画像の挿入、罫線・図表の作成など）を身についているため、今回は割愛した。

【その他の重要事項】
授業では、グループによるプロジェクトの協働制作やプレゼンテーションを行うため、受講生には授業への積極的な参加が求められる。

【Outline (in English)】
(Course outline and learning objectives) : Students will understand the characteristics of media and information resources in school libraries and acquire basic skills and knowledge of media and information literacy that are necessary for teacher librarians. Examples include creating school library PR, newsletters and videos.
(Learning activities outside of classroom) : In addition to classes, students will be required to submit assignments and work in groups to produce a PR magazine and video. Students are expected to complete assignments and actively participate in class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
(Grading Criteria /Policy) : Comprehensive evaluation will be based on assignments (40%), active contribution to the class (including attendance), group projects and presentations (30%), and individual project works (30%).

CUM100MA（文化財科学・博物館学 / Cultural assets study and museology 100）

ミュージアム資料論

森屋　雅幸

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：土4/Sat.4　｜　配当年次：1〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博物館資料の収集、整理・保管などに関する理論や方法に関する知識・技術を習得し、博物館の調査研究活動について理解することを通じて、博物館資料に関する基礎的能力を養うことを目的とする。

【到達目標】
博物館資料の多様性や多面性について理解し、学芸員になるための基礎的な知識を習得するとともに、博物館資料を収集、研究し、活用するための方策について考察することができることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
基本的に講義形式の授業を実施する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックするなど、受講者との双方向の授業を意識して実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	博物館資料とは何か（ガイダンス含む）	ガイダンスと博物館資料という考え方が形成されてきた背景を講義する。
第2回	博物館資料の概念	博物館資料の条件、資料化の過程、資料の価値について解説する。
第3回	博物館資料の種類	博物館資料の種類、コレクション形成の意義、資料に関するルール、収集方針などについて講義する。
第4回	博物館資料の分類	資料の分類、実物等資料（一次資料）・複製等資料（二次資料）について講義する。
第5回	博物館資料と博物館活動	資料の収集・保管・展示の実際について講義する。
第6回	博物館資料の調査研究	資料カードの作成（授業内課題）を通して資料化の実際を学ぶ。
第7回	博物館資料の多様性Ⅰ	授業内課題の振り返りとデジタル資料とその活用について講義する。
第8回	博物館資料の多様性Ⅱ	建築資料の保存と公開についておもに文化財建造物の観点から講義する。
第9回	博物館資料の多様性Ⅲ	「負の遺産」の保存・継承の現状と課題について講義する。
第10回	博物館資料の多様性Ⅳ	文化財レスキューと震災遺産について講義する。
第11回	博物館資料と現代社会Ⅰ	未指定文化財の保護について現状と課題を講義する。
第12回	博物館資料と現代社会Ⅱ	改正博物館法・博物館法を受けて、博物館資料の活用に求められるものと課題について講義する。
第13回	博物館資料と現代社会Ⅲ	博物館資料の保存・活用をめぐる近年の動向と課題について講義する。
第14回	試験・まとめと解説	本授業のまとめ・解説をするとともに、到達目標を達成できたか確認する筆記試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の授業で取り上げた事例について、自主的に文献や現地調査をするなど準備学習・復習に努めるとともに、最新の関連した報道も日常的に調べておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。
自分が興味・関心のある博物館を日頃から見学すること。東京国立博物館、国立科学博物館、国立美術館（国立西洋美術館、国立近代美術館等）はキャンパスメンバーとして常設展を無料で見学ができるので活用すること。

【テキスト（教科書）】
毎回、講義資料を配布する。

【参考書】
青木豊編『人文系博物館資料論』（雄山閣、2012年）
加藤有次他編『博物館資料論〔新版博物館学講座5〕』（雄山閣、1999年）
金山喜昭編『博物館の収蔵庫問題と新たなコレクション管理』（雄山閣、2024年）

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパー・授業への貢献（40％）、授業内課題（20％）、期末試験（40％）

【学生の意見等からの気づき】
アクティブラーニングを心がけた授業に取り組む。

【学生が準備すべき機器他】
出席は学習支援システム (WebClass) で確認するため、教室でインターネットにアクセスできるスマートフォン、ノートPCなどを準備しておくこと。

【その他の重要事項】
理由なく各学期5回以上欠席した場合、成績評価しない。
理由なき早退・遅刻は3回で1回の欠席として扱う。
出席は初回授業からとる。
授業の詳細や方法についてHoppiiでアナウンスする場合があるため、アナウンスに留意すること。

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to acquire knowledge and skills related to theories and methods of collecting, organizing, and storing museum materials, and to develop basic skills related to museum materials through understanding of research and study activities of museums.
Students are expected to make efforts to prepare for and review the cases discussed in each class by independently conducting literature and field research, as well as to research the latest related news reports on a daily basis. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading methods and criteria are as follows Reaction paper and contribution to class (40%), in-class assignments (20%), and final exam (40%)

CUM100MA（文化財科学・博物館学 / Cultural assets study and museology 100）

ミュージアム教育論

渡邊　祐子

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：水2/Wed.2　｜　配当年次：1〜4年
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、ミュージアムにおける教育活動の理念、活動の基礎となる学習理論、国内外のミュージアムの事例について学び、ミュージアムの教育的な役割とその意義について理解を深めます。

【到達目標】
この授業では、教育現場や日常で活かされる、次の能力の獲得が目指されます。
ミュージアム教育の学習理論と方法の特性を説明できる。来館者の視点に立った活動をデザインする技術が身につく。自身の考えや意図を明確に伝えるコミュニケーション、言語化の力が確立される。教育的な働きかけを円滑に行う事ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
この授業は講義と演習を中心に構成されます。座学をはじめ、現地リサーチ、グループ企画、発表、ワークショップの開催といった実践的な学びを通じて、ミュージアム教育の役割を多面的に理解します。このような広がりのある学びは、授業で学んだ知識と教育現場のイメージを結びつけて把握するのに役立てられます。
授業で提出した課題に対しては、個別のフィードバックを提供するだけでなく、授業内で全体に向けたフィードバックを行います。それにより、学生一人ひとりの理解度を高めるとともに、クラス全体の学習効果を向上させることをねらいます。
※授業形態（対面 or オンライン）を予定から変更する場合、各回の授業開始前に学習支援システムを通じてアナウンスしますので、必ず確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本授業の目的、進め方、計画、評価などの概要について説明します。
第2回	博物館教育とは何か	ミュージアムとは何か、“博物館教育”（museum education）とは何かについて学びます。また、なぜミュージアムにおいて教育が重視されるようになったのか、歴史をたどりながら理解していきます。
第3回	博物館教育の学習理論	ミュージアムでの学びにみられる特徴について、学校教育などとの比較をふまえて理解していきます。
第4回	教育資源としての展示	ミュージアムでの実物教授の学び（object-based learning）について理解し、教育的な活用事例を見ていきます。
第5回	展示見学	ミュージアムの展示を見学し、調べ学習をします。
第6回	ミュージアムと来館者をつなぐ①	ミュージアムの資料や展示を生かしたプログラムの実践実例を知り、プログラムの企画・立案のプロセスについて学びます。
第7回	ミュージアムと来館者をつなぐ②	ミュージアムが教育活動のために作成している教材やウェブなどの媒体、アーカイブの事例を知り、制作のプロセスを学びます。
第8回	ミュージアムと来館者をつなぐ③	ミュージアムで活躍する市民（アート・コミュニケータ）の役割と活動について学びます。
第9回	ワークショップ体験	ミュージアムで実践されているワークショップと同じ内容の活動を授業内で体験します。
第10回	プログラム・メイキング①	教育プログラムを立案するためのプロセスを理解したところで、グループごとに与えられたテーマに沿った企画を考えます。
第11回	プログラム・メイキング②	グループごとに与えられたテーマに沿った企画内容を考え、企画案を作成します。
第12回	グループ発表①	グループごとに作成した企画案を発表します。（前半）
第13回	グループ発表②	グループごとに作成した企画案を発表します。（後半）
第14回	まとめと試験	ミュージアム教育の意義や課題について、授業を通して得られた知見を整理・確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ミュージアムの現場リサーチや、その体験をもとにしたプログラム案の企画・発表を予定しています。そのため、ミュージアムのウェブサイトを閲覧して多様な教育プログラムについての知識を増やしたり、授業で紹介する博物館教育に関する報告書、文献等を読んだりするための、準備学習及び課題が適宜課されます。
授業外の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて、資料を配布します。

【参考書】
J.H. フォーク・L.D. ディアーキング『博物館体験』（雄山閣出版）
G.E. ハイン『博物館で学ぶ』（同成社）
稲庭彩和子、伊藤達矢、河野佑美、鈴木智香子、渡邊祐子『こどもと大人のためのミュージアム思考』（左右社）ほか

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への積極的参加、グループ発表、企画課題、レポート課題を含む）50％と期末試験50％の合計で評価します。
※4回以上の欠席がある場合、単位取得に必要な基礎的内容を十分に学修できていないと判断し、成績評価を不可（不合格）とします。

【学生の意見等からの気づき】
基礎的な理解を深めるための講義の他、調べ学習、グループワーク、プレゼンテーション等、参加型授業の側面も重要視していきたいと思います。

【その他の重要事項】
東京都美術館で子どものための博物館教育を行ってきました。美術館での実務経験をもとに、国内外の先進的な事例を具体的に取り上げ、多様性を尊重した「博物館の教育」づくりの基本や方法を伝えます。
また、何かしら配慮が必要とする学生は、大学を介して教員まで連絡してください。
参考：東京都 東京都多文化共生ポータルサイト「やさしい日本語」活用事例 2021年3月
https://www.seikatubunka.metro.tokyo.lg.jp/chiiki_tabunka/tabunka/tabunkasuishin/files/0000001620/13_museum-start.pdf

【Outline (in English)】
This course surveys the principles and practices of museum education. It explores the kinds of learning that occur in museums and how educational programming can engage diverse audiences.
After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course contents.
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Term-end examination 50%, in class contribution 50%.

CUM100MA（文化財科学・博物館学 / Cultural assets study and museology 100）

ミュージアム教育論

花木　知子

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：土2/Sat.2　｜　配当年次：1〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会教育施設として位置づけられている博物館＝ミュージアム（歴史博物館、美術館、文学館、自然科学系博物館、等々が含まれる）では、資料の収集、研究、展示等と並んで、教育普及の活動が重要な役割を果たしています。この授業では、ミュージアムにおける教育の意義や効果について、理論的基盤と実践事例の双方の観点から考え、これからのミュージアム教育のあるべき姿を探ります。

【到達目標】
DEIなども勘案しつつ、さまざまなバックグラウンドをもつ人びとを対象に展開されているミュージアム教育の現状とその意義を理解することができるとともに、今後さらにミュージアムでの学びを深化させていくにはどうすればよいかを具体的に考えたり企画できる力を身に付けます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
各回ごとにトピックを設定し、ビジュアル資料や文献資料を用いて具体的な事例を紹介しながら、ミュージアム教育についての理解を深めていきます。また、各自が実際にミュージアムで実施されている教育活動に参加し、そこから得られた知見をプレゼンテーション等を通じて共有します。基本的に毎回リアクションペーパーを書いてもらい、次の授業の際にフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ミュージアム教育とは何か	授業のガイダンスとして、この領域で扱うトピックスについて概説する。
第2回	ミュージアムでの体験と学び	学校での学びとミュージアムにおける学びの違いについて考え、ミュージアム教育の特質を理解する。
第3回	生涯学習とミュージアム①	なぜミュージアム教育の必要性が重視されるようになったのか、生涯学習社会の観点から考える。
第4回	生涯学習とミュージアム②	現在、国内外で展開されているミュージアム教育の法的・理論的枠組みを理解する。
第5回	学校と連携したミュージアム教育	小学校や中学校と連携して展開される教育プログラムについて検討する。
第6回	地域と連携したミュージアム教育	地域のニーズや特性を生かしたミュージアム教育について検討する。
第7回	ミュージアム教育の手法①	ミュージアムの持つ資料や展示を生かした講座、講演会、ギャラリートーク等について学ぶ。
第8回	ミュージアム教育の手法②	ミュージアムが教育目的で作成、配布、頒布等を行っている印刷資料やウェブを通した情報公開について学ぶ。
第9回	ミュージアム教育の手法③	ミュージアムにおけるワークショップや体験学習について、具体例を手がかりに学ぶ。
第10回	教育プログラムの立案に向けて	教育プログラムを実際に立案するためのプロセスや留意事項を理解する。
第11回	教育プログラムの作成と発表①	グループごとに教育プログラムを立案し、受講生全体で検討する（グループ１）。
第12回	教育プログラムの作成と発表②	グループごとに教育プログラムを立案し、受講生全体で検討する（グループ２）。
第13回	教育プログラムの作成と発表③	グループごとに教育プログラムを立案し、受講生全体で検討する（グループ３）。
第14回	振り返りとまとめ	ミュージアム教育の意義や課題について、授業を通して得られた知見を整理・確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学期の途中でミュージアムにおけるフィールド調査を実施し、その成果をもとにレポートを書いたり、プレゼンテーションをしてもらう予定です（その際、若干の入場料等が発生する可能性があります）。また、授業に関連した事例を調べるなどの課題が適宜出されます。本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しないが、ほぼ毎回、資料を配布します。

【参考書】
黒沢浩（編・著）『博物館教育論』講談社、
ほか、授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度（課題の成果、ディスカッションへの積極的な参加など）：55％
期末レポート：45％

【学生の意見等からの気づき】
教室内での学びに終始せず、博物館でのフィールド調査とそのフィードバックを充実させていきたいと考えています。

【Outline (in English)】
In the museums, including historical museum, fine art museum, museum of literature, museum of natural science and so on, which are positioned as social adult educational facilities, educational activities for the visitors are very important alongside collecting materials, doing research and planning exhibition. In this class, we will consider the significance and effects of so-called ‘museum education’ from the viewpoint of both theory and practice, and explore the future form of it.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end report: 45％, in class contribution: 55％

EDU200MA（教育学 / Education 200）

生涯学習支援論Ⅰ

松橋　義樹

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：木1/Thu.1　｜　配当年次：2〜4年

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・授業の概要
　生涯学習支援に関する事項として、学習支援に関する教育理論、効果的な学習支援方法、参加型学習の実際とファシリテーション技法に関する講義および演習を行う。
・授業の意義・目的
　社会教育主事に求められる資質・能力のうち、学習者の多様な特性に応じた学習支援に関する知識及び技能の習得を図る。

【到達目標】
　学習支援に関する教育理論については、発達課題と学習課題、学習者及び学習内容の捉え方、多様な学習の形態・方法について理解する。効果的な学習支援方法については、コーディネートおよびカウンセリングの技法、情報提供と学習相談の方法、多様なメディアの活用方法を習得する。参加型学習の実際とファシリテーション技法については、主に学習者・学習内容別の参加型学習の進め方を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
　毎回、予習課題と復習課題を出題し、授業の冒頭で予習・復習課題への解答に対する教員からのコメントを行う。その後、各回のテーマに即した講義および演習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	生涯学習支援の多様性	生涯学習支援は学習者・学習目的・学習内容・学習方法などのいずれの側面においても多様であることを、実践例をもとに解説する。
第2回	生涯発達論の意義と展開	生涯学習支援における生涯発達論の意義とともに、社会の変化に伴う生涯発達論の展開について解説する。
第3回	学習者としての青少年理解	学習としての青少年の特徴について、青少年を対象とした各種調査結果をもとに解説する。
第4回	学習者としての成人理解	学習としての成人の特徴について、アンドラゴジーをはじめとする成人学習論をもとに解説する。
第5回	学習者としての高齢者理解	学習としての高齢者の特徴について、ジェロゴジーをはじめとする各種理論をもとに解説する。
第6回	学習情報提供・学習相談の実際	社会教育施設等で行われている学習情報提供・学習相談の現状と課題および具体的手法について、実践例をもとに解説する。
第7回	社会教育におけるメディア活用の実際	社会教育活動の中でのメディア活用の現状と課題および具体的手法について、実践例をもとに解説する。
第8回	社会教育におけるコーディネート・カウンセリングの実際	社会教育活動の中で行われているコーディネート・カウンセリングの現状と課題および具体的手法について、実践例をもとに解説する。
第9回	特別な配慮を必要とする学習者支援の基本的な考え方	特別な配慮を必要とする学習者を支援する上での基本的な考え方について、社会的包摂や合理的配慮の概念をもとに解説する。
第10回	参加型学習の意義と展開	社会教育活動における参加型学習の意義とともに、社会の変化に伴う参加型学習の展開について解説する。
第11回	青少年教育における参加型学習とファシリテーションの実際	青少年教育における参加型学習とファシリテーションの進め方について、実践例をもとにグループワークを行う。
第12回	成人教育・高齢者教育における参加型学習とファシリテーションの実際	成人教育および高齢者教育における参加型学習とファシリテーションの進め方について、実践例をもとにグループワークを行う。
第13回	特別な配慮を必要とする学習者支援における参加型学習とファシリテーションの実際	特別な配慮を必要とする学習者支援における参加型学習とファシリテーションの進め方について、実践例をもとにグループワークを行う。
第14回	これからの生涯学習支援のあり方	本科目の授業の総括として、これからの生涯学習支援のあり方について講義およびグループワークを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　予習課題および次回の授業資料の講読に毎週1時間、復習課題に毎週1時間取り組むこと。加えて、中間レポートの執筆に10時間、期末レポートの執筆に20時間取り組むこと。

【テキスト（教科書）】
　使用しない。使用する資料は毎回、電子データで配布する。

【参考書】
・清國祐二・国立教育政策研究所社会教育実践研究センター編『生涯学習支援論ハンドブック』ぎょうせい、2020年
・小池茂子・本庄陽子・大木真徳編『生涯学習支援の基礎』学文社、2022年

【成績評価の方法と基準】
・予習課題および復習課題への取組状況　20%
・中間レポート　30%
・期末レポート　50%

【学生の意見等からの気づき】
　個人単位での演習物に対するフィードバックを必ずしも十分に行えていなかったと考えられることから、対面とオンラインを併用したよりきめ細やかなフィードバックを行いたい。

【学生が準備すべき機器他】
　特になし。（各自がパソコンを持参する前提）

【その他の重要事項】
　本科目は、社会教育主事講習等規程第11条に規定された「生涯学習支援論」に該当する。社会教育主事基礎資格取得、社会教育士（養成課程）の称号取得のための必修科目である。

【Outline (in English)】
(Outline)
This course provides students with basic knowledge and skills on educational theories related to learning support, effective methods of learning support, practical participatory learning, and facilitation techniques.
(Learning Objectives)

The goal of this course is to acquire knowledge and skills related to learning support tailored to the diverse characteristics of learners.
(Learning activities outside of classroom)
Spend 2 hours each week on pre-class assignments and reading materials for the next lesson, and 1 hour each week on review assignments. Additionally, dedicate 15 hours to writing the final report.
(Grading Criteria/Policy)
・Engagement in pre-class and review assignments:30%
・Participation in group work:30%
・Final report:40%

EDU200MA（教育学 / Education 200）

社会教育経営論 II 【2025 年度以降入学生用】

井上　伸良

単位数：単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：金5/Fri.5　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：キャリアデザイン学部2024年度以前入学者は、この科目は履修できません。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・授業の概要
　社会教育を経営するということの意味や意義について説明する。その際、地域との関連を中心としながら、事例的・実践的にも説明する。
・授業の意義・目的
　社会教育を経営することの具体的な内容や社会的な意義について理解できるようになることが目的である。

【到達目標】
　社会教育に関する経営的事項について、行政レベル、施設レベル双方での理解を図るとともに、社会教育が人々や地域の学びや発展とどのように関係しているか理解する。なお、そうした目標を把握しやすくするために、事例紹介を多く行っていく計画である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
　授業の進め方は、授業者による解説が中心となる。履修者の質問へのフィードバックについては、授業内で毎回質疑の時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	社会教育の経営を考える視点	社会教育経営という概念およびそうした概念が現れた社会的背景について説明する。その際、社会教育経営と地域活性化がどのように関連するのかについてもあわせて説明する。
第2回	社会教育行政と地域活性化の関連	地域活性化というテーマは社会教育に限らず複数の行政分野で用いられる。社会教育における地域活性化の特徴について、具体例を交えながら理解を図る。
第3回	社会教育行政の経営戦略（1）【社会教育事業予算の検討】	行政における予算や諸事業について、その財源を含めて理解を図る。
第4回	社会教育行政の経営戦略（2）【施設における社会教育事業の検討】	各施設における社会教育事業の傾向について、事業評価への理解を含め説明する。
第5回	社会教育施設の経営戦略とその社会的背景	社会教育施設の経営に関する規制緩和の沿革とその社会的背景について説明する。
第6回	社会教育行政を基点としたネットワーク型行政と地域ネットワーキング	社会教育行政を基点とするネットワークとはどのようなものか。まずはネットワークや関連語句の原理的考察から始め、行政文書での定義やその問題点について考察する。
第7回	社会教育における地域ネットワーキングの実際（1）【民間の教育機会との連携】	社会教育施設を民間教育事業が使用することの是非やその根拠、民間の教育機会が社会教育事業を担っている事例について説明する。
第8回	社会教育における地域ネットワーキングの実際（2）【家庭教育支援】	社会教育による家庭教育支援について、子ども家庭支援センターのような福祉部局との連携や異同の検討を含めて説明する。
第9回	社会教育における学びのデザイン(1)【社会教育施設における学びの形態とその支援法】	社会教育施設における学びにどのような形態があり、どのように学びを掘り起こす、あるいは支援していくことができるのかについて考察する。
第10回	社会教育における学びのデザイン(2)【学習プログラム作成の理論と試行】	第9回での学習内容を踏まえながら、学習プログラムをデザインするための考え方を学び、試行的に作成してみる。
第11回	社会教育における学びのデザイン(3)【作成した学習プログラムの発表】	第10回で作成した学習プログラムについて、プレゼンを行い検討する。
第12回	社会教育における地域人材の養成	社会教育実践を支える、あるいは地域を支える人材が社会教育行政によってどのように養成されてきたか、その沿革について説明する。
第13回	学習ボランティアと地域の学習支援組織・ネットワーク	生涯学習とボランティアの関連が国レベルで整理された平成4年の生涯学習審議会を出発点として、学習ボランティアや非営利活動に関する法令・行政レベルの取り組みについて、具体的事例を紹介しながら整理する。
第14回	社会教育の取り組みの発展方策と展望（まとめ）・最終試験	中央教育審議会生涯学習分科会のまとめ等を拠り所として、これからの社会変化に対応した社会教育がどのように構想されているのかを確認し、検討を試みる。また、これからの社会教育の在り方について、主に地方公共団体あるいはより狭い学校区域を想定して具体的に考察する。また、授業の一部の時間で最終試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習を重視する。時間外学習としては復習4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
使用しない。

【参考書】
山本珠美・熊谷愼之輔・大木真徳編著『社会教育経営の基礎』学文社、2021年

【成績評価の方法と基準】
第10回・第11回で作成する学習プログラムの内容およびプレゼン内容が50％、最終試験が50％とする。

【学生の意見等からの気づき】
金曜5時限目という時間帯であり、1週間の疲労が蓄積した状態がまま見られた。引き続き同じ曜日・時限で実施するが、一方通行の詰込み型の授業には絶対にならないよう、変化やメリハリをつけた100分間の授業展開を構成するように配慮したいと考えている。

【学生が準備すべき機器他】
調べ学習をする場合があるので、何らかの電子デバイスの持参が望ましい。

【その他の重要事項】
本科目は、社会教育主事講習等規程第11条に規定された「社会教育経営論」に該当する。社会教育主事基礎資格取得、社会教育士（養成課程）の称号取得のための必修科目である。

【Outline (in English)】
Course outline: This course will explain the meaning and significance of managing social education, focusing on its relationship with the local community and also using case studies and practical examples.
Learning Objectives: The goal is to enable students to understand the specific details and social significance of managing social education.
Learning activities outside of classroom: After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria: Your overall grade in the class will be decided based on the following - Term-end examination 50%, Contents of the learning program and presentation to be created Contents 50%.

異文化適応論

浅川　希洋志

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：金4/Fri.4　｜　配当年次：1〜4年
備考（履修条件等）：国際文化学部主催科目

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国際社会で生きるとき、われわれは様々な文化的背景を持つ人々との相互理解を通して責任のある判断と行動を期待される。ところが、異文化間理解ということを考えるとき、われわれは異文化に見られる行動様式や思想を理解することが国際社会における他者理解のすべてであると考える傾向にあるように思われる。では、心の働きは文化と関係のない普遍的なものなのだろうか。本講義では、文化心理学における比較文化的実証研究を取り上げながら、心の働きと文化の関連性について学んでいくとともに、世界という視点で捉えたとき、われわれが普段普遍的と考えている人間観、発達観、家族観、そしてそれらと深い関わりを持つ心理的機能がいかに特殊な文化に根ざしたものであるかを学んでいく。また、講義で扱う様々なトピックを通して、異文化社会における適応とはどういうことなのかを併せて考えていく。

【到達目標】
しつけや教育の仕方、あるいは教育システムといったものが、いかにその社会で適応的に生きる人々、つまりその社会にあった行動パターンや感情の働き方を身につけた人々を育てるために作り上げられてきたものであるかを、授業で扱う様々なテーマを通して理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
本授業は「対面形式」で実施する予定であるが、状況に応じてZoom等によるオンライン授業や課題提示によるオンデマンド授業を実施する可能性もある。
授業は講義を中心に行う。また、心と文化の関係を描き出すようなビデオ、DVD等があれば適宜紹介する。
期末試験や課題等のフィードバックは、ポイントをまとめた文書を作成し、学習支援システムを用いて受講生に配布する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の概要を説明する。
第2回	文化心理学とは何か	文化心理学という分野がどのような理由から展開されるに至ったのかを、研究者の文化的盲点という観点から解説していく。
第3回	文化による自己認識の違い	文化による自己の捉え方の違いが、人々の認知や思考、行動にどのような影響をもたらすかを解説していく。
第4回	意欲構造の文化的差異	意欲の構造が文化によってどのように異なるかを、日米の実証的研究を紹介しながら解説していく。
第5回	日本人の努力帰属傾向	日本人が努力に価値をおく傾向が強いことを、日米の実証研究を概観しながら解説していく。また、その理由を考察する。
第6回	いい子アイデンティティの早期形成と自己規制のメカニズム	日本人の子どもが早期にいい子アイデンティティを形成し、それによって、いかに社会生活で自己規制を働かせるのかを解説していく。
第7回	日本のいい子、米国のいい子	日米のいい子像がそれぞれの社会で求められる人間像を反映するものであり、学校教育がいかにそれらを促進していくかを、解説していく。
第8回	日本人の気持ち主義	日本人がいかに人の気持ちを重視し、気持ちを知ろう、読もうとする傾向が強いか、またなぜ日本人がそういった傾向を身につけてきたのかを、解説していく。
第9回	気持ち志向のしつけ	気持ち志向を促進する日本のしつけの方法を、欧米のしつけの方法と比較しながら、解説していく。
第10回	日本人の道徳意識と道徳的判断	日本人の道徳意識と道徳判断が、欧米人のそれに比べ、人間関係的、感情的なところに強く影響されることを、実証研究をもとに解説していく。
第11回	道徳判断に必要とされる情報の日米比較	道徳判断において、日本人は人間関係的、感情的情報を求め、米国人に比べ、善悪の判断が厳しくない傾向にあるが、その理由について、実証研究を交えながら考察していく。
第12回	大きなピクチャーを捉えるために	さまざまな事件の原因推測に関する実証研究を紹介しながら、そこに、文化による自己観の違いが、いかに鮮明に反映されているかを確認していく。
第13回	生態環境から認知にいたる流れ	人々の生きる環境が、人々の行動や思考のパターン、そして認知のプロセスにどのように影響してきたのかを、歴史という大きな流れの中で捉え、ひとつのモデルとしてそれを解説していく。
第14回	授業の総括	授業のまとめ、期末試験の解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で扱うテーマを常に頭の片隅におきながら日常生活を送ること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキストは特に指定しない。適宜プリントを配付する。授業で配布するプリントはすべて学習支援システムにアップする。

【参考書】
東洋著『日本人のしつけと教育：発達の日米比較にもとづいて』（東京大学出版会、1994年）、北山忍著『自己と感情：文化心理学による問いかけ』（共立出版、1998年）、恒吉僚子著『人間形成の日米比較：かくれたカリキュラム』（中公新書、1992年）、箕浦康子著『文化のなかの子ども』（東京大学出版会、1990年）、リチャード・E・ニスベット著『木を見る西洋人森を見る東洋人：思考の違いはいかにして生まれるか』（ダイヤモンド社、2004年）、増田貴彦著『ボスだけを見る欧米人みんなの顔を見る日本人』（講談社＋α新書、2010年）等。また、必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験により評価する。したがって、成績評価の「配分（%）」は期末試験100％となる。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
できるだけ身近で、具体的な例を用いて授業を展開していく。

【学生が準備すべき機器他】
授業で使うプリントは授業中に配布するが、学習支援システムにもアップする。配布するプリントに沿って授業を進めるので、欠席などによりプリントが手元にない場合は、必ず学習支援システムからダウンロードして授業に臨むこと。

【Outline (in English)】
(1) Course outline
This is an introductory course in cultural psychology. By being introduced to the theories and empirical findings in the field, students learn how culture shapes psychological processes of people.
(2) Learning Objectives
By the end of the course, students are expected to understand (a) how cultural settings shape people's emotion, cognition, motivation, and relationships, and (b) what adjustment and psychological well-being mean to people who reside in culturally different societies from their own as well as in multicultural societies.
(3) Learning activities outside of classroom
Students will be expected to spend 4 hours to understand the course content (2 hours each for before/after class meeting). Besides, students will be expected to spend their daily lives having course topics in the back of their mind.
(4) Grading Criteria/Policy
Final grade will be decided based on the term-end examination (100%).

市民社会と政治

山内　康一

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：月5/Mon.5　｜　配当年次：1〜4年
備考（履修条件等）：人間環境学部主催科目
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、①市民社会とは何か、②政治とは何か、市民の政治参加がなぜ重要か、③自由で民主的な市民社会を築き維持するために何が必要か、を考え学びます。政治がどのように機能しているか（あるいは機能していないか）を考え、より良い社会をつくるために市民として政治に参加するための方法論と知識を学びます。一言でいうと「大学生向けのシチズンシップ教育」をめざします。

【到達目標】
市民社会における民主主義の担い手として適切な判断ができる基礎づくりをめざします。世界と日本の民主主義の危機やポピュリズム政治の問題点を学び、より良い社会をつくるためのアドボカシー（政策提言）活動や政策形成に市民として参加するスキルや知識の習得をめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
授業時間の３分の２を講義にあて、残りの３分の１を具体的な課題や政策についてのグループディスカッションにあてます。授業終了後にリアクションペーパー（質問、意見、提案など）の提出を求め、次の授業でふり返ります。最後に学生の皆さんに具体的な政策を立案して最終レポートにまとめ授業中に発表することを求めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション・イントロダクション	授業の目標、授業の方針、授業計画、授業の進め方、学び方、最終レポートの発表方法について説明。参考書の紹介。講師の自己紹介。市民社会と政治の概観。
第2回	政治はなぜ重要か？	民主政治と専制政治（北朝鮮と韓国の比較）。豊かな国と貧しい国のちがいを生む理由。
第3回	市民社会とは何か？	市民社会、政府、市場（企業）の関係。市民社会組織（CSO）やNPO、NGO。国際NGO、発展途上国のCSO。
第4回	日本政治（１）体験的政治論「国会議員の仕事とは？」	国会や議院内閣制の仕組み。衆議院議員の日常生活と活動。政治と行政の関係。政党や野党の意義。
第5回	日本の政治（２）選挙制度「良い議員を選ぶには？」	世界の選挙制度（小選挙区制、比例代表制）。国政選挙と地方選挙。政治思想。
第6回	市民が政治を動かす方法：社会を変革する「政策起業家」とは？	NPOや市民向け「ロビー活動マニュアル」の解説。「政策起業家」という職業。
第7回	政策を議論する作法	情報分析の作法。フェイクニュースやポピュリスト政治家に騙されない予防法。
第8回	気候崩壊に市民社会と政治はどう向きあうか	気候崩壊時代を生きる。政治が気候崩壊に対処できない理由。「気候市民会議」という政策イノベーション。
第9回	インターネット時代の政治とメディア	市民と政治をつなぐメディア。インターネットと政治。メディアリテラシー。
第10回	自由と民主主義の退潮と未来	自由民主主義（リベラルデモクラシー）。ポピュリズム（権威主義）政治。
第11回	自由と民主主義、平和を守る	専制政治（ファシズム）。反知性主義。専門知と民主主義。危険な独裁者を選ばないために必要なこと。戦争と平和。戦争の加害の歴史と向きあう。
第12回	シチズンシップ教育	健全な市民社会を築くためのシチズンシップ教育。民主主義のための教育。
第13回	最終レポート発表会（１）「市民や職業人として何ができるか？」	学生の最終レポート（政策提言）の発表と議論。授業のふり返り。
第14回	最終レポート発表会（２）「市民や職業人として何ができるか？」まとめ	学生の最終レポート（政策提言）の発表と議論。授業のふり返り。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習および復習時間は各回２時間を標準とします。毎授業後にリアクションペーパーの提出を求めます。必要に応じて宿題を出します。教科書は指定しませんが、参考書はできるだけ読んで下さい。授業でも推薦図書を紹介するのでぜひ読んで下さい。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。

【参考書】
エステル・デュフロ『貧困と闘う知』2017年 みすず書房
ジャレド・ダイアモンド『危機と人類』2019年 日本経済新聞出版社
ジェリー・ストーカー『政治をあきらめない理由』2013年 岩波書店
ダロン・アセモグル、ジェイムズ・ロビンソン『自由の命運』2020年 早川書房

【成績評価の方法と基準】
平常点（１５%）、リアクションペーパー（４０%）、最終レポート（４５%）で評価します。なお、自己都合で４回以上欠席した者は原則として成績評価を行いません（やむを得ない事情があれば個別に相談に応じます）。

【学生の意見等からの気づき】
政治の動きや国際情勢などを踏まえ、また学生の皆さんの意見を聞きながら、授業の進め方やテーマを調整します。授業計画は学期途中でも柔軟に見直し改善したいと思います。毎回の授業では少人数のグループディスカッションを行っていますが、回を重ねるごとに議論のやり方が上手くなっていくケースが多く、積極的に議論に参加していただきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
最終プレゼンテーションの際に自分のノートブックパソコンを持ち込むか、プレゼン資料を事前に講師にメールで送ってもらいます。

【その他の重要事項】
市民社会組織（NGO）スタッフや衆議院議員としての実務経験を踏まえ、実践的な知識やスキルを身に着けてもらえる授業をめざします。
学問の基本は読むことです。教科書は指定しませんが、シラバスに記載した参考書や授業中に紹介する本を読むことを強くお勧めします。政治の世界では唯一の正しい答えがないテーマが多数あります。答えのない問題にどうやって向き合うかを考え議論する授業にしたいと思います。

【Outline (in English)】
we will learn about ① what constitutes a civil society, what is necessary to build and maintain a sound civil society, ② what politics entails, and what is required for citizens to engage in politics, and ③ the relationship between civil society and politics. We will consider how politics functions (or doesn't) and acquire methodologies and knowledge to participate in politics as a citizen, with the goal of contributing to the creation of a sound society.
We aim to establish a foundation for making informed judgments as participants in democracy within civil society. Our goal is to acquire skills and knowledge to engage as citizens in advocacy activities, such as policy recommendations, and contribute to policy formation for creating a better world.
The standard time allocated for this course is set at 2 hours per session. After each class, submission of a reaction paper is required. Homework assignments may be given as needed. While there is no designated textbook, please make an effort to read reference books. Recommended readings will also be introduced during the lectures, so if possible, consider exploring them.
The assessment will be based on regular attendance (15%), reaction papers (40%), and the final report (45%). Additionally, individuals who are absent four times or more due to personal reasons will generally not be evaluated (exceptions may be considered in case of unavoidable circumstances, subject to individual consultation).

労働環境法

櫻井　洋介

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：金2/Fri.2　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：人間環境学部主催科目
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、労働者として自律的なキャリアを形成していく上で必要な労働法の基礎知識の習得を目指します。労働法の役割は、使用者と比べて相対的に立場の弱い労働者を保護し、労使対等の理念を実現することであり、全ての労働者が知っておくべき法律であるといえます。社会に出る前に労働法の基礎知識を習得しておくことは、将来的に自身の身を守ることにもつながります。

【到達目標】
労働法の基礎知識の習得を通じて、身近な労働に関する諸問題について、法的に説明できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業形態は基本的に講義形式となります。授業ごとに、小テストを課すことを予定しています。小テストの内容は、講義の中で解説をします。また、最終講義では論述試験を行います。
授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	労働環境法の全体像	労働関連法令の構成や全体像、役割等について学ぶ
第2回	労働者、使用者の概念と労働条件の決定	労働法のアクターである労働者や使用者の概念を学ぶとともに、労働条件の決定に関するプロセスを理解する。
第3回	募集・採用と様々な雇用形態	募集・採用時のルールや、採用内定および試用期間の法的性格、有期労働契約の特徴等について学ぶ。
第4回	賃金と労働時間・休憩・休日	賃金・労働時間・休日・休憩に関する基本的な法的ルールを学ぶ。
第5回	様々な働き方と労働時間制度	フレックスタイム制や裁量労働制等といった労働時間管理の諸制度の構造について学ぶ。
第6回	時間外労働と割増賃金の考え方	時間外労働や割増賃金に関する考え方等を学ぶ。
第7回	配置転換・労働条件の変更	配置転換や出向・転籍等の命令権に関する法律上の考え方を理解するとともに、労働条件を変更する際の手続について学ぶ。
第8回	安全衛生と労災補償	使用者の安全配慮義務や労災補償制度の概要を学ぶ。
第9回	労働組合の役割	労働組合の加入や脱退、権利の概要を学ぶとともに、団体交渉の意義や労働協約の法的効力等について学ぶ。
第10回	労働契約の終了：解雇規制と定年退職	解雇に関する法的な規制や定年退職および定年後の再雇用等に関するルールについて学ぶ。
第11回	労働者の人権保障とハラスメント規制	労働者の人権や労働契約上の権利義務、ハラスメントに関する法的規制の現況等について学ぶ。
第12回	平等原則と差別の禁止（女性、障害者、年齢、国籍等）	男女雇用機会均等法および障害者雇用促進法の制定や改正を中心として、労働法上の平等原則や均等待遇、差別禁止に関連する法令の全体像や概要を学ぶ。
第13回	新しい働き方と労働法の現代的課題	非典型雇用の他、フリーランス、ギグワーカー等といった新しい働き方を取り巻く労働環境や法の適用状況等について学ぶ。
第14回	期末テスト	授業内でテストを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各講義の終わりに、次回講義に向けた予習内容を指示しますので、指示に従って該当箇所を熟読してから講義に臨むようにしてください。予習内容は、次週の講義内で紹介する判例を読み込んでもらうことを予定しています。また、復習を行う場合は、レジュメや教科書に目を通すだけでなく、講義内で紹介した判例の内容をしっかりと理解するようにしてください。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に教科書は指定しませんが、労働法の基本書を１冊購入することを推奨します。推奨図書は、参考書の欄をご参照ください。

【参考書】
水町 勇一郎『労働法〔第10版〕』（有斐閣, 2024年）※第11版が2026年3月発刊予定。
浜村彰・唐津博・青野覚・奥田香子『ベーシック労働法第９版』（有斐閣アルマ，2023年）
中窪裕也・野田進『労働法の世界（第13版）』（有斐閣, 2019年）
判例を学習する際の参考書として、『労働判例百選（第10版）』（有斐閣，2022年）

【成績評価の方法と基準】
授業ごとに行われる小テスト（基本的な法規制や重要判例についての理解を確認するための選択・穴埋め式問題）を50%、期末試験を50%とします。

【学生の意見等からの気づき】
本講義では、法律科目の初学者向けに、必要に応じて期末テスト前に法律科目の試験答案の書き方等に関する説明を行う予定です。

【その他の重要事項】
本講義は、労働環境論Ⅰ、Ⅱと関係しています。本講義は主に「法律」に焦点を当てますが、労働環境論Ⅰ、Ⅱの講義を通じて、法律の背景にある労働環境の現状や変遷について学んでおくと、より理解が深まると思います。
また、本講義の担当教員は実務家教員であり、これまで金融機関や政府関連機関、コンサルティングファーム等、様々な組織での勤務経験を有しています。本講義では、担当教員の経験を交えながら、将来、学生の皆さんが企業等で働く上で必要となる法的知識を重点的に取り上げます。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course aims to provide students with the basic knowledge of labor law necessary to develop an autonomous career. The role of labor law is to protect workers who are in a relatively weaker position compared to employers and to realize the principle of equality between workers and employers, and it is a law that all workers should know. It is important for all workers to have a basic knowledge of labor law before starting their careers, so that they can protect themselves.
【Learning Objectives】
Students will be able to legally explain various labor-related issues in their daily lives through acquiring a basic knowledge of labor law.
【Learning activities outside of classroom】
At the end of each lecture, students will be given instructions on how to prepare for the next lecture (e.g., the relevant pages in the textbook). Please follow the instructions and read the relevant sections carefully before attending the lecture.

When students review the lectures, they should not only read through the resumes and textbooks, but also make sure that they fully understand the content of the precedents introduced in the lectures.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
The quiz given in each class (multiple choice/fill-in-the-blank type questions to check understanding of basic laws and regulations and important judicial precedents) will be 50%, and the final exam will be 50%.

財務会計論Ⅰ

齋藤　真哉

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：金2/Fri.2　｜　配当年次：3〜4年
備考（履修条件等）：経営学部主催科目
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
企業が外部の利害関係者に伝達する会計情報が基礎とする思考及び基準、並びに会計が果たす社会的役割について学ぶ。会計情報により、企業の実態（財務状況や業績等）を知ることができる。そのため、会計情報に関わる知識は、将来、企業等の組織で働く者にとっても、投資活動を行う者にとっても、不可欠な知識であると言える。財務会計論Ⅰでは、特に会計情報に関わる基礎的な思考を中心に学ぶ。そこで、本授業の目的は、会計情報に関する理論的枠組みを体系的に理解することである。

【到達目標】
・会計情報作成の基礎となる財務会計の諸概念を理解し、他者に説明ができること。
・企業会計制度の社会的役割を理解し、他者に説明ができること。
・会計情報作成のための基本的な会計処理を習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義形式により、原則として対面により授業を実施する。オンライン（オンデマンドを含む。）により実施する場合があるが、その場合は事前に告知する。
授業は、教員が作成するレジュメ（スライド形式）を利用し、併せてテキストの内容を確認しながら進める。
授業中に、小テストを数回実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション（オンデマンド方式により実施。学務のシステムを通して、アクセス情報を提供します。）	・授業の目的や内容、評価方法等についての説明 ・上記に関連して、財務会計の領域に関する説明
第2回	財務会計の基礎概念	・財務会計の仕組み ・財務会計の目的と機能 ・会計公準 ・会計主体
第3回	企業会計制度と会計基準	・企業会計をめぐる法規制 ・会社法会計 ・金融商品取引法会計 ・税務会計
第4回	資産会計総論	・企業会計におけるキャッシュフロー制約 ・資産の定義等 ・資産の分類と評価
第5回	流動資産	・現金・預金の会計処理 ・金銭債権の会計処理 ・有価証券の会計処理
第6回	棚卸資産	・棚卸資産の内容 ・棚卸資産の取得原価 。棚卸資産の費用化 ・棚卸資産の期末評価
第7回	固定資産（１）	・固定資産の分類 ・有形固定資産の取得原価 ・有形固定資産の費用化（減価償却）
第8回	固定資産（２）（繰延資産を含む）	・無形固定資産の内容 ・無形固定資産の取得原価 ・無形固定資産の費用化 ・投資不動産 ・繰延資産
第9回	負債	・負債の分類 ・引当金 ・偶発債務
第10回	純資産（１）	・純資産の内容 ・株主資本の増減 ・自己株式 ・剰余金の分配制限
第11回	純資産（２）	・その他の純資産項目 ・評価・換算差額等 ・株式引受権 ・新株予約権
第12回	収益と費用	・収益と費用の意義 ・収益と費用の計算基準 ・顧客との契約による収益の認識 ・時間基準
第13回	財務諸表	・財務諸表の体系 ・貸借対照表の表示 ・損益計算書の表示 ・キャッシュ・フロー計算書の表示 ・株主資本等変動計算書の表示
第14回	企業会計をめぐる日本の現状	・日本における会計基準の整備状況 ・会計基準の国際化 ・サステナビリティ情報の開示

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内容に該当するテキストの章については、事前に提示しますので、事前に読んで、理解に努めること。そして授業での説明を踏まえて、授業の内容をテキストや授業中に提示された参考書等を利用して、自らの理解を深めるようにすること。本授業では、準備学習1.5時間、復習2.5時間を標準としている。

【テキスト（教科書）】
・佐藤信彦他編著『スタンダードテキスト　財務会計論　Ⅰ　基本論点編　第19版』中央経済社、2026年。（2026年4月発刊予定の第19版（最新版）を使用する。）

【参考書】
・川島健司『起業ストーリーで学ぶ会計』中央経済社, 2021年
・伊藤邦雄『新・現代会計入門　第6版』日本経済新聞社、2924年
・斎藤静樹『企業会計とディスクロージャー　第４版』東京大学出版会、2010年
・齋藤真哉『現代の会計』放送大学教育振興会、2020年

【成績評価の方法と基準】
評価は、次の２点に基づいて評価する。
①授業中に実施する小テスト（約30％）
②期末試験（約70％）

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
・オンラインによる回がありますので、その視聴を可能とするPC等を用意してください。
・配布レジュメには受講者が記入するための空欄があります。
　デジタル情報に直接記入する場合は、タブレット等を授業に持参してください。
　もちろんプリントアウトして持参していただいても問題ありません。

【その他の重要事項】
簿記入門Ⅰ・Ⅱ及び会計学入門Ⅰ・Ⅱを履修していることを前提とした授業内容となっています。

【関連科目】
・簿記入門Ⅰ・Ⅱ
・会計学入門Ⅰ・Ⅱ
・国際会計論Ⅰ・Ⅱ
・税務会計論Ⅰ・Ⅱ

【Outline (in English)】
(Course outline) Students will learn the fundamental principles and standards underlying the accounting information companies communicate to external stakeholders, as well as the social role of accounting. Accounting information enables understanding of a company's actual state (financial position, performance, etc.). Therefore, knowledge related to accounting information is essential for both those who will work in organizations such as companies in the future and those who engage in investment activities. Financial Accounting I focuses particularly on learning the fundamental principles related to accounting information.
(Learning Objectives)
The objective of this course is to systematically understand the theoretical framework concerning accounting information.
(Learning activities outside of classroom)
Chapters in the textbook corresponding to the course content will be announced in advance. Students are expected to read these chapters beforehand and strive for understanding. Building upon the explanations given in class, students should deepen their understanding by utilizing the textbook and any reference materials presented during class. This course assumes a standard preparation time of 1.5 hours and a review time of 2.5 hours.
(Grading Criteria /Policy)
Grading is based on the following two components:
① In-class quizzes (approximately 30%)
② Final exam (approximately 70%)

財務会計論 II

齋藤　真哉

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：金2/Fri.2　｜　配当年次：3〜4年
備考（履修条件等）：経営学部主催科目
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
企業が外部の利害関係者に伝達する会計情報が基礎とする思考及び基準、並びに会計が果たす社会的役割について学ぶ。会計情報により、企業の実態（財務状況や業績等）を知ることができる。そのため、会計情報に関わる知識は、将来、企業等の組織で働く者にとっても、投資活動を行う者にとっても、不可欠な知識であると言える。財務会計論IIでは、特に会計情報作成に関わる会計処理を学び、会計基準間の整合性について検討する。
そこで、本授業の目的は、会計情報作成に関わる個別の会計処理を習得するとともに、整合性かつ有用な会計情報について検討することである。

【到達目標】
・重要な経済事象について、その会計処理を習得し、他者に説明できること
・個々の事象に係る会計処理間での整合性について検討できること
・概念フレームワークについて、理解を深めること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義講義形式により、原則として対面で実施する。ただしオンラインにより実施する場合がある。その場合は事前に告知する。
授業は、教員が作成するレジュメ（スライド形式）を利用し、併せてテキストの内容を確認しながら進める。
なお、授業中に、小テストを数回実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	・授業内容と目的、進め方、評価方法についての説明
第2回	金融商品	・金融資産と金融負債 ・金融商品の発生 ・金融商品の消滅 ・金融商品の期末評価
第3回	デリバティブ	・デリバティブ取引の意義と目的 ・代表的デリバティブ取引と会計処理 ・ヘッジ会計
第4回	リース	・リースの意義 ・リースの識別 ・借手の会計処理 ・貸手の会計処理 ・リース・バック等の会計処理
第5回	固定資産の減損	・固定資産の減損の意義 ・減損の兆候 ・減損の認識 ・減損損失の測定 ・減損と減価償却の関係
第6回	研究開発費とソフトウェア	・研究開発費の意義 ・研究開発費の会計処理 ・ソフトウェアの意義 ・ソフトウェアの会計処理
第7回	退職給付	・企業退職年金制度 ・退職給付の概念 ・退職給付債務の算定 ・退職給付に係る負債（退職給付引当金）の算定
第8回	株式引受権・新株予約権	・株式引受権制度 ・株式引受権の会計処理 ・新株予約権の会計処理 （ストック・オプションの会計処理を含む。）
第9回	法人税等	・法人税等の範囲 ・税効果会計の考え方 ・一時差異等の把握 ・税効果額の算定 ・税効果額の勘定処理と財務諸表表示 ・繰延税金の期末評価
第10回	企業結合	・企業結合の意義と分類 ・（狭義の）企業結合に係る会計処理 ・のれんの会計処理 ・株式交換等の会計処理
第11回	収益認識（１）	・顧客との契約から生じる収益の認識に関する基本的考え方と５つのステップ ・履行義務の識別 ・取引価格の算定
第12回	収益認識（２）	・取引価格の配分 ・収益の認識 ・特殊な取引における収益認識
第13回	概念フレームワーク（１）	・概念フレームワークの必要性 ・財務報告の目的 ・会計情報の質的特性
第14回	概念フレームワーク（２）	・財務諸表の構成要素 ・認識と測定 ・IASBの概念フレームワークの概要と日本との相違

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内容に該当するテキストの章については、事前に提示しますので、事前に読んで、理解に努めること。そして授業での説明を踏まえて、授業の内容をテキストや授業中に提示された参考書等を利用して、自らの理解を深めるようにすること。
本授業では、準備学習1.5時間、復習2.5時間を標準としている。

【テキスト（教科書）】
・佐藤信彦他編著『スタンダードテキスト　財務会計論　II　応用論点編　第19版』中央経済社、2026年。
・佐藤信彦他編著『スタンダードテキスト　財務会計論　I　基本論点編　第19版』中央経済社、2026年。（概念フレームワークについて使用。）

【参考書】
・川島健司『起業ストーリーで学ぶ会計』中央経済社, 2021年
・伊藤邦雄『新・現代会計入門　第6版』日本経済新聞社、2924年
・斎藤静樹『企業会計とディスクロージャー　第４版』東京大学出版会、2010年
・齋藤真哉『現代の会計』放送大学教育振興会、2020年

【成績評価の方法と基準】
評価は、次の２点に基づいて評価する。
①授業中に実施する小テスト（約30％）
②期末試験（約70％）

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
【学生が準備すべき機器他】
・オンラインによる回がありますので、その視聴を可能とするPC等を用意してください。
・配布レジュメには受講者が記入するための空欄があります。
　デジタル情報に直接記入する場合は、タブレット等を授業に持参してください。

もちろんプリントアウトして持参していただいても問題ありません。

【その他の重要事項】
簿記入門Ⅰ・Ⅱ及び会計学入門Ⅰ・Ⅱ、並びに財務会計論Ⅰを履修していることを前提とした内容となります。
授業内容及び指定したテキストで不明な点や疑問が生じた場合には、必ず、次の授業開始前または終了後に質問すること。

【関連科目】
・簿記入門Ⅰ・Ⅱ
・会計学入門Ⅰ・Ⅱ
・国際会計論Ⅰ・Ⅱ
・税務会計論Ⅰ・Ⅱ

【Outline (in English)】
（Course outline）
Students will learn about the underlying principles and standards of the accounting information communicated by companies to external stakeholders, as well as the social role fulfilled by accounting. Accounting information enables an understanding of a company's actual state (such as its financial position and performance). Therefore, knowledge concerning accounting information is essential for both those who will work in organisations such as companies in the future and those who engage in investment activities. Financial Accounting II focuses particularly on the accounting treatments of individual events for the purpose of preparing accounting information.
（Learning Objectives）
The objective of this course is to acquire knowledge of accounting treatments involved in the preparation of accounting information, while also examining the consistency and usefulness of such information.
（Learning activities outside of classroom）
The relevant chapters in the textbook corresponding to the course content will be provided in advance. Students should read these beforehand and endeavour to understand them. Furthermore, building upon the explanations given in class, students should deepen their own understanding by utilising the textbook and any reference materials presented during the lectures.For this course, the standard study time is 1.5 hours for preparatory learning and 2.5 hours for review.
（Grading Criteria /Policy）
Grading will be based on the following two components:
① In-class quizzes (approximately 30%)
② Final examination (approximately 70%)

監査論Ⅰ

小澤　康裕

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：火3/Tue.3　｜　配当年次：3〜4年
備考（履修条件等）：経営学部主催科目
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
会計監査（財務諸表監査）とは、企業が公表する財務諸表の適正性（正しいか否か）について、監査人が専門的見地から意見を表明する行為である。本講義では、この監査のプロセス全般を対象とする。また、企業の内部統制や粉飾決算事件等の最新のトピックを重視し、事例を含めて解説する。
　本講義の目的は、受講者が保証業務を含む会計監査の目的、意義、内容等についての基本的知識を修得し、監査が果たす役割の重要性について理解を深めることである。

【到達目標】
受講者が、会計監査の目的や内容等について基本的知識を修得し、現代社会において監査が果たす役割の重要性について理解し、説明することができるようになることが、本講義の到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
　講義形式でおこなう。本講義では、監査のプロセスを説明することはもちろん、企業の内部統制や粉飾決算事件等の最新のトピックを重視し、事例を含めて解説する。したがって、新聞や雑誌等の記事を補助資料として用いて、われわれの社会において生じている種々の問題に「監査」がどのように関わっているのかを説明し、監査が果たす役割の重要性について理解を促す。
　この授業は個々人の発言を求め、インタラクティブに行われる。また、必要に応じて動画を用いる。
　また、課題等に対するフィードバックとして、講義内において解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション・監査とは何か	講義全体の概要や受講のルールを説明し、「監査」についての初歩的な理解を促す。
第2回	会計監査と財務諸表の虚偽表示	会計監査と財務諸表の虚偽表示との関係ついて説明する。
第3回	監査のニーズ	監査には自発的なニーズが存在することを解説する。
第4回	監査人としての公認会計士・監査法人	公認会計士とは何か、また、監査法人とはどのようなものかを説明する。
第5回	監査人の責任	監査人に課されている責任とはどのようなものかを解説する。
第6回	監査の品質管理	監査の質を担保するためにどのような方法があり、実施されているのかを説明する。
第7回	監査基準	監査基準のうち、主に一般基準について解説する。
第8回	監査戦略	「戦略的に監査を実施する」とはどういうことかを説明する。
第9回	監査リスク・アプローチ	現在の監査方法の基本である「監査リスク・アプローチ」について解説する。
第10回	事業上のリスクを考慮したリスク・アプローチ	「事業上のリスクを考慮したリスク・アプローチ」とはどのようなものかについて説明する。
第11回	監査計画と監査上の重要性	「監査計画」と「重要性」について解説する。
第12回	サンプリングと監査手続	サンプリングとは何か、また、監査手続にはどのようなものが存在するかについて説明する。
第13回	分析的手続	分析的手続とは何か、また、その具体的な手法について演習問題を用いて解説する。
第14回	まとめと振り返り	監査論Ⅰの授業全体のまとめと振り返りを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　準備学習として、動画の視聴を求める場合がある。復習は必須である。
　レポート（1回以上）の提出を求める。
　また、各回の冒頭でハンドアウトを用いて前回の復習を行う。その際，受講者を指名して回答を求めるので，回答できるように前回の復習をしておくこと。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
　初回の授業で説明する。
　山浦久司『監査論テキスト』（中央経済社）（最新版）
※旧版は、基準等が改正されていて内容が異なるので、最新版を購入すること。

【参考書】
　亀岡恵理子, 福川裕徳, 永見尊, 鳥羽至英『財務諸表監査 第３版』（国元書房）
　林隆敏 (編著)『財務諸表監査の基礎概念』（中央経済社）

【成績評価の方法と基準】
　以下の配分で評点をつける予定である。
-レポート：20%
-期末テスト：80%
　評点を基に、以下のとおり評価を行う。
100-90:S
87-89:A+
86-83:A
82-80:A-
79-77:B+
76-73:B
72-70:B-
69-67:C+
66-63:C
62-60:C-
59-0:D
期末テスト未受験: E

【学生の意見等からの気づき】
　授業に集中できるように静寂な環境で授業を受けられるよう協力してください。

【学生が準備すべき機器他】
　一部、オンラインで学習支援システムを用いて、動画の視聴やレポートの提出を求めるため、パソコン等の機器が必要となる。

【その他の重要事項】
　会計学の基本的な知識があることを前提として講義を進めるので、「簿記入門Ⅰ/Ⅱ」と「会計学入門Ⅰ/Ⅱ」を履修していることが望ましい。また財務諸表に関する知識も必要になるので、「財務会計論Ⅰ/Ⅱ」を平行して履修するなどして知識の獲得に努めてほしい。

【Outline (in English)】
・Outline and objectives
　Financial statement audit (audit of financial statements) is the act of an auditor expressing an opinion from a professional perspective on the fairness (correctness or otherwise) of the financial statements published by an entity. This lecture covers the entire auditing process. It also emphasizes the latest topics, such as internal control of companies and window dressing cases, and includes case studies.

This course aims to enable participants to acquire a basic knowledge of the purpose, significance, and content of financial auditing, including assurance engagements, and to deepen their understanding of the importance of the role of auditing.
・Learning activities outside of classroom
As preparatory learning, students may be asked to watch a video. Review is compulsory.
Students are required to submit reports (at least once).
In addition, at the beginning of each session, a handout is used to review the previous session. The students will be nominated and asked to answer the questions, so the students should review the previous lesson so that they can answer the questions.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
・Grading Criteria /Policy
The following distribution of grades will be given.
-Report: 20%.
-Final exam: 80%.

監査論 II

小澤　康裕

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：火3/Tue.3　｜　配当年次：3〜4年
備考（履修条件等）：経営学部主催科目
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、財務諸表監査の制度論および報告論の領域ならびに内部統制等について解説し、これらの基礎的な考え方を理解することを目的とする。

【到達目標】
学生が、財務諸表監査の制度の枠組みや監査報告書の内容、内部統制ならびに不正会計等について基本的知識を修得し、現代社会において監査が果たす役割の重要性について理解することを到達目標としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義形式でおこなう。財務諸表監査とは、企業が公表する財務諸表の適正性（正しいか否か）について、監査人が専門的見地から意見を表明する行為である。本講義では、この監査の結果を報告する監査報告書、監査制度、監査の歴史等を主たる対象とする。また、企業の内部統制や粉飾決算事件等の最新のトピックを重視し、事例を含めて解説する。そのため、本講義では、新聞や雑誌等の記事を補助資料として用いて、現在、われわれの社会において生じている種々の問題に「監査」がどのように関わっているのかを説明し、監査が果たす役割の重要性について理解を促す。
この授業では必要に応じて動画を用いる。
また、課題等に対するフィードバックとして、講義内において解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の概要と進め方、評価方法等について説明する。また、監査意見とは何か、その概略を解説する。
第2回	監査の実施に係る制約事項と監査意見	監査の実施に係る制約事項と監査意見の関係について解説する。
第3回	財務諸表中の不適正事項と監査意見	財務諸表中の不適正事項と監査意見の関係、GC等について解説する。
第4回	金融商品取引法監査制度	金融商品取引法監査制度について解説する。
第5回	半期報告書と期中レビュー	半期報告書制度と期中レビューについて解説する。
第6回	会社機構と監査制度・会計監査人	会社機構と監査制度ならびに会計監査人について説明する。
第7回	不正と内部統制	様々な不正とそれに対応する内部統制について簡単に説明し、内部統制について理解を促す。
第8回	内部統制の基本的要素１	内部統制の基本的要素について解説する。
第9回	内部統制の基本的要素２・内部統制の限界	前回に続いて、内部統制の基本的要素について解説し、あわせて、内部統制の限界についても説明する。
第10回	内部統制の監査・監査の歴史	内部統制の監査について簡単に説明した後、監査の歴史を概観する。
第11回	粉飾決算の方法と事例	粉飾決算の方法と事例について説明する。
第12回	AIと会計・監査	人工知能技術の発展と会計・監査への影響について解説する。
第13回	KAM、不正会計の具体例	監査上の主要な検討事項（KAM）の概要、数値を用いた不正会計の具体例を説明し、監査の意義を再確認する。
第14回	振り返り	監査論Ⅱ全体の振り返りを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習として、動画の視聴を求める場合がある。復習は必須である。
レポート（1回以上）の提出を求める。
また、各回の冒頭でハンドアウトを用いて前回の復習を行う。その際，受講者を指名して回答を求めるので，回答できるように前回の復習をしておくこと。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
初回の授業で説明する。
山浦久司『監査論テキスト』（中央経済社）（最新版）
※旧版は、基準等が改正されていて内容が異なるので、最新版を購入すること。

【参考書】
亀岡恵理子, 福川裕徳, 永見尊, 鳥羽至英『財務諸表監査』（第３版）（国元書房）
林隆敏 (編著)『財務諸表監査の基礎概念』（中央経済社）

【成績評価の方法と基準】
以下の配分で評点をつける予定である。
-レポート：20%
-期末テスト：80%
評点を基に、以下のとおり評価を行う。
100-90:S
87-89:A+
86-83:A
82-80:A-
79-77:B+
76-73:B
72-70:B-
69-67:C+
66-63:C
62-60:C-
59-0:D
期末テスト未受験: E

【学生の意見等からの気づき】
授業に集中できるように静寂な環境で授業を受けられるよう協力してください。

【学生が準備すべき機器他】
一部、オンラインで学習支援システムを用いて、動画の視聴やレポートの提出を求めるため、パソコン等の機器が必要となる。

【その他の重要事項】
〔関連科目〕
会計学の基本的な知識があることを前提として講義を進めるので、「簿記入門Ⅰ/Ⅱ」と「会計学入門Ⅰ/Ⅱ」を履修していることが望ましい。また財務諸表に関する知識も必要になるので、「財務会計論Ⅰ/Ⅱ」を平行して履修するなどして知識の獲得に努めてほしい。

【関連科目】
None

【Outline (in English)】
・Learning Objectives)
This course aims to explain the areas of institutional and reporting theory of financial statement auditing, as well as internal control and other aspects, and to provide an understanding of the basic concepts of these areas.
・Learning activities outside of classroom

As preparatory learning, students may be asked to watch a video. Review is compulsory.
Students are required to submit reports (at least once).
In addition, at the beginning of each session, a handout is used to review the previous session. The students will be nominated and asked to answer the questions, so the students should review the previous lesson so that they can answer the questions.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
・Grading Criteria /Policy
The following distribution of grades will be given.
-Report: 20%.
-Final exam: 80%

税務会計論Ⅰ

藤井　誠

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：水3/Wed.3　｜　配当年次：3〜4年
備考（履修条件等）：経営学部主催科目

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この授業では、学生が、税務会計論の中心である「法人税」について、企業会計との関連に触れながら、体系的な理解と知識の習得することを目的とする。各論点の学習に際しては、必要に応じて、対応する企業の論点との相違に触れながら、損益計算構造理論および所得計算構造理論の理解を深める。
　国家試験との関連においては、主に、税理士試験の法人税法および公認会計士試験の租税法おける出題論点を扱う。このうち、税務会計論Ⅰでは、基本論点を中心に学習する。

【到達目標】
　税務会計論の前提となる簿記論および財務会計論の内容について、税務会計の観点から再確認し、知識の定着を図ることができる。
　ビジネスの現場において必須といえる税務申告書の作成に関する理論と技法を習得することができる。
　税理士試験（法人税法）、公認会計士試験（租税法）、司法試験（租税法）、国税専門官試験等の職業会計人として求められる高度な知識を習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
　本授業は対面形式とオンデマンド形式を併用して行う。
　学習支援システムにおいて、講義レジュメと小テストをアップロードするので、講義を受けた後に、小テストを受ける形で学習を進める。課題等に対するフィードバックとして、次回の講義冒頭またはLMS（Hoppii）において解説・講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスおよび条文の読み方	講義の概要説明を行い、法人税法の読み方の基礎を学習する。
第2回	法人税の概要	法人税の種類および性質、法体系構造を学習する。
第3回	法人税の税率構造	法人税の税率構造と実効税率について学習する。
第4回	所得計算の通則①	課税所得計算における「益金」「損金」の意味と所得計算の基本構造を学習する。
第5回	所得計算の通則②	公正処理基準、資本等取引について学習する。
第6回	税務会計の一巡	所得計算および税額計算の一巡の流れを学習する。
第7回	法人概念と受取配当等の益金不算入制度	法人税法における「法人観」とそれに基づく所得概念を学習する。
第8回	所得税額控除制度、外国税額控除制度	所得税や外国法人税に関係する二重課税調整について学習する。
第9回	棚卸資産、有価証券	棚卸資産および有価証券の課税関係について学習する。
第10回	減価償却資産	減価償却の対象となる資産の課税関係について学習する。
第11回	圧縮記帳制度	法人税法および租税特別措置法に規定されている圧縮記帳制度について学習する。
第12回	同族会社関連規定	同族会社の定義および関連規定について学習する。
第13回	寄附金および交際費	寄附金および交際費の損金不算入制度について学習する。
第14回	試験・まとめ解説	定期試験およびまとめ解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　講義中の解説や自分で考えたことを講義レジュメやノートにメモし、それらについて「なぜそのような規定が設けられるに至ったのか」を考えながら復習することが期待される。その際、講義で学習した内容を理解できているかを確認し、理解できていないあるいは理解が十分ではない用語や規定については、参考図書や図書館等を利用として確認することが望ましい。
　本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とするが、予習より復習に重点を置くことを勧めたい。

【テキスト（教科書）】
　講義レジュメをPDFファイルにて配信し、これを用いながら、必要に応じてPowerPointのスライドを用いて講義を行う。なお、講義レジュメには十分な余白を設けているので、講義中のメモ等を書き込む（タブレット端末の利用も可）ことを推奨する（別途ノートを用意しても構わない）。

【参考書】
　大下勇二著（2019）『税務会計Ⅰ・Ⅱ』法政大学通信教育テキスト（図書館所蔵・生協販売）。
　坂本雅士編著（2025）『現代税務会計論』（最新版が望ましい）中央経済社。

【成績評価の方法と基準】
　授業内に行われる小テスト（50%）と定期試験（50%）の合計により成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
　講義を聴いているだけでは集中力が持たないという声があるため、理論を実践する足掛かりとする意味も含め、講義中に実践的な演習課題に取り組む機会を設ける。そのため、電卓（スマートフォンの計算機アプリでも可）を持参すること。

【学生が準備すべき機器他】
　学習支援システム、オンライン授業動画を視聴するためのPCまたはタブレット端末（スマホでは画面が小さく、十分な学習効果が見込めないため、A4サイズのPDFをスクロールなしで表示可能な端末が望ましい。）。

【その他の重要事項】
　本授業は対面形式の授業回とオンデマンド形式（動画配信）の授業回によって構成する。ただしハイフレック形式ではない点に留意すること（対面形式の授業回に教室からの配信はしない）。具体的な日程や受講方法の詳細は、学事日程や国家試験の日程等を考慮しつつ、第1回授業の際に説明する。
　税務会計論は、簿記論および財務会計論の知識の上に成り立つ科目であることから、「簿記入門Ⅰ/Ⅱ」および「会計学入門Ⅰ/Ⅱ」を履修していることを前提に授業を進める。
　「簿記入門Ⅰ/Ⅱ」および「会計学入門Ⅰ/Ⅱ」を未履修であっても、本講義を履修することができるが、その場合、各自でこれらの科目に相当する学習を並行して進めることを勧める。
　本講義の履修に際しては、相乗効果が期待されるため、「財務会計論Ⅰ/Ⅱ」を履修することを勧める。

【Outline (in English)】
The purpose of this class is for students to acquire a systematic understanding and knowledge of "corporate tax," which is the core of tax accounting theory, while touching on its relationship with corporate accounting. When studying each topic, students will deepen their understanding of the profit and loss accounting structure theory and the income accounting structure theory, while touching on the differences with the corresponding corporate issues as necessary.
The standard time for preparation and review for this class is two hours each, but it is recommended that you place more emphasis on review than preparation.
Grades will be determined based on the combined total of in-class quizzes (50%) and regular exams (50%).

税務会計論 II

藤井　誠

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水3/Wed.3　｜　配当年次：3〜4年
備考（履修条件等）：経営学部主催科目

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この授業では、学生が、税務会計論の中心である「法人税」について、企業会計との関連に触れながら、体系的な理解と知識を習得することを目的とする。各論点の学習に際しては、必要に応じて、対応する企業会計の論点との相違に触れながら、損益計算構造理論および所得計算構造理論の理解を深める。
　国家試験との関連においては、主に、税理士試験の法人税法および公認会計士試験の租税法おける出題論点を扱う。このうち，税務会計論Ⅱでは、応用論点を中心に学習する。

【到達目標】
　税務会計論の前提となる簿記論および財務会計論の内容について、税務会計の観点から再確認し、知識の定着を図ることができる。
　ビジネスの現場において必須といえる税務申告書の作成に関する理論と技法を習得することができる。
　税理士試験（法人税法）、公認会計士試験（租税法）、司法試験（租税法）、国税専門官試験等の職業会計人として求められる高度な知識を習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
　本授業は対面形式とオンデマンド形式を併用して行う。
　学習支援システムにおいて、講義レジュメと小テストをアップロードするので、講義を受けた後に、小テストを受ける形で学習を進める。
　また、必要に応じて、学習支援システムを通じて課題レポートを課す予定にしている。
　課題等に対するフィードバックとして、次回の講義冒頭またはLMS（Hoppii）において解説・講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと税務貸借対照表	講義の概要説明を行い、税務貸借対照表の存在意義とその構造について学習する。
第2回	給与，租税公課	給与および租税公課に関する課税関係について学習する。
第3回	貸倒損失，引当金	貸倒損失と法人税法上の引当金について学習する。
第4回	移転価格税制	移転価格を利用した国際的租税回避防止規定について学習する。
第5回	過少資本税制	過少資本を利用した国際的租税回避防止規定について学習する。
第6回	タックス・ヘイブン税制	タックス・ヘイブンを利用した国際的租税回避防止規定について学習する。
第7回	株式交換・株式移転	株式交換や株式移転が行われた場合の課税関係を学習する。
第8回	企業組織再編税制	合併や分割等の企業組織再編税制を学習する。
第9回	グループ法人通算税制	親子会社等の企業集団課税について学習する。
第10回	グループ法人税制	親子会社間の内部取引に関わる課税関係について学習する。
第11回	収益認識と益金の関係	企業会計における収益認識基準と税務会計における益金との関係について学習する。
第12回	繰延資産、リース取引、外貨建取引	法人税法上の繰延資産、リース取引、外貨建取引の課税関係について学習する。
第13回	ヘッジ取引	ヘッジ取引の課税関係について学習する。
第14回	試験・まとめ解説	定期試験およびまとめ解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　講義中の解説や自分で考えたことを講義レジュメやノートにメモし、それらについて「なぜそのような規定が設けられるに至ったのか」を考えながら復習することが期待される。その際、講義で学習した内容を理解できているかを確認し、理解できていないあるいは理解が十分ではない用語や規定については、参考図書や図書館等を利用として確認することが望ましい。
　本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とするが、予習より復習に重点を置くことを勧めたい。

【テキスト（教科書）】
　講義レジュメをPDFファイルにて配信し、これを用いながら、必要に応じてPowerPointのスライドを用いて講義を行う。なお、講義レジュメには十分な余白を設けているので、講義中のメモ等を書き込む（タブレット端末の利用も可）ことを推奨する（別途ノートを用意しても構わない）。

【参考書】
　大下勇二著（2019）『税務会計Ⅰ・Ⅱ』法政大学通信教育テキスト（図書館所蔵・生協販売）。
　坂本雅士編著（2025）『現代税務会計論』（最新版が望ましい）中央経済社。

【成績評価の方法と基準】
　授業内に行われる小テスト（50%）と定期試験（50%）の合計により成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
　講義を聴いているだけでは集中力が持たないという声があるため、理論を実践する足掛かりとする意味も含め、講義中に実践的な演習課題に取り組む機会を設ける。そのため、電卓（スマートフォンの計算機アプリでも可）を持参すること。

【学生が準備すべき機器他】
　オンライン授業動画を視聴するためのPCまたはタブレット端末（スマホでは画面が小さく、十分な学習効果が見込めないため、A4サイズのPDFをスクロールなしで表示可能な端末が望ましい。）。

【その他の重要事項】
　本授業は対面形式の授業回とオンデマンド形式（動画配信）の授業回によって構成する。ただしハイフレック形式ではない点に留意すること（対面形式の授業回に教室からの配信はしない）。具体的な日程や受講方法の詳細は、学事日程や国家試験の日程等を考慮しつつ、第1回授業の際に説明する。
　税務会計論は、簿記論および財務会計論の知識の上に成り立つ科目であることから、「簿記入門Ⅰ/Ⅱ」および「会計学入門Ⅰ/Ⅱ」を履修していることを前提に授業を進める。
　「簿記入門Ⅰ/Ⅱ」および「会計学入門Ⅰ/Ⅱ」を未履修であっても、本講義を履修することができるが、その場合、各自でこれらの科目に相当する学習を並行して進めることを勧める。
　本講義の履修に際しては、相乗効果が期待されるため、「財務会計論Ⅰ/Ⅱ」を履修することを勧める。

【Outline (in English)】
The purpose of this class is for students to acquire a systematic understanding and knowledge of "corporate tax," which is the core of tax accounting theory, while touching on its relationship with corporate accounting.　When studying each topic, students will deepen their understanding of the profit and loss accounting structure theory and the income accounting structure theory, while touching on the differences with the corresponding corporate accounting topic as necessary.
In relation to national examinations, the course will mainly deal with topics that appear in the Corporate Tax Law of the Tax Accountant Examination and the Tax Law of the Certified Public Accountant Examination. Of these, Tax Accounting Theory II will focus on applied topics.
The standard time for preparation and review for this class is two hours each, but it is recommended that you place more emphasis on review than preparation.
Grades will be determined based on the combined total of in-class quizzes (50%) and regular exams (50%).

管理会計論 I

北田　皓嗣

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses　｜　配当年次：3〜4年
備考（履修条件等）：経営学部主催科目

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
管理会計とは，組織管理に不可欠な経済的情報を提供する理論と技術である。したがって，管理会計の学習にあたっては，単に計算テクニックを使えるというだけでなく，組織実践との関係で，経営管理とは何であるかについて理解する必要がある。そのため講義では，企業の構想を実現するため会計の仕組みについて、組織構造との関係のなかで理解を試みる。

【到達目標】
経営管理問題と管理会計との関係についての知識の習得を目指します。管理会計情報が経営管理における問題ごとに異なる会計情報が利用されること、またそのときに必要となる財務・非財務情報について理解することを目指します。また関連した計算方法を使えるようにすることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
オンデマンド形式のコンテンツをYouTubeで配信し，中間試験，期末試験により理解度の確認を行います。授業中に提示される問題についても，適宜，解答して，解説を確認するようにしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要と，費用の考え方の紹介
第2回	固定費と変動費１	固定費と変動費，貢献利益
第3回	固定費と変動費２	損益分岐点
第4回	固定費と変動費３	固定費のマネジメント
第5回	固定費と変動費４	固定費とビジネスモデル
第6回	固定費と変動費５	セールズミックス
第7回	固定費と変動費６	固変分解
第8回	マネジメントコントロールシステム１	PDCAサイクル
第9回	マネジメントコントロールシステム２	上司と部下の関係
第10回	マネジメントコントロールシステム３	４つのコントロール
第11回	マネジメントコントロールシステム４	コストセンター・プロフィットセンター
第12回	経営計画１	計画の種類
第13回	経営計画２	中期経営計画とその改定
第14回	経営計画３	短期利益計画

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義後に復習を通じて知識の習得を行ってください。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
谷武幸(2013)『エッセンシャル管理会計（第3版）』中央経済社
浅田孝幸監訳(2008)『管理会計のエッセンス』同文舘

【成績評価の方法と基準】
中間試験(10%)
期末試験(90%)
授業形式、中間試験はオンデマンドですが，期末試験は大学で実施することを予定しております。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
- Management Accounting is an essential tool that enhances a manager's ability to make effective economic decisions. This course teaches students how to extract and modify costs in order to make informed managerial decisions.
- This course aims to provide students with knowledge of the relationship between business management issues and management accounting.
- Please review after the lecture to acquire knowledge. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
- Mid-term exam (10%), final exam (90%)

管理会計論 II

北田　皓嗣

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses　｜　配当年次：3〜4年
備考（履修条件等）：経営学部主催科目

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
管理会計とは，組織管理に不可欠な経済的情報を提供する理論と技術である。したがって，管理会計の学習にあたっては，単に計算テクニックを使えるというだけでなく，組織実践との関係で，経営管理とは何であるかについて理解する必要がある。そのため講義では，企業の構想を実現するため会計の仕組みについて、組織構造との関係のなかで理解を試みる。

【到達目標】
経営管理問題と管理会計との関係についての知識の習得を目指します。管理会計情報が経営管理における問題ごとに異なる会計情報が利用されること、またそのときに必要となる財務・非財務情報について理解することを目指します。また関連した計算方法を使えるようにすることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
オンデマンド形式のコンテンツを配信し，中間試験，期末試験により理解度の確認を行います。授業中に提示される問題についても，適宜，解答して，解説を参照するようにしておいてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	管理会計の基本	授業の概要と，費用の考え方の紹介
第2回	責任センター	コストセンター，プロフィットセンター
第3回	事業部制組織の管理会計 1	事業部の業績評価，内部振替価格，事業部の利益概念
第4回	事業部制組織の管理会計 2	ROCE，RI，本社費・共通費の配賦
第5回	バランスド・スコアカード（BSC）	４つの視点
第6回	コストマネジメント 1	原価計算の考え方
第7回	コストマネジメント 2	ABC と ABM
第8回	コストマネジメント 3	原価企画
第9回	コストマネジメント 4	原価維持，原価低減
第10回	CSR 1	企業を取り巻く社会課題
第11回	CSR 2	CSR マネジメントの基礎
第12回	ESG 投資	環境，社会，ガバナンスを考慮した投資活動
第13回	環境管理会計と環境コスト	企業の内部管理に特化した環境会計
第14回	MFCA（マテリアルフローコスト会計）	資源生産性の管理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義後に復習を通じて知識の習得を行ってください。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
浅田孝幸監訳(2008)『管理会計のエッセンス』同文舘
谷武幸(2013)『エッセンシャル管理会計（第3版)』中央経済社

【成績評価の方法と基準】
中間試験(10%)
期末試験(90%)
授業、中間試験はオンデマンドですが，期末試験は大学で実施することを予定しております。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
- Management Accounting is an essential tool that enhances a manager's ability to make effective economic decisions. This course teaches students how to extract and modify costs in order to make informed managerial decisions.
- This course aims to provide students with knowledge of the relationship between business management issues and management accounting.
- Please review after the lecture to acquire knowledge. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
- Mid-term exam (10%), final exam (90%)

原価計算論Ⅰ

福田　淳児

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：水2/Wed.2　｜　配当年次：3〜4年
備考（履修条件等）：経営学部主催科目

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
原価計算は、製品一単位当たりの製造原価を計算するための一連の手続きです。この手続きは、大きく費目別原価計算、部門別原価計算そして製品別原価計算から構成されています。原価計算論Ⅰでは、これらの原価計算の一連の手続きについて理解することを目的とします。また，その前提として，これから原価計算論を学習する上で必要とされる基本的な用語および諸概念を理解し，それらの用語や諸概念をできるだけ自分の言葉を使って説明することができることを目的とします。また，原価計算の諸手続きの背後にある理論的な意味を説明できることを目的とします。

【到達目標】
原価計算論Ⅰの到達目標は次の３点です。第1に，原価計算に関連した基本的な用語や概念を自分の言葉で簡潔に説明できる。第2に，原価計算の一連の手続きである費目別原価計算、部門別原価計算、製品別原価計算のそれぞれを理解し，その意味を説明できること。第3に，これらの理解に基づき，原価計算の基本的な計算問題また中級程度の計算問題，および理論的な問題を自分の力で解けること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
原価計算論Ⅰは、対面，また授業回の特性に応じてオンデマンドでの講義形式の授業を想定しています。
　授業では学習支援システムを通じて事前配布した資料に基づいて，原価計算の一連の手続き，およびその背後にある理論の説明を行います。また，授業中に折り紙を利用した模擬生産を行い，原価計算の概念やその計算方法を確認します。さらに，計算問題を解いてみることで理解を深めます。授業内また授業後に確認および応用問題を課題として出すこともありますので，必ず自分の力で問題を解いてください。課題については、解答を示すとともに、対面授業の際に特に注意が必要な箇所、また応用問題については解説を行う形でフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義の概要および原価計算の必要性について	本授業の目的，内容また授業の実施方法や評価方法などの概要を説明する。また，なぜ企業にとって原価計算が必要とされるのかを説明します。
第2回	原価計算の諸目的と基本的な諸概念	原価計算基準に基づき、原価計算の諸目的および原価の一般概念について説明する。また，これから原価計算を学習する上で必要とされる重要な原価分類について紹介する。
第3回	材料費の計算	材料費の意味、その内訳および材料費の計算について、そのプロセスを追いながら説明する。
第4回	労務費の計算	直接労務費と間接労務費の区別を説明する。その後、直接労務費の計算方法を問題演習を交えながら、説明する。
第5回	材料費，労務費の計算に関わる重要な論点の復習と問題演習	材料費と労務費に関する重要なポイントのまとめとそれらに関連した問題演習を中心に行う。
第6回	製造間接費の意味およびその配賦方法	製造間接費の意味およびその配賦の必要性について説明する。特に、製造間接費の配賦基準の選択、またその背後にある論理を詳しく説明する。
第7回	製造間接費に関する補足とその問題演習	製造間接費の差異分析についての補足説明を行なったのちに、問題演習を行う。
第8回	個別原価計算	個別原価計算が適する生産形態およびその計算プロセスを詳しく説明する。
第9回	折り紙を使用した模擬生産とその結果に基づく個別原価計算表の作成	折り紙による模擬生産を行ってもらい、各自で個別原価計算表を作成する。
第10回	部門別原価計算の計算手続き	部門別原価計算を伴う個別原価計算を前提に，部門別原価計算を行う意義およびその計算手続きについて説明する。
第11回	部門別原価計算の補足とその問題演習	部門別原価計算の一連の計算手続きを確認するとともに，問題演習を行う。
第12回	総合原価計算の意義および仕掛品の評価方法について	総合原価計算の意義を個別原価計算との比較で明らかにした後，仕掛品評価方法について説明する。
第13回	総合原価計算の問題演習	総合原価計算における仕掛品評価の平均法と先入先出法についての問題演習を行う。
第14回	工程別総合原価計算について	工程別総合原価計算の意味また累加法による計算手続について説明する。非累加法という方法についても紹介する予定である。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業を受ける前に，またはオンデマンドの教材を視聴する前に，各回のテーマに関連するテキストの該当箇所を必ず読んでおくこと。また，授業支援システムを通じて事前配布した資料にも必ず目を通しておいてください。さらに、テキストの例題を自分なりに解き，わからない箇所を明確にした上で，対面またオンデマンドによる授業に臨んでください。必要に応じて，授業内また授業後に課題を提示することがあります。これは授業で学んだ内容を復習するため，さらに発展的学習のための問題です。これらの問題ついては，必ず自分の力で解いてみてください。なお、本授業の準備・復習のための学習時間は、各２時間を標準としています。

【テキスト（教科書）】
山北晴雄・福田淳児『ファーストステップ原価計算を学ぶ』中央経済社2016年 (2,640円)

【参考書】
参考文献や自主学習に役立つと文献を講義の中で必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
原価計算論Ⅰの評価は期末試験および毎回の授業での課題の提出によって評価します。なお，成績評価の配分は期末テスト70％，授業中また授業後の課題の提出30％とします。

【学生の意見等からの気づき】
授業内容について、比較的やさしいという学生と難しいという学生がいます。授業では，初学者を対象に基礎的なところから説明を行いたいと思います。その上で、発展的な問題についてはできるだけ課題およびその解説の形で補足を行いたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
事前配布資料は学習支援システムを通じて配布しますので、必ず資料をダウンロードしておいてください。

【その他の重要事項】
関連科目とし管理会計論Ⅰ/Ⅱおよび財務会計論Ⅰ/Ⅱなどがありますので同時に履修することを勧めます。

【Outline (in English)】
Cost accounting is a series of procedures for calculating the manufacturing cost per unit of product. This procedure is divided into costing by item, costing by department, and costing by product. The objective of this module is to understand a series of calculation procedures of cost accounting. For accomplishing this objective, students need to understand the basic terms and concepts, and to be able to explain these terms in their own words. In addition to these, the objective of this module is to help students to be able to explain the theories behind these procedures.
The objectives of this course are as follows. First, to be able to concisely explain basic terms and concepts related to cost accounting in one's own words. Second, to understand a series of cost accounting procedures: cost accounting by item, cost accounting by department, and cost accounting by product. Third, to be able to solve basic problems based on this understanding.
Before attending the lecture, be sure to read the relevant part of the textbook related to the theme of each session. Also, be sure to read through the materials distributed in advance through the learning support system. In addition, please try to solve the examples in the textbook in your own way and clarify the parts you do not understand before attending the lecture. If necessary, assignments will be given after each class. These are problems related to the content learned in the class, as well as problems for further study. These problems will be explained in detail in the next lecture, with the problems with the most errors and their solutions introduced. The standard study time for preparation and review of this class is 2 hours each.
Grading in Cost Accounting I is based on the final exam and the assignments submitted in each class. The distribution of grades is 75% for the final exam and 25% for the homework (assignment).

原価計算論 II

福田　淳児

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水2/Wed.2　｜　配当年次：3〜4年
備考（履修条件等）：経営学部主催科目

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
原価計算論Ⅱでは，原価計算システムが提供する原価情報が，企業内での原価管理および短期利益計画といった経営管理目的に果たす役割を理解することを目的とします。また，アメリカにおいて1980年代に実務の観察に基づいて提唱されたActivity-Based Costingの計算メカニズムまたそれが経営意思決定にもたらす影響を，伝統的な製造間接費の配賦方法との対比で理解することを目的とします。

【到達目標】
原価計算論Ⅱでは，原価計算システムによる経営管理目的に有用な情報の提供について理解することを目標とします。具体的には，以下の点を目標とします。第1に，標準原価計算や直接原価計算およびCVP分析が提供する原価情報の経営管理目的での役立ちについて，自分の言葉で説明できること。第2に，製造間接費の配賦に関連したActivity-Based Costingの基本的なメカニズムを伝統的な配賦方法と比較して、その違いを自分の言葉で明確に説明できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
原価計算論Ⅱは対面また授業回の特性に応じてオンデマンドでの講義形式の授業を想定しています。
　授業では，狭義の原価管理目的に有用な原価計算である標準原価計算，短期利益計画の策定に有用な直接原価計算ならびにCVP分析，さらに伝統的な製造間接費の配賦方法との比較を行うことでActivity-Based Costingのメカニズムについて学習します。標準原価計算による原価標準の設定および原価差異分析を理解してもらうために，折り紙を使用した模擬生産を行う予定です。また，必要に応じて授業中また授業終了後に課題を提示しますので，必ず自分の力で問題を解いてみてください。課題については、解答を示すとともに、対面授業の際に特に注意が必要な箇所、また応用問題については解説を行う形でフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義の概要紹介およびコスト・マネジメントの概要	原価計算論Ⅱで取り扱うテーマの概要および評価方法について説明するとともに，コスト・マネジメントの技法の一つである原価企画について紹介する。
第2回	標準原価計算の意義および原価標準の設定	標準原価計算の意義とその目的および原価標準の設定方法について説明する。
第3回	標準原価計算における原価差異分析（製造直接費を中心に）	製造直接費の原価差異分析の方法とその意味を説明する。
第4回	折り紙を使用した模擬生産とそれに基づく原価差異分析	折り紙を使った模擬生産を行い，標準原価による原価管理の一連の手続きについて、そのデータに基づいて、実施してみる
第5回	標準原価計算における原価差異分析（製造間接費を中心に）	製造間接費の原価差異の分析の方法、特に四分法を中心に説明する。
第6回	原価差異分析に関する復習とその問題演習	標準原価計算における原価差異分析の補足説明を行うとともに，問題演習を行う。
第7回	CVP分析の意義	CVP分析の意義、ならびに貢献利益（限界利益）の意味およびその役立ちを説明する。
第8回	コスト・ビヘイビアの分析方法	原価の固変分解の方法を説明するとともに，その問題演習を行う。
第9回	CVP分析の問題演習	CVP分析に関する問題の振り返りとその問題演習を行う。
第10回	直接原価計算の意義と損益計算書の作成	全部原価計算との対比で直接原価計算の意義および直接原価計算の短期利益計画目的での有用性について説明する。
第11回	直接原価計算と全部原価計算における営業利益の比較	直接原価計算と全部原価計算に基づく損益計算書において営業利益に差異が生じる状況ならびに差異が生じる原因を明らかにする。
第12回	直接原価計算の重要な論点の振り返りと問題演習	直接原価計算の計算プロセスの確認と問題演習を行う。
第13回	ABCの基礎的な概念と伝統的な製造間接費の配賦計算との比較	ABCの概念を説明するとともに，伝統的な製造間接費の配賦方法との違いを両者の相違点に焦点を当てて説明する。
第14回	ABCの計算例または事例	ABCの事例に基づいて，実際の計算プロセスを検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業を受けるまたはオンデマンドの教材を見る前に，各回のテーマに関連するテキストの該当箇所を必ず読んでおくこと。また，学習支援システムを通じて事前配布した資料にも必ず目を通しておいてください。さらに，テキストの例題を自分なりに解いてみて、わからない箇所を明確にして対面またオンデマンドによる授業に臨んでください。必要に応じて，授業内また授業後に課題を提示することがあります。これは授業で学んだ内容を復習するため，さらに発展的学習のための問題です。これらの問題ついては，必ず自分の力で解いてみてください。なお、本授業の準備・復習のための学習時間は、各2時間を標準としています。

【テキスト（教科書）】
山北晴雄・福田淳児『ファーストステップ原価計算を学ぶ』中央経済社2016年 (2400円税別)

【参考書】
参考文献また自主学習に役立つと考えられる文献については、講義の中で必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
原価計算論Ⅱの成績評価は，期末試験および毎回の授業での課題の提出に基づきます。成績評価の配分は期末テスト70％，課題または宿題の提出30％とします。

【学生の意見等からの気づき】
折り紙による模擬生産について楽しいという意見をもらっています。できるだけ身近なもので生産という活動を体験し、なお原価計算の実施方法が体感できる方法を考えたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
事前配布資料は学習支援システムを通じて配布します。

【Outline (in English)】
The objective of Cost Accounting　II is to understand how cost information provided through cost accounting systems plays a role in cost control and short-term profit planning within companies. It also aims to understand the calculation mechanism of activity-based costing, which was proposed based on practical observations in the 1980s, and its impact on management decision making.
In this module, the objective is to understand that cost accounting systems can provide useful information for business management purposes. Specifically, the following points are targeted. First, to be able to explain the usefulness of accounting information provided by standard costing, direct costing, and CVP analysis as costing for business management purposes. Secondly, to be able to explain the basic mechanism of Activity-Based Costing, which was introduced in the 1980s, in comparison with the traditional method of allocating manufacturing overhead.
Before attending the lecture, be sure to read the relevant part of the textbook related to the theme of each session. In addition, please be sure to read through the materials distributed in advance through the learning support system. In addition, please try to solve the examples in the textbook in your own way and clarify the parts you do not understand before attending the lecture. If necessary, assignments will be given after each class. These are problems related to the content learned in the class, as well as problems for further study. These problems will be explained in detail in the next lecture, with the problems with the most errors and their solutions introduced. The standard study time for preparation and review of this class is 2 hours each.
Grading in Cost Accounting I is based on the final exam and the assignments submitted in each class. The distribution of grades is 75% for the final exam and 25% for the homework (assignment).

Foreign Language Exercise （English III）※GO科目

Ｋｒｅｇｇ　Ｊｏｈｎｓｔｏｎ

単位数：1単位 ｜ 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：月3/Mon.3 ｜ 配当年次：1〜4年
その他属性：〈グ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
様々なトピックについて、短いながらも、効果的・説得力のあるプレゼンテーションができるようになることを目指します。スピーチの方法をを基礎から学び、自信をもってプレゼンテーションを行うことができるようにしましょう（詳細は以下の英文の記載を読んでください）。
To learn how to deliver short, effective speeches in English on a variety of topics.

【到達目標】
This course is designed primarily to improve students' presentation skills and thereby to develop their integrative English language proficiency. The goal is to acquire basic presentations skills, including how to organize a presentation, supporting arguments with evidence, effective use of visual aids, and aspects of delivery such as eye contact or gesture.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
The students will learn about the 3 messages involved in making effective speeches &presentations: The physical message, the visual message, and the story message. The students will view and discuss model speeches and make their own speeches based on the demonstrations. The students will develop confidence in delivering effective speeches and presentations.
Feedback on submitted assignments and quizzes will be given at the beginning of the following class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Course Intro &level check Extemporaneous speeches	Ice breakers Course objectives Vocabulary management
Week 2	The Physical Message Unit 1 Posture &Eye contact	Having good posture Making eye contact Model presentation 1 Prepare to give informative speech Prepare quadrant
Week 3	The Physical Message Unit 2 Gestures Unit 1 quiz Give informative speech	Using gestures in speech Model presentation 2 Prepare layout speech grid Prepare to give layout speech
Week 4	The Physical Message Unit 3 Voice Inflection Unit 2 quiz Give layout speech	Using voice inflection Model presentation 3 Prepare storyboard &visuals
Week 5	The Visual Message Unit 4 Effective Visuals Unit 3 quiz Give demonstration speech	Preparing visuals for speech Model presentation 4 Prepare 2-country comparison charts
Week 6	The Visual Message Unit 5 Explaining Visuals Unit 4 quiz Explain 2-country comparison charts	Using visuals during presentation Model presentation 5 Prepare explanations &visual aids for 2-country speech
Week 7	Unit 5 quiz Give 2-country comparison speech &Peer Review	Review Units 1-5 Compare/ contrast 2 countries
Week 8	The Story Message Organization of a speech	Presentation organization Components of presentation script
Week 9	The Story Message Introduction Unit 6 quiz	Effective presentation introductions Model introductions: Episode 6 Prepare storyboard for 2 product presentation
Week 10	The Story Message The Body: evidence &transitions Unit 7 quiz Explain introduction for product speech	Body of presentation Including evidence Using transitions & sequencers Prepare storyboard and charts for product speech
Week 11	The Story Message The Conclusion Unit 8 quiz Explain body of product speech	Conclusion of presentation Including evidence Using transitions & sequencers Model presentation body Prepare conclusion for product speech
Week 12	Watch full Presentation &Peer Review Unit 9-10 quiz	Review presentation components Prepare for final presentations
Week 13	Final Presentations (Day 1): Product comparison (5-6 minutes)	Final Presentations (Day 1): Product comparison (5-6 minutes)
Week 14	Final Presentations (Day 2) : Product comparison (5-6 minutes) Course review & wrap up	Final Presentations (Day 2): Product comparison (5-6 minutes)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to complete weekly assignments, review for regular quizzes, and prepare presentations to give in class.
本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とします。/ University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Speaking of Speech: Premium Edition, Basic Presentation Skills for Beginners
New edition 2021, Harrington, LeBeau
ISBN 9784863123854

【参考書】
Speaking of Speech: Premium Edition, Basic Presentation Skills for Beginners

New edition 2021, Harrington, LeBeau
ISBN 9784863123854

【成績評価の方法と基準】
Quizes-20%
Homework-15%,
Participation 20%
Presentations 45%
*In principle, no more than three absences per term are allowed

【学生の意見等からの気づき】
Added emphasis on eye contact and use of transitions in presentations.

【学生が準備すべき機器他】
OHC &projector, DVD &CD player in classroom

【その他の重要事項】
Class size is limited to 20 students. Students who wish to take the course need to attend the first class in order to ensure that they can register for the course. In the event that the number of students wishing to take the class exceeds 20, the students will be selected based on a listening and vocabulary test.

【キャリアデザイン学部より】
2014年度～2016年度入学者のみ，市ヶ谷基礎科目4群（必修外国語＜英語＞に充当も可能です。

【Outline (in English)】
Learn how to organize and deliver effective speeches and presentations, Listen to and take notes on other students' speeches and model speeches, Evaluate and offer peer feedback on classmates' speeches,

Foreign Language Exercise （English IV）※GO科目

Ｋｒｅｇｇ　Ｊｏｈｎｓｔｏｎ

単位数：1単位 ｜ 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：月3/Mon.3 ｜ 配当年次：1〜4年
その他属性：〈グ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
アカデミック・スキルズ（講義などのディスカッションの仕方、聞き方、ノートの取り方、賛否・意見の述べ方など）を学び、伸ばします。また、語彙力の向上にも役立ちます（詳細は以下の英文の記載を読んでください）。
Discussion skills, listening &note-taking, presenting, building vocabulary

【到達目標】
In this course, students will learn key vocabulary related to each topic covered , develop listening and note taking skills by listening to academic lectures. Additionally, students will develop their speaking skills in expressing opinions, agreeing/disagreeing, confirming/clarifying. Students will also work on expressions for leading and participating in discussions as well as presenting on topics researched.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
The students will discuss the topics for each unit in groups or pairs and then study some of the related vocabulary. Then students will take notes while listening to a short academic lecture on the topics. The students will then review, discuss, and summarize the points mentioned in the lecture. At the conclusion of each unit, there will be a review test, and research assignments on the topics introduced in the lecture for discussion or to present later.
Feedback on speeches, homework assignments, and quizzes will be given at the beginning of the following class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Course Intro &level check Vocabulary assessment	Ice Breakers Introduce course &asses vocabulary level Introduction to note-taking strategies Preview unit 1
Week 2	Unit 1: Happiness Introduction of topic &Preview of key AWL vocabulary	Introduction of topic & Preview of key AWL vocabulary Signal phrases for intro Unit 1 lecture preview
Week 3	Unit 1: Happiness Review lecture contents & discussion	Review lecture notes Comprehension check questions Discussion: state opinion, agree, disagree
Week 4	Unit 1 Quiz Unit 2: Learning styles Preview key AWL vocabulary & lecture structure	Unit 1 quiz Unit 2 introduction of topic & AWL Vocabulary Lecture: Rhetorical questions
Week 5	Unit 2: Learning styles Lecture notes & comprehension	Review lecture notes Check comprehension questions Discussion: asking for opinions
Week 6	Unit 2 Quiz Unit 3 Sleep Preview key AWL vocabulary & lecture structure	Quiz on Unit 2 Unit 3: Introduction of topic &AWL vocabulary Lecture: Signal phrases for details
Week 7	Unit 3: Sleep Lecture notes & comprehension	Review Lecture notes Check comprehension questions Discussion: State opinion & paraphrasing
Week 8	Unit 3 quiz Unit 4: Negotiating Preview key AWL vocabulary & lecture structure	Quiz on Unit 3 Unit 4: Introduction of topic &AWL vocabulary Lecture: Listing of ideas
Week 9	Unit 4: Negotiating Lecture notes & comprehension	Review Lecture notes Check comprehension questions Discussion: Clarifying & Confirming
Week 10	Unit 4 quiz Unit 5: Modern Art Preview key AWL vocabulary & lecture structure	Quiz on Unit 4 Unit 5: Introduction of topic &AWL vocabulary Lecture: Defining terms
Week 11	Unit 5: Modern Art Lecture notes & comprehension	Review Lecture notes Check comprehension questions Discussion: Disagreement
Week 12	Unit 5 quiz Unit 6: Robots Preview key AWL vocabulary & lecture structure	Quiz on Unit 5 Unit 6: Introduction of topic &AWL vocabulary Lecture: Intonation of numbers
Week 13	Unit 6: Robots Lecture notes & comprehension	Review Lecture notes Check comprehension questions Discussion: Offering examples/facts
Week 14	Unit 6 quiz Vocabulary quiz U 1-6	Unit 6 quiz Course Review &wrap-up

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Review vocabulary, Prepare for end of chapter tests, Further research on topic, Plan to present findings to class or small groups. 本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とします。/ University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Contemporary Topics 1 4th edition: 21st Century skills for Academic Success. Solórzano, Frazier, &Rost
ISBN: 9780134400648

【参考書】
Contemporary Topics 1 4th edition: 21st Century skills for Academic Success. Solórzano, Frazier, &Rost
ISBN: 9780134400648

【成績評価の方法と基準】
Quizes-60%
Homework-20%,

Participation 10%
Presentations/ Discussion activities 10%

【学生の意見等からの気づき】
Increased emphasis on discussion in small groups of issues brought up in the lectures and vocabulary development

【学生が準備すべき機器他】
【教室必要備品】OHC &projector, DVD &CD player in classroom

【その他の重要事項】
This class is suitable for students having a TOEIC score between 480 and 660

【キャリアデザイン学部より】
2014年度～2016年度入学者のみ，市ヶ谷基礎科目4群（必修外国語＜英語＞に充当も可能です。

【Outline (in English)】
In this course, students learn and practice note taking strategies by listening to lectures. They also will discuss the topics introduced in each lecture and conduct further research on the topics to present in class.

Foreign Language Exercise （English V）※GO科目

Ｋｒｅｇｇ　Ｊｏｈｎｓｔｏｎ

単位数：1単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：木3/Thu.3　｜　配当年次：1〜4年
その他属性：〈グ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
高校までに学んだ英語と文法の知識を定着させながら、自分の伝えたいことをより正確に表現し、相手に伝わる英文を書けるようになることを目指します。伝わる書き方にはコツがあるので、そのコツも学んでいきます（詳細は以下の英文の記載を読んでください）。
The objective of the course is to consolidate the knowledge of English language and grammar learned in secondary school and develop their ability to express themselves more freely in writing

【到達目標】
After taking this course, the students should have learned the following:
1. the concept of the paragraph with reference to its unity, coherence, and structure, including topic sentences, various types of supporting sentences , and concluding sentences
2. the mechanics of typing and formatting a composition
3. how to edit one's own and others' compositions
4. how to effectively complete a timed writing task

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
Students in this course will work individually on writing preparation activities and actually writing their own descriptive and persuasive paragraphs.
Student will also collaborate with students in pairs or groups to compare ideas and peer review each other's writing in terms of grammar, unity and cohesion of writing.
Students will also be tested on the material taught in the course, including two timed writing exams.
Feedback on submitted assignments and quizzes will be given at the beginning of the next class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Sentences & Paragraphs	Components of sentences and paragraphs
第2回	Topic sentences Descriptive paragraphs	Preparation to write a descriptive paragraph
第3回	Concluding sentences Adjectives Conjunctions	Components of effective concluding sentences Using adjectives and conjunctions in sentences
第4回	Feedback on 1st draft of descriptive paragraph	Review and recommendations on 1st draft Preparation for peer reivew
第5回	Homework test 1 Using "although" Submit 2nd draft of descriptive paragraph	Test on homework exercises How to use "although" in sentence
第6回	Writing test Feedback on 2nd draft	In-class timed writing test
第7回	Test feedback Paragraph development Persuasive paragraphs	Pre-writing for 3rd writing assignment How to develop paragraphs
第8回	Benefits and consequences Outlines	Including benefits, consequences, and results in paragraphs Using outlines to organize ideas
第9回	Cause &effect	Including causes and effects in paragraphs Prepare outline for 3rd writing assignment
第10回	Paraphrasing Supporting sentences outside sources	Practice paraphrasing Including outside sources in writing Citing sources correctly in paragraphs
第11回	3rd writing assignment Using conditional sentences Making comments	Submit 3rd writing assignment Practice using conditionals as support Commenting on ideas in writing
第12回	Homework test 2 Thesis statements Introductions	Structure of thesis statements Structure of introductory paragraphs Peer review of 3rd writing assignment
第13回	Review and feedback writing 3	Review and feedback on 3rd writing assignment Prepare for final writing assignment
第14回	Final In-Class writing test	Timed writing: 2 Persuasive paragraphs

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Homework exercises contained in the course digital handouts
Assigned writing drafts (typed, correctly formatted, and printed out for submission in class)本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とします。/ University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Handouts and reading material will be provided by the lecturer and will be distributed through Google Classroom for this course

【参考書】
http://my.vocabularysize.com/
http://quizlet.com
www.englishgrammar.org
Google Classroom: Registration details will be provided on the Hosei LMS and at the first class meeting

【成績評価の方法と基準】
Participation in class: 10%
Two in-class quizzes on the homework: 20%
Three submitted writing assignments: 50%
Final in-class writing test: 20%
In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】
Increased work on paragraph development and referencing outside sources as evidence.

【学生が準備すべき機器他】
Submitted writing assignments must be typed, formatted correctly, and submitted through the Google Classroom page for the course. All students taking the class will need to join the Google Classroom page, for which details will be provided in the first week of class.

【その他の重要事項】
Class size is limited to 20 students. Students who wish to take the course need to attend the first class in order to ensure that they can register for the course. In the event that the number of students wishing to take the class exceeds 20, the students will be selected based on a writing and vocabulary test.

【キャリアデザイン学部より】
2014年度～2016年度入学者のみ，市ヶ谷基礎科目4群（必修外国語＜英語＞に充当も可能です。

【Outline (in English)】
Develop the skills necessary to write and correctly format effective paragraphs and to write multi-paragraph essays within a set time frame

BSP100MA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

発達・教育キャリア入門B【2024年度以前入学者用】

青木　淳弘

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水5/Wed.5　｜　配当年次：1〜4年
備考（履修条件等）：キャリアデザイン学部2025年度以降入学者は、この科目は履修できません。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代社会において、キャリアの選択肢は社会によって形成され、わたしたちはそれを選択しています。ときにわたしたちはそれを当たり前のことのように（＝「ふつう」のこととして）受け入れているが、それがなぜどのようにして社会的な合意として成立しているのかについて立ち止まって考えることは少ないのではないでしょうか。社会学はそのための道具といえる数多くの基礎概念を用意しており、それに基づいて自らの思考を組み立てていくことは、キャリアと社会の関係を読み解いていくうえで欠かせません。本講義では、社会学の基礎概念を紹介しながら、キャリアに関わる社会現象を読み解く力を鍛えていきます。

【到達目標】
（1）キャリアを構築する個人および個人が暮らす場である社会を理解する。
（2）社会学的思考法を応用して、人間関係や社会現象の歴史的・地域的展開について理解を深め、現状・課題を自らの言葉で説明できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
対面授業を基本としますが、状況によって、オンライン授業（Zoom）を行う可能性もあります。オンライン授業の場合、Zoomへのアクセス方法については、当日授業開始時刻までに、学習支援システムにてお伝えします。
講義形式の授業です。1つのテーマが数回分の授業に該当しますが、テーマごとの授業時間数は下記「授業計画」から変更する場合があります。また、状況に応じて、テーマの順番の入れ替え、テーマの差し替えの可能性もあります。関連事項も含め各テーマを深く掘り下げることで、その現状と課題についての理解を図ります。
授業での学びに対する、各自の気づきやコメントを、リアクションペーパー（小レポート）としてまとめ提出してもらうことがあります。提出されたリアクションペーパーから全体に対して講評・解説のフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方や目的、成績評価などについて説明する
第2回	「ふつう」の家族ってなんだろう？ (1)	近代家族や家族に関する概念を紹介し、単身世帯の急増という事実を概観します。「ふつう」の家族を問い直すために。
第3回	「ふつう」の家族ってなんだろう？ (2)	親ガチャ？ 家族の役割？ 絆？ …日本の社会階層研究やブルデューの文化的再生産論を土台として、キャリアと社会学について考えます。
第4回	「ふつう」の家族ってなんだろう？ (3)	暮らしの設計図を描いてみましょう。家の作り、家族の形、そこにある「ふつう」が固定的でないことを認識したいと思います。
第5回	「ふつう」の大学生ってなんだろう？ (1)	学校や教育機会に関する概念を紹介し、そこに存在している規律訓練や格差の存在を概観します。「ふつう」の大学生を問い直すために。
第6回	「ふつう」の大学生ってなんだろう？ (2)	なぜ大学に行くのか？ ほんとに「最近の大卒は女性の方が採用面接の出来が良い」のか？ …社会化やジェンダーを等身大の大学生という視点から考えます。
第7回	「ふつう」の大学生ってなんだろう？ (3)	大学生としての生活。隣り合うひとの「ふつう」の大学生やキャリアに対する観点の違いを理解することを目指します。
第8回	「ふつう」に働くことってなんだろう？ (1)	男女雇用機会均等法とコース別雇用管理（＝事実上の男女別採用）、多様な働き方の拡大、といった「働くこと」やその選択について捉えるための社会学の概念を紹介します。
第9回	「ふつう」に働くことってなんだろう？ (2)	なんで働かなきゃいけないのか？ 多様な働き方はみんなをハッピーにするのか？ …働くことの「ふつう」について社会変動の観点を踏まえて問い直します。
第10回	「ふつう」に働くことってなんだろう？ (3)	なんで働きたいのか（または働きたくないのか）の意見交換をします。働くことに関する自由な意見を理解しつつ、自分のキャリアを見つめる機会にしたいと思います。
第11回	「ふつう」の町ってなんだろう？ (1)	都市型社会、コミュニティ、ジェンダーフリー型都市といった概念を理解します。自分たちが暮らす場所の「ふつう」を問い直すために。
第12回	「ふつう」の町ってなんだろう？ (2)	都会と田舎どっちに住むべき？ このまちは愛すべき場所なのか？ …地域社会のあり方を考え直すことで、キャリアの形成の多様性を見直すことを目指します。
第13回	「ふつう」の町ってなんだろう？ (3)	自分の気に入っている場所や気に入らない場所について観察してみましょう。地域社会のさまざまな「場」について考えたいと思います。
第14回	まとめ・総括…あらためて「ふつう」を見直すこと	授業全体をふりかえって改めて社会のさまざまな「ふつう」について問い直します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習として重要なことは、１回１回の授業からキャリアと社会学の視点・発想を学び、考え方の筋道を把握した上で、それをしっかりと消化し、次回以降の授業のベースをつくることです。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
授業中に随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】
期末レポート（７０%）、平常点（３０%）。
期末レポートについては、社会学の基本的な視点・発想の理解度をふまえた上で、レポートの達成度の状況を基準とします。

平常点については、小レポート、受講態度の状況を基準とします。欠席時間数が授業時間数の３分の１を超えた場合、もしくは、受講態度があまりにも悪い場合、不合格となります。なお、欠席時間数については、自己管理でお願いします（個別の問い合わせには応じられません）。

【学生の意見等からの気づき】
身近な具体的事例を多く取り入れることで理解を促進するというスタイルを継続していきたいと思います。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In modern society, career options are shaped by society, and we choose them. Sometimes we accept this as a matter of course, but I think that we rarely stop to think about why and how it has been established as a social consensus. Sociology provides a number of basic concepts that can be used as tools for this purpose, and building your own thoughts based on these concepts is essential for understanding the relationship between careers and society. In this lecture, we will introduce the basic concepts of sociology and work on developing the ability to understand social phenomena related to careers.
【Learning Objectives】
(1) To understand the individuals who build their careers and the society in which they live.
(2) To deepen understanding of the historical and regional development of human relationships and social phenomena by applying sociological thinking methods, and to be able to explain the current situation and issues in one's own words.
【Learning activities outside of classroom】
The important thing to do as preparation is to learn the perspectives and ideas of career and sociology from each lesson, grasp the line of thought, digest it thoroughly, and use it as a base for the next lesson and beyond.
The standard amount of time for preparation and review for this lesson is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
Final report (70%), class participation (30%).
The final report will be assessed on the basis of your understanding of the basic perspectives and ideas of sociology, as well as the quality of the report itself.
Class participation will be assessed on the basis of your performance in the short reports and your general attitude towards the course. If you miss more than one third of the classes, or if your attitude is deemed to be too poor, you will fail the course. Please manage your own attendance (we cannot respond to individual enquiries).

BSP100MA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

発達・教育キャリア入門C（生涯学習入門Ⅰ）

久井　英輔

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：火5/Tue.5　｜　配当年次：1〜4年
備考（履修条件等）：2024年度以前入学者は学部専門科目として履修可能。2025年度以降入学者がこの科目を履修する場合、卒業所要単位外として、教職・資格科目（市ヶ谷）のシラバスに記載されている授業コードで履修してください。
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
(授業の概要)
生涯学習、社会教育に関する事項についての基本的な内容を解説する。
(授業の目的・意義)
授業内容をとおして、学校教育に留まらない学びが社会の至る所で展開していることを深く理解し、教育や学習をとらえる視野を広げる。

【到達目標】
生涯学習の理念、社会教育に関する様々な概念、制度、実際に行われている事業・実践、社会教育の歴史、社会教育に類する海外の教育活動（多様なノンフォーマル教育）の展開などについての基本的な理解を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
各回とも、テーマに関する講義を行った上で、そのテーマにおける重要な論点について各自のコメントシートの提出を求める。コメントシートで提示された重要な視点や質問については、次回授業にて教員からリプライする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「生涯学習」「社会教育」とは何か？	社会教育の概念とそこに含まれる多様な教育活動について、および、包括的な概念・理念としての生涯学習について解説する。
第2回	行政は社会教育にどう関わっているか？	市町村レベルの社会教育行政で実際に行われている事業の事例を挙げながら、社会教育行政の特徴について解説する。
第3回	社会教育の学習テーマはどうあるべきか？	社会教育行政の事業を展開する上で重要な概念である「必要課題」「要求課題」とその具体例について解説する。
第4回	学校以外にどのような場で学べるか？	公民館、図書館、博物館など、社会教育行政が運用する多様な施設（社会教育施設）の基本的役割と実態について解説する。
第5回	社会教育施設の経営はどうあるべきか？	前回に引き続き、社会教育行政が運用する多様な社会教育施設の役割と実態について解説するとともに、これらの施設の経営に関する今日の課題についても解説する。
第6回	社会教育はどのように制度化されているか？	社会教育に関連する法律、特に社会教育法の概要説明を中心に、社会教育行政に求められている役割、あるいは社会教育行政が行ってはならない制約について解説する。
第7回	社会教育をどのような人々が支えているか？	社会教育行政・施設職員に求められる資質・能力や、職員以外で社会教育に関わる様々な支援者について解説する。
第8回	社会教育に関わる人はどのように働いているか？	現役の社会教育施設職員から、施設運営、事業企画、利用者・地域住民との接し方など現場の実態と、社会教育の支援者に求められる能力・資質について講義いただき、学生と質疑応答をおこなう。
第9回	民間企業・団体は社会教育にどう関わっているか？	カルチャーセンター、塾、スクールビジネスなど、民間企業・団体の社会教育事業の現状や、ボランティアと社会教育行政の関係について解説する。
第10回	社会教育という概念はどのようにして生まれたか？	日本における近代以降（第二次世界大戦まで）の社会教育の歴史的展開について、社会教育行政の事業を中心に解説する。
第11回	社会教育は戦後どのように変化してきたか？	日本における第二次世界大戦以降の社会教育の歴史的展開について、社会教育行政の事業を中心に解説する。
第12回	社会教育は国によってどのように違うのか？	社会教育を国際比較的に検討する際に必要な視点、及び、日本において頻繁に参照される海外の社会教育的な取り組みについて解説する。
第13回	社会教育、生涯学習を支える理念はどのように展開してきたか？	社会教育、生涯学習の推進のために国際的に展開されてきた様々な理念について紹介・解説する。
第14回	授業の振り返り	前回までの議論について、各受講者から自由に提示された論点を基に検討し、授業内容全体についての理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・準備学習は特に必要ない。
・各回の授業後、授業内で提示した参考文献の関連箇所を読むこと。
・期末レポートの執筆において、各回の授業内容を十分に復習すること。
・本授業の復習時間は4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。

【参考書】
香川正弘他編『よくわかる生涯学習（改訂版）』ミネルヴァ書房、2016年
松岡広路、松橋義樹、鈴木眞理編『社会教育の基礎』学文社、2015年

【成績評価の方法と基準】
毎回のコメントシート　60％
期末レポート　40％

【学生の意見等からの気づき】
昨年度の授業では「授業開始から30分までに入室した学生は出席扱い」としていたが、開始後30分ぎりぎりに入室する学生が多かったため、より適切な出席・遅刻の扱い、ルールについて規定する予定である。

【学生が準備すべき機器他】
ノートPC

【その他の重要事項】
本科目は、社会教育主事講習等規程第11条に規定された「生涯学習概論」に該当します。社会教育主事任用資格取得、社会教育士（養成課程）の称号取得のための必修科目です。また、図書館司書資格、博物館学芸員資格取得のための必修科目でもあります。

【Outline (in English)】
【Outline】
This course provides students with basic knowledge on lifelong learning and social education. This course aims to deepen students' understanding on various types of learning activities outside of schools, and to widen students' perspective on education and learning.
【Learning Objectives】
The goal of this course is to help students to understand basic knowledge on lifelong learning and social education in order to involve in and make useful suggestions to learning activities in social education.
【Learning Activities Outside of Classroom】
Students will be expected to read document of lecture again after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
【Grading Criteria / Policy】
Final grade will be calculated according to the following process: Comment for every class (60%), final report (40%).

BSP100MA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

発達・教育キャリア入門C（生涯学習入門Ⅰ）

久井　英輔

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：水3/Wed.3　｜　配当年次：1〜4年
備考（履修条件等）：2024年度以前入学者は学部専門科目として履修可能。2025年度以降入学者がこの科目を履修する場合、卒業所要単位外として、教職・資格科目（市ヶ谷）のシラバスに記載されている授業コードで履修してください。
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
(授業の概要)
生涯学習、社会教育に関する事項についての基本的な内容を解説する。
(授業の目的・意義)
授業内容をとおして、学校教育に留まらない学びが社会の至る所で展開していることを深く理解し、教育や学習をとらえる視野を広げる。

【到達目標】
生涯学習の理念、社会教育に関する様々な概念、制度、実際に行われている事業・実践、社会教育の歴史、社会教育に類する海外の教育活動（多様なノンフォーマル教育）の展開などについての基本的な理解を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
各回とも、テーマに関する講義を行った上で、そのテーマにおける重要な論点について各自のコメントシートの提出を求める。コメントシートで提示された重要な視点や質問については、次回授業にて教員からリプライする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「生涯学習」「社会教育」とは何か？	社会教育の概念とそこに含まれる多様な教育活動について、および、包括的な概念・理念としての生涯学習について解説する。
第2回	行政は社会教育にどう関わっているか？	市町村レベルの社会教育行政で実際に行われている事業の事例を挙げながら、社会教育行政の特徴について解説する。
第3回	社会教育の学習テーマはどうあるべきか？	社会教育行政の事業を展開する上で重要な概念である「必要課題」「要求課題」とその具体例について解説する。
第4回	学校以外にどのような場で学べるか？	公民館、図書館、博物館など、社会教育行政が運用する多様な施設（社会教育施設）の基本的役割と実態について解説する。
第5回	社会教育施設の経営はどうあるべきか？	前回に引き続き、社会教育行政が運用する多様な社会教育施設の役割と実態について解説するとともに、これらの施設の経営に関する今日の課題についても解説する。
第6回	社会教育はどのように制度化されているか？	社会教育に関連する法律、特に社会教育法の概要説明を中心に、社会教育行政に求められている役割、あるいは社会教育行政が行ってはならない制約について解説する。
第7回	社会教育をどのような人々が支えているか？	社会教育行政・施設職員に求められる資質・能力や、職員以外で社会教育に関わる様々な支援者について解説する。
第8回	社会教育に関わる人はどのように働いているか？	現役の社会教育施設職員から、施設運営、事業企画、利用者・地域住民との接し方など現場の実態と、社会教育の支援者に求められる能力・資質について講義いただき、学生と質疑応答をおこなう。
第9回	民間企業・団体は社会教育にどう関わっているか？	カルチャーセンター、塾、スクールビジネスなど、民間企業・団体の社会教育事業の現状や、ボランティアと社会教育行政の関係について解説する。
第10回	社会教育という概念はどのようにして生まれたか？	日本における近代以降（第二次世界大戦まで）の社会教育の歴史的展開について、社会教育行政の事業を中心に解説する。
第11回	社会教育は戦後どのように変化してきたか？	日本における第二次世界大戦以降の社会教育の歴史的展開について、社会教育行政の事業を中心に解説する。
第12回	社会教育は国によってどのように違うのか？	社会教育を国際比較的に検討する際に必要な視点、及び、日本において頻繁に参照される海外の社会教育的な取り組みについて解説する。
第13回	社会教育、生涯学習を支える理念はどのように展開してきたか？	社会教育、生涯学習の推進のために国際的に展開されてきた様々な理念について紹介・解説する。
第14回	授業の振り返り	前回までの議論について、各受講者から自由に提示された論点を基に検討し、授業内容全体についての理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・準備学習は特に必要ない。
・各回の授業後、授業内で提示した参考文献の関連箇所を読むこと。
・期末レポートの執筆において、各回の授業内容を十分に復習すること。
・本授業の復習時間は4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。

【参考書】
香川正弘他編『よくわかる生涯学習（改訂版）』ミネルヴァ書房、2016年
松岡広路、松橋義樹、鈴木眞理編『社会教育の基礎』学文社、2015年

【成績評価の方法と基準】
毎回のコメントシート　60％
期末レポート　40％

【学生の意見等からの気づき】
昨年度の授業では「授業開始から30分までに入室した学生は出席扱い」としていたが、開始後30分ぎりぎりに入室する学生が多かったため、より適切な出席・遅刻の扱い、ルールについて規定する予定である。

【学生が準備すべき機器他】
ノートPC

【その他の重要事項】
本科目は、社会教育主事講習等規程第11条に規定された「生涯学習概論」に該当します。社会教育主事任用資格取得、社会教育士（養成課程）の称号取得のための必修科目です。また、図書館司書資格、博物館学芸員資格取得のための必修科目でもあります。

【Outline (in English)】
【Outline】
This course provides students with basic knowledge on lifelong learning and social education. This course aims to deepen students' understanding on various types of learning activities outside of schools, and to widen students' perspective on education and learning.
【Learning Objectives】
The goal of this course is to help students to understand basic knowledge on lifelong learning and social education in order to involve in and make useful suggestions to learning activities in social education.
【Learning Activities Outside of Classroom】
Students will be expected to read document of lecture again after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
【Grading Criteria / Policy】
Final grade will be calculated according to the following process: Comment for every class (60%), final report (40%).

BSP100MA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

発達・教育キャリア入門D（生涯学習入門Ⅱ）【2021年度以前入学者用】

杉山　昂平

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：金4/Fri.4　｜　配当年次：1〜4年
備考（履修条件等）：2021年度以前入学者は学部専門科目として履修可能。2022〜2024年度入学者がこの科目を履修する場合、卒業所要単位外として、教職・資格科目（市ヶ谷）のシラバスに記載されている授業コードで履修してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では生涯学習、社会教育に関する事項についての基本的な内容を解説する。授業内容をとおして、さまざまな現場において、生涯学習、社会教育に関する何が論点となり、どんな事業・実践がなされているのかを深く理解する。それによって、教育や学習をとらえる視野を広げる。

【到達目標】
生涯学習、社会教育に関して様々な現場で行われている事業・実践について基本的な理解を獲得し、具体的な事例をもとに生涯学習、社会教育への関わり方を考えられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
各回とも、テーマに関する講義を行った上で、具体的な事業・実践に関して調べ、論じるワークに取り組む。ワークの成果や質問などは次回授業において紹介し、フィードバックや発展的な論点の紹介を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス／ノンフォーマル教育とインフォーマル教育	授業の概要及び生涯学習、社会教育に関する事業・実践を分析的に理解するための基礎的な枠組みについて解説する。
第2回	子ども・若者の学び	体験活動やユースワークを中心に取り上げる。子ども・若者の生涯学習、社会教育に関わる事業・実践について解説する。
第3回	社会人の学び	リスキリングや人的資本経営を中心に取り上げる。社会人の生涯学習、社会教育に関わる事業・実践について解説する。
第4回	親・保護者の学び	家庭教育や子育て支援活動を中心に取り上げる。親・保護者の生涯学習、社会教育に関わる事業・実践について解説する。
第5回	高齢者の学び	生涯スポーツや芸術文化活動を中心に取り上げる。高齢者の生涯学習、社会教育に関わる事業・実践について解説する。
第6回	障害者の学び	知的障害者の学習支援を中心に取り上げる。障害者の生涯学習、社会教育に関わる事業・実践について解説する。
第7回	学校と地域での学び	地域学校協働活動やコミュニティスクールを中心に取り上げる。学校と地域を舞台にした生涯学習、社会教育に関わる事業・実践について解説する。
第8回	大学での学び	大学開放やMOOCsを中心に取り上げる。大学を舞台にした生涯学習、社会教育に関わる事業・実践について解説する。
第9回	地域についての学び	住民自治や市民参加型プログラムを中心に取り上げる。地域についての生涯学習、社会教育に関わる事業・実践について解説する。
第10回	デジタルテクノロジーについての学び	デジタルリテラシーに関わるプログラムを中心に取り上げる。テクノロジーについての生涯学習、社会教育に関わる事業・実践について解説する。
第11回	多文化共生についての学び	日本語教室や文化交流プログラムを中心に取り上げる。多文化共生についての生涯学習、社会教育に関わる事業・実践について解説する。
第12回	アクティビズムについての学び	消費者運動や政治運動を中心に取り上げる。アクティビズムについての生涯学習、社会教育に関わる事業・実践について解説する。
第13回	持続可能な開発についての学び	ESDやSDGsを中心に取り上げる。持続可能な開発についての生涯学習、社会教育に関わる事業・実践について解説する。
第14回	授業の振り返り	授業で扱ったさまざまな事業・実践を構造化して整理しなおしたうえで、授業内容と自らの生活の関連について考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・準備学習は特に必要ない。
・各回の授業後、授業内で提示した参考資料の関連箇所を読んだり視聴したりすること。
・期末レポートの執筆において、各回の授業内容を十分に復習すること。
・本授業の復習時間は 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。

【参考書】
香川正弘他編『よくわかる生涯学習(改訂版)』ミネルヴァ書房、2016年
松岡広路、松橋義樹、鈴木眞理編『社会教育の基礎』学文社、2015年

【成績評価の方法と基準】
毎回のワーク　50%
期末レポート　50%

【学生の意見等からの気づき】
身近な地域の学習機会を調べるワークは学生のみなさんにとって発見が多そうなので、そのような課題の割合を増やします。

【学生が準備すべき機器他】
課題提出をウェブで行いますのでインターネットに接続したパソコンもしくはスマートフォンを持参ください

【その他の重要事項】
本科目は、社会教育主事講習等規程第11条に規定された「生涯学習概論」に該当する。社会教育主事基礎資格取得、社会教育士（養成課程）の称号取得のための必修科目である。また、図書館司書資格、博物館学芸員資格取得のための必修科目でもある。

【Outline (in English)】
This course provides an introduction to the fundamental aspects of lifelong learning and social education. Through the course content, students will gain a deeper understanding of the key issues in lifelong learning and social education and the kinds of programs and practices being implemented in various settings. This will help broaden their perspective on education and learning.

BSP100MA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

発達・教育キャリア入門D（生涯学習入門Ⅱ）【2021年度以前入学者用】

杉山　昂平

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：月4/Mon.4　｜　配当年次：1〜4年
備考（履修条件等）：2021年度以前入学者は学部専門科目として履修可能。2022〜2024年度入学者がこの科目を履修する場合、卒業所要単位外として、教職・資格科目（市ヶ谷）のシラバスに記載されている授業コードで履修してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では生涯学習、社会教育に関する事項についての基本的な内容を解説する。授業内容をとおして、さまざまな現場において、生涯学習、社会教育に関する何が論点となり、どんな事業・実践がなされているのかを深く理解する。それによって、教育や学習をとらえる視野を広げる。

【到達目標】
生涯学習、社会教育に関して様々な現場で行われている事業・実践について基本的な理解を獲得し、具体的な事例をもとに生涯学習、社会教育への関わり方を考えられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
各回とも、テーマに関する講義を行った上で、具体的な事業・実践に関して調べ、論じるワークに取り組む。ワークの成果や質問などは次回授業において紹介し、フィードバックや発展的な論点の紹介を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス／ノンフォーマル教育とインフォーマル教育	授業の概要及び生涯学習、社会教育に関する事業・実践を分析的に理解するための基礎的な枠組みについて解説する。
第2回	子ども・若者の学び	体験活動やユースワークを中心に取り上げる。子ども・若者の生涯学習、社会教育に関わる事業・実践について解説する。
第3回	社会人の学び	リスキリングや人的資本経営を中心に取り上げる。社会人の生涯学習、社会教育に関わる事業・実践について解説する。
第4回	親・保護者の学び	家庭教育や子育て支援活動を中心に取り上げる。親・保護者の生涯学習、社会教育に関わる事業・実践について解説する。
第5回	高齢者の学び	生涯スポーツや芸術文化活動を中心に取り上げる。高齢者の生涯学習、社会教育に関わる事業・実践について解説する。
第6回	障害者の学び	知的障害者の学習支援を中心に取り上げる。障害者の生涯学習、社会教育に関わる事業・実践について解説する。
第7回	学校と地域での学び	地域学校協働活動やコミュニティスクールを中心に取り上げる。学校と地域を舞台にした生涯学習、社会教育に関わる事業・実践について解説する。
第8回	大学での学び	大学開放やMOOCsを中心に取り上げる。大学を舞台にした生涯学習、社会教育に関わる事業・実践について解説する。
第9回	地域についての学び	住民自治や市民参加型プログラムを中心に取り上げる。地域についての生涯学習、社会教育に関わる事業・実践について解説する。
第10回	デジタルテクノロジーについての学び	デジタルリテラシーに関わるプログラムを中心に取り上げる。テクノロジーについての生涯学習、社会教育に関わる事業・実践について解説する。
第11回	多文化共生についての学び	日本語教室や文化交流プログラムを中心に取り上げる。多文化共生についての生涯学習、社会教育に関わる事業・実践について解説する。
第12回	アクティビズムについての学び	消費者運動や政治運動を中心に取り上げる。アクティビズムについての生涯学習、社会教育に関わる事業・実践について解説する。
第13回	持続可能な開発についての学び	ESDやSDGsを中心に取り上げる。持続可能な開発についての生涯学習、社会教育に関わる事業・実践について解説する。
第14回	授業の振り返り	授業で扱ったさまざまな事業・実践を構造化して整理しなおしたうえで、授業内容と自らの生活の関連について考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・準備学習は特に必要ない。
・各回の授業後、授業内で提示した参考資料の関連箇所を読んだり視聴したりすること。
・期末レポートの執筆において、各回の授業内容を十分に復習すること。
・本授業の復習時間は 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。

【参考書】
香川正弘他編『よくわかる生涯学習(改訂版)』ミネルヴァ書房、2016年
松岡広路、松橋義樹、鈴木眞理編『社会教育の基礎』学文社、2015年

【成績評価の方法と基準】
毎回のワーク　50%
期末レポート　50%

【学生の意見等からの気づき】
身近な地域の学習機会を調べるワークは学生のみなさんにとって発見が多そうなので、そのような課題の割合を増やします。

【学生が準備すべき機器他】
課題提出をウェブで行いますのでインターネットに接続したパソコンもしくはスマートフォンを持参ください

【その他の重要事項】
本科目は、社会教育主事講習等規程第11条に規定された「生涯学習概論」に該当する。社会教育主事基礎資格取得、社会教育士（養成課程）の称号取得のための必修科目である。また、図書館司書資格、博物館学芸員資格取得のための必修科目でもある。

【Outline (in English)】
This course provides an introduction to the fundamental aspects of lifelong learning and social education. Through the course content, students will gain a deeper understanding of the key issues in lifelong learning and social education and the kinds of programs and practices being implemented in various settings. This will help broaden their perspective on education and learning.

BSP100MA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

発達・教育キャリア入門 D【2022〜2024年度入学者用】

寺崎　里水

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水3/Wed.3　｜　配当年次：1〜4年
備考（履修条件等）：キャリアデザイン学部2022〜2024年度入学者のみ履修可能

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この科目では、今日の格差社会における家族の生活、子育て、教育の実態について扱う。
2000年代以降、格差や貧困の問題が重要な社会問題としてクローズアップされるようになっている。この授業では、データで格差や貧困の現状を捉えることから始め、格差や貧困が家族関係や子どもの発達、進路選択、キャリア形成に及ぼす影響を学び、格差・貧困の是正にむけて、（学校）教育は何ができるかについて考える。
社会的不平等について、家族と教育に焦点をあてて考える基礎的な科目である。

【到達目標】
①今日の格差社会における家族の生活、子育て、教育の実態に関する知識を獲得し、格差是正に向けた自身の意見を持つ。
②他者と協働して行うグループワークを学びの機会として活用できる。
③適切な官公庁統計データを探し、利用することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
対面による講義とグループワークを用いる。資料配布は学修支援システムを通じて行うので、各自でダウンロードしたりプリントしたりすること。
専門用語を用いるので、リアクションペーパーを通じて理解度の把握に努める。またフィードバックを授業内で丁寧に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	導入として、格差と不平等をテーマに据える意義について述べる。授業の進め方の説明、授業の概要と目的の理解。
第2回	データで見る格差社会	貧困、格差、家族、地域、文化、機会
第3回	家族になることと格差	結婚、経済力、夫婦関係
第4回	子育てと格差	子どもの貧困、時間的貧困、家庭教育、食育、保育園という選択
第5回	グループワーク①	1000人の中学生の進路選択
第6回	進路選択と格差	トラッキング、学歴、ペアレントクラシー
第7回	貧困と学校	学校生活、体験、アイデンティティ、進路選択
第8回	学校の役割	反貧困教育、学校の荒れと国語学力、福祉と教育、部活動の意義
第9回	差異化と教育	家庭教育の格差、教育を用いた差異化戦略、「お受験」、留学
第10回	グループワーク②	四年制大学進学の格差
第11回	地域移動と格差	地域移動できる人、できない人、親子関係、ジェンダー
第12回	大人になることと格差	学校から職業への移行、子ども期から大人への移行、ヤングケアラー
第13回	格差の是正に向けて	教育費負担、所得の再配分、学校教育の見直し、「能力」再考
第14回	試験と全体の振り返り	授業内試験を実施するとともに、全体の授業の振り返りを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
基礎的な知識を扱う科目なので、知識の定着を求める。グループワーク課題によっては、授業時間外の予習を求めることがある。その場合、事前に指定された準備をしてこないとグループワークに十分に参加できないので注意すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。フィードバックについて、次の授業の初めにリアクションペーパーやミニ課題のいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
配布資料中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
グループワーク課題40％、最終試験60％。

【学生の意見等からの気づき】
とくになし。

【Outline (in English)】
Course Outline: This course covers the realities of family life, child-rearing, and education in today's society with inequality.
Learning Objectives:
(1) Acquire knowledge about the realities of family life, child-rearing, and education in today's society with inequality, and develop personal opinions on how to reduce this disparity.
(2) To be able to utilize group work in collaboration with others as an opportunity for learning.
(3) To be able to search for appropriate government statistics, understand their contents, and use them.
Learning Activities Outside of Classroom: Preparation and review should be 2 hours each.
Grading Criteria: Group Work Assignments: 40%, Final Exam: 60%.

BSP100MA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

ビジネスキャリア入門A【2024年度以前入学者用】

小前　和智

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木1/Thu.1　｜　配当年次：1〜4年
備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞
授業コード：C5025
科目名：キャリアと経済学
＜2024年度以前入学者＞
授業コード：C7058
科目名：ビジネスキャリア入門A
※入学年度により授業コード・科目名が異なります

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、経済学の基礎を学び、キャリアデザインを考えるうえでの方法論のひとつとして経済学への理解を目指す。キャリアは個人というミクロな主体の選択により形成される。ミクロ経済学はそうした個人の選択や意思決定を扱う学問の1つである。経済学の理論とその仮定を理解することは、キャリアデザインを考えるうえで多くのヒントをくれる。マクロ経済学は、国あるいは世界の経済を扱う学問である。国や世界の経済を考えるのに重要な変数を学ぶとともに、マクロ経済がキャリア及ぼす影響（キャリア形成が個人の選択だけではない面）についても授業のなかで紹介する。全体を通して、経済学の考え方の実践的な活用をイメージできるよう、具体的な例を多く交えて授業を進める。

【到達目標】
経済学の基本的な考え方を理解することで、実社会の現象を理解する術を身につける。具体的には以下の項目への到達を目標とする。
(1) 経済学の基本的な考え方を理解する
(2) 実社会で起こる現象の一部を経済学的に考えることができる
(3) 経済学の実践的な活用のイメージができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
主にパワーポイントのスライドを用いた授業を行う。学習支援システムで資料を配布するので、配布された資料を各自ダウンロードのうえ参加すること。各回の授業スライドの最後のページには「確認事項」のスライドを付けている。各回の授業後に必ず復習時を行い、その際に「確認事項」を自分の言葉で説明できるよう努めること。その他、授業に関する連絡や授業計画等の変更がある場合には、学習支援システムで連絡する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業のガイダンス、経済学概説	授業の概要を示し、その後ミクロ経済学とマクロ経済学について概説する。経済学を学ぶことによって、実社会をどのように捉えられるようになるのかイメージを持つ
第2回	ミクロ経済学（1）経済学の考え方	経済学の前提としての競争市場について解説し、重要な用語や概念についても説明する
第3回	ミクロ経済学（2）需要、供給、価格①	需要曲線と供給曲線について説明する。さらに、それらの交点が示す均衡価格や需要・供給曲線がシフトすることで価格が変化することについて学ぶ
第4回	ミクロ経済学（3）需要、供給、価格②	弾力性の概念を導入し、価格弾力性の大小の意味について考える。その後、第3回授業と同様に需要・供給曲線のシフトによる価格変化について学ぶ
第5回	ミクロ経済学（4）市場と効率性	余剰の概念を導入する。さらに、経済学における効率の概念を学ぶ
第6回	ミクロ経済学（5）不完全市場と政府の役割	第2回から第5回にかけては完全競争という市場環境を前提としてきた。本授業では、不完全競争、不完全情報、外部性など、これまで想定とは異なる市場環境下において生じる現象や、それに対する政府の役割を学ぶ
第7回	ミクロ経済（6）ゲーム理論入門	ゲーム理論の入門的な内容について学ぶ
第8回	マクロ経済学（1）マクロ経済を考えるうえでの構成要素と国民経済計算	前半では、GDP、労働市場、生産物市場、資本市場、景気循環、失業などについて学ぶ。後半は国民経済計算を説明する。一国の会計である国民経済計算を通してフロー、ストック、付加価値、三面等価などの概念を学ぶ
第9回	マクロ経済学（2）消費と貯蓄	消費がどのような要因によって決定されるかを学ぶ。また、消費と表裏一体として捉えられる貯蓄についても学ぶ
第10回	マクロ経済学（3）設備投資と貨幣需要	前半では、設備投資におけるフローとストックの関係や、設備投資に関する経済理論を学ぶ。後半では、貨幣の機能や定義、貨幣の需要と供給、利子率の決定理論について学ぶ
第11回	マクロ経済学（4）IS-LMモデル	前回までの内容を踏まえ、（新）古典派とケインズの経済学の考え方を整理したうえで、有効需要の法則を学ぶ。その後、IS-LMモデルについて説明する
第12回	マクロ経済学（5）インフレーション／労働市場	前半では、インフレーションとは何か、ディマンドプル・インフレーション、コストプッシュ・インフレーションについて学ぶ。後半では、（新）古典派とケインズの経済学それぞれから見た失業を説明し、さらにフィリップス曲線やベバリッジ曲線について学ぶ。
第13回	マクロ経済学（6）経済成長理論／本講座の内容をどう活かせるか	前半は、経済成長とは何か、経済学は経済成長をどう説明しているか学ぶ。後半では、第1回〜13回の内容を実社会に適用することでどういった考察ができるのか説明する
第14回	授業のまとめ	授業のまとめを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習と復習時間は各2時間を標準とする。明確な宿題として課されないが、学習支援システムを介して配布する「計算問題」は授業内容の理解を促し、定期試験対策になるので必ず取り組むこと（計算問題は初回授業のタイミングで配布するほか、場合によっては適宜追加的に配布する可能性がある）

【テキスト（教科書）】
【第1回〜第6回】ジェゼフ・E・スティグリッツ, カール・E・ウォルシュ『スティグリッツ入門経済学（第4版）』東洋経済新報社（購入しなくてよい）

【第7回】神取道宏『ミクロ経済学の力』日本評論社（購入しなくてよい）
【第8回～第13回】福田慎一・照山博司『マクロ経済学・入門』有斐閣（購入しなくてよい）

【参考書】
授業内で適宜案内する

【成績評価の方法と基準】
評価は、中間テスト（授業内で実施）と期末テストで行う
中間テスト（50%）、期末テスト（50％）

【学生の意見等からの気づき】
丁寧な説明と評価してくださる受講生がいる一方で、「用語、単語が理解できない中で講義が進んでしまう」や「数式の理解が追い付かない」との声が聞かれた。講義資料の冒頭では目次を毎回見せるが、そのスライドでその授業全体での概念やポイントを説明して、授業への導入をより効果的にしていきたい。授業ではなるべく小刻みに質問できるタイミングを取っていく。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
わからないことはいつでも質問可能であり、積極的な授業への参加を期待する

【Outline (in English)】
In this course, students will learn the fundamentals of economics and develop an understanding of how economic thinking can serve as one methodological approach to career design. Careers are shaped by the choices of individuals. Microeconomics is a field of study that examines such individual choices and decision-making processes. Understanding economic theories and their underlying assumptions provides valuable insights for thinking about one's career design.
Macroeconomics, on the other hand, focuses on the economy of a nation or the world as a whole. In this course, students will learn key variables essential for understanding national and global economic conditions, while also exploring how macroeconomic trends influence individual careers — highlighting that career formation is not determined solely by personal choices.
Throughout the course, numerous concrete examples will be used to help students envision how economic perspectives can be applied in practical, real-world contexts.

BSP100MA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

ビジネスキャリア入門B【2024年度以前入学者用】

武石　恵美子

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：木2/Thu.2　｜　配当年次：1〜4年
備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞
授業コード：C5027
科目名：キャリア政策基礎
＜2024年度以前入学者＞
授業コード：C7059
科目名：ビジネスキャリア入門B
※入学年度により授業コード・科目名が異なります
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、キャリアデザインに関連する政策の基礎について学びます。個人のキャリア選択は、それを取り巻く社会状況と密接に関連しており、この関係性を正しく理解することは不可欠です。特に、社会制度や法律などの社会政策は、キャリア形成のプロセスに深く関わっています。これに関して理解を深めるとともに、政策の課題を考える能力を養うことを目的に、この授業では、キャリア教育政策、家族形成などのライフキャリアに関する政策、職業選択や働き方に関する政策について、その変遷や背景と現状・課題に関して国際比較を交えながら講義をします。また、社会政策の展開は、個人の行動が社会として望ましい方向に向かうことが期待されますが、実際にはその通りにならないこともあります。これを説明する理論として行動経済学の「ナッジ理論」についても講義をして、キャリア政策について多角的に考えます。

【到達目標】
社会制度や法律などの社会政策がキャリア形成にいかに深く影響しているかについて理解を深めるとともに、それら政策における課題を批判的に分析・評価する能力を養うことを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
パワーポイントのスライドを用いた授業を行います。学習支援システムで資料を事前配布するので、この資料を準備して出席してください。資料がないと授業の理解が難しくなります。また、欠席した場合には、資料で内容を確認しておいてください。
授業に関する連絡や授業計画等の変更がある場合には、学習支援システムで連絡するので、随時確認をお願いします。
また、授業の初めに、学生からのコメントや質問を取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業のガイダンス、キャリア政策の基礎	授業ガイダンス。社会政策、キャリア政策概論。なぜ今「キャリア政策」を学ぶのか。
第2回	キャリアを取り巻く社会変動	キャリアを取り巻く変化（VUCA）について。
	教育政策①　キャリア教育の目的と変遷	学校教育におけるキャリア教育の目的とその背景、変遷。
第3回	教育政策②　学校から仕事への移行、リスキリングと生涯学習	学校から仕事への移行の在り方の変化と関連する政策。インターンシップ制度。社会人の学び直し（リカレント教育）やリスキリングの重要性。
第4回	ライフ・イベントと社会政策①ジェンダー構造と社会政策	ジェンダー構造の国際比較と日本の課題。男女共同参画政策。性的マイノリティに関する政策。
第5回	ライフ・イベントと社会政策②　少子化対策、結婚・出産・子育て支援	少子化の状況と少子化対策の変遷（国際比較を含む）。結婚・出産・子育て支援の考え方と政策の変遷。現状と課題。
第6回	ライフ・イベントと社会政策③　共働き・共育て。高齢化対策	子育てにおける「共働き・共育て」の重要性。人口高齢化と社会保障政策。
第7回	労働政策①　公正な働き方の実現	働くことの基礎にある適正な労働条件の確保。公正な処遇の実現、ハラスメント対策。
第8回	労働政策②　ディーセントな働き方の実現	働きやすく働きがいのあるディーセントな仕事とは何か。ジェンダー平等、ダイバーシティ経営。
第9回	労働政策③　多様な働き方のルール化	働き方改革の議論の変遷と関連する政策。ワーク・ライフ・バランス政策とは何か。
第10回	労働政策④　社会構造の変化と雇用システム	日本の雇用システムと社会構造の変化に伴う課題。メンバーシップ型雇用とジョブ型雇用の比較検討。働き方を取り巻く課題。
第11回	行動経済学・ナッジによる政策デザイン　①キャリアにおける意思決定とナッジの基礎	キャリア政策を実効性あるものにするうえで、個人の行動のパターンを行動経済学の視点から考える。行動経済学およびナッジの基礎。
第12回	行動経済学・ナッジによる政策デザイン　②ナッジで変える行動	ナッジを活用した政策の事例。
第13回	総括	講義の総括、まとめ。キャリア政策の課題、これからのキャリア政策
第14回	授業内試験	授業内容の理解度を確認するため、授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備時間と復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
特になし。授業内でテーマに関連する文献を提示。

【成績評価の方法と基準】
評価は、平常点（発表やディスカッションなど授業への主体的な参加）60％と授業内試験40％で行います。

【学生の意見等からの気づき】
授業の最初の時間を使って、前回の復習を行うことで学生の講義内容への理解を深めます。また、質問があればいつでも質問をしていただき、それを授業で取り上げることで学習効果を高めていきたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
また、受講者の状況をみて、授業内容を変更する場合があります。

【Outline (in English)】
【Course outline】In this course, students will learn the fundamentals of policies related to career design. Individual career choices are closely intertwined with prevailing social conditions; therefore, gaining a proper understanding of this relationship is essential. In particular, social policies — including social systems and legislation — deeply influence the process of career formation.To deepen students' understanding of these dynamics, this course provides lectures on various policy areas: career education, life-career (such as family formation), and occupational choice and working styles. We will examine their historical transitions, underlying backgrounds, current status, and contemporary challenges.
Furthermore, while the development of these social policies is intended to guide individual behavior toward socially desirable outcomes, this is not always the case in practice. To explore this discrepancy, the course will also introduce "Nudge Theory" from the field of behavioral economics. By incorporating this theoretical perspective, students will be encouraged to think about career-related policies from multiple angles.
【Learning Objectives】 are to deepen students' understanding of how social policies, such as social systems and legislation, profoundly influence career formation, and to cultivate the ability to critically analyze and evaluate challenges within these policies.
【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】 Final grade will be calculated according to the following process.
Term-end examination (40%) and in-class contribution(60%).

BSP100MA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

ビジネスキャリア入門C【2024年度以前入学者用】

中野　貴之

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：月2/Mon.2　｜　配当年次：1〜4年
備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞
授業コード：C5021
科目名：ビジネスキャリア入門B
＜2024年度以前入学者＞
授業コード：C7060
科目名：ビジネスキャリア入門C
※入学年度により授業コード・科目名が異なります
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、ビジネスキャリア入門として、キャリアデザインと関連付けながら経営学の基礎を学んでいきます。ビジネスが行われる主な場は、「株式会社」といわれる組織です。この講義では、株式会社の歴史、意義および課題等について、人々のキャリアと関連付けながら平易に講義していきます。

【到達目標】
株式会社をはじめ企業に関する基礎知識について、キャリアデザインと関連付けながら総合的に理解することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
本講義では、株式会社の諸側面について説明していきます。授業への動機付けの向上や理解度の確認のため授業内における発言、レポート執筆を求めます。その結果は授業中にフィードバックし、問題意識が深められていくように進めていきます。また、一部、グループワークも行い、意見を述べてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本講義の主題と到達目標を説明します。
第2回	ケーススタディ	特定の日本企業のケーススタディにより、株式会社の全体像を掴みます。
第3回	株式会社の歴史(1)	欧米における株式会社の歴史を学びます。
第4回	株式会社の歴史(2)	日本における株式会社の歴史を学びます。
第5回	企業情報の収集	企業情報の収集方法について学びます。
第6回	経営理念	経営理念の意義を、人々の幸福感と関連づけて学びます。
第7回	所有構造、経営者	企業の所有構造および経営者の意義について学びます。
第8回	中間レビュー	第2回〜第7回の講義内容をレビューします。
第9回	ビジネスモデルおよび事業ポートフォリオ	ビジネスモデルおよび事業ポートフォリオの意義と課題について学びます。
第10回	資本市場の意義	資本市場における株価形成の意義について学びます。
第11回	企業業績の分析(1)	企業業績の分析方法の基礎を学びます。
第12回	企業業績の分析(2)	企業業績の分析方法の応用を学びます。
第13回	投資家と上場企業の関係性	投資家と上場企業の関係性の現状と課題について学びます。
第14回	本講義のレビュー	本講義のレビューを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞記事を読むなど、企業をめぐる動向に関心をもってください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
開講時に指示します。

【参考書】
開講時に指示します。

【成績評価の方法と基準】
成績の評価は次のとおりです。
①平常点15%（授業内のQuiz、レポートの得点）
②定期試験85%

【学生の意見等からの気づき】
良いレポートをより積極的に紹介して、受講者のレポート作成に役立つ情報を提供します。

【Outline (in English)】
*Course outline
The purpose of this course is to understand the history, significance, and challenges of stock companies in relation to people's careers.
*Learning Objectives
The goal of this class is to provide students with a comprehensive understanding of basic knowledge about corporations such as the listed companies, while relating it to career studies.
*Learning activities outside of classroom
Students are encouraged to take an interest in the trends surrounding companies, for example by reading newspapers. Your required study time is at least 4 hours for each class meeting.
*Grading Criteria
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Quiz and short reports: 15%, Term-end examination: 85%.

BSP100MA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

ビジネスキャリア入門D【2024年度以前入学者用】

酒井　理

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木3/Thu.3　｜　配当年次：1〜4年
備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞
授業コード：C5020
科目名：ビジネスキャリア入門A
＜2024年度以前入学者＞
授業コード：C7061
科目名：ビジネスキャリア入門D
※入学年度により授業コード・科目名が異なります
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
企業が継続的に生存して活動を続けていくためには、市場で様々な競争にさらされ、生き残っていくあるいは成長していく必要があります。企業がどのように考え、どのように行動するかを理解することは、私たちが社会に出て、さらに企業のなかで働いていくうえで大変重要なことです。
本講義では、ビジネス社会での働き方、生き方を考えるために必要となる、企業戦略やその活動を理解するための知識を学びます。ビジネスを理解することによって自らが生きていく社会を理解していく重要な視点を獲得します。

【到達目標】
本講義は、自らビジネスを考えて自分の力で自身のキャリアを開拓していく能力を獲得することを目的とします。
①ビジネスに関連する多くのフレームワークを理解して企業の様々な行動を分析できる
②ビジネスを理解して自分のアイデアをビジネスプランとして組み立てることができる
③自分で作成したビジネスプランを使って相手を説得することができる
以上、3点の能力獲得を到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
14回の授業を通して自分が考えたビジネスのプランを作成する課題に取り組みます。大きく３つのパートに分かれます。①こんなサービスがあったらいいなから、ビジネスアイデアにしていくアイデア発想のパート(1-1〜1-4)、②ビジネスアイデアをビジネスとしてどのように競争に勝って収益をあげていくか戦略を考えるパート(2-1〜2-4)、③継続的にビジネスとして成立しそうか収支を考えるパート(3-1〜3-4)、です。
受講者には経営（とくに経営戦略）の知識がないことを前提としていますので、配布資料を学習することによって、ビジネスアイデアの発想の方法、経営戦略の立て方、ビジネスモデルや収益モデルの作り方が理解できるように進めます。それをベースにビジネスを学んだことのない初心者でもスムースに課題に取り組めるように配慮します。また、わからないことなどを相談する機会を設けて、みなさんと伴走しながら進めていきますし、学生同士でも意見を交わせる機会を設けていきますので安心してください。
課題については、授業のなかで相談の回、講評の回を設けていますので、その際にみなさんの課題の進捗をききつつアドバイスや相談を行います。講評時に優秀な課題に関するコメントをすることでフィードバックをします。
楽しみながら（わくわくしながら）ワークに取り組めるような仕掛けをしていきたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	キャリアデザイン学部においてビジネスを学ぶ意味を考えます。キャリアにおいて、なぜ経済・経営を理解する必要があるのについて話します。学びに先行して、まず体験からはじめる意義について説明します。
第2回	(1-1)ビジネスアイデアの創出	やりたいことはあるか、何をしたいのか、やりたいビジネスはあるか、組織に属さない生き方、やりたいことを仕事にするキャリアデザインなどをベースにして、自分がやりたいことをビジネスにすることを考えます。
第3回	(1-2)ビジネスアイデアのブラッシュアップ	学生がお互いに協力して自分のアイデアをブラッシュアップしていきます。グループディスカッションで学生相互で意見を交えます。
第4回	(1-3)ビジネスの顧客価値を考える	共感マップとバリュープロポジションマップで顧客という視点からビジネスを捉える力を磨きます。
第5回	(2-1)ビジネスキャリアを考える	ゲストを招いて、これからのビジネス社会におけるキャリアデザインについて考えを深めます。
第6回	(2-2)ビジネスモデルを考える	ビジネスを展開していくうえで重要なビジネスモデルを解説して、パート１で考えた自分のアイデアをビジネスとして形にしていきます。
第7回	(2-2)経営環境分析を学ぶ	ビジネスを取り巻く経営環境を理解します。
第8回	(2-3)ビジネスモデルと戦略を考える	競争や市場を考慮しつつ、ビジネスを展開していく戦略を考えます。
第9回	(2-4)マーケティング戦略を考える	セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング、４Ｐといったマーケティングの基本を考えます。
第10回	(3-1)ビジネスプランの考え方を知る	ビジネスアイデアからビジネスの仕組み（ビジネスモデル）を考えて、展開する戦略を練った次のステップとして、アイデアがちゃんとビジネスとして成立するかどうかを考えていきます。
第11回	(3-2)ビジネスプランを作る	市場予測、収支計画をどのようにつくっていくかを考えます。
第12回	(3-3)ビジネスプランのブラッシュアップ	学生がお互いに協力しながら自分のビジネスモデルをブラッシュアップするとともに、各々の課題を改善してより良いビジネスプランになるようにアドバイスします。グループディスカッションで学生相互で意見を交えます。
第13回	ビジネスプランの講評	パート１のアイデア創出、パート２のビジネスモデル、パート３のプランと進めてきた課題を最終的にビジネスプランにしたものの講評をおこないます。提出された最終課題の評価できる点、改善点などの解説を行います。

第14回	web試験・まとめと解説	ここまでの総括としてweb試験を行います。選択式で知識を問う内容の試験を予定しています。まとめと解説をします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日頃から新聞に目を通して、日々の社会の動きに注意を払ってください。企業がどのような活動をしているのか、企業が競争をするとはどういうことなのか？ 新しい製品はどのような意図をもって発売されているのか？ など、身近なところから、物事を深く考える練習をしてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指示はしません。

【参考書】
特に必要とはしませんが、授業の中で参考資料として示すものを適宜参照してもらうといいと思います。
フィリップ・コトラー他『マーケティング原理』2014、丸善出版株式会社。(『Principles of Marketing 14th edition』)
和田充夫他『マーケティング戦略 第４版 (有斐閣アルマ)』2012、有斐閣。
石井淳蔵他『１からのマーケティング（第4版)』2019、碩学舎。
スタンフォード大学ハッソ・プラットナー・デザイン研究所『スタンフォード流デザイン思考を実践する人の38の技法』2018、アイリーニマネジメントスクール。
デービッド・アーカー『戦略立案ハンドブック』東洋経済,
沼上幹『新版わかりやすいマーケテイング戦略』有斐閣，2000年。
伊丹敬之『経営戦略の論理3版』日本経済新聞社，2003年。
エーベル『事業の定義』千倉書房，1992年。
H.ミンツバーグ『戦略計画　創造的破壊の時代』産業能率大学出版部，1997年。
梶井厚志『戦略的思考の技術　ゲーム理論を実践する』中公新書,2002年。
森岡毅，今西聖貴『確率思考の戦略論』KADOKAWA,2016年。

【成績評価の方法と基準】
①ビジネスに関連する多くのフレームワークを理解して企業の様々な行動を分析できたのか
②ビジネスを理解して自分のアイデアをビジネスプランとして組み立てることができたのか
③自分で作成したビジネスプランを使って相手を説得することができたのか
以上3点について、Web試験とビジネスプラン課題によって評価します。
web定期試験30%、ビジネスプラン課題50%、授業で取り組むワークシート提出20%の割合で評価します。
成績評価は合計で100点満点とし、60点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】
学生の理解度を勘案しながら対話の機会を積極的に用意します。

【学生が準備すべき機器他】
資料のアップロード、毎回の質問への回答などに学習支援システム（Webclass)、googleclasroomなどを使用します。

【その他の重要事項】
実務経験のある教員による授業です。
実社会を随所に感じられるような授業にするつもりです。
生成AI、周りの意見、webを積極的に活用して良質な課題が作成できるように努めてください。

【Outline (in English)】
[Course outline]
Companies face various competition in the market. And in the competition companies are required to survive and grow. Therefore, understanding how companies think and how to behave is very important for us to go into society and work in companies.
In this lecture, you will learn the elementary knowledge to understand the company's strategy or activity, which is necessary to think about how to work in the business society and how to live.
[Learning Objectives]
The objective of the class is to acquire the basic knowledge necessary to understand management. Specifically, the following three goals will be pursued
(1) To understand the many frameworks related to management strategy and to acquire a perspective that enables us to analyze the various actions of a company
(2) Understanding business systems
(3) To be able to apply original ideas to business
Throughout the course of the class, students will work on an assignment to create a plan for their own business. The 14 lessons will be divided into three parts.
(1) Idea generation part
(2) Strategy building part
(3) Business plan preparation part
[Learning activities outside of classroom]
Think about how companies operate, what it means for a company to compete, and with what intentions new products are launched. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
[Grading Criteria /Policy]
The following three points will be evaluated through a web-based examination and business plan assignment.
(1)Understanding of frameworks related to business strategy
(2)Understanding of business systems
(3)To turn your idea into a business.
The evaluation ratio is 40% for the web-based periodic exam and 60% for the business plan assignment. The total score is 100 points, and a score of 60 points or higher is required to pass the course.

BSP100MA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

ライフキャリア入門A【2024年度以前入学者用】

田中　研之輔

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：月4/Mon.4　｜　配当年次：1〜4年
備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞
授業コード：C5023
科目名：ライフキャリア入門B
＜2024年度以前入学者＞
授業コード：C7062
科目名：ライフキャリア入門A
※入学年度により授業コード・科目名が異なります
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人生100年時代におけるライフキャリア論について、特に、コミュニティとキャリアの視点から理解を深める。毎週、現代社会におけるコミュニティとキャリアに関する具体的事例を取り上げ理論的蓄積と適宜検証作業を行う。＊理論的蓄積としてはプロティアンキャリア論の基礎枠組みを把握する。

【到達目標】
①ライフキャリア領域のコミュニティとキャリアに関する理論的理解と具体的事例の洞察的分析を行う能力を養うことができる。
②自身のライフキャリアプランを、社会動向の変化の中で考えることができる。
③少人数でのグループワーク時に、理論的見解を自分の言葉で述べることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
ライフキャリア領域のコミュニティとキャリアに関する基礎理論を把握し、現代社会におけるコミュニティの多様性・多層性を分析する視点を養う。毎週、コミュニティとキャリアに関する具体的事例を取り上げて理論的蓄積と適宜検証作業を行う。
＊コミュニティとキャリアに関する外部講師を招聘し、特別講演会を開催することもある。
フィードバックは、リアクションペーパーへの全体総括と適宜、個別コメントを各講義の冒頭で行う。
大学行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義のガイダンス：ライフキャリア論の射程	ライフキャリア論の学問的特性を学ぶ
第2回	人生100年時代のライフキャリア：プロティアン・キャリアの基礎	人生100年時代のライフキャリアについて、プロティアン・キャリア論の基礎に分析視座を学ぶ
第3回	人生100年時代のライフキャリア：大学の学び	人生100年時代のライフキャリアについて、特に大学での学びについて考える
第4回	人生100年時代のライフキャリア：大学の＜外＞の学び	人生100年時代のライフキャリアについて、特に大学の＜外＞の学びについて考える
第5回	人生100年時代のライフキャリア：大学から社会へ	人生100年時代のライフキャリアについて、大学から社会への移行について理解を深める
第6回	人生100年時代のライフキャリア：コミュニティの多様性	人生100年時代のコミュニティの多様性を確認する
第7回	人生100年時代のライフキャリア：デジタル・コミュニティの現在	人生100年時代のライフキャリアについて、デジタル・コミュニティの理解を深め、社会問題を分析する
第8回	人生100年時代のライフキャリア：野宿生活とコミュニティ	人生100年時代のライフキャリアの視点から、野宿者コミュニティを学ぶ
第9回	人生100年時代のライフキャリア：福祉・介護コミュニティ	人生100年時代のライフキャリアの視点から、福祉・介護コミュニティについて考える
第10回	人生100年時代のライフキャリア：災害とコミュニティ ボランタリズムの可能性	人生100年時代のライフキャリアの視点から、災害とコミュニティ・ボランタリズムについて学ぶ
第11回	人生100年時代のライフキャリア：若年層のストリート・コミュニティ	人生100年時代のライフキャリアの視点から、若者のストリートコミュニティについて学ぶ
第12回	人生100年時代のライフキャリア理論：プロティアンキャリアの射程	人生100年時代のライフキャリア理論のなかで、各事例を読みとく、プロティアン・キャリアの視点を習得する
第13回	人生100年時代のライフキャリア戦略：キャリア資本論	人生100年時代のライフキャリア戦略についてキャリア資本論を学ぶ
第14回	人生100年時代のライフキャリア：コミュニティとキャリア	人生100年時代のライフキャリアの視点からコミュニティとキャリアの現代的洞察を深める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各講義のポイントを復習しておく本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
田中研之輔『プロティアン』(2020 日経BP）

【参考書】
「プロティアン・キャリア」ゼミ　連載
https://jinjibu.jp/article/detl/opinion/4002/

【成績評価の方法と基準】
① 授業時の感想メモと平常点　50％
② 期末レポート、もしくは、期末試験を実施します。 50％

【学生の意見等からの気づき】
双方型教育にむけて、積極的に最新テクロノジーを授業支援に活用していく。

【その他の重要事項】
受講者の意見や見識をいかしていけるように可能な限りアクティブラーニング形式をとっていきます。本講義での問いかけに、「正解」はありません。自分の考えを伝える機会として積極的に参加してください。

【Outline (in English)】
Life Career (community) is a course designed to assist students with the lifelong process of career development. Students will participate in a variety of experiences as a group and individually. This coursework is designed to help students identify and examine their interests, personality, values, self-esteem, critical thinking skills and to use this increased self-awareness to make decisions about majors and careers. This course will emphasize that making an occupational career choice and life planning is a never-ending process subject to and affected by one's personal maturity and environmental changes.
【Work to be done outside of class】

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.
【Grading criteria】
Submission assignment (50%), normal score (50%).
The submitted assignments will be based on the achievement level of the assignments, based on the basic viewpoint of life career research and the degree of understanding of ideas.
The normal score is based on the degree of participation / contribution to the class and the attitude of attending the class.

BSP100MA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

ライフキャリア入門B【2024年度以前入学者用】

関水　徹平

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：月5/Mon.5　｜　配当年次：1〜4年
備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞
授業コード：C5022
科目名：ライフキャリア入門A
＜2024年度以前入学者＞
授業コード：C7063
科目名：ライフキャリア入門B
※入学年度により授業コード・科目名が異なります
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ひきこもりについて、とくに家族との関わりを焦点に当てて学ぶ。ひきこもりは、日本社会の構造、とくに家族のあり方や社会保障制度とも深く結びついた現象である。ひきこもりと家族の関連を学ぶことで、日本社会におけるライフキャリア、家族のあり方について理解を深めることを目的とする。
より具体的には、この授業では、ひきこもりが本人にとってどのような経験であるのかを取り上げるとともに、ひきこもりが家族にとってどのような問題として経験されるのか、そもそもなぜひきこもりは家族問題となるのか、そして、本人・家族にどのような支援が求められているのかといった主題について、社会学的な観点から考えていく。

【到達目標】
ひきこもりについて、とりわけ家族にとってのひきこもり問題について理解を深め、家族生活に関わるキャリアを考えることができるようになることを目標とする。ひきこもりという経験、ひきこもり本人にとっての家族、家族にとってのひきこもり問題について理解を深めることを通じて、自己の将来について考察できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
各回の授業は、ＰＰＴを用いた講義と、それに対する履修者の発言やリアクションペーパーによって進められる。また、必要に応じて映像資料を利用する。リアクションペーパーへの学生のコメントも授業内で紹介する。ひきこもりの経験者や支援者によるゲスト講義の回を設ける予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の概要・進め方・成績評価等
第2回	参加の困難と家族	家庭内における参加の困難と状況的自己
第3回	家族の変容とひきこもり問題	家族にとってのひきこもり問題と社会構造・社会変動との関連
第4回	ひきこもりと家族①	家族が本人の苦しみを理解する難しさ
第5回	ひきこもりと家族②	家族の歴史とひきこもり（戦争PTSDを例として）
第6回	ひきこもり経験者が語るひきこもりと家族	ひきこもり経験者によるゲスト講義（予定）
第7回	授業の小括・理解度の確認（中間試験）	小括と授業内試験(中間試験）の実施
第8回	ひきこもり経験と人生の物語	ひきこもりと戦後日本社会におけるライフコース規範との関連
第9回	ひきこもりと母娘関係	女性のひきこもり経験者の事例から考える母娘関係
第10回	ひきこもり・社会保障・家族①	家族機能を代替する民間・行政の取り組み
第11回	支援者が語るひきこもりと家族	ひきこもり支援に関わる方によるゲスト講義（予定）
第12回	ひきこもり・社会保障・家族②	国際比較の視点から考える家族とひきこもり
第13回	授業のまとめ	家族問題としてのひきこもりとライフキャリア
第14回	理解度の確認（期末試験）	授業内試験（期末試験）の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
適宜、指定されたものを遂行すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
とくに指定しない。

【参考書】
授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業内試験（中間20%、期末50%）、リアクションペーパー（30%）

【学生の意見等からの気づき】
学生の意見を真摯に受け止め、学生の視線に立った授業を展開したい。

【学生が準備すべき機器他】
オンラインでの授業受講・理解度の確認にあたってパソコンが必要です

【Outline (in English)】
This course explores the phenomenon of hikikomori (social withdrawal), with a specific focus on the dynamics between the individual and their family. Hikikomori is deeply intertwined with the structure of Japanese society, particularly regarding family expectations and the social security system. By studying the relationship between hikikomori and the family unit, students will deepen their understanding of life careers and the changing nature of the family in contemporary Japan.

BSP100MA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

ライフキャリア入門C【2024年度以前入学者用】

安田　節之

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：木3/Thu.3　｜　配当年次：1〜4年
備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞
授業コード：C5084
科目名：コミュニティ心理学
＜2024年度以前入学者＞
授業コード：C7064
科目名：ライフキャリア入門C
※入学年度により授業コード・科目名が異なります

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
コミュニティ心理学（community psychology）の理論と方法を学び，個人やコミュニティのウェルビーイングの促進について考える。

【到達目標】
①現代社会を生きるうえでのライフキャリアについて，コミュニティ心理学の視点から捉えることができる。
②個人やコミュニティのウェルビーイング促進のために必要な支援プログラムについて理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
この授業では，現代社会でよく生きる，即ちウェルビーイング（well-being）を高めることの意義やそれ下支えする社会のあり方についてコミュニティ心理学の理論と方法に基づいて考える。生活観やライフスタイルが人それぞれ違うなか，自分自身にフィットする人間・社会環境やコミュニティを踏まえたライフキャリアのあり方を学ぶ。まずウェルビーイングの考え方を確認し，よく生きるとは何か，どう定義・測定されるのか，さらにウェルビーイングの規定要因は何かなどについて理論や実証研究の知見をもとに考える。そのうえで，コミュニティ心理学における鍵概念とされるエンパワメント（empowerment）や心理的コミュニティ感覚（psychological sense of community）の役割や効果をライフキャリアの質向上の観点から掘り下げていく。さらに予防科学（prevention science）の考え方をもとに，様々な生活場面や社会的環境におけるストレスやリスクを予防・回避することの重要性について学ぶ。またグループ演習として，ライフキャリア支援のあり方について考え、組織やコミュニティといったメゾ・マクロレベルでの実施を想定した介入プログラムを設計する。授業全体を通して，リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し，更なる議論に活かすことにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業概要，成績評価等に関する説明を行う。
第2回	ウェルビーイング①	よく生きる，在る（being well）とはどのようなことを指しているのか。理論的背景を確認する。
第3回	ウェルビーイング②	ウェルビーイングの測定方法や規定要因について学ぶ。
第4回	ウェルビーイング③	ウェルビーイングの効果について研究結果・事例をもとに学ぶ。
第5回	コミュニティ心理学に基づくライフキャリアの学びとは何か	コミュニティ心理学の理論と方法に基づき，現代社会でよく生きることを考える。
第6回	コミュニティ心理学の価値観	ライフキャリアの質向上に関連するコミュニティ心理学の概念や価値観について学ぶ。
第7回	コミュニティ感覚	コミュニティ感覚の定義や理論的背景を確認し，コミュニティを心理学的に掘り下げるとはどういうことかを学ぶ。
第8回	エンパワメント	エンパワメントの定義および役割を考える。事例として高齢者の社会参加を挙げる。
第9回	多様性・ダイバーシティ	組織や地域コミュニティにおける多様性・ダイバーシティについて考える。
第10回	予防科学①	予防とは何かについて，構造および効果の側面から考える。
第11回	予防科学②	コミュニティ心理学における予防研究について知り，予防的介入の実践方法について考える。
第12回	ライフキャリアの質向上①	ライフキャリア支援の考え方と方法について学ぶ。
第13回	ライフキャリアの質向上②	ライフキャリア支援プログラムのあり方を事例を通して考える。
第14回	まとめ	授業での学びの総括および課題の提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
※授業内のディスカッションのため，配布資料の指定箇所を必ず読んだうえで授業に参加してください。本授業の準備学習(3時間)・復習時間(1時間)を標準とします。特に事前学習（配布資料の通読）に時間を費やしてください。

【テキスト（教科書）】
テキストは用いず，配布プリント，関連資料，演習用ワークシートを使用する。

【参考書】
「コミュニティ心理学：実践研究のための方法論（ワードマップ）」(日本コミュニティ心理学会研究委員会，2019, 新曜社)
「プログラム評価：対人・コミュニティ援助の質を高めるために(ワードマップ)」(安田節之，2011，新曜社)

【成績評価の方法と基準】
学期末試験(50％)，グループワーク（演習参加・発表・レポート作成）(30％)，授業への積極的な貢献度(出席状況を含む)(20％)を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
継続的に分かり易い授業を行う。大教室内でのグループワークにおけるより効率的な運営方法を検討する。

【Outline (in English)】
Theories and methods of community psychology (CP) will be discussed in this class. Specifically, we focus attentions on how well-being of individuals and communities is enhanced by such ideas as empowerment, sense of community, and prevention/promotion that are discussed in the literature of CP.

BSP100MA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

ライフキャリア入門D【2024年度以前入学者用】

森屋　雅幸

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：木4/Thu.4　｜　配当年次：1〜4年
備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞
授業コード：C5029
科目名：キャリアとコミュニティ論
＜2024年度以前入学者＞
授業コード：C7065
科目名：ライフキャリア入門D
※入学年度により授業コード・科目名が異なります

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地域のコミュニティは、あらゆる世代の多様な市民が活躍する場となり、生きがいをもって生活を送るという点で、人の生き方（ライフキャリア）と密接に関わっている。近年、こうした観点から都市部や地方における地域づくりの目標に地域のコミュニティの再生が掲げられ、さまざまな取り組みが自治体や市民によって取り組まれている。本授業では、おもに地域の文化との関わりをテーマとして、地域のコミュニティと市民のライフキャリアのつながりを、政策や各地の事例を通して理解することを目的とする。

【到達目標】
地域のコミュニティと市民のライフキャリアのつながりを地域の文化の関わりから理解し、このつながりが現代の地域づくりにどのようなインパクトを与えているのか考察し、説明することができることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
基本的に講義形式の授業を実施する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックするなど、受講者との双方向の授業を意識して実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス／ライフキャリアと地域のコミュニティ	授業の進め方について説明する。／市民のライフキャリアと地域のコミュニティの関わりについて説明する。
第2回	コミュニティデザインの歴史Ⅰ	地域文化が国の政策としてどのように取り扱われてきたのか、地域づくりとの接点を含めて、文化政策の観点から講義する。
第3回	コミュニティデザインの歴史Ⅱ	日本におけるコミュニティ政策の歴史と、そこに地域の文化がいかに介在してきたのか講義する。
第4回	市民活動とコミュニティⅠ	日本における市民活動と地域文化の関わりについて、文化財保存運動をテーマに講義する。
第5回	市民活動とコミュニティⅡ	近年の文化財保護政策において、地域のコミュニティと市民活動の関わりはどのように捉えられているのか、また、文化財保護政策でコミュニティと市民活動はどのように構想されてきたのか講義する。
第6回	地域文化財とコミュニティⅠ	お祭りなどの無形民俗文化財がコミュニティとライフキャリアにどのように結びついているのか講義する。
第7回	地域文化財とコミュニティⅡ	地域の文化財建造物を拠点に活動するNPOの取組みが地域課題の解決にいかに結びつくのか講義する。
第8回	地域文化財とコミュニティⅢ	地域の文化財建造物を拠点に活動する地域の任意団体の取組みをその歴史とともに紹介する。
第9回	地域文化財とコミュニティⅣ	市民が無形文化財の継承活動を地域博物館を拠点に展開する事例を紹介する。
第10回	地域文化財とコミュニティⅤ	文化財の内、史跡の保存と活用について、地域との関わりを踏まえて講義する。
第11回	地域博物館におけるコミュニティの活動Ⅰ	地域を丸ごと博物館として、市民主体で活動するエコミュージアムの理念や実践について日本国内の事例を紹介する。
第12回	地域博物館におけるコミュニティの活動Ⅱ	科学館における天文と市民をつなぐ活動を紹介する。
第13回	地域文化活動と地域の居場所	現代の社会で求められる「居場所」と地域文化活動の関わりについて講義する。
第14回	試験・まとめと解説	本授業のまとめ・解説をするとともに、到達目標を達成できたか確認する筆記試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の授業で取り上げた事例について、自主的に参考書に示した文献やインターネット等で調べて、準備学習・復習に努めること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
講義資料を必要に応じて配布する。

【参考書】
小田切徳美『農山村再生―『限界集落』問題を超えて―』（岩波書店、2009年）
広井良典『コミュニティを問いなおす―つながり・都市・日本社会の未来―』（筑摩書房、2009年）
森屋雅幸『地域文化財の保存・活用とコミュニティ―山梨県の擬洋風建築を中心に―』（岩田書院、2018年）
森屋雅幸『人間回復の場としての地域博物館―つながりとコミュニティの生成を目指して―』（東信堂、2025年）

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパー・授業への貢献（40％）、期末試験（60％）

【学生の意見等からの気づき】
アクティブラーニングを心がけた授業に取り組む。

【学生が準備すべき機器他】
出席は学習支援システム (WebClass) で確認するため、教室でインターネットにアクセスできるスマートフォン、ノートPCなどを準備しておくこと。

【その他の重要事項】
理由なく5回以上欠席した場合、成績評価しない。
理由なき早退・遅刻は3回で1回の欠席として扱う。
出席は初回授業からとる。
授業の詳細や方法についてHoppiiでアナウンスする場合があるため、アナウンスに留意すること。

【Outline (in English)】
Local communities are closely related to life careers in that they provide a place for diverse citizens of all ages to play an active role and live a life worth living. In recent years, the revitalization of local communities has become a goal of regional development in urban and rural areas, and a variety of initiatives are being undertaken by local governments and citizens. In this class, the main theme is the relationship with local culture, and the objective is to understand the connection between local communities and the life careers of citizens through policies and case studies from around Japan.

CAR100MA（キャリア教育 / Career education 100）

労働法

砂押　以久子

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：木3/Thu.3　｜　配当年次：1〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この授業では、雇用をめぐるさまざまな問題を法制度の観点から考察し、社会で働く上で必要な法律の知識を習得することを目的とします。

【到達目標】
　現在、就労をめぐる問題が山積しています。中でも、長時間労働に関しては、近年、過労によるうつ病自殺の事件が大きく報道されるに至り、長時間労働が社会的問題として広く認識されるようになりました。このような状況下において、「働き方改革」が断行されたわけですが、この「働き方改革」をめぐっては、新たにいくつかの問題が提起されており、議論の必要性が指摘されています。
　また、非正規雇用の問題に関しては、さまざまな法規制がなされてきてはいますが、非正規社員と正規社員との間の格差は依然として存在し、問題が解決されているとはいえません。この問題について、どのような解決法が考えられるか、今後のあり方について、検討を加えたいと考えます。
　このほか、雇用におけるジェンダーギャップの問題も完全に解決されたわけではありません。
　さらに、わが国の生産性が国際的にどんどん低下する中、雇用の流動性なども図られるべきではないか等の議論もなされています。
　この授業では、労働法が労働者保護の観点からどのような制度を用意しているのかについて学び、上記のような雇用をめぐる現代的問題をも検討しつつ、実施の就労の現場で、働く者として不利益を被らないために必要となる知識の習得を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
　授業形態としては、講義形式を用います。授業の具体的内容については、授業計画に示します。
　教科書を用い、教科書の内容に沿って授業を進めていきます。
　テーマによっては、授業内にリアクションペーパーの提出を求めます。提出してもらったリアクションペーパーに関しては、次回の授業において可能な限りすべて取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、さらに議論を深めることとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス 労働法とは？	授業をどのように行うかについての詳細を示します。 雇用に関するルールの概要を学びます。
第2回	採用から入社まで	採用内定取消しなどの問題を取り上げ、採用内定等の法的性質を学びます。
第3回	賃金	賃金保障がどのようになされているか学びます。
第4回	労働時間	労働時間規制がどのようになされているかについて学びます。
第5回	長時間労働をめぐる問題①	長時間労働をめぐりどのような問題が生じているかを指摘します。
第6回	長時間労働をめぐる問題②	長時間労働をいかに防ぐかについて検討します。
第7回	家庭と仕事の両立	休暇制度の仕組みについて学びます。少子化対策で様々な法制度ができていますが、実際にはどのような問題が起きているのか学びます。
第8回	雇用差別	雇用におけるさまざまな差別問題を取り上げ、検討します。
第9回	人事制度	人事制度をめぐるさまざまなルールを学びます。
第10回	懲戒制度と内部告発（公益通報）	懲戒制度に関し具体的な問題を取り上げ、学びます。なかでも、最近問題になっている内部告発（公益通報）について検討します。
第11回	ハラスメント	職場におけるハラスメントの実態とその予防について学びます。
第12回	雇用の終了	雇用の終了の仕方には、解雇・合意解約・退職があります。それぞれの問題について学びます。
第13回	非正規雇用	正社員と有非正規社員の違い及びその問題について学び、今後の解決策について検討します。
第14回	試験・まとめと解説	授業の内容が理解できたかについて確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　授業で学んだことを現実の問題として受け止め、雇用社会はいかにあるべきか常に考えることを心掛けてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
　砂押以久子『教えて！ 働くなら知っておきたい法律の知識 労働法講義』自由国民社（2024年）1800円

【参考書】
　菅野和夫『労働法〔第１３版〕』弘文堂
　荒木尚志『労働法［第６版］有斐閣
　浅倉むつ子・島田陽一・盛誠吾『労働法[第６版]』有斐閣アルマ
　別冊ジュリスト『労働判例百選〔第１０版〕』有斐閣
　『労働法の争点』有斐閣

【成績評価の方法と基準】
　学期末に授業内試験を実施します。
　平常点（リアクション・ペーパーなど)（２０%）と試験の点数（８０%）によって成績評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】
　取り上げるテーマに関して、具体的に生じている問題を指摘したうえで、法的に何が問題なのか、どのように解決が図られるべきかについて検討します。受講生からの質問・意見を受け付け、フィードバックを行います。

【学生が準備すべき機器他】
　必要に応じDVD・ビデオ教材を用います。

【その他の重要事項】
　授業内容については、シラバスに示した内容に沿って行うことを前提としますが、授業の進行状況により取り上げるテーマの順序が多少前後したり、その時々の雇用情勢により取り上げるテーマが変更になる場合があること、それに伴い、オンライン授業・対面授業も変更になることを予め了承いただきたく存じます。なお、授業内容に変更がある場合は、できるだけ早い段階で、事前にお知らせします。

【Outline (in English)】
【Course outline】
The aim of this course is to help students acquire getting the fundamental legal knowledges - especially labor law related mattes.
【Learning Objectives】
The goal of this course is to acquire the correct legal knowledge of labor law to avoid suffering disadvantage as a worker in real business world.
【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policies】
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Term-end examination: 80%, Short reports : 20%

BSP100MA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

若者の自立支援

大山　宏

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：土2/Sat.2　｜　配当年次：1〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
子ども・若者の貧困への注目や、若者の就労支援の社会的課題としての位置づけ等、近年は若者支援に対する社会的関心が高まっている。その背景には現代日本の社会構造により引き起こされる若者の困難状況があり、そうした状況下にある若者がどのように社会と関わっていくことを想定するかが問われている。しかし一方で、自立した若者のあるべき姿については、個人の努力で達成すべきものとみなされがちでもあるが、若者支援の実践では若者に対しては経済的な観点のみにとどまらない、包括的な支援が求められているといえる。
この講座では、若者が陥っている困難状況について具体的な事例等を用いながら知り、若者が社会とどのように関わっていくべきかを考えることを通し、若者に対してどのような支援が必要なのか検討する。

【到達目標】
１．若者の社会的な困難状況の実態と、その社会構造的背景について理解する。
２．若者支援のあり方に対する、同時代を生きる若者としての自らの視点を獲得する。
３．若者支援の具体的なプログラムを試作することを通して、若者支援の実践について知り、その現状と課題について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業形態については基本的に対面の講義形式で行う。
ただし授業の進行度に応じてアクティブラーニング（ディスカッション等）を実施する可能性がある。
また、授業の最後に毎回リアクションペーパーの課題を出すこととする。
提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、次の授業のはじめに全体に対してフィードバックを行う。
この他、授業の進め方については適宜変更を行う場合がある。
その場合、授業内での告知の他、学習支援システム等を活用して周知するので、連絡はこまめに確認をしておくことを求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義の内容や進め方について
第2回	若者支援の目的	若者支援の目的と各種政策・実践のキーワードの整理
第3回	「就業」と生きづらさ	「就業」を基盤とした自立についての検討
第4回	若者の生きづらさへの対応	日本型青年期・関係性の貧困・居場所
第5回	支援の双方向性	支援という行為の構造について
第6回	困難を有する若者への支援	若者世代が抱えやすい課題の整理と、課題を抱えた若者への対応について
第7回	参画支援	若者と社会の関係性について
第8回	対話への参加	相互に影響を与え合う関係性に、若者が参加していく構造について
第9回	現代的な自立の検討	現代社会における自立概念の射程について
第10回	若者と社会	若者と社会の関係性を取り持つ支援のあり方について
第11回	社会の創り手としての若者	自立として若者に求められる要件を、社会への適合と、社会の変革の双方の視点から整理する
第12回	支援の構想	具体的な支援手法の検討
第13回	若者支援の範囲	若者支援の領域で対応すべき課題の多様さについて
第14回	総括 若者の自立支援とは	自立の要件 若者支援の課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自己の経験に照らし合わせながら、若者に必要な支援について考える。参考書としてあげた文献を読んでおく。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
『〈学校から仕事へ〉変容と若者たち』乾彰夫・青木書店
『二極化する若者と自立支援』宮本みち子・小杉礼子編著・明石書店
『若者の居場所と参加』田中治彦・荻原建次郎編著・東洋館出版社
『子ども・若者の参画』子どもの参画情報センター編・萌文社
『若者と社会変容』アンディ・ファーロング/フレッド・カートメル・大月書店
など。

【成績評価の方法と基準】
平常点（リアクションペーパー・オンライン授業での様子）：４０％
レポート：６０％

【学生の意見等からの気づき】
具体的な事例について触れることが、理解度の向上につながるという意見が多数寄せられており、今年度もできるだけ具体的に現場の様子等が伝えられるように授業を行っていく。
また、前年度は毎回の授業で提出してもらうリアクションペーパーに対する返しを重点的に行い、授業のやる気につながったという声が多く寄せられたため、今年度も継続していく。

【学生が準備すべき機器他】
レジュメは授業前に学習支援システムにアップロードするので、それを見られるようにすること。
また、レポート提出等にも学習支援システムを利用する。

【Outline (in English)】
【Course outline】
The difficult situation of young people is at the core of a social issue "young people's independence".
In this lecture, you can study about the difficult situation of young people from specific case, and can consider the method of youth support.
【Learning Objectives】
The goals of this course are to understand why young people face socially difficult situations, and understand how to create a program to support young people.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
reports : 60%、in class contribution: 40%

CAR100MA（キャリア教育 / Career education 100）

職業選択論 I

上西　充子

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：火5/Tue.5　｜　配当年次：1〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では若者の学校から職業への移行過程を、若者と企業、双方の視点から、また労働市場の動向との関連において理解し検討できるようになることを目指します。
なぜ日本では職種を限定しない就職が一般的なのか、企業は経験者ではない新卒者に何を期待しているのかを理解し、近年の変化にも目を向けます。
さらに、アルバイトのトラブルを手がかりに、労働法への理解を促し、職場の労務管理や労働条件に注目することの必要性を理解します。

【到達目標】
個人のキャリアにおける大きな節目となる「学校から職業への移行期」の意味と課題を、一歩引いた俯瞰的な視点で多面的に捉えられるようになる。
大学生の就職と初期キャリアに関する論点を適切に理解し、自らの就職にも生かしていくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業ではレジュメに沿って解説や問題提起を行った後に、授業内容に沿ったミニ・レポートを計６回、授業内外で書きます。書くことを通して自分の考えを整理してください。ミニ・レポートの主な内容は次回の授業でフィードバックし、多面的なものの見方を促すと共に理解を深めます。加えて中間と期末、２回の授業内試験（論述試験）を実施します。
初回の授業はオンライン（Zoom）で実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	講義のテーマ、到達目標、受講上の注意、評価方法、文献紹介（Zoomで実施）
第2回	大卒労働市場を考える	卒業生の進路状況と早期離職状況、社会情勢との関係
第3回	企業は採用選考で何を評価しているのか	採用プロセスと選抜
第4回	新卒採用と中途採用／ジョブ型雇用とメンバーシップ型雇用	ジョブ型雇用・メンバーシップ型雇用の特徴と日本の現状
第5回	職業興味と職業適性	職業興味、職業適性と能力、企業の人材育成方針
第6回	アルバイトから考える労働問題	アルバイト就労の現状と問題
第7回	アルバイトと労働法	アルバイトのトラブルに即して労働法を理解する
第8回	職場の問題への向き合い方	「嫌ならやめればいい」のか、を考える
第9回	中間試験	中間試験実施
第10回	「まともな職場」とは	労働組合の役割、長時間労働と職場内規制
第11回	就職プロセスと労働条件	就職プロセスと就職支援会社の役割、労働条件への着目の重要性
第12回	労働条件・職場実態に関する客観情報の活用	「就職四季報」「女性の活躍推進企業データベース」などの活用
第13回	内定・就職をめぐるトラブル	労働契約としての就職／内定・就職をめぐるトラブルと関係法令、対処法
第14回	期末試験	期末試験実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
社会情勢の変動とそれを踏まえた論考に常日頃からアンテナを張り、読み解く習慣をつけること。新聞の購読（WEB版の有料購読を含む）を強く勧める。授業で紹介する記事や文献なども積極的に参照すること。
中間試験・期末試験に向けて、授業内容を振り返り、理解を深めておくこと。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
毎回の授業時に学習支援システムの教材欄にレジュメを掲示する。

【参考書】
さしあたり下記を挙げておきます。
・濱口桂一郎（2009）『新しい労働社会』岩波新書
・濱口桂一郎（2013）『若者と労働』中公新書ラクレ
・石田眞・浅倉むつ子・上西充子（2017）『大学生のためのアルバイト・就職トラブルQ＆A』旬報社
・駒川智子・金井郁（2024）『キャリアに活かす雇用関係論』世界思想社
・東洋経済新報社編『就職四季報　総合版』東洋経済新報社
・厚生労働省「知って役立つ労働法」WEB公開

【成績評価の方法と基準】
授業内外で計6回実施するミニ・レポート（配点50点）と中間試験（配点20点）、期末試験（配点30点）により評価する。なお、ミニ・レポートの提出が0〜2回の学生や、ミニ・レポートまたは中間試験・期末試験において代筆・剽窃などの不正行為が判明した学生には、単位を付与ししない（E評価とする）。詳しくは初回の授業で説明するので、必ず確認すること。

【学生の意見等からの気づき】
受講者からは、就職活動に役立った、アルバイトの働き方を見直すきっかけとなった、といった感想がみられる。
ミニ・レポートの執筆とフィードバックに加え、アクティブラーニングの機会を工夫したい。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを通じてレジュメの配布を行う。
オンラインの授業はZoomで行う。

【その他の重要事項】
初回の授業で授業の進め方や評価の方法、課題などの説明を行うため、必ず確認すること。なお、初回の授業はオンラインで実施する。ZoomのURLは学習支援システムの「お知らせ」にて連絡する。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course is designed to provide students with a basic understanding of the transition from school to work. The main topics include characteristics of the transition from school to work in Japan, career decisions, labor issues, and labor laws.
【Learning Objectives】
At the end of the course, students are expected to understand various issues related to employment and early careers, and apply them to their own employment.
【Learning activities outside of classroom】
Students will be expected to read newspaper articles and recommended books. Your study time will be more than four hours for a class.
【Grading Criteria/Policies】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Short reports: 50%, Mid-term examination: 20%, Term-end examination: 30%

CAR100MA（キャリア教育 / Career education 100）

生活設計論Ⅰ（社会保障）

高尾　真紀子

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水4/Wed.4　｜　配当年次：1〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
これからの人生を考える上で将来の社会構造とリスクを理解し、リスクに備える必要があります。日本の人口減少と少子高齢化、それに伴う社会保障費の増加は日本社会にとって最大の課題となっています。本講義では、日本の少子高齢化、人口減少の経済・社会への影響について理解し、子育て支援、年金、医療、介護・福祉などの社会保障制度について必要な知識と多角的な考え方を学びます。知識や多角的な視点を得て、自分自身の生活設計に活かすとともに、どのような制度が望ましいのか等について議論し、考えを深めます。

【到達目標】
日本の人口構造の変化等の基本的な課題について理解し、社会保障の基本的な考え方と子育て支援、年金、医療、介護・福祉等の現状と制度について基礎的な知識を習得します。さらに社会保障制度について自分なりの考え方を持ち、自分の生活設計に活用できるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
この授業は講義形式を中心としますが、講義の内容を踏まえてグループディスカッション等を行います。リアクションペーパーのコメントや質問については適宜全体にフィードバックして議論を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の概要や授業の進め方について説明する
第2回	人口減少と少子高齢化	日本及び地域別の人口構造の変化と将来展望について講義し、その社会・経済的影響について議論する。
第3回	未婚化・少子化の背景と影響	少子化の経済・社会的背景とその影響及び子育て支援策について議論する。
第4回	少子化対策と子育て支援策	少子化対策と子育て支援策の現状について議論する
第5回	社会保障の基本的な考え方とウェルビーイング	社会保障の基本的な考え方とウェルビーイングについて議論する
第6回	格差と貧困	格差と貧困の連鎖の問題について議論し、生活保護等の制度を理解する
第7回	年金制度①現状と背景	日本の年金制度の現状と制度創設・制度改革の背景について理解する
第8回	年金制度②世界各国の制度と制度改革	各国の年金制度の比較等を通じて、どのような年金制度が望ましいのか、議論する。
第9回	医療制度①特徴と課題	日本の医療の特徴とその背景、医療保険制度の課題について理解する。
第10回	医療制度②制度改革の方向性	各国の医療政策を比較し、どのような医療政策が望ましいのか議論する。
第11回	介護保険制度①創設の背景と現状	公的介護保険創設の背景と介護の現状について理解する
第12回	介護保険制度②課題と改革の方向性	公的介護保険制度の課題について理解し、どのような介護政策が望ましいか議論する。
第13回	障害者福祉と就労支援	障害者の福祉や就労支援について理解し、誰もが地域で暮らせる共生社会について議論する。
第14回	授業内試験	各回の内容を踏まえた論述形式の試験を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
社会保障は身近な問題であり、ニュース等で取り上げられることも多いため、日頃から新聞、ニュース報道に接し、問題意識をもっておくことが望ましい。自分の関心のあるテーマについては参考図書に挙げた書籍を読んでおくと役に立つ。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間（計 4 時間）を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書はありません。毎回レジュメや参考資料を配布します。

【参考書】
エスピン－アンデルセン『福祉資本主義の三つの世界』2001年，ミネルヴァ書房
阿部彩『子どもの貧困』2008年，岩波新書　『子どもの貧困Ⅱ』2014年，岩波新書
池上直己『日本の医療と介護』2017年，日本経済新聞社
大竹文雄・平井啓(編著)『医療現場の行動経済学　すれちがう医者と患者』2018年，東洋経済新報社
香取照幸『教養としての社会保障』2017年，東洋経済新報社
酒井正『日本のセーフティーネット格差　労働市場の変容と社会保険』2020年，慶應義塾大学出版会
柴田悠『子育て支援が日本を救う』2016年，勁草書房
筒井淳也『仕事と家族　日本はなぜ働きづらく、産みにくいのか』2015年，中公新書
筒井淳也『未婚と少子化　この国で子どもを産みにくい理由』2023年，PHP新書
中室牧子『「学力」の経済学」2015年，ディスカヴァー・トゥエンティワン
広井良典『日本の社会保障』1999年、岩波新書
広井良典『創造的福祉社会ー「成長」語の社会構想と人間・地域・価値』2011年、ちくま新書
山口慎太郎『「家族の幸せ」の経済学』2019年，光文社新書
山口 慎太郎 『子育て支援の経済学』2021年、日本評論社
山崎史郎『人口減少と社会保障－孤立と縮小を乗り越える』2017年，中公新書
その他、授業の中でテーマごとに参考文献を紹介します。

【成績評価の方法と基準】
授業への貢献(20％)　各回の課題(30％)　期末試験（50％）

【学生の意見等からの気づき】
学生から授業中に自分の考えを発言でき、他の学生の考えを知ることができたことが気づきにつながったとの感想があったので、今後も参加型の授業を続けていきたい。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In this course, students will understand the economic and social impact of Japan’s declining birthrate and aging population, and learn the necessary knowledge and multifaceted perspectives on social security systems, including childcare support, pensions, medical care, and long-term care and welfare.　Students will gain knowledge and multifaceted perspectives to apply to their own life planning, as well as to discuss and deepen their ideas about what kind of systems are desirable.
【Learning Objectives】

At the end of the course, students will be able to understand basic issues such as changes in Japan's population structure, and acquire basic knowledge of the current situation and systems of social security, childcare support, pensions, medical care, and long-term care and welfare. Furthermore, students are expected to have their own ideas about the social security system and apply them to their own life planning.
【Learning　activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. It is advisable to have an awareness of social security issues through daily contact with newspapers and news reports. It is also helpful to read the books listed in the reference list on topics of interest to you.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 50%、Short reports :30%、in class contribution: 20%

BSP200MA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200）

キャリアサポート事前指導

廣川　進

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：月3/Mon.3　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「キャリアサポート実習」のための事前指導の授業である。他者との協働を通じた意思決定を促進する能力を身につけることを目的とする。

【到達目標】
・傾聴や質問技法を適切に使うことができる
・アサーションの観点を取り入れたコミュニケーションができる
・ファシリテーションを活用し、グループでの話し合いを円滑に進めることができる
・ワークショップ形式のプログラムを考案し、実演できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
受講者同士でのグループワーク、授業内での発表、校内実習、リアクションペーパー提出など。体験型の科目であるため、フィードバックおよび講評や解説は随時行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	この授業の流れを説明する。
第2回	コミュニケーション（1）	傾聴のワークをする。
第3回	コミュニケーション（2）	質問技法、リレーション（信頼関係）づくりのワークをする。
第4回	コミュニケーション（3）	「頼む」「断る」を題材にしたアサーションのワークをする。
第5回	グループワークのスキル（1）	アイスブレイク、ファシリテーション、ブレインストーミング等を扱う。自由で創造的な話し合いを体験する。
第6回	グループワークのスキル（2）	ＫＪ法を扱う。話し合いを収束させていくプロセスを体験する。
第7回	ワークショップ形式のプログラム作成（1）	自由なアイデア出しで発想を広げることを学び、ワークショップ形式のプログラムを作成する。
第8回	ワークショップ形式のプログラム作成（2）	今までに学んだスキルを使って自由で創造的な話し合いを行い、ワークショップ形式のプログラムを完成させる。
第9回	ワークショップ形式のプログラム発表	これまでの授業を踏まえてプログラムを発表、実演する。実習に向けて準備する。
第10回	実習リハーサル（1）	実習に向けて当日を想定し、リハーサルを実施する（前半）。
第11回	実習リハーサル（2）	実習に向けて当日を想定し、リハーサルを実施する（後半）。完成したプログラムの講評をする。
第12回	実習	作成したプログラムを学部1年生に実施する。
第13回	実習の振り返り・発表	実習について振り返りを行い、発表する。
第14回	まとめと振り返り	春学期に学んだ授業内容について振り返りを行う。授業を履修することで獲得した知識やスキルついて振り返り、言語化する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。プログラムの作成では、授業外の時間に自主的に集まって話し合うことが必要になる場合がある。

【テキスト（教科書）】
プリントおよび用語集を授業時に配布する。

【参考書】
授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点50％、レポート課題50％にて評価。

【学生の意見等からの気づき】
引き続き、学生の意見を取り入れていく。

【その他の重要事項】
半期で欠席は2回まで許容する。3回欠席したら単位を認めない。15分以内の遅刻は遅刻とし、遅刻3回で欠席1回とみなす。16分以上の遅刻は欠席とする。

【Outline (in English)】
This course aims to develop students' communication skills, essential for fostering the growth of others. By the end of the course, students will be capable of:
Utilizing listening and questioning techniques effectively.
Communicating assertively.
Facilitating group discussions with practical moderation skills.
Designing and delivering workshop-style programs.
Students are expected to dedicate over four hours of study time per class. Assessment will be based on report submissions (50%) and active contributions in class (50%).

BSP200MA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200）

キャリアサポート事前指導

児美川　孝一郎

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：水2/Wed.2　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「キャリアサポート実習」のための事前指導の授業である。他者との協働を通じた意思決定を促進する能力を身につけることを目的とする。

【到達目標】
・傾聴や質問技法を適切に使うことができる
・アサーションの観点を取り入れたコミュニケーションができる
・ファシリテーションを活用し、グループでの話し合いを円滑に進めることができる
・ワークショップ形式のプログラムを考案し、実演できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
受講者同士でのグループワーク、授業内での発表、校内実習、リアクションペーパー提出など。体験型の科目であるため、フィードバックおよび講評や解説は随時行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	この授業の流れを説明する。
第2回	コミュニケーション（1）	傾聴のワークをする。
第3回	コミュニケーション（2）	質問技法、リレーション（信頼関係）づくりのワークをする。
第4回	コミュニケーション（3）	「頼む」「断る」を題材にしたアサーションのワークをする。
第5回	グループワークのスキル（1）	アイスブレイク、ファシリテーション、ブレインストーミング等を扱う。自由で創造的な話し合いを体験する。
第6回	グループワークのスキル（2）	ＫＪ法を扱う。話し合いを収束させていくプロセスを体験する。
第7回	ワークショップ形式のプログラム作成（1）	自由なアイデア出しで発想を広げることを学び、ワークショップ形式のプログラムを作成する。
第8回	ワークショップ形式のプログラム作成（2）	今までに学んだスキルを使って自由で創造的な話し合いを行い、ワークショップ形式のプログラムを完成させる。
第9回	ワークショップ形式のプログラム発表	これまでの授業を踏まえてプログラムを発表、実演する。実習に向けて準備する。
第10回	実習リハーサル（1）	実習に向けて当日を想定し、リハーサルを実施する（前半）。
第11回	実習リハーサル（2）	実習に向けて当日を想定し、リハーサルを実施する（後半）。完成したプログラムの講評をする。
第12回	実習	作成したプログラムを学部1年生に実施する。
第13回	実習の振り返り・発表	実習について振り返りを行い、発表する。
第14回	まとめと振り返り	春学期に学んだ授業内容について振り返りを行う。授業を履修することで獲得した知識やスキルついて振り返り、言語化する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。プログラムの作成では、授業外の時間に自主的に集まって話し合うことが必要になる場合がある。

【テキスト（教科書）】
テキストおよび用語集を授業時に配布する。

【参考書】
授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点50％、レポート課題50％にて評価。

【学生の意見等からの気づき】
引き続き、学生の意見を取り入れていく。

【その他の重要事項】
半期で欠席は2回まで許容する。3回欠席したら単位を認めない。15分以内の遅刻は遅刻とし、遅刻3回で欠席1回とみなす。16分以上の遅刻は欠席とする。

【Outline (in English)】
This course aims to develop students' communication skills, essential for fostering the growth of others. By the end of the course, students will be capable of:
Utilizing listening and questioning techniques effectively.
Communicating assertively.
Facilitating group discussions with practical moderation skills.
Designing and delivering workshop-style programs.
Students are expected to dedicate over four hours of study time per class. Assessment will be based on report submissions (50%) and active contributions in class (50%).

BSP200MA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200）

キャリアサポート事前指導

田澤　実

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：水2/Wed.2　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「キャリアサポート実習」のための事前指導の授業である。他者との協働を通じた意思決定を促進する能力を身につけることを目的とする。

【到達目標】
・傾聴や質問技法を適切に使うことができる
・アサーションの観点を取り入れたコミュニケーションができる
・ファシリテーションを活用し、グループでの話し合いを円滑に進めることができる
・ワークショップ形式のプログラムを考案し、実演できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
受講者同士でのグループワーク、授業内での発表、校内実習、リアクションペーパー提出など。体験型の科目であるため、フィードバックおよび講評や解説は随時行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	この授業の流れを説明する。
第2回	コミュニケーション（1）	傾聴のワークをする。
第3回	コミュニケーション（2）	質問技法、リレーション（信頼関係）づくりのワークをする。
第4回	コミュニケーション（3）	「頼む」「断る」を題材にしたアサーションのワークをする。
第5回	グループワークのスキル（1）	アイスブレイク、ファシリテーション、ブレインストーミング等を扱う。自由で創造的な話し合いを体験する。
第6回	グループワークのスキル（2）	ＫＪ法を扱う。話し合いを収束させていくプロセスを体験する。
第7回	ワークショップ形式のプログラム作成（1）	自由なアイデア出しで発想を広げることを学び、ワークショップ形式のプログラムを作成する。
第8回	ワークショップ形式のプログラム作成（2）	今までに学んだスキルを使って自由で創造的な話し合いを行い、ワークショップ形式のプログラムを完成させる。
第9回	ワークショップ形式のプログラム発表	これまでの授業を踏まえてプログラムを発表、実演する。実習に向けて準備する。
第10回	実習リハーサル（1）	実習に向けて当日を想定し、リハーサルを実施する（前半）。
第11回	実習リハーサル（2）	実習に向けて当日を想定し、リハーサルを実施する（後半）。完成したプログラムの講評をする。
第12回	実習	作成したプログラムを学部1年生に実施する。
第13回	実習の振り返り・発表	実習について振り返りを行い、発表する。
第14回	まとめと振り返り	春学期に学んだ授業内容について振り返りを行う。授業を履修することで獲得した知識やスキルついて振り返り、言語化する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。プログラムの作成では、授業外の時間に自主的に集まって話し合うことが必要になる場合がある。

【テキスト（教科書）】
テキストおよび用語集を授業時に配布する。

【参考書】
授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点50％、レポート課題50％にて評価。

【学生の意見等からの気づき】
引き続き、学生の意見を取り入れていく。

【その他の重要事項】
半期で欠席は2回まで許容する。3回欠席したら単位を認めない。15分以内の遅刻は遅刻とし、遅刻3回で欠席1回とみなす。16分以上の遅刻は欠席とする。

【Outline (in English)】
This course aims to develop students' communication skills, essential for fostering the growth of others. By the end of the course, students will be capable of:
Utilizing listening and questioning techniques effectively.
Communicating assertively.
Facilitating group discussions with practical moderation skills.
Designing and delivering workshop-style programs.
Students are expected to dedicate over four hours of study time per class. Assessment will be based on report submissions (50%) and active contributions in class (50%).

BSP200MA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200）

キャリアサポート実習

児美川　孝一郎

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水2/Wed.2　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中学生および高校生を対象にしたキャリア教育プログラムを作成し実施する経験を通して、他者との協働を通じた意思決定を促進する能力を身につけることを目的とする。

【到達目標】
・他者のニーズ、視点、行動を理解し、ファシリテーションを通じて他者と関わりを持つことができる。
・中学生および高校生を対象としたワークショップ形式のキャリア教育プログラムを考案し、実演ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
受講者同士でのグループワーク、授業内での発表、校外実習、リアクション ペーパー提出など。体験型の科目であるため、フィードバックおよび講評や解説は随時行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	この授業の流れを説明する。 1つ目の実習先の下調べをする。
第2回	実習のリハーサル（1）	実習の前半部分のリハーサルをする。
第3回	実習のリハーサル（2）	実習の後半部分のリハーサルをする。
第4回	実習（1）	1つ目の校外実習
第5回	実習報告（1）	1つ目の校外実習の報告をする。 全体で共有し、次の実習へ備える。
第6回	キャリア教育プログラムの作成（1）	２つ目の実習先の高校の下調べをする。 実習先の生徒の特徴を踏まえたキャリア教育プログラムを作成する。全体の概要をイメージする。
第7回	キャリア教育プログラムの作成（2）	実習で関わった生徒の特徴を踏まえたキャリア教育プログラムをあらたに作成する。詳細をつめる。
第8回	キャリア教育プログラムの発表（1）	完成したプログラムの発表と講評をする（前半の班）。
第9回	キャリア教育プログラムの発表（2）	完成したプログラムの発表と講評をする（後半の班）。実習で用いるプログラムを決定する。
第10回	実習のリハーサル（1）	実習の前半部分のリハーサルをする。
第11回	実習のリハーサル（2）	実習の後半部分のリハーサルをする。
第12回	実習（2）	２つ目の校外実習
第13回	実習報告（2）	２つ目の校外実習の報告をする。 全体で共有する。
第14回	まとめと振り返り	授業を履修することで獲得した知識やスキルについて振り返り、言語化する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。キャリア教育プログラムの作成では、授業外の時間に自主的に集まって話し合うことが必要になる場合がある。

【テキスト（教科書）】
キャリアサポート事前指導で配布したテキストと用語集を用いる。

【参考書】
授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点50％、レポート50％にて評価。

【学生の意見等からの気づき】
引き続き、学生の意見を取り入れていく。

【その他の重要事項】
・実習日の決定は実習先との調整が必要になるため、授業計画が変更になることがある。この科目を履修するためには「キャリアサポート事前指導」の単位を履修していることが条件になる。
・半期で欠席は２回まで許容する。3回欠席したら単位を認めない。15分以内の遅刻は遅刻とし、遅刻３回で欠席１回とみなす。16分以上の遅刻は欠席とする。

【Outline (in English)】
This course is tailored to assist junior high and high school students in developing communication skills pertinent to career education. By the end of this course, students will be equipped to:
Understand and empathize with the needs, perspectives, and behaviors of others and engage effectively with them through facilitation techniques.
Designed and executed a workshop-style career education program for junior high and high school students.
Students are required to complete all assigned tasks following each class session. They should anticipate dedicating over four hours of study time per class. Assessment of student performance will be based on report submissions (50%) and active in-class contributions (50%).

BSP200MA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200）

キャリアサポート実習

田澤　実

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水2/Wed.2　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中学生および高校生を対象にしたキャリア教育プログラムを作成し実施する経験を通して、他者との協働を通じた意思決定を促進する能力を身につけることを目的とする。

【到達目標】
・他者のニーズ、視点、行動を理解し、ファシリテーションを通じて他者と関わりを持つことができる。
・中学生および高校生を対象としたワークショップ形式のキャリア教育プログラムを考案し、実演ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
受講者同士でのグループワーク、授業内での発表、校外実習、リアクション ペーパー提出など。体験型の科目であるため、フィードバックおよび講評や解説は随時行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	この授業の流れを説明する。 1つ目の実習先の下調べをする。
第2回	実習のリハーサル（1）	実習の前半部分のリハーサルをする。
第3回	実習のリハーサル（2）	実習の後半部分のリハーサルをする。
第4回	実習（1）	1つ目の校外実習
第5回	実習報告（1）	1つ目の校外実習の報告をする。 全体で共有し、次の実習へ備える。
第6回	キャリア教育プログラムの作成（1）	２つ目の実習先の高校の下調べをする。 実習先の生徒の特徴を踏まえたキャリア教育プログラムを作成する。全体の概要をイメージする。
第7回	キャリア教育プログラムの作成（2）	実習で関わった生徒の特徴を踏まえたキャリア教育プログラムをあらたに作成する。詳細をつめる。
第8回	キャリア教育プログラムの発表（1）	完成したプログラムの発表と講評をする（前半の班）。
第9回	キャリア教育プログラムの発表（2）	完成したプログラムの発表と講評をする（後半の班）。実習で用いるプログラムを決定する。
第10回	実習のリハーサル（1）	実習の前半部分のリハーサルをする。
第11回	実習のリハーサル（2）	実習の後半部分のリハーサルをする。
第12回	実習（2）	２つ目の校外実習
第13回	実習報告（2）	２つ目の校外実習の報告をする。 全体で共有する。
第14回	まとめと振り返り	授業を履修することで獲得した知識やスキルについて振り返り、言語化する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。キャリア教育プログラムの作成では、授業外の時間に自主的に集まって話し合うことが必要になる場合がある。

【テキスト（教科書）】
キャリアサポート事前指導で配布したテキストと用語集を用いる。

【参考書】
授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点50％、レポート50％にて評価。

【学生の意見等からの気づき】
引き続き、学生の意見を取り入れていく。

【その他の重要事項】
・実習日の決定は実習先との調整が必要になるため、授業計画が変更になることがある。この科目を履修するためには「キャリアサポート事前指導」の単位を履修していることが条件になる。
・半期で欠席は２回まで許容する。3回欠席したら単位を認めない。15分以内の遅刻は遅刻とし、遅刻３回で欠席１回とみなす。16分以上の遅刻は欠席とする。

【Outline (in English)】
This course is tailored to assist junior high and high school students in developing communication skills pertinent to career education. By the end of this course, students will be equipped to:
Understand and empathize with the needs, perspectives, and behaviors of others and engage effectively with them through facilitation techniques.
Designed and executed a workshop-style career education program for junior high and high school students.
Students are required to complete all assigned tasks following each class session. They should anticipate dedicating over four hours of study time per class. Assessment of student performance will be based on report submissions (50%) and active in-class contributions (50%).

BSP200MA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200）

キャリアサポート実習

廣川　進

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：月3/Mon.3　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中学生および高校生を対象にしたキャリア教育プログラムを作成し実施する経験を通して、他者との協働を通じた意思決定を促進する能力を身につけることを目的とする。

【到達目標】
・他者のニーズ、視点、行動を理解し、ファシリテーションを通じて他者と関わりを持つことができる。
・中学生および高校生を対象としたワークショップ形式のキャリア教育プログラムを考案し、実演ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
受講者同士でのグループワーク、授業内での発表、校外実習、リアクション ペーパー提出など。体験型の科目であるため、フィードバックおよび講評や解説は随時行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	この授業の流れを説明する。 1つ目の実習先の下調べをする。
第2回	実習のリハーサル（1）	実習の前半部分のリハーサルをする。
第3回	実習のリハーサル（2）	実習の後半部分のリハーサルをする。
第4回	実習（1）	1つ目の校外実習
第5回	実習報告（1）	1つ目の校外実習の報告をする。 全体で共有し、次の実習へ備える。
第6回	キャリア教育プログラムの作成（1）	２つ目の実習先の高校の下調べをする。 実習先の生徒の特徴を踏まえたキャリア教育プログラムを作成する。全体の概要をイメージする。
第7回	キャリア教育プログラムの作成（2）	実習で関わった生徒の特徴を踏まえたキャリア教育プログラムをあらたに作成する。詳細をつめる。
第8回	キャリア教育プログラムの発表（1）	完成したプログラムの発表と講評をする（前半の班）。
第9回	キャリア教育プログラムの発表（2）	完成したプログラムの発表と講評をする（後半の班）。実習で用いるプログラムを決定する。
第10回	実習のリハーサル（1）	実習の前半部分のリハーサルをする。
第11回	実習のリハーサル（2）	実習の後半部分のリハーサルをする。
第12回	実習（2）	２つ目の校外実習
第13回	実習報告（2）	２つ目の校外実習の報告をする。 全体で共有する。
第14回	まとめと振り返り	授業を履修することで獲得した知識やスキルについて振り返り、言語化する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。キャリア教育プログラムの作成では、授業外の時間に自主的に集まって話し合うことが必要になる場合がある。

【テキスト（教科書）】
キャリアサポート事前指導で配布したテキストと用語集を用いる。

【参考書】
授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点50％、レポート50％にて評価。

【学生の意見等からの気づき】
引き続き、学生の意見を取り入れていく。

【その他の重要事項】
・実習日の決定は実習先との調整が必要になるため、授業計画が変更になることがある。この科目を履修するためには「キャリアサポート事前指導」の単位を履修していることが条件になる。
・半期で欠席は２回まで許容する。3回欠席したら単位を認めない。15分以内の遅刻は遅刻とし、遅刻３回で欠席１回とみなす。16分以上の遅刻は欠席とする。

【Outline (in English)】
This course is tailored to assist junior high and high school students in developing communication skills pertinent to career education. By the end of this course, students will be equipped to:
Understand and empathize with the needs, perspectives, and behaviors of others and engage effectively with them through facilitation techniques.
Designed and executed a workshop-style career education program for junior high and high school students.
Students are required to complete all assigned tasks following each class session. They should anticipate dedicating over four hours of study time per class. Assessment of student performance will be based on report submissions (50%) and active in-class contributions (50%).

BSP200MA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200）

キャリア体験事前指導（インターン）

石山　恒貴

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：木2/Thu.2　｜　配当年次：2〜4年

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業の目的は、キャリア体験（インターンシップ）の事前に、現実社会の状況、働き方、生き方（ワークキャリア、ライフキャリア）に関する理解を深め、それを行動につなげることにあります。グループワークを重視し、他の学生との交流を通して、多様な視点、傾聴、質問、自己表現を培い、インターンシップを有効なものとすることを目指します。

【到達目標】
（事前準備）
①インターンシップの意義を理解し、その開拓の方法、開拓のための情報の活用を理解し、開拓をうまく実践できる
②現実社会の状況、働き方、生き方（ワークキャリア、ライフキャリア）を理解する
③グループワークを通じて、多様な視点、傾聴、質問、自己表現を培う
（インターンシップ中）
①インターンシップ先で円滑に受け入れられること
②ワークキャリア、ライフキャリアの実態を理解すること
③働く人々との対人関係能力（傾聴、質問、自己表現を使ったコミュニケーションができる）を醸成すること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
この授業は、夏休みのインターンシップ（5日以上）の準備を行うものであり、秋学期の「キャリア体験学習」を履修することで完結となる。インターンシップ先については自身で開拓いただくが、教員教員が紹介できる企業もあるため、その希望などは個別に相談しつつ進める。。
インターンシップの開拓自体が貴重な経験となるが、そのために教員のアドバイス、情報提供、インターン先で円滑に受け入れられるためのロールプレイなど積極的に行い、インターンシップ開拓を支援する。
またインターンシップ開拓にあたり、実践的に参考になるゲスト講義を行う。
また、インターンシップサイトの活用のためのゲスト講義も実施する。
さらにグループワークを重視した参加型授業であり、学生同士、教員からの実践的なフィードバックを行う。ゲスト講義など、スケジュールについては、一部変更の可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	ガイダンス: 授業の進め方、活用方法等について説明、自己紹介
第2回	現実の社会におけるワークキャリア、ライフキャリアの実態（講義）	現実の社会におけるワークキャリア、ライフキャリアの実態を理解する
第3回	ゲスト講師との対話（インターンシップの専門家）	ゲスト講師（インターンシップの専門家）から、インターンシップの目的、開拓について解説してもらい、それを理解する
第4回	グループワーク1（ディスカッション）	インターンシップの目的、開拓の手段、方針、ESの作成などについて
第5回	グループワーク1（プレゼンテーション）	インターンシップの自身の開拓方針について発表する
第6回	ゲスト講義によるインターンシップサイトの活用など、開拓の進め方	ゲスト講義によってインターンシップサイトの活用などの理解を深め、実践できるようにしていく
第7回	グループワーク2（ディスカッション）	インターンシップ開拓にあたり、企業研究・業界研究の進め方について話し合い、自身の方針を決める
第8回	グループワーク2（プレゼンテーション）	インターンシップ開拓にあたり、企業研究・業界研究の進め方について話し合い、自身の方針を発表するとともに、中間レポートの準備をする
第9回	グループワーク3（ディスカッション）	働く価値観について、自己分析を進めるために話し合う
第10回	グループワーク3（プレゼンテーション）	自己の働く価値観について、発表を行う
第11回	グループワーク4（ゲスト講義＋ディスカッション）	ゲストからの情報提供を受けて、インターン先で円滑に受け入れられるためにはどうしたらいいか話し合う。
第12回	グループワーク4（ディスカッション	インターン先で円滑に受け入れられるためにはどうしたらいいかについて、発表する
第13回	グループワーク4（プレゼンテーション）	インターン先で円滑に受け入れられるためにはどうしたらいいかについて、発表する
第14回	まとめ	これまでの授業における気づきを振り返り、これからインターンシップに臨むにあたり、各自が何を目的（持ち帰りたいものはなにか）について、共有しあう

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・各自、インターンシップ開拓の情報収集を進めるとともに、開拓に向けた行動を進める。
・プレゼンテーションの準備を授業外時間にも行う。
・本授業の事前学習・復習は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
　特定の教科書を使用せず、毎回の授業でレジュメを使用する。基本的には紙での配布せず、学習システムにアップする。

【参考書】
田中研之輔・遠藤野ゆり・梅崎修編著(2024)『キャリア・スタディーズ　これからの働き方と生き方の教科書』日本能率協会マネジメントセンター.
その他は、授業で指示する。

【成績評価の方法と基準】
①授業におけるグループワークでの取組みと発表（50%）
②インターンシップ開拓に関する取り組み（10%）
③中間レポートと最終レポートの評価（40%）

【学生の意見等からの気づき】
ゲストからの話が参考になったとの意見が多く、なるべく多様なゲストに参加してもらう。
インターンシップ開拓の不安が払しょくされたことの評価が多いため、よりその点を重視していく。

【その他の重要事項】
・参加型であるため楽しみながら、積極的、主体的に取り組んでいただきたい。

【キャリアデザイン学部より】
本科目を履修するには3月下旬の体験型選択必修科目ガイダンスに出席し、選抜に合格する必要があります。必ず掲示で詳細を確認してください。

【Outline (in English)】
*Course outline
The aim of this course is to deepen your understanding of the realities of the working world, how to work and how to live (work career, life career) before your career experience (internship), and to turn that understanding into action.
*Learning Objectives
The goals of this class are
(1) To understand the significance of internships and be able to prepare for and act towards developing them
(2) To understand the situation of the real world, how to work, and how to live (work career, life career)
(3) To cultivate diverse perspectives, listening, questioning, and self-expression through group work
*Learning activities outside the classroom
Preparing for presentations requires time outside of class hours. At least 4 hours of study time outside of class hours is required for each lesson.
*Grading Criteria
① Group work and presentations in class (50%)
② Efforts to find an internship placement (10%)
③ Evaluation of interim and final reports (40%)

BSP200MA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200）

キャリア体験事前指導（インターン）

田中　研之輔

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：木4/Thu.4　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、働き方をインタラクティブなグループワークと、学外でのインターンシップ経験（短期、中期、長期）を通じて実践的に学んでいくことを目的としています。就職活動の内定を狙いとしたものではなく、卒業後社会人として生きていく為の基礎力を身につけていきます。

【到達目標】
①　毎回のグループワークとプレゼンテーションにより、考える力、伝える力、まとめる力を養います。
②　企業分析、市場分析、自己分析、などの多角的な分析手法をみにつけ、社会洞察力と適応力を磨いていきます。
③　インターンシップを通じて、働き方の基礎を学ぶことができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
本講義はインターン実習が要件で秋学期の「キャリア体験学習」単位取得をもって選択必修科目である体験型科目の履修を終了する。
○A、Bコースの二種類がある。Aコースは大学が実習先を準備するもの、Bコースは教員の指導のもと自ら期間内に希望する実習先を開拓するものである。＊本講義はBコースで実施する。実習先が面接試験を必須としているところも多い。体験することに価値がある。
○実習先は多様である。実習期間も、開始・終了時期も異なる。通常6、7月に実習先にコンタクトし、原則実習は夏休みに行う。
授業の密度を高め効率化を図り授業成果を高めるために共同授業の形式も多用する。クラス分けは実習先により決定する。実習先の決定及び実習後の報告は個別に時間をとり面談を実施する。
（授業の概要）
○実習先は教員との面談により決定するが、実習先へのコンタクトや事務手続きは学生が主体となって行う。書類作成・授受事務などは単位取得の要件である。
○実習先を事前に調べ社会人マナーについても基礎的な知識を身につける。
○体験学習を履修した先輩からの話を聞く機会を設ける。
○また君たちが働くことになる日本社会について考える場も提供したいと考えている。
（手続き）
○在学生向け履修ガイダンス後速やかに事前申込書・志望理由書・自己PRなど（予定）の書類の提出が必要である。煩瑣となるが、就活の予行だと考えてほしい。
○なお、キャリア体験学習（プロジェクト）及びキャリア体験学習（国際）との並行履修はできない。
フィードバックは、リアクションペーパーや課題の全体総括と適宜、個別コメントを各講義の冒頭で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	大学から社会への移行の基礎理解	大学から社会への移行の基礎理解を深める
第2回	自己分析とインターンシップ先選定	自己理解ワークを実施するとともに、インターンシップ先を選定する。
第3回	前半メンバーの面談と実習先の仮決定、インターンシップ先と関連業界の調査、グルーワーク	①前半メンバーの希望先聴取と実習先仮決定 ②逐次、実習予定先と関連業界調査の開始 ③既述のグループワーク
第4回	後半メンバーの面談と実習先の仮決定、実習先と関連業界の調査、グルーワーク	①後半メンバーの希望先聴取と実習先仮決定 ②逐次、実習予定先と関連業界調査の開始 ③既述のグループワーク
第5回	グループワーク発表会①	自己理解での気づきを発表し、議論する。
第6回	グループワーク発表会②	業界研究での気づきを発表し、議論する。
第7回	異業種の業界分析①	異業種の業界研究を行う。
第8回	インターンシップ先外部講師招聘	体験学習を履修した先輩からの話を聞いて質疑応答
第9回	事前調査のグループ内発表・教員との前半メンバーの個別打合わせ　Ⅰ	①各自の事前調査のグループ内発表と情報の共有 ②実習先に関しての教員との前半メンバーの打合せ
第10回	事前調査のグループ内発表・教員との後半メンバーの個別打合わせ　Ⅱ	①各自の事前調査のグループ内発表と情報の共有 ②実習先に関しての教員との後半メンバーの打合せ
第11回	社会人基礎力を培う①	「社会で働くということ」（外部講師の予定）
第12回	社会人基礎力を培う②	心構え、マナー、電話のかけ方など
第13回	金融・銀行・証券関連の業界分析のグループワーク	金融・銀行・証券関連の業界分析のグループワークを行う
第14回	IT・通信関連の業界分析のグループワーク	IT・通信関連の業界分析のグループワークを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習先の情報収集や実習先へのコンタクト。実習先に関連して民間企業、NPO、公共団体などについて情報の収集と整理。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
田中研之輔　『先生は教えてくれない就活のトリセツ』（2017 ちくまプリマー新書）

【参考書】
必要資料は適宜、講義内で指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点80％、報告書（講義内発表＋実習に係わる書類作成能力など）20％　により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
本講義は働き方に特化したきわめて実践的な学びの場です。インターンに採用されない経験、インターン先での失敗、上手く行かずに悩む学生もいます。失敗は成長のエンジンです。他の受講者と失敗経験も共有しながら、そこでの打開策も練り上げていきますので、働き方を学びたい学生はぜひ、受講してください。

【キャリアデザイン学部より】
本科目を履修するには3月下旬の体験型選択必修科目ガイダンスに出席し、選抜に合格する必要があります。必ず掲示で詳細を確認してください。

【Outline (in English)】
This course of internship is a culminating learning experience for students studying in the fields of worksites. This experience allows students the opportunity to practice the application of theory and apply the knowledge acquired through academic preparation, while learning the skills of an entry level practitioner. Experience at an internship site offering career development not only draws on major and minor course offerings, but allows the integration of course work from all fields of study during the development of professional skills.
【Work to be done outside of class】
Each student will conduct internship of class to prepare for the presentation.
The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.
【Grading criteria】
Submission assignment (20%), normal score (80%).
The submitted assignments will be based on the achievement level of the assignments, based on the basic viewpoint of qualitative research and the degree of understanding of ideas.
The normal score is based on the degree of participation / contribution to the class and the attitude of attending the class.

BSP200MA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200）

キャリア体験事前指導（インターン）

野中　利明

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：金4/Fri.4　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
AIの急速な進化により、これまでの多くの仕事をAIに任せる時代をむかえます。では人間がやるべき仕事とは何なのか？
変化が激しく先行きの見通しの立ちにくいこれからの時代において、自分自身が何をよりどころにどのような人生・キャリアを歩んで行くべきかを通年で考える授業の春学期の講義です。
本講義では、授業でのインタラクティブな議論及びインターンシップの準備とインターンシップ経験を通じてその理解を深めます。

【到達目標】
①自らのキャリア・人生設計について考えることの意義を理解すること
②自ら実習先の調査・開拓を行い、実習での働く経験を通じて自分自身のキャリアに対する考えを深めること
③議論を進めながら思考を深めるプロセスを身に着けること
①Understand the importance of self-career and life design.
②Proactively find/create internship opportunities and deepen career perspectives through practical experience.
③Acquire the process of critical thinking through discussion.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
１．この授業は原則夏休みに行う体験実習の事前準備を行うためのものです。
秋学期の「キャリア体験学習」の単位取得をもって選択必修科目である体験型科目の履修を修了とします。
２．インターン先の検討に際しては、教員がアドバイスを行いつつ、学生が自ら実習先にコンタクトして実習先との調整・事務手続きを行います。
・実習先の選定についてはA,B2つのコースがあり、Aは大学が実習先を用意、Bは学生が実習先を開拓するものですが、本講義ではBコースのみの実施となります。
・実習先を自ら開拓すること自体が貴重な学びの機会になります。
３．希望者多数の場合には選抜を行います。
４．原則実習は夏休みに行いますが、受入れ先の都合によっては、夏休み以外に実施することもあります。
５．毎回、ディスカッションの場を設けて、インタラクティブな議論を通じて思考を深めていくことを学びます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の目的と概要説明、受講の心構え、自己紹介
第2回	グループワーク（ディスカッション）	自己分析とやりたい仕事のイメージ出し（自分は何を大切にしているのか、自分はどのような価値観を持っているのかを言語化し、自分自身を客観視する。そのうえでどのような仕事をしたいかを考える）
第3回	グループワーク（課題）	自分はどのような価値観を持ち、どのような仕事につきたいかをまとめ各グループでプレゼンを行う
第4回	インターン希望先のヒアリング（教員との個別面談）と業界研究Ⅰ（前半）	インターン希望業種・希望先について教員と個別面談　関連の業界の調査実施
第5回	インターン希望先のヒアリング（教員との個別面談）と業界研究Ⅱ（後半）	インターン希望業種・希望先について教員と個別面談
第6回	グループワーク（ディスカッション）	何のために仕事をするのか？ 就職か？ 起業か？ 大手企業か？ ベンチャー企業か？ など仕事のあり方について議論をする
第7回	グループワーク（課題）	自分は何の為に働くのか？ どのような働き方を望むのか？ についてまとめ、グループ内でプレゼンし、議論する
第8回	社会人とのディスカッションⅠ	大手企業で働く社会人とのディスカッションを通じて、働く意味・意義を考える
第9回	社会人とのディスカッションⅡ	ベンチャー企業で働く社員人とのディスカッションを通じて、働く意味・意義を考える
第10回	インターン先の業界研究と企業研究（資料取りまとめ）①	グループごとの調査する業界・企業対象を決めて調査を行う
第11回	インターン先の業界研究と企業研究（資料取りまとめ）②	グループごとの調査する業界・企業対象を決めて調査を行う
第12回	インターン先の業界研究と企業研究のプレゼン実施①	グループ単位でのプレゼン実施（前半）
第13回	インターン先の業界研究と企業研究のプレゼン実施②	グループ単位でのプレゼン実施（後半）
第14回	インターンに向けた所信表明	春学期の総括として、インターンに向けた所信表明を行う（全員実施）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習先の業界・企業情報の収集並びに実習先へのコンタクトを実施します。
実習先を自ら開拓すること自体が大きな学びの場になります。
教科書からだけでは学ぶことのできない、実体験に基づく深い学びを経験しながら、自分自身のキャリアプラン・ライフプランへの考察を深めてもらいます。
Students will gather information on industries and companies for their internships and initiate contact with potential hosts. The process of securing an internship independently serves as a significant learning opportunity. By gaining profound, experience-based insights that cannot be acquired from textbooks alone, students are expected to deepen their reflections on their own career and life plans.

【テキスト（教科書）】
特に指定しません

【参考書】
「プロティアン」　田中研之輔　日経BP社
「ライフシフト」　リンダ・グラットン　プレジデント社
「ワークシフト」　リンダ・グラットン　プレジデント社
「冒険の書」　孫泰蔵　日経BP社
「人生の経営戦略」　山口周　ダイヤモンド社

【成績評価の方法と基準】
①授業におけるグループワークなどへの取組み姿勢（60%）
②各種レポートの提出状況及び内容（40%）
① Class participation in group work and other activities (60%)
② Submission status and quality of various reports (40%)

【学生の意見等からの気づき】
全員参加型の授業を前提として、自ら考える、発言する、思考を深める場をできる限り多く設けます。

【学生が準備すべき機器他】
PCを毎回持参のこと

【Outline (in English)】
With the rapid evolution of AI, we are entering an era where many traditional jobs will be delegated to machines. What, then, is the work that humans should do?
This is the Spring Semester module of a year-long course designed to explore how to navigate your life and career in this unpredictable age of drastic change, and what personal foundations you should rely on. In this course, students will deepen their understanding through interactive classroom discussions, internship preparation, and hands-on internship experiences.

BSP200MA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200）

キャリア体験事前指導（プロジェクト）

山岡　義卓

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：金4/Fri.4　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目では、本科目および秋学期に開講される「PBL実践」の両方を通じて、約7か月にわたる企業等との共同プロジェクトを実施する。このうち、本科目では、プロジェクト実施のための事前学習と共同プロジェクトの一部を実施する。

【到達目標】
本授業の目標は次のとおり。
①協力企業等の事業活動やプロジェクトのテーマ等について情報収集する。
②グループワークの進め方を身につける。
③プロジェクトの目標を設定し、実施計画を作成する。
④プロジェクトをスタートさせ、軌道に乗せる。
なお、「PBL実践」も含めて以下の4点が得られることを到達目標とする。
①大学で学ぶ諸理論が実社会でどのように活かされているかを知る
②自己の職業適性や興味・関心への理解を深める
③職業人になることへの意識を醸成し、働くことの心構えを学ぶ
④社会人としての基本的なスキルやビジネスマナーを学ぶ

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
本科目および「PBL実践」を通じて、約7か月にわたる企業等との共同プロジェクトをグループワークにより実施する。プロジェクトを通して、販売促進、マーケティング、営業、商品開発などの活動を体験する。
本科目では主にプロジェクトの事前学習に重点を置き、プロジェクトの進め方や連携企業等に関する情報収集、目標設定や実施計画の作成等、プロジェクトを進めるために必要な知識や技術を習得する。そのうえで、プロジェクトをスタートさせ、軌道に乗せるところまで実施する。プロジェクトの実施にあたっては、必要に応じて企業訪問や実習等を行う。
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション、授業ガイダンス	授業計画の説明と受講にあたっての心構え、準備等について説明する。
第2回	プロジェクトの進め方	企業等とプロジェクトを進める際の基本的な方法等を説明する。
第3回	協力企業等概要およびテーマ説明	企業等の事業概要やテーマについて説明する。
第4回	演習①（課題抽出、整理）	実際の課題に取り組む際の事前学習として模擬演習を行う。
第5回	演習②（課題解決提案、発表）	前回の続きとして、課題解決提案の作成と発表を行う。
第6回	協力企業等との顔合わせ・テーマ設定	協力企業等と面談し、テーマ設定や実施計画の作成を行う。
第7回	チームの役割分担、目標設定	実施テーマに合わせてチーム内の役割分担を決め、チームとしての目標設定を行う。
第8回	協力企業および業界に関する事前調査	企業の事業概要や市場、商品等について調査を行う。
第9回	活動計画の作成①	企業担当者と情報交換のうえ実施テーマに合わせて全体の活動計画を作成する。
第10回	活動計画の作成②	全体の活動計画を踏まえて必要な作業を確認し、それぞれの実施計画を作成する。
第11回	テーマに関する調査①	テーマに関して、企業における現状（商品ラインナップや技術、販路等）を調査する。
第12回	テーマに関する調査②	テーマに関して、市場規模や競合の有無、ポジショニング等を調査する。
第13回	調査結果等の整理	調査結果を整理し、プロジェクト実施のための戦略を立案する。
第14回	中間発表会	春学期の活動内容および今後の展望等を発表し意見交換を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
活動にあたってインターネットの検索やワード、エクセルの操作が必要になる。テーマに応じて授業時間外に企業訪問等の学外活動を行う場合がある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて参考文献の指示や参考資料を配布する。

【参考書】
必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】
14回目の授業において中間発表を行う。成績は、授業内の課題およびプロジェクトへの取り組み姿勢（50点）、中間発表（50点）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
「目的を再確認し、相手の立場に立って考えながら取り組みを続けることが、長期的には信頼の形成や新たな機会の創出に繋がる」とのコメントより、情報共有ツールの活用等により、目標設定や進捗管理の重要性を意識づけられるよう働きかける。
「さまざまな特性を持つ人々が一つの目標に向かい、それぞれの得意分野を生かしながら噛み合わせていくことの重要性を学ぶことができた」とのコメントより、事前学習やプロジェクト運営においては成果を求めるだけでなく、その土台となるチームづくりにも留意する。
「発表して終わるのではなくフィードバックをもらうことで後の自分のためになると感じた」とのコメントより、相互フィードバックの時間を設ける等、振り返りの機会をこれまで以上に重視する。

【学生が準備すべき機器他】
課題等は学習支援システムを用いて提出する。必要に応じてノートパソコンを使用する。企業との打ち合わせ等は遠隔会議ツールを使用することもある。

【その他の重要事項】
「PBL実践」を履修する場合は、この科目を履修する必要があります。
企業等との共同プロジェクトの実施という性質上、授業時間以外にも随時活動を行う。また、秋学期も含めた活動であることから、テーマによっては夏期休業期間中も活動を実施する。
協力企業等の理解と協力を得て運営されるプログラムであり、履修する学生諸君には法政大学キャリアデザイン学部を代表する学生として、大きな責任が課せられることを正しく認識する必要がある。
担当教員は企業におけるビジネスと支援機関におけるコーディネータの実務経験を有している。調査やスケジュール管理、企画書の作成等のノウハウを含めて講義するとともに、実務経験を活かしてプロジェクト活動への助言を行う。
欠席3回以上は他の評価項目によらず単位を認めない。

【キャリアデザイン学部より】
本科目を履修するには3月下旬の体験型選択必修科目ガイダンスに出席し、選抜に合格する必要があります。必ず掲示で詳細を確認してください。

【Outline (in English)】
(Course outline)
In this course, preliminary learning to implement the project and part of the project will be executed.
(Learning Objectives)
The goals of this class are as follows:
- Collect information on business activities of cooperating companies and project themes.
- Learn how to proceed with group work.
- Set project goals and create an implementation plan.
- Start the project and get it on track.
(Learning activities outside of classroom)
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time is 2 hours each for preparation and review for a class.
(Grading Criteria /Policy)
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Implementation status of assignments in class and attitude toward projects : 50%
Presentation in the 14th class : 50%

BSP200MA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200）

キャリア体験学習（インターン）

石山　恒貴

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木2/Thu.2　｜　配当年次：2〜4年

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業の目的は、夏休みのインターンシップ経験を振り返り、事前に考えていた現実社会の状況、働き方、生き方（ワークキャリア、ライフキャリア）に関して得られた新たな知見を深め、今後のキャリアに活かすことにある。特に、インターンシップで積んだ原体験／現体験を振り返り、ストーリー化して、それをエッセイとして言語化し、今後のキャリアに活かすことを学んでいく。

【到達目標】
この授業の到達目標は以下のとおりである。
①インターンシップ経験を振り返り、学習したポイントをまとめる
②事前に考えていた現実社会の状況、働き方、生き方（ワークキャリア、ライフキャリア）に関する新たな気づきをまとめる
③インターンシップで積んだ原体験／現体験を振り返り、ストーリー化して、それをエッセイとして言語化する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
・この授業の受講にあたっては、春学期の「キャリア体験事前指導」を修了のうえ、夏休みにインターンシップ体験を実施していることが求められる。
・インターンシップの振り返りを深めるため、グループ内で相互にインターンシップの経験をインタビューしあう。そのインタビューでふまえて、インターンシップの原体験／現体験をストーリー化し、エッセイに転換していく。
・後半では、気づきを業界研究、職種研究、企業研究に結びつけるためのグループ討議と発表を行う。
・前半でまとめたエッセイを改善するアドバイスをグループ内で相互に行い、その後、エッセイを個人発表する。
・さらにグループワークを重視した参加型授業であり、学生同士、教員からの実践的なフィードバックを行う。ゲスト講義など、スケジュールについては、一部変更の可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	秋学期の授業の概要について説明するとともに、新たなグループ分けとグループ討議の方針について検討する
第2回	インターンシップ結果インタビュー1（グループ）	エッセイでストーリを書くための準備として、それぞれがインターンシップでどんな原体験／現体験をしたのか、それを振り返るための相互インタビューを行う
第3回	インターンシップ結果インタビュー2（グループ）	エッセイでストーリを書くための準備として、それぞれがインターンシップでどんな原体験／現体験をしたのか、それを振り返るための相互インタビューを行う
第4回	インターンシップ結果インタビュー3（発表）	インターンシップ結果インタビューを行ったうえでの、グループとしての気づきを発表する
第5回	インタビューのエッセイへの転換を考える1（グループ）	インターンシップを振り返るための相互インタビューを、具体的にエッセイのためにストーリ化して、ほかの人にわかりやすく伝えるためにはどうすればいいか検討する
第6回	インタビューのエッセイへの転換を考える2（発表）	前回の討議内容を、各グループが発表する
第7回	ゲスト講師との対話（インターンシップの専門家）	ゲスト講師（インターンシップの専門家）から、インターンシップの気づきのまとめ方を解説してもらい、それを理解する
第8回	インターンの気づきを業界・職種・企業研究に活かす1（グループ）	今までの授業を踏まえ、業界地図、就職四季報を活用して、どのような業界・職種・企業研究ができるか、アイデアを話し合う
第9回	インターンの気づきを業界・職種・企業研究に活かす2（発表）	前回の討議内容を、各グループが発表する
第10回	エッセイの発表とアドバイスセッション1（グループ）	各自が作成してきたエッセイを発表し、そのエッセイについて、相互にアドバイスしあう
第11回	エッセイの発表とアドバイスセッション2（発表）	前回の討議内容を、各グループが発表する
第12回	エッセイの全体発表1（個人発表）	各自が作成してきたエッセイを発表する
第13回	エッセイの全体発表2（個人発表）	各自が作成してきたエッセイを発表する
第14回	まとめ	春学期、インターンシップ、秋学期の授業を振り返り、その気づきを今後に活かす

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・各自、インターンシップ先とは、インターンシップ終了後も可能な範囲で連携し、情報収集する。
・プレゼンテーションの準備を授業外時間にも行う。
・本授業の事前学習・復習は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書を使用せず、毎回の授業でレジュメを使用する。基本的には紙での配布せず、学習システムにアップする。

【参考書】
田中研之輔・遠藤野ゆり・梅崎修編著(2024)『キャリア・スタディーズ　これからの働き方と生き方の教科書』日本能率協会マネジメントセンター.
その他は、授業で指示する。

【成績評価の方法と基準】
①インターンシップ体験の個人報告の評価（30%）
②授業におけるグループワークでの取組みと発表（30%）
③中間レポートと最終レポートの評価（40%）

【学生の意見等からの気づき】
インターンシップは振り返ってこそ学びになる、他の人の経験が学びになる、ゲストなど社会人のプレゼンが学びになる、こうした意見があり、これらをいかした授業を進める

【その他の重要事項】
・参加型であるため楽しみながら、積極的、主体的に取り組んでいただきたい。
・インターンシップ関連の書類（先方の確認印が必要なものを含む）などの提出をもってインターンシップの実施を確認するので、提出が必要になる。

【キャリアデザイン学部より】
本科目は「キャリア体験事前指導」を修得(S〜C-)した場合のみ履修可能です。

【Outline (in English)】
*Course outline
The aim of this course is to reflect on the internship experience over the summer holidays, deepen the new knowledge gained about the real world, work styles and ways of life (work career, life career) that you had thought about in advance, and apply this to your future career.
*Learning Objectives
The goals of this class are
①Reflect on your internship experience and summarize the key points you learned
② Summarize any new insights you gained about the real world, work styles, and ways of life (work career, life career) that you had considered in advance
③ Think about your future career, making use of your internship experience
*Learning activities outside the classroom
Preparing for presentations requires time outside of class hours. At least 4 hours of study time outside of class hours is required for each lesson.
*Grading Criteria
① Evaluation of individual presentations on internship experience (30%)
②Group work and presentations in class (30%)
③Evaluation of interim and final reports (40%)

BSP200MA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200）

キャリア体験学習（インターン）

田中　研之輔

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木4/Thu.4　｜　配当年次：2〜4年

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では働き方を実践的に学びながら、そこでの失敗経験を共有し、打開策を見つけ出していきます。本講義は大学内/外の相互補完的な学びに特徴があり、卒業後の生き方をデザインしていく力と方向性を学んでいきます。

【到達目標】
①働く場・働き方・働く人の多様性を認識する。
②実習を言語化する。
③働くとは何かを改めて考え、キャリアデザインする意識を明確化する。
④伝えるためのインタビューの仕方を学ぶ。
⑤キャリアデザインのドライバー（駆動力）を探索する。
⑥インターンシップの総括を行い、社会人としての基礎力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
①　実習体験をグループワークにより共有し働く現場の多様性を認識し②体験を教員に対する報告（面接形式）・グループワークでの発言・スピーチ（個人発表）・エッセイ執筆（編集により文集の作成）により言語化し③働くことを講義やグループワークで改めて考察する。グループワークのテーマとしては「エッセイで何を伝えたいか」、「キャリアドライバーを探す」などを予定。④インタビューの仕方をプロから学んだ上で⑤実際にインタビューを行いチームで映像作品などを制作し⑥発表する。
グループワークが中心のプログラムである。外部講師の講義も予定するが、あくまでも君たちでつくりあげる授業にしたい。リーダーシップやフォロワーシップを学び、また聴き方、アサーションやファシリテーションなどのスキルを試す良い機会を提供する。
フィードバックは、リアクションペーパーへの全体総括と適宜、個別コメントを各講義の冒頭で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	実習の進捗と振り返り	秋学期授業概要の説明と実習の振り返り。実習日誌などの書類作成・提出、グループワークの準備
第2回	○教員との個別面談（面接形式）Ⅰ ○グループワーク（実習先での体験共有）Ⅰ	○３分間スピーチ（教員に実習先の話をまとめる） ○グループワーク「エッセイで何を伝えたいか」を予定
第3回	○教員との個別面談（面接形式）Ⅱ ○グループワーク（実習先での体験共有）Ⅱ	同上 但し、エッセイのテーマを決める。
第4回	○教員との個別面談　Ⅲ ○グループ作品制作に向けて　Ⅰ	同上 ○グループワーク「キャリアドライバーを探す」を予定
第5回	実習発表会	エッセイを踏まえて実習報告（スピーチ）を行う。
第6回	グループ作品制作に向けて　Ⅱ	○グループワーク「キャリアドライバーを探す」を予定
第7回	講義「働くとは？」	現場で指導されている外部講師をお迎えする（予定）
第8回	キャリアモデルに学ぶ	現場でインタビューを行い映像を制作されているプロをお迎えする（予定）。
第9回	新規事業開発の体験①	新規事業の開発手順・注意点を学ぶ。
第10回	新規事業開発の体験②	新規事業開発のモデルをつくる
第11回	新規事業開発の体験③	新規事業開発案を相互に検討し、練り上げる
第12回	新規事業発表会①	企業関係者を招聘し、新規事業の発表会を実施する
第13回	新規事業発表会②	企業関係者を招聘し、新規事業の発表会を実施し、フィードバックから再検討していく
第14回	インターンシップ報告会	インターンシップでの学びを報告し、総括していく

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
①授業時間外にインタビューやインターンシップに時間をとられる可能性が高い。②この機会にキャリアデザインとは何かをじっくり考える時間をもってもらいたい。③働く場として関心ある業態・業界、企業・NPO・公共団体についての情報を種々のメディアによりフォローすることを薦める。④実習先とのコンタクトが継続される場合がある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
田中研之輔　「先生は教えてくれない就活のトリセツ』（ちくまプリマー新書）

【参考書】
授業内で適宜、伝える

【成績評価の方法と基準】
平常点80％、報告書（講義内発表＋実習に係わる書類作成能力など）20％　により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
春学期での実践的な学び、夏期休業期間中のインターンシップ経験を通じて、毎年、秋学期の本講座では飛躍的な成長をみせてくれます。少人数でインタラクティブに学べることの強みを最大限にいかしていきましょう。

【その他の重要事項】
○大変な時代になっている。まずは自分のことを考える。それから他人のことを考えよ。自分のことは自分で決める。生きる覚悟と社会で役に立つという高い志を持たないといけない。
○先が見えにくい時代だといわれている。
経済のグローバル化に加え、格差の拡大、地球環境の悪化など問題は数多い。
けれど、いつの時代も変わらないことがある。
それは、社会は人で成り立っているという事実だ。
キャリアデザイン学部では、人のエクスパートを育てている。
自分自身を磨き、人の活かし方を学び、人とともにある未来を考える。
人の専門家の視点から、さまざまなフィールドを見渡している。
ダイヤはダイヤでしか磨けないように、人は人でしか磨けない。
だから授業は座学にとどまらない。
フィールドワークや体験学習、インターンシップなど、学ぶ分野も幅広い。
物事を多角的に観る眼を鍛えるためだ。
人について深く学ぶことで、自分自身を客観視する力を身につける。
自分と向き合いながら「やれること」と「やれないこと」を見極める。
キャリアデザイン学部での学びは、生涯学習の第一歩であり、その積み重ねが、社会で通用する力となる（キャリアデザイン学部のパンフレットを引用）。

【キャリアデザイン学部より】
本科目は「キャリア体験事前指導」を習得（S～C-)した場合のみ履修可能です。

【Outline (in English)】
This course of internship is a culminating learning experience for students studying in the fields of worksites. This experience allows students the opportunity to practice the application of theory and apply the knowledge acquired through academic preparation, while learning the skills of an entry level practitioner. Experience at an internship site offering career development not only draws on major and minor course offerings, but allows the integration of course work from all fields of study during the development of professional skills.
【Work to be done outside of class】
Each student will conduct survey internship outside of class to prepare for the presentation.
The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.
【Grading criteria】
Submission assignment (20%), normal score (80%).
The submitted assignments will be based on the achievement level of the assignments, based on the basic viewpoint of qualitative research and the degree of understanding of ideas.
The normal score is based on the degree of participation / contribution to the class and the attitude of attending the class.

BSP200MA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200）

キャリア体験学習（インターン）

野中　利明

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：金4/Fri.4　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
AIの急速な進化により、これまでの多くの仕事をAIに任せる時代をむかえます。では人間がやるべき仕事とは何なのか？
変化が激しく先行きの見通しの立ちにくいこれからの時代において、自分自身が何をよりどころにどのような人生・キャリアを歩んで行くべきかを通年で考える授業の秋学期の講義です。
本講義はインターンシップの体験を振り返りながら、そこでの学びを整理すると共に、自分自身の価値観を言語化し、今後の人生、キャリアについて考える授業です。
本講義では議論の機会を多く設け、様々な価値観、考え方に触れながら、これからの自分のありたい姿を描出してもらいます。

【到達目標】
自ら主体的に考え、行動する思考様式、行動様式を身に着けていること
自分が大切にしたい価値観や仕事観が言語化できていること
自分自身が歩みたい人生・キャリアプランの輪郭が見えるようになること
Having acquired a proactive mindset and behavioral patterns to think and act independently.
Having a clear way to express the values and work ethics you hold dear.
Gaining a clearer outline of your desired life path and career plan.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
①実習経験を振り返り、グループワークを通じて、学びや気づきを言語化し、整理する。
②グループワークにて業界研究を行い、情報収集、プレゼン資料を作成し、各チームでプレゼンを行う。
③10年後の世の中の状況をイメージして、自分がどうなっていたいかを取りまとめる。グループワークにて相互に発表し、議論を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	実習の報告とオリエンテーション	・夏休みの実習の振り返り ・秋学期授業の概要説明
第2回	個別面談、　グループワーク（前半）	・教員に実習の状況を説明する（ショートスピーチ） ・グループで実習の状況を相互に共有する
第3回	個別面談、　グループワーク（後半）	・教員に実習の状況を説明する（ショートスピーチ） ・グループで実習の状況を相互に共有する
第4回	社会人とのデスカッション（大手企業勤務の若手会社員を想定）	・企業で働く社会人の話を聞いて、自分のキャリアを考える
第5回	社会人とのデスカッション（大手企業勤務の中堅・幹部社員を想定）	・企業で働く社会人の話を聞いて、自分のキャリアを考える
第6回	社会人とのデスカッション（起業家を想定）	・起業家の話を聞いて、自分のキャリアを考える
第7回	グループワークⅡ①（業界分析：業界の概要調査と仮説出し）	・業界を特定し、現状分析及び将来予測を行い、働き方を考える ・10年後の社会をイメージし、自分がその時にどうありたいかを考える ・業界の概要調査と仮説出し）
第8回	グループワークⅡ②（業界分析：業界の将来予測とディスカッション）	・業界を特定し、現状分析及び将来予測を行い、働き方を考える ・10年後の社会をイメージし、自分がその時にどうありたいかを考える ・業界の将来予測仮説の検証とディスカッション
第9回	グループワークⅡ③（業界分析：これまでの調査結果を踏まえて働き方についてプレゼン）	・業界を特定し、現状分析及び将来予測を行い、働き方を考える ・各チームのプレゼンとディスカッション
第10回	グループワークⅢ（10年後予測：10年後の世の中を考える資料収集と仮説出し）	・10年後の社会をイメージし、世の中の働き方がどうなっていて、自分がその時にどうありたいかを考える ・情報収集・資料作成
第11回	グループワークⅢ（10年後予測：10年後の世の中の仮説検証と議論）	・10年後の社会をイメージし、世の中の働き方がどうなっていて、自分がその時にどうありたいかを考える ・10年後の世の中の仮説検証と議論
第12回	グループワークⅢ発表①（10年後予測：10年後の予測とその時代に自分たちがどうありたいかについてプレゼン）	・10年後の社会をイメージし、世の中の働き方がどうなっていて、自分がその時にどうありたいかを考える ・各グループごとのプレゼン及びプレゼンへの質疑・ディスカッション
第13回	グループワークⅢ発表②	・10年後の社会をイメージし、世の中の働き方がどうなっていて、自分がその時にどうありたいかを考える ・各グループごとのプレゼン及びプレゼンへの質疑・ディスカッション
第14回	総括　1年間の振り返り	・1年間を振り返り、インターンと授業を通じて、何を感じ、何を学んだのかを整理し、これからの自分の人生をどうしていきたいかを発表する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
①授業時間外にインタビューや課題に時間を取られる可能性があります。
②自分自身のキャリア・生き方についてどうありたいかじっくり考えてもらいたいと思います。
③関心ある業界・企業の動向については、日頃からアンテナを立てて情報収集を心がけてください。
④実習先とのコンタクトが継続されることがあります。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。
① Please be aware that you may be required to spend time on interviews and assignments outside of class hours.
② I would like you to take the time to deeply consider your career path and how you want to live your life.

③ Please make an effort to stay informed and keep a close watch on the trends of the industries and companies you are interested in.
④Communication with your internship site may continue even after the training period.
Preparation and review for this course are expected to take approximately two hours each.

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
「プロティアン」　田中研之輔　日経BP社
「ライフシフト」　リンダ・グラットン　プレジデント社
「ワークシフト」　リンダ・グラットン　プレジデント社
「冒険の書」　孫泰蔵　日経BP社

【成績評価の方法と基準】
①授業におけるグループワークなどへの取組み姿勢（60%）
②各種レポートの提出状況及び内容（40%）
① Attitude toward class participation and group work (60%)
② Submission status and content of reports (40%)

【学生の意見等からの気づき】
全員参加型の授業を前提に学生一人一人が自ら考え、発言し、議論を通じて思考を深める機会を多く設けます。

【学生が準備すべき機器他】
毎回　PCを持参のこと

【その他の重要事項】
この授業では自ら主体性をもって考え、行動することが求められます。授業では毎回、ディスカッションの機会を設けます。
また実習に関しては、インターン先を自ら探して、自らコンタクトして経験をすることで、主体的に学び・考える姿勢が身につきます。

【Outline (in English)】
With the rapid evolution of AI, we are entering an era where many traditional jobs will be delegated to machines. What, then, is the work that humans should do?
This is the Fall Semester component of a year-long course designed to explore how to navigate your life and career in this unpredictable age of drastic change, and what personal foundations you should rely on.
In this course, students will reflect on their internship experiences to organize what they have learned. They will also work on articulating their personal values to better consider their future lives and careers. Through frequent discussions and exposure to diverse perspectives, students will define their ideal future selves.

BSP200MA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200）

キャリア体験学習（プロジェクト）

山岡　義卓

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：金4/Fri.4　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目では、春学期開講の「PBLチュートリアル」と本科目の両方を通じて、約7か月にわたる企業等との共同プロジェクトを実施する。このうち、本科目では、春学期にスタートしたプロジェクトを継続して実施し、最終的な成果に結び付け、プロジェクト全体の成果発表を行うところまで実施する。

【到達目標】
本科目の目標は次のとおり。
①春学期にスタートしたプロジェクトを目標に向けて継続する。
②期間内に成果に結び付けられるようにプロジェクトを終結させる。
③これまでの活動を取りまとめ発表する。
④プロジェクトを振り返り、学習内容を確認する。
なお、「PBLチュートリアル」も含めて以下の4点が得られることを到達目標とする。
①大学で学ぶ諸理論が実社会でどのように活かされているかを知る
②自己の職業適性や興味・関心への理解を深める
③職業人になることへの意識を醸成し、働くことの心構えを学ぶ
④社会人としての基本的なスキルやビジネスマナーを学ぶ

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
「PBLチュートリアル」および本科目を通じて、約7か月にわたる企業等との共同プロジェクトをグループワークにより実施する。プロジェクトを通して、販売促進、マーケティング、営業、商品開発などの活動を体験する。
本科目では主にプロジェクトの実施と、成果のとりまとめと発表、振り返りを実施する。春学期に作成した実施計画書に基づきメンバー全員が協力しプロジェクトの成果が得られるように活動する。プロジェクト終了後、成果を取りまとめ発表し、活動の振り返りを行う。プロジェクトの実施にあたっては、必要に応じて企業訪問や実習等を行う。
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	春学期の活動振り返り	春学期の活動内容を振り返り、進捗に応じて実施計画を見直す。
第2回	企画案の作成	テーマに沿って企画案を作成する。
第3回	追加調査	企画案の実現性を高めるために必要な情報を収集するために追加調査等を行う。
第4回	企画案のブラッシュアップ	追加調査の情報等を参照し企画案をブラッシュアップし、協力企業等に提案できるレベルの企画書として完成させる。
第5回	企画実施の準備	販売促進やイベント実施等、企画実施のための準備作業を行う。
第6回	企画の実施	販売促進やイベント実施等の企画を実施する。
第7回	実施結果の評価	実施結果をアンケート調査や販売実績等により評価する。
第8回	実施結果の振り返りと改善策の検討	実施結果と評価を踏まえて自分たちの実施した結果を振り返り、改善策を検討する。
第9回	プレゼンテーション講座	成果報告会に向けてプレゼンテーションのつくり方について説明する。
第10回	プレゼンテーション資料作成	成果報告会に向けてプレゼンテーション資料の作成等準備作業を行う。
第11回	成果報告会リハーサル	成果報告会のリハーサルを行う。
第12回	成果報告会	活動内容について成果報告会を行う。
第13回	プロジェクトの振り返り	春学期からの活動を含めてこれまでの振り返りと意見交換を行う。
第14回	成果報告書作成	成果報告会や振り返りも含めこれまでの学習成果を確認し、成果報告書を作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
活動にあたってインターネットの検索やワード、エクセルの操作が必要になる。テーマに応じて授業時間外に企業訪問等の学外活動を行う場合がある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて参考文献の指示や参考資料を配布する。

【参考書】
必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】
グループごとに成果報告書の作成および成果報告会におけるプレゼンテーションを行う。成績は、プロジェクトへの取り組み姿勢（50点）、成果報告書および成果発表（50点）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
「目的を再確認し、相手の立場に立って考えながら取り組みを続けることが、長期的には信頼の形成や新たな機会の創出に繋がる」とのコメントより、情報共有ツールの活用等により、目標設定や進捗管理の重要性を意識づけられるよう働きかける。
「さまざまな特性を持つ人々が一つの目標に向かい、それぞれの得意分野を生かしながら噛み合わせていくことの重要性を学ぶことができた」とのコメントより、事前学習やプロジェクト運営においては成果を求めるだけでなく、その土台となるチームづくりにも留意する。
「発表して終わるのではなくフィードバックをもらうことで後の自分のためになると感じた」とのコメントより、相互フィードバックの時間を設ける等、振り返りの機会をこれまで以上に重視する。

【学生が準備すべき機器他】
課題等は学習支援システムを用いて提出する。必要に応じてノートパソコン
を使用する。企業との打ち合わせにおいては遠隔会議ツールを使用することもある。

【その他の重要事項】
この科目を履修するには、「PBLチュートリアル」を履修していることが条件になります。
企業等との共同プロジェクトの実施という性質上、授業時間以外にも随時活動を行う。また、秋学期も含めた活動であることから、テーマによっては夏期休業期間中も活動を実施する。
協力企業等の理解と協力を得て運営されるプログラムであり、履修する学生諸君には法政大学キャリアデザイン学部を代表する学生として、大きな責任が課せられることを正しく認識する必要がある。
担当教員は企業におけるビジネスと支援機関におけるコーディネータの実務経験を有している。調査やスケジュール管理、企画書の作成等のノウハウを含めて講義するとともに、実務経験を活かしてプロジェクト活動への助言を行う。
欠席3回以上は他の評価項目によらず単位を認めない。

【キャリアデザイン学部より】
本科目は「PBLチュートリアル」を修得(S〜C-)した場合のみ履修可能です。

【Outline (in English)】
(Course outline)
In this course, we will conduct the project and present the results.
(Learning Objectives)
The goals of this class are as follows:
- Continue toward the goal of the project that started in the spring semester.
- End the project so that results can be obtained within the period.
- Summarize the activities and give a presentation.
- Look back on the project and confirm what you have learned.
(Learning activities outside of classroom)
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time is 2 hours each for preparation and review for a class.
(Grading Criteria /Policy)
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Attitude toward projects : 50%
Achievement report and final presentation : 50%

BSP200MA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200）

キャリア体験事前指導（国際）

松尾　知明、郭　艷娜

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：月2/Mon.2　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は、日本と関係が深い台湾を事例として、グローバルな視野からキャリアデザインから検討することを目的としている。春学期については、①台湾の歴史や社会、文化、人々について学ぶ、②中国語を学ぶ、③台湾につながる人々や大学生と交流する、④グローバルなキャリア（人生）のデザインについて考える。

【到達目標】
①台湾の歴史や社会、文化、人々についての基本的な知識をもつことができる。② 交流で必要な最低限の中国語を話すことができる。③台湾につながる人々や大学生と効果的にコミュニケーションをとることができる。④台湾を事例に、グローバルなキャリアデザインについての自分なりの考えをもつことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
①対面で授業を実施し、学習支援システムを活用する。②教科書や調べ学習を通して台湾やグルーバルなキャリアデザインについての基本的な知識を得る。③中国語の学習をする。④台湾の学生と交流をする。課題は授業で発表し合い、フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 中国語学習①	自己紹介、概要説明 中国語を学ぶ
第2回	台湾事情①台湾の地理 中国語学習②	台湾を旅行するとしたら 中国語を学ぶ
第3回	台湾事情②台湾の歴史 中国語学習③	台湾の歴史を知ろう 中国語を学ぶ
第4回	台湾事情③台湾の政治 中国語学習④	台湾の政治を知ろう 中国語を学ぶ
第5回	台湾事情④台湾の社会 中国語学習⑤	台湾の社会を知ろう 中国語を学ぶ
第6回	台湾事情⑤ 台湾の経済 中国語学習⑥	台湾の経済を知ろう 中国語を学ぶ
第7回	台湾事情⑥ 歴史や文化の探訪 中国語学習⑦	現地体験学習の準備 中国語を学ぶ
第8回	台湾事情⑦ 企業訪問 中国語学習⑧	現地体験学習の準備 中国語を学ぶ
第9回	台湾事情⑧ インターンシップ　中国語学習⑨	現地体験学習の準備 中国語を学ぶ
第10回	台湾事情⑨ 台湾の大学生	元智大学学生との交流
第11回	現地体験学習に向けて しおり作成①計画 中国語学習⑩	しおりの計画をする 中国語を学ぶ
第12回	現地体験学習に向けて しおり作成②編集 中国語学習⑪	しおりの編集をする 中国語を学ぶ
第13回	現地体験学習に向けて しおり作成③完成 中国語学習⑫	しおりを完成させる 中国語を学ぶ
第14回	前期のまとめ 中国語学習⑬	現地体験学習への準備 中国語を学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・テキストの精読　・必要な資料収集　・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
赤松 美和子、若松 大祐編著『台湾を知るための72章（第二版）』明石書店

【参考書】
野島　剛　『台湾とは何か』(ちくま新書)

【成績評価の方法と基準】
主体的な参加の姿勢（30％）、課題の遂行（70％）などをもとに総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
日本と台湾との比較をもとに、自分自身について内省的に考えさせる。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン

【その他の重要事項】
・対象者は、2〜4年生。
・この授業の受講希望者は、3月末のガイダンスに参加し、学部窓口に参加希望を申請するものとする。
・受講にあたっては、キャリア体験学習（国際）の参加条件や現地実習の中止時の対応について十分理解した上で申し込むこと。
・参加者は、定員を超えた場合、面接を実施して決定する。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This class aims to explore career designs in a global society by getting to know Taiwan. The major themes of the Taiwan experience study in the Spring semester are 1) understanding its history, society, culture and people, 2) learning Chinese language, 3) meeting and interacting with Taiwanese people and college students, and 4) considering meaning of career design in a global and multicultural society.
【Learning Objectives】
Students are able to 1) acquire basic knowledge of its history, society, culture and people, 2) use simple Chinese language as a communication tool, 3)interact effectively with Taiwanese people and college students, and 4) have their own idea on career design in a global and multicultural society.
【Learning activities outside of classroom】
Students will be expected to read the text and materials, conduct research and study and prepare presentations. Your study time will be more than four hours for a class.
【Grading Criteria/Policy】
Grading will be decided based on in class contribution (30%) and assignments and presentations (70%).

BSP200MA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200）

キャリア体験学習（国際）

松尾　知明、郭　艷娜

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：月2/Mon.2　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は、日本と関係が深い台湾を事例として、グローバルな視野からキャリアデザインについて検討することを目的としている。秋学期については、①台湾の歴史や社会、文化、人々について学ぶ、②中国語を学ぶ、③台湾につながる人々や大学生と交流する、④現地体験学習を振り返り、報告書と動画を作成する、⑤グローバルなキャリア（人生）のデザインについて考える。

【到達目標】
①台湾の歴史や社会、文化、人々についての基本的な知識をもつことができる。② 交流で必要な最低限の中国語を話すことができる。③台湾につながる人々や大学生と効果的にコミュニケーションをとることができる。④キャリア体験学習（国際・台湾）」プログラムの報告書と動画を効果的に作成することができる。⑤台湾を事例に、グルーバルなキャリアデザインについての自分なりの考えをもつことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
①対面で授業を実施し、学習支援システムを活用する。②教科書やインターネットでの調べ学習を通して台湾や国際的なキャリアデザインについての基本的な知識を得る。③中国語の学習をする。④台湾につながる人々や大学生と交流する。⑤春学期と秋学期で学習した成果物をもとに報告書・動画づくりを行う。課題は授業で発表し合い、フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション ポスター・報告書づくりの計画①はじめに	秋学期の授業の見通し ポスター・報告書制作に向けて
第2回	現地体験学習の振り返り：印象に残っていること 報告書づくりの計画②提案の検討	発表と討論 ポスター・報告書制作の計画、役割分担
第3回	国慶節行事への参加	台湾の文化を知る
第4回	現地体験学習の振り返り：学んだこと 報告書づくりの計画③構成やレイアウト	発表と討論 構成、レイアウト等の決定
第5回	現地体験学習の振り返り：見方や考え方が変化したこと 報告書づくりの計画④工程表	発表と討論 工程表の検討
第6回	現地体験学習の振り返り： 報告書づくり①執筆・依頼	発表と討論 原稿の執筆・依頼
第7回	報告書づくり②執筆・整理	原稿の執筆・整理
第8回	テーマ研究 報告書づくり③編集作業	現地体験学習からの問い 編集作業　原稿のチェック
第9回	報告書づくり④校正	編集作業　印刷しての校正
第10回	報告書づくり⑤最終チェック	報告書の完成
第11回	報告書の合評会	報告書の振り返り
第12回	動画の作成	動画作成の計画
第13回	動画の作成・編集	動画の撮影・編集
第14回	プログラム全体の振り返り	春学期、現地体験学習、秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
資料の整理と読み込み。参考文献の読み込み。 ポスター・報告書の原稿執筆、編集作業。 ポスター発表会への参加。動画の作成。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
赤松 美和子、若松 大祐編著『台湾を知るための72章（第二版）』明石書店

【参考書】
野嶋　剛『台湾とは何か』ちくま新書

【成績評価の方法と基準】
主体的な参加の姿勢（30％）、課題、報告書・動画づくり（70％）などをもとに総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
報告書と動画づくりの計画を立て、協力して作成できるように支援する。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン

【その他の重要事項】
春学期に引き続き、授業は、松尾知明と郭艷娜が分担して担当する。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This class aims to explore career designs in a global society by getting to know Taiwan. The major themes of the Taiwan experience study in the Fall semester are 1) understanding its history, society, culture and people, 2) learning Chinese language , 3) meeting and interacting with Taiwanese people and college students, 4) making a report and a video, 5) considering meaning of career design in a global and multicultural society.
【Learning Objectives】
Students are able to 1) acquire basic knowledge of its history, society, culture and people, 2) interact effectively with Taiwanese people and college students, 3) design and create a report and a video as a team, and 4) have their own idea on career design in a global and multicultural society.
【Learning activities outside of classroom】
Students will be expected to read the text and materials, conduct research and study, reflect on their learning and prepare presentations. They also will be expected to plan, create, edit a report and a video, and prepare for the presentation. Your study time will be more than four hours for a class.
【Grading Criteria/Policy】
Grading will be decided based on in class contribution (30%) and assignments and presentations (70%).

BSP200MA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200）

メディアリテラシー実習Ⅰ

坂本　旬

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：水4/Wed.4　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
メディアリテラシーの基本概念と映像言語の基本を学ぶ。受講生はメディアリテラシーの基本原理を理解し、それを用いて短い映像作品を制作することによって、メディアリテラシーの基礎を実践的に身につける。

【到達目標】
・受講生はメディアリテラシーの概念を理解し、メディアリテラシーの概念を説明できる。
・メディアリテラシーにおける映像言語の基礎知識を理解する。
・基本的な映像制作能力を身につけ、メディアリテラシーの概念を意識した短い映像を制作することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
メディアリテラシーの歴史を学び、基礎概念を学びながら映像制作の基本的な技法を習得する。前半はテレビ番組や映画などの映像を用いて、映像言語とメディアリテラシーの基本的知識を習得する。後半はデジタル・ストーリーテリングや公共広告などの短い映像制作実習を行う。
・授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
・良いリアクションペーパーは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。
・課題等の提出・フィードバックは授業支援システムを通じて行う予定。
・オフィス・アワーで、課題（試験やレポート等）に対して講評する。
・最終授業で、13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。
この授業は、基本は対面とし、必要に応じて、オンラインで実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要および必要機器の説明（Zoomによるオンライン授業）
第2回	メディアリテラシーの基本	メディアリテラシーの基礎概念を学ぶ
第3回	メディアリテラシーの原理	メディアリテラシーの基本原理を学ぶ
第4回	メディアリテラシーの歴史	メディアリテラシーの歴史を学ぶ
第5回	メディアの読み解きを学ぶ	メディアのジャンルと分析の方法を学ぶ
第6回	デジタル・ストーリーテリングの基礎	デジタル・ストーリーテリングの理論と技法を学ぶ
第7回	デジタル・ストーリーテリングの作り方	デジタル・ストーリーテリングの制作方法を学ぶ
第8回	デジタル・ストーリーテリング作品の発表	課題のデジタル・ストーリーテリング作品の発表を行う
第9回	現代社会のメディア	広告やPV、ニュースなど身の回りにあるさまざまなメディア・メッセージを学ぶ
第10回	広告メディアとメディアメッセージ	広告映像の中にあるメディア・メッセージの読み解き方を学ぶ
第11回	広告メディアと表現技法	広告映像の表現技法を学ぶ
第12回	公共広告の制作方法	公共広告の作り方を学ぶ
第13回	映像編集の方法	映像編集の基本的な方法を学ぶ
第14回	公共広告の構想	公共広告の絵コンテの発表会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間外では、授業期間中提示された課題の制作を行う。なお、本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
坂本旬『メディアリテラシーを学ぶ』大月書店、2022年

【参考書】
坂本旬『メディア情報教育学』法政出版局、2014年
坂本・山脇編著『メディアリテラシー　吟味思考を育む』時事通信社、2021年
寺崎里水・坂本旬『地域と世界をつなぐSDGsの教育学』法政大学出版局、2021年

【成績評価の方法と基準】
小テスト30％、提出物50％、平常点20％
授業評価基準（ルーブリック）
・基本
積極的に授業に参加し、発言する
静止画・動画による映像作品を制作する
締め切りに間に合うように作品を提出する
振り返りレポートを書いて提出する
・発展
メディアリテラシーの5つのキークエスチョンを理解している
映像の表現技法を説明することができる
絵コンテを作ることができる
映像編集の方法を理解し、パソコンで編集ができる
・応用
映像の企画・取材・制作が一人でできる
他者に適切なアドバイスや支援ができる
授業以外のさまざまな社会活動に学んだことを活用できる

【学生の意見等からの気づき】
メディアリテラシーの基本を理解することが良い作品制作につながることが理解できた。

【学生が準備すべき機器他】
映像編集可能なWindowsまたはMacノートブックPCを用意すること。
編集ソフトとして無料版ダビンチ・リゾルブ(DavinciResolve)を推奨する。
https://www.blackmagicdesign.com/jp/products/davinciresolve/
カメラとして使用できるスマートフォンやデジタルカメラを用意すること。

【その他の重要事項】
本授業では動画の提出に法政大学のBOXを使用する。使用方法は以下のリンクを参照すること。
https://netsys.hosei.ac.jp/protected/manual/distance/manual-box.html

【他の授業との関連】
「メディアリテラシー実習Ⅰ」は映像制作の基本を学び、「メディアリテラシー実習Ⅱ」はドキュメンタリー映像制作を行う。ⅠとⅡは連続して履修すること。また、3年次以上では「キャリアデザイン学総合演習」を履修することが望ましい。

【キャリアデザイン学部より】
本科目を履修するには3月下旬の体験型選択必修科目ガイダンスに出席し、選抜に合格する必要があります。必ず掲示で詳細を確認してください。

【Outline (in English)】
To study the core concepts of media literacy
To explore how the media construct their messages
To learn how to make a Public Service Announcement
The goal of the course is for students to understand the concept of media literacy and the language of video, to acquire video production skills, and to be able to produce short videos. Students will produce videos outside of class time. Evaluation will be based on 30% quizzes, 50% submissions, and 20% study attitude.
Students need to work outside of the classroom to create their work. The amount of time varies depending on the student,but Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

BSP200MA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200）

メディアリテラシー実習 II

坂本　旬

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水4/Wed.4　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
受講生は、メディアリテラシーの基礎概念に関する学習を土台に、ドキュメンタリーの技法と分析手法を学び、ショート・ドキュメンタリーを制作する。

【到達目標】
・メディアリテラシーの観点からドキュメンタリーの歴史と理論を学ぶ
・メディアリテラシーの概念を用いてドキュメンタリーを分析する
・取材による実践的なドキュメンタリー映像の制作および評価を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
本授業は、「メディアリテラシー実習Ⅰ」の学習を土台に、短いドキュメンタリー映像制作を行い、基本的な映像制作の方法を学ぶ。なお、本授業は春学期に「メディアリテラシー実習Ⅰ」を履修し、メディアリテラシーの基本概念を学習した学生のみが履修できる。「メディアリテラシー実習Ⅱ」のみの受講は認めないので、注意すること。
・授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
・良いリアクションペーパーは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。
・課題等の提出・フィードバックは授業支援システムを通じて行う予定。
・オフィス・アワーで、課題（試験やレポート等）に対して講評する。
・最終授業で、13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。
この授業は、基本は対面とし、必要に応じてオンラインとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・公共広告作品上映会	メディアリテラシー実習Ⅰの受講生が作った公共広告映像作品の上映を行う
第2回	メディアリテラシーとドキュメンタリーの基礎	ドキュメンタリー映像の基礎理論を学ぶ
第3回	メディアリテラシーとドキュメンタリーの歴史	ドキュメンタリー映像の歴史を学ぶ
第4回	メディアリテラシーとドキュメンタリーの構造	ドキュメンタリーのシーンやカットの構造を学ぶ
第5回	カメラ・マイクの使い方	施設の使い方とカメラとマイクの基本的な使い方を学ぶ。
第6回	ビデオ撮影実践法	ビデオ撮影の実際のノウハウを実践的に学ぶ。
第7回	構成・絵コンテの作成	実際に企画書や絵コンテを制作し、映像の構成を組み立てる。
第8回	企画の発表	受講生ひとりずつによる企画の発表。
第9回	編集の仕方(1)キャプチャーの仕方	パソコンに撮影した動画を取り込む方法を学ぶ。
第10回	編集の仕方(2)編集の基本	動画編集の基本を学ぶ。
第11回	編集の仕方(3)音響とテロップ	動画に音声・音楽やテロップを入れる方法を学ぶ。
第12回	編集の仕方(4)仕上げ	編集の仕上げの方法を学ぶ。
第13回	編集作業の点検	それぞれの編集作業の点検を行う。
第14回	発表会	制作映像の発表会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ロケハンや取材、撮影、編集はすべて各人が課外時間に行う。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
坂本旬『メディアリテラシーを学ぶ』大月書店、2022年

【参考書】
坂本旬『メディア情報教育学』法政出版局、2014年
坂本・山脇編著『メディアリテラシー　吟味思考を育む』時事通信社、2021年
寺崎里水・坂本旬『地域と世界をつなぐSDGsの教育学』法政大学出版局、2021年

【成績評価の方法と基準】
小テスト30％、提出物50％、平常点20％
授業評価基準（ルーブリック）
・基本
積極的に授業に参加し、発言する
静止画・動画による映像作品を制作する
締め切りに間に合うように作品を提出する
振り返りレポートを書いて提出する
・発展
メディア・リテラシーの5つのキークエスチョンを理解している
映像の表現技法を説明することができる
絵コンテを作ることができる
映像編集の方法を理解し、パソコンで編集ができる
・応用
映像の企画・取材・制作が一人でできる
他者に適切なアドバイスや支援ができる
授業以外のさまざまな社会活動に学んだことを活用できる

【学生の意見等からの気づき】
セルフドキュメンタリーが多くなっているが、ドキュメンタリーの最初の一歩として肯定的に捉えている。

【学生が準備すべき機器他】
映像編集可能なWindowsまたはMacノートブックPCを用意すること。
編集ソフトとして無料版ダビンチ・リゾルブ(DavinciResolve)を推奨する。
https://www.blackmagicdesign.com/jp/products/davinciresolve/
カメラとして使用できるスマートフォンやデジタルカメラを用意すること。
本授業では動画の提出に法政大学のBOXを使用する。使用方法は以下のリンクを参照すること。
https://netsys.hosei.ac.jp/protected/manual/distance/manual-box.html

【その他の重要事項】
「メディアリテラシー実習Ⅰ」で身につけたスキルをもとに、ひとり一つの作品の制作を行う。共同制作は認めないので注意。実践的な学習のため、無断欠席は禁止する。授業時間外の学習活動が多いため、アルバイトやサークル活動が忙しい学生は注意すること。また、春学期の「メディアリテラシー実習Ⅰ」を履修していない学生は原則として履修できない。

【キャリアデザイン学部より】
本科目を履修するには3月下旬の体験型選択必修科目ガイダンスに出席し、抽選に合格する必要があります。必ず掲示で詳細を確認してください。

【履修条件】
本科目は「メディアリテラシー実習Ⅰ」を習得（S〜C-）した場合のみ履修可能です。

【Outline (in English)】
To explore how the core concepts of media literacy are adapted to the documentary
To study how to make and evaluate the documentary
The goal of the course is for students to understand the history and concepts of documentary video and to be able to produce short documentary videos. Students will produce videos outside of class time. Evaluation will be based on 30% quizzes, 50% submissions, and 20% study attitude.
Students need to work outside of the classroom to create their work. The amount of time varies depending on the student, but Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

BSP200MA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200）

地域学習支援 I

遠藤　野ゆり

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：水4/Wed.4　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、秋学期に実施される「フィールドワーク（ESD）」とセットで履修する必要があります。
本授業では、ESD（持続可能な教育）に関するフィールドワーク（授業時間外）を実施し、その効果検証を行います。春学期期間中の授業では、コミュニケーションスキルの習得やフィールドワークの基礎的手法を学習し、また映像制作の基礎を学びます。これらを通して、実習先において子どもたちの学びを支援するのに必要な姿勢と技術とを習得します。

【到達目標】
ESDを教育現場にて実施するための準備過程において、エスノメソドロジーの基本的な考え方を学びます（知識）。他者と協働する際に必要な基礎的コミュニケーション能力を習得します（技能）。企画を作成するにあたって、ねらいを定めそれを実現化していく思考方法やアイデアを形にし実施する企画力を習得します（思考力・判断力・表現力）。他者の学びを支援する際に求められる姿勢を体得し、主体的にプログラムを担う姿勢を培います（主体的に学ぶ態度）。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
授業は原則として、実習の準備に向けた演習方式でおこないます。
授業は、事前課題、授業内のグループワークとディスカッション、事後課題のスタイルで実施されます。事後課題は授業支援システムで実施し、次回授業にてフィードバックをおこないます。
また、フィールドワーク基礎実習パート、映像編集パートにおいて、授業時間外に制作をおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション・授業のルールづくり	参加者で授業の概要を確認し、授業に参加する目的を共有したうえで、本授業におけるルール作りを受講生自ら行います。
第2回	コミュニケーションスキル①傾聴	コミュニケーションスキルの基礎として、傾聴の技術を学びます。
第3回	コミュニケーションスキル②ブレインストーミングとKJ法	コミュニケーションスキルの基礎として、ブレインストーミングとKJ法を実践的に学びます。
第4回	コミュニケーションスキル③アサーティブな伝達	コミュニケーションスキルの基礎として、アサーションの考え方を学び、自身の主張方法の癖を修正する実践を行います。
第5回	コミュニケーションスキル④ディスカッションスキル	コミュニケーションスキルの基礎として、ディスカッションをする際の時間配分や目的からずれない話し合い方などの技術を学びます。
第6回	フィールドワーク基礎実習①エスノメソドロジーとは何か	フィールドワークのベースとなるエスノメソドロジーの考え方を学ぶために文献講読をおこないます。
第7回	フィールドワーク基礎実習②フィールドノーツのつけい方	フィールドノーツを実際につけ、そのスキルを習得します。
第8回	フィールドワーク基礎実習③ノーツの考察と分析	フィールドノーツを分析する方法を学びます。
第9回	フィールドワーク基礎実習④アクションリサーチの仕方とノーツの改善	フィールドノーツの分析結果をもとにフィールドに還元する方法や姿勢を学び、ノーツの改善方法を学びます。
第10回	映像編集①ねらいの設定	映像編集を行うプロセスを学び作成する映像のねらいを設定します。
第11回	映像編集②素材集めと絵コンテ作成	映像制作のために必要な素材を撮影します。また絵コンテの作成方法を習得します。
第12回	映像編集③編集	実際に映像編集を行い、実習にて映像編集の方法を参加者に伝える方法を学びます。
第13回	映像編集④作品発表とフィードバック	作成した映像作品を共有し映像の専門的観点からフィードバックを受けます。
第14回	春学期のまとめと夏休みの課題	春学期に学んだことと残った課題を確認するための面談を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業後に、学習支援システムにて事後課題が課されます。
フィールドワーク先の開拓、関係づくり、フィールドノーツを、授業時間外に実施します。
事前の文献講読、映像作品の編集作業を行います。
本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
毎回の授業後課題28％、フィールドノーツとその考察レポート21％、映像編集作品21％、毎回の授業へのコミットメント30％。

【学生の意見等からの気づき】
2026年度に初めて開講する科目です。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン（スマホやタブレットなどでも可ですが、学習支援システム等に随時アクセスし入力できる状態にしてください）

【その他の重要事項】
本授業は原則として欠席を認めません。欠席回数については、学部の実践系科目群のルールにのっとります（欠席3回以上で単位習得不可。15分以上の遅刻は欠席に換算）。
やむを得ない事情で授業を休む場合は事前に連絡をしてください。
教員連絡先:noyuriendo@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】
Course outline: Students must take this class in conjunction with the "Fieldwork (ESD)" class held in the fall semester.
Students will conduct fieldwork related to ESD (Education for Sustainable Development) and evaluate its effectiveness. In this class, students acquire communication skills, learn basic fieldwork techniques, and learn the basics of video production. Through these, they acquire the attitudes and techniques necessary to support children's learning during their internship.

Learning Objectives: In the process of preparing to implement ESD in the classroom, students learn the basic concepts of ethnomethodology (knowledge). They acquire the basic communication skills necessary for collaborating with others (skills). When creating a plan, they acquire the thinking skills to set goals and realize them, as well as the planning ability to shape and implement ideas (thinking ability, judgment, and expression). They master the attitude required when supporting the learning of others and cultivate the ability to take ownership of the program (attitude of independent learning).
Grading Criteria /Policy: The evaluation of this class is based on 28% post-class assignments, 21% field notes and discussion reports, 21% video edited works, and 30% commitment to each class.

BSP200MA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200）

地域学習支援 II

遠藤　野ゆり

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水4/Wed.4　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、春学期に実施される「フィールドワーク事前指導（ESD）」とセットで履修する必要があります。
本授業では、ESD（持続可能な教育）に関するフィールドワーク（授業時間外）を実施し、その効果検証を行います。秋学期期間中の授業では、春学期に修得したコミュニケーションスキル、映像編集のスキルを活かし、小学生の学習を支援します。またそのフィールワークを通して得たデータを分析し、研究としてまとめ、発表します。

【到達目標】
ESDを教育現場にて実施した経験を生かして、エスノメソドロジーの基本的な考え方を再検証します（知識）。他者と協働する際に必要な基礎的コミュニケーション能力を実践的に改善していきます（技能）。企画を作成するにあたって、ねらいを定めそれを実現化していく思考方法やアイデアを形にし実施する企画力を習得します（思考力・判断力・表現力）。他者の学びを支援する際に求められる姿勢を体得し、主体的にプログラムを担う姿勢を培います（主体的に学ぶ態度）。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
授業は原則として、実習の準備と実施、そして研究成果発表をおこないます。授業は、事前課題、授業内のグループワークとディスカッション、事後課題のスタイルで実施されます。事後課題は授業支援システムで実施し、次回授業にてフィードバックをおこないます。また、授業時間外に小学校にて実習をおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	春学期のふりかえりと秋学期の課題設定	参加者で秋学期授業の概要を確認し、授業に参加する目的を共有したうえで、本授業の課題設定を受講生自ら行います。
第2回	実習Ⅰのプログラムづくり①	実習Ⅰのプログラムづくりとして実習先について学びます。実習Ⅰの目的とゴールを設定します。
第3回	実習Ⅰのプログラムづくり②	実習Ⅰの具体的なプログラムを作成します。
第4回	実習Ⅰのプログラムづくり③	実習Ⅰのプログラムのリハーサルを実施します。
第5回	実習Ⅰのふりかえりとフィールドノーツの検証	実習Ⅰをふりかえりフィールドノーツを読み合います。実習Ⅱに向けて課題を確認します。
第6回	実習Ⅱのプログラムづくり①	実習Ⅱのプログラムづくりとして目的とゴールを設定します。
第7回	実習Ⅱのプログラムづくり②	実習Ⅱのプログラムを具体的に作成します。
第8回	実習Ⅱのプログラムづくり③	実習Ⅱのプログラムを実践してみて課題を検証します。
第9回	実習Ⅱのプログラムづくり④	改善された実習Ⅱのプログラムのリハーサルを実施します。
第10回	研究成果発表の準備①	実習を終えてフィールドノーツを整理し研究テーマを設定します。
第11回	研究成果発表の準備②	研究成果の発表に向けて発表資料（パワーポイント）を作成します。
第12回	研究成果発表の準備③	研究成果の発表に向けて発表資料（動画）を作成します。
第13回	研究成果発表	研究成果を相互に発表し合いフィードバックをおこないます。
第14回	一年間のまとめと今後の課題	一年間で学んだことを確認し、残った今後の課題に学生生活で取り組むだめの面談を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業後に、学習支援システムにて事後課題が課されます。
実習を授業時間外に実施します。
実習後にフィールドノーツをつけ、研究成果発表の準備をおこないます。
本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
毎回の授業後課題28％、実習でのコミットメント21％、研究成果のパワーポイント資料と動画21％、毎回の授業へのコミットメント30％。なお、実習に参加しなかった場合は、単位の取得は認められません。

【学生の意見等からの気づき】
2026年度に初めて開講する科目です。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン（スマホやタブレットなどでも可ですが、学習支援システム等に随時アクセスし入力できる状態にしてください）

【その他の重要事項】
本授業は原則として欠席を認めません。欠席回数については、学部の実践系科目群のルールにのっとります（欠席3回以上で単位習得不可。15分以上の遅刻は欠席に換算）。
やむを得ない事情で授業を休む場合は事前に連絡をしてください。
教員連絡先:noyuriendo@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】
Course outline: Students must be take this class in conjunction with the "Fieldwork Preparatory Training (ESD)" course held in the spring semester.
In this class, students will conduct fieldwork (outside of class hours) related to ESD (Education for Sustainability) and evaluate its effectiveness. During the fall semester, students will use the communication and video editing skills they acquired in the spring semester to support elementary school students' learning. They will also analyze the data obtained through this fieldwork, compile it into a research project, and present it.
Learning Objectives: Utilizing experience in implementing ESD in the classroom, students will reexamine the basic concepts of ethnomethodology (knowledge). Students will practically improve the basic communication skills necessary for collaborating with others (skills). When creating a plan, students will acquire the thinking skills to set goals and realize them, as well as the planning skills to shape and implement ideas (thinking ability, judgment, and expression). Students will acquire the attitude required to support the learning of others and cultivate the ability to take an active role in the program (an active learning attitude).

Grading Criteria /Policy: The evaluation of this class will be determined by 28% of the assignments after each class, 21% of the commitment during the practical training, 21% of the PowerPoint presentation and video of the research results, and 30% of the commitment to each class. Please note that if you do not participate in the practical training, you will not be granted credits.

BSP200MA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200）

多文化教育Ⅰ

村田　晶子

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：木2/Thu.2　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目は、受講者の多文化理解力、多文化協働力を高めることを目的とします。受講者は、在留外国人を取り巻く課題を理解し、共生のために何が必要なのか考えを深めます。本科目を通じて、言語文化的に多様な背景をもつ人々と協働し、学び合うことがなぜ大切なのか理解し、自らイニシアティブをとって、文化紹介、国際交流、学習支援を実践することができるようになります。

【到達目標】
本科目を通じて、学生は以下のことができるようになります。
・自分の異文化体験を批判的に省察し、言語化することができるようになる
・在日外国人が抱える問題を理解し、どのような解決方法があるのかアイディアを出せるようになる
・多文化協働力を高められる
・交流活動を企画し、実践することができるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
・本授業は履修学生をグループに分け、毎回の授業で課題を提示し、グループ内でディスカッションを行い、全体に共有します。
【課題等に対するフィードバック方法】
・リアクションペーパー等におけるよいコメントは授業内で紹介し、さらなるディスカッションに活かします。
・課題等の提出・フィードバックはGoogle Classroomを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業内容提示、履修の有無判断
第2回	留学・英語神話	大学のグローバル化、留学、英語学習について考える。
第3回	日本で学ぶ留学生の視点	留学生の来日動機、来日して抱える問題点について学ぶ。
第4回	異文化適応	様々な異文化適応の理論を学ぶ。学内の留学生交流を始める。
第5回	「やさしい日本語」	「やさしい日本語」が提唱されるようになった背景、社会的な意義、具体的な使い方を学ぶ。
第6回	外国人労働者の受け入れ状況	外国人労働者の在留資格、受け入れの実態、受け入れ制度の問題点について学ぶ。
第7回	ステレオタイプについて考える	ステレオタイプのメカニズムを理解し、自分のステレオタイプについて掘り下げる。
第8回	「ハーフ」	「ハーフ」という呼び方について考える。当事者の多様な経験を理解する。
第9回	日本人論	・過去の「日本人論」を知るとともに、現代のメディアによる「日本人」「●●人」の描き方を考える。 ・プロジェクトのトピックをグループで選ぶ。
第10回	ヘイトスピーチ、マジョリティー特権、マイクロアグレッション	・ヘイトスピーチ、マジョリティー特権、マイクロアグレッションについて考える。 ・プロジェクトの企画書を作成する。
第11回	文化紹介プロジェクトの準備	グループに分かれてプロジェクトの準備
第12回	プロジェクトの実施	グループに分かれて文化紹介プロジェクトを実施
第13回	プロジェクトの発表	プロジェクトの発表とディスカッション
第14回	教場試験	最終レポートを作成、提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
この授業は２単位ですので、大学設置基準に鑑みた場合１回につき４時間以上の授業時間外の学習が必要となります。
学生は授業で指示されたテキストをあらかじめ読んできてください。また、課外活動として、各自が留学生との国際交流を行います（毎週1時間程度）。

【テキスト（教科書）】
村田晶子・長谷川由香・河内彩香・プレフューメ裕子・竹山直子『やさしいことばで国際交流：交流パートナーのための活動集』（リンクからダウンロードできますhttps://doi.org/10.50921/jlp.3.0_1）

【参考書】
参加者の理解状況に応じて参考書の情報を知らせます。

【成績評価の方法と基準】
・積極的な授業の参加度 25%
・課題　35%
・最終発表　20%
・最終レポート 20%

【学生の意見等からの気づき】
最終課題の準備時間がもう少しほしかったという声があったので、次回からもう少し時間を増やしたい。

【学生が準備すべき機器他】
・授業の連絡、ハンドアウトの配布、宿題の提出は全て法政大学用のGoogle Classroomを用いるため、履修者は必ずGoogle Classroomに２回目の授業までに登録してください（クラスコードは初回の授業で伝えます）。

【その他の重要事項】
・第１回のオリエンテーション、第２回のグループ分けに必ず参加すること。１回目、2回目の欠席者の履修は原則許可しません。どうしても欠席しなければならない場合には必ず事前に教員に連絡してください。
・本授業を体験型選択必修科目として履修する場合、この科目と秋学期の「多文化教育Ⅱ」をペアで履修することが単位取得の条件となります。
・履修者数が多い場合は、履修理由希望書によって選抜します。

【その他】
毎回の授業でのグループディスカッションへの参加が求められます。遅刻・早退、欠席の可能性が高い学生、課題に取り組む時間が取りにくい学生は履修をご遠慮ください。

【キャリアデザイン学部より】
本科目を履修するには3月下旬の体験型選択必修科目ガイダンスに出席し、選抜に合格する必要があります。必ず掲示で詳細を確認してください。

【Outline (in English)】
The course seeks to enhance students' multicultural awareness and understanding of linguistically and culturally diverse groups of people living in Japan. It also aims to develop students' multicultural collaboration skills.
【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to 1) critically reflect upon their own multicultural experiences; 2) understand the social issues impacting foreign residents; 3) enhance multicultural communication skills; and 4) conduct cultural exchanges.
【Learning Activities outside of Classroom】
Students will be given weekly assignments that they will be expected to complete by the due dates set by the instructor. Your study time will be about four hours for each class meeting.
【Grading Policy】
Grading will be decided on the basis of the following:
In-class Contribution: 25%
Assignments: 35%
Final Presentation: 20%
Final Paper: 20%
・Students who want to take the course must attend the first and second class sessions. Those who fail to do so cannot take the course.

BSP200MA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200）

多文化教育 II

村田　晶子

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木2/Thu.2　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生は春学期に学んだことを踏まえて、国際協働学習、そして、多文化共生をテーマとしたボランティア活動に参加します。これにより、文化的多様性の理解を深め、多文化協働力、社会貢献意識を高めます。

【到達目標】
本科目でボランティア活動に参加することを通じて、学生は多様な背景をもつ人々と協働するためのスキルや資質を高めることができます（例：傾聴力、発信力、文化分析力、偏見やステレオタイプに気づく力、関係性の構築力、対立への対応力、自己省察力、柔軟な態度、自己管理力、積極的に働きかける力等）。そして、多文化共生社会に貢献するために何が必要なのかを理解し、自ら行動することができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
＊体験学習期間は参加者の活動→振り返り→次への応用というサイクルが中心になります。
【課題等に対するフィードバック方法】
・よい振り返りのコメントは全員に紹介し、ボランティア活動に活かします。
・課題等の提出・フィードバックはGoogle Classroomを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション ボランティアプロジェクトの説明	授業内容提示、履修の有無判断、ボランティアプロジェクトの選択
第2回	プロジェクトごとに活動計画を立てる	活動計画表の作成
第3回	海外大学とのオンライン国際協働学習の開始	海外班はオンライン合同オリエンテーションに参加
第4回	チュートリアル１	小グループに分かれてボランティア活動の振り返りを行う。
第5回	チュートリアル２	小グループに分かれてボランティア活動のふりかえりと、計画の調整を行う。
第6回	チュートリアル３	小グループに分かれてボランティア活動の課題を検討し、改善のための目標を設定する。
第7回	中間テスト	ボランティアの動画を分析し、レポートを提出
第8回	チュートリアル４	交流動画を踏まえたディスカッションを行う。
第9回	チュートリアル５	小グループに分かれてボランティア活動の最終成果物作成の準備を行う。
第10回	海外大学との協働発表会①	海外大学とのオンライン合同発表会とディスカッション②（ベトナム班）
第11回	海外大学との協働発表会②	海外大学とのオンライン合同発表会とディスカッション③（アメリカ班）
第12回	ボランティアのまとめと発表準備	各グループにわかれて、クラスでの成果発表会の準備を行う。
第13回	成果発表会１	グループの成果報告（海外班）
第14回	成果発表会２	グループの成果報告（それ以外の班）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
この授業は２単位ですので、大学設置基準に鑑みた場合１回につき４時間以上の授業時間外の学習が必要となります。
授業時間外で、学内の留学生との国際交流、そして各自が選んだボランティア活動をします。

【テキスト（教科書）】
村田晶子・長谷川由香・河内彩香・プレフューメ裕子・竹山直子『やさしいことばで国際交流：交流パートナーのための活動集』（リンクからダウンロードできますhttps://doi.org/10.50921/jlp.3.0_1）

【参考書】
村田晶子（編）(2022)『オンライン国際交流と協働学習：多文化共生のために』くろしお出版
村田晶子・中山京子・藤原孝章・森茂岳雄（編）(2019)『チャレンジ多文化体験・多文化共修ワークブック』ナカニシヤ出版

【成績評価の方法と基準】
・積極的な授業の参加度 25%
・課題　35%
・最終発表　15%
・最終成果物 25%

【学生の意見等からの気づき】
SDGsをテーマとした留学生とのディスカッションが大変だったと感じた学生がいた。来年度は、社会問題のディスカッションをやさしい日本語でどのように行ったらよいのか、事前練習をもっと入れたい。

【学生が準備すべき機器他】
・授業の連絡、ハンドアウトの配布、宿題の提出は全て法政大学用のGoogle Classroomを用いるため、履修者は必ずGoogle Classroomに第１週目の授業までに登録してください。
・ハンドアウトが見られるように教室にPCか通信端末を持ってきてください。

【その他の重要事項】
・本授業を体験型選択必修科目として履修する場合、本年度の春学期「多文化教育Ｉ」に引き続きペアで履修し単位を取得することが条件となります。それ以外で履修できる学生は本年度の4月の段階で秋学期の履修を許可している学生のみです。
・第１回のオリエンテーション、第２回のグループ分けに必ず参加すること。第１回目、第２回目の欠席者の履修は原則許可しません。どうしても欠席しなければならない場合には必ず事前に教員に連絡してください。

【その他】
ボランティア活動は相手あっての活動です。遅刻やキャンセルは相手に失礼です。きちんと活動に取り組む時間が取れない学生は履修をご遠慮ください。

【キャリアデザイン学部より】
本科目は「多文化教育Ｉ」を習得（S〜C-）した場合のみ履修可能です。

【Outline (in English)】
The course aims to enhance students' multicultural collaboration skills and their awareness of social contributions through international exchange and volunteer activities.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to apply their collaborative skills to promote social diversity and inclusion.
【Learning Activities outside of Classroom】

Students will be given weekly assignments that they will be expected to complete by the due dates set by the instructor. Your study time will be about four hours for each class meeting.
【Grading Policy】
Grading will be decided on the basis of the following:
In-class Contribution: 25%
Assignments: 35%
Final Presentation: 15%
Final Papers: 25%
・Students who want to take the course must attend the first and second class sessions. Those who fail to do so cannot take the course.

EDU200MA（教育学 / Education 200）

外書講読A（発達・教育）【2024年度以前入学者用】

福田　紀子

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：月3/Mon.3　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人権に基づいた社会のより良い変化(開発)に取り組むための活動は、課題を抱えた人々の間で実践が重ねられてきました。人権の基本的な概念理解や人道支援の国際基準（スフィア基準／Sphere Standards)のテキストやHuman Rights Based Dvelopementの研修素材を通して、人類共通の課題意識や試行錯誤の中で獲得した人権尊重の基本的な概念を理解し、どのように伝えようとしているのかをテキストとアクティビティからとらえます。そして、自分たちの社会にある人権問題への理解と関与につなぐ力をつけることを目指します。

【到達目標】
1）国際社会で積み上げられてきた合意文書、教材から、ジェンダーをはじめとする脆弱性の理解、パワーの所在、気付きにくい差別、参加とエンパワーメントなど市民社会と人権
に関わるに関する基本概念と歴史や経緯を理解する。
2）人権尊重の思考と行動枠組、、社会の公正な運営方法に必要な思考と行動のスキルを 自分と社会の現実と関連させながら理解し実践する。
3）参加型学習の学び方（手法、概念、進行）を経験し、人々をエンパワメントする学習について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
基本的に読んでおく英文資料、授業内で配布の資料（英・日)、ワークシートを元に進めます。資料の翻訳あるいは解説を分担する機会があります。
授業はレジュメを中心に配布資料の翻訳や概説、ワークシートによる自分の感覚や考えを示し、そこから考える活動を行いながら進めていきます。毎回提出いただくフィードバックシートのコメントの中からも、考えを深めたり、関連情報について取り上げていきます。その中でのディスカッション、フィードバックは基本的に日本語で行いますが、参加者の希望によっては一部英語でのセッションも可能です。
課題提示・提出はメール、学習支援システムを使用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Orientation Background of Participatory Approach for Empowermnent	〈この授業の進め方〉この授業の進め方、評価について。様々な分野、テーマの参加とエンパワメントのための学習を概観します
第2回	World Studies/Global Education-Educational framework, dimentions and Activities	80年代英国で実践された教育運動の素材から、(学校）教育の場で新しい課題に対応するために必要な概念、枠組み、側面とアクティビティを知ります。
第3回	Peace Education pathway for cultural peace-Difing Peace, A Typology of Violence	2000年代フィリピンの平和教育のテキストから平和の定義、暴力の類型を通して「平和」について考えます。
第4回	PRA/PLA-Participatory Learning approach for Community through discussion tools for visualization and empowerment	60〜70年代の経験（失敗）を踏まえて生まれた住民の主体的参加による学習過程からの開発手法の一つであるPRA/PLAについて、 共有のtools(手法)、ファシリテーターの態度、参加の場のあり方について学びます。
第5回	PRA/PLA ：Tools Practice	PRA/PLA 実践 様々なツールで参加型課題分析を行います ファシリテーター実践準備
第6回	Shpere Standards-Humanitarian Response with Rights Base Aproach〜Core Humanitarian Standards/CHS flower &reality	東日本大震災(2011)以降日本でも広がった人道支援の国際基準スフィアの基本理念、行動綱領、権利原則、必須基準などについて概説します
第7回	From Poverty To Dignity-a learning manual on human rights based development, introduction	From Poverty To Dignityの概説、構成を概説します ファシリテーション実践準備
第8回	Facilitaion Practice: Global Education 1	ファシリテーション実践／国際理解教育・グローバル教育
第9回	Facilitaion Practice: Global Education 2	ファシリテーション実践／国際理解教育・グローバル教育
第10回	Facilitaion Practice:From Poverty To Dignity-Human Rights Based Approaches：Non-discrimination &Attention to Vulnerable Group	ファシリテーション実践／脆弱性の理解に必要なパワーとエンパワーメント,Intersctionality,などについても考えます
第11回	Facilitaion Practice:From Poverty To Dignity：Participatio	ファシリテーション実践／参加、Citizenship、Advocacy等について考えます
第12回	Facilitaion Practice:From Poverty To Dignity-Human：Rights Based Approaches-Module9: empowerment	ファシリテーション実践／empowermentについて考えます
第13回	CHS constraction and Conflict Management/ Resolution in Japanese Context①	市民社会を活性化するために必要な知識・スキル・姿勢と参加を阻害する要因について、スフィア必須基準と「対立から学ぼう」の枠組みから考えます
第14回	CHS constraction and Conflict Management/ Resolution in Japanese Context②	日本における参加を阻害する文化価値観を超えるため変化の要因やアドボカシーについて考えます

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に紹介されたWeb上での資料、配布された資料は必ず読んでおいてください。特に事前に分担した箇所については必要に応じた翻訳・整理と小グループ／パートナーとの発表の準備が必要となります。
国際的な出来事、国内で起こる問題のグローバルなつながり、国際協力活動、身近な社会の課題に関心をもち、自分の関心と行動傾向を考えながら、授業の理解につなげて下さい。本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とします。（レポート課題作成を除く）

【テキスト（教科書）】
特に購入の必要はありません。教材は授業の中で配布またはWeb上の所在を伝えます。

【参考書】
『ワールドスタディーズー教え方学び方ハンドブック』『参加型で考える１２のものの見方、考え方』（以上、国際理解教育センター発行）
『Global Teacher, Global Learner 』(Graham Pike &David Selby)
https://archive.org/details/globalteacherglo0000pike/page/2/mode/2up
『Participatory Leaning and Action- A Traing Guide』(IIED)
https://www.iied.org/sites/default/files/pdfs/migrate/6021IIED.pdf
『The Sphere Handbook』(2018)
Sphere-Handbook-2018-EN.pdf
『From Poverty To Dignity : LEARNING MANUAL ON HUMAN RIGHTS BASED DEVELOPMENT』
https://wunrn.com/2009/01/poverty-to-dignity-learning-manual-on-human-rights-based-development/
以下参考文献：
Microaggressions in Everyday Life /
Derald Wing Sue, Lisa Beth Spanierman
Participatory Learning &Action-a trainer's guide(IIED)
Participation Handbook for Humanitarian Filed Workers;
http://www.urd.org/wp-content/uploads/2018/09/ParticipationHandbook_CHAPTER4.pdf
『参加型ワークショップ入門』（ロバート・チェンバース著）

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度、各回授業のふりかえりシート50％
翻訳課題、発表、成果（対面授業の場合模造紙作業等）10％
2回のレポート（中間／最終）40％

【学生の意見等からの気づき】
参加型学習の体験は積極的な評価を受けています。ただ話し合いやアクティビティが楽しいだけでなく、そこで伝えられる概念やメッセージを読み解き、進行・手法・思考の枠組・問いかけについての意味を自分で掴むことが必要です。不消化感を感じるときもあると思いますが、その感覚も経験として自分の中で保持し、他者に問いかける力に変え、共有から生まれる学びがあればと願います。

【その他の重要事項】
国際合意の文書は完成された概念やタテマエではありません。多くの人々の困難から学ぼうと世界中の人々が積み上げ、練り直し、現実の反映させようと格闘している文脈がひとつひとつあります。災害時の支援としての国際基準には人権感覚の基本とも言える考え方と現実の対応が示されています。慣れないコンセプトもあるかもしれませんが、身近なコミュニティでも、国際的な合意の文脈を理解する為にも必要かつ応用可能なものとして学んでいきましょう。
また「参加型」を中心とした対立解決のプロセスも世界の差別や緊張関係を平和的な手段で正していくために用いられる基本的な手法です。全体に分担したテキストのプレゼンテーションやフィードバックなど授業への関与を重視します。授業の進行によって分担の発表日が変更することもあります。
なお、担当教員は人道支援団体、参加型人権教育ファシリテーター、複数の自治体の男女共同参画センターを経て、現在スフィアトレーナーとして、また大阪西成区釜ヶ崎の支援団体の職員として活動するものです。様々な課題を抱える現場に共通して求められる「人権」「人権尊重」の実践力につながる学びについて取り組んでいます。

【Outline (in English)】
Course outline : Texts on this class would be the Global Education and PeaceEducation as pedagogy.And as andragogy, the handbook of Participatory Learning and Actions,SPHERE Handbook for HUMANITARIAN STANDARD, FROM POVERY TO DIGNITY for develoment workers.
All those texts are suggesting the framework, contents and approaches for the people's participation and empowerment through educational efforts.We try to grasp the meaning and approach of Participation as the basement of social justice and human rights.
Learning Objectives : Getting the Basic Concepts for understanding Citizen's Activism on Rights Base Approach for Social Justice with International Standard, Agreements and Methods.
Learning activities outside of classroom : Students are expected to
read the materials/assignments to translate/summary/analyze/apply into your own situation.
Grading Criteria /Policy
Participation in class, the feedback sheet for each class 50%
Assigned Translation &Group Presentation/ Facilitation 10%
Midterm/Final Report 40%

EDU200MA（教育学 / Education 200）
外書講読B（発達・教育）【2024年度以前入学者用】

長岡　智寿子

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：火2/Tue.2　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞
授業コード：C5037
科目名：外書講読A
＜2024年度以前入学者＞
授業コード：C7153
科目名：外書講読B（発達・教育）
※入学年度によって授業コード・科目名が異なります
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、今日の国際教育開発の現状と課題について、私たち人間の生涯に渡る学びの様相を把握することを念頭に、社会学的な視点から検討するものである。具体的には、本授業の内容に即した英文資料の他、関連する文献資料や映像資料なども活用しながら理解を深めていく。

【到達目標】
本授業では、英文資料を中心に、広く国際社会における教育活動の動向を把握するとともに、子どもからおとなまであらゆる人々を対象とする生涯学習活動について、その今日的課題を問い直すことを目的とする。とりわけ、成人期の学習の必要性について、開発途上諸国の事例をもとにジェンダーの視点から事例検討を行う。
授業の到達目標としては、下記のとおり。
・生涯学習の理念について、国際的な観点から説明することができるようになること。
・成人期の学びの必要性を説明できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
・授業の初めに前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。
・リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介するとともに、さらなる議論に活かします。
・授業内で求めた課題に対する講評や解説も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義全体の概要説明をオンラインにて行います。
第2回	Background：data and development	生涯学習に関する歴史的経緯の把握、内容理解
第3回	Literacy is the human rights	人権の観点から理解する
第4回	Literacy learning & development	読み書きの学びの重要性を社会学的視点から理解
第5回	Stories of imagination (1) Social participation	Raising voices; peaking up for participation
第6回	Stories of imagination（2）Life skill	Literacy and Life ｓ kills
第7回	Stories of imagination（3）human rights	About employment rights with literacy for poor women
第8回	Stories of imagination（4）Minority	Women and Literacy in post-conflict
第9回	Stories of imagination（5）Knowledge for safe	Children's nutrition and literacy learning
第10回	Stories of imagination（6）Learning for life	Literacy and learning for young women
第11回	Stories of imagination（7）Learning for health	Learning reading, writing and health
第12回	Stories of imagination（8）Social empowerment	Community Empowerment
第13回	Challenges and solutions	Share and discussion for future
第14回	まとめ（試験、解説）	本講義全体を振り返って

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業で使用する英文資料について、事前に準備学習として必要な箇所に目を通しておくことを求めます。また、授業後は、内容の整理、把握を行うことを求めます。各2時間を標準としますが、詳細は各回にて説明いたします。

【テキスト（教科書）】
指定テキストは無し。

【参考書】
本授業で使用する英文資料は、下記のとおりです。
・『Literacy and Women's Empowerment: Stories of Success and Inspiration』,
UNESCO Institute for Lifelong Learning,2013
・『Quality Assurance Toolkit for Open and Distance Non-formal Education』,
Commonwealth of Learning, 2012
上記の資料を予定しています。詳細は初回のオリエンテーションの際に説明します。

【成績評価の方法と基準】
本授業の成績評価は、授業態度や平常点（40%）、期末レポート（60%）により、総合的に評価します。
積極的に授業に参画されることを求めます。

【学生の意見等からの気づき】
毎回、授業の際に、質問、意見等を記載してもらい、フィードバックを行える体制を整えていく。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
積極的に理解を深めていけるように、質問や意見等を望みます。

【Outline (in English)】
（Course outline）This course examines the current state and challenges of international educational development from a sociological perspective, with a focus on understanding the nature of lifelong learning throughout the human lifespan. Specifically, we will deepen our understanding by utilising English-language materials relevant to the course content, alongside related literature and visual resources.
（Learning Objectives）
・To be able to explain the principles of lifelong learning from an international perspective.
・To be able to explain the necessity of learning in adulthood.
（Learning activities outside of classroom）
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
（Grading Criteria /Policy）

Final grade will be calculated according to the following process
report (60%) and in-class contribution (40%).

PSY200MA（心理学 / Psychology 200）

生涯発達心理学Ⅰ

廣川　進

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：水4/Wed.4　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人間は誕生から死に至るまで生涯にわたり、どのように発達し変化するのか、それぞれの発達段階に沿っての発達課題とその発達特性を心理学的な視点から研究する。またキャリア発達の観点から、生涯を通してどのように変化し発達するかについても研究する。学生自身が自己、家族、他者との関係を発達の軸から振り返り、課題を明らかにすることでさらなる成長発達をすることができる。

【到達目標】
誕生から死にいたるまでの生涯発達、その特性を深く学生が理解し、自分の今後のライフキャリアを展望するための気づきを得ることができる。
生涯発達心理学で使われるキーワードとその概念、具体例についての知識理解ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
人間発達の道筋とそれぞれの発達ステージにおける発達特性と発達課題について理解する。
毎回、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	発達段階と発達課題について考える	各発達段階の発達特性とその発達課題について概論的に学ぶ
第2回	遺伝と環境	人間の発達を左右する遺伝的な要因と環境的な要因について学ぶ
第3回	新生児・乳児期	誕生から約1歳半までの乳幼児の発達特性について学ぶ
第4回	幼児期	2歳から5歳の子どもの発達特性について学ぶ
第5回	児童期	小学生の発達特性について学ぶ
第6回	アイデンティとは	エリクソンのライフサイクル（心理社会的発達）理論やモラトリアムについて、具体例とともに学ぶ
第7回	思春期・青年期の課題	フロイトの精神分析、心の構造論、ブロスの分離個体化などを学ぶ
第8回	中年期危機と発達課題	小説『最後の家族』（村上龍）から中年危機が家族全員にあたえる影響、崩壊から再生について考える
第9回	男性の発達、父性の観点	「スターウォーズ」「エヴァンゲリオン」「鬼滅の刃」から父性について考える
第10回	女性の発達、母性の観点	アイデンティティの２つの軸、個としての達成／関係性における他者のケア、自己実現の援助を学ぶ
第11回	「語り」と発達	自己の人生を語る「自己物語」がアイデンティティをつくり、傷つきからの回復を支えることを事例から学ぶ
第12回	中年、老年期の発達とキャリア発達 生涯キャリア発達	中年期のキャリアの転機、危機、役職定年、定年と生涯キャリアにつて考える
第13回	老年期の発達課題	「老年的超越」について学ぶ
第14回	ストレスマネジメント	発達段階ごとの課題とストレッサーを理解し、適切に対処する方法を学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
関連図書の予習,本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。参考文献はその都度紹介します。

【参考書】
・発達心理学入門Ⅰ（乳児・幼児・児童）無藤隆編　東京大学出版会
・発達心理学入門Ⅱ（青年・成人・老人）無藤隆編　東京大学出版会
・アニメに学ぶ心理学「千と千尋の神隠し」を読む（愛甲修子）言視舎
・父滅の刃 消えた父親はどこへ アニメ・映画の心理分析 （樺沢紫苑）みらいパブリッシング
・エヴァンゲリオンの心理学　（樺沢紫苑）
・＜ほんとうの自分＞のつくり方　（榎本博明）講談社現代新書
・私とは何か　個人から分人へ（平野啓一郎）講談社現代新書

【成績評価の方法と基準】
毎回の感想レポート（60％）
期末レポート（40％）

【学生の意見等からの気づき】
臨床的な具体例の紹介や映画、ドラマ、物語などを適宜使って、生涯発達心理学の概念が理解しやすくなるように工夫する

【Outline (in English)】
(Course Outline)
This course explores the processes of human development and change across the entire lifespan, from birth to death. From a psychological perspective, students will examine the specific developmental tasks and characteristics unique to each life stage. Additionally, the course analyzes how individuals evolve and progress through the lens of career development.
(Learning Objectives)
By the end of this course, students will be able to:
Understand the psychological stages of development and their associated tasks.
Reflect on their own lives, family dynamics, and social relationships from a developmental viewpoint.
Identify personal or professional issues to facilitate further self-growth and career development.
(Learning Activities outside of classroom)
Students are expected to engage in the following:
Reviewing lecture materials and psychological theories discussed in class.
Reflecting on personal experiences to prepare for weekly class reports.
Conducting research and literature reviews for the comprehensive term-end report.
(Grading Criteria / Policy)
Final grades will be calculated based on the following components:
Weekly Class Reports (60%): Evaluation of understanding and reflection submitted after each session.
Term-end Report (40%): A final cumulative report demonstrating the integration of course concepts.

PSY200MA（心理学 / Psychology 200）

生涯発達心理学 II

岩本　慧梧

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：火5/Tue.5　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
心理学とは，心のメカニズムを科学的な手法を用いて明らかにすることを目指す学問である。この授業では，人の「キャリア」を理解する上で必要となる心理学の基礎的な概念や理論を広く紹介することで，受講生が心理学の学術知を活かしたキャリアデザインの実践や，キャリアデザイン研究をおこなうための土台となる知識の獲得を目指す。

【到達目標】
①受講生が自身や他者のキャリアデザインをおこなう際に，心理学の知識を活かした実践ができるようになること
②キャリアデザイン研究をおこなう際に，必要となる心理学の研究を自ら参照する上で必要となる知識の土台を身につけること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業内課題やリアクションペーパーの提出には，Google Formを活用する予定である。提出された課題やリアクションペーパーの内容については，講師が授業内で積極的に紹介し，双方向性のある授業の実施を行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション・心理学を学ぶ意義	授業のスケジュール、内容、形式、評価方法及び心理学を学ぶ意義について説明する。
第2回	記憶・思考	人間の記憶のメカニズム，日常の中での思考の働きについて説明する。
第3回	知的能力と発達	知能の定義および測定法について説明する。また，人の生涯での成長や発達に関する基本的な理論やそれらを捉える上で重要な概念について解説する。
第4回	パーソナリティ	自己概念とパーソナリティに関する基礎的な理論を説明する。
第5回	24の強み	ポジティブ心理学における24の強み研究とキャリアデザインとの関連について説明する。
第6回	非認知能力	非認知能力が注目されるようになった展開と，非認知能力として扱われている心理学的概念について紹介する。
第7回	モチベーション（1）	モチベーションの基礎的な理論について説明する。
第8回	モチベーション（2）	モチベーションの理論をキャリアデザイン支援にどのように活かすかについて説明する。
第9回	対人認知	人が他者に関わる理解する際に特有の人の認知のメカニズムに関する基本的な理論を説明する。
第10回	コミュニケーション	コミュニケーションの機能や，親しみのあるコミュニケーションの特徴について説明する。
第11回	集団	援助行動、社会的促進など他者存在の影響に関する研究を説明する。
第12回	心の健康	ストレスに関する基礎的な理論と支援について説明する。
第13回	ウェルビーイング	ウェルビーイングに関する基礎的な理論と、代表的な介入方法について説明する。
第14回	まとめと総括	講義内容についての振り返りを行う。受講生の要望に応じて、13回の講義で取り上げられなかった心理学のトピックについて補足を行う場合もある。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業用資料を学習支援システムにアップロードする。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特定の参考書の指定は行わない。

【参考書】
授業内容をさらに深く理解する助けになるテキストについては，適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業内に実施される「理解度テスト」（計2回を予定，合計70%），および授業外「レポート課題」（1回，30%）に基づいて評価される。

【学生の意見等からの気づき】
学習支援システムを通じて学生のからのフィードバックを受け、授業方法に反映させる。

【学生が準備すべき機器他】
授業内でリアクションペーパーはオンラインで提出を求めるため，パソコンやスマートフォンの利用環境を整えておくことが求められる。

【Outline (in English)】
Course outline:
This course introduces foundational psychological concepts and theories necessary for understanding human career development. By broadly covering key ideas in psychology relevant to “career,” the course aims to help students build a solid knowledge base that supports (1) applying academic psychological knowledge to practical career design and (2) conducting research on career design informed by psychological science.
Learning Objectives
At the end of the course, students are expected to:
apply psychological knowledge to the practice of designing their own and others’ careers.
acquire a foundational understanding that enables them to independently locate, read, and refer to psychological research necessary for conducting career design research.
Learning activities outside of classroom
Course materials will be uploaded to the learning management system. Students are expected to spend approximately two hours on preparation and two hours on review for each class meeting.
Grading Criteria / Policies
Final grades will be determined based on the following components:
Understanding tests (two tests in total): 70%
Report assignment (one out-of-class report): 30%

PSY200MA（心理学 / Psychology 200）

臨床教育相談論Ⅰ【2024年度以前入学者のみ】

土屋　弥生

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：月3/Mon.3　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：2024年度以前入学者のみ履修可能

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教育相談をおこなう上で必要となる基本的な知識，児童生徒理解の手法を学ぶ。また，教育現場における問題，課題について理解を深め，現場での教育相談のあり方について考える。

【到達目標】
（1）教育相談をおこなう上で必要な基本的知識を習得する。
（2）教育相談をおこなう上で基盤となる児童生徒理解の手法を習得する。
（3）教育現場における問題・課題について理解し，主体的に考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式でおこないます。小テストや課題の提出は「学習支援システム」を通じて行う予定です。最終授業で、13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で実施した小テスト、課題に対する講評や解説をおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の概要，到達目標，授業の進め方について確認する。
第2回	人間の発達と課題①：乳幼児期から児童期	乳幼児期・児童期の発達と課題について学ぶ。
第3回	人間の発達と課題②：青年期から成人期以降	青年期から成人期以降の発達と課題について学ぶ。
第4回	教育相談とは何か	教育相談の対象，位置づけ，目的について学ぶ。
第5回	教育相談における児童生徒理解の手法①：心理学的理解と現象学的理解	教育相談の現場で用いられる心理学的手法・現象学的手法について学ぶ。
第6回	教育相談における児童生徒理解の手法②：人間学的理解	教育相談の現場で用いられる人間学的理解の方法について学ぶ。
第7回	教育相談における児童生徒とのコミュニケーション	教育相談の現場でのコミュニケーションについて、心理学的立場・現象学的立場について学ぶ。
第8回	教育現場の諸問題と教育相談①：発達障害の理解	教育相談の臨床で必要となる発達障害についての基礎的知識を身に着ける。
第9回	教育現場の諸問題と教育相談②：発達障害の児童生徒の現状	教育現場における発達障害の児童生徒の現状を理解する。
第10回	教育現場の諸問題と教育相談③：不登校の児童生徒の現状	教育現場における不登校の児童生徒の現状を理解する。
第11回	教育現場の諸問題と教育相談④：メンタルヘルスの問題を抱える児童生徒の現状	教育現場におけるメンタルヘルスの問題を抱える児童生徒の現状を理解する。
第12回	教育現場の諸問題と教育相談⑤：いじめ問題	教育現場におけるいじめ問題について理解する。
第13回	教育相談における連携の重要性：児童虐待，家庭の諸問題，保護者との連携	家庭の諸問題、児童虐待などについて学び、教育相談において重要となる保護者との連携について考える。
第14回	まとめ・振り返り：教育相談のあり方について	13回までの学習を振り返り、課題の解説を通して学習のまとめとする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前学習（2時間）として、教科書で各回のテーマに該当する部分を読み、予習しておく。また、事後学習（2時間）として、各回の授業内容について授業資料や教科書を用いて振り返りをする。振り返りにおいては、各回の授業で用いた具体的な事例について、自分が臨床の現場で教育相談を行うことになった場合のことを想定して、主体的に考えるようにする。

【テキスト（教科書）】
土屋弥生著『教師と保護者のための子ども理解の現象学』2023年、八千代出版

【参考書】
文部科学省HP https://www.mext.go.jp/

【成績評価の方法と基準】
小テスト（40％）、期末レポート（40％）、平常点（20％）とします。小テスト、期末レポートは「学習支援システム」上でおこないます。

【学生の意見等からの気づき】
学生の皆さんからの質問について、全体にとって有意義な質問の場合には、次回の授業の冒頭で回答・説明を行います。

【学生が準備すべき機器他】
授業で使用する資料、プリント等はPDFで学習支援システムに掲載する予定ですので、各回とも授業前に各自入手するようにしてください。また、小テスト・課題提出についても学習支援システムを利用しますので、必要な機器等を準備しておいてください。

【その他の重要事項】
担当者は、学校心理士スーパーバイザー資格を持つ教員であり、学校教育現場で心理教育的支援をおこなった実務経験をもつ。この経験を基に、実際の教育相談のあり方や進め方についてできる限り具体的に講義をおこなう。

【Outline (in English)】
【Course outline】This course deals with the basic knowledge and methods of understanding students that are necessary for educational consultation.
The aim of this course is understanding of problems and issues in the field of education and to think about practical educational consultation.
【Learning Objectives】By the end of the cource,students should be able to the followings:
-A,To acquire the basic knowledge necessary for providing educational consultation.
-B,To acquire the methods of understanding students which are the basis of educational consultation.
-C,Understand and think independently about problems and issues in the educational field.
【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Lecture/Exercise（two-credits）
【Grading Criteria /Policies】Your overall grade in the class will be decided based on the following
Mini tests: 40%, Term-end report : 40%, in class contribution: 20%

PSY200MA（心理学 / Psychology 200）

臨床教育相談論 II 【2024 年度以前入学者のみ】

土屋　弥生

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：月3/Mon.3　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：2024 年度以前入学者のみ履修可能

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
実際に現場で教育相談をおこなうことを想定して，実践的な内容を学ぶ。児童生徒，保護者との教育相談において留意するべきことを習得し，教育相談のケーススタディを通して具体的な実践について理解する。

【到達目標】
（1）児童生徒理解に基づく教育相談について主体的に考え，実践に役立つ態度を身につける。
（2）保護者との教育相談について主体的に考え，実践に役立つ態度を身につける。
（3）ケーススタディを通して教育相談の実践について具体的にイメージし，理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デイプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式でおこないます。小テストや課題の提出は「学習支援システム」を通じて行う予定です。最終授業で、13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で実施した小テスト、課題に対する講評や解説をおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の概要，到達目標，授業の進め方について確認する。
第2回	教育相談におけるアセスメントと倫理	教育相談におけるアセスメント，プライバシーの保護，守秘義務について学ぶ。
第3回	児童生徒理解に基づく教育相談①：児童生徒を「見る」（観察）	教育相談の基盤をなす児童生徒理解、特に児童生徒を「見る」ことについて学ぶ。
第4回	児童生徒理解に基づく教育相談②：児童生徒との対話	教育相談の基盤をなす児童生徒理解、特に児童生徒との対話について学ぶ。
第5回	保護者の理解：保護者とはどのような存在か	教育相談の基盤をなす保護者理解について学ぶ。
第6回	保護者との教育相談：児童生徒の成長のための協働を目指す	教育相談において重要な保護者との協働について学ぶ。
第7回	学校教育現場における諸問題・課題と教育相談	学校教育現場における教育相談の重要性について学ぶ。
第8回	特別支援教育の現状：通級指導と教育相談	特別支援教育の現状について、おもに通級指導学級と教育相談の関係について学ぶ。
第9回	現象学的児童生徒理解と教育相談	教育相談の実践において重要な現象学的児童生徒理解について学ぶ。
第10回	教育相談のケーススタディ①：緘黙傾向の児童生徒の理解と対応	緘黙傾向の児童生徒の教育相談の実践について事例から学ぶ。
第11回	教育相談のケーススタディ②：不登校の児童生徒の理解と対応	不登校の児童生徒の教育相談の実践について事例から学ぶ。
第12回	教育相談のケーススタディ③：発達障害の児童生徒の理解と対応	発達障害の児童生徒の教育相談の実践について事例から学ぶ。
第13回	教育相談のケーススタディ④：いじめについての教育相談	いじめに関する教育相談の実践について事例から学ぶ。
第14回	まとめ・振り返り：教育相談の実践について	13回までの学習を振り返り、課題の解説を通して学習のまとめとする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前学習（2時間）として、教科書で各回のテーマに該当する部分を読み、予習しておく。また、事後学習（2時間）として、各回の授業内容について授業資料や教科書を用いて振り返りをする。振り返りにおいては、各回の授業で用いた具体的な事例について、自分が臨床の現場で教育相談を行うことになった場合のことを想定して、主体的に考えるようにする。

【テキスト（教科書）】
土屋弥生著『教師と保護者のための子ども理解の現象学』2023年、八千代出版

【参考書】
文部科学省HP https://www.mext.go.jp/

【成績評価の方法と基準】
小テスト（40％）、期末レポート（40％）、平常点（20％）とします。小テスト、期末レポートは「学習支援システム」上でおこないます。

【学生の意見等からの気づき】
学生の皆さんからの質問について、全体にとって有意義な質問の場合には、次回の授業の冒頭で回答・説明を行います。

【学生が準備すべき機器他】
授業で使用する資料、プリント等はPDFで学習支援システムに掲載する予定ですので、各回とも授業前に各自入手するようにしてください。また、小テスト・課題提出についても学習支援システムを利用しますので、必要な機器等を準備しておいてください。

【その他の重要事項】
担当者は、学校教育現場で学校心理士資格を持つ教員として心理教育的支援をおこなった実務経験をもつ。この経験を基に、実際の教育相談のあり方や進め方についてできる限り具体的に講義をおこなう。

【Outline (in English)】
【Course outline】This course deals with practical contents assuming that they actually conduct educational consultation in the field.
The aim of this course is o learn what to keep in mind in educational consultation with students and parents, and to understand specific practices through case studies of educational consultation.
【Learning Objectives】By the end of the cource,students should be able to the followings:
-A,To think independently about educational consultation based on understanding children and to acquire an attitude that is useful in practice.
-B,To think independently about educational consultation with parents and acquire an attitude that is useful in practice.
-C,Through case studies, to deepen understanding of the practice of educational consultation by imagining it concretely.
【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Lecture/Exercise（two-credits）
【Grading Criteria /Policies】Your overall grade in the class will be decided based on the following

Mini tests: 40%, Term-end report : 40%, in class contribution: 20%

PSY200MA（心理学 / Psychology 200）

キャリアカウンセリングⅡ【2024年度以前入学者のみ】

廣川　進

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水3/Wed.3　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：2024年度以前入学者のみ履修可能

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キャリアカウンセリングⅠでは主にキャリア理論を学び、それを踏まえてキャリアカウンセリングⅡではキャリアカウンセリングの理論を中心に紹介しながら事例検討などの活動を組合せて進める。

【到達目標】
・キャリアカウンセリングの実際の展開について理解する
・カウンセリングの基本の理論について理解する
・キャリアカウンセリングが活用されている領域、分野での具体的な事例を知る

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
キャリアカウンセリングⅠで学んだキャリア理論を踏まえて、カウンセリングの理論を紹介しながらキャリアカウンセリングの実際の展開、アプローチの方法について学ぶ。各分野での事例検討、ロールプレイング、グループ討議などの双方向、参加型の学習を通して深い理解を図る。
前回のコメントシートに書かれた学生からの感想や質問を授業の冒頭に紹介しながら、フィードバックを行い、双方向型の授業を心がける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	キャリアカウンセリングとは何か	カウンセリング、キャリアガイダンス等との比較から考える
第2回	キャリアカウンセリングの進め方	キャリアカウンセリングを進める6つのステップについて学ぶ
第3回	カウンセリングの実際　傾聴 来談者中心療法	キャリアカウンセリングで使える代表的な理論について学ぶ（〜第10回）傾聴、受容、共感を学ぶ
第4回	認知行動療法	認知行動療法について学ぶ
第5回	精神分析	精神分析について学ぶ
第6回	アドラー心理学	承認欲求にとらわれすぎない生き方働き方を学ぶ
第7回	ブリーフセラピー	問題志向／解決志向カウンセリングを学ぶ
第8回	マイクロカウンセリング	マイクロ技法の階層表をもとに包括折衷的カウンセリングについて学ぶ
第9回	グループ・アプローチ	グループワークの効果を体験する
第10回	ナラティブ・アプローチ	ナラティブ・アプローチについて実習を交えて学ぶ
第11回	キャリアカウンセリングの活用分野ー学校	キャリアカウンセリングの活用分野について学ぶ（〜第14回）学校での事例検討
第12回	キャリアカウンセリングの活用分野ー企業	企業内での事例検討
第13回	キャリアカウンセリングの活用分野ー就労支援	就労支援機関での事例検討
第14回	キャリアカウンセリングの活用分野ー多様性（ダイバーシティ）	女性、障害者などのキャリア開発の支援の事例検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
興味をもったトピックについては授業で紹介する参考書などを積極的に参照する。参考文献を紹介する本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
授業時にプリントを配布する。

【参考書】
「キャリアカウンセリング」宮城まり子　駿河台出版社
・「キャリア・コンサルティング　理論と実際　　カウンセリング、ガイダンス、コンサルティングの一体化を目指して」木村周　社団法人　雇用問題研究会
・「新時代のキャリアコンサルティング　キャリア理論・カウンセリングリ理論の現在と未来」労働政策研究・研修機構（編）独立行政法人　労働政策研究・研修機構

【成績評価の方法と基準】
授業中のミニレポート60％　期末レポート40％

【学生の意見等からの気づき】
前回のコメントシートに書かれた学生からの感想や質問を授業の冒頭に紹介しながら、双方向型の授業を心がける。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【授業中に求められる学習活動】
A,B,C,D,E

【Outline (in English)】
(Course Outline)
Career Counseling I, students will mainly study career theory, and based on this, Career Counseling II will proceed with a combination of activities such as case studies while introducing mainly career counseling theory
（Learning Objectives）
・Understand the actual development of career counseling
・Understand the basic theories of career counseling
・Understand specific examples of areas and fields where career counseling is utilized
（Learning activities outside of classroom）
Actively refer to reference books and other materials introduced in class on topics of interest.
The standard preparation and review time for this class, which introduces reference books, is 2 hours each.
（Grading Criteria /Policy）
In-class mini-report 50%, final report 50%.

PSY200MA（心理学 / Psychology 200）
キャリアカウンセリングIII（ケーススタディ）【2024年度以前入学者用】

宮脇　優子

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：金3/Fri.3　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞
授業コード：C5105
科目名：キャリアカウンセリングII（ケーススタディ）
＜2024年度以前入学者＞
授業コード：C7160
科目名：キャリアカウンセリングIII（ケーススタディ）
※入学年度により授業コード・科目名が異なります

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キャリアカウンセリングの様々な事例（ケース）を学習することによってキャリアカウンセリングの実践について学び、キャリアカウンセリングの意義や方法について理解することを目的とする。
まずは、キャリアカウンセリングの基礎的な事項－その独自性や起源・発展の経緯、社会においてキャリアカウンセリングが求められてきた背景、また現在のニーズを学ぶ。次に、キャリアカウンセラーに必要とされる能力（技能）や要件、キャリアカウンセリングの具体的な進め方、心理アセスメントや心理学理論の応用を学ぶ。それらを踏まえた上で、様々なケースについて考察・学習し、実践への理解を深めることとする。

【到達目標】
・キャリアカウンセリングの基礎的事項（その独自性、起源と発展の経緯、社会から求められる理由）について理解できている。
・キャリアカウンセリングのケーススタディを通して
①現代の産業組織において働く人々が抱える心理的問題、キャリアカウンセリングへのニーズを理解できている。
②キャリアカウンセリングのケースの見立て方、援助のあり方・援助方法への理解ができている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
・前半（第1回〜第5回）のキャリアカウンセリングの基礎的事項については講義を中心として進める。第6回以降のケーススタディ（事例検討）は、講義に加え、個人ワークとグループでの意見交換及びグループ発表をおり交ぜて行う。
・授業終了後にリアクション・ペーパーの提出を求め、次週の授業の中で前回の授業で提出されたリアクション・ペーパーからいくつか取り上げ、全体共有・質問に対するフィードバックを行う。
・第10回の講義内容（心理アセスメント）に関連して、アセスメントツール（キャリア・インサイト）をキャリア情報ルームにて体験していただく（希望者）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション、キャリアカウンセリングとは何か	授業の目的と進め方、成績評価について説明。 カウンセリング、キャリアカウンセリングの定義と独自性（特徴）について学ぶ。
第2回	カウンセリングの起源と発展	カウンセリング誕生の背景、発展の経緯、産業組織における発達史を学ぶ。
第3回	働く人を取り巻く社会経済・雇用環境の変化とキャリアカウンセリングの役割①	社会経済・雇用環境の変化、現在に至る経緯を知り、産業組織におけるキャリアカウンセリングの果たせる役割を理解する。
第4回	働く人のメンタルヘルスの現状とキャリアカウンセリングの役割②	働く人のメンタルヘルスの現状を理解し、産業組織におけるキャリアカウンセリングの果たせる役割を理解する。
第5回	キャリアカウンセラーに必要とされる能力	キャリアカウンセラーに必要とされる能力（技能）、要件を学ぶ。
第6回	キャリアカウンセリングの具体的展開とケーススタディ①	キャリアカウンセリングの具体的な進め方（ﾌﾟﾛｾｽ）を学ぶ。 ケースを読み、ケースの読み取り方・見立て方を学ぶ。
第7回	キャリアカウンセリングのケーススタディ②	C.R.ロジャーズの理論を学ぶ。 若者への就職支援のケースを検討する。
第8回	キャリアカウンセリングのケーススタディ③	転職に纏わる支援のケース、職場の人間関係問題への支援のケースを検討。心理学理論を応用したアプローチを学ぶ。
第9回	子育てしながら働く女性へのキャリア支援④	子育てしながら働く女性のキャリアの現状及びキャリア支援のあり方について学ぶ。
第10回	キャリアカウンセリングにおける心理アセスメント/ケーススタディ⑤	キャリアカウンセリングにおける心理アセスメントの意義、心理検査の活用方法、職業選択理論を学ぶ。心理検査を用いたケースを検討し、キャリアカウンセリングにおける効果的な心理検査の活用を学ぶ。
第11回	キャリアカウンセリングのケーススタディ⑥	職業性ストレスモデルを学び、職場不適応のケースを検討する。
第12回	キャリアカウンセリングのケーススタディ⑦	ストレス、ストレス・コーピングについて学び、職場不適応のケース（管理職編）を検討する。
第13回	キャリアカウンセリングのケーススタディ⑧	職場のメンタルヘルス問題への対応、キャリアカウンセリングの組織開発への活用について、ケースを通して学ぶ。
第14回	まとめと振り返り	これまでの授業の振り返りと総括のフィードバックを行う。 また、期末レポート作成にあたっての復習ポイントを解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回講義資料の復習、各回の講義に該当するテキスト部分の予習・復習等、本授業の準備・復習時間は、各回計4時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】
「働く人へのキャリア支援－働く人の悩みに応える２７のヒント」
宮脇優子編著　金剛出版　2015

【参考書】
「入門キャリアカウンセリングとメンタルヘルス－基礎知識と実践」
宮脇優子・廣　尚典著　金子書房　2021

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への参加度及び取り組み姿勢）５０％
期末レポート課題　５０％

【学生の意見等からの気づき】
産業組織領域、心理学領域の専門用語やトピックは理解度を確認しながら進めます。ケーススタディは、グループワークでの意見交換・発表も取り入れながら、授業内容への体験的な理解、より深い理解を目指した授業を展開します。

【学生が準備すべき機器他】
第1回の授業のみオンライン授業（オンデマンド形式）となります。オリエンテーション・講義資料（パワーポイントPDF）は学習支援システムへの掲載となるため、学習支援システムからの読み取りに情報機器（パソコン、スマートフォン等のデバイス）が必要になります。

【その他の重要事項】
担当教員は、人材採用広報及び人事教育・人事コンサルティング事業を生業とする民間企業での勤務を経て、民間企業、公的機関において働く人を支援するカウンセラーとして活動をしている。キャリアカウンセラーとしての23年の経験で支援してきた人は5,000人を超える。
上記の実務経験をふまえて、今、現実社会で発生している働く人々の様々な心理的問題に焦点を当て、それらに対するキャリアカウンセラー（キャリアコンサルタント）の援助の実際について授業の中で紹介しながら進めていきます。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students learn about career counseling practices and understand the significance and methods of career counseling by studying various cases of career counseling.
The first phase is to understand the basics of career counseling. The second phase will focus on the requirements for being a career counselor and the counseling procedures as well as the psychological assessment and the application of psychological theories in this field. Lastly, you will examine its practical usage by looking into various cases.
By the end of the course, students should be able to do followings:
－ Understand the basics of career counseling, i.e.its origin, development history, uniqueness of career counseling and the reason why career counseling is required in today's society.
－ Through case studies of career counseling,
① Understand aspects of modern industrial organizations , especially the psychological problems of working people and the social needs for career counselling.
②Understand and learn how to examine of career counseling cases and help working people.
Students will be expected to have completed the required assignments before/after each class meeting, Your study time will be more than four hours for a class.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Learning state in class and in-class contribution:50%,Term-end examination:50%

PSY200MA（心理学 / Psychology 200）

教育相談

田澤　実

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：水4/Wed.4　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：2024年度以前入学者は学部専門科目として履修可能。2025年度以降入学者がこの科目を履修する場合、卒業所要単位外として、教職・資格科目（市ヶ谷）のシラバスに記載されている授業コードで履修してください。
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・学校における教育相談の意義と理論
・教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事柄等）
・教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取組みや連携

【到達目標】
・幼児・児童・生徒の心理的特性や教育的課題を適切に理解する
・幼児・児童・生徒の発達の状況を把握しながら教育相談を進めるための基礎的知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義とリアクションペーパー提出。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	学校における教育相談の意義
第2回	幼児期、児童期の発達	幼児、児童の心理的特質や教育的課題
第3回	青年期の発達	生徒の心理的特質や教育的課題
第4回	成人期の発達	保護者の心理的特質
第5回	カウンセリングの基礎	カウンセリングにおける基本的態度
第6回	カウンセリングの技法	カウンセリングにおける傾聴、質問技法
第7回	教育相談の進め方	教育相談を進める際に必要な基礎的知識
第8回	非行に関する相談	非行に関連した教育相談の具体的な進め方やポイント
第9回	いじめに関する相談	いじめに関連した教育相談の具体的な進め方やポイント
第10回	不登校に関する相談	不登校に関連した教育相談の具体的な進め方やそのポイント
第11回	虐待に関する相談	虐待に関連した教育相談の具体的な進め方やそのポイント
第12回	ひきこもりに関する相談	ひきこもりに関連した教育相談の具体的な進め方やそのポイント
第13回	発達障害に関する相談	発達障害に関連した教育相談の具体的な進め方やそのポイント
第14回	外部機関との連携	組織的な取組みや連携

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題を設ける回がある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
渡部昌平（編著）柴田健・田澤実 2018「実践 教育相談〜個人と集団を伸ばす「最強のクラス作り」〜」川島書店

【参考書】
適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点30％、試験70％にて評価。
〔※試験は論述試験を含む（持ち込み不可）〕

【学生の意見等からの気づき】
昨年度の授業の感想や定期試験の回答傾向を総合的に判断して調整する

【Outline (in English)】
This course provides students with foundational knowledge and skills in educational counseling and school-wide organizational approaches. By the end of the course, students will be able to:
Describe the psychological characteristics and educational challenges faced by learners across developmental stages (infancy through adolescence).
Apply basic knowledge and skills for educational consultation, taking learners' developmental stages into account.
Regular attendance and timely completion of post-class assignments are required. Students are expected to spend more than four hours per class meeting on preparation and review outside of class. The final grade will be based on a final examination (70%) and in-class participation (30%).

PSY200MA（心理学 / Psychology 200）

教育相談

児玉　茉奈美

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：金4/Fri.4　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：2024年度以前入学者は学部専門科目として履修可能。2025年度以降入学者がこの科目を履修する場合、卒業所要単位外として、教職・資格科目（市ヶ谷）のシラバスに記載されている授業コードで履修してください。
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では，学校における教育相談の意義と理論を学ぶ。具体的には，子どもの理解とかかわりの基本的な視点，子どもが現実にかかえる不適応の問題，そのアセスメントやカウンセリングの方法を理解することを目指す。

【到達目標】
・乳幼児や児童，および生徒の心身の発達の過程並びに特徴を理解する。
・乳幼児や児童，および生徒とのかかわりの基本的な視点を身につける。
・現代社会で子どもがかかえる問題について理解を深め，そのアセスメントやカウンセリングの方法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
本授業は主に対面での講義である。毎回授業の出席及びリアクションペーパーの提出を課題とし，リアクションペーパーについては次週フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方を説明する。教育相談の定義を説明し，学校場面における教育相談の意義及び課題を理解する
第2回	子どもの発達	古典的な発達理論を学んだ上で，子どもの対人関係の発達について説明する
第3回	不適応の子どもの理解とかかわり	発達段階ごとの不適応とつまずきを理解し，子どもとのかかわりを考える
第4回	ストレス	ストレス理論やそのコーピングストラテジー（対処方略）について説明する
第5回	精神障害	不安障害やうつ病，統合失調症，摂食障害について説明する
第6回	発達障がい	自閉症スペクトラムやADHD，LDについて説明する
第7回	不登校	不登校の子どもを理解するため，その背景や支援について考える
第8回	いじめ	いじめをする／される子どもを理解するため，その背景や支援について考える
第9回	暴力行為	暴力行為をする／される子どもを理解するため，その背景や支援について考える
第10回	心理教育的アセスメント	見る・聴く・測るという３つのアセスメント方法について説明する
第11回	カウンセリングの理論と実践	精神分析療法や行動療法，クライエント中心療法といった，カウンセリングの基本的な理論について説明したうえで，教育機関におけるカウセリングの方法について理解する
第12回	予防的・開発的な援助	予防をするための取り組みについて説明する
第13回	外部機関との連携	教員同士だけではない，学内外での連携について学ぶ
第14回	試験・まとめと解説	授業内で期末試験を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
［準備学習］次回の授業内容について，テキスト該当箇所を一読し，配布資料の穴埋めをする。
［復習］レジュメを参照しながら，学んだ概念，それに関連する先行研究を調べてみたりして理解を深める。
本授業の準備学習および復習時間は合計４時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
黒田祐二（編著）（2018）実践につながる教育相談　北樹出版　（2100円＋税）

【参考書】
適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末テスト50％，平常点（リアクションペーパーの提出とその質を含む）50％

【学生の意見等からの気づき】
資料の掲示は学期終了時まで継続し，いつでも再度ダウンロードして復習可能にしておくこととする。

【Outline (in English)】
Course outline
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic knowledge on educational counseling and organizational approach.
Learning Objectives
The goal of this course is to understand the development of children to learn how to deal with their problems.
Learning activities outside of classroom
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria
Grading will be decided based on term-end test (50%), short reports in every class (50%).

PSY200MA（心理学 / Psychology 200）

教育相談

土屋　弥生

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：月4/Mon.4　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：2024年度以前入学者は学部専門科目として履修可能。2025年度以降入学者がこの科目を履修する場合、卒業所要単位外として、教職・資格科目（市ヶ谷）のシラバスに記載されている授業コードで履修してください。
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・学校における教育相談の意義と理論
・教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事柄等）
・教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取組みや連携

【到達目標】
教育相談を進めるにあたり、幼児、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式でおこないます。小テストや課題等の提出は「学習支援システム」を通じておこなう予定です。最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った小テスト、課題に対する講評や解説も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	科目の概要（授業の進め方、目標、授業時間内の学習など）、学校における教育相談の意義と課題を知る。
第2回	幼児期、児童期の発達	幼児期、児童期の発達のあり方、この時期に発生しやすい問題や課題について学び、教育相談との関係について考える。
第3回	青年期の発達	青年期の発達のあり方、この時期に発生しやすい問題や課題について学び、教育相談との関係について考える。
第4回	成人期の発達	成人期の発達のあり方、この時期に発生しやすい問題や課題について学び、教育相談との関係について考える。
第5回	カウンセリングの基礎	学校における教育相談に必要な心理学の基礎的な理論・概念、カウンセリングの基礎について学ぶ。
第6回	カウンセリングの技法	教育相談をおこなう上で必要な、受容・傾聴・共感的理解等のカウンセリングの基礎的な姿勢や技法について学ぶ。
第7回	教育相談の進め方	教育現場における教育相談の進め方について学び、学校教育におけるカウンセリングマインドや組織的対応の必要性を理解する。
第8回	非行に関する相談	非行の現状とあり方について学び、事例等を通して、問題や課題に応じた教育相談の進め方について考える。
第9回	いじめに関する相談	いじめの現状について学び、事例等を通して、問題に応じた教育相談の進め方について考える。
第10回	不登校に関する相談	不登校の現状とあり方について学び、事例等を通して、問題や課題に応じた教育相談の進め方について考える。
第11回	発達障害に関する相談	発達障害のあり方と課題について学び、事例等を通して、問題や課題に応じた教育相談の進め方について考える。
第12回	ひきこもりに関する相談	ひきこもりの現状とあり方について学び、事例等を通して、問題や課題に応じた教育相談の進め方について考える。
第13回	虐待に関する相談	虐待の現状について学び、事例等を通して、問題に応じた教育相談の進め方について考える。
第14回	外部機関との連携	医療・福祉・心理等の専門機関について学び、教育相談における外部機関との連携の意義や必要性について理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・第1回「ガイダンス」
事前学習（2時間）シラバスに書かれた内容を理解し、科目の概要をおおよそ把握しておく。
事後学習（2時間）授業内容を振り返り、学校における教育相談の意義と課題についてまとめておく。
・第2回「幼児期、児童期の発達」
事前学習（2時間）児童期の心理、発達について参考書、関連書籍等で調べておく。
事後学習（2時間）授業を振り返り、児童期における問題と教育相談についてまとめておく。
・第3回「青年期の発達」
事前学習（2時間）青年期の心理、発達について参考書、関連書籍等で調べておく。
事後学習（2時間）授業を振り返り、青年期における問題と教育相談についてまとめておく。
・第4回「成人期の発達」
事前学習（2時間）成人期の心理、発達について参考書、関連書籍等で調べておく。
事後学習（2時間）授業を振り返り、成人期における問題と教育相談についてまとめておく。
・第5回「カウンセリングの基礎」
事前学習（2時間）カウンセリングについて参考書、関連書籍で調べておく。
事後学習（2時間）授業を振り返り、カウンセリングの基礎となる理論についてまとめておく。
・第6回「カウンセリングの技法」
事前学習（2時間）カウンセリングの技法について参考書、関連書籍等で調べておく。
事後学習（2時間）教育相談の際に必要なカウンセリングの技法についてまとめておく。
・第7回「教育相談の進め方」
事前学習（2時間）教育相談の進め方について参考書、関連書籍等で調べておく。
事後学習（2時間）学校において必要となるカウンセリングマインドについてまとめておく。
・第8回「非行に関する相談」
事前学習（2時間）非行の現状について、

事後学習（2時間）授業を振り返り、非行の問題に応じた教育相談のあり方についてまとめておく。
・第9回「いじめに関する相談」
事前学習（2時間）いじめの現状について参考書、文部科学省のHP等で調べておく。
事後学習（2時間）授業を振り返り、いじめの問題に応じた教育相談のあり方についてまとめておく。
・第10回「不登校に関する相談」
事前学習（2時間）不登校の現状について参考書、文部科学省のHP等で調べておく。
事後学習（2時間）授業を振り返り、不登校の問題や課題に応じた教育相談のあり方についてまとめておく。
・第11回「発達障害に関する相談」
事前学習（2時間）発達障害について参考書、関連書籍等で調べておく。
事後学習（2時間）授業を振り返り、発達障害の問題や課題に対応する教育相談のあり方についてまとめておく。
・第12回「ひきこもりに関する相談」
事前学習（2時間）ひきこもりの現状について教科書、関連書籍等で調べておく。
事後学習（2時間）授業を振り返り、ひきこもりの問題や課題に応じた教育相談のあり方についてまとめておく。
・第13回「虐待に関する相談」
事前学習（2時間）虐待の現状について参考書、関連書籍等で調べておく。これまでの授業を振り返り、復習しておく。
事後学習（2時間）授業を振り返り、虐待の問題に応じた教育相談のあり方についてまとめておく。
・第14回「外部機関との連携」
事前学習（2時間）学校以外の諸機関の子供・若者支援について、参考書、関連図書等で調べておく。
事後学習（2時間）授業を振り返り、教育相談における外部機関との連携の意義やあり方についてまとめておく。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しませんが、適宜参考書等を参照してください。

【参考書】
『教師と保護者のための子ども理解の現象学』土屋弥生著（八千代出版）
『教師を目指す人たちのための生徒指導・教育相談』望月由起、劉麗鳳編著（学事出版）
文部科学省HP https://www.mext.go.jp/

【成績評価の方法と基準】
小テスト（40％）、期末レポート（40％）、平常点（20％）とする。
小テスト、期末レポートは「学習支援システム」上でおこなう。

【学生の意見等からの気づき】
授業アンケートにおける意見・要望を踏まえ、授業で使用するプリントについて、学生の皆さんの学習がより進めやすいように工夫したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
授業で使用する資料、プリント等はPDFで学習支援システムに掲載する予定ですので、各回とも授業前に各自入手するようにしてください。また、小テスト・課題提出についても学習支援システムを利用しますので、必要な機器等を準備しておいてください。

【その他の重要事項】
担当者は学校心理士スーパーバイザー資格を持つ教員であり、学校教育現場で心理教育的支援をおこなった実務経験をもつ。この経験を基に、実際の教育相談のあり方や進め方についてできる限り具体的に講義をおこなう。

【Outline (in English)】
【Course outline】The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic knowledge on educational counseling and organizational approach.
【Learning Objectives】The goals of this course are to acquire the basic knowledge necessary to appropriately understand and support individual psychological characteristics and educational issues of infants, children, and students while responding to their developmental situations.
【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Lecture/Exercise（two-credits）
【Grading Criteria /Policies】Your overall grade in the class will be decided based on the following
Mini tests: 40%, Term-end report : 40%, in class contribution: 20%

PSY200MA（心理学 / Psychology 200）

教育相談

山上　真貴子

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水4/Wed.4　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：2024年度以前入学者は学部専門科目として履修可能。2025年度以降入学者がこの科目を履修する場合、卒業所要単位外として、教職・資格科目（市ヶ谷）のシラバスに記載されている授業コードで履修してください。
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・学校における教育相談の意義と理論
・教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事柄等）
・教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取組みや連携

【到達目標】
教育相談を進めるにあたり、幼児、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業は原則として、穴埋めプリントを用いた講義形式で行い、適宜視聴覚教材を使用する。また、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。 レポート課題については、フィードバック希望者に対して、個別、または、全体講評をフィードバックする予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	教育相談の進め方	一般的な教育相談の進め方について概説する。
第2回	幼児期、児童期の発達	この時期の発達について知るとともに、この時期に生じやすい教育相談の案件について考える。
第3回	青年期の発達	この時期の発達について知るとともに、この時期に生じやすい教育相談の案件について考える。
第4回	成人期の発達	小中高を過ぎれば教育相談の範囲外？ ―人はある日突然大人になるわけではない
第5回	不登校に関する相談	不登校の現状について解説し、事例を用いて不登校に関する相談について考える。
第6回	ひきこもりに関する相談	ひきこもりの現状について解説し、事例を用いて引きこもりに関する相談について考える。
第7回	いじめに関する相談	いじめの現状について解説し、事例を用いていじめに関する相談について考える。
第8回	非行に関する相談	非行の現状について解説し、事例を用いて非行に関する相談について考える。
第9回	虐待に関する相談	虐待の現状について解説し、事例を用いて虐待に関する相談について考える。
第10回	発達障害に関する相談	発達障害の現状について解説し、事例を用いて発達障害に関する相談について考える。
第11回	カウンセリングの基礎	スクールカウンセラーが行うカウンセリングに関して基礎知識を得る。
第12回	カウンセリングの技法	教師が活用しやすいカウンセリングの技法を紹介する。
第13回	外部機関との連携	学校内での連携およびさまざまな外部機関との連携について考える。
第14回	試験・まとめと解説	後期を振り返りまとめを行う。試験も同日に実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
興味を持ったトピックについて、授業内で紹介する文献を含めた関連書を積極的に参照すること。授業で紹介する各事例については、授業後に再度熟読すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
大家・稲垣（編）2024『グローバル時代の教育相談―多様性の中で生きる子どもと教師』ナカニシヤ出版
その他、事前に授業資料をアップします。希望者には、授業当日に同一内容の印刷資料を配布します。

【参考書】
春日井敏之ら (編) 2011『よくわかる教育相談』ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】
授業に対する理解をもとに，その知識を活用する力を見る期末レポート（30%）、授業に関する基礎的な知識を確認する期末テスト（30%）、および、各回のリアクションペーパーの提出および小テストへの解答等をもとにした平常点（40％）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
毎回のリアクションペーパーに、その授業での疑問点や感想等を書いていただきます。多かった質問や、授業の進行に関わるコメントについては、極力授業でフィードバックを行います。
何かあった時には、早目の報連相を心がけましょう（学期末に相談されても対応できない場合があります！）。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムに授業資料をアップします。今後学習支援システム経由でお知らせ発信をすることも多いかと思いますので、このシステムの使い方に慣れておくようにして下さい。

【Outline (in English)】
COURSE OUTLINE: The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic knowledge on educational counseling and organizational approach.
LEARNING OBJECTIVES:
1. Acquiring an understanding of the significance of educational consultation in schools and the knowledge necessary to proceed with school counseling.
2. Cultivating basic attitudes as a teacher based on understanding psychosocial developmental tasks of today's pupils and students.
3. Learning to work with students with developmental disorders as well as special need education, and work in collaboration with medical and social welfare staff.
LEARNING ACTIVITIES OUTSIDE OF CLASSROOM: Students will be expected to have completed the required assignments after each class meetings. Your study time will be more than four hours for a class.
GRADING CRITERIA/POLICY: Grading will be decided based on term paper(30%), term-end examination(30%), and usual performance score(40%).

PSY200MA（心理学 / Psychology 200）

教育相談

遠藤　裕子

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水3/Wed.3　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：2024年度以前入学者は学部専門科目として履修可能。2025年度以降入学者がこの科目を履修する場合、卒業所要単位外として、教職・資格科目（市ヶ谷）のシラバスに記載されている授業コードで履修してください。
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、学校における教育相談の意義と理論を学ぶ。具体的には、教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事柄等）を身につけ、教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取組みや連携における基本的な考え方を理解することを目指す。

【到達目標】
教育相談を進めるにあたり、幼児、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
・対面でもオンラインでも、対話や双方向のやり取りを出来る限り大切にした授業を行います。
・オンデマンド教材の提供を行います。
・授業の始めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。
1.【教育相談の意義及び理論】(第1回〜第4回)
・学校における教育相談の意義及び課題、教育相談に関わる心理学の基礎的な理論及び概念
2.【教育相談の方法】(第5回〜第6回)
・学校教育におけるカウンセリングマインドの必要性、教育相談を進める際に必要な基礎的知識
3.【教育相談の展開】(第7回〜第14回)
・幼児、児童及び生徒の不適応や問題行動の意味
・教育相談の具体的な進め方やそのポイント及び組織的な取り組み並びに連携

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方を説明する。教育相談の定義を説明し、学校場面における教育相談の意義及び課題を理解する。
第2回	幼児期、児童期の発達	幼児期及び児童期における身体、思考、対人関係の発達などを扱う。
第3回	青年期の発達	青年期における身体、思考、対人関係の発達などを扱う。
第4回	成人期の発達	成人期における発達課題、心身の変化、親子関係の変化を扱う。
第5回	カウンセリングの基礎	相談場面における受容、傾聴及び共感的理解等のカウンセリングの基礎的な姿勢並びに技法を紹介する。
第6回	カウンセリングの技法	児童及び生徒の発するシグナルに気づき把握する方法を扱う。進路選択に資する各種の機会の提供のあり方について考える。
第7回	教育相談の進め方	様々な問題に対する、幼児、児童及び生徒の発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方を紹介し、理解する。
第8回	非行に関する相談	非行が見られ学校が荒れる過程とその収束過程を、事例も見ながら理解する。教育相談の計画の作成及び必要な校内体制の整備等、組織的な取り組みの必要性を理解する。
第9回	いじめに関する相談	いじめの発生・継続の要因について、事例も交え紹介する。
第10回	不登校に関する相談	不登校の発生・継続の要因について、事例も交え紹介する。
第11回	虐待に関する相談	虐待を扱った調査や事例などを紹介し、背景や実態について理解する。
第12回	ひきこもりに関する相談	ひきこもりについて、どのような相談希求があり、どのような支援体制があるのか理解する。
第13回	発達障害に関する相談	自閉スペクトラム症、限局性学習症、注意欠如・多動症について説明する。
第14回	外部機関との連携	地域の医療、福祉及び心理等の専門機関と学校との連携の例を紹介し、その意義並びに必要性を理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に文献を読む、また授業中に取り組んだワークシートを用いて復習する必要が生じる場合があります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは指定せず、必要に応じて、文献の紹介や資料の提供を行います。

【参考書】
・角南なおみ編著 2020 やさしく学ぶ教職課程「教育相談」
・「教育相談の理論と方法」　会沢信彦編著　北樹出版
・文部科学省　『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』（最新版）

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパーや課題(60%)、最終レポート(40%)を総合して成績評価を出します。

【学生の意見等からの気づき】
これまでの授業改善アンケートではすべての項目で概ね良い評価を得ました。継続していくと共に、毎回のリアクションペーパーの記述を大事に扱い、双方向のやり取りが出来るように留意します。

【学生が準備すべき機器他】
教材・資料の提供や課題の提出は学習支援システムを活用しますので、IT機器を準備してください。

【その他の重要事項】
小学校から大学院まですべての校種での教職経験があります。また、心理職の立場での授業や学校運営へのアドバイザーの経験もあり、本授業では関連した事例を取り上げ、具体的な場面から学ぶ機会にもします。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic knowledge on educational counseling and organizational approach.
Acquiring an understanding of the significance of educational consultation in schools and the knowledge necessary to proceed with school counseling
Cultivating basic attitudes as a teacher based on understanding psychosocial developmental tasks of today's pupils and students.

Learning to work with students with developmental disorders as well as special need education, and work in collaboration with medical and social welfare staff.
Your overall grade in the class will be decided based on the following reflective papers and questions: 70%, Term-end report : 30%
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

PSY200MA（心理学 / Psychology 200）

教育相談

土屋　弥生

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：月4/Mon.4　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：2024年度以前入学者は学部専門科目として履修可能。2025年度以降入学者がこの科目を履修する場合、卒業所要単位外として、教職・資格科目（市ヶ谷）のシラバスに記載されている授業コードで履修してください。
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・学校における教育相談の意義と理論
・教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事柄等）
・教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取組みや連携

【到達目標】
教育相談を進めるにあたり、幼児、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式でおこないます。小テストや課題等の提出は「学習支援システム」を通じておこなう予定です。最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った小テスト、課題に対する講評や解説も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	科目の概要（授業の進め方、目標、授業時間内の学習など）、学校における教育相談の意義と課題を知る。
第2回	幼児期、児童期の発達	幼児期、児童期の発達のあり方、この時期に発生しやすい問題や課題について学び、教育相談との関係について考える。
第3回	青年期の発達	青年期の発達のあり方、この時期に発生しやすい問題や課題について学び、教育相談との関係について考える。
第4回	成人期の発達	成人期の発達のあり方、この時期に発生しやすい問題や課題について学び、教育相談との関係について考える。
第5回	カウンセリングの基礎	学校における教育相談に必要な心理学の基礎的な理論・概念、カウンセリングの基礎について学ぶ。
第6回	カウンセリングの技法	教育相談をおこなう上で必要な、受容・傾聴・共感的理解等のカウンセリングの基礎的な姿勢や技法について学ぶ。
第7回	教育相談の進め方	教育現場における教育相談の進め方について学び、学校教育におけるカウンセリングマインドや組織的対応の必要性を理解する。
第8回	非行に関する相談	非行の現状とあり方について学び、事例等を通して、問題や課題に応じた教育相談の進め方について考える。
第9回	いじめに関する相談	いじめの現状について学び、事例等を通して、問題に応じた教育相談の進め方について考える。
第10回	不登校に関する相談	不登校の現状とあり方について学び、事例等を通して、問題や課題に応じた教育相談の進め方について考える。
第11回	発達障害に関する相談	発達障害のあり方と課題について学び、事例等を通して、問題や課題に応じた教育相談の進め方について考える。
第12回	ひきこもりに関する相談	ひきこもりの現状とあり方について学び、事例等を通して、問題や課題に応じた教育相談の進め方について考える。
第13回	虐待に関する相談	虐待の現状について学び、事例等を通して、問題に応じた教育相談の進め方について考える。
第14回	外部機関との連携	医療・福祉・心理等の専門機関について学び、教育相談における外部機関との連携の意義や必要性について理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・第1回「ガイダンス」
事前学習（2時間）シラバスに書かれた内容を理解し、科目の概要をおおよそ把握しておく。
事後学習（2時間）授業内容を振り返り、学校における教育相談の意義と課題についてまとめておく。
・第2回「幼児期、児童期の発達」
事前学習（2時間）児童期の心理、発達について参考書、関連書籍等で調べておく。
事後学習（2時間）授業を振り返り、児童期における問題と教育相談についてまとめておく。
・第3回「青年期の発達」
事前学習（2時間）青年期の心理、発達について参考書、関連書籍等で調べておく。
事後学習（2時間）授業を振り返り、青年期における問題と教育相談についてまとめておく。
・第4回「成人期の発達」
事前学習（2時間）成人期の心理、発達について参考書、関連書籍等で調べておく。
事後学習（2時間）授業を振り返り、成人期における問題と教育相談についてまとめておく。
・第5回「カウンセリングの基礎」
事前学習（2時間）カウンセリングについて参考書、関連書籍で調べておく。
事後学習（2時間）授業を振り返り、カウンセリングの基礎となる理論についてまとめておく。
・第6回「カウンセリングの技法」
事前学習（2時間）カウンセリングの技法について参考書、関連書籍等で調べておく。
事後学習（2時間）教育相談の際に必要なカウンセリングの技法についてまとめておく。
・第7回「教育相談の進め方」
事前学習（2時間）教育相談の進め方について参考書、関連書籍等で調べておく。
事後学習（2時間）学校において必要となるカウンセリングマインドについてまとめておく。
・第8回「非行に関する相談」
事前学習（2時間）非行の現状について、

事後学習（2時間）授業を振り返り、非行の問題に応じた教育相談のあり方についてまとめておく。
・第9回「いじめに関する相談」
事前学習（2時間）いじめの現状について参考書、文部科学省のHP等で調べておく。
事後学習（2時間）授業を振り返り、いじめの問題に応じた教育相談のあり方についてまとめておく。
・第10回「不登校に関する相談」
事前学習（2時間）不登校の現状について参考書、文部科学省のHP等で調べておく。
事後学習（2時間）授業を振り返り、不登校の問題や課題に応じた教育相談のあり方についてまとめておく。
・第11回「発達障害に関する相談」
事前学習（2時間）発達障害について参考書、関連書籍等で調べておく。
事後学習（2時間）授業を振り返り、発達障害の問題や課題に対応する教育相談のあり方についてまとめておく。
・第12回「ひきこもりに関する相談」
事前学習（2時間）ひきこもりの現状について教科書、関連書籍等で調べておく。
事後学習（2時間）授業を振り返り、ひきこもりの問題や課題に応じた教育相談のあり方についてまとめておく。
・第13回「虐待に関する相談」
事前学習（2時間）虐待の現状について参考書、関連書籍等で調べておく。これまでの授業を振り返り、復習しておく。
事後学習（2時間）授業を振り返り、虐待の問題に応じた教育相談のあり方についてまとめておく。
・第14回「外部機関との連携」
事前学習（2時間）学校以外の諸機関の子供・若者支援について、参考書、関連図書等で調べておく。
事後学習（2時間）授業を振り返り、教育相談における外部機関との連携の意義やあり方についてまとめておく。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しませんが、適宜参考書等を参照してください。

【参考書】
『教師と保護者のための子ども理解の現象学』土屋弥生著（八千代出版）
『教師を目指す人たちのための生徒指導・教育相談』望月由起、劉麗鳳編著（学事出版）
文部科学省HP https://www.mext.go.jp/

【成績評価の方法と基準】
小テスト（40％）、期末レポート（40％）、平常点（20％）とする。
小テスト、期末レポートは「学習支援システム」上でおこなう。

【学生の意見等からの気づき】
授業アンケートにおける意見・要望を踏まえ、授業で使用するプリントについて、学生の皆さんの学習がより進めやすいように工夫したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
授業で使用する資料、プリント等はPDFで学習支援システムに掲載する予定ですので、各回とも授業前に各自入手するようにしてください。また、小テスト・課題提出についても学習支援システムを利用しますので、必要な機器等を準備しておいてください。

【その他の重要事項】
担当者は学校心理士スーパーバイザー資格を持つ教員であり、学校教育現場で心理教育的支援をおこなった実務経験をもつ。この経験を基に、実際の教育相談のあり方や進め方についてできる限り具体的に講義をおこなう。

【Outline (in English)】
【Course outline】The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic knowledge on educational counseling and organizational approach.
【Learning Objectives】The goals of this course are to acquire the basic knowledge necessary to appropriately understand and support individual psychological characteristics and educational issues of infants, children, and students while responding to their developmental situations.
【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Lecture/Exercise（two-credits）
【Grading Criteria /Policies】Your overall grade in the class will be decided based on the following
Mini tests: 40%, Term-end report : 40%, in class contribution: 20%

EDU200MA（教育学 / Education 200）

学校論Ⅰ（キャリア形成）

松尾　知明

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：水2/Wed.2　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、ダイバーシティと学校をテーマに、児童生徒の多様なニーズに対応して、学校ではさまざまな特色ある学びの経験が提供されていることについて考察する。前半では、自分自身の学校での学びの体験を振り返るとともに、他の受講生の体験と比較することを通して、学校での学びの経験は人それぞれに異なっていることを知る。後半は、自らの学校経験を踏まえ、国内外のさまざまな特色ある学校について学びながら、自分にとっての理想の学校の企画書を作成する。

【到達目標】
・自分自身の学校体験を振り返り、他者の体験と比較することで、学校での学びの経験は人それぞれに異なっていることに気づくことができる。
・自分自身の学校体験を踏まえ、多様な特色ある学校のビジョンや特徴を学ぶとともに、自分にとっての理想の学校の企画書を効果的に作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
本授業は、グループワークを中心に進めていく。グループで、課題について発表し合ったり、文献や動画をもとに意見交換をしたりする。また、自分自身の学校体験についてのスライド、理想の学校についての企画書を作成し、発表する。なお、対面で授業を実施し、授業のなかで課題についてのフィードバックを行う。また、学習支援システムを活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方
第2回	学びとは何か	学びの場としての学校
第3回	ライフコースと学校 ⑴就学前	就学前の学校・施設での学びとは
第4回	ライフコースと学校 ⑵小学校	小学校での学びとは
第5回	ライフコースと学校 ⑶中学校	中学校での学びとは
第6回	ライフコースと学校 ⑷高等学校	高等学校での学びとは
第7回	学校と私	学びの履歴
第8回	理想の学校を構想する	枠組みと構想
第9回	特別なニーズと学校 ⑴多様なニーズ	多様なニーズと夜間学校
第10回	特別なニーズと学校 ⑵グローバル化	グローバル化と学校
第11回	特別なニーズと学校 ⑶不登校	不登校とフリースクール
第12回	特別なニーズと学校 ⑷問題行動	問題行動と学校
第13回	理想の学校を提案する	発表と質疑
第14回	授業のまとめ	授業の振り返りとテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の準備として、指定された文献や資料などを読んでくる。また、テーマについて調べ、課題に答えたり、パワーポイントスライドを作成したりする。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
文献、資料などは指定または配布する。

【参考書】
文部科学省「学習指導要領」。

【成績評価の方法と基準】
授業への主体的な参加の姿勢（30％）、課題（50％）、テスト（20％）をもとに総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
自分の学校体験の振り返りを踏まえたグループワークの進め方を工夫する。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】
This lesson examines the theme of diversity and schools and how schools offer a variety of distinctive learning experiences in response to the diverse needs of pupils. In the first half of the course, students will reflect on their own school learning experiences and, through comparison with the experiences of other students in the course, learn that school learning is different for everyone. In the second half, the students learn about various distinctive schools at home and abroad, drawing on their own school experiences, and prepare a proposal for an ideal school for themselves.
【到達目標（Learning Objectives）】
▪ By reflecting on their own school experiences and comparing them with the experiences of others, they are able to realise that learning in schools is different for everyone.
▪ Based on their own school experiences, they can effectively prepare an ideal school proposal for themselves, referring to the visions and characteristics of a diverse range of distinctive schools.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Students will be expected to read materials, conduct research and study, reflect on their learning, prepare materials on the subject, and prepare a presentation. The standard preparation and review time is 2 hours each.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】
Grading will be decided based on in class contribution (30%), assignments and presentations (50%) and term-end examination (20%).

EDU200MA（教育学 / Education 200）

学校論 II（キャリア形成）

遠藤　野ゆり

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：火3/Tue.3　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人生の初期の大部分を学校で過ごす、という現代社会を生きる以上、キャリア形成に対する学校生活の影響力は非常に大きい。学校教育の意味と課題もそこには含まれている。そこで本授業では、本講義は「学校に行くこと／行かないこと」がキャリア形成に及ぼす影響を、一般論だけではなく、個々の生徒一人ひとりの具体的なエピソードを分析するなかで考える。また、教育を「学問」として探求するための手法として、データをつなぎ合わせ、教育問題が具体的に人間のキャリア形成に及ぼす影響について考えることを目指す。

【到達目標】
学校生活のキャリア形成に関する文科省、厚労省の示すデータを読み取れるようになることを目指す。
それらのデータが学術的な先行研究においてどのように位置づいているのかを理解すると共に、諸外国や日本国内の学校状況に関する知識を習得する。
実際の学校生活に関する事例を読み、自分の意見を表現できるようになることを目指す。
以上の目標を実現することで、学校教育および学校生活がキャリア形成においてどのような影響を与えているのかを多様な観点から理解することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義科目であり、オンラインと対面との組み合わせで進める。
オンラインでは、知識習得を目的とし、映像学習に加えて自身での調べ学習が含まれる。
対面時は、毎回グループワークがある。グループワークに参加することを単位履修の必須要件とする。またグループワークのために事前に課題を課すことがある。
オンラインと対面にかかわらず、毎回授業後に提出課題がある。課題等については、授業内で一部の意見を取り上げて紹介するほか、寄せられた質問やコメントについては授業資料に回答を明記して配布する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 授業実施の方法	授業の概要と進め方についての説明 「学校の機能」に関する検討
第2回	学校内の人間関係（事例検討）	共通の場所にいるように見えて学校という空間およびその人間関係の見え方は立場によって大きな違いがある。映像資料をもとに立場ごとに学校経験にどのような違いがあるのかを考える。
第3回	若者の人間関係形成の力学とその変化（講義）	「スクールカースト」「キャラ化」などの「若者論」の展開について学び、世代ごとの「若者」がその後どのようなキャリアに向かっていくのかを歴史的に追っていく。
第4回	教室空間と感覚過敏（事例検討）	不登校の原因の一つとして、視線恐怖などの社交不安障害や、感覚過敏などの発達障害がある。当事者の空間感覚を映像や文章から読み取る。
第5回	認知特性と空間環境が不登校等の学校適応に及ぼす影響（講義）	認知特性の構造や影響を理解し、学校適応の条件を捉える。また、不登校に関する近年の傾向をデータから読み取る。
第6回	ヤング・ケアラー（事例検討）	経済的な貧困に加え家族のケアを子どもながら担う人はどのような人生観を抱くのかをインタビューデータから読み取る。
第7回	貧困と社会関係資本（講義科目）	家計が学力に与える影響と、その後のキャリアに与える影響とを、様々なデータから読み取る。
第8回	過保護がキャリアに与える影響（事例検討）	過保護な環境で育つことの功罪についてインタビュー調査から読み取る。
第9回	文化資本と教育虐待（講義）	教育に正の影響を与えるとみなされやすい文化資本の高さがキャリアに与える影響と教育虐待との関係についてデータから読み取る。
第10回	受験がキャリアに及ぼす影響（事例検討）	思春期に大きな影響を及ぼす「受験」に関する事例を検討する。
第11回	地方・複線系学校システム・カリキュラム（講義）	都市部と地方における受験の違いや、進学校と進路多様校のカリキュラムの違いから、受験がキャリアに与える影響を捉える。
第12回	学歴がキャリアに及ぼす影響（事例検討）	学歴に翻弄された人生の事例を検討する
第13回	日本と海外における学歴の意味の違い（講義）	学歴がキャリアに与える影響を国際比較して捉える。
第14回	総括・ふりかえり	本講義全体を通して学校がキャリアに与える影響を整理する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
グループワークで読む事例は事前に課題とともに指示しますので、必ず予習をして臨んでください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
特にありません。必要に応じて講義内で配布します。

【成績評価の方法と基準】
毎回の事後課題39%、対面授業におけるグループワークの成果18%、期末テスト43%

【学生の意見等からの気づき】
グループワーク時には学生間の意見交換が深まるようにプログラムを組みます。

【学生が準備すべき機器他】
対面授業時は、パソコン（タブレット可）を持参してください。
大学のGoogleアカウントにサインインできるようにしておいてください。

【その他の重要事項】
受講生の興味関心に応じて授業のテーマは変更する可能性があります。

【Outline (in English)】
Course outline: As we spend most of our early life at school, the influence of school life on our career development is very great. The significance and problems of school education are included therein. Therefore, in this class, in this classes we think about the influence of "going to school / not going" on career formation not only in the general theory but also in analyzing each concrete episode of each individual student. As a method to explore education as "academics", we aim to think about the influence of educational problems on human career formation concretely by joining data.
Learning Objectives: Students are required to get skill to read the culture, sports, science and technology data　regarding career development in school life. presented by the Ministry of Education and the Ministry of Health, Labor, and Welfare. They are also required to understand how these data are positioned in academic precedent research and to acquire knowledge about school conditions in other countries and Japan. These requires are for students to be able to express their own opinions by reading case studies related to actual school life. By realizing the above goals, we aim to understand from various perspectives how school education and school life affect career development.
earning activities outside of classroom：
You will be instructed in advance about the examples to be read in the group work along with the assignments, so please be sure to prepare for the lessons. The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.
Grading Criteria /Policy：
Group work results in class: 18%, post-work assignments: 39%, final exam: 43%.

EDU200MA（教育学 / Education 200）

学校論III（キャリア教育）

児美川　孝一郎

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：火4/Tue.4　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本におけるキャリア教育の現状と課題

【到達目標】
①　キャリア教育とはなにか，その教育方法はいかにあるべきか，なぜキャリア教育が必要なのか等について，基本的な概念や考え方を理解する。
②　日本におけるキャリア教育の登場と展開の経緯について，基本的な事実，データ，社会的背景等を知るとともに，現状における問題点や課題を適切に理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
　講義形式の授業であるが，可能な範囲で，受講者からの質疑や意見を求めたり，小課題の提出を求めたりする。
　諸外国におけるキャリア教育の展開について，比較研究的な視点を持つことは重要であるが，本授業の対象は，主要には日本の学校教育におけるキャリア教育である。諸外国の事例については，日本との対比において参考になる点を示唆するにとどめる。
　本授業の守備範囲は，日本におけるキャリア教育の歴史，理論，政策，学校レベルにおける施策である。
　提出されたリアクションペーパーや課題等へのフィードバックは，次回の授業の最初にまとめて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業計画について概説するとともに，基本概念である「キャリア教育」について，本講義における共通理解の前提を確かめる。
第2回	職業教育からキャリア教育へ	内外のキャリア教育の成立史を概説し，職業教育とキャリア教育との異動について解説する。
第3回	権利としてのキャリア教育	いま，なぜキャリア教育が必要なのかという点とかかわって，権利としてのキャリア教育について解説する。
第4回	日本における職業指導と進路指導	戦前・戦後の日本における職業指導・進路指導の歴史について概説し，それぞれの時期における特徴や問題点について考察する。
第5回	進路指導改革としてのキャリア教育	現在のキャリア教育の源流のひとつとして，1990年代前半の進路指導改革の動きについて概説する。
第6回	若年就労支援策としてのキャリア教育	現在のキャリア教育の源流のもうひとつとして，政府レベルでの若年就労支援策の展開について概説する。
第7回	日本のキャリア教育の現状と課題	キャリア教育の登場以降の学校現場における取り組みを概観し，その特徴と問題点について考察する。
第8回	職場体験・インターンシップ	キャリア教育への取り組みとしての職場体験・インターンシップについて，現状と課題を考察する。
第9回	進路指導としてのキャリア教育	キャリア教育への取り組みとしての進路指導について，現状と課題を考察する。
第10回	教科教育を通じたキャリア教育	キャリア教育への取り組みとしての教科を通じてのキャリア教育について，現状と課題を考察する。
第11回	キャリア教育の担い手と組織体制	キャリア教育の担い手と学校内の組織体制のあり方について，現状と課題を考察する。
第12回	外部との連携	キャリア教育をすすめていくうえで不可欠な外部との連携について，いくつかの事例を踏まえて，考察する。
第13回	諸外国におけるキャリア教育	諸外国におけるキャリア教育への取り組みを紹介しつつ，日本のキャリア教育の現時点での到達点を確認し，今後の課題について考察する。
第14回	授業のまとめと試験	授業のまとめと試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　次回の授業内容については，学習支援システムにおいて予告されるので，自分なりの問題関心を深め，事前に資料・データ等を調べたうえで，授業にのぞむこと。
　それぞれの授業時に紹介される参考文献については，自主的に読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に定めない。

【参考書】
児美川孝一郎『権利としてのキャリア教育』明石書店
児美川孝一郎『若者はなぜ「就職」できなくなったのか』日本図書センター
児美川孝一郎『キャリア教育のウソ』ちくまプリマー新書
児美川孝一郎『夢があふれる社会に未来はあるか』ベスト新書
児美川孝一郎『キャリア教育がわかる』誠信書房
授業時にも，随時，紹介していく。

【成績評価の方法と基準】
平常点（40％）
授業内試験（60％）

【学生の意見等からの気づき】
受講者に対するフィードバックを大切して授業運営をすすめる。

【その他の重要事項】
この授業は，情報の読解・分析力，課題発見・解決力の養成につながる諸課題を，授業運営の中に組み込んでおり，広い意味での受講生の就業力育成に資する。

【Outline (in English)】
This course introduces the current condition and issues of career education in Japan.
The goal of this course is to understand the theory and practice of career education.
Students will be expected to work on the indicated task after each class meeting.
Your overall grade in the class will be decided based on in-class contribution (40%) and term-end report (60%).

EDU200MA（教育学 / Education 200）

学校論Ⅳ（キャリア教育）

池田　佳代

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木2/Thu.2　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会的事業（社会課題を積極的に解決しようとする取り組み）の担い手は、行政・企業そして市民という３つのセクターに分類できる。各セクターは単独で事業を行うだけでなく、協働・助成・委託といった枠組みによって事業を行うことを通して、より丁寧に社会のニーズに応えようとする実態もみられる。それは市民的権利に基づく相互扶助の実践であり、共生社会の実現を目指す営みともいえる。本授業では環境・平和・地域福祉の分野で活動する市民セクターに注目し、社会課題に向けた実践の意義や可能性を検討する。それを踏まえて、それぞれの現場で”働く”人々の学びや市民セクターが果たす役割の重要性について理解することを目的とする。
関連するキーワード：コミュニティ、社会運動、非営利、市民社会、環境、平和、福祉

【到達目標】
1,「働くこと」や市民セクターにかかわる用語の意味や概念、活動形態や内容・メンバーシップ・社会問題への取り組みについて理解する。それにより多様なアクター・組織・イデオロギーのもとで社会が動いていることを洞察する力を育む。
2, 与えられた情報をもとに調べ・話し合い・発表し合うことにより学びを発展させる力（アカデミック・スキル)を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、Z その他 /Other

【授業の進め方と方法】
１，講義のほかグループワーク、ワークショップ等の主体的な学びの方法（アクティブ・ラーニング）を取り入れる。それに向けた自主的なフィールドワークを推奨する。
２，学生はグループワークに向けた資料の作成、授業の成果物としてレポートを提出する。
３, 発表及び提出物についてのフィードバックは授業中或いはHoppiiにおいて行う。
４, 必要に応じて取り上げる事例に詳しい実践家や専門家を招聘する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション〜働くとは	1,授業計画 2,「働くこと」に関わる言葉の意味や概念から考える
第2回	市民セクターの種類・制度・活動形態〜	1,自主事業・行政や企業との協働・助成・委託など多様な実践から考える 2,グループワークの進め方／アイスブレイク
第3回	環境分野の市民セクター（1）	未来へのアジェンダ〜地域NPOが担う環境行政関連事業＜国内事例＞
第4回	環境分野の市民セクター（2）	大学生が始めた脱炭素運動／鉱山開発による生活の破壊をデータで指摘する＜国際環境NGOの事例＞
第5回	環境分野の市民セクター（3）	気候危機とSDGs〜グローバルな人権問題と脱炭素に向けたエネルギー政策及び民間の取り組み
第6回	ワークショップ	気候正義に向けて私たちにできること〜討論及び発表
第7回	平和分野の市民セクター（1）	米軍基地と住民そして日本政府〜生活の現場からの訴え：何が変わり何が変わらないのか
第8回	平和分野の市民セクター（2）	核兵器禁止条約と地域安全保障の枠組み〜被ばく者とNGOの国際的な連携が生み出した変化
第9回	平和分野の市民セクター（3）	市民による外交・核兵器・平和構築〜歴史を踏まえた教育的活動
第10回	ワークショップ	平和な未来をどう創る？ 市民セクターの課題と可能性：討論及び発表
第11回	地域福祉分野の市民セクター（1）	地域力で貧困の連鎖を断ち切る〜多様なニーズに寄り添う学習支援活動
第12回	地域福祉分野の市民セクター（2）	住まいがない！ 〜不動産業界とNPOの協働による居住支援活動
第13回	地域福祉分野の市民セクター（3）	ワークショップ：子どもの話を聴く活動〜子どもの権利どう守る？
第14回	グループワーク（最終）	地域福祉分野の市民セクター調べ（自主・助成・委託・連携・協業の実践）に関する討論及び発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等)】
本授業の準備・復習時間には各2時間を標準とします。文献を読み、調べ、レポートにまとめて提出する活動を繰り返し行います。

【テキスト（教科書)】
各回の内容に合わせて使用する文献は参考書欄に記載している。そのうちの一部はプリント資料として配布するが、事前に入手することを推奨する。大学図書館や公共図書館などを通して事前に参照しておくこと。

【参考書】
1, アクティブラーニングの方法：ハード・ガブリエレ著 2016年『環境メディア・リテラシー―持続可能な社会に向かって』関西学院大学出版会（授業では特にp.48-70を参照します）
2, 働くことに関する用語：レイモンド・ウィリアムス著　2011年『完訳　キーワード辞典』平凡社
3, 環境分野：平田仁子/豊田陽介/ギャッチ・エバン/三谷優衣子著 2023年『気候変動を学ぼう―変化の担い手になるために』合同出版
4, 平和分野：ピースアルマナック刊行委員会編著 2025年『ピースアルマナック　核兵器と戦争のない地球へ』緑風出版
5, 地域福祉分野：川崎あや著2020年『NPOは何を変えてきたか―市民社会への道のり』有信堂
ほか授業中に適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加と運営への貢献、レポート等の提出：70％
最終レポート：30％

【学生の意見等からの気づき】
「働くという言葉は複数あり、そこに歴史的な経過が関連していることがわかった」「自分の将来をより幅広く展望することにつながった」「グループワークでは異なる意見を聞くことで刺激を受けた」「サスティナブルキャンパスを調べたことで地球温暖化に対して自分にもできることがあると感じられた」「反戦デモなどに今までは無関心だったが、平和にむけて多くの取り組みを知り、自分事としてとらえることができた」「空き家は戸建てだけではないと知り、メディア報道ではなぜ空き家＝戸建てという視点でしか伝えていないのか疑問に思った」「子どもを支援する活動について理解が深まった。今後は地域レベルの取り組みをさらに調べたい」などの意見がありました。グループワークを取り入れたことにより、自分一人の調査ではたどり着けなかった情報を得ること、話し合いを通じてさまざまな視点や意見に接することにより理解力が増したというコメントが多くありました。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出等のために学習支援システム等を利用します。

【その他の重要事項】
・授業計画等の変更等に関する連絡は授業中もしくは学習支援システムの「タイムライン」を主に使用します。
・提出されたレポートについては、必要に応じて類似性や剽窃、AIの誤用なども意識しながらチェックします。

【Outline (in English)】
（Course outline）
This class will focus on the civil society sector, which is active in community welfare, the environment, and peace-building. Learn how the three sectors of government, business and citizens complement each other in order to meet the needs of society. Furthermore, understand that these activities lead to mutual assistance and joint growth in civil society.
（Goal）
1, Understanding of the meaning of terms, and develop the ability to gain insight into how society operates under the influence of diverse actors, organizations, and ideologies.
2. Students develop their learning ability (academic skills) by investigating, discussing and presenting based on the information provided.
（Learning activities outside of classroom）
Lecture :Before/after each class meeting, students will be expected to spend more than two hours to understand the course content or to read, research, write.
（Grading Criteria /Policy）
Active participation and contribution, submission of reports: 70%
Final Report: 30%

EDU200MA（教育学 / Education 200）

生涯学習論Ⅰ（生涯学習支援論Ⅰ）

松橋　義樹

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：木1/Thu.1　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・授業の概要
　生涯学習支援に関する事項として、学習支援に関する教育理論、効果的な学習支援方法、参加型学習の実際とファシリテーション技法に関する講義および演習を行う。
・授業の意義・目的
　社会教育主事に求められる資質・能力のうち、学習者の多様な特性に応じた学習支援に関する知識及び技能の習得を図る。

【到達目標】
　学習支援に関する教育理論については、発達課題と学習課題、学習者及び学習内容の捉え方、多様な学習の形態・方法について理解する。効果的な学習支援方法については、コーディネートおよびカウンセリングの技法、情報提供と学習相談の方法、多様なメディアの活用方法を習得する。参加型学習の実際とファシリテーション技法については、主に学習者・学習内容別の参加型学習の進め方を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
　毎回、予習課題と復習課題を出題し、授業の冒頭で予習・復習課題への解答に対する教員からのコメントを行う。その後、各回のテーマに即した講義および演習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	生涯学習支援の多様性	生涯学習支援は学習者・学習目的・学習内容・学習方法などのいずれの側面においても多様であることを、実践例をもとに解説する。
第2回	生涯発達論の意義と展開	生涯学習支援における生涯発達論の意義とともに、社会の変化に伴う生涯発達論の展開について解説する。
第3回	学習者としての青少年理解	学習としての青少年の特徴について、青少年を対象とした各種調査結果をもとに解説する。
第4回	学習者としての成人理解	学習としての成人の特徴について、アンドラゴジーをはじめとする成人学習論をもとに解説する。
第5回	学習者としての高齢者理解	学習としての高齢者の特徴について、ジェロゴジーをはじめとする各種理論をもとに解説する。
第6回	学習情報提供・学習相談の実際	社会教育施設等で行われている学習情報提供・学習相談の現状と課題および具体的手法について、実践例をもとに解説する。
第7回	社会教育におけるメディア活用の実際	社会教育活動の中でのメディア活用の現状と課題および具体的手法について、実践例をもとに解説する。
第8回	社会教育におけるコーディネート・カウンセリングの実際	社会教育活動の中で行われているコーディネート・カウンセリングの現状と課題および具体的手法について、実践例をもとに解説する。
第9回	特別な配慮を必要とする学習者支援の基本的な考え方	特別な配慮を必要とする学習者を支援する上での基本的な考え方について、社会的包摂や合理的配慮の概念をもとに解説する。
第10回	参加型学習の意義と展開	社会教育活動における参加型学習の意義とともに、社会の変化に伴う参加型学習の展開について解説する。
第11回	青少年教育における参加型学習とファシリテーションの実際	青少年教育における参加型学習とファシリテーションの進め方について、実践例をもとにグループワークを行う。
第12回	成人教育・高齢者教育における参加型学習とファシリテーションの実際	成人教育および高齢者教育における参加型学習とファシリテーションの進め方について、実践例をもとにグループワークを行う。
第13回	特別な配慮を必要とする学習者支援における参加型学習とファシリテーションの実際	特別な配慮を必要とする学習者支援における参加型学習とファシリテーションの進め方について、実践例をもとにグループワークを行う。
第14回	これからの生涯学習支援のあり方	本科目の授業の総括として、これからの生涯学習支援のあり方について講義およびグループワークを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　予習課題および次回の授業資料の講読に毎週1時間、復習課題に毎週1時間取り組むこと。加えて、中間レポートの執筆に10時間、期末レポートの執筆に20時間取り組むこと。

【テキスト（教科書）】
　使用しない。使用する資料は毎回、電子データで配布する。

【参考書】
・清國祐二・国立教育政策研究所社会教育実践研究センター編『生涯学習支援論ハンドブック』ぎょうせい、2020年
・小池茂子・本庄陽子・大木真徳編『生涯学習支援の基礎』学文社、2022年

【成績評価の方法と基準】
・予習課題および復習課題への取組状況　20%
・中間レポート　30%
・期末レポート　50%

【学生の意見等からの気づき】
　個人単位での演習物に対するフィードバックを必ずしも十分に行えていなかったと考えられることから、対面とオンラインを併用したよりきめ細やかなフィードバックを行いたい。

【学生が準備すべき機器他】
　特になし。（各自がパソコンを持参する前提）

【その他の重要事項】
　本科目は、社会教育主事講習等規程第11条に規定された「生涯学習支援論」に該当する。社会教育主事基礎資格取得、社会教育士（養成課程）の称号取得のための必修科目である。

【Outline (in English)】
(Outline)
This course provides students with basic knowledge and skills on educational theories related to learning support, effective methods of learning support, practical participatory learning, and facilitation techniques.
(Learning Objectives)

The goal of this course is to acquire knowledge and skills related to learning support tailored to the diverse characteristics of learners.
(Learning activities outside of classroom)
Spend 2 hours each week on pre-class assignments and reading materials for the next lesson, and 1 hour each week on review assignments. Additionally, dedicate 15 hours to writing the final report.
(Grading Criteria/Policy)
・Engagement in pre-class and review assignments:30%
・Participation in group work:30%
・Final report:40%

EDU200MA（教育学 / Education 200）

生涯学習論Ⅱ（生涯学習支援論Ⅱ）

久井　英輔

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水1/Wed.1　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会教育における実践的な学習プログラムの作成手法や作成の際に必要な視点について解説し、それらの知識を活用して、地域社会の背景を踏まえた学習プログラム案作成のグループワークを行う。
（授業の目的・意義）
グループワークによる学習プログラム案の作成というプロセスを通じて、社会教育職員あるいは社会教育における学習支援者に求められる実践知（理論知を現実の状況に応じて適切に活用する能力）を体得する。

【到達目標】
社会教育における様々な学習支援技法を活用した学習プログラムの作成手法を理解する。また、これらの知識を生かして、地域社会の背景を踏まえた学習プログラム案を作成する基本的な実践力を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
最初の数回は、学習プログラム作成の基本的手法を学んだうえで、既存の学習プログラム（公民館などの社会教育施設が実際に実施した講座）を学生が検討し、学習プログラムに対する批評眼を養う。
これらを踏まえて、具体的な自治体／地域を想定して、グループワークで学習プログラム案（対象地域の特性の把握、実際の自治体社会教育計画の把握、学習プログラムの目的・概要と展開案、参加者対象アンケート案、広報案）を作成する。
作成した学習プログラム案については、教員、ゲストコメンテーター（社会教育施設職員）からだけでなく、学生相互にコメントし、個々人でより改善を進めたものを最終レポートとして提出する。グループワークでの成果に対する教員からのフィードバックは、授業内でのディスカッションを通して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス：社会教育における学習プログラムとは	社会教育における学習プログラムの特色について概観する
第2回	学習プログラム作成の現場から（ゲストスピーカー講義）	ゲストスピーカー（社会教育施設職員）から学習プログラム作成、実施、評価の実際について、情報提供していただく。
第3回	学習プログラム作成の基本的な手法①	社会教育の学習プログラム案作成の基本的な視点、および標準的な手順について解説する。
第4回	学習プログラム作成の基本的な手法②	地域社会の特性・課題把握、自治体社会教育計画との関連性、学習成果活用との関連性、広報の手法、調査データ活用、評価手法、など学習プログラムの企画・実施・評価に必要な構成要素について詳細に解説する。
第5回	学習プログラムの実例検討①	社会教育施設等における既存の学習プログラムを各受講者が選定しその詳細を調査する。
第6回	学習プログラムの実例検討②	社会教育施設等における既存の学習プログラムについて、各受講者が選定したプログラムの意義について発表し、質疑応答を行う。
第7回	学習プログラムの実例検討③	社会教育施設等における既存の学習プログラムについて、各受講者が選定したプログラムの改善すべき点について発表し、質疑応答を行う。
第8回	地域課題の把握	任意の地域（市町村など）を各受講者が選定し、その地域の課題、教育・学習・文化環境や、社会教育に関わる政策環境について個人レポートの発表を通じて把握する。
第9回	学習プログラム案の作成①	任意の地域を対象とした個人レポートの成果を基に、グループに分かれて一つの地域を選定し、地域社会の課題について、またその課題を背景とした学習プログラムの目的・概要を作成する。
第10回	学習プログラム案の作成②	グループ毎に、学習プログラム各回実施内容の詳細、学習成果活用の方向性、広報手法等に関する案を作成する。
第11回	学習プログラム案の作成③	グループ毎に、学習プログラムの受講者アンケート案、評価方法に関する案を作成する。
第12回	学習プログラム案の発表①	グループ毎に完成した学習プログラム案を発表する。
第13回	学習プログラム案の発表②	グループ毎の学習プログラム案について、学生間の質疑応答や社会教育施設職員（ゲストコメンテーター）を通じてその意義と課題を論じる。
第14回	学習プログラム案の振り返り	グループ毎に学習プログラム案の作成プロセスを振り返り、改善すべきポイントを明確化する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・個人ワーク、グループワークともに、授業時間外での準備時間が十分に必要となるので、留意すること。
・各回の授業後、参考書や授業内で提示した参考文献の関連箇所を読むこと。
・本授業の準備学習・復習時間は合わせて各回4時間以上を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。

【参考書】
髙井正・中村香編『生涯学習支援のデザイン』玉川大学出版部、2019年
国立教育政策研究所社会教育実践研究センター（清國祐二編集代表）『生涯学習支援論』ぎょうせい、2020年

【成績評価の方法と基準】
各回のコメントシート　30％
グループワークへの貢献度　20％
個人発表・グループ発表　25％
全体でのディスカッションへの貢献度　15％
学習プログラムの改善案（最終の個人レポート）　10％

【学生の意見等からの気づき】
受講者数によってグループワーク、発表、質疑応答にかける時間が大きく変化する授業である。例年受講者数がかなり変動するので、スケジュール、タイムテーブルについては、学生数に応じてある程度柔軟に対応できるよう心がけたい。また、後半のグループワークについて学生からの要望をうけて、グループワーク開始の際の工夫、またグループワーク実施回数増を予定している。

【学生が準備すべき機器他】
ノートPC（グループワーク等で使用）

【その他の重要事項】
本科目は、社会教育主事講習等規程第11条に規定された「生涯学習支援論」に該当します。社会教育主事任用資格取得、社会教育士（養成課程）の称号取得のための必修科目です。

【Outline (in English)】
(Course Outline)
The aims of this course are to provide students with knowledge on practical methods for planning learning programs in social education, and to supports group work of students for planning learning programs by utilizing basic knowledge.
(Learning Objectives)
The goals of this course are to help students to acquire “practical knowledge” (the ability of utilizing theoretical knowledge according to situation) for staffs or learning supporters of social education, by experiencing the process of planning learning programs.
(Learning Activities Outside of Classroom)
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
(Grading Criteria /Policy)
Final grade will be calculated according to the following process:
Submission of comment sheets: 30%
Contribution to group work: 20%
Individual presentation and group presentation: 25%
Contribution to discussion in class: 15%
Term-end report: 10％

FRI200MA（情報学フロンティア / Frontiers of informatics 200）

図書館情報学概論Ⅰ

村上　郷子

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：火1/Tue.1　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：2024年度以前入学者は学部専門科目として履修可能。2025年度以降入学者がこの科目を履修する場合、卒業所要単位外として、教職・資格科目（市ヶ谷）のシラバスに記載されている授業コードで履修してください。
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
図書館情報学の入門として、生涯学習の観点から、図書館活動の各領域についての基礎的なコンセプトを総合的に学ぶ。

【到達目標】
図書館情報学の基礎を学び、生涯学習施設の一つである図書館についての基本的な知識や概念を包括的に習得することができる。
図書館ツアーでは、市ヶ谷図書館の現場（事務室）で、図書館の運営方針、予算などを実際に職員に聞くことによって、図書館の実際について深く学ぶことができる。また、現場の見学から得られた知識や体験を基にした小レポートを書くことにより、授業を通じて得られた知識や体験をより確実にすることができる。
授業の初めに、前回の授業の簡単な確認クイズを行うことにより、知識を定着することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業の初回のみオンラインで行う。Hoppiiで、ZoomのURLを確認すること。
授業ではテキストを中心に、Hoppiiを活用しながら、図書館情報学に関する多様な知識や概念を総合的に理解することをめざす。必要に応じて、図書館の見学や映像資料の視聴、グループデスカッション、図書館見学の小レポートなども課す。
毎回授業の初めに、前回の授業の確認クイズを行う。確認クイズのフィードバックは確認クイズ回収後直ちに行い、知識の定着を図る。
メディア情報リテラシーのアンケート調査等も行う。アンケート調査やグループディスカッションの感想等については、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業及び授業用グループウェア(Hoppii)の利用ガイダンス、図書館とは何か
2	図書館の意義と役割①	図書館法、生涯学習社会の到来、教育観の変化、情報社会と図書館等
3	図書館の意義と役割②	図書館協力・ネットワーク、出版文化と図書館、著作権等
4	図書館の理念と図書館員の職務	図書館の自由、図書館員の倫理綱領（専門職とは何か、図書館員の対応）等
5	図書館法規と行政、施策	図書館の法的基盤、教育基本法と社会教育、地方自治法、国の図書館行政と施策等
6	地域社会と公共図書館（制度・機能）	地域の情報拠点としての図書館、市民参加、公共図書館の機能、制度、諸問題等
7	学校図書館及び大学図書館の制度と機能	学校図書館及び大学図書館に関する法律、機能、諸問題等
8	市ヶ谷図書館ツアー・ガイダンス（予定）	図書館ツアーの小レポートを課す。
9	国立国会図書館及び専門図書館の制度と機能	国立国会図書館及び専門図書館に関する法律、機能、諸問題等
10	日本の図書館の歴史	古代〜現代
11	世界の図書館の歴史①	古代〜中世
12	世界の図書館の歴史②	近世〜現代
	外国の図書館	アメリカ、イギリス、北欧、中国等
13	図書館の類縁機関・関係団体	国際機関、図書館協会、図書館関係団体等
	図書館の課題と展望	図書館の挑戦と課題（ケース・スタディ）
14	総まとめ	筆記試験・まとめと解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの該当頁を事前に必ず読んでおくこと。また、授業のレジメを事前に司書資格課程の授業ポータルサイトからダウンロードし、空欄を埋めておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
塩見昇　編、『図書館概論』、日本図書館協会、最新版
(JLA図書館情報学テキストシリーズ 3-1)

【参考書】
高山正也、岸田和明　編集、『図書館概論』樹村房、2017 (現代図書館情報学シリーズ)ISBN-10: 4883672719 ISBN-13: 978-4883672714

【成績評価の方法と基準】
毎回の確認アンケートクイズ（30％）、図書館ガイダンスのレポート（20％）、筆記試験（50％）によって総合的に評価する。
全ての提出物は、授業用グループウェア(Hoppii)上にアップロードすることを原則とする。毎回授業の初めに小クイズを行うため、遅刻・欠席が多いとそれだけ得点が減るので注意すること。また、授業開始より20分経過して入室した者は遅刻とする。

【学生の意見等からの気づき】
授業の進度が早いという指摘がいくつかあったので、話す内容を精査したい。

【その他の重要事項】
本授業では、50人収容の情報実習室で行われる。50人以上の場合は、最初の授業で、(1) 上級生 (2) 図書館資格課程の履修生の優先順位で受講生を確定する。2回目以降の受講は認めない。
最初の選抜で受講者の権利を得たが、本授業を履修しないと決めた者は、速やかに教員に連絡すること。

【Outline (in English)】
(Course outline) : As an introduction to Library Information Science, students will learn foundations and basic concepts of libraries from the viewpoint of lifelong learning.
(Learning Objectives): Students will learn the basic concepts of library and information science and gain comprehensive knowledge of basic knowledge and concepts about libraries.
(Learning activities outside of classroom) : Students should read the relevant pages of the textbook in advance. In addition, students should download the class learning materials in advance and fill in the blanks. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
(Grading Criteria /Policy) : Comprehensive evaluation will be made based on each confirmation questionnaire quiz (40%), library guidance report (20%), and written exam (40%).

FRI200MA（情報学フロンティア / Frontiers of informatics 200）

図書館情報学概論 I

原田　隆史

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：月2/Mon.2　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：2024年度以前入学者は学部専門科目として履修可能。2025年度以降入学者がこの科目を履修する場合、卒業所要単位外として、教職・資格科目（市ヶ谷）のシラバスに記載されている授業コードで履修してください。
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
1. 図書館情報学とは何かに関する理解
2. 情報の収集・整理・利用，およびその実践の場である図書館に関する基礎的な知識の習得
3. 情報メディアや情報検索に関わる基礎的な知識の習得

【到達目標】
1. 図書館・情報学についての基本的な知識を身につけ，情報の収集・整理・利用およびその実践の場である図書館や各種の情報提供機関に関して理解できる
2. 現代社会での情報の生産・流通・処理・提供・利用・制度に関して，基本的な考え方・知識・技法，社会に及ぼす影響などについても理解できるようになる
3. 上記のような考え方・知識・技法が，図書館や情報提供機関の仕事およびサービスにどのように生かされるのか，その際に留意すべきことは何かについても考えを深められる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
　図書館・情報学とは何かについて，さまざまな新しいトピックを含めて解説していきます。まず，情報の収集・整理・利用およびその実践の場である図書館に関する内容を中心に説明し，続いて情報メディアや情報検索に関わる内容を中心に講義します。図書館は，単に図書を集め，保存し，提供するという役割だけではなく，様々なサービスを行っています。図書館の持つ大きな可能性について知っていただきたいと思います。また，ネットワーク時代の図書館サービスも含め，実際の情報収集活動にも役立つ様々な知識を学ぶことができるように工夫していきます。
　授業に対するフィードバックとしては，授業後に受講者からのコメント・質問などを集め，次の授業時に提出されたリコメント・質問などからいくつかを取り上げて全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	図書館とは，図書館情報学とは何か	ガイダンスと授業の概要
2	図書館と情報メディアの歴史	図書館と情報メディアの意義・機能・歴史について述べます
3	現代の公共図書館・明治期以降の公共図書館の変化	現代の公共図書館はどのように成立したのか，またどのように変化し何が変わらないのか講義します
4	図書館の種類	図書館の種類と役割・特徴などについて講義します。
5	図書館の諸機能(1)	直接サービス，レファレンスサービスについて説明していきます
6	図書館の諸機能(2)	間接サービス，テクニカルサービスとは何かについて説明していきます
7	知的自由と図書館	図書館の自由に関する宣言や，図書館員の専門性についても説明します
8	図書館における児童サービス	公共図書館で行われる児童サービス，ヤングアダルトサービスについて解説します
9	図書館と出版流通	日本の出版状況などについて説明するとともに，図書館と出版流通の関係についても解説します
10	図書館をめぐる各種法制度：図書館法と著作権法を中心に	図書館法や著作権法をはじめとした図書館と関わりがある各種の法規について説明するとともに，図書館行政・図書館政策などについても解説します。
11	情報メディア(1)	図書や雑誌など各種情報メディアの特徴を説明するとともに，図書館での資料の保存についても解説します
12	情報メディア(2)：学術情報流通とオープンアクセス	学術情報流通について説明するとともに，引用，オープンアクセス，デジタルアーカイブなどについて説明します
13	情報の探索と入手・情報検索	情報検索の基本的な考え方について説明します。また情報検索の手法などについて例示を含めても述べます
14	図書館の将来展望と課題	図書館の評価について説明するとともに，図書館の課題や将来展望について説明します

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
図書館を実際に使用したり，情報検索演習などを行う可能性があります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
逸村裕(ほか)編. 図書館情報学を学ぶ人のために. 世界思想社. 2017. ISBN : 978-4790716952

【参考書】
日本図書館情報学会「図書館情報学用語辞典」 第3版(丸善)など (必須ではありませんが，専門用語などでわからない語が出てきた場合に参考にしてください)

【成績評価の方法と基準】
平常点　20%
　授業に出ているだけの場合成績評価には算入しませんが，授業に積極的に参加した場合には加点することがあります。逆に教室にいても寝ていたり別の授業のことをしているなどの場合は大幅に減点します。また，毎回授業に関するコメントを記入していただく予定です。
レポート　60% (または80%)
期末試験　20% (または 0%)
　現時点では期末試験と4〜5回のレポートを課す予定ですが，授業の進展などにより期末試験を行わずに全てレポート(レポートの配点を80%)とする可能性があります。

【学生の意見等からの気づき】
講義動画やシラバスなど自習教材の公開をできるだけ早期に行うことができるように努力いたします。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
対面での授業を原則としますが，必要に応じてリアルタイムオンライン授業(Zoomを使用)や動画を公開して視聴するオンデマンド授業を併用する可能性があります。どのように授業を行うかはHoppiiおよび下記の授業用ページで告知しますので必要に応じて確認するようにしてください。
http://www.slis.doshisha.ac.jp/ ushi/LIS/

授業についての最新の授業テーマ内容・授業用スライド・授業動画の公開などは，上記授業用ページで行います。このページを大学の授業支援システムHoppiiと併用しますので両方見る必要があることに注意してください。

【Outline (in English)】
[Course outline]
This course introduces "Basic knowledge on Library and Information Science" to students taking this course.
[Learning Objectives]
By the end of the course, students should be able to understand library activities, information media, information retrieval and so on.
[Learning activities outside of classroom]
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content
[Grading Criteria/Policy]
Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report (40%), Term-end examination (40%), and in-class contribution.

FRI200MA（情報学フロンティア / Frontiers of informatics 200）

図書館情報学概論 II

竹之内　明子

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：火5/Tue.5　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：2024年度以前入学者は学部専門科目として履修可能。2025年度以降入学者がこの科目を履修する場合、卒業所要単位外として、教職・資格科目（市ヶ谷）のシラバスに記載されている授業コードで履修してください。
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この科目では、貴重な情報資源を長期間保存し多くの人がインターネットを通じて利用できるようにしたデジタルアーカイブをはじめとして、図書館が機能的に情報提供サービスを行うための仕組みについて学習します。現在、インターネットを通じて様々な情報資源が活用できるようになっています。司書はその利用法を熟知していなくてはなりません。授業では、コンピュータを利用して、OPAC、データベース、デジタルアーカイブなどのネットワーク情報資源を実際に比較検討して理解を深めていきます。授業内では司書としての情報リテラシーの涵養、すなわち、自ら調べまとめる力の育成を重視して、PCを利用して調べたことをまとめる演習を行います。

【到達目標】
この授業では、終了時に学生が以下の能力を身につけていることを目標とします。
1) 図書館に関わる各種の情報技術とその背景にある思想を理解する
2) 図書館業務に関わる情報検索、情報発信、情報管理の技術を身につける
3) 情報技術のこれまでの歴史や思想をふまえて、今後の図書館や図書館員のあるべき姿について論じることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
ネットワーク情報資源の種類や成り立ちなどを概観した後、コンピュータを利用して、OPAC、データベース、デジタルアーカイブなどのネットワーク情報資源を実際に比較検討して理解を深めていきます。授業では司書としての情報リテラシーの涵養、すなわち、自ら調べまとめる力の育成を重視して、PCを利用して調べたことを小レポートにまとめる形式で進めます。Hoppiで毎週、教材と課題をアップロードするので、期日までに取り組んで提出してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	国立国会図書館「レファレンス協同データベース」（レファ協）の解説と事例のまとめ
第2回	検索検定	情報科学技術協会（INFOSTA）検索技術者検定の過去問に見る情報技術の論点
第3回	国際子ども図書館デジタルアーカイブ(1)	絵本ギャラリーの解説と事例のまとめ
第4回	国際子ども図書館デジタルアーカイブ(2)	電子展示会ほか
第5回	国立国会図書館デジタルアーカイブ(1)	国立国会図書館デジタルコレクション
第6回	国立国会図書館デジタルアーカイブ(2)	歴史的音源、WARPほか
第7回	公共図書館のデジタルアーカイブ	都道府県立・市町村立図書館が提供する地域資料のデジタルアーカイブ
第8回	海外のデジタルアーカイブ	Europeanaほか
第9回	OPACの比較	大学図書館と公共図書館
第10回	情報検索の基礎知識	論理演算と検索の評価指標
第11回	オンラインデータベースの種類と概要	地域資料の組織化 絵本の組織化 学校図書館における組織化
第12回	情報ユニバーサルデザイン(1)	Webアクセシビリティ
第13回	情報ユニバーサルデザイン(2)	カラーユニバーサルデザイン
第14回	情報ユニバーサルデザイン(3)	マルチメディアDAISY図書

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Hoppiで、毎週、教材と課題をアップロードするので、期日までに取り組んで提出してください。
本授業のための予習・復習の時間は各回2時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しません。

【参考書】
授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】
評価の方法：毎回のまとめ課題70％（1回5点×14回），学期末レポート30%
評価の基準：
1) デジタルアーカイブなどのネットワーク情報資源の特徴を説明できるか
2) 特別な配慮が必要な利用者を想定した情報技術について説明できるか
3) レポート作成に必要な情報機器の操作スキルが身についているか

【学生の意見等からの気づき】
調査とまとめの作業を通じて知識形成を図ります。

【学生が準備すべき機器他】
PC教室で実施します。オンライン授業の回はPCを使用できる環境で取り組んでください。

【その他の重要事項】
「実務経験のある教員による授業」に該当します。
中央大学図書館，東京大学駒場図書館，東海大学付属図書館での勤務経験から，図書館において必要とされる情報技術の知見を教授します。
本科目は対面授業を基本としながら、オンライン授業も取り入れるハイブリッド形式で実施予定です。スケジュールの詳細は授業内で指示します。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In this course, students will learn about the mechanisms for the functional provision of information services by libraries, such as digital archives, which preserve valuable information resources for a long period of time and make them available to many people through the Internet.
【Learning Objectives】
In this course, students are expected to use computers to actually compare and examine network information resources such as OPACs, databases, and digital archives to deepen their understanding.
At the end of the course,students expected to acquire the information literacy as a librarian.
【Learning activities outside of classroom】
Students are required to spend
at least two hours for each class meeting. Everyweek on the Hoppi,students are required to complete weekly assignments.
【Grading Criteria】

Your overall grade in the class will be decided based on the following.
1) Weekly short reports:70％
2) Term-end report:30%
Grades will be decided based on the contents of weekly assignments.
3)Evaluation criteria
・Ability to explain the characteristics of network information resources such as digital archives.
・Ability to explain information technology assuming users with special needs.
・Ability to operate information devices in order to create reports.

FRI200MA（情報学フロンティア / Frontiers of informatics 200）

図書館情報学概論 II

原田　隆史

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：月2/Mon.2　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：2024年度以前入学者は学部専門科目として履修可能。2025年度以降入学者がこの科目を履修する場合、卒業所要単位外として、教職・資格科目（市ヶ谷）のシラバスに記載されている授業コードで履修してください。
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
1. コンピュータやネットワークに関する基礎的な知識
2. 図書館業務に関する技術(図書館システム，Webページを用いた情報発信など)
3. データの管理を中心とした技術(データベース管理システム，デジタルアーカイブなど)
4. ネットワークセキュリティと図書館
5. 情報技術と社会

【到達目標】
1. 図書館をとりまく多様な情報環境について考えるための基礎となる知識を身につける
2. 各種の図書館業務に関わる技術手法について理解し，取り扱うことができる
3. 図書館活動を行う際に，どのような情報技術が利用可能であるのかを判断する能力を身につける
4. 図書館情報学を学ぶ際に必要な基本的な情報技術を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
図書館をとりまく多様な情報環境，各種の図書館業務に関わる技術手法について説明します。まず，コンピュータやネットワークの基礎知識について学んだ後，図書館システムやデータベース管理システム，WebAPIなどについて理解を深めていきます。講義のほか演習も行う場合があります。
　授業に対するフィードバックとしては，授業後に受講者からのコメント・質問などを集め，次の授業時に提出されたリコメント・質問などからいくつかを取り上げて全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	情報技術と図書館，コンピュータとは何か	コンピュータ発達の歴史について説明するとともに，授業の概要について説明します(ガイダンス)
2	文字のデジタル化と文字コード	コンピュータ中で文字がどのように取り扱われているか説明するとともに，標準化の重要性について解説します
3	アナログとデジタル	アナログ情報とデジタル情報とはどういうものなのか説明していくともに，音声や画像などのアナログ形式の情報をデジタル形式に変換する手法ついて解説します
4	コンピュータの基礎知識，コンピュータのハードウェア	コンピュータの動作原理などについて解説するとともにコンピュータの各種部品について解説します
5	ソフトウェアとアルゴリズム	OSやアプリケーションソフトウェアなどについて説明します
6	ネットワークとインターネットの基礎知識	インターネットやLANなどの仕組みについて解説します
7	ネットワークサービスとWebページ，検索システム	検索エンジンの仕組みや歴史，無料で提供されている理由などを説明します
8	Webページ発信の仕組み，HTMLとは何か	Webページを構成するHTMLについて解説するとともに，実際にWebページを作成する演習も行います
9	図書館業務システムの仕組みと最近の動き	図書館業務システムやOPACの仕組みについて説明します。またディスカバリーサービスなどと呼ばれる仕組みなど最近の状況について解説します
10	データベース管理システムの仕組みと検索技術の実際	図書館システムの基礎となっているデータベース管理システムについて説明します
11	図書館システムを用いた外部との連携，WebAPI	図書館が他のWebサービスと連携する手法などについて学びます
12	図書館と電子資料，デジタルアーカイブ	電子書籍とデジタルアーカイブに関する理論と実例，図書館との関わりなどについて説明します
13	オープンデータ，ビッグデータと生成AI	最近話題の生成AIや，それを支えるビッグデータ，さらに図書館との関わりなどについて学びます
14	図書館の管理・運営とセキュリティ管理	ネットワークサービスにおける管理・運用について説明するとともに，セキュリティ対策などについても述べます

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
図書館をとりまくコンピュータやネットワークなどの情報技術に関するレポートをいくつか作成していただきます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
杉本重雄編著．図書館情報技術論 (現代図書館情報学シリーズ 3). 2014, 224p. ISBN: 978-4883672035
ただし，夏頃に改定版の発売が予定されていますので，購入する場合は授業開始後を推奨します)

【参考書】
特定の参考書は指定しません。必要に応じて資料プリントをWeb上で公開して用いることもあります。

【成績評価の方法と基準】
平常点　20%
　授業に出ているだけの場合成績評価には算入しませんが，授業に積極的に参加した場合には加点することがあります。逆に教室にいても寝ていたり別の授業のことをしているなどの場合は大幅に減点します。また，毎回授業に関するコメントを記入していただく予定です。なお，リアルタイムオンライン授業(Zoomでの授業)の場合は原則としてビデオをオンにしていただきます。
レポート　60% (または 80%)
期末試験　20% (または 0%)
　現時点では期末試験と4〜5回のレポートを課す予定ですが，授業の進展状況などの影響により期末試験を行わない場合は，全てレポート(レポートの配点を80%)とする可能性があります。

【学生の意見等からの気づき】
講義動画やシラバスなど自習教材の公開をできるだけ早期に行うことができるように努力いたします。

【その他の重要事項】
対面での授業を原則としますが，状況などによってリアルタイムオンライン授業(Zoomを使用)や動画を公開して視聴する授業を併用する可能性があります。どのように授業を行うかはHoppiiおよび下記の授業用ページで告知しますので必要に応じて確認するようにしてください。
http://www.slis.doshisha.ac.jp/ ushi/IT/
授業についての最新の授業テーマ内容・授業用スライド・授業動画の公開などは，上記授業用ページで行います。このページを大学の授業支援システムHoppiiと併用しますので両方見る必要があることに注意してください。

【Outline (in English)】
[Course outline]
1. Basic knowledge of computers, networks and information technology
2. Information technology in libraries.
3. Database management system, digital archive
4. Network Security
5. Information Technology and Society
[Learning Objectives]
At the end of the course, students are expected to understand the basic knowledge of computers,Information technology in libraries.
[Learning activities outside of classroom]
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
[Grading Criteria /Policy]
Your overall grade in the class will be decided based on the followings:
Term-end examination: 40%
Short reports : 40%
In class contribution: 20%

FRI200MA（情報学フロンティア / Frontiers of informatics 200）

図書館情報学概論 II

菅原　真悟

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：土3/Sat.3　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：2024年度以前入学者は学部専門科目として履修可能。2025年度以降入学者がこの科目を履修する場合、卒業所要単位外として、教職・資格科目（市ヶ谷）のシラバスに記載されている授業コードで履修してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
図書館司書資格を取得しようとしている学生を対象に、図書館に関わる情報技術について理解を深めることをめざす。授業では主に下記の5つの項目を学ぶ。
1. コンピュータやネットワークに関する基礎知識
2. 図書館業務に関する技術（システム・情報発信・検索エンジン）
3. データ管理に関する技術（電子資料・データベース）
4. ネットワークセキュリティと図書館
5. 情報技術と社会

【到達目標】
図書館に関わる情報技術の基礎的知識を理解するとともに、コンピュータを使った演習を通して基本的な技術を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
・図書館業務に必要な基礎的な情報技術を修得するために、コンピュータ等の基礎、図書館業務システム、電子図書館、検索エンジン、コンピュータセキュリティ等について講義を行い、必要に応じて演習を行う。毎回の授業で、授業の振り返りを掲示板に投稿する時間を設ける。
・授業の初めに、前回の授業で提出された掲示板への感想・コメントからいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックする。また、必要に応じて掲示板上でも個々にフィードバックする。
・課題等の提出・フィードバックは授業支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業支援システム(HULiC)の利用方法に関するガイダンス。
第2回	コンピュータの基礎知識(1)	デジタルとアナログ。2進数と10進数。ビットとバイト。
第3回	コンピュータの基礎知識(2)	コンピュータの歴史。
第4回	ウェブOPAC	ウェブOPACを用いた演習。
第5回	デジタルアーカイブ	デジタルアーカイブの理論と実際。
第6回	ウェブの歴史	ウェブの誕生から普及に至る歴史。ブラウザの種類とシェアの推移。
第7回	AI時代の図書館	コンピュータ研究の現在と未来。人工知能研究の発展と図書館。
第8回	検索エンジン	検索エンジンの種類と仕組み。
第9回	電子図書館(1)	電子資料・出版、電子図書館の現状。
第10回	電子図書館(2)	電子書籍の特性について、タブレット端末を用いた演習。
第11回	図書館業務システム(1)	図書館業務システムの仕組み。
第12回	図書館業務システム(2)	図書館業務システムを用いた演習。
第13回	セキュリティ	コンピュータの管理とセキュリティ対策。
第14回	振り返りとまとめ	半期の授業を振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて授業でプリントを配布します。

【参考書】
講義の中で随時指示します。

【成績評価の方法と基準】
授業内の演習への積極的な参加（平常点）　30%
課題（授業中に課題を数回出す予定）　40%
期末レポート　30%
課題・レポートは授業支援システムへアップロードして提出する。

【学生の意見等からの気づき】
演習やグループディスカッションの時間を増やしたいと考えています。授業に出席すればよいのではなく、演習等への積極的な参加が求められます。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室のPCを使いますが、個人のPCを持ち込んでも構いません。

【その他の重要事項】
情報実習室で授業を行うため、人数超過の場合は抽選となります。必ず第1回目の授業に出席すること。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course deals with (1)Computer and network, (2)Technology related to libraries, (3)Database, (4)Network security, and (5)Information Technology and Society.
【Learning Objectives】
Students acquire basic knowledge of ICT related to libraries. They also acquire basic ICT skills through computer-based exercises.
【Learningactivities outside of classroom】
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end report: 30%、Short reports : 40%、in class contribution: 30%

FRI200MA（情報学フロンティア / Frontiers of informatics 200）

図書館情報学概論 II

竹之内　明子

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：火5/Tue.5　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：2024年度以前入学者は学部専門科目として履修可能。2025年度以降入学者がこの科目を履修する場合、卒業所要単位外として、教職・資格科目（市ヶ谷）のシラバスに記載されている授業コードで履修してください。
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この科目では、貴重な情報資源を長期間保存し多くの人がインターネットを通じて利用できるようにしたデジタルアーカイブをはじめとして、図書館が機能的に情報提供サービスを行うための仕組みについて学習します。現在、インターネットを通じて様々な情報資源が活用できるようになっています。司書はその利用法を熟知していなくてはなりません。授業では、コンピュータを利用して、OPAC、データベース、デジタルアーカイブなどのネットワーク情報資源を実際に比較検討して理解を深めていきます。授業内では司書としての情報リテラシーの涵養、すなわち、自ら調べまとめる力の育成を重視して、PCを利用して調べたことをまとめる演習を行います。

【到達目標】
この授業では、終了時に学生が以下の能力を身につけていることを目標とします。
1) 図書館に関わる各種の情報技術とその背景にある思想を理解する
2) 図書館業務に関わる情報検索、情報発信、情報管理の技術を身につける
3) 情報技術のこれまでの歴史や思想をふまえて、今後の図書館や図書館員のあるべき姿について論じることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
ネットワーク情報資源の種類や成り立ちなどを概観した後、コンピュータを利用して、OPAC、データベース、デジタルアーカイブなどのネットワーク情報資源を実際に比較検討して理解を深めていきます。授業では司書としての情報リテラシーの涵養、すなわち、自ら調べまとめる力の育成を重視して、PCを利用して調べたことを小レポートにまとめる形式で進めます。Hoppiで毎週、教材と課題をアップロードするので、期日までに取り組んで提出してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	国立国会図書館「レファレンス協同データベース」（レファ協）の解説と事例のまとめ
第2回	検索検定	情報科学技術協会（INFOSTA）検索技術者検定の過去問に見る情報技術の論点
第3回	国際子ども図書館デジタルアーカイブ(1)	絵本ギャラリーの解説と事例のまとめ
第4回	国際子ども図書館デジタルアーカイブ(2)	電子展示会ほか
第5回	国立国会図書館デジタルアーカイブ(1)	国立国会図書館デジタルコレクション
第6回	国立国会図書館デジタルアーカイブ(2)	歴史的音源、WARPほか
第7回	公共図書館のデジタルアーカイブ	都道府県立・市町村立図書館が提供する地域資料のデジタルアーカイブ
第8回	海外のデジタルアーカイブ	Europeanaほか
第9回	OPACの比較	大学図書館と公共図書館
第10回	情報検索の基礎知識	論理演算と検索の評価指標
第11回	オンラインデータベースの種類と概要	地域資料の組織化 絵本の組織化 学校図書館における組織化
第12回	情報ユニバーサルデザイン(1)	Webアクセシビリティ
第13回	情報ユニバーサルデザイン(2)	カラーユニバーサルデザイン
第14回	情報ユニバーサルデザイン(3)	マルチメディアDAISY図書

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Hoppiで、毎週、教材と課題をアップロードするので、期日までに取り組んで提出してください。
本授業のための予習・復習の時間は各回2時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しません。

【参考書】
授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】
評価の方法：毎回のまとめ課題70％（1回5点×14回），学期末レポート30%
評価の基準：
1) デジタルアーカイブなどのネットワーク情報資源の特徴を説明できるか
2) 特別な配慮が必要な利用者を想定した情報技術について説明できるか
3) レポート作成に必要な情報機器の操作スキルが身についているか

【学生の意見等からの気づき】
調査とまとめの作業を通じて知識形成を図ります。

【学生が準備すべき機器他】
PC教室で実施します。オンライン授業の回はPCを使用できる環境で取り組んでください。

【その他の重要事項】
「実務経験のある教員による授業」に該当します。
中央大学図書館，東京大学駒場図書館，東海大学付属図書館での勤務経験から，図書館において必要とされる情報技術の知見を教授します。
本科目は対面授業を基本としながら、オンライン授業も取り入れるハイブリッド形式で実施予定です。スケジュール詳細は授業内で指示します。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In this course, students will learn about the mechanisms for the functional provision of information services by libraries, such as digital archives, which preserve valuable information resources for a long period of time and make them available to many people through the Internet.
【Learning Objectives】
In this course, students are expected to use computers to actually compare and examine network information resources such as OPACs, databases, and digital archives to deepen their understanding.
At the end of the course,students expected to acquire the information literacy as a librarian.
【Learning activities outside of classroom】
Students are required to spend
at least two hours for each class meeting. Everyweek on the Hoppi,students are required to complete weekly assignments.
【Grading Criteria】

Your overall grade in the class will be decided based on the following.
1) Weekly short reports:70％
2) Term-end report:30%
Grades will be decided based on the contents of weekly assignments.
3)Evaluation criteria
・Ability to explain the characteristics of network information resources such as digital archives.
・Ability to explain information technology assuming users with special needs.
・Ability to operate information devices in order to create reports.

EDU200MA（教育学 / Education 200）

メディア教育論Ⅰ

村上　郷子

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：木4/Thu.4　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業では、ユネスコの「メディア情報リテラシー」のカリキュラムに基づく理論的枠組みを学び、その背景にあるシティズンシップやデジタル・シティズンシップなどの概念を理化する。その方法論として、広告や新聞、SNSなどのメディア分析を行う。具体的には、授業前半で、メディア情報リテラシー教育の重要な概念（シチズンシップ、デジタル・シティズンシップ、リプレゼンテーションなど）に関する理論的背景を学ぶ。授業後半では、グループで特定テーマに関するメディア分析を行い、ディベートのかたちでグループのプレゼンを行うことにより、メディア情報リテラシーの知識やスキルを包括的に習得する。

【到達目標】
多様なメディアの分析を通じて、メディア情報リテラシー教育における４つの能力、批判的思考能力、メディアの制作、コミュニケーション能力、コラボレーション能力を身につけることができる。
　グループ活動では、プレゼン資料やおしゃべり原稿（シナリオ）などを作成することにより、実践的なメディア情報リテラシーのスキルを習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
シティズンシップ、メディア倫理、メディア・情報のリプレゼンテーションなど、メディア情報リテラシー教育の重要な概念に関する理論的背景を、演習を通じて学ぶ。授業の後半では、グループでテーマに関するメディア分析を行い、ディベートのかたちでプレゼンテーションを行う。なお、グループとテーマについては、履修者が確定した時点でアンケート調査・調整を行い、決定する。
　アンケート調査、プレゼンテーション、グループディスカッションの感想等については、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
大学行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業及び授業用グループウェア利用ガイダンス、 私のメディア史
第2回	メディア情報リテラシー（MIL)研究の理論的枠組み	メディア情報リテラシー教育（MILE）の基本概念と分析モデル
第3回	MILEとシティズンシップ①	メディアとシティズンシップに関する歴史的、文化的、社会的、政治的論点と課題
第4回	MILEとシティズンシップ②	グローバルシティズンシップにおけるデジタル・シティズンシップとMIL
第5回	世界のMIL	ヨーロッパ、とくにイギリス及び北米（アメリカ・カナダ）のMILの現状
第6回	日本のMIL	日本におけるMILの歴史、現状と課題について
第7回	メディア・情報のリプレゼンテーション①	ニュース報道とイメージの力(ジェンダー視点から見たビジュアルの力)、特に広告の分析
第8回	メディア・情報のリプレゼンテーション②（中間報告の提出）	多様性とリプレゼンテーションにおけるメディア・コード、特に新聞コンテンツの分析
第9回	課題 グループ活動①	グループごとに、各自がテーマについてメディア別に分析した内容をつきあわせる作業を行う。
第10回	グループ活動②	グループごとに多様性、シティズンシップ、プロパガンダについて、ディベートの内容を整理し、パワポにおおざっぱにまとめる。
第11回	グループ活動③	グループごとに、プレゼンテーションに関する最終打ち合わせをする。プレゼン資料、おしゃべり原稿の確認など。
第12回	研究発表①　多様性	平等・公正・正義に関するテーマのメディア分析 グループ発表(1)、全体討論、振り返り
第13回	研究発表②　若者とシチズンシップ	若者とシティズンシップに関するテーマのメディア分析 グループ発表(2)、全体討論、振り返り
第14回	研究発表③　プロパガンダ	プロパガンダに関するテーマのメディア分析 グループ発表(3)、全体討論、振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　状況によって、グループによる授業外の活動が入ってくることを了承すること。また、授業・グループ活動への積極的な参加が求められる。
　パートナー校の状況が許せば、海外の学生との交流もあり得るため、簡単な英語の読み書きが要求される場合もある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし。授業のレジメ、参考文献等は、その都度授業用グループウェア上にアップロードする。

【参考書】
必要に応じて提示する。

【成績評価の方法と基準】
個人の課題（分析）や中間報告などの提出物（30％）、グループによる課題制作物、プレゼン（プレゼン資料、班活動報告など含む)、授業の参加貢献度（20％）、個人レポート（50％）によって総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
グループ学習でのコミュニケーションツールとして、Hoppiiのグループウェアを用意したが、気軽には使えないとのこと。簡単なコミュニケーションには、LINEの活用も推奨する。

【学生が準備すべき機器他】
基礎的なパソコンスキルを習得していることが望ましい。

【その他の重要事項】
　本授業を受講する際は、「メディア教育論Ⅱ(メディアと教育Ⅱ)」をセットで履修することが望ましい。
　本授業では、グループ活動がしやすい情報実習室Hを使用している。定員は26名のため、人数が多いときは、最初の授業で、上級生でなおかつ出席が8割以上できる学生から受講者を確定する。出席8割が難しい学生や下級生は、最初の授業で選抜が行われる場合がある。

最初の授業で選抜による履修者が確定した場合、確定後の履修（授業2回目以降）は、いかなる理由も認めない。そのため、最初の授業には必ず出席すること。

最初の選抜で受講者の権利を得たが、本授業を履修しないと決めた者は、速やかに教員に連絡すること。

状況によっては海外の学生との交流もあり得るため、簡単な英語の読み書きが要求される場合もある。

【Outline (in English)】

(Course outline) : In class, we will study the theoretical framework based on the UNESCO “Media and Information Literacy” curriculum, and understand the concepts of citizenship and digital citizenship that lie behind it. As a methodology, we will analyze media such as advertisements, newspapers, and social networking services. Specifically, in the first half of the class, we will learn the theoretical background of important concepts in media and information literacy education (such as citizenship, digital citizenship, and representation). In the second half of the class, we will acquire comprehensive knowledge and skills in media and information literacy by analyzing media related to a specific theme in groups and presenting the results of our group debates.

(Learning Objectives) : Through analysis of diverse media, students can develop the following four competencies of media and information literacy education: critical thinking skills, media production, communication skills, and collaboration skills.

(Learning activities outside of classroom) : Students should be aware that group activities outside of class may be required depending on the situation. Active participation in class and group activities is expected.

(Grading Criteria /Policy) : Comprehensive evaluation will be based on individual assignment (analysis) (30%), group work and presentations (including presentation materials, group activity reports, etc.), class attendance and participation contribution (20%), and individual reports (50%).

EDU200MA（教育学 / Education 200）

メディア教育論 II

村上　郷子

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木4/Thu.4　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
マルチメディアを活用したグループによる協働活動を通じて、様々なメディア文化の様式を理解し、メディアの読み解きや映像制作に関する基礎的なスキルを学ぶ。特に、デジタルストーリーテリングの動画制作を通じてメディアの批判的分析と創造を目指す。

【到達目標】
デジタルストーリーテリングの制作を通じて、メディア情報リテラシー教育における４つの能力、批判的思考能力、メディアの制作、コミュニケーション能力、コラボレーション能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment、Z その他 /Other

【授業の進め方と方法】
メディア情報リテラシー教育の重要な概念に関する理論的背景及び実際を学びながら、グループで決定したテーマについて各自がメディア制作（デジタルストーリング等の動画）を行い、プレゼンを行う。毎回講義とグループワークを組み合わせる。テーマについては、2・3回目の授業でアンケート調査を行う。
　アンケート調査、プレゼンテーション、グループディスカッションの感想等については、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
大学行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス（オンライン）	授業及び授業用グループウェア利用ガイダンス 、メディア情報リテラシー教育（MILE）とは何か
第2回	メディア情報言語①	多様なメディア情報的テクストのなかのコードときまり
第3回	メディア情報言語②	海外の動画、HP、ポスターで使われるコードの分析と評価
第4回	広告①	広告規制の分析と適用、収益モデルとしての広告
第5回	広告② グループ分けを決める	パブリック・サービス・アナウンスメント（PSA)とはなにか(分析と企画)
第6回	新旧のメディア①	メディアの歴史、新旧メディアの違い、グループ活動(絵コンテ、ストーリー展開)
第7回	新旧のメディア②	民主主義社会におけるニュー・メディアの可能性と弊害、グループワーク（ストーリー展開）
第8回	課題制作①	グループによる素材集め（ビデオ・写真撮影等）
第9回	課題制作②	グループによるプレゼン資料（パワポ）の作成および動画やデジスト等の制作
第10回	課題制作③	グループ発表の最終確認（パワポ・動画やデジスト等の最終確認）
第11回	課題発表①（くじで発表初回となった班の発表）	課題のグループ発表(1)、全体討論 (何を伝えたいのか、各自のテーマを明確にする)、グループ発表の評価
第12回	課題発表②（くじで発表二回目となった班の発表）	課題のグループ発表(2)、全体討論（何を伝えたいのか、各自のテーマを明確にする)、グループ発表の評価
第13回	課題発表③（くじで発表3回目となった班の発表）	課題のグループ発表(3)、全体討論（何を伝えたいのか、各自のテーマを明確にする)、グループ発表の評価
第14回	メディアと教育に関する総まとめ	振り返り・総合ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
グループによる授業外の活動が入ってくることを了承すること。また、授業・グループ活動への積極的な参加が求められる。
　パートナー校の状況が許せば、海外の学生との交流もあり得るため、簡単な英語の読み書きが要求される場合もある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし、適時参考資料・レジメを授業用グループウェア上にアップロードする。

【参考書】
必要に応じて提示する。

【成績評価の方法と基準】
個人による課題制作物（個人のデジスト・動画作品、他授業での課題）（30％)、グループによる課題制作物、プレゼン（プレゼン資料、班活動報告など含む)、授業への参加・出席（30％)、個人レポート（40％）によって総合的に評価する。
授業の性質上、授業への出席とグループ活動への参加が重視され、出席は80％を目安とする。欠席は3回までは不問とする。正当な理由がなく出席不良（14回中4回以上の欠席）のものは、「グループによる課題制作物、プレゼン、授業への参加・出席（30％)」の部分は０とする。正当な理由があるため４回以上欠席するものは、欠席理由を記した証明書を持参すること。トータルで５回以上無断欠席する・したものの成績は、理由の如何を問わず原則として０とする。本授業は「必修」ではないため、欠席が多くなると予想される者は、他の授業を検討されたい。
　全ての班活動のプロセス、毎回の宿題・決定事項、共有ファイル（文書・パワポ・画像・他）提出物等はグループ活動の記録として共有するため、必ず授業用グループウェア(Hoppii)上にアップロードすることを原則とする。また、授業での全ての提出物は、授業用グループウェア上にアップロードすることを原則とする。よって、アップロードが不完全であったり、なされていない場合は成績の評価はできないため、０になる。ファイルをアップロードをする際、必ずリンクの確認をすること。

【学生の意見等からの気づき】
シラバス原稿作成時アンケート結果集計中

【学生が準備すべき機器他】
基礎的なパソコン・動画作成スキルを習得していることが望ましい。

【その他の重要事項】
・授業では授業用グループウェアを教員及び学生同士（海外の学生も含む）のコミュニケーションツールとして活用する。
　本授業では、グループ活動がしやすい情報実習室Hを使用している。定員は26名のため、人数が多いときは、最初の授業で、上級生から受講者を確定する。下級生は、最初の授業で選抜が行われる場合がある。
　最初の授業で選抜による履修者が確定した場合、確定後の履修（授業2回目以降）は、いかなる理由も認めない。そのため、最初の授業には必ず出席すること。
　最初の選抜で受講者の権利を得たが、本授業を履修しないと決めた者は、速やかに教員に連絡すること。

状況によっては海外の学生との交流もあり得るため、簡単な英語の読み書きが要求される場合もある。

【Outline (in English)】
（Course outline）: Students will analyze media and information contents and create digital-story telling (DST) videos.
（Learning Objectives）： Through the production of digital storytelling, students will acquire four skills in media and information literacy education: critical thinking skills, media production, communication skills, and collaboration skills.
（Learning activities outside of classroom）: Students should be aware that group activities outside of class will be included. In addition, active participation in class and group activities is expected.
（Grading Criteria /Policy）： Comprehensive evaluation will be made based on individual project work (individual digital and video works, assignments) (30%), group project work, presentations (including presentation materials, group activity reports, etc.), class participation (30%), and individual reports (40%).

EDU200MA（教育学 / Education 200）

教育マネジメントⅠ

仲田　康一

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：月3/Mon.3　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
公教育は、人々の教育を受ける権利を保障していくために標準的で公的な仕組みを整えてきましたが、その制度的保障を発展させる形で、学校と地域社会の連携、そしてNPO・企業の学校への参入を通じて、多様な取り組みが進められています。
本講義では、以上に説明したような市民社会に根ざした独自の取り組みが公教育制度の中で進展することの意義と課題について、教育学のみならず、社会学・行政学・政治学等の社会科学的な観点からも考察を行うことで、教育に関して一段深い意見を持てるようにする手がかりを獲得してもらうことを目的とします。

【到達目標】
受講者には、授業終了までに次の3つの目標を達成できることを期待します。
1）日本における公教育の制度的特徴を、子どもの学習権保障との関わりで説明することができる
2）地域社会と連携して行われる教育実践や学校経営が、子ども・学校・地域・自治体・保護者等にとってどのような意義と課題を有するか、具体的な実践例を挙げながら説明することができる
3）民間企業やボランティアなどの私的セクターが学校教育に参入しつつある状況を、社会学・行政学・教育学の視座や概念により分析することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義形式の授業ですが、受講者からの質疑や意見を求めたり、グループ形式での意見交換や、学生によるプレゼンテーションを組み込みます。オンラインでリアクションペーパーを提出してもらい、次回の授業の最初にまとめてフィードバックを行います（必要に応じて個別にもフィードバックします）。
天候等の理由により、臨時にオンラインに変更する可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の方法・内容・予定・学ぶ意義・成績評価等について説明・合意する
第2回	日本の公教育の基盤	公教育制度の歴史的な成り立ちを論じる
第3回	戦後の学校制度と公教育の課題	憲法・教育基本法・国際人権規範に焦点を当てて、公教育の課題を説明する
第4回	母校研究（1）	母校についてのケース・スタディ（＝母校研究）を交流し、学びのキャリアを振り返る
第5回	母校研究（2）	母校研究について代表者の発表を共有する
第6回	「一条校」を中心とした教育保障	戦後の学校制度に焦点を当てて、公教育の課題を説明する
第7回	学校-地域連携政策①	公教育改革の一環としての学校-地域連携について、学校支援や学校ガバナンスの観点から論じる
第8回	学校-地域連携政策②	学校-地域連携の課題の焦点として、教育課程マネジメントの問題を論じる
第9回	学校-地域連携政策③	過疎地域における学校地域交流について論じる
第10回	市民セクター(NPO等の非営利団体)による教育分野への関与	困窮家庭の支援における市民セクターの関与に関する実態と課題を論じる
第11回	企業セクターの教育分野への関与	デジタル化、探究学習などにおける企業参入の実態と課題を論じる
第12回	セクター間協働の課題	VCSEセクターと公的セクターの今後の課題についてまとめる
第13回	レポートの授業内吟味	レポートの第1次提出を行い、受講生による相互吟味・批評を行う
第14回	まとめと内省	授業全体を振り返り、レポートの講評と最終提出までの指示を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
以下のような課題を所定の期日までに実施してもらいます。
・レジメの再読、まとめ（毎時）
・アテンダンスチェック課題の提出（毎時）
・母校研究の実施（所定締切日まで）
・最終レポートの作成（所定締切日まで）
これらを通じた準備学習・復習時間は各回2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
『コミュニティと教育』（仲田康一・大木真徳編著／放送大学教育振興会／2024年）
『地域教育経営論』（荻野亮吾・丹間康仁編著／大学教育出版／2022年）
『コミュニティ・スクールのポリティクス』（仲田康一著／勁草書房／2015年）

【成績評価の方法と基準】
各回の参加度（主にアテンダンスチェック課題やディスカッションへの参加状況にて把握）を40%、母校研究の成果を30%、最終レポートを30%として評価します。

【学生の意見等からの気づき】
引き続き学生相互の意見発表機会を大切にし、また、適切なフィードバックを心がけます。

【学生が準備すべき機器他】
パソコンやタブレットを使うことがあります。スマホだと小さいためおすすめしません。

【その他の重要事項】
教員をどれだけ活用するかが大学での学びの質を大きく左右します。教員への質問・相談は学生の権利であり、教員にとってもやりがいの源泉ですので、どうぞお気軽に。

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】
Public education has long established standard, official systems to guarantee children's right to learn. Now, as a way of developing this institutional framework, collaborations with communities, as well as with the voluntary and social enterprise sectors, are advancing, leading to a variety of new initiatives.
This course will examine the significance and challenges of these collaborations with the VCSE sector within the public education system, not only from an educational studies perspective but also from the viewpoints of social sciences such as sociology, public administration, and political science.
【到達目標（Learning Objectives）】
By the end of the course, students are expected to be able to achieve the following three objectives:

1) To be able to explain the institutional characteristics of public education in Japan in relation to securing children's right to learn.
2) To be able to examine the significance and challenges of school-community collaboration, referring to specific cases.
3) To be able to analyse how private sector entities, such as private companies and volunteers, are entering the school education system, using perspectives and concepts from sociology, public administration, and education.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Before and/or after each class, students are required to have completed the required assignments such as
- Rereading and summarising the material handed out in class
- Submitting Attendance Check Assignment.
- Conducting case study
The standard preparation and review time for this class is two hours each.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Overall grade in the class will be decided based on the following:
Attendance Check: 40%, Case study report: 30%, End of semester report: 30%

EDU200MA（教育学 / Education 200）

教育マネジメントII【2024年度以前入学者のみ】

櫻井　直輝

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：金1/Fri.1　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：2024年度以前入学者のみ履修可能

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、学校教育を取り巻く様々な教育課題に対し、どのような改革・政策が実施されているのか、具体的な政策やその形成過程を取り上げながら学習する。履修者は、教育政策・行政の形成・実施過程について学習した上（講義）で、具体的な事例を取り上げて調査・報告を行う（ミニ事例研究とディスカッション）。

【到達目標】
講義を通して、次の力を身につけることを目標とする。
1 教育政策・行政の仕組みを理解する
2 法令・政策文書、会議録の検索・分析することができる
3 各種公的統計データを検索・利用することができる
4 教育政策・行政に関して、具体的なデータや調べた事実に基づいて自身の見解を説得的に展開することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
事前に指定された資料・文献等がある場合はそれを読んだ上で講義に参加する。講義（あるいはオンデマンド学習用の動画配信）では教育政策・行政の仕組みと政策リサーチの方法について解説する。講義の後半ではグループによる政策リサーチ（事例調査）の実施、共同分析の結果報告と報告内容に関するディスカッションを行う。なお、政策リサーチについては講義内で一定の時間を設けるが、原則として講義時間外での調査・分析が必要となる。履修者は予め作業時間を確保しておくことが望ましい。
リアクションペーパーに対するコメントは各講義回の冒頭において行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション（9/18）	授業の方法・内容・予定・学ぶ意義・成績評価等について
第2回	国レベルの教育行政システム	国の教育行政機関と政策形成の仕組みについて事例をふまえながら解説する
第3回	地方レベルの教育行政システム	都道府県・市町村の教育行政機関と政策形成の仕組みについて事例をふまえながら解説する
第4回	政策リサーチの進め方：テーマ選定と研究計画の組立て	研究テーマの選定や問いの立て方，仮説等について学ぶ
第5回	政策リサーチの進め方：公文書・データベースの活用	論文、政策文書、法令・会議録データベースの検索と利用 ※PC持参
第6回	政策リサーチの進め方：先行研究に学ぶ	政策過程分析の手法と文献購読 ※PC持参
第7回	政策リサーチの進め方：公的統計データの活用と実例	公的統計データの検索と利用 ※PC持参
第8回	ミニ事例研究の準備	研究テーマ及びグループ決め※PC持参
第9回	政策リサーチ：グループワーク	グループ単位での調査研究計画の作成
第10回	政策リサーチ：グループワーク	グループ単位での調査
第11回	政策リサーチ：グループディスカッション	グループ内でのディスカッション
第12回	政策リサーチ：発表準備	資料の最終化や効果的な発表に向けた準備
第13回	政策リサーチ報告：成果報告	各グループの調査結果報告とディスカッション
第14回	まとめと総括討議	発表会の結果をふまたまとめを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義資料等をweb配信するので各自準備して講義に望むこと。必ずしも印刷する必要はないが、PCやタブレット等を持参して閲覧や作業に支障がないようにすること（スマートフォンでの閲覧は非推奨）。後半の政策リサーチについては、講義時間外の学習や作業が必須となる。グループの運営によって異なるが、資料収集やレジュメ作成等で4時間程度は確保することが望ましい。他の講義や学内・学外活動によって支障がでないよう予め注意してほしい。また、グループ活動になるので他のメンバーに迷惑をかけないよう心がけてほしい。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定しない。

【参考書】
【講義で内容の一部を取り上げる】
・草野厚『政策過程分析入門[第2版]』東京大学出版会, 2012年。
・伊藤修一郎『政策リサーチ入門（増補版）』東京大学出版会, 2022年。
【背景知識として学習しておくとよい】
・青木栄一・川上泰彦『教育の行政・政治・経営[改訂版]』放送大学学術振興会，2023年。
・村上祐介・橋野晶寛『教育政策・行政の考え方』有斐閣，2020年。

【成績評価の方法と基準】
評価は以下の点について、グループ活動及び成果報告の結果を通じて評価します。
　観点1：教育政策・行政の仕組みを理解する
　観点2：法令・政策文書、会議録の検索・分析することができる
　観点3：各種公的統計データを検索・利用することができる
　観点4：教育政策・行政に関して、具体的なデータや調べた事実に基づいて自身の見解を説得的に展開することができる
すべての観点について、発表資料の記載内容と発表（配点：50点）と個人で作成する最終レポート（発表内容や質疑応答への回答をふまえたものとします。配点：40点）で評価します。なお、最終レポートと併せて、自身がグループワークにどのような貢献をなしたか（どのようなアイディアを提示したのか、どのような作業を担当したか等）を記載したペーパー（配点：10点）を提出していただきます。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
「※PC持参」の回はパソコンを持参してください。それ以外も必要に応じてPCやタブレットを活用することを推奨します。

【その他の重要事項】
この講義を受講する意思のある学生は初回講義（オンライン）に出席し、講義の概要や受講にかかる負担等を十分に理解した上で履修してください。
講義回を欠席をする際は、教員に予め連絡してください。連絡先は初回講義資料で提示します。またグループ活動回を欠席する場合は教員及びグループのメンバーに予め連絡してください。

【Outline (in English)】
Course outline
In this lecture, students will learn what kind of reforms and policies are being implemented to address various educational issues surrounding school education, taking up specific policies and their formation process. Students will learn about the formation and implementation process of educational policy and administration, and then research and report on specific cases.
Learning Objectives

Through the lectures, the course aims to develop the following skills.
students should...
1 Understand the structure of education policy and administration in Japan
2 be able to search and analyze laws, policy documents, and meeting minutes
3 be able to search and use various official statistical data
4 be able to persuasively develop one's own views on education policy and administration based on concrete data and researched facts
Learning activities outside of classroom
Lecture materials and other materials will be distributed via the web, so please prepare for the lecture by yourself. Although it is not necessary to print the lecture materials, students are encouraged to bring their own PCs, tablets, etc. so that there are no obstacles to viewing or working with them (viewing with smartphones is not recommended).
For the policy research in the second half of the course, study and work outside of lecture time will be required. It is desirable to secure about 4 hours for collecting materials and creating a resume, so please adjust your schedule in advance so that you will not be unable to work due to other lectures or on-campus/off-campus activities.
This will be a group activity, so please be mindful not to inconvenience other members.
Grading Criteria /Policy
Grading will be based on the perspectives indicated in the achievement objectives through the results of group activities and reports.
Content and presentation of presentation materials: 50%
Final report to be prepared by each individual: 40%
In addition to the final report, students will be required to submit a document with their own contribution to the group work (10%).

EDU200MA（教育学 / Education 200）

現代教育思想

岩本　俊一

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：火3/Tue.3　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代社会における教育的諸問題ならびに諸課題を教育の論理に即して分析し、これを通じて教育的なものの見方・考え方ができる力を培うことができるようになることを本講義の概要・目的とする。

【到達目標】
一億総教育評論家と言われるほどに現代社会に流布する常識的な教育論から脱し、現代社会が抱える教育的諸問題を教育の論理に即して理解する手がかりを得ること、そしてさらにそうした諸問題を教育独自の視点の下に考えることができるようになることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義形式によって行うことを基本とするが、質疑応答の機会を適宜設ける。課題等を課した場合には、その提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに　－本講義の概要とねらい	本講義の到達目標や概要ならびに評価基準について説明する。
第2回	序論 －教育的なものの見方と考え方について	教育的なものの見方・考え方とはどのようなことか、またその基礎となる教育の論理とはどのようなことかについて論じる。
第3回	教育の思想と教育学	人権思想の発展と教育学の成立について
第4回	現代社会における教育の諸問題(1) －「ゆとり教育」と「学力」の問題	あるべき「ゆとり教育」について論じる。
第5回	現代社会における教育の諸問題(2) －公教育における道徳教育の問題	近代公教育における世俗性（ライシテ）の原則と道徳教育の可能性について論じる。
第6回	現代社会における教育の諸問題(3) －「特別の教科　道徳」の問題	上記５を踏まえ、「特別の教科道徳」（「道徳」の教科化）の問題について論じる。
第7回	現代社会における教育の諸問題(4) －教員養成の問題	教師の「資質」向上をめぐる問題－日本における教員養成政策の変質について論じる。
第8回	教育におけるヒューマニズムの探究(1) －近代教育思想の展開	近代教育思想の本質とその史的発展について論じる。
第9回	教育におけるヒューマニズムの探究(2) 子どもの発見	ルソーにおける「子どもの発見」の意味について論じる。
第10回	教育におけるヒューマニズムの探究(3) ルソーの教育思想の継承と課題	ルソーの教育思想の現代的継承の在り方について論じる。
第11回	教育における体罰の問題(1)体罰肯定の思想の問題	体罰肯定論―体罰は教育的情熱の発露である―の本質的問題点について論じる。
第12回	教育における体罰の問題(2) 体罰克服の論理	体罰批判の思想を手がかりにして体罰克服の論理を論じる。
第13回	本講義を振り返って（質疑応答）	本講義の内容などについて質疑応答を適宜交えてまとめをする。
第14回	まとめと試験	授業のまとめと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義の後に内容をまとめるなど、復習を通じて理解を深めること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は特に使用しない。

【参考書】
参考文献については必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末に行われる試験100％で評価する。
平常点は加味しない。

【学生の意見等からの気づき】
指摘された点については、予測された点も多々あり、慎重に検討しつつ、真摯に改善に努める予定である。

【Outline (in English)】
Outline:
In this class we will examine the issues and challenges surrounding education in present-day society using a pedagogical framework.
The purpose of this examination will be to cultivate the students' ability to conceptualize and think from a pedagogical standpoint.
Goal:
The goal is to understand the problems of education in modern society according to the logic of education.
Learning activities outside of classroom:
After the lecture, try to understand the contents.
Grading Criteria /Policy:
Grade only in the final exam.
Emphasis is placed on whether the lecture content is understood accurately.

EDU200MA（教育学 / Education 200）
生涯学習論III（成人教育論Ⅰ）【2024年度以前入学者のみ】

森本　扶

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：木4/Thu.4　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：2024年度以前入学者のみ履修可能
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代において、人々の学びの場や機会は大きく広がっている。学校教育がとらえる学習概念を超えて、生涯を通じた大人による学びの場づくりが、現代的課題（市民参画、人材開発、識字、多文化共生、環境問題、貧困問題など）に対応するために不可欠となっている。授業では、現代的課題に対応する大人の学びの場づくりの諸相について理解し、その問題解決に向けて、社会教育・生涯学習がもつ可能性について考察していくことを目的とする。

【到達目標】
社会教育・生涯学習にまつわる現代的問題群を把握し、社会教育・生涯学習行政・制度がそうした問題にどのように対応してきた（している）のかを理解し、さまざまな社会教育・生涯学習実践がもつ意義や課題について解釈できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
基本的には毎回教官が用意するレジュメデータをもとに講義形式で進めていく。適宜メモが必要であればとること。授業後、リアクションペーパーを書き提出する（次回講義冒頭でフィードバックする）。時折映像学習を取り入れる。終盤にはワークショップも取り入れる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の目標・方法・計画を説明
第2回	大人の生活とボランティアによる学習	物質的豊かさから精神的豊かさへ、学習・文化活動の広がり、ボランティア活動への関心の広がりとボランティア学習など
第3回	市民参画型社会とボランティア・NPO・NGO	市民セクターへの注目とNPOの登場・その実態と課題、グローバル化社会におけるNGOの役割など
第4回	企業内教育やリカレント教育による人材開発と生涯学習	OJT・Off-JT・自己啓発、学び直しとリカレント教育の現代的意義など
第5回	社会貢献活動を通した生涯学習	ボランティア・NPOによる学び、企業労働とは異なる体験を求める会社員たちの姿など
第6回	教育の「保障」・「補償」としての識字教育	国際的な識字問題の背景と現在、（自主）夜間中学という場の意味など
第7回	地域国際交流・多文化共生が切り拓く未来	在留外国人の増加と多国籍化、グローバル化社会と地域国際交流という課題、多文化共生教育の取り組みなど
第8回	識字教育や多文化共生・地域国際交流の取り組み	（自主）夜間中学の実際の取り組み、地域国際交流、外国人労働者支援の実際の取り組み
第9回	環境問題と持続可能な社会づくりのための生涯学習	発端としての自然保護教育、公害問題学習と環境教育、環境教育思想の国際的展開、今日的環境教育の展開など
第10回	貧困問題と生涯学習が拓く学び	子ども・ひとり親家庭の貧困問題、ニート・引きこもりの自立支援、生活困窮高齢者支援などに関わる学習のあり方
第11回	社会的排除に挑む主体を形成する学習	公害問題学習、子ども食堂、生活保護支援、貧困学習に取り組む高校など
第12回	大人の学びと開かれた大学	大学開放の歴史、大学による社会貢献・地域貢献、地域と協働したプログラムなど
第13回	生涯学習に関わるワークショップ：意見表明スケール	対話型授業：これまでの授業内容をふまえて論点を抽出し、より深く議論する
第14回	授業内テストと全体のまとめ	授業内テストの実施後、全体のまとめ、テスト内容のふりかえりを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・下記参考書や新聞等において扱われる社会教育・生涯学習の関連記事に関心を持ち、記事等を収集し感想や意見をまとめておくこと。取り組み時間の目安は、基本的には人それぞれだが、120分程度。
・社会教育・生涯学習の用語についての理解を深めるよう、復習に努めること。取り組み時間の目安は、基本的には人それぞれだが、120分程度。
・講義の内容を参照しながら、自分自身の自己実現のために自らの生き方を考えること。取り組み時間の目安は、基本的には人それぞれだが、どれだけ取り組んでもらっても構わない。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。

【参考書】
佐藤一子編（1998）『生涯学習と社会参加』東京大学出版会
川野辺敏・山本慶裕編著（1999）『生涯学習論』福村出版
鈴木眞理編（2003）『シリーズ 生涯学習社会における社会教育１〜７』学文社
佐藤一子編（2003）『生涯学習がつくる公共空間』柏書房
佐藤一子（2006）『現代社会教育学』東洋館出版社
上田幸夫・辻浩編著（2009）『現代の貧困と社会教育』国土社
鈴木眞理・梨木雄太郎・永井健夫編著（2011）『生涯学習の基礎』学文社
社会教育・生涯学習辞典編集委員会編（2012）『社会教育・生涯学習辞典』朝倉書店
佐藤一子編（2015）『地域学習の創造』東京大学出版会
手打明敏・上田孝典（2017）『〈つながり〉の社会教育・生涯学習』東洋館出版社
辻浩（2022）『〈共生と自治〉の社会教育』旬報社
佐藤一子・田中雅文編（2025）『共生への学びの構築』東京大学出版会

【成績評価の方法と基準】
映像学習時の感想文（10点×3＝30点）、期末テスト（70点）およびワークショップでの発言（＋α）による総合評価を予定している。

【学生の意見等からの気づき】
学校以外の実社会における教育・学習の多様性に気づいたとの意見をふまえ、教育・学習の具体例を示し、新聞やビデオ等の教材なども使いながら、履修者自らの今後の自己実現に資するような授業を展開していく。

【学生が準備すべき機器他】
紙プリントは基本的に配布しないので、WebClassでレジュメや資料を確認するためにPC・タブレットなどの端末が必要。準備できない場合は教官に相談する。

【Outline (in English)】
[Course outline]

In the present age, people learning places and opportunities are spreading widely. Beyond the learning concepts that school education catches, the creation of a place for learning by adults throughout their lives is essential to respond to contemporary issues (Citizen participation, human resource development, literacy, multicultural coexistence, environmental issues, poverty issues, etc.). In the class, we aim to understand the various aspects of adult learning places to respond to contemporary issues, and to consider the possibility of social education and lifelong learning towards solving the problem.
[Learning Objectives]
Understand the contemporary problems related to adult education / lifelong learning, understand how adult education / lifelong learning administration / systems have responded to such problems, and practice various adult education / lifelong learning. The goal is to be able to interpret the significance and challenges of lifelong learning.
[Learning activities outside of classroom]
・ Be interested in articles related to adult education and lifelong learning that are dealt with in reference books and newspapers, collect articles, and summarize your impressions and opinions. The standard time for each person is basically about 120 minutes.
・ Try to review so that you can deepen your understanding of the terms of adult education and lifelong learning. The standard time for each person is basically about 120 minutes.
・ While referring to the contents of the lecture, think about your own way of life for your own self-actualization. The guideline for the time to work is basically different for each person, but it doesn't matter how much you work on it.
[Grading Criteria /Policy]
Impressions during video learning (10 points x 3 =30 points), term-end report (70 points) and reaction paper content (+ α)

EDU200MA（教育学 / Education 200）

生涯学習論Ⅳ（成人教育論Ⅱ）【2024年度以前入学者のみ】

朝岡　幸彦

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：月3/Mon.3　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：2024年度以前入学者のみ履修可能

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生涯学習は多様な担い手によってとりくまれている。学習機会の供給側（組織者・学習機会の提供者）の内容編成や展開の方法を中心に、歴史的、実践的、システム的理解を深め、学習支援の専門性を理解することをねらいとする。

【到達目標】
成人教育をプログラム編成する学習支援者としての専門性に結びついた社会教育・生涯学習の理念と背景を理解し、実際にプログラムを作成する方法・技術を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デイプロマポリシーのうち「DP2」「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
生涯学習の分野では、大学や公共機関とともに、民間の担い手が幅広く活動している実態をふまえ、生涯学習を推進・支援する課題に焦点をあてて考える。これらを通じて学習支援とは何かを考え、実際に学習プログラムを作成し、学習支援の専門性について理解を深める。また、原則として毎時間グループワークもしくは質疑応答を求めるため、2/3以上の出席を前提とする。毎時間の提出課題はフィードバックとして原則的に次の時間に共有し、優れたものを授業内で紹介して公表や解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	社会教育・生涯学習における講座の意味	生涯学習において学習講座とは何か、本授業のねらいと授業計画の概要及び評価について説明する。
第2回	講座のつくりかた①	学習テーマの設定、学びを深めるプログラムの構成について考える。
第3回	講座のつくりかた②	講座の準備と運営のポイント、講師や職員の役割について考える。
第4回	社会教育・生涯学習の基礎理論①	社会教育とSDGsの関係について考える。
第5回	社会教育・生涯学習の基礎理論②	社会教育・生涯学習の理念について考える。
第6回	社会教育・生涯学習の基礎理論③	社会教育・生涯学習の歴史について考える
第7回	社会教育・生涯学習の基礎理論④	社会教育・生涯学習の法と制度について考える
第8回	社会教育・生涯学習の基礎理論⑤	社会教育・生涯学習の財政について考える。
第9回	社会教育・生涯学習の実践①	地域づくりにおける社会教育・生涯学習の課題と可能性について考える
第10回	社会教育・生涯学習の実践②	公民館が市民の学びにどう関わるのかを考える
第11回	社会教育・生涯学習の実践③	図書館が市民の学びにどう関わるのかを考える
第12回	社会教育・生涯学習の実践④	博物館が市民の学びにどう関わるのかを考える
第13回	講座のつくりかた③	講座終了後の支援、学びを拓く事業評価の視点について考える。受講者が作成した講座企画案について、発表・講評しながら「よい講座」について考える。
第14回	ふりかえり	授業の振り返りをふまえて、課題に即してレポートを作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの講読。
授業時ごとに簡単な課題レポート（ワークシート）を作成する。
地域課題や学習ニーズについて、データを収集し、各自が講座企画案を作成する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
二ノ宮リムさち・朝岡幸彦編著『社会教育・生涯学習入門』人言洞、2023年（ISBN978-4-910917-03-0）

【参考書】
朝岡・飯塚・井口・谷口編『講座づくりのコツとワザ』国土社　2013年
社会教育推進全国協議会『社会教育の“しごと”』　2005年
日本社会教育学会編『学びあうコミュニティを培う』東洋館出版社　2009年
佐藤一子著『現代社会教育学』東洋館出版社　2006年

【成績評価の方法と基準】
課題のうち①は授業実施日より5日以内に提出し、②は課題発題日から提出指定日までに提出してください。
①テキストから課題レポート（ワークシート）　70％
②学習プログラム作成　20％
③毎時間のグループワークへの参加と回答　10％

【学生の意見等からの気づき】
実際に生涯学習の事業計画を作成する作業をつうじて、単にアイデアだけではなく実際に学習を支援する専門性とは何か、実態に即した気づきがある。グループワークを導入して事業計画のポイントを共有することが重要である。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを使用するため、（できれば）携帯以外でのインターネット接続環境を各自で確保していることが望ましい。

【その他の重要事項】
学習プログラムを必ず作成して提出してください。

【その他】
授業中に出題される課題を提出すること。

【Outline (in English)】
Lifelong learning is engaged by various stakeholders. This class will cover subjects mainly related to the content organization and the development process. Participants of this class will understand the expertise of learning support in a historical, practical and systematical way.
By the end of the course, students should be able to do the followings: the expertise of learning support in a historical, practical and systematical way.
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapters from the text and plan a learning program. The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.
Your overall grade in the class will be decided based on the following Short reports : 70%, learning program : 20%, Participation in and responses to group work in each session: 10%.

EDU200MA（教育学 / Education 200）

教育社会学Ⅰ【2024年度以前入学者用】

筒井　美紀

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：木3/Thu.3　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞
授業コード：C5057
科目名：教育社会学
＜2024年度以前入学者＞
授業コード：C7197
科目名：教育社会学Ⅰ
※入学年度により授業コード・科目名が異なります

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学校教育は社会のなかでどのような機能を果たしてきたのでしょうか。「社会で求められる態度や価値観を生徒に伝えてきた」「社会の高度化にともない、それに必要な能力とスキルを生徒に教えてきた」。このようなありきたりの見方こそ、学校教育が教え込んできたのです。しかし、学校教育は決して価値中立的ではありません。だから学校教育を裏返してよく見てみる必要があります。この相対化こそ、AIに使われるだけの人間にならないためのトレーニングです。一緒に「教育社会学」しましょう。

【到達目標】
・「教育のべき論」に飛びつかない――社会的現実を質的／量的データで捉える「ディテール力」の基礎を磨きます。
・「社会」のパーツを掘り下げる――「社会」という"big word"だけで考えていても理解は深まらない。家族、友人関係、バイト先、大学、将来の職場・職業・産業、家族・世帯・地域、AI化・・・社会学的な知識と理解を徐々に習得し、教育と結びつけて考える力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
　第1,7,14回をのぞき、対面授業を行ないます。
　この授業は反転授業方式です。指定テキストを読み、この予習レジュメのQuestionを毎回こなして「授業に参加」のこと。授業は、指定テキストに書かれていることをなぞるのではなく、それを発展させ深めます。授業で提出されるリアクションペーパーについては、その次の回の冒頭でいくつか取り上げてリプライをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	「森全体」を見渡す
第2回	中学校長「二人以上産む 最も大切」–どう思う？	社会科学の表現作法（テキスト第１章）、学校の諸機能
第3回	愛嬌たっぷり先生ロボットは有能か？	社会化とAIのインパクト（テキスト第6章）
第4回	どうしても働かなきゃダメ？	社会統制と「労働の道徳化」（テキスト第5章）
第5回	大学と大学生、どのように増えてきた？	グラフの作成・記述・考察
第6回	大学と大学生、なぜこんなに増えてきた？	機能主義、アクター理論
第7回	男女別学高校、なぜ・どのように減ってきた？	第5,6回で得たスキルと知識の応用エクササイズ
第8回	経済と労働と教育、どう変わってきた？	近過去に関する基礎知識の習得（テキスト第1,4章）
第9回	男女雇用機会均等法はいつ・なぜ制定された？	近過去に関する重要知識の習得
第10回	大学生の進路、なぜ・どのように変わってきた？	「能力」の構築主義的理解
第11回	やっぱり男性のほうが女性より仕事ができる？	統計的差別、ジェンダー化された能力、葛藤理論
第12回	給料2割減、週20時間労働を選ぶ？	ライフコース展望の男女差とその変化（テキスト第4章）
第13回	扶けてくれる人はどこにいる？	社会関係資本の脆弱化・偏在と包括支援政策（テキスト第7章）
第14回	まとめ	基礎概念の再確認、期末試験に向けて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
私の授業は反転授業方式です。予習レジュメのQuestionををこなして授業参加のこと。本授業の準備学習・復習時間は計4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
筒井美紀（2016）『自分の殻を突き破るキャリアデザイン――就活・将来の思い込みを解いて自由に生きる』有斐閣

【参考書】
駒川智子・金井郁編（2024）『キャリアに活かす雇用関係論』世界思想社

【成績評価の方法と基準】
期末試験100％

【学生の意見等からの気づき】
みなさん、授業を一緒に楽しみましょう。

【学生が準備すべき機器他】
パソコンやタブレットを持ってきてください。授業のプリント等上での配布はしません(すべてオンラインで掲載)。グラフ作成なども授業中にやります。

【Outline (in English)】
What role has school education played in society? "Schools have taught students the attitudes and values that society expects," "As society becomes more advanced, schools have taught students the abilities and skills that are necessary." These are the commonplace views that school education has instilled in you. However, school education is by no means value-neutral. That's why we need to look at school education from the inside out. This relativization is the very training that will keep you from becoming someone who is merely used by AI. Let's do "the sociology of education" together.
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text and answer some questions of "preparation resume." Your total study time will be four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the final exam（100%).

EDU200MA（教育学 / Education 200）

教育社会学 II【2024 年度以前入学者用】

筒井　美紀

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木3/Thu.3　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞
授業コード：C5107
科目名：リスク社会における包括支援と教育
＜2024年度以前入学者＞
授業コード：C7198
科目名：教育社会学II
※入学年度により授業コード・科目名が異なります
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本は「リスク社会」であり、「能力をつけて良い会社に就職する」といった自助戦略はさほど有効ではありません。誰もがいつ何時、自治体や地域の手厚い助けが必要な、人生の困難に遭遇しかねません。だから、私たちは公助・共助がきちんと機能する社会を再創造する必要があるのです。自治体や地域が現在、就労困難者・生活困窮者に対してどのような包括支援や教育訓練を展開しているのかを、社会学的な視点から具体的に学ぶなかで、より善い社会のデザインします。

【到達目標】
就労困難者・生活困窮者への包括支援や教育訓練というと、「どう接したら／教えたらよいか」という対人関係の次元が浮かぶことが多いでしょう。同時に理解すべきなのは、人・モノ・カネ・情報といった諸資源の組織化のありよう、教育の意義や機能や形態の変化、実現されるべき諸価値、といった点です。このクラスでは、ミクロな次元から、自治体やビジネス、NPOや地域社会、組織や制度へと社会学的な視野を広げます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
第10回と第14回をのぞき対面で実施します。
毎回、冒頭に前回リアペへのリプライ・導入解説、次に班やペアでの話し合い、続いてその報告と授業者の発展的解説、というスタイルです。毎回のミニ予習課題をやったうえで身体を教室に運ぶこと。すると班での議論の密度が濃くなり、充実感が得られ、実力がつきます。
中間レポートにはコメントを入れて返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	「リスク社会」がもたらしたものと社会の反応・対応
第2回	自治体による就労・生活支援とは何か	自治体の新たな役割と求められる支援の包括性（テキスト序章）
第3回	国の福祉政策・労働政策はなぜ・どう変わってきたか	労働市場と福祉供給の劣化とそれへの対応（テキスト第２章）
第4回	シングルマザーを支援する飲食店	ビジネスは福祉を代替するか？（テキスト第９章）
第5回	横浜市の生活保護受給者への就労支援	行政セクターにおける就労支援の展開と課題（テキスト３章第３節）
第6回	社会調査と分析のコツ	調査で得たデータがどのように分析・加工され論文となるか（レポート作成のコツ）
第7回	就労・生活支援の営利組織への委託	行政と民間の「パートナーシップ」が孕む課題（テキスト第４章）
第8回	支援と銘打たない支援	スモールステップを踏んだ支援と教育訓練、自治体の福祉・労政部門の連携（テキスト第８章）
第9回	就労・生活支援の「出口」をどう創るか	中小企業支援の福祉的性質（テキスト第７章）
第10回	地域のニーズを掘り起こす	雇用創出と就労につなげるには（テキスト第 11 章）
第11回	高齢者と生きづらい若者とをつなぐ	協同労働の可能性と課題（テキスト第５章）
第12回	中間的就労／社会的就労、半福祉・半就労とは何か	より善い社会（とくに労働と福祉と教育の領域）に向けた諸価値（テキスト序章）
第13回	誰もが働き、生きていける社会とは	より善い社会をデザインする（テキスト終章）
第14回	期末試験に向けて	基礎概念などの総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
私の授業は反転授業方式です。テキストを毎回１章読み、予習レジュメの「問い」を解くという準備をして授業に臨むこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
筒井美紀・櫻井純理・本田由紀編著（2014）『就労支援を問い直す――自治体と地域の取り組み――』勁草書房。

【参考書】
授業中適宜指示

【成績評価の方法と基準】
中間レポート30％、期末試験70％

【学生の意見等からの気づき】
リアクションペーパーでは、「自分が住んでいる自治体がこんなにも就労支援に取組んでいるとは知らなかった」「役所と言えば保守的で官僚的で旧態依然としていると思っていたが違った」「気がつかないだけで、どれだけ自分が社会保障や社会福祉に支えられているかを知った」「賃労働だけでは生きていけないことがよく分かった」など、＜眼からウロコンタクト＞系のコメントも多いです。

【学生が準備すべき機器他】
パソコンやタブレットを持参のこと。

【Outline (in English)】
Course Outline Learning:
The Japanese society is "the risk society," and self-help strategy (Be more competent, and you will get a job in a prestageous company) is not so effective. Everyone may meet at anytime disorienting dilenma which needs enough support from the municipality and the local community. Therefore, we should recreate our society where the public and mutual support function well.
Objectives Learning
The students are to learn how to design better societies through reading and discussing the efforts by some municipalities and local organizations for comprehensive support of the people with difficulties in work and life. The goal is to widen your sociological perspective and to design a better society.
Activities Outside of Classroom
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text and answer some questions of "preparation resume."
Grading Criteria/Policy
Your study time will four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following: mid-term paper 30% and term paper 70%.

MAN200MA（経営学 / Management 200）

外書講読B（ビジネス）【2024年度以前入学者用】

相澤　鈴之助

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木2/Thu.2　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞
授業コード：C5063
科目名：外書講読B
＜2024年度以前入学者＞
授業コード：C7253
科目名：外書講読B（ビジネス）
※入学年度によって授業コード・科目名が異なります

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
論文やレポートを執筆する際など、私たちはいろいろな文献を読みます。その際、日本語で書かれた文献だけでなく、英語で書かれた文献まで自由に読めると、私たちが獲得できる知識の範囲は大幅に広がります。この授業では、当初、平易な英字新聞記事を取り上げた後、経営学に関する古典的な研究論文に挑戦していきます。経営学の代表的な英語論文に実際に触れ、学問の意義や楽しさを体験してもらいたいと考えています。

【到達目標】
英語で書かれた専門的な文献（ジャーナルの文献）を、一人で読めるようになることが目標です。受講者のレベルに合わせて授業内容を編成しますので、英語に苦手意識を持っている人もぜひ受講してください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
本授業は、受講者を指名して、英語文献の解釈または要約を発表してもらいながら進めていきます。取り上げる英文は平易です。履修を希望する人は必ず第1回目の授業に必ず出席してください。
なお、受講者の発言に対して教員が随時コメントし、それらのフィードバックを通じて英文解釈能力の向上および専門知識の獲得を目指していきます。
大学行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の全体像と目標、講義内容の紹介を行います。
第2回	英字新聞記事を読む(1)	英字新聞の社会問題に関する記事の抜粋を読みます。
第3回	英字新聞記事を読む(2)	英字新聞のビジネスに関する記事の抜粋を読みます。
第4回	研究論文を読む(1)	英語文献Abell(1980)Defining the Businessの導入のp.xiiiを読みます。
第5回	研究論文を読む(2)	Abell(1980)Defining the Businessの導入のpp.3〜4を読みます。
第6回	研究論文を読む(3)	Abell(1980)Defining the Businessの導入のpp.4〜5を読みます。
第7回	研究論文を読む(4)	Abell(1980)Defining the Businessの導入のpp.5〜6を読みます。
第8回	研究論文を読む(5)	英語文献Barney(2001)の抜粋を読みます。
第9回	研究論文を読む(6)	Barney(2001)の抜粋のp.638を読みます。
第10回	研究論文を読む(7)	Barney(2001)の抜粋のp.630を読みます。
第11回	研究論文を読む(8)	英語文献Porter(2003) Competitive Strategyの導入を読みます。
第12回	研究論文を読む(9)	Porter(2003) Competitive Strategyの導入のpp.ix〜xを読みます。
第13回	研究論文を読む(10)	Porter(2003) Competitive Strategyの導入のpp.x〜xiを読みます。
第14回	本講義のレビュー	これまでの講義内容のまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
英語に親しむ機会を増やしてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
開講時に指示します。

【参考書】
開講時に指示します。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、次のとおりです。
①授業における発言、提出物70%
②平常点30%

【学生の意見等からの気づき】
英語を深く読むことができたという意見が多かったので、これまでの方針を継続していきます。受講者はやる気のある人が多いので、教員としてもやりがいのある授業です。

【その他の重要事項】
・英文による学術文献を地道に読んでいく授業ですので、授業に先立つ予習は必須です。当初、文法の解説も行いながら逐語訳を行っていますが、軌道に乗ってきたら、論旨をおさえる形態に変更し、進度を速めます。これらは、受講者の発表によって行うので、積極的に参加してください。
・生成AIの取り扱いについて
大学における学修は学生が主体的に学ぶことが本質であり、生成 AI から出力された内容をそのまま用いるなど、学生自らの手によらずにレポート等を作成することは、学生自身の学びを深めることに繋がらないため、本講義では利用を禁止します。
また、生成 AI から出力された内容に著作物の内容がそのまま含まれていた場合、これに気付かずにレポート等に用いると剽窃に当たる可能性があるため注意してください。
・受講希望者が30名を超えた場合には、受講者の選抜を行います。このため、初回の講義には必ず出席してください。

【Outline (in English)】
【Course outline】
If we can read not only Japanese but also literature written in English, the range of knowledge that we can acquire will be greatly expanded. In this lesson, initially, we will focus on plain English newspaper articles, before moving on to classic research papers on business administration. We would like students to experience the significance and enjoyment of learning by actually touching representative English papers on business administration.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
– A.Understand the concepts and backgrounds necessary for business in English.
– B.Able to read academic literature written in English.
【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Short reports : 70%、in class contribution: 30%

MAN200MA（経営学 / Management 200）

職業選択論 II

上西　充子

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木1/Thu.1　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、男女の働き方の現状と課題を歴史的な経緯を踏まえて考えます。ワーク・ライフ・バランスへの配慮や雇用形態の多様化は、評価しうるものなのか、どこに課題があるのか、理解を深めることを通して、現実的なキャリア選択をみずから考えられるようになること、さらに、働き方の改善に社会人としてみずからかかわっていけるようになることが、本授業の目的です。

【到達目標】
男女の働き方の現状と課題を歴史的な経緯を踏まえて理解する。
雇用形態の多様化が若年期のキャリアに及ぼす影響を理解する。
まともな働き方を志向し、実現していくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業ではレジュメに沿って解説や問題提起を行った後に、授業内容に沿ったミニ・レポートを計６回、授業内外で書きます。雇用と労働をめぐる歴史的推移と現状を理解した上での考察であることを重視します。ミニ・レポートの主な内容は次回の授業でフィードバックします。加えて中間と期末、２回の授業内試験（論述試験）を実施します。
初回の授業はオンライン（Zoom）で実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	講義のテーマ、到達目標、受講上の注意、評価方法、文献紹介（Zoomで実施）
第2回	女性の働き方をめぐる法制度の変遷	男女雇用機会均等法と育児・介護休業法
第3回	コース別雇用管理	統計的差別／コース別雇用管理の実態
第4回	コース別雇用管理の変容と企業による女性活用の現在	正社員女性の戦力化の現状
第5回	派遣労働を考える	派遣労働の歴史的推移と問題点
第6回	雇用ポートフォリオと非正規労働	雇用ポートフォリオ／企業と労働者の双方から見た非正規雇用
第7回	中間試験	中間試験実施
第8回	非正規雇用の処遇改善／雇用によらない働き方	無期転換と同一労働・同一賃金／雇用によらない働き方の特徴と課題
第9回	男女の働き方とワークライフバランス	ケアレスマン・モデルと夫婦の生活時間・仕事時間
第10回	長時間労働とワーク・ライフ・バランス	残業の法的根拠と長時間労働の実態
第11回	長時間労働の規制と労働時間管理	働き方改革と勤務間インターバル規制
第12回	女性の管理職登用	女性の管理職登用とクリティカル・マス、男女の賃金格差の是正
第13回	転勤を考える	転勤をめぐる課題と企業の対応
第14回	期末試験	期末試験実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
社会情勢の変動とそれを踏まえた論考に常日頃からアンテナを張り、読み解く習慣をつけること。新聞の購読（WEB版の有料購読を含む）を強く勧める。授業で紹介する記事や文献なども積極的に参照すること。
中間試験・期末試験に向けて、授業内容を振り返り、理解を深めておくこと。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
毎回の授業時に学習支援システムの教材欄にレジュメを掲示する。

【参考書】
さしあたり下記を挙げておきます。
・濱口桂一郎（2009）『新しい労働社会』岩波新書
・濱口桂一郎（2013）『若者と労働』中公新書ラクレ
・川人博（2014）『過労自殺　第二版』岩波新書
・メアリー・C・ブリントン（2022）『縛られる日本人』中公新書
・駒川智子・金井郁（2024）『キャリアに活かす雇用関係論』世界思想社
・厚生労働省「知って役立つ労働法」WEB公開
・石田眞・浅倉むつ子・上西充子（2017）『大学生のためのアルバイト・就活トラブルQ＆A』旬報社

【成績評価の方法と基準】
授業内外で計6回実施するミニ・レポート（配点50点）と中間試験（配点20点）、期末試験（配点30点）により評価する。なお、ミニ・レポートの提出が0〜2回の学生や、ミニ・レポートまたは中間試験・期末試験において代筆・剽窃などの不正行為が判明した学生には、単位を付与ししない（E評価とする）。詳しくは初回の授業で説明するので、必ず確認すること。

【学生の意見等からの気づき】
働き方をめぐる歴史的な変化と今日的な働き方との関係を、より理解できるように、努めていきたい。
ミニ・レポートのフィードバックに加え、アクティブラーニングの機会を工夫したい。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを通じてレジュメの配布を行う。
オンラインの授業はZoomで行う。

【その他の重要事項】
初回の授業で授業の進め方や評価の方法、課題などの説明を行うため、必ず出席すること。なお、初回の授業はオンラインで実施する。
ZoomのURLは学習支援システムの「お知らせ」にて連絡する。
春学期の「労働市場と職業選択」（「職業選択論Ⅰ」）を受講した上での受講が望ましい。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course is designed to provide students with a basic understanding of changes in the labor market and working styles. The main themes include diversification of employment patterns, long working hours, work-life balance, and gender equality.
【Learning Objectives】
At the end of the course, students are expected to understand issues related to changing labor market and work styles, and to apply the knowledge to realize decent work.
【Learning activities outside of classroom】
Students will be expected to read newspaper articles and recommended books. Your study time will be more than four hours for a class.
【Grading Criteria/Policies】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Short reports: 50%, Mid-term report: 20%, Term-end report: 30%

MAN200MA（経営学 / Management 200）

リーダーシップ論【2024年度以前入学者のみ】

川瀬　萌馨

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水2/Wed.2　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：2024年度以前入学者のみ履修可能

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代のビジネス・社会はデジタル化・多様化・グローバル化・リモート化・長寿命化等により急速に変化しています。本講義では、リーダーシップ研究の主要理論と最新トピックを横断的に学び、ケース演習や個人ワークを通じて、受講者自身のリーダーシップスタイルや課題を明確化し、理論に基づいて省察・発展させることを目的とします。

【到達目標】
・リーダーシップ研究の基礎理論を理解・比較できる。
・演習を通じて、自身のリーダーシップスタイルや開発課題を明確化できる。
・現代社会の文脈におけるリーダーシップ課題を考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
・授業は講義形式を基本として進めます。
・一部の回では、演習（グループディスカッションやグループワーク）を取り入れる予定です。演習では、ワークシートを記入のうえ提出してもらいます。
・提出された課題については、全体的な傾向やポイントを中心に、講義内でフィードバックを行います。
・受講者数や授業の進行状況等により、内容や方法を変更する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義ガイダンス、リーダーシップの必要性の説明
第2回	リーダーシップとは	リーダーシップの定義と基本概念、研究史を学ぶ
第3回	特性理論と行動理論①	特性理論と初期の行動理論を学ぶ
第4回	行動理論②	マネジリアル・グリッド、PM理論を通じて、リーダーの行動スタイルを理解する
第5回	条件適合理論①	フィードラー理論、LPCモデルを学び、状況に応じたリーダーシップを考える
第6回	条件適合理論②	パス・ゴール理論とシチュエーショナル・リーダーシップ理論を学び、フォロワーへの対応を考察する
第7回	小テスト	第1回〜第6回の内容を確認し、理解度を評価する
第8回	交換・交流理論①	社会的交換理論、信頼性蓄積理論などを通じて、リーダーとフォロワーの関係性を理解する
第9回	交換・交流理論②	LMX理論を通して、リーダー・フォロワー関係の発展段階を考える
第10回	変革型・カリスマ型リーダーシップ	組織変革を主導するリーダーの行動を学び、変革成功の要因を探る
第11回	リーダーシップ演習①	デジタル化・グローバル化の時代におけるリーダーシップをテーマに、実在企業のケースを分析。授業の最後には、各グループの議論内容を発表し、講義全体の学びとの関連を整理する
第12回	倫理的リーダーシップ	サーバント・リーダーシップ、オーセンティック・リーダーシップを学び、倫理観と信頼の重要性を理解する
第13回	リーダーシップ演習②	多様化・ダイバーシティをテーマにした事例を扱い、チームで分析・議論する。授業の最後には、各グループの議論内容を発表し、講義全体の学びとの関連を整理する
第14回	講義のまとめと最終試験の説明	全体の振り返りを行い、期末試験の概要を説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内容をより深く理解するために、事前に指定された教科書や参考資料を読んだうえで授業に臨むことを推奨します。授業後は、授業内で扱った課題や演習内容を振り返り、学びを整理するとともに、課題提出や次回のディスカッションに向けた準備を行ってください。（本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。）

【テキスト（教科書）】
グロービス経営大学院（編）. (2014).【新版】グロービスMBAリーダーシップ. ダイヤモンド社.

【参考書】
小野, 善生. (2013). 最強の「リーダーシップ理論」集中講義. 日本実業出版社.
金井, 壽宏. (2005). リーダーシップ入門. 日本経済新聞社.
※その他の参考書は授業内で適宜紹介します

【成績評価の方法と基準】
最終試験: 50％
授業内課題・小テスト: 30％
授業参加度（発言・グループ活動・貢献度）: 20％

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】
ノートPCまたは大型タブレット（授業中の常時使用は前提としない）

【その他の重要事項】
授業ではディスカッションを重視しており、さまざまな考え方に触れることを大切にします。異なる意見が出た場合も互いに尊重し合い、前向きな議論ができる環境づくりにご協力ください。

【Outline (in English)】
Contemporary business and society are undergoing rapid transformation driven by digitalization, increasing diversity, globalization, remote work, and longer career and life spans. In this course, students will explore major theories and emerging topics in leadership research in an integrated and systematic manner. Through case studies and individual exercises, students will clarify their own leadership styles and development challenges, and reflect on and develop their leadership based on theoretical perspectives.

MAN200MA（経営学 / Management 200）

経営統計論 A（心理データ）【2024年度以前入学のみ】

鎌倉　哲史

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：月3/Mon.3　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：2024年度以前入学者のみ履修可能

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、産業場面をはじめとする様々な場面の実態把握に重要な役割を果たす統計スキルについて学びます。このようなスキルは各種職業の適性検査、心理テスト、ストレスチェックなどの個人差の把握や安全対策の効果測定、意識調査など職場全体の傾向把握等で活用されます。実際には、調査対象者の行動データや質問紙等の回答データを集約し、得られたデータに対する統計処理を通じて、仮説の検証や傾向の把握を行っています。この一連のプロセスや、得られた結果の解釈方法等を、講義や実習（excel等のソフトを使用する）を通じて習得します。

【到達目標】
統計データ・統計調査に関する知識を獲得する。
代表的な統計分析手法のねらいや仕組みを理解する。
目的やデータに応じた、適切な統計手法を選択できるようになる。
分析結果を正確に記述（解釈）できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
　この授業では、心理統計とは何かについて学習します。まず、調査のデザイン・調査票の作成・データ取得・集計に関する手順を学びます。次に、得られたデータの集計方法（例：サンプル数、平均値、標準偏差）のスキルを、実習を通じて獲得し、そこから得られる情報とその解釈について学習します。その後、目的に応じたデータ分析手法を紹介します。
　質問紙調査でよく用いられる基礎的な分析手法として、集団間の比較のための単変量比較であるt検定、分散分析、χ2検定等があり、複数の説明変数（独立変数）によって1つの目的変数（従属変数）を説明・予測する重回帰分析があります。この授業ではこれらの基礎的な分析手法を学ぶことに重点を置きます。
　一方、心理学の論文を読む上ではロジスティック回帰分析、クラスター分析、因子分析、共分散構造分析（構造方程式モデリング）等についても最低限の知識が必要となります。これらについてはひとまず論文を「読める」ようになることを目指します。
　適宜、授業の理解度を確認するためのミニテストを課します。ミニテストの解説や回答に対するフィードバックは、次回の授業の冒頭で行います。この他、後半の授業では予習教材を配布する場合があり、授業はその内容を把握している前提で進める予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、オリエンテーション	本授業の目的、授業の進め方等についての説明、データとは、尺度水準
第2回	1変数の標本統計量	代表値 / 散布度 / 標準化
第3回	2変数の関係	クロス集計表 / 連関係数 / 散布図 / 共分散 / 相関係数 / 尺度水準に応じた統計量
第4回	相関と回帰	回帰の考え方 / 回帰係数 / 残差 / 決定係数
第5回	相関と因果	因果関係 / 疑似相関 / 相関的研究と実験的研究
第6回	実験的研究と要因計画	実験的研究の変数・要因と水準 / 要因の主効果と交互作用 / 群内・群間・混合計画 / 効果量
第7回	母集団と標本	標本の抽出 / 母数と統計量 / 確率と推測統計
第8回	統計的推定	推定量とその性質 / 標準誤差 / 点推定から区間推定 / 信頼区間 / エラーバー（推測統計学の結果の可視化）
第9回	統計的仮説検定	帰無仮説と対立仮説 / 2種類の過誤 / 帰無仮説検定の具体例 / さまざまな検定の例
第10回	平均値の差の検定	2つの平均値の差の検定の利用場面 / 独立した2群の（対応のない）平均値の差の検定 / 対応のある平均値の差の検定 / 差の効果量 / 平均値の差の検定結果の読み取り
第11回	分散分析	分散分析 / 1要因多水準の分散分析 / 2要因の分散分析 / 単純効果 / 分散分析の結果の読み取り
第12回	統計的仮説検定の注意点	片側検定と両側検定 / 検定の多重性 / 検定の仮定・補正方法 / ノンパラメトリック検定
第13回	重回帰分析	重回帰分析 / 標準化係数 / 回帰係数の推定・検定 / 重回帰分析の注意点 /
第14回	その他の分析手法、試験・まとめと解説	心理学論文で見られるその他の分析手法に関する紹介と解釈方法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習が時間内に終了しなかった場合、次回の授業までに取り組んでおく必要があります。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は使用しません。

【参考書】
特に参考書の指定はありません。授業中に適宜参考文献等を示し、授業終了後に意欲のある方は発展的に調べられるようにします。

【成績評価の方法と基準】
・授業への積極的な貢献度とミニテスト：40％
・学期末のレポート課題：60％

【学生の意見等からの気づき】
前年度の授業で、特に学期後半の内容について授業時間内だけではフォローが難しい面がありました。「予習教材の配布」については、これを踏まえた改善点となります。

【学生が準備すべき機器他】
本授業を円滑に進行するために授業支援システムを利用しますので、操作に慣れておいてください。

【その他の重要事項】
クラス（教室）の収容人数を超える履修希望がみこまれる場合には、初回に抽選等の方法によって選抜を行います。そのため、必ず初回授業に出席してください。抽選に参加しなかった方は受講できません。

なお昨年度は受講希望者が多く、3分の2以上の方が落選となってしまいました。昨年度落選した方は優先的に受講できるようにしますが、その場合でも初回授業には必ず出席し、抽選参加の手続きを行ってください。（詳細は初回授業でご説明いたします。）

【Outline (in English)】
＜Course outline＞
This course is designed to deepen students' knowledge of analytical methods, and methods for interpreting results.
＜Learning Objectives＞
Acquire knowledge of statistical data and statistical surveys.
Understand the aims and mechanisms of typical statistical analysis methods.

To be able to select appropriate statistical methods according to the purpose and data.
To be able to accurately describe (interpret) the results of analysis.
＜Learning activities outside of classroom＞
If the practical training is not completed in time, it must be worked on before the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
＜Grading Criteria /Policy＞
Positive contribution to class and mini-test: 40%.
End of semester test: 60%.

MAN200MA（経営学 / Management 200）

企業会計論

赤城　諭士

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：月3/Mon.3　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　簿記Ⅰでは、簿記をはじめて学ぶ人を対象に、簿記一巡の手続きについて学習します。簿記は、会社が財産の管理を行ううえでも役立ちますが、現在では、「損益計算書」と「貸借対照表」と呼ばれる2つの表（「財務諸表」と呼ばれる）を作成する役割が重視されています。この財務諸表を作成するための手順が「簿記一巡の手続き」と呼ばれるものです。
　財務諸表は、今後、会計学（特に財務会計）を学ぶうえでも重要です。簿記・会計学の基礎を身につけるために簿記一巡の手続きにしたがって、自分で処理を行い、財務諸表を作成できるようにしていきましょう。

【到達目標】
　簿記一巡の手続きにしたがって、取引を処理し、財務諸表の作成までできるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
　配布資料にもとづいて説明し、問題演習を通じて当日の説明内容を確認する。また、授業の開始時に前回までの学習内容に関する小テストを実施し、知識の定着を図る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、簿記とは	・授業の進め方・成績評価方法の説明。 ・簿記の役割および手続きに関する説明。
第2回	貸借対照表①	・個人商店を前提に、資産・負債・資本について説明。
第3回	貸借対照表②	・財産法による純損益の計算 ・貸借対照表の作成。
第4回	損益計算書	・収益・費用についての説明 ・損益法による純損益計算 ・損益計算書の作成。
第5回	財務諸表の作成に必要な情報とその記録	・財務諸表を作成するのに必要な情報は何かを考える。 ・取引要素の分解
第6回	総合問題演習①	第1回から第5回までの説明内容に関わる問題演習。
第7回	第1回授業内試験	第1回から第6回までの授業内容に関わる試験と総括。
第8回	勘定口座を用いた記録	・勘定への記入のルール ・取引要素の結合関係
第9回	仕訳と転記	・仕訳と転記 ・仕訳の役割
第10回	試算表	・試算表の役割 ・合計試算表、残高試算表および合計残高試算表の作成
第11回	精算表、決算手続き①	・精算表の役割および作成方法 ・収益・費用勘定残高の損益勘定への振替仕訳
第12回	決算手続き②	・損益勘定残高の資本金勘定への振替。 ・総勘定元帳の締め切り。 ・繰越試算表の作成。 ・財務諸表の作成。
第13回	総合問題演習②	第8回から第12回までの説明内容に関わる問題演習。
第14回	第2回授業内試験	第2回から第13回までの授業内容に関わる試験と総括。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　授業支援システムを通じて事前配布する説明資料をあらかじめ読んでおくと理解が深まります。ですが、簿記では予習以上に復習が重要です。授業での説明内容を確認し、問題演習を繰り返すことで、簿記の手続きを身につけていってください。なお、本授業の準備・復習のための学習時間は各2時間を標準としています。

【テキスト（教科書）】
使用しない（配布資料にもとづいて説明および演習を行う）。

【参考書】
渡部裕亘、片山覚、北村敬子編著『検定簿記講義3級（2026年度版）』中央経済社。
渡部裕亘、片山覚、北村敬子編著『検定簿記ワークブック3級（2026年度版）』中央経済社。

【成績評価の方法と基準】
（1）成績評価方法
　授業内で実施する2回の試験の結果に基づいて評価する。
（2）成績評価基準・評価の配分等
　第1回試験（40％）、第2回試験（60％）

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
電卓（問題を解く際に必要となります。また、試験では電卓の持ち込みを認めます。）

【Outline (in English)】
Bookkeeping I is designed for beginners learning bookkeeping, covering the procedures for a full cycle of bookkeeping. While bookkeeping aids companies in managing their assets, its primary role today is to prepare financial statements. The procedures for preparing financial statements are referred to as the “full cycle of bookkeeping.”
　Financial statements are also crucial for future studies in accounting (especially financial accounting). To master the fundamentals of bookkeeping and accounting, learn how to prepare financial statements.

MAN200MA（経営学 / Management 200）

経営統計論Ｂ（企業データ）

中野　貴之

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：月3/Mon.3　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、大量の経営・企業データを、パソコンを用いて、整理、集約および分析する方法を学びます。Excelの基本操作から開始し、最終的には、統計学における基本的な検定方法および回帰分析まで学びます。使用するデータは、主に利益および売上等の経済・企業データですが、本演習で獲得できる分析方法は、分野に拘わらず、広く役立ちます。

【到達目標】
統計学の基礎知識を身に付けるとともに、統計を用いた専門的論文を読めるように指導します。高度な統計学は扱いません。あくまで統計分析の基礎を、実践で使えるようになることを目標に置きます。また、経済・経営のデータに精通できるように指導します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
情報実習室にて、演習形式にて行います。パソコンを用いた分析ですので、統計分析の楽しさを経験しながら、自然に分析手法が身についていくと思います。また、経済・経営のデータに精通できるようになります。また、レポートの提出を求めていきますが、受講者の意見等は授業内で紹介し、さらなる議論に活用します。
大学行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本講義の主題と到達目標を説明する。
第2回	エクセルの基本操作	企業データの処理の基礎として、MS-Excel、統計ソフトRの基本操作について学びます。
第3回	記述統計(1)	中心的尺度（平均、中位数、最頻値）について、企業データを用いて学びます。
第4回	記述統計(2)	ちらばりの尺度（レンジ、分散、標準偏差）について企業データを用いて学びます。
第5回	記述統計(3)	標準化（Z値）について学びます。企業データの大小を相対的に理解できるようになります。
第6回	記述統計(4)	2変量の相関について学びます。企業データの関連性について理解できるようになります。
第7回	回帰分析(1)	単回帰について学びます。企業データを一次関数により理解できるようになります。
第8回	回帰分析(2)	重回帰について学びます。目的変数と複数の独立変数との関連性について理解できるようになります。
第9回	回帰分析(3)	ダミー変数、交互作用項について学びます。企業データの決定要因をより詳しく理解できるようになります。
第10回	回帰分析(4)	回帰診断について学びます。企業データの回帰結果を正しく診断できるようになります。
第11回	回帰分析(5)	回帰分析を用いた、研究論文を読みます。企業データを用いた論文を正確に読めるようになります。
第12回	各種検定(1)	平均値、平均差の検定等について学びます。企業データが有意に異なるかどうかについて理解できるようになります。
第13回	各種検定(2)	分散比の検定、カイ二乗検定等について学びます。企業データの分散や比率が異なるどうかについて理解できるようになります。
第14回	各種検定(3)	回帰係数の検定について学びます。企業データの回帰の検定について理解できるようになります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
さまざまな授業で統計データが取り扱われることが多いと思いますので、それらに関心をもちつつ本講義を受けると、一層効果が高まるでしょう。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
開講時に指示します。

【参考書】
開講時に指示します。

【成績評価の方法と基準】
①授業における発言、取り組み: 25%
②授業内レポート: 45%
③授業内テスト: 30%

【学生の意見等からの気づき】
統計学を理解できてよかったという意見が多いので、引き続き受講者に有用な授業を行っていきます。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室で行い、パソコンを用いた演習を行いながら分析手法を身につけていきます。

【その他の重要事項】
・本講義は、「キャリア研究調査法（量的調査）」の実践編という位置づけにあります。新しい上級の知識を獲得するというよりは、基礎を十分に復習し、実践を積んで実際に自分で分析できるようになることが目的です。
・統計の基礎からはじめていくので、「キャリア研究調査法（量的調査）」を履修していない人でも大丈夫です。
・なお、本講義は情報実習室で行うため、履修人数に制限があります。初回の講義には必ず出席してください。履修制限を超えた場合には選考を行います。

【Outline (in English)】
*Course outline
The aim of this course is to master the basics of statistics. No prior basic knowledge is required.
*Learning Objectives
The goal of this class is to enable students to analyze and interpret large quantitative data on their own. This class will cover descriptive statistics, statistical tests and regression analysis.
*Learning activities outside of classroom
If you are interested in how statistical data is used in the media, it will be useful for your studies. Your required study time is at least 4 hours for each class meeting.
*Grading Criteria
Your overall grade in the class will be decided based on the following.

in class contribution: 25%. in class Reports: 45%, in class a test: 30%.

MAN200MA（経営学 / Management 200）

戦略経営論 I

古田　克利

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：水4/Wed.4　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業概要
組織行動論の基礎としてモチベーション論、組織社会化論、キャリア発達論等の理論を学ぶ
授業の目的・意義
組織行動論に関する基礎的な概念、理論を正確に説明し、それらにもとづき個人を分析し課題を抽出できるようになることを目指す

【到達目標】
・組織行動論に関する基礎的な概念、理論を正確に説明できる
・組織行動論に関する基礎的な概念、理論にもとづき個人の行動を分析できる
・組織行動論に関する基礎的な概念、理論にもとづき個人の課題を抽出できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義および講義内容に基づく個人演習とグループ討議を行います。
授業内での発表や質問等に対するフィードバックは原則当日の授業内に行います。
リアクションペーパーや課題等に対するフィードバックは翌授業回の冒頭に、全体に対して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	本講義の概要・目的・成績評価方法
第2回	組織内キャリア（1）	キャリア発達段階の視点から個人の組織内キャリアを分析する
第3回	組織内キャリア（2）	キャリアトランジションの視点から個人の組織内キャリアを分析する
第4回	組織行動の実際（1）	実際の組織行動についてディスカッションする
第5回	モチベーション（1）	目標設定の視点から個人のモチベーションを分析する
第6回	モチベーション（2）	自己決定の視点から個人のモチベーションを分析する
第7回	組織行動の実際（2）	実際の組織行動についてディスカッションする
第8回	組織適応（1）	6次元モデルの視点から個人の組織社会化を分析する
第9回	組織適応（2）	沈黙動機の視点から個人の組織適応を分析する
第10回	組織適応（3）	援助希求行動の視点から個人の組織適応を分析する
第11回	組織行動の実際（3）	実際の組織行動についてディスカッションする
第12回	課題解決演習（1）	個人の課題について組織行動論の視点から分析する
第13回	課題解決演習（2）	個人の課題解決について組織行動論の視点から検討する
第14回	課題解決演習（3）	組織行動論の視点から個人の課題解決結果を発表する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・事前資料による事前学習
・講義内容の復習
・各回の授業の準備学習・復習時間は各2時間、計4時間を標準とする

【テキスト（教科書）】
適宜、学習支援システム上にて配付します

【参考書】
適宜、学習支援システム上で紹介します

【成績評価の方法と基準】
授業内課題（配点60％）
期末レポート（配点40％）

【学生の意見等からの気づき】
グループワークやペアワークを積極的に取り入れたいと考えています

【学生が準備すべき機器他】
パソコンを持参してください

【Outline (in English)】
Course outline
This course covers basic constructs and theories of organizational behavior, focusing on motivation theory, organizational socialization theory, and career development theory.
Learning objectives
Can explain basic constructs and theories of organizational behavior.
Can analyze individuals based on the constructs and theories of organizational behavior.
Can identify individual issues based on the constructs and theories of organizational behavior.
Learning activities outside of classroom
Summarize the key issues in the lectures.
Analyze real business cases using the perspectives explained in the lectures.
Before/after each class, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.
Grading Criteria
In-class Assignment: 60%
Final report: 40%

MAN200MA（経営学 / Management 200）

戦略経営論 II

古田　克利

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水4/Wed.4　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業概要：
組織行動論の基礎としてリーダーシップ論、人事評価論、組織文化論等の理論を学ぶ
授業の目的・意義：
組織行動論に関する基礎的な概念、理論を正確に説明し、それらにもとづき組織を分析し課題を抽出できるようになることを目指す

【到達目標】
・組織行動論に関する基礎的な概念、理論を正確に説明できる
・組織行動論に関する基礎的な概念、理論にもとづき組織を分析できる
・組織行動論に関する基礎的な概念、理論にもとづき変革を提案、実行できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義および講義内容に基づく個人演習とグループ討議を行います。
授業内での発表や質問等に対するフィードバックは原則当日の授業内に行います。
リアクションペーパーや課題等に対するフィードバックは翌授業回の冒頭に、全体に対して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	本講義の概要・目的・成績評価方法
第2回	マネジメント論（1）	自組織のマネジャーの役割を分析する
第3回	マネジメント論（2）	自組織のリーダーの行動を分析する
第4回	組織プロセス（1）	6つの戦術の視点から自組織の組織社会化の仕組みを分析する
第5回	組織プロセス（2）	自組織のメンタルモデルを分析する
第6回	組織行動の実際（1）	実際の組織行動についてディスカッションする
第7回	人材マネジメント（1）	自組織の職務特性を分析する
第8回	人材マネジメント（2）	自組織の人事評価の仕組みを分析する
第9回	人材マネジメント（3）	自組織のコンピテンシーを分析する
第10回	組織行動の実際（2）	実際の組織行動についてディスカッションする
第11回	課題解決演習（1）	自組織の課題について組織行動論の視点から分析する
第12回	課題解決演習（2）	自組織の課題解決について組織行動論の視点から検討する
第13回	課題解決演習（3）	組織行動論の視点から自組織の課題解決結果を発表する
第14回	まとめと試験	まとめと試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・事前資料による事前学習
・講義内容の復習
・各回の授業の準備学習・復習時間は各２時間、計４時間を標準とする

【テキスト（教科書）】
適宜、学習支援システム上にて配付します

【参考書】
適宜、学習支援システム上で紹介します

【成績評価の方法と基準】
授業内課題（配点60％）
期末レポート（配点40％）

【学生の意見等からの気づき】
グループワークやペアワークを積極的に取り入れたいと考えています

【学生が準備すべき機器他】
パソコンを持参してください

【Outline (in English)】
Course outline
This course covers fundamental theories of organizational behavior, focusing on leadership theory, performance appraisal theory, organizational culture theory, and related concepts.
Learning objectives
Can explain basic constructs and theories of organizational behavior.
Can analyze an organization based on the constructs and theories of organizational behavior.
Can identify organizational issues based on fundamental concepts and theories of organizational behavior.
Learning activities outside of classroom
Summarize the key issues in the lectures.
Analyze real business cases using the perspectives explained in the lectures.
Before/after each class, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.
Grading Criteria
In-class Assignment: 60%
Final report: 40%

MAN200MA（経営学 / Management 200）

経営分析論 I

中野　貴之

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：月3/Mon.3　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、財務諸表（貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書など）の情報を適切に収集および分析するための基本的な考え方や計算手法を習得することを目的とします。この授業では、財務諸表分析における収益性、安全性、効率性および成長性などに関する伝統的な分析方法を中心に学びます。また、設例や実際のデータを用いて演習を行います。

【到達目標】
具体的な到達目標は以下である。
①基本的な財務諸表(貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書）を読むことができる。
②財務数値の意味を理解する。
③企業の財務数値を用いて、受講者自身が分析を行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
財務諸表分析等の説明を行った上で、各自、実際に分析を行い、実習により理解していくことを基本とします。授業内レポートのフィードバックは、授業中に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本講義の主題と到達目標を説明します。
第2回	財務諸表分析の基礎	・財務諸表分析の意義 ・財務諸表分析の方法
第3回	財務諸表の見方	・連結財務諸表について ・連結財務諸表の相互関係
第4回	貸借対照表データによる安全性分析	・貸借対照表データによる基本分析 ・短期財務安全性の分析 ・長期財務安全性の分析 ・有利子負債の分析
第5回	損益計算書データによる収益性分析	・損益計算書データによる基本分析 ・段階別売上高利益率の算定 ・プロフォーマ利益 ・セグメント情報の分析
第6回	相互関係比分析による収益性分析(1)	・相互関係比と収益性分析について
第7回	相互関係比分析による収益性分析(2)	・投下資本利益率の算定 ・投下資本利益率の分解 ・ＲＯＡとＲＯＥの関係
第8回	中間レビュー	第7回までの学習内容についてレビューを行います。
第9回	効率性分析(1)	・使用総資本回転率 ・回転期間の分析
第10回	効率性分析(2)	・増加運転資本
第11回	キャッシュ・フロー・データによる分析(1)	・キャッシュ・フローと会計利益 ・活動区分別キャッシュ・フロー
第12回	キャッシュ・フロー・データによる分析(2)	・キャッシュ・フロー・データによる分析
第13回	キャッシュ・フロー・データによる分析(3)	・フリー・キャッシュ・フローの算定
第14回	本講義のレビュー	本講義のレビューを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・復習をこまめに行うことが知識の定着に有効です。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
乙政正太 著『財務諸表分析(第4版)』同文舘出版、2024年。

【参考書】
開講時に指示します。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は次のとおりです。
①平常点30%（授業内のQuiz、レポートの得点）
②定期試験70%

【学生の意見等からの気づき】
・抽象度の高い概念について、具体的な事例を用いた説明をすることを心がけます。
・また、実例を多く取り上げ、受講者が主体的に取り組めるように工夫します。

【その他の重要事項】
・本講義は、経営分析IIの基礎となります。会計学は専門性が高いですが、一度身に着けると、ずっと使うことができるやりがいのある勉強です。

【Outline (in English)】
*Course outline
The aim of this course is to help students acquire Business Analysis.　The goals of this course is to use financial statement information to understand the business conditions of companies based on management indicators and other information.
*Learning activities outside of classroom
Students are encouraged to review the class on a regular basis. Your required study time is at least 4 hours for each class meeting.
*Grading Criteria
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Quiz and short reports: 30%, Term-end examination: 70%.

MAN200MA（経営学 / Management 200）

経営分析論 II

平井　裕久

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水2/Wed.2　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、財務諸表（貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書など）から得られる情報を利用し、そこから算定される経営指標などによって、企業の経営状態の実像や課題を観察する眼を養うことを目標とする。
財務諸表分析における、企業の収益性、安全性、効率性、成長性などに関する伝統的な分析方法を中心とし、また近年話題のテーマである企業価値評価についても、設例や上場企業のデータを用いて講義していく。

【到達目標】
具体的な到達目標は以下である。
①基本的な財務諸表(貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書）を読むことができる。
②財務数値の意味を理解する。
③企業の財務数値を用いて分析を行える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
本講義では、プレゼンテーションソフトを用いて説明する。講義内では、補足説明のためのプリントなどを配布し、より具体的な事例を確認する。また講義内において、数回の課題を行う予定である。また数回のリアクションペーパー提出を行って頂き、進捗スピードや内容の理解度について確認をおこなっていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の進め方や、経営分析を学ぶ意義や関連する研究の紹介などについて解説する。
第2回	第７章　キャッシュ・フロー・データによる分析	・キャッシュフローと会計利益 ・活動区分によるキャッシュフロー
第3回	第７章　キャッシュ・フロー・データによる分析	・フリーキャッシュフロー ・キャッシュコンバージョンサイクル(CCC)
第4回	財務諸表分析の基礎的確認	・財務諸表の確認 ・財務諸表分析の意義 ・分析手法
第5回	第９章　成長性分析	・業績の推移 ・業績予想との比較 ・上場企業の成長性
第6回	第10章　付加価値分析	・付加価値の意味 ・労働生産性の分析 ・労働分配率 ・経済的付加価値
第7回	第13章　利益マネジメントと財務諸表分析	・会計利益の操作性 ・利益マネジメントの方法と行使パターン ・利益マネジメント行動の検出
第8回	中間テスト	中間テストの実施および解説
第9回	第８章　損益分岐点分析	・損益分岐点分析の意味 ・限界利益と損益分岐点 ・営業レバレッジ ・変動費と固定費
第10回	補章　貨幣の時間的価値と割引計算	・貨幣の時間的価値 ・年金の現在価値 ・年金型投資商品の現在価値
第11回	第11章　倍率指標とキャッシュ・フローに基づく価値評価	・ファンダメンタル分析 ・企業価値評価の間便法
第12回	第11章　倍率指標とキャッシュ・フローに基づく価値評価	・配当割引モデル ・割引キャッシュ・フローモデルと企業価値評価
第13回	第12章　会計利益に基づく価値評価	・会計利益と株式価値評価 ・残余利益と株式価値評価モデル ・価値関連性分析 ・株価説明力に影響を及ぼす要因
第14回	試験・まとめと解説	まとめと試験実施および解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等)】
テキストの該当章を事前によく読んで予習しておくこと。
講義終了後には、内容の理解を確実なものとするためにも復習をすること。
本授業の準備・復習時間は、各４時間を標準とします。

【テキスト（教科書)】
乙政正太 著『財務諸表分析(第4版)』同文舘出版，2024

【参考書】
桜井久勝『財務諸表分析（第5版)』中央経済社，2012
佐藤裕一『ビジュアル経営分析の基本（第5版)』日本経済新聞出版社，2012
森田松太郎『経営分析入門（第4版)』日本経済新聞出版社，2009
パレプ他、斉藤静樹監訳、筒井知彦他訳『企業分析入門（第2版)』東京大学出版会，2001
平松一夫他『事例でわかる企業分析』東京経済情報出版，2009
ペンマン、杉本徳栄他訳『財務諸表分析と証券評価』白桃書房，2005

【成績評価の方法と基準】
定期試験(60％)・中間テスト(30％)・平常点(10％)による総合評価

【学生の意見等からの気づき】
引き続き具体的な企業のデータを用いて、イメージしやすい講義をしたいと考えます。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布や課題提出等のために学習支援システム等を利用する

【その他の重要事項】
受講に際して、簿記の基礎的な知識(日商簿記３級程度)はあることが望ましい。
授業および試験においては、“電卓”を準備すること。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to develop students' ability to analyze corporate performance through information obtained from financial statements, including balance sheets, income statements, and cash flow statements. By examining key management indicators derived from these statements, students will learn to observe the actual financial condition of companies and identify underlying managerial issues.
The course focuses primarily on traditional methods of financial statement analysis, such as evaluating profitability, safety, efficiency, and growth. In addition, the course will also cover corporate valuation, a topic that has attracted increasing attention in recent years, using practical examples and data from publicly listed companies.
Students are expected to spend approximately four hours before and after each class meeting to review and deepen their understanding of the course content.
Final grades will be determined based on the following components:
・Term-end examination: 60%
・Short reports: 30%
・In-class contribution: 10%

MAN200MA（経営学 / Management 200）

アントレプレナーシップ論 I【2024年度以前入学者用】

北原　成憲

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：水2/Wed.2　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞
授業コード：C5113
科目名：アントレプレナーシップ論
＜2024年度以前入学者＞
授業コード：C7270
科目名：アントレプレナーシップ論 I
※入学年度により授業コード・科目名が異なります

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
起業家精神（アントレプレナーシップ）とは、単に会社を興すことだけを指すのではありません。不確実な状況下で自ら問いを立て、旗を掲げ、周囲を巻き込みながら「決断」を積み重ねて価値を創造していく姿勢そのものです。
本講義では、数多くの新製品・新サービスの誕生に携わってきた株式会社マクアケの専門性執行役員/R&Dプロデューサー（講師）、および、最前線で活躍する起業家ゲストを招き、彼らが直面した「リアルな決断の場面」を模擬体験します。前半ではケーススタディを通じて決断の経験値を積み、後半では自らの「あったらいいな」を形にする商品企画と、他者の共感を生むプレゼンテーション手法を学びます。単なる知識の習得に留まらず、自身の内なる情熱をビジネスの形へと昇華させる「実践的な起業家マインド」の修得を目指します。

【到達目標】
①起業家が直面する課題と、それに対する意思決定のプロセスを理解できる。
②自身の原体験や興味関心から独自のビジネスアイデアを抽出し、言語化できる。
③N1インタビューを通じて顧客ニーズを捉え、アイデアを具体化できる。
④資金調達や仲間集めに必要な「共感を生むプレゼンテーション」の構成と技術を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
本講義は以下の3つのフェーズで進行します。
①「決断の疑似体験」フェーズ（第1回〜第6回）：講師やゲスト起業家による創業ストーリーを聴講。ターニングポイントとなった場面で「自分ならどうするか」をディスカッションし、決断の要諦を学びます。
②「アイデア具現化」フェーズ（第7回〜第10回）：自身の「あったらいいな」を起点に、N1インタビュー等の手法を用いて商品企画を磨き上げます。
③「共感と発信」フェーズ（第11回〜第14回）：企画を他者に伝え、応援を得るためのプレゼンテーション技術を学び、最終発表に向けてアウトプットを完成させます。
※毎授業後、気づきや今後解決したい課題を「感想文（リアクションペーパー）」として提出します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーションと「決断」の基礎	授業の進め方と評価方法の解説。講師（北原）の実務経験に基づき、起業家が直面する「決断」の基礎をディスカッション形式で学ぶ。
第2回	ゲスト講演に基づくケース：創業と志	ゲスト起業家の創業ストーリーをもとに、アイデアを事業に変える際の「最初の一歩」と、リスクを負ってでも挑戦する際の決断の軸について議論する。
第3回	ゲスト講演に基づくケース：逆境と軌道修正	ゲスト起業家の実体験をもとに、事業開始後の予期せぬ困難や計画変更（ピボット）の場面を検討。失敗を学びに変える「修正の決断」のプロセスを体験する。
第4回	ゲスト講演に基づくケース：組織と人材	ゲスト起業家の講演を通じ、採用やチームビルディングにおける葛藤を学ぶ。「ヒト」に関わる難しい意思決定において、何を優先すべきかをグループで考察する。
第5回	ゲスト講演に基づくケース：社会価値と成長	ゲスト起業家がビジネスを拡大させる段階で直面した決断を題材にする。利益と社会貢献のバランスなど、視座の高い意思決定のあり方を学ぶ。
第6回	ゲスト講演に基づくケース：多様な起業領域	地域課題の解決や社内起業など、独自の領域で旗を掲げる起業家の視点に触れる。多様な起業家たちの決断の共通項と相違点を整理し、自身のマインドを養う。
第7回	商品アイデアの創出	ヒット商品の共通項を解説。自身の「好きなこと」「不満」から商品アイデアを企画する。
第8回	N1インタビューの理解と実践	「売れる」アイデアにするための顧客インタビュー手法を学び、学生同士でインタビューを実践して商品アイデアを磨く。
第9回	商品アイデアのブラッシュアップ	インタビュー結果を反映した商品アイデアについて、学生同士で意見を交換しながらブラッシュアップする。
第10回	テストマーケティングの理解	市場性を検証する手法（Makuake等の活用含む）を解説。自身の企画をどう世に問うかのプランを立てる。
第11回	共感を呼ぶプレゼンテーション術	投資家や顧客、仲間の心を動かすためのストーリー構成や資料作成のポイントを講義する。
第12回	プレゼン資料のブラッシュアップ	学生同士でペアを組み、プレゼン内容を相互添削。授業後に最終レポート（商品アイデアのプレゼン資料）を提出。
第13回	講評と総括	提出された最終レポートへのフィードバック。優秀な最終レポート提出者の発表と、全体のまとめ。
第14回	最終プレゼンテーション大会	選出された数名の学生によるピッチ（発表）を実施。起業家精神を社会でどう活かすかを総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日頃から新聞や雑誌、インターネットに目を通し、どのような商品が、どのような人に人気なのか？　その商品をどの企業が、どのような意図やプロセスで生み出したのか？　なぜその商品はヒットしたのか？　など、商品が生まれるプロセスやヒットの背景について深く考える練習をしてください。本授業の準備学習・復習時間はそれぞれ2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
中山亮太郎「日本最大級 Makuake が仕掛ける! クラウドファン ディング革命 面白いアイデアに1億円集まる時代」
坊垣佳奈「Makuake 式『売れる』の新法則」
小霜和也「ここらで広告コピーの本当の話をします。」
藤田晋「渋谷ではたらく社長の告白」
エリック・リース「リーンスタートアップ」
その他、授業の参考資料として示すものを参照してください。

【成績評価の方法と基準】
①平常点（毎回の感想文提出）：40%
講義内容への深い考察、および「自分ならどう決断するか」という主体的な姿勢を評価します。
②最終レポート（商品アイデアのプレゼン資料）：60%
アイデアの独自性、顧客ニーズの捉え方、アイデアに至った切り口のストーリー、プレゼンテーションとしての共感性・説得力を評価します。

【学生の意見等からの気づき】
学生の理解度を考慮しながら、対話の機会を積極的に提供します。

【学生が準備すべき機器他】
資料のアップロードや毎回の質問への回答などには、授業支援システム「Hoppii」を使用します。プレゼン資料作成やリサーチのため、PC、タブレット等のデバイスを準備してください。

【その他の重要事項】
実務経験として、これまで 48,000 件（2025年12月末時点）以上の新製品・新サービスの誕生をサポートしてきた、株式会社マクアケの専門性執行役員/R&Dプロデューサーによる授業です。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Entrepreneurship is not just about starting a company; it is the mindset of identifying problems, taking initiative, and making a series of "decisions" to create value under uncertain conditions.
In this course, the lecturer — an R&D producer involved in the birth of numerous innovative products — and various guest entrepreneurs will present real-world "critical decision-making" scenarios. The first half of the course focuses on simulating these decisions through case studies based on the guests' actual startup stories. Students will engage in group discussions to explore what actions they would take in such situations.
The second half shifts to a hands-on phase where students develop their own "I wish this existed" product ideas. Through N1 interviews and the development of a persuasive presentation, students will learn how to gain empathy and support from others. This course aims to cultivate a practical entrepreneurial spirit by bridging the gap between personal passion and business realization.
【Learning Objectives】
The objective of this lecture is to understand the process of transforming an idea into a business and to develop the mindset required for entrepreneurial decision-making.
1. Understand the challenges entrepreneurs face and the logic behind their decision-making processes.
2. Be able to extract and verbalize original business ideas based on personal experiences and interests.
3. Refine product ideas through "N1 interviews" to capture specific customer needs.
4. Master the structure and techniques of "empathy-driven storytelling" required for fundraising and building partnerships.
【Learning activities outside of classroom】
Students are encouraged to regularly read newspapers, magazines, and follow digital trends to observe what products are popular and why. Always ask yourself, "What would I do if I were the founder of this service?" and "How can I improve this inconvenience?" Please spend a standard of two hours for preparation and two hours for review for each lecture.
【[Grading Criteria / Policy】
The grading will be based on the following percentage:
・Class Participation &Reflection Papers (40%): Evaluation of the depth of insight in weekly reflections and the proactive stance in the "decision-making" discussions.
・Final Report / Presentation Deck (60%): Evaluation of the originality of the idea, understanding of customer needs, and the persuasiveness/empathy of the presentation.
The total score for the grading is 100 points, and a score of 60 points or higher is considered passing.

MAN200MA（経営学 / Management 200）

職業キャリア論

岩月　真也

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：水4/Wed.4　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業の目的は、職業に関する基礎的な知識を身につけ、職業と社会・労働市場・企業・個人との関係について理解した上で、個別の職業に関する国際比較を含む情報収集や意見交換を通じて、今後の職業キャリアについて考えることです。

【到達目標】
以下を到達目標とします。
①「職業」に関する基礎的な知識や考え方を理解すること
②「職業」と社会・労働市場・企業・個人との関係を理解すること
③個別の「職業」や「職業キャリア」に関する検討や国際比較の観点を通じて、今後の職業キャリアに向けての気づきや示唆を得ること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
①初回はオンライン型、それ以外は原則として対面方式の授業を予定しています。
②毎回学習支援システムに授業の資料（PDFファイル）を、授業前にアップします。資料をご覧いただきながら授業を受講してください（資料は投影しますが、紙では配布しませんので、ご自身で打ち出していただくか、当日ノートパソコン上でご覧いただけるようにご準備ください）。
③オンライン型の回については、ZoomのURLを学習支援システムでご案内しますので、事前にご確認ください。当日は授業時間の５分前に接続可能な状況としますので、時間までにオンラインでご入室ください。
④原則として毎回の授業で、確認テスト・リアクションペーパーもしくは課題レポートの提出を求めます。課題レポートは2回程度の提出を予定しています。
⑤確認テスト・リアクションペーパーや課題レポートに対して、授業の中でフィードバックを行います。
⑥受講の状況などによって、授業計画を一部変更することがあります。学習支援システムで告知しますので、ご確認いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション（同時双方向型）	①授業のオリエンテーション ②職業についてのイントロダクション
第2回	日本的雇用システムと職業	①日本的雇用システムの現状と課題 ②新卒採用と職業
第3回	賃金制度と職業	①賃金制度の仕組み ②国際比較
第4回	仕事の仕組みと職業	①仕事の仕組み ②国際比較 ③課題レポート１の説明
第5回	労働時間制度と職業	①労働時間制度の類型 ②実態と課題
第6回	AI活用と職業	①影響を受ける職業 ②AI導入後の変化 ③国際比較
第7回	若年者と職業	①採用 ②離職 ③世代間の相違
第8回	ジェンダーと職業	①職業選択におけるジェンダーの影響 ②女性のキャリアについて考える
第9回	高齢者と職業	①定年、継続雇用 ②人的資源管理
第10回	ダイバーシティと職業	①雇用類型 ②技能実習制度 ③特定技能制度
第11回	職業人の講話〜公共的職業を事例として	①職業人の講話 ②意見交換
第12回	職業の国際比較①〜米国教員を事例として	①米国教員の報酬制度 ②米国教員の労使関係
第13回	職業の国際比較②〜日本教員を事例として	①日本教員の報酬制度 ②日本教員の労使関係 ③課題レポート２の説明
第14回	授業の振り返り	①課題レポートに関するフィードバック ②これまでの授業の補足とポイントの振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
原則として毎回の授業で、確認テスト・リアクションペーパーの提出を求めます。
また、課題レポート（１５００字程度で２回提出を想定）については、授業時間外で作成いただくことになります。
本授業の準備・復習時間は、参考文献等の購読も含めれば４時間程度となります。

【テキスト（教科書）】
テキストは指定しません。授業の資料は授業前に学習支援システムにアップします。

【参考書】
授業のなかで必要に応じてご紹介いたします。

【成績評価の方法と基準】
課題レポート2本（各30％、計60％）、確認テスト・リアクションペーパーおよび質問・意見交換（40％）で評価します。
課題レポートに関しては、分析・考察の深さ、論理的な説明力、理解の正しさ、着眼点等のオリジナリティといった内容面および見出し・段落設定といった様式面を評価します。参考文献などから引用いただく場合は、引用部分と自身の考えについて記述した部分が、峻別できるように記述してください（それができているかどうかも評価対象とします）。
課題レポートは必ず期限までにご提出いただきますようお願いいたします（アクセス集中などの危険がありますので、リスクマネジメントとして、遅くとも締切前日までにはご提出ください）。
また、課題レポートは配点60点の範囲で評価・採点しますので、課題レポートの提出のみでは不可になる可能性が高いことにご留意ください。確認テスト・リアクションペーパー及び質問・意見交換に積極的にご参加ください。

【学生の意見等からの気づき】
職業の内容が体系的に理解できるように、授業の構成を検討したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
スマートフォン、パソコン等の情報機器。オンライン接続環境。

【Outline (in English)】
＜Course outline＞
In this class, students learn about the relationship between jobs and society, the labor market, companies, and individuals.
＜Learning Objectives＞
The goal is to have a basic knowledge of the profession and to be able to think about your future career.
＜Learning activities outside of classroom＞

The standard time for preparatory study and review for this class is 2 hours each.
＜Grading Criteria /Policy＞
Grading will be decided based on reports (60%), and verification tests and reaction papers (40%).

ECN200MA（経済学 / Economics 200）

労働経済学

梅崎　修

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：水2/Wed.2　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自分を取り巻く社会環境、特に労働市場の状況を理解することは、キャリアを形成する上で非常に重要となります。そこで、この講義では労働経済に関するテキストを利用しながら、現在の日本の労働市場の状況と歴史を理論と現実の双方から学んでいきます。なお、授業の中ではキャリア形成を研究するうえで有効な統計データの内容や労働問題の時代背景についても学習し、理解を深めていきます。

【到達目標】
ビジネスキャリアを関連する経済理論や社会環境を読みこなす能力を身につける。データを理解し、分析事例、労働問題を読み解くことはもちろんであるが、同時に労働経済学の主要な概念を理解し、人間が、どのような社会環境の中で、どのようにキャリア選択を行っているかを説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
本授業は、（1）テキストを使用し、一つのトピックスに関して、仕事映画の紹介します。（2）その解説を前提に続いて、経済理論や時代背景、社会問題を解説します。（1）はオンライン、（2）はオンデマンドでの授業を考えております。労働問題を参加学生と一緒に考察することを目指します。なお、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かしたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方と経済学を学ぶ意味、仕事映画について説明。
第2回	新規学卒労働市場の事例	仕事映画「何者」を紹介し、自分を「売る」とは何かを解説する。
第3回	新規学卒労働市場の理論と実証	前回の講義を続けて、新規学卒市場に関する研究を説明する。
第4回	現場主義の改善活動の事例	仕事映画「スーパーの女」と「県庁の星」を紹介し、企業の競争力を支える人材マネジメントを解説する。
第5回	現場主義の改善活動の理論と実証	第4回に続いて、企業の競争力と人材マネジメントに関する研究を説明する。
第6回	仕事配分と昇進システムの事例	仕事映画「ワーキング・ガール」と「9時から5時まで」を紹介し、昇進と昇格のメカニズムを解説。
第7回	仕事配分と昇進システムの理論と実証	第6回に続いて、仕事配分と昇進システムに関する研究を説明する。
第8回	ワークライフバランスの事例	仕事映画「下町の太陽」を紹介し、女性のキャリアデザインやワークライフバランスについて解説する。
第9回	ワークライフバランスの理論と実証	女性のキャリアデザインやワークライフバランスに関する研究を説明する。
第10回	雇用社会の誕生の事例	仕事映画「スーダラ節 わかっちゃいるけどやめられねぇ」を紹介し、雇用社会の形成を解説する。
第11回	雇用社会形成の理論と実証	雇用社会形成の歴史研究を説明する。
第12回	自己投資と転職の事例	仕事映画「マイレージマイライフ」を紹介し、自己投資と転職に関して解説する。
第13回	自己投資と転職の理論と実証	自己投資と転職に関する研究を説明する。
第14回	様々なキャリア	最終回のみ、振り返りと復習確認のために、オンライン・オンデマンドで行います。今後の雇用社会を展望する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前準備は特に要りませんが、授業後にテキストを読み直してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
梅崎修・松繋寿和・脇坂明『「仕事映画」に学ぶキャリアデザイン』（有斐閣）

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
授業内作業(40%)と学期末のレポート(60%)で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
企業事例も授業の進捗に合わせて紹介する。仕事経験が少ない学生に対して、職場の現実を伝えつつ、労働経済学の理論を学んでもらう。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布や課題提出等で学習支援システムを利用します。

【その他の重要事項】
この講義では、労働経済学者による仕事映画解説を学びながら、労働市場、企業組織、人事労務管理の仕組みについて学びます。毎回出席し、労働問題を把握しつつ、学問の考え方を身につけて下さい。

【Outline (in English)】
It is very important to understand the social conditions surrounding us and the labor market in building our careers. The purpose of this lecture is to understand the current Japanese labor market from both theory and reality by using text in this field. In the lecture, although the economic models are used, it assumes mathematics at junior high school level. In addition, we learn contents of statistical data which is related with career development and methods to use it, and the historical background of labor issues.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
Final grade will be calculated according to the following process Term-end report(60%) and in-class contribution(40%).

MAN200MA（経営学 / Management 200）

シティズンシップ論【2024年度以前入学者のみ】

榎並　利博

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：水4/Wed.4　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：2024年度以前入学者のみ履修可能

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
●授業概要
IT/ICTからデジタル・AIの時代へ、技術革新はグローバリゼーションやスーパー資本主義をますます加速し、GAFAMなどの巨大IT企業が世界を支配し、政治は保護主義や専制主義的色彩を濃くしている。国家という枠組みが揺らぐ中で、市民はどのような問題意識を持ち、自律した個人として地域や社会をどのように変革していくべきか、日本や米国における事例・行動理論、現場での実践や技術革新がもたらす新たな動きなどを含め、相互の議論を通じてシティズンシップとは何かを追求していく。
●目的・意義
シティズンシップとは何かを理解し、地域や社会における課題の発見のしかた、ビジョンの作り方、行動の方法などを学ぶことにより、地域や社会の変革を実践できる人材になる。

【到達目標】
・シティズンシップについて自分なりの考え方を持つ
・地域や社会における課題の発見方法を身につける
・地域や社会を変革するための行動原理を理解し、実際の行動・実践へと結実させる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
・本学の指針に従い、対面による講義・討論中心の授業を行っていきます。ただし、新型コロナなど不測の事態により指針に変更があった場合はそれに従います。
・なお第１回のみ、本学の指示によりオンライン授業となっていますのでご注意ください。具体的にはオンデマンド型で、教材をダウンロードして学習していただきます。
・多人数の受講が予想されるため、出席確認は学習支援システムの出席機能を使って行います。そのため授業でPC（またはタブレット端末やスマホ）を使うことになりますのでご留意ください。
・また、学習支援システムは、教材の提供や課題レポートの提出など補助的なツールとして使っていきます。
・さらに授業の理解を深めるため、学習支援システムの各種機能を活用し、簡単な課題レポートの提出や質疑応答などを行っていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	自律した個人と世の中を取り巻く動向	授業全体の流れを説明するとともに、地域や社会の変革実現のために、世の中を取り巻く動向を把握する。グローバリゼーション、技術革新、地域ガバナンス、人間の行動原理、現代の理念など。
第2回	シリコンバレーとその本質を探る	シリコンバレーの再生、本質はハイテクではない、市民中心のエクイティ文化とは何か、エクイティ文化を醸成するものとは何か。
第3回	社会変革の行動原理を米国事例から学ぶ①	背景としてのサステイナブル・コミュニティ、スチュワードシップという概念、対立が価値を生み出すという考え方（価値の相克）
第4回	社会変革の行動原理を米国事例から学ぶ②	価値を生み出す個人とコミュニティの対立および信頼と説明責任の対立。その事例と行動原理。
第5回	社会変革の行動原理を米国事例から学ぶ③	価値を生み出す経済と地域社会の対立および人と地域の対立。その事例と行動原理。
第6回	社会変革の行動原理を米国事例から学ぶ④	価値を生み出す保守と変革の対立および理想主義と現実主義の対立。その事例と行動原理。
第7回	地域を変革するツールとしての情報技術	地域産業政策の現状とその限界、社会・地域を変革するツールとしてのIT、技術革新（IT）の可能性と課題
第8回	地域を変革する有効なITモデルとエクイティ文化	3つの成功事例と2つの失敗事例から探るITによる活性化の条件、地域経済活性化5段階モデルとエクイティ文化の関係
第9回	地域資源とイノベーション・創造性、エクイティ文化	地域資源とイノベーション事例（第一次産業、新エネルギー、健康福祉分野）、イノベーション・創造性の本質とエクイティ文化
第10回	地域・社会を動かす：地方活性化レストラン	地方活性化レストランを作る、コンセプトや仲間づくりなど地域を動かす行動の実践とそこで起きた問題について。
第11回	地域・社会を動かす：マイナンバー	マイナンバーを実現する、ビジョン・情報発信・仲間づくりなど社会を動かす行動の実践とその現状について。
第12回	新しい動き：地域課題を発見するツール（RESAS）	地域・社会の課題を発見するツールの登場とその活用方法 技術革新がもたらすデータやツールのオープン化と強化された市民
第13回	新しい動き：シビックテック	技術革新で力を持った市民の登場、個人および団体としての市民の新たな動きとシティズンシップ
第14回	新しい動き：AIやDX、スマートシティ、web3・メタバースなど	AIやDXなど技術革新は新たなフェーズへ、人権における自由権と社会権の対立とシティズンシップの役割

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・本授業の準備・復習時間は各回4時間を標準とします。
・なお、第3回から第6回は『社会変革する地域市民―スチュワードシップとリージョナル・ガバナンス』、第8回から第10回は『地域イノベーション成功の本質』のテキストを提供する予定ですので、これを使って予習してください。

【テキスト（教科書）】
※できれば下記を入手することが望ましいのですが、絶版等で入手できない可能性があるため、別途資料を提供する方法で授業を進めます。
・『社会変革する地域市民―スチュワードシップとリージョナル・ガバナンス』著者：D. ヘントン, K. ウォレシュ, J. メルビル、監修：小門裕幸、翻訳：榎並利博、今井/路子、第一法規　2005年1月
・『地域イノベーション成功の本質』著者：榎並利博、第一法規　2014年8月

【参考書】
・『サステイナブル・コミュニティ―持続可能な都市のあり方を求めて』著者：川村健一、小門裕幸、学芸出版　1995年
・『エンジェル・ネットワーク―ベンチャーを育むアメリカ文化』著者：小門裕幸、中央公論社　1996年
・『クリエイティブ・クラスの世紀』著者：リチャード・フロリダ、翻訳：井口 典夫、ダイヤモンド社　2007年

・『フラット化する世界』著者：トーマス・フリードマン、翻訳：伏見威蕃、日本経済新聞社　2006年
・『勝者の代償』著者：ロバート・ライシュ、翻訳：清家篤、東洋経済新報社　2002年
・『アジアの都市間競争』著者：小森正彦、日本評論社、2008年
・『都市の経済学』著者：ジェーン・ジェイコブズ、翻訳：中村達也、谷口文子、TBSブリタニカ 1986年
　そのほか、授業の中で適宜参考となる書籍やURLを紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業での学習状況）40％、最終レポート60％を目途に評価します。100点満点で、60点以上が合格。
※平常点（授業での学習状況）は、授業中に指示する課題レポートの提出状況で評価します。課題レポートの提出は学習支援システムの機能を使いますのでPC等の準備をお願いします。
※最終レポートは講義の最後に提出してもらいます。最終レポートは最後の講義で指示しますが、配分が60点なのでこれを提出しないと合格点に達しませんので、注意してください。

【学生の意見等からの気づき】
最終レポートの提出は、学習支援システムからレポート提出機能を使って行います。レポートの形式はインライン（「テキスト入力」）のみで実施する予定です。そのため、あらかじめWord等で文書を作成したうえ、それをコピー＆ペーストでテキストで入力するようにしてください。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを使って授業の出席カウントや課題レポートの提出を行うため、授業内でPC（またはタブレット端末やスマホ）を使うことに留意してください。また、資料等のダウンロード、最終レポートの提出等でPCを使用します。

【その他の重要事項】
　シティズンシップの行動原理の研究や理論のモデル化のほか、「地域を動かす」・「社会を動かす」という実践や実務経験を踏まえ、シティズンシップとは何かを追求していきます。特に後半の部分では、地方活性化レストランの実現やマイナンバー制度の実現といった講師が実務において理論を実践していった経験を交えてお話しします。皆さん方が社会に出て自ら実践を行う場合、必ず役に立つ内容だと確信しています。
　生成AIについては特に禁止事項を設けません。自分の考えを深めるために使うなど、良識的な使い方を求めます。

【Outline (in English)】
【Course outline】 In the era of digitalization and AI from IT/ICT, technology accelerates the globalization and the super capitalism, big IT companies like GAFA begin to govern the world, and politics is more economically protectionist trend. Now, while the framework of nation is more ambiguous, we must pursue to think what kind of awareness we should have, how we should change the world as a citizen, and what the citizenship is during mutual discussion, learning the samples or theories of Japan and U.S., the actual practices, and the new trends by technology evolution.
【Learning Objectives】 The objectives of this course are the followings.
・To understand the citizenship
・To learn how to find agenda of the society, how to make a vision, and how to act
・To be the person who can change the neighborhood, the society, and the world
【Learning activities outside of classroom】This course requires 4-hour learning at each class which includes preparation, review, submitting a short report. You need to learn the text book.
【Grading Criteria /Policy】　The evaluation consists of 40 % learning attitude and 60 % term-end report. The criteria is more than 60%. ※Learning attitude is evaluated by a short report at each class. And you must submit a term-end report on the last of this course.

MAN200MA（経営学 / Management 200）

生産システム論【2024年度以前入学者のみ】

北原　成憲

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木4/Thu.4　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：2024年度以前入学者のみ履修可能

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
かつて日本はものづくり大国と呼ばれ、世界が驚くイノベーティブな製品を数多く生み出してきました。しかし、現在の日本は主要先進国と比べて労働生産性が低下し、かつての面影が薄れつつあります。そこで本講義では、さまざまな企業と共に多くの斬新な新製品・新サービスの誕生に携わってきた株式会社マクアケの専門性執行役員/R&Dプロデューサーが講師となり、一般的な商品開発のプロセスやそこに潜む課題を解説した上で、ヒット商品の共通項やヒット商品を企画する際のコツ、また前例のない商品案であってもその需要性を証明しビジネス化への足掛かりを作る手法を体験形式で学びます。

【到達目標】
本講義の目的は、「イノベーティブな商品をいかにスピーディーに生み出し、ビジネスに育てるか」について、そのプロセスやポイントを理解することです。①一般的な商品開発のプロセスと、イノベーションを阻む課題を理解すること、②その課題を解決し、イノベーティブな商品の創出を促す手法について理解すること、③学んだことを基に、自ら商品アイデアを考え、テスト販売のイメージを立てることができるようになること、の3点を到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
本講義は、大きく3つのパートに分かれます。①商品が生まれるプロセスとイノベーションを阻む課題を理解する「課題理解パート」、②その課題を解決し、イノベーティブな商品の創出手法を学ぶ「課題解決手法パート」、③自ら商品アイデアを考え、テスト販売のイメージを立てる「アイデア発想・テスト販売パート」です。
講義では、実際にメーカーで新商品開発に携わるゲストを招き、ものづくりの現場で生まれている課題や、それを乗り越えたエピソード、ヒット商品の裏側についてお話しいただきます。これにより、より深い学びが得られる機会を用意します。受講者には商品企画・開発の知識がないことを前提としているため、商品が生まれる生産プロセスの基礎から学び、イノベーティブな商品を創出するためのポイントや方法を理解できるよう進めます。
また、講義は体験形式とし、楽しみながら実践につなげやすい学びが得られるよう工夫します。わからないことを相談できる機会を設け、皆さんに伴走しながら進めることを心がけ、学生同士が意見を交わせる機会も設けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業全体の解説と授業の進め方、評価の方法などを解説します。さらに、日本で生まれたイノベーティブな商品事例をもとに、日本のものづくりの変遷や現在の状況を考察します。
第2回	イノベーションを阻む商品開発プロセス	日本における一般的な商品開発プロセスを解説します。また、その商品開発プロセスに潜む「イノベーションを阻む課題」について触れ、どうやったらその課題が解決できるかを考えます。
第3回	イノベーションを促す商品開発プロセス	イノベーションを阻む課題や、それを解決するための突破口を振り返った上で、具体的な課題解決手法を学びます。また、その手法から生まれたイノベーティブな商品事例について、実際に企画したゲストを迎え、対談形式で解説します。
第4回	商品アイデアの創出	ヒット商品の共通項を解説した上で、自分の好きなことから学生の皆さんにも商品アイデアを企画してもらいます。また、自分の好きなことからヒット商品を生んだゲストを迎え、その開発背景やヒットを生むポイントを事例から学びます。
第5回	商品アイデアのブラッシュアップ①	商品アイデア課題の進捗を確認した上で、いくつかのアイデアを取り上げてアドバイスを行います。また、学生同士で意見を交わし、自分の商品アイデアをブラッシュアップしていきます。そのためのグループディスカッションを行います。
第6回	商品アイデアのブラッシュアップ②	いくつかのアイデアについて、発案した学生に発表してもらいアドバイスを行います。また、学生同士で意見を交わし、再度自分の商品アイデアをブラッシュアップしていきます。そのためのグループディスカッションを行います。
第7回	N1インタビューについて理解する	考えたアイデアを「売れる」アイデアにブラッシュアップするために、「買いたい」と言ってくれる人を見つけるためのN1インタビュー手法を解説します。
第8回	N1インタビューを行う①	N1インタビューのやり方をおさらいした後、学生同士でペアを組んでもらいお互いにN1インタビューを行います。また、その結果を活かしてアイデアをブラッシュアップします。
第9回	N1インタビューを行う②	ブラッシュアップしたアイデアを発表してもらいます。さらに、再度学生同士でペアを組み、お互いにN1インタビューを行うことで、アイデアをさらにブラッシュアップします。
第10回	テストマーケティングについて理解する	考えたアイデアが市場に受け入れられるかを検証するテストマーケティング手法について解説します。また、自分のアイデアをテストマーケティングするためのMakuakeでのページ作成方法を解説します。
第11回	テストマーケティングプランのブラッシュアップ①	自分のアイデアをテストマーケティングするために、Makuakeページを作成し、学生同士で意見を交換しながらブラッシュアップしていきます。そのためのグループディスカッションを行います。

第12回	テストマーケティングプランのブラッシュアップ②	作成してもらったいくつかのMakuakeページについて、起案した学生に発表を行ってもらいアドバイスを行います。また、学生同士で意見を交換しながら自分のMakuakeページをブラッシュアップしていきます。そのためのグループディスカッションを行います。
第13回	商品アイデア・テストマーケティングプランの講評	ここまでブラッシュアップしてきた商品アイデアとそのアイデアをテストマーケティングするために作成したMakuakeページに対して講評を行います。提出された最終課題について、評価できる点や改善点を解説します。
第14回	Web試験・まとめと解説	ここまでの学びを振り返るWeb試験を行います。選択式で知識を問う形式を予定しており、試験後には総括と解説を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日頃から新聞や雑誌、インターネットに目を通し、どのような商品が、どのような人に人気なのか？ その商品をどの企業が、どのような意図やプロセスで生み出したのか？ なぜその商品はヒットしたのか？ など、商品が生まれるプロセスやヒットの背景について深く考える練習をしてください。本授業の準備学習・復習時間はそれぞれ2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
中山亮太郎「日本最大級Makuakeが仕掛ける！　クラウドファンディング革命 面白いアイデアに1億円集まる時代」
坊垣佳奈「Makuake式『売れる』の新法則」
小霜和也「ここらで広告コピーの本当の話をします。」
クレイトン・クリステンセン「イノベーションのジレンマ」
エリック・リース「リーンスタートアップ」
その他、授業の参考資料として示すものを参照してください。

【成績評価の方法と基準】
①一般的な商品開発のプロセスと、イノベーションを阻む課題を理解できたか
②その課題を解決し、イノベーティブな商品の創出を促す手法について理解できたか
③学んだことを元に、自ら商品アイデアを考え、テスト販売（テストマーケティング）のイメージを立てることができたか
以上の3点を、Web試験・商品アイデア課題・商品テスト販売課題によって評価します。
Web試験を60%、商品アイデア課題を20%、商品テスト販売課題を20%の割合で評価します。成績評価は100点満点とし、60点以上を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
学生の理解度を考慮しながら、対話の機会を積極的に提供します。

【学生が準備すべき機器他】
資料のアップロードや毎回の質問への回答などには、授業支援システム「Hoppii」を使用します。
Webでの試験を実施しますので、スマートフォン、タブレット、PCなど、インターネットにアクセスできる環境を各自で確保してください。

【その他の重要事項】
実務経験として、これまで48,000件（2025年12月末時点）以上の新製品・新サービスの誕生をサポートしてきた、株式会社マクアケの専門性執行役員／R&Dプロデューサーによる授業です。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In this lecture, the executive officer and research and development producer of Makuake, who has been involved in the birth of many innovative new products and services together with various companies, will be the lecturer. He will explain the general product development process and challenges that may arise. The course will mainly cover the common elements of successful products, tips for marketing such products, and methods showing the demand for unprecedented product ideas and how to gain a foothold in the business world through hands-on experience.
【Learning Objectives】
The objective of this lecture is to understand the process and key points of how to produce innovative products and efficiently develop them into a business.
【Learning activities outside of classroom】
Students are encouraged to read newspapers, magazines, and use the Internet on a regular basis. This will help make connections about the process of creating successful products, and understanding what happens behind-the-scenes. Also, please spend two hours before every lecture preparing and reviewing ahead.
【Grading Criteria /Policy】
The grading will be based on the following percentage: Web-based periodic exam (60%), Product idea assignment (20%), Product test sales assignment (20%).
The total score for the grading is 100 points, and a score of 60 points or higher is considered passing.

ECN200MA（経済学 / Economics 200）

日本経済論【2024年度以前入学者のみ】

本田　恒平

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：月5/Mon.5　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：2024年度以前入学者のみ履修可能

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
明治維新以降の産業革命、戦後復興、高度経済成長、新自由主義の台頭など、日本経済の歴史は、金融・財政的な制約や政治的な決定の連続の中で展開し、現代社会の構造的課題を形成してきた。また、経済構造の変化は、人々の働き方や生活にも大きな影響を与えてきた。本講義は、この歴史を通史的に理解し、過去から現在への連続性(あるいは不連続性)を明らかにすることで、現代社会が直面する少子高齢化や労働市場の変化、ジェンダーなどの課題を歴史的文脈の中で捉えていく。

【到達目標】
本講義は、以下の6つの時期区分を中心に進める。①日本の産業革命と帝国主義(1868年 1945年)、②戦後体制と20世紀システムの成立(1945年 1960年)、③高度経済成長期(1960年 1971年)、④第一次オイルショック以降の変動期(1973年 1990年)、⑤新自由主義の台頭(1990年代)、⑥長期停滞の時代(2000年代以降)。各時代の政治、産業、金融・財政、そして雇用・労働に焦点を当て、短期的な現象にとどまらない本質的な理解に迫ることを目指す。
なお、教員の専門が雇用・労働研究であるため、経済と雇用・労働との関係を厚めに話すが、キャリアデザイン学部の学生にとってはそちらの方が理解が進むのではないかと考えている。経済学初学者でも安心して欲しい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
・授業前半15分を前回講義のフィードバック
・後半75分は教員による講義
・最終10分はコメントペーパーの執筆

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方と全体の講義概要
第2回	視聴覚授業	ドキュメンタリーの視聴
第3回	日本の産業革命と帝国主義における経済	明治維新(1868年)から敗戦(1945年)まで
第4回	戦後体制期と20世紀システムの成立期①	敗戦(1945年)から55年体制成立期(1960年)まで
第5回	戦後体制期と20世紀システムの成立期②	敗戦(1945年)から55年体制成立期(1960年)まで
第6回	「日本の奇跡」の功罪、そして日本型雇用システム①	高度経済成長期(1960年)からニクソンショック(1971年)まで
第7回	「日本の奇跡」の功罪、そして日本型雇用システム②	高度経済成長期(1960年)からニクソンショック(1971年)まで
第8回	「戦後」のゆらぎ①	第一次オイルショック(1973年)からバブル崩壊(1990年代初頭)あるいはベルリンの壁の崩壊(1989年)まで
第9回	「戦後」のゆらぎ②	第一次オイルショック(1973年)からバブル崩壊(1990年代初頭)あるいはベルリンの壁の崩壊(1989年)まで
第10回	新自由主義の台頭①	冷戦の終結から1990年代末まで
第11回	長期停滞の時代①	2000年代以降の日本経済の論点について振り返りながら
第12回	長期停滞の時代②	2000年代以降の日本経済の論点について振り返りながら
第13回	視聴覚授業	ドキュメンタリーの視聴
第14回	まとめ回	授業のまとめとレポートについての案内

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業中に分からない用語が出てきたら、授業後にインターネットやテキスト内で示される参考文献などを用いて調べておくこと。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。
・テキストは各自で入手し、読み込んでおくことを推奨するが、『日本経済読本』はやや版が古いものを採用するため入手を無理する必要はない。もう一冊の中村政則の『戦後史』は戦後政治と経済の構造展開を通史的に理解する上で極めて有効な名著である。入手もし易いため一読することを勧める。
・上記のほかは適宜指示する。

【テキスト（教科書）】
・金森久雄・大守隆(2016)『日本経済読本(第20版)』東洋経済新報社
*現行版の第23版(2025年1月刊行)ではない
・中村政則(2005)『戦後史』岩波新書

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
・期末レポート:戦後日本経済の歴史的な変遷について史実に基づいて論理的に記述できるかどうか、およびそれらの経緯を踏まえた上で日本経済の課題について考察できるかどうかについて評価する(40%)。
・中間レポート:講義内容の理解度をチェックする(30%)。
・平常点:コメントペーパーの提出を評価する(30%)。

【学生の意見等からの気づき】
コメントペーパーへのレスポンスを講義冒頭に行い、フィードバックとする。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
・ジェンダー・セクシュアリティ、人種、民族、障がい、出自、宗教などにもとづくあらゆる差別に本講義は反対し対処します。履修者の安全を守るため、とご理解ください。
・議論過程でのマウンティング(特にマンスプレイニング(mansplaining))や発言を遮る行為(特にマンタラプト(manterrupt))に反対し対処します。
*教員も十分に意識しますが、授業中違和感があればご指摘願います。

【Outline (in English)】
The history of the Japanese economy, from the industrial revolution that began with the Meiji Restoration, to the post-war reconstruction, the period of rapid economic growth, and the rise of neoliberalism, has unfolded amid a series of financial and fiscal constraints and political decisions, and has shaped the structural issues of modern society. In addition, changes in the economic structure have had a significant impact on the way people work and live. This lecture will provide a comprehensive understanding of this history, and by clarifying the continuity (or discontinuity) from the past to the present, it will examine issues facing modern society, such as the declining birthrate and aging population, changes in the labor market, and gender, in a historical context.

ECN200MA（経済学 / Economics 200）

産業論

赤城　諭士

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：月3/Mon.3　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　簿記Ⅱでは、簿記Ⅰで学んだ簿記一巡の手続きを用いて、株式会社が行う様々な取引を処理していきます。例えば、商品の購入や設備投資を行った際の代金の決済方法には様々なものがあります。この授業では日本商工会議所主催の日商簿記検定試験3級の試験範囲に該当する取引を取り上げます。取引の処理を通じてビジネス実務に関する知識も身につけていきましょう。また、決算手続きについても、決算整理手続きを加えた方法を学んでいきます。

【到達目標】
　株式会社を前提とした各種の取引について適切に処理できるようになる。また、決算整理を含めた財務諸表の作成を行えるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
　テキストの内容を踏まえてパワーポイント等を用いて説明し、ワークブック等を利用した問題演習を通じて当日の説明内容を確認する。また、授業の開始時に前回までの学習内容に関する小テストを実施し、知識の定着を図る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	（1）ガイダンスと簿記一巡の手続きに関する復習	・授業の進め方・評価方法の説明。 ・問題演習を中心とした簿記一巡の手続きの復習。
第2回	商品売買取引①	・分記法と三分法
第3回	商品売買取引②	・返品、商品売買に伴う運送費等の処理
第4回	商品売買取引③	・当座預金と小切手 ・小切手を用いた代金決済とその処理
第5回	商品売買取引④	・約束手形を用いた代金決算とその処理 ・電子記録債権・債務
第6回	商品売買取引⑤	・代金の前払・前受があった場合の処理 ・商品券に関わる処理
第7回	商品以外の売買	・固定資産の売買 ・固定資産の売買代金の授受を後日とした場合の処理
第8回	金銭の貸借	・借用証書を用いる場合 ・約束手形を用いる場合 ・役員との間で生じる金銭の貸借
第9回	その他の取引	・従業員との関係で生じる取引（仮払金・仮受金等） ・小口現金
第10回	株式会社特有の処理	・株式を用いた資金調達 ・剰余金の配当と利益準備金の積み立て
第11回	決算整理①	・売上原価の計算 ・貸倒れの見積り ・固定資産の減価償却
第12回	決算整理②	・収益・費用の繰り延べ ・収益・費用の見越し ・現金過不足の処理
第13回	伝票および補助簿	・伝票を用いた記帳方法 ・補助簿の意義と商品有高帳の記入方法
第14回	授業内試験	第1回〜第13回までの授業内容に関わる試験と総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　授業前にテキストの該当箇所をあらかじめ読んでおくと理解が深まります。ですが、簿記では予習以上に復習が重要です。授業での説明内容を確認し、問題演習を繰り返すことで、簿記の手続きを身につけていってください。なお、本授業の準備・復習のための学習時間は各2時間を標準としています。

【テキスト（教科書）】
渡部裕亘、片山覚、北村敬子編著『検定簿記講義3級（2026年度版）』中央経済社。
渡部裕亘、片山覚、北村敬子編著『検定簿記ワークブック3級（2026年度版）』中央経済社。

【参考書】
　必要に応じて、適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
（1）成績評価方法
　授業内で実施する試験の結果に基づいて評価する。
（2）成績評価基準・評価の配分等
　授業内で実施する試験 （100％）

【学生の意見等からの気づき】
　本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
　電卓（問題を解く際に必要となります。また、試験では電卓の持ち込みを認めます。）

【その他の重要事項】
　現在、手形制度の変更が進められている関係上、今年度より簿記のテキストの内容が大幅に変更されることが予想されます。シラバス執筆時点ではまだ新しいテキストが発売されていませんので、このシラバスでは従来のテキスト（2025年度版）の内容に従って各授業内容を説明しています。ですが、実際の授業は2026年度版のテキストの内容に沿って進める予定ですので、その点を了承しておいてください。

【Outline (in English)】
In Bookkeeping II, we will process various transactions conducted by corporations using the full cycle of bookkeeping procedures learned in Bookkeeping I. Through processing these transactions, you will also gain knowledge about business practices. Furthermore, regarding year-end closing procedures, we will learn methods that incorporate financial statement adjustment procedures.

MAN200MA（経営学 / Management 200）

広告ビジネス論

石原　篤

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木3/Thu.3　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「メディア」とは何を意味するでしょうか？ 直訳すると「媒体」ですが、もっと噛み砕くと「人に何かを伝える手段」と考えられます。ブランディングにおいてはブランドの想いを伝える手段、マーケティングにおいては商品やサービスの特徴を伝える手段とも言えるでしょう。歴史を振り返ると、人が気持ちを伝える手段は「書簡」から始まり、その後、手紙や葉書へと変化しました。デジタルメディアの普及により電子メールが生まれ、近年ではLINEやSNSのダイレクトメッセージなど、多様な手段が使われるようになっています。メディアの進化に伴い、コンテンツやメッセージの表現も変化しています。例えば、手紙では「拝啓 ○○様」と書き始めるのが一般的でしたが、LINEでは前置きなしにメッセージを送ることがほとんどです。時には、絵文字やスタンプだけで気持ちを伝えることもあります。
本講義「メディアビジネス論」では、メディアとコンテンツ・メッセージの関係と、それらがブランディングやマーケティングにどのように活用されているかを学びます。また、テレビ、ラジオ、SNSなどのメディア企業の関係者や、メディアに最適化されたコンテンツ・メッセージの制作に携わる専門家を招き、ゲスト講義を実施します。さらに、受講生の皆さんが「どのメディアを使い、どのように想いを伝えるか」を考える機会を提供します。これにより、他の授業の課題やゼミでの活動、アルバイトや就職活動など、さまざまな場面で役立つスキルを身につけることを目指します。

【到達目標】
(1) ブランディングやマーケティングにおけるメディアの役割を理解し、説明できる。
(2) 多様なメディアビジネスの全体像を理解し、説明できる。
(3) メディアビジネスの実践的なコミュニケーションを理解し、設計できる。
(4) メディアビジネスへの理解を通して自分を表現（自己紹介）する方法論を構築する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
・講義は、博報堂出身で現在もクリエイティブディレクターとして活動する教員が勤めます。
・前半の授業は、論理と実例紹介を行う講義を中心に進めますが、理解を深めるためのアンケートや授業内課題を併用します。
・中盤から後半の授業は、多様化するメディアビジネスの理解を深めるために、メディア会社、広告会社、事業会社、等からのゲストに招き、お話を伺います。
・後半の授業では、授業全体の振り返りを兼ねて「演習課題」を出題し取り組んでいただきます。
・課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。
・授業後には適宜アンケートの回答をお願いします。アンケートでいただいたコメントは次回以降の授業内で紹介し、講義内容の品質向上に役立てます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	教員自己紹介、授業計画の説明、受講動機等に関するアンケート
第2回	メディアの役割	ブランディングやマーケティングにおけるメディアの役割
第3回	メディアの変遷	メディアビジネスの変遷を広告から紐解く
第4回	メディアの現在地	メディアビジネスの現在地を広告から紐解く
第5回	メディアビジネスの現場【ゲスト講義】	約70年の歴史のあるテレビメディアは今後どうなっていくか ※ゲストとしてテレビメディアに関わる方にお越しいただきます
第6回	デジタルメディアの変遷【ゲスト講義】	インターネットが一般化してから30年で何が起きているのか ※ゲストとしてデジタルに強いクリエイターにお越しいただきます
第7回	コミュニティとしてのラジメディア【ゲスト講義】	届ける力は弱いが、愛着やファンが作れるラジオメディアの魅力 ※ゲストとしてラジオメディアに関わる方にお越しいただきます
第8回	メディアに載せるコンテンツ①ドラマ編【ゲスト講義】	ドラマはどんなプロセスで作られるのか？ ※ゲストとしてドラマプロデューサーの方にお越しいただきます
第9回	メディアに載せるコンテンツ②VTuber編【ゲスト講義】	どうなってるの？ VTuberの世界。その最前線を探る。 ※ゲストとしてVTuberのプロデュース・マネジメントを行う方にお越しいただきます
第10回	メディアに載せるコンテンツ③マンガ編【ゲスト講義】	マンガはどんなプロセスで作られるのか？ ※ゲストとしてマンガ編集者の方にお越しいただきます
第11回	アイデアの発想法「演習課題発表」	演習課題を発表し、課題の内容に合わせたアイデアの出し方・発想法を学ぶ
第12回	すべては言葉から始まる【ゲスト講義】	メディア環境が変化しても変わらない、コンテンツ・メッセージを生み出す言葉について学ぶ。 ※ゲストとしてコピーライターの方にお越しいただきます
第13回	演習課題講評	演習課題の提出物を講評しながら、アイデアの出し方・発想法を再度学ぶ
第14回	あなたをどう表現するか？	授業の振り返りと共に、これからの時代に自分をどう表現していくかを考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
(1) 通常講義では適宜事前課題の出題、授業前後のアンケートを行います。
(2) また、本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
(3) 実習においては、授業時間外の個人ワークとして、リサーチ、アイデア出し、企画書制作などを行なっていただきます。
(4) 実習に際して「アイデアの出し方」「企画書の書き方」などの補講を行う予定です。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
・マスメディアとは何か 稲増一憲
・ソーシャルメディア時代の「大衆社会」論
・メディア論の名著30 佐藤卓己
・広告の仕事　広告と社会、希望について　杉山恒太郎
・クリエイティブ合気道　箭内道彦

・これからの「売れるしくみ」のつくり方　石原篤

【成績評価の方法と基準】
平常点 ５０％
実習課題の提出物 ５０％

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】
■Course Outline
What is "media"? Literally translated, it means "medium," but in simpler terms, it can be understood as "a means of conveying information to others." In branding, media serve as tools to communicate a brand's vision, while in marketing, they function as channels to convey the features of products and services.
Looking back at history, written letters were once the primary means of communication. Over time, they evolved into postcards, and with the rise of digital media, emails emerged. In recent years, diverse communication tools such as LINE and social media direct messages have become widely used.
As media evolve, the forms of content and messages also change. For example, traditional letters typically begin with "Dear [Name]," whereas LINE messages are often sent without any formal introduction. Sometimes, emotions can be conveyed solely through emojis or stickers.
This course, Media Business Studies, explores the relationship between media, content, and messaging, and examines how they are utilized in branding and marketing. Guest lectures will feature professionals from television, radio, and social media companies, as well as experts in media-optimized content creation.
Additionally, this course provides students with opportunities to reflect on which media to use and how to communicate their messages effectively. By doing so, students will develop skills that will be useful not only for academic assignments and seminar activities but also for part-time jobs and future career opportunities.
■Goal
(1) Understand and explain the role of media in branding and marketing.
(2) Gain a comprehensive understanding of various media businesses and be able to explain their overall structure.
(3) Understand and design practical communication strategies in the media business.
(4) Develop a methodology for self-expression (self-introduction) through an understanding of the media business.
■Work to be done outside of class (preparation, etc.)
(1) In regular lectures, assignments will be made in advance and questionnaires will be given before and after each class, as appropriate.
(2) The standard preparation and review time for the class is two hours each.
(3) During the practical training, students will be asked to conduct research, come up with ideas, and create project proposals as individual work outside of school hours.
(4) In connection with the practical training, there will be supplementary lectures on "how to come up with ideas" and "how to write a project proposal."
■Grading criteria
Regular marks: 50%
Submissions for practical training assignments: 50%

MAN200MA（経営学 / Management 200）

流通・マーケティング戦略論

小川　浩孝

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：月4/Mon.4　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
企業や組織が行うマーケティング活動の様々な局面においては、情報に基づいた意思決定（データ・ドリブン・マーケティング）が極めて重要であり、そのツールの一つが「マーケティング・リサーチ」である。日本語では「市場調査」と呼ばれているが、そのカバーする領域は「市場を調べる」という一言では括れないほど幅広く、深い。マーケティング・リサーチは適切に用いることが出来れば、意思決定を正しく行い、リスク要因を減らす手助けになるが、間違って使われれば、誤った意思決定を招き、大きな損失をもたらす可能性もある。さらに言えば、利己的な利益誘導のために用いることすら可能である。
従って、正しいマーケティング・リサーチの利用について基本を理解しておくことは大変重要である。
マーケティング・リサーチには企画・実施・分析・解釈・報告・提案といったプロセスや、多様な手段・手法があり、それらの基礎や適切な利用について学ぶのが本授業の目的である。
また、主な調査方法には思考や行動などの質的（定性的）側面について理解・分析する質的調査と、数量データを収集・分析する量的調査とがある。量的調査の分析にあたっては、統計的知識と解析が不可欠であるが、文系の学生たちにとっては苦手な分野かもしれない。本授業では高度な統計処理を学ぶことはせず、基本的概念を文系の学生にも平易に理解できる形で講義する。
併せて、事象・本質の深い理解に不可欠な消費者行動、社会心理学、行動経済学などの関連分野についても学習時間を設ける。
また、現在は、IT（SNS・AIを含む）の進化により日常生活の中で無意識のうちにデータ・情報が収集され利用されている。これらの活用や倫理的側面についても理解できるようにする。

【到達目標】
1 マーケティング活動における課題を理解し、課題を解決するために最適な調査の方法や仮説設定ができるようになる。
2 適切な調査を設計し、実施、データや情報を収集できるようになる。
3 得られたデータを分析できるようになる。
4 分析した結果を正しく解釈し、報告できるようになる。
5 マーケティング・リサーチの質を向上させるために、関連する分野についての基礎的概念を理解出来るようになる。
6 ITを用いたデータ収集・活用における手法や倫理的側面の重要性を理解している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
授業は、テキストを用いた講義、グループディスカッション、グループワーク、個人による課題への提出、グループワークによる課題提出を併用する。
個人による課題提出はA4 1枚程度にまとめた課題に対するペーパーの提出（授業2-3回に1回程度の頻度）となる。またグループワークによる課題提出は作業と授業内での発表による。これらに対するフィードバックは都度授業の中において行うか、もしくは個別にコメントなどを付けて返送する。関連分野の学習にあたっては入門書を購読し、感想や学んだことを課題提出・発表してもらう。講義にあたってはできる限り事例を用いてわかりやすく説明する。また事例紹介においては、実務家による講演や実務家の登場するビデオの鑑賞（日本語・英語）なども予定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の進め方 マーケティング・リサーチとは	マーケティング・リサーチ（市場調査）とはどのようなものかについて概観する。
第2回	課題（仮説）設定と調査手法	マーケティング課題の設定とそれに応じた調査手法の選択を理解する。
第3回	調査手法：質的調査（1）	質的調査の種類や実施にあたってのポイントについて理解する。
第4回	調査手法：質的調査（2）	質的調査の各種類についてさらに詳しく学ぶ。授業内での実習を含む。
第5回	調査手法：量的調査（1）	量的調査の種類、標本数、調査項目の立て方について理解する。
第6回	調査手法：量的調査（2）	質問の種類と作成について理解する。授業内での実習を含む。
第7回	調査に役立つ関連分野の理解	消費者行動、社会心理学、行動経済学などについて各自事前に読んだ参考書をもとに、概略を理解する。
第8回	統計処理の基礎概念（1）	初心者向けの入門書を使い、データ分析に用いられる統計概念（標準偏差、信頼区間など）を理解する。
第9回	統計処理の基礎概念（2）	初心者向けの入門書を使い、データ分析に用いられる統計概念（標準偏差、信頼区間など）を理解する。
第10回	多変量解析	因子分析、クラスター分析、重回帰分析など、多変量解析の種類や活用方法について理解する。
第11回	アンケート調査の企画と実施（1）	グループに分かれ、オンラインアンケートを作ってみる。それに基づいてアンケート調査を実際に行ってみる。
第12回	アンケート調査の企画と実施（2）	実際に収集したデータをもとにExcelなどを使い集計し、グループごとに発表する。
第13回	デジタルデータ収集やAIを利用したマーケティング・リサーチ	ホームページやSNSの閲覧、移動データなどのビッグデータがどのように利用されているか理解する。また、AI活用によるリサーチプロセスの効率化と制約について理解する。
第14回	まとめと最終試験	授業のまとめの後、試験を実施。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に参考書を読み質問等をまとめておいてください。日頃から新聞やニュースに目を通し、日々の社会・経済の動きに注意を払ってください。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。2-3回に1回程度、A4で1ページほどの簡単な提出物があります。また、グループに分かれて作業をすることもあります。毎回授業開始の直前に授業で使用するスライドのPDFをHoppiiに掲載します。ダウンロードしてメモを取るなどに利用してください。時間外に店舗見学を行う外出があります。数名のグループに分かれ指定された店舗の見学に出かけ、レポートにして発表・提出を行います。

【テキスト（教科書）】
なし　None

【参考書】
星野崇宏、上田雅夫『マーケティング・リサーチ入門』2018、有斐閣
米田恵美子『「専門家」以外の人のためのリサーチ&データ活用の教科書: 問題解決マーケティングの秘訣は、これだ!』2022、東洋経済新報社
大上丈彦『マンガでわかる統計学　ストーリーだから最後まで読める』2025、SBクリエイティブ
小島 寛之『完全独習　統計学入門』2006、ダイヤモンド社

佐々木彈『イラスト&図解 知識ゼロでも楽しく読める! 統計学のしくみ』2021、西東社
鹿毛康司 『「心」が分かるとモノが売れる』2021、日経BP
相良奈美香『行動経済学が最強の学問である』2023、SBクリエイティブ
越智 啓太『買い物の科学：消費者行動と広告をめぐる心理学』2024、実務教育出版

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、平常点60%、最終試験40%の割合で行います。平常点は出席率、授業参加態度(Class Participation)、課題提出率、課題提出内容で判断します。グループ課題の場合は課題そのものの評価と、グループメンバー相互の貢献評価をミックスして行います。成績評価は合計で100点満点とし、60点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】
教員からの一方的な説明だけでなく、グループワークやグループディスカッションが刺激となり、学びが深まったという意見が見られました。出来るだけこのような要素を取り入れた授業構成をします。また、授業に双方向なコミュニケーションを取り入れるようにします。受講生の多い授業ですが、出来るだけこのような形での授業運営をしたいと思いますので、バラバラに教室の後方に着席するのではなく、参加しやすいように教室の前の方に固まって着席するようご協力をお願いします。またグループに分かれて課題を行う場合は、一部の学生だけに負荷がかからないよう配慮したグループ分けを行います。また、学生同士相互に連絡が取りやすいよう連絡網の共有などを行います。
また、発表に時間がかかることが見られたため、タイムマネジメントに配慮した授業運営を行います。

【学生が準備すべき機器他】
資料のアップロード、毎回の質問への回答などに学習支援システムHoppii、googlecrassroomを使用します。スマートフォン、タブレット、PC などで、インターネットにアクセスできる環境を各自確保してください。

【その他の重要事項】
東京周辺の店舗に見学に行くグループ課題があります。交通費等は自己負担となります。また、訪問日程などは、店舗側やグループメンバーと調整し決定することになります。
教員は長年にわたり外資系企業のマーケティング部門や経営幹部を務め、現在は自身の中小企業（輸出入・卸小売・製品開発）を経営する実務家教員です。米国でMBAを取得し、その後、会社勤めをしながら法政の博士後期課程（経営学専攻）に通いました。経験した業界は、市場調査、消費財、産業財、医療機器、ラグジュアリーブランドなど多岐にわたります。
授業内容には出来るだけ実務経験を反映させ、皆さんの将来の進路に役立つものになるように心がけています。また、毎年留学生の受講も多い授業です。視野を大きく持ち、国境を超えた視点で世界を見、考える力を身に着けましょう。皆さんも貴重な時間とお金を大学での学習に投資しているわけなので、無駄にせず意味ある投資となるよう一緒に頑張りましょう。
統計については苦手意識を持つ人も多いと思いますが、初学者にも理解しやすく興味が持続できるよう、出来るだけ平易に講義することを心がけます。

【Outline (in English)】
< Course Outline>
Informed decision-making (data-driven marketing) is crucial in various aspects of marketing activities conducted by companies and organizations, and one of the tools used to achieve this is "marketing research." While known as "market research" in Japanese, the scope of this research is so broad and deep that it cannot be summed up simply as "researching the market."
When used appropriately, marketing research can help make correct decisions and reduce risk factors, but when used incorrectly, it can lead to incorrect decisions and result in significant losses. It can even be used for selfish gain.
Therefore, a basic understanding of how to properly use marketing research is extremely important.
Marketing research involves processes such as planning, implementation, analysis, interpretation, reporting, and proposals, as well as a variety of tools and techniques. The purpose of this class is to learn the basics of these and their appropriate use.
The main research methods are qualitative research, which understands and analyzes qualitative aspects such as thoughts and behaviors, and quantitative research, which collects and analyzes quantitative data. Statistical knowledge and analysis are essential when analyzing quantitative surveys, but this may be an area that is difficult for students in the humanities. This class will not cover advanced statistical processing, but will instead lecture on basic concepts in a way that is easy to understand even for students in the humanities.
In addition, there will be time set aside to study related fields such as consumer behavior, social psychology, and behavioral economics, which are essential for a deep understanding of phenomena and their essence.
Furthermore, with the evolution of IT (including social media and AI), data and information are now being collected and used unconsciously in everyday life. Students will also be able to understand how this information is used and the ethical aspects involved.
< Learning Objectives>
1. You will be able to understand the issues facing marketing activities and develop the most appropriate research methods and hypotheses to solve them.
2. You will be able to design and conduct appropriate research and collect data and information.
3. You will be able to analyze the data obtained.
4. You will be able to correctly interpret and report the results of analysis.
5. You will be able to understand basic concepts in related fields in order to improve the quality of marketing research.
6. You will understand the importance of methods and ethical aspects when collecting and utilizing data using IT.
< Learning Methods>
Classes will combine lectures using textbooks, group discussions, group work, individual assignments, and group work assignments.
Individual assignments will consist of submitting a paper on approximately one A4 page (approximately once every 2-3 classes). Group work assignments will consist of work and presentations in class. Feedback on these will be provided in class or returned individually with comments. When studying related fields, students will be required to subscribe to introductory books and submit assignments and presentations on their impressions and what they have learned. Lectures will use case studies wherever possible to make explanations easy to understand. Case studies will also include lectures by practitioners and videos featuring practitioners (in both Japanese and English).
< Learning Activities Outside Of Classroom>
Please read reference books and prepare any questions you may have in advance. Regularly read newspapers and the news, and pay attention to daily social and economic trends. The standard preparation and review time for each class is two hours. You will be required to submit a simple one-page A4 assignment approximately once every two or three classes. You may also work in groups. Just before each class begins, a PDF of the slides used in class will be posted on Hoppii. Please download them and use them for taking notes. There will be an outing to visit a store outside of class time. You will be divided into several groups and will go on a tour of a designated store, where you will then write a report to present and submit.
＜Grading Criteria>

Grades are calculated based on 60% regular class points and 40% final exam points. Regular class points are determined based on attendance rate, class participation, assignment submission rate, and assignment submission content. For group assignments, the grade is a combination of the assignment itself and the mutual contributions of group members. The maximum grade is 100 points, with a score of 60 or above being a pass.
＜Others＞
This group assignment involves visiting stores around Tokyo. Students are responsible for their own transportation costs. The schedule and schedule of visits will be determined through coordination with the stores and group members.
Instructor is a practitioner who has worked in the marketing department and as a senior executive at a foreign-affiliated company for many years. He currently runs his own small business (import/export, wholesale/retail, and product development). He earned his MBA in the United States and then studied for his doctorate in business administration at Hosei University while working for companies. His experience spans a wide range of industries, including market research, consumer goods, industrial goods, medical devices, and luxury brands.
We strive to incorporate our practical experience as much as possible into the course content to ensure it is useful for your future career. This class is also attended by many international students every year. Students should broaden their perspective and acquire the ability to see and think about the world from a transnational perspective. You are investing your precious time and money in your university studies, so let's work together to make sure it is a meaningful investment and not a waste.
While statistics may be challenging for many students, we will strive to make our lectures as easy to understand as possible, so that beginners can easily understand and maintain interest.

MAN200MA（経営学 / Management 200）

流通・サービスビジネス論

村田　茂

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：木5/Thu.5　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
インターネットの急速な普及により、世界のビジネスは大きなパラダイムシフトを迎えることになりましたが、今も日々激しく変容を遂げています。このインターネットを軸としたデジタルシフト（DX化）の影響で、新しく生まれた産業もあれば、滅びゆく産業もあります。本講義では、デジタルシフトの影響を受けたサービス産業の中で、メディア産業と流通産業を重点的に取り上げ、変遷の経緯を学び、これからのビジネスを考察していきます。

【到達目標】
本講の目的は、「ビジネスの過去と現在を本質的に理解することで、未来を予見する力を養うこと」です。そのために必要な基礎的な戦略と様々なアイデア（ビジネスモデル）の事例を学び、ビジネス感覚を高めることを到達目標とします。
①サービスビジネスに関する一般的知識、基本的用語を説明できるか

②サービスビジネスの仕組みを理解し、説明できるか
③サービスビジネスの課題を解決するクリエイティブな発想を持つことができているか

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
教員が展開する講義資料に基づき授業を実施します。毎回ではありませんが、リアクションペーパー、アンケートを実施します。実施方法は基本的にはネット、システムを活用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	サービスビジネス研究の進め方	流通・サービスビジネスについて、研究課題の進め方を解説します。①情報収集・整理力　②本質を見抜く力　③問題意識を持つ力　④未来を予想する力
第2回	サービスビジネス業界研究①	第1回目は、出版業界（雑誌、コミック、電子書籍）
第3回	サービスビジネス業界研究②	第2回目は、新聞業界。
第4回	サービスビジネス業界研究③	第3回目は、放送業界（テレビ、ラジオ）。
第5回	web1.0、web2.0、web3.0の理解	サービスビジネスを大きく変容させている最大要因であるインターネットの普及について理解を深めます。そのはじまりからAI、ブロックチェーン、メタバースなど次世代ビジネスの可能性まで。
第6回	クリエイターエコノミー＝個人発信（SNS）	SNSの普及による個人発信の時代が到来。UGCサイトの隆盛、クリエイターの誕生、推し活などを解説。
第7回	サービスビジネス業界研究④	第4回目は、eコマース業界。
第8回	サービスビジネス業界研究⑤	第5回目は、インターネット広告業界。
第9回	新しいビジネスモデルの発明（ゲストスピーカー）	ZOZO、メルカリなど成功の秘密は？　ゲストスピーカーの就活・ビジネス経験談とともに、サービス企業のビジネスモデルについて探求します。
第10回	デジタルマーケティング	デジタル技術が発展していく中で、新しい機能や仕組みが生まれます。ビジネスのトレンドを「ビジネス用語」を使って、理解していきます。その中で、すべてのデジタルビジネスに不可欠なデジタルマーケティングの理解を深めます。
第11回	業界研究のまとめ	これまでの学習について総括します。
第12回	知の探究①…ビジネス環境変化、ビジネストレンド	グローバルで激変するビジネス環境、トレンドを理解し、俯瞰で考える力を学修します。
第13回	知の探究②…ビジネス論、ビジネス用語	ビジネス論（古典から現代まで）の基礎と、重要なビジネス用語（定番からトレンドまで）から、ビジネス構造を理解する力を学修します。
第14回	試験・課題レポート	試験と課題レポートを実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日頃から情報メディア（ビジネスニュースサイトや新聞、雑誌）に目を通して、日々の社会の動きに注意を払ってください。そして、問題意識を持ってください。サービスビジネスの多くは身近に利用しているものばかりです。自分はなぜ、このアプリを活用しているのか？　このビジネスはどのように成り立っているのか？　を考えてみてください。特に、新しいネットサービスなどは実際に試してみるのが良いでしょう。準備時間、復習時間ともに2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。
毎回、参考資料を用意します。

【参考書】
毎回、参考資料を用意します。
さらに探求したい場合の参考書は授業で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、以下の3点を評価します。
①サービスビジネスに関する一般的知識、基本的用語を説明できるか
②サービスビジネスの仕組みを理解し、説明できるか
③サービスビジネスの課題を解決するクリエイティブな発想を持つことができているか
授業内容からの小課題　50%
授業内容からの中課題　20%
総括レポート（大課題）　30%
成績評価は100点満点とし60点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】
学生が明確に興味を持っている事象については、重点的に解説すべく授業内容をアップデートしています。また、ゲスト会については、事前に「興味のある業界」「就職先候補の業界」についてアンケートを取り、招聘。授業内容と連動するかたちでリアルな現場の声を聞きます。

【学生が準備すべき機器他】
主に対面の授業になりますが、リモート授業も開催します。
資料のアップロード、質問への回答などに学習支援システムを使用します。スマートフォン、タブレット、ＰＣなどインターネットにアクセスできる環境を各自で確保してください。

【その他の重要事項】
＜実務経験のある教員による授業＞

出版・放送メディアや出版・音楽・映像制作などのエンタテインメントビジネスと、eコマース、UGC、アプリシステム開発などのデジタルビジネスに関して、現場からマネジメントまで、また、大企業とベンチャー企業の両方を経験してきた現役のビジネスマンによる授業になります。

【Outline (in English)】
【Course outline】
The rapid spread of the Internet has brought about a major paradigm shift in business around the world, and even today, the world is undergoing dramatic changes every day. Due to the influence of this digital shift (DX) centered on the Internet, there are new industries that have been born, and there are industries that will perish. In this lecture, among the industries affected by the digital shift, through the media industry and the distribution industry, we will learn the background of the transition and consider the future business.
【Learning Objectives】
The purpose of this course is to develop the ability to foresee the future by fundamentally understanding the past and present of business. The goal is to improve business sense by learning the basic strategies and examples of various ideas (business models) necessary for that purpose.
① Can you explain general knowledge and basic terms related to the distribution and service business
② Can you understand and explain the structure of the distribution/service business?
③ Do you have creative ideas to solve the problems of the distribution and service business?
【Learning activities outside of classroom】
Please read the information media (business news sites, newspapers, magazines) on a daily basis and pay attention to daily social movements. And be aware of the issues. Many of the distribution and service businesses are all about familiar things. Why am I using this app? "How does this business work?" "Please think about it." In particular, it is a good idea to actually try new Internet services. Standard time for both preparation and review is 2 hours.
【Grading Criteria /Policy】
Grading will be based on the following three points.
① Can you explain general knowledge and basic terms related to the service business
② Can you understand and explain the structure of the service business?
③ Do you have creative ideas to solve the problems of the service business?
Small assignments in class 10%
Test 40%
Issue 50%
The grade evaluation is based on 100 points, and 60 points or more is considered passing.

MAN200MA（経営学 / Management 200）

就業機会発見実務【2024年度以前入学者のみ】

今井　道子

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：月4/Mon.4　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：2024年度以前入学者のみ履修可能

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「就業機会を増やす人、そうでない人の違いは何か」「ビジネス機会を作れる人とは」を考え、自らのエンプロイアビリティやアントレプレナーシップを高める機会をつくります。

【到達目標】
労働市場や時代の理解を深める手法、自己理解を促進したり点検したりする手法について理解し、自己の社会的役割認識やエンプロイアビリティを高める機会をつくります。自己理解を踏まえ、最終段階で5年後のキャリア目標を構築することを目指します。また、キャリアデザイン学部出身者として何より強みとなる「人のエキスパート」とは何か、について思索する時間をつくります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP1」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
エンプロイアビリティやアントレプレナーシップの認識を高めるため、①職場、職業等の概念を理解します②演習を通じてキャリア理論で学んだ自己理解手法を確認し、自らのキャリア形成につながる体験をします③演習を通じて多様なジョブ、これから注目される業界について理解します。④演習を通じて実社会で生きていくための多様なトレーニングを行います。グループ演習が多いので出席をお願いします。試験(オープンブック方式:電子機器を除いて持ち込み可)を実施します。試験問題のテーマは、授業の中で案内します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方、第2回目以降の授業内容、成績評価方法についてお話しします。また、本授業で取り上げるテーマについて、概要を紹介します。
第2回	総論	エンプロイアビリティとは何か、キャリア開発の重要性について理解します。演習を通じて興味がある企業のエンプロイアビリティについて考えます。
第3回	自己理解1 (特性因子理論より)	演習を通じてRIASECの理論(ホランド)を体感し、自己理解・自己開示への啓発的体験を得ます。
第4回	自己理解2 (経験と強みの言語化)	演習を通じて自分の中に形成しているキャリアドライバーや強みを見つめて言語化し、自己理解への啓発的体験を得ます。
第5回	自己理解3 (自己の強みと社会をつなげる)	「自分を社会にデビューさせる企画書を書く」演習を通じて自己の経験と強みを内省し、それを社会で活かしていく道すじを考察します。自己理解と自己肯定感を高める体験を得ます。
第6回	職業理解1 (採用)	採用に際して重要視されていることを理解します。インターンを通して得たいことを考察する演習を行い、実社会での職業について理解を深める機会をつくります。
第7回	職業理解2 (コーポレート・サービスのジョブ)	ジョブ(職務)の概念を会得し、ジョブを中心として人事制度ができあがっていることを把握します。また、事業を支えるコーポレート5つのジョブ、プロダクト・サービスを開発する3つのジョブについて理解します。
第8回	職業理解3 (マーケティング・営業のジョブ)	マーケティング・営業の6つのジョブについて理解します。また、演習を通じて各ジョブが抱えている課題解決の手法について考察します。
第9回	職業理解4 (起業)	起業を志す人の特性について思索し、「起業とキャリア」に関する多様なケースを学びます。演習を通して、多様な分野のビジネスモデルについて考えます。
第10回	成長できる仕事選び1 (コンサルタント・商社のジョブ)	コンサルタント・商社の主なジョブについて学び、演習を通して各ジョブの課題解決手法について考えます。
第11回	成長できる仕事選び2 (業界理解)	業界の構造を知り、各業界の特徴、これから注目される業界について考えます。自分が生きていく業界はどこを見て決めるのか、演習を通して理解を深めます。
第12回	成長できる仕事選び3 (就活のプロセス)	就活のプロセスについて理解し、相手に伝わるES(エントリーシート)の文章の書き方、直前対策について学びます。
第13回	成長できる仕事選び4 (面接の意義)	自己理解を踏まえた「自分らしさ」を伝え、相互理解を図るという面接の意義、そこでの対応について理解します。また、BtoB企業、BtoC企業について理解を深めます。
第14回	試験、振り返り	期末テストを行います。また、13回のセッションを通じて自己のエンプロイアビリティ、興味をもつ業界やジョブについて振り返ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
必要に応じて簡単なレポートを出します。本授業の準備学習・復習時間は計4時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『「キャリアデザイン」って、どういうこと？　過去は変えられる、正解は自分の中に』（武石恵美子著:岩波書店 2024年 630円）

【参考書】
適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】
試験(25)、レポート(25)、リアクションペーパーのコメント(50)を基準とします。質問・発表などによる積極的な授業参加を最重視します。期末試験はオープンブック方式(電子機器以外は持ち込み可)で、到達目標に達しているかを見る設問を出題します。

【学生の意見等からの気づき】
「就活などでグループディスカッションの経験が少ないことが非常に不安です」というフィードバックをいただいていますので、グループ全体で議論をまとめる力、それを元に時間内でプレゼンを行う力が自然に身に付くように訓練します。ディスカッション力は、就活のみならず、就職後、日々の仕事の中で生きてきます。また、リアクションペーパーなどから寄せられる疑問点、迷う事などについてフィードバックする時間をつくります。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを通じて資料等を配布します。

【その他の重要事項】
ビジネス雑誌を編集する仕事を通して、長年にわたり企業とビジネス社会を取材し見つめてきました。その実務経験を生かして、多様なキャリアと多様なジョブに携わる経験者の言葉や実感をお伝えします。それを踏まえて、業界、企業、ジョブを見る目を養い、今後のキャリアについて一緒に考える機会をつくります。

【Outline (in English)】
【Course outline】
The aim of this course is to create opportunities to enhance your own employability and entrepreneurship by considering "what makes the difference between those who increase employment opportunities and those who do not" and "who can create business opportunities."
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1.Creating an opportunity to understand methods to deepen your understanding of the labour market and the times.
2.Promoting and checking your self-understanding, and increasing your awareness of social role and employability.
3.Based on self-understanding, the aim is to establish career goals for five years hence at the final stage.
4.Providing time for contemplation on what it means to be a 'people expert', which is one of the greatest strengths of being a career design graduate.
【Learning activities outside of classroom】
Occasionally a brief report will be given. Your study time will be more than 4 hours for a class.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Term-end examination(25%), Reports(25%), Comments on reaction papers(50%),and in-class contribution. The final examination will be open-book and will include questions to see whether the achievement objectives have been met.

SOC200MA（社会学 / Sociology 200）

外書講読A（ライフ）【2024年度以前入学者用】

門脇　仁

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：火5/Tue.5　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞
授業コード：C5083
科目名：外書講読C
＜2024年度以前入学者＞
授業コード：C7302
科目名：外書講読A（ライフ）
※入学年度によって授業コード・科目名が異なります

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
世界を動かす情報はいかに発信され、伝達されていくのか。海外の情報にどうアプローチすれば、自分の研究やビジネスに役立てることができるのか。それにはまず、外国語によるさまざまな情報を吸収し、速く正確に処理するスキルが必要となる。この講義では、インタビュー、ルポルタージュ、講演、報告書、宣伝広告などの多様な英文を取り上げ、その訳読を通して英語による情報収集や調査の基礎的ノウハウを習得する。

【到達目標】
英語の文章を読み、音声を聴き取ることで、地球規模の情報を手際よくキャッチする能力を養成する。またそれを習慣化することで、受講者が今後も国際的視野を持ち続け、キャリアデザインと社会生活の質的向上に役立てていくことを目標とする。履修者は、読解・聴解の目安となる数値目標（速読スピード、TOEICスコアなど）を自分で定め、半年間の授業でそれをクリアできるようにしていくことが推奨される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
毎回Ａ４版１～２枚程度の平易な英文資料を配布し、翌週までにそれを読んでおくことを課題とする。講義では、課題文で取り上げる分野の背景や情報収集法、構文の読み解き、語彙と音声についてのアドバイスなどと併せて訳読を実践する。外国語の効果的な学習法や、リスニングの実技訓練も指導するので、文法や語彙を復習・再強化する必要のある学生も受講可能。
リアクションペーパーでの質問に対する回答や、個人発表についてのコメントといったフィードバックは、授業内で随時行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方と、英語の効果的な学習法を紹介。また、海外の情報ソースから情報検索する際の手順をアローダイアグラムつきで解説。
第2回	エッセー・伝記の読解	平易に書かれたオートバイオグラフィー（自伝）の一部を課題文とし、英文の情報構造を踏まえて内容を速く正確に読む方法を実践する。
第3回	海外ニュースの核心	メディアで入手した情報ではなく、グローバルな調査・統計にもとづく情報ソースにさかのぼり、一次情報を活用する方法を身につける。
第4回	インタビューの聴解・読解	英文雑誌のインタビュー記事を通じて、話者の強調する論点のつかみ方、口語英語のニュアンスなどを学び取る。
第5回	字幕英語の活用	洋画の一部を視聴し、英語字幕を活用したリスニングと読解の相乗的な強化法を学ぶ。
第6回	グローバルイシューの読み解き方	気候変動、砂漠化、人口問題など、地球規模の問題へのアプローチを探究。ここでは英字新聞の記事の読み方を学ぶ。
第7回	個人発表①	この時点までの授業で最も参考になった知識にもとづき、これから試してみたい英語学習法や、英語で調査研究をしてみたい分野などについて発表。
第8回	ルポルタージュの視点	National Geographic誌のルポルタージュを参考に、科学的・歴史的視点から構成された読み物の多様なあり方を見る。
第9回	ラジオの英語	平易な海外ラジオ番組をディクテーションし、音声の導入で語彙を増やしながら速読力も高めるトレーニング法を実践する。
第10回	プレゼンテーションの聴き方とシャドーイング	TED Conferenceで行われている各種の講演を題材に、英語でのプレゼンテーションを聴き取る方法や、シャドーイングによる英語イントネーションの実践方法などを学ぶ。
第11回	TOEICの活用法	TOEICの各パートで出題される問題文を取り上げ、英語のリスニング力と読解力をともに向上させる日常的なトレーニング方法を習得する。
第12回	メッセージを読み解く	2016年にノーベル文学賞を受賞したボブ・ディランをはじめ、海外ポップアーチストの歌詞を重視した音楽に注目し、表現や伝達のメカニズムを探る。
第13回	広告の英語	海外の商品広告、求人広告、テレビCMなどの英語を速く正確に読みこなすため、多種多様な海外広告に触れ、情報のエッセンスを抽出する。
第14回	個人発表②	これまでの授業で最も参考になった知識を発展させ、これから試してみたい英語学習法や、英語で調査研究をしてみたい分野などについて発表。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。
毎週、次回の授業で使用するコピー資料を配布するので、受講者は前もってそれに目を通し、考察を進めておくこと。

【テキスト（教科書）】
『広葉樹の国フランス』（門脇仁著、築地書館）

【参考書】
Tree Thieves――Crime and Survival In North America's Woods (Lyndsie Bourgon, Little, Brown Spark)
『エコカルチャーから見た世界』（門脇仁著、ミネルヴァ書房刊）

【成績評価の方法と基準】
筆記試験(50％)、平常点（50％）
リアクションペーパーの内容を特に重視する。

【学生の意見等からの気づき】
この授業を受講して読解力とリスニング能力が相乗的に高まったという学生の声が多い。今年度もこの点を一層重視し、できるだけ多様な情報を目と耳の両方から取り入れることができるようトレーニングする。またリアルタイムに進行している出来事や、時流に即したテーマを盛り込むことが履修者のモチベーション向上につながるので、これまでよりも一層現代的な視点を強化し、新鮮な情報を迅速に処理するノウハウに主眼を置く。さらに、受講者の英語力と要望に合わせてカリキュラム内容や指導レベルを微調整し、最適な授業を目指す。

【学生が準備すべき機器他】
教室設置のPC、プロジェクター、DVDプレーヤー、音響機器等を使用するので、個人発表者以外は機器の準備は不要。

【その他の重要事項】
全てのコースのベースとなる科目です。

【その他】
課題文の全訳を自分の解釈と照らし合わせ、理解度の向上に役立てる。ディクテーションもできるだけ毎回行うので、リスニング能力のアップをその都度チェックする。

【Outline (in English)】
How is information sent and shared to move our society? How can we access it to make use of them for study or business? To make it possible, we need some skills for collecting various information in foreign language and dealing with it quickly and properly. In this class, through reading various types of English writing such as essay, interview, reportage, presentation, bulletin, advertisement, etc., you would acquire fundamental knowledge to collect information and use it for your research.
By the end of this course, students are expected to do followings:
-Collecting information in the world effectively through reading and listening to English passages.
-Keeping themselves sensitive to international matters so as to draw their career and social life.
-Achieve a numeric target set by themselves concerning their reading speed, TOEIC score, etc.
Before/ after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Material for each session will be distributed in advance. Students should look it through and consider how to translate its English passages into Japanese.
Term-end examination: 50%, in-class contribution: 50%
Reaction paper will be regarded as important.

SOC200MA（社会学 / Sociology 200）

世代間交流論

安田　節之

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：月2/Mon.2　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ライフキャリア課題の解決を目的とした対人・コミュニティ援助のあり方について学び，プログラム評価(program evaluation)のスキルを習得する。※2027年度までの科目移行期間(旧：世代間交流論→新：プログラム評価論)については，世代間交流論の内容を踏まえた講義とする。

【到達目標】
①地域や社会の課題と連動したライフキャリアの捉え方や課題解決の方法が分かる。
②対人援助やコミュニティ援助を目的としたプログラムの開発と評価方法が分かる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
教育機関や企業組織そして地域コミュニティには，人材育成・組織開発・地域活性化などを目的とした多種多様な実践活動が存在します。そして対人援助やコミュニティ援助という形で実践されるこれらの活動について，説明責任（アカウンタビリティ）や科学的根拠(エビデンス)が求められる時代となっています。この講義では，主にライフキャリア課題の解決を目的とするプログラムを客観的に捉え，その成果や効果を評価し，実践の質向上につなげるための方法論を学びます。プログラムの価値や意義は，経済的指標などで捉えることが困難な個人や集団に対する教育的・心理的効果として現れることが多いため，社会調査・実験心理学・心理測定といった方法論との親和性が高くなります。この授業では、プログラムを客観化・可視化する手順をまず習得したうえで、具体例を通してプログラムを実証的に評価するための方法を学びます。演習としてグループワークを頻繁に行うため，他の学生との積極的なコミュニケーションが必要となります。またリアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し，授業のディスカッションに活かします。
※2027年度までの科目移行期間(旧：世代間交流論→新：プログラム評価論)については，世代間交流論の内容を踏まえた講義とする。よって各回で扱うライフキャリア課題や支援プログラムの例は世代間交流の内容を含むものとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業内容の説明、評価方法の説明など。
第2回	理論的背景①	学際的視点からライフキャリア課題について学ぶ①（事例：駄菓子屋）。
第3回	理論的背景②	学際的視点からライフキャリア課題について学ぶ②（課題学習文献：プログラム評価の学び）。
第4回	理論的背景③	ライフキャリア課題におけるソーシャルキャピタルの役割を検討する。
第5回	理論的背景④	アイデンティティとライフキャリア課題（事例：シェアハウス）。
第6回	理論的背景⑤	超高齢社会におけるライフキャリア課題（事例：高齢者施設）。
第7回	実践的課題	プログラム開発に向けたライフキャリア課題を検討する（演習：問題分析ワーク）。
第8回	プログラムの開発①	プログラムの実施背景と活動方針の検討（演習：ゴール設定）。
第9回	プログラムの開発②	ロジックモデルの枠組みからプログラムを捉える（演習：ロジックモデル開発①）。
第10回	プログラムの開発③	ロジックモデルを完成し運営方法を検討する（演習：ロジックモデル開発②）。
第11回	プログラムの評価①	プログラムのプロセスと成果・効果を検討する（演習：アウトカムとデータ収集計画の計画）。
第12回	プログラムの開発②	効果検証を行うための評価クエスチョンおよび評価デザインを考案する（演習：評価クエスチョンの設定)。
第13回	プログラム評価計画の発表	プログラムの開発および評価計画についての発表を行う。
第14回	まとめ	授業全体を振り返り、各課題を提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布資料の指定箇所を必ず読んだうえで授業に参加してください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
配布資料等を使用する。

【参考書】
「プログラム評価：対人・コミュニティ援助の質を高めるために(ワードマップ)」(安田節之，2011，新曜社)

【成績評価の方法と基準】
学期末試験(50％)，グループワーク（演習参加・発表・レポート作成）(30％)，授業への積極的な貢献度(出席状況を含む)(20％)を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
大教室における授業でも、コメント票作成などを通して学生の能動的参加を促すようにする。グループワークではより効率的な運営を行う。

【その他の重要事項】
※2027年度までの科目移行期間(旧：世代間交流論→新：プログラム評価論)については，世代間交流論の内容を踏まえた講義とする。

【Outline (in English)】
Theories and applications of program evaluation (PE) will be covered in this class, where students are expected to learn how problems and targeted issues are addressed, goals and programs are defined and developed, and appropriate methods of PE are applied in evaluating programs.

SOC200MA（社会学 / Sociology 200）

アイデンティティ論

奥山　智天

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：水3/Wed.3　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会心理学とは、個人の「こころ」がどのように社会に影響を与え、また、社会がどのように個人の「こころ」に影響を与えるのかという、個人と社会の相互作用を探求する学問である。社会心理学を学ぶことで、身近な社会現象がどのようなメカニズムで生じ、人々の心理や行動にどのような影響を与えているのかを理解するための一つの視点を獲得することが可能となる。
本講義の目的は、①いくつかの重要な実証研究を通して社会心理学における主要な理論を学び、②それらの理論を用いて日常生活における社会現象を説明できる能力を身に付けることにある。
本講義では、まず社会的認知などの「個人レベル」の心理現象を学び、その後、社会的アイデンティティ理論などの主要概念について学びながら、個人の心理が「集団レベル」や「文化レベル」の社会現象とどのように結びついているのかというグループ・ダイナミックス（集団力学）について理解を深める。

【到達目標】
①様々な実証研究を通して、社会心理学の重要な理論が理解できるようになる。
②社会心理学の理論を用いて、身近な社会現象を説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式で行う。毎回の授業で、リアクションペーパー（小課題を含む）への回答を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	社会心理学とはどのような学問か
第2回	個人レベルの心理①：同調と社会的認知	人はなぜ同調するのか？
第3回	個人レベルの心理②：ステレオタイプと社会的推論	偏見や差別はなぜ生じるのか？
第4回	個人レベルの心理③：気分と感情	天気が良いと気分も良い？
第5回	個人レベルの心理④：態度と説得	どうすれば人を説得することができるのか？
第6回	集団レベルの心理①：対人行動	人はなぜ他者を助けるのか？
第7回	集団レベルの心理②：人間関係	人はなぜ人間関係に葛藤を抱えるのか？
第8回	集団レベルの心理③：組織と集団過程	どのようなリーダーが好まれるのか？
第9回	集団レベルの心理④：集団間葛藤	社会的アイデンティティ理論とは何か？
第10回	文化レベルの心理①：文化と自己	日本人とアメリカ人は何が違うのか？
第11回	文化レベルの心理②：文化と感情	アメリカでは名誉が大事？
第12回	文化レベルの心理③：文化と幸福	日本の幸福度はなぜ低い？
第13回	文化レベルの心理④：社会生態学的アプローチ	稲作が日本文化を作った？
第14回	期末試験	（対面で実施予定）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業後に講義内容の復習を行うこと。本授業の準備・復習時間は、各回４時間以上を標準とする。期末試験の前には講義内容を総復習し、試験対策を行うこと。

【テキスト（教科書）】
テキストは用いない。授業時間外に自主学習する際の参考書籍は【参考書】の欄を参照。なお、関連する学術論文は授業内で適宜紹介する。

【参考書】
初学者向け
・「社会心理学キーワード」、山岸俊男、有斐閣双書
より詳しく学びたい方向け
・「社会心理学概論」、北村英哉・内田由紀子編、ナカニシヤ出版

【成績評価の方法と基準】
・毎回の授業で課されるリアクションペーパーへの回答（40％）
・期末試験の成績（60％）

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更のため、該当しない。

【その他の重要事項】
授業の進捗状況によっては、講義内容が一部変更になる場合があります。

【Outline (in English)】
- This course introduces several key theories in social psychology through various empirical studies.
- At the end of the course, students are expected to understand key theories in social psychology and acquire skills to explain social phenomena using the theories.
- After each class, students will be expected to spend four hours understanding the course content. Before the final exam, students will be expected to spend sufficient time reviewing the course content.
- Your overall grade will be determined based on the in-class reflection paper (40%) and the final examination (60%).

SOC200MA（社会学 / Sociology 200）

余暇集団論

熊谷　智博

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水2/Wed.2　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では人類の社会がどのように発展してきたか、それに合わせてどのように平和になっていったのかを、人文地理学的観点から解説する。合わせてそれが道徳や規範、犯罪に関する心理メカニズムに与えた影響についても解説する。受講生は現代社会の平和がどのように達成されたかについて理解し、現代社会の問題について考えることができるになることが本講義の目的である。

【到達目標】
受講生は人類社会がどのように変化してきたか、そしてそれが社会をどのように平和にしてきたかについての基本的知識を身につけ、現代社会の問題についてその知識を活かして議論できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業内課題はHoppiiを利用してを提出するという形式で行う予定。尚, 課題の範囲は複数回の授業内容をまたがる事もある。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に生かす予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義全体の内容や到達目標について説明する。
第2回	人間の自己家畜化①	集団内の暴君に対する排除過程について解説する。
第3回	人間の自己家畜化②	協力とフリーライダー問題について解説する。
第4回	集団と社会の拡大	集団の規模拡大から生じた変化について解説する。
第5回	超部族と国家	国家と官僚制の登場が犯罪と戦争に与える影響について解説する。
第6回	脱家父長制的血族主義	教会の婚姻・家族プログラムが都市化と市場に与えた影響について解説する。
第7回	WEIRDの誕生	新しい社会観をもつWEIRDな人々の誕生について人文地理学的観点から解説する。
第8回	WEIRDの影響	WEIRDな人々が社会と平和に与えた影響について解説する。
第9回	平和化①	平和化の全体的な変化について解説する。
第10回	平和化②	平和化に対して文明の発達が与えた影響について解説する。
第11回	平和化③	平和に対する人道主義の影響について解説する。
第12回	平和化④	権利意識の変化が平和化に与えた影響について解説する。
第13回	平和化⑤	平和化に対して現代社会が直面している問題について解説する。
第14回	まとめ	講義内容についての振り返り、総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業用資料を学習支援システムにアップロードする。それを元に授業内容を事前に確認した上で、次の授業に臨むように。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
授業開始時点では特定の教科書の指定は行わない。授業の進行によって必要な場合は適宜テキストを紹介する。

【参考書】
授業開始時点では特定の参考書の指定は行わない。授業の進行によって必要な場合は適宜テキストを紹介する。

【成績評価の方法と基準】
学期末試験結果に加えて、課題の提出と授業に対する積極的な質問を中心に成績評価を行う。具体的には課題＋質問で40％、学期末試験（授業内試験を予定しているが、受講者数などによっては試験期間での実施へ変更することもある。また突発的な事態が生じた場合はレポート課題にて代替する可能性もある）60％の配分とする。課題や質問の具体的なやり方については授業開始時に学習支援システムに記載する。

【学生の意見等からの気づき】
学習支援システムを通じて学生のからのフィードバックを受け、授業方法に反映させる。

【学生が準備すべき機器他】
一部課題はインターネットへの接続が必要となるので、利用できる環境を整えておくように。

【その他の重要事項】
担当教員が出張等の場合、Google classroomを利用したオンデマンド形式で授業を代替実施することもある。その場合は授業内やHoppii等で告知するので各自確認の上、期限内に受講すること。詳細については初回授業に説明する。

【Outline (in English)】
This course explains how human societies have developed over time and how they have become increasingly peaceful, from a human geographical perspective. It also examines how these developments have influenced psychological mechanisms related to morality, social norms, and crime. The objective of this course is for students to understand how peace in contemporary society has been achieved and to develop the ability to think critically about issues facing modern society.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination: 60%, Short reports and in class contribution (e.g. asking questions): 40%

SOC200MA（社会学 / Sociology 200）

NPO論【2024年度以前入学者のみ】

山口　佳子

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木2/Thu.2　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：2024年度以前入学者のみ履修可能

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ＮＰＯは地域社会のニーズに応える社会サービスの創り手として、社会的課題の解決と組織が掲げたミッション（使命）の実現に向けて 大きな役割を果たすことが期待されています。しかし、現状として、多くのＮＰＯが「人材・資金・事業・情報等」のマネジメントに問題を抱えています。本講義では具体的な事例を通して、ＮＰＯ活動を発展させるためのマネジメントの向上について、そのあり方や課題を考察します。

【到達目標】
ＮＰＯ／非営利組織についての基本的な知識を習得することに合わせて、その現状と社会的意義について理解を深めることを目標とします。また授業で得られた知識に基づいてグループワークを実施し、ＮＰＯの事業を考え、事業計画書の作成までを行えるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
毎回、テーマを決めた講義を実施する予定です。講義では、テーマについての感想・意見を書いてもらったりするほか、グループでのディスカッションやプレゼンテーションを行ってもらうこともあります。なお、初回アンケートにより、授業テーマや授業形態に一部変更があり得るほか、大学外でのフィールドワークも予定しています。授業ごとのリアクションペーパーの提出等含め、今期も授業支援システムを使用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション：	本授業全体の概要確認。参加者の関心事項についてのミニアンケートも行うので、受講希望者は必ず出席のこと。
第2回	ＮＰＯの基礎知識	ＮＰＯの意味や意義、ＮＰＯとＮＧＯの違い、非営利の意味などについて理解する。
第3回	ＮＰＯの社会的役割	日本における市民社会の歴史を知り、日本におけるＮＰＯの社会的役割について理解する。
第4回	ＮＰＯの具体的事例①	ＮＰＯの実態についての資料を利用し、その具体的な活動について理解する。
第5回	ＮＰＯの具体的事例②	実際にＮＰＯで活動するゲストを招き、具体的な活動事例をもとに、ＮＰＯの社会的役割を考える。
第6回	ＮＰＯの組織と運営について	ＮＰＯの組織運営について学び、その課題について理解する。
第7回	ＮＰＯと行政との協働	ＮＰＯと行政の関係を学ぶとともに、「協働」の具体的事例を紹介する。
第8回	市民活動やＮＰＯの現在	市民活動やＮＰＯ、またコミュニティビジネス、ソーシャルビジネスの最新事例を紹介する。
第9回	ＮＰＯと雇用	ＮＰＯの雇用・就労の場としての可能性と課題について、データを基にその問題点と可能性を考える。
第10回	フィールドワーク	劇場や美術館などのアートＮＰＯと行政との協働の現場に実際に足を運び、公共空間での非営利のマネジメントの現状について考察する。
第11回	グループワーク①	講義を踏まえてテーマを設定し、それに基づいたグループワークを実施する。
第12回	グループワーク②	グループワークのまとめ。アウトプットを完成させる。
第13回	グループワーク③	グループごとにプレゼンテーションをおこなう。
第14回	まとめ	全体のまとめ、レポート課題についてなど。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、授業の復習をすること。また、授業に関連する新聞記事や文献などに関心をもつとともに、日々の生活のさまざまなもの／ことを、授業との関連で捉え直していくように心掛けること。さらには、授業であつかう事例に関わるイベントなどには積極的に参加することが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。

【参考書】
参考文献は、授業で随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
最終試験（５０％）と、小レポート（１０％）、授業への積極的貢献（２５％）、グループワークとプレゼンテーション等への参加度・貢献度（１５％）によって成績を評価します。

【学生の意見等からの気づき】
学期の後半の授業ではグループワークを行いながら、NPOへの理解を深めていきます。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
２００９年に特定非営利活動法人アルファルファを設立し、以降代表理事をつとめています。組織の運営、および様々な行政・民間企業等との協働について具体的な事例を通して、学生の皆さんと共に、営利／非営利を超えての、これからの社会課題との向き合い方について考えていきたいと思います。

【Outline (in English)】
・Course outline ： In this course, we will examine how to improve management to develop NPO activities through concrete examples. ・Learning Objectives ： The goal is to an in-depth understanding of the current status and social significance of nonprofit organizations, in addition to acquiring basic knowledge about them. ・Learning activities outside of the classroom ： Students will be expected to be interested in newspaper articles and literature related to the class and try to reconsider various things in their daily lives in relation to the class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. ・Grading. Criteria /Policies ： Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 50%、Short reports ： 10％、 in-class contribution: 25%、Group work and presentations contribution ： 15％

SOC200MA（社会学 / Sociology 200）

公共サービス論【2024年度以前入学者のみ】

松原　直輝

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水5/Wed.5　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：2024年度以前入学者のみ履修可能

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「公共サービスとは何か」と聞かれたら何と答えるか？
本授業の目的は、この問いに対して複数の視点からの答え方を学ぶことである。公共サービスについて様々な角度から議論できることを知り、政府の役割や個人・社会・国家の関係について考察を深められるようになることを期待する。
この授業では、公共サービスを3部にわけて講義する。第1部（第2回〜第5回）では、サービスを需要する住民側（＝行政などのサービス供給主体の外側）の視点に立ち、公共サービスを政府・市場関係から整理する。第2部（第6回〜第10回）では、公共サービスを供給する行政（＝サービス供給主体の内側）に焦点を当て、行政の動作原理を取り扱う。最後の第3部（第11回〜13回）では、公共サービスの需要側と供給側の関係を基底する公共概念や公共サービスの規範的議論を学ぶ。

【到達目標】
公共サービスに対する理解を深め、今後の公共サービスのあり方について、受講者が明確な考えを持てるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デイプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業の始めに、前回の授業の内容を振り返ったり、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行ったりする。授業は対面式（講義形式）で行うが、オンラインで実施することもある。その場合は、事前に学生に連絡をする。授業は、対面式でも、オンラインでも、教員が作成する資料を基に進めていく。授業で使用する資料は、前日までに学習支援システム上にアップする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	この授業の概要、進め方、成績評価方法について説明する。
第2回	市場と公共サービス（1）	公共サービスの理論と歴史
第3回	市場と公共サービス（2）	公共サービスと民間サービスの関係
第4回	市場と公共サービス（3）	民営化の政治プロセス
第5回	市場と公共サービス（4）	新しい官民協働（PPPとPFI）
第6回	公共サービスと行政（1）	行政学入門（行政を研究するとは？）
第7回	公共サービスと行政（2）	行政の内部1（中央省庁、独立行政法人、公益法人）
第8回	公共サービスと行政（3）	行政の内部2（地方自治体、国と地方の関係）
第9回	公共サービスと行政（4）	行政の内部3（Street Level Bureaucracy）
第10回	公共サービスと行政（5）	評価・指標・国際行政
第11回	公共サービスのあり方（1）	公の概念史- 日本・中国・西欧の3つの起源
第12回	公共サービスのあり方（2）	公共哲学- 公正に対する構想
第13回	公共サービスのあり方（3）	市民社会- 政府でも企業でもない主体から何が見えるか
第14回	本授業のまとめ	これまでの授業を振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義全般にかかわる参考書と授業後は講義内容を復習することが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。初回授業に詳細版のシラバスを配布し、その中で各授業回の参考書を示すので、内容について深く知りたい学生は、そちらを読んでほしい。

【テキスト（教科書）】
本授業では、テキストは指定しない

【参考書】
初回授業に詳細版のシラバスを配布し、その中で各授業回の参考書を示す予定。講義全般にかかわる参考書として以下のものをあげておく。
・秋吉貴雄・伊藤修一郎・北山俊哉（2020）『公共政策学の基礎 第3版』有斐閣ブックス.
・稲継裕昭（2016）『自治体ガバナンス』NHK出版.
・金井利之（2018）『行政学講義』ちくま新書
・曽我謙吾（2022）『行政学 新版』有斐閣.
・外山公美他著（2014）『日本の公共経営』北樹出版.
・真渕勝（2020）『行政学 新版』有斐閣.

【成績評価の方法と基準】
・毎回のリアクションペーパー（20％）
・授業での参加、貢献（20％）
・期末レポート（60％）

【学生の意見等からの気づき】
授業の進め方や内容に関する質問等は、授業後に受け付けるほか、メールでも受け付ける。教員のメールアドレスは、最初の授業で知らせる。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline (in English)】
This course examines "Public Service" from three perspectives: the government-market relationship, public administration as a service provider, and the ideal role of public services in society. Students are expected to spend two hours each for preparation and review. Grading is based mainly on a term-end report (60%), but reaction papers and in-class contribution will also be evaluated (20% each).

SOC200MA（社会学 / Sociology 200）

産業文化論【2024年度以前入学者のみ】

上原　義子

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水3/Wed.3　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：2024年度以前入学者のみ履修可能

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、文化と産業の関係を色々な角度から見ていくものである。文化は長い人類の歴史の中で、様々な地域で、多方面から育まれてきた。また、人の暮らしは基本的に高度に分業化された経済的諸活動の結び付きによって成り立っており、そこに産業が育まれてきた。本講義では、こうした人々の関りから生まれてきた叡知と個性である産業と文化が、これまでどのようなものを織り成してきたのかについて多方面から検討する。
そのため、講義の各回だけをピンポイントで見ると毎回全く関連性がないように思えてしまうこともあるが、それは多文化という言葉が示すように、文化というものが実に様々な特色を持っているからこそである。本講義では、こうした多種多様な文化を産業ベースで見ていくことで一定の枠組みを考えていくことを狙いとしている。なお、授業内で扱える分野には限りがある。学生諸君には是非この講義を興味関心のきっかけとして、 より発展的な学習へと進んでもらいたい。

【到達目標】
1、文化を通して産業を考える
2、産業を通して文化を考える
3、日本の文化と産業の関係性について知識を得る

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デイプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業はスライドを示しながら、そのスライドについて解説をしていく形で進めます。適宜リアクションペーパー等を活用し、良いコメントは授業内で紹介するなどします。感染症への対応として変則的な授業が必要な場合が起こりえますので、学習支援システムや授業内の連絡を聞くようにしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の全体像と狙い、授業の進め方、試験制度、レポート課題、評価の仕方
第2回	様々な文化と産業	日本の文化と産業や海外の文化と産業について、基礎的な知識を得る。
第3回	日本の産業文化（1）	日本を代表する観光地・京都の舞妓の育成制度を事例に、日本の観光産業と文化的背景を考える
第4回	日本の産業文化（2）	雇用者と従業員を取り巻く組織文化ーサービス・マーケティングの視点から
第5回	日本の産業文化（3）	日本のモノ作り文化と産業
第6回	日本の産業文化（4）	日本の伝統産業の成り立ちと現在ー藩の殖産から産業集積へ
第7回	日本の産業文化（5）	これまでの日本の産業を支えてきた組織文化と日本的経営
第8回	日本の産業文化（6）	伝統的工芸品に関する産業論と芸術論
第9回	日本の近代産業（1）	日本の経済成長を支えた風土　−流通チャネルの視点から
第10回	日本の近代産業（2）	環境問題と文化、産業
第11回	日本の近代産業（3）	観光産業と文化
第12回	日本の将来的産業文化	グローバル化と日本の文化　−観光立国としての日本を事例に
第13回	ヒトの進化と文化	協力と罰の生物学　流通チャネル構造と機会主義　　ネットワーク
第14回	今学期のまとめ	この授業を踏まえてこれから修得してもらいたいこと

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本講義は文化という複雑で多面的なことを産業という側面から切り込むものである。そのため多分野を横断的に扱うので、受講生自らも自発的に関連領域を調べる必要がある。信頼のおける情報源から多くの知識を得て考えを深めてほしい。なお、本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
講義内で適宜紹介する。（購入を必須とする教科書はない）

【参考書】
講義内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
レポート課題100％

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【その他の重要事項】
対面とオンラインのタイミングに関しては、その時の内容や状況で適宜調整します。授業内での告示を聞くようにしてください。

【Outline (in English)】
This lecture studies the relationship between culture and the industry from various viewpoints. The culture has been brought up in various areas and from numerous aspects for a long period of human history. The human life basically consists of highly decentralized economic activities and in such a place the industry has been brought up. In this lecture, we consider what the wisdom that was born from the entanglement among people and characteristic industry and culture make from numerous aspects.
Therefore, one may miss the relevance completely when each lecture is seen separately. However, as is seen in the term ‘multi-culture’, the reason is that the culture has indeed a wide variety of aspects. In this lecture, we focus on such a culture that has many kinds of viewpoints from the basis of wide variety of industries. Notice that there exists a limit of the number of fields we can treat in this lecture. We expect students to further progress and possess the interest in this occasion.
① This course introduces culture and industry to students taking this course.
②The goals of this course are to acquire knowledge　about culture.
③ Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
④Your overall grade in the class will be decided based on the reports.

SOC200MA（社会学 / Sociology 200）

多文化社会論 I

安藤　優子

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：金4/Fri.4　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「自分らしく在りたい」という言葉は今や一種の「流行」のように使われているが、果たして「自分らしい」とは具体的にどのような在りようを意味しているのか。本講義では、「らしく在る」ことを多角的に分解・分析して考察することによって、「らしさ」とは何かをともに考えていく。
一般に個人が自分の行動様態や意見を決定するときに、無意識に、あるいは潜在的意識として、「女らしさ」や「男らしさ」に代表されるような、性別に基づく社会通念的規範ージェンダーに実は大きく影響されている。しかしながら、社会通念は実際には正体不明であり、単なる多数派の意見であったりする。よって、本講義ではまず学生自身がどんな「らしさ」に規定されているかを知る、気づくことを目的とし、それにより「自分らしさ」を形成する際に何が阻害要因になっているかをはっきりと認識することになる。

【到達目標】
本講義の到達目標は、学生が「自分らしさ」の形成のためには「自他の区別」ができるようになることが土台であることを理解することである。「自他の区別」とは自分は自分であるという「自己受容」を容易にし、同時に自分とは異なる「他者」を受容することになるからである。つまり、「他者」との比較では「自分らしさ」の形成はできないという「らしさ」の本質に気づくことを目標にしているのである。また、「常識」「あたりまえ」「ふつう」といういわゆる「多数派の正解」が唯一の正解ではないことに気づくことにより、自分の「正解」を導き出す力を養うことも重要な到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義は毎回各テーマについて具体例を挙げながら講師のレクチャーが基本であるが、必要に応じてさらに思考を深めるために他受講生とのグループディスカッションを実施し、多様な視点からの論点整理に役立てる。
授業において、学生に求められるのは、能動的な参加姿勢と自分で考え、独自の視点を形成することである。また講義内容への感想、疑問、意見などを講義終了前にコメントシートに記入してもらい、重要な論点や理解への齟齬などは次の講義冒頭でフィードバックする。
講義では、板書とスライド資料を併用し、画像や映像も適宜使用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序章：本講義の概要と意義について	講義の進め方についての説明・評価やレポートについて。講師の紹介
第2回	マジョリティーとマイノリティー	自分はマジョリティーなのか、それともマイノリティーなのか。その区分は属するコミュニティーによって変化することを理解する
第3回	「ふつう」「あたりまえ」「みんな」というお化け	「らしさ」や「べき」論は、「ふつう」とか「あたりまえ」という概念の延長上にある。「みんな」の実体は？ 多数派の正解という「お化け」を考える
第4回	公的領域（ポリス）と私的領域（オイコス）	公的領域は政治・経済という公的組織に属する男性領域で、私的領域はイエにて無償のケア全般を担う女性領域とされる。つまり、性別役割分業の基本概念について学ぶ。
第5回	ゲタと落とし穴ー女性の社会進出と「同化「従属」	講師の40年以上に及ぶテレビ報道でのキャリア形成過程において、個人が何をなしたかよりも「女性」がやったという割増評価（ゲタ）とその反動（落とし穴）について。
第6回	日本の女性認識はどこからー日本型福祉社会論	戦後日本の社会通念としての「女性認識」はどこに起源を求めるべきか。日本型福祉社会論が規定した「女性認識」を紐解く。
第7回	究極のボーイズクラブー政治の世界と女性性の利用	公的領域の主たる分野としての政治の世界。日本初の女性総理が誕生して見えてきた女性性の利用。しかし女性性の利用は、裏返せば男性性の規定でもあることを理解する。
第8回	キャリアの梯子を昇ってみたものの・・・	女性リーダーたちが今なお深刻な問題として直面している、同性間の分断、ミソジニー、インポスター症候群など、「ガラスの天井」とは何かを論じる。
第9回	自分は自分ー自他の区別と自己受容	自分らしさの形成には、自分と他者を「区別」することが欠かせない。なぜならば、「らしさ」の形成は自己受容であるから。自分と他者の区別がなぜ必要かを共に考える。
第10回	多様性と公平・平等	「らしさ」の形成で欠かせないのは、「何が真の平等であるか」という根源的な問いに向き合うことである。制度（フォーマル）と暗黙のルール（インフォーマル）な制度が機会の均等を阻むことを理解する。
第11回	無意識の偏見（差別）と隠された攻撃性	無意識の偏見・差別は主にマイクロアグレッション（小さな攻撃性）として日々の個々人の言動に表出している。他方隠された攻撃性は、意識的に歪曲した表現で他者を攻撃する。この両者の表現について気づきを喚起する。
第12回	違いはちがい	「らしさ」の形成は自己受容を土台とすることは先行講義にて理解を得たが、それでは他者を受容することはどういうことなのだろうか。違いはちがいという、シンプルな答えを具体的に例示する。
第13回	多数派の正義は「正解」ではないー同調圧力に屈しない	講義のまとめとして、「らしさ」を形成するためには、自己受容し、他者との比較に陥らないことを学んできたが、同時に多数派に「同調」する圧力に屈することが「没個人」であることをあらためて認識する機会とする。
第14回	全講義を通じてのキーワードの整理と質疑応答	講義内容の総括としての、質疑など。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自分の「らしさ」に向き合うことは、誰もが気づかないまでも日々の暮らしで実践していることである。その意味では、学生は講義内で出てきたキーワードを自分自身の身のまわりに置き代えて考えることを日常的にしての「気づき」として欲しい。また資料として毎講義に提示するPowerPointの内容は必ずあらてめて目を通して、自分なりの解釈を進めて欲しい。参考文献については、必要に応じて提示するので、関係箇所を読むことは必須であり、さらに自分の関心において必要と思われる文献を読むなど、講義の前後に2時間程度は自分の思考を深める学習をして欲しい。

【テキスト（教科書）】
毎講義において必要な文献を提示する。

【参考書】
参考書は特に提示はしないが、必読の文献の他にさらなる理解を広げる参考文献も講義に応じて提示する。

【成績評価の方法と基準】
本講義で最も重要視する点は、「自ら考える」ことである。そのため、毎講義の終了直前にミニコメントを記入する時間を設け、提出することを義務付ける。コメントは、質問、意見、感想など、自身の講義に対する「考え」をまとめることを目的としている。このミニコメントが評価の30%。
さらに、講義への積極的な参加姿勢も評価の対象とする。講義内での意見の提示、質問、グループワークへの積極参加などである。当然出席率も「積極姿勢」の評価に含まれるが、受動的な参加ではなく、共に講義内容を深め、理解をしていく協調姿勢を評価する。30%。
期末レポートは40%。受講生全員に同一テーマを提示し、文字数なども含めて講義終盤に詳細を提示する。

【学生の意見等からの気づき】
本年度からの授業担当となるので、アンケートは実施していませんので、特にありません。

【その他の重要事項】
椙山女学園大学　外国語学部客員教授　2023年4月～2026年3月
主に、ジェンダーとメディア論、コミュニケーション論、国際関係論を講義。
この「らしさ」の形成と阻害要因の講義では、ジェンダーとコミュニケーション論において核となった「らしさ」の形成と、それを阻害するもの―社会通念や同調圧力などについてあらためて考えを深めていくことを、学生と共に試みたい。

【Outline (in English)】
Course outline
The phrase "I want to be myself" is now used almost like a trend, but what exactly does "being oneself" mean in concrete terms? In this lecture, we will explore what "being oneself" entails by deconstructing and analyzing it from multiple angles.
Generally, when individuals decide their behavior patterns or opinions, they are often unconsciously or subconsciously influenced by socially conditioned norms based on gender ― such as "femininity" or "masculinity"― which are deeply ingrained. However, societal norms are often ill-defined and may simply represent majority opinion. Therefore, this lecture aims first to help you recognize and understand what kind of "typical" expectations define you. This awareness will clarify the obstacles that hinder the formation of your own unique self.
Learning outcomes
The foundation for forming one's own identity is the ability to distinguish between self and others. This lecture aims to help students understand that distinction facilitates self-acceptance while simultaneously enabling acceptance of others who are different.
Learning activities outside of classroom
Students will be expected to go over the materials shown in the previous class and try to rebuild own opinion about the lecture. Students are required to spend more than two hours before and after the class.
Grading criteria/Policies
your overall grade in the class will be decided based on the following
Mini comment submitting at the end of each class, 30%, active class participation 30%, Term-end report 40%.

SOC200MA（社会学 / Sociology 200）

多文化社会論 II

挽地　康彦

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：火3/Tue.3　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、19世紀後半以降の植民地統治期から第二次大戦後の高度成長期までの期間を対象にして、近代日本における民族関係を歴史的に考察する。人口移動の観点からみると、帝国日本の内地では、海外諸国や旧植民地へ「日本人」が移出し、旧植民地からは植民地支配を受けた「朝鮮人」や「台湾人」が移入するなど、国際移動と多文化状況が一般的であった。他方、帝国が崩壊する第二次大戦後では、外地からの引揚げ、内地から帰国、開拓移民、海外移民、出稼ぎ労働など、戦前とは異なる人口移動をともないながら、戦後日本社会の内部に社会的弱者と民族的マイノリティを生み出していった。授業では、近代日本における政治的情勢の変化と多様な人口移動を視野に入れつつ、帝国日本の「内地」や「外地」で、そして戦後日本社会の内部でどのような民族関係が編み出されたのかを検証し、その特徴と現代的意味を考えることを目的とする。

【到達目標】
近代日本の移民史に依拠しながら、異民族間に生じた諸問題を植民地支配、戦争、開拓、労働、入管、ナショナリズムなどの観点から検討することで、単一民族国家の神話に囚われない歴史観の習得をめざす。具体的には、「日本人」とは誰か、「移民」とはどういう存在だったのか？ 近代日本における異民族間の社会関係はいかなるものだったか？ 戦後における民族的マイノリティの位置づけと外国人労働者の受け入れにはどのような関係にあったのか？ といった問いを追究することで、現代日本の移民問題を考えるうえでの基礎的な力を養っていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業形態は対面授業を基本とし、半期のうち７回までの授業を同時双方向型のオンライン授業（Zoom）で行う。各回の授業資料は、データ（PDF）で配信しながら進める（受講者が多いため、紙資料の配布は行わない）。
ZoomのURLとパスコードは、以下のとおりです。
https://hosei-ac-jp.zoom.us/j/88696120263?pwd=JCGhab1RhkBsA3rUj7IsVnPbbGlcd2.1
ミーティングID：886 9612 0263
パスコード：099223

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	過去という〈外国〉への旅
第2回	近代日本における移民の動態	近代初頭の日本において「移民」とは誰を指していたのか。当時の認識枠組みを踏まえ、移民動向を数的な規模から確認する。
第3回	戦前日本の民族関係①：朝鮮	帝国日本の「内地」と、その「外地」であった朝鮮。その２つの社会空間における異文化接触と民族関係を多角的に考察する。
第4回	戦前日本の民族関係②：満州	1920年代以降の移民送出の社会的背景を概観しながら、戦前の満州移民事業と戦後の中国残留邦人の歴史について学ぶ。
第5回	「帝国」外部への移住	「帝国」外部への移住が示していた〈過去〉とはどのようなものか。中南米出身の日系人の〈現在〉から、その歴史を振り返る。
第6回	敗戦と引揚げ	日本敗戦にともなう膨大な人口移動と社会的混乱を「引揚げ」の観点から捉え、占領期の絡み合った民族関係に着目する。
第7回	帝国崩壊と帰国	帝国日本の崩壊による旧植民地出身者の「帰国」にフォーカスしながら、おもに在日朝鮮人の「解放」の意味を問う。
第8回	ポストコロニアル・キャンプ	占領初期の入管政策を貫いた「内なる敵」のポリシングという問題を、管理・収容・送還の諸側面から批判的に検討する。
第9回	玄界灘における民族関係史	朝鮮戦争下の北九州を舞台に繰り広げられた帝国主義と軍事史のレイシズムを、虐げられた者たちの文化実践から読み解く。
第10回	開拓と移民	戦後日本の開拓史と移民史の交点に見出される出郷者たちの姿に焦点をあてて、戦後復興の裏面史を描いていく。
第11回	戦後日本の海外移民	戦後復興と成長の陰で再開された、知られざる中南米への海外移住の歴史について当時の国際関係と文芸作品から掘り起こす。
第12回	経済成長と民族的マイノリティ	戦後日本の経済成長期において外国人労働者を代替したのは誰だったのか？ 当時の底辺労働者の供給メカニズムを説明する。
第13回	アメラジアンとは誰か？	沖縄に特有の民族関係の問題を考えるために、「アメラジアン」と呼ばれる人びとの置かれた状況を複眼的に解読していく。
第14回	まとめ／帝国の逆襲	厳格化の一途をたどる現代の入管政策やヘイトが蔓延する社会状況と結びつけながら、これまでの授業内容を振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内容を理解するために、各授業回のテーマに関する情報収集などの準備学習に２時間、授業後に関連文献の読解など復習時間に２時間を必要とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。授業回に応じてレジュメや資料を配信する。

【参考書】
参考・参照すべき文献は複数に上るため、授業の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業内容の理解度を測るために学期半ばで行う小テスト（20%）、学期末に提出を求める課題レポートの内容（70%）、平常点（10%）で評価する。
学期末レポートの課題は、提出期限の約１カ月前に指示する。レポート評価の基準は、以下の３つに設定する（①授業内容を踏まえているか、②習得した知見について正しく理解しているか、③独善的な論理展開でなく他者理解の観点から論述されているか）。
なお、小テストや学期末レポートの課題は、授業に出席しないと作成困難な内容となる。配信する授業レジュメのパッチワークでは単位取得の基準をクリアできない。とりわけ、期末レポートでは課題を正確に理解したうえで、受講者自身が主体的に調べ考察した内容が展開されてはじめて基準をクリアできる。

【学生の意見等からの気づき】
授業内容の理解に不安を覚える学生がいることから、学期半ばに小テストを実施して理解度を確認する。また、学習効果の高さの理由の他に、体調の優れない受講者が授業参加を希望するケースが少なくないことから、７回分の授業をオンラインで実施する。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン授業（Zoom）の場合
・パソコン（カメラ付き）
・インターネット接続が可能な環境
・パソコンがどうしても用意できない場合は、スマートフォンにzoomのアプリをインストールしておくこと。

【その他の重要事項】
・本科目では、初回授業を含めた７回分の授業をZoomを用いたオンライン形式で行う。
・初回の授業は、４月７日（火）３限（13:10 ～ 14:50）にオンラインで行う。
・各授業のなかで質疑応答の時間を設ける予定である。

【Outline (in English)】
Course outline：
This course will historically examine ethnic relations in modern Japan, covering the period from the colonial rule after the late 19th century to the period of rapid economic growth after World War II. From the perspective of population movement, international migration and multicultural conditions were common in the main islands of imperial Japan, with “Japanese” moving out to overseas countries and former colonies, and “Koreans” and “Taiwanese” moving in from the former colonies under colonial rule. On the other hand, after World War II, when the empire collapsed, the population movements differed from those of the prewar period, such as repatriation from the overseas territories, returnees from the main islands of Japan, pioneer immigrants, overseas immigrants, and migrant labor, creating socially vulnerable groups and ethnic minorities within postwar Japanese society. The purpose of this class is to examine what kind of ethnic relations were developed in the “inner” and “outer” regions of imperial Japan and within postwar Japanese society, and to consider their characteristics and contemporary significance, while taking into account the changing political situation and diverse population movements in modern Japan.
Learning Objectives：
By relying on the history of immigration in modern Japan and examining various issues that arose among different ethnic groups from the perspectives of colonial rule, war, settlement, labor, immigration, and nationalism, the course aims to develop a historical perspective that is not limited by the myth of a racially homogeneous nation. Specifically, the following questions will be pursued in order to cultivate basic skills for thinking about immigration issues in contemporary Japan. Who are “Japanese”? What kind of people were “immigrants”? What were the social relations between different ethnic groups in modern Japan? What was the relationship between the position of ethnic minorities and the acceptance of foreign workers in postwar Japan?
Learning activities outside of classroom：
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
Grading Criteria /Policies：
Final grade will be calculated according to the following process Mid-term examination(20%), term-end report(70%) and in-class contribution(10%).
The term-end report assignment will be given approximately one month before the due date. The following three criteria will be used in the evaluation of the report (1) whether it is based on the contents of the class, (2) whether the student has a correct understanding of the knowledge acquired, and (3) whether the report is written from the perspective of understanding others, rather than from a self-righteous logical perspective.

SOC200MA（社会学 / Sociology 200）

多文化社会論III

挽地　康彦

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：火3/Tue.3　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、かつて多民族・多文化社会の指針として位置づけられた「多文化主義」（multiculturalism）について批判的に検討し、その後に提起された「間文化主義」や「多自然主義」などの新たな知見を吟味することを目的とする。文化の多様性と価値の平等を認め、互いのアイデンティティの尊重を唱える多文化主義は、民主主義国家における統合政策の精神であったが、西洋社会では他者への不寛容と排斥が蔓延し、多文化主義は失敗したと認識された。多文化主義はなぜ行き詰まったのか。多文化主義による社会統合を後退させた要因は何だったのか。そして多文化主義を乗り越えるために、今日どのような考え方が提起されているのか。授業では、上記の観点をめぐって議論しながら、日本版多文化主義でもある「多文化共生」についても、あわせて考察する。

【到達目標】
多文化主義の盛衰をめぐる歴史的・社会的な背景を踏まえながら、まずは、①多文化主義とそれに関連する諸概念との関係性を理解し、つぎに②多民族・多文化社会において多文化主義が失速するに至ったメカニズムと要因を多角的に捉えられるようになることが求められる。そのうえで、③ポスト多文化主義の思想的潮流についての知見を習得することをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業形態は対面授業を基本とし、半期のうち７回までの授業を同時双方向型のオンライン授業（Zoom）で行う。各回の授業資料は、データ（PDF）で配信しながら進める（受講者が多いため、紙資料の配布は行わない）。
ZoomのURLとパスコードは、以下のとおりです。
https://hosei-ac-jp.zoom.us/j/84630179315?pwd=XHbl87wCGeIpe3yrumMqgbO7nEe1YP.1
ミーティングID：846 3017 9315
パスコード：041116

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業方針の確認と問題提起
第2回	欧州移民政策の変遷①	20世紀後半以降におけるヨーロッパの移民政策を概観し、多民族・多文化が浸透していく社会的背景について学ぶ。
第3回	欧州移民政策の変遷②	20世紀後半以降におけるヨーロッパの移民政策を概観し、多民族・多文化が浸透していく社会的背景について学ぶ。
第4回	エスニック・リバイバル①	移民国アメリカの公民権運動以降の人種やエスニシティをめぐる議論と政策の展開について、ヨーロッパの経験と比較する。
第5回	エスニック・リバイバル②	移民国アメリカの公民権運動以降の人種やエスニシティをめぐる議論と政策の展開について、ヨーロッパの経験と比較する。
第6回	多文化主義の盛衰	多文化主義の諸特徴と意義、その台頭から後退までの経緯について共有する。
第7回	多文化社会の構成原理	同化主義、文化多元主義、文化相対主義などの諸概念を多文化社会の構成原理として分類しながら、多文化主義との関係を整理する。
第8回	多文化主義論争①	多文化主義に内在する困難性を、文化的固有性と普遍的価値の間のジレンマ（多文化主義と普遍主義の対立）の観点から概説する。
第9回	多文化主義論争②	多文化主義に内在する困難性を、文化的差異と分離・分裂の間のジレンマ（多文化主義と分離主義の対立）の観点から概説する。
第10回	多文化主義論争③	多文化主義に内在する困難性を、文化的共同体と個人の自由の間のジレンマ（多文化主義と個人主義の対立）の観点から概説する。
第11回	日本における多文化共生①	日本が移民国家へ転換するなかで、いかなる目的で「多文化共生」が唱導されたのかを、欧米社会の多文化主義と比較しながら確認する。
第12回	日本における多文化共生②	日本の多文化共生が空虚なスローガンで終始している問題点を、90年代以降の入管行政や日本型排外主義との関係から考察する。
第13回	ポスト多文化主義	多文化主義を批判的に乗り越えるための契機として、間文化主義、ノマディズム、コスモポリタニズム、多自然主義などの思潮を検討する。
第14回	まとめ	「要塞化」するホスト社会と「破局」に直面する難民との間にある諸問題について示唆する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内容を理解するために、各授業回のテーマに関する情報収集などの準備学習に２時間、授業後に関連文献の読解など復習時間に２時間を必要とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。授業回に応じてレジュメや資料を配信する。

【参考書】
参考・参照すべき文献は複数に上るため、授業の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業内容の理解度を測るために学期半ばで行う小テスト（20%）、学期末に提出を求める課題レポートの内容（70%）、平常点（10%）で評価する。
学期末レポートの課題は、提出期限の約１カ月前に指示する。レポート評価の基準は、以下の３つに設定する（①授業内容を踏まえているか、②習得した知見について正しく理解しているか、③独善的な論理展開でなく他者理解の観点から論述されているか）。
なお、小テストや学期末レポートの課題は、授業に出席しないと作成困難な内容となる。配信する授業レジュメのパッチワークでは単位取得の基準をクリアできない。とりわけ、期末レポートでは課題を正確に理解したうえで、受講者自身が主体的に調べ考察した内容が展開されてはじめて基準をクリアできる。

【学生の意見等からの気づき】
授業内容の理解に不安を覚える学生がいることから、学期半ばに小テストを実施して理解度を確認する。また、学習効果の高さの理由の他に、体調の優れない受講者が授業参加を希望するケースが少なくないことから、７回分の授業をオンラインで実施する。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン授業（Zoom）の場合
・パソコン（カメラ付き）
・インターネット接続が可能な環境
・パソコンがどうしても用意できない場合は、スマートフォンにzoomのアプ
リをインストールしておくこと。

【その他の重要事項】
・本科目では、初回授業を含めた７回分の授業をZoomを用いたオンライン形式で行う。
・初回の授業は、９月２２日（火）３限（13:10 ～ 14:50）にオンラインで行う。
・各授業のなかで質疑応答の時間を設ける予定である。

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to critically examine multiculturalism, which was once positioned as a guideline for a multiethnic and multicultural society, and to examine new findings such as "interculturalism" and "multinaturalism" that have been raised since then. Multiculturalism, which recognizes cultural diversity and equality of values, and advocates respect for each other's identity, was the spirit of integration policies in democratic countries, but intolerance and exclusion of others became widespread in Western society, and multiculturalism was recognized as a failure. Why has multiculturalism stalled? What were the factors that led to the regression of social integration through multiculturalism? And what ideas are being proposed today to overcome multiculturalism? In this course, we will discuss the above perspectives, and also consider "multicultural conviviality," which is the Japanese version of multiculturalism.
Learning Objectives：
Based on the historical and social background of the rise and fall of multiculturalism, students will first understand the relationship between (1) multiculturalism and related concepts, and then (2) the mechanisms and factors that led to the failure of multiculturalism in multi-ethnic and multicultural societies from multiple perspectives. In addition, the course aims to provide students with an understanding of (3) the ideological trends of post-multiculturalism.
Learning activities outside of classroom：
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
Grading Criteria /Policies：
Final grade will be calculated according to the following process Mid-term examination(20%), term-end report(70%) and in-class contribution(10%).
The term-end report assignment will be given approximately one month before the due date. The following three criteria will be used in the evaluation of the report (1) whether it is based on the contents of the class, (2) whether the student has a correct understanding of the knowledge acquired, and (3) whether the report is written from the perspective of understanding others, rather than from a self-righteous logical perspective.

BSP200MA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200）

職業能力ベーシックスキルⅠ【2021年度以前入学者用】

岩出　朋子

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：月3/Mon.3　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：入学年度によって科目の認定区分が異なります。

2022〜2024年度入学者→選択必修科目（体験型）
2021年度以前入学者→展開科目（総合）

詳細は履修の手引きをご確認ください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
職業人や社会人に必要な基礎的な能力を身につけることを目指します。主な内容は、ビジネスコミュニケーションやビジネスマナーの習得です。さまざまな世代と円滑にコミュニケーションを図る技術、社会に出る前に知っておきたい基本的な行動や考え方など、実際に役立つ知識やスキルを学びます。
具体的には、①ビジネスコミュニケーション（話す・聴く・文章表現・メールの基本）、②ビジネスマナー（挨拶・敬語・礼儀）、③人間関係の構築（報告・連絡・相談、多様性の理解、合意形成）、④セルフマネジメント（時間・体調・ファイナンス）⑤プレゼンテーション（個人発表とグループ発表）などのスキルをテーマとして扱います。

【到達目標】
本授業の目標は下記の５つとします。
①職業人・社会人のコミュニケーション、マナーなどビジネススキルの基本を理解し、実践できるようになる。
②職業人・社会人として必要なセルフマネジメント（時間・体調・ファイナンス）の基本を理解し、実践できるようになる。
③自己分析やライフラインチャートを通して、自己理解を深めることができる。
④プレゼンテーション力や文章力を身につけることができる。
⑤主体性を持ち、自分で考え、伝え、行動すること、チームワークの重要性を習得し、行動できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
授業は講義と実習を組み合わせて進めます。各自での確認やペア・チームでのレビューを行いながら、知識を「わかる」だけでなく「できる」レベルまで習得できることを目指します。初対面の人とも円滑にコミュニケーションがとれるよう、適度な緊張感を持って取り組めるチームまたはグループ編成で実習を行います。
フィードバックはリアクションペーパーや宿題の提出を通じて実施し、優れた内容やコメントは授業内で紹介し、全員で共有してさらに理解を深めます。演習では、チーム発表や受講者同士のコメントによる双方向評価を取り入れることで、互いの気づきや成長につなげます。全体発表の際も、授業内でフィードバックを行います。
授業は原則として対面で実施しますが、状況に応じてZoomによるリアルタイム型オンライン授業を行うこともあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 授業概要と受講上の注意受講動機の確認	受講概要（ビジネスコミュニケーションとマナー）と目標、授業の進め方、注意事項の説明。受講動機の確認。
第2回	雇用環境の概要 セルフマネジメント	雇用関連のデータから現実を把握する。社会人と学生の違いを考える。ビジネスコミュニケーション、ビジネスマナー、セルフマネジメントが必要な理由について考えて理解を深める。
第3回	ワークルールの理解 自己理解の意義と方法(1)	労働基準法や労働組合法など、働く上で守るべき法律や契約などの基本的なワークルールを理解する。 【個人実習】ライフラインチャートを元に過去を振返り、自己理解を深める。
第4回	自己理解の意義と方法(2)	【個人実習】ライフラインチャートを元に自己理解を深める。「履歴書・自己紹介書」を作成する。 【ディスカッション】AIを活用した「履歴書・自己紹介書」作成におけるリスクと就活における影響
第5回	スピーチ演習 フィードバックの方法	【スピーチ①】１分間スピーチ スピーチのポイントを学ぶ。 第2回〜第4回の成果として1分間スピーチを実施する。
第6回	セルフマネジメント（体調・ファイナンス） コミュニケーションツール	セルフマネジメント（体調・ファイナンス）の重要性を学ぶ。 SNSを含めたコミュニケーションツールについて、世代間の認知の違いを知る。 【ディスカッション】社会人が利用するコミュニケーションツールと世代間ギャップ
第7回	セルフマネジメント（時間） 情報伝達「報・連・相」	セルフマネジメント（時間）の重要性を学ぶ。 情報伝達「報・連・相」の重要性を理解する。
第8回	社会人の基礎力 状況に合わせたきき方	「社会人基礎力」について知る。 ３つの「聞く・効く・訊く」。状況にあわせた使い方、聞き上手になるためのポイント、人間関係を築くききかたを学ぶ
第9回	読み手に伝わる文章 AI活用メリット・デメリット	わかりやすい文章の書き方について学ぶ。よくある間違いやビジネス文書とビジネスメール、ビジネスチャットの書き方を学ぶ。限られた時間で文章作成をして自分の特性を把握する。ＡＩ活用のメリット・デメリットについても議論していく。
第10回	ビジネスマナーの基本	インターンシップや就職活動を意識した、社会人としてのマナー（挨拶・言葉遣い・服装）について確認する。人間関係を構築する際に必要なアサーションを学ぶ。
第11回	コンセンサスとグループプレゼンテーション(1) テーマ理解	【グループワーク】 ケーススタディ：プロジェクト最終決定(go or no-go) コンセンサスの重要性を理解する。テーマについて理解し、話し合いをする。コンセンサスを得る体験学習で理解を深める。

第12回	コンセンサスとグループプレゼンテーション(2) 資料作成・プレゼンテーションの準備	【グループワーク】 資料作成と発表の準備を行う。 構成・話し方などポイントを理解して、話し合った結果をプレゼンテーションするための資料作成・発表の準備を行う。
第13回	コンセンサスとグループプレゼンテーション(3) 全体発表	【プレゼンテーション】 発表資料を元に、グループ別に発表する。 他のグループの結果から、コンセンサスのプロセスを理解する。 プレゼンテーションをおこない、プレゼンテーション力を身につける。
第14回	スピーチ演習 試験・まとめと解説	【スピーチ②】今までの学びを１分間スピーチ 授業全体のまとめと理解度を最終試験レポートで確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
岩出朋子著『はじめてのキャリアデザイン 大学生編』Kindle出版

【参考書】
授業中に随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
単位取得に必要な出席回数は必ず出席してください。
①「出席票」での確認及びリアクションペーパーを提出してもらいます。コメントの内容や習得度合30％
②受講態度（積極的に参加しているか・宿題の提示・発表内容等）50％、
③最終回に実施する理解度テスト20％
（注意事項）
授業に主体的に参加してください。個人のワークおよびチーム演習もありますので、周囲に迷惑をかけないように積極的に取り組んでください。苦手な内容がある場合にも自分で意識することで習得することができますので、諦めずに参加してください。オンライン授業の取り組むマナーや通常の授業中もマナーについて注意しますので、遵守してください。資料や連絡事項は、事前に学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】
企業のインターンシップ、人事・採用担当情報などを取り入れます。演習時間を増やし、受講者同士の相互理解も深めていきます。

【学生が準備すべき機器他】
オンラインで実施する時には、情報機器（パソコン・ネットワーク環境）を整備してください。授業時間は演習が多いので、静かな場所で受講し、発言できる環境にしてください。オンラインで参加するマナー等についても説明しますので、遵守してください。

【その他の重要事項】
本授業は実務経験のある教員が担当します。業界の特徴や企業側に立った視点を含めて情報提供を行います。本授業は、2022年度以降入学生（体験型科目として履修）・2021年度以前入学生（展開科目・総合として履修）ともに、授業に参加するには春学期授業開始前に申込みが必要です（選抜・抽選を行います）。必ず学部掲示板の案内を確認し、指示に従って下さい。

【Outline (in English)】
【Course outline】This course aims to equip students with the fundamental abilities necessary to function effectively in a professional environment. The main focus is on acquiring practical business communication skills and business etiquette. Students will learn usable knowledge and skills, including techniques for smooth communication across generations, as well as essential professional behaviors and mindsets required before entering the workforce.
Specifically, the course will cover the following themes:
(1)Business Communication: Fundamentals of speaking, listening, written expression, and email etiquette.
(2)Business Etiquette: Greetings, honorific language (keigo), and professional courtesy.
(3)Building Relationships: Reporting/Informing/Consulting (Horenso), understanding diversity, and consensus-building.
(4)Self-Management: Time management, health management, and personal finance.
(5)Presentations: Individual and group presentations.
【Learning Objectives】The goals of this course are as follows:
(1)Understand and practice the fundamentals of business skills, including professional communication and etiquette.
(2)Understand and practice the fundamentals of self-management (time, health, and finance) required of working professionals.
(3)Deepen self-understanding through self-analysis and life-line charts.
(4)Develop presentation and writing skills.
Cultivate proactivity — including the ability to think, communicate, and act (5)independently — and master the importance of teamwork in practice.
【Learning activities outside of classroom】Study Preparation and Review Students are expected to spend approximately 2 hours each on preparation and review per class session.
【Grading Criteria /Policy】Attendance and Evaluation Criteria Students must meet the minimum attendance requirement to receive credit. Evaluation is based on the following:
・Attendance and Reaction Papers (30%): Assessed based on submission of attendance records, reaction papers, and the depth of comprehension demonstrated in the comments.
・Class Participation and Attitude (50%): Assessed based on active participation, submission of assignments, and quality of presentations.
・Final Understanding Test (20%): A comprehension test conducted in the final session.

BSP200MA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200）

職業能力ベーシックスキルⅠ【2022〜2024年度入学者用】

岩出　朋子

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：月3/Mon.3　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：入学年度によって科目の認定区分が異なります。

2022〜2024年度入学者→選択必修科目（体験型）
2021年度以前入学者→展開科目（総合）

詳細は履修の手引きをご確認ください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
職業人や社会人に必要な基礎的な能力を身につけることを目指します。主な内容は、ビジネスコミュニケーションやビジネスマナーの習得です。さまざまな世代と円滑にコミュニケーションを図る技術、社会に出る前に知っておきたい基本的な行動や考え方など、実際に役立つ知識やスキルを学びます。
具体的には、①ビジネスコミュニケーション（話す・聴く・文章表現・メールの基本）、②ビジネスマナー（挨拶・敬語・礼儀）、③人間関係の構築（報告・連絡・相談、多様性の理解、合意形成）、④セルフマネジメント（時間・体調・ファイナンス）⑤プレゼンテーション（個人発表とグループ発表）などのスキルをテーマとして扱います。

【到達目標】
本授業の目標は下記の５つとします。
①職業人・社会人のコミュニケーション、マナーなどビジネススキルの基本を理解し、実践できるようになる。
②職業人・社会人として必要なセルフマネジメント（時間・体調・ファイナンス）の基本を理解し、実践できるようになる。
③自己分析やライフラインチャートを通して、自己理解を深めることができる。
④プレゼンテーション力や文章力を身につけることができる。
⑤主体性を持ち、自分で考え、伝え、行動すること、チームワークの重要性を習得し、行動できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
授業は講義と実習を組み合わせて進めます。各自での確認やペア・チームでのレビューを行いながら、知識を「わかる」だけでなく「できる」レベルまで習得できることを目指します。初対面の人とも円滑にコミュニケーションがとれるよう、適度な緊張感を持って取り組めるチームまたはグループ編成で実習を行います。
フィードバックはリアクションペーパーや宿題の提出を通じて実施し、優れた内容やコメントは授業内で紹介し、全員で共有してさらに理解を深めます。演習では、チーム発表や受講者同士のコメントによる双方向評価を取り入れることで、互いの気づきや成長につなげます。全体発表の際も、授業内でフィードバックを行います。
授業は原則として対面で実施しますが、状況に応じてZoomによるリアルタイム型オンライン授業を行うこともあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 授業概要と受講上の注意受講動機の確認	受講概要（ビジネスコミュニケーションとマナー）と目標、授業の進め方、注意事項の説明。受講動機の確認。
第2回	雇用環境の概要 セルフマネジメント	雇用関連のデータから現実を把握する。社会人と学生の違いを考える。ビジネスコミュニケーション、ビジネスマナー、セルフマネジメントが必要な理由について考えて理解を深める。
第3回	ワークルールの理解 自己理解の意義と方法(1)	労働基準法や労働組合法など、働く上で守るべき法律や契約などの基本的なワークルールを理解する。 【個人実習】ライフラインチャートを元に過去を振返り、自己理解を深める。
第4回	自己理解の意義と方法(2)	【個人実習】ライフラインチャートを元に自己理解を深める。「履歴書・自己紹介書」を作成する。 【ディスカッション】AIを活用した「履歴書・自己紹介書」作成におけるリスクと就活における影響
第5回	スピーチ演習 フィードバックの方法	【スピーチ①】１分間スピーチ スピーチのポイントを学ぶ。 第2回〜第4回の成果として1分間スピーチを実施する。
第6回	セルフマネジメント（体調・ファイナンス） コミュニケーションツール	セルフマネジメント（体調・ファイナンス）の重要性を学ぶ。 SNSを含めたコミュニケーションツールについて、世代間の認知の違いを知る。 【ディスカッション】社会人が利用するコミュニケーションツールと世代間ギャップ
第7回	セルフマネジメント（時間） 情報伝達「報・連・相」	セルフマネジメント（時間）の重要性を学ぶ。 情報伝達「報・連・相」の重要性を理解する。
第8回	社会人の基礎力 状況に合わせたきき方	「社会人基礎力」について知る。 ３つの「聞く・効く・訊く」。状況にあわせた使い方、聞き上手になるためのポイント、人間関係を築くききかたを学ぶ
第9回	読み手に伝わる文章 AI活用メリット・デメリット	わかりやすい文章の書き方について学ぶ。よくある間違いやビジネス文書とビジネスメール、ビジネスチャットの書き方を学ぶ。限られた時間で文章作成をして自分の特性を把握する。ＡＩ活用のメリット・デメリットについても議論していく。
第10回	ビジネスマナーの基本	インターンシップや就職活動を意識した、社会人としてのマナー（挨拶・言葉遣い・服装）について確認する。人間関係を構築する際に必要なアサーションを学ぶ。
第11回	コンセンサスとグループプレゼンテーション(1) テーマ理解	【グループワーク】 ケーススタディ：プロジェクト最終決定(go or no-go) コンセンサスの重要性を理解する。テーマについて理解し、話し合いをする。コンセンサスを得る体験学習で理解を深める。

第12回	コンセンサスとグループプレゼンテーション(2) 資料作成・プレゼンテーションの準備	【グループワーク】 資料作成と発表の準備を行う。 構成・話し方などポイントを理解して、話し合った結果をプレゼンテーションするための資料作成・発表の準備を行う。
第13回	コンセンサスとグループプレゼンテーション(3) 全体発表	【プレゼンテーション】 発表資料を元に、グループ別に発表する。 他のグループの結果から、コンセンサスのプロセスを理解する。 プレゼンテーションをおこない、プレゼンテーション力を身につける。
第14回	スピーチ演習 試験・まとめと解説	【スピーチ②】今までの学びを１分間スピーチ 授業全体のまとめと理解度を最終試験レポートで確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
岩出朋子著『はじめてのキャリアデザイン 大学生編』Kindle出版

【参考書】
授業中に随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
単位取得に必要な出席回数は必ず出席してください。
①「出席票」での確認及びリアクションペーパーを提出してもらいます。コメントの内容や習得度合30％
②受講態度（積極的に参加しているか・宿題の提示・発表内容等）50％、
③最終回に実施する理解度テスト20％
（注意事項）
授業に主体的に参加してください。個人のワークおよびチーム演習もありますので、周囲に迷惑をかけないように積極的に取り組んでください。苦手な内容がある場合にも自分で意識することで習得することができますので、諦めずに参加してください。オンライン授業の取り組むマナーや通常の授業中もマナーについて注意しますので、遵守してください。資料や連絡事項は、事前に学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】
企業のインターンシップ、人事・採用担当情報などを取り入れます。演習時間を増やし、受講者同士の相互理解も深めていきます。

【学生が準備すべき機器他】
オンラインで実施する時には、情報機器（パソコン・ネットワーク環境）を整備してください。授業時間は演習が多いので、静かな場所で受講し、発言できる環境にしてください。オンラインで参加するマナー等についても説明しますので、遵守してください。

【その他の重要事項】
本授業は実務経験のある教員が担当します。業界の特徴や企業側に立った視点を含めて情報提供を行います。本授業は、2022年度以降入学生（体験型科目として履修）・2021年度以前入学生（展開科目・総合として履修）ともに、授業に参加するには春学期授業開始前に申込みが必要です（選抜・抽選を行います）。必ず学部掲示板の案内を確認し、指示に従って下さい。

【Outline (in English)】
【Course outline】This course aims to equip students with the fundamental abilities necessary to function effectively in a professional environment. The main focus is on acquiring practical business communication skills and business etiquette. Students will learn usable knowledge and skills, including techniques for smooth communication across generations, as well as essential professional behaviors and mindsets required before entering the workforce.
Specifically, the course will cover the following themes:
(1)Business Communication: Fundamentals of speaking, listening, written expression, and email etiquette.
(2)Business Etiquette: Greetings, honorific language (keigo), and professional courtesy.
(3)Building Relationships: Reporting/Informing/Consulting (Horenso), understanding diversity, and consensus-building.
(4)Self-Management: Time management, health management, and personal finance.
(5)Presentations: Individual and group presentations.
【Learning Objectives】The goals of this course are as follows:
(1)Understand and practice the fundamentals of business skills, including professional communication and etiquette.
(2)Understand and practice the fundamentals of self-management (time, health, and finance) required of working professionals.
(3)Deepen self-understanding through self-analysis and life-line charts.
(4)Develop presentation and writing skills.
Cultivate proactivity — including the ability to think, communicate, and act (5)independently — and master the importance of teamwork in practice.
【Learning activities outside of classroom】Study Preparation and Review Students are expected to spend approximately 2 hours each on preparation and review per class session.
【Grading Criteria /Policy】Attendance and Evaluation Criteria Students must meet the minimum attendance requirement to receive credit. Evaluation is based on the following:
・Attendance and Reaction Papers (30%): Assessed based on submission of attendance records, reaction papers, and the depth of comprehension demonstrated in the comments.
・Class Participation and Attitude (50%): Assessed based on active participation, submission of assignments, and quality of presentations.
・Final Understanding Test (20%): A comprehension test conducted in the final session.

BSP200MA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200）

職業能力ベーシックスキルⅡ【2022〜2024年度入学者用】

岩出　朋子

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：月3/Mon.3　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：入学年度によって科目の認定区分が異なります。

2022〜2024年度入学者→選択必修科目（体験型）
2021年度以前入学者→展開科目（総合）

詳細は履修の手引きをご確認ください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、就職活動やインターンシップに役立つ、実践的な職業能力の習得を目指します。
カリキュラムでは主に①自己理解、②仕事理解、③OB・OG・社会人による講話に取り組みます。まず①自己理解では、職業興味検査や自己分析を通して、自分の強みや弱みを発見します。②仕事理解では、業界や企業について調査し、実際のインターンシップや就職活動に活かすための情報収集の方法を学びます。③OB・OG・社会人による講話では、就活の進め方や働く意義、さまざまな働き方など、現場の声を聞きながら社会人との交流を深めます。
2年次以降、本格化するインターンシップや就職活動に備え、シミュレーション形式でリアルな体験を先取りし、多様なキャリア形成の在り方について理解を深めることも目標としています。

【到達目標】
本授業の目標は下記の5つとします。
①業界・職種・企業の調査方法を習得できる。
②自己分析や職業興味検査を通して、自己理解を深めることができる。
③社会人の講話を通して、質問の仕方の習得と社会人の職業意識やキャリアの考え方を学ぶことができる。
④プレゼンテーション力や文章力を身につける。
⑤チームで協力する重要性や、主体的に行動できる力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
授業は講義と実習を組み合わせて進めます。
仕事理解の実習では、グループに分かれて企業リサーチを行い、プレゼンテーションを行います。他の業界についても理解を広げる機会となります。
自己理解の実習では、ホランド職業選択理論（RIASEC）を通して、自分の興味がある職業を確認する。職業の興味から業界を拡げて考えます。
授業は少人数制で行い、学生同士や講師とのコミュニケーションを重視します。フィードバックは宿題や授業中の発表・成果物に対しコメントを行い、全体発表の場でもその都度フィードバックを実施します。授業は原則として対面で実施しますが、状況に応じてZoomによるリアルタイム型オンライン授業を行うこともあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 受講動機の確認	自己紹介・授業内容、身につけておくとよいスキルについて理解する。就職活動のスケジュールとそれまでに準備することについて理解する。現在の雇用環境の概要（PEST分析）を理解する。
第2回	「業界・職種・企業」の情報収集方法と企業分析(1)	業界・職種・企業情報の集め方・調べ方を理解する。文系・理系に関わらずの活躍する職場や、多様な採用経路とその後のキャリア形成についても理解する。企業分析の方法として、PEST分析、バリューチェーン（VC）、重要成功要因（KSF）を理解し活用する。
第3回	「業界・職種・企業」の情報収集方法と企業分析(2)	プレゼンテーションのグループに分かれる。担当する企業リサーチの計画を立てる。業界の企業間競争、人員構成や雇用区分について検討する。 リサーチ事例：サイゼリヤ
第4回	「業界・職種・企業」の情報収集方法と企業分析(3)	【グループプレゼンテーション】 インターンシップの意義を理解する。企業リサーチを開始する。 キャリアセンター訪問して、キャリアセンターの利用方法を学ぶ。また、AIを活用して企業の情報を調べ分析する。
第5回	「業界・職種・企業」の情報収集方法と企業分析(4)	【グループプレゼンテーション】 企業と組織の仕組み リサーチ事例：BMSG・任天堂 発表資料作成、プレゼン準備を行う
第6回	業界・企業研究の発表(1)	【グループプレゼンテーション】 企業と組織の仕組み 事例：セブンイレブン パワーポイントを使い、グループプレゼンテーションを実施する。他グループの発表も参考にし、他業界に興味を拡げることや調査の視点を学ぶ。
第7回	業界・企業研究の発表(2)	【グループプレゼンテーション】 企業と組織の仕組み 事例：ヤマト運輸 パワーポイントを使い、グループプレゼンテーションを実施する。他グループの発表も参考にし、他業界に興味を拡げることや調査の視点を学ぶ。
第8回	業界・企業研究の発表(3)	【グループプレゼンテーション】 企業が求める人物像 事例：ファーストリテイリング・しまむら パワーポイントを使い、グループプレゼンテーションを実施する。他グループの発表も参考にし、他業界に興味を拡げることや調査の視点を学ぶ。
第9回	業界・企業研究の発表(4)	【グループプレゼンテーション】 働きやすい職場環境 事例：メルカリ パワーポイントを使い、グループプレゼンテーションを実施する。他グループの発表も参考にし、他業界に興味を拡げることや調査の視点を学ぶ。

第10回	業界・企業研究の発表(5)	【グループプレゼンテーション】賃金の仕組みと労働 事例：IKEA パワーポイントを使い、グループプレゼンテーションを実施する。他グループの発表も参考にし、他業界に興味を拡げることや調査の視点を学ぶ。
第11回	業界・企業研究の発表(6)	【グループプレゼンテーション】社会保障と労働法 事例：ビックイシュー日本 パワーポイントを使い、グループプレゼンテーションを実施する。他グループの発表も参考にし、他業界に興味を拡げることや調査の視点を学ぶ。
第12回	職業興味調査	【個人実習】ホランド職業選択理論（RIASEC）を通して、自分の興味がある職業を確認する。職業の興味から業界を拡げて考えてみる。
第13回	OB・OG・社会人による講話	社会人から、企業におけるキャリアデザインの考え方を学び、自己の棚卸に活用する。
第14回	まとめ・総合演習	授業全体のまとめ・総合演習・最終試験レポート

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
グループプレゼンテーションの課題となる業界・企業の研究を行います。授業外でのリサーチ、グループメンバーとの話し合いの時間を取ってもらいます。自己理解においては、内省することや文章化の時間は各自必要になります。

【テキスト（教科書）】
岩出朋子著『はじめてのキャリアデザイン 大学生編』Kindle出版

【参考書】
授業中に随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度とリアクションペーパー40％、「業界・職種・企業」研究の発表40%、最終試験レポート20％を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
企業のインターンシップ、人事・採用担当情報などを取り入れます。演習時間を増やし、受講者同士の相互理解も深めていきます。

【学生が準備すべき機器他】
オンラインで実施する時には、情報機器（パソコン・ネットワーク環境）を整備してください。授業時間は演習が多いので、静かな場所で受講し、発言できる環境にしてください。オンラインで参加するマナー等についても説明しますので、遵守してください。

【その他の重要事項】
本授業は実務経験のある教員が担当します。業界の特徴や企業側に立った視点を含めて情報提供を行います。本授業は、2022年度以降入学生（体験型科目として履修）・2021年度以前入学生（展開科目・総合として履修）ともに、授業に参加するには春学期授業開始前に申込みが必要です（選抜・抽選を行います）。必ず学部掲示板の案内を確認し、指示に従って下さい。

【Outline (in English)】
【Course outline】This course aims to help students acquire practical professional skills that are essential for job hunting and internships. The curriculum focuses on three main pillars: (1) Self-understanding, (2) Understanding the world of work, and (3) Guest lectures by alumni and professionals.
First, regarding Self-understanding, students will discover their strengths and weaknesses through vocational interest assessments and self-analysis. Second, for Understanding the world of work, students will research various industries and corporations, learning effective information-gathering methods to apply to actual internships and job hunting. Third, through Guest lectures, students will deepen their interaction with professionals while hearing firsthand accounts regarding the job-hunting process, the significance of work, and diverse working styles.
The goal is to prepare students for the full-scale internship and job-hunting season that begins in their second year. This is achieved by providing simulated, realistic experiences and deepening their understanding of diverse approaches to career development.
【Learning Objectives】The goals of this course are as follows:
(1)Acquire methods for researching industries, job types, and companies.
(2)Deepen self-understanding through self-analysis and vocational interest assessments.
(3)Learn about professional awareness and career perspectives from working professionals, while mastering effective questioning techniques.
(4)Develop presentation and writing skills.
(5)Understand the importance of teamwork and cultivate the ability to act proactively.
【Learning activities outside of classroom】Students are expected to spend approximately 2 hours each on preparation and review per class session.
・Preparation: Students will conduct research on industries and companies for the group presentation assignment. This requires time for off-class research and meetings with group members.
・Review: For the self-understanding component, students will need to allocate time for self-reflection and composing written analysis.
【Grading Criteria /Policy】Students will be comprehensively evaluated based on the following criteria:
・Active participation and reaction papers: 40%
・Presentation on "Industry, Job Type, and Company" research: 40%
・Final exam report: 20%

BSP200MA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200）

職業能力ベーシックスキルII【2021年度以前入学者用】

岩出　朋子

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：月3/Mon.3　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：入学年度によって科目の認定区分が異なります。

2022〜2024年度入学者→選択必修科目（体験型）
2021年度以前入学者→展開科目（総合）

詳細は履修の手引きをご確認ください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、就職活動やインターンシップに役立つ、実践的な職業能力の習得を目指します。
カリキュラムでは主に①自己理解、②仕事理解、③OB・OG・社会人による講話に取り組みます。まず①自己理解では、職業興味検査や自己分析を通して、自分の強みや弱みを発見します。②仕事理解では、業界や企業について調査し、実際のインターンシップや就職活動に活かすための情報収集の方法を学びます。③OB・OG・社会人による講話では、就活の進め方や働く意義、さまざまな働き方など、現場の声を聞きながら社会人との交流を深めます。
2年次以降、本格化するインターンシップや就職活動に備え、シミュレーション形式でリアルな体験を先取りし、多様なキャリア形成の在り方について理解を深めることも目標としています。

【到達目標】
本授業の目標は下記の5つとします。
①業界・職種・企業の調査方法を習得できる。
②自己分析や職業興味検査を通して、自己理解を深めることができる。
③社会人の講話を通して、質問の仕方の習得と社会人の職業意識やキャリアの考え方を学ぶことができる。
④プレゼンテーション力や文章力を身につける。
⑤チームで協力する重要性や、主体的に行動できる力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
授業は講義と実習を組み合わせて進めます。
仕事理解の実習では、グループに分かれて企業リサーチを行い、プレゼンテーションを行います。他の業界についても理解を広げる機会となります。
自己理解の実習では、ホランド職業選択理論（RIASEC）を通して、自分の興味がある職業を確認する。職業の興味から業界を拡げて考えます。
授業は少人数制で行い、学生同士や講師とのコミュニケーションを重視します。フィードバックは宿題や授業中の発表・成果物に対しコメントを行い、全体発表の場でもその都度フィードバックを実施します。授業は原則として対面で実施しますが、状況に応じてZoomによるリアルタイム型オンライン授業を行うこともあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 受講動機の確認	自己紹介・授業内容、身につけておくとよいスキルについて理解する。就職活動のスケジュールとそれまでに準備することについて理解する。現在の雇用環境の概要（PEST分析）を理解する。
第2回	「業界・職種・企業」の情報収集方法と企業分析(1)	業界・職種・企業情報の集め方・調べ方を理解する。文系・理系に関わらずの活躍する職場や、多様な採用経路とその後のキャリア形成についても理解する。企業分析の方法として、PEST分析、バリューチェーン（VC）、重要成功要因（KSF）を理解し活用する。
第3回	「業界・職種・企業」の情報収集方法と企業分析(2)	プレゼンテーションのグループに分かれる。担当する企業リサーチの計画を立てる。業界の企業間競争、人員構成や雇用区分について検討する。 リサーチ事例：サイゼリヤ
第4回	「業界・職種・企業」の情報収集方法と企業分析(3)	【グループプレゼンテーション】 インターンシップの意義を理解する。企業リサーチを開始する。 キャリアセンター訪問して、キャリアセンターの利用方法を学ぶ。また、AIを活用して企業の情報を調べ分析する。
第5回	「業界・職種・企業」の情報収集方法と企業分析(4)	【グループプレゼンテーション】 企業と組織の仕組み リサーチ事例：BMSG・任天堂 発表資料作成、プレゼン準備を行う
第6回	業界・企業研究の発表(1)	【グループプレゼンテーション】 企業と組織の仕組み 事例：セブンイレブン パワーポイントを使い、グループプレゼンテーションを実施する。他グループの発表も参考にし、他業界に興味を拡げることや調査の視点を学ぶ。
第7回	業界・企業研究の発表(2)	【グループプレゼンテーション】 企業と組織の仕組み 事例：ヤマト運輸 パワーポイントを使い、グループプレゼンテーションを実施する。他グループの発表も参考にし、他業界に興味を拡げることや調査の視点を学ぶ。
第8回	業界・企業研究の発表(3)	【グループプレゼンテーション】 企業が求める人物像 事例：ファーストリテイリング・しまむら パワーポイントを使い、グループプレゼンテーションを実施する。他グループの発表も参考にし、他業界に興味を拡げることや調査の視点を学ぶ。
第9回	業界・企業研究の発表(4)	【グループプレゼンテーション】 働きやすい職場環境 事例：メルカリ パワーポイントを使い、グループプレゼンテーションを実施する。他グループの発表も参考にし、他業界に興味を拡げることや調査の視点を学ぶ。

第10回	業界・企業研究の発表(5)	【グループプレゼンテーション】賃金の仕組みと労働 事例：IKEA パワーポイントを使い、グループプレゼンテーションを実施する。他グループの発表も参考にし、他業界に興味を拡げることや調査の視点を学ぶ。
第11回	業界・企業研究の発表(6)	【グループプレゼンテーション】社会保障と労働法 事例：ビックイシュー日本 パワーポイントを使い、グループプレゼンテーションを実施する。他グループの発表も参考にし、他業界に興味を拡げることや調査の視点を学ぶ。
第12回	職業興味調査	【個人実習】ホランド職業選択理論（RIASEC）を通して、自分の興味がある職業を確認する。職業の興味から業界を拡げて考えてみる。
第13回	OB・OG・社会人による講話	社会人から、企業におけるキャリアデザインの考え方を学び、自己の棚卸に活用する。
第14回	まとめ・総合演習	授業全体のまとめ・総合演習・最終試験レポート

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
グループプレゼンテーションの課題となる業界・企業の研究を行います。授業外でのリサーチ、グループメンバーとの話し合いの時間を取ってもらいます。自己理解においては、内省することや文章化の時間は各自必要になります。

【テキスト（教科書）】
岩出朋子著『はじめてのキャリアデザイン 大学生編』Kindle出版

【参考書】
授業中に随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度とリアクションペーパー40％、「業界・職種・企業」研究の発表40%、最終試験レポート20％を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
企業のインターンシップ、人事・採用担当情報などを取り入れます。演習時間を増やし、受講者同士の相互理解も深めていきます。

【学生が準備すべき機器他】
オンラインで実施する時には、情報機器（パソコン・ネットワーク環境）を整備してください。授業時間は演習が多いので、静かな場所で受講し、発言できる環境にしてください。オンラインで参加するマナー等についても説明しますので、遵守してください。

【その他の重要事項】
本授業は実務経験のある教員が担当します。業界の特徴や企業側に立った視点を含めて情報提供を行います。本授業は、2022年度以降入学生（体験型科目として履修）・2021年度以前入学生（展開科目・総合として履修）ともに、授業に参加するには春学期授業開始前に申込みが必要です（選抜・抽選を行います）。必ず学部掲示板の案内を確認し、指示に従って下さい。

【Outline (in English)】
【Course outline】This course aims to help students acquire practical professional skills that are essential for job hunting and internships. The curriculum focuses on three main pillars: (1) Self-understanding, (2) Understanding the world of work, and (3) Guest lectures by alumni and professionals.
First, regarding Self-understanding, students will discover their strengths and weaknesses through vocational interest assessments and self-analysis. Second, for Understanding the world of work, students will research various industries and corporations, learning effective information-gathering methods to apply to actual internships and job hunting. Third, through Guest lectures, students will deepen their interaction with professionals while hearing firsthand accounts regarding the job-hunting process, the significance of work, and diverse working styles.
The goal is to prepare students for the full-scale internship and job-hunting season that begins in their second year. This is achieved by providing simulated, realistic experiences and deepening their understanding of diverse approaches to career development.
【Learning Objectives】The goals of this course are as follows:
(1)Acquire methods for researching industries, job types, and companies.
(2)Deepen self-understanding through self-analysis and vocational interest assessments.
(3)Learn about professional awareness and career perspectives from working professionals, while mastering effective questioning techniques.
(4)Develop presentation and writing skills.
(5)Understand the importance of teamwork and cultivate the ability to act proactively.
【Learning activities outside of classroom】Students are expected to spend approximately 2 hours each on preparation and review per class session.
・Preparation: Students will conduct research on industries and companies for the group presentation assignment. This requires time for off-class research and meetings with group members.
・Review: For the self-understanding component, students will need to allocate time for self-reflection and composing written analysis.
【Grading Criteria /Policy】Students will be comprehensively evaluated based on the following criteria:
・Active participation and reaction papers: 40%
・Presentation on "Industry, Job Type, and Company" research: 40%
・Final exam report: 20%

OTR400MA（その他 / Others 400）

キャリアデザイン学総合演習【2024年度以前入学者のみ】

坂本　旬

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：月3/Mon.3　｜　配当年次：3〜4年
備考（履修条件等）：2024年度以前入学者のみ履修可能

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キャリアデザイン学の学習成果の総集として映画を制作する
①社会人を含む多様な学習者に出会い、それぞれのキャリアの形成を支援もしくはライフヒストリーとして描くことにより、キャリアデザイン学部で学んだ成果を振り返る。。
②上記の目標を達成するために、キャリアデザイン学部での学びをテーマとした映画を制作する。

【到達目標】
①キャリアデザイン学部での多様な学びを振り、映画にまとめる力を身につける。
②実社会で通用する映画制作実践知を身につける。
③メディアリテラシーの「アクセス―分析―創造―振り返り―行動」の力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業は次の方法で進める。
・ディスカッションを中心としたグループ学習
・映画関連のゲストを招いた特別講義
・自主夜間中学校における学習支援活動と映像制作
・土業コミュニティである「Aコモンズ・ミーティング」に参加する
・授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
・良いリアクションペーパーは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。
・レポート等の提出・フィードバックは授業支援システムを通じて行う予定。
・オフィス・アワーで、レポートに対して講評する。
・最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った課題に対する講評や解説も行う。
・インタビュー撮影用にスタジオを使用することもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス1	授業の内容と方法の紹介
第2回	課外活動の解説	「Aコモンズ・ミーティング」の紹介（外部講師）
第3回	映画制作論1	映画制作の基礎
第4回	映画制作論2	映画制作の撮影方法
第5回	映画制作論3	映画制作の編集技術
第6回	地域における学習支援1	自主夜間中学校での学習支援活動ガイダンス
第7回	地域における学習支援2	自主夜間中学校での学習支援活動1
第8回	地域における学習支援3	自主夜間中学校での学習支援活動2
第9回	社会人特別授業	特別講師による社会人講座
第10回	映像撮影(1)	学内スタジオを使ったインタビュー撮影
第11回	映像撮影(2)	学校外における情景描写撮影
第12回	映像編集(1)	撮影した映像の編集と修正
第13回	映像編集(2)	撮影した映像の編集と完成
第14回	発表会	これまでの授業を振り返り、上映会を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
映画制作のため、授業時間外の取材や映像編集を行います。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は特にありません。必要に応じて、議論に必要な資料を配布します。

【参考書】
特にありません。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加、プレゼンテーションの内容、振り返りレポートを元に評価を行う。授業及び課外活動への参加は30%、映像制作の内容40%、振り返りレポート30%の配分となる。

【学生の意見等からの気づき】
学外組織との継続的な関係づくりが重要であることが信頼性の醸成に欠かせない。
映画政策の授業であることをより積極的に宣伝する。

【学生が準備すべき機器他】
ノートパソコン、iPhone等、映像を制作するための機器。
本授業では動画の提出に法政大学のBOXを使用する。使用方法は以下のリンクを参照すること。
https://netsys.hosei.ac.jp/protected/manual/distance/manual-box.html

【その他の重要事項】
ディスカッションやワークショップへの継続して参加すること。
映像制作の経験がなくても、役者や脚本、監督などさまざまな役を担うことによって履修することができる。キャリアデザインの学びの集大成として、積極的な履修をお勧めする。

【Outline (in English)】
To review your learning at collage and make a presentation material or movie
To participate a outside meeting and make a movie about your career and learning
The goals are to synthesize the results of previous learning into a film, to acquire practical skills in filmmaking, and to develop the four skills of access, analysis, creation, reflection, and action.
Grading criteria are as follows.　Class participation is 30%, filmmaking 40%, and reports 30%.For film production, students will conduct interviews and edit videos outside of class time. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

EDU200MA（教育学 / Education 200）

社会教育演習【2024年度以前入学者のみ】

久井　英輔

単位数：4単位　｜　開講セメスター：年間授業/Yearly
曜日・時限：火2/Tue.2　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：2024年度以前入学者のみ履修可能

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
（授業の概要）
実際の社会教育実践の現場（社会教育施設など）での実地調査（インタビュー、資料収集等）を実施し、調査結果をもとに受講者各自でレポートを作成・発表する。また社会教育実践を対象とした調査と考察に必要な基本的視点、知識を学ぶための文献講読を行う。
（授業の目的・意義）
文献講読、実地調査、レポート作成等を通じて、社会教育士、社会教育主事に求められる実践的な研究能力（地域社会で行われている社会教育実践の性格と背景を客観的に把握し、あわせて現実的な提言をおこなう）を獲得する。

【到達目標】
社会教育施設、社会教育行政と関連する制度、社会教育をめぐる連携のあり方に関する基本的な視点と知識を得る。また、これらの視点・知識を生かして、実際の社会教育事業に対して客観的把握と実践的提言を行える力を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デイプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業の序盤は、社会教育実践の分析に必要な基本的な視点、知識について、文献講読を通じて学ぶ。その後、各自の問題関心に関連した先行研究の検討や、社会教育施設等の実践現場での実地調査（インタビュー調査、資料調査）を踏まえて、受講者各自でレポートを作成し、それを基に討論を行う。
また、実地調査以外でも学生に社会教育実践の現場感覚に触れてもらうため、社会教育施設見学、現役の社会教育主事のゲスト講義も実施する。
学生の文献発表、調査レポート発表などに対しては、発表後の授業内での討論や授業後のアドバイス（対面、メールなど）等の形でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	問題関心の共有	演習の実施方法について説明するとともに、受講者各自の社会教育に関する問題関心を共有する
第2回	社会教育の制度を捉える①	多様な社会教育のとりくみとその中における社会教育行政の位置づけについて、文献講読を通じて理解する。
第3回	社会教育の制度を捉える②	社会教育施設の体系と各種施設の役割について、文献講読を通じて理解する。
第4回	実地調査の構想発表①	社会教育施設における事業企画・事業評価・広報活動に関心をもつ学生が、具体的な問題関心を発表する。
第5回	実地調査の構想発表②	社会教育施設等と地域社会との関係性に関心をもつ学生が、具体的な問題関心を発表する。
第6回	実地調査の構想発表③	学習支援者（職員・ボランティア）の資質・能力に関心をもつ学生が、具体的な問題関心を発表する。
第7回	実地調査に関連した文献の検討①	社会教育施設における事業企画や事業評価に関心をもつ学生が、関連する先行研究を紹介し、それを基に討論を行う。
第8回	実地調査に関連した文献の検討②	社会教育施設における広報活動に関心をもつ学生が、関連する先行研究を紹介し、それを基に討論を行う。
第9回	実地調査に関連した文献の検討③	社会教育施設と地域社会との関係性に関する関心をもつ学生が、関連する先行研究を紹介し、それを基に討論を行う。
第10回	実地調査に関連した文献の検討④	学習支援者（職員・ボランティア）の資質・能力に関心をもつ学生が、関連する先行研究を紹介し、それを基に討論を行う。
第11回	実地調査案の検討①	社会教育施設における事業企画・事業評価について、具体的な社会教育施設等の調査対象を選定した上で、実地調査の計画を発表し、それを基に討論する。
第12回	実地調査案の検討②	社会教育施設の広報活動について、具体的な社会教育施設等の調査対象を選定した上で、実地調査の計画を発表し、それを基に討論する。
第13回	実地調査案の検討③	社会教育施設と地域社会との関係性について、具体的な社会教育施設等の調査対象を選定した上で、実地調査の計画を発表し、それを基に討論する。
第14回	実地調査案の検討④	学習支援者（職員・ボランティア）の資質・能力について、具体的な社会教育施設等の調査対象を選定した上で、実地調査の計画を発表し、それを基に討論する。
第15回	社会教育実践の場を知る①	公民館およびそれに類似する施設の役割と課題について、文献講読を通じて理解する。
第16回	社会教育実践の場を知る②	青少年教育施設、女性教育施設の役割と課題について、文献講読を通じて理解する。
第17回	社会教育における連携を探る①	社会教育行政と多様な主体の間で行われる連携の概要について、文献講読を通じて理解する。
第18回	社会教育における連携を探る②	社会教育行政と多様な主体との連携の意義と課題について、文献講読を通じて理解する。
第19回	社会教育施設見学①	社会教育施設経営に関して必要な知見・視点について、施設職員から説明を受けた上で、質疑応答を行う。
第20回	社会教育施設見学②	社会教育施設の講座事業の企画・実施・評価の実際について、施設職員から説明を受けた上で、質疑応答を行う。
第21回	ゲストスピーカー講義①	市町村レベルの自治体に勤務する社会教育主事をゲストスピーカーとして招き、勤務内容の実際について話題提供の上、受講者と意見交換を行う。

第22回	ゲストスピーカー講義②	都道府県レベルの自治体に勤務する社会教育主事をゲストスピーカーとして招き、勤務内容の実際について話題提供の上、受講者と意見交換を行う。
第23回	実地調査に基づくレポートの発表・討論①	社会教育施設における事業企画に関する現状・課題・展望について、受講者が調査を基に報告する。
第24回	実地調査に基づくレポートの発表・討論②	社会教育の事業評価に関する現状・課題・展望について、受講者が調査を基に報告する。
第25回	実地調査に基づくレポートの発表・討論③	社会教育施設の広報活動に関する現状・課題・展望について、受講者が調査を基に報告する。
第26回	実地調査に基づくレポートの発表・討論④	社会教育施設等と地域社会との関係性に関する現状・課題・展望について、受講者が調査を基に報告する。
第27回	実地調査に基づくレポートの発表・討論⑤	学習支援者（職員・ボランティア）の資質能力に関する現状・課題・展望について、受講者が調査を基に報告する。
第28回	実地調査報告の振り返り	受講生各自が、自分の作成したレポートの要約を持ち寄り、本授業で学習した内容について、論点を整理し・共有する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献講読の回では、発表者以外も文献に関する疑問点やコメントを事前に整理した上で、授業に臨むこと。
調査レポートの作成は基本的に授業時間外となるので、計画的な調査企画・実施とレポート執筆を心がけること。
本授業の準備学習時間・復習時間は合わせて、授業1回につき4時間以上を標準とする。

【テキスト（教科書）】
多岐にわたるので、授業内で提示する。文献のマスターコピーまたはPDFファイルは、担当教員が用意する。

【参考書】
鈴木眞理、伊藤真木子、本庄陽子編『社会教育の連携論：社会教育の固有性と連携を考える』学文社、2015年
鈴木眞理、井上伸良、大木真徳編『社会教育の施設論：社会教育の空間的展開を考える』学文社、2015年
鈴木眞理、稲葉隆、藤原文雄編『社会教育の公共性論：社会教育の制度設計と評価を考える』学文社、2016年

【成績評価の方法と基準】
実地調査に関する発表　40％
（授業での構想発表、関連文献発表、調査計画発表、最終報告）
文献講読発表　10％
討論への貢献度　50％

【学生の意見等からの気づき】
昨年度は、各学生の実地調査が時間的余裕をもって進められるよう、早い時期から各学生の実地調査の計画づくりを開始し、かつ、各学生が実地調査案を概ね確定した後の調査実施スケジュールについても、前もって丁寧な説明を行った。これによって、調査スケジュールの大幅遅れによる問題はかなり減少したので、今年度も早い段階での調査計画づくり、スケジュール調整を意識した指導を心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】
ノートPC

【その他の重要事項】
本科目は、社会教育主事講習等規程第11条に規定された「社会教育演習」に該当します。社会教育主事任用資格取得、社会教育士（養成課程）の称号取得のための必修科目です。
この授業を履修するにあたっては、原則として前年度までに「生涯学習概論Ⅰ」「生涯学習概論Ⅱ」を履修し、単位取得していることを求めます。
また、この授業は2年生から受講可となっていますが、なるべく3年生以上での履修を推奨します（社会教育・生涯学習に関する学習を十分行っていない段階で応用的な内容の本授業を受講しても、学習効果が低いため）。

【Outline (in English)】
【Course Outline】
The aims of this course are to provide students with basic knowledge and viewpoints indispensable to analyses on social education activities, to support for conducting surveys on social education activities, mainly in social education facilities, and to advise for writing reports utilizing data of the survey.
【Learning Objectives】
The goals of this course are to help students acquire proper abilities of practical research for social education advisers and supervisors (ability to grasp the characteristic of each social education activity and its background, and to make realistic proposals for the activity) by reading texts, conducting surveys, and writing reports.
【Learning Activities Outside of Classroom】
Students will be expected to organize his or her own comments and questions about assigned literature in advance in advance, and to conduct his or her planful survey. Your study time will be more than 4 hours for a class.
【Grading Criteria /Policy】
Final grade will be calculated according to the following process:
Presentations on field survey: 40%
Presentations on assigned readings: 10%
Contribution to discussion: 50%

法政大学
HOSEI University